鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(101)

一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

FUSENO
伏野遺跡

KAKUREZAKO
隠迫遺跡

AZEBORI
杷堀遺跡

NITAO
仁田尾遺跡

OKARIYAATO
御仮屋跡遺跡

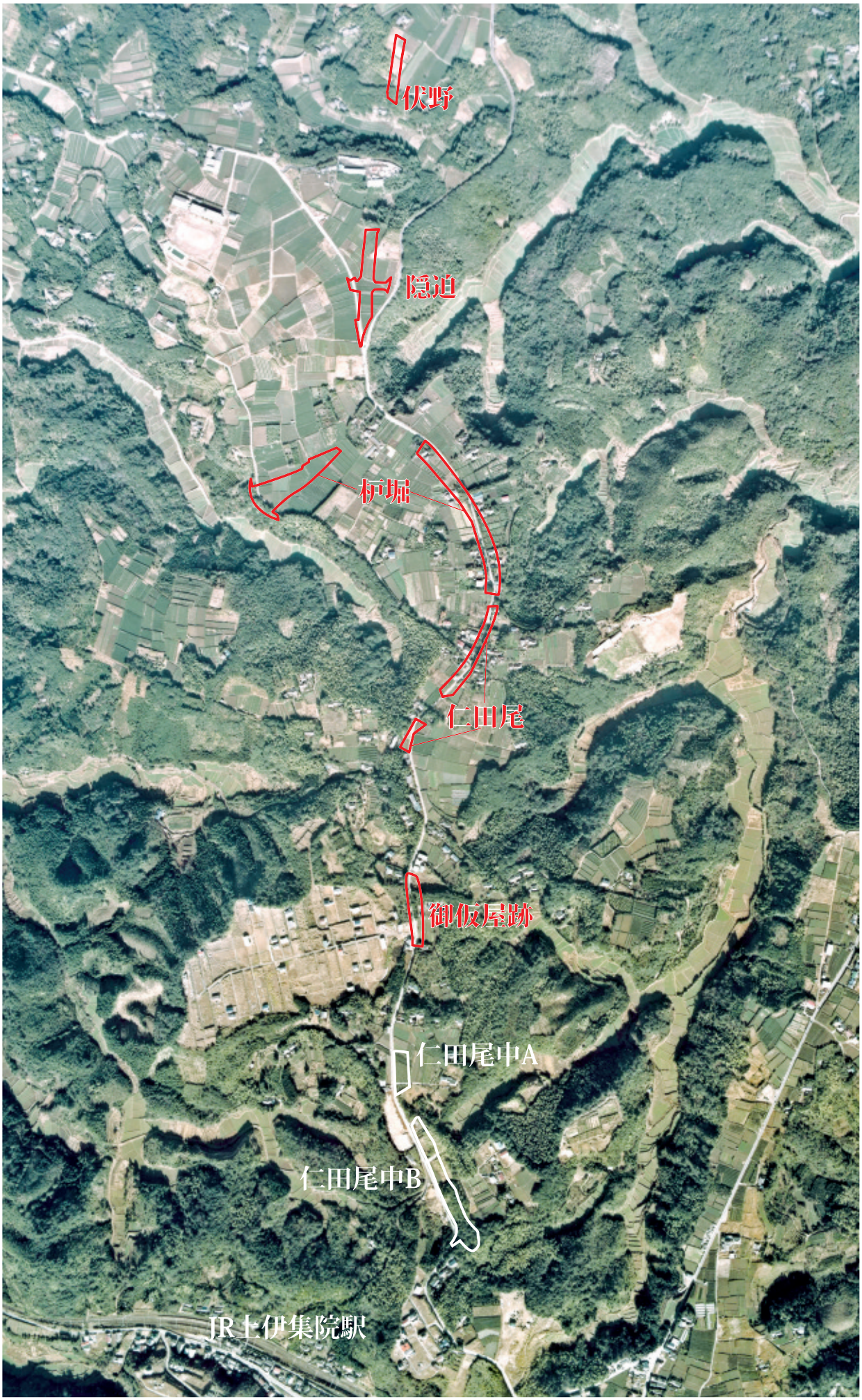
２００６年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(101)

伏野遺跡
隠迫遺跡
杷堀遺跡
仁田尾遺跡
御仮屋跡遺跡

二〇〇六年三月　鹿児島県立埋蔵文化財センター



仁田尾地区航空写真（昭和49年）

国土画像情報（カラー空中写真）国土交通省

仁田尾遺跡遠景

仁田尾遺跡Ⅷ層出土石器

仁田尾遺跡Ⅶ層出土石器

序　　文

この報告書は，一般県道小山田谷山線改良工事に伴い，平成７年度から平成15年度にかけて実施した伏野遺跡，隠迫遺跡，杤堀遺跡，仁田尾遺跡，御仮屋跡遺跡の５遺跡の発掘調査の記録です。

調査の結果，約25,000年前の姶良カルデラ大爆発の以前と以後に，それぞれの生活の痕跡が確認され，この一帯が旧石器時代に重要な場所であったことが明らかになりました。そして，大爆発以後に訪れた寒冷の時代，その過酷な時代を様々な狩猟具を開発して乗り越えていった様子が多くの資料から窺い知ることができます。

本報告書が，県民の皆様はじめ多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に，調査にあたりご協力いただいた県土木部道路建設課並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚くお礼申し上げます。

平成18年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長　　上　今　常　雄

例　言

1　本書は，地方特定道路整備事業（県道小山田～谷山線改良工事）に伴い実施した伏野遺跡他の埋蔵文化財発掘調査報告書である。掲載した遺跡は，伏野遺跡，隠迫遺跡，柊堀遺跡，仁田尾遺跡，御仮屋跡遺跡の5遺跡で，鹿児島市石谷町（旧日置郡松元町）に所在する。

2　発掘調査及び報告書作成は，鹿児島県土木部伊集院土木事務所の依頼を受け，鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。調査は，1995年から2003年まで実施した。

3　本書に用いたレベル数値は，海抜絶対高である。

4　本書の遺物番号は通し番号とし，本文・挿図・表・図版の番号は一致する。

5　発掘調査における実測図は調査担当者が行い，一部については㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

6　遺物実測・トレースは担当者及び整理作業員が行い一部は㈱九州文化財研究所，㈱埋蔵文化財サポートシステム，㈱パスコに委託し，その監修については長野眞一，桑波田武志が行った。

7　挿図掲載遺物の縮尺は，土器が1/3，石器は1/1を基本とする。しかし，礫石器等大型のものについてはこの限りではない。また，遺構については1/20を基本としたが，これについても大型の遺構についてはこの限りではない。各々，挿図中に示したスケールを参考とされたい。

8　遺物の分布図作成については，データ作成と，作図作業を長﨑と整理作業員が行った。石器の一部について馬籠亮道の協力を得た。

9　参考資料として放射性炭素年代測定を依頼し，その結果は考察の最後に掲載した。

10　本報告書に掲載した現場記録写真は各担当者が行い，遺物写真撮影・現像等は福永修一が行った。

11　伏野遺跡，隠迫遺跡，柊堀遺跡の一部，仁田尾遺跡の一部，御仮屋跡遺跡の一部の発掘調査における労務管理については伊集院土木事務所が新和技術コンサルタント㈱，国際航業㈱に委託して行った。

12　本報告書の執筆・編集は長野眞一，堂込秀人，宗岡克英，福永修一，岩戸孝夫，長﨑慎太郎，桑波田武志が行った。各項目の執筆分担は以下のとおりである。
　なお，監修は長野眞一が行った。

Ⅰ
第1～3章 …… 長野　眞一・長﨑慎太郎

Ⅱ
第1～2章 …… 長﨑慎太郎

Ⅲ
第1章 …… 宗岡　克英

Ⅳ
第1章 …… 岩戸　孝夫
第2章 …… 桑波田武志
第3章 …… 岩戸　孝夫

Ⅴ
第1章 …… 岩戸　孝夫
第2～3章 …… 桑波田武志
第4章
　第1～2節 …… 福永　修一
　第3節 …… 桑波田武志
第5章
　第1～2節 …… 福永　修一

Ⅵ
第1章 …… 岩戸　孝夫
第2～3章 …… 桑波田武志
第4章
　第1節 …… 岩戸　孝夫
　第2～3節 …… 宗岡　克英
　第4節 …… 福永　修一
　第5節 …… 桑波田武志
第5章
　第1節 …… 福永　修一

Ⅶ
第1章 …… 長﨑慎太郎
第2章
　第1～4節 …… 宗岡　克英・岩戸　孝夫
　第5節 …… 桑波田武志
第3章
　第1節 …… 岩戸　孝夫
　第2節 …… 宗岡　克英・岩戸　孝夫
　第3節 …… 宗岡　克英
　第4節 …… 桑波田武志
第4章
　第1節 …… 岩戸　孝夫
　第2～3節 …… 宗岡　克英
　第4節 …… 福永　修一
　第5節 …… 堂込　秀人
第5章 …… 宗岡　克英

Ⅷ
第1章 …… 岩戸　孝夫
第2章
　第1節 …… 岩戸　孝夫
　第2節 …… 宗岡　克英
第3章 …… 桑波田武志

Ⅸ …… 長野　眞一・桑波田武志

Ⅹ …… 堂込　秀人・福永　修一
　　岩戸　孝夫・桑波田武志

13　本書に掲載した出土遺物・図面・写真等は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し活用する。

凡　　例

本書で使用している石材の分類基準については，５遺跡とも共通で，以下のとおりである。詳細は巻末の写真を参考にして頂きたい。

OB-A

黒色で風化した表面が炭状を呈する黒曜石である。薩摩川内市樋脇町上牛鼻産や，いちき串木野市平木場産の黒曜石に類似する。

OB-B

アメ色，ガラス質で不純物を多く含む黒曜石である。鹿児島市吉野町三船産の黒曜石に類似するが，同様の特徴を持つ他産地の黒曜石も含む可能性が高い。

OB-C

不純物の少ない良質ガラス質の黒曜石を一括してまとめたものである。色調，質感多様なものを含み，複数の産地の黒曜石を含むと考えられる。中心となるのは黒色良質の佐賀県伊万里の腰岳産黒曜石や，アメ色良質の熊本県人吉市桑ノ木津留産黒曜石に類似するものである。

OB-D

青灰色で不純物の少ない良質の黒曜石である。長崎県針尾，淀姫産等の黒曜石に類似する。

OB-E

黒色ガラス質で小粒の不純物を多く含む。大口市日東産の黒曜石に類似する。

OB-F

白色～灰色を呈し，表面に質感のある黒曜石である。ガラス質はやや弱く，大分県姫島産黒曜石や，熊本県人吉市桑ノ木津留産黒曜石に類似する。

黒色安山岩

表面は風化して灰色を呈するが，内面は漆黒の石材である。所々に輝石を含む。

無斑晶質安山岩

色調は灰色を呈し，風化面はやや白っぽい。サヌカイトに類似する。

ハリ質安山岩

色調は暗灰色を呈し，質感は無斑晶質安山岩とほぼ同じである。薩摩川内市樋脇町上牛鼻産に類似する。

安山岩

色調は灰色を呈し，白色の斑晶が大きく，質が粗い。

硬質頁岩

色調は青灰色を呈し，表面がきめが細かい。所々に白い縞状の線が見られる。

珪質頁岩

色調は多様であるが，表面がきめが細かく光沢を持つものである。

鉄石英

赤色を基調とした石英質の石材である。

瑪瑙

色調は多様であるが，縞状を呈し，石英質の石材である。

玉髄

色調は多様で石英質であるが，表面にざらざらと粗い質感のある石材である。

タンパク石

白色を基調とした石英質の石材である。

凝灰岩質頁岩

色調は黄土色を基調とし，自然面は熱変成を受け，光沢がある。

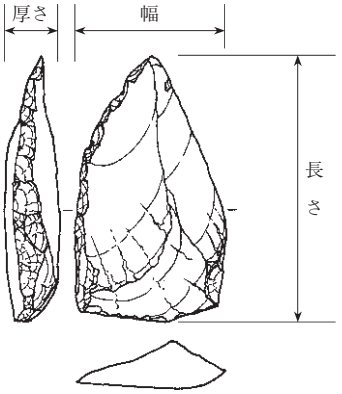
硬砂岩

色調は暗灰色で，砂岩の中でも樋状にきめの細かい石材である。

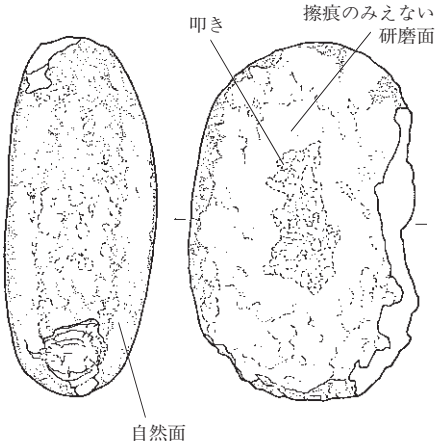
粘板岩

色調は暗灰色で，劈開が強く表面に鉄分の付着する石材である。

石器の計測方法については下記による。



石器の実測表現については，下記による。



総　目　次

巻頭図版
序文
報告書抄録
例言
凡例
目次
Ⅰ　発掘調査の経過　1
　第１章　調査に至るまでの経過　1
　第２章　調査の組織　1
　第３章　発掘調査の経過　3
Ⅱ　遺跡の位置と環境　7
　第１章　地理的環境　7
　第２章　歴史的環境　7
Ⅲ　遺跡の層位　10
　第１章　遺跡の層位　10
Ⅳ　伏野遺跡　29
　第１章　調査の方法　29
　第２章　Ⅶ層の調査　32
　　第１節　概要　32
　　第２節　遺構　32
　　第３節　出土遺物　32
　　第４節　接合資料　32
　　第５節　石材構成比　33
　第３章　Ⅴ層の調査　39
　　第１節　概要　39
　　第２節　遺構　39
　　１　連穴土坑　39
　　２　土坑　39
Ⅴ　隠迫遺跡　41
　第１章　調査の方法　41
　第２章　Ⅷ層の調査　41
　　第１節　概要　41
　　第２節　遺構　41
　　第３節　出土遺物　41
　第３章　Ⅶ層の調査　41
　　第１節　概要　41
　　第２節　遺構　44
　　第３節　出土遺物　44
　第４章　Ⅳ・Ⅲ層の調査　47
　　第１節　概要　47
　　第２節　出土遺物　47
　　１　土器　47
　　２　石器　59
　第５章　Ⅱ層の調査　68
　　第１節　概要　68
　　第２節　遺物　68
　　１　古墳時代の土器　68
　　２　平安時代の土器　68
Ⅵ　杁堀遺跡　71
　第１章　調査の方法　71
　第２章　Ⅷ層の調査　71
　　第１節　概要　71
　　第２節　遺構（礫群）　71
　　第３節　遺物　74
　　１　石器群の概要　74
　　２　石器　74
　第３章　Ⅶ層の調査　75
　　第１節　概要　75
　　第２節　遺構　75
　　第３節　遺物　78
　　１　石器群の概要　78
　　２　石材　92
　　３　接合資料　97
　　４　遺跡の地形と石器群の評価について　99
　第４章　Ⅴ・Ⅳ・Ⅲ層の調査　107
　　第１節　概要　107
　　第２節　遺構（西区）　107
　　１　Ⅴ・Ⅳ層集石　107
　　２　Ⅴ層の土坑　107
　　３　Ⅲ層の土坑　107
　　４　Ⅲ層の溝状遺構　110
　　５　Ⅲ層の焼土跡　112
　　６　Ⅲ層のピット状遺構　112
　　第３節　遺構（東区）　112
　　１　Ⅴ層の集石　112
　　２　Ⅳ層の土坑　113
　　３　Ⅲ層の道路状遺構　113
　　４　Ⅲ層の焼土跡　113
　　第４節　出土遺物　121
　　１　土器　121
　　２　石器　138
　　３　石材　147
　第５章　Ⅴ・Ⅳ・Ⅲ層の調査　149
　　第１節　弥生・古墳時代遺物　149
Ⅶ　仁田尾遺跡　151
　第１章　調査の方法　151
　第２章　Ⅷ層の調査　157
　　第１節　概要　157
　　第２節　遺構（南区）　157
　　１　礫群　157
　　２　配石炉状遺構　163
　　第３節　遺構（北区）　164

第４節　遺構間礫接合（南区）　166
１　礫接合状況　166
２　９号～11号礫群間接合　166
３　13号・16号礫群間接合　166
第５節　石器　173
１　概要　173
２　遺構　173
３　出土遺物　174
第３章　Ⅶ層の調査　190
第１節　概要　190
第２節　遺構（南区）　190
礫群・集石　190
第３節　遺構（北区）　191
１　溝状遺構　191
２　落し穴状遺構　191
第４節　石器　192
１　概要　192
２　遺構　192
３　出土遺物　202
⑴　Ⅰ地区の出土遺物　202
⑵　Ⅰ地区ブロック外の出土遺物　216
⑶　Ⅰ地区出土のナイフ形石器，台形石器　216
⑷　Ⅱ地区の出土遺物　218
⑸　Ⅱ地区ブロック外の出土遺物　218
⑹　Ⅲ地区の出土遺物　226
⑺　Ⅲ地区ブロック外の出土遺物　232
⑻　Ⅳ地区の出土遺物　235
⑼　Ⅴ地区の出土遺物　238
⑽　Ⅶ・Ⅸ・ⅩⅡ・ⅩⅢ地区の出土遺物　242
第４章　Ⅴ・Ⅳ・Ⅲ層の調査　250
第１節　概要　250
第２節　縄文時代早期遺構　250
１　南区　250
集石遺構　250
２　北区　256
⑴　落し穴状遺構　256
⑵　集石遺構　257
第３節　縄文時代前期以降遺構　260
１　落し穴状遺構　260
２　集石遺構　260
第４節　土器　271
１　縄文時代　271
２　古墳時代以降の土器　272
第５節　石器　290
第５章　Ⅱ層の調査　312
第１節　概要　312
第２節　遺構（南区）　312
Ⅷ　御仮屋跡遺跡　313
第１章　概要　313
第２章　遺構（礫群）　313
第１節　概要　313
第２節　礫群　313
第３章　遺物　313
第１節　北区の調査　313
１　石器群の概要　313
２　Ⅷ・Ⅶ層の遺物　313
３　石材　329
第２節　南区の調査　332
１　石器群の概要　332
２　Ⅸ層の遺物　332
３　Ⅷ層～Ⅶｂ層の遺物　332
⑴　石器　332
⑵　石材　338
４　Ⅶａ層の遺物　340
⑴　石器　340
⑵　石材　340
⑶　接合資料　344
Ⅸ　考察　353
１　各遺跡で検出した旧石器時代石器群の変遷　353
２　石材について　353
３　狸谷型ナイフ形石器　357
⑴　はじめに　357
⑵　分布　357
⑶　まとめ　358
Ⅹ　まとめ　364

挿　図　目　次

第１図　各遺跡のグリッド配置図　4
第２図　県道小山田谷山線改良に伴う発掘調査遺跡群　6
第３図　周辺遺跡位置図　8
第４図　土層模式図　10
第５図　伏野遺跡土層断面図　11
第６図　隠迫遺跡土層断面図（１）　12
第７図　隠迫遺跡土層断面図（２）　13
第８図　杤堀遺跡西区土層断面図（１）　14
第９図　杤堀遺跡西区土層断面図（２）　15
第10図　杤堀遺跡西区土層断面図（３）　17
第11図　杤堀遺跡西区土層断面図（４）　18
第12図　杤堀遺跡東区土層断面図（１）　16
第13図　杤堀遺跡東区土層断面図（２）　19
第14図　杤堀遺跡東区土層断面図（３）　20

第15図　仁田尾遺跡土層断面図（１）　21
第16図　仁田尾遺跡土層断面図（２）　22
第17図　仁田尾遺跡土層断面図（３）　23
第18図　仁田尾遺跡土層断面図（４）　24
第19図　仁田尾遺跡土層断面図（５）　25
第20図　仁田尾遺跡土層断面図（６）　26
第21図　仁田尾遺跡土層断面図（７）　27
第22図　御仮屋跡遺跡土層断面図　28

伏野遺跡
第23図　Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器　29
第24図　調査区と周辺地形図　30
第25図　Ⅶ層出土石器　31
第26図　Ⅷ・Ⅶ層出土石器接合資料　33
第27図　石材別分布図　34
第28図　Ⅶ層掲載遺物分布図（１）　35
第29図　Ⅶ層掲載遺物分布図（２）　35
第30図　接合資料分布図　36
第31図　Ｖ層遺構配置図　39
第32図　遺構実測図　40

隠迫遺跡
第33図　Ⅷ層出土石器　41
第34図　調査区と周辺地形図　42
第35図　Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器　43
第36図　Ⅷ層石材別分布図　45
第37図　Ⅶ層石材別分布図　45
第38図　Ⅷ・Ⅶ層石器出土状況図　46
第39図　縄文時代早期土器出土状況図　48
第40図　縄文時代前・後・晩期土器出土状況図　48
第41図　Ⅰａ類土器実測図　49
第42図　Ⅰｂ，Ⅰｃ類土器実測図　50
第43図　Ⅰｄ類土器実測図　51
第44図　Ⅰｅ，Ⅰｆ，Ⅰｇ類土器実測図　52
第45図　Ⅲ，Ⅳ類土器実測図　53
第46図　Ⅳ類土器実測図　54
第47図　Ⅴ，Ⅵ類土器実測図　55
第48図　Ⅳ層土器集中部出土状況図　57
第49図　Ⅳ層土器集中部実測図　58
第50図　縄文石器石材別出土状況図　60
第51図　縄文石器出土状況図　60
第52図　Ⅳ・Ⅲ層出土石器（１）　61
第53図　Ⅳ・Ⅲ層出土石器（２）　62
第54図　Ⅳ・Ⅲ層出土石器（３）　63
第55図　Ⅳ・Ⅲ層出土石器（４）　64
第56図　Ⅳ・Ⅲ層出土石器（５）　65
第57図　Ⅳ・Ⅲ層出土石器（６）　66
第58図　Ⅱ層遺物出土状況図　68
第59図　Ⅱ層土器実測図（１）　69
第60図　Ⅱ層土器実測図（２）　70

杁堀遺跡
第61図　Ⅷ層遺構実測図　71
第62図　調査区と周辺地形図　72
第63図　Ⅷ層礫群配置図　73
第64図　Ⅷ層出土石器　74
第65図　Ⅷ層遺物出土状況図　75
第66図　Ⅶ層石材別出土状況図（１）　76
第67図　Ⅶ層石材別出土状況図（２）　77
第68図　Ⅶ層ブロック配置図　79
第69図　Ａ・Ｂブロック出土石器　81
第70図　Ｃブロック出土石器　82
第71図　Ｄブロック出土石器　82
第72図　Ａ～Ｇブロック遺物出土状況図　83
第73図　Ｅブロック出土石器　84
第74図　Ｆブロック出土石器　84
第75図　Ｇブロック出土石器　84
第76図　Ｈブロック出土石器（１）　85
第77図　Ｈブロック出土石器（２）　86
第78図　Ｊブロック出土石器　86
第79図　Ｋブロック出土石器　86
第80図　Ｌブロック出土石器　86
第81図　Ａ～Ｔブロック遺物出土状況図（垂直分布）　87
第82図　Ｍブロック出土石器　88
第83図　Ｎブロック出土石器　88
第84図　Ｏブロック出土石器　89
第85図　Ｐブロック出土石器（１）　90
第86図　Ｐブロック出土石器（２）　91
第87図　Ｑブロック出土石器　92
第88図　Ｒブロック出土石器　93
第89図　Ｓブロック出土石器　94
第90図　Ｔブロック出土石器　94
第91図　ブロック外出土石器　94
第92図　Ｈ～Ｋブロック遺物出土状況図　95
第93図　Ｌ～Ｔブロック遺物出土状況図　95
第94図　接合資料（１）　96
第95図　接合資料（２）　97
第96図　接合資料分布図（１）　98
第97図　接合資料分布図（２）　98
第98図　地形と石器群の評価　99
第99図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構配置図　108
第100図　西区Ⅲ層遺構配置図　109
第101図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図（１）　110
第102図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図（２）　111
第103図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図（３）　112
第104図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図（４）　113

第105図 西区Ⅴ・Ⅲ層遺構実測図 114
第106図 西区Ⅲ層遺構実測図（１） 115
第107図 西区Ⅲ層遺構実測図（２） 116
第108図 西区Ⅲ層遺構実測図（３） 117
第109図 Ⅲ層遺構実測図 118
第110図 東区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図 119
第111図 東区Ⅴ・Ⅲ層遺構配置図 120
第112図 早期土器出土状況図 122
第113図 西区前期土器，後晩期土器出土状況図 123
第114図 縄文土器・石器出土状況図（垂直分布） 124
第115図 Ⅰａ，Ⅰｂ，Ⅰｃ類土器実測図 125
第116図 Ⅰａ，Ⅰｅ，Ⅱａ，Ⅱｂ類土器実測図 126
第117図 Ⅲａ，Ⅲｂ類土器実測図 127
第118図 Ⅲｃ類土器実測図 128
第119図 Ⅲｃ，Ⅲｄ類土器実測図 129
第120図 Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ類土器実測図 130
第121図 Ⅶａ，Ⅶｂ類土器実測図 131
第122図 Ⅶｃ，Ⅶｄ，Ⅶｅ，Ⅶｆ類土器実測図 132
第123図 Ⅶｇ類，土製品実測図 133
第124図 西区縄文石材別分布図 135
第125図 西区縄文掲載遺物分布図 136
第126図 東区縄文石器出土状況図 137
第127図 ８年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（１） 139
第128図 ８年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（２） 140
第129図 ８年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（３） 141
第130図 ８年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（４） 142
第131図 ９年度調査区Ⅲ層出土石器 143
第132図 14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（１） 144
第133図 縄文時代石材利用状況図 144
第134図 14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（２） 145
第135図 14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（３） 146
第136図 14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（４） 147
第137図 Ⅱ層土器出土状況図 149
第138図 Ⅱ層出土遺物実測図 150

仁田尾遺跡

第139図 調査区と周辺地形図 152
第140図 年度別調査グリッド 153
第141図 Ⅷ層遺構配置図（全体） 154
第142図 Ⅷ層遺構配置図（１） 155
第143図 Ⅷ層遺構配置図（２） 156
第144図 南区Ⅷ層遺構及び遺構内出土遺物実測図 158
第145図 南区Ⅷ層遺構実測図（１） 159
第146図 南区Ⅷ層遺構実測図（２） 160
第147図 南区Ⅷ層遺構実測図（３） 161
第148図 南区Ⅷ層遺構実測図（４） 162
第149図 南区Ⅷ層遺構実測図（５） 163
第150図 北区Ⅷ層遺構実測図（１） 164
第151図 北区Ⅷ層遺構実測図（２） 165
第152図 構成礫検出状況図（１） 166
第153図 構成礫検出状況図（２） 167
第154図 Ⅷ層石器出土状況図 168
第155図 南区Ⅷ層石器出土状況図 169
第156図 北区Ⅷ層石器出土状況図 170
第157図 Ⅷ層石器出土状況図（垂直分布） 171
第158図 Ⅷ層石器出土状況図（Ａ～Ｄ） 172
第159図 Ⅷ層石器出土状況図（Ｅ・Ｆ） 174
第160図 Ⅷ層石器出土状況図（Ｇ～Ｘ） 175
第161図 Ⅸ・Ｘ・ＸⅠ地区石器出土状況図 178
第162図 Ⅰ・Ⅱ地区Ⅷ層出土遺物 179
第163図 Ⅲ地区Ⅷ層出土遺物（１）（Ｂブロック） 181
第164図 Ⅲ地区Ⅷ層出土遺物（２）（Ｂブロック） 182
第165図 Ⅳ地区Ⅷ層出土遺物（１）（Ｅブロック） 183
第166図 Ⅳ地区Ⅷ層出土遺物（２）（Ｆブロック） 184
第167図 Ⅳ地区Ⅷ層出土遺物（３）（Ｆブロック） 185
第168図 Ⅶ・Ⅷ地区Ⅷ層出土遺物 186
第169図 Ｘ・ⅩⅡ地区Ⅷ層出土遺物 187
第170図 ＸⅠ地区Ⅷ層出土遺物 188
第171図 Ⅶ層遺構配置図 189
第172図 南区Ⅶ層遺構実測図 190
第173図 北区Ⅶ層遺構実測図 191
第174図 Ⅶ層石材別出土状況図 193
第175図 南区Ⅶ層石材別出土状況図 194
第176図 北区Ⅶ層石材別出土状況図 195
第177図 Ⅰ～Ⅲ地区Ⅶ層石器出土状況図（垂直分布） 1 196
第178図 Ⅰ～Ⅲ地区Ⅶ層石器出土状況図（垂直分布） 2 197
第179図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（１）（Ａブロック） 203
第180図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（２）（Ｂブロック） 204
第181図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（３）（Ｃブロック） 205
第182図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（４）（Ｃブロック） 206
第183図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（５）（Ｃブロック） 207
第184図 Ⅰ地区南Ⅶ層石器出土状況図 208
第185図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（６）（Ｄブロック） 209
第186図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（７）（Ｄブロック） 210
第187図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（８）（Ｅブロック） 211
第188図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（９）（Ｆブロック） 212
第189図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（10）（Ｆブロック） 213
第190図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（11）（ブロック外） 214
第191図 Ⅰ地区北Ⅶ層石器出土状況図 215
第192図 Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（12）（ナイフ形石器・台形石器） 216
第193図 Ⅰ地区Ⅶ層ナイフ形石器・台形石器出土状況図 217
第194図 Ⅱ地区Ⅶ層出土遺物（１）（Ｇブロック） 219

第195図 II地区Ⅶ層出土遺物（２）（Ｇブロック） 220
第196図 II地区Ⅶ層出土遺物（３）（Ｇブロック） 221
第197図 II地区Ⅶ層出土遺物（４）（Ｇブロック） 222
第198図 II地区Ⅶ層出土遺物（５）（Ｇブロック） 223
第199図 II地区Ⅶ層出土遺物（６）（Ｇブロック） 224
第200図 II地区Ⅶ層出土遺物（７）（Ｇブロック・ブロック外） 225
第201図 II地区Ⅶ層出土遺物（８）（ブロック外） 226
第202図 II地区Ⅶ層石器出土状況図 227
第203図 III地区Ⅶ層出土遺物（１）（Ｈ・Ｉブロック） 228
第204図 III地区Ⅶ層出土遺物（２）（Ｊブロック） 229
第205図 III地区Ⅶ層出土遺物（３）（Ｋブロック・ブロック外） 230
第206図 III地区Ⅶ層石器出土状況図 231
第207図 III地区Ⅶ層出土遺物（４）（ブロック外） 232
第208図 IV地区Ⅶ層出土遺物（Ｌブロック） 233
第209図 IV地区Ⅶ層石器出土状況図 234
第210図 Ⅴ地区Ⅶ層出土遺物（１）（Ｎブロック） 235
第211図 Ⅴ地区Ⅶ層出土遺物（２）（Ｎブロック） 236
第212図 Ⅴ地区Ⅶ層出土遺物（３）（Ｎブロック） 237
第213図 Ⅴ地区Ⅶ層出土遺物（４）（Ｎブロック） 238
第214図 Ⅴ地区Ⅶ層石器出土状況図 239
第215図 Ⅶ・IX・ＸII・ＸIII地区Ⅶ層出土遺物（Ｏ・Ｑ・Ｒ・Ｓブロック） 240
第216図 Ⅶ層Ｏ～Ｓブロック出土状況図 241
第217図 Ⅴ～ＸIII地区石器出土状況図（垂直分布） 242
第218図 Ⅴ・IV層遺構配置図 247
第219図 III地区Ⅴ・IV層遺構配置図 248
第220図 北区Ⅴ・IV層遺構配置図 249
第221図 南区Ⅴ層遺構実測図 250
第222図 南区Ⅴ・IV層遺構実測図 251
第223図 南区IV層遺構実測図（１） 252
第224図 南区IV層遺構実測図（２） 253
第225図 南区IV層遺構実測図（３） 254
第226図 南区IV層遺構実測図（４） 255
第227図 北区Ⅴ層遺構実測図 256
第228図 北区IV層遺構実測図（１） 257
第229図 北区IV層遺構実測図（２） 258
第230図 北区III層遺構配置図 259
第231図 北区III層遺構実測図 260
第232図 縄文土器類別出土状況図 261
第233図 III地区縄文土器出土状況図（垂直分布） 262
第234図 Ⅵ・Ⅶ・ＸⅠ地区縄文土器出土状況図（垂直分布） 263
第235図 III地区縄文時代早期土器出土状況図 264
第236図 Ⅵ・Ⅶ地区縄文時代早期土器出土状況図 265
第237図 IX・Ｘ・ＸⅠ地区縄文時代早期土器出土状況図 266
第238図 III地区縄文時代前・中期土器出土状況図 267
第239図 Ⅵ・Ⅶ地区縄文時代前・中期土器出土状況図 268
第240図 IX・Ｘ・ＸⅠ地区縄文時代前・中期土器出土状況図 269
第241図 縄文時代後・晩期土器，土器底部，古墳時代の土器出土状況図 270
第242図 IIa，IIb類土器実測図 273
第243図 IIc，IIIa～IIIｄ類土器実測図 274
第244図 IVa，IVb類土器実測図 275
第245図 Ⅴａ類土器実測図 276
第246図 Ⅴａ～Ⅴｃ類土器実測図 277
第247図 Ⅴｃ類土器実測図 278
第248図 Ⅴｄ，Ⅴｅ，Ⅵ類土器実測図 279
第249図 Ⅵ類土器実測図 280
第250図 Ⅶ類土器実測図 281
第251図 Ⅷ類土器実測図 282
第252図 IX類土器実測図 283
第253図 Ｘ類土器実測図（１） 284
第254図 Ｘ類土器実測図（２） 285
第255図 ＸⅠ類土器実測図 286
第256図 ＸⅡａ～ＸⅡｃ類土器実測図 287
第257図 ＸIII類土器実測図 288
第258図 ＸIV類土器実測図 289
第259図 縄文石器層別ブロック分布図 291
第260図 III地区縄文石器垂直分布 292
第261図 Ⅵ・Ⅶ・ＸⅠ地区縄文石器垂直分布 293
第262図 III地区Ⅴ層石器出土状況図 294
第263図 III地区IV層実測石器出土状況図 295
第264図 Ⅵ・Ⅶ地区IV層実測石器出土状況図 296
第265図 IX～ＸⅠ地区IV層実測石器出土状況図 297
第266図 III地区III層石器出土状況図 298
第267図 Ⅵ・Ⅶ地区III層石器出土状況図 299
第268図 IX～ＸⅠ地区III層石器出土状況図 300
第269図 III地区Ⅴ層出土石器 301
第270図 III地区IV層出土石器（１） 302
第271図 III地区IV層出土石器（２） 303
第272図 III地区IV層出土石器（３） 304
第273図 III地区IV層出土石器（４） 305
第274図 Ⅶ・ＸⅠ地区IV層出土石器 306
第275図 III地区III層出土石器（１） 307
第276図 III地区III層出土石器（２） 308
第277図 Ⅵ・Ⅶ地区III層出土石器 309
第278図 Ｘ・ＸⅠ地区III層出土石器 310
第279図 II層溝状遺構 312

御仮屋跡遺跡

第280図 調査区と周辺地形図 314
第281図 南区Ⅷ層遺構実測図（１） 315
第282図 南区Ⅷ層遺構実測図（２） 316
第283図 南区Ⅷ層遺構配置図 316
第284図 北区Ⅷ・Ⅶ層ＯＢ－Ａ分布図 317
第285図 北区Ⅷ・Ⅶ層ＯＢ－Ｂ分布図 318
第286図 北区Ⅷ・Ⅶ層石材別分布図（１） 319
第287図 北区Ⅷ・Ⅶ層石材別分布図（２） 320
第288図 北区Ⅷ・Ⅶ層実測遺物出土状況図（１） 321
第289図 北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（１） 322
第290図 北区Ⅷ・Ⅶ層実測遺物出土状況図（２） 323
第291図 北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（２） 324
第292図 北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（３） 325
第293図 北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（４） 326
第294図 北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（５） 327
第295図 北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（６） 328
第296図 北区Ⅷ・Ⅶ層実測石器出土状況図（３） 328
第297図 南区Ⅸ層実測石器出土状況図 332
第298図 南区Ⅸ層出土石器 332
第299図 南区Ⅷ層石材別分布図 333
第300図 南区Ⅷ層出土石器 334
第301図 南区Ⅷ層実測石器出土状況図 335
第302図 南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（１） 336
第303図 南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（２） 337
第304図 南区Ⅶｂ～Ⅶａ層実測石器出土状況図 338
第305図 南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（３） 339
第306図 南区Ⅶａ層実測石器出土状況図（１） 340
第307図 南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（４） 341
第308図 南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（５） 342
第309図 南区Ⅶａ層実測石器出土状況図（２） 343
第310図 南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（６） 343
第311図 南区接合資料出土状況図（１） 344
第312図 南区Ⅷ層接合資料（１） 345
第313図 南区Ⅷ層接合資料（２） 346
第314図 南区接合資料出土状況図（２） 347
第315図 南区接合資料出土状況図（３） 347
第316図 南区・北区Ⅶ層接合資料 348
第317図 今回報告遺跡の旧石器石器群変遷図 354
第318図 各遺跡の石材利用状況 356
第319図 狸谷型ナイフ形石器相関図 359

表　目　次

表１　一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧 5
表２　周辺遺跡一覧 9

伏野遺跡

表３　ブロック別石材重量表 32
表４　石器観察表 37
表５　接合資料観察表 37
表６　掲載以外の細石刃一覧表 38
表７　Ⅴ層連穴土坑観察表 40
表８　Ⅴ層土坑観察表 40

隠迫遺跡

表９　ブロック別石材重量表 44
表10　石器観察表 44
表11　掲載以外の細石刃一覧表 46
表12　土器観察表（１） 52
表13　土器観察表（２） 54
表14　土器観察表（３） 56
表15　Ⅳ層土器集中部観察表 58
表16　縄文時代石器観察表 67
表17　Ⅱ層土器観察表 69

栫堀遺跡

表18　Ⅷ層礫群観察表 71
表19　Ⅶ層ブロック別石材重量表 99
表20　掲載以外の細石刃一覧表（１） 100
表21　掲載以外の細石刃一覧表（２） 101
表22　ブロック別観察表（１） 102
表23　ブロック別観察表（２） 103
表24　実測石器観察表（１） 104
表25　実測石器観察表（２） 105
表26　実測石器観察表（３） 106
表27　接合資料観察表 106
表28　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（１） 110
表29　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（２） 111
表30　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（３） 112
表31　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（４） 113
表32　Ⅴ層土坑観察表 114
表33　Ⅲ層土坑観察表（１） 114
表34　Ⅲ層土坑観察表（２） 115
表35　Ⅲ層土坑観察表（３） 116
表36　Ⅲ層土坑，ピット観察表 117
表37　Ⅴ・Ⅳ層土坑観察表 119
表38　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（５） 119
表39　土器観察表（１） 126
表40　土器観察表（２） 127

表41　土器観察表（３）　128
表42　土器観察表（４）　130
表43　土器観察表（５）　133
表44　土器観察表（６）　134
表45　縄文時代石材組成表　143
表46　縄文時代実測石器観察表　148
表47　II層土器観察表　149

仁田尾遺跡
表48　Ⅷ層礫群観察表（１）　158
表49　１号礫群遺物観察表　158
表50　Ⅷ層礫群観察表（２）　158
表51　Ⅷ層礫群観察表（３）　158
表52　Ⅷ層礫群観察表（４）　160
表53　Ⅷ層礫群観察表（５）　161
表54　Ⅷ層礫群観察表（６）　161
表55　Ⅷ層礫群観察表（７）　162
表56　Ⅷ層礫群観察表（８）　162
表57　Ⅷ層礫群観察表（９）　163
表58　Ⅷ層配石炉状遺構観察表　163
表59　Ⅷ層礫群観察表（10）　165
表60　Ⅷ層礫群観察表（11）　165
表61　Ⅷ層ブロック観察表（１）　176
表62　Ⅷ層ブロック観察表（２）　177
表63　実測遺物観察表（旧石器）１　187
表64　実測遺物観察表（旧石器）２　188
表65　Ⅶ層礫群観察表　190
表66　Ⅶ層集石観察表　190
表67　Ⅶ層落し穴状遺構観察表　191
表68　Ⅶ層ブロック観察表（１）　198
表69　Ⅶ層ブロック観察表（２）　199
表70　Ⅶ層ブロック観察表（３）　200
表71　Ⅶ層ブロック観察表（４）　201
表72　実測遺物観察表（旧石器）３　243
表73　実測遺物観察表（旧石器）４　244
表74　実測遺物観察表（旧石器）５　245
表75　実測遺物観察表（旧石器）６　246
表76　Ⅴ層集石観察表　252
表77　Ⅳ層集石観察表（１）　252
表78　Ⅳ層集石観察表（２）　255
表79　Ⅳ層集石観察表（３）　255
表80　Ⅴ層落し穴状遺構観察表　256
表81　Ⅳ層土坑観察表　257
表82　Ⅳ層集石観察表（４）　258
表83　Ⅳ層集石観察表（５）　258
表84　Ⅲ層落し穴状遺構観察表　260
表85　Ⅲ層集石観察表　260
表86　土器観察表（１）　274
表87　土器観察表（２）　275
表88　土器観察表（３）　280
表89　土器観察表（４）　282
表90　土器観察表（５）　285
表91　土器観察表（６）　287
表92　土器観察表（７）　288
表93　土器観察表（８）　289
表94　実測石器観察表（１）　305
表95　実測石器観察表（２）　306
表96　実測石器観察表（３）　309
表97　実測石器観察表（４）　310
表98　実測石器観察表（５）　311

御仮屋跡遺跡
表99　Ⅷ層礫群観察表　315
表100 北区実測石器観察表（１）　329
表101 北区実測石器観察表（２）　330
表102 北区実測石器観察表（３）　331
表103 南区実測石器観察表（１）　339
表104 南区実測石器観察表（２）　349
表105 南区実測石器観察表（３）　350
表106 接合資料観察表　350
表107 Ⅷ・Ⅶ層剥片石器利用石材別重量表　350
表108 掲載以外の細石刃一覧表（１）　351
表109 掲載以外の細石刃一覧表（２）　352
表110 各遺跡の石材利用状況　355

図　版　目　次

伏野遺跡図版　367
調査風景　図版１
土坑完掘状況ほか　図版２
Ⅶａ遺物出土状況ほか　図版３
旧石器時代石器　図版４

隠迫遺跡図版　373
隠迫遺跡近景ほか　図版１
遺物出土状況ほか　図版２
遺物出土状況ほか　図版３
遺物出土状況ほか　図版４
旧石器時代石器　図版５
縄文時代土器（１）　図版６
縄文時代土器（２）　図版７
縄文時代土器（３）　図版８
縄文時代土器（４）　図版９

縄文時代土器（５）　図版10
古代土器　図版11
縄文時代石器（１）　図版12
縄文時代石器（２）　図版13
縄文時代石器（３）　図版14

杯堀遺跡図版　389
調査風景ほか　図版１
遺物出土状況ほか　図版２
１号礫群ほか　図版３
１号集石ほか　図版４
５号集石ほか　図版５
Ⅴ層１号土坑ほか　図版６
５号土坑ほか　図版７
溝状遺構ほか　図版８
旧石器時代石器（１）　図版９
旧石器時代石器（２）　図版10
旧石器時代石器（３）　図版11
縄文時代土器（１）　図版12
縄文時代土器（２）　図版13
縄文時代土器（３）　図版14
縄文時代土器（４）　図版15
縄文時代土器（５）　図版16
縄文時代土器（６）　図版17
縄文時代土器（７）　図版18
縄文時代石器（１）　図版19
縄文時代石器（２）　図版20
縄文時代石器（３）　図版21
弥生時代土器　図版22

仁田尾遺跡図版　413
仁田尾遺跡遠景（１）　図版１
仁田尾遺跡遠景（２）　図版２
土層断面ほか　図版３
１号礫群及び３号礫検出状況ほか　図版４
４号礫群ほか　図版５
９号～11号礫群ほか　図版６
13号礫群ほか　図版７
18号礫群ほか　図版８
Ⅴ-35区礫群出土状況ほか　図版９
礫群出土状況ほか　図版10
配石炉状遺構　図版11
Ⅷ層遺物出土状況　図版12
遺物出土状況　図版13
１号集石ほか　図版14
落し穴調査状況　図版15
落ち込み完堀状況ほか　図版16
GG-10・11区道跡検出状況ほか　図版17
CC-10区道跡検出状況ほか　図版18
２号集石ほか　図版19
３号・４号集石ほか　図版20
７号・８号集石ほか　図版21
９号集石ほか　図版22
１号集石ほか　図版23
溝状遺構検出状況ほか　図版24
溝状遺構完掘状況ほか　図版25
遺物出土状況　図版26
旧石器時代石器（１）　図版27
旧石器時代石器（２）　図版28
旧石器時代石器（３）　図版29
旧石器時代石器（４）　図版30
旧石器時代石器（５）　図版31
旧石器時代石器（６）　図版32
旧石器時代石器（７）　図版33
旧石器時代石器（８）　図版34
縄文時代土器（１）　図版35
縄文時代土器（２）　図版36
縄文時代土器（３）　図版37
縄文時代土器（４）　図版38
縄文時代土器（５）　図版39
縄文時代土器（６）　図版40
縄文時代土器（７）　図版41
縄文時代土器（８）　図版42
縄文時代土器（９）　図版43
縄文時代土器（10）　図版44
縄文時代土器（11）　図版45
縄文時代石器（１）　図版46
縄文時代石器（２）　図版47
縄文時代石器（３）　図版48

御仮屋跡遺跡図版　463
調査風景　図版１
１号礫群ほか　図版２
Ⅶｂ層上面検出礫群　図版３
３号礫群ほか　図版４
遺物出土状況ほか　図版５
土層断面１ほか　図版６
遺物出土状況　図版７
縄文時代遺物出土状況ほか　図版８
旧石器時代石器（１）　図版９
旧石器時代石器（２）　図版10
旧石器時代石器（３）　図版11
旧石器時代石器（４）　図版12

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふせのいせき　かくれざこいせき　あぜぼりいせき　にたおいせき　おかりやあといせき
書名	伏野遺跡　隠迫遺跡　杷堀遺跡　仁田尾遺跡　御仮屋跡遺跡
副書名	一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書III
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第101集
編著者名	長野　眞一　堂込　秀人　宗岡　克英　福永　修一 岩戸　孝夫　長﨑慎太郎　桑波田武志
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899-4461　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番地１号　TEL0995-48-5811
発行年月日	2006年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
ふせのいせき 伏野遺跡	かごしまけん 鹿児島県 かごしまし 鹿児島市 いしたにちょう 石谷町	462012	31-3-0	130 27 53	31 36 39	20000717- 20000724 20020903- 20021017	360	一般県道小山田谷山線改良工事
かくれざこいせき 隠迫遺跡	〃	〃	31-4-0	130 27 55	31 36 28	20000801- 20000930 20020507- 20020815	2300	〃
あぜぼりいせき 杷堀遺跡	〃	〃	31-7-0	130 27 49	31 36 21	19961007- 19970313 19971013- 19971114 20000801- 20000930 20030114- 20030320	6612	〃
にたおいせき 仁田尾遺跡	〃	〃	31-11-0	130 27 58	31 36 00	19951113- 19960322 19960422- 19960614 19970909- 19971002 19990126- 19990305 20000214- 20000225 20030109- 20030320 20030506- 20030723	4110	〃
おかりやあといせき 御仮屋跡遺跡	〃	〃	31-13-0	130 27 58	31 35 52	20020807- 20020809 20030109- 20030320 20030506- 20030723	1800	〃

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伏野遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期 縄文時代早期	 ブロック３基 連穴土坑１，土坑１	台形石器，ナイフ形石器，三稜尖頭器 細石刃核，細石刃，スクレイパー	
隠迫遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期 縄文時代草創期 縄文時代早期 縄文時代前期 縄文時代後期 古墳時代 中世	ブロック１基 ブロック３基	ナイフ形石器，三稜尖頭器，スクレイパー，石核 細石刃核，細石刃 石鏃 手向山，平栫式土器〕石鏃， 轟，曽畑式土器　スクレイパー 指宿式土器　石匙，礫器， 成川式土器　磨石，叩石 須恵器〕石皿	
柊堀遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期 縄文時代早期 縄文時代前期 縄文時代晩期 古代 中世	礫群１基 ブロック20基 集石７基，土坑２基 土坑７基，ピット 溝状遺構２条	台形石器，ナイフ形石器，三稜尖頭器，叩石，石核 細石刃核，スポール，細石刃，スクレイパー，石鏃 岩本，前平，吉田，石坂，手向山，塞ノ神式土器 轟，曽畑，深浦式土器，石鏃，スクレイパー，石槍 土器　楔形石器，磨石，叩石，凹石他 土師器 須恵器，青磁	福井型
仁田尾遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期～縄文時代草創期 縄文時代早期 縄文時代前期～晩期 古墳時代	礫群27基，配石炉１基，ブロック24基 ブロック19基，礫群３基，落し穴１基 集石19基，落し穴１基，土坑１基 落とし穴１基，集石１基	剥片尖頭器，尖頭器，台形石器，ナイフ形石器他 細石刃核，細石刃，石鏃，隆帯文土器， 叩石，スクレイパー他 岩本，前平，石坂，手向山，平栫，塞ノ神式土器他 轟，曽畑，深浦，晩期式土器　石鏃，石匙他 成川式土器	
御仮屋跡遺跡	散布地	旧石器時代ナイフ形石器文化期 旧石器時代細石器文化期	ブロック ブロック，礫群５基	剥片尖頭器，三稜尖頭器，台形石器，ナイフ形石器他 細石刃核，細石刃，石核	AT下位～終末期

要　約

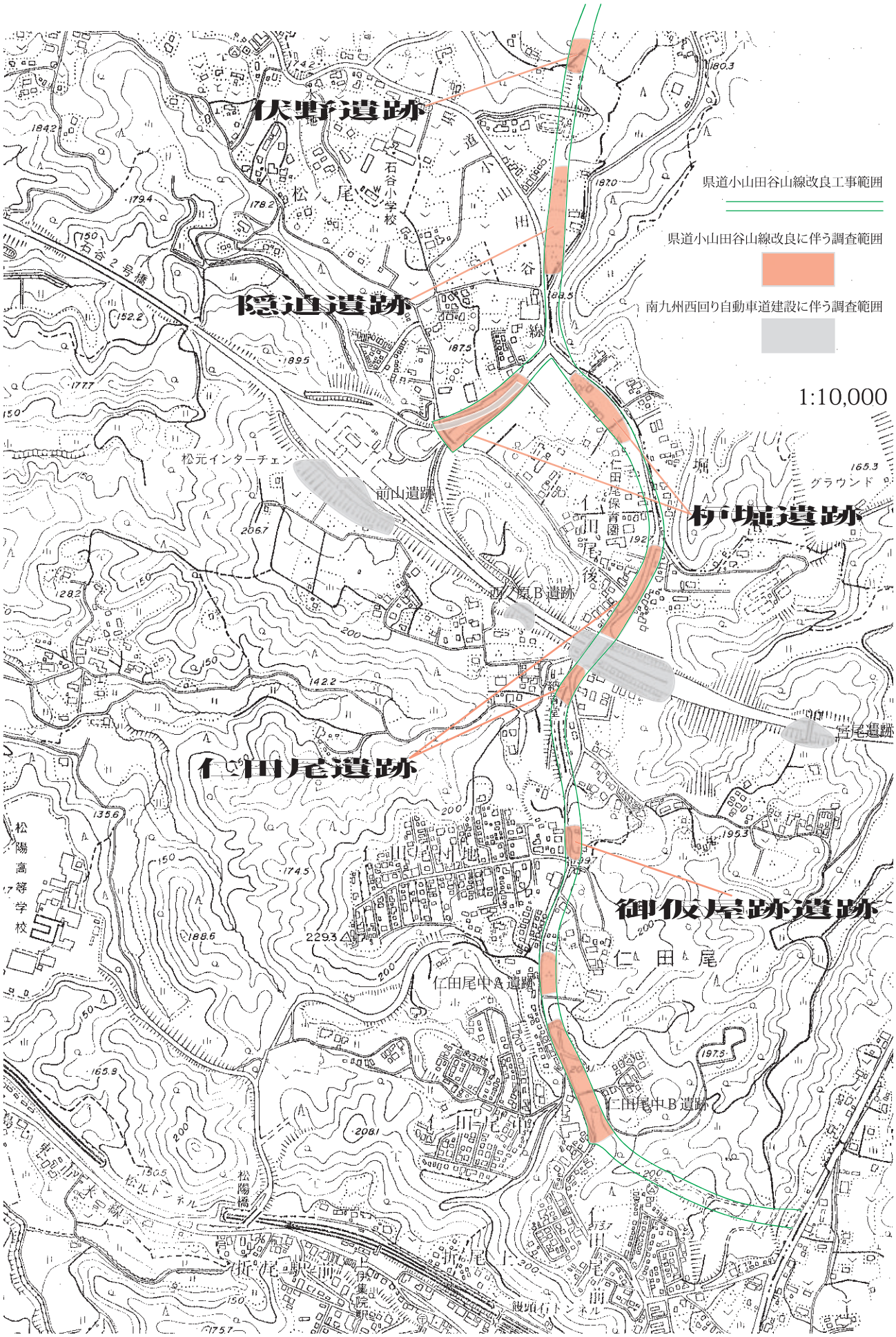
伏野遺跡ではナイフ形石器文化期の包含層から今峠型ナイフ形石器に類似する資料が確認された。細石器文化期では接合資料から西北九州産の黒曜石を利用した細石刃核整形作業が明らかとなった。縄文時代早期の層では土器の出土はないものの，連穴土坑が検出された。

隠迫遺跡では出土量は少ないものの，ナイフ形石器文化期の遺物が確認された。細石器文化期では三船産の黒曜石を利用したブロック３基が確認された。縄文時代は早期から後期までの各種土器が石鏃，礫石器を伴って確認された。

柊堀遺跡では西北九州産の黒曜石を利用した福井型細石刃核を伴う石器群が検出され，西北九州との交流を考える上で貴重な資料が出土した。縄文時代は早期から晩期までの各種土器が石鏃，礫石器を伴って確認された。

仁田尾遺跡ではナイフ形石器文化期のブロックが24基検出され，狸谷型ナイフ形石器を中心とするAT直上の石器群が多くの礫群を伴い良好な状態で検出された。細石器文化期でも19基のブロックが検出され，福井型細石刃核，加治屋園型細石刃核などの新相の細石刃核を中心とする石器群が検出された。中でも草創期の隆帯文土器を含む３点の土器や，製作址を伴う頁岩製の石鏃やその未製品の出土は貴重である。縄文時代は早期を中心に，集石19基や落し穴，土坑などの遺構を伴い多種の土器が出土している。

御仮屋遺跡は資料は少ないものの，AT火山灰層の下位からナイフ形石器が検出され，当台地上で初めてAT層の下位から明確な遺物の出土を確認した。ATの上位からは剥片尖頭器やナイフ形石器等の石器群が検出されたが，特に終末期の小型のナイフ形石器・台形石器がまとまって検出されており，旧石器時代の各時期の変遷を探る上で貴重な資料となった。細石器文化期からは礫群５基を伴い野岳・休場型細石刃核を中心とする石器群が検出された。



本報告書の遺跡と近隣の遺跡

Ⅰ　発掘調査の経過

第１章　調査に至るまでの経過

平成元年８月，国土交通省（旧建設省）は，「南九州西回り自動車道建設」（鹿児島 IC～市来 IC）の基本計画を，翌平成２年11月整備計画を明らかにした。この事業に伴い埋蔵文化財の発掘調査が，仁田尾遺跡，杁堀遺跡で平成３年～６年度の間行われ，両遺跡共に広範囲に広がることが明らかにされていた。その後，鹿児島県は仁田尾遺跡では県道との交差，杁堀遺跡では県道とのアクセスを図りその利便性を高める目的で，県土木部を事業主体に平成７年以降，両遺跡の発掘調査を実施してきた。

その後，南九州西回り自動車道の建設を経て，鹿児島県土木部道路建設課（伊集院土木事務所，以下土木部）は，地方特定道路整備事業（県道小山田～谷山線）を計画した。土木部は，その事業計画推進を図る目的で仁田尾遺跡・杁堀遺跡を含め，事業対象区域内の埋蔵文化財の有無について，鹿児島県教育委員会に照会した。

これを受けて，鹿児島県教育庁文化財課は，平成８年に分布調査を実施し，鹿児島市石谷町（旧日置郡松元町）の伏野，隠迫，杁堀，仁田尾，御仮屋跡で遺物の散布と遺跡存在の可能性の高いことを報告した。

分布調査の結果に基づき，土木部と文化財課，鹿児島県立埋蔵文化財センターは遺跡の取り扱い協議を行い，事業対象地域の遺跡の範囲と性格を把握する目的の確認調査を実施することとした。確認調査は平成12年に仁田尾遺跡，御仮屋跡遺跡を除き，伏野遺跡，隠迫遺跡，杁堀遺跡で実施した。なお，御仮屋跡遺跡については，松元町教育委員会が実施した隣接地であり，遺跡の広がりが明らかであったことから確認調査の対象から除外し，本調査の対象とした。

確認調査の結果に基づき，前３者で最終協議を行い，各遺跡については発掘調査を実施し，記録保存として対応することとした。なお，各遺跡の本調査は平成14年から開始しているが，仁田尾遺跡と杁堀遺跡では，平成８年以降も道路整備事業を推進する一環として調査を先行してきた。確認調査以降の調査は，埋蔵文化財センターが担当している。

第２章　調査の組織

平成７年度　本調査（仁田尾遺跡）

事業主体者　鹿児島県土木部道路建設課（以下省略）
調査主体者　鹿児島県教育委員会　（以下省略）
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課　（以下省略）
調査責任者
鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　内村　正弘
調査企画者
次長兼総務課長　川原　信義
主任文化財主事兼調査課長　戸崎　勝洋
主任文化財主事　新東　晃一
調査担当者
文化財主事　宮田　栄二
〃　下園　昌三
事務担当者
主　査　成尾　雅明
主　事　追立ひとみ

平成８年度　本調査（仁田尾遺跡・杁堀遺跡）

調査責任者
鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　吉元　正幸
調査企画者
次長兼総務課長　尾崎　進
調査課長　戸崎　勝洋
課長補佐兼第一調査係長　新東　晃一
第二調査係長　立神　次郎
県道仁田尾遺跡調査担当者
文化財研究員　中原　一成
〃　有馬　孝一
杁堀遺跡調査担当者
文化財主事　鶴田　静彦
文化財研究員　湯之前　尚
〃　中原　一成
〃　元田　順子
事務担当者
主　査　成尾　雅明
〃　前屋敷裕徳
主　事　追立ひとみ

平成９年度　本調査（仁田尾遺跡・杁堀遺跡）

調査責任者
鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　吉元　正幸
調査企画者
次長兼総務課長　尾崎　進
調査課長　戸崎　勝洋
課長補佐兼第一調査係長　新東　晃一
仁田尾遺跡調査担当者
文化財主事　中村　耕治
文化財研究員　黒川　忠広
杁堀遺跡調査担当者
文化財主事　中村　耕治
〃　安藤　浩
文化財研究員　黒川　忠広
事務担当者
主　査　前屋敷裕徳
〃　政倉　孝弘
主　事　追立ひとみ

平成10年度　本調査（仁田尾遺跡）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　吉永　和人

調査企画者

次長兼総務課長　尾崎　進

調査課長　戸崎　勝洋

課長補佐兼第一調査係長　新東　晃一

調査担当者

文化財主事　鶴田　靜彦

文化財研究員　黒川　忠広

事務担当者

主　査　政倉　孝弘

〃　前屋敷裕徳

主　事　溜池　佳子

平成11年度 本調査（仁田尾遺跡）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　吉永　和人

調査企画者

次長兼総務課長　尾崎　進

調査課長　戸崎　勝洋

課長補佐兼第一調査係長　新東　晃一

調査担当者

文化財研究員　桑波田武志

〃　西園　勝彦

事務担当者

総務係長　有村　貢

主　事　溜池　佳子

平成12年度　確認調査（伏野遺跡・隠迫遺跡・杁堀遺跡）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　井上　明文

調査企画者

次長兼総務課長　黒木　友幸

主任文化財主事兼調査課長　新東　晃一

調査課長補佐　立神　次郎

主任文化財主事兼第一調査係長　青﨑　和憲

主任文化財主事　中村　耕治

調査担当者

文化財主事　藤﨑　光洋

文化財研究員　桑波田武志

事務担当者

総務係長　有村　貢

主　事　溜池　佳子

平成14年度 本調査（仁田尾遺跡・隠迫遺跡・御仮屋跡遺跡・伏野遺跡・杁堀遺跡）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　井上　明文

調査企画者

次長兼総務課長　田中　文雄

調査課長　新東　晃一

課長補佐　立神　次郎

主任文化財主事兼第一調査係長　池畑　耕一

主任文化財主事　中村　耕治

仁田尾遺跡・御仮屋跡遺跡調査担当者

文化財主事　堂込　秀人

〃　中村　和美

伏野遺跡・隠迫遺跡調査担当者

文化財主事　宗岡　克英

文化財研究員　横手浩二郎

杁堀遺跡調査担当者

文化財主事　鶴田　靜彦

〃　松尾　勉

事務担当者

総務係長　前田　昭信

主　査　栗山　和己

平成15年度　本調査（仁田尾遺跡・御仮屋跡遺跡）
整理作業（仁田尾遺跡・御仮屋跡遺跡）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　木原　俊孝

調査企画者

次長兼総務課長　田中　文雄

調査課長　新東　晃一

課長補佐　立神　次郎

主任文化財主事兼第一調査係長　池畑　耕一

主任文化財主事　中村　耕治

調査担当者（発掘調査）

文化財主事　松尾　勉

文化財研究員　川元　禎久

調査担当者（整理作業）

文化財主事　堂込　秀人

文化財研究員　桑波田武志

事務担当者

総務係長　平野　浩二

主　事　福山恵一郎

平成16年度 整理作業（仁田尾遺跡・隠迫遺跡・御仮屋跡遺跡・伏野遺跡・杁堀遺跡）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　木原　俊孝

調査企画者

次長兼総務課長　賞雅　彰

調査課長　新東　晃一

課長補佐　立神　次郎

主任文化財主事兼第一調査係長　池畑　耕一

主任文化財主事　中村　耕治

調査担当者

文化財主事　堂込　秀人

文化財研究員　長﨑慎太郎

文化財研究員　桑波田武志

事務担当者

総務係長　平野　浩二

主　事　福山恵一郎

平成17年度　報告書作成

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター　所長　上今　常雄

作成企画者

次長兼総務課長　有川　昭人

次長兼調査第一課長　新東　晃一

主任文化財主事兼調査第一課第二調査係長　長野　眞一

作成担当者

主任文化財主事兼調査第一課第二調査係長　長野　眞一

文化財主事　堂込　秀人

〃　宗岡　克英

〃　福永　修一

〃　岩戸　孝夫

文化財研究員　長﨑慎太郎

〃　桑波田武志

事務担当者

主幹兼総務係長　平野　浩二

主　事　福山恵一郎

報告書作成検討委員会

平成17年12月20日

報告書作成指導委員会

平成17年12月19日

指導者

橘　昌信（別府大学教授）

藤野　次史（広島大学助教授）

助言者・協力者

稲田　孝司・岡村　道雄・加藤　真二・小畑　弘己

木﨑　康弘・佐藤　宏之・白石　浩之・阿部　敬

雨宮　瑞生・川道　寛・萩原　博文・倉元　良文

吉留　秀敏・児玉健一郎・栗林　文夫・横手浩二郎

古森　政次

石原　啓子・今西ゆかり・上床　真・大村　彌紀

岡島　明子・黒川　忠広・相美伊久雄・迫間　洋子

立野　里沙・中川ヒロミ・山下　瑞恵・古里智恵子

第３章　発掘調査の経過

各遺跡の確認調査の期間は，以下のとおりである。

伏野遺跡　平成12年７月17日～７月24日

隠迫遺跡　平成12年８月１日～９月30日

柏堀遺跡　平成12年８月１日～９月30日

仁田尾遺跡　平成９年９月９日～９月30日

御仮屋跡遺跡　平成12年８月７日～８月９日

ただし，柏堀遺跡の平成８・９年度調査区と仁田尾遺跡の平成８～11年度調査区については，南九州西回り自動車道建設に伴い平成４・５年度と平成５～７年度に実施された調査区にそれぞれ隣接し遺跡の広がりが予想され，直ちに本調査が行われた。　なお，各遺跡の本調査の期間は，Ｐ５の表１「一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧」に記述する。

次に，遺跡の基準グリッドは，各遺跡が広範囲に点在したので，遺跡別の設定となっている。特に，柏堀遺跡，仁田尾遺跡については調査が数次におよんだ関係で，それぞれ複数の基準グリッドが設定されている。また，グリッドはすべて10ｍ四方で設定している。以下に，各遺跡別に基準グリッドとその設定について記述する。

伏野遺跡の基準グリッドは，県道の建設設計図センター杭No.328とNo.329を基準にして設定し，北側から１～４区，西側からＡ，Ｂ区とした。

隠迫遺跡の基準グリッドは，県道センター杭No.343とNo.344を基準にして設定し，北側から１～19区，西側からＡ～Ｄ区とした。

柏堀遺跡は，調査年度で東地区と西地区に分かれる。東地区は台地上の県道本線部分にあたり，平成14年度に調査した。西地区は，台地の縁辺部のゆるやかな傾斜地で，県道から松元インターチェンジへの引き込み線部分にあたる。西地区の中心部分は，平成４，５年度に調査した南九州西回り自動車道建設に伴う柏堀遺跡(以下「国道柏堀遺跡」,鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書No.30として平成13年度刊行）になる。その側道部分と拡張部分を，平成８，９年度に調査した。

東地区は，県道センター杭No.366とNo.367を基準にして設定し，南側からＦ，Ａ～Ｅ区，西側から１～22区とした。

西地区は，引き込み線建設設計図センター杭No.６とNo.７を基準にして設定し，南側からＥ～Ｏ区，東側から１～20区とした。なお，国道柏堀遺跡は，引き込み線センター杭No.９とNo.12を基準にして設定し，南側からＡ～Ｅ区，西側から１～21区であった。

仁田尾遺跡は，調査が９年７次に及び，調査グリッド・ポイントで６地区，調査地区では14地区に分かれる。遺跡の中心部には，南九州西周り自動車道が横断し平成５～７年に調査された仁田尾遺跡（以下「国道仁田尾遺跡」）が存在する。本遺跡の基準グリッドは国道仁田尾遺跡を基にして，北側に拡張して設定した。すなわち，国道の建設設計図センター杭No.350とNo.355を基準にして設定し，北側からＱＱ～ＡＡ，Ａ～Ｏ区，東側から１～12区とした。ＡＡ－１～ＱＱ－12区が，拡張部分になる。各地区の調査グリッド・ポイントについては，「Ⅶ　仁田尾遺跡　第１章　調査の方法」に記述する。

御仮屋跡遺跡の基準グリッドは，仁田尾中Ｂ遺跡調査

区と同じ，県道センター杭No.436とNo.440を基準にして設定し，南側からＳ～Ｗ区，東側から57～64区とした。

また，各遺跡の基準グリッドの根拠となった，建設設計図の各センター杭の公共座標値を以下に記す。なお，公共座標は，北緯33° 東経131° を原点とする第Ⅱ系で単位はkmである。

県道小山田谷山線

No.328　Ｘ座標 -153.829037　Ｙ座標 -50.645667
No.329　Ｘ座標 -153.848737　Ｙ座標 -50.649120
No.343　Ｘ座標 -154.121083　Ｙ座標 -50.717145
No.344　Ｘ座標 -154.140783　Ｙ座標 -50.720596
No.366　Ｘ座標 -155.853945　Ｙ座標 -50.618059
No.367　Ｘ座標 -154.569011　Ｙ座標 -50.606369
No.436　Ｘ座標 -155.853945　Ｙ座標 -50.664336
No.440　Ｘ座標 -155.853945　Ｙ座標 -50.632559

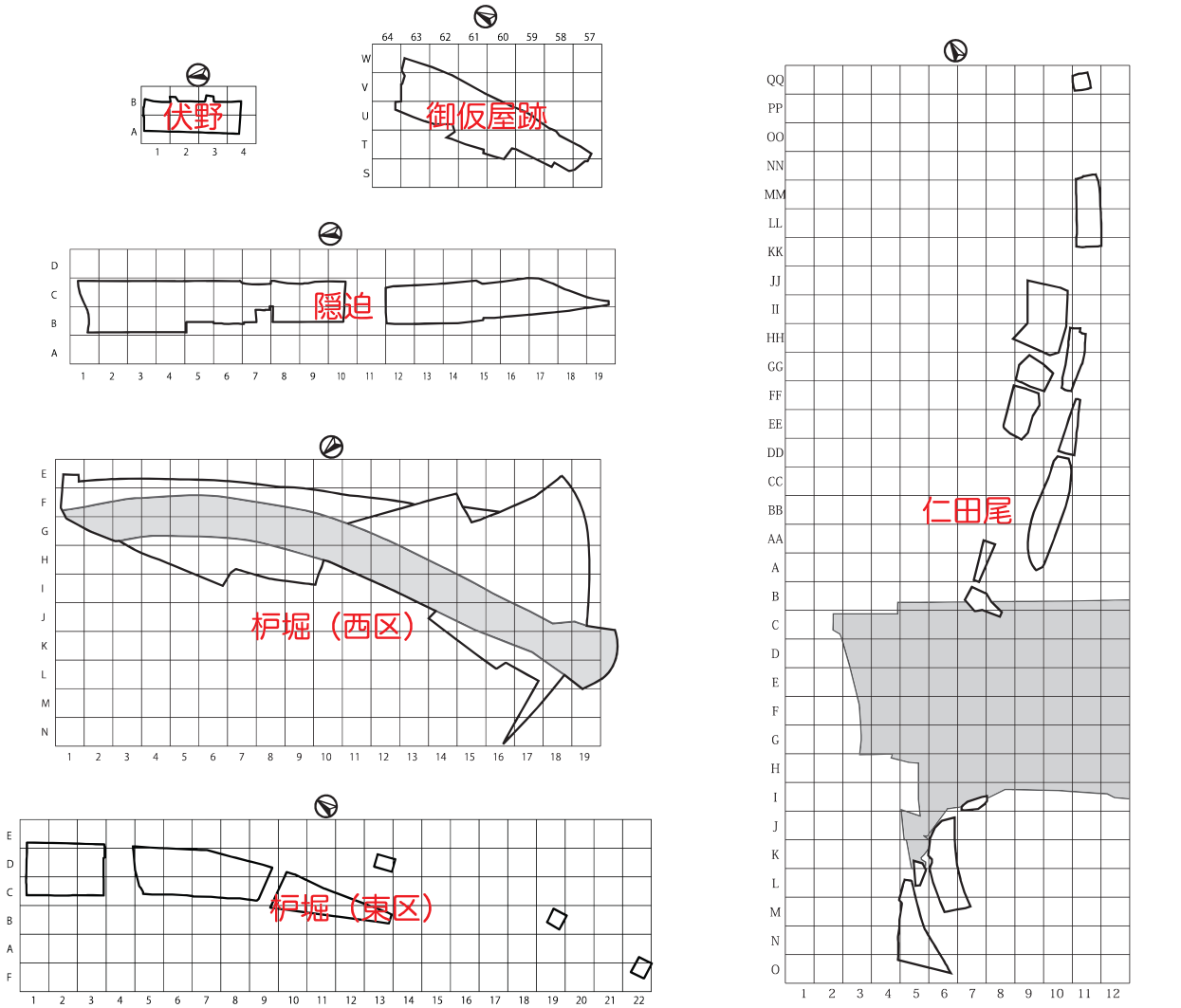
南九州西回り自動車道（引き込み線）

No. 6　Ｘ座標 -154.302794　Ｙ座標 -51.031373
No. 7　Ｘ座標 -154.316670　Ｙ座標 -51.045719
No. 9　Ｘ座標 -154.350066　Ｙ座標 -51.069473
No.12　Ｘ座標 -154.386755　Ｙ座標 -51.084760

南九州西回り自動車道（本線）

No.350　Ｘ座標 -154.9303　Ｙ座標 -50.607988
No.355　Ｘ座標 -154.971818　Ｙ座標 -50.516884

整理作業は，県立埋蔵文化財センターで実施した。平成15，16年度には，遺物の水洗，注記，接合，石器実測委託とデータ入力などの基礎的作業を行った。平成17年度には，整理作業と報告書作成を行い，３月末に埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。

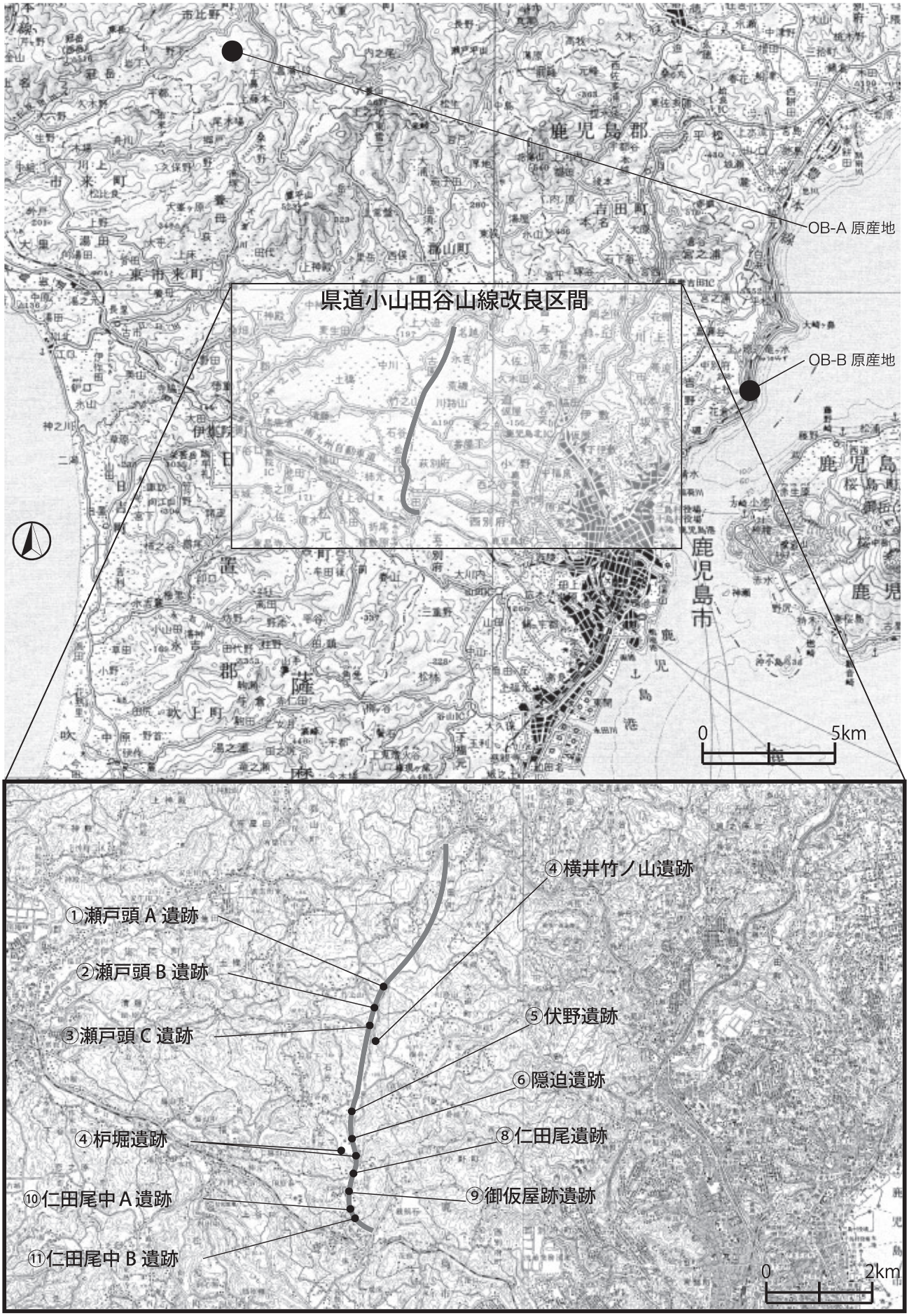


※　１グリッドは 10m×10m。□は，南九州西回り自動車道建設に伴う調査範囲。

第１図　各遺跡のグリッド配置図

表１　一般県道小山田谷山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	年度	調査面積（㎡）	取上遺物点数	遺物	遺構	時代	調査期間	調査員	報告書№
1	瀬戸頭Ａ	H10（１次）	6,000	1_12254	台形石器，ナイフ，スクレイパー，石核，細石刃核，草創期土器，石鏃，丸ノミ形石斧，石斧，叩石，前平式，石坂式，押型文，塞ノ神式，平栫式，石鏃，石匙，異形石器，轟式，阿高式，指宿式，成川式，土師器，須恵器，墨書土器，砥石	ブロック12，礫群１，石鏃製作址，土坑，ピット集石３，溝状遺構	旧石器・縄文・古代	H10.5.6_9.18	安藤浩 黒川忠広	（県85） シリーズⅡ H15刊行
		H11（２次）		1_1876				H11.4.12_7.9	鶴田静彦 桑波田武志	
		H12（３次）		1_3563				H12.6.1_11.17	藤﨑光洋 桑波田武志	
2	瀬戸頭Ｂ	H13	2,400	1_8402	台形石器，ナイフ，三稜尖頭器，細石刃核，細石刃，楔形石器，草創期土器，石鏃，スクレイパー，前平式，吉田式，石坂式，円筒形条線文，平栫式，石匙，異形石器	ブロック20，礫群１，溝状遺構	旧石器・縄文	H13.12.3_H14.3.22	藤﨑光洋 有馬孝一	
3	瀬戸頭Ｃ	H11	2,000	1_200	台形石器，ナイフ形石器，尖頭器	ブロック２，礫群１	旧石器	H11.7.12_9.28	鶴田静彦 桑波田武志	
4	横井竹ノ山	H11（１次）	1,200	~3500	ナイフ，剥片尖頭器，削器，細石刃核，石鏃，草創期土器，スクレイパー，前平式，押型文，土師器，須恵器，墨書土器	ブロック，ユニット15，道跡，土師器塊埋納遺構	旧石器・縄文・古代	H11.10.1_11.12 H12.2.14_2.25	大久保浩二 桑波田武志	（県67） シリーズⅠ H16刊行
		H12（２次）		~13000				H12.6.1_7.31	藤﨑光洋 桑波田武志	
5	伏野	H14	360	1_1607	角錐状石器，細石刃	ブロック（ナイフ１，細石器４），連穴土坑，土坑	旧石器	H14.9.3_10.17	宗岡克英 横手浩二郎	本報告書 （県101） シリーズⅢ
6	隠迫	H14	2,300	1_3538	ナイフ，細石器，手向山式，石皿,曽畑式，指宿式，成川，弥生～古代	ブロック（ナイフ１，細石器３）	旧石器２，縄文，古代	H14.5.7_8.15	宗岡克英 横手浩二郎	
7	栫堀	H8（１次）	2,200	1_1071 1_7839	前平式，円筒形条痕文，礫器，曽畑式，轟式，黒川式，組織痕，石鏃，磨石	集石５，土坑	旧石器，縄文	H8.10.7_H9.3.13	鶴田静彦 湯之前尚 中原一成 元田順子	
		H9（２次）	912	1_451	剥片，前平式，押型文，曽畑式，晩期土器，石鏃，	溝状遺構		H9.10.13_11.14	中村耕二 安藤浩 黒川忠広	
		H14（３次）	3,500	1_352	細石刃，剥片，打製石鏃，石坂式，手向山式，スクレイパー，磨製石鏃，磨石，石皿，凹石，叩石，黒曜石剥片，チャート剥片，轟式，松山式，	集石１，土坑１，焼土跡１，道跡１	縄文	H15.1.14_3.20	鶴田静彦 松尾勉	
8	仁田尾	H7（１次）	800	1_15896	ナイフ，台形石器，剥片尖頭器，削器，細石刃，細石刃核，叩石，磨石，石鏃，無文土器，前平式，塞ノ神式，桑ノ丸式，石坂式，石匙，スクレイパー，石皿，曽畑式，深浦式，黒川式，楔形石器，	ブロック（ナイフ３，細石器６），礫群15，石囲い炉２，落し穴２，集石16，	旧石器２，縄文，古代	H7.11.13_H8.3.22	宮田栄二 下園昌三	
		H8（２次）	520	16001_17587	ナイフ，台形石器，石核，剥片，調整剥片，前平式，平栫式，手向山式，曽畑式，後期土器，黒川式，石鏃，石匙	ブロック（ナイフ５），礫群１		H8.4.22_6.14	中原一成 有馬孝一	
		H9（３次）	150	1_305	細石器文化器の遺物，早期の磨石	集石１		H9.9.9_10.2	中村耕治 黒川忠広	
		H10（４次）	400	1_11425	ナイフ，剥片，細石刃，細石刃核，チップ，隆帯文，石鏃，石鏃未製品	礫群４，集石２		H11.1.26_3.5	鶴田静彦 黒川忠広	
		H11（５次）	40	1_423	ナイフ，両面加工尖頭器，石核，細石刃核，細石刃，石鏃，塞ノ神式	ブロック（ナイフ２，細石器４），礫群２，		H11.2.14_2.25	桑波田武志 西園勝彦	
		H14（６次）	600	1_1200	剥片，チップ，早期土器，曽畑式，石鏃，石匙	礫群６，ブロック２，道跡１，落し穴１，集石３，土坑２，溝状遺構		H15.1.9_3.20	堂込秀人 中村和美	
		H15（７次）	1,600	1_497	ナイフ，叩石，細石刃，三稜尖頭器，剥片，チップ	ブロック２，道跡１		H15.5.6_7.23	松尾勉 川元禎久	
9	御仮屋跡	H14（１次）	800	1_3936	剥片尖頭器，ナイフ，グレーバー，剥片，細石核，細石刃，	ブロック（ナイフ３，細石器２）	旧石器２	H15.1.9_3.20	堂込秀人 中村和美	
		H15（２次）	1,000	3937_5220 1_1796	ナイフ，剥片，叩石，三稜尖頭器，細石刃，細石核，	ブロック（ナイフ３，細石器３），礫群５		H15.5.6_7.23	松尾勉 川元禎久	
10	仁田尾中Ａ	H14（１次）	560	1_312	塞ノ神式，曽畑式，石鏃，石皿，土師器	ブロック(細石器２），集石１，溝状遺構２	旧石器	H14.11.21_H15.3.18	宗岡克英 横手浩二郎	
		H15（２次）	440	313_4069	三稜尖頭器，小型ナイフ，細石核，細石刃，小型台形石器，草創期土器，石鏃，	礫群５，ブロック（ナイフ１，細石器３）		H15.7.1_10.30	宗岡克英 上床真	
11	仁田尾中Ｂ	H12（１次）	1,650	1_54350	ナイフ，剥片尖頭器，両面加工尖頭器，三稜尖頭器，細石刃核，細石刃，草創期土器，石鏃，平栫式，石槍	石核埋納土坑１，土坑，ブロック（ナイフ，細石器），礫群，叩石集積，集石	旧石器２，縄文，古代	H12.11.17_H13.3.31	藤﨑光洋 桑波田武志	
		H13（２次）	2,920	54351_116552	ナイフ，剥片尖頭器，両面加工尖頭器，三稜尖頭器，台形石器，細石刃，細石刃核，叩石，剥片，草創期土器，石鏃，平栫式，塞ノ神式，石皿，磨石，轟式，曽畑式，磨製石斧，石匙，成川式，土師器	ブロック（ナイフ，細石器),，礫群，叩石集積，集石，土坑，溝状遺構，古道，掘立柱建物跡１		H13.5.7_11.28	藤﨑光洋 有馬孝一	
		H14（３次）	1,600	116553_251930	ナイフ，台形石器，角錐状石器，剥片尖頭器，小型ナイフ，小型台形石器，ポイント，磨石，叩石，細石核，条痕文，前期後期土器，土師器，墨書土器	ブロック（ナイフ，細石器），礫群，集石		H14.8.16_H15.3.25	宗岡克英 横手浩二郎	
		H15（４次）	600	251931_299334	三稜尖頭器，小型ナイフ，細石核，細石刃，小型台形石器，磨石，叩石，草創期土器，前平式，吉田式，石坂式，石鏃，石皿，桑ノ丸式，平栫式，条痕文，石鏃，石匙，石錐，曽畑式，深浦式，指宿式，土師器，須恵器	ブロック（ナイフ，細石器),礫群,磨石叩石集積,集石10，配石炉２，カマド状焼土遺構		H15.7.1_10.30	宗岡克英 上床真	



第２図　県道小山田谷山線改良に伴う発掘調査遺跡群

Ⅱ　遺跡の位置と環境

第１章　地理的環境

伏野・隠迫・枦堀・仁田尾・御仮屋跡遺跡は，鹿児島県鹿児島市石谷町に所在する。この地域は平成16年11月に編入合併した旧日置郡松元町に該当し，市中心部の鹿児島湾岸から約10㎞西方の内陸部に位置する。以下に旧日置郡松元町を中心にして記述する。

地形的には，溶岩･火山灰の堆積した海抜150ｍ前後の丘陵台地からなり，浸食作用を受けて数多くの渓谷と分断された丘陵がみられる。渓谷は谷底平地となり山田・迫田を形成し，台地上は畑作地帯で茶畑への利用が多い。東辺は急傾斜の姶良カルデラ壁で鹿児島湾側と東シナ海側との分水界になり，西方へは吹上浜に向けて緩やかに降下する。

地質的特徴として，北方に隣接する日置市北部山地は輝石安山岩，西方の薩摩半島中部山地は中生代の四万十層に属する砂岩と頁岩の互層からなり，町の大部分を占める台地は火山灰土壌のシラスで構成されることが挙げられる。気候的特徴は，中高原地区であるため南国としては気温が比較的低い。また，夏季は大雨や台風の影響で降水量が大きい。

また、位置的には南北に細長い薩摩半島中央の地峡部を占める。東側は鹿児島市中心部、西・南・北側は平成17年５月に旧日置郡４町の合併で誕生した日置市と接している。鹿児島と福岡・熊本を結ぶ鹿児島本線・九州新幹線，遺跡の中心付近を東西に横断する南九州西回り自動車道といった高速交通網や，鹿児島市の南北を内陸部で結ぶ大型バイパス道路も近年整備された。交通の利便性から個人住宅の新築増加や大型住宅団地の造成がみられ、鹿児島市のベッドタウンとしての一面もある。

調査地は，国道10号線と鹿児島市南部を結ぶ県道小山田谷山線沿いに点在する。調査地の地形は海抜約190ｍの台地縁辺部で，鹿児島湾側と東シナ海側との分水嶺に当たり，東西方向へ複雑に谷が開析し，遺跡を囲むように東に田上川，西に石谷川，下谷口川が流れている。調査地は，茶畑に多く利用されていた。当地は茶の生産量が多い鹿児島県内にあって有数の生産地である。

第２章　歴史的環境

旧日置郡松元町には，旧石器時代から近世に至るまで長期にわたり数多くの遺跡が存在している。

旧石器時代の遺跡は，本報告書起因事業や南九州西周り自動車道建設に伴い，近年の発掘調査事例が急増している。

前山遺跡からは，シラス腐植土層下位から台形様石器，ナイフ形石器，スクレイパー等が出土し，御仮屋跡遺跡からも同時期の遺物が出土している。仁田尾遺跡では，ナイフ形石器文化の時期の礫群や細石器刃文化の時期の落し穴状遺構と共にこれらの時期の遺物が出土し，仁田尾中Ｂ遺跡からは，ナイフ形石器から細石刃文化に至るまでを中心に多数の石器製作址と共に30万点超の遺物が出土している。近接する枦堀遺跡や，御仮屋跡遺跡，隠迫遺跡からも同時期の遺物が出土している。

縄文時代草創期では，仁田尾遺跡や仁田尾中Ｂ遺跡で，土器や石器が出土している。早期では，前原遺跡で前平式，吉田式，石坂式土器と磨石や石皿などの遺物が，多数の住居跡や集石，連穴土坑などと出土し，早期集落が存在した。他に仁田尾遺跡や仁田尾中Ｂ遺跡などからも同時期の遺物が出土している。前期では仁田尾遺跡や，枦堀遺跡で出土している。後期では宮尾遺跡から落し穴状遺構を含む101基の土坑が検出されており，晩期では仁田尾遺跡で掘立柱建物跡が検出されている。

弥生時代は，前期の高橋Ⅰ式，夜臼式土器が出土した東昌寺遺跡があり，山下堀頭遺跡では弥生時代後期から古墳時代初頭の住居跡が３基検出され，鉄剣，絵画土器が出土している。フミカキ遺跡では同時期と思われる円形の刻目突帯を施した壺形土器も出土している。

古代から中世にかけては，開拓開墾が進み，荘園領主や，島津氏，伊集院氏などが、所領をめぐり抗争を繰り広げた。15世紀前半，石谷地域は守護職島津氏の家老の町田氏の領地となった。戦国時代になると松元町内でも，石谷城の町田氏や谷口城の肥後氏等が割拠した。この時代の遺跡からは，宮尾遺跡や枦堀遺跡，フミカキ遺跡などで須恵器や土師器，陶磁器などが出土している。山下堀頭遺跡では平安時代の周溝墓が検出され，須恵器，土師器，陶磁器等も出土している。仁田尾中Ｂ遺跡では，炭化した桃の種を伴ったカマド状焼土遺構や配石炉が検出され，墨書土器も出土している。また，町内にはこの時代の古石塔も多くみられる。

江戸時代の石谷地域は，薩摩藩の上級武士である一所持家となった町田氏の領地であった。町田氏は鹿児島城下の屋敷に居住していたが，御仮屋跡遺跡には地方役所である地頭仮屋が存在した。

文化財保護行政の生みの親といえる町田久成は，石谷領主28代久長の長男として天保９（1838）年に生まれた。江戸の昌平黌に学んだ後，藩の英蘭学教育機関である開成所の学頭を命じられた。慶応元（1865）年には薩摩藩留学生の監督としてイギリスに渡り，大英博物館の見学や慶応３年のパリ万国博覧会への参加を通して，西洋では人々が容易に文物や見聞し，新知識を取得できることを痛感した。帰国後，新政府内で博覧会事業の推進，博物館建設の中心的役割を果たし，明治15（1882）年には，上野に東京帝国博物館を完成させ初代館長となった。古美術の鑑識にも長じ，古書画の収集に努め，後に官を辞して仏門に帰依し，生涯を終えた。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
竹之山
新村上
新村下
石谷下
石谷町
石谷西
石谷東
六ヶ所
松尾
鹿児島市
仁田尾
仁田尾団地
松陽台町
駅北団地
萩別府
横井
川路山
犬迫町
栗之迫
番屋下
小野町
江口
五ケ別府町
鰻頭石
都市農業センター
古園
上永吉
荒磯
上土橋
中川
第3種第1ホール
第4種第1ホール
第6種第1ホール

第３図　周辺遺跡位置図

表２　周辺遺跡一覧

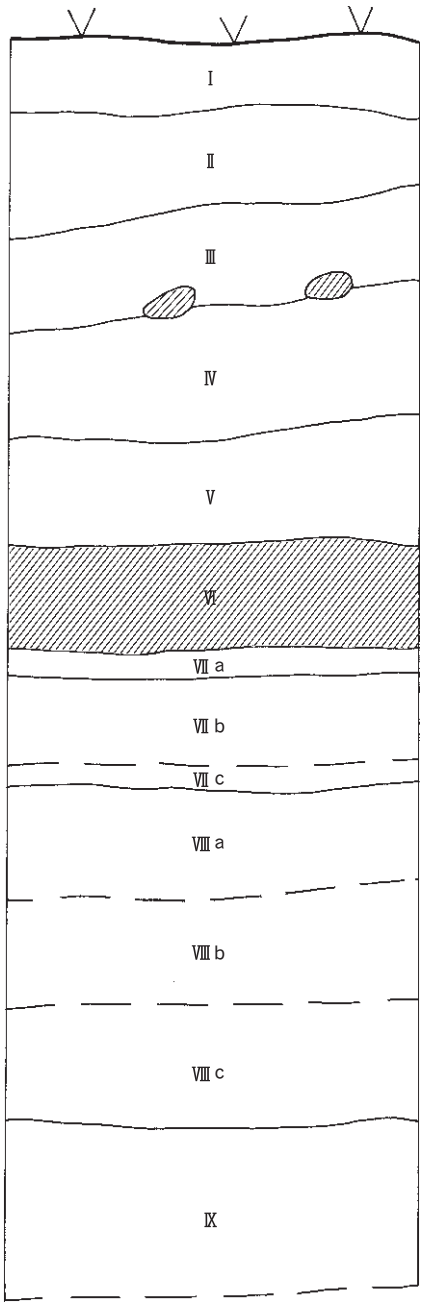
番号	遺跡番号	遺跡名	所　在　地	地形	時　　代	遺物など	備　　考
1	30-55	瀬戸頭	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器，縄文，中世	土器片	平成11年町埋文報告書(11)
2	30-75	瀬戸頭Ａ	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器，縄文	ナイフ形石器・細石器	平成10～12年度本調査，県埋文報(85)
3	30-76	瀬戸頭Ｂ	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器，縄文	細石器	平成13年度本調査，県埋文報(85)
4	30-77	瀬戸頭Ｃ	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器，縄文	台形石器	平成11年度本調査，県埋文報(85)
5	30-78	竹之山	日置市伊集院町竹之山	台地	縄文		分布調査
6	30-7	前迫	日置市伊集院町土橋竹山前迫熊野神社	台地		磨製石斧	
7	30-14	長崎城跡	日置市伊集院町竹之山	山地	中世		
8	31-1	小松迫	鹿児島市石谷町小竹山	台地	縄文早期	石坂式土器	
9	31-2	石谷城跡	鹿児島市石谷町柊頭	台地	中世(室町後期)	堀割跡	町田氏居城跡
10	31-3	伏野	鹿児島市石谷町伏野	台地	旧石器	剥片，連穴土坑	平成14年度本調査，本報告書
11	31-4	隠迫	鹿児島市石谷町濡ヶ丸	台地	旧石器・縄文	土器・石器	平成14年度本調査，本報告書
12	31-5	宮ヶ迫	鹿児島市石谷町前山	台地	旧石器	ナイフ形石器・細石器	平成８～10年度本調査・町埋文報告書(３)
13	31-6	柊堀Ａ	鹿児島市石谷町柊堀	台地	旧石器・縄文・古墳	細石器・石鏃・石槍・前平式土器	平成４～９年度本調査　一部県埋文報告書(30)，本報告書
14	31-7	柊堀Ｂ	鹿児島市石谷町柊堀	台地	縄文・古代	土器・石器	平成14年度本調査，本報告書
15	31-8	前山	鹿児島市石谷町西ノ原	台地	旧石器・縄文・古墳	細石器・ナイフ形石器・成川式土器	平成７～８年度本調査
16	31-9	西ノ原Ａ	鹿児島市石谷町田ノ免	台地	弥生後期	土器（完全小型壺）	「鹿県考古学会紀要」２号，昭和12年発見
17	31-10	西ノ原Ｂ	鹿児島市石谷町西ノ原	台地	旧石器	細石器・ナイフ形石器	平成６年度本調査・県埋文報告書(30)
18	31-11	仁田尾	鹿児島市石谷町仁田尾	台地	旧石器・縄文	細石器・ナイフ形石器，落とし穴	平成５～11，14，15年度本調査，一部本報告書
19	31-12	宮尾	鹿児島市石谷町宮尾	台地	縄文・古代	土坑・青磁片	県埋文報告書(73)
20	31-13	御仮屋跡	鹿児島市石谷町仁田尾	台地	旧石器	細石器・ナイフ形石器，礫群	平成14～15年度本調査，本報告書
21	31-14	仁田尾中Ａ	鹿児島市石谷町仁田尾	台地	旧石器・縄文	細石器・ナイフ形石器	平成14～15年度本調査
22	31-15	仁田尾中Ｂ	鹿児島市石谷町仁田尾	台地	旧石器・縄文・古代	細石器・ナイフ形石器	平成12～15年度本調査
23	31-19	谷口城跡	鹿児島市福山町	丘陵	中世(室町後期)	水無壕跡	
24	1-10	木ヶ暮	鹿児島市西別府町木ヶ暮	台地	縄文中期・後期	阿高式・指宿式・市来式土器・石皿等	昭和27年調査「鹿県考古学会紀要」(２)，市埋文報(４)(９)
25	1-108	横井竹ノ山	鹿児島市犬迫町横井竹ノ山	台地	旧石器～縄文	ナイフ・細石器・土器	市埋文報(10)　県埋文報(67)
26	1-109	川路山	鹿児島市犬迫町川路山	台地	縄文早期・古墳	石坂式土器	
27	1-130	尾崎	鹿児島市西別府町尾崎	台地			
28	1-147	広坂下北	鹿児島市小野町西之谷	台地	縄文～古墳		平成14年度確認調査

※旧日置郡松元町は平成16年11月１日に鹿児島市に編入合併した。旧日置郡伊集院町ほか４町は平成17年５月１日に合併し，日置市になった。
※遺跡番号は合併後の番号が未設定のため，旧町時のものである。30番代は旧日置郡伊集院町，31番代は旧日置郡松元町である。

Ⅲ　遺跡の層位

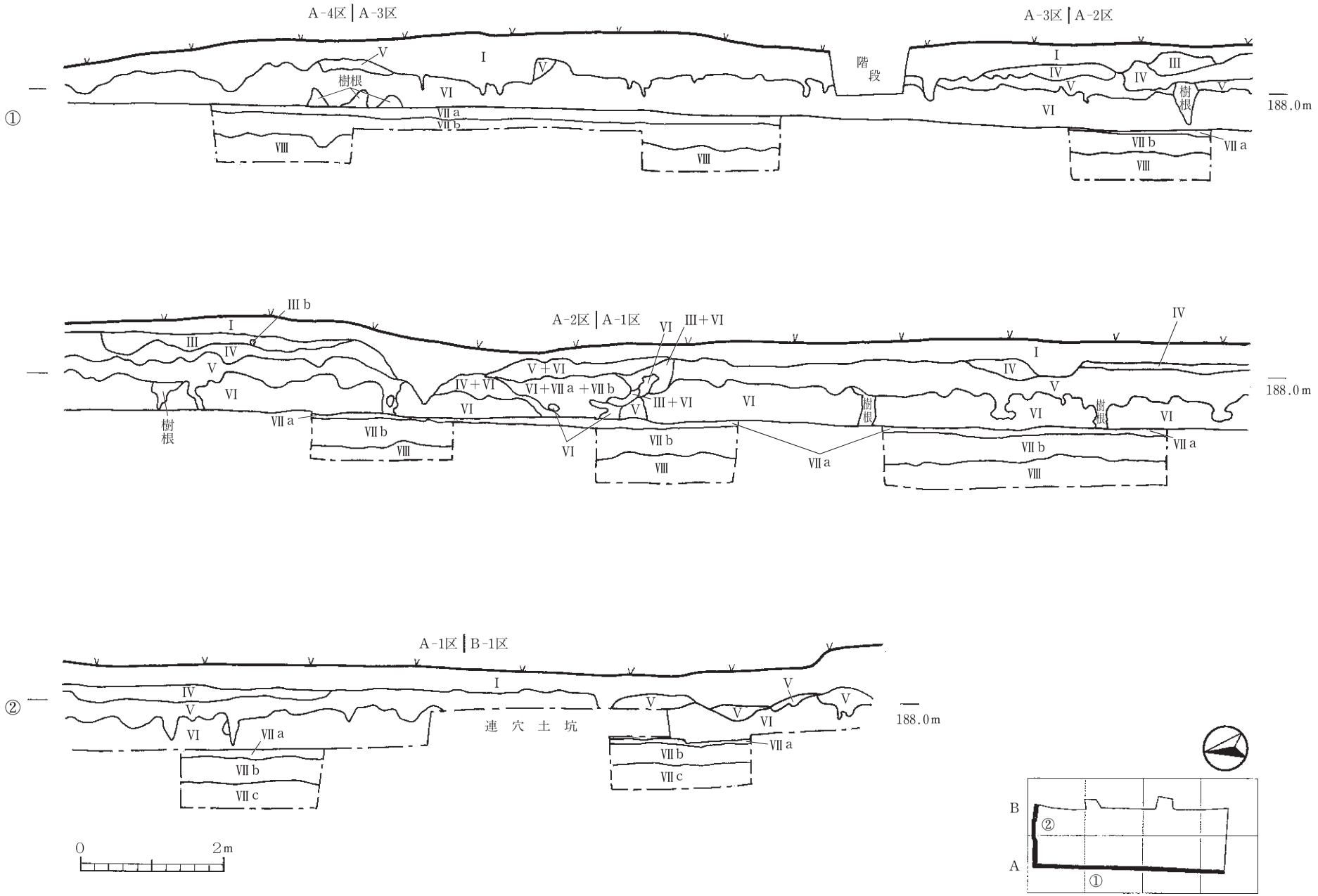
第１章　遺跡の層位

基本層位は，伏野，隠迫，杤堀，仁田尾，御仮屋跡遺跡共通である。伏野遺跡は畑地のために上層が削平されており，表土の下位はほぼⅣ～Ⅴ層であった。隠迫遺跡は一部Ⅱ層が残存していたが，表土の下位はⅢ～Ⅳ層であった。３ｍ以上掘削を受けている場所もあった。杤堀遺跡は表土の下位はⅢ層であった。仁田尾遺跡は遺跡範囲が南北に長いため場所によって層の堆積状況は異なる。表土の下位はほぼⅢ～Ⅳ層であった。御仮屋跡遺跡の北側は山神の祠を最頂部とする小高い丘で傾斜があり南側は平坦部である。Ⅳ・Ⅴ層を確認できたが撹乱が著しい状況であった。Ⅵ層以下は安定して堆積している。Ⅷ層下に土石流の痕跡が認められ，その下層に大隅降下軽石が良好に残存していた。各層の堆積状況は以下の通りである。

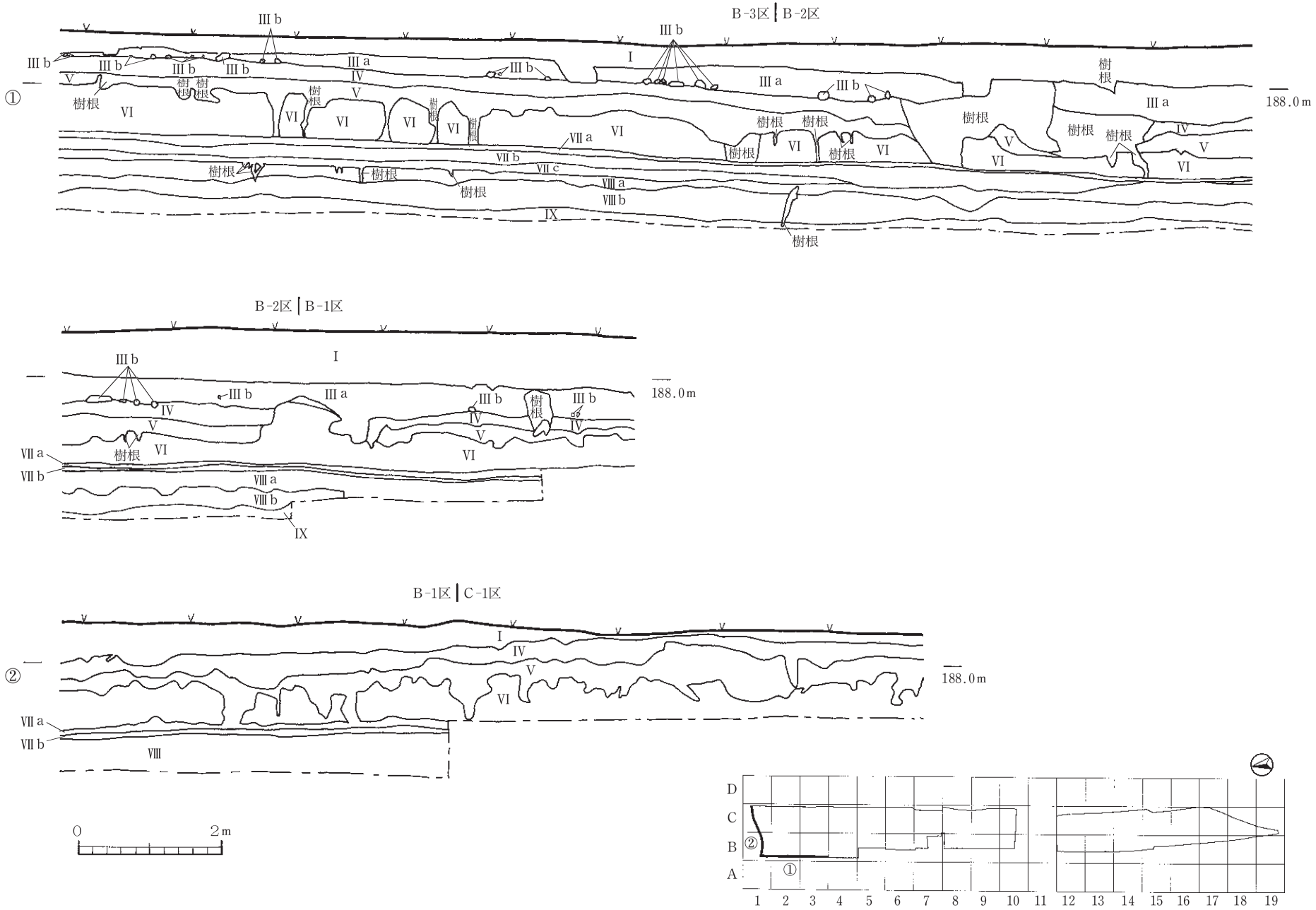


第４図　土層模式図

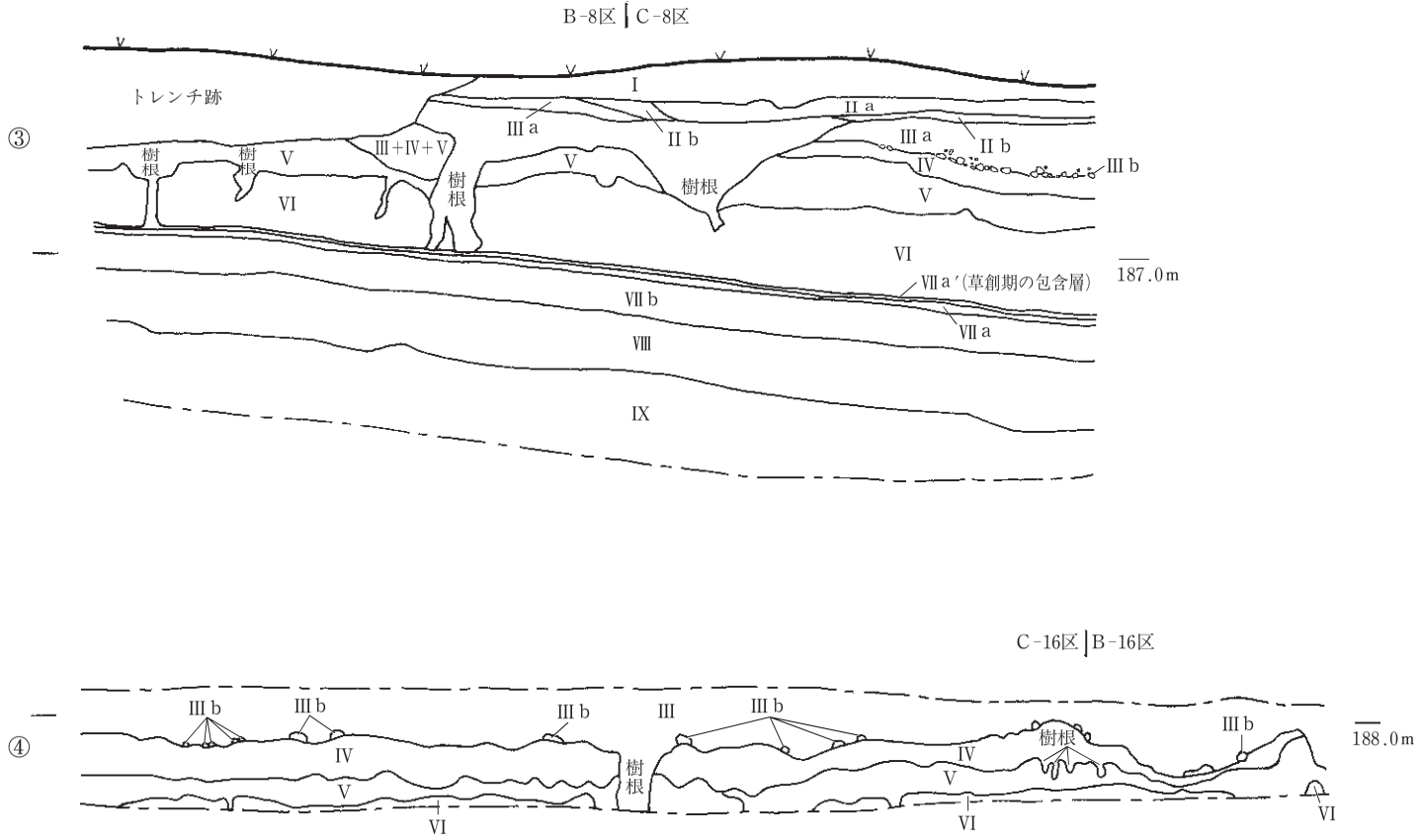
Ⅰ層
　表土及び客土。
Ⅱ層
　黒色土砂質土。
Ⅲ層
　黄橙色土。アカホヤ火山灰の二次堆積土と考えられ，所々下位に一時ブロックがみられる。縄文時代前期～晩期の遺物を包含する。
Ⅳ層
　黄褐色土。全体に縄文時代早期後半の遺物を包含する。
Ⅴ層
　黒褐色土。縄文時代早期前半の遺物を包含する。
Ⅵ層
　約11,500年前の姶良カルデラ噴出物堆積層。薩摩火山灰層。Sz-14。いずれの遺跡でも安定して堆積している。
Ⅶａ層
　黒褐色粘質土。小型ナイフ形石器文化期～縄文時代草創期の遺物を包含する。
Ⅶｂ層
　茶褐色粘質土。
Ⅶｃ層
　暗茶褐色粘質土。
Ⅷａ層
　黄褐色弱粘質土。ナイフ形石器文化期の遺物を包含する。
Ⅷｂ層
　暗黄褐色硬質土。ナイフ形石器文化期の遺物を包含する。
Ⅷｃ層
　暗茶褐色粘質土。ナイフ形石器文化期の遺物を包含する。
Ⅸ層
　黄褐色で，黄色のパミスを含む。当遺跡の基盤層である約24000年前の姶良カルデラ噴出物（入戸火災〔シラス〕）へと続く。



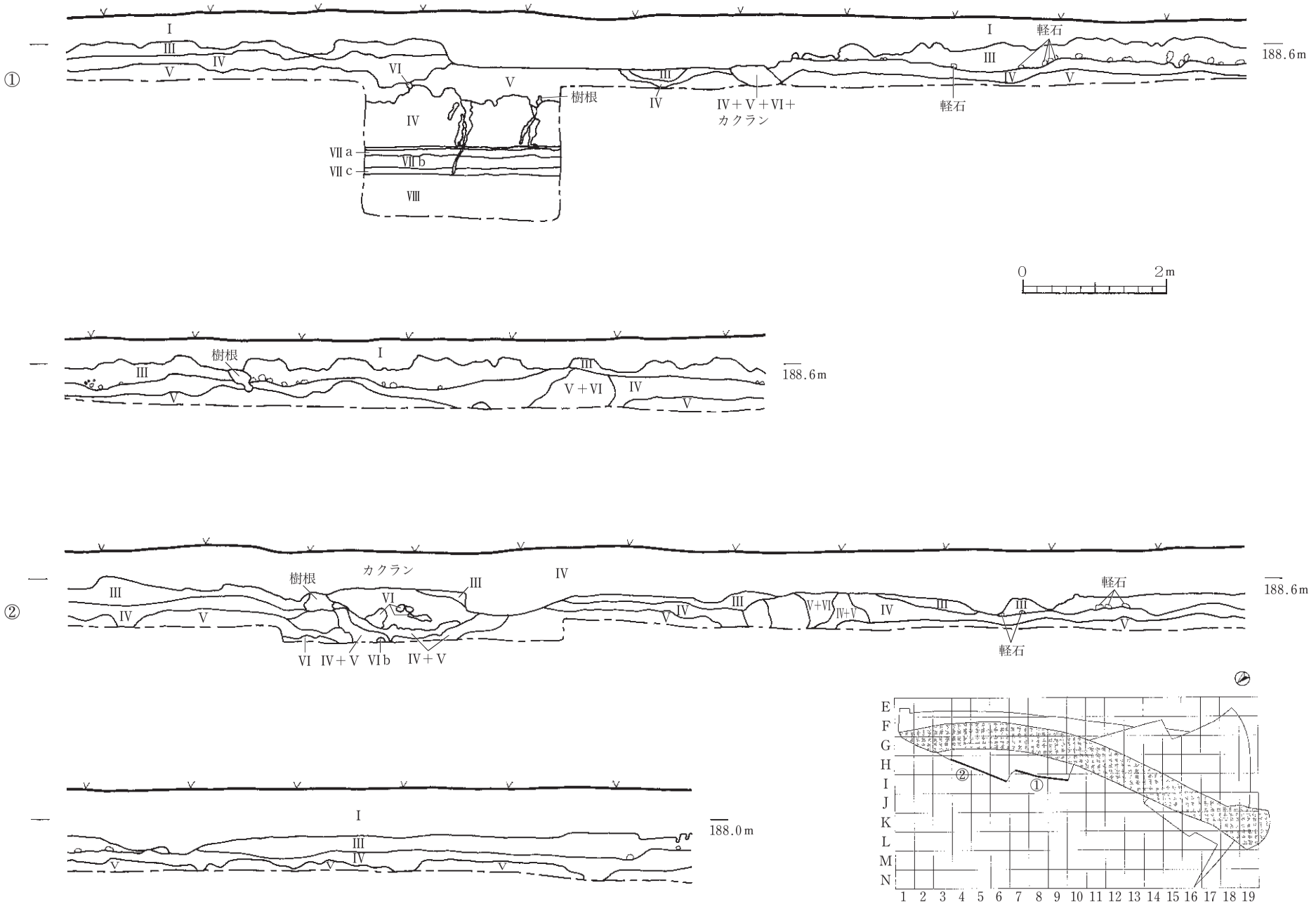
第５図　伏野遺跡　土層断面図



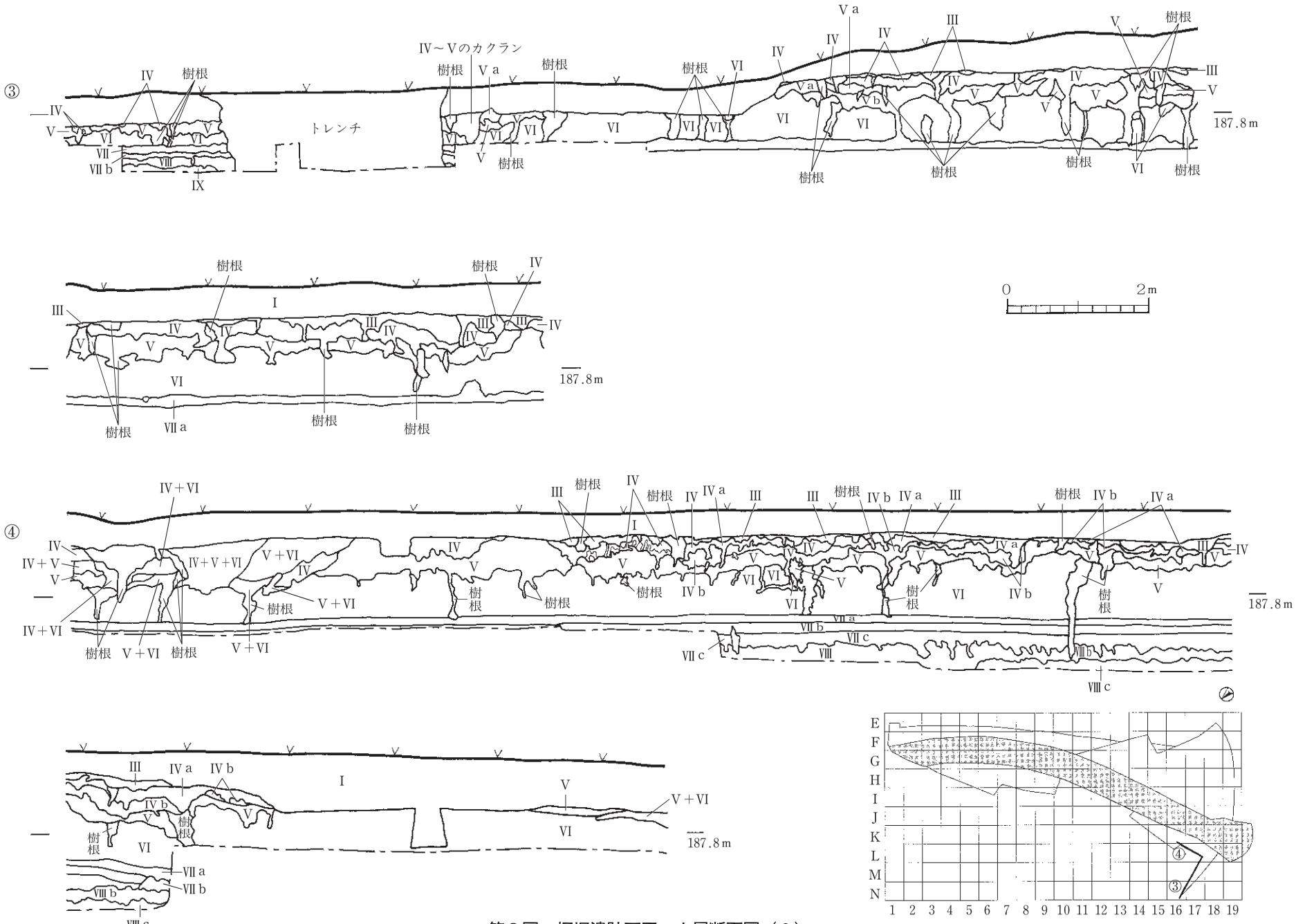
第６図　隠迫遺跡　土層断面図（１）



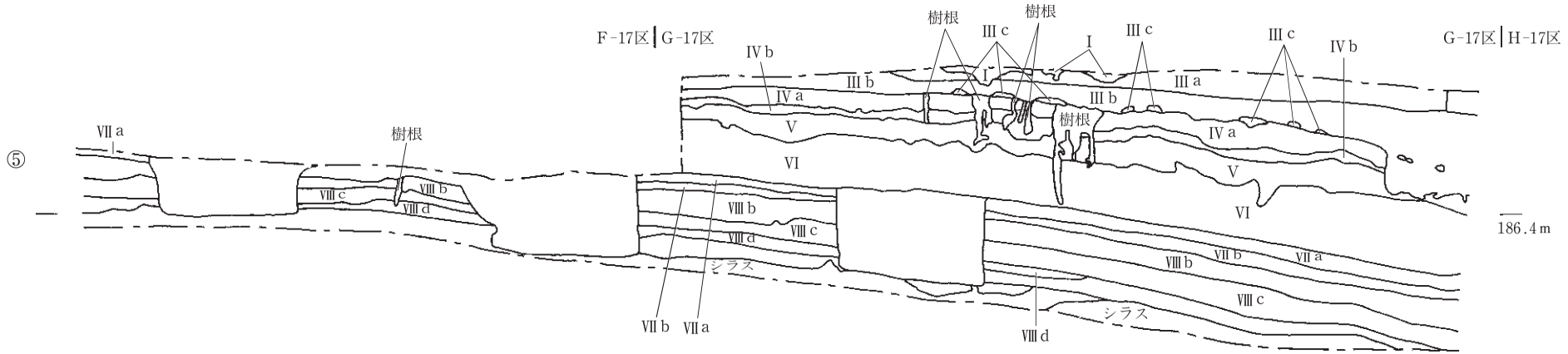
第７図　隠迫遺跡　土層断面図（２）

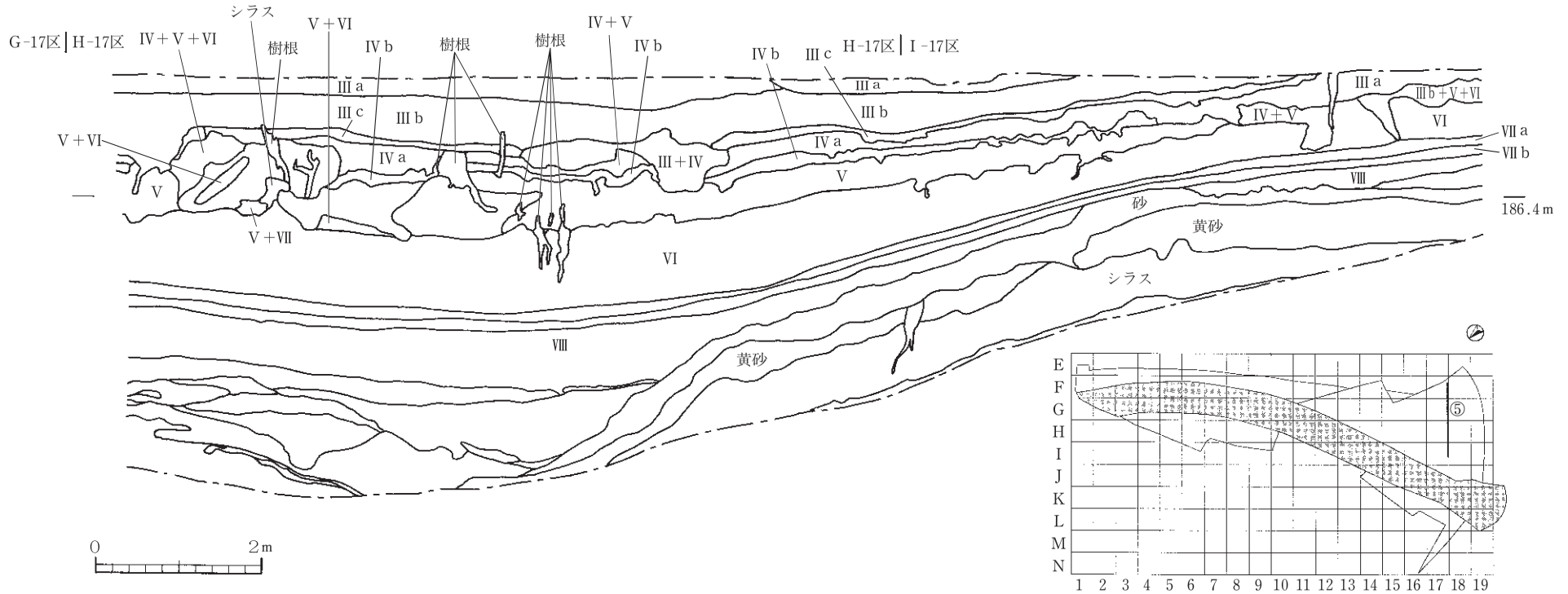


第８図　杼堀遺跡西区　土層断面図（１）

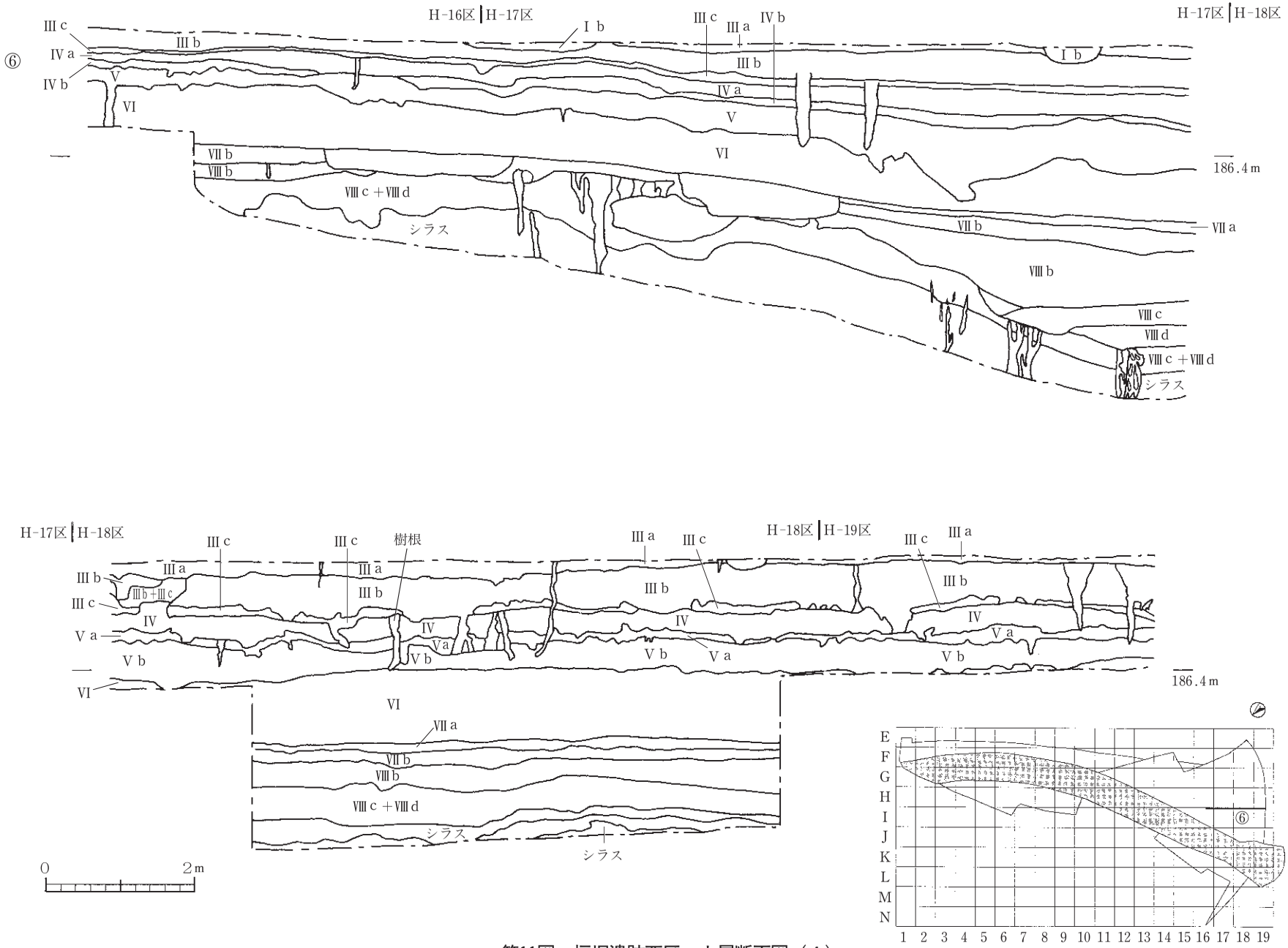


第９図　杼堀遺跡西区　土層断面図（２）

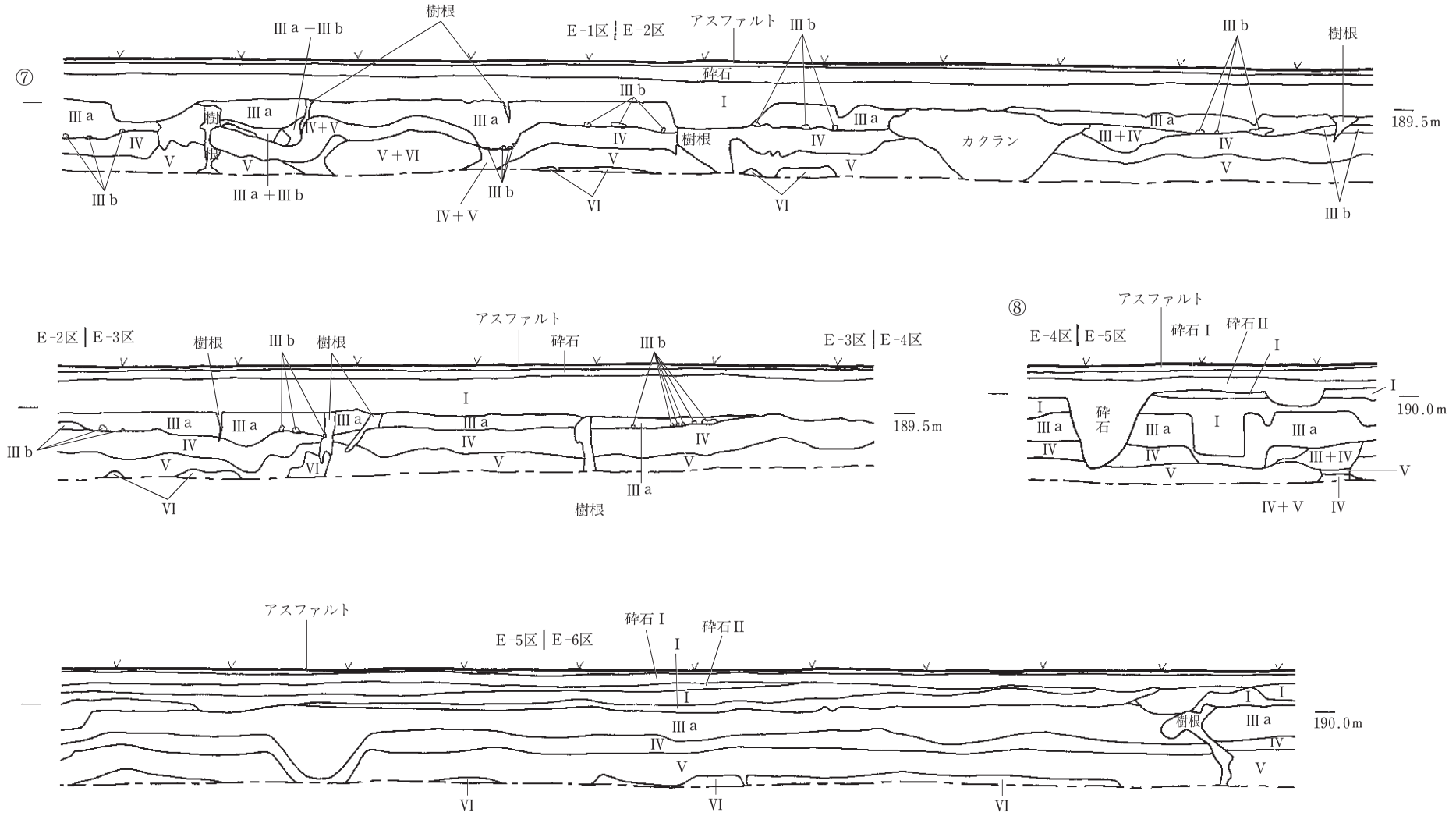


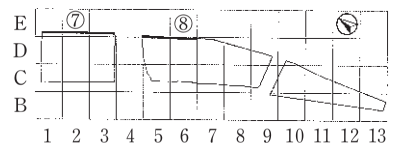


第10図　杼堀遺跡西区　土層断面図（３）

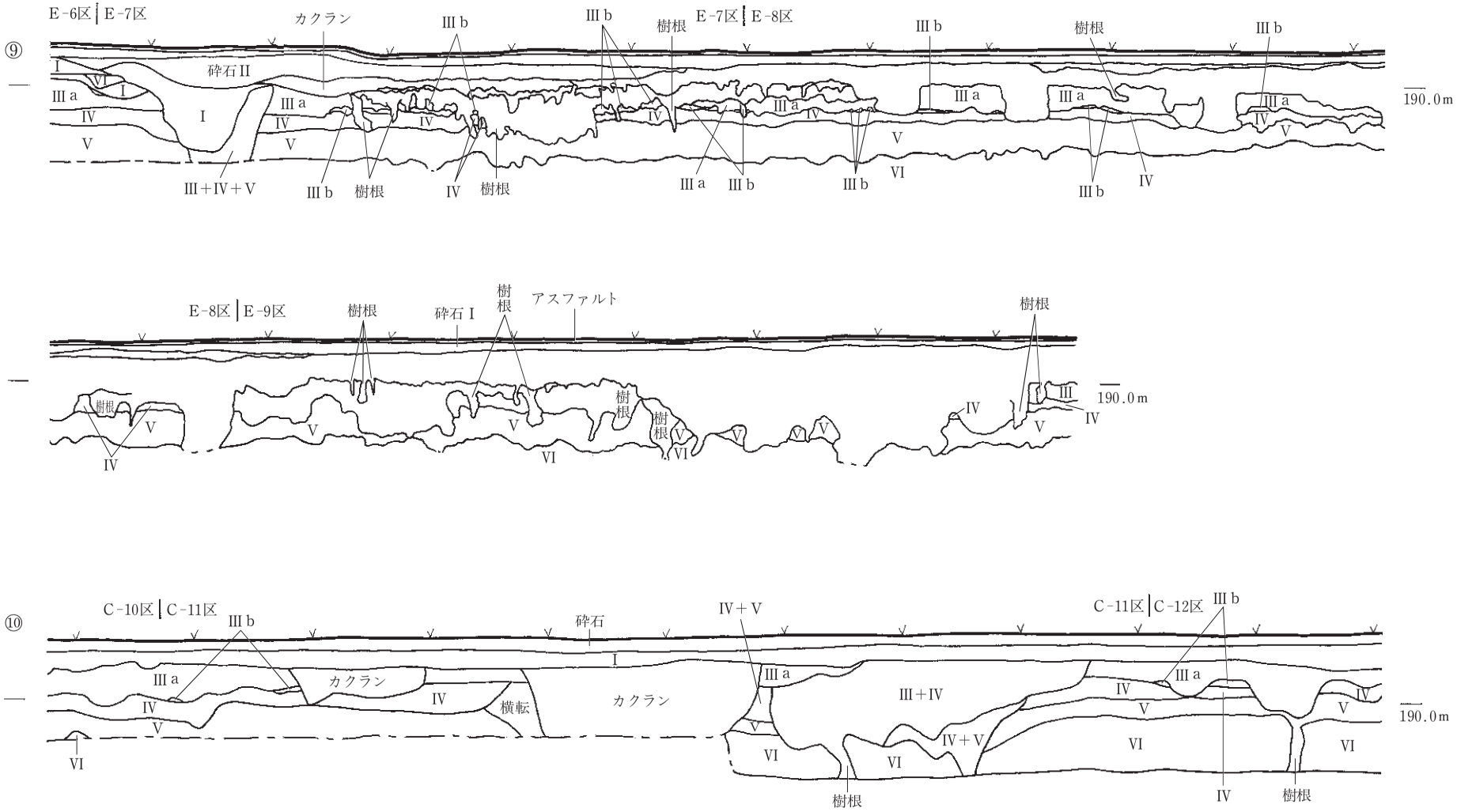


第11図　杁堀遺跡西区　土層断面図（４）

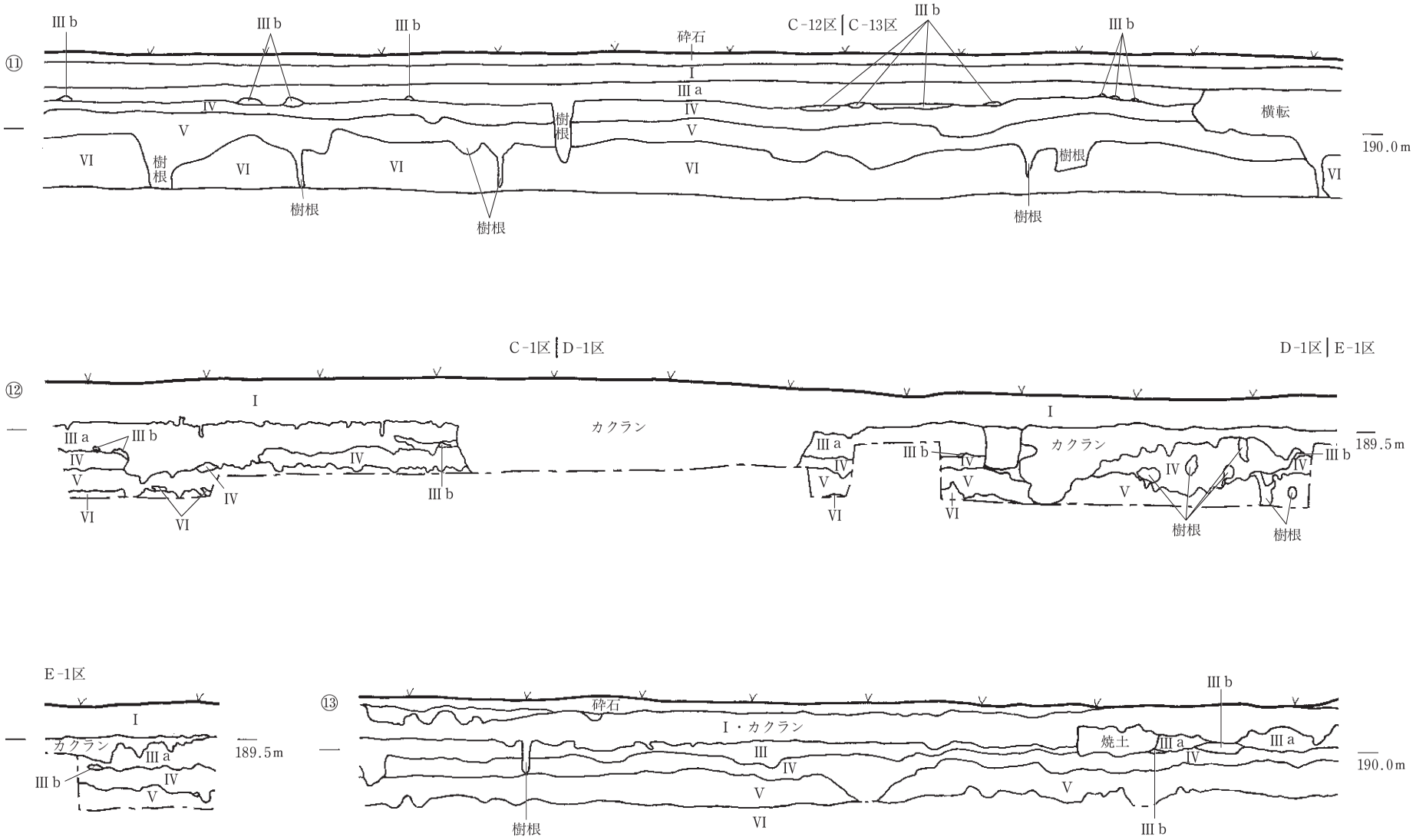




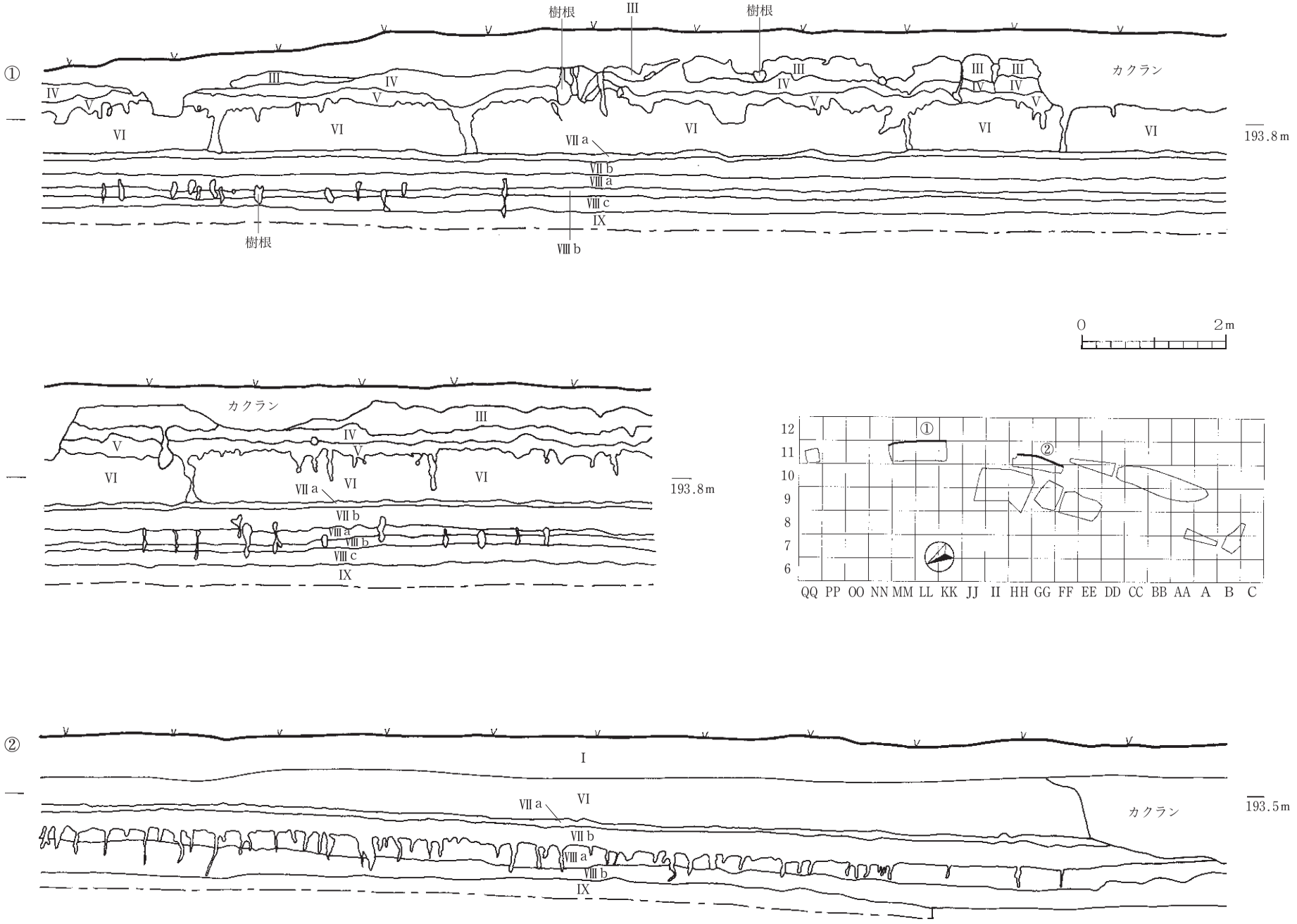
第12図　杁堀遺跡東区　土層断面図（１）



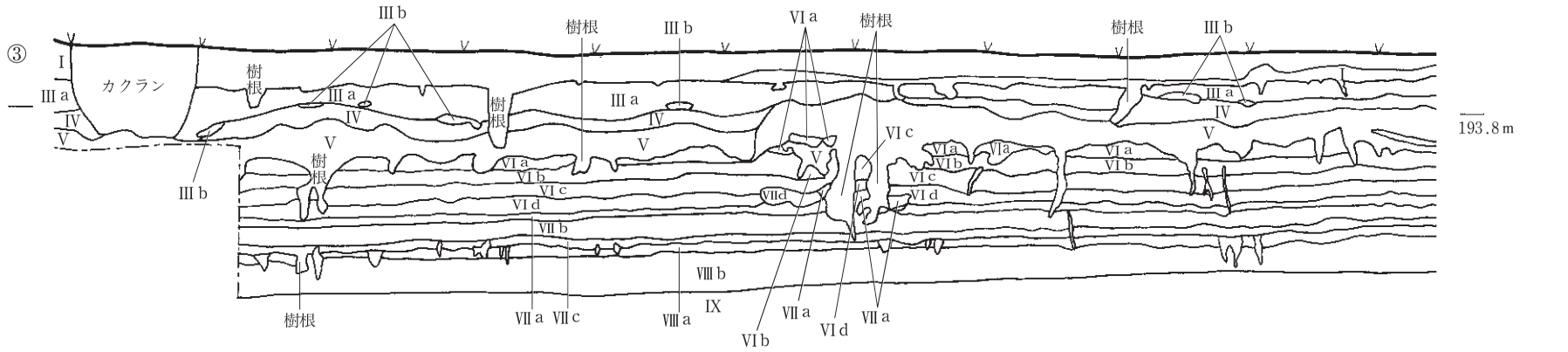
第13図　杼堀遺跡東区　土層断面図（２）

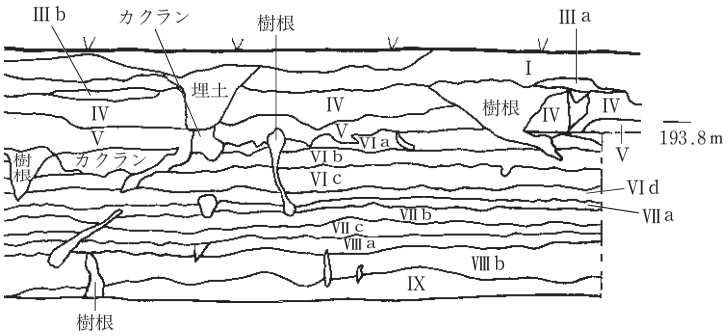


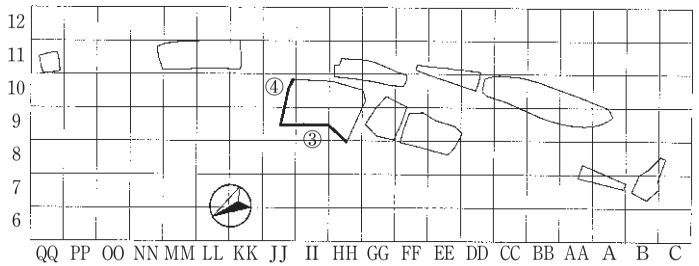
第14図　杼堀遺跡東区　土層断面図（３）

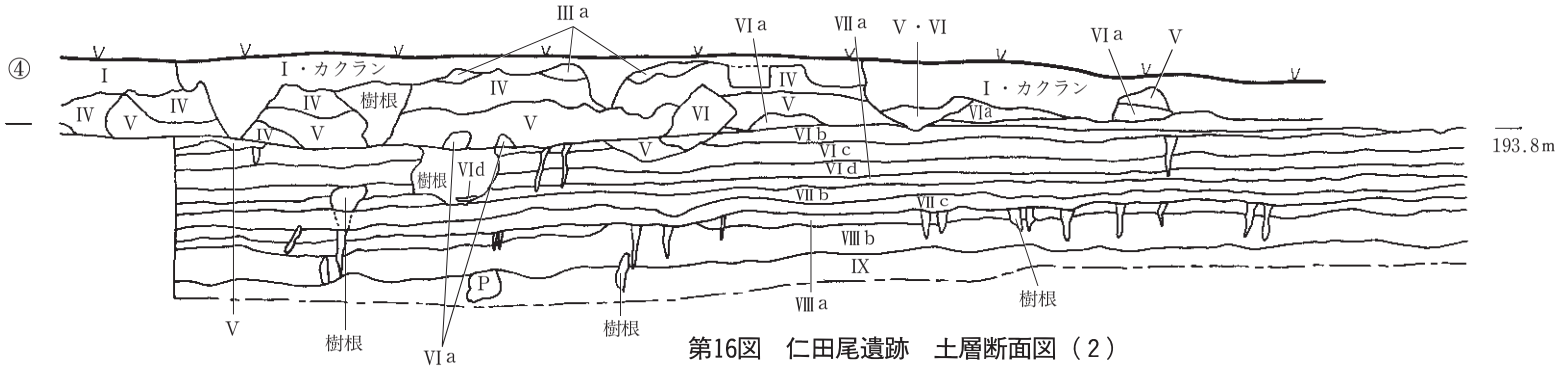


第15図　仁田尾遺跡　土層断面図（１）

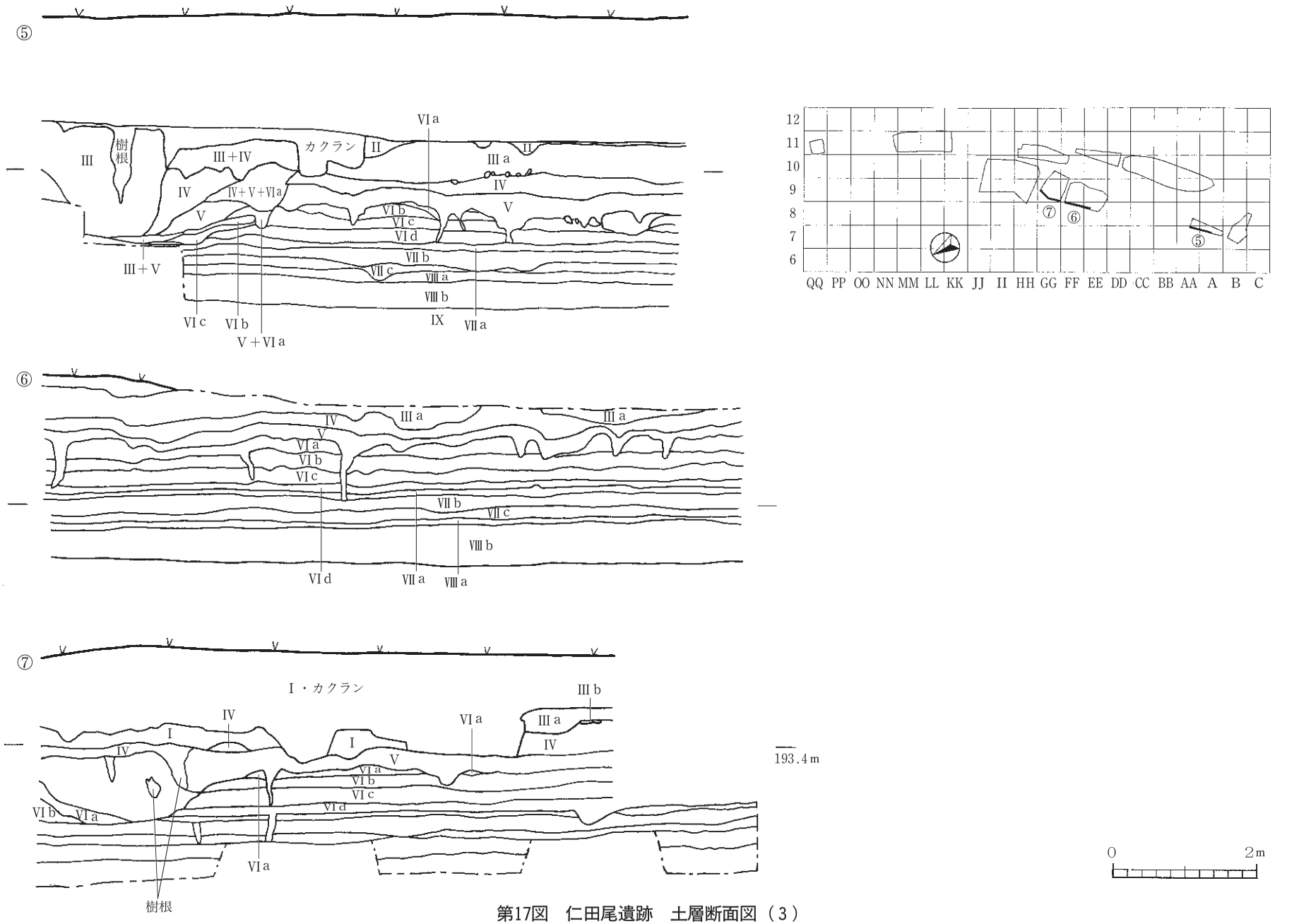




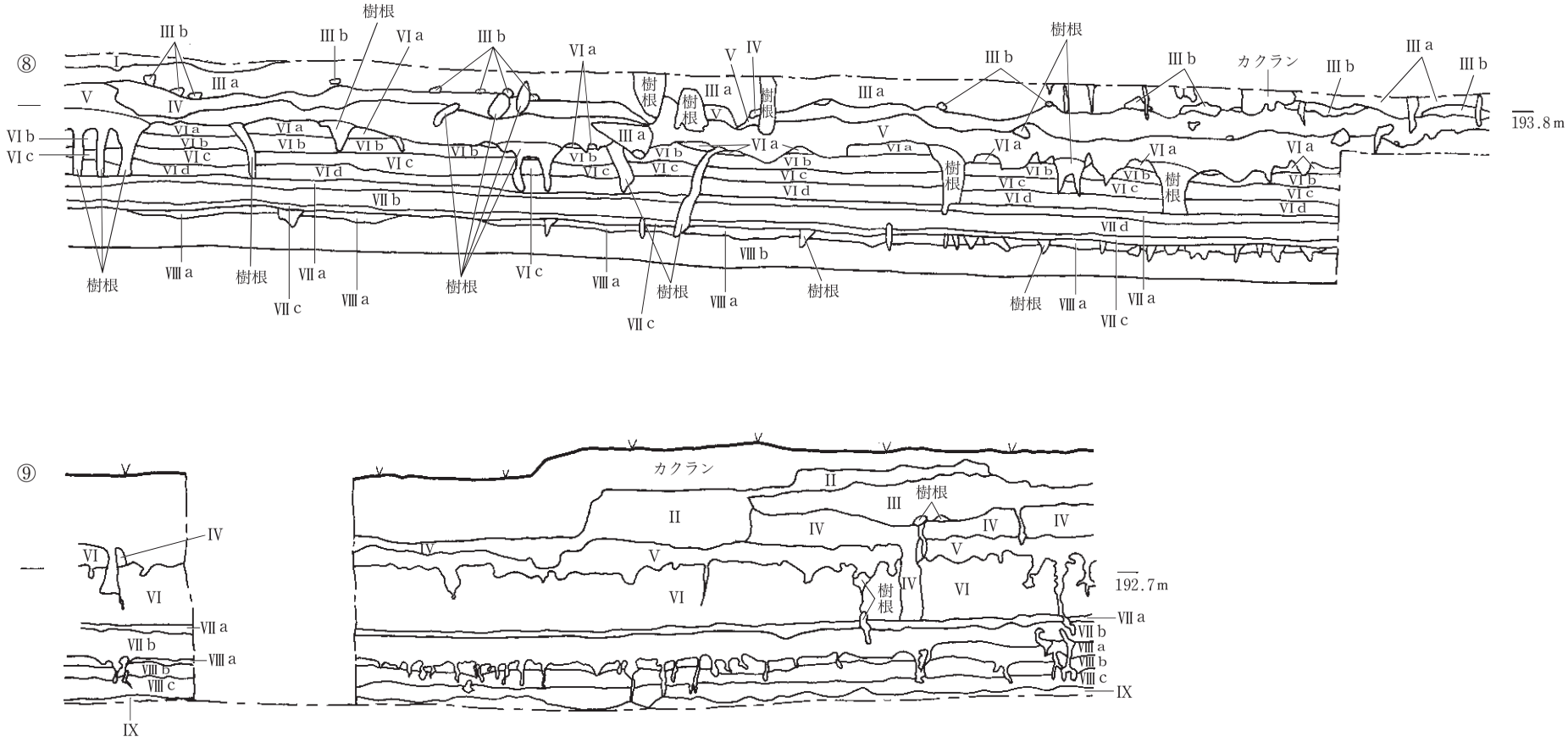




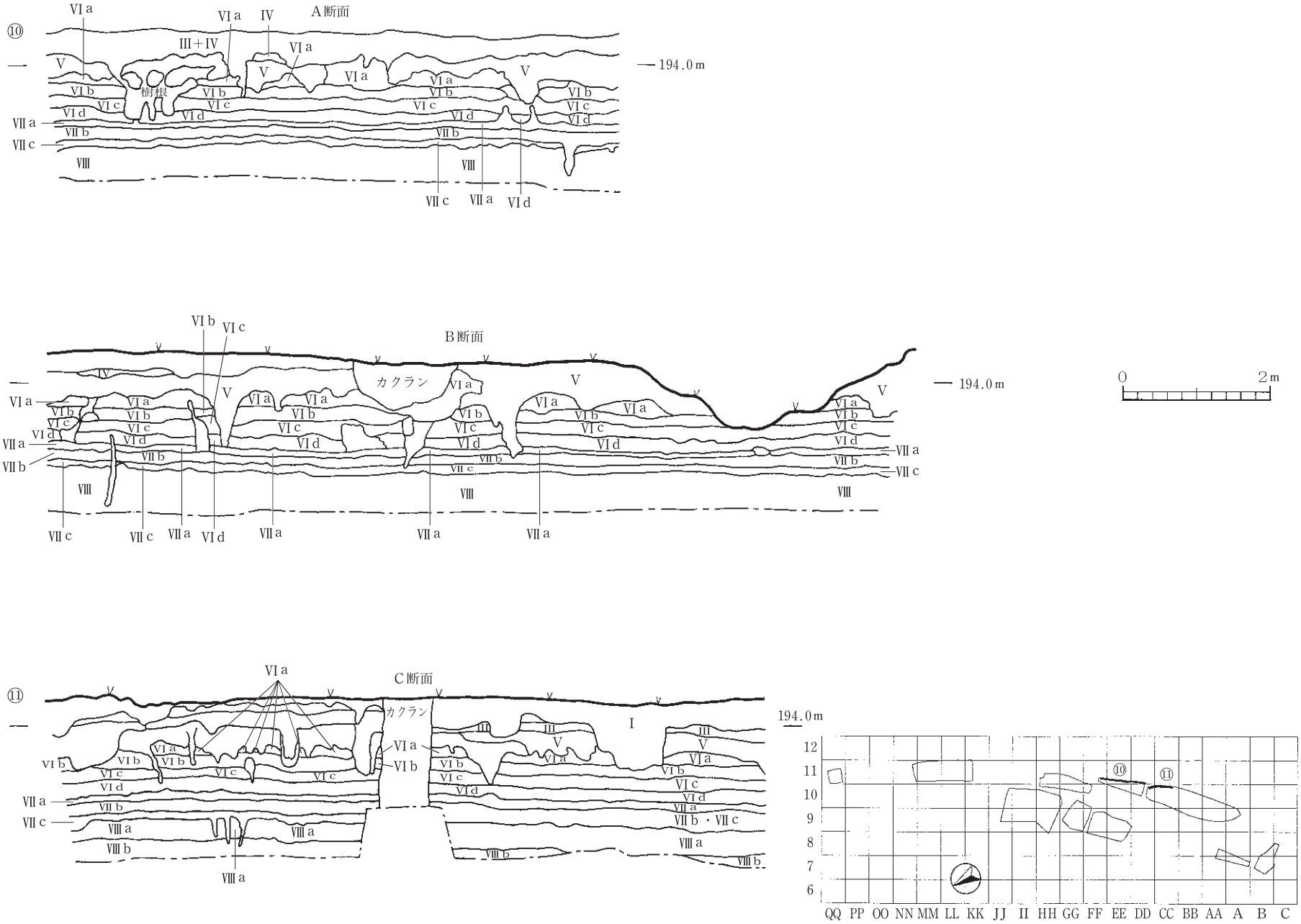
第16図　仁田尾遺跡　土層断面図（２）



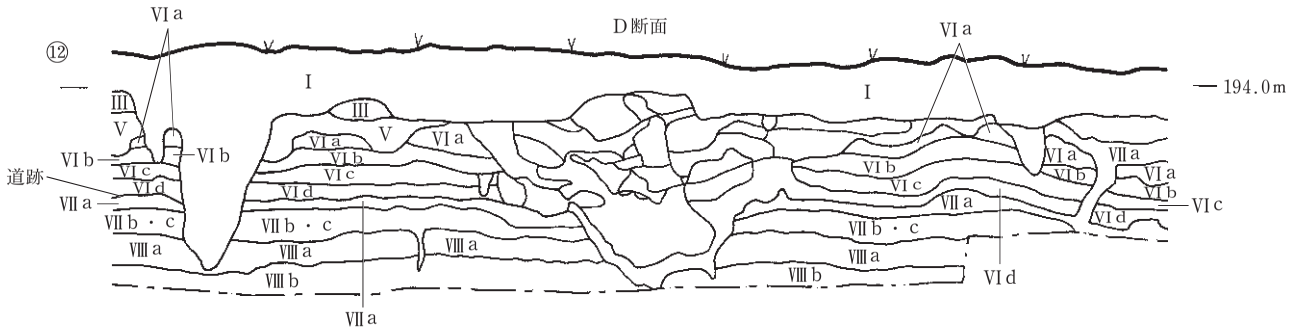
第17図　仁田尾遺跡　土層断面図（３）

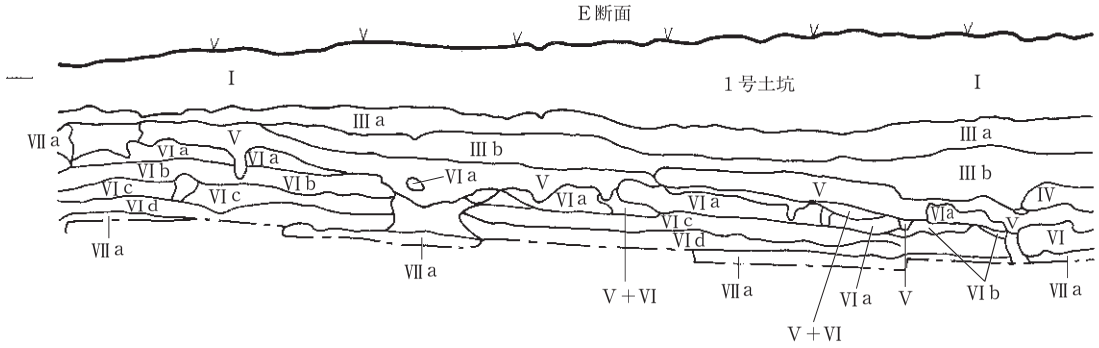


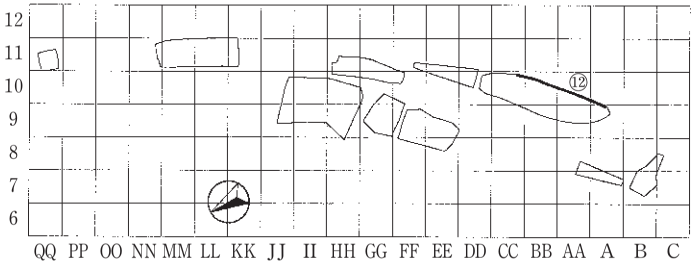
第18図　仁田尾遺跡　土層断面図（４）

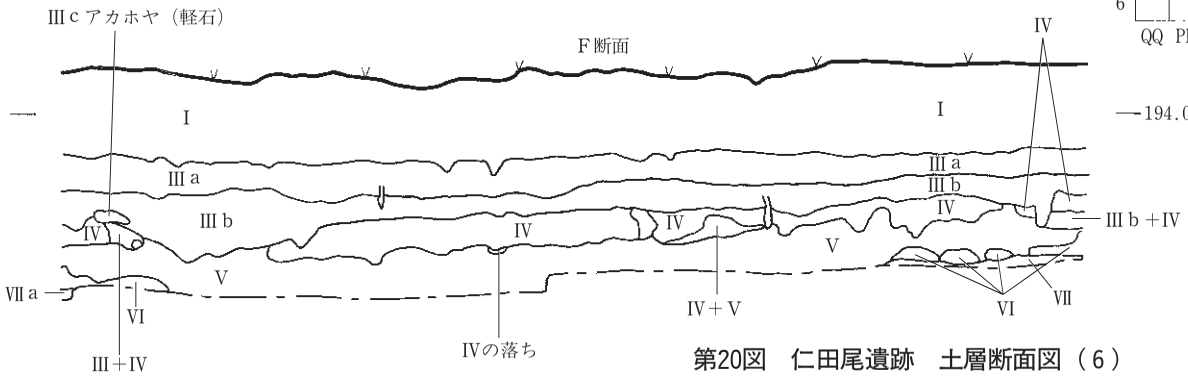


第19図　仁田尾遺跡　土層断面図（５）

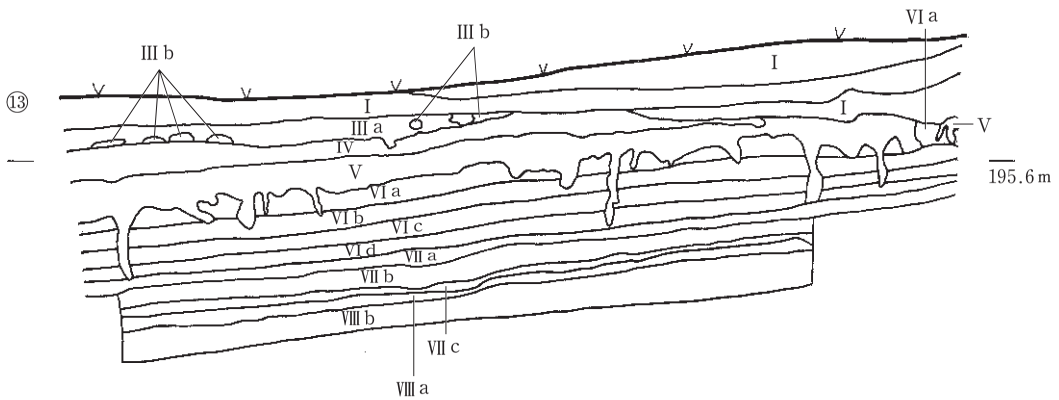


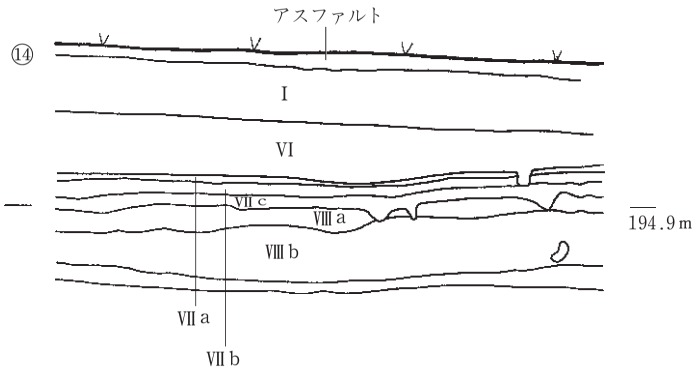


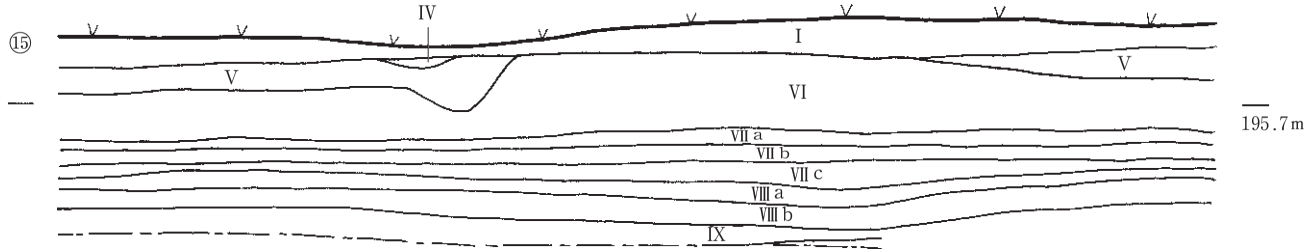


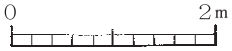


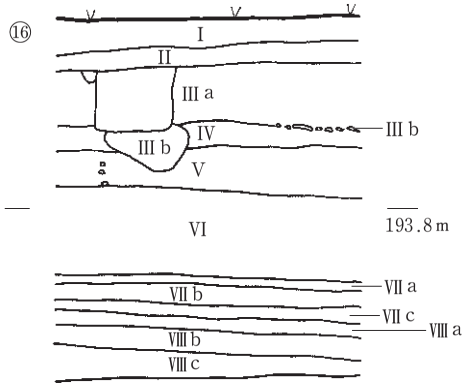
第20図　仁田尾遺跡　土層断面図（6）

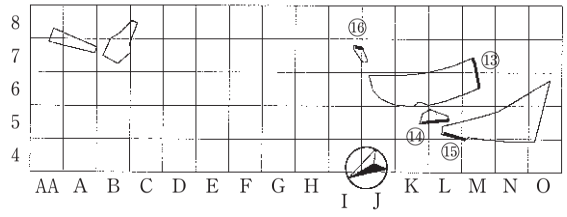




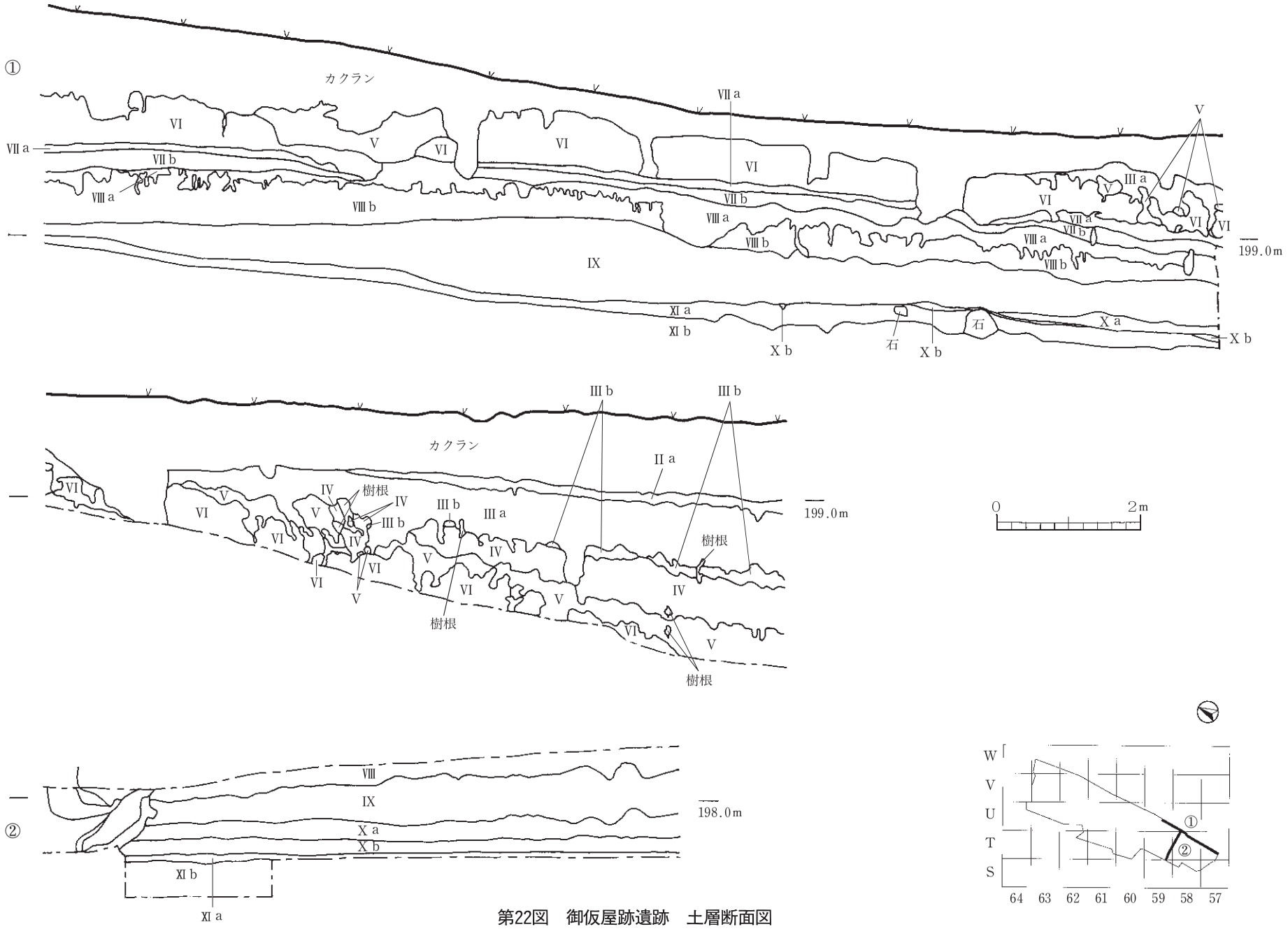








第21図　仁田尾遺跡　土層断面図（７）



第22図　御仮屋跡遺跡　土層断面図

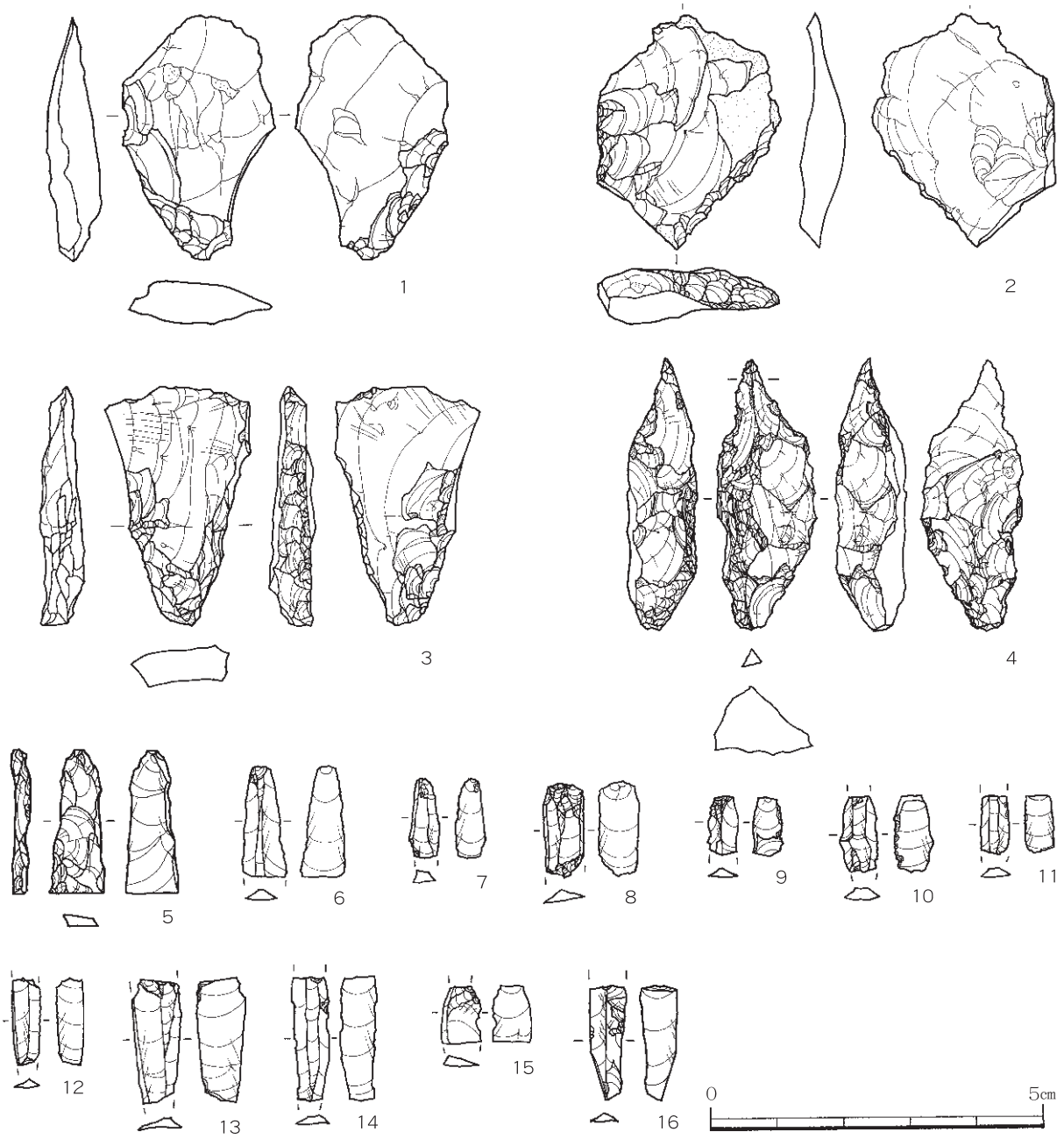
Ⅳ　伏野遺跡

第１章　調査の方法

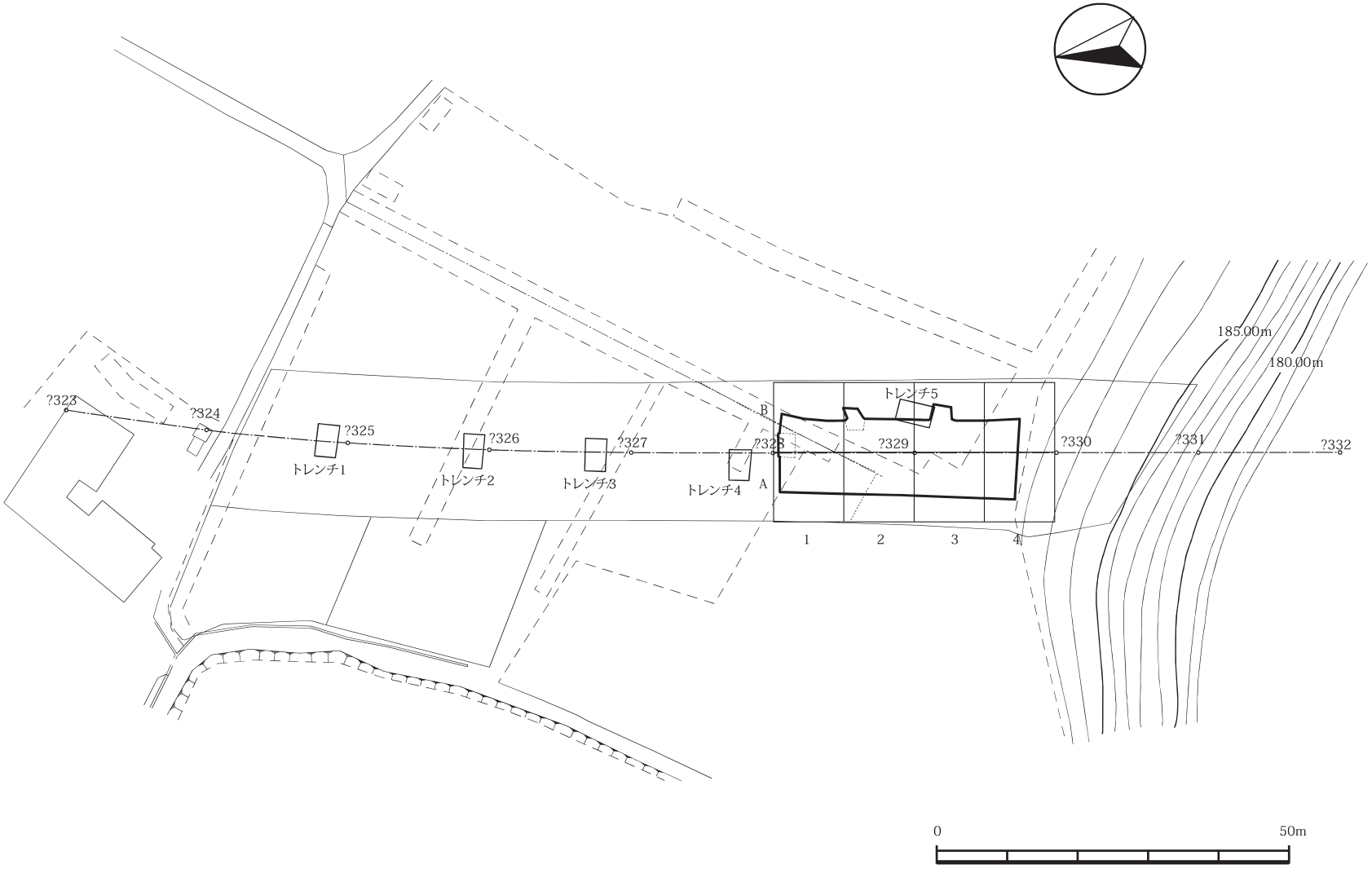
伏野遺跡は約360㎡を対象として全面調査を実施した。旧地は畑である。確認調査の結果では遺物の出土が見られなかったため，表土を重機で除去した後，Ⅴ層までは重機で慎重に掘り下げた。Ⅵ層では上面でⅤ層が長楕円形と円形に残る部分があったため，その周囲だけ残してⅥ層まで掘り下げを進めた。Ⅶ～Ⅷ層まではグリッドをもとに１辺２ｍの千鳥格子状に区切って全面調査を実施した。

旧石器時代は，Ⅶａ～Ⅶｂ層にかけて細石器文化期のブロックが３ヶ所で検出され，別の地点では数点の細石刃が出土した。Ⅶｂ層からは台形石器，ナイフ形石器，三稜尖頭器等が出土した。

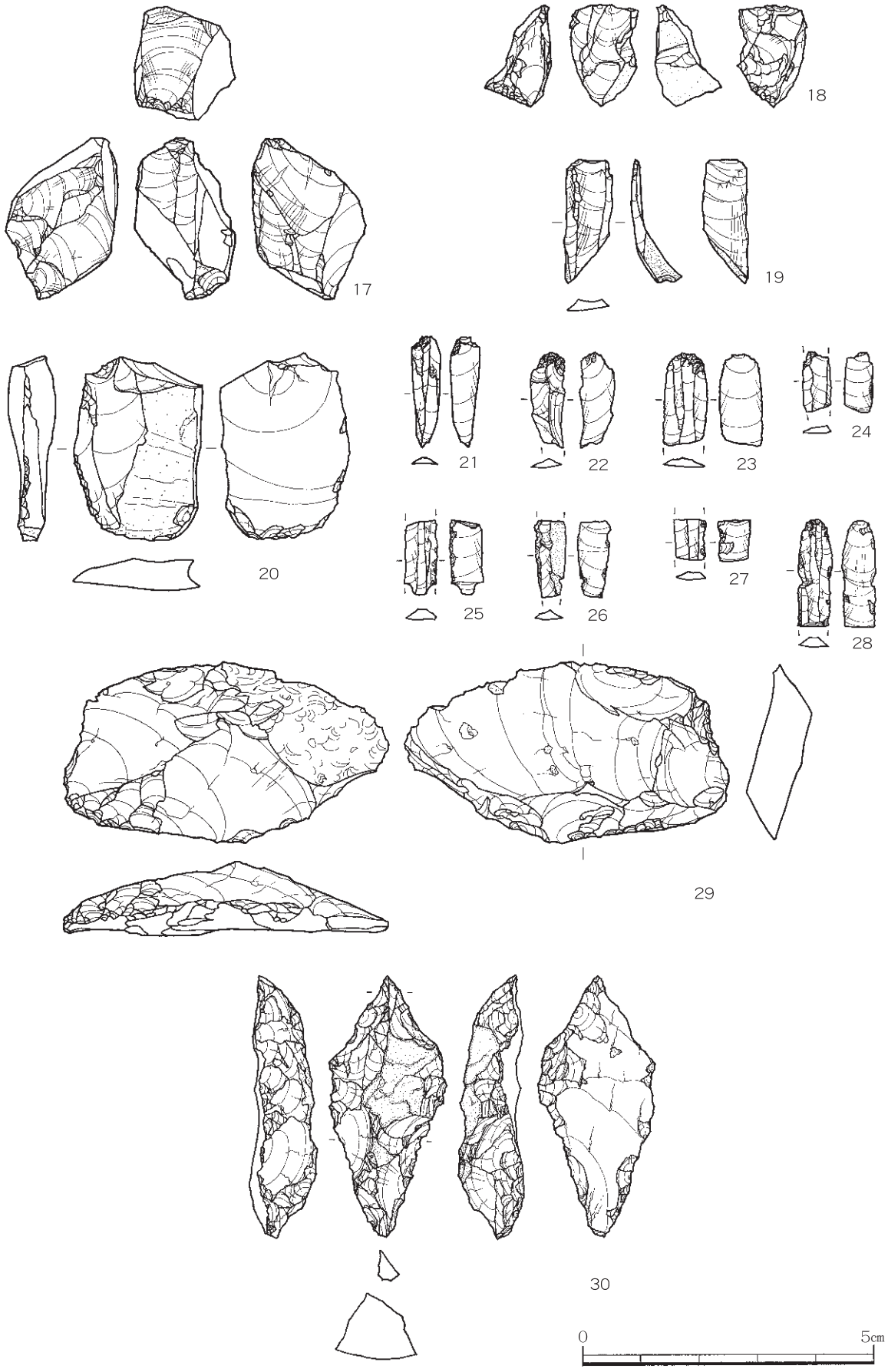
縄文時代は，Ⅵ層上面で遺構が２基検出された。



第23図　Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器



第24図　調査区と周辺地形図



第25図　Ⅶ層出土石器

第２章　Ⅶ層の調査

第１節　概要

Ⅶ層の遺物は総数1281点である。なお，Ⅷ層から182点の遺物の出土がみられ，ブロックとしてまとまっているが，平面的にⅦ層のブロックと分離できない点，Ⅶ層からⅧ層にかけて遺物の出土が継続する点から，Ⅶ層の遺物の残りとして，文化層としてはⅦ層のものとして，1463点を一括して細石器文化期のブロックとして取り扱うことができると判断した。ただし，台形石器，ナイフ形石器，三稜尖頭器の一群についてはⅦｂ層にまとまっている点，石材が同一である点等を考慮すると，ナイフ形石器文化期の遺物として一括して取り扱えると判断される。

出土はＡ・Ｂ－２・３区を中心とし，ブロック３基を検出した。石材はOB-Ａ～Ｅ，硬質頁岩，瑪瑙，タンパク石，黒色安山岩，粘板岩等多くで構成されるが，主となるのはOB-Ａ，OB-C，OB-D，粘板岩の４種類である。

主な石器は細石刃核，細石刃等であるが，少量である。

第２節　遺構

石器群の概要

Ａ・Ｂ－３区に集中して細石器文化期のブロックが３基検出された。各ブロックをそれぞれＡ，Ｂ，Ｃブロックとして取り扱うこととする。各ブロックの概要は下記のとおりである。

Ａブロック

総数423点である。構成石材の内訳は，OB-Ａが２点，OB-Ｂが９点，OB-Ｃが13点，OB-Ｄが287点，粘板岩99点，頁岩が１点である。主な石器は細石刃12点のみである。細石刃核の出土はないものの，剥片の接合から，細石刃核の整形作業が行われていたことがうかがえる。

Ｂブロック

総数824点である。構成石材の内訳はOB-Ａが787点と主体を占め，OB-Ｂが６点，OB-Ｃが4点，OB-Ｄが２点，瑪瑙１点，黒色安山岩４点，硬質頁岩１点，粘板岩５点，頁岩10点である。主な石器は二次加工剥片２点，細石刃４点である。

Ｃブロック

総数167点のブロックである。構成石材はOB-Ａが33点，OB-Ｃが121点，OB-Ｄが１点，珪質頁岩が１点，瑪瑙２点，黒色安山岩２点である。

主な石器は細石刃核２点，作業面再生剥片１点，細石刃が７点である。

第３節　出土遺物

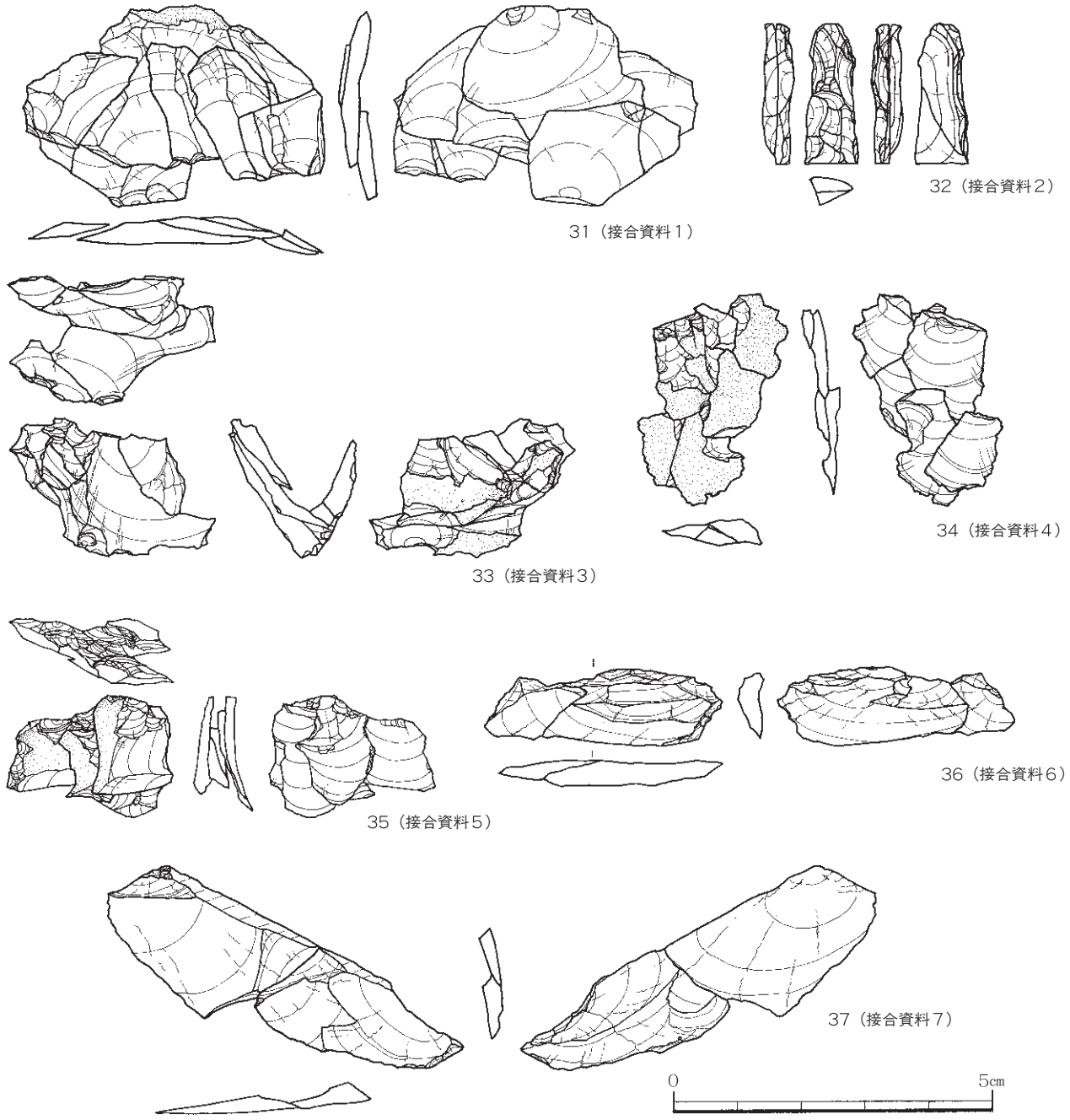
１はOB-Ａ製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し，左側縁は背腹両面に平坦剥離を施し，右側縁は折断している。石核は剥片で，腹面を作業面に設定し，得られた素材であるため，背面もポジ面で構成される。２はOB-Ａ製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し，右側縁に腹面からのブランティングを施している。左側縁は背面に平坦剥離が観察されるが，素材剥片の打面が残されており，打面からの剥離であるため二次的な加工であるか，素材獲得時の頭部調整であるかの判別はつかない。３はOB-Ａ製の台形石器である。素材剥片を横位に利用し，打面側は折断の後背腹両面への平坦剥離を，反対側は腹面側からのブランティングを施している。刃部は一部欠損している。４はOB-Ａ製の三稜尖頭器である。部分三面加工タイプで，腹面の基部に両側面からの平坦剥離が施される。稜上への調整も顕著である。5はOB-D製の細石刃核の打面形成に係るスポールと考えられる。長軸側からの連続する剥離を施した後，短軸側からの剥離により作出されたものである。６～16は細石刃である。17はOB-C製の細石刃核である。細石刃核の再生作業が行われており，樋状剥離面は切られている。18はOB-C製の細石刃核である。小型の角礫を素材とし，片側面は自然面反対側面は下縁調整により正面形逆三角形の作業面を設定し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。19はOB-C製の細石刃核の作業面再生剥片である。両側面が自然面で構成される細石刃核であることがうかがえる。打面側は欠損している。20は珪質頁岩の微細剥離痕のある剥片である。剥片の左側縁の一部に微細な剥離痕が観察される。21～28は細石刃である。いずれもOB-C製の石器である。29は黒色安山岩製のスクレイパーである。横長剥片の縁辺の背腹両面に細かい二次加工を施し，刃部を形成している。30はOB-Ａ製の三稜尖頭器である。剥片を横位に利用した部分三面加工のタイプである。腹面の先端部を中心に平坦剥離が確認され，稜上調整は簡易である。

第４節　接合資料

31はOB-D製の剥片８枚の接合である。いずれも薄い剥片を両側縁から断面弧状に剥離したものである。細石刃核の整形作業に関わる資料と考えられる。32はOB-D製の剥片２枚の接合である。細石刃核の作業面作出のた

表３　ブロック別石材重量表（単位：ｇ）

石　材	Ａブロック	Ｂブロック	Ｃブロック	ブロック外	合　計
OB-Ａ	0.43	429.63	0.47		430.53
OB-Ｂ	17.61	1.17		21.79	40.57
OB-Ｃ	0.5	0.43	19.86		20.79
OB-Ｄ	51.84	0.18	0.7		52.72
OB-Ｅ				2.16	2.16
頁岩	0.33	9.8			10.13
硬質頁岩		20.21		1.61	21.82
黒色安山岩		3.78	6.45	5.17	15.4
瑪瑙		1.21	1.68		2.89
タンパク石				0.27	0.27
粘板岩	6.53			0.73	7.26
合計	70.71	466.41	29.16	31.73	604.54

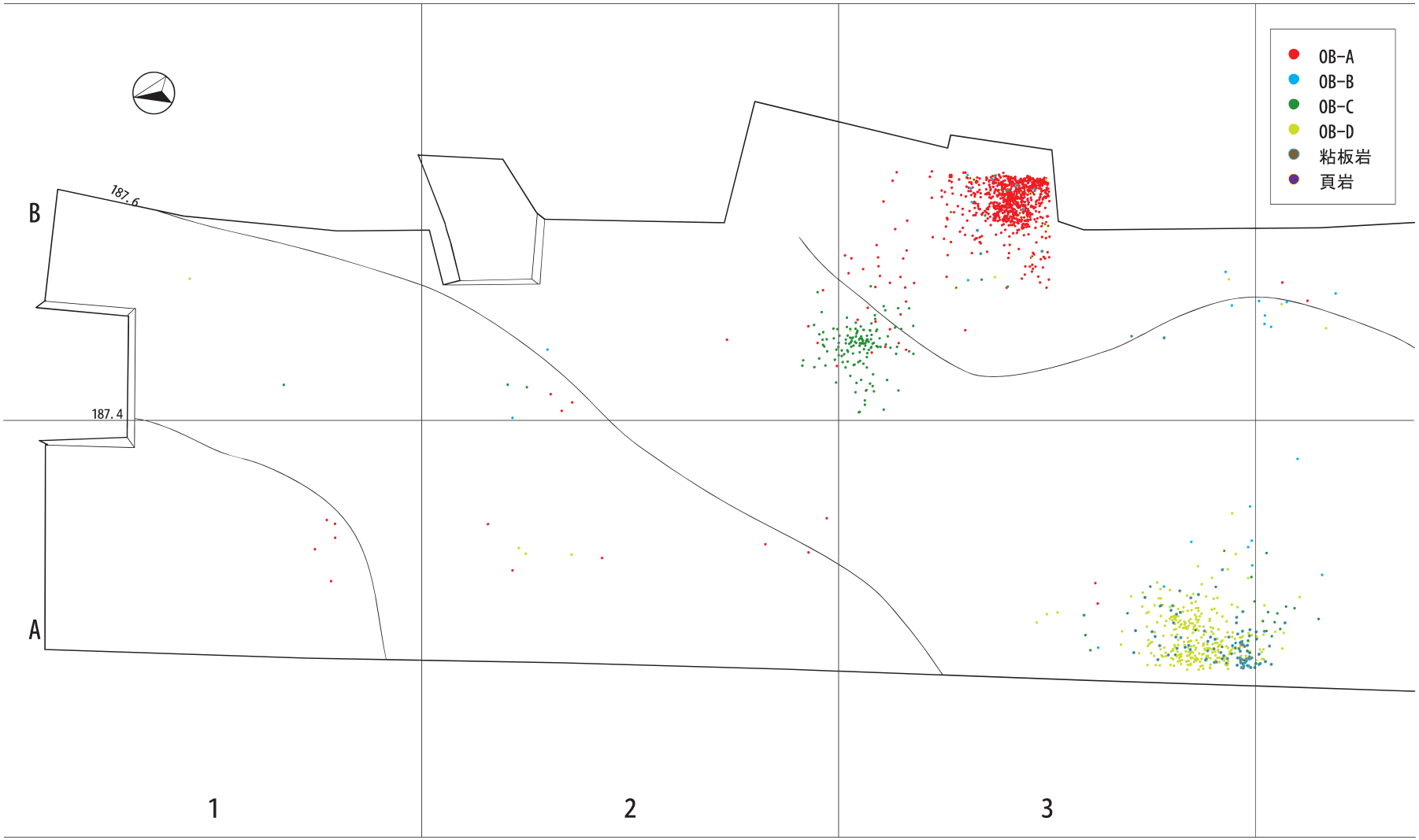


第26図　Ⅷ・Ⅶ層出土石器接合資料

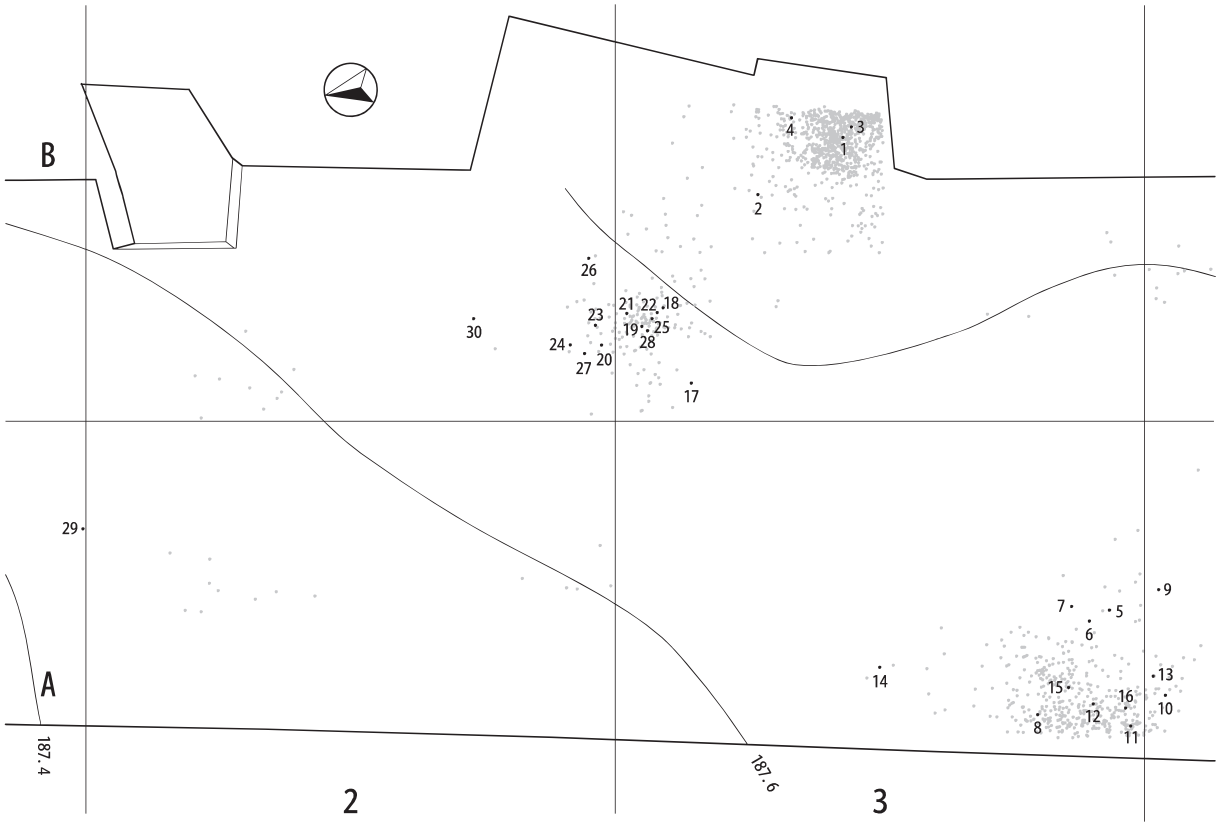
めのファーストスポールとセカンドスポールであると考えられる。33はOB-Dの剥片6枚の接合である。細石刃核整形作業に関わる資料であると考えられ，作業面の正面観がV字状になるように石核の側面を整形していると思われる。一部礫皮面を残している。34はOB-D製の剥片6枚の接合である。礫皮面を除くために，いずれも薄い剥片を剥離している。35はOB-C製の剥片5枚の接合である。小型薄手の剥片を同一方向に連続して剥離しており，何らかの調整作業に関するものと考えられる。36，37はそれぞれ粘板岩製の剥片2枚の接合である。いずれも横長の剥片同士の接合であり，尖頭器やスクレイパー等の製作に関連するものと推測される。

第５節　石材構成比

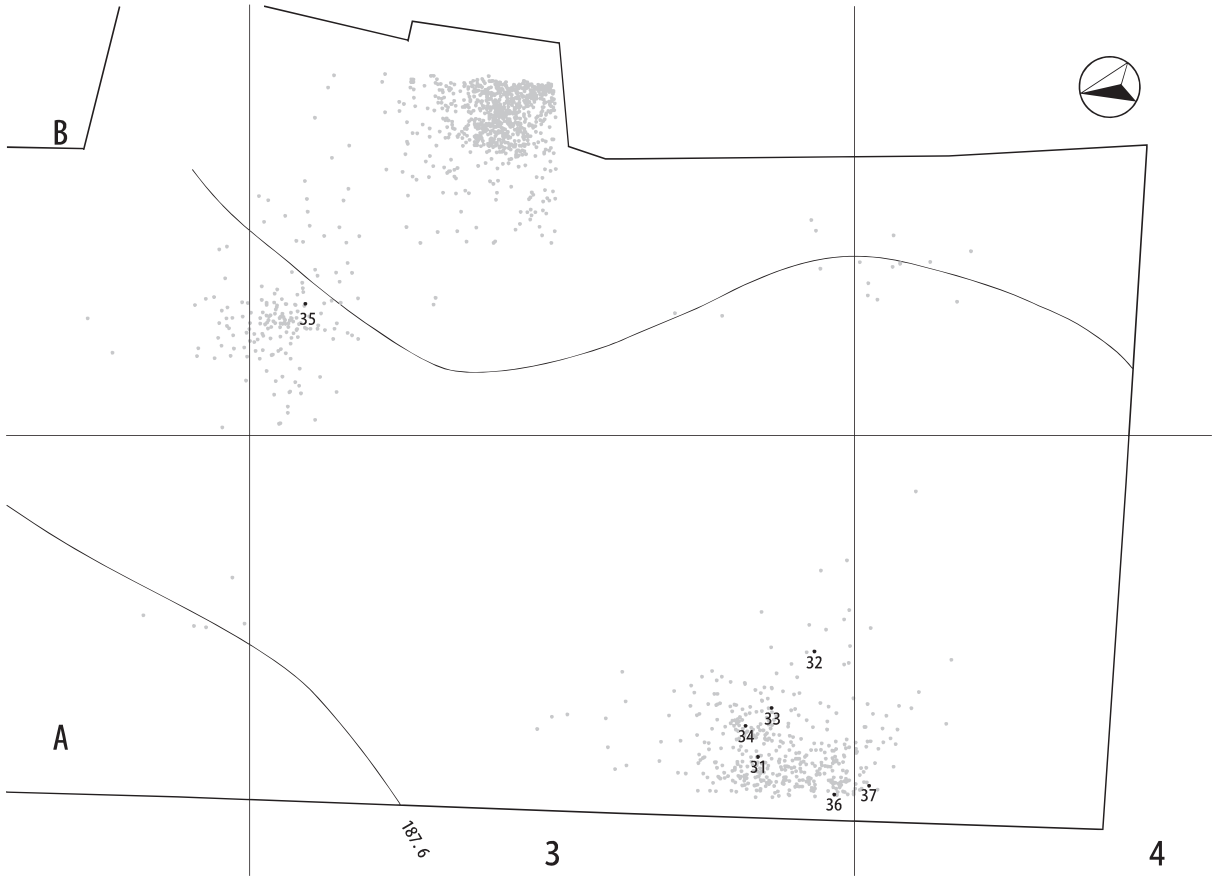
当遺跡で出土している石器の石材重量は，OB-Aが430.53ｇと最も多く，OB-Dが52.72ｇ，OB-Cが20.79ｇである。



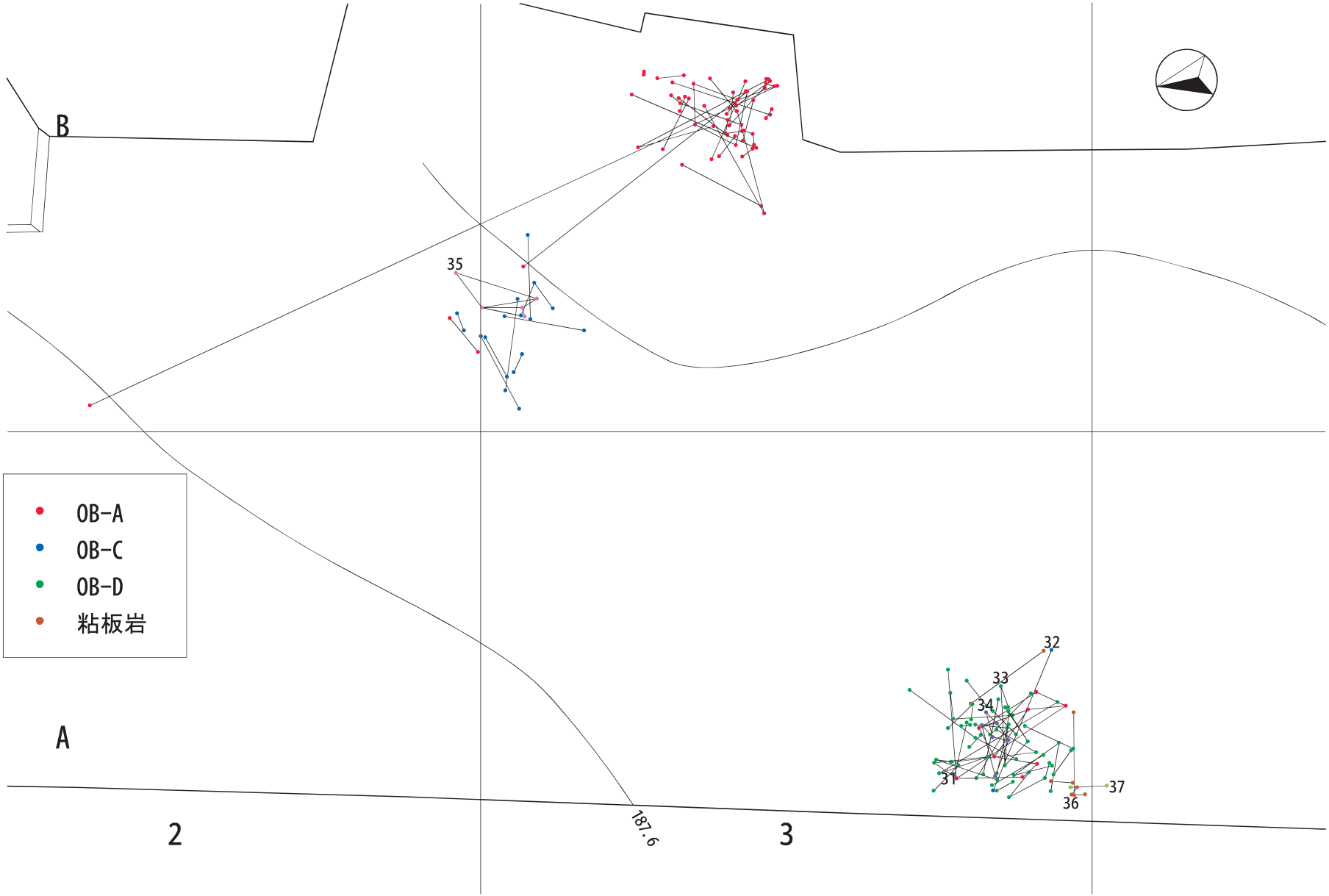
第27図　石材別分布図



第28図　Ⅶ層掲載遺物分布図（１）



第29図　Ⅶ層掲載遺物分布図（２）



第30図　接合資料分布図

表４　実測石器観察表

図番号	遺物番号	器　種	石材	層１	層２	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	ブロック	部位	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
1	906	ナイフ形石器	OB-A	7	b	24.302	15.358	186.985	B-3	B	-	-	3.2	2.3	0.9	5.21
2	788	ナイフ形石器	OB-A	7	b	22.697	14.280	186.971	B-3	B	-	-	3.52	2.8	0.85	5.61
3	908	台形石器	OB-A	7	b	24.460	15.557	186.990	B-3	B	-	-	3.65	2.2	0.7	4.12
4	464	三稜尖頭器	OB-A	7	a	23.331	15.727	187.161	B-3	B	-	-	4.1	1.53	1.08	5.17
5	127	スポール	OB-D	7	a	29.337	6.428	187.611	A-3	A	-	接合資料2	2.2	0.8	0.3	0.51
6	707	細石刃	OB-D	7	a	28.959	6.224	187.514	A-3	A	頭中部	-	1.65	0.68	0.18	0.14
7	137	細石刃	OB-D	7	b	28.622	6.497	187.589	A-3	A	頭中部	-	1.22	0.45	0.2	0.07
8	55	細石刃	OB-D	7	a	27.984	4.457	187.703	A-3	A	頭中部	-	1.42	0.6	0.21	0.16
9	417	細石刃	OB-C	7	a	30.267	6.819	187.672	A-4	A	頭中部	-	0.89	0.45	0.13	0.06
10	421	細石刃	OB-C	7	a	30.396	4.821	187.576	A-4	A	中間部	-	1.15	0.6	0.18	0.1
11	244	細石刃	OB-C	7	a	29.737	4.239	187.671	A-3	A	中間部	-	0.89	0.45	0.13	0.06
12	668	細石刃	OB-D	7	a	29.029	4.658	187.598	A-3	A	中間部	-	1.3	0.44	0.13	0.06
13	143	細石刃	OB-D	7	a	30.166	5.181	187.695	A-4	A	中間部	-	1.85	0.75	0.23	0.24
14	42	細石刃	OB-D	7	a	24.997	5.35	187.568	A-3	A	中間部	-	1.85	0.56	0.24	0.18
15	90	細石刃	OB-C	7	a	28.567	4.968	187.690	A-3	A	中間部	-	0.86	0.6	0.15	0.09
16	373	細石刃	OB-D	7	a	29.642	4.582	187.632	A-3	A	中尾部	-	1.71	0.57	0.13	0.13
17	717	細石刃核	OB-C	7	a	21.437	10.717	187.521	B-3	C	-	-	2.8	1.7	1.95	7.35
18	190	細石刃核	OB-C	7	a	20.907	12.143	187.534	B-3	C	-	-	1.7	1.2	1.2	2.78
19	1227	作業面再生剥片	OB-C	7	a	20.503	11.789	187.415	B-3	C	-	-	2.12	0.82	0.35	0.5
20	1053	微細剥離痕のある剥片	珪質頁岩	7	a	19.741	11.438	187.333	B-2	C	-	-	3.2	2.22	0.82	5.29
21	738	細石刃	OB-C	7	a	20.219	12.033	187.486	B-3	C	完形	-	1.9	0.5	0.15	0.12
22	724	細石刃	OB-C	7	a	20.793	12.052	187.510	B-3	C	頭中部	-	1.62	0.58	0.28	0.13
23	769	細石刃	OB-C	7	a	19.626	11.809	187.564	B-2	C	頭中部	-	1.6	0.75	0.19	0.23
24	767	細石刃	OB-C	7	a	19.154	11.443	187.557	B-2	C	中間部	-	1.03	0.5	0.12	0.05
25	726	細石刃	OB-C	7	a	20.697	11.934	187.522	B-3	C	中間部	-	1.28	0.55	0.21	0.14
26	778	細石刃	OB-C	7	a	19.5	13.075	187.487	B-2	C	中間部	-	1.33	0.55	0.18	0.11
27	944	細石刃	OB-C	7	a	19.42	11.279	187.488	B-2	C	中間部	-	0.7	0.54	0.14	0.06
28	1062	細石刃	OB-C	7	a	20.613	11.706	187.387	B-3	C	頭中部	-	1.84	0.6	0.18	0.17
29	893	スクレイパー	黒色安山岩	7	a	9.944	7.964	187.395	A-1	ブロック外		-	3.15	5.65	1.15	16.43
30	654	三稜尖頭器	OB-A	7	a	17.324	11.937	187.091	B-2	ブロック外		-	4.55	2.05	1.1	7.56

表５　接合資料観察表

図番号	遺物番号	器　種	石材	層１	層２	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	ブロック	部位	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
31	99	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.406	4.688	187.694	A-3	A	-	接合資料1	3.2	4.8	0.45	5.5
	120	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.955	5.457	187.696	A-3	A	-	接合資料1				
	210	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.153	5.152	187.673	A-3	A	-	接合資料1				
	286	剥片・砕片	OB-D	7	a	29.092	5.741	187.673	A-3	A	-	接合資料1				
	290	剥片・砕片	OB-D	7	a	29.571	5.517	187.671	A-3	A	-	接合資料1				
	308	剥片・砕片	OB-D	7	a	27.785	4.331	187.668	A-3	A	-	接合資料1				
	339	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.865	4.352	187.632	A-3	A	-	接合資料1				
	560	剥片・砕片	OB-D	7	a	29.101	4.568	187.626	A-3	A	-	接合資料1				
32	127	スポール	OB-D	7	a	29.337	6.428	187.611	A-3	A	-	接合資料2	2.2	0.8	0.48	0.71
	226	スポール	OB-D	7	a	28.382	4.134	187.655	A-3	A	-	接合資料2				
33	82	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.632	5.498	187.719	A-3	A	-	接合資料3	2.2	3.35	2.05	3.76
	83	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.579	5.492	187.725	A-3	A	-	接合資料3				
	105	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.949	4.934	187.716	A-3	A	-	接合資料3				
	219	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.634	5.426	187.695	A-3	A	-	接合資料3				
	327	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.575	4.542	187.629	A-3	A	-	接合資料3				
	416	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.510	5.836	187.624	A-3	A	-	接合資料3				
34	86	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.201	5.200	187.706	A-3	A	-	接合資料4	2.95	2.35	0.6	1.93
	324	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.418	4.364	187.642	A-3	A	-	接合資料4				
	387	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.635	4.956	187.612	A-3	A	-	接合資料4				
	391	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.447	5.229	187.650	A-3	A	-	接合資料4				
	405	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.268	5.409	187.635	A-3	A	-	接合資料4				
	594	剥片・砕片	OB-D	7	a	28.375	5.006	187.591	A-3	A	-	接合資料4				
35	160	剥片・砕片	OB-C	7	a	20.924	12.176	187.532	B-3	C	-	接合資料5	1.9	2.6	1.05	1.83
	725	剥片・砕片	OB-C	7	a	20.685	12.031	187.550	B-3	C	-	接合資料5				
	727	剥片・砕片	OB-C	7	a	20.721	11.886	187.512	B-3	C	-	接合資料5				
	739	剥片・砕片	OB-C	7	a	20.024	12.032	187.445	B-3	C	-	接合資料5				
	777	剥片・砕片	OB-C	7	a	19.597	12.596	187.517	B-2	C	-	接合資料5				
36	361	剥片・砕片	粘板岩	7	a	29.666	4.063	187.659	A-3	A	-	接合資料6	1.2	3.75	0.4	1.88
	574	剥片・砕片	粘板岩	7	a	29.755	4.187	187.617	A-3	A	-	接合資料6				
37	426	剥片・砕片	粘板岩	7	a	30.240	4.211	187.625	A-4	A	-	接合資料7	3.1	5.7	0.5	3.95
	571	剥片・砕片	粘板岩	7	a	29.649	4.185	187.628	A-3	A	-	接合資料7				

表６　掲載以外の細石刃一覧表

遺物番号	器種	層１	層２	石材	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	ブロック	部位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)
13	細石刃	7	a	OB-A	7.826	6.143	187.308	A-1	外	頭中部	1.3	0.35	0.15
14	細石刃	7	a	OB-A	7.438	6.909	187.253	A-1	外	頭部	0.65	0.45	0.1
45	細石刃	7	a	OB-C	25.922	4.846	187.615	A-3	A	頭中部	1	0.35	0.1
77	細石刃	7	a	OB-D	28.360	5.795	187.690	A-3	A	中間部	0.9	0.35	0.1
140	細石刃	7	a	OB-C	30.528	5.369	187.718	A-4	A	中間部	1	0.4	1
149	細石刃	7	a	OB-C	30.940	5.493	187.686	A-4	A	中間部	0.8	0.5	0.5
170	細石刃	7	a	OB-C	21.428	12.691	187.454	B-3	C	中間部	0.7	0.3	0.1
177	細石刃	7	b	OB-C	23.517	14.917	187.310	B-3	B	頭部	0.5	0.3	0.1
185	細石刃	7	a	OB-C	20.282	12.194	187.498	B-3	C	頭部	0.5	0.35	0.1
224	細石刃	7	a	OB-C	28.082	4.374	187.686	A-3	A	中間部	0.5	0.45	0.1
250	細石刃	7	a	OB-C	29.904	6.239	187.616	A-3	A	中間部	0.5	0.35	0.1
259	細石刃	7	a	OB-D	31.065	5.758	187.651	A-4	A	中間部	0.6	0.3	0.1
301	細石刃	7	a	OB-D	30.107	4.503	187.649	A-4	A	尾部	0.75	0.35	0.1
347	細石刃	7	a	OB-C	29.201	4.564	187.627	A-3	A	中間部	1.1	0.3	0.1
414	細石刃	7	a	OB-C	29.051	6.005	187.639	A-3	A	中間部	0.9	0.4	0.15
420	細石刃	7	a	OB-D	30.474	4.929	187.584	A-3	A	中間部	0.8	0.45	0.1
422	細石刃	7	a	OB-C	30.266	4.948	187.615	A-3	A	中尾部	1.1	0.5	0.2
425	細石刃	7	a	OB-D	30.157	4.272	187.599	A-3	A	中間部	0.6	0.45	0.1
734	細石刃	7	a	OB-C	20.585	11.907	187.550	B-3	C	完形品	1.9	0.55	0.15
754	細石刃	7	a	OB-C	20.170	11.267	187.514	B-3	C	頭部	0.7	0.4	0.15
766	細石刃	7	a	OB-C	19.133	11.312	187.566	B-2	C	頭部	0.7	0.35	0.1
773	細石刃	7	a	OB-C	19.877	12.202	187.496	B-2	C	頭中部	0.8	0.3	0.05
943	細石刃	7	a	OB-C	21.795	11.595	187.495	B-3	C	中間部	0.8	0.5	0.1
1062	細石刃	7	a	OB-C	20.613	11.706	187.387	B-3	C	中間部	0.5	0.35	0.1
1265	細石刃	7	b	OB-A	24.571	15.592	186.935	B-3	B	中間部	0.65	0.45	0.15

第３章　Ⅴ層の調査

第１節　概要

縄文時代早期に該当する層は薩摩火山灰直上の黒褐色土であるⅤ層及びアカホヤ火山灰直下のⅣ層である。本遺跡においては調査の結果，これらの層から遺物は出土しなかったが，Ⅵ層上面から長楕円形と円形の遺構が１基ずつ検出された。長軸に合わせて半裁し，人為性の判断をした上で全掘した結果，長楕円形のものは連穴土坑，円形のものは土坑と判明した。

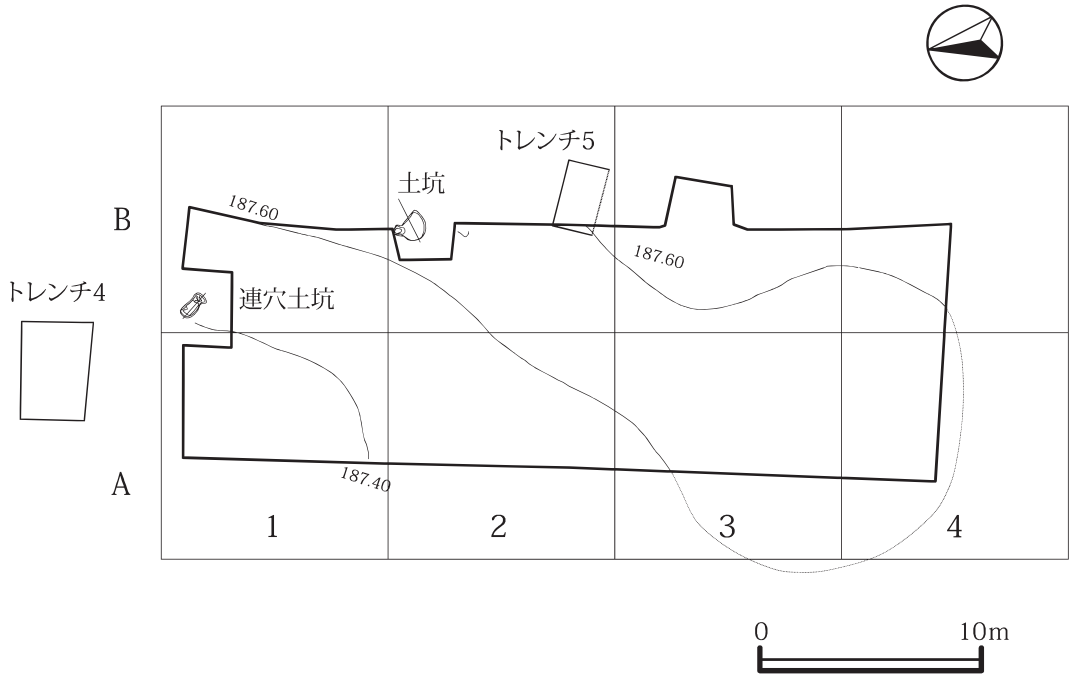
第２節　遺構

１　連穴土坑

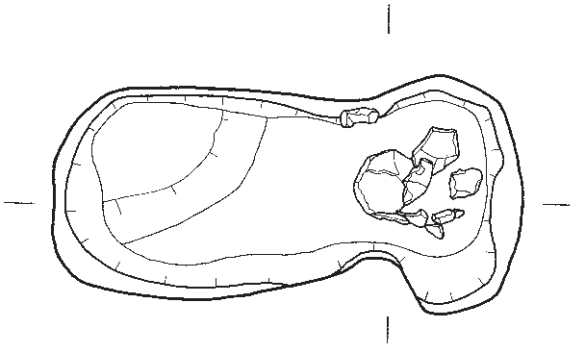
Ｂ－１区の北西部，調査区の境界近くから検出した。平面プランは長径約1.2ｍ，最大幅約0.6ｍ，検出面からの深さが約0.4ｍで，ブリッジ部分は崩落してほぼ真下の床面にあった。想定される煙道の長さは約20㎝程度である。検出面はサツマ火山灰上面で，どちらの土坑の断面も現状でわずかに袋状を呈する。埋土はⅤ層の黒褐色土が主体であることから，縄文時代早期に該当の連穴土坑と判断した。しかし，土坑内埋土から遺物は出土せず，床面や崩落したブリッジ部分に被熱した痕跡も認められなかった。また，今回出土した連穴土坑は竪穴住居等より定住度合いが確実にわかる遺跡で出土するものに比べ規模が小さいことなどから，該期に遺跡一帯が定住を目的として利用された可能性については判断できなかった。

２　土坑

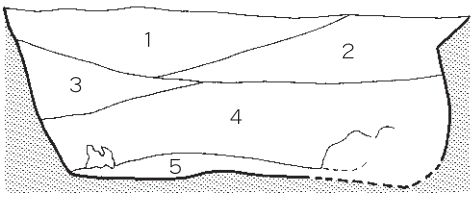
Ｂ－２区の北東部，調査区の境界近くから検出した。平面プランは，長径約1.44ｍ，最大幅1.17ｍ，検出面からの深さが約0.6ｍで，中央近くに径10㎝，深さ５㎝のピットを１ヶ所伴う。Ⅴ層の黒褐色土を主体に土坑内埋土が形成されることから，縄文時代早期に該当の土坑と判断した。連穴土坑とは直線距離で約10ｍと近く，土坑内埋土についても大差が見られないことから，両遺構形成の時期差はあまり離れていないと思われる。



第31図　Ⅴ層　遺構配置図



L＝188.0m

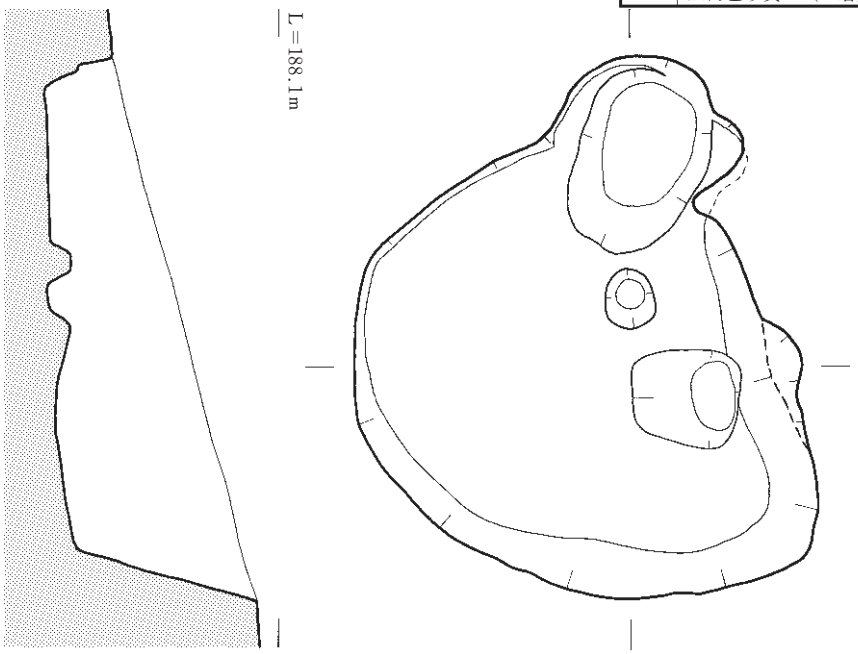


連穴土坑

表７　Ⅴ層連穴土坑観察表

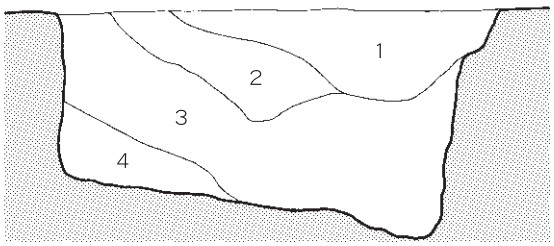
報告書No.	挿図No.	上面長（cm）	上面幅（cm）	深さ（cm）	下面長（cm）	下面幅（cm）
連穴土坑	32	123	64	44	92	41

1	黒褐色砂質土（Ⅴ層）　パミス多い。
2	黒褐色砂質土（Ⅴ層）　１よりパミス多い。
3	黒褐色砂質土（Ⅴ層）　白色パミス多い。
4	黒褐色砂質土（Ⅴ層）　白色，黄色パミス多い。
5	黒褐色砂質土（Ⅴ層）　白色パミス多い。



L＝188.1m

L＝188.1m



土坑

表８　Ⅴ層土坑観察表

報告書No.	挿図No.	上面長（cm）	上面幅（cm）	深さ（cm）	下面長（cm）	下面幅（cm）
土坑	32	144	117	60	124	95

1	暗茶褐色土　黄橙色パミス含む。
2	暗茶褐色土　黄橙色パミス，白色パミス含む。
3	黒褐色土（Ⅴ層）
4	黒褐色土（Ⅴ層）　３よりパミスが少ない。やや粘性がある。

0　1m

第32図　遺構実測図

Ⅴ　隠迫遺跡

第１章　調査の方法

隠迫遺跡は約2,300㎡を対象として全面調査を実施した。旧地は畑である。確認調査の結果をもとに表土を重機で除去した後，Ⅱ層～Ⅴ層までは人力で掘り下げた。Ⅵ層以下は確認調査で旧石器時代包含層が確認された範囲のみ再び重機で除去し，Ⅶ・Ⅷ層まではグリッドをもとに１辺２ｍの千鳥格子状に区切って全面調査を実施した。

古代～弥生時代は，Ⅱ層から10世紀頃の土師器のほか成川式土器，弥生土器等の遺物が出土しているが，遺構は確認していない。

縄文時代は，遺構は検出されなかったが，Ⅲ層から前期の土器や石器の遺物が，Ⅳ層下位から早期の土器や石器の遺物が出土した。

旧石器時代は，Ⅶａ層で細石刃文化期のブロックが３ヶ所で近隣して検出され，Ⅷｂ層からは台形石器を伴うブロックを１ヶ所検出している。

第２章　Ⅷ層の調査

第１節　概要

Ⅷ層の遺物は総数60点である。遺物の出土はＢ－１区を中心とし，ブロック１基を検出した。石材はOB-A，OB-B，硬砂岩，硬質頁岩，砂岩，頁岩で構成される。

製品はナイフ形石器２点，石核１点，スクレイパー１点である。

第２節　遺構

ブロックが１か所検出された。ブロックは総数50点で構成される。構成石材の内訳は，OB-Aが８点，OB-Bが21点，硬砂岩が15点，頁岩が９点，硬質頁岩が２点，砂岩が１点である。

第３節　出土遺物

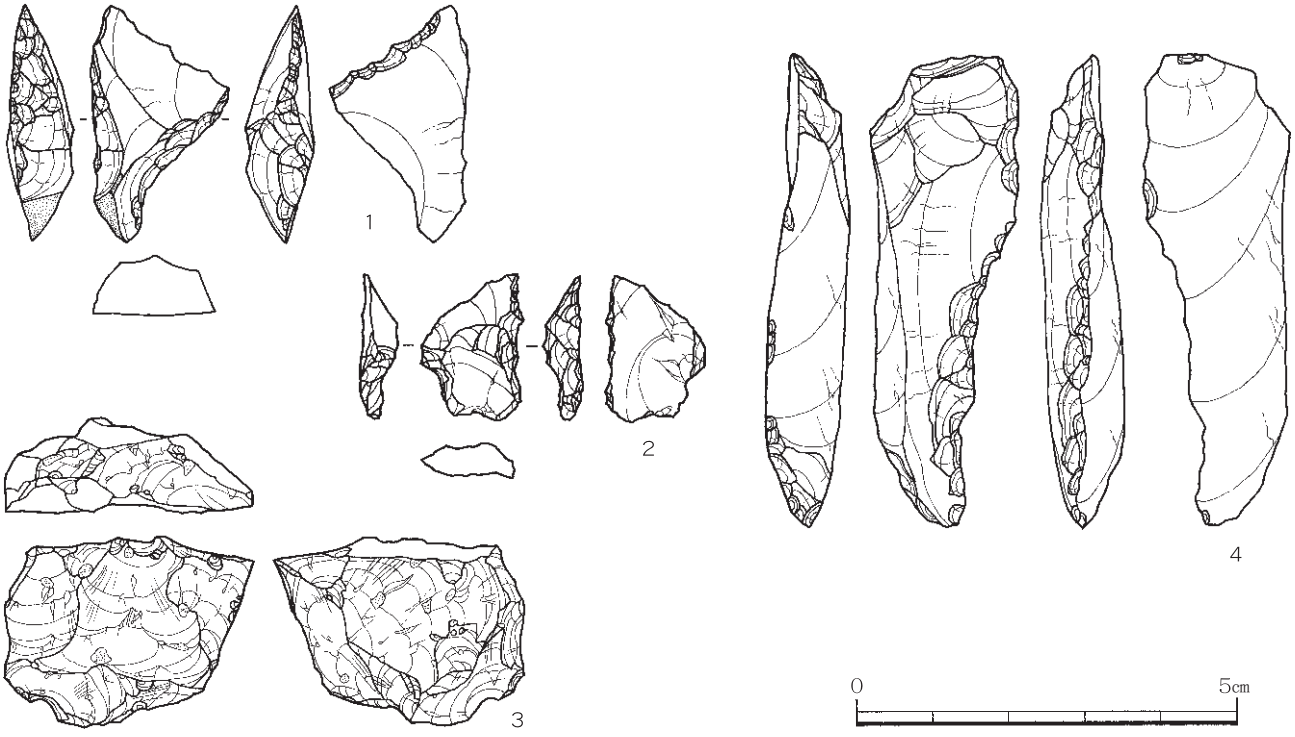
出土遺物はナイフ形石器２点，石核１点，スクレイパー１点である。１は硬質頁岩製のナイフ形石器である。剥片の打面側を抉るような形でブランティングを施し，左側縁はほぼ直線上にブランティングを施している。刃部は腹面側のみに微細剥離痕が確認される。２はOB-A製のナイフ形石器で，寸詰まりの剥片を横位に利用し，両側縁に腹面からブランティングを施している。３はOB-B製の石核である。厚手の剥片を素材とし，腹面に作業面を設定し，打面は上下の両設である。４は硬質頁岩製のスクレイパーである。縦長剥片の片側側縁に鋸歯状の二次加工により刃部を形成している。

第３章　Ⅶ層の調査

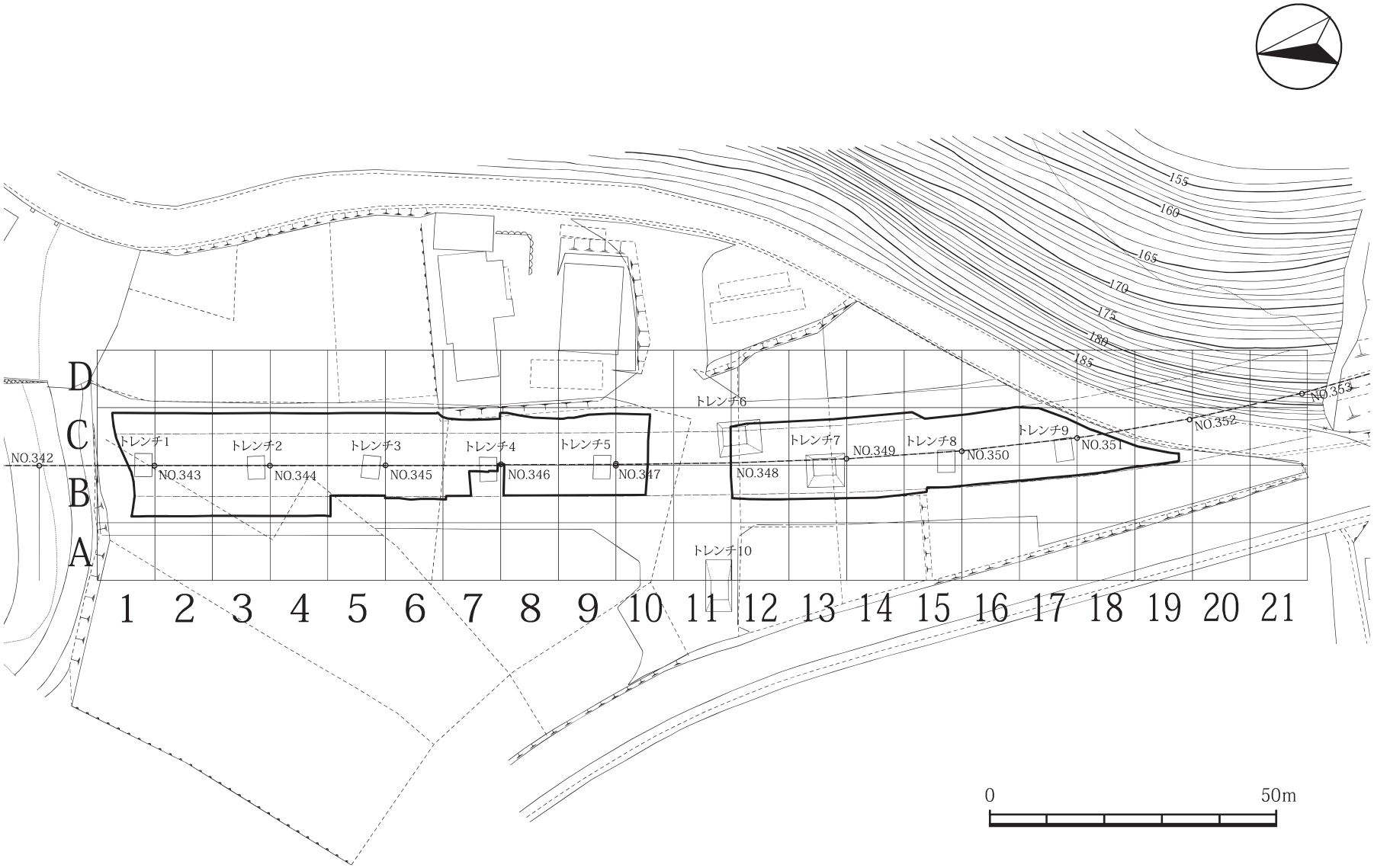
第１節　概要

Ⅶ層の遺物は総数2,223点である。遺物の出土はＣ－３区を中心とし，ブロック３基を検出した。

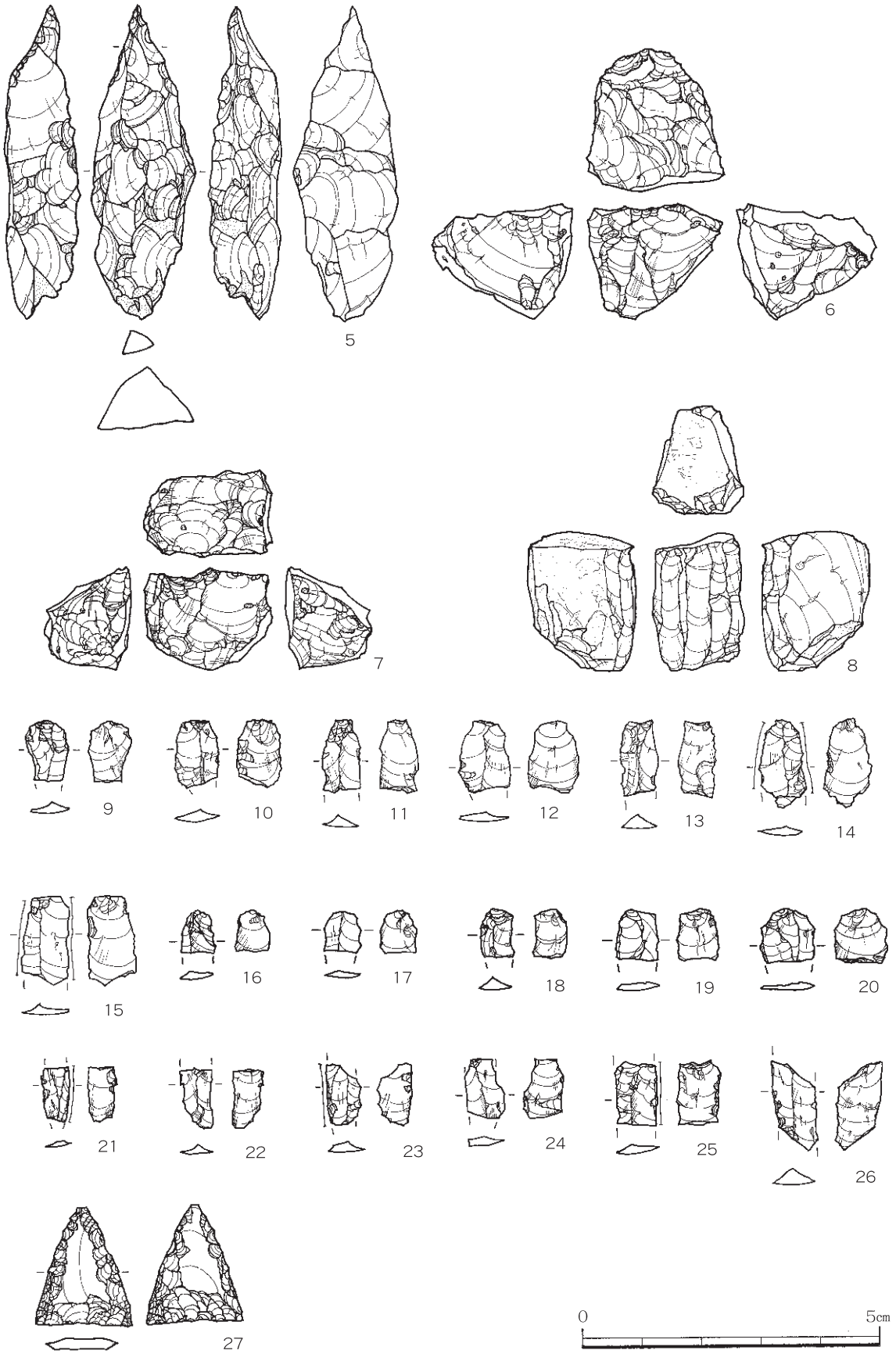
製品は細石刃40点，打面再生剥片，二次加工剥片等である。また，



第33図　Ⅷ層出土石器



第34図　調査区と周辺地形図



第35図　Ⅶb～Ⅶa層出土石器

第２節　遺構

C－3区に集中してブロックが3基検出された。各ブロックをそれぞれA，B，Cブロックとして取り扱うこととする。各ブロックの概要は下記のとおりである。

Aブロック

総数1,302点である。構成石材の内訳は，OB-Aが７点，OB-Bが1,283点，OB-Cが１点，硬質頁岩が１点である。製品は細石刃核１点，細石刃27点，二次加工剥片１点のみである。

Bブロック

総数531点のブロックである。構成石材の内訳はOB-Bが520点，硬砂岩１点，硬質頁岩１点，頁岩４点である。製品は細石刃７点，石鏃１点，三稜尖頭器１点である。

Cブロック

総数347点のブロックである。構成石材はOB-Bが339点，硬砂岩２点，砂岩１点，頁岩３点である。

製品は細石刃が５点，打面再生剥片が１点である。

第３節　出土遺物

５はOB-A製の三稜尖頭器で，腹面を含む三面に加工が及んでいる。先端部の鋭利仕上げと背面の稜上調整は丁寧である。

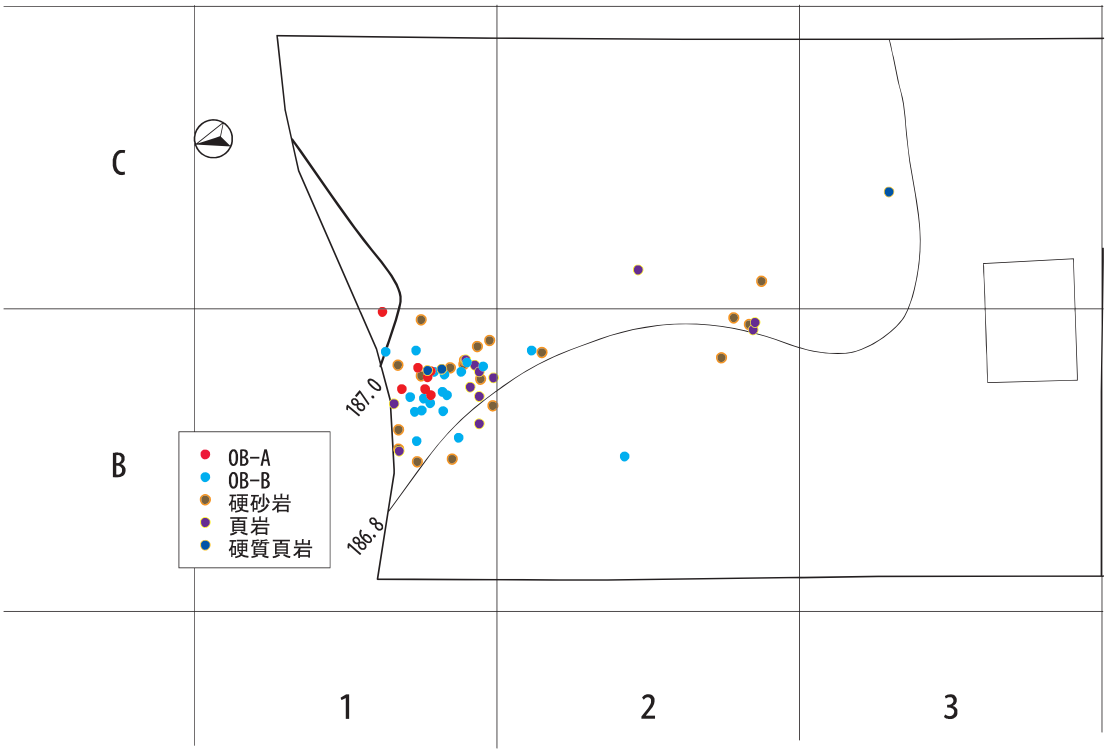
６はOB-B製の細石刃核である。打面は複数の剥離面により構成され，打面から側面への石核整形も行われている。打面上に両側面からの剥離痕が観察され，固定具によるものと思われる。作業面は再生された直後と思われ，明確な樋状剥離は観察されない。７はOB-B製の小型の石核である。打面調整を施しながら小型の剥片を剥離している。８はOB-C製の細石刃核で，採集資料である。小型の礫を分割し，分割面を側面に利用し，自然面に打面調整を施しながら細石刃を剥出している。９～26は細石刃である。27は硬質頁岩製の石鏃である。表面，背面とも中央部に大きく主剥離面を残している。

表９　ブロック別石材重量表（単位：ｇ）

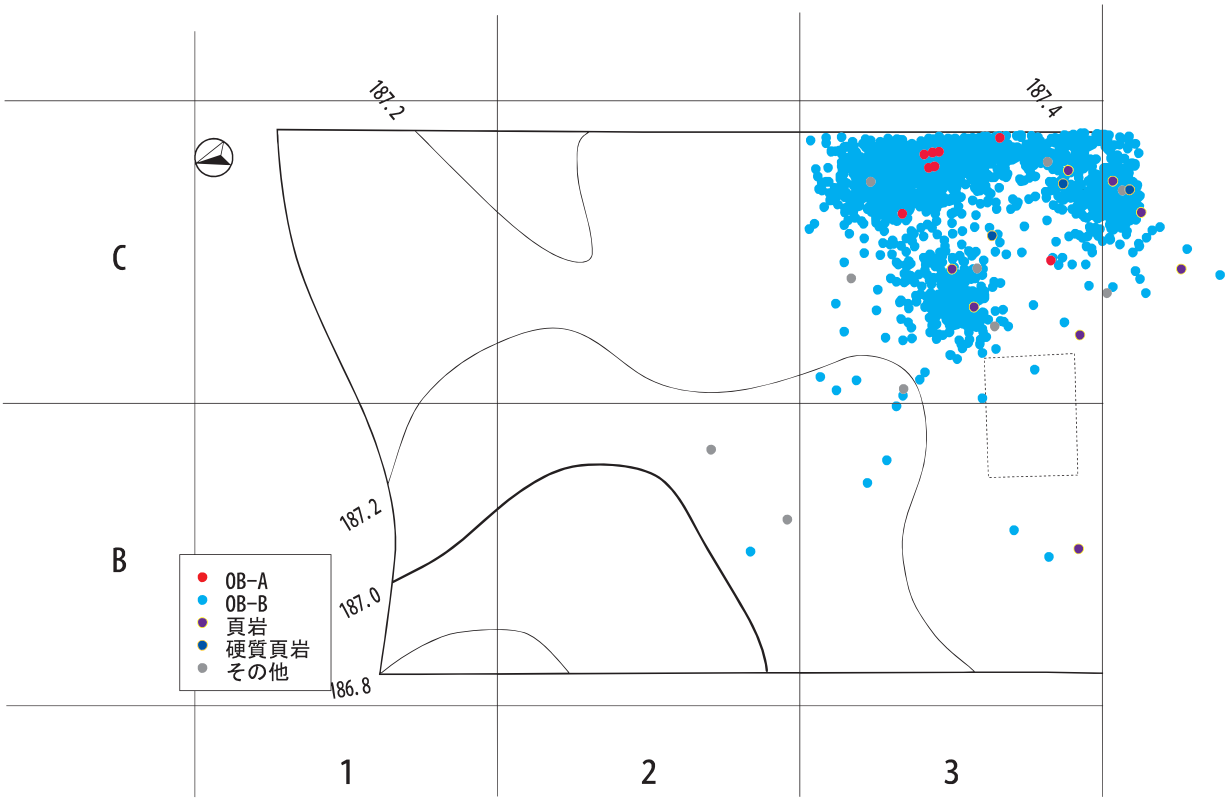
石 材	Aブロック	Bブロック	Cブロック	Dブロック	合 計
OB-A	0.52				0.52
OB-B	348.7		125.67	37.85	512.22
頁岩		132.17	20.74	22.73	175.64
硬質頁岩	0.24	4.48		26.75	31.47
硬砂岩		0.02	0.31	5.16	5.49
砂岩		0.08	0.09	1.52	1.69
合計	349.46	136.75	146.81	94.01	727.03

表10　実測石器観察表

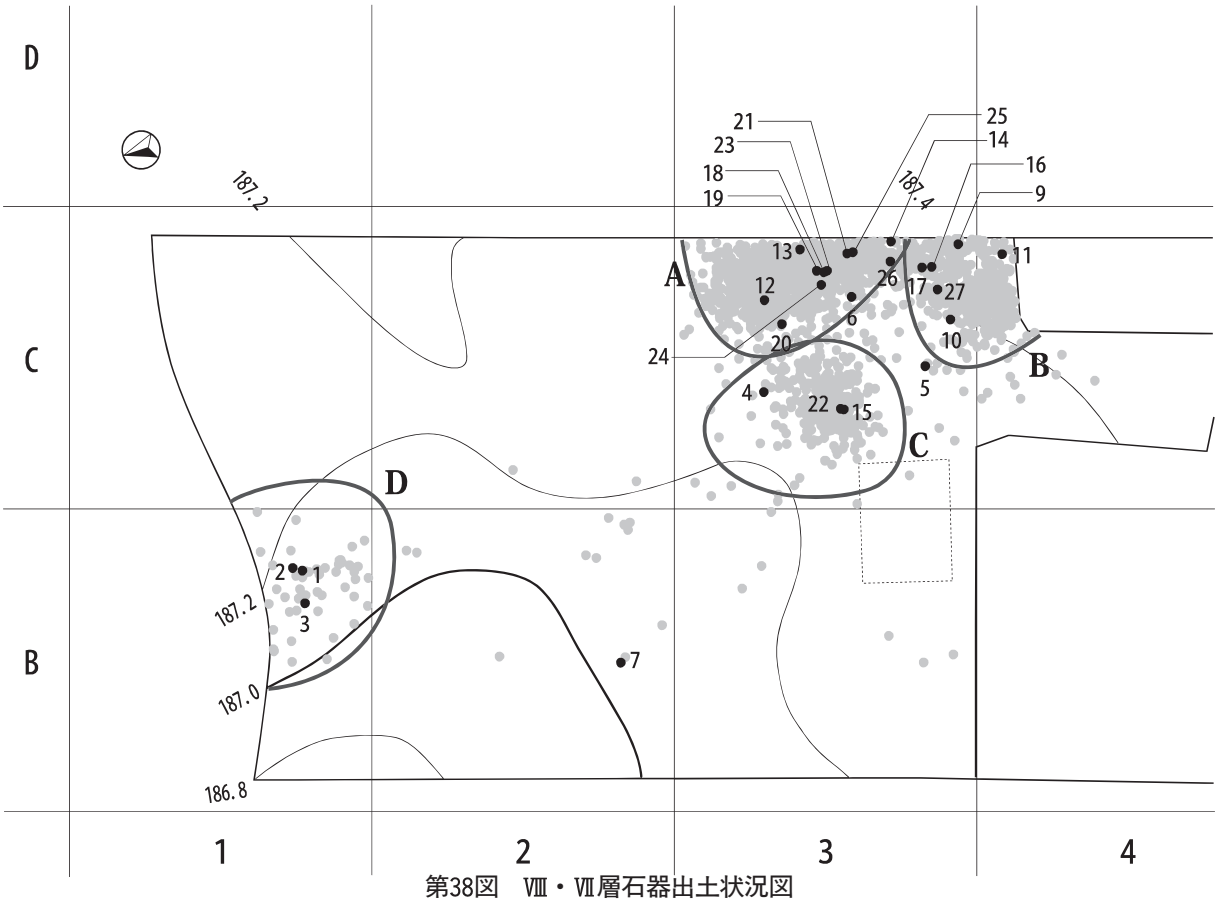
図番号	遺物番号	器種	石材	層１	層２	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	出土区	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	ブロック
1	1619	ナイフ形石器	硬質頁岩	8	b	7.7	18.0	186.6	B-1	3.1	1.8	1.9	3.1	D
2	2848	ナイフ形石器	OB-A	8	b	7.4	18.0	186.4	B-1	2	1.38	0.5	1.01	D
3	1624	石核	OB-B	8	b	7.8	16.9	186.5	B-1	2.55	3.3	1.3	9.48	D
4	3501	スクレイパー	硬質頁岩	8	a	23.0	23.8	186.6	C-3	6.15	1.93	1.08	8.76	外
5	3440	三稜尖頭器	OB-A	7	b	28.3	24.7	186.9	C-3	5.35	1.75	1.25	8.11	B
6	1878	細石刃核	OB-B	7	b	25.9	27.0	187.1	C-3	1.95	2.3	2.4	8.5	A
7	987	石核	OB-B	7	a	18.3	14.9	186.9	B-2	1.7	2.15	1.85	5.98	外
8	表採	細石刃核	OB-C	－	－	－	－	－	－	2.4	1.55	1.85	7.76	
9	3345	細石刃	OB-B	7	b	29.4	28.8	187.2	C-3	1.05	0.73	0.17	0.09	B
10	1216	細石刃	OB-B	7	a	29.1	26.3	187.3	C-3	1.16	0.72	0.23	0.18	B
11	3410	細石刃	OB-B	7	b	30.8	28.4	187.2	C-4	1.25	0.62	0.28	0.12	B
12	1354	細石刃	OB-B	7	b	23.0	26.9	187.1	C-3	1.23	0.83	0.17	0.19	A
13	2500	細石刃	OB-B	7	b	24.2	28.6	187.1	C-3	1.3	0.62	0.25	0.18	A
14	1911	細石刃	OB-B	7	b	27.2	28.8	187.3	C-3	1.5	0.8	0.18	0.19	A
15	927	細石刃	OB-B	7	a	25.6	23.3	187.3	C-3	1.48	0.8	0.17	0.19	C
16	2791	細石刃	OB-B	7	b	28.5	28.0	187.1	C-3	0.7	0.6	0.2	0.05	B
17	1541	細石刃	OB-C	7	a	28.2	28.0	187.3	C-3	0.7	0.5	0.12	0.04	B
18	2521	細石刃	OB-B	7	b	25.0	27.8	187.1	C-3	0.8	0.6	0.2	0.07	A
19	1437	細石刃	OB-B	7	a	24.7	27.9	187.3	C-3	0.85	0.7	0.15	0.1	A
20	1357	細石刃	OB-B	7	b	23.6	26.1	187.2	C-3	0.9	0.87	0.15	0.14	A
21	1488	細石刃	OB-B	7	a	25.7	28.4	187.3	C-3	0.9	0.45	0.15	0.06	A
22	1333	細石刃	OB-B	7	b	25.5	23.3	187.1	C-3	1	0.55	0.15	0.06	C
23	2241	細石刃	OB-B	7	b	25.1	27.9	187.1	C-3	1.02	0.6	0.2	0.08	A
24	1432	細石刃	OB-B	7	a	24.9	27.4	187.2	C-3	1	0.66	0.17	0.1	A
25	1490	細石刃	OB-B	7	a	25.9	28.5	187.3	C-3	1.5	0.8	0.28	0.14	A
26	2999	細石刃	OB-B	7	b	27.2	28.2	187.1	C-3	1.1	0.7	0.17	0.23	A
27	1207	石鏃	硬質頁岩	7	a	28.7	27.3	187.3	C-3	2	1.6	0.18	0.62	B



第36図　Ⅷ層石材別分布図



第37図　Ⅶ層石材別分布図



第38図　Ⅷ・Ⅶ層石器出土状況図

表11　掲載以外の細石刃一覧表

遺物番号	器種	石材	層1	層2	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	部位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)
875	細石刃	OB-B	7	a	24.238	25.909	187.217	C-3	尾部	0.65	0.4	0.1
876	細石刃	OB-B	7	a	24.023	25.793	187.223	C-3	完形	1.05	0.6	0.25
916	細石刃	OB-B	7	a	25.377	23.896	187.265	C-3	頭部	0.7	0.5	0.1
936	細石刃	OB-B	7	a	24.843	22.760	187.200	C-3	頭部	0.75	0.65	0.1
939	細石刃	OB-B	7	a	24.376	22.555	187.243	C-3	中間部	0.7	0.5	0.15
991	細石刃	OB-B	7	b	20.685	20.852	186.998	C-3	中間部	0.55	0.5	0.15
1078	細石刃	OB-B	7	a	22.543	26.460	187.238	C-3	完形	1.25	0.6	0.15
1119	細石刃	OB-B	7	a	23.571	27.536	187.185	C-3	頭部	0.65	0.55	0.1
1125	細石刃	OB-B	7	a	23.856	26.925	187.200	C-3	完形	1.5	0.65	0.15
1352	細石刃	OB-B	7	b	22.555	26.901	187.145	C-3	頭部	0.65	0.6	0.15
1371	細石刃	OB-B	7	a	22.134	28.074	187.167	C-3	頭部	0.65	0.65	0.1
1411	細石刃	OB-B	7	a	24.032	27.896	187.199	C-3	頭部	0.55	0.5	0.1
1487	細石刃	OB-B	7	a	25.745	28.247	187.245	C-3	中間部	0.95	0.5	0.15
2164	細石刃	OB-B	7	b	23.486	26.754	187.099	C-3	中間部	0.7	0.45	0.1
2232	細石刃	OB-B	7	b	24.615	28.708	187.142	C-3	頭中部	1	0.45	0.2
2270	細石刃	OB-B	7	b	25.612	28.621	187.156	C-3	完形	1	0.45	0.15
2528	細石刃	OB-B	7	b	24.737	27.277	187.078	C-3	頭部	0.75	0.4	0.1
2700	細石刃	OB-C	7	b	22.355	27.305	187.004	C-3	中間部	0.55	0.5	0.1
3016	細石刃	OB-B	7	b	30.284	27.161	187.106	C-4	頭部	0.55	0.5	0.15
3094	細石刃	OB-A	7	b	24.409	28.283	187.009	C-3	中間部	0.9	0.55	0.15
3386	細石刃	OB-B	7	a	24.785	28.328	186.905	C-3	中間部	0.6	0.45	0.1
3529	細石刃	OB-B	7	a	29.308	28.918	187.327	C-3	中間部	0.6	0.55	0.1

第４章　Ⅳ・Ⅲ層の調査

第１節　概要

縄文時代早期に該当する層は薩摩火山灰直上の黒褐色土であるⅤ層及びアカホヤ火山灰直下のⅣ層である。本遺跡においては調査の結果，遺構は検出されなかったが，Ⅳ層下位から遺物が出土した。

鬼界カルデラの火山灰はブロック状に堆積しⅢｂ層となっており，Ⅲ層上部より縄文時代前期～晩期の遺物が出土している。遺構は検出されなかった。

第２節　出土遺物

１　土器

１ａ類（１～６）

１～６は，口縁部が外反し，胴部で「く」字状に屈曲し上げ底状の底部形態を有するもので，文様は山形押型文を施文する。２・３は，口唇部と口縁部内面にも山形押型文を施文している。１は，２・３よりも間延びした押型文で，口縁部内面には施文していない。５は，口縁部と胴部下半を欠く。胴部の屈曲部分に接合面が見られ，この上位でややすぼめられて，外反する口縁部に移行すると思われる。このすぼまり部分には，粘土を絞るために生じた痕跡が残っている。６は，口縁部から底部までが残存していたものである。口縁部は外反し，胴部で「く」字状に屈曲する。ここにキザミ目がめぐり直線的に上げ底の底部へ至る。文様は，間延びした山形押型文を胴部屈曲部より上位では縦位に，屈曲部より下では横位ないし斜位に施文されている。なお，この施文は屈曲部付近では施文に粘土が重なるなどしてナデ消されている。また，胴部屈曲部より上位の山形押型文は施文前に器面が丁寧になでられている。

１ｂ類（７～10）

７～10は同一個体である。口縁部が外反し，胴部は「く」字状に屈曲する。文様は，縦位に山形押型文の上に棒状工具による沈線文が重ねられている。屈曲部分外面には，粘土が貼り付けられその頂部にキザミ目が施される。施文の切り合いから，屈曲部下の山形押型文は屈曲部の粘土貼り付けに切られ，この頂部にあるキザミ目は上位の沈線文を切っている。なお，外面のスス付着の範囲は屈曲部より上に付着し，内面のススは屈曲部より下に付着している。

１ｃ類（11～19）

11～19は微隆帯状の施文が施されている。この微隆帯は貼り付けではなく，文様効果を生じさせるように調整が施された結果である。

１ｄ類（20～23）

20～23は同一個体である。口縁部は外反し，貝殻による深いキザミ目が施され，小波状を呈する。器形は，口縁部が外反し胴部で「く」字状に屈曲する。屈曲部で粘土を接合して上半部を立ち上げている。文様は，横位の沈線文を基本としながらやや流水状の沈線も部分的に施文している。

１ｅ類（24）

24は２条１組の格子状キザミが原体と思われる小型の土器である。

１ｆ類（25）

25の器形は，口縁部が外反して波状口縁になり，胴部には「く」字状の屈曲を有するものである。無文土器と思われるが，細い沈線が不規則に見られ文様或いは線刻状を呈している。なお，この前には内外面ともに器面を丁寧にナデ調整している。

１ｇ類（26～30）

26～30は撚糸文である。29は胴部片で「く」字状に屈曲する。

１類底部（31）

31は，わずかに上げ底状の底部である。色調や胎土等の特徴から，24と同一個体の可能性がある。

２類（32～34）

32・33は間延びして肥厚した口縁部に沈線文と連点文とを組み合わせて施文している。

３類（35～37）

35～37は口縁部が直行し隆帯を横位にめぐらせる。

４類（38～47）

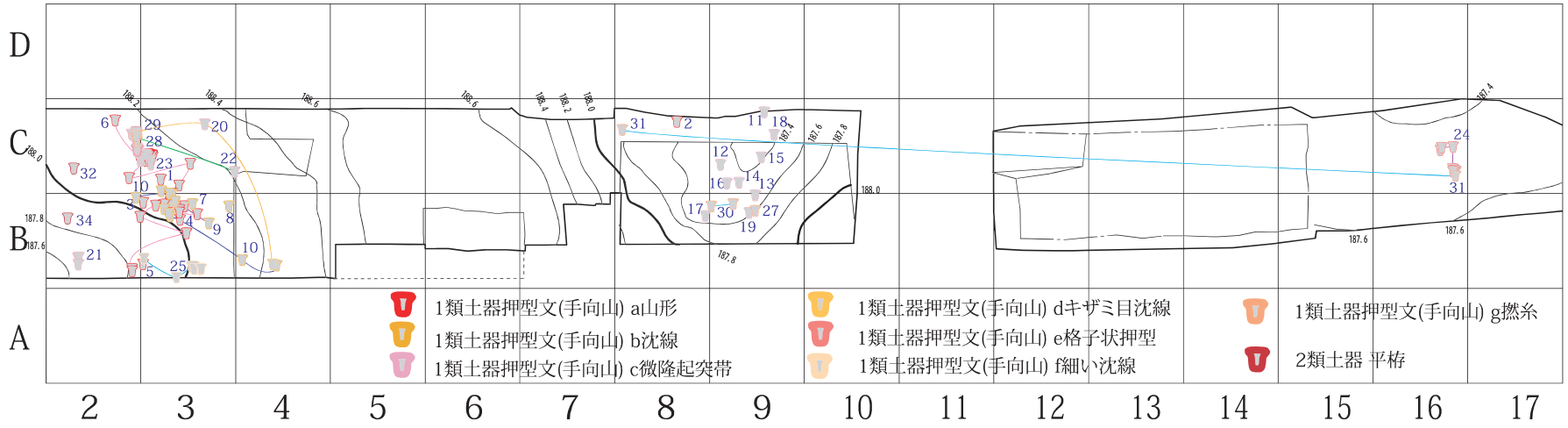
38～47は口縁部が外反し，胴部がわずかに膨らんで丸底の底部へ至る。文様は，沈線文を縦位・斜位・横位に組み合わせて施文している。38は，口縁部から底部まで残存していた完形品である。口縁部内外面の横位沈線文は鋸歯状ともとれる斜位の沈線文によって切られている。39～43は胴部片である。44～47は底部付近の破片である。

５類（48～53）

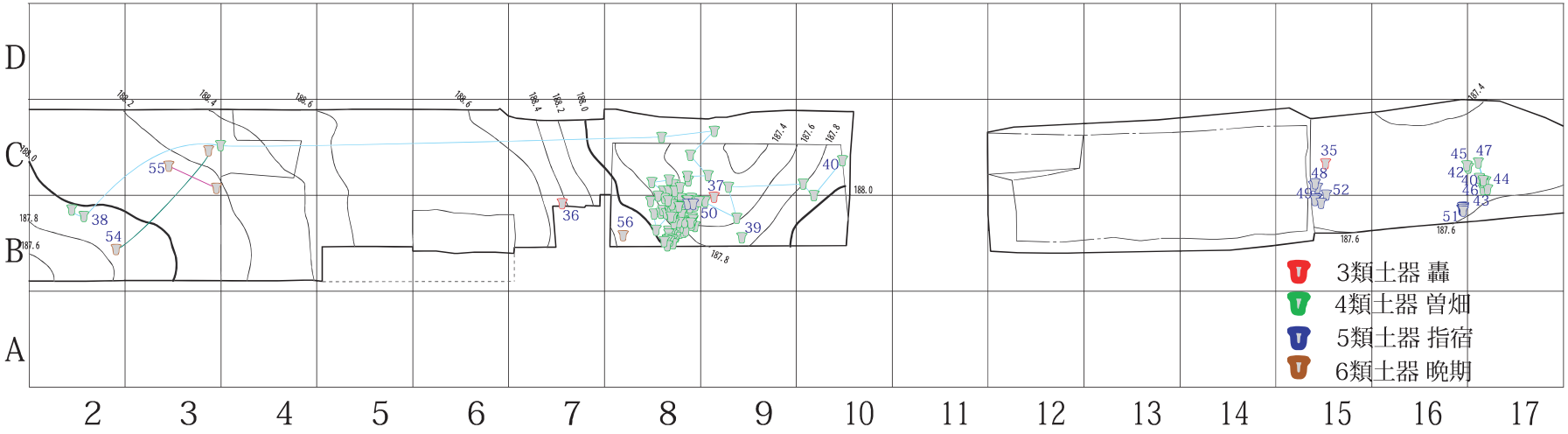
48～53は口唇部が丸みを呈し，口縁部が外反する。胴部はわずかに膨らむ。48は波状口縁で，波頂部内面には縦位の沈線文が短く４条施文される。外面には，貝殻条痕が全面施文されその上から２本１組の沈線文を靴形状に施文する。49は平口縁である。51は，平口縁として図化したが，口縁部内面に48のように波頂部に施文するタイプのものが見られることから，あるいはわずかに波状口縁を呈するのであろうか。

６類（54～56）

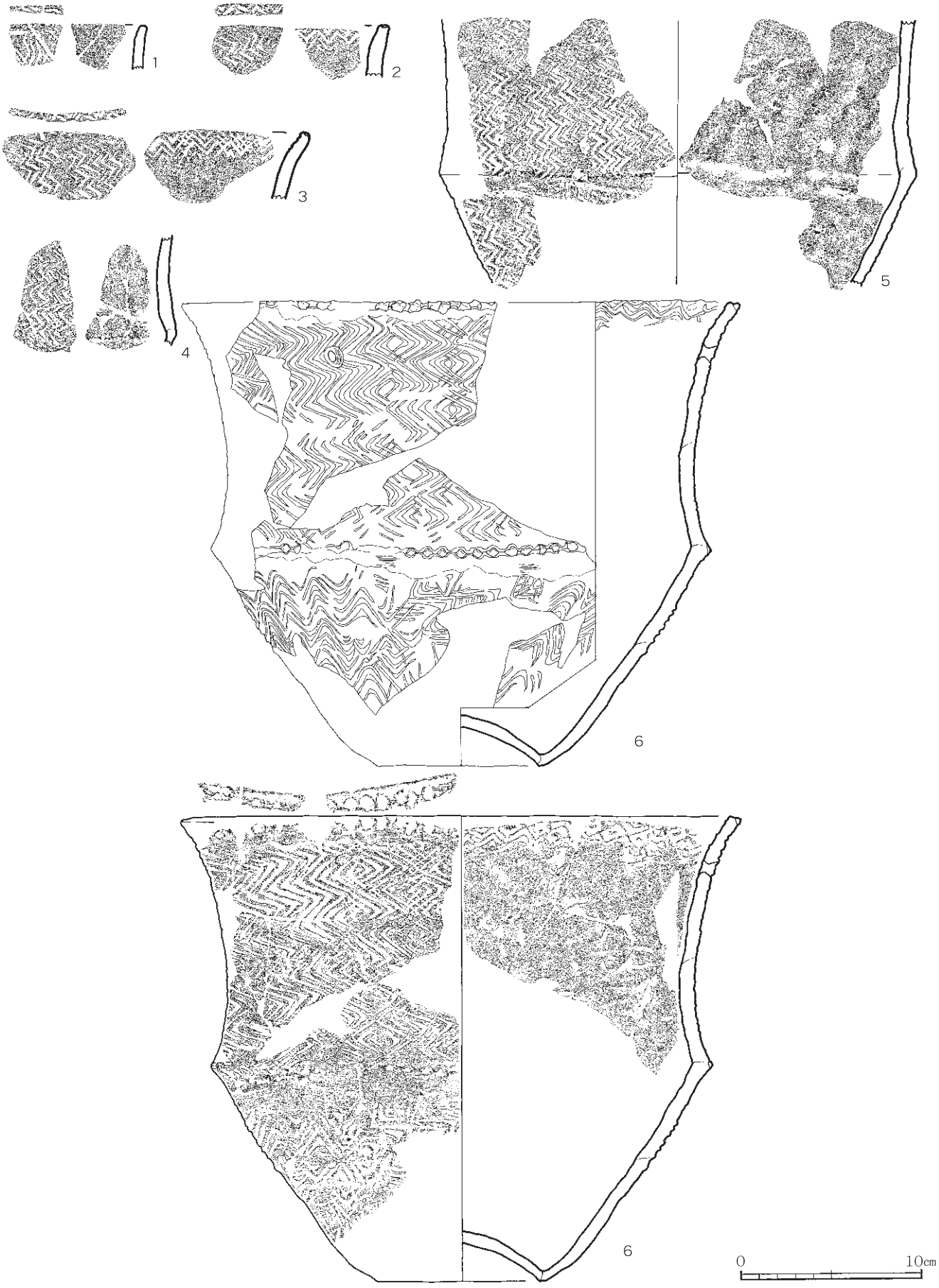
54～56は晩期の深鉢形土器である。口縁部上端がわずかに肥厚するタイプの土器である。



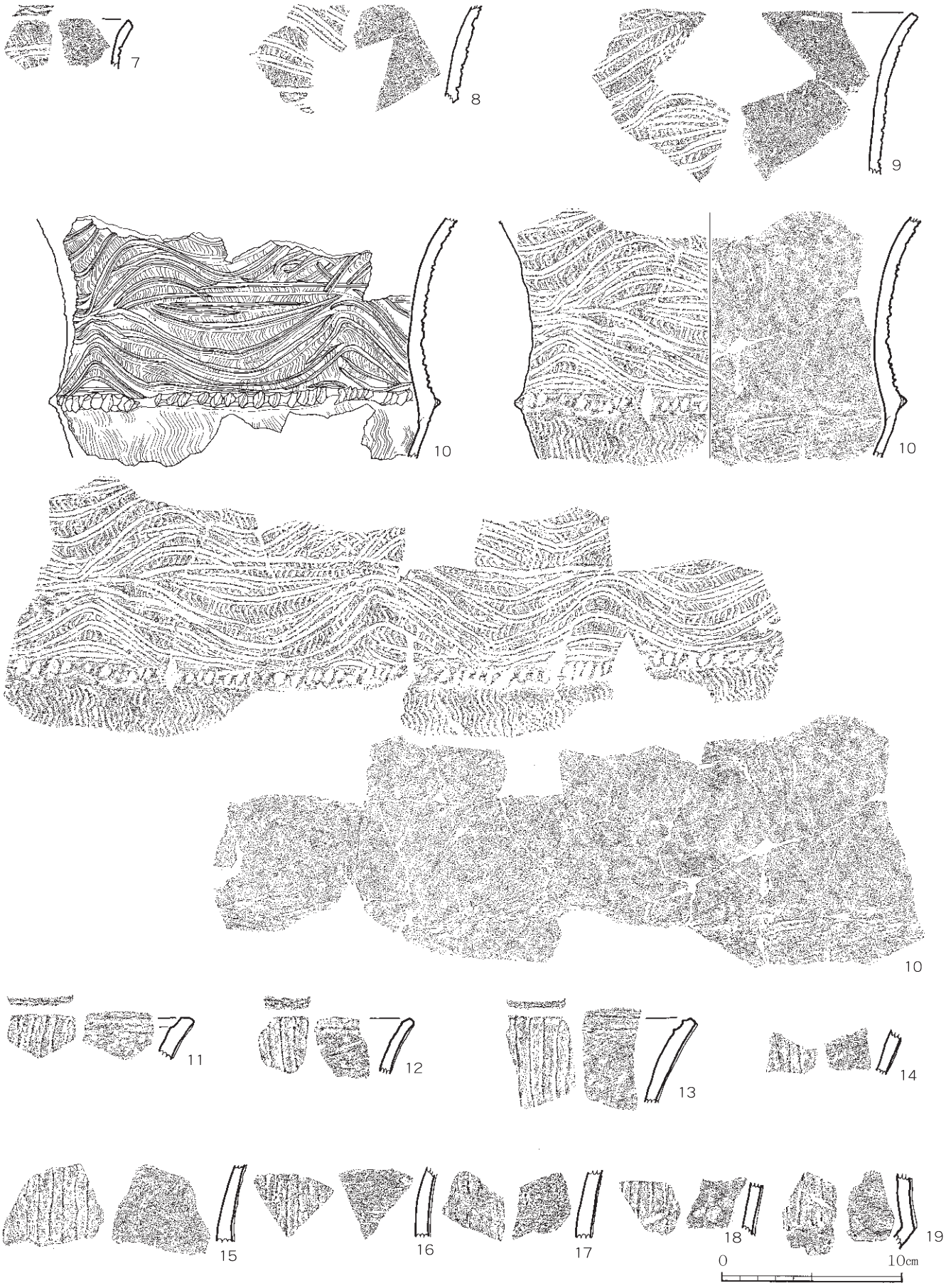
第39図　縄文時代早期土器出土状況図



第40図　縄文時代前・後・晩期土器出土状況図

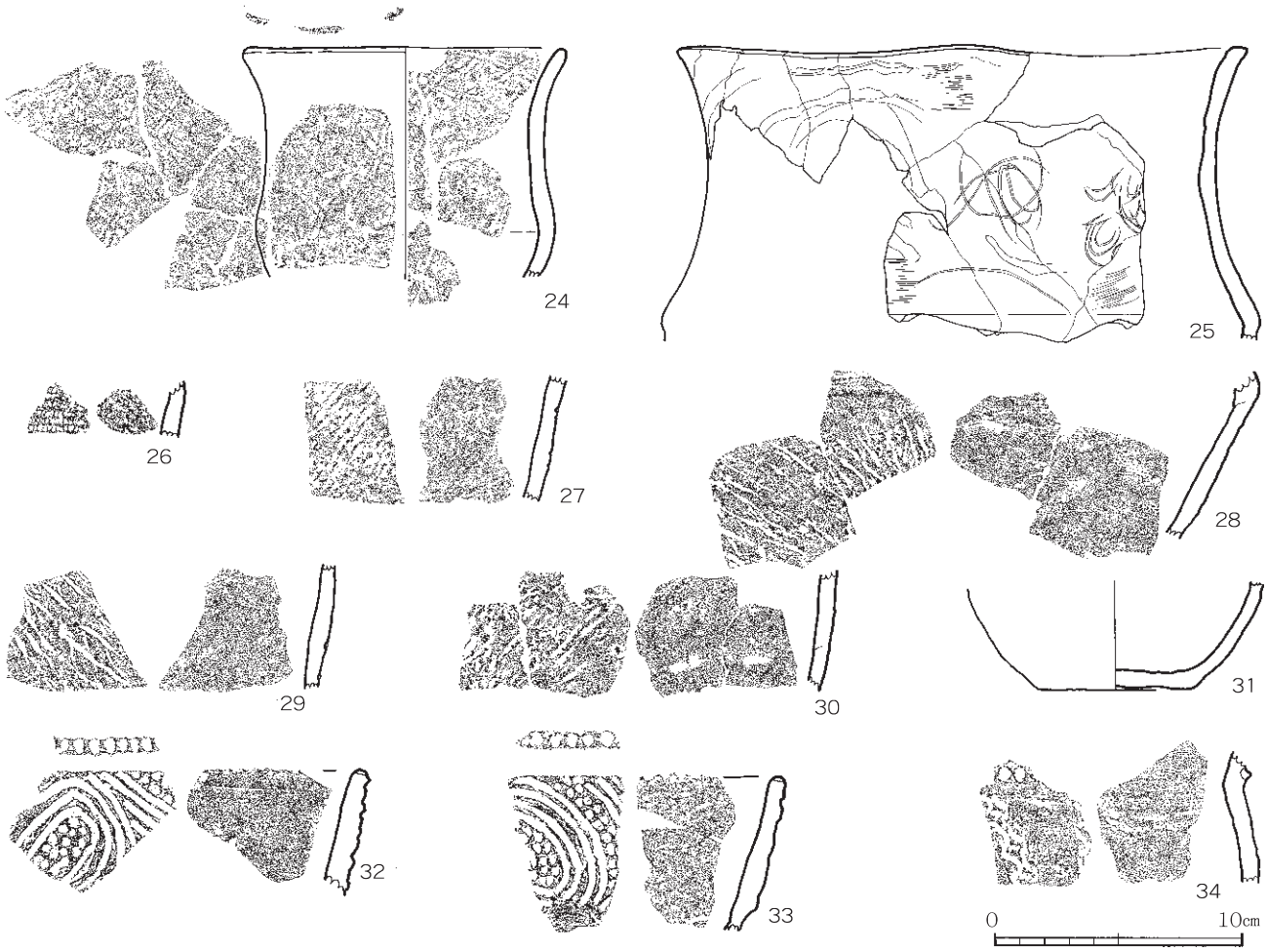


第41図　Ｉａ類土器実測図



第42図　Ｉｂ，Ｉｃ類土器実測図

第43図　Ｉｄ類土器実測図

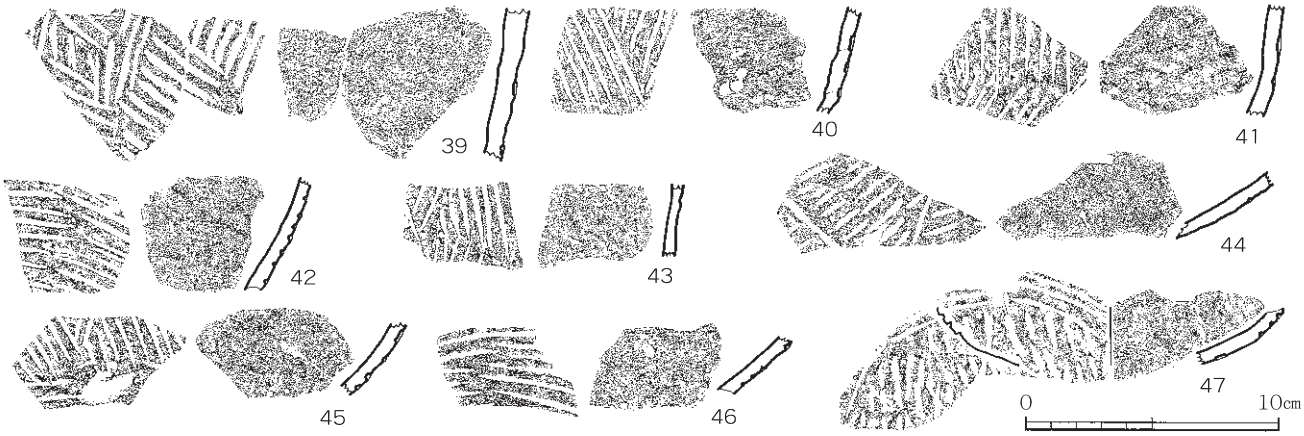


第44図　Ｉe，Ｉf，Ｉg，Ⅱ類土器実測図

表12　土器観察表（１）

挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整 外面調整	文様・調整 内面調整	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 雲母	胎土 砂礫	備考
41	1	1	a	91 190	C	3	4	—	口縁部	山形押型(縦)	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	—	—	
	2	1	a	633	B	2	3	—	口縁部	山形押型(縦)	ナデ.山形押型(横)	にぶい褐色	橙色	○	○	—	○	
	3	1	a	172	B	3	4	—	口縁部	山形押型(縦)	ナデ.山形押型(横)	褐色	にぶい黄褐色	○	○	—	—	
	4	1	a	84	B	3	4	—	胴部	山形押型(縦)	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	—	—	
	5	1	a	161	B	3	4	—	胴部	山形押型(縦)	ナデ.指押さえ	明赤褐色	にぶい褐色	○	○	—	○	
	6	1	a	12 49 53 54 58 64 65 66 67 87 94 102 110 114 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 157 167 169 171 193 209 224 248	B C	2,3	4	—	完形	刻目.山形押型(縦)	ナデ.山形押型(横)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	—	○	
42	7	1	b	250	B	3	5	—	口縁部	山形押型(横・縦)→沈線	ナデ	にぶい黄橙色	にぶ黄色	○	○	—	—	
	8	1	b	79	B	3	4	—	胴部	山形押型(横・縦)→沈線	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	—	—	
	9	1	b	5	BC	3	4	—	口縁部	山形押型(横・縦)→沈線	ナデ	にぶい黄褐色	にぶ黄色	○	○	—	—	188
	10	1	b	17 43 50 51 52 73 89 104 123 161 169	BC	3	4 5	—	胴部	山形押型(縦)→ 沈線.刻目突帯	ナデ	にぶい黄橙色	浅黄色	○	○	—	○	

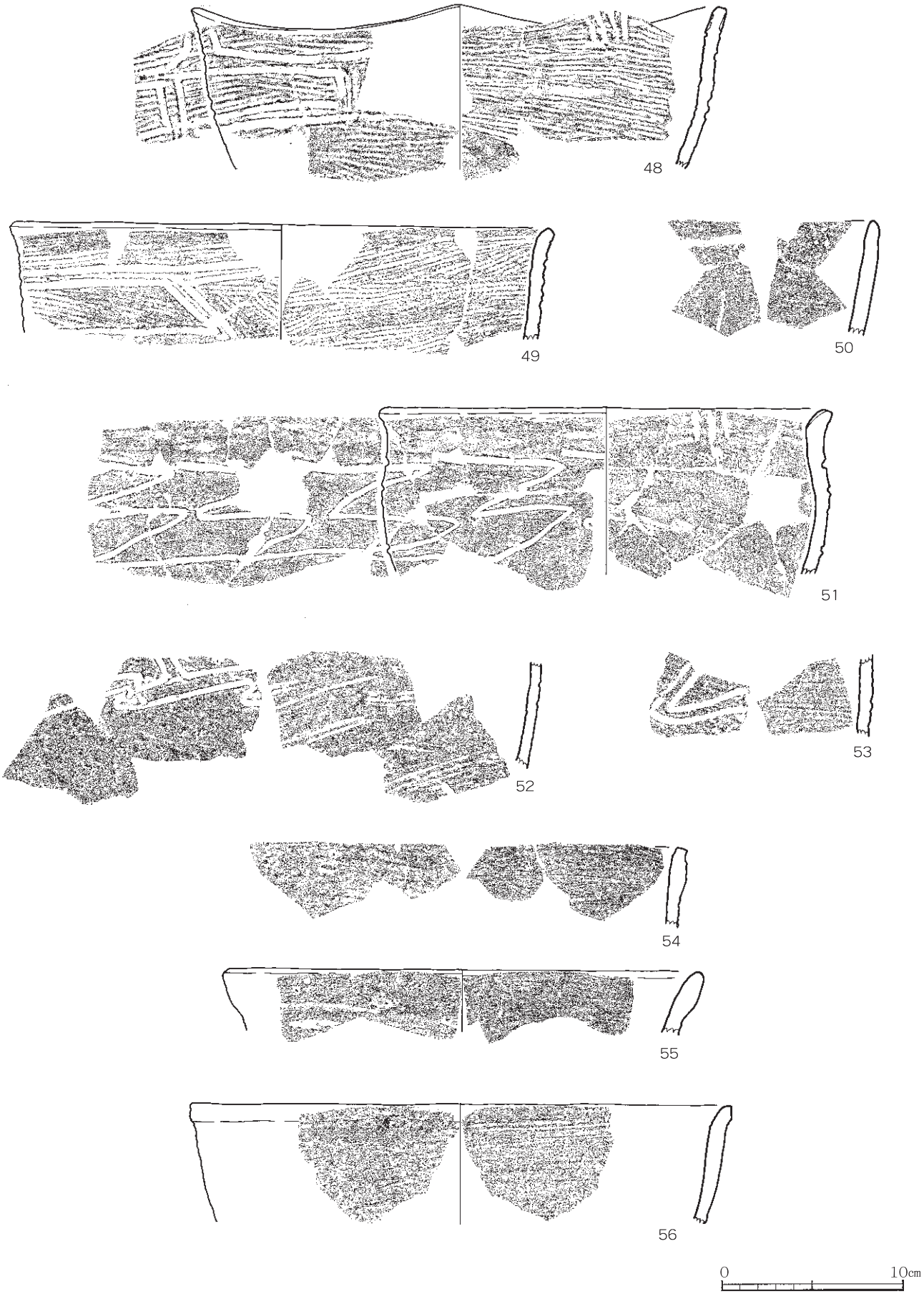
第45図　Ⅲ，Ⅳ類土器実測図



第46図　Ⅳ類土器実測図

表13　土器観察表（２）

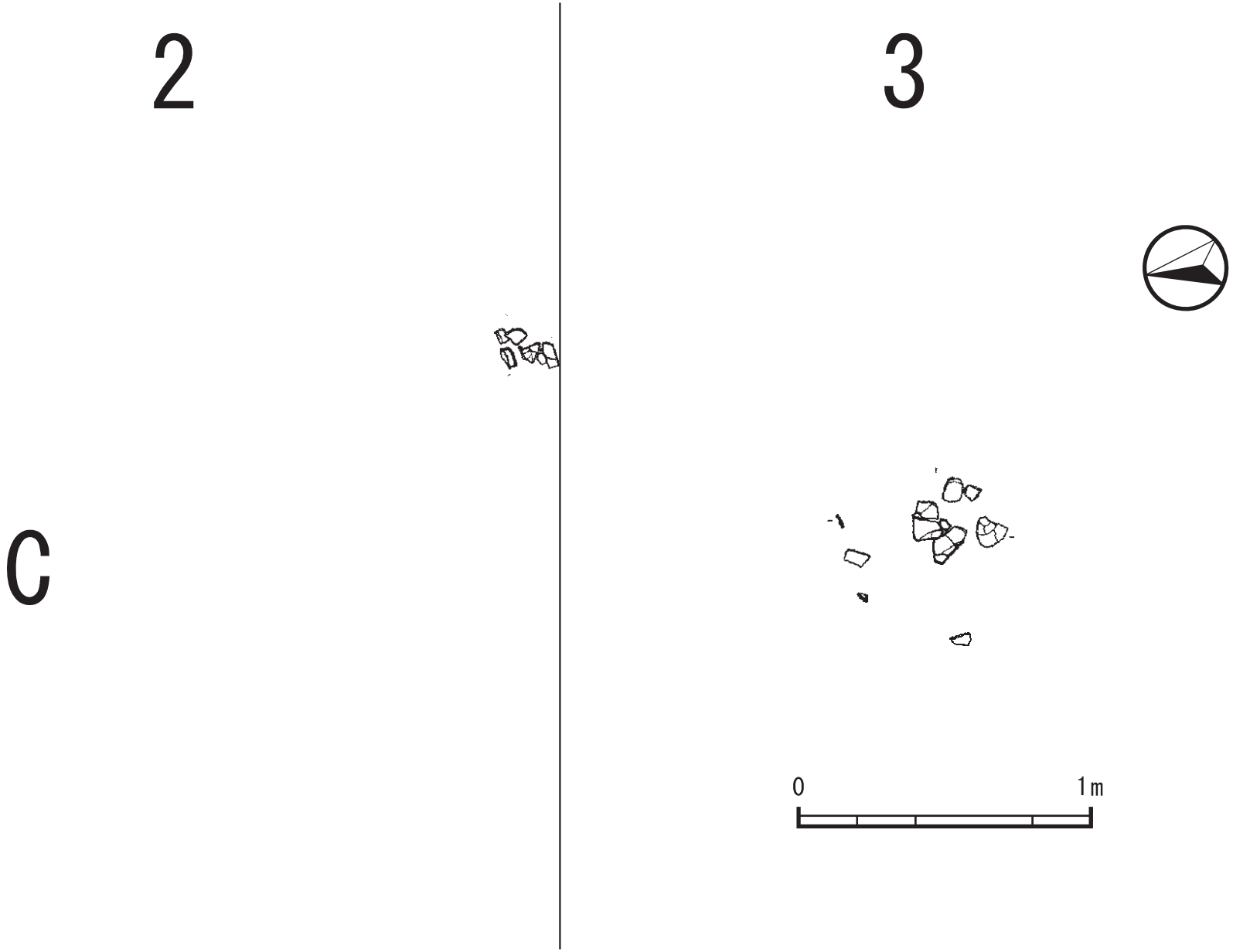
挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整 外面調整	文様・調整 内面調整	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 雲母	胎土 砂礫	備考
42	11	1	c	413	C	9	3	a	口縁部	ナデ．微隆起突帯	ナデ	にぶい褐色	黒褐色	○	○	—	○	
	12	1	c	584	C	9	2	b	口縁部	ナデ．微隆起突帯	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	—	—	
	13	1	c	621	B	9	3	a	口縁部	ナデ．微隆起突帯	ナデ	灰黄褐色	にぶい褐色	○	○	—	—	
	14	1	c	767	C	9	3	b	胴部	ナデ．微隆起突帯	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	○	○	—	—	
	15	1	c	719	C	9	3	a	胴部	ナデ．微隆起突帯	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい褐色	○	○	—	—	
	16	1	c	765	C	9	3	a	胴部	ナデ．微隆起突帯	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	—	—	
	17	1	c	747	B	8	3	a	胴部	ナデ．微隆起突帯	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	—	—	
	18	1	c	674	C	9	3	a	胴部	ナデ．微隆起突帯	ナデ	黒褐色	灰黄褐色	○	○	—	○	
	19	1	c	711	B	9	3	a	胴部	ナデ．微隆起突帯	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	—	—	
43	20	1	d	183 205 211	CB	2,3,4	4	—	口縁部	ナデ．沈線	ナデ．指押さえ	橙色	にぶい黄褐色	○	○	—	—	
	21	1	d	174 175 176	B	2	4	—	胴部	ナデ．沈線	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	—	—	
	22	1	d	113 120 220 223	C	2	5	—	胴部	ナデ．沈線	ナデ	にぶい黄橙色	浅黄色	○	○	—	—	
	23	1	d	60 61 62 68 111 140 141 142 143 144 145 185 197 198 200 219 220 225	C	2,3	4 5	—	口縁部	ナデ．沈線	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	—	—	
44	24	1	e	2--- 2951 2876 2880 2890	C	16	3 4	b	口縁部	ナデ．押型（格子目）	ナデ．押型（格子目）	にぶい黄橙色	明赤褐色	○	○	—	○	
	25	1	f	14 82 153 154 155 156 162	B	3	3 4	—	口縁部	沈線．ナデ消し．ヘラミガキ	ナデ．指押さえ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	—	○	
	26	1	g	-	C	10	3	—	胴部	撚糸	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	—	—	注記不明
	27	1	g	623	B	9	3	—	胴部	撚糸．ナデ	ナデ	橙色	暗灰黄色	○	○	—	○	
	28	1	g	1821	C	2	45	—	胴部	撚糸．ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	黒褐色	○	○	—	—	
	29	1	g	184	C	21	5	—	胴部	撚糸．ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	黒褐色	○	○	—	—	
	30	1	g	746 781	B	9	34	b	胴部	撚糸．ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰黄褐色	○	○	—	○	
	31	1	-	2859 2895 -	C	16	4	b	底部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	—	○	
	32	2	-	39	C	2	4	—	口縁部	刻目．短沈線．刺突．	ナデ	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	○	
	33	2	-	—	—	—	4	—	口縁部	刻目．短沈線．刺突．	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	注記不明　２Ｔ
	34	2	-	177	B	2	4	—	胴部	ナデ．刻目突帯．撚糸	ナデ	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	
45	35	3	-	2065	C	15	3	—	口縁部	貝殻条痕．突帯	貝殻条痕	灰黄褐色	灰黄褐色	○	○	—	○	
	36	3	-	258	C	7	4	—	胴部	ナデ．刻目突帯．刻目	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	—	○	
	37	3	-	723	C	9	3	—	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄橙色	にぶ黄色	○	○	—	—	
	38	4	-	288 361 516 517 535 552 553 554 561 563 564 566 567 568 569 570	C C B B C C C C B B B B B B — B	8 9 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 — 8	2 3 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	b — b b — — — — — — — — — — — —	口縁部～胴部	ナデ．刺突．短沈線	ナデ．沈線	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	—	—	



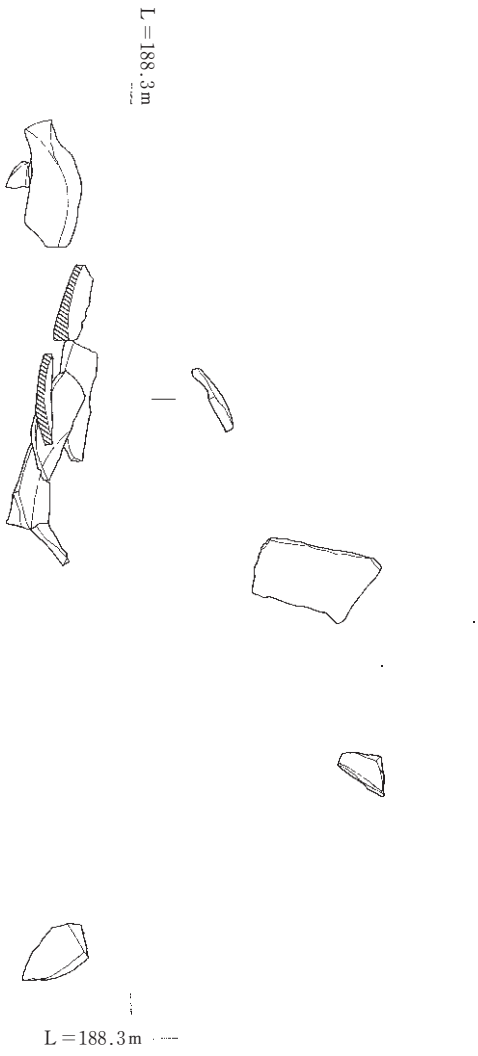
第47図　Ⅴ，Ⅵ類土器実測図

表14　土器観察表（3）

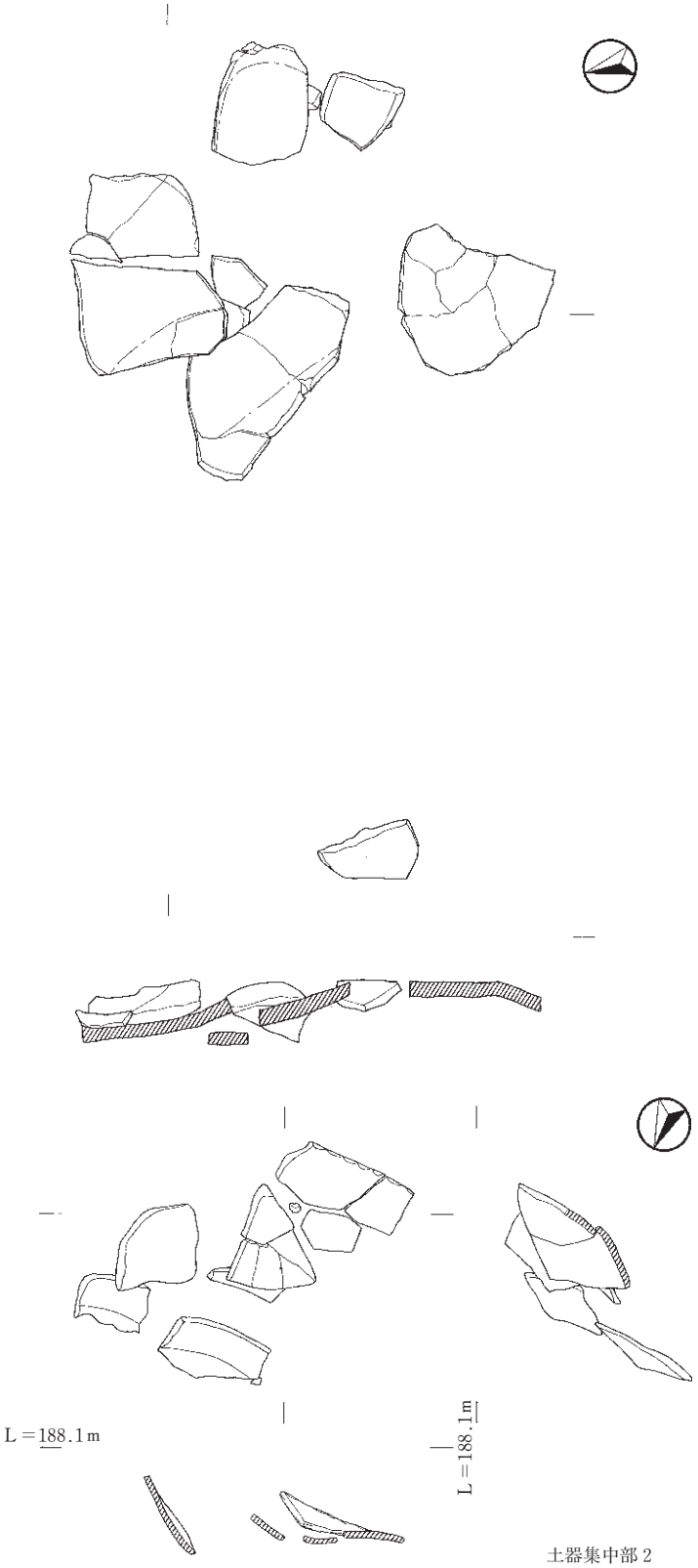
挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
										外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
45	38	4	–	573 617 617 651 653 654 655 657 659 660 661 662 663 664 665 668 669 671 687 688 689 693 693 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 709 714 714 716 716 748 749 750 751 753 754 756 757 759 782 793 794 795 796 797 798 800 801 802 803 805 806 808 809 811 812 813 820 826 835 984 985 1000 1001 1002 1004 1005 1006 1008 1009 1010 1010 1016 1017 1022 – 10— 101– 79— 81— 9––	B C C C C C C B B B B B B B B B C C C C C C B B B B B B B B B B C C C C C C B B B B B B B B B B B B B B B C B B B B B B B B B B B B B B B



第48図　Ⅳ層土器集中部出土状況図



土器集中部１



土器集中部２

(3)　土器集中部

土器集中部１

C－３区，Ⅳ層で出土した。９点の土器が集中していた。１点を除いて全て内器面を上にして出土している。図番号10の手向山式土器である。胴部屈曲部がほとんどである。堀り込み等は確認できなかった。

土器集中部２

C－２区，Ⅳ層で出土した。９点の土器が集中していた。全て内器面を上にして出土している。図番号23の手向山式土器である。堀り込み等は確認できなかった。約１ｍ南側に土器集中部２がある。

表15　Ⅳ層土器集中部観察表

報告書No.	挿図No.	長径(cm)	短径(cm)
土器集中部１	49	310	295
土器集中部２	49	225	151

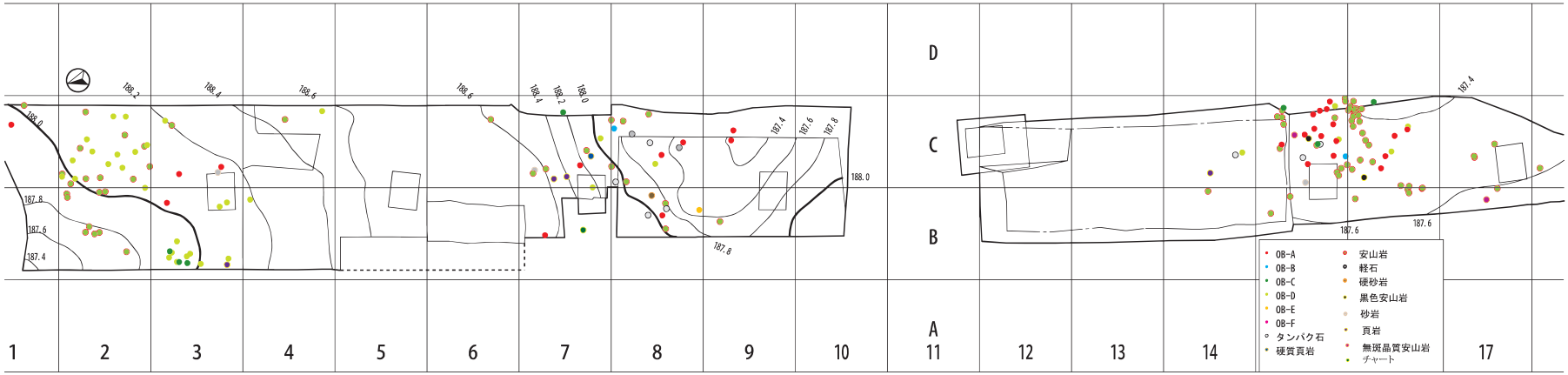
0　20cm

第49図　Ⅳ層　土器集中部実測図

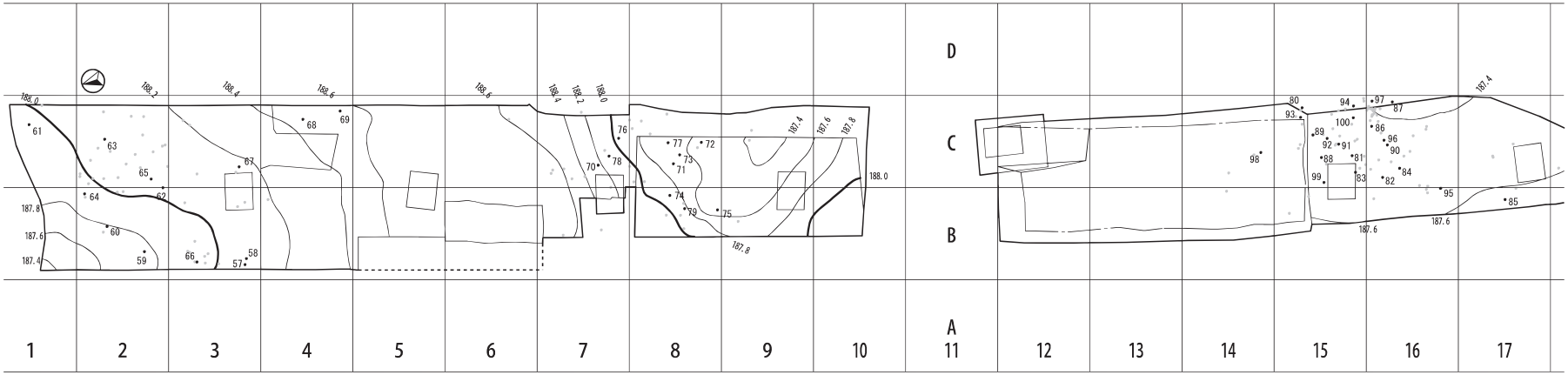
2　石器

57はOB-A製の石鏃の先端部である。58はOB-A製の石鏃である。先端部と片側の脚部が欠損している。59はOB-A製の石鏃である。先端部は針の先状に尖っている。60はOB-A製の石鏃である。先端部と片側の脚部は欠損している。両脚の付け根に抉りが確認される。61はOB-C製の石鏃の一部である。62はOB-C製の石鏃である。基部の先端が少々欠損している。丁寧な作りである。63はOB-C製の石鏃である。完形で，作りは丁寧である。64はタンパク石製の石鏃である。側縁を粗く鋸歯状に仕上げている。65はOB-D製の石鏃の一部である。先端部，両脚部が欠損している。66はOB-D製の石鏃である。中央部に大きく厚みを残す。片側の脚部が欠損している。67はOB-D製の石鏃である。中央部の不純物を基に大きく欠損している。鋸歯状の調整がみられる。68はOB-D製の石鏃である。薄手の剥片を素材とし，腹面に素材の主剥離面を残す。先端部は針の先状に尖っている。側縁を粗く鋸歯状に仕上げている。69はOB-D製の小型の石鏃である。先端部が欠損している。70はOB-D製の石鏃の脚部である。71はOB-D製の石鏃である。先端部付近が欠損している。側縁を鋸歯状に仕上げようとする意図がみられる。72はOB-F製の小型の石鏃である。片側の脚部が欠損している。側縁は鋸歯状に細かく仕上げている。73は頁岩製の石鏃である。扁平な剥片を素材とし，丁寧に仕上げている。側縁は外湾し，抉りは浅い。先端部は縦方向の衝撃により欠損している。素材剥片面を残す。74は硬質頁岩製の石鏃である。側縁は直線上であり，細かく鋸歯状に仕上げている。75は硬砂岩製の石鏃である。薄手の剥片を素材とし，丁寧に仕上げている。側縁は軽く外湾する。先端部は縦方向からの衝撃により欠損している。76は無斑晶質安山岩製の石鏃である。先端は欠損している。77は無斑晶質安山岩製の石鏃である。側縁は鋸歯縁状に仕上げられ，特に脚部の付け根付近の突起が目立つ。

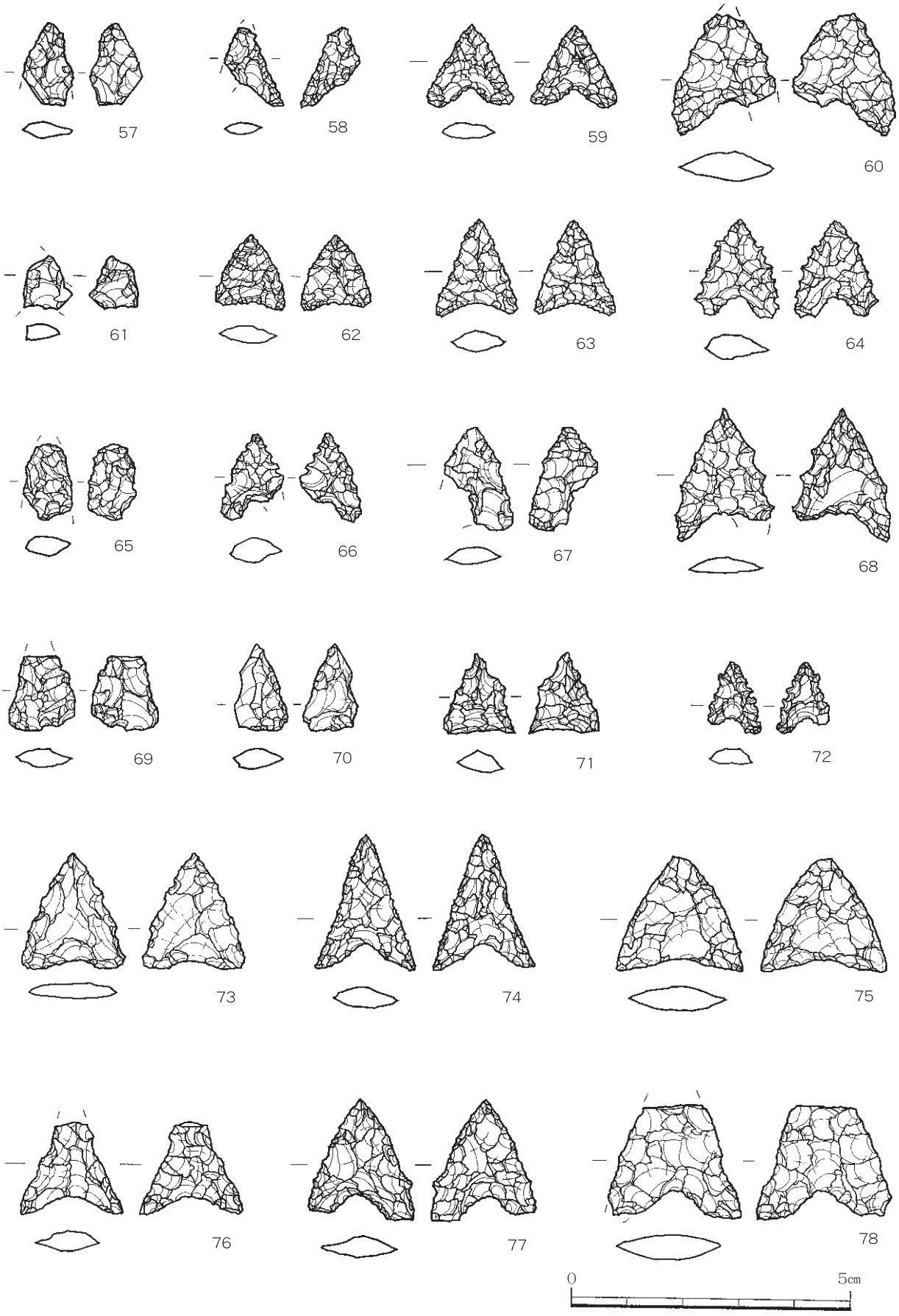
78は黒色安山岩製の石鏃である。押圧剥離は粗い。基部から器身の中央部を突ききる様に先端部に向けての剥離がのびている。79はタンパク石製のスクレイパーである。横長の大型剥片を素材とし，下縁の縁辺に背腹両面への二次加工を施し，刃部を形成している。80はタンパク石製のスクレイパーである。タンパク石でも珪質の少ない部分を利用しており，軽い。素材剥片の縁辺のみの加工によって刃部を形成している。81はOB-A製のスクレイパーである。素材剥片の縁辺に腹面のみからの加工により刃部を形成している。尖頭部を作り出す意図も感じられ，他器種の可能性もある。82は無斑晶質安山岩のスクレイパーである。小型の剥片の縁辺に腹背両面への押圧剥離を施し，刃部を形成している。石鏃未製品の可能性もある83はタンパク石製の石匙である。80同様珪質の少ない部分を利用しており，同一母岩の可能性がある。扁平な素材を横位に利用し，上部に抉りを意識した剥離を，周縁に縁辺のみへの二次加工を施し，刃部を形成している。84はOB-D製の小型の石匙である。OB-Dとしているが，石材の特徴は，佐賀県椎葉川産のOBに類似する。幾度かの再生作業を経ているものと思われる。85はOB-A製の掻器である。やや厚みのある剥片の下端に腹面側から剥離を施し刃部を形成している。刃部には微細剥離痕が観察される。86はOB-A製の掻器である。剥片の端部に腹面からの剥離を施し，刃部を形成している。刃角は浅い。87は，安山岩製の石皿である。表面の高い部分にのみ磨り痕が観察される。88は安山岩製の礫器である。縦長の素材の上端に背腹両面への加工が，下端には腹面のみへの二次加工が確認される。89は安山岩製の石核である。礫全体が赤化しており，被熱後に剥片を剥離している。90は安山岩製の石核である。自然礫の稜を利用して，縦に長い剥片を剥離している。最終的にはステップを起こし，廃棄されている。91は安山岩製の石核である。扁平な素材の自然面を打面として，周縁に剥離作業面を廻らせている。打面は上下の両設である。92は安山岩製の石核である。円礫の分割面を打面として周縁に剥離作業面を廻らせている。単設打面である。93は安山岩製の礫器である。扁平礫の両面に粗い剥離を施し，刃部を形成している。94は安山岩製の小型の叩石である。下端と上端を中心に叩き痕が観察され，特に下端は使用による複数の面を形成している。95は砂岩製の凹石である。棒状の自然礫のなす稜をまたいで両側に2ヶ所の凹みが確認される。96は安山岩製の凹石である。自然礫の異なる面にそれぞれ1ヶ所ずつ凹みが確認される。97は安山岩製の凹石である。円礫の1面の中央部を中心に凹みを形成している。凹みは2ヶ所に分かれる。98は安山岩製の石皿である。扁平な礫の1面の高い面を中心に磨り面が確認される。99は安山岩製の大型の石皿である。自然の大型礫の一面全体に磨り面が確認される。100は安山岩製の剥片2枚の接合資料である。四角形の素材の角の部分から打面を固定して厚手の剥片を連続して剥離している。



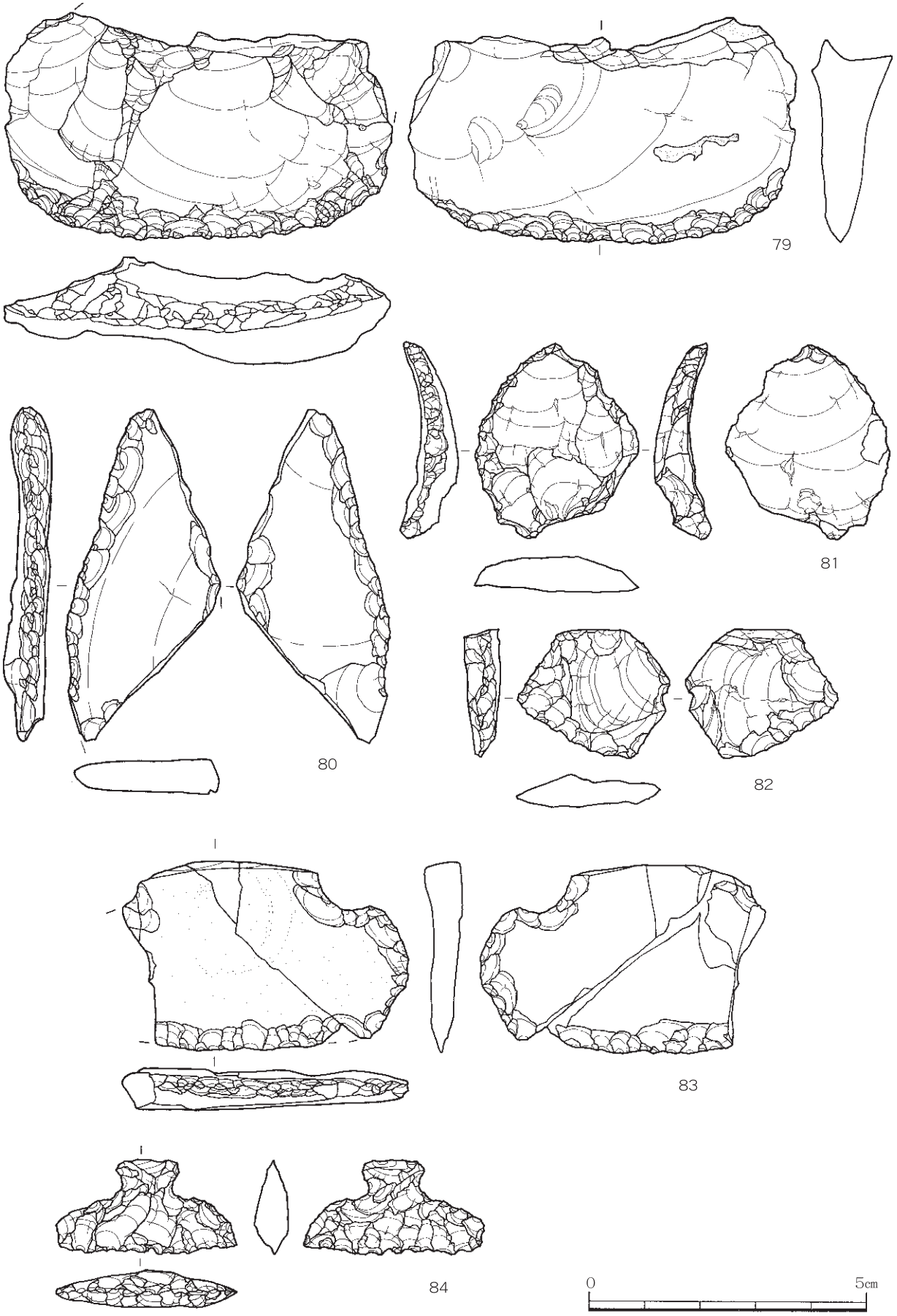
第50図　縄文石器石材別出土状況図



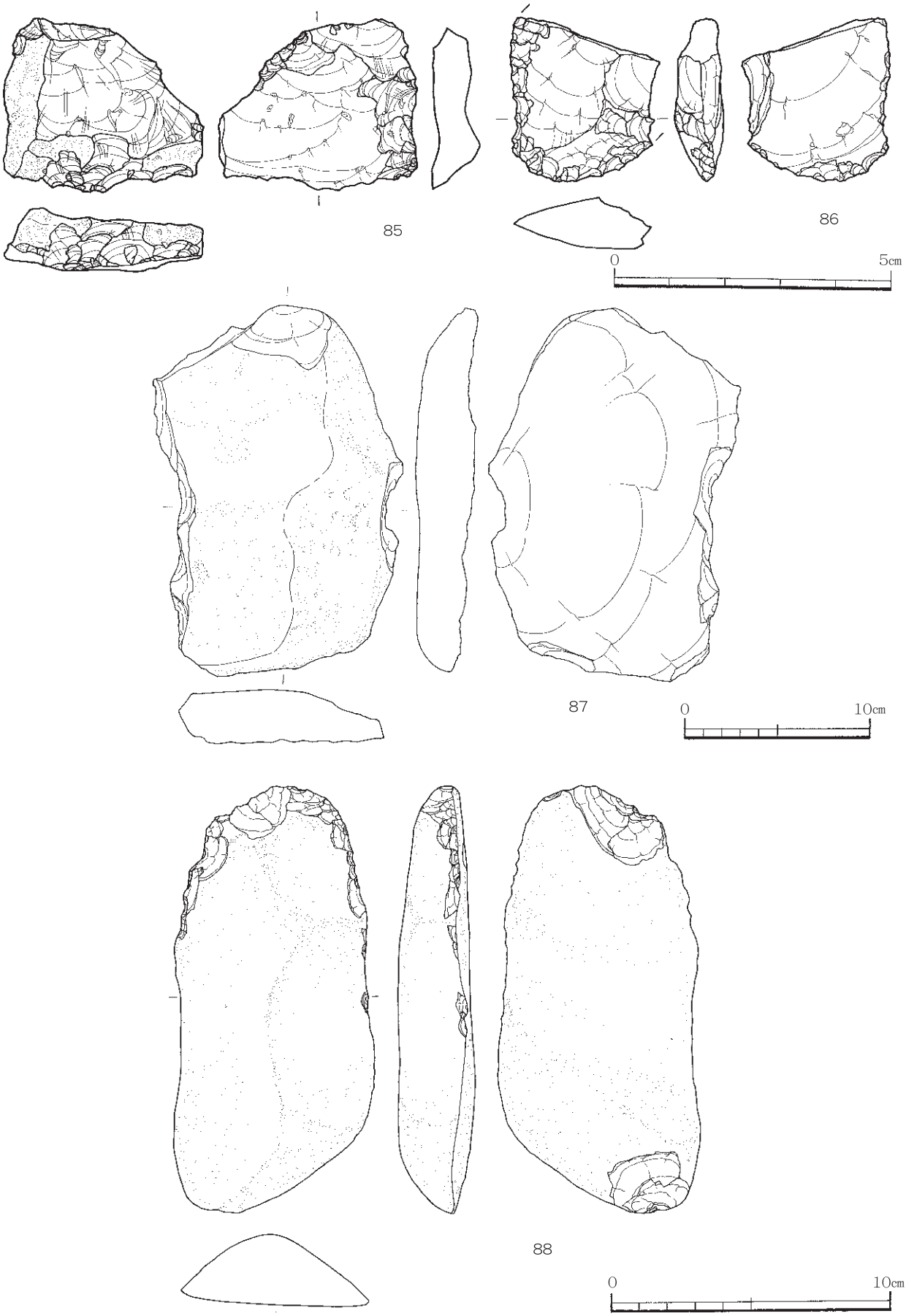
第51図　縄文石器出土状況図



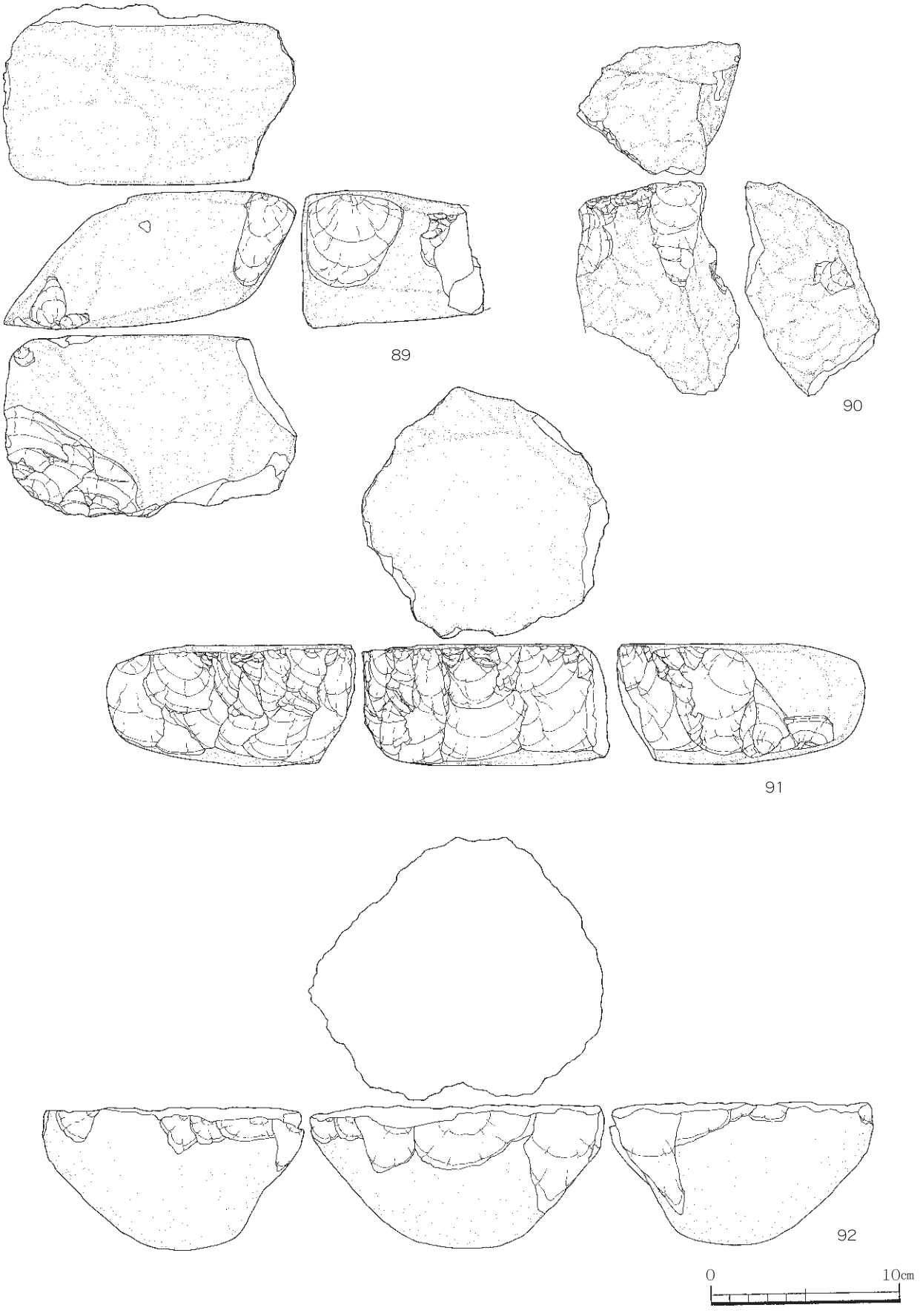
第52図　Ⅳ・Ⅲ層　出土石器（1）



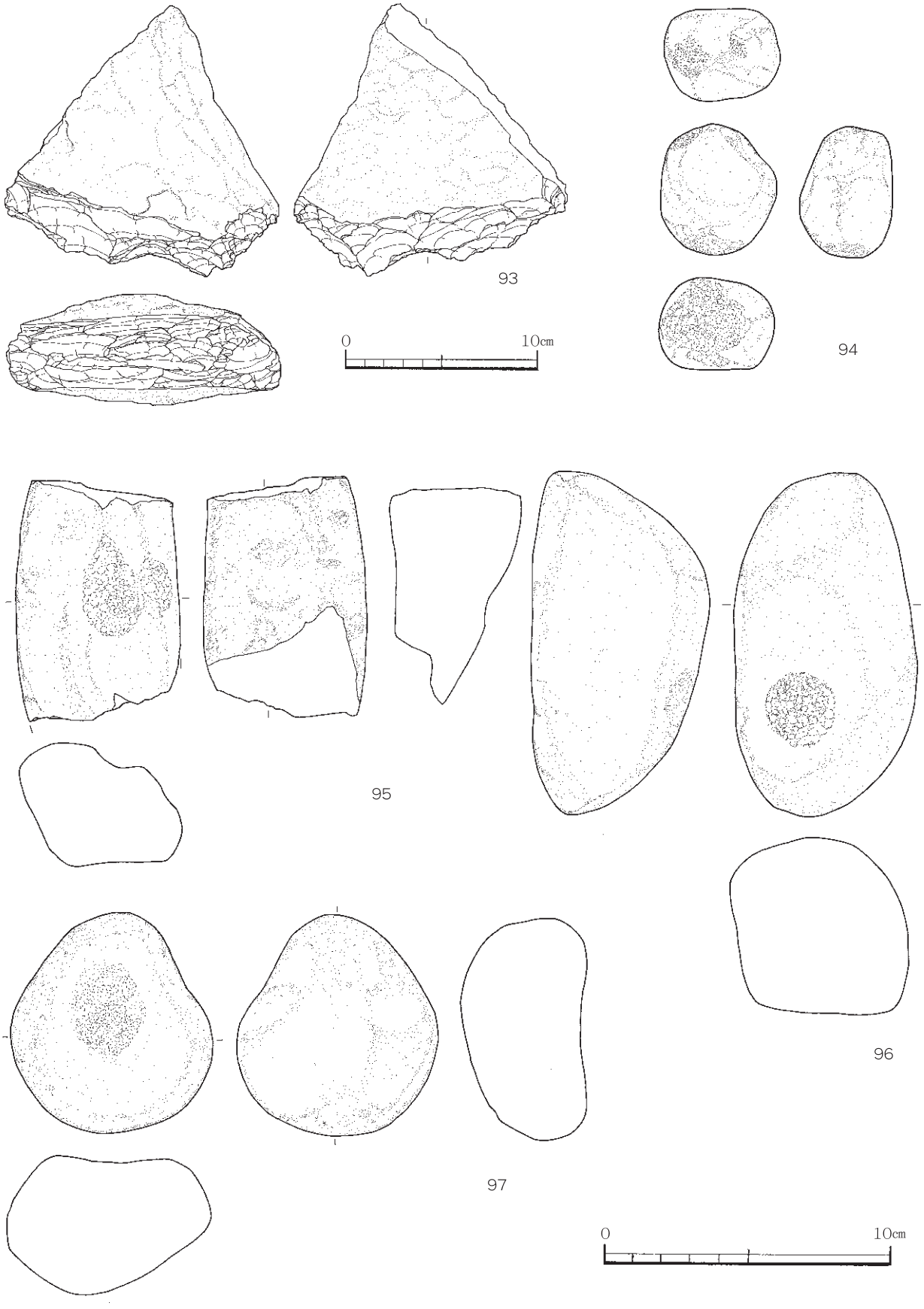
第53図　Ⅳ・Ⅲ層　出土石器（２）



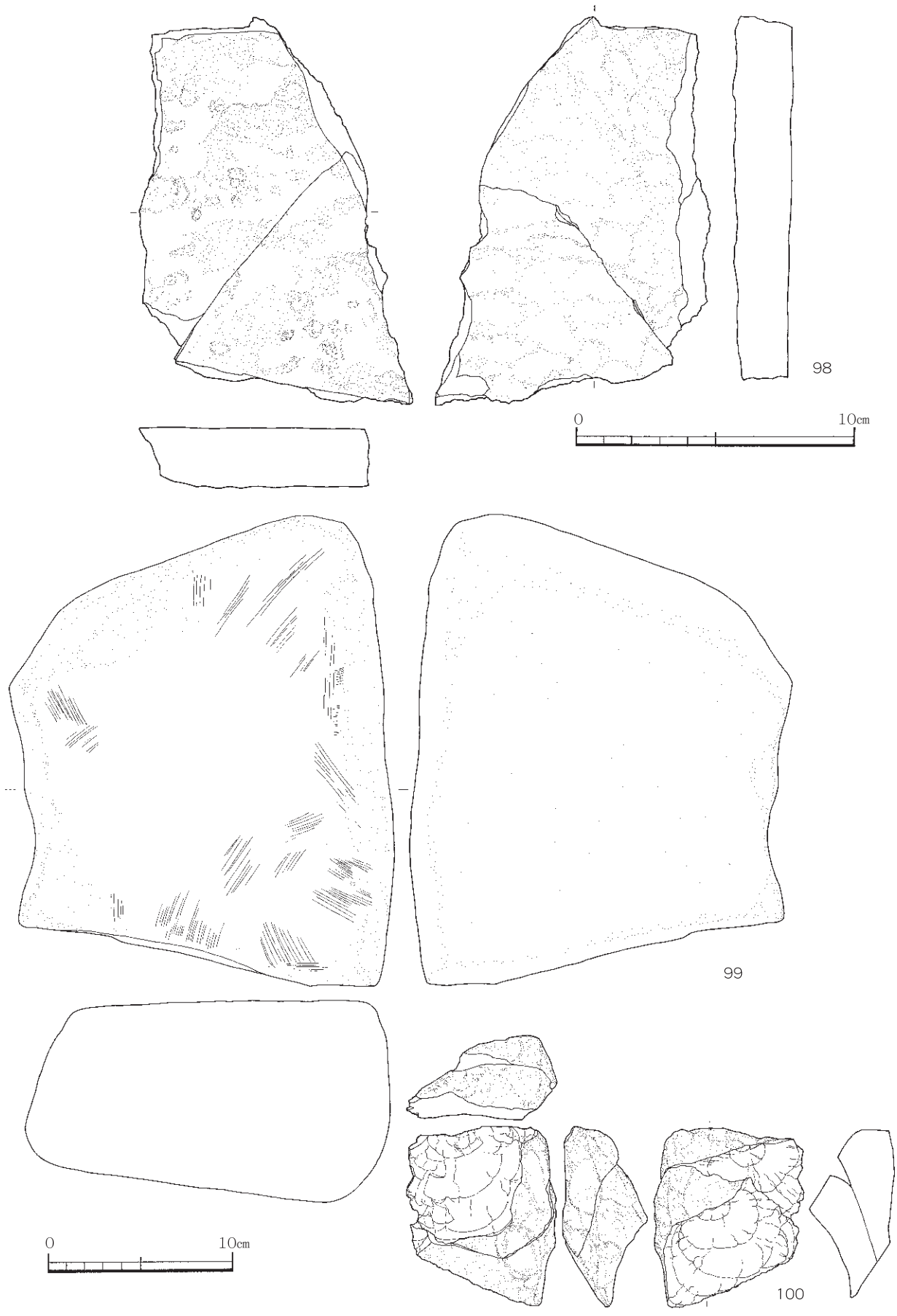
第54図　Ⅳ・Ⅲ層　出土石器（3）



第55図　Ⅳ・Ⅲ層　出土石器（４）



第56図　Ⅳ・Ⅲ層　出土石器（5）



第57図　Ⅳ・Ⅲ層　出土石器（6）

表16　縄文時代実測石器観察表

図番号	遺物番号	器種	石材	層1	層2	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	出土区	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
57	598	石鏃	OB-A	3	-	85.481	23.549	188.262	C-9	1.48	0.95	0.3	0.33
58	214	石鏃	OB-A	4	-	37.668	22.24	188.5	C-4	1.4	1.05	0.22	0.18
59	37	石鏃	OB-A	4	-	4.88	26.834	188.178	C-1	1.48	1.55	0.3	0.45
60	1242	石鏃	OB-A	3	-	158.488	23.461	188.119	C-16	2.18	1.88	0.5	1.37
61	206	石鏃	OB-C	4	-	33.097	11.924	188.234	B-4	0.9	1.38	0.3	0.24
62	1241	石鏃	OB-C	3	-	153.056	28.649	188.115	C-16	1.25	1.25	0.3	0.38
63	1667	石鏃	OB-C	3	-	162.837	29.287	188.075	C-17	1.48	1.5	0.38	0.49
64	2052	石鏃	タンパク石	3	-	157.038	24.724	187.789	C-16	1.75	1.15	0.45	0.69
65	2882	石鏃	OB-D	4	-	148.579	23.811	187.58	C-15	1.36	0.8	0.35	0.38
66	472	石鏃	OB-D	3	-	84.814	22.587	188.313	C-9	1.58	0.95	0.45	0.45
67	2	石鏃	OB-D	5	-	38.465	12.282	188.506	B-4	1.85	1.25	0.3	0.48
68	761	石鏃	OB-D	3	-	78.875	25.361	187.674	C-8	2.4	1.8	0.28	0.75
69	56	石鏃	OB-D	4	-	13.069	25.251	188.16	C-2	1.33	1.18	0.35	0.48
70	55	石鏃	OB-D	4	-	19.4	19.969	188.215	B-2	1.55	0.9	0.38	0.36
71	256	石鏃	OB-D	5	-	48.622	28.309	188.704	C-5	1.41	1.25	0.4	0.45
72	712	石鏃	OB-F	3	-	89.585	17.586	188.162	B-9	0.95	0.95	0.28	0.21
73	1	石鏃	頁岩	5	-	38.313	11.623	188.416	B-4	2.05	1.9	0.25	0.77
74	771	石鏃	硬質頁岩	4	-	77.816	23.406	187.603	C-8	2.45	1.83	0.38	0.92
75	622	石鏃	硬砂岩	3	-	84.431	19.145	188.258	B-9	2.05	2.25	0.43	1.49
76	1682	石鏃	無斑晶質安山岩	3	-	154.23	25.713	188.049	C-16	1.65	1.85	0.38	0.69
77	1644	石鏃	無斑晶質安山岩	3	-	175.085	18.705	188.167	B-18	2.18	1.9	0.4	1.01
78	1243	石鏃	黒色安山岩	3	-	161.802	21.112	188.037	C-17	2.05	2.4	0.45	1.75
79	770	スクレイパー	タンパク石	3	-	84.241	24.863	187.719	C-9	4.13	7.08	1.95	42.04
80	1681	スクレイパー	タンパク石	3	-	155.149	23.263	188.085	C-16	5.03	2.8	0.8	5.01
81	486	スクレイパー	OB-A	2	b	87.845	24.905	188.329	C-9	3.65	2.95	0.75	6.98
82	2058	スクレイパー	無斑晶質安山岩	3	-	155.779	25.331	187.985	C-16	2.35	2.8	0.65	3.88
83	772	石匙	タンパク石	3	-	86.031	17.702	187.694	B-9	3.45	5.2	0.75	8.18
84	2069	石匙	OB-D	3	-	158.641	28.862	187.815	C-16	1.7	3.3	0.65	2.58
85	1313	スクレイパー	OB-A	3	-	163.631	22.084	188.193	C-17	3.1	3.6	1.15	10.59
86	444	スクレイパー	OB-A	3	-	76.644	22.428	188.386	C-8	2.95	2.7	0.9	6.56
87	2030	石皿	安山岩	3	-	162.3	24.624	188.002	C-17	20.5	13.8	3.18	1110
88	3467	礫器	安山岩	4	-	158.603	27.575	187.355	C-16	15.6	7.3	0.7	380
89	16	石核	安山岩	3	b	23.336	15.77	188.213	B-3	7.2	9.9	15.6	1480
90	107	石核	安山岩	4	-	10.901	19.319	188.081	B-2	11.7	8.85	7.2	580
91	2868	石核	安山岩	4	-	161.944	25.142	187.586	C-17	6.6	13.2	13.2	1715
92	2072	石核	安山岩	3	-	168.068	19.902	187.791	B-17	7.65	15.9	14.1	1730
93	2874	礫器	安山岩	4	-	160.64	29.374	187.456	C-17	14.4	14.55	6	990
94	3	叩石	安山岩	4	-	27.385	13.044	188.279	B-3	4.6	4.16	3.2	86.33
95	2888	凹石	砂岩	4	-	155.432	20.552	187.493	C-16	8.6	5.76	4.8	260
96	252	凹石	安山岩	4	-	44.6	27.401	188.689	C-5	12.2	6.5	6.3	670
97	181	磨石・凹石	安山岩	4	-	18.122	20.915	188.100	C-2	7.86	7.2	4.9	360
98	2062	石皿	安山岩	3	-	152.892	27.615	187.712	C-16	14.3	10	2.2	465
99	1300	石皿	安山岩	3	-	158.849	21.661	188.173	C-16	25.8	20.7	11.1	10100
100	1663	剥片・砕片	安山岩	3	-	160.598	26.66	188.126	C-17	9.9	8.1	4.65	290

第５章　Ⅱ層の調査

第１節　概要

Ｂ・Ｃ－８・９区及びＢ・Ｃ－18・19区のⅡ層が残存している範囲から，おおむね古墳時代と古代（平安時代）に該当する土師器と須恵器が出土した。そのうち28点を図化した。遺構は発見できなかったが，後世に削平された可能性が高い。また，北東側に尾根状に伸びる土地が存在しているのでその部分に遺構が残存している可能性がある。

第２節　遺物

１　古墳時代の土器（１～４）

１～３は，丹塗り磨研土器である。底部付近が残存していないので，明らかではないが，高坏の可能性が高い。４は，甕の脚部である。中村直子（中村1986）を参考にすると，脚部がゆるく湾曲しながらハの字状に開くこと，脚台内面の天井部が丸いことなどから，中津野式以降の特徴を持った甕であることが理解される。同様にみた場合，１～３の土器は，丹塗りであることから辻堂原式もしくは笹貫式（古墳時代後半）の特徴を有している。

２　平安時代の土器（土師器：５～14・須恵器：15～28）

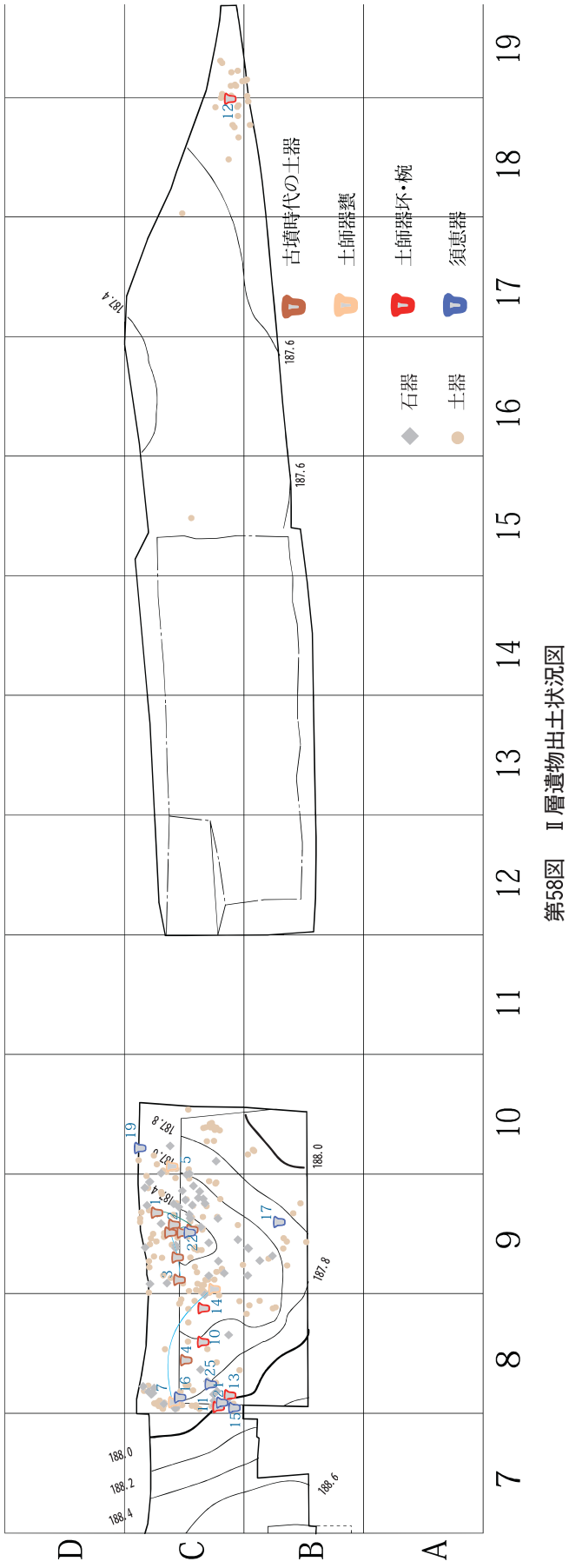
５～９は，土師器甕である。基本的には，外面はナデ，内面は屈曲部から下についてヘラケズリ（縦方向もしくは斜め方向）で器面調整が行われている。ヘラケズリの工具痕の幅はおおよそ1.5～２㎝であった。ただし，風化が激しいものもあり，詳細な観察が困難となっている。９は，外面屈曲部以下にハケメがみられるものである。

10～14は，土師器坏・椀である。10・14には，ヘラによる底部切り離し痕が観察される。13は，ハの字状に高台がつくものである。これは，比較的古い特徴で，奈良時代の可能性も考えられる。

15・17～24は，甕である。外面は格子タタキもしくは平行タタキが，内面は同心円タタキおよび平行タタキが施される。ただし，19・21・22については，底部付近である可能性も考えられる。また，19はタタキのあとにナデが施されている。20は，内面に数カ所の窪みがみられるが，その窪みには目の細かい布目痕が残る。これは布を巻いた小石で器面をおさえたものであるとみられる。

16・26～28は，壷（瓶）である。73は，内面屈曲部付近に指オサエがみられる。26～28は，底部である。胴部下端に横方向のヘラ削りを施し，その後に回転台から底部を切り離しているのが観察される。

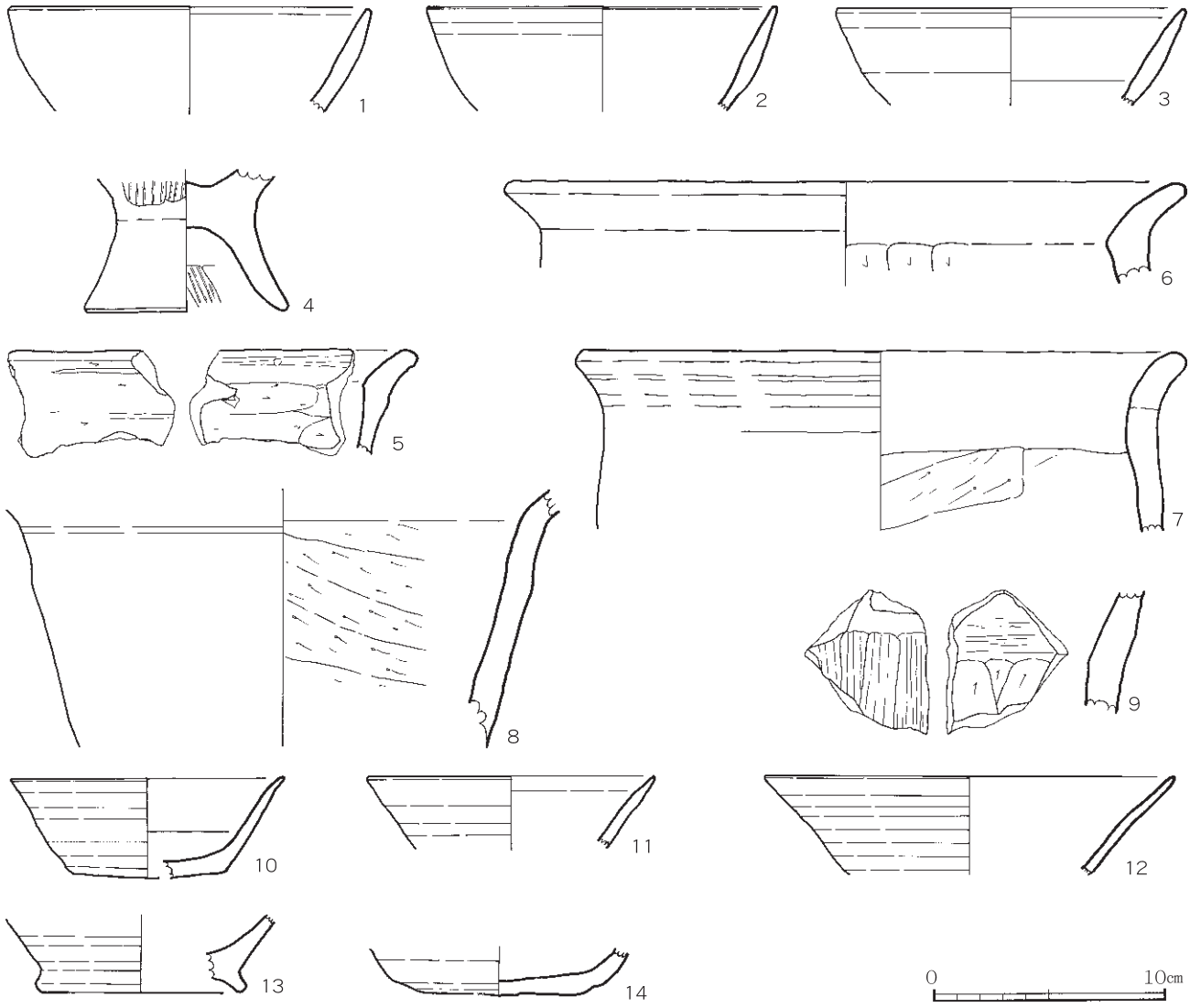
25は，鉢形を呈するとみられるものである。焼成が良好でなく，軟質である。



第58図　Ⅱ層遺物出土状況図

参考文献

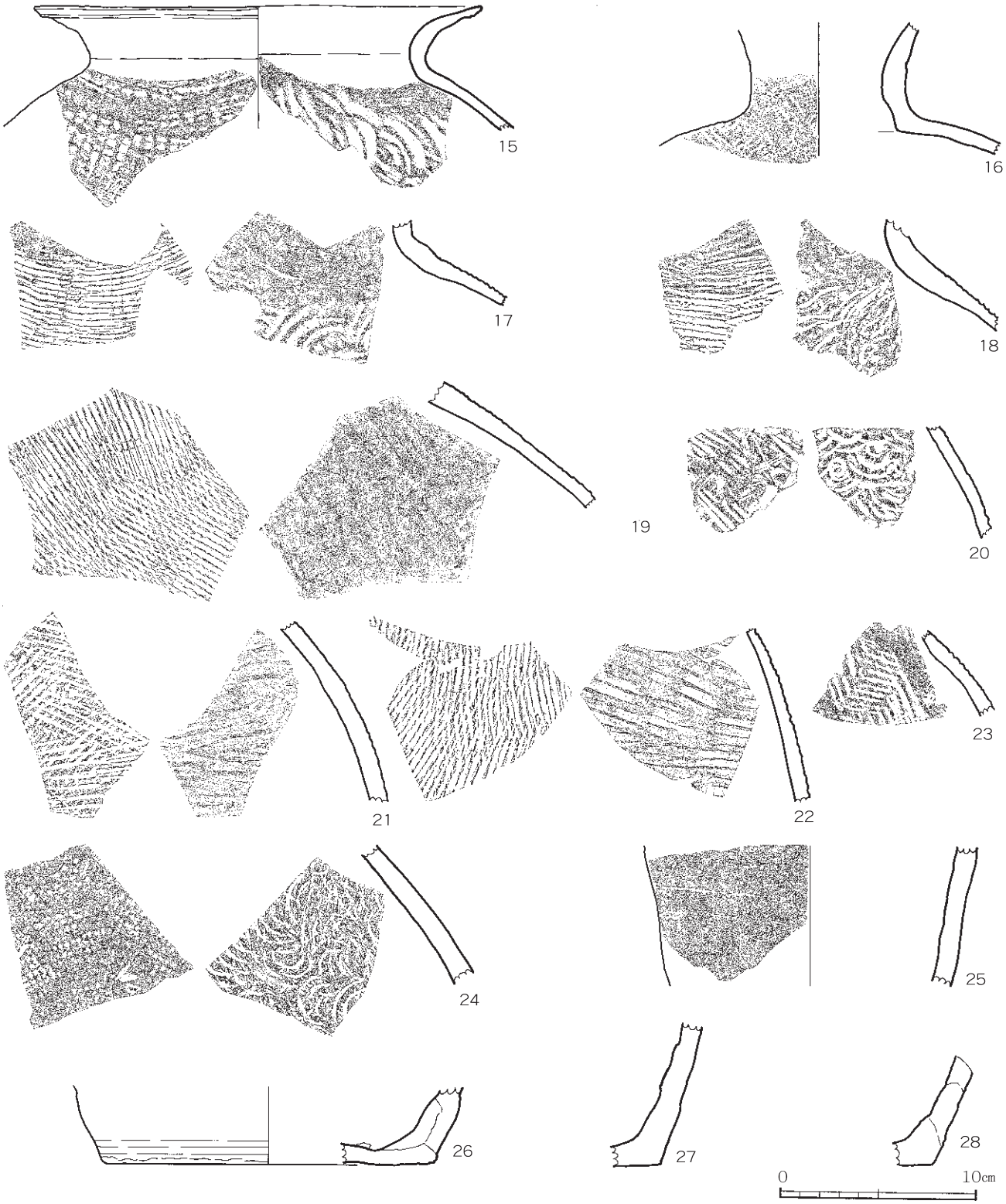
中村直子　1986「成川式土器再」『鹿大考古』第６号



第59図　Ⅱ層土器実測図（1）

表17　Ⅱ層土器観察表

挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
										外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
59	1	7	–	332 334 414	C	9	2	b	口縁部	ミガキ	ミガキ	赤褐色	赤褐色	–	–	–	–	
	2	7	–	371	C	9	2	b	口縁部	ミガキ	ミガキ	明赤褐色	明赤褐色	–	–	–	–	
	3	7	–	292 364 371 372	C	9	2	b	口縁部	ミガキ	ミガキ	赤褐色	赤褐色	–	–	–	–	
	4	7	–	321	C	8	3	–	底部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	–	○	
	5	8	–	423	C	10	2	b	口縁部	ナデ	ナデ.ケズリ	赤褐色	赤褐色	○	○	–	○	
	6	8	–	–	–	–	1	–	口縁部	ナデ	ナデ.ケズリ	橙色	にぶい黄橙色	○	○	–	○	表採
	7	8	–	311 355–	C	8,9,3	2,3	b–	口縁部	ナデ.ハケ目	ナデ.ケズリ	橙色	橙色	○	○	–	○	表採
	8	8	–	A	C	7	–	–	胴部	ナデ	ナデ.ケズリ	橙色	橙色	○	○	–	○	一括
	9	8	–	A	C	8	–	–	胴部	ハケ目.ナデ	ナデ.ケズリ	橙色	橙色	○	○	–	○	一括
	10	9	–	261	C	10	2	b	口縁部	ナデ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	–	–	–	–	
	11	9	–	2661	C	8	2	–	口縁部	ナデ	ナデ	橙色	橙色	–	–	–	–	
	12	9	–	1273	C	18	2	–	口縁部	ナデ	ナデ.ミガキ	にぶい黄橙色	橙色	–	–	–	–	
	13	9	–	436	C	8	–	–	底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	–	–	–	–	埋土
	14	9	–	285	C	9	2	–	底部	ヘラ切り.ナデ	ナデ	浅黄色	浅黄色	–	–	–	–	
60	15	10	–	2664	C	8	2	b	口縁部	ナデ.格子目タキ	ナデ.同心円	灰色	灰色	–	–	–	–	
	16	10	–	312	C	8	2	b	口縁部	格子目タキ	ナデ	灰黄色	にぶ黄色	–	–	–	–	一括
	17	10	–	344	B	9	2	b	胴部	ナデ.平行タタキ	ナデ.同心円	灰黄色	灰黄色	–	–	–	–	
	18	10	–	6400	C	9	2	b	胴部	ナデ.平行タタキ	ナデ.同心円	灰オリーブ色	灰オリーブ色	–	–	–	–	
	19	10	–	421	C	10	2	b	胴部	ナデ.格子目タキ	平行タタキ	暗灰黄色	灰色	–	–	–	–	
	20	10	–	–	–	–	1	–	胴部	平行タタキ	同心円	灰色	灰色	–	–	–	–	表採
	21	10	–	526	C	8	2	b	胴部	格子目タキ	平行タタキ	黄灰色	暗灰黄色	–	–	–	–	
	22	10	–	282 379 A	B C	8,9,10	2	b	胴部	平行タタキ.格子目タキ	平行タタキ	浅黄色	灰白色	–	–	–	–	
	23	10	–	–	–	–	1	–	胴部	平行タタキ	ナデ	暗灰黄色	灰黄褐色	–	–	–	–	表採
	24	10	–	–	B	9	1	–	胴部	格子目タキ	同心円	にぶい黄褐色	灰黄褐色	–	–	–	–	表採
	25	10	–	438	C	8	–	–	胴部	ナデ	ナデ	灰黄色	灰白色	–	–	–	–	
	26	10	–	–	–	–	1	–	底部	ナデ.平行タタキ	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄橙色	–	–	–	–	表採
	27	10	–	–	–	–	1	–	底部	ナデ.平行タタキ	ナデ	灰黄色	にぶい黄橙色	–	–	–	–	表採
	28	10	–	–	–	–	1	–	底部	ナデ.平行タタキ	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	–	–	–	–	表採



第60図　Ⅱ層土器実測図（２）

Ⅵ　杤堀遺跡

第１章　調査の方法

杤堀遺跡は6,612㎡を対象として平成８・９年度に西部4,412㎡，平成14年度に東部2,200㎡の全面調査を実施した。確認調査の結果をもとに表土を重機で除去したところ，Ⅱ層も撹乱を受け部分的にしか残存していなかったためⅢ層以下を人力によって掘り下げた。

Ⅲａ層で古墳時代の甕形土器・壷形土器・高坏等が集中して出土するエリアもあり，住居跡を想定して掘り下げを行ったが，遺構は検出されなかった。

縄文時代は，Ⅲａ層を中心に晩期～前期の土器片や黒曜石の剥片等が出土した。また，第Ⅲ層を埋土とする土坑も検出している。Ⅳ層下部からは早期の集石や土坑が検出され，土器片や石皿・磨石等の石器，黒曜石の剥片等が出土した。

旧石器時代は，Ⅶ層より黒曜石を主要石材とする細石刃文化期のブロックが数多く検出され，その主な遺物は，細石刃・細石核等である。また，Ⅷ層からは黒曜石や砂岩等を用いたナイフ形石器文化期の石器群が出土した。

なお，遺物の番号については，調査年度および時代別に注記されたため取り上げ番号の重なりがあった。そこで，遺物番号の先頭に下記の通り数字を加えることで区別してある。

1XXXXは平成８年度の旧石器時代の遺物，2XXXX は平成８年度の縄文時代以降の遺物，3XXXX は平成９年度の遺物，4XXXX は平成14年度の遺物である。

※　調査時点での遺物番号は XXXX である。

第２章　Ⅷ層の調査

第１節　概要

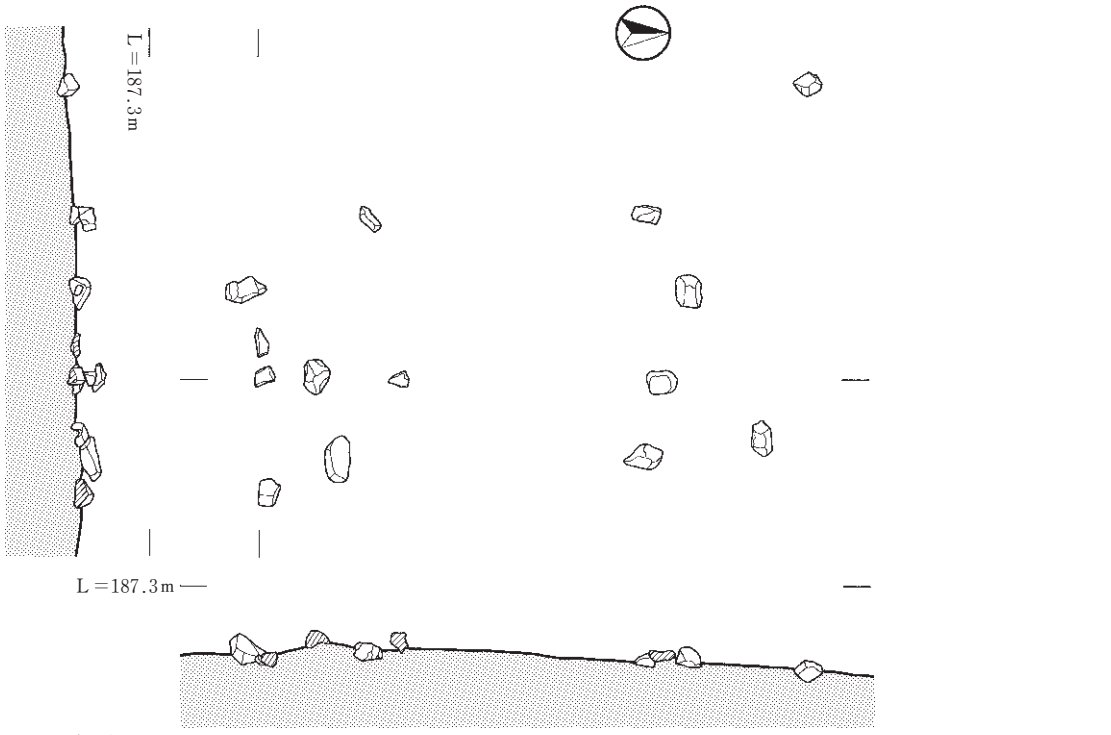
本遺跡の基本土層Ⅷ層の中～下部を中心に，旧石器時代ナイフ形石器文化期の遺構・遺物が出土している。ただし，出土したのは西側の地区のみである。

遺構では礫群を１基検出している。

遺構の認定時期については，検出面を判断基準としているが，詳細な時期認定はできなかった。

第２節　遺構（礫群）

Ⅷ層検出の礫群は，１基のみであるが，その形態については他の層も含め，固有の形態が見られない。そこで，礫数の多少に関わらず一定のエリアを確保すると認識できたものを１礫群として扱い，形態については類型化を行った。類型化については以下に掲載した通りである。

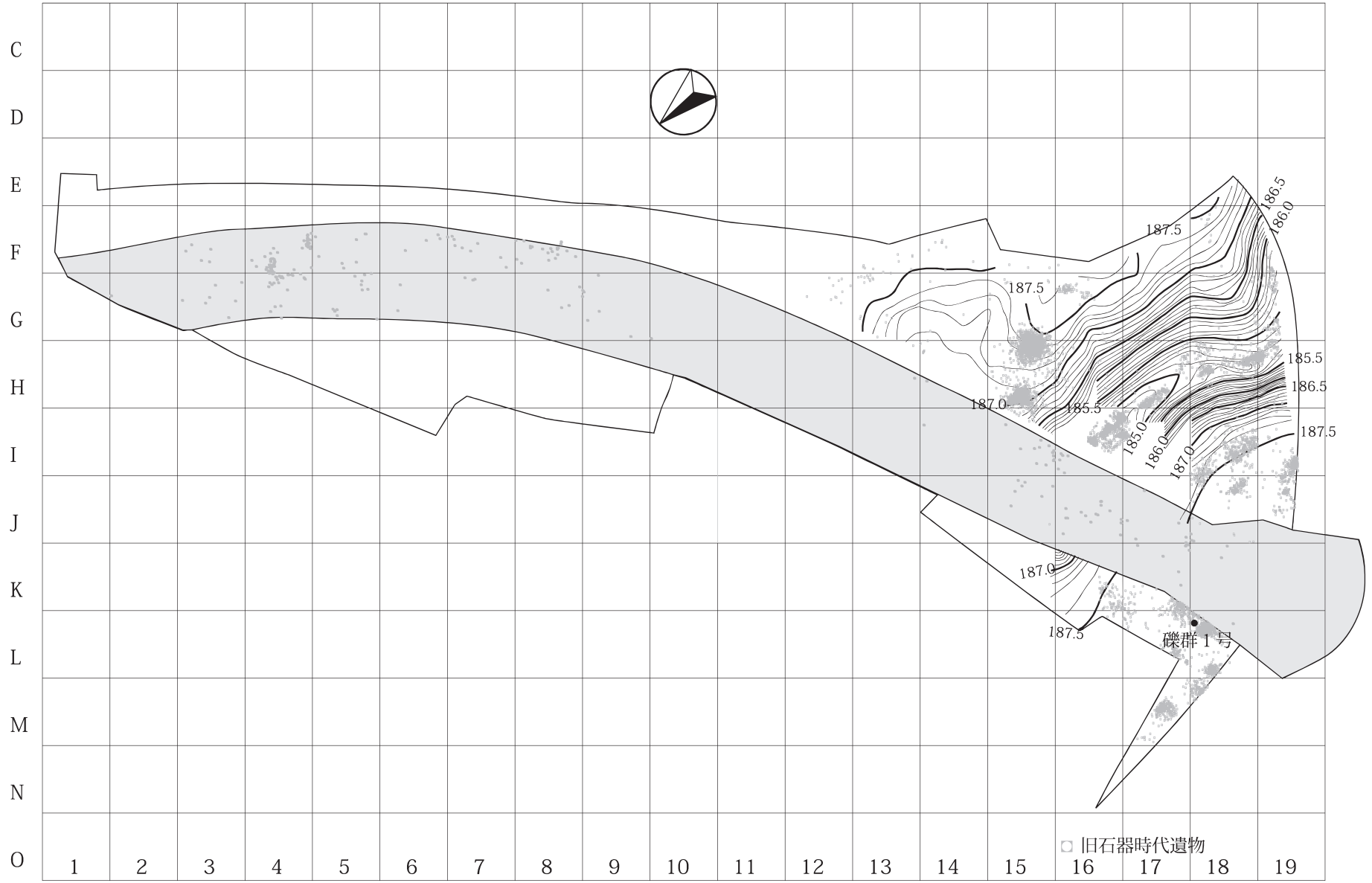


第61図　Ⅷ層遺構実測図

表18　Ⅷ層礫群観察表

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
1	61	ⅢA	14	156	112	14320	753.68	100	H8-1

第62図　調査区と周辺地形図



第63図　Ⅷ層礫群配置図

Ⅰ類礫群　人為的掘り込み遺構を伴う礫群で，礫の詰まり方でさらにA，B，Cに細分した。
ⅠA類　掘り込み遺構を伴い，礫がしっかり詰まっている。
ⅠB類　掘り込み遺構を伴い，礫が少ない。
ⅠC類　掘り込み遺構を伴い，礫は0～数個。
Ⅱ類礫群　掘り込み遺構を検出できないが，礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。
Ⅲ類礫群　礫の集中もない礫群で，礫の密粗でさらにA，Bに細分した。
ⅢA類　礫の中心が想定できる。
ⅢB類　散礫状態。

1号礫群

L－18区のⅧb層で検出した。156㎝×112㎝の範囲に14個の礫を確認した。10㎝程度の角礫が多く，赤化している礫もある。検出状況は散礫状態であるが，遺跡の中では比較的礫が集中して見られることから礫群として認定した。（ⅢA類）

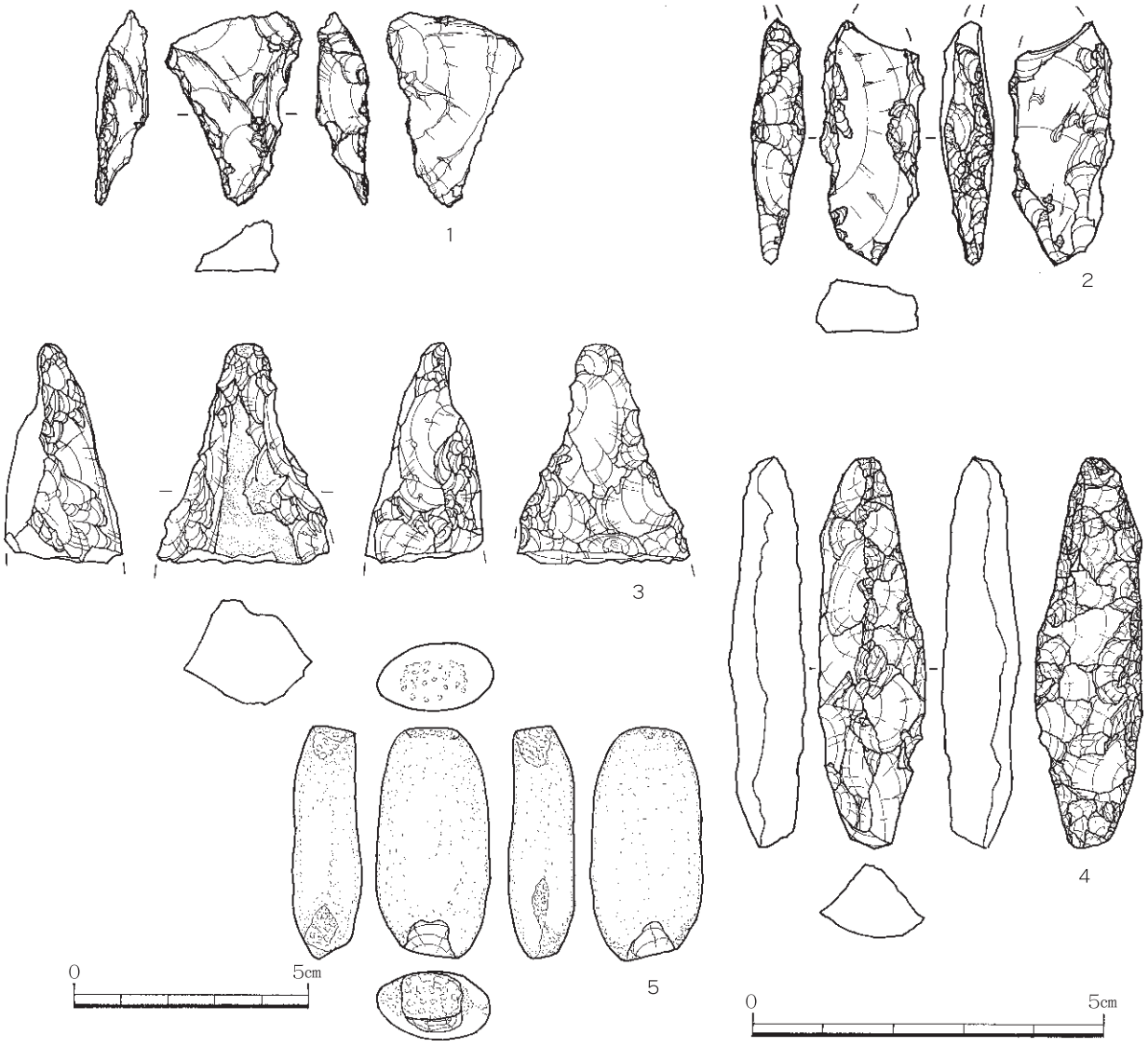
第3節　遺物

1　石器群の概要

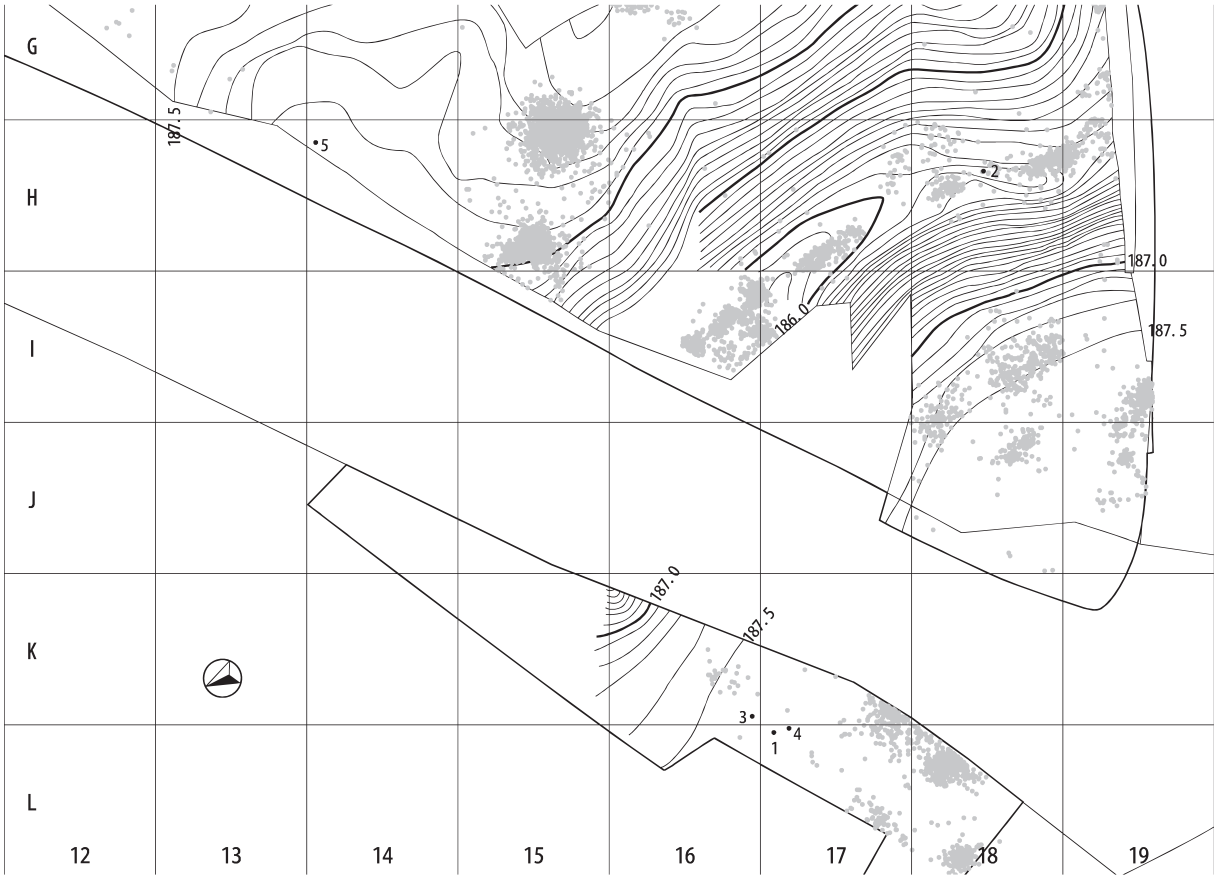
Ⅷ層として取り上げた遺物は総数151点である。しかし，ブロックの平面状況から，Ⅶ層ブロックの残りと捉えられるものがほとんどであり，実質的にⅧ層文化層として確実に捉えられるのは少ない。

2　石器

1はOB-A製のナイフ形石器で，切出形ナイフ形石器に帰属する。寸詰まり剥片を横位に利用し，右側縁に急角度の，左側縁に簡易なブランティングを施している。刃部に微細な剥離痕が観察される。2はOB-B製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し，両側縁に腹・背両面から90°に近い角度でブランティングを施している。刃部は欠損している。3はOB-B製の三稜尖頭器であ



第64図　Ⅷ層　出土石器



第65図　Ⅷ層　遺物出土状況図

る。両側縁に急角度な二次加工，腹面には両側からの平坦剥離を施し，整形している。欠損品である。4は硬質頁岩製の三稜尖頭器である。三面に入念な加工が施されている。腹面への調整が最後に行われている。5は砂岩製の小型のハンマーストーンである。両極に垂直方向の打撃による潰れが観察され，使用頻度の高さから平坦面が形成されている。また，肩部にも叩きによる潰れが確認され，振り下ろしによる使用も推定される。

第３章　Ⅶ層の調査

第１節　概要

本遺跡の基本土層Ⅶ層から，旧石器時代細石刃文化期の遺物が大量に出土している。しかし，ナイフ形石器文化期と同じく出土したのは西区のみである。

第２節　遺構

ブロック20基が検出された。ブロックの分類については，平面分布状況から認定し，分類を行った。各ブロックの概要は下記のとおりである

Aブロック

総数225点である。構成石材は，OB-Dが220点と最も多く，他にOB-A，黒色安山岩，頁岩がそれぞれ1点ずつ，OB-Cが2点である。

製品は細石刃核2点，細石刃49点，スポール10点，スクレイパー1点である。

Bブロック

総数111点のブロックである。構成石材はOB-Dが109点でほとんどを占め，OB-Aが2点である。

製品は細石刃16点，スポール1点である。

Cブロック

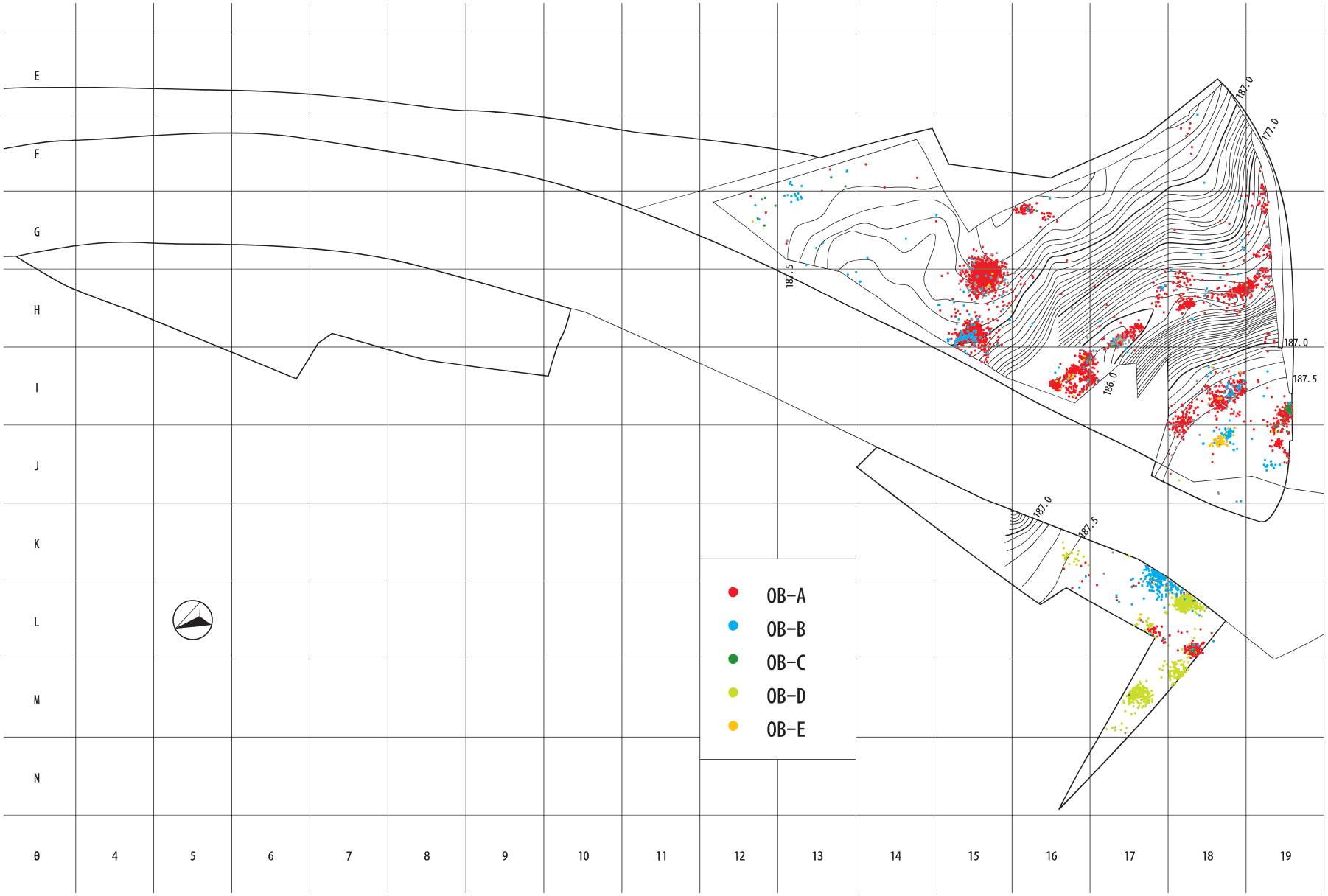
総数405点のブロックである。構成石材はOB-Dが378点，OB-Aが11点，OB-Bが7点，黒色安山岩が5点，OB-Cが2点，安山岩が1点である。

製品は細石刃核2点，細石刃94点，スポール4点，石鏃1点，二次加工剥片1点である。

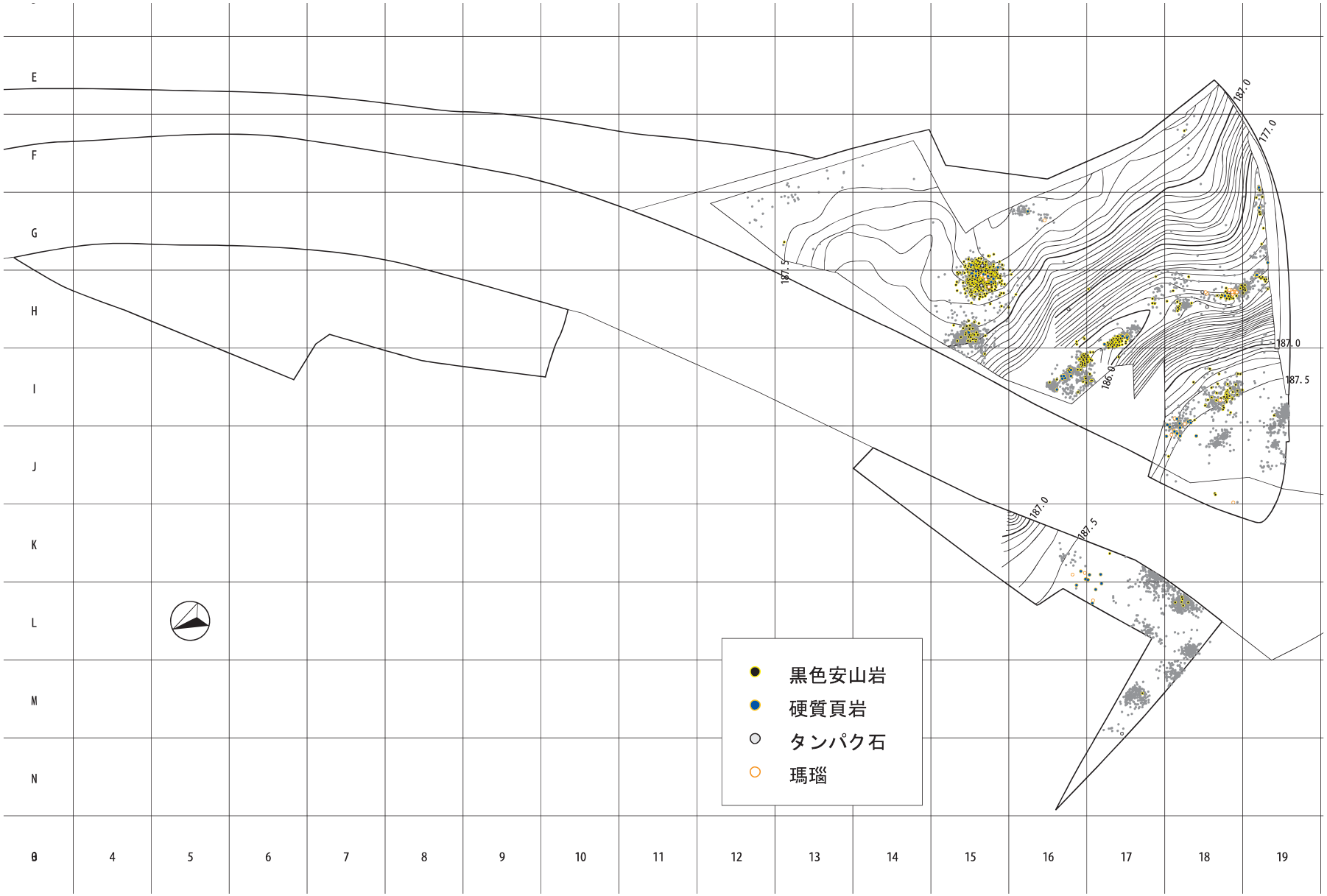
Dブロック

総数40点のブロックである。構成石材はOB-Dが26点，硬質頁岩が4点，OB-Aが3点，OB-Bが3点，瑪瑙が3点，黒色安山岩が1点である。

製品は細石刃16点，スポール3点である。



第66図　Ⅶ層石材別出土状況図（１）



第67図　Ⅶ層石材別出土状況図（２）

Eブロック

総数77点のブロックである。構成石材はOB-Aが46点，OB-Dが27点，OB-Bが3点，無斑晶質安山岩が1である。

製品は細石刃核2点，細石刃13点，細石刃核調整剥片1点，二次加工剥片1点である。

Fブロック

総数226点のブロックである。構成石材はOB-Aが210点，OB-Dが8点，OB-Bが4点，OB-Cが4点である。

製品は細石刃核2点，細石刃12点，打面再生剥片1点である。

Gブロック

総数218点のブロックである。構成石材はOB-Bが187点，OB-Dが17点，OB-Aが11点，OB-Cが2点，黒色安山岩が1点である。

製品は細石刃核1点，細石刃4点，スポール3点，二次加工剥片1点である。三稜尖頭器1点も確認されているが，共伴については疑問である。

Hブロック

総数387点のブロックである。構成石材はOB-Aが339点，OB-Cが26点，OB-Bが18点，OB-Eが2点，黒色安山岩が1点，頁岩が1点である。

製品は細石刃核6点，細石刃58点，スクレイパーが1点，石核1点である。

Iブロック

総数132点のブロックである。構成石材はOB-Eが63点，OB-Bが62点，OB-Aが6点，OB-Cが1点である。

製品の出土はみられず，全て剥片，砕片類である。

Jブロック

総数292点のブロックである。構成石材はOB-Aが208点，OB-Bが33点，黒色安山岩が45点，OB-Eが5点，瑪瑙が1点である。

製品は細石刃核1点，ブランク1点，スクレイパー1点，微細剥離痕のある剥片1点である。

Kブロック

総数122点のブロックである。構成石材はOB-Aが102点，硬質頁岩が14点，黒色安山岩が1点，無斑晶質安山岩が1点，瑪瑙が4点である。

製品は石核1点，微細剥離痕のある剥片が1点である。

Lブロック

総数47点のブロックである。構成石材はOB-Aが40点，黒色安山岩が5点，硬質頁岩が2点である。

製品は石核1点，微細剥離痕のある剥片が1点である。

Mブロック

総数462点のブロックである。構成石材はOB-Aが377点，黒色安山岩が54点，瑪瑙が11点，タンパク石が10点，OB-Bが5点，OB-Dが1点，硬質頁岩が4点である。

製品は細石刃核1点，細石刃1点，石核2点，二次加工剥片1点である。

Nブロック

総数166点のブロックである。構成石材はOB-Aが144点，OB-Bが8点，黒色安山岩が14点である。

製品は石核1点，細石刃1点である。

Oブロック

総数201点のブロックである。構成石材はOB-Aが99点，黒色安山岩が85点，OB-Bが8点，OB-Cが3点，硬質頁岩が5点，OB-Dが1点である。

製品は石核4点，微細剥離痕のある剥片1点である。

Pブロック

総数695点のブロックである。構成石材はOB-Aが588点，黒色安山岩が71点，OB-Bが13点，OB-Eが9点，OB-Dが3点，硬質頁岩が9点，OB-Cが1点，無斑晶質安山岩が1点である。

製品は石核9点である。

Qブロック

総数1,048点のブロックである。構成石材はOB-Aが951点，黒色安山岩が30点，OB-Bが63点，OB-Dが2点である。

製品は細石刃核1点，細石刃2点，ブランク1点，石核6点，微細剥離痕のある剥片が1点である。

Rブロック

総数2,298点のブロックである。構成石材はOB-Aが1,520点，黒色安山岩が732点，OB-Bが20点，硬質頁岩9点，瑪瑙が5点，OB-Dが4点，タンパク石が3点，OB-Eが2点，OB-Cが1点，玉髄1点，頁岩が1点である。

製品はナイフ形石器1点，石核6点，細石刃5点，ブランク2点，二次加工剥片1点である。

Sブロック

総数68点のブロックである。構成石材はOB-Aが62点，OB-Bが3点，OB-Cが1点，硬質頁岩が1点，瑪瑙が1点である。

製品は細石刃核1点，細石刃1点である。

Tブロック

総数38点のブロックである。構成石材はOB-Bが22点，OB-Cが7点，OB-Aが7点，OB-Dが1点，黒色安山岩1点である。

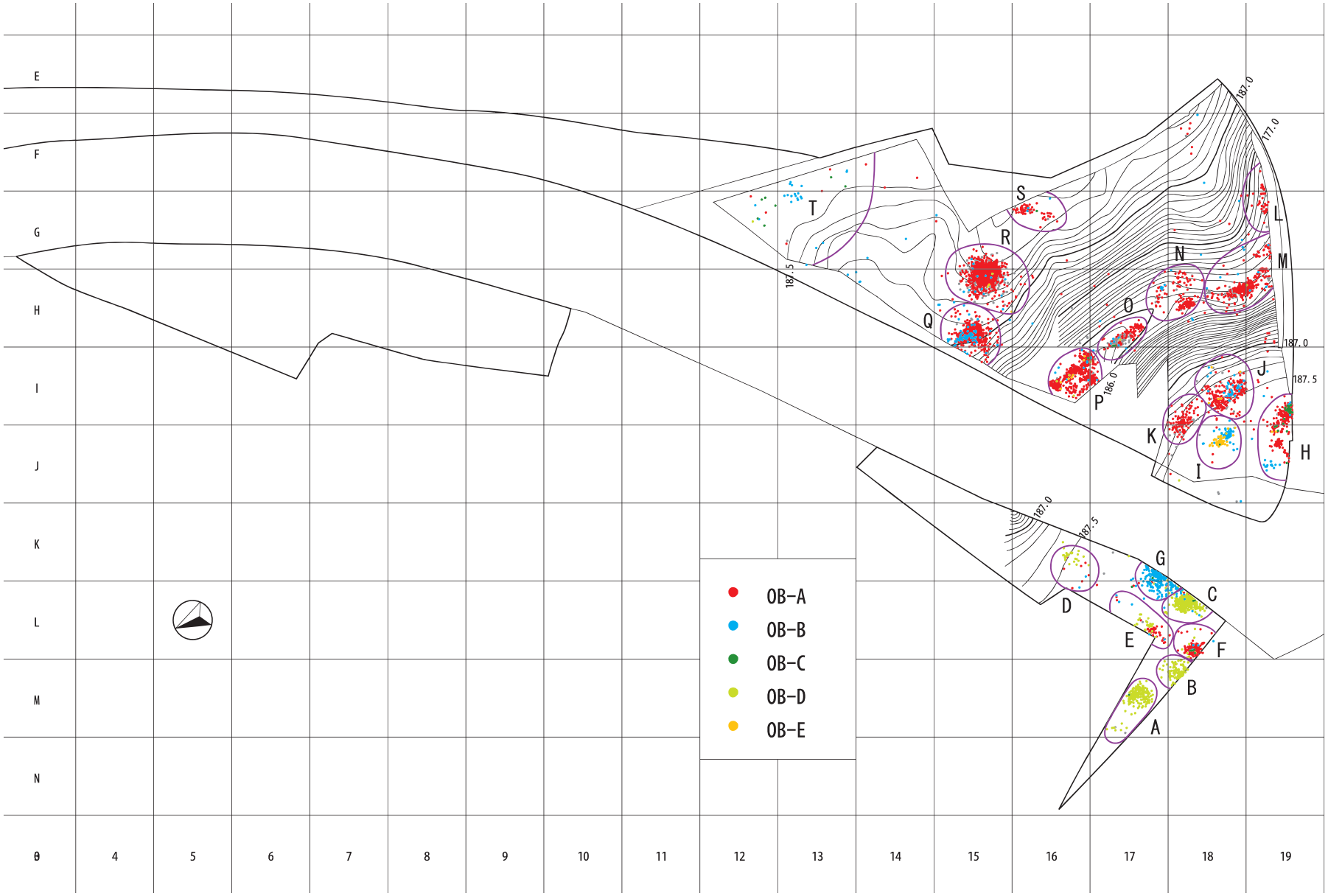
製品は細石刃5点，スクレイパー1点である。

第3節　遺物

1　石器群の概要

Ⅶ層の遺物は総数7,112点である。出土状況はその平面的分布状況から，20基のブロックに分類した。

出土遺物は細石刃核，細石刃等である。細石刃核には石材，技術ともに西北九州の泉福寺洞穴資料と類似するものが含まれ，注目される。



第68図　Ⅶ層ブロック配置図

A・Bブロック

6はOB-D製の細石刃核である。作業面を2面持つ。最初の作業面は縦型スポールを剥出することにより得られた打面に，打面調整を施しながら細石刃の剥離を進めている。2度目の作業面は自然面を打面とし，打面調整を施さず，旧作業面と斜行する形で細石刃の剥離が行われている。7はOB-D製の細石刃核である。主剥離面を横位に利用している。打面は横方向からの剥離により二次的に形成されたもので，傾斜している。打面調整を施しながら細石刃の剥離を進めている。底面に自然面を残している。

8はOB-D製の縦型スポールである。背面は剥離面であるが，風化が進行しており，自然面として捉えた。打点側は欠損している。9はOB-D製の縦型のファーストスポールである。自然面のある片側面に整形加工を施し，その加工面を打面にしてもう一方の側面に入念な整形，調整加工を施し，稜を形成し，スポールを剥出している。打面側が欠損している。10～18は細石刃である。点打面では幅狭で，大型であることに特徴がある。19は頁岩製の石器で，器種に関しては，石槍未製品，スクレイパー，石斧を候補に検討を行ったが，現状ではスクレイパーに帰属すべきと判断した。なお，石槍に関しては槍としての成形剥離工程が異なる点，また，稜に若干の磨滅痕が確認されることから，石斧の可能性も残されている。

Cブロック

20はOB-D製の縦型のファーストスポールで、大剥離面で構成する側面と，自然面で構成する側面で構成している。自然面で構成する面には、入念な成形，整形剥離（加工）を施している。尾部が欠損しているが，後掲のとおり，同じCブロック内の遺物と接合している。21はOB-D製の細石刃核である。打面は縦のスポール剥出により形成されており，両側面の石核調整が入念に施されている。当遺跡出土のOB-D製細石刃核は，石核整形が簡易なものが多く，当資料は異質である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。22はOB-D製の細石刃核である。打面は再生されており当初の形成過程は明らかでない。石核整形は複数の大剥離により行われており，狭長な作業面から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。23はOB-C製の石鏃である。24はOB-D製の細石刃剥出時のセカンドスポールである。左側面にスポール剥出に先立つ稜形成時の剥離が残されている。25～36は細石刃である。

Dブロック

37，38は細石刃剥出の開始時に剥離される細石刃剥離に伴うファーストスポールである。OB-D製である。入念な調整により稜が形成され，押圧剥離により剥離されている。打面は点状である。39～46はOB-D製の細石刃である。

Eブロック

47はOB-D製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，反対側に下縁からの整形，調整を施す。打面は少なくとも2回以上の縦方向の剥離により形成されている。側面の一部に自然面を残す。48はOB-D製の細石刃核である。素材形態は明らかではないが，片側面は自然面，もう片側面は下縁からの整形，調整剥離により構成される。打面は縦方向の剥離により形成されている。49はOB-D製の細石刃核調整剥片である。作業面を斜めに切る形で調整をしている。50，51はOB-D製の細石刃である。

Fブロック

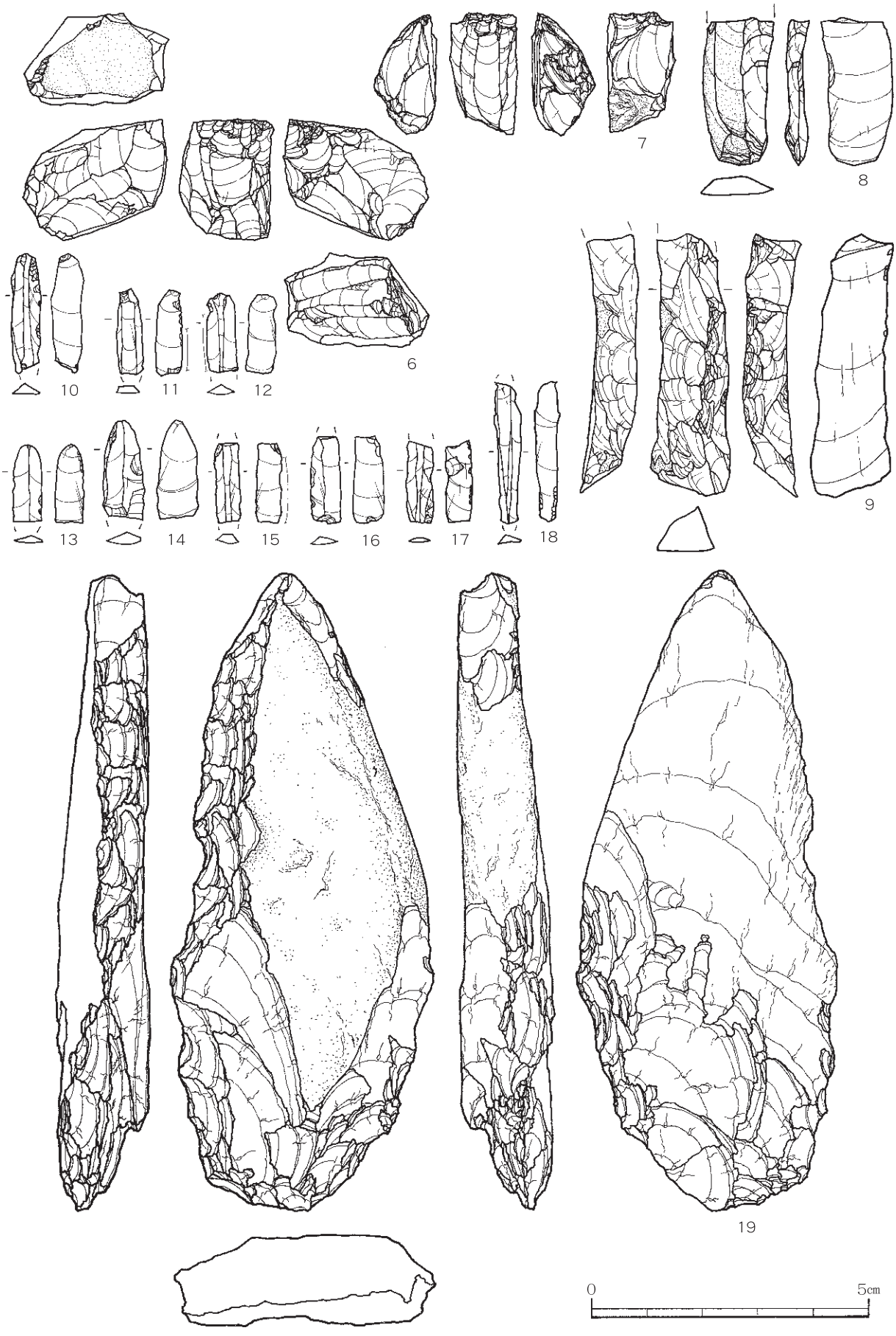
52はOB-D製の細石刃核である。本遺跡出土の細石刃核の中で最も大型のものである。円礫の角度の急な部分を利用して得た剥片を素材とし，横方向からの複数の剥離により打面を形成する。片側面にのみ下縁調整を施す。横型スポールとの接合がみられる資料である。53はOB-D製の打面再生剥片である。縦方向の剥離により形成された打面に，打面調整を施しながら細石刃を剥出し，作業面側からの打面再生を行っている。54はOB-A製の打面再生剥片である。入念な打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。細石刃核の側面からの再生剥片である。55～60は細石刃である。

Gブロック

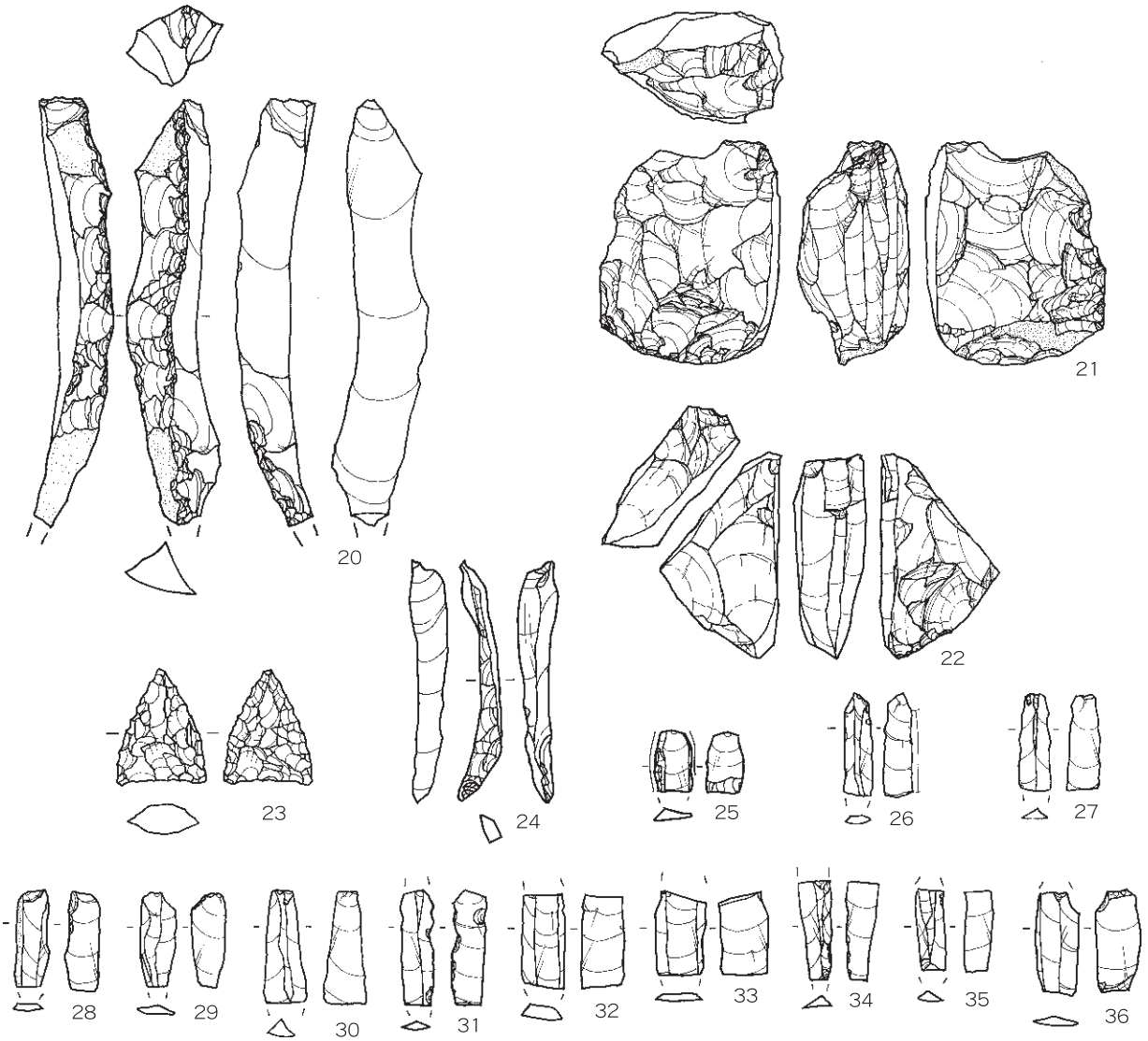
61はOB-D製の細石刃核である。最終作業面の反対側にも旧作業面があり，側方からの打面形成剥離により切られている。右側面の下縁からの剥離も作業面である可能性がある。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。62はOB-C製の細石刃である。63，64はOB-D製のスキー状スポールである。前段階のスポール剥出後，簡易な調整により再度稜を形成し，再びスポールを剥出している。いずれも欠損している。65はOB-A製の三稜尖頭器である。横長の剥片を素材とし，両側縁に急角度の加工を施している。稜上調整は簡易である。先端部が欠損している。当ブロックを構成する石材とは異なることから，時期的共伴の可能性は低いと考えている。

Hブロック

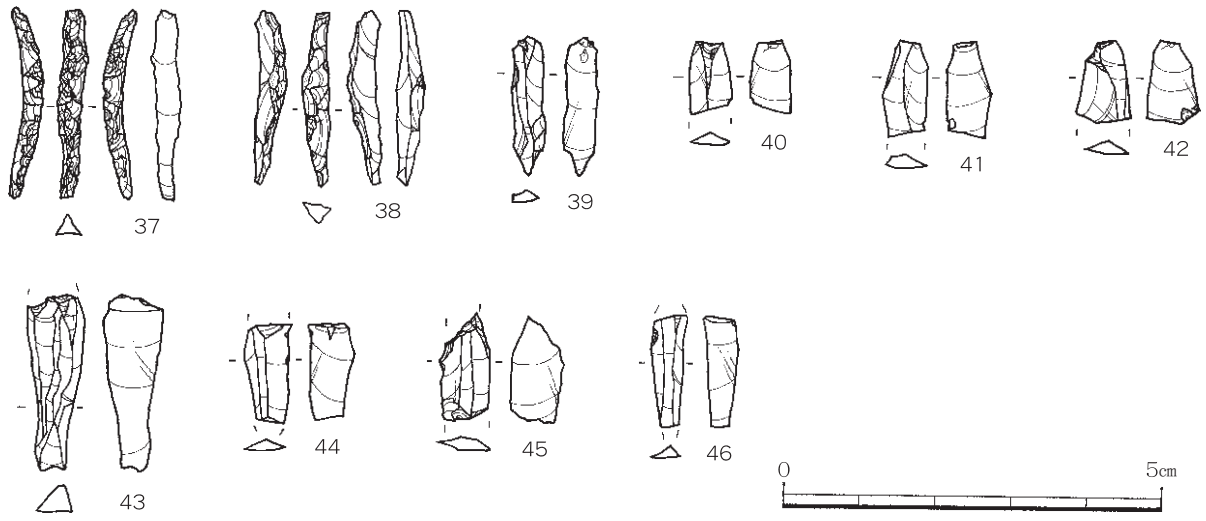
66はOB-A製の細石刃核である。打面は両側方からの剥離により形成されている。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。背面にスクレイパー状の刃部を形成しており，転用の可能性がある。67はOB-A製の細石刃核である。各面とも大剥離により構成され，細かい石核調整みられない。打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。68はOB-A製の細石刃核である。厚手の剥片を素材とし，大剥離により打面を形成した後打面から周辺に石核整形，調整を施している。打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。69はOB-A製の細石刃核である。石核整形により角柱状の素材を作り出し，求心



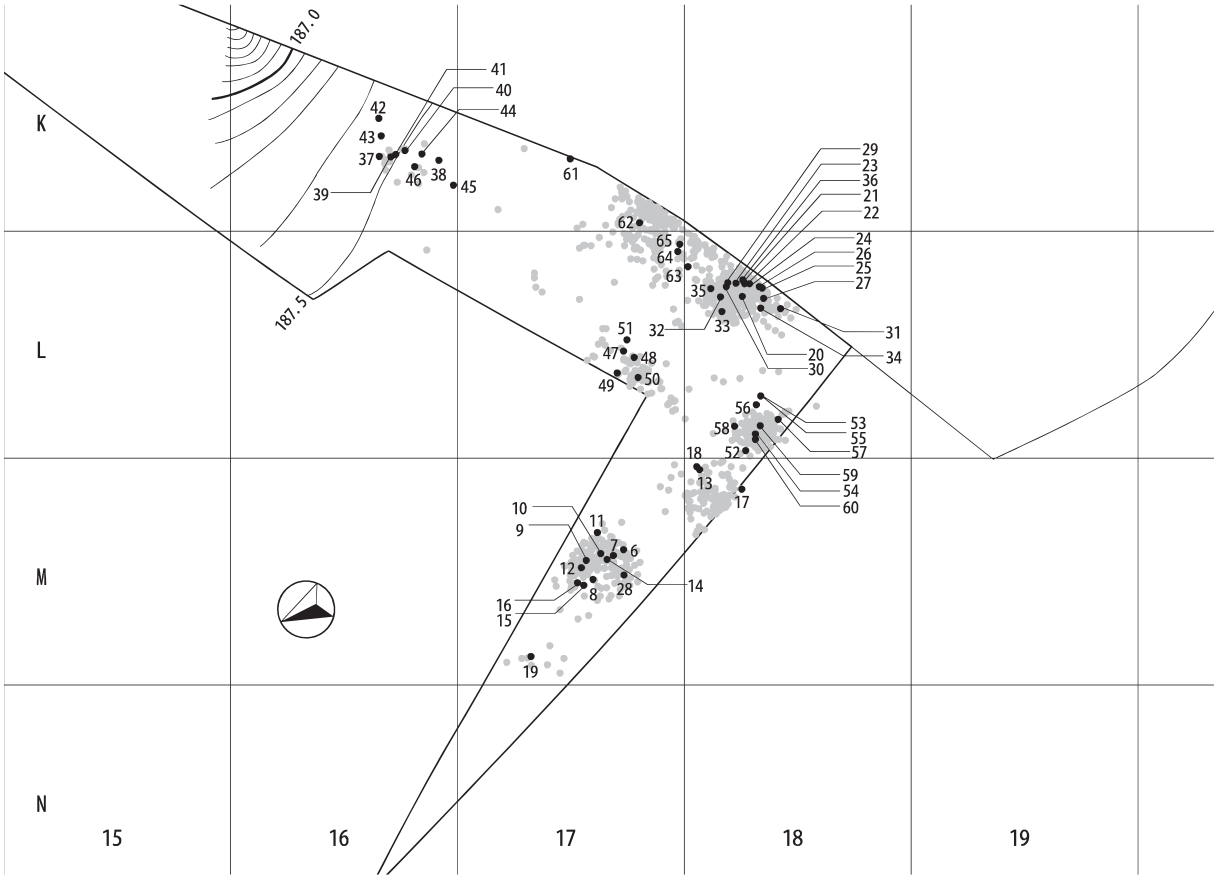
第69図　A・Bブロック出土石器



第70図　Cブロック出土石器



第71図　Dブロック出土石器



第72図　A～Gブロック遺物出土状況図

状剥離により打面を形成し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。70はOB-A製の細石刃核である。小型の円礫か得られた剥片を素材とし，主剥離面を側面に利用し，側方からの連続する剥離により打面を形成している。下縁調整も片側側面にのみ入念に施される。打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。71はOB-A製の細石刃核である。打面は濃い右方へ大きく傾斜している。打面は大剥離面により構成され，打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。左側面は下縁からの大きな剥離が入っている。72～95は細石刃である。詳細については観察表を参照して頂きたい。96は頁岩製の大型のスクレイパーである。

Jブロック

97はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，粗い石核整形の後小口部から打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。背面は不純物によりはじけている。98はOB-E製の掻器である。自然面の残る厚手の剥片に急角度の二次加工を施し，刃部を形成している。刃部は若干内弯している。刃部には微細な剥離痕が多く確認される。

Kブロック

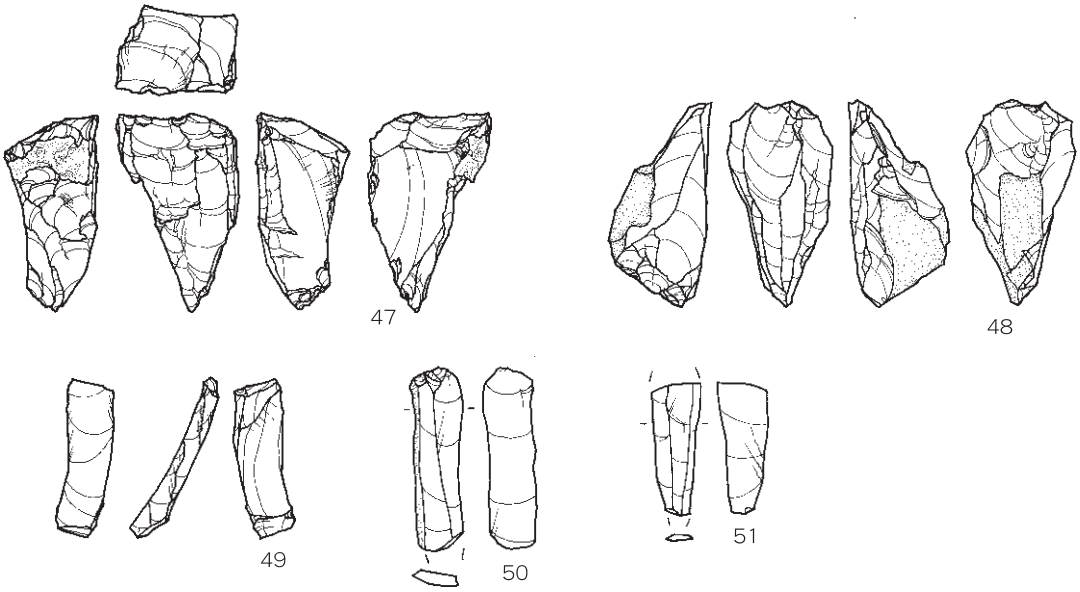
99は，硬質頁岩製の石核である。打面転移が頻繁に行われている。

Lブロック

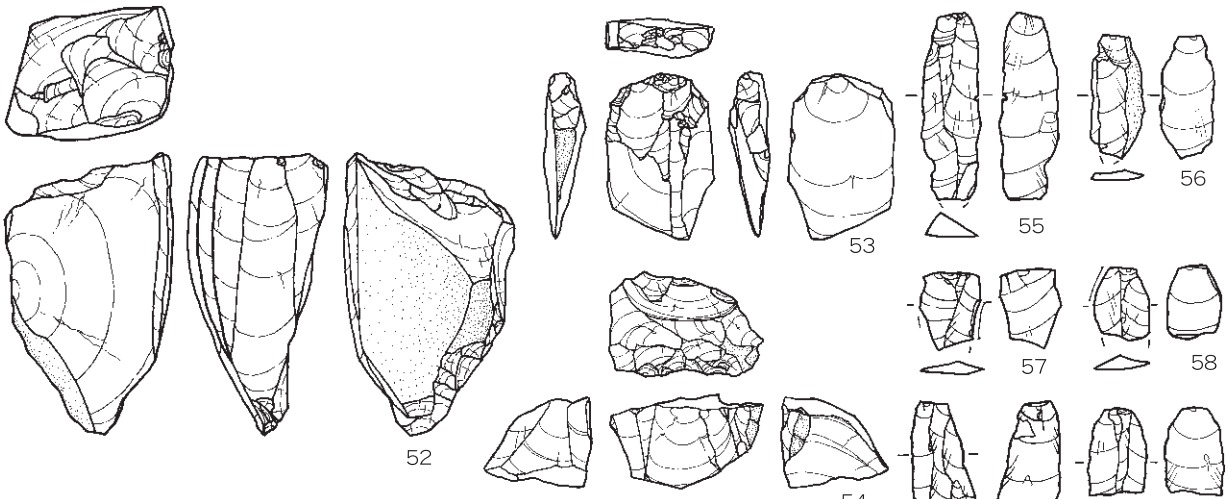
100はOB-A製の石核である。打面にあたる部分には求心状の剥離が施され，周囲に剥離がめぐる。剥離角度，大きさ等に不明瞭な部分があり，細石刃核ブランク等他の分類も考えられる。

Mブロック

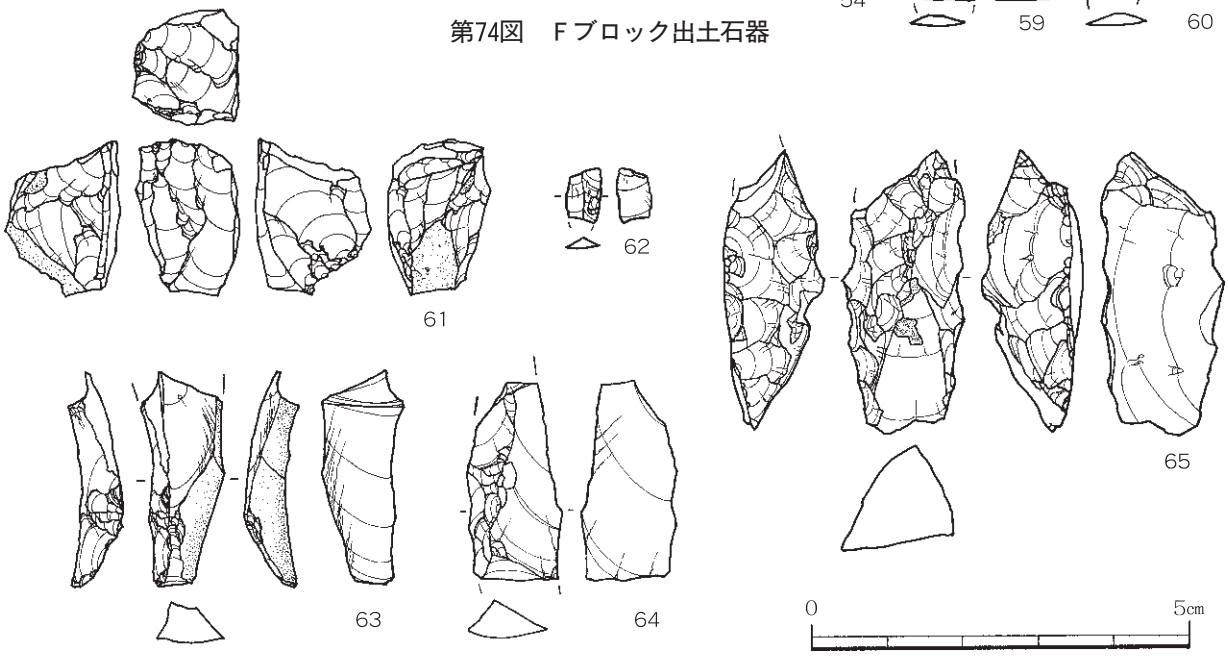
101はOB-A製の細石刃核である。大剥離面を右側面に利用し，打面側からの整形剥離，調整剥離を施している。左側面は不純物からはじけた剥離である。打面は側方からの連続する剥離により形成し，小口部から打面調整を施しながら細石刃剥出を行っている。102はOB-A製の二次加工剥片である。剥片の側縁に腹面からの簡易な二次加工が施されている。103はOB-A製の石核である。素材は小型の角礫である。両面に求心状剥離により剥片を剥出しており，残核形態が円盤状を呈する。



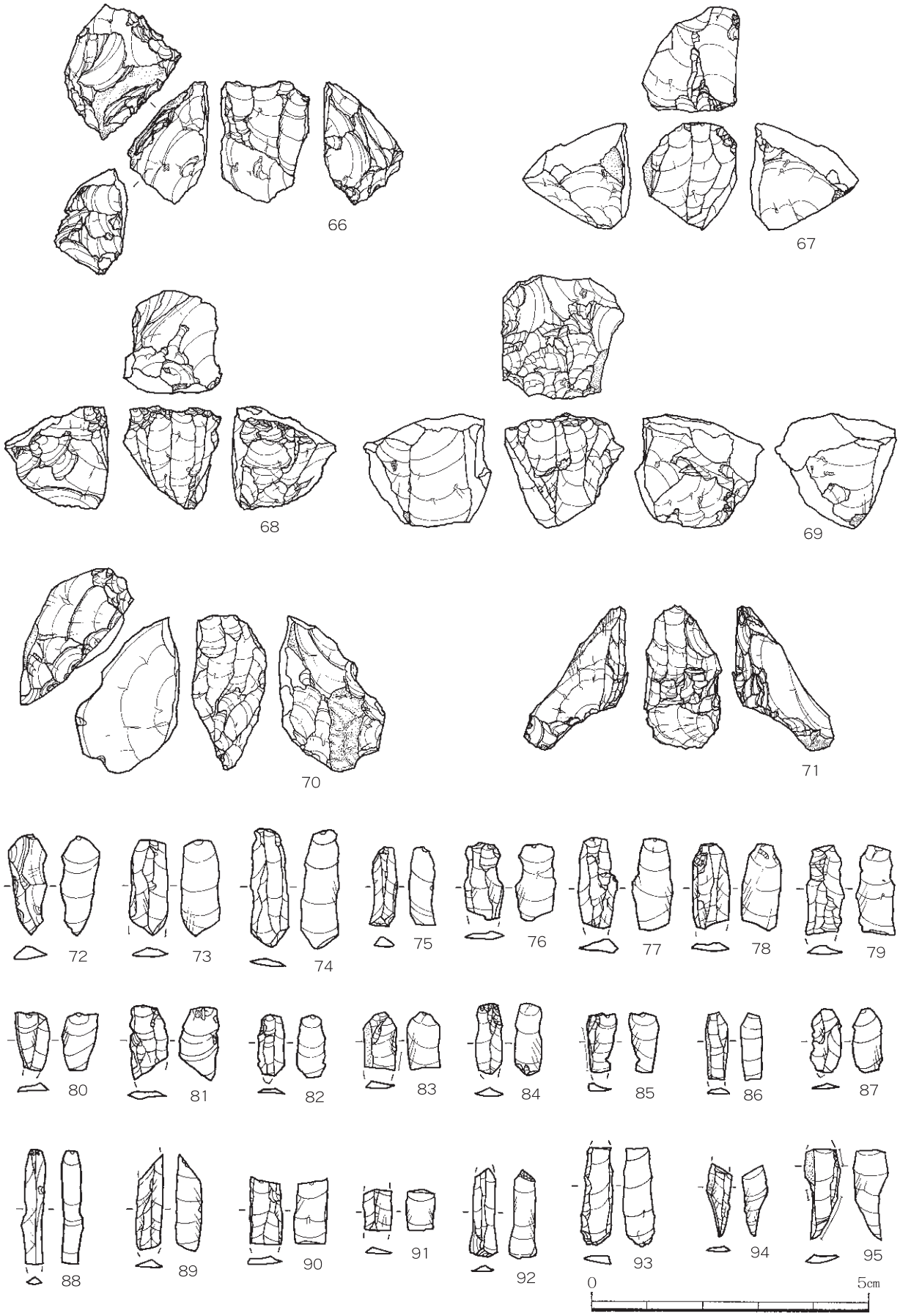
第73図　Eブロック出土石器



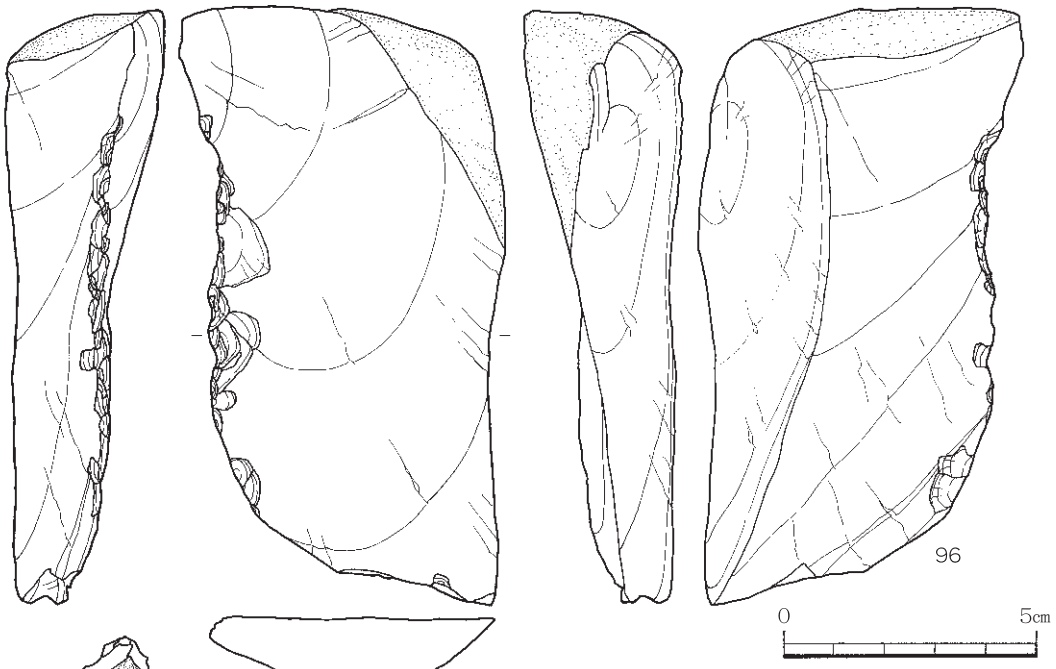
第74図　Fブロック出土石器



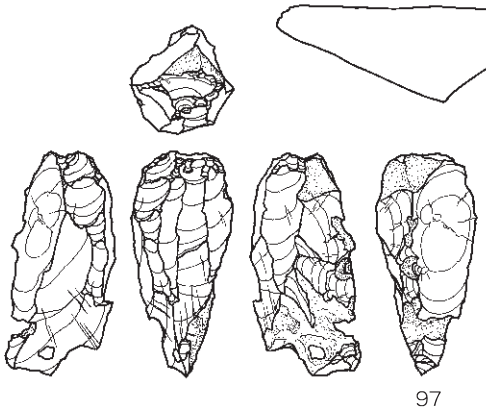
第75図　Gブロック出土石器

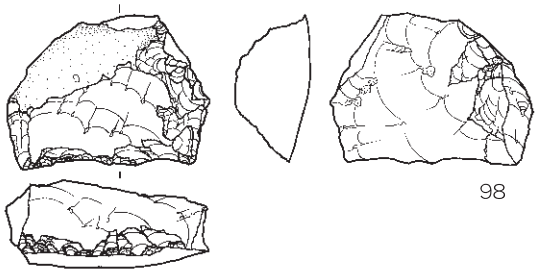


第76図　Hブロック出土石器（1）

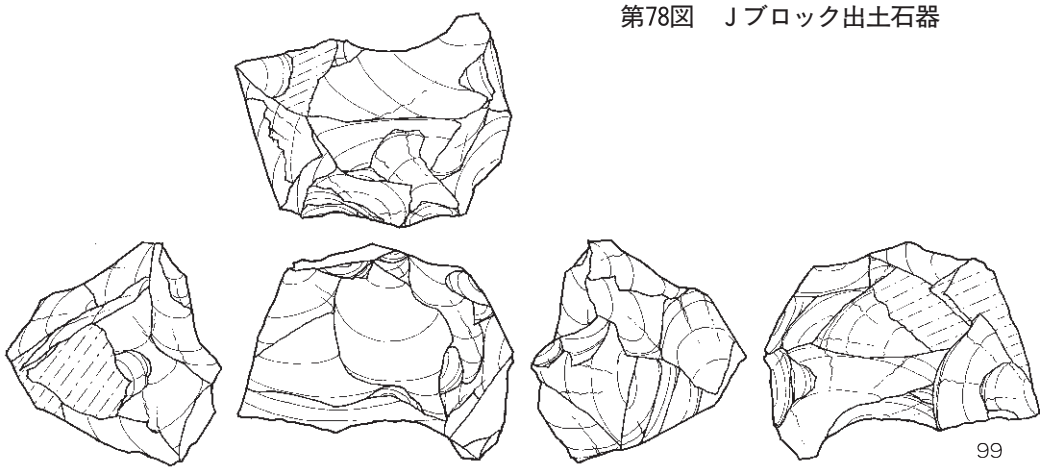


第77図　Hブロック出土石器（２）

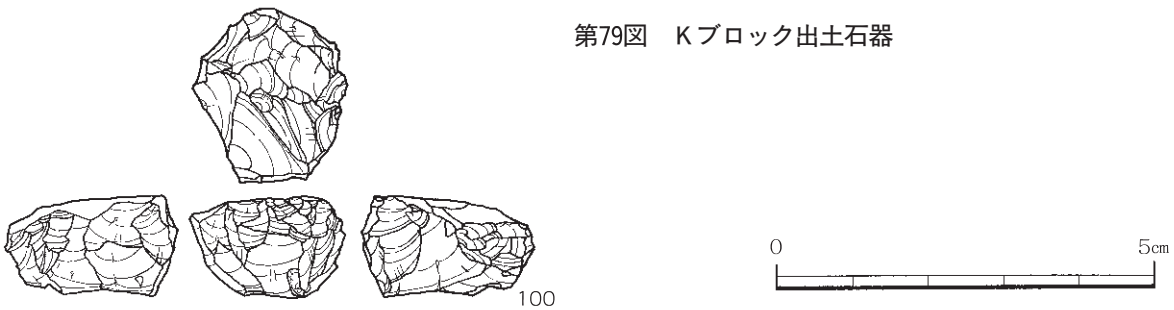




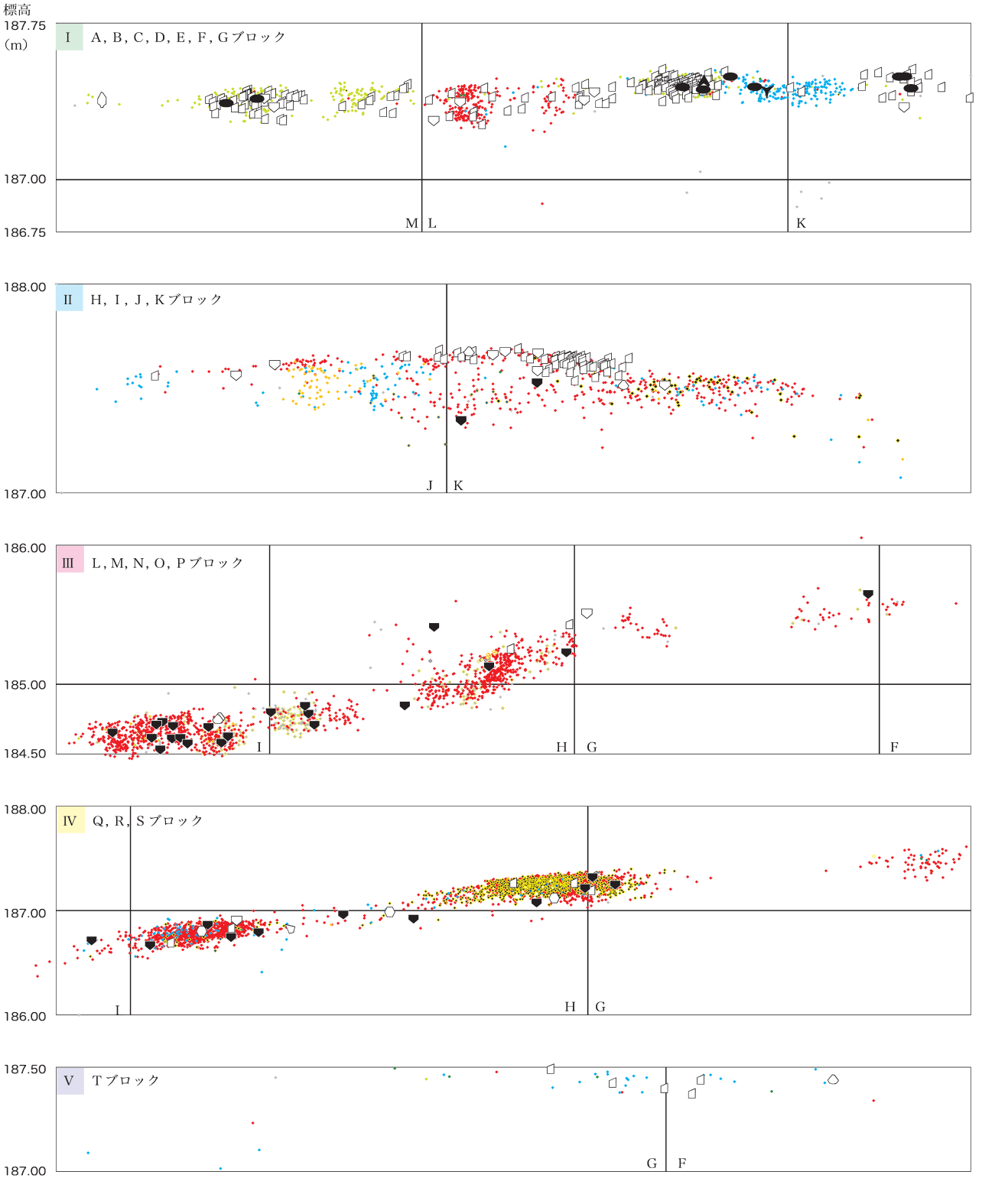
第78図　Jブロック出土石器



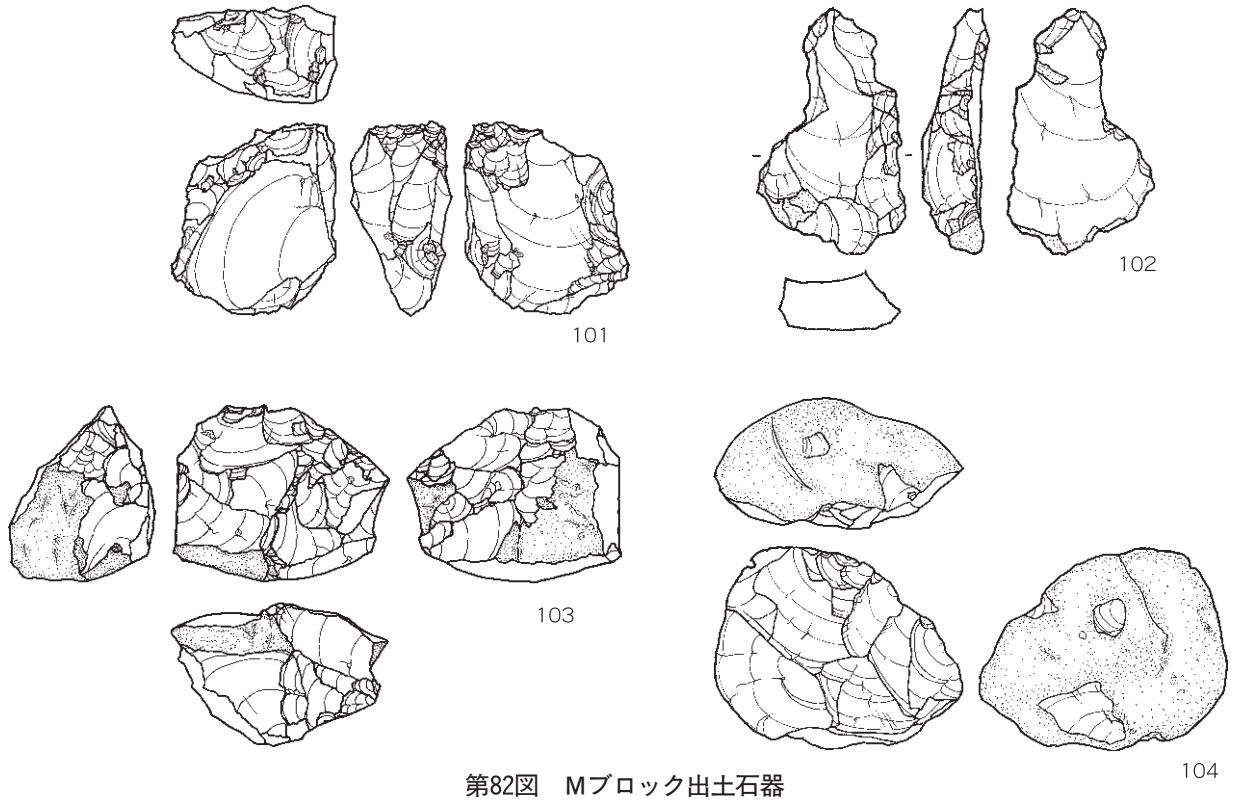
第79図　Kブロック出土石器



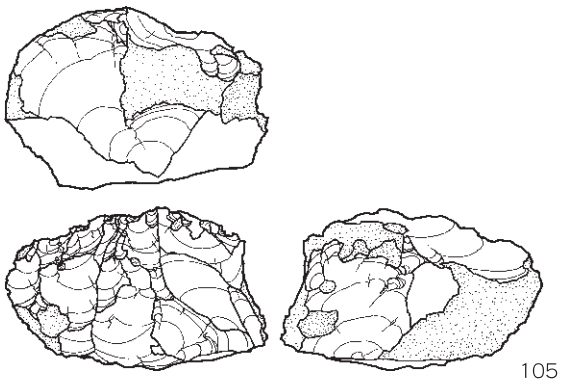
第80図　Lブロック出土石器



第81図　A～Tブロック遺物出土状況図（垂直分布）



第82図　Mブロック出土石器



第83図　Nブロック出土石器

0　5cm

104はOB-A製の石核である。小型の円礫を素材とし，自然面を固定打面として打面調整を施さずに剥片を剥出している。

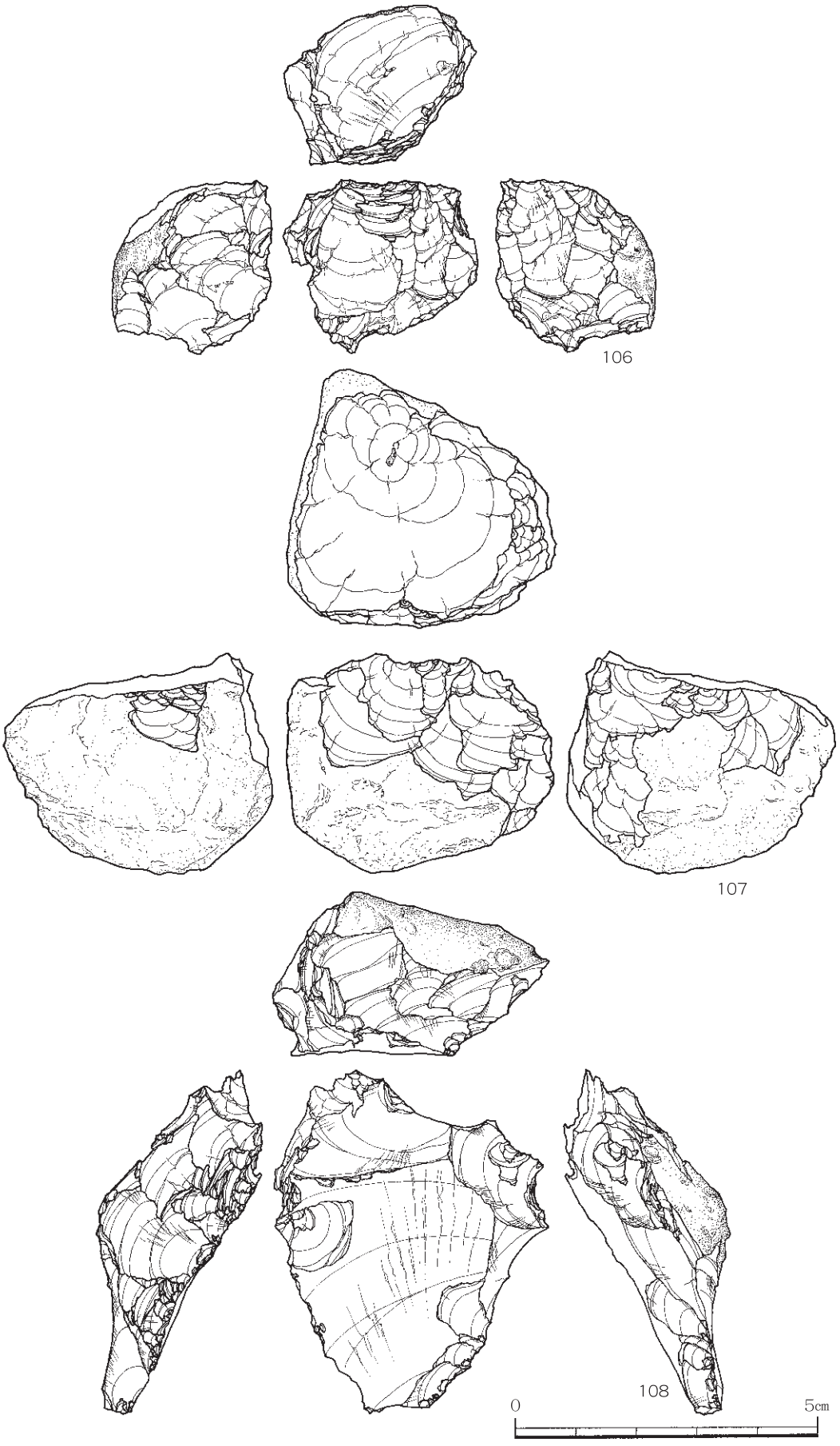
Nブロック

105はOB-A製の石核である。小型の円礫の平行する２か所に大剥離により打面を形成し，両設の打面からそれぞれ剥片を剥出している。

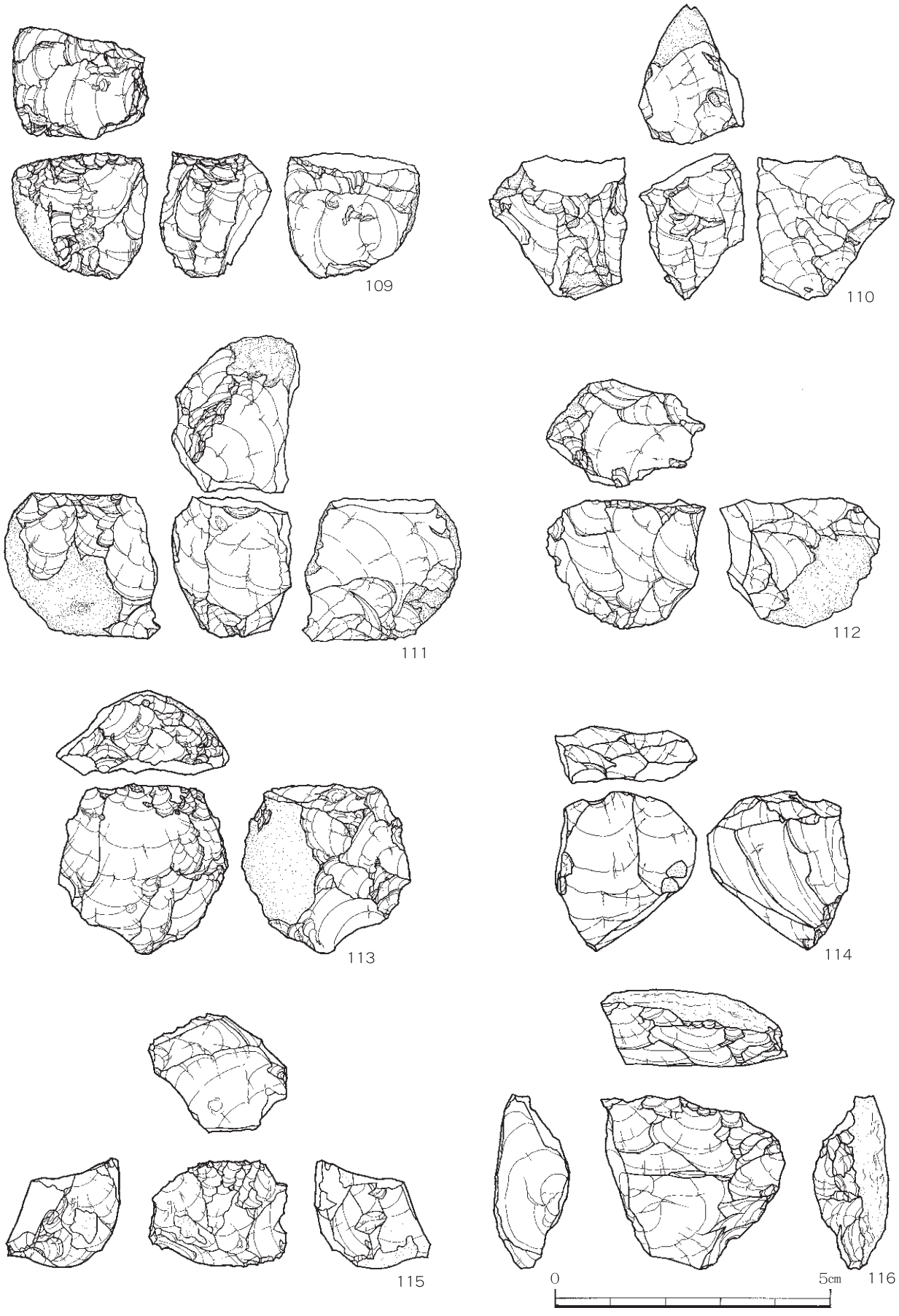
Oブロック

106はOB-A製の石核である。小型の円礫を素材とし，大剥離により打面を形成し，打面調整を施さずに剥片を剥離している。その後，ねじれの位置に打面をもう１か所設定し，打面転移を行い剥片を剥出している。107はOB-A製の石核である。小型の円礫を素材とし，不純物によりはじけた大剥離面を打面として，単設打面から剥片を剥離している。

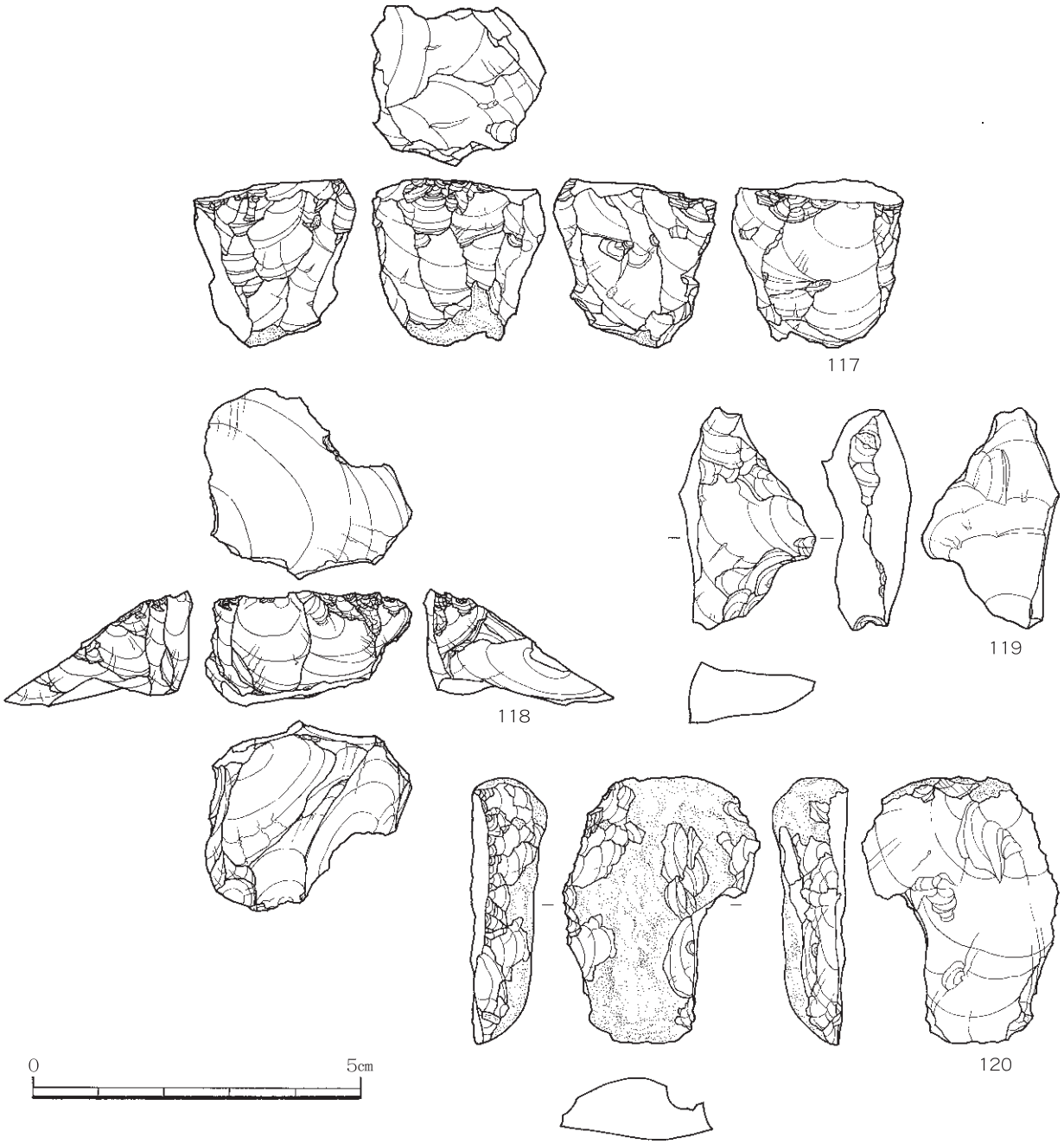
108はOB-C製の石核である。厚手の比較的大型の剥片を素材とし，腹面を作業面に設定して周縁から求心状の剥離により剥片を剥出している。左側縁に入念で急角度な剥離と微細剥離がみられ，スクレイパー転用も考えられる。



第84図　Oブロック出土石器



第85図　Pブロック出土石器（1）



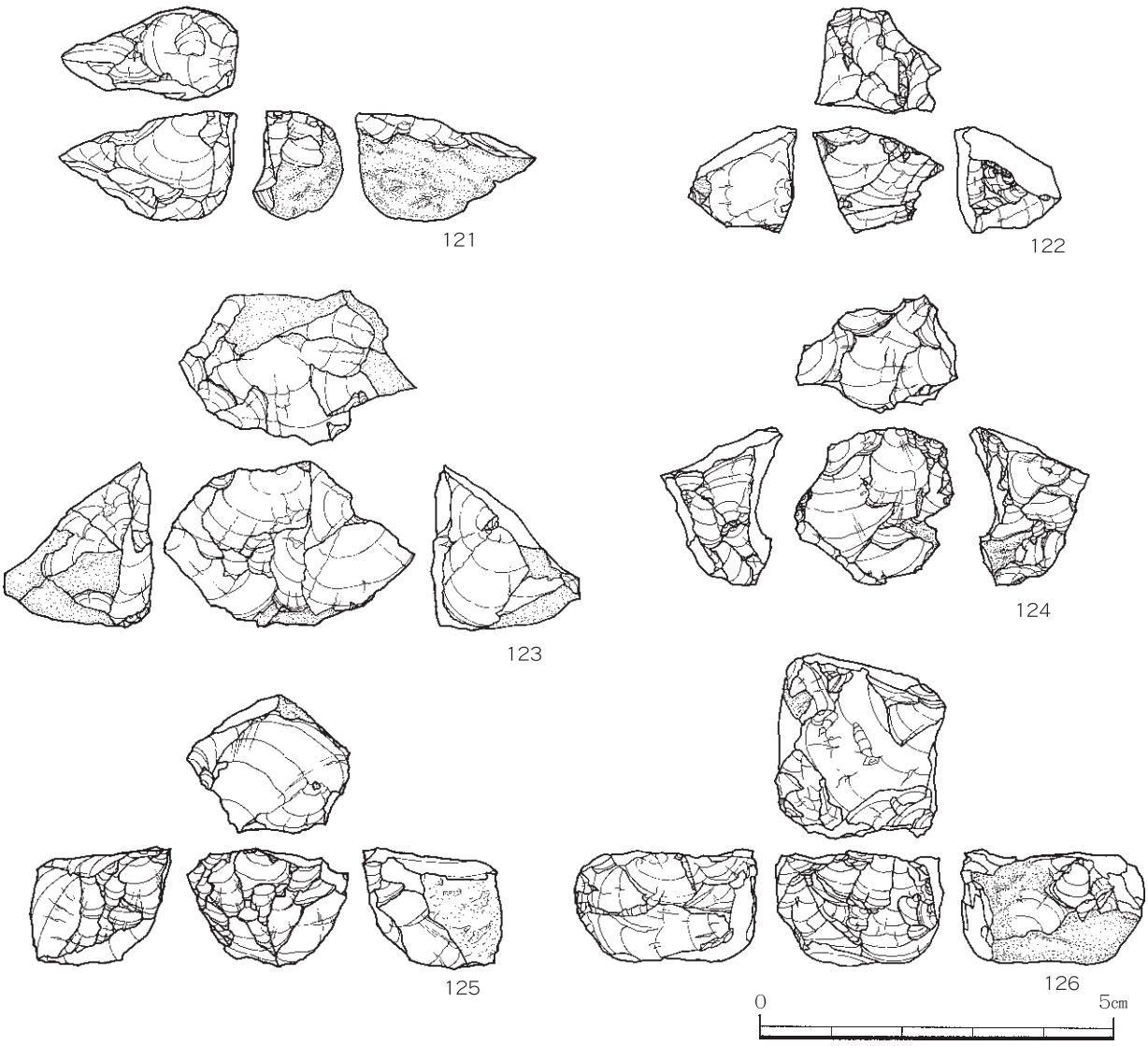
第86図　Pブロック出土石器（2）

Pブロック

109はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割し，分割面を側面に利用し，大剥離により打面を形成した後，打面側から周囲に石核整形を施している。打面調整を施さずに小口部から比較的縦長の剥片を剥出している。110はOB-A製の石核である。作業面は小口に設定され縦に長く，細石刃核の可能性もある。打面は分割面である。右側面の剥離は作業面か下縁調整か判断が難しい。111はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割して打面を作り出し，片側面に打面からの入念な石核調整を行い，小口部に作業面を設定している。112はOB-A製の石核である。技術的には111の石核と同じである。113はOB-B製の石核である。厚手の円礫を素材とし，主剥離面を作業面に設定し，剥片を剥離している。背面にも周縁からの求心状剥離がみられ，残核が円盤状を呈する。114はOB-A製の石核である。剥離が進行しており残核は扁平である。背面に側方からの大きな剥離がみられる。

Qブロック

121はOB-A製の石核である。小円礫を利用して小口部に複数の剥離がみられる。122はOB-A製の石核であ



第87図　Qブロック出土石器

る。分割面を側面に利用し，打面には打面調整の剥離が複数観察される。目的的剥片はかなり小型のものである。123はOB-A製の石核である。礫から厚手の剥片を剥離し，主剥離面を打面に設定して剥片を剥離している。打面調整は必要に応じて施される。124はOB-A製の石核である。打面は周縁からの剥離により構成され，作業面は周囲に廻る。125はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割し，分割面を側面に利用し，打面を剥離により形成し，剥片を剥離している。打面調整はみられない。126はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割して打面を形成し，簡易な石核整形の後寸詰まりの剥片を剥離している。

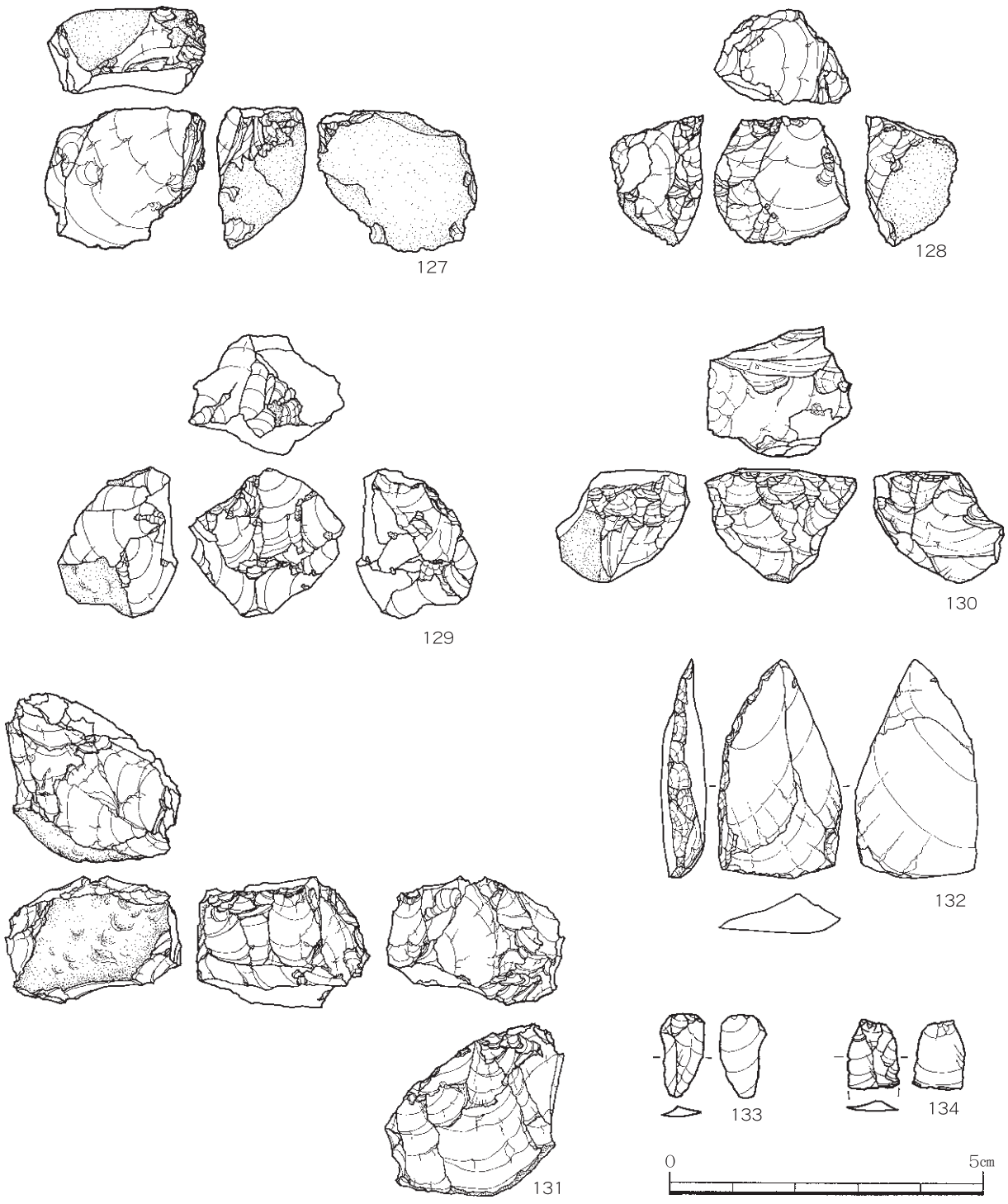
Rブロック

127はOB-A製の剥片である。当初，福井型細石刃核のブランクを想定していたが，ブロック内の石核を検討した結果，円礫から打面を形成するときの剥片の可能性が高いと考えられる。128はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割して打面を形成し，剥片を剥出している。打面調整はみられない。129はOB-A製の石核である。打面は角度のある2枚の大きな剥離面により構成され，周縁に剥離が廻っているため円盤状を呈している。打面調整はみられない。130はOB-A製の石核である。礫を分割したポジ面を打面とし，周縁に剥離を廻らせている。打面調整はみられない。

2　石材

当遺跡のⅦ層で利用されている対象資料は7,298点である。最も利用されている石材はOB-Aが65％で4,751点，次いで黒色安山岩が14.4％で1,053点，以下OB-Dが11％で803点，OB-Bが6.4％で465点，OB-Eが1.1％で81点，OB-Cが49点，硬質頁岩が47点，瑪瑙が23点，タンパク石が15点である。

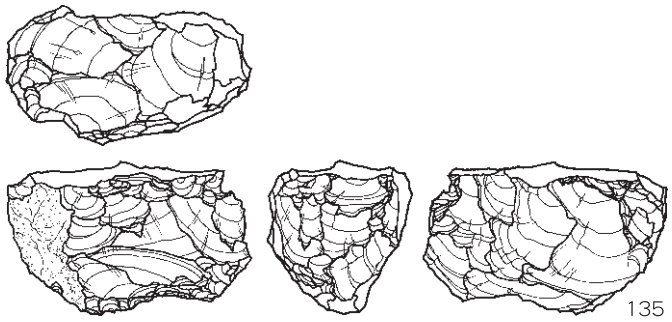
器種と石材の関係は，OB-A，OB-Bが石核から細石器



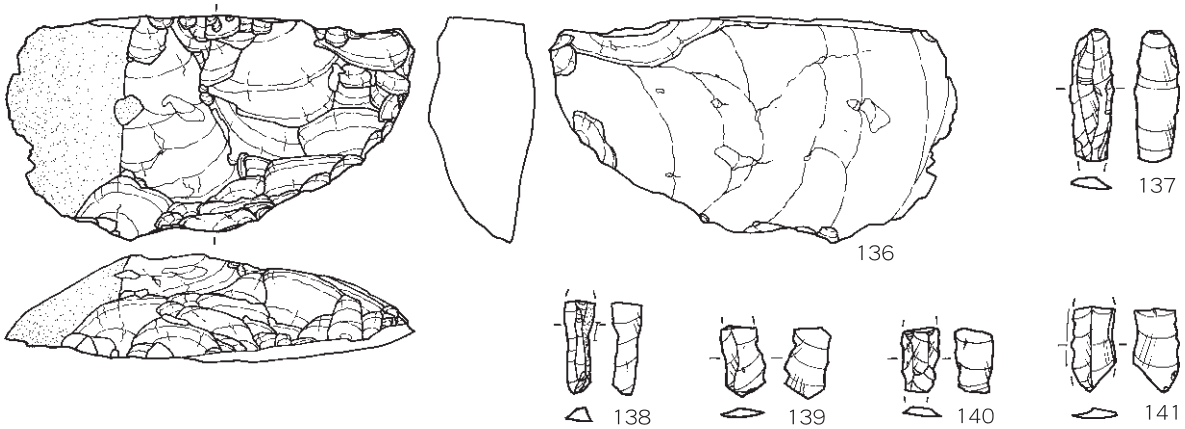
第88図　Rブロック出土石器

まで様々な石器に利用されており，黒色安山岩，硬質頁岩は石核，OB-D は細石器に利用される傾向がある。

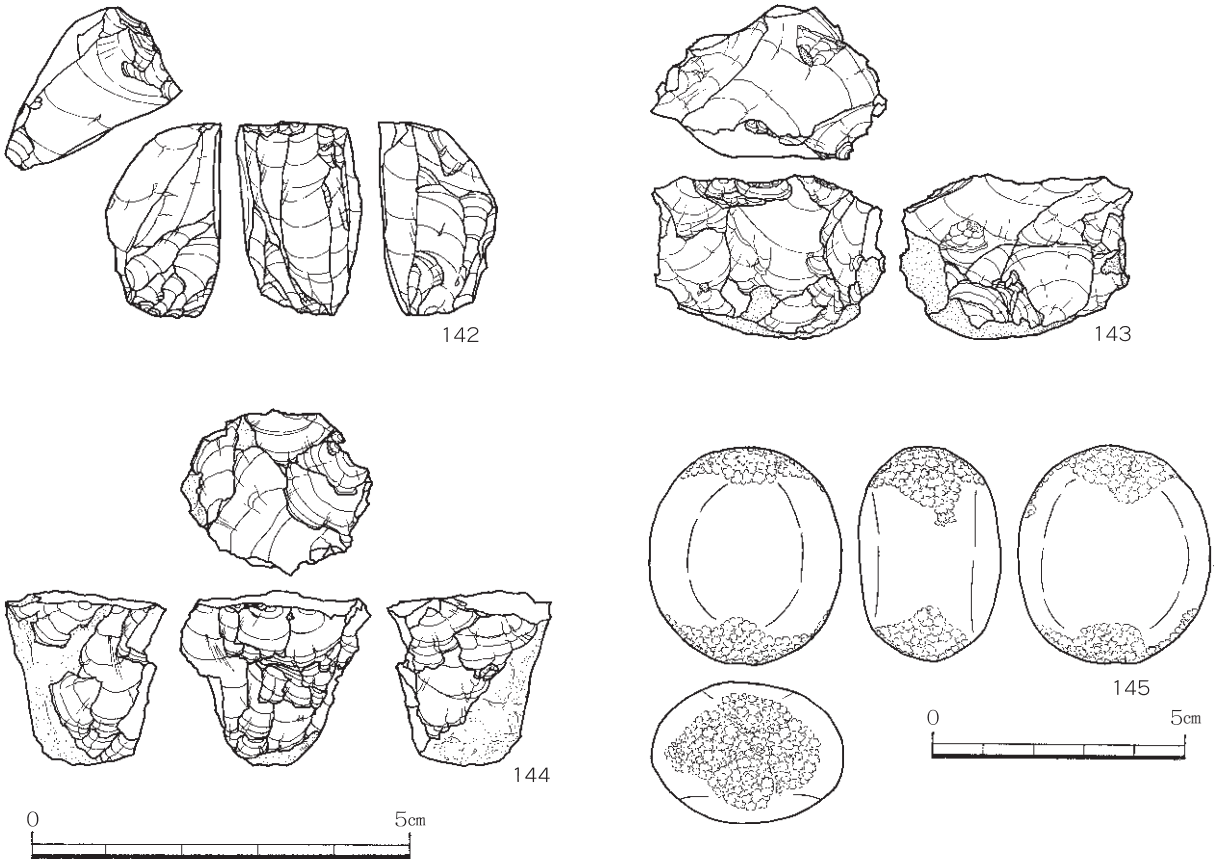
ブロック別の石材重量表をみてみると，A～Fブロックに OB-D の主体的な利用が確認されるのに対し，Hブロック以降は OB-A を主体的に利用している様子がうかがえる。その中にあって，M～Rブロックで黒色安山岩を，Kブロックで硬質頁岩を補完的に利用しているのも特徴としてあげられる。なお，当遺跡から OB-B の産地は距離的に OB-A の産地とほぼ同じであるが，OB-B の利用はGブロックで主体となる他は客体的である。これらの石材利用は，A～FブロックとHブロック以降の間を南北に走る谷があるが，この谷を隔てて様相が異なることが理解される。



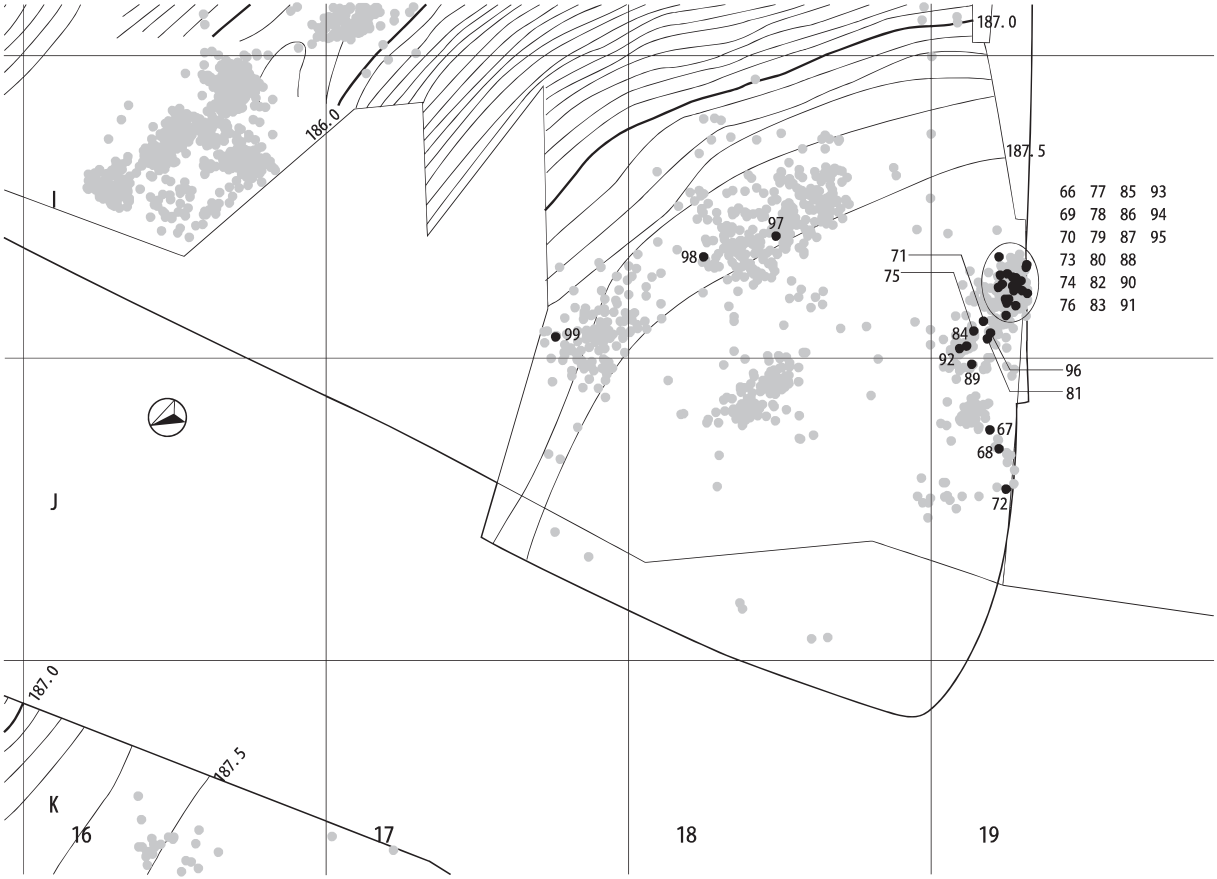
第89図　Sブロック出土石器



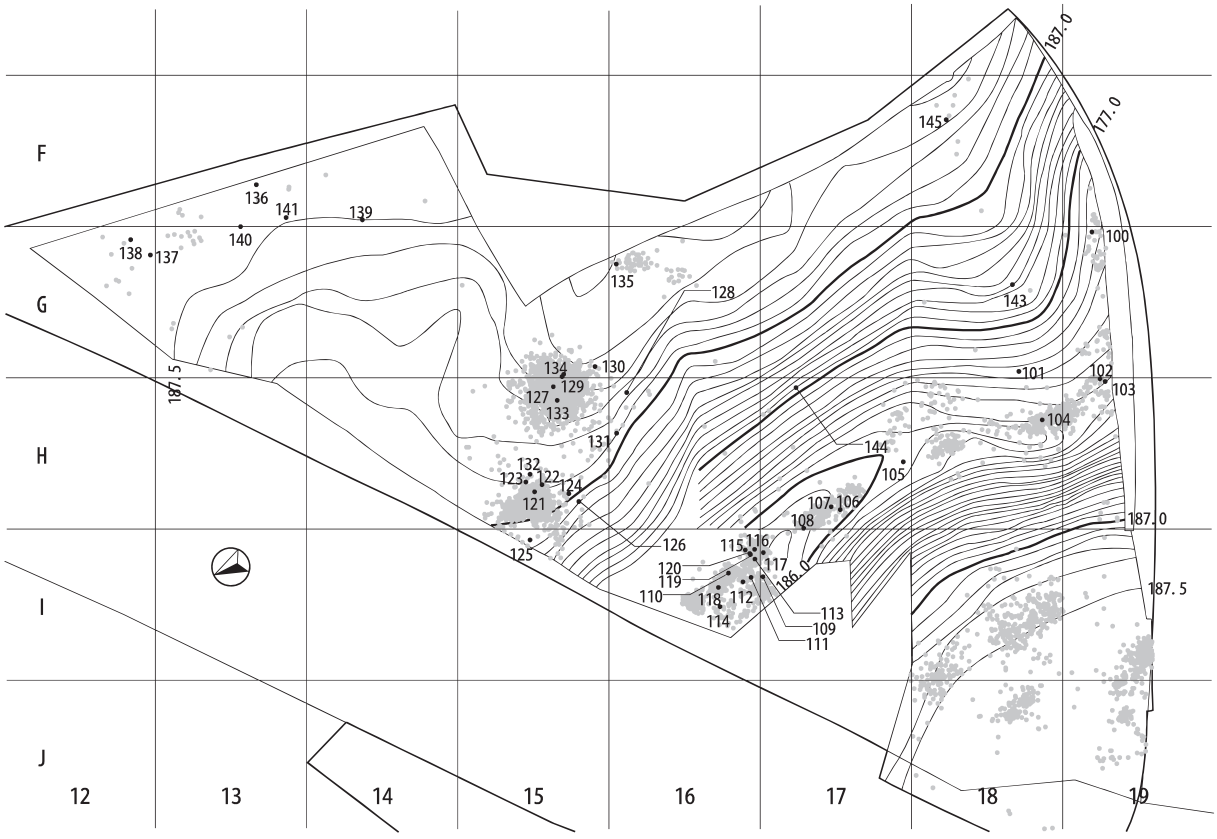
第90図　Tブロック出土石器



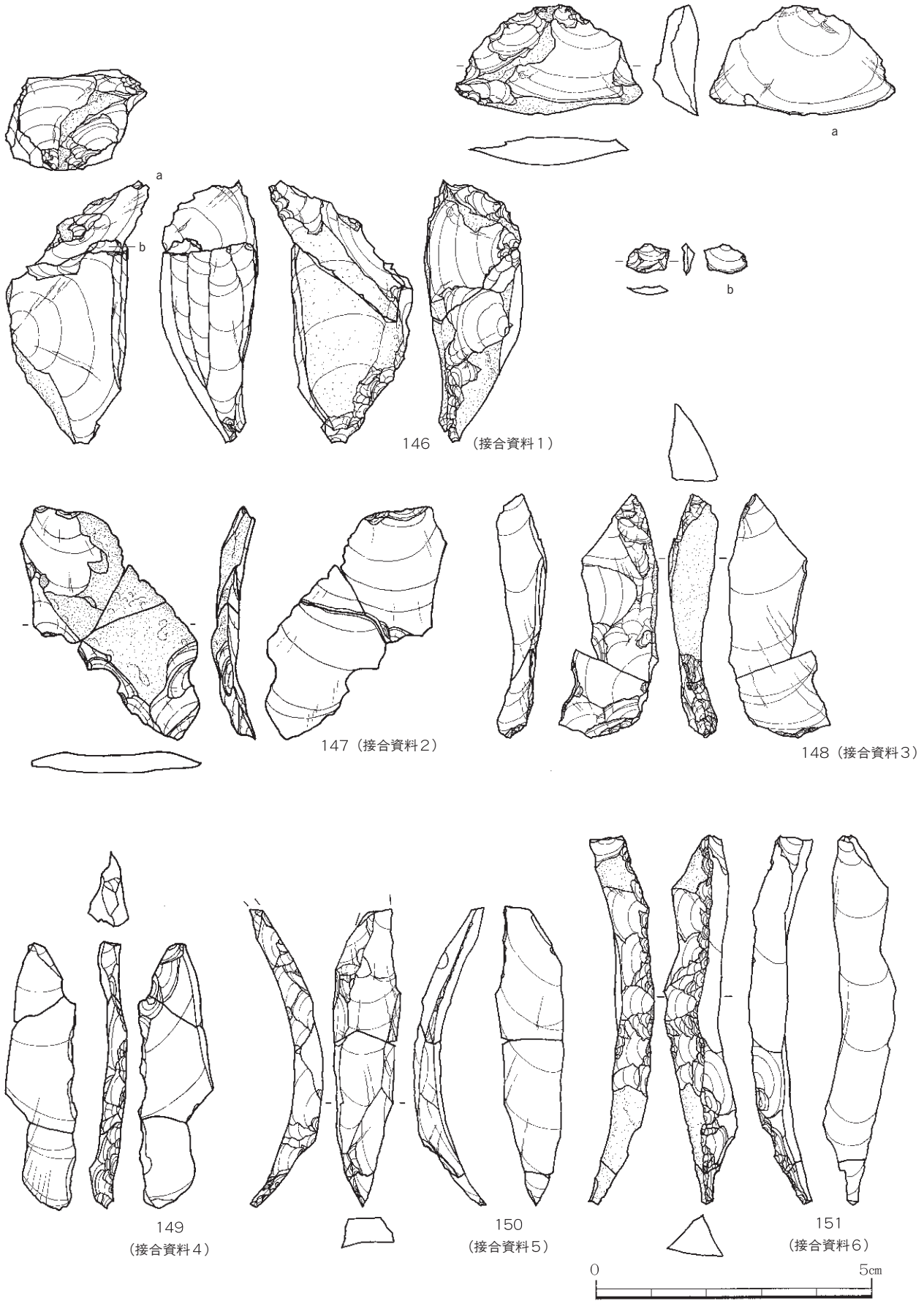
第91図　ブロック外出土石器



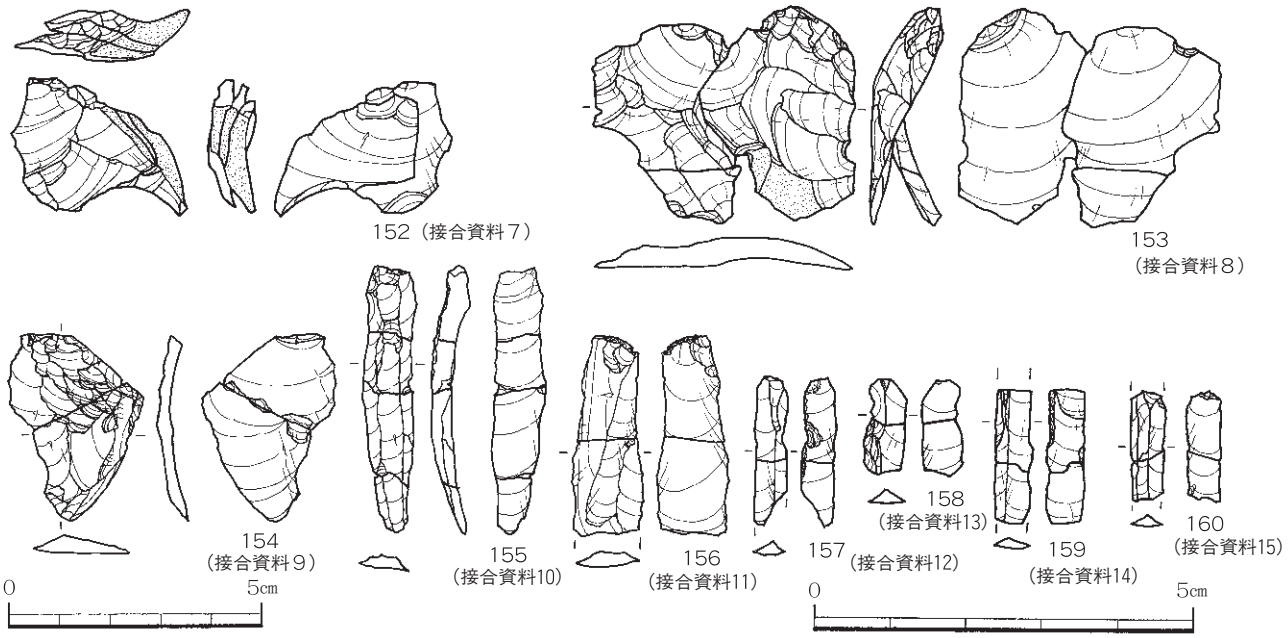
第92図　Ｈ～Ｋブロック遺物出土状況図



第93図　Ｌ～Ｔブロック遺物出土状況図


a
b
a
b
146
（接合資料１）
147（接合資料２）
148（接合資料３）
149
（接合資料４）
150
（接合資料５）
151
（接合資料６）
0
5cm

第94図　接合資料（１）



第95図　接合資料（２）

３　接合資料

接合は時間の制約上OB-Dについてのみ試みた。そのため，その他の石材についての接合資料を紹介するに至らなかった。

当遺跡ではⅦ層の遺物について，20個体分の資料が接合した。そのうちの15個体分について掲載した。個体はいずれもOB-D製である。

146は細石刃核の打面形成過程を示す資料である。細石刃核１点，打面形成剥片２点が接合している。１枚目の剥片の背面には自然面が残されており，この細石刃核が角礫の角の部分から厚手の剥片を剥離し，主剥離面を側面に利用して側方から連続する打面形成剥片を剥離した後細石刃を剥出したことがわかる。それぞれF，B，Cと異なるブロックから出土した資料の接合である。

147は礫皮面の残った剥片である。３つに割れている。スポールの可能性が高い。

148は折れた剥片２点の接合である。剥片の下部に背面からの細かい調整の跡が確認されその調整痕が剥片の主剥離面により切られているため，スキー状スポールの可能性が高い。

149も３つに折れたスキー状スポールの接合である。剥片の側縁に背面側からの調整が確認される。

150は３つに折れたスキー状スポールの接合である。セカンドスポールである。剥片は大きく反り，背面にファーストスポールの剥離痕が縦に走っている。細石刃核は片側側面が複数の剥離面で，もう片側面は大剥離面で構成されたものであることがわかる。

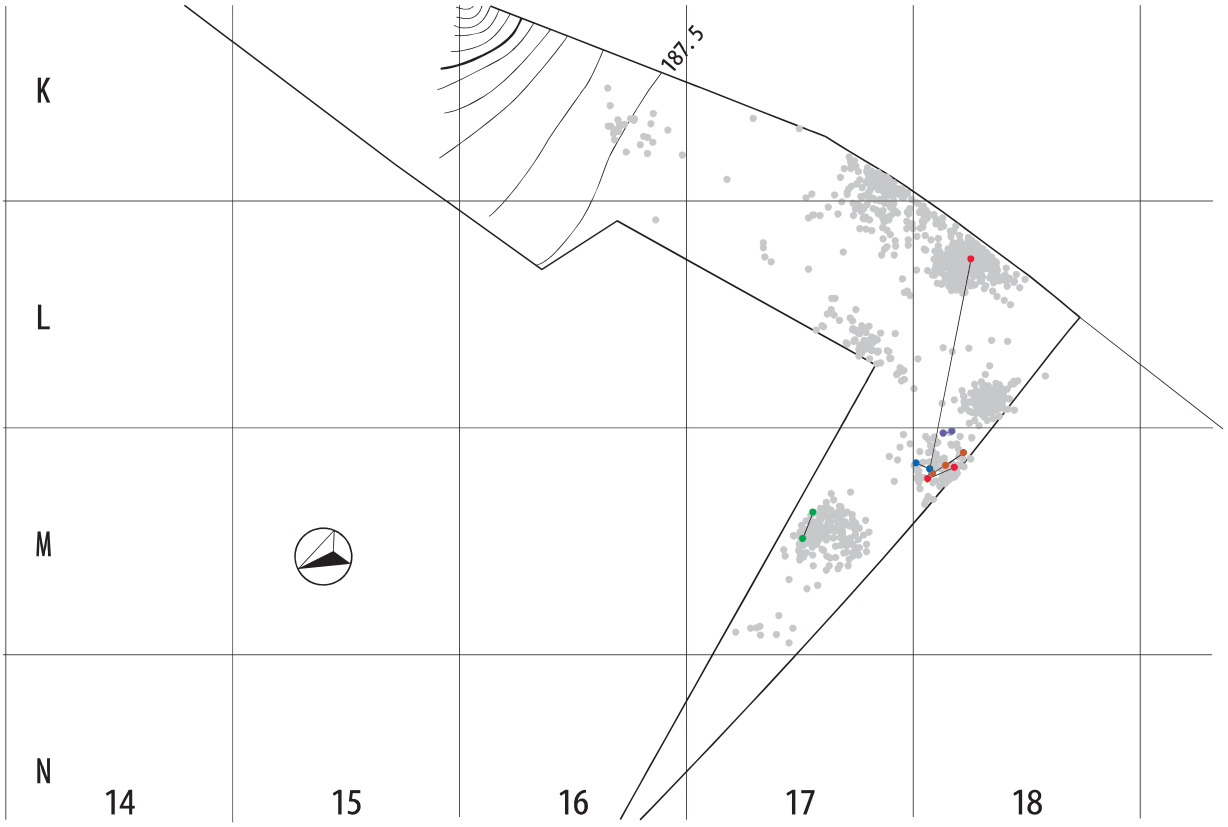
151はファーストスポールである。断面三角形で，背面の稜上には主に片側への入念な調整がみられる。打点部は欠損している。

152，153はそれぞれ剥片３枚の接合である。いずれの資料にも背面に礫皮面が確認される。細石刃核整形に関する資料と思われる。152は同一方向に連続する整形を施している。153は複数の方向から整形，調整を施していることを示すものである。いずれも打面は点状である。

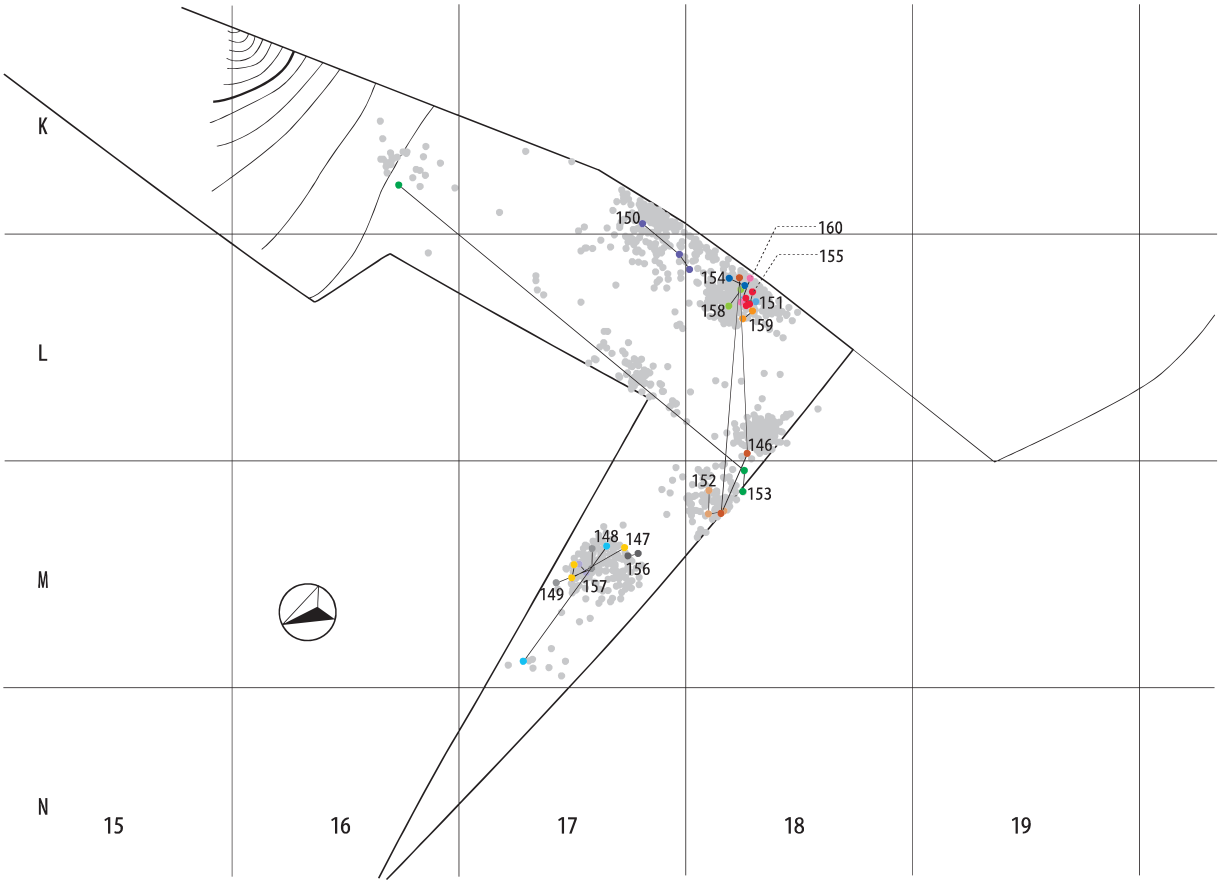
154は２枚に折れた剥片の接合である。

155～160はいずれも細石刃の接合である。いずれも同ブロック内における接合であり，剥出された細石刃が複数に切断されていた様子を示すものである。特に，155の細石刃は，破損状況から，腹面側を起点としている可能性が高く，細石刃の反りを利用して折りとっていたことを示すものである。

接合は全てのOB-D製黒曜石について試みたが，接合数が少なく，細石刃製作に至る全ての作業を解明するには至らなかった。これは，ブロックが，町道による削平のために完全に検出されなかったことによるものであろう。



第96図　接合資料分布図（１）



第97図　接合資料分布図（２）

表19　Ⅶ層ブロック別石材重量表（単位：ｇ）

ブロック	OB-A	OB-B	OB-C	OB-D	OB-E	硬質頁岩	瑪瑙	玉髄	タンパク石	無斑晶質安山岩	黒色安山岩	合　計
A	0.07	0.57		23.5								24.14
B	3.5			38.6								42.1
C	6.25	1.06	0.01	123.7								131.02
D	10.61	4.29		7.23		1.44	18.82					42.39
E	116.35	1.32		8.83						1.18		127.68
F	74.32	3.13	0.2	2.61								80.26
G	10.32	147.55	0.81									158.68
H	183.13	8.01	0.72		4.17							196.03
I	4.7	49.48	0.07		147.02							201.27
J	286.62	11.74			10.49		0.09				44.95	353.89
K	160.42					31.66	7.21			0.51		199.8
L	67.59					3.53					3.3	74.42
M	321.92	8.63		0.13		2.85	1.37		1.3		59.19	395.39
N	156.2	1.4									28.72	186.32
O	117.75	2.01	2.26	1.26							67.97	191.25
P	562.14	11.11	0.12		7.12	11.74				0.4	91.68	684.31
Q	410.51	17.26				0.47					17.66	445.9
R	426.72	3.19	0.01		0.08	2.77	2.34	0.43	1.73		166.86	604.13
S	24.36	0.47				0.43	0.55					25.81
T	2.35	23.71	0.68								0.41	27.15
外	67.09	7.19					1.01		10.46		14.6	100.35
合計	3012.92	302.12	4.88	205.86	168.88	54.89	31.39	0.43	13.49	2.09	495.34	4292.29

4　遺跡の地形と石器群の評価について

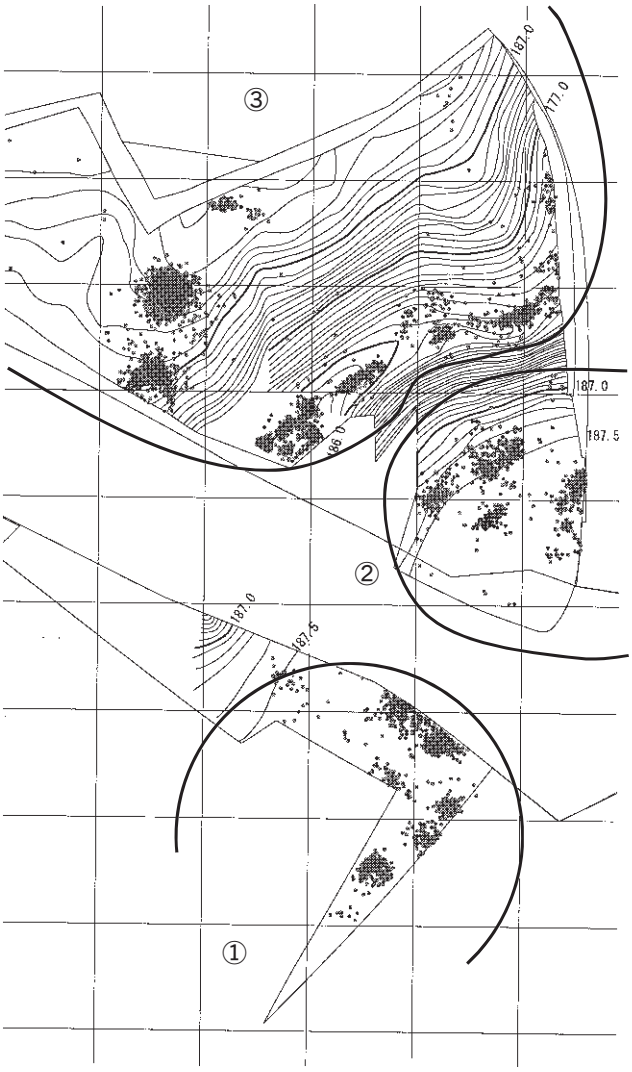
今回の調査区は，調査区中央部にほぼ南北に走る谷により，地形的に西側（A～Kブロック）と東側（L～Tブロック）に分断されている。また，平成6年度の調査区（報告済み）により東西に隔てられている。

次に，石材利用状況としては，平成6年度の調査区を挟んで北側（A～Gブロック）がOB-D，OB-Cを中心に利用しており，南側（H～Tブロック）がOB-Aを中心に利用している状況である。

次に，石器群としては，谷を挟んで西側が細石刃石器群，東側が石核を中心とする石器群と様相を異にしている。更に，西側の細石刃石器群は，6年度調査区を挟んで技術に差が認められ，北側は福井型細石刃核，南側は野岳・休場型細石刃核と福井型細石刃核の様相を示している。

以上のように，当遺跡の石器群は，地形・石材利用状況・石器群の3つの様相からそれぞれ分類でき，これらをまとめると以下の通りである。

①西北九州産黒曜石を利用する福井型細石刃核石器群
②在地産黒曜石を利用する野岳・休場型細石刃核石器群と福井型細石刃核石器群
③小型の剥片を目的とした石核石器群



第98図　地形と石器群の評価

表20　掲載以外の細石刃一覧表（1）

遺物番号	石材	ブロック	層1	層2	部位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）
10747	OB-D	A	7	a	中間部	1.1	0.6	0.1
10756	OB-D	A	7	a	中間部	1	0.4	0.1
10760	OB-D	A	7	a	頭中部	0.95	0.35	0.1
10762	OB-D	A	7	a	中間部	0.7	0.4	0.1
10763	OB-D	A	7	a	頭部	0.4	0.4	0.1
10764	OB-D	A	7	a	頭部	1	0.65	0.1
10768	OB-D	A	7	a	中間部	0.7	0.4	0.1
10776	OB-D	A	7	a	中間部	1.05	0.4	0.1
10788	OB-D	A	7	a	中間部	0.8	0.35	0.1
10791	OB-D	A	7	a	中間部	0.9	0.5	0.15
10793	OB-D	A	7	a	頭中部	1	0.5	0.1
10794	OB-D	A	7	a	中間部	0.5	0.35	0.15
10801	OB-D	A	7	a	中間部	0.75	0.5	0.2
10802	OB-D	A	7	a	中間部	－	－	－
10812	OB-D	A	7	a	中間部	－	－	－
10813	OB-D	A	7	a	中間部	0.9	0.5	0.1
10816	OB-D	A	7	a	頭中部	0.85	0.4	0.15
10817	OB-D	A	7	a	頭部	0.7	0.5	0.1
10841	OB-D	A	7	a	中間部	0.6	0.05	0.15
10853	OB-D	A	7	a	中間部	1.3	0.4	0.2
10856	OB-D	A	7	a	頭中部	0.9	0.3	0.1
10858	OB-D	A	7	a	中間部	1.1	0.4	0.1
10862	OB-D	A	7	a	完形	1.6	0.55	0.25
10865	OB-D	A	7	a	中間部	0.5	0.2	0.05
10888	OB-D	A	7	a	頭部	1.15	0.85	0.2
11181	OB-D	A	7	a	中間部	0.65	0.5	0.15
11182	OB-D	A	7	a	中間部	－	－	－
11183	OB-D	A	7	a	中間部	0.95	0.45	0.1
11186	OB-D	A	7	a	中間部	0.8	0.35	0.1
11197	OB-D	A	7	a	尾部	0.5	0.45	0.1
11202	OB-D	A	7	a	中間部	1.35	0.45	0.15
11207	OB-D	A	7	a	中間部	1.45	0.35	0.1
11214	OB-D	A	7	a	中間部	0.45	0.35	0.1
11233	OB-D	A	7	a	中間部	1.15	0.3	0.1
11276	OB-D	A	7	a	頭中部	1.1	0.45	0.1
11279	OB-D	A	7	a	中間部	0.8	0.4	0.1
11283	OB-D	A	7	a	頭中部	1.15	0.4	0.2
11299	OB-C	A	7	a	中間部	0.75	0.4	0.1
10650	OB-D	B	7	a	頭中部	1.3	0.45	0.1
10653	OB-D	B	7	a	中尾部	1.2	0.5	0.1
10663	OB-D	B	7	a	中尾部	1.05	0.25	0.15
10667	OB-D	B	7	a	尾部	0.75	0.35	0.1
10690	OB-D	B	7	a	中間部	1.1	0.55	0.15
10705	OB-D	B	7	a	中間部	0.65	0.2	0.1
10716	OB-D	B	7	a	中間部	0.6	0.5	0.1
10733	OB-D	B	7	a	中間部	－	－	－
10734	OB-D	B	7	a	中間部	1	0.55	0.1
10737	OB-D	B	7	a	中尾部	0.7	0.45	0.1
10738	OB-D	B	7	a	中間部	0.6	0.3	0.15
11072	OB-D	B	7	a	中尾部	－	－	－
11088	OB-D	B	7	a	頭中部	－	－	－
10133	OB-D	C	7	a	中間部	0.85	0.4	0.15
10138	OB-D	C	7	a	中尾部	－	－	－
10139	OB-D	C	7	a	頭中部	－	－	－
10140	OB-D	C	7	a	中間部	0.5	0.3	0.1
10149	OB-D	C	7	a	中尾部	0.8	0.35	0.1
10152	OB-D	C	7	a	中間部	0.45	0.4	0.1
10153	OB-D	C	7	a	中間部	0.75	0.35	0.1
10160	OB-D	C	7	a	中間部	－	－	－
10163	OB-D	C	7	a	中間部	0.8	0.4	0.1
10165	OB-D	C	7	a	完形	1.75	0.45	0.2
10175	OB-D	C	7	a	中間部	0.75	0.3	0.1
10177	OB-D	C	7	a	尾部	－	－	－
10185	OB-D	C	7	a	中間部	0.65	0.35	0.1
10187	OB-D	C	7	a	頭中部	1	0.4	0.15
10188	OB-D	C	7	a	中間部	0.85	0.45	0.1
10197	OB-D	C	7	a	中間部	1.15	0.45	0.1
10202	OB-D	C	7	a	中間部	0.6	0.4	0.1
10216	OB-D	C	7	a	中間部	1	0.5	0.3
10223	OB-D	C	7	a	頭中部	0.7	0.35	0.05
10226	OB-D	C	7	a	中間部	0.5	0.25	0.15
10241	OB-D	C	7	a	中尾部	0.85	0.3	0.1
10242	OB-D	C	7	a	中間部	1.1	0.35	0.1
10255	OB-D	C	7	a	頭中部	2	0.6	0.25
10264	OB-D	C	7	a	頭部	－	－	－
10264	OB-D	C	7	a	中間部	－	－	－
10273	OB-D	C	7	a	中間部	－	－	－
10281	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.45	0.15
10283	OB-D	C	7	a	中間部	0.75	0.55	0.15
10289	OB-D	C	7	a	中間部	0.5	0.3	0.1
10290	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.45	0.15
10291	OB-D	C	7	a	頭中部	1.1	0.4	0.1
10291	OB-D	C	7	a	尾部	0.7	0.45	0.1
10293	OB-D	C	7	a	中間部	0.55	0.4	0.1
10295	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.35	0.1
10299	OB-D	C	7	a	中間部	0.95	0.3	0.15
10304	OB-D	C	7	a	中間部	－	－	－
10306	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.3	0.1
10322	OB-D	C	7	a	頭中部	0.9	0.45	0.1
10343	OB-D	C	7	a	尾部	0.65	0.35	0.1
10346	OB-D	C	7	a	頭中部	1.05	0.45	0.15
10353	OB-D	C	7	a	頭中部	1.25	0.45	0.15
10354	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.4	0.1
10360	OB-D	C	7	a	頭中部	1.1	0.55	0.1
10374	OB-D	C	7	a	頭中部	1.1	0.3	0.1
10377	OB-D	C	7	a	中間部	0.8	0.45	0.1
10913	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.3	0.1
10919	OB-D	C	7	a	中間部	0.75	0.5	0.15
10923	OB-D	C	7	a	中間部	1.35	0.7	0.1
10930	OB-D	C	7	a	－	0.9	0.3	0.15
10934	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.45	0.1
10935	OB-D	C	7	a	中間部	0.6	0.4	0.1
10943	OB-D	C	7	a	中間部	0.65	0.4	0.1
10944	OB-D	C	7	a	中尾部	0.85	0.35	0.1

表21　掲載以外の細石刃一覧表（２）

遺物番号	石材	ブロック	層１	層２	部位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）
10948	OB-D	C	7	a	中尾部	－	－	－
10949	OB-D	C	7	a	中間部	1.05	0.35	0.1
10981	OB-D	C	7	a	中尾部	1.2	0.35	0.15
10988	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.3	0.1
10990	OB-D	C	7	a	尾部	0.7	0.3	0.1
11003	OB-D	C	7	a	頭中部	0.6	0.3	0.1
11007	OB-A	C	7	a	中尾部	0.9	0.2	0.1
11008	OB-D	C	7	a	頭中部	0.7	0.25	0.1
11012	OB-D	C	7	a	頭中部	1	0.5	0.1
11013	OB-D	C	7	a	中間部	0.95	0.35	0.1
11015	安山岩	C	7	a		－	－	－
11090	OB-D	C	7	a	中間部	0.7	0.4	0.15
11105	OB-D	C	7	a	中間部	1.1	0.55	0.15
11112	OB-D	C	7	a	頭部	0.75	0.45	0.1
11115	OB-D	C	7	a	尾部	－	－	－
11116	OB-D	C	7	a	中間部	0.85	0.6	0.15
11117	OB-D	C	7	a	中間部	0.6	0.3	0.1
11118	OB-D	C	7	a	尾部	－	－	－
11121	OB-D	C	7	a	中間部	0.9	0.4	0.1
11273	OB-D	C	7	a	中間部	0.55	0.25	0.05
10010	OB-D	D	7	a	中間部	0.5	0.2	0.1
10012	OB-D	D	7	a	頭部	0.6	0.55	0.1
10013	OB-D	D	7	a	尾部	－	－	－
10017	OB-D	D	7	a	頭中部	0.95	0.6	0.15
10020	OB-D	D	7	a	中間部	0.9	0.7	0.1
10021	OB-D	D	7	a	中間部	0.7	0.4	0.1
10024	OB-D	D	7	a	中間部	0.5	0.3	0.05
10901	OB-D	D	7	a	頭中部	1.05	0.6	0.15
10056	OB-D	E	7	a	中間部	1.6	0.38	0.21
10060	OB-D	E	7	a	中間部	0.7	0.45	0.15
10061	OB-D	E	7	a	頭中部	0.6	0.4	0.1
10064	OB-D	E	7	a	中間部	0.75	0.45	0.1
10091	OB-D	E	7	a	中間部	1.12	0.42	0.18
11017	OB-D	E	7	a	中間部	0.8	0.4	0.05
11018	OB-D	E	7	a	中間部	1.45	0.45	0.12
11020	OB-D	E	7	a	頭中部	0.85	0.25	0.1
11020	OB-D	E	7	a	中間部	－	－	－
11138	OB-D	E	7	a	中間部	0.6	0.4	0.1
11139	OB-D	E	7	a		0.9	0.4	0.1
10537	OB-D	F	7	a	中間部	0.5	0.5	0.1
10538	OB-D	F	7	a	中間部	－	－	－
10546	OB-D	F	7	a	中間部	1.2	0.5	0.15
11294	OB-C	F	7	a	中間部	0.7	0.35	0.05
11297	OB-C	F	7	a	中尾部	0.95	0.4	0.05
11305	OB-A	F	7	a	中間	0.9	0.85	0.3
10399	OB-D	G	7	a	頭中部	1.25	0.5	0.15
10453	OB-D	G	7	a	中間部	1.25	0.4	0.15
10458	OB-D	G	7	a	中間部	－	－	－
12465	OB-A	H	7	a	頭中部	1.55	0.6	0.2
12471	OB-C	H	7	a	完形	1.05	0.3	0.05
12475	OB-A	H	7	a	中間	0.8	0.45	0.1
12482	OB-A	H	7	a	頭中部	1	0.45	0.15
12483	OB-C	H	7	a	頭中部	0.75	0.35	0.05
12489	OB-C	H	7	a	頭中部	0.85	0.4	0.05
12497	OB-A	H	7	a	完形	1	0.2	0.05
12505	OB-A	H	7	a	頭中部	0.95	0.35	0.1
12507	OB-B	H	7	a	－	0.6	0.55	0.1
12529	OB-A	H	7	a	頭中部	0.9	0.6	0.1
12537	OB-A	H	7	a	頭中部	0.7	0.5	0.1
12542	OB-A	H	7	a	頭中部	1.1	0.5	0.15
12600	OB-A	H	7	a	頭中部	1	0.4	0.1
12605	OB-C	H	7	a	中間部	0.6	0.35	0.1
12608	OB-A	H	7	a	中尾部	0.8	0.4	0.1
12611	OB-A	H	7	a	中間	0.75	0.5	0.1
12622	OB-A	H	7	a	頭中部	1.15	0.4	0.1
12642	OB-C	H	7	a	中尾部	0.8	0.35	0.05
12651	OB-A	H	7	a	完形	1.5	0.55	0.15
12652	OB-A	H	7	a	中尾部	0.85	0.5	0.15
12653	OB-A	H	7	a	頭中部	0.9	0.5	0.1
12657	OB-A	H	7	a	中尾部	0.75	0.35	0.1
12685	OB-C	H	7	a	中尾部	1.9	0.65	0.2
12688	OB-A	H	7	a	頭中部	0.8	0.4	0.1
13319	OB-A	H	7	a	中尾部	0.85	0.4	0.15
13321	OB-A	H	7	a	中間	0.6	0.55	0.1
13322	OB-C	H	7	a	頭中部	0.9	0.5	0.1
13325	OB-A	H	7	a	頭部	0.8	0.45	0.15
13342	OB-A	H	7	a	頭中部	0.95	0.35	0.1
13343	OB-A	H	7	a	頭部	0.7	0.5	0.15
13345	OB-A	H	7	a	完形	1	0.45	0.15
13504	OB-C	H	7	a	完形	2.15	0.35	0.1
13505	OB-A	H	7	a	完形	1.2	0.4	0.15
13514	OB-A	H	7	a	中間	0.6	0.4	0.1
11714	OB-D	M	7	a	頭中部	1.15	0.55	0.28
12000	OB-B	N	7	a	頭中部	－	－	－
14497	OB-A	Q	7	a	頭部	0.75	0.4	0.1
15746	OB-A	Q	7	a	頭中部	0.9	0.35	0.1
14752	OB-A	R	7	a	完形	0.8	0.5	0.1
16364	OB-A	R	7	a	中尾部	0.6	0.6	0.1
16668	OB-D	R	7	a	尾部	0.6	0.35	0.15
14601	OB-C	S	7	a	中間部	0.7	0.6	0.15

表22　ブロック別観察表（1）

ブロック	石材	区	規模（m）	総数	剥片等	細石刃	細石刃核	ブランク	スクレイパー	打再	二次加工剥片	石鏃	石核	叩石	スポール	ナイフ形石器	三稜尖頭器	細石刃核調整剥片	微細剥離痕のある剥片
A	OB-A			1	1														
	黒色安山岩			1	1														
	タンパク石			1	1														
	OB-D			218	158	48	2								10				
	頁岩			1					1										
	OB-C			1															
B	OB-A			2	2														
	OB-D			109	92	16									1				
C	安山岩			1		1													
	OB-A			11	9	1													
	黒色安山岩			6	6														
	OB-B			7	7														
	OB-D			378	280	91	2					1			4				
	OB-C			1	1														
D	OB-A			3	3														
	黒色安山岩			1	1														
	OB-B			3	3														
	OB-D			26	7	16									3				
	硬質頁岩			1	1														
E	OB-A			46	45						1								
	OB-B			3	3														
	OB-D			27	11		2				13							1	
	無斑晶質安山岩			1	1												1		
F	OB-A			209	202	6	1												
	OB-B			4	4														
	OB-C			4	2	2													
	OB-D			8	2	4	1			1									
G	OB-A			11	10														
	黒色安山岩			1	1														
	OB-B			187	186						1								
	OB-D			17	10	3	1								3				
	OB-C			2	1	1													
H	OB-A			339	295	37	6						1						
	頁岩			1					1										
	黒色安山岩			1	1														
	OB-B			8	17	1													
	OB-E			2	2														
	OB-C			26	6	20													
I	OB-A			6	6														
	OB-B			62	62														
	OB-E			63	63														
	OB-C			1	1														
J	OB-A			208	205		1	1											1
	OB-B			32	32														
	OB-E			5	4				4										
	黒色安山岩			45	45														
	瑪瑙			1	1														
K	OB-A			102	102														
	硬質頁岩			14	12								1						1
	黒色安山岩			1	1														
	無斑晶質安山岩			1	1														
	瑪瑙			4	4														
L	OB-A			40	38								1						1
	硬質頁岩			2	2														
	黒色安山岩			5	5														

表23　ブロック別観察表（２）

ブロック	石材	区	規模（m）	総数	剥片等	細石刃	細石刃核	ブランク	スクレイパー	打再	二次加工剥片	石鏃	石核	叩石	スポール	ナイフ形石器	三稜尖頭器	細石刃核調整剥片	微細剥離痕のある剥片
M	OB-A			376	372		1				1		2						
	黒色安山岩			54	54														
	OB-B			5	5														
	タンパク石			10	10														
	硬質頁岩			4	4														
	瑪瑙			11	11														
N	OB-A			144	143								1						
	OB-B			8	7	1													
	黒色安山岩			14	14														
O	OB-A			99	95								3						1
	黒色安山岩			85	85														
	OB-B			8	8														
	OB-D			1	1														
	硬質頁岩			5	5														
	OB-C			3	2								1						
P	OB-A			590	578				2				10						
	OB-B			13	11								2						
	OB-E			9	9														
	OB-D			3	3														
	OB-C			1	1														
	硬質頁岩			9	8								1						
	黒色安山岩			71	68								3						
	無斑晶質安山岩			1	1														
Q	OB-A			950	941	2	1	1					5						
	硬質頁岩			2	1														1
	黒色安山岩			30	30														
	OB-B			63	63														
	OB-D			2	2														
R	OB-A			1520	1508	3		2			1		6						
	頁岩			1												1			
	黒色安山岩			732	731	1													
	OB-B			20	20														
	タンパク石			3	3														
	OB-E			2	2														
	OB-D			3	2	1													
	OB-C			1	1														
	玉髄			1	1														
	硬質頁岩			9	9														
	瑪瑙			5	5														
S	OB-A			62	61		1												
	OB-B			3	3														
	硬質頁岩			1	1														
	OB-C			1		1													
	瑪瑙			1	1														
T	OB-A			7	4	2			1										
	黒色安山岩			1	1														
	OB-B			22	22														
	OB-D			1	1														
	OB-C			7	4	3													
ブロック外	OB-A			27	2														
	黒色安山岩			5	5														
	OB-B			7	7														
	タンパク石			1	1														
	OB-D			9	8		1												
	砂岩			1										1					
	瑪瑙			1	1														
	チャート			1								1							
	砂岩			1															

表24　実測石器観察表（１）

図番号	遺物番号	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石　材	層1	層2	器　　種	部位	ブロック	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
1	11360	29.479	160.898	186.919	OB-A	8	c	ナイフ形石器	－		－	2.73	1.91	0.75	2.43
2	12086	66.596	174.758	184.337	OB-B	8	b	ナイフ形石器	－		－	3.4	1.48	0.8	3.99
3	11345	30.55	159.477	186.925	OB-B	8	c	三稜尖頭器	－		－	3.2	2.5	1.6	7.64
4	11366	29.759	161.898	186.909	硬質頁岩	8	c	三稜尖頭器	－		－	5.5	1.5	1.05	7.58
5	17150	68.494	130.604	186.700	砂岩	8	c	叩石	－		－	4.8	2.4	1.4	23.4
6	10834	15.957	167.329	187.345	OB-D	7	a	細石刃核	－	A	－	2.2	1.7	2.6	9.47
7	10831	15.689	166.884	187.387	OB-D	7	a	細石刃核	－	A	－	2.19	1.22	1.11	3.31
8	10809	14.651	165.99	187.367	OB-D	7	a	スポール	－	A	－	2.65	1.3	0.45	1.35
9	10779	15.49	165.691	187.388	OB-D	7	a	スポール	－	A	－	4.7	1.4	0.7	5.28
10	10825	15.779	166.329	187.407	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	A	－	2.1	0.5	0.25	0.23
11	10753	16.699	166.181	187.405	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	A	－	1.45	0.55	0.17	0.11
12	11275	15.163	165.481	187.361	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	A	－	1.4	0.55	0.22	0.16
13	10649	19.481	170.679	187.440	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	B	－	1.4	0.45	0.15	0.1
14	10843	15.534	166.614	187.393	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	A	－	1.8	0.75	0.22	0.24
15	10810	14.396	165.588	187.358	OB-D	7	a	細石刃	中間部	A	－	1.4	0.5	0.2	0.14
16	10811	14.505	165.298	187.391	OB-D	7	a	細石刃	中間部	A	－	1.6	0.55	0.2	0.17
17	11079	18.617	172.554	187.399	OB-D	7	a	細石刃	中間部	B	－	1.45	0.4	0.15	0.15
18	10648	19.607	170.567	187.459	OB-D	7	a	細石刃	中間部	B	－	2.5	0.4	0.2	0.21
19	10893	11.243	163.262	187.376	頁岩	7	a	スクレイパー	－	A	－	11.34	4.64	1.65	90.25
20	10959	27.125	172.559	187.444	OB-D	7	a	スポール	－	C	接合資料6	6.1	1.4	0.85	4.35
21	10222	27.757	172.624	187.475	OB-D	7	a	細石刃核	－	C	－	3.15	1.58	2.55	13.22
22	10224	27.673	172.67	187.444	OB-D	7	a	細石刃核	－	C	－	2.9	1	1.7	4.07
23	10215	27.703	172.281	187.474	OB-C	7	a	石鏃	－	C	－	1.6	1.3	0.45	0.67
24	10976	27.686	172.897	187.432	OB-D	7	a	スポール	－	C	－	3.4	0.6	0.4	0.4
25	10324	27.484	173.439	187.489	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	C	－	0.9	0.55	0.16	
26	10326	27.545	173.319	187.482	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	C	－	1.5	0.5	0.18	0.09
27	11005	27.04	173.5	187.442	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	C	－	1.35	0.44	0.18	0.1
28	10876	14.845	167.353	187.382	OB-D	7	a	細石刃	中間部	A	－	1.38	0.52	0.12	0.12
29	10909	27.71	171.933	187.430	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	C	－	1.45	0.5	0.15	0.07
30	10199	27.554	171.872	187.463	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	C	－	1.55	0.55	0.18	0.18
31	10372	26.57	174.255	187.531	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C	－	1.65	0.5	0.15	0.12
32	10186	27.097	171.608	187.471	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C	－	1.35	0.6	0.22	0.22
33	10926	26.445	171.67	187.433	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C	－	1.2	0.7	0.15	0.11
34	10303	26.602	173.38	187.470	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C	－	1.4	0.5	0.3	0.11
35	10911	27.467	171.18	187.451	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C	－	1.15	0.4	0.15	0.07
36	10220	27.839	172.595	187.480	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C	－	1.45	0.65	0.15	0.17
37	10005	33.282	156.564	187.438	OB-D	7	a	スポール	－	D	－	2.5	0.4	0.3	0.18
38	10025	33.114	159.187	187.494	OB-D	7	a	スポール	－	D	－	2.3	0.4	0.4	0.22
39	10011	33.261	157.08	187.507	OB-D	7	a	細石刃	完形	D	－	1.83	0.45	0.18	0.18
40	10016	33.552	157.692	187.461	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	D	－	1	0.6	0.18	0.09
41	10014	33.366	157.296	187.425	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	D	－	1.3	0.62	0.2	0.11
42	10003	34.967	156.544	187.394	OB-D	7	a	細石刃	頭部	D	－	1.15	0.75	0.2	0.1
43	10004	34.198	156.65	187.445	OB-D	7	a	細石刃	中尾部	D	－	2.3	0.8	0.35	
44	10023	33.404	158.437	187.531	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	D	－	1.3	6.5	0.18	0.12
45	10902	32.025	159.839	187.450	OB-D	7	a	細石刃	中間部	D	－	1.38	0.7	0.2	0.15
46	10022	32.848	158.132	187.405	OB-D	7	a	細石刃	中間部	D	－	1.45	0.5	0.2	
47	10058	24.709	167.342	187.417	OB-D	7	a	細石刃核	－	E	－	2.6	1.61	1.25	5.1
48	11025	24.432	167.795	187.378	OB-D	7	a	細石刃核	－	E	－	2.7	1.4	1.4	3.42
49	10071	23.737	167.063	187.448	OB-D	7	a	細石刃核調整剥片	－	E	－	2.1	1.2	0.3	
50	10080	23.55	167.984	187.400	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	E	－	2.45	0.55	0.25	
51	10057	25.196	167.478	187.447	OB-D	7	a	細石刃	中間部	E	－	1.75	0.65	0.15	
52	11319	20.321	172.716	187.281	OB-D	7	a	細石刃核	－	F	接合資料1	3.7	1.8	2.2	12.77
53	10529	22.725	173.381	187.342	OB-D	7	a	打面再生剥片	－	F	－	2.2	1.43	0.57	1.57
54	11047	21.044	173.144	187.369	OB-A	7	a	細石刃核	－	F	－	1.25	2.03	1.4	3.18
55	10529	22.725	173.381	187.342	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	F	－	2.4	0.7	0.35	0.54
56	10530	22.337	173.18	187.333	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	F	－	1.55	0.65	0.1	0.18
57	10637	21.703	174.139	187.441	OB-A	7	a	細石刃	頭部	F	－	0.9	0.7	0.1	0.13
58	11316	21.391	172.217	187.305	OB-A	7	a	細石刃	頭部	F	－	0.9	0.65	0.15	0.11
59	11070	21.413	173.349	187.327	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	F	－	1.25	0.7	0.15	0.17
60	10587	20.812	173.142	187.416	OB-A	7	a	細石刃	頭部	F	－	1.1	0.8	0.15	0.18
61	10904	33.175	164.975	187.345	OB-D	7	a	細石刃核	－	G	－	2.1	1.3	1.5	4.15
62	10514	30.373	168.044	187.424	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	G	－	0.7	0.45	0.13	
63	10397	28.429	170.179	187.494	OB-D	7	a	スポール	－	G	接合資料5	2.81	1.11	0.6	－
64	10444	29.093	169.734	187.445	OB-D	7	a	スポール	－	G	接合資料5	2.6	1.2	0.55	－
65	10447	29.422	169.802	187.420	OB-A	7	a	三稜尖頭器	－	G	－	3.75	1.6	1.4	6.53
66	12567	51.403	185.212	187.668	OB-A	7	a	細石刃核	－	H	－	2.21	1.62	1.44	4.92
67	12723	47.085	184.701	187.612	OB-A	7	a	細石刃核	－	H	－	1.91	1.68	1.95	4.96
68	12727	46.452	185.011	187.561	OB-A	7	a	細石刃核	－	H	－	1.85	1.73	1.85	5.26
69	12632	51.396	185.322	187.583	OB-A	7	b	細石刃核	－	H	－	2.05	2.1	2.3	9.32

表25　実測石器観察表（２）

図番号	遺物番号	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石　材	層1	層2	器　　種	部位	ブロック	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
70	12619	50.863	185.239	187.674	OB-A	7	a	細石刃核	－	H	－	2.8	1.35	1.85	5.42
71	12594	50.662	184.493	187.659	OB-A	7	a	細石刃核	－	H	－	2.59	1.36	1.84	4.14
72	12749	45.121	185.226	187.563	OB-C	7	a	細石刃	完形	H	－	1.7	0.55	0.2	0.18
73	12628	51.179	185.564	187.655	OB-A	7	a	細石刃	完形	H	－	1.7	0.6	0.15	0.19
74	12522	51.784	184.978	187.659	OB-A	7	a	細石刃	完形	H	－	2.1	0.65	0.1	0.22
75	12590	50.346	184.174	187.641	OB-A	7	a	細石刃	完形	H	－	1.4	0.45	0.15	0.11
76	12463	52.785	185.006	187.604	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1.3	0.6	0.1	0.14
77	13341	51.78	185.603	187.649	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1.6	0.7	0.2	0.2
78	12655	51.954	185.593	187.651	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1.5	0.6	0.1	0.18
79	12500	52.444	185.904	187.624	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1.55	0.65	0.15	0.18
80	12561	51.274	185.26	187.645	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1	0.6	0.1	0.06
81	12603	50.08	184.622	187.674	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1.2	0.65	0.1	0.13
82	13528	52.536	185.91	187.582	OB-A	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1.1	0.45	0.1	0.06
83	12645	51.684	185.77	187.616	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1	0.55	0.1	0.08
84	13378	49.859	183.941	187.644	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1.2	0.45	0.15	0.08
85	12466	52.203	185.044	187.650	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1	0.4	0.1	0.05
86	12538	51.819	185.458	187.623	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1.2	0.3	0.1	0.04
87	12649	51.582	185.947	187.597	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	－	1.1	0.5	0.1	0.05
88	13332	52.006	185.737	187.539	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	H	－	2.05	0.38	0.16	0.11
89	12679	49.253	184.108	187.655	OB-C	7	a	細石刃	中間部	H	－	1.5	0.45	0.1	0.09
90	12481	52.239	185.287	187.607	OB-A	7	a	細石刃	中間部	H	－	1.15	0.6	0.15	0.11
91	12487	52.109	185.552	187.657	OB-A	7	a	細石刃	中間部	H	－	0.75	0.5	0.1	0.05
92	12666	49.756	183.696	187.653	OB-C	7	a	細石刃	中尾部	H	－	1.6	0.35	0.1	0.08
93	12485	52.127	185.46	187.643	OB-A	7	a	細石刃	中尾部	H	－	1.75	0.5	0.1	0.14
94	12527	51.885	185.105	187.654	OB-C	7	a	細石刃	中尾部	H	－	1.3	0.3	0.5	0.03
95	13339	51.67	185.497	187.640	OB-C	7	a	細石刃	中尾部	H	－	1.6	0.4	0.15	0.16
96	12601	50.273	184.732	187.678	頁岩	7	a	スクレイパー	－	H	－	11.8	6.4	3.2	182.53
97	12919	53.482	177.625	187.514	OB-A	7	a	細石刃核	－	J	－	3	1.4	1.5	4.18
98	12876	52.805	175.23	187.518	OB-E	7	a	スクレイパー	－	J	－	2	2.65	1	5.69
99	13106	50.141	170.348	187.345	硬質頁岩	7	a	石核	－	K	－	2.9	3.6	2.8	27.45
100	11471	79.634	181.951	185.645	OB-A	7	a	石核	－	L	－	1.4	2.1	2.3	6.51
101	11445	70.406	177.114	185.507	OB-A	7	a	細石刃核	－	M	－	2.6	1.3	2.2	6.76
102	11681	69.918	182.488	185.275	OB-A	7	b	二次加工剥片	－	M	－	3.3	1.95	0.9	4.03
103	11679	69.736	182.822	185.226	OB-A	7	b	石核	－	M	－	2.3	2.88	1.9	10.94
104	11867	67.2	178.65	185.125	OB-A	7	a	石核	－	M	－	2.7	3.2	1.7	13.36
105	12357	64.436	169.465	184.844	OB-A	7	b	石核	－	N	－	2.15	3.43	2.38	17.94
106	12258	61.275	165.297	184.785	OB-A	7	a	石核	－	O	－	2.9	3.21	2.67	21.39
107	12396	61.473	164.71	184.705	OB-A	7	b	石核	－	O	－	3.7	4.5	4.5	76.06
108	12191	60.043	162.896	184.796	OB-C	7	a	石核	－	O	－	5.7	4.6	2.7	40.91
109	17461	56.833	160.197	184.697	OB-A	7	a	石核	－	P	－	2.26	2	2.44	13.44
110	17684	57.075	157.922	184.611	OB-A	7	b	石核	－	P	－	2.7	1.9	2.5	11.2
111	17569	56.803	159.409	184.607	OB-A	7	a	石核	－	P	－	2.55	2.15	2.85	19.94
112	17370	56.484	158.87	184.726	OB-A	7	a	石核	－	P	－	2.35	2.85	2	13.43
113	13208	57.998	159.672	184.689	OB-B	7	a	石核	－	P	－	3.05	3.08	1.52	12.49
114	17323	54.85	157.355	184.650	OB-A	7	a	石核	－	P	－	2.9	2.55	1	6.79
115	13018	58.611	159.029	184.625	OB-A	7	b	石核	－	P	－	2	2.5	2.2	8.64
116	13033	58.638	159.647	184.622	黒色安山岩	7	b	石核	－	P	－	3.2	3.4	1.4	13.25
117	12435	58.423	160.217	184.577	黒色安山岩	7	b	石核	－	P	－	1.75	3.1	2.85	10.57
118	17596	56.136	157.246	184.612	硬質頁岩	7	a	石核	－	P	－	3.4	2.1	1.4	6.26
119	13060	58.299	159.373	184.748	OB-A	7	a	スクレイパー	－	P	－	4.2	3	1.2	12.41
120	13059	58.359	159.332	184.762	OB-A	7	a	スクレイパー	－	P	－	2.9	4	1.93	12.40
121	14509	62.448	145.105	186.902	OB-A	7	a	石核	－	Q	－	2.6	2.6	2.45	17.11
122	16238	62.927	145.584	186.787	OB-A	7	b	石核	－	Q	－	1.5	1.3	2.5	4.07
123	16561	63.093	144.521	186.762	OB-A	8		石核	－	Q	－	1.54	1.8	1.45	3.13
124	13774	62.325	147.352	186.741	OB-A	7	a	石核	－	Q	－	2.4	3.6	2.2	10.94
125	13603	59.277	144.796	186.709	OB-A	7	a	石核	－	Q	－	2.2	2.3	1.8	6.07
126	16457	61.816	148.029	186.859	OB-A	7	a	石核	－	Q	－	1.7	2.3	2	7.15
127	17185	69.393	146.34	187.120	OB-A	7	b	剥片・砕片	－	R	－	1.6	2.4	2.6	12.89
128	14305	69.005	151.19	187.072	OB-A	7	a	石核	－	R	－	2.2	1.4	2.5	8.38
129	16155	70.066	146.918	187.210	OB-A	7	a	石核	－	R	－	2.05	2.15	1.5	6.66
130	15680	70.723	149.094	187.244	OB-A	7	b	石核	－	R	－	2.4	2.5	1.95	7.24
131	14299	66.315	150.526	186.918	OB-A	7	a	石核	－	R	－	1.8	2.45	2.1	7.54
132	15888	63.619	144.794	186.824	頁岩	7	b	ナイフ形石器	－	R	－	2.07	2.78	2.82	17.47
133	15251	68.497	146.597	187.267	OB-A	7	a	細石刃	完形	R	－	1.25	0.7	1	0.12
134	16445	70.207	147.011	187.197	黒色安山岩	7	a	細石刃	頭部	R	－	10.5	0.7	0.15	0.15
135	14575	77.508	150.509	187.411	OB-A	7	a	細石刃核	－	S	－	2	1.9	3.3	11.87
136	17819	82.749	126.701	187.444	OB-A	7	a	スクレイパー	－	T	－	2.95	5.35	1.4	20.71
137	17542	78.108	119.694	187.493	OB-C	7	a	細石刃	頭中部	T	－	1.7	0.5	0.15	0.19
138	17541	79.126	118.388	187.427	OB-C	7	a	細石刃	中間部	T	－	1.2	0.3	0.15	0.08

表26　実測石器観察表（３）

図番号	遺物番号	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石　材	層１	層２	器　　種	部位	ブロック	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
139	17555	80.426	133.716	187.375	OB-A	7	a	細石刃	中尾部	T	－	0.9	0.45	0.1	0.06
140	17821	79.973	125.658	187.401	OB-A	7	a	細石刃	中尾部	T	－	0.8	0.45	0.1	0.05
141	17554	80.57	128.661	187.442	OB-C	7	a	細石刃	中間部	T	－	1.1	0.55	0.1	0.08
142	10754	17.092	166.393	187.353	OB-D	7	a	細石刃核	－	ブロック外	－	2.6	1.65	1.55	6.1
143	11433	76.149	176.686	186.525	OB-A	7	a	石核	－	ブロック外	－	2.18	3.08	2.05	13.25
144	12336	69.341	162.383	186.074	OB-A	7	b	石核	－	ブロック外	－	2.3	2.5	2.2	11.08
145	11426	87.046	172.315	187.330	砂岩	7	b	叩石	－	ブロック外	－	4.3	3.8	2.8	62.72

表27　接合資料観察表

図番号	遺物番号	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石　材	層１	層２	器　　種	部位	ブロック	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
146	11319	20.321	172.716	187.281	OB-D	7	a	細石刃核	－	F					
	10720	17.681	171.559	187.321	OB-D	7	a	スポール	－	B	接合資料1	4.7	1.7	2.1	16.24
	10357	28.072	172.377	187.455	OB-D	7	a	剥片・砕片	－	C					
147	10766	16.17	167.319	187.427	OB-D	7	a	スポール	－	A					
	10820	14.832	164.976	187.435	OB-D	7	a	スポール	－	A	接合資料2	4.2	3.2	0.5	3.79
	11205	15.424	165.096	187.389	OB-D	7	a	スポール	－	A					
148	10759	16.244	166.532	187.408	OB-D	7	a	スポール	－	A	接合資料3	4.3	0.85	1.8	3.51
	10891	11.171	162.843	187.390	OB-D	7	a	スポール	－	A					
149	10746	16.133	165.892	187.382	OB-D	7	a	スポール	－	A					
	10803	15.242	165.864	187.441	OB-D	7	a	スポール	－	A	接合資料4	4.7	0.6	1.2	2.25
	10821	14.629	164.311	187.430	OB-D	7	a	スポール	－	A					
150	10397	28.429	170.179	187.494	OB-D	7	a	スポール	－	G					
	10444	29.093	169.734	187.445	OB-D	7	a	スポール	－	G	接合資料5				
	10513	30.442	168.097	187.441	OB-D	7	a	スポール	－	G		5.35	1.2	0.5	3.23
151	10311	27.014	173.112	187.491	OB-D	7	a	スポール	－	C	接合資料6	6.65	1.3	0.7	4.34
	10959	27.125	172.559	187.444	OB-D	7	a	スポール	－	C					
152	10685	18.681	171.034	187.396	OB-D	7	a	剥片・砕片	－	B					
	10723	17.652	171.019	187.416	OB-D	7	a	剥片・砕片	－	B	接合資料7	1.8	2.3	0.7	1.57
	11084	17.786	171.683	187.375	OB-D	7	a	剥片・砕片	－	B					
153	10018	32.157	157.36	187.455	OB-D	7	a	剥片・砕片	－	D					
	10701	19.56	172.581	187.449	OB-D	7	a	剥片・砕片	－	B	接合資料8	2.85	3.4	0.95	3.23
	10708	18.653	172.524	187.463	OB-D	7	a	剥片・砕片	－	B					
154	10416	28.049	171.933	187.464	OB-D	7	a	剥片・砕片	－	C	接合資料9	3.7	2.7	0.3	2.64
	10970	27.711	172.609	187.457	OB-D	7	a	剥片・砕片	－	C					
155	10279	27.166	172.651	187.469	OB-D	7	a	細石刃	尾部	C					
	10288	26.829	172.679	187.453	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C	接合資料10	3.5	0.7	0.35	0.59
	10307	26.894	172.827	187.501	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C					
	10335	27.448	172.947	187.491	OB-D	7	a	細石刃	尾部	C					
156	10835	15.799	167.462	187.427	OB-D	7	a	細石刃	中間部	A	接合資料11	2.65	0.95	0.23	0.58
	10836	15.909	167.92	187.415	OB-D	7	a	細石刃	頭中部	A					
157	11196	15.08	165.619	187.343	OB-D	7	a	細石刃	中間部	A	接合資料12	1.97	0.45	0.18	0.12
	11278	15.439	165.302	187.360	OB-D	7	a	細石刃	中間部	A					
158	10918	26.82	171.9	187.445	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C	接合資料13	1.3	0.6	0.23	
	11095	27.542	172.432	187.396	OB-D	7	a	細石刃	頭部	C					
159	10259	26.262	172.53	187.456	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C	接合資料14	1.75	0.5	0.15	0.14
	10992	26.599	172.956	187.453	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C					
160	10275	26.981	172.442	187.446	OB-D	7	a	細石刃	頭部	C	接合資料15	1.48	0.45	0.16	0.09
	10928	28.038	172.849	187.407	OB-D	7	a	細石刃	中間部	C					

第４章　Ⅴ・Ⅳ・Ⅲ層の調査

第１節　概要

本遺跡の基本土層Ⅵ層（サツマ火山灰）直上のⅤ層・Ⅳ層を中心に縄文時代早期の遺構・遺物が，Ⅲ層上部より縄文時代前期～晩期の遺構・遺物が出土している。アカホヤ火山灰はブロック状に堆積しⅢｂ層を形成する。

遺構の認定時期については，土坑と落し穴状遺構は，埋土状況を検討した。集石遺構に関しては，検出面を判断基準としている。しかし，詳細な時期認定は困難であり，層位別の区分となっている。

第２節　遺構（西区）

１　Ⅴ・Ⅳ層の集石

集石遺構は，６基検出されている。縄文時代の集石遺構も，Ⅷ層の旧石器時代の分類方法で分類を行った。

Ⅰ類礫群　人為的掘り込み遺構を伴う礫群で，礫の詰まり方でさらにＡ，Ｂ，Ｃに細分した。
ＩＡ類　掘り込み遺構を伴い，礫がしっかり詰まっている。
ＩＢ類　掘り込み遺構を伴い，礫が少ない。
ＩＣ類　掘り込み遺構を伴い，礫は０～数個。
Ⅱ類礫群　掘り込み遺構を検出できないが，礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。
Ⅲ類礫群　礫の集中もない礫群で，礫の密粗でさらにＡ，Ｂに細分した。
ⅢＡ類　礫の中心が想定できる。
ⅢＢ類　散礫状態。

１号集石

Ｌ－17区で検出した。215㎝×188㎝の範囲に59個の礫が確認された。礫は主に砂岩と安山岩で，大部分の礫が被熱している。もろくて破砕しやすい礫も５，６個ある。Ⅴ層上面から検出されはじめるが，主体部はⅤ層下部にあり，しっかりと組まれている。北西方向に地形が低くなり，その方向に礫が拡散する傾向にある。（ⅢＡ類）

２号集石

Ｌ－17区で検出した。348㎝×310㎝の範囲に63個の礫が確認された。礫は安山岩，粘板岩，砂岩で，安山岩が多い。被熱し，赤化した礫が半数以上ある。礫は西側に比較的まとまり，東側に放射状に拡散している。（ⅢＢ類）

３号集石

Ｋ－16区で検出された。268㎝×157㎝の範囲に13個の礫が確認された。中心部の礫は被熱し赤化している。10㎝程度の角礫を中心とし，断面観察から掘り込み遺構堀が想定できる。（Ⅱ類）

４号集石

Ｍ－18区で検出し，208㎝×78㎝の範囲に９点の礫で構成する。礫は安山岩が中心で，大部分が被熱し赤化し，小児頭大の礫と扁平で厚さ3センチ程度の礫を中心に構成されている。（ⅢＡ類）

５号集石

Ｇ－19区で検出し，135㎝×130㎝の範囲に９点の礫が確認された。礫はほとんどが８㎝前後の安山岩である。（ⅢＢ類）

６号集石

Ｈ－19区で検出し，92㎝×58㎝の範囲に９個の礫が確認できた。直径10㎝程度で厚さ２㎝程度の扁平な礫で構成されている。（ⅢＡ類）

２　Ⅴ層の土坑

１号土坑

Ｇ－17区のⅥ層で検出した。平面プランは，長軸158㎝，短軸69㎝の楕円形で，検出面からの深さは約53㎝である。土坑内部は長軸の側面がえぐりとられ，短軸の断面は袋状を呈す。地形は南西方向が緩やかに低くなっているが，土坑は，その傾斜に沿った状態で存在し，床面もその傾斜に沿った形で掘り込まれている。埋土は基本的にⅤ層の黒褐色土である。

３　Ⅲ層の土坑

１号土坑

Ｈ－５区で検出した。平面プランは，長軸163㎝，短軸75㎝の長楕円形で，検出面からの深さは約49㎝である。埋土は基本的にⅢ層の黄橙色土であるが，やや暗い。部分的にアカホヤ火山灰のパミスが見られる。

２号土坑

Ｈ－５区で検出した。平面プランは，長軸122㎝，短軸97㎝の楕円形で，検出面からの深さは約40㎝である。埋土は基本的にⅢ層の黄橙色土である。最下層の埋土は黒褐色土で一部に薩摩火山灰がある。

３号土坑

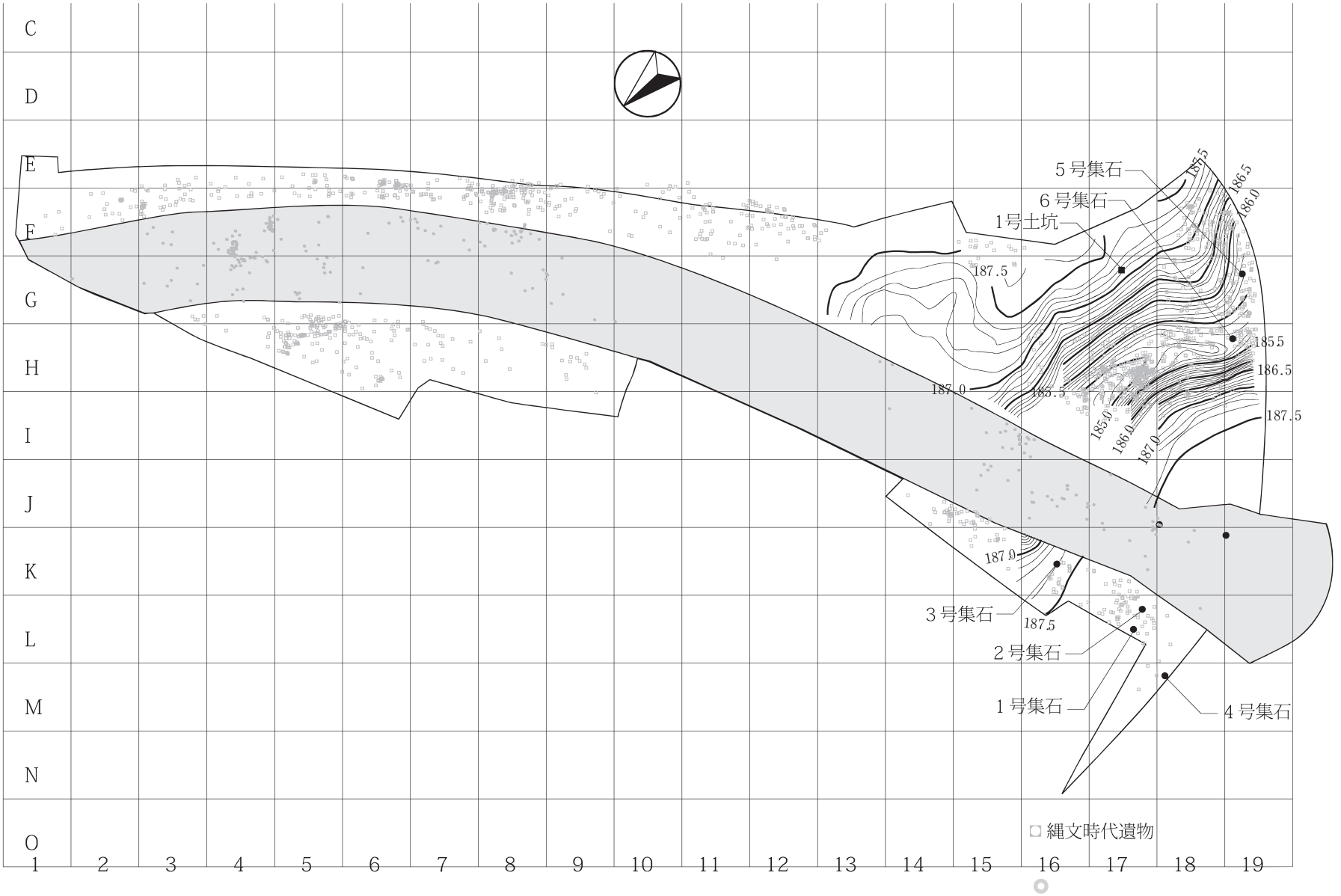
Ｈ－５区で検出した。平面プランは，長軸167㎝，短軸97㎝の楕円形で，検出面からの深さは約40㎝である。埋土はⅢ層の黄橙色土であるが，部分的に黒いところがある。

４号土坑

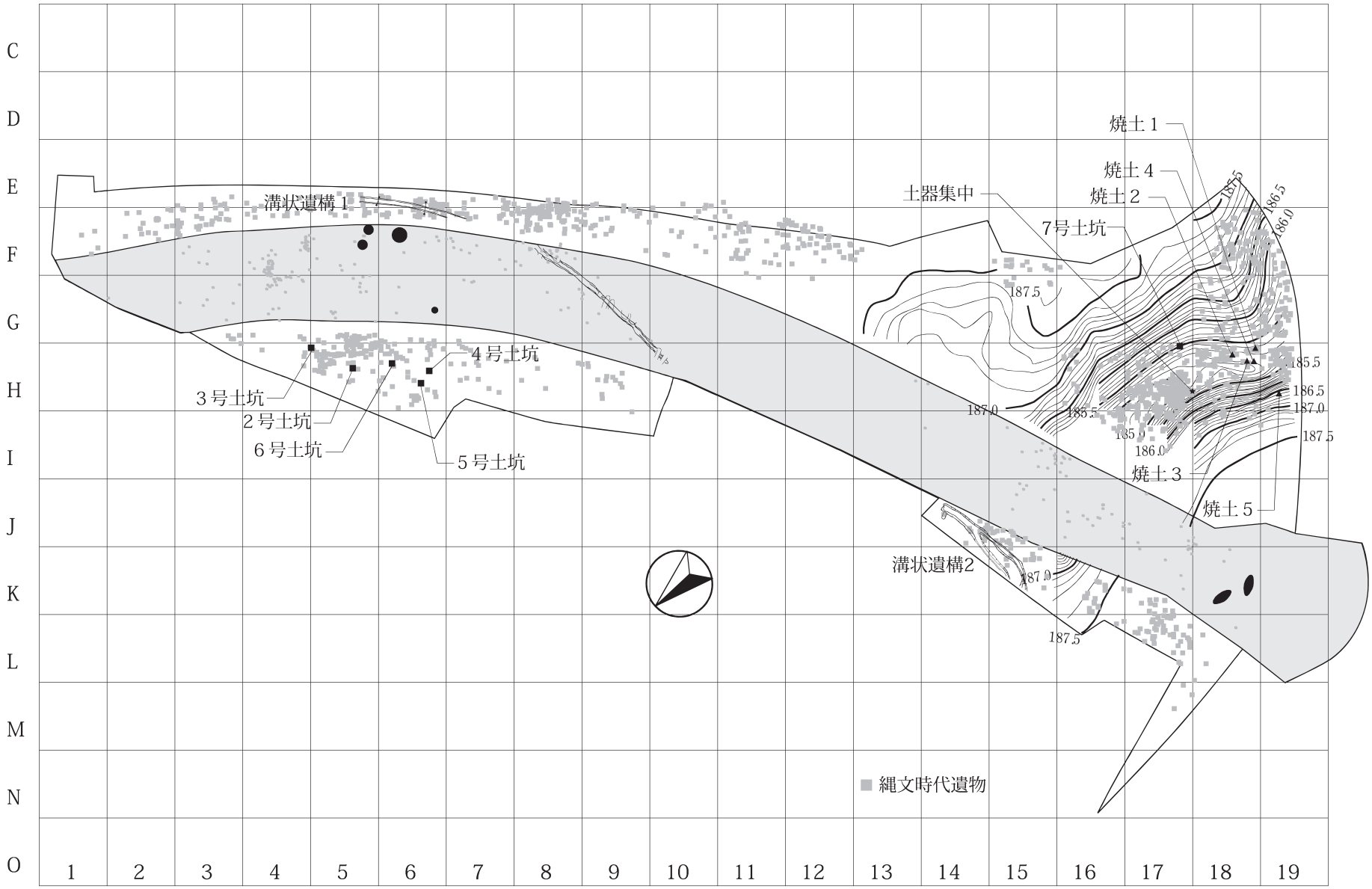
Ｈ－６区で検出した。平面プランは，長軸191㎝，短軸97㎝の楕円形で，検出面からの深さは約23㎝である。埋土は基本的にⅢ層の黄橙色土であるが，やや暗い。中位から下位にかけアカホヤ火山灰がブロック状に見られる。アカホヤパミスも上位から下位にかけて数は少ないが点在する。

５号土坑

Ｈ－６区で検出した。平面プランは，長軸182㎝，短軸84㎝の楕円形で，検出面からの深さは約45㎝である。埋土はⅢ層の黄橙色土であるが，やや暗い。中位から下位にかけアカホヤ火山灰がブロック状に見られる。アカホヤパミスも上位から下位にかけて数は少ないが点在する。



第99図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構配置図



第100図　西区Ⅲ層遺構配置図

6号土坑

H－6区で検出した。平面プランは，長軸180㎝，短軸90㎝の楕円形で，検出面からの深さは約28㎝である。埋土は基本的にⅢ層の黄橙色土であるが，やや暗い。最下層の埋土は黒褐色土で一部に薩摩火山灰がある。

7号土坑

H－17区で検出した。平面プランは，長軸143㎝，短軸75㎝の楕円形で，検出面からの深さは46㎝でⅤ層まで掘り込んでいる。埋土はⅢ層の黄橙色土である。

4　Ⅲ層の溝状遺構

溝状遺構1

E－5・6区～F－6・7区のⅢ層で検出した。検出面での長さは約21m，幅は約80㎝～100㎝である。西側に行くにつれ，上部が削平されている。検出面からもっとも落ち込む部分で深さ約20㎝である。埋土はⅡ層相当の黒色土とⅢ層相当の黄橙色土であり，レンズ状に堆積している。埋土中の遺物は縄文時代晩期の遺物がほとんどである。

溝状遺構2

J－14区～K－15区のⅢ層で検出した。検出面での長さは約19m，幅は約50㎝～200㎝である。14区と15区の区境近くで二股に分かれている検出面からもっとも落ち込む部分で深さ約20㎝である。埋土中の遺物は縄文時代晩期の遺物がほとんどである。

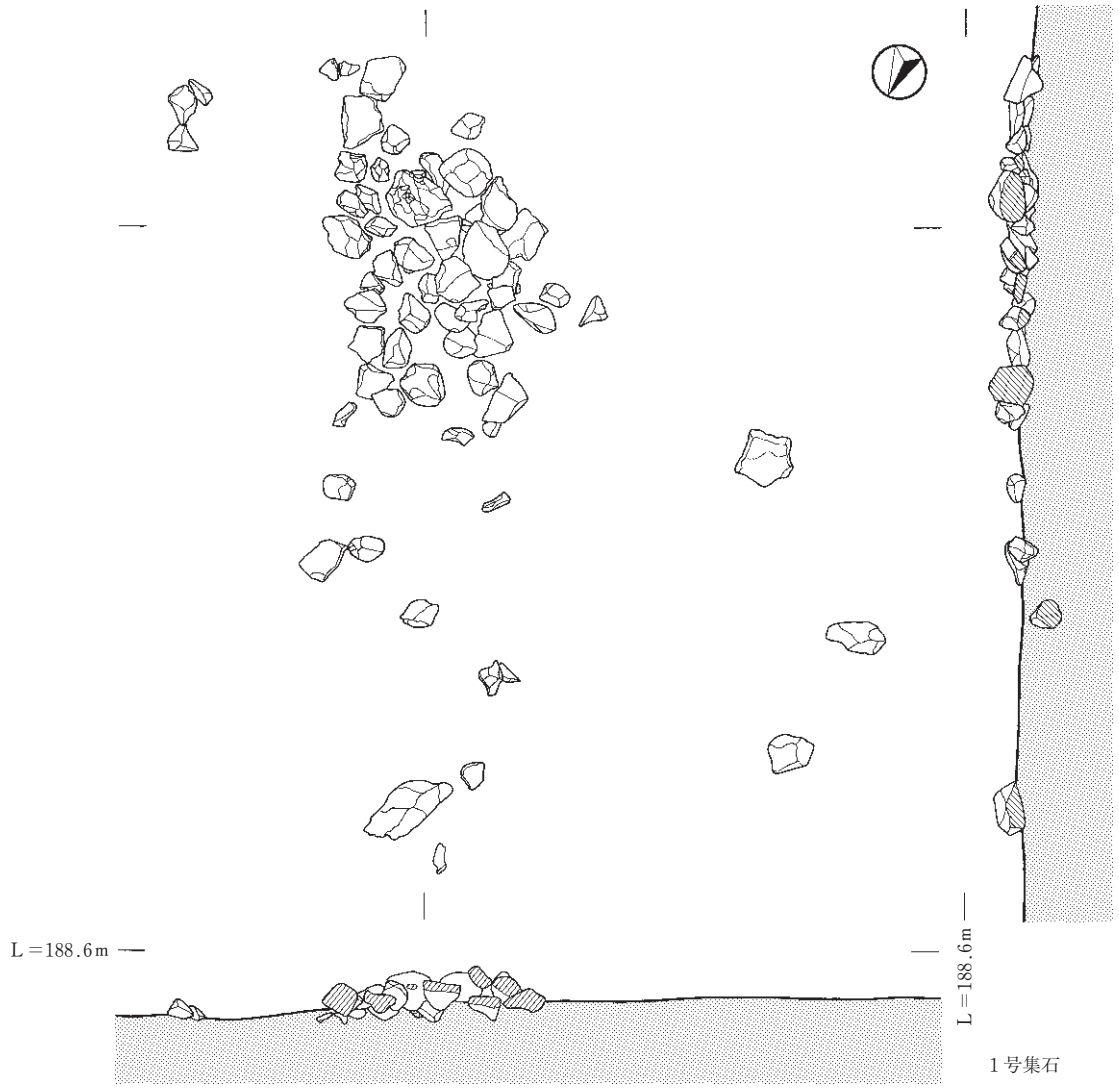
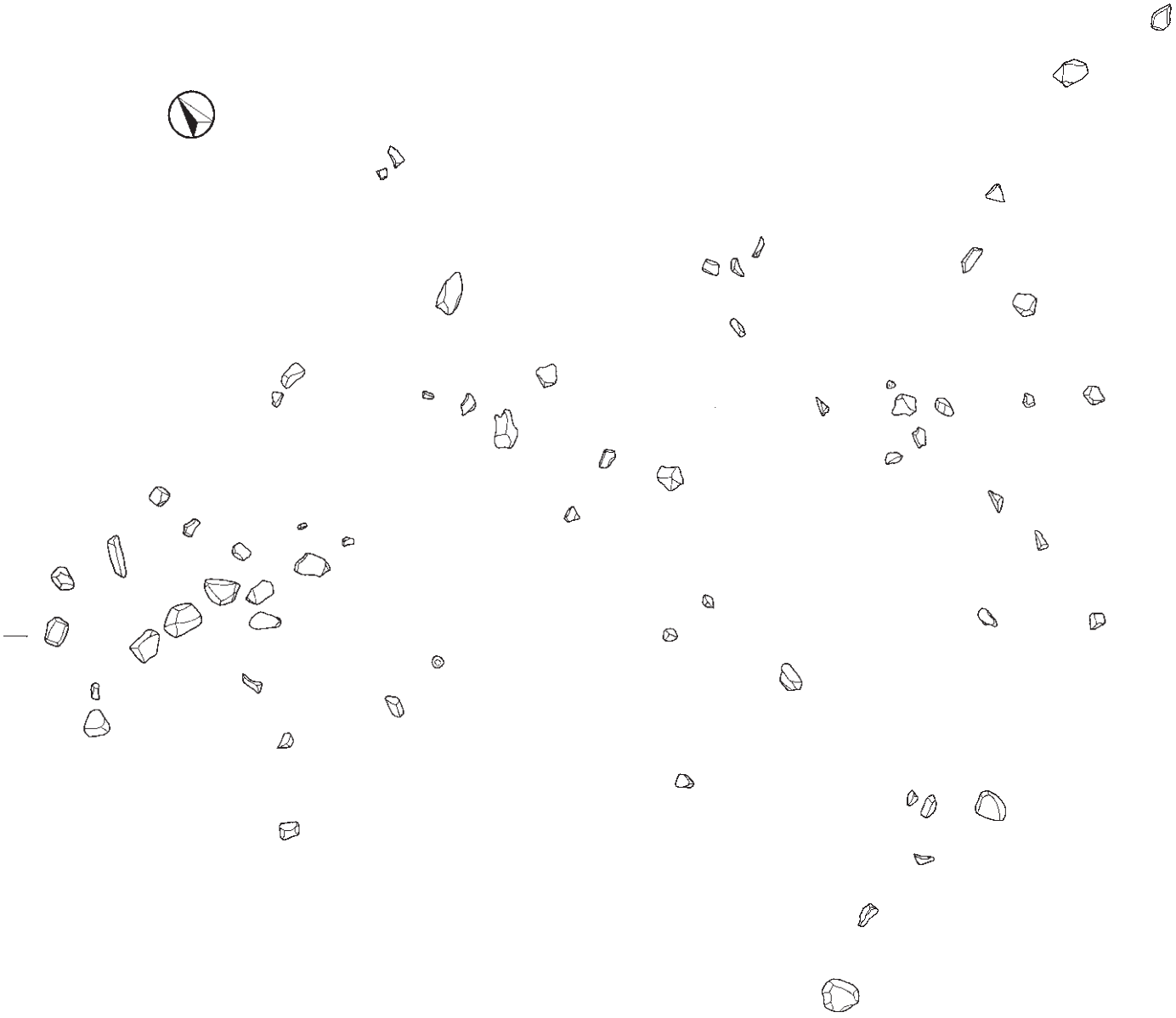


表28　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（1）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ 長径（cm）	大きさ 短径（cm）	構成礫 総重量（g）	構成礫 重量平均値（g）	構成礫 被熱率（%）	備考
1	101	ⅢA	59	215	188	－	－	－	H8-1

第101図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図（1）



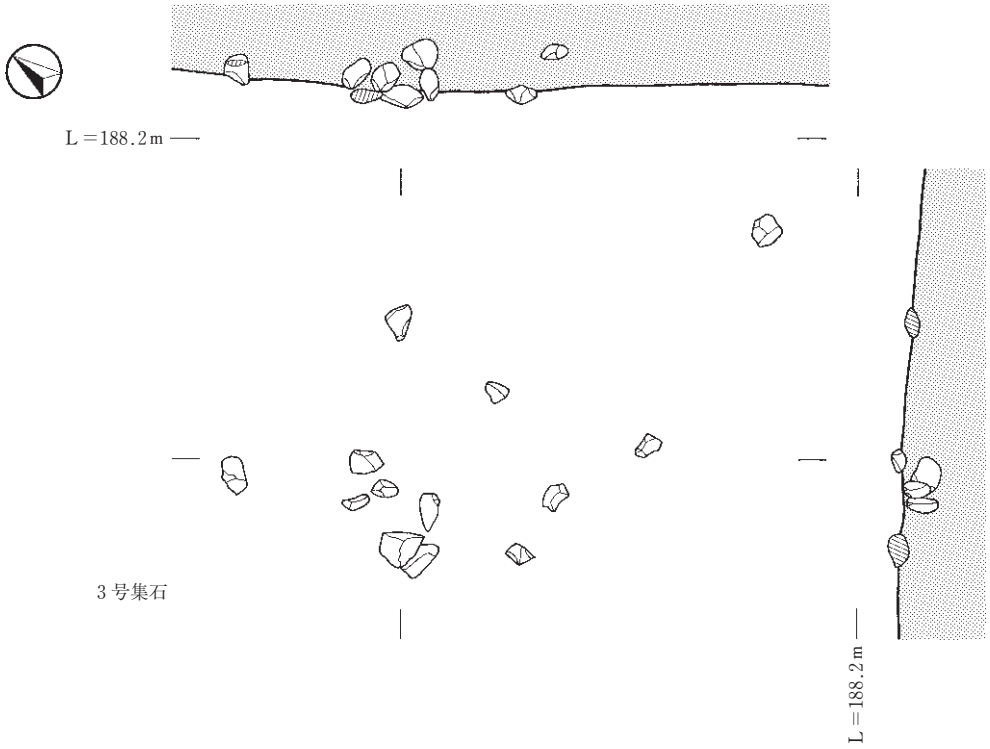
2号集石

表29　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（2）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
2	102	ⅢB	63	348	310	－	－	－	H8-2

0　1m

第102図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図（2）



溝状遺構１と溝状遺構２は，遺構配置図を検討すると2001年刊行『杁堀遺跡』で報告されている溝状遺構をはさんで北西から南西へつながることが想定される。

５　Ⅲ層の焼土跡

Ｈ－18区のⅢ層上面で焼土跡１～４を検出した。それぞれ直径約50㎝～100㎝の広さを持ち，表面のみが焼け，掘り込みは認められない。

Ｈ－19区のⅢ層上面で焼土跡５を検出した。直径約100㎝の広さを持つ。焼土の表面はやや硬化し，灰色の火山灰がブロック状に入る。

６　Ⅲ層のピット状遺構

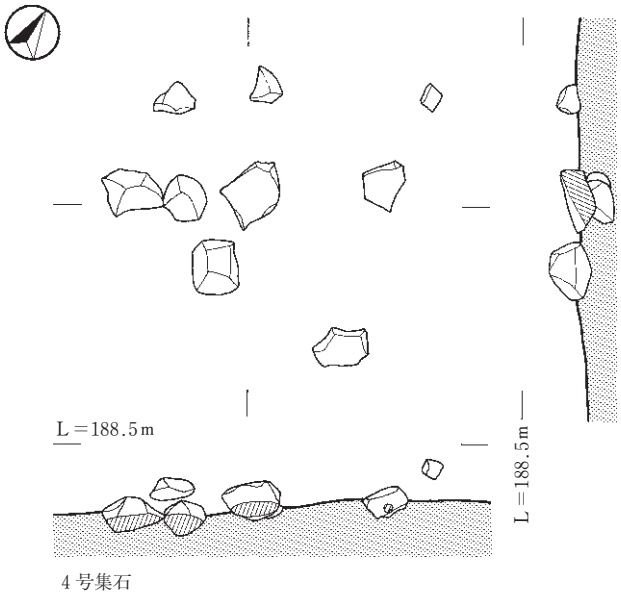
Ⅳ層で検出した。平面プランは直径約56㎝の円形で，検出面からの深さは約118㎝である。埋土はⅢ層の黄橙色土である。

第３節　遺構（東区）

１　Ⅴ層の集石

７号集石

Ｃ－７区で検出し，224㎝×185㎝の範囲に40個の礫が確認された。礫は大部分が安山岩であり，破砕している礫もある。断面観察から掘り込み遺構が想定できる。（II類）



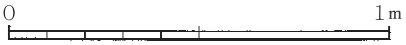


表30　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（３）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
3	103	II	13	268	157	－	－	－	H8-3
4	103	IIIA	9	208	78	－	－	－	H8-4

第103図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図（３）

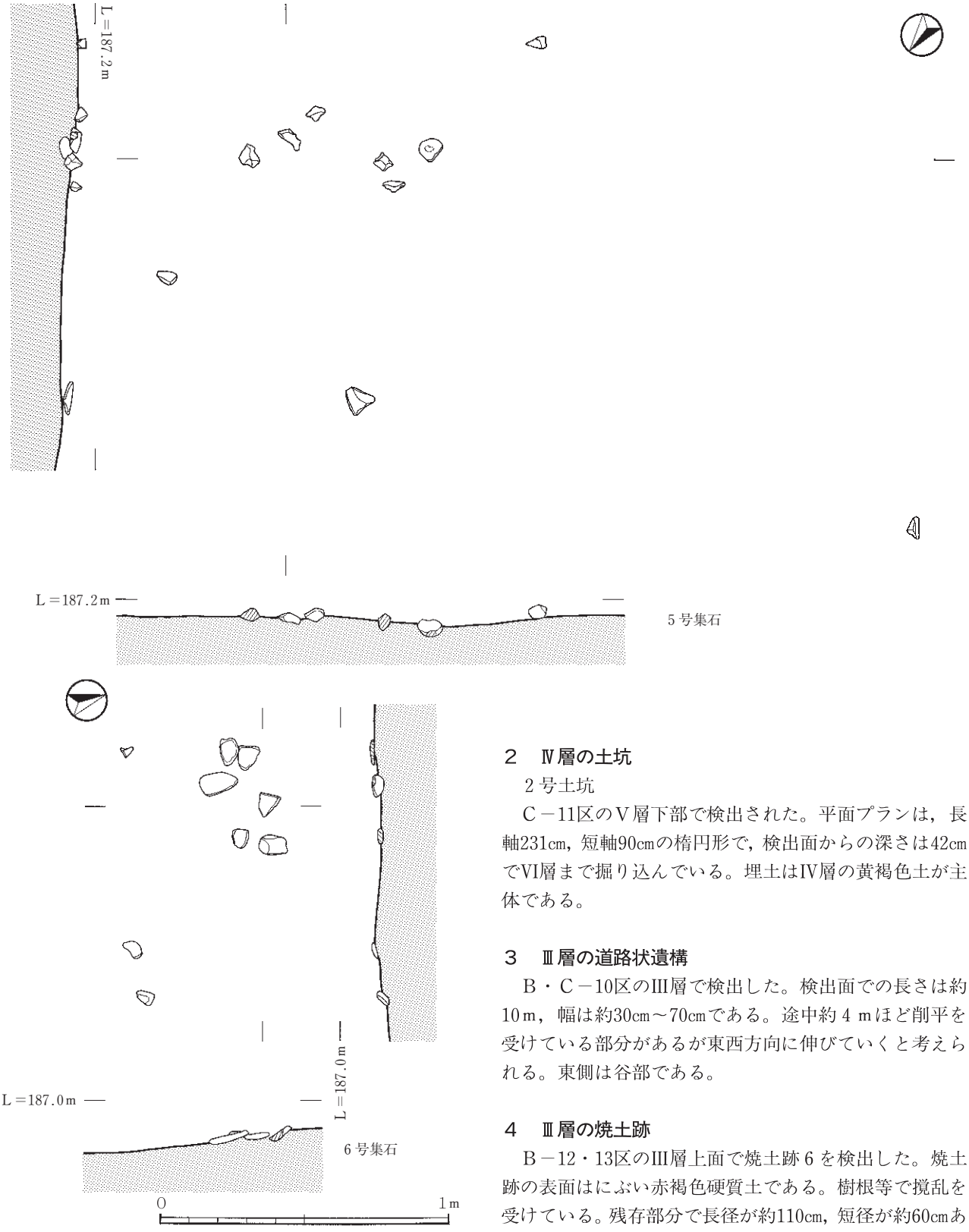


表31　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（4）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径(cm)	短径(cm)	総重量(g)	重量平均値(g)	被熱率(%)	
5	104	II	13	135	131	－	－	－	H8-5
6	104	IIIA	9	92	58	－	－	－	H8-6

第104図　西区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図（4）

2　Ⅳ層の土坑

2号土坑

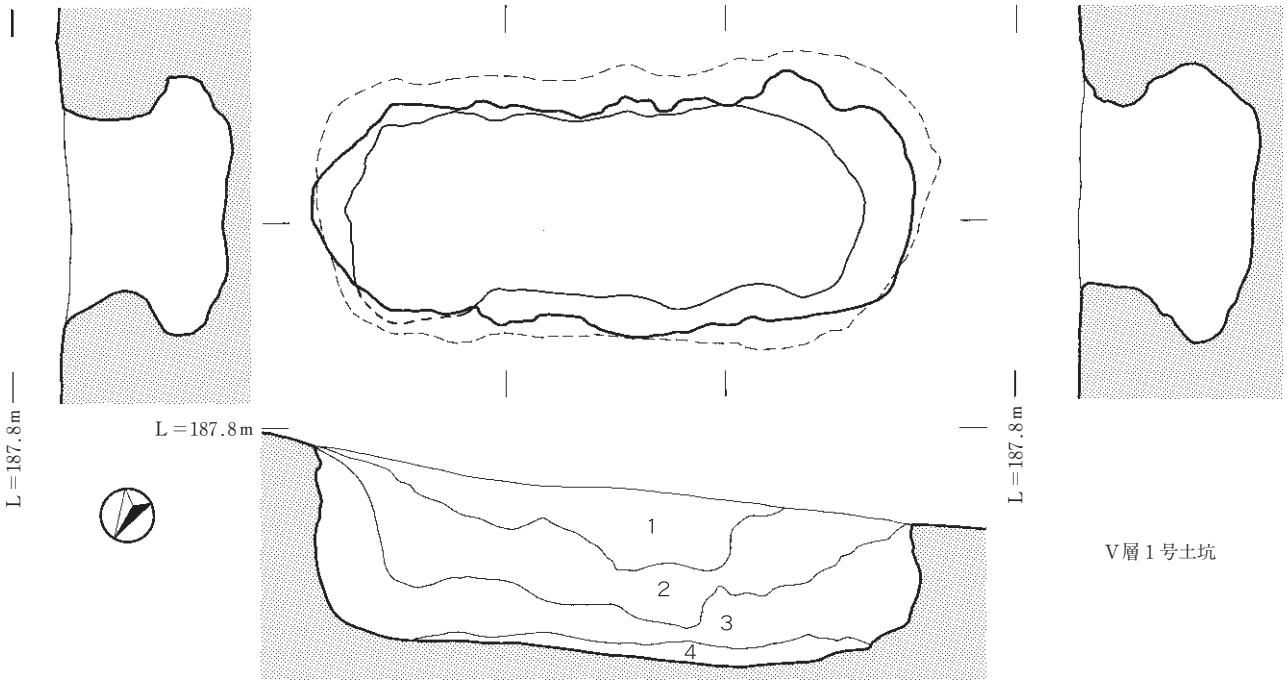
C－11区のⅤ層下部で検出された。平面プランは，長軸231cm，短軸90cmの楕円形で，検出面からの深さは42cmでⅥ層まで掘り込んでいる。埋土はⅣ層の黄褐色土が主体である。

3　Ⅲ層の道路状遺構

B・C－10区のⅢ層で検出した。検出面での長さは約10m，幅は約30cm～70cmである。途中約4mほど削平を受けている部分があるが東西方向に伸びていくと考えられる。東側は谷部である。

4　Ⅲ層の焼土跡

B－12・13区のⅢ層上面で焼土跡6を検出した。焼土跡の表面はにぶい赤褐色硬質土である。樹根等で撹乱を受けている。残存部分で長径が約110cm，短径が約60cmある。底面も樹根等で撹乱を受けているので完掘することができなかったが埋土は約35cmほどある。炭化物を含む灰褐色の埋土に，約10cm～25cmの焼土塊が3箇所入る。



V層１号土坑

表32　Ⅴ層土坑観察表

報告書 No.	挿図 No.	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面幅 (cm)	備考
1	105	158	69	53	137	53	H8-G-17

1	茶褐色土　直径２㎜ほどの白粒と直径５～10㎜ほどの黄色軽石を含む。
2	茶褐色土　１よりやや色が暗く，軽石を多く含む。直径１～５㎜程度の黒い粒を含む。
3	茶褐色土　２より橙色が強い。橙色の軽石を含む。
4	明褐色粘質土　橙色の軽石（直径１～３㎜）を含み粘質を帯びる。Ⅶ層上面の土が上層の土と混ざったものと考えられる。

Ⅲ層１号土坑

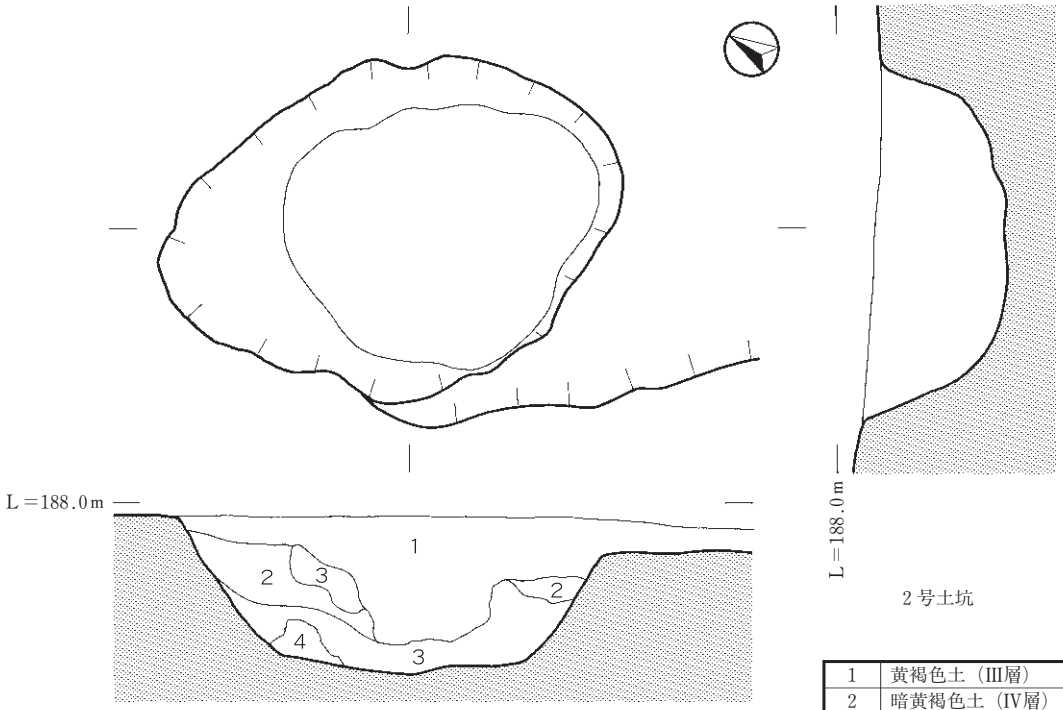
表33　Ⅲ層土坑観察表（１）

報告書 No.	挿図 No.	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面幅 (cm)	備考
1	106	163	75	49	145	64	H8-H-5-1

1	黄橙色土（Ⅲ層）　アカホヤ火山灰が混ざる。

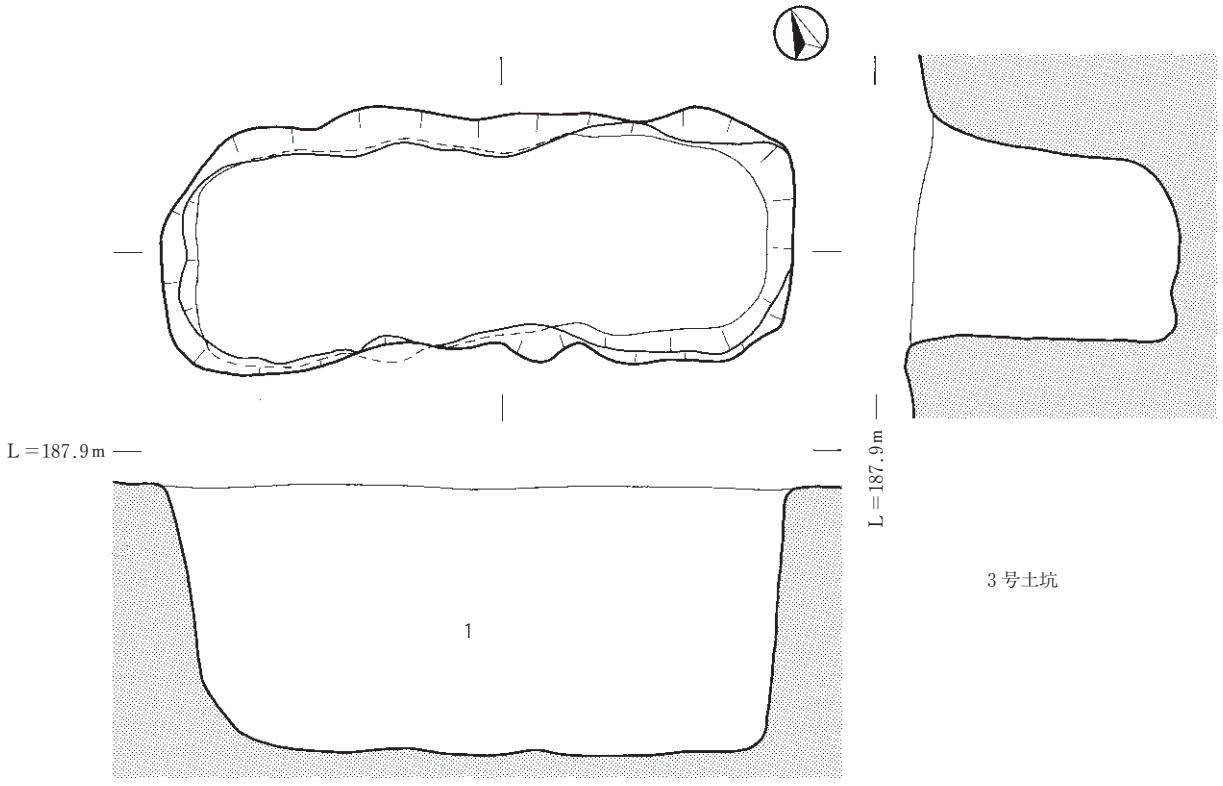
0　1m

第105図　西区Ⅴ・Ⅲ層遺構実測図



2号土坑

1	黄褐色土（Ⅲ層）
2	暗黄褐色土（Ⅳ層）
3	黒褐色土（Ⅴ層）
4	薩摩火山灰（Ⅵ層）



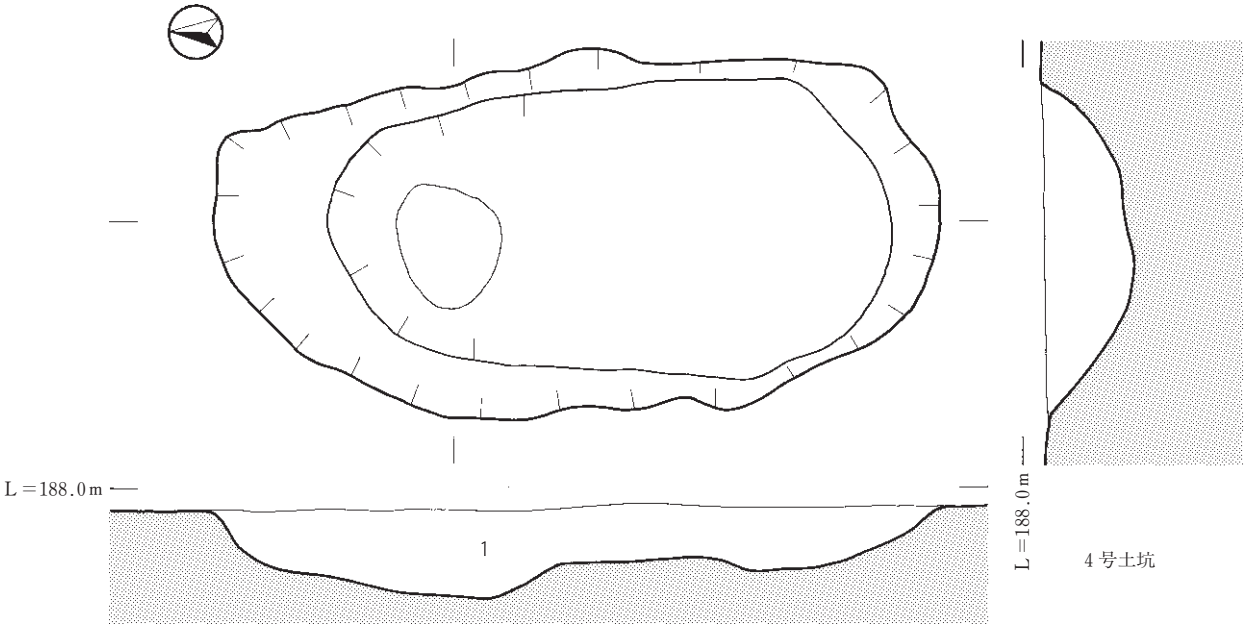
3号土坑

表34　Ⅲ層土坑観察表（2）

報告書No.	挿図No.	上面長（cm）	上面幅（cm）	深さ（cm）	下面幅（cm）	下面幅（cm）	備考
2	106	122	97	40	83	69	H8-H-5-2
3	106	167	70	71	150	55	H8-H-5-3

1	黄褐色土（Ⅲ層）　部分的に黒色土が混ざる。

第106図　西区Ⅲ層遺構実測図（1）



1	黄褐色土（Ⅲ層）　部分的にアカホヤ火山灰が混在する。

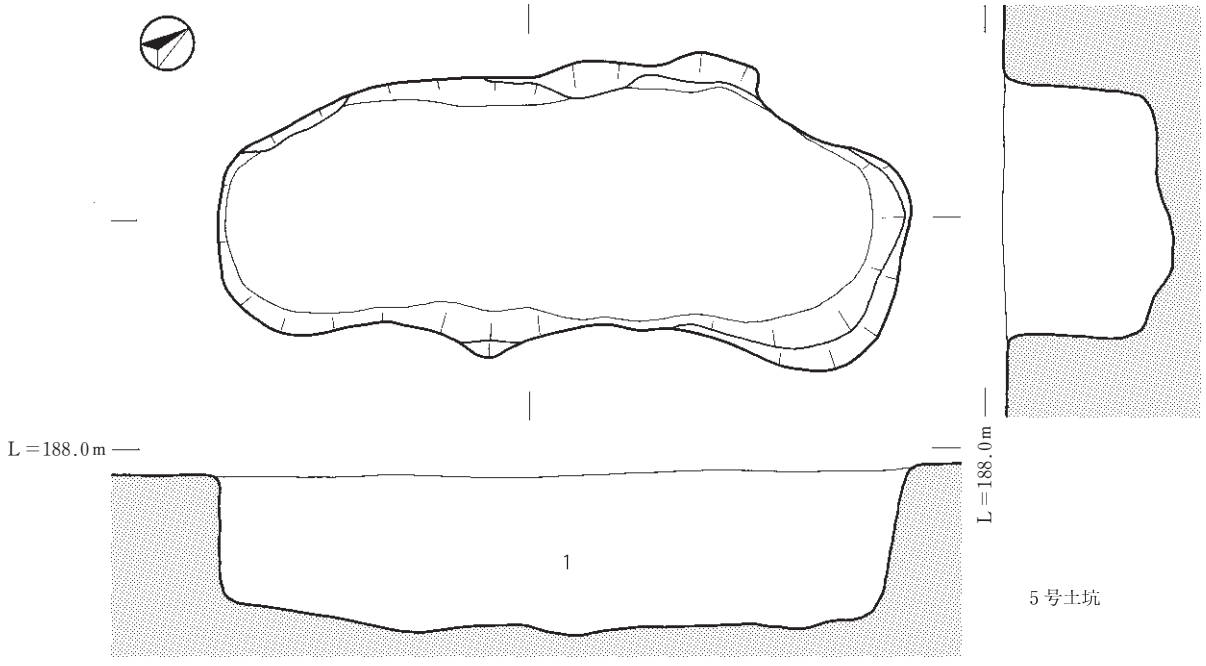
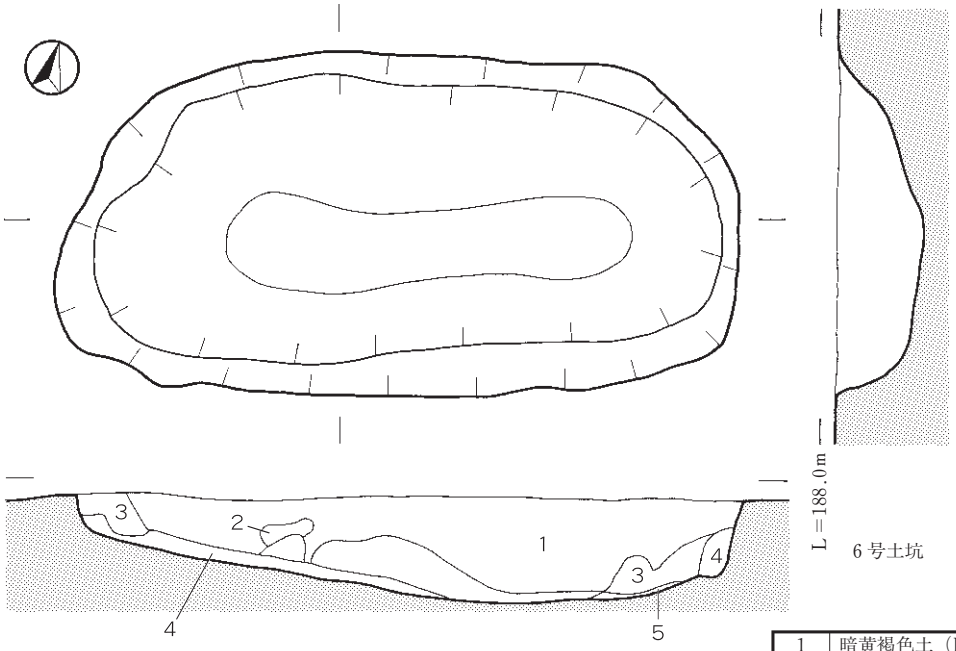


表35　Ⅲ層土坑観察表（３）

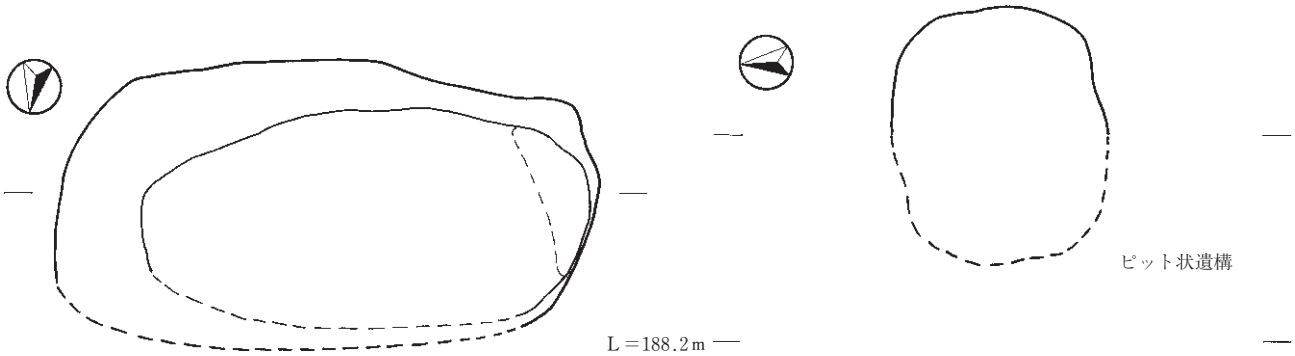
報告書 No.	挿図 No.	上面長 (cm)	上面幅 (cm)	深さ (cm)	下面幅 (cm)	下面幅 (cm)	備考
4	107	191	97	23	148	78	H8-H-6-1
5	107	182	84	45	170	61	H8-H-6-2

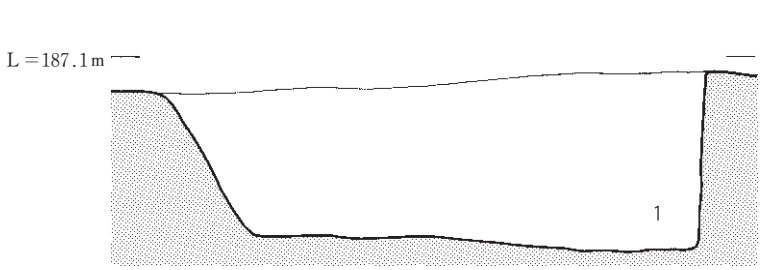
1	黄褐色土（Ⅲ層）　部分的にアカホヤ火山灰が混在する。

第107図　西区Ⅲ層遺構実測図（２）



1	暗黄褐色土（III層）
2	アカホヤ火山灰
3	III～IV層の混土
4	黒褐色硬質土（V層）
5	薩摩火山灰（VI層）





1	黄橙色土（III層）

7号土坑

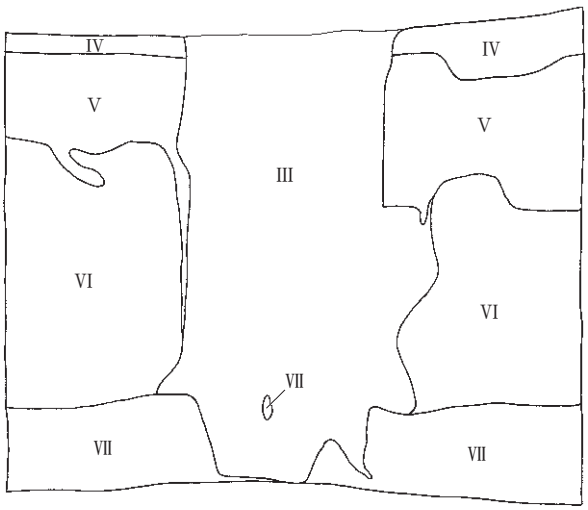
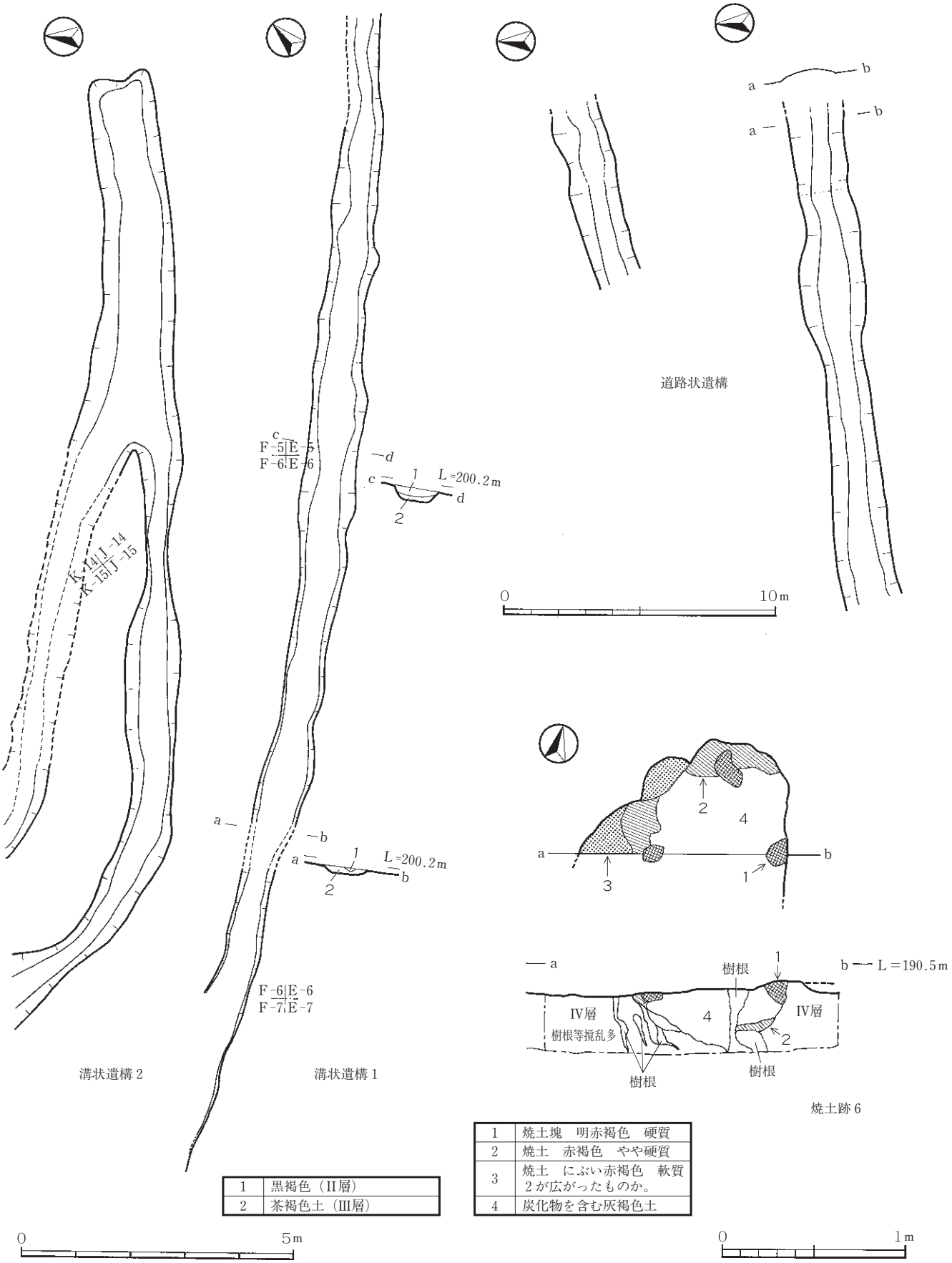


表36　Ⅲ層土坑・ピット観察表

報告書No.	挿図No.	上面長（cm）	上面幅（cm）	深さ（cm）	下面幅（cm）	下面幅（cm）	備考
6	108	180	90	28	107	45	H8-H-6-3
7	108	143	75	46	118	57	H8-H-17
ピット	108	56	－	118	24	－	

第108図　西区Ⅲ層遺構実測図（3）



1	黒褐色（II層）
2	茶褐色土（III層）

1	焼土塊　明赤褐色　硬質
2	焼土　赤褐色　やや硬質
3	焼土　にぶい赤褐色　軟質 2が広がったものか。
4	炭化物を含む灰褐色土

第109図　Ⅲ層遺構実測図

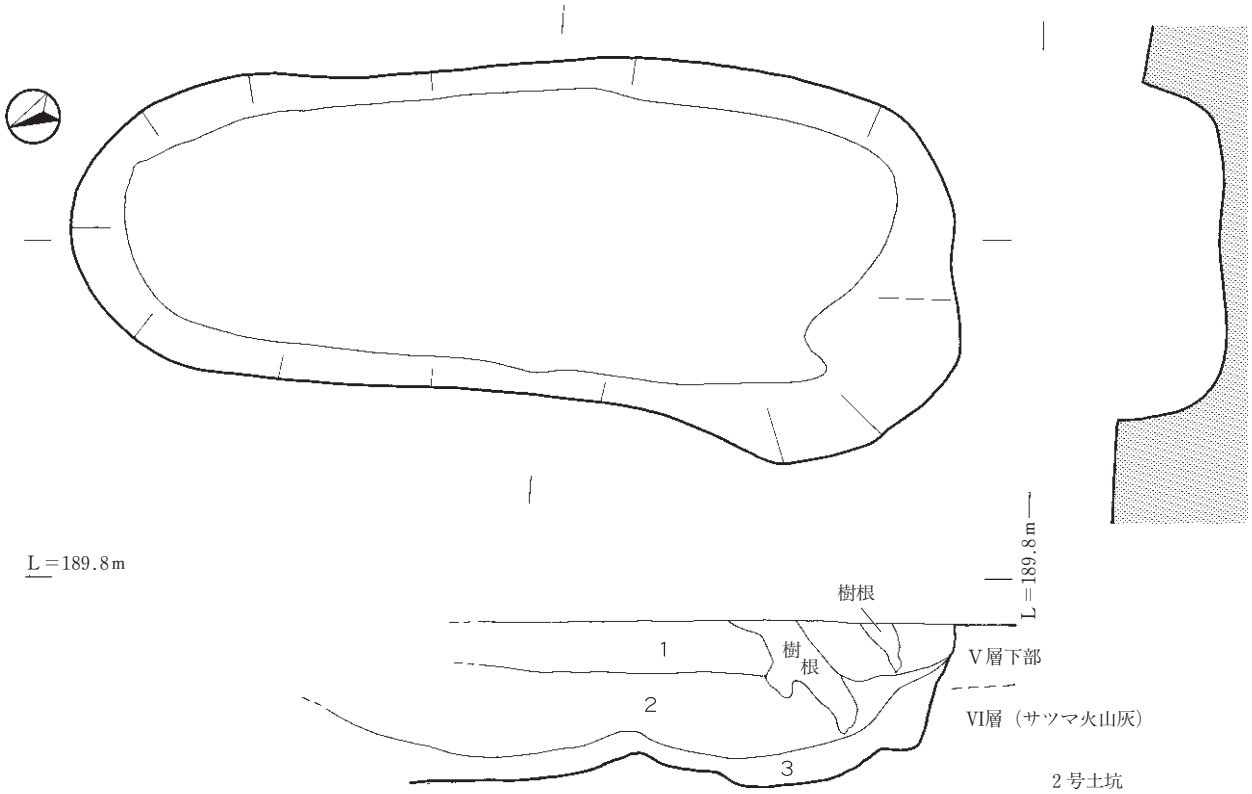


表37　Ⅴ・Ⅳ層土坑観察表

報告書No.	挿図No.	上面長（cm）	上面幅（cm）	深さ（cm）	下面幅（cm）	下面幅（cm）	備考
2	110	－	－	21	－	－	H14-1

1	暗茶褐色土（Ⅳ層＋Ⅴ層）　白色砂質土を含む。
2	黒褐色土（Ⅴ層）　1㎝大の黄色パミスを含む。
3	黄褐色砂質土　薩摩火山灰層のパミスを多く含む。

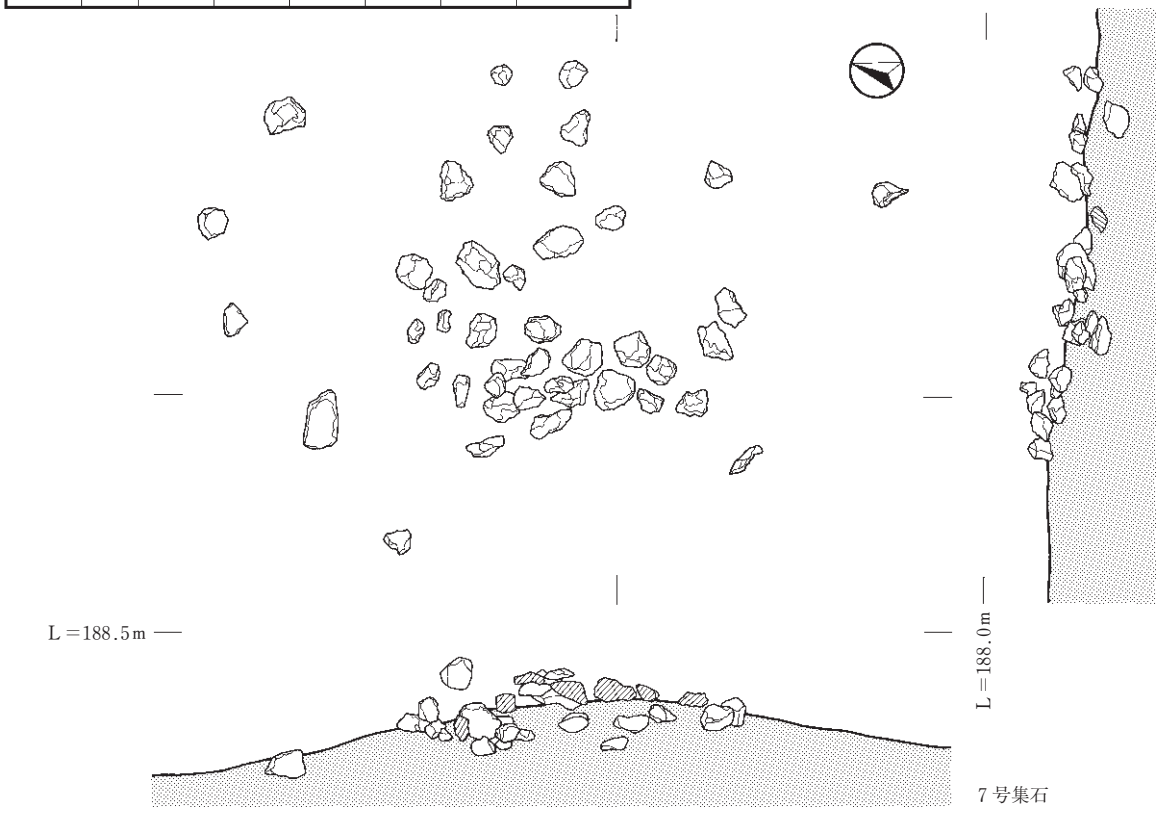
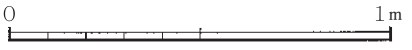
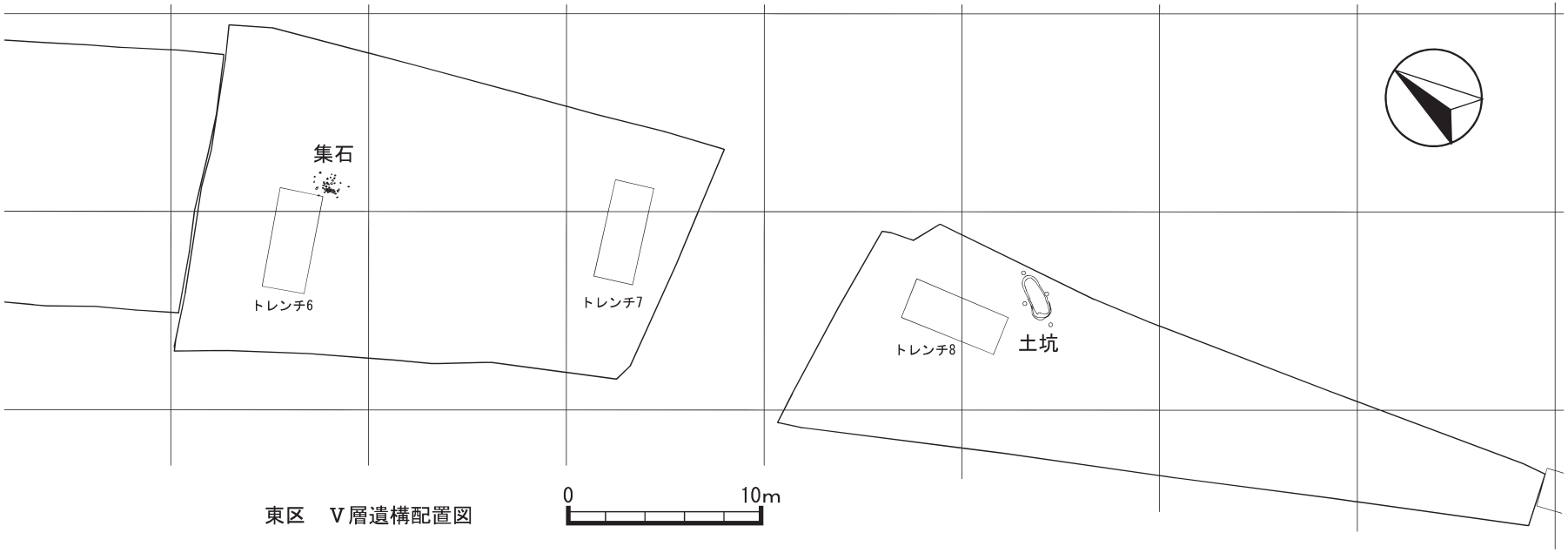


表38　Ⅴ・Ⅳ層集石観察表（5）

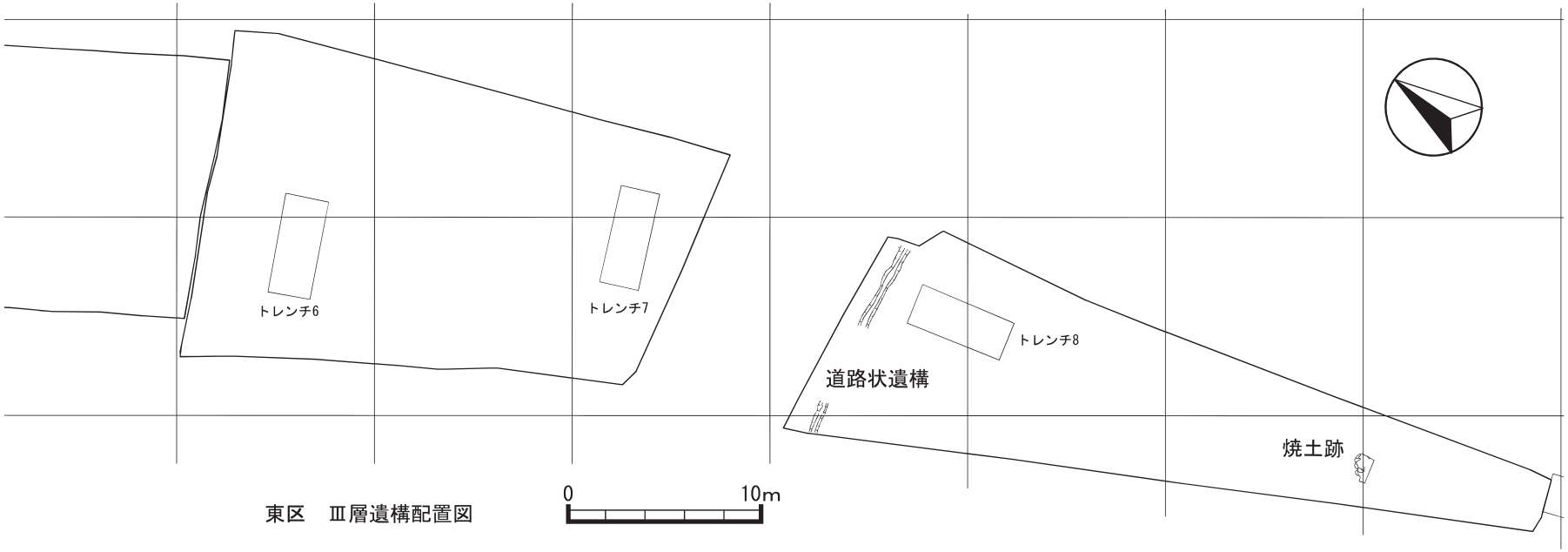
報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
7	110	Ⅱ	40	224	185	16936	445.68	－	H14



第110図　東区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図



東区　Ⅴ層遺構配置図



東区　Ⅲ層遺構配置図

第111図　東区Ⅴ・Ⅲ層遺構配置図

杷堀遺跡縄文時代の土器

縄文時代の土器は，Ⅲ層からⅣ類～Ⅶ類土器（前期～晩期）が出土し，Ⅳ層からⅤ層にかけてⅠ類～Ⅲ類土器（早期）が出土する。

出土状況を見ると（第112図～第114図），ほとんどの土器が西地区から出土し，東地区はⅣ層から５点出土しているだけである。西地区のⅣ層～Ⅴ層の出土状況は，Ｆ－18・19区～Ｈ－16～19区にかけてⅠ類～Ⅲ類の土器が集中して出土し，Ⅲｃ類土器がＦ－18区に集中する。Ⅲａ層では，縄文時代前期の土器（Ⅳ類～Ⅵ類）10点が調査区全体に点在し，縄文時代後晩期の土器（Ⅶ類）は，Ｅ・Ｆ－３～10区とＧ・Ｈ－５～９区及びＨ・Ｉ－16区にそれぞれ類別，個体別に出土している。

Ⅳ・Ⅴ層出土土器

Ⅰ類土器は，貝殻文系円筒土器の一群である。

Ⅰａ類（１，２）

２点とも口唇部内面に段を有し，尖り気味に残される口唇は波状に，それに続く口縁には貝殻復縁による縦方向の連続刺突文を持つ。器面調整は，内外面共に丁寧な仕上げである。岩本式土器

Ⅰｂ類（３～７）

横位の貝殻条痕文を地文に持つもので，４・５は縦位の流水紋，底部は正円形をなす。永野～志風頭タイプ

Ⅰｃ類（８～22）

胴部地紋に斜めの貝殻腹縁文を持つ（８～10，12～16・18～22）と持たない（11・17）に細分され，前者が加栗山式土器，後者が小牧３Ａタイプに相当する。なお，加栗山式土器の18・19はいわゆる角筒形である。

総じて器壁は薄く，内面調整はケズリとナデが施され，平坦で狭い口唇部は細かく刻まれ，口縁部には横方向の貝殻刺突線文が３～４条巡り，その下に楔形の貼付文が施される。上記したように胴部では，地文である斜めの貝殻条痕文に縦方向の貝殻刺突線文が重ねられる。11・17では直接押引文で構成する。

Ⅰｄ類（23～26）

胴部に貝殻による綾杉条痕を施すもので，口唇部は貝殻で刻み，器壁は厚くなる。石坂式土器

Ⅰｅ類（27，28）

Ⅰｅ類は，帰属不明なものを取り扱った。27の口唇部は，明瞭な稜を持ち，工具で刺突を２条巡らす。

Ⅱａ類（29～31）

山形の押型文を持つもので，小破片であることから傾き等は定かではない。

Ⅱｂ類（32～35）

Ⅱｂ類の32は地紋の押型文に横位の沈線を施し，33は，平成13年度に報告されたNo.343の土器と接合した。34は口唇部外面を工具でキザむ。

Ⅲ類土器

いわゆる塞ノ神式土器を一括し，円筒部に撚糸文を持つものをａ・ｂ類，貝殻施文をｃ類，その他をｄ類とした。

Ⅲａ類（36～38）

36・38は胴部上半部片で，沈線間に縦の撚糸文を密に施すが，類例は少ない。

Ⅲｂ類（39～45）

ラッパ状に開く口縁部は貝殻腹縁刺突で施文し，胴部は沈線区画間に撚糸文を施す。Ｂｂ式

Ⅲｃ類（46～58）

46・47は同一個体の可能性が高く，48～58も同様である。口縁部には連続した貝殻刺突文を施し，砲弾状の胴部には沈線により並行線文を施す一群である。

Ⅲｄ類（59～63）

Ⅲｄ類は，Ⅲ類の中で分類できない物を扱った。器面の施文が無く外面，内面ともにナデにより調整している。

Ⅳ類（64～69）

轟式土器と目されるものを一括した。64は３条の隆帯文，65は鋭利な工具で連続する刺突文を描く。

Ⅴ類（70～72）

曾畑式土器を一括し，72は，頚部から胴部へ短沈線で企画文を構成している。

Ⅵ類（73～75）

口縁部はやや内弯し，緩やかな波状口縁をなし，口縁部に沿う隆起線と縦方向の隆起線が確認できる。

Ⅶ類（76～109）

縄文時代晩期の一群を一括し，深鉢形土器で口縁部が外反するものをａ類，内弯ないし直行するものをｂ類とした。また，いわゆる精製浅鉢形土器をｃ類，半粗半精製鉢形土器をｄ類とした。

Ⅶａ類（77・85・90）

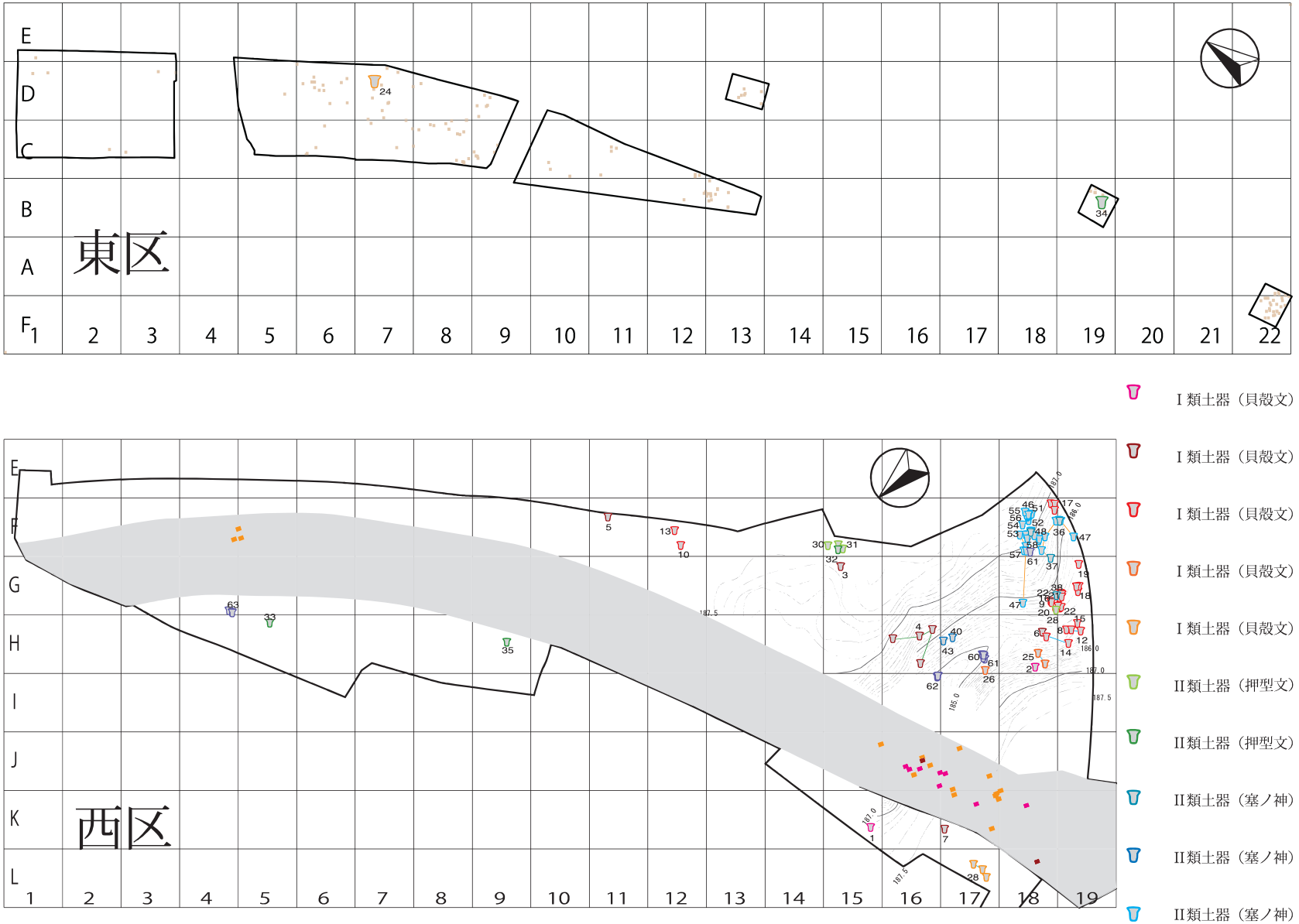
77・85は頚部で大きく外反し，外面は条痕，内面は条痕後ナデて仕上げる。90は小型の鉢である。

Ⅶｂ類（76・78～84）

頚部からの立ち上がりに直行（76・81）と内弯（79・82・84）が見られる。

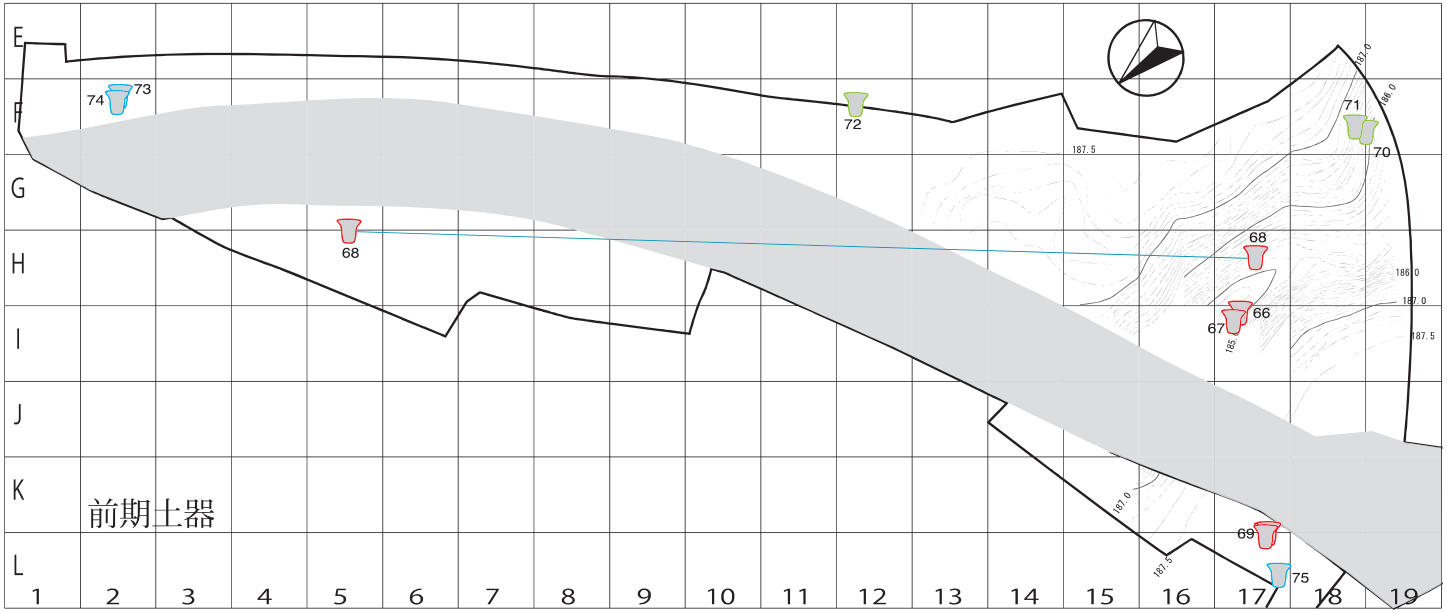
底部（91～94）

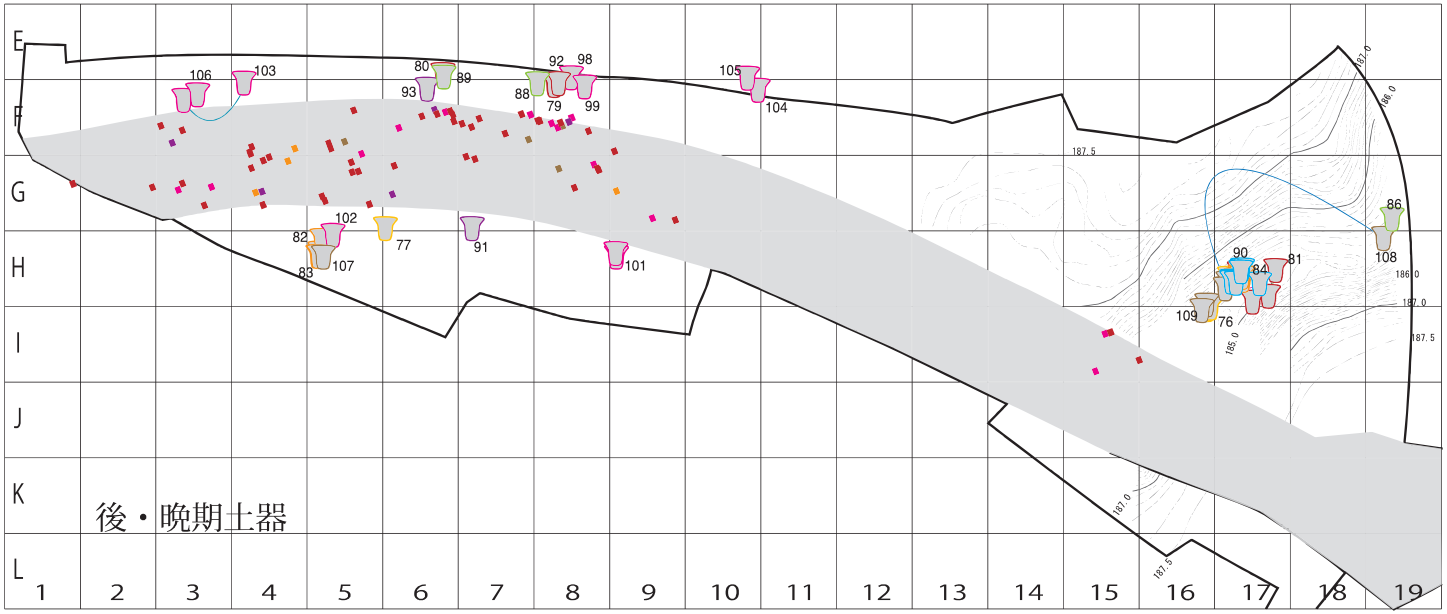
深鉢型の土器の底部で91は，やや外側に張り出した平底で器壁が薄く工具による内面調整が条痕として残る。92～94は，厚手の底部で92は，やや外側に張り出す平底で，93は外側に大きく張り出し，上げ底状である。



※グレイ部分は南九州西回り自動車道建設に伴う平成４，５年度調査区である

第112図　早朝土器出土状況図



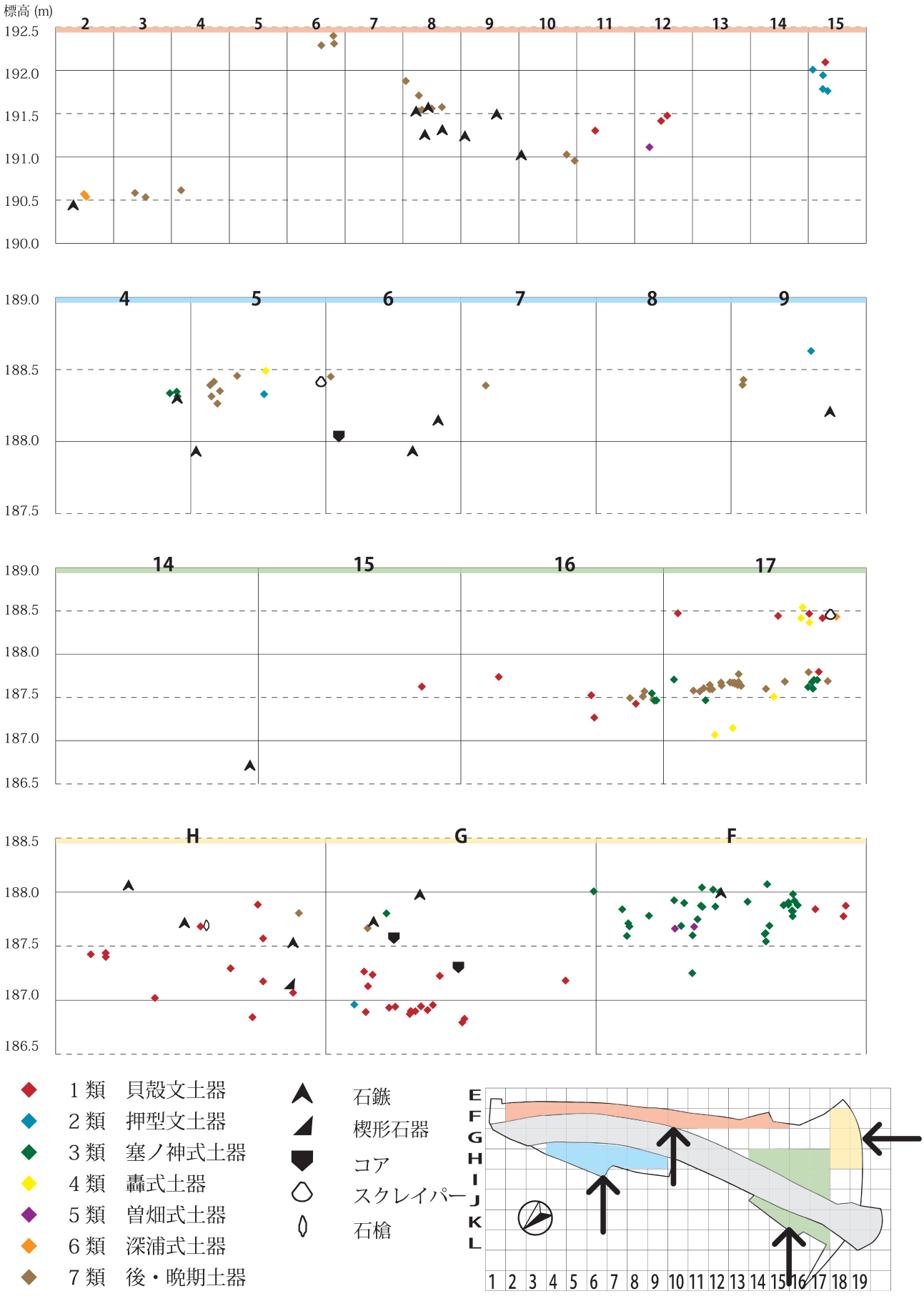


Ⅳ類土器　轟
Ⅴ類土器　曽畑
Ⅵ類土器　深浦

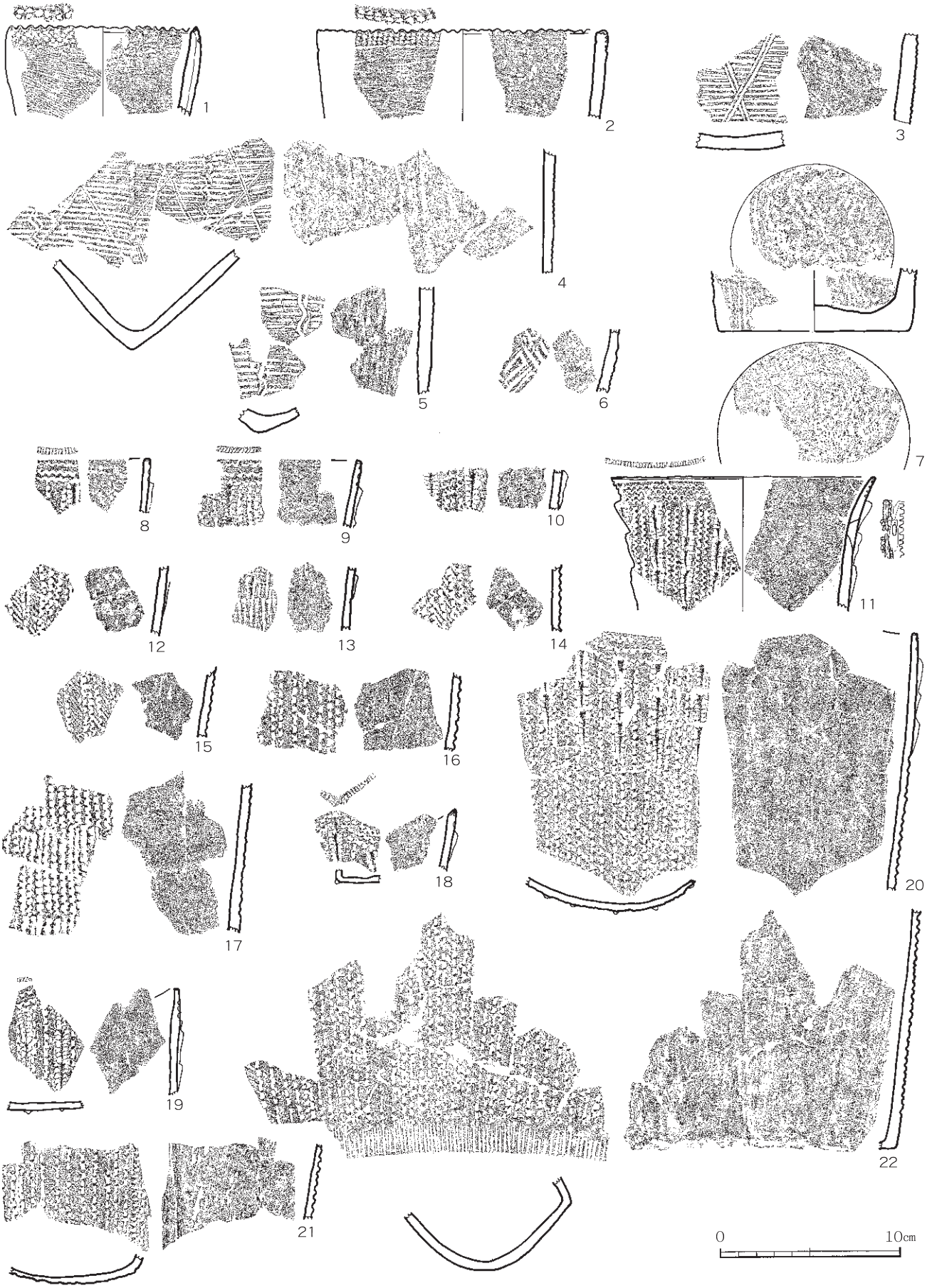
Ⅶ類土器　a　深鉢
Ⅶ類土器　b　干河原
Ⅶ類土器　c　くの字
Ⅶ類土器　d　小型壺
Ⅶ類土器　e　底部
Ⅶ類土器　f　浅鉢
Ⅶ類土器　g　組織痕

※グレイ部分は南九州西回り自動車道建設に伴う平成４，５年度調査区である

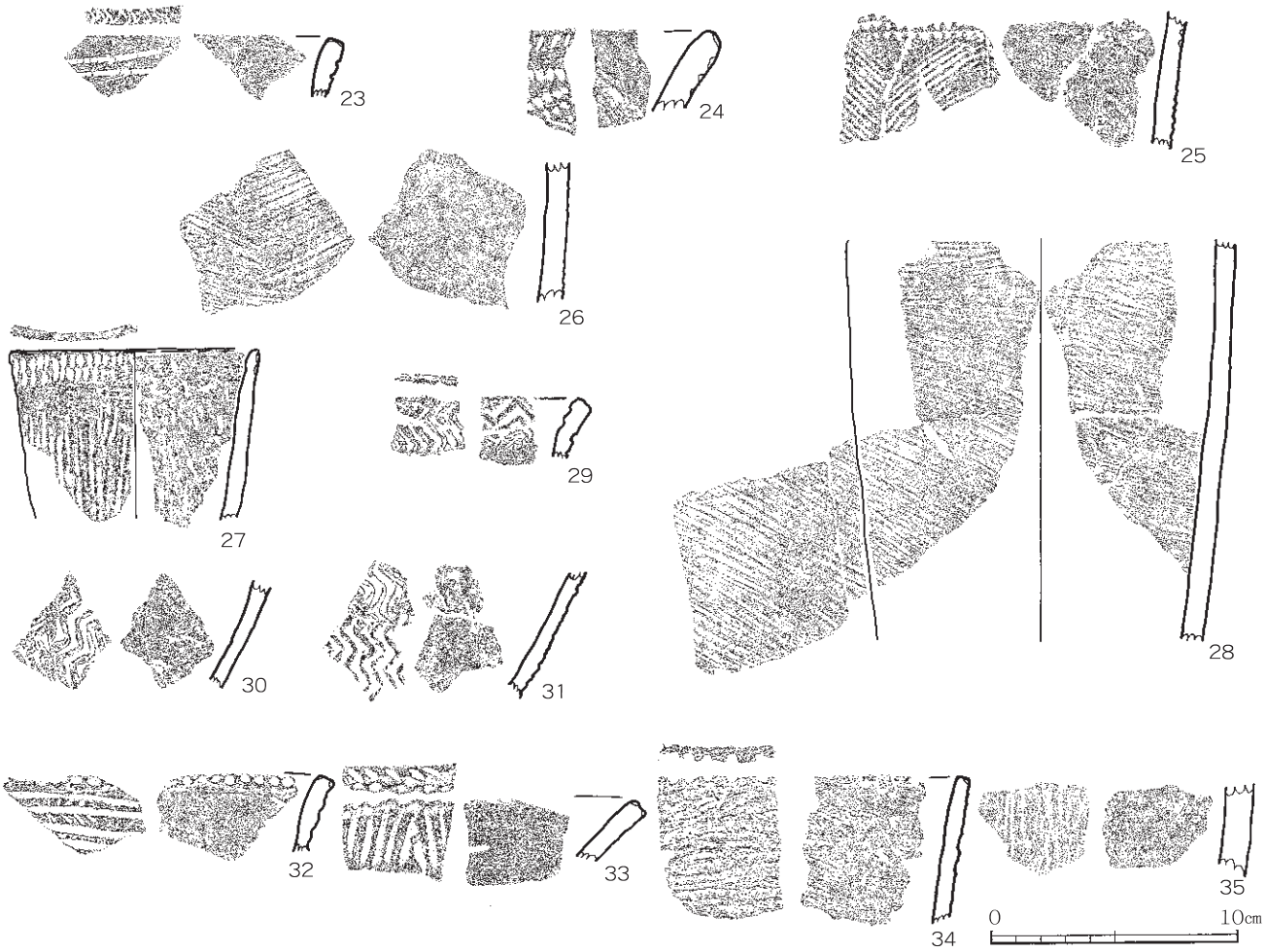
第113図　前期土器，後・晩期土器出土状況図



第114図　縄文土器・石器出土状況図（垂直分布）



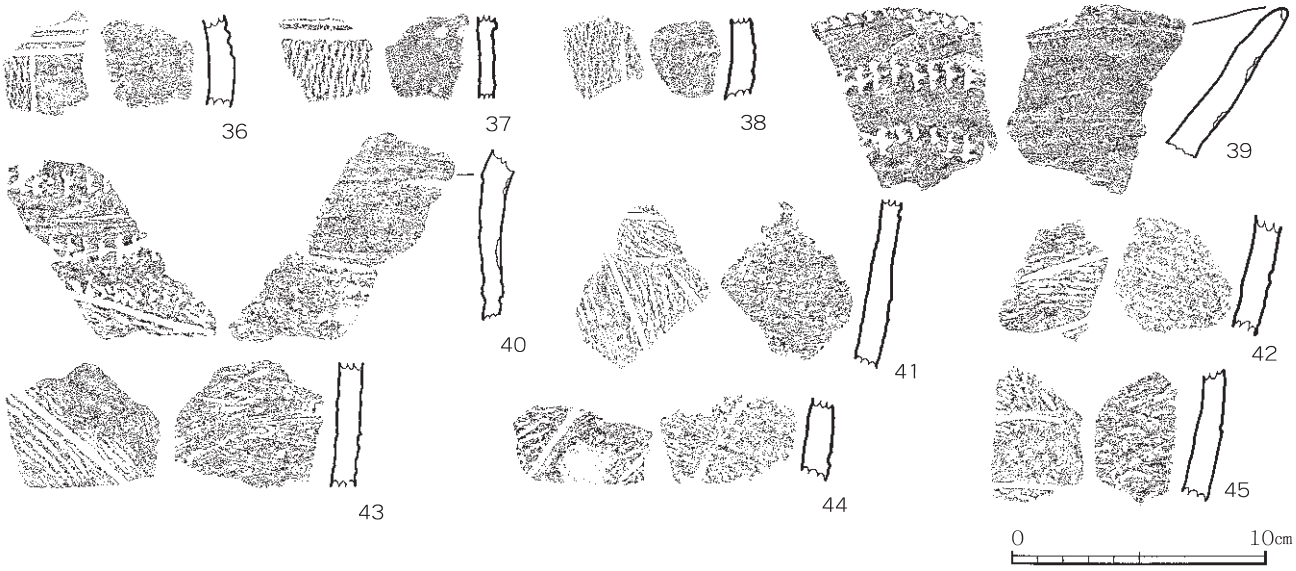
第115図　Ⅰａ，Ⅰｂ，Ⅰｃ類土器実測図



第116図　Ｉd，Ｉe，Ⅱａ，Ⅱｂ類土器実測図

表39　土器観察表（１）

挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
										外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
115	1	1	a	20318	K	15	4	下	口縁部	刻目.貝殻刺突.貝殻条痕(横).	ナデ	暗灰黄色	にぶい黄褐色	○	○	－	－	
	2	1	a	20825	H	18	4	－	口縁部	刻目.貝殻刺突.貝殻条痕(横).	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	3	1	b	30441	G	15	5	－	胴部	貝殻条痕	ケズリ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	4	1	b	20865 20864 20814 20866	H	16	4	－	胴部	貝殻条痕	ケズリ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	5	1	b	30057	F	11	3	－	胴部	貝殻条痕(横),流水文	ケズリ	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	
	6	1	b	20968	H	18	4	－	胴部	貝殻条痕.流水文	ケズリ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	7	1	b	20228	K	17	3	－	底部	貝殻条痕(横).貝殻条痕(縦)	ナデ.ケズリ	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	8	1	c	20971	H	19	3	－	口縁部	刻目.貝殻刺突.楔	ケズリ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	9	1	c	1065 1068	G	18	4	b	口縁部	刻目.貝殻刺突.楔	ケズリ	暗褐色	褐色	○	○	－	－	
	10	1	c	20068	F	12	4	－	胴部	楔.貝殻刺突	ケズリ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	11	1	c	－	G	14	－	－	口縁部	刻目.貝殻刺突.楔	ケズリ(横)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	横転,穿孔
	12	1	c	20517 20505	H	19	3	－	胴部	貝殻条痕.楔.貝殻刺突	ケズリ	黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	13	1	c	30066	F	12	4	－	胴部	楔.貝殻刺突	ケズリ	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	
	14	1	c	20827 20499	H	19	4	－	胴部	貝殻条痕.貝殻刺突	ケズリ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	－	
	15	1	c	20920	H	19	4	－	胴部	貝殻条痕.貝殻刺突	ケズリ	灰黄褐色	灰黄褐色	○	○	－	○	
	16	1	c	21064	G	18	4	b	胴部	貝殻条痕.貝殻刺突	ケズリ	にぶい褐色	暗褐色	○	○	－	－	
	17	1	c	21020 21019 21048 2100-	F	18	4	－	胴部	貝殻刺突	ケズリ	にぶい黄褐色	暗灰黄色	○	○	－	○	
	18	1	c	20998	G	19	3	－	口縁部	刻目.貝殻刺突.楔	ケズリ	にぶい褐色	にぶい赤褐色	○	○	－	○	
	19	1	c	21056 21069	G	19	4	b	口縁部	刻目.貝殻刺突.楔.貝殻条痕	ケズリ	明赤褐色	明赤褐色	○	○	－	○	
	20	1	c	21066	G	19	4	b	口縁部	刻目.貝殻条痕.貝殻刺突.楔	ケズリ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	21	1	c	21042 20994	G	19	4	b	胴部	貝殻条痕.貝殻刺突	ケズリ	にぶい褐色	褐色	○	○	－	－	
	22	1	c	20993 21041 21001 21044 20991 21043 21039	G	18 19	4	b －	胴部	貝殻条痕.貝殻刺突	ケズリ	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	



第117図　Ⅲａ，Ⅲｂ類土器実測図

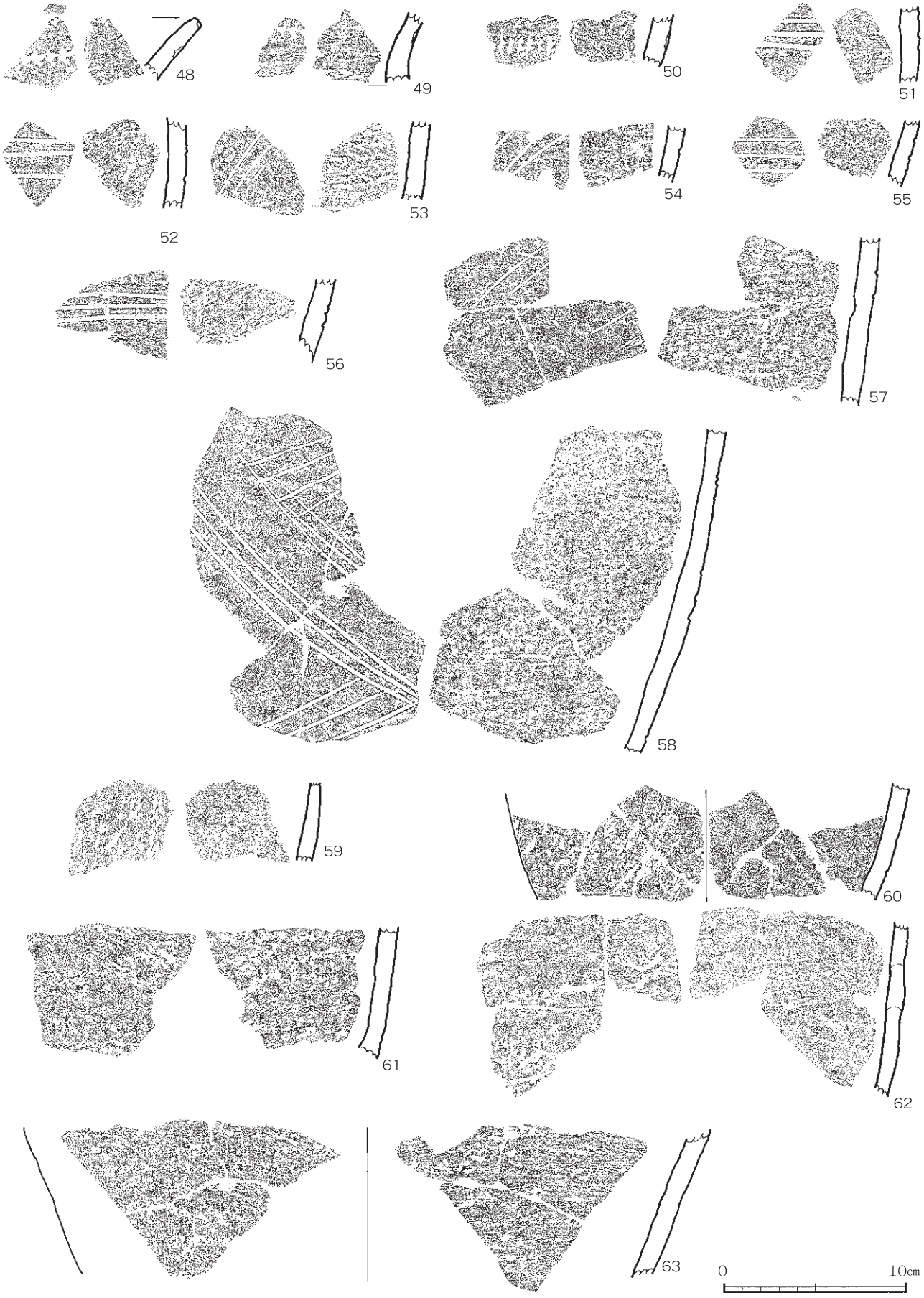
表40　土器観察表（２）

挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
										外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
116	23	1	d	20182	D	7	5	-	口縁部	刻目.ナデ.貝殻刺突	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	－	－	
	24	1	d	20096	D	7	4	-	口縁部	刻目.貝殻刺突.貝殻刺突.ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	25	1	d	20967 20851 20826	H	18	4	-	胴部	貝殻刺突.綾杉条痕	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	
	26	1	d	20426	I	17	3	-	胴部	綾杉条痕	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	○	○	－	○	
	27	1	e	A	K	15	4	-	口縁部	刺突(工具).貝殻条痕(縦)	ケズリ→ナデ	橙色	黄褐色	○	○	－	－	一括
	28	1	e	20283 20264 20260	L	17	5	-	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	29	2	a	21040	G	18	4	b	口縁部	山形押型(縦)	山形押型(横)・ナデ	暗灰黄色	暗灰黄色	○	○	－	○	
	30	2	a	30431	F	15	5	-	胴部	山形押型(縦)	ナデ	浅黄色	にぶい黄色	○	－	－	－	
	31	2	a	30434 30433	F	15	5	-	胴部	山形押型(縦)	ナデ	浅黄色	にぶい黄色	○	○	－	○	
	32	2	b	30432	F	15	4	-	口縁部	刻目．山形押型→沈線	刻目.ナデ	にぶい黄色	にぶい黄色	○	○	○	－	
	33	2	b	20140	H	5	3	-	口縁部	刻目.短沈線	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	－	
	34	2	b	40262	い B	19	3	b	口縁部	刻目.条痕(工具)	ナデ.ケズリ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	35	2	b	20190	H	9	3	-	胴部	貝殻刺突	ナデ	橙色	暗灰黄色	○	○	－	－	
117	36	3	a	21012	F	19	4	-	胴部	ナデ.撚糸.沈線.沈線	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	37	3	a	20670 20639	F G	18	4	-	胴部	撚糸.沈線	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	38	3	a	21041	F	19	4	a	胴部	撚糸.沈線	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	39	3	b	A	G	16	4	-	口縁部	刻目.貝殻条痕.貝殻刺突	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	一括
	40	3	b	A 20757	G H	16 17	4 3	-	胴部	ナデ.貝殻刺突.沈線	ナデ	明褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	一括
	41	3	b	A	G	16	4	-	胴部	撚糸.沈線	ナデ	明赤褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	一括　2
	42	3	b	A	G	16	4	-	胴部	ナデ.撚糸.沈線	ナデ	明赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	表採
	43	3	b	－	-	-	－	-	胴部	撚糸.沈線	ナデ	明赤褐色	灰褐色	○	○	－	○	一括
	44	3	b	20590	H	17	3	-	胴部	ナデ.撚糸.沈線	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	
	45	3	b	A	G	16	4	-	胴部	撚糸.沈線	ナデ	明赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	一括
118	46	3	c	20673 21050 21052 21053 21058 21061 21063 21067	F G	18 19	4	b	口縁部	刻目．貝殻刺突	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	○	○	－	○	
	47	3	c	20650 20664 20671 20939 20944 21007 21011 21013 21018 2102- 21028 21030 21032 21038	F G	18 19	34	b	胴部	貝殻刺突.沈線	ナデ.ケズリ	にぶい橙色	橙色	○	○	－	○	

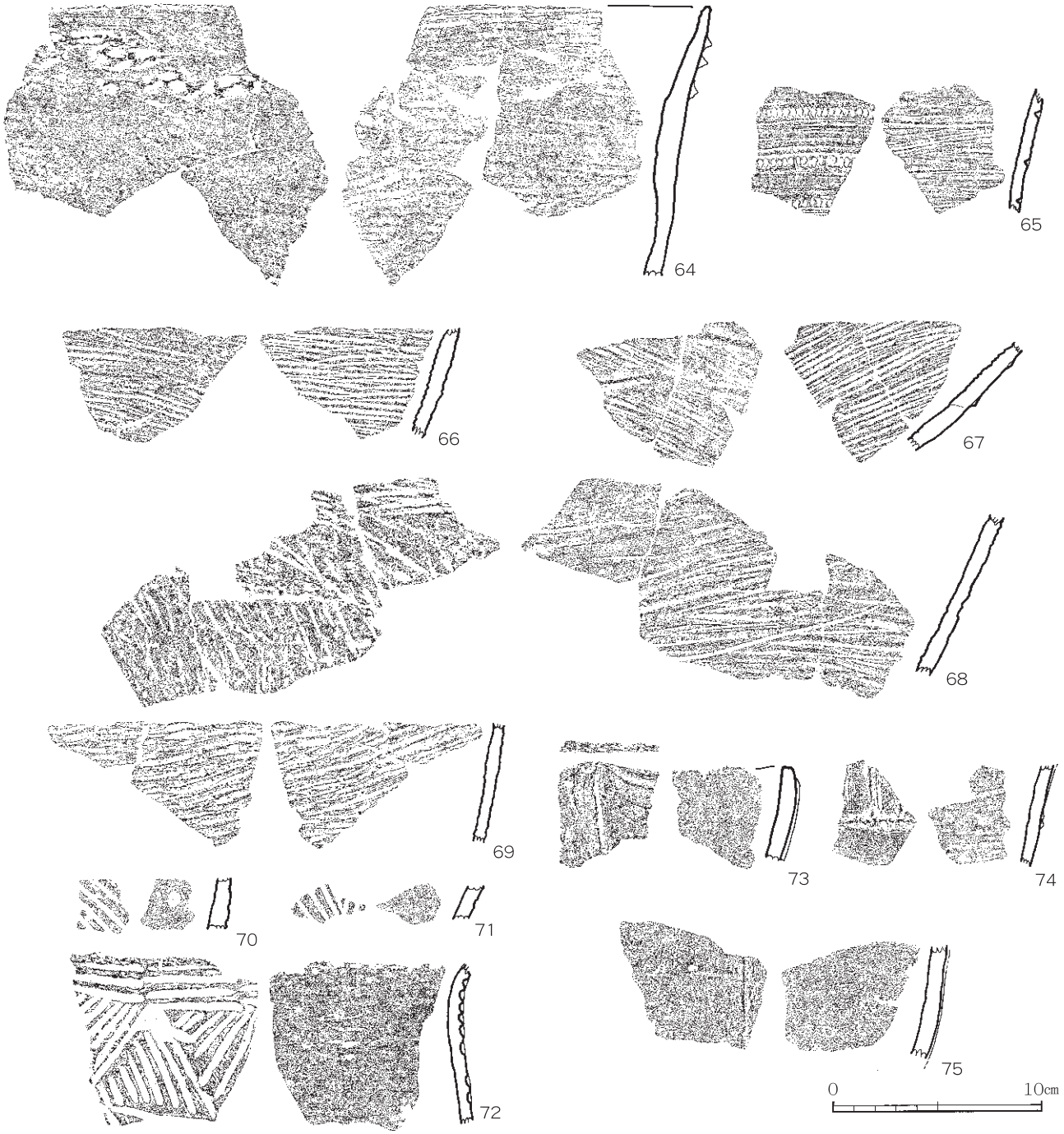
第118図　Ⅲ c 類土器実測図

表41　土器観察表（３）

挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
										外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
119	48	3	c	20907	F	18	4	–	口縁部	貝殻刺突・山形押型→沈線	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	○	○	–	○	
	49	3	c	A	G	16	4	–	胴部	貝殻刺突,ナデ	ナデ	にぶい橙色	明褐色	○	○	–	○	一括
	50	3	c	A	G	16	4	–	胴部	貝殻刺突	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄褐色	○	○	–	○	一括
	51	3	c	21049	F	18	4	b	胴部	沈線	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	○	○	–	○	
	52	3	c	20911	F	18	3	–	胴部	沈線	ナデ	にぶい褐色	橙色	○	○	–	○	
	53	3	c	20943	F	18	4	–	胴部	沈線	ナデ	橙色		○	○	–	○	
	54	3	c	40910	F	18	4	–	胴部	沈線	ナデ	橙色	にぶい橙色	○	○	–	○	
	55	3	c	20675	F	18	4	–	胴部	沈線	ナデ	橙色	橙色	○	○	–	○	



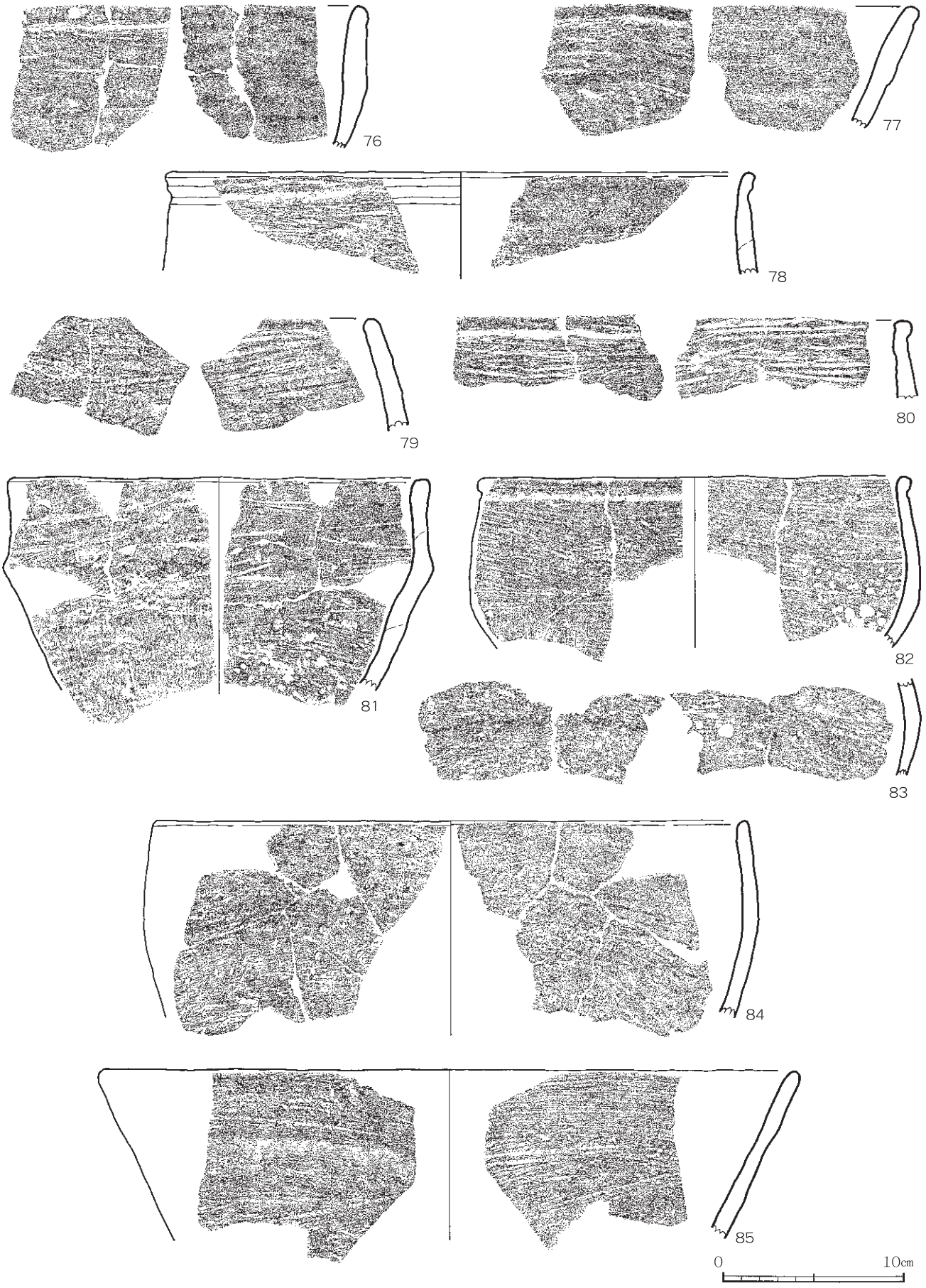
第119図　Ⅲｃ，Ⅲｄ類土器実測図



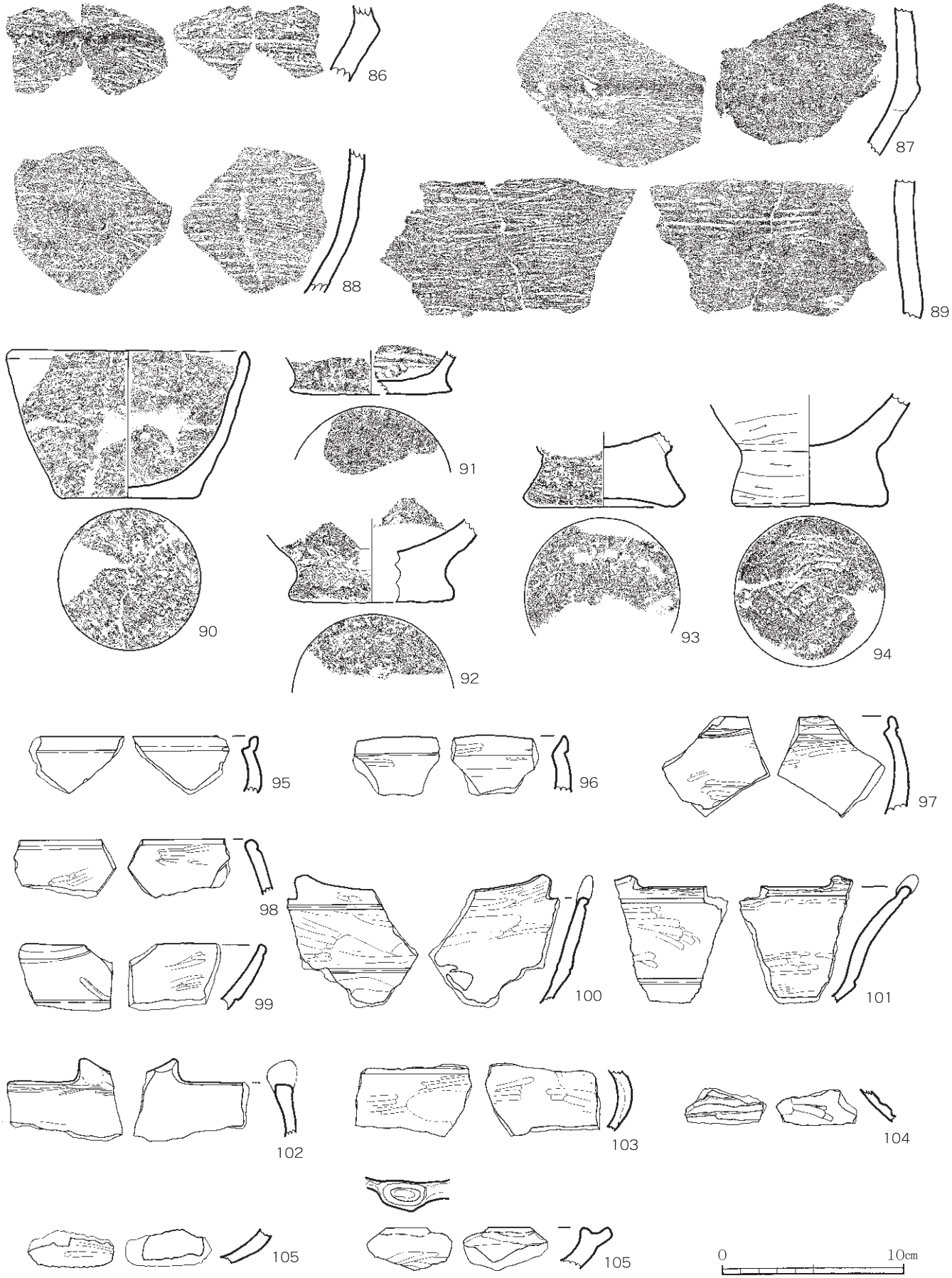
第120図　Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ類土器実測図

表42　土器観察表（4）

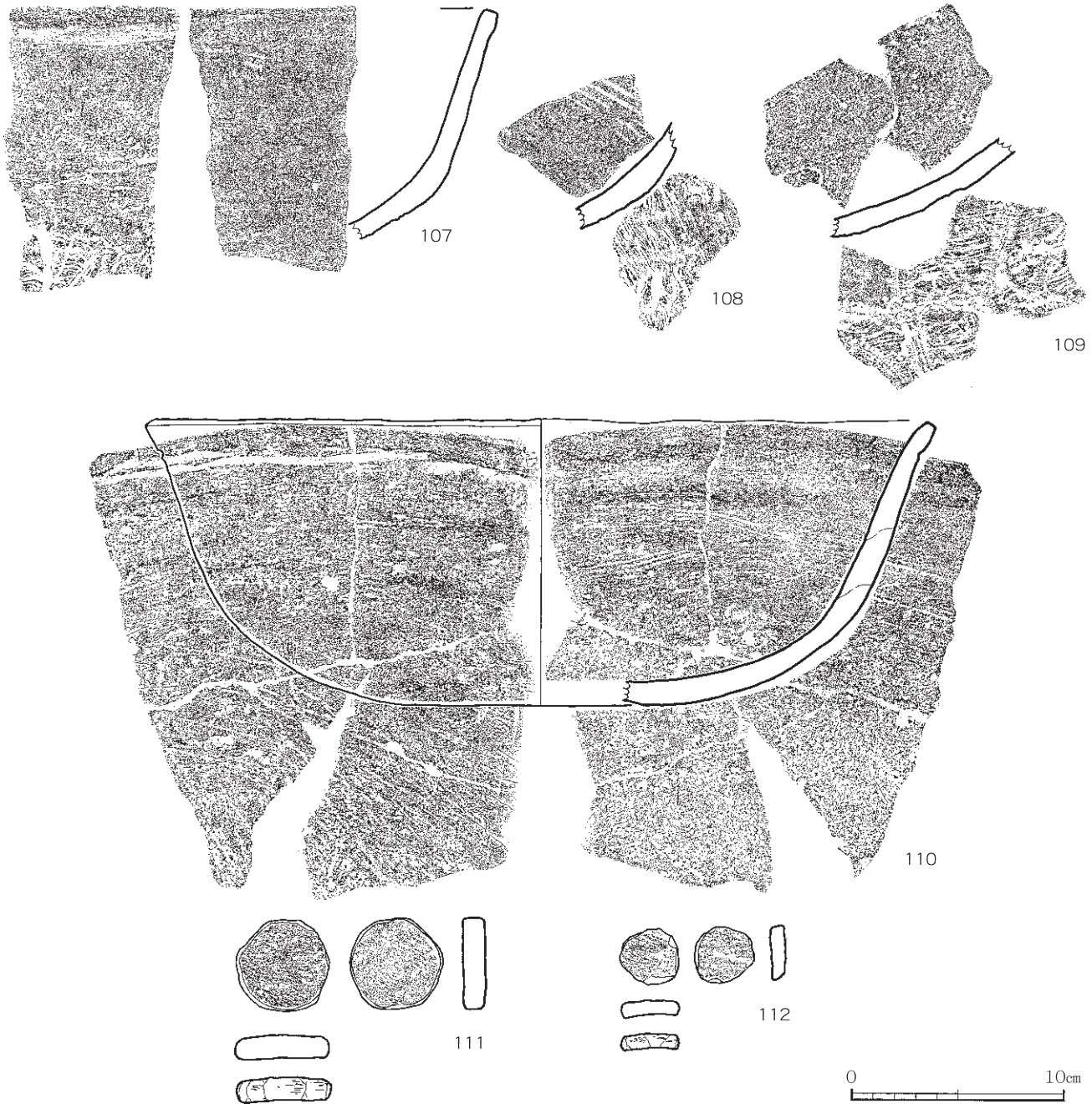
挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
										外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
119	56	3	c	21051	F	18	4	b	胴部	沈線	ナデ	橙色	橙色	○	○	－	－	
	57	3	c	20669 21033 21055	G H	18	4	－	胴部	沈線	ナデ.ケズリ	橙色	橙色	○	○	－	○	
	58	3	c	20909 －	F	18	3 －	－	胴部	沈線	ナデ.ケズリ	橙色	橙色	○	○	－	○	
	59	3	d	20548	H	17	3	－	胴部	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	60	3	d	20544 20545 20728 20733 b	H	17	3	－	胴部	ナデ	ナデ	橙色	橙色	○	○	－	○	集中箇所
	61	3	d	20908	F	18	3	－	胴部	ナデ	ナデ.ケズリ	橙色	橙色	○	○	－	○	
	62	3	d	20618 20721 20722	I	16	3	－	胴部	ナデ	ナデ	橙色	にぶい褐色	○	○	－	○	
	63	3	d	20001 20002 20131	G	4	3	－	胴部	ナデ	ナデ	橙色	灰黄褐色	○	○	－	○	



第121図　Ⅶａ，Ⅶｂ類土器実測図



第122図　Ⅶc，Ⅶd，Ⅶe，Ⅶf類土器実測図



第123図　Ⅶｇ類，土製品実測図

表43　土器観察表（５）

挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
										外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
119	56	3	c	1051	F	18	4	b	胴部	沈線	ナデ	橙色	橙色	○	○	–	–	
	57	3	c	669 1033 1055	G F	18	4	–	胴部	沈線	ナデ.ケズリ	橙色	橙色	○	○	–	○	
	58	3	c	909 –	F	18	3 –	–	胴部	沈線	ナデ.ケズリ	橙色	橙色	○	○	–	○	
	59	3	d	548	H	17	3	–	胴部	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	○	○	–	○	
	60	3	d	544 545 728 733 b	H	17	3	–	胴部	ナデ	ナデ	橙色	橙色	○	○	–	○	集中箇所
	61	3	d	908	F	18	3	–	胴部	ナデ	ナデ.ケズリ	橙色	橙色	○	○	–	○	
	62	3	d	618 721 722	I	16	3	–	胴部	ナデ	ナデ	橙色	にぶい褐色	○	○	–	○	
	63	3	d	1 2 131	G	4	3	–	胴部	ナデ	ナデ	橙色	灰黄褐色	○	○	–	○	

ⅦC類（95～106）

内弯する（95～98）と外反する（99～101）口縁部形状が見られる。いずれも内外面とも入念に研磨し，95の外面にはベンガラ塗布が，100，101，102の口唇部には鰭状突起が加えられる。

ⅦD類（107～110）

内面は丁寧なミガキで仕上げ，外面上部は条痕，底部には編布を圧痕する例が多い。

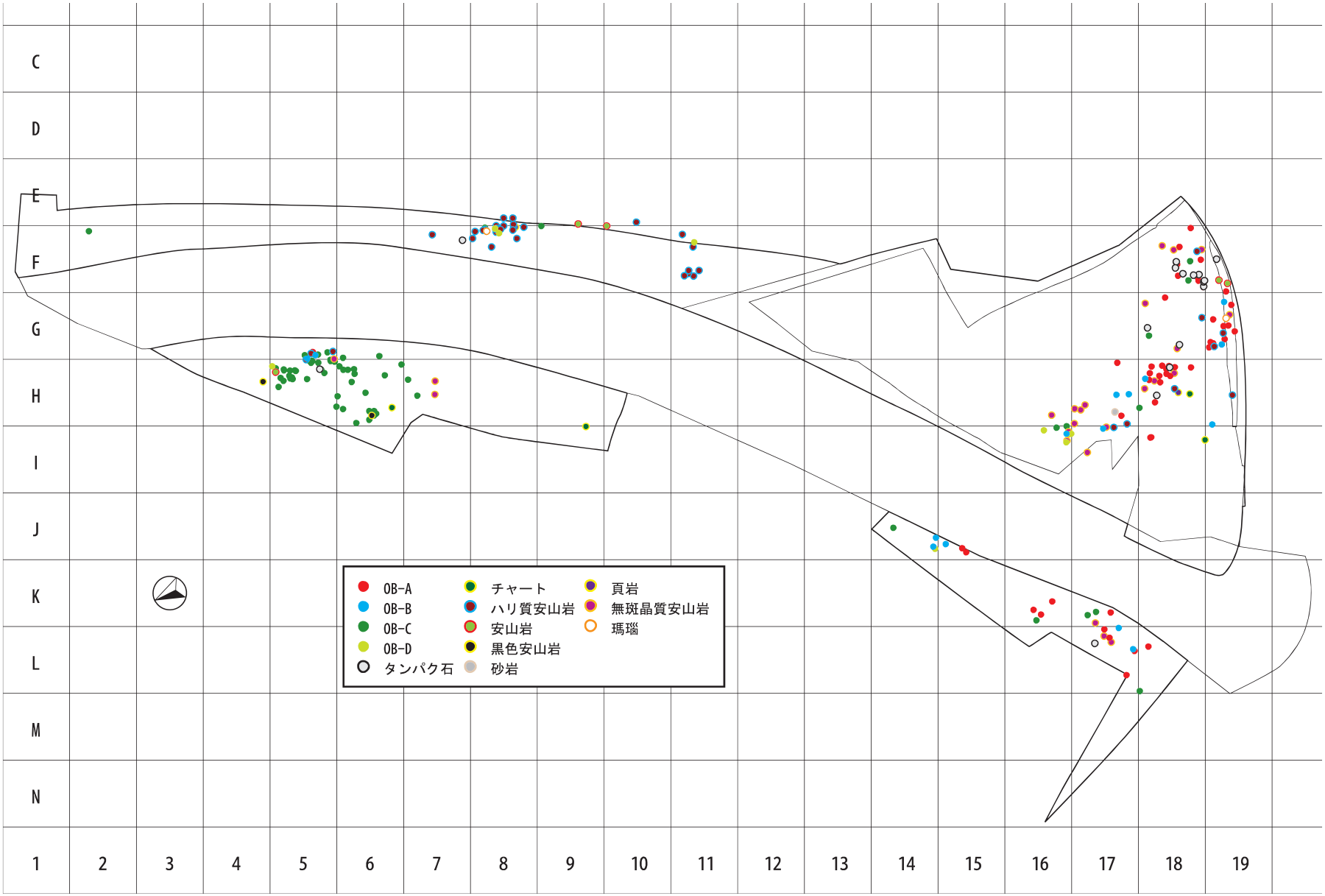
土製品（111～112）

周辺をトリミングし，円盤状に仕上げる。

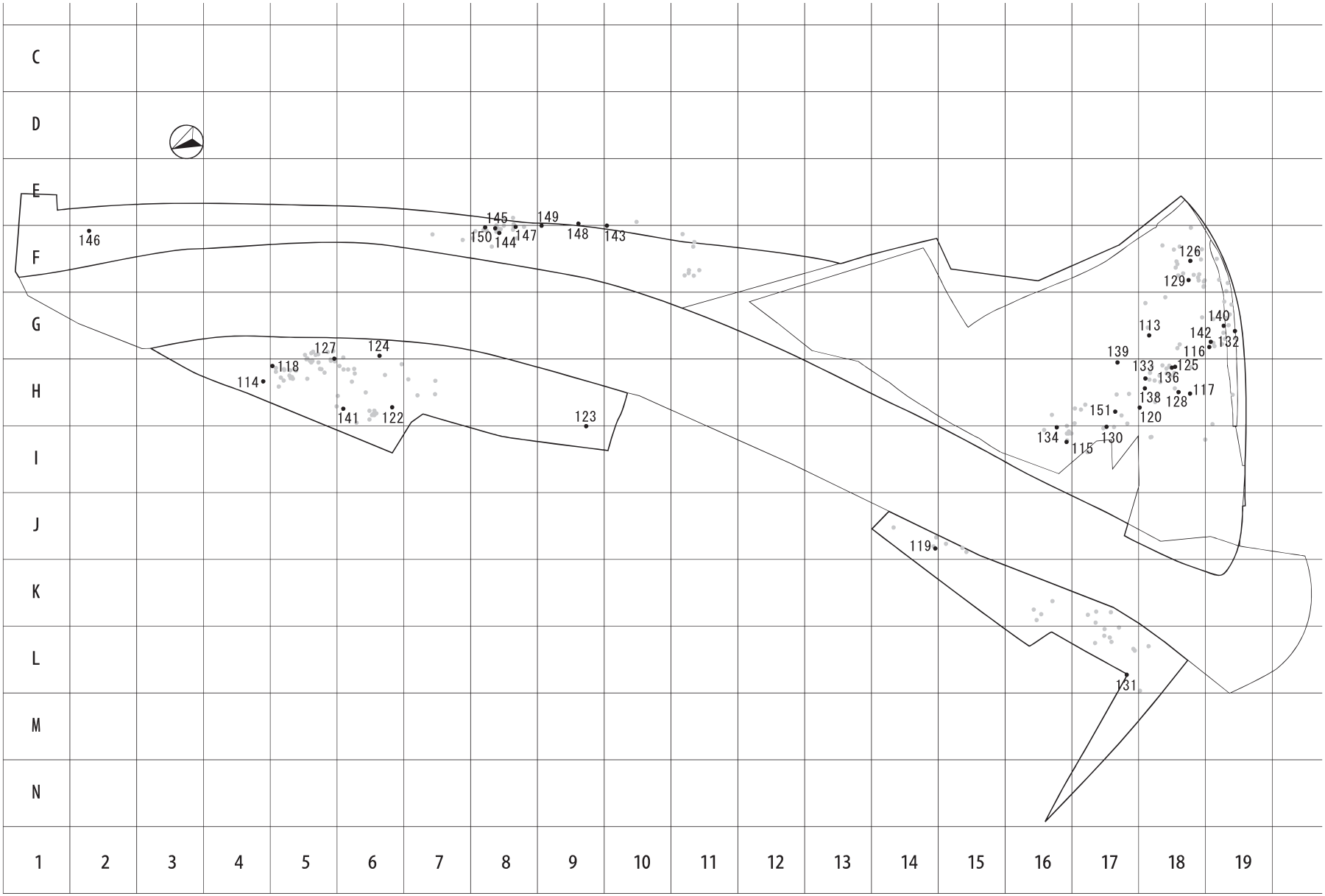
古墳時代以降の遺物

表44　土器観察表（6）

挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
										外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
121	76	7	b	20723 B 20619	I	16	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	集中箇所
	77	7	a	20073	G	6	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	
	78		b	20004	-	－	－	-	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	
	79	7	b	20091 20152	E	8	3	-	口縁部	ナデ	条痕(工具)	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	80	7	b	30394 -	E I	6	3	-	口縁部	ナデ	条痕(工具)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	溝－13
	81	7	b	20412 20436 20750 20751 20772 20773	H	17	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	82	7	b	20165 A 20014	H -	5-	3 1	-	口縁部	ナデ	ナデ	橙色	橙色	○	○	－	○	一括
	83	7	b	20132 20009	H	5	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	84	7	b	20536 20694 20763 20782 20784 20820	H	17	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	明褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	
	85	7	a	－	I	－	－	-	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	表採
122	86	7	c	20880 20927	G A	19	3	-	胴部	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	○	○	－	○	
	87	7	c	A	－	－	1	-	胴部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	一括
	88	7	c	30329	F	8	3	-	胴部	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	89	7	c	30347	E	6	3	-	胴部	ナデ	ナデ	暗褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	90	7	a	20692 20693 20696 20749 20777 20780 20823	H	17	3	-	完形	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	○	○	－	○	
	91	7	e	20178	G	7	3	-	底部	ナデ	条痕(工具)	明赤褐色	黒褐色	○	○	－	○	
	92	7	e	30095	E	8	3	-	底部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	－	○	
	93	7	e	30367	F	6	3	-	底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	94	10	-	20598 207--	H	17	3	-	底部	ナデ	ナデ	明赤褐色	灰黄褐色	○	○	－	○	
	95	7	f	21877	B	15	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	黒褐色	暗灰黄色	○	○	－	－	ベンガラ　H 4
	96	7	f	20020	-	-	2	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	オリーブ黒	暗灰黄色	○	○	－	－	溝
	97	7	f	20102	E	8	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	暗灰黄色	暗灰黄色	○	○	－	－	
	98	7	f	30129	F	8	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	－	
	99	7	f	－	-	-	－	-	口縁部	ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	－	
	100	7	f	20184 20209	H	9	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	○	○	－	－	
	101	7	f	20023	H	5	3	-	口縁部	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色	黒褐色	○	○	－	－	
	102	7	f	20269 20295	F	4	3	-	口縁部	ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	○	○	－	－	
	103	7	f	30172	F	10	3	-	胴部	ミガキ	ミガキ	にぶい黄色	暗灰黄色	○	○	－	－	
	104	7	f	30170	F	10	3	-	胴部	ミガキ	ミガキ	黄褐色	黒褐色	○	○	－	－	
	105	7	f	30271	F	3	3	-	底部	ミガキ	ミガキ	黒褐色	黒褐色	○	○	－	－	
	106	7	-	30250	い B	19	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄色	にぶい黄色	○	○	－	○	
123	107	7	g	20011	H	5	3	-	口縁部	ナデ,組織痕	ミガキ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	108	7	g	A	-	－	1	-	胴部	ナデ,組織痕	ミガキ	にぶい褐色	黒褐色	○	○	－	○	一括
	109	7	g	20705 20725	H I	16	3	-	胴部	ナデ,組織痕	ナデ	にぶい褐色	橙色	○	○	－	○	
	110	7	g	20502 20702 20754 20755	H	1917	3	-	口縁部	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	
	111	8	-	20089	H	6	3	-	－	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄橙色	○	○	－	○	
	112	8	-	20122	F	8	3	-	－	ナデ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	○	○	－	○	

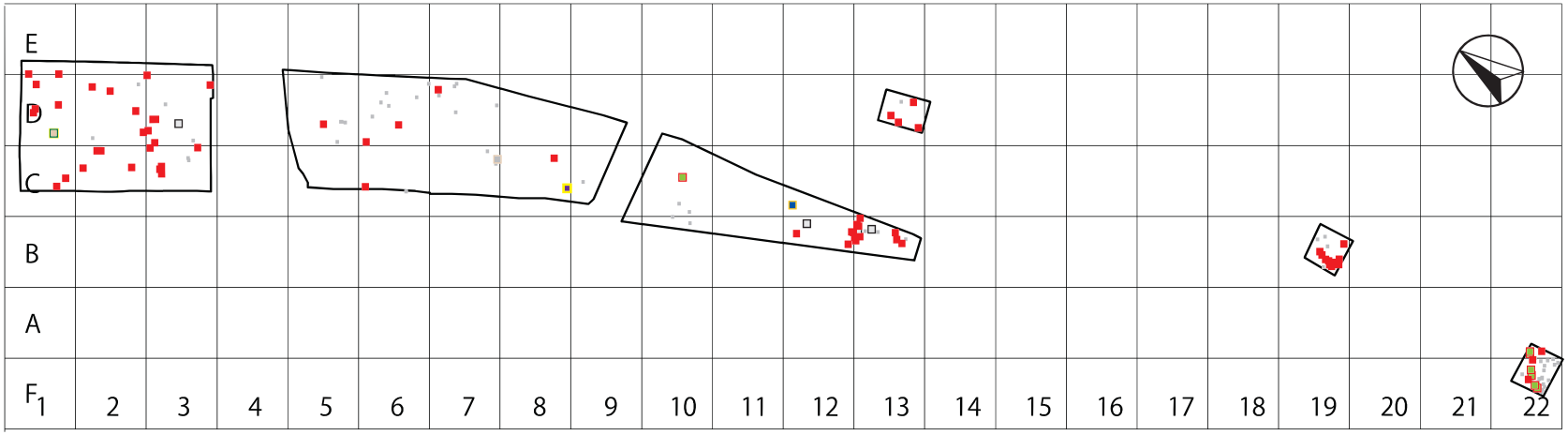


第124図　西区縄文石材別分布図

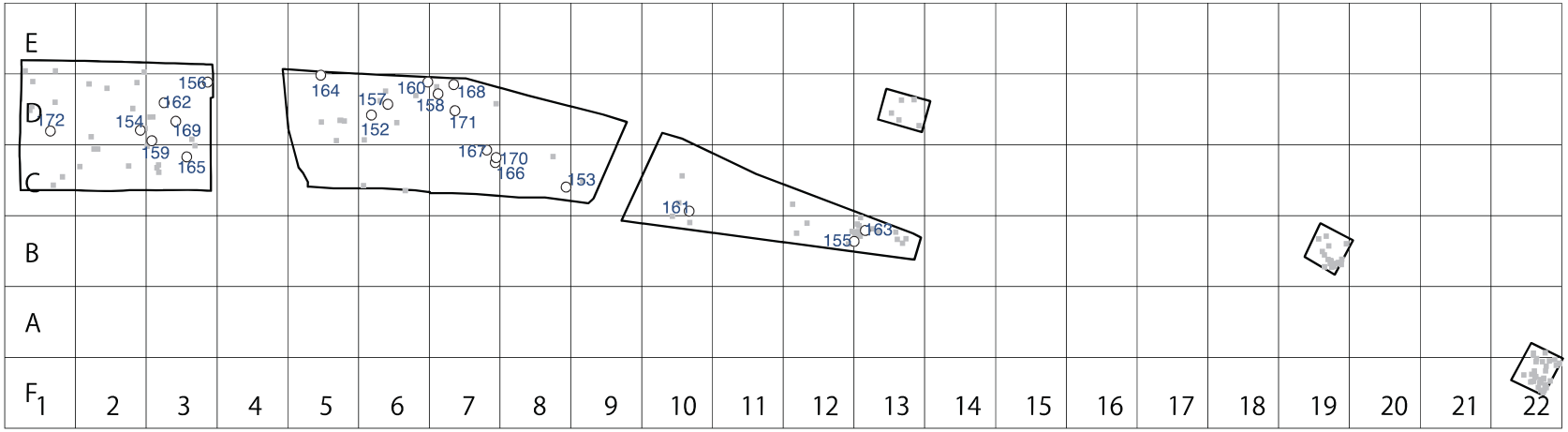


第125図　西区縄文掲載遺物分布図

石材別出土状況



掲載遺物出土状況



黒曜石　砂岩　頁岩　玉随

タンパク石　安山岩　ホルンフェルス　硬質頁岩

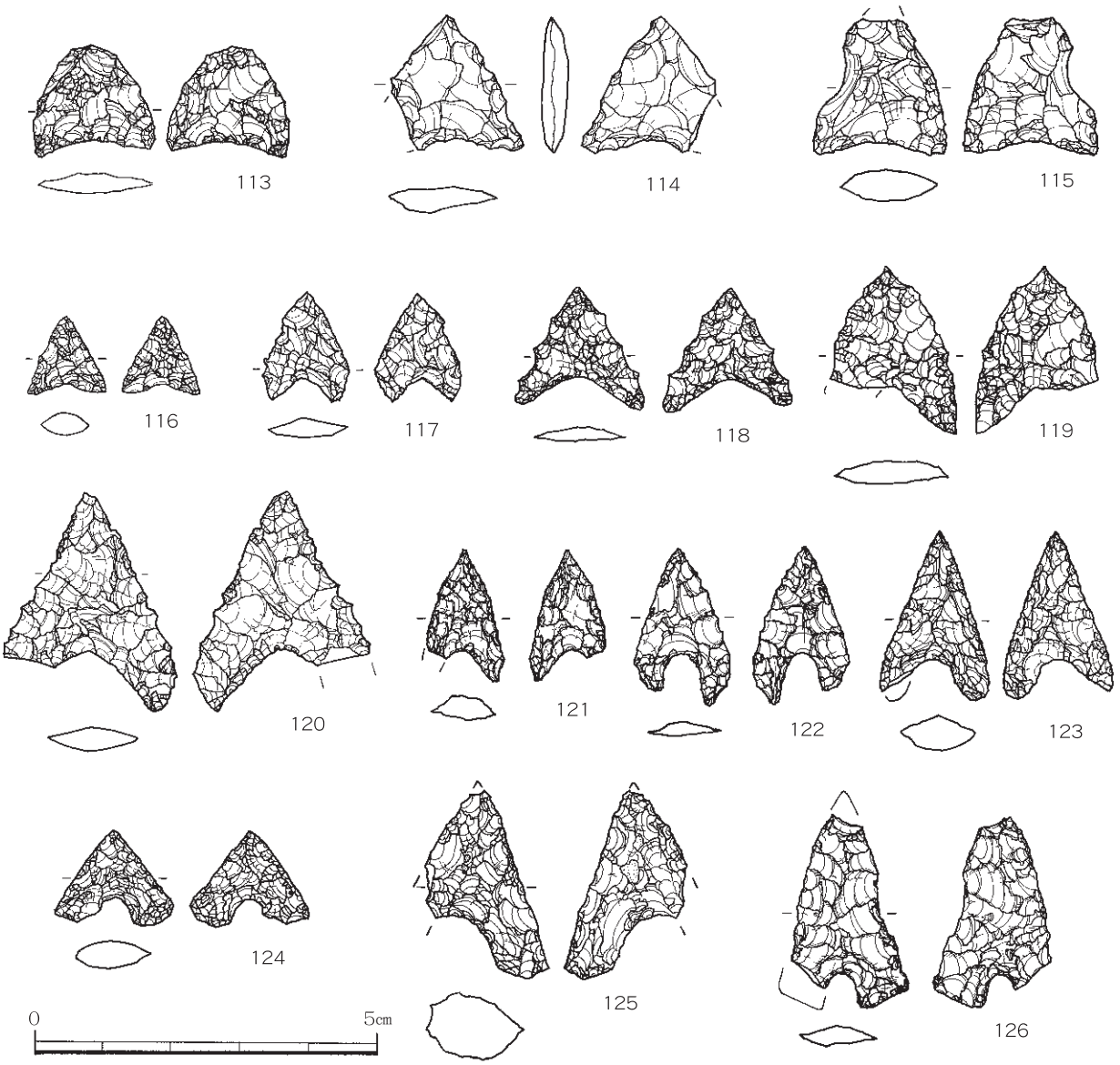
第126図　東区縄文石器出土状況図

2　石器

石鏃は 3 層から22点，4 層から12点，5 層から 1 点の合計35点出土した。35点のうち，比較的残りの多い14点を図化した。1 ～ 8 は基部の抉りがV字状を，9 ～14は基部の抉りがU字状を呈するものである。平面形態，規格は多様である。

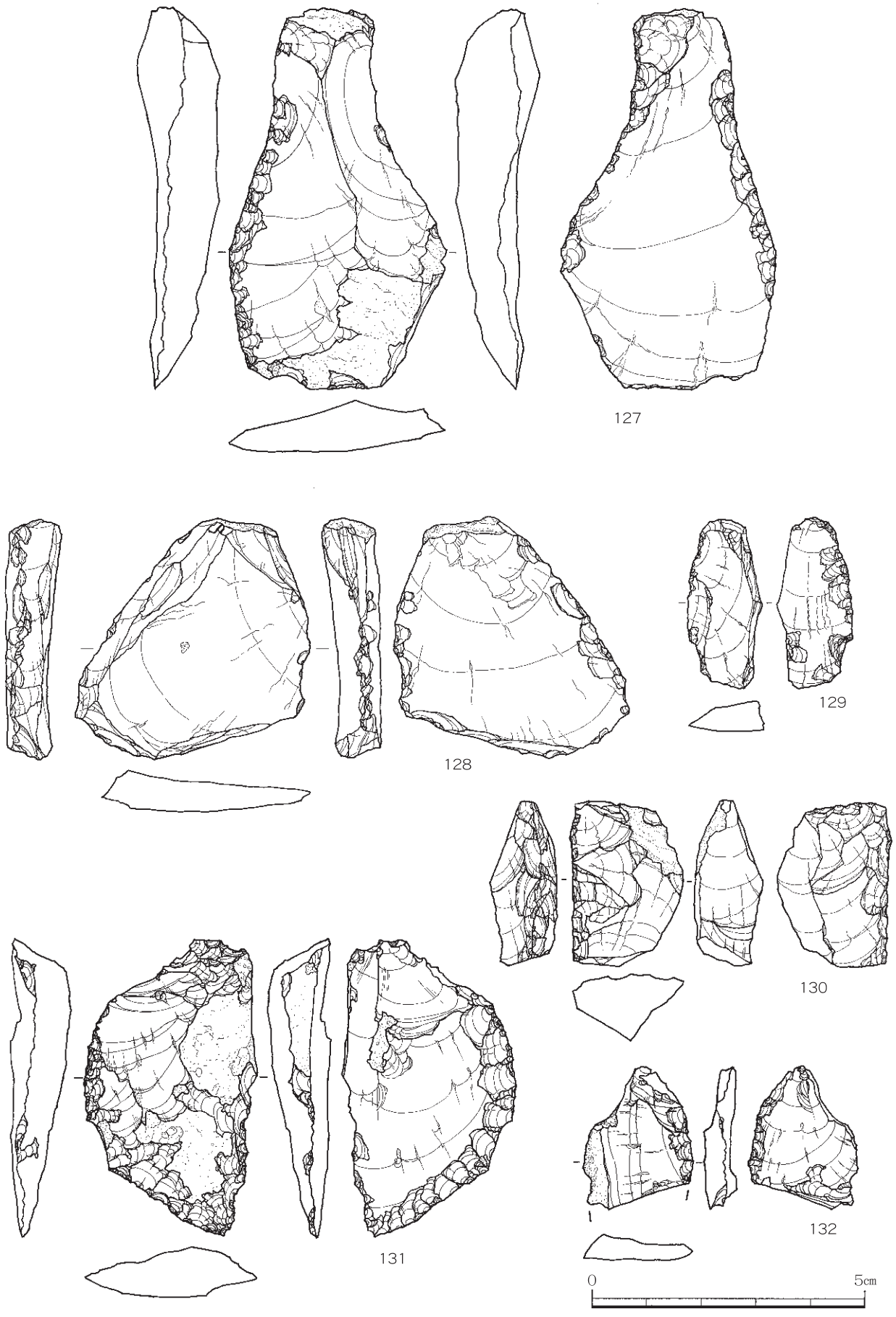
113は OB-C 製の石鏃である。両側縁は外弯し，基部は凹基である。先端部は縦方向の衝撃で欠損したとみられる。114は無斑晶質安山岩製の石鏃である。剥離は全体的に粗い。基部と先端部が欠損している。115は OB-D 製の石鏃である。先端部は縦方向の衝撃で欠損している。116は OB-A 製の石鏃である。小型で，中央部に大きく厚みがある。117はチャート製の石鏃である。118は OB-D 製の石鏃である。脚が大きく開き，側縁には鋸歯状の突起が 3 箇所づつみられる。119は OB-D 製の石鏃である。先端部が細く尖っている。全体が平坦に調整されている。120は OB-C 製の大型の石鏃である。両側縁は鋸歯状に細かく調整されている。121は OB-F 製の細身の石鏃である。中央部が厚く残されている。122はチャート製の石鏃である。素材剥片の形状を反映して，基部にかけて器身が反っている。123はチャート製の石鏃である。124は OB-C 製の小型の石鏃である。開きの角度が大きい。125は OB-A 製の石鏃未製品である。中央部に不純物があり，厚みがとれていないため中央部が大きくふくらんでいる。126は OB-C 製の大型の石鏃である。器身は薄く整形されており，先端部と基部の一部が欠損している。127は無斑晶質安山岩製のスクレイパーである。縦長の素材剥片の形状は大きく変えず，縁辺のみの調整にとどまっている。128は安山岩製のスクレイパーである。剥片の両側縁縁辺部のみに細かい二次加工により刃部を形成している。129は OB-C 製のスクレイパーである。縦長剥片の側縁に押圧剥離による二次加工を施し，刃部を形成している。基部付近に抉りを入れようとした痕跡もあり，何らかの未製品の可能性もある。130は無斑晶質安山岩製のスクレイパーである。左側縁に使用頻度の高さを示す潰れが観察される。131は OB-A 製のスクレイパーである。素材の礫皮面を残した薄手の剥片の縁辺に刃部を形成している。132は OB-A 製のスクレイパーである。小型剥片の一側縁に刃部を形成している。下半は欠損している。133は OB-B 製のスクレイパーである。剥片の周縁に細かい剥離が廻っている。134～136は，楔型石器である。134，136は OB-C を，135は OB-A を素材としている。137は頁岩製の石斧である。素材は板状の礫を輪切り状に分割したもので，整形加工を施さずにそのまま刃部を磨いている。138は無斑晶質安山岩製の石槍である。全体的に整形は粗く，中央部は厚みが残されている。器身はまっすぐではなく，曲がっている。139は OB-A 製の石核である。小型の円礫からそのまま剥片を剥出している。140は OB-A 製の石核である。両面から求心状の剥離により剥片を剥出している。

141は OB-C 製の石核である。大剥離により打面を形成後，打面を固定して剥片を剥離している。142は OB-A 製の石核である。自然礫に上下両側に打面を設定し，両設打面から剥片を剥離している。143は安山岩製の石鏃である。薄手で丁寧に調整されている。144は OB-D 製の石鏃である。薄手で丁寧に製作されている。145は OB-D 製の石鏃である。先端部に近い両側縁に抉り状の剥離が観察される。146は OB-C 製の細身の石鏃である。両側縁は細かく鋸歯状に仕上げられている。147は頁岩製の大型の石鏃である。横転中の出土であるが，出土層位はⅢ層である。148は安山岩製の石鏃である。器身中央付近の両側縁に抉りがある。149は OB-C 製の石鏃である。腹面は素材剥片面を大きく残している。150は OB-D 製の石鏃先端部である。151は砂岩製の叩石である。円礫の周縁部を中心に使用痕が認められる。152は OB-B 製の石鏃である。先端は縦方向の衝撃により欠損している。153は安山岩製の石鏃である。背面に素材の主剥離面を残している。154は OB-A 製の石鏃である。側縁が一部欠損している。155は OB-C 製の石鏃である。石材の特徴が佐賀県の椎葉川産の黒曜石に類似する。156は OB-C 産の石鏃である。157は OB-C 産の石鏃である。薄手の自然礫の縁辺に二次加工を施しただけの簡易なものである。158は OB-D 産の石鏃である。左側縁に 2 箇所，右側縁に 3 箇所，鋸歯状に突起が作り出されている。159は OB-D 産の石鏃である。側縁は直線上に丁寧な剥離により作成されている。160は OB-D 産の石鏃である。細身で，側縁は粗い鋸歯状に仕上げられている。脚部は両方とも欠損している。161は OB-C 産の石鏃である。下半は欠損している。162は頁岩製のスクレイパーである。大型の剥片の縁辺に二次加工を施し，刃部を形成している。163は安山岩製の磨・叩石である。両面とも使用頻度が高く，中央部に最も厚い部分があり，斜めに曲面をなしている。周縁は敲打のため全周に面を形成している。164は安山岩製の凹石である。中央部から上部にかけて細長く凹みがあり，上部と中央部に 2 箇所やや深めの凹みが確認される。165は安山岩製の凹石である。中央部を中心に浅めの凹みが確認される。166は安山岩製の磨･凹石である。表裏両面に磨面が確認され，中央部付近に凹みが1か所確認される。側面が欠損している。167は安山岩製の磨・叩・凹石である。両側面に磨面が確認され，中央部に凹み，周縁に叩き痕が観察される。半分近くが欠損している。168は安山岩製の小型の磨・叩石である。下面に叩きにより形成された複数の面が，背面に磨面が確認される。上部は欠損している。169は玉髄製の礫器である。大型の礫素材の側縁に背腹両面への大きな交互剥離を施し，刃部を形成している。刃部には使用によるものと思われる潰れが確認

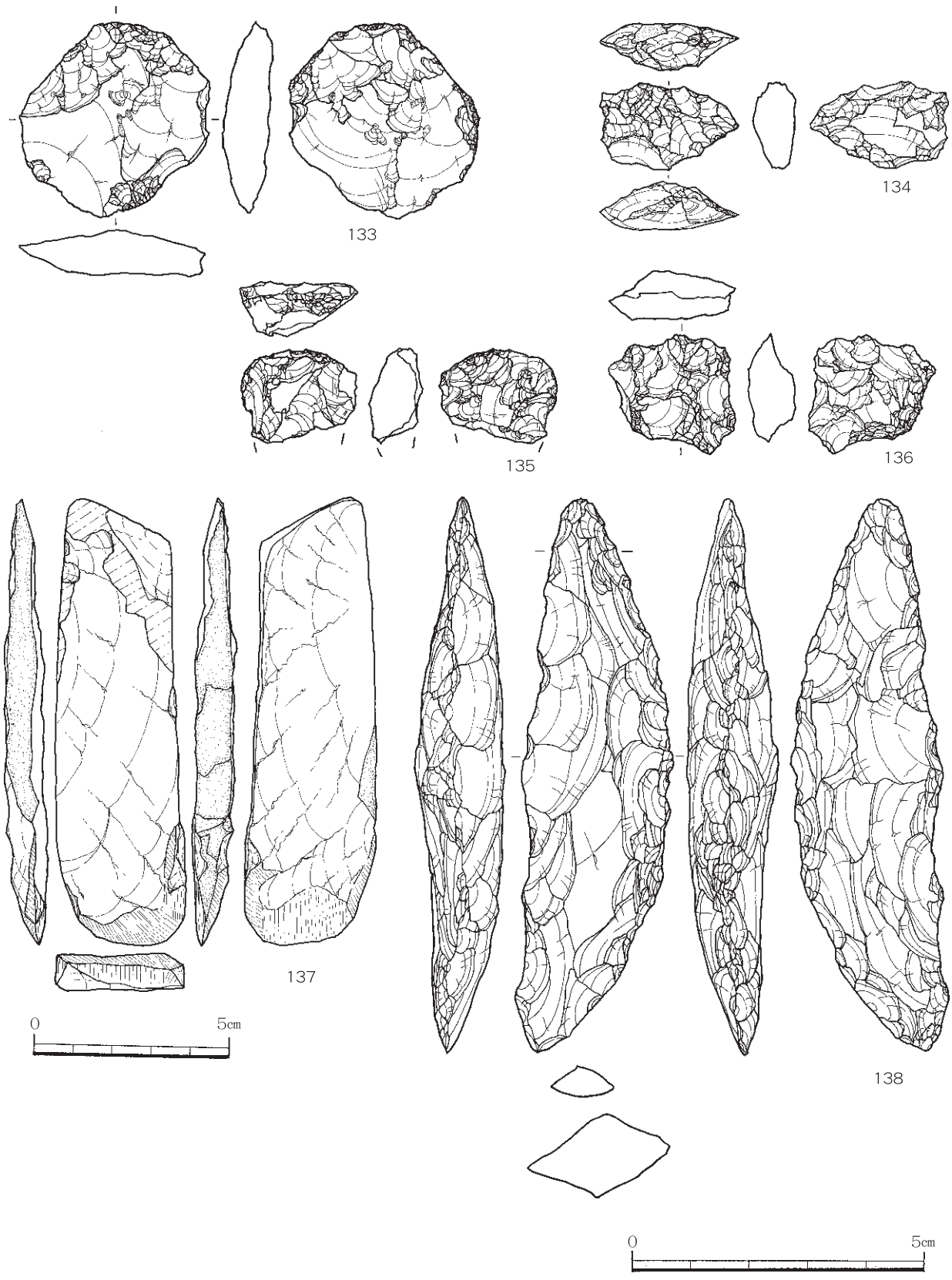


第127図　8年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（1）

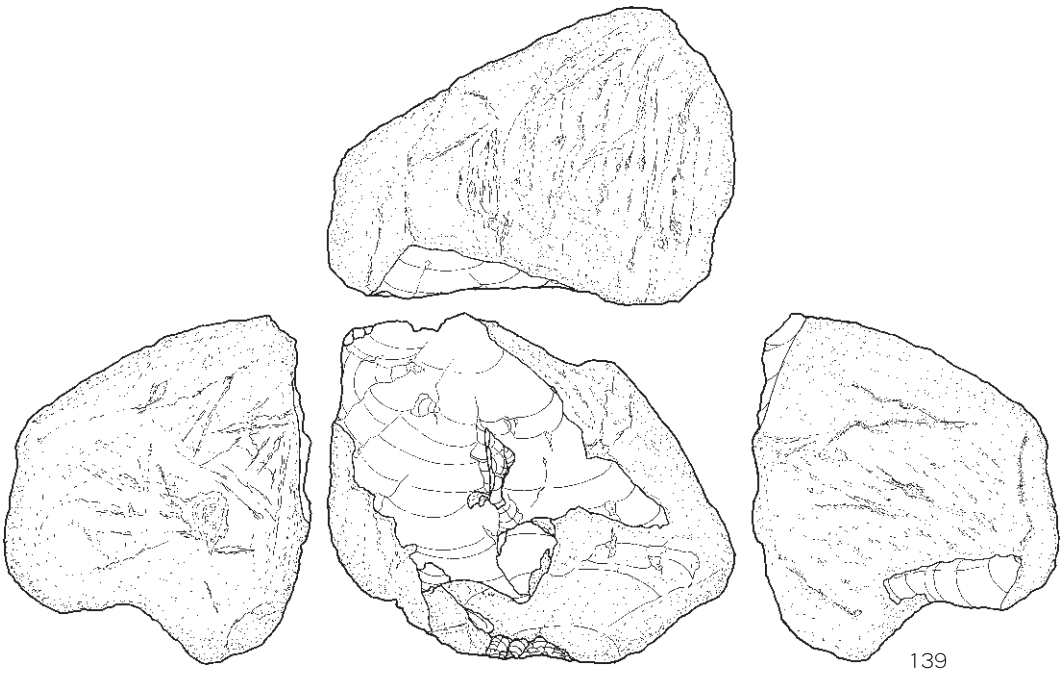
される。170は砂岩製の石皿である。磨面は細かい凸凹面であるが，高い部分のみに磨痕が全面に確認される。欠損している。171は安山岩製の石皿である。表面全体に磨面が確認される。形状は四角形で整っているが，整形を施したものではなく，元々の板状の自然礫の形状を利用したものである。172はホルンフェルス製の全面磨製石斧である。扁平礫に簡易な整形加工を施し，全面を磨いている。表面の器身上部に帯状の黒変した部分があり，緊縛痕の可能性がある。

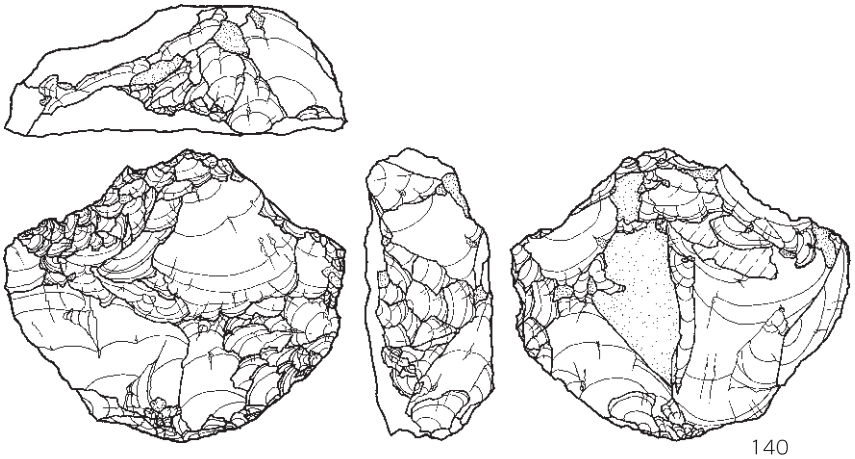


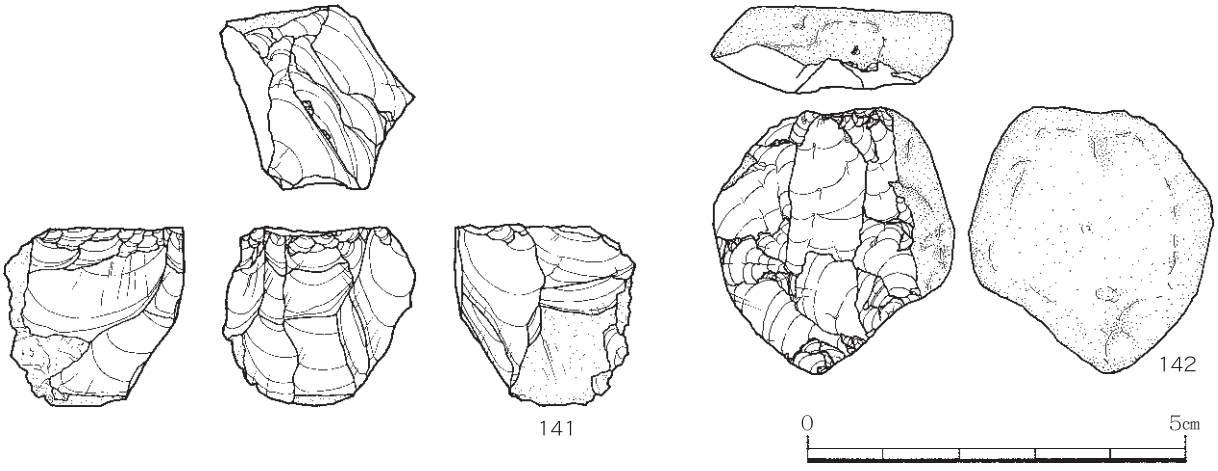
第128図　8年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（2）



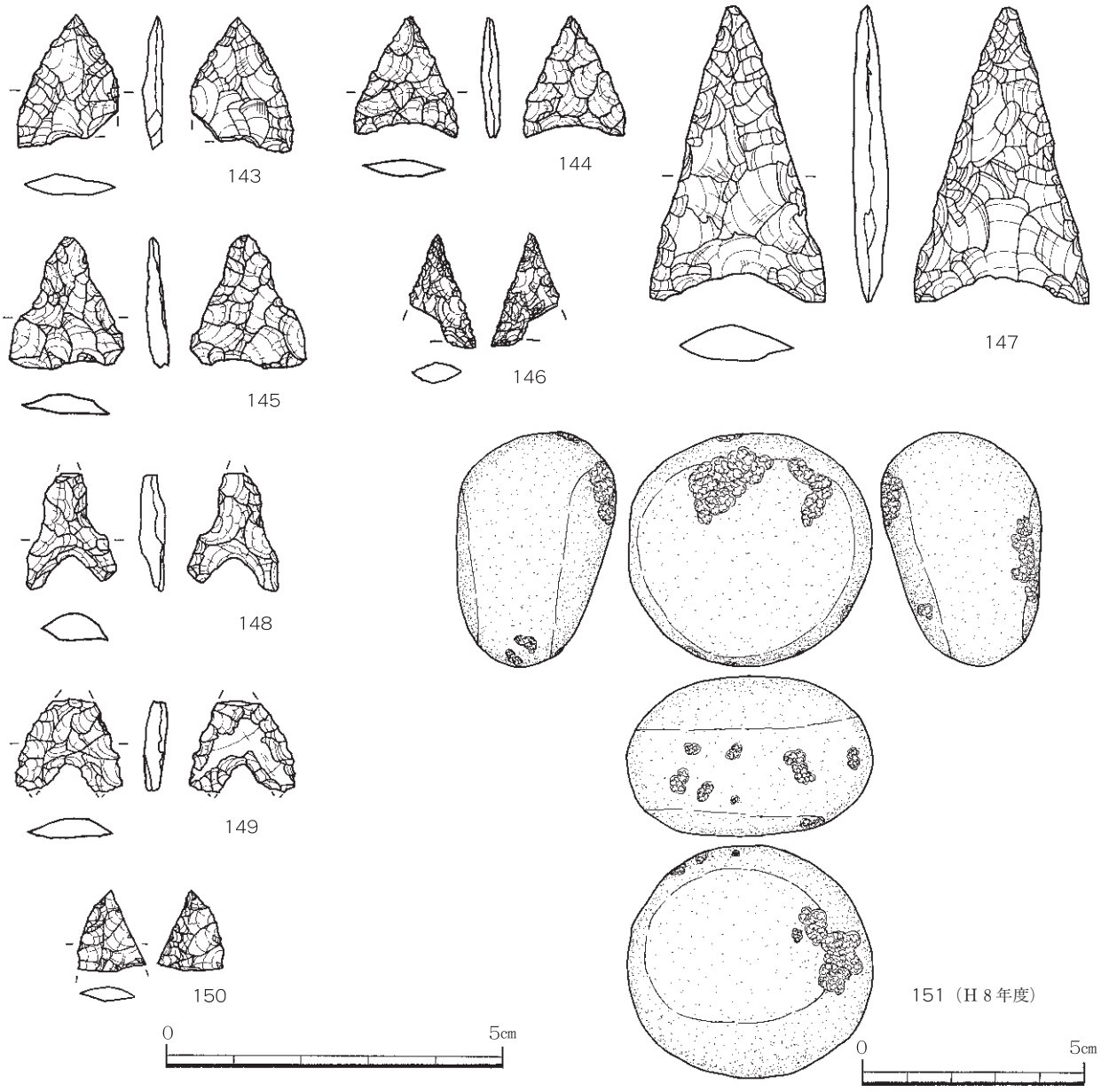
第129図　8年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（3）







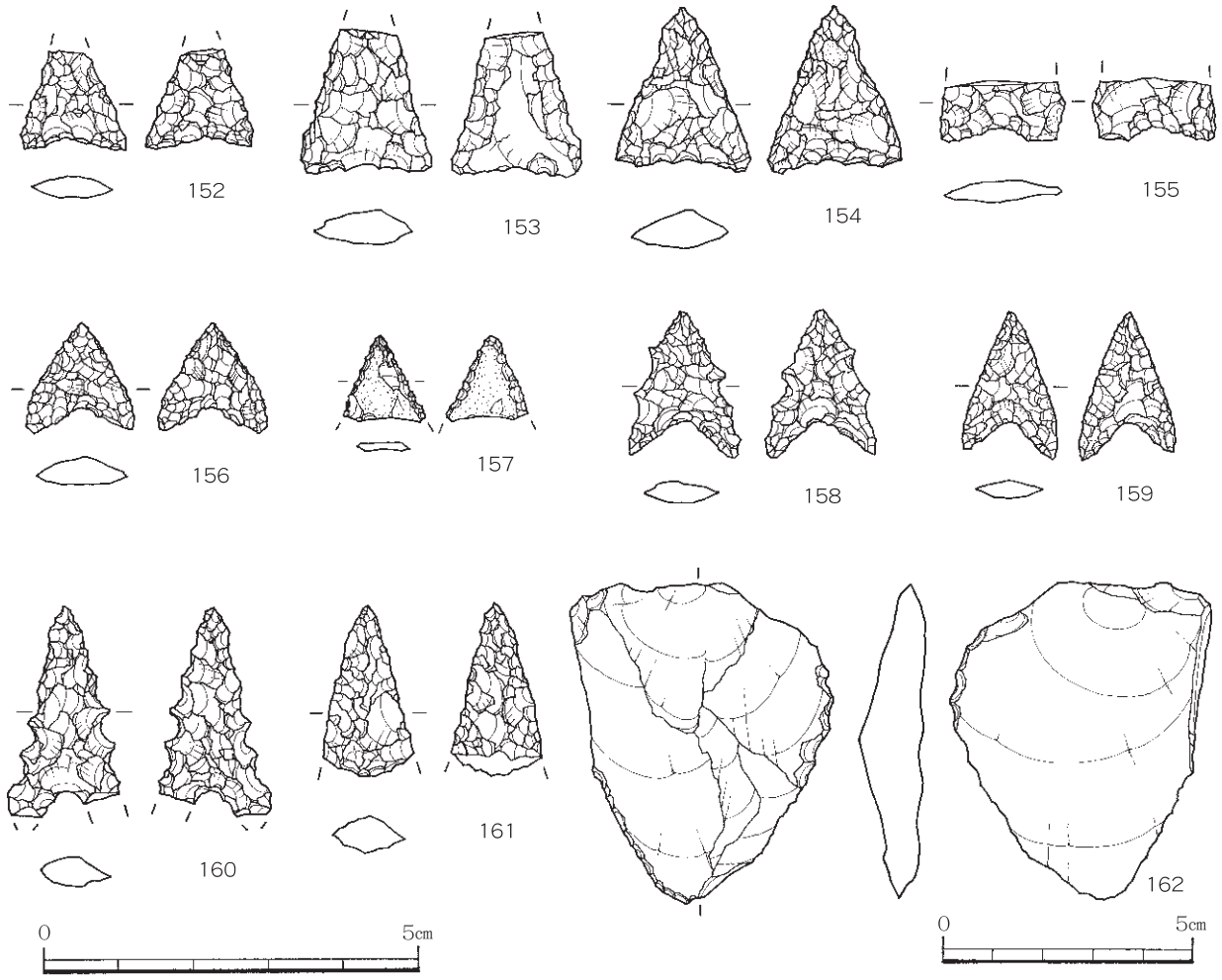
第130図　8年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（4）



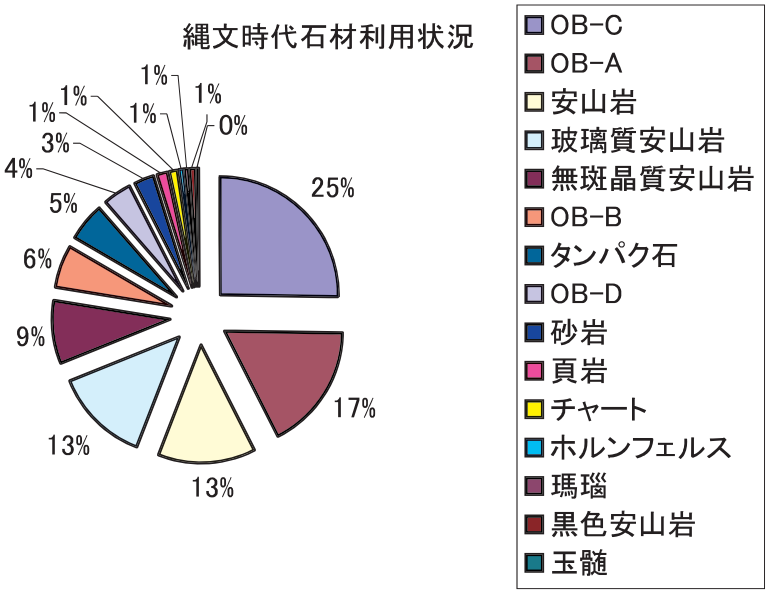
第131図　9 年度調査区 Ⅲ 層出土石器

表45　縄文時代石材組成表

石材	点数
OB-C	75
OB-A	52
安山岩	39
玻璃質安山岩	39
無斑晶質安山岩	26
OB-B	17
タンパク石	16
OB-D	12
砂岩	8
頁岩	4
チャート	3
ホルンフェルス	2
瑪瑙	2
黒色安山岩	2
玉髄	1

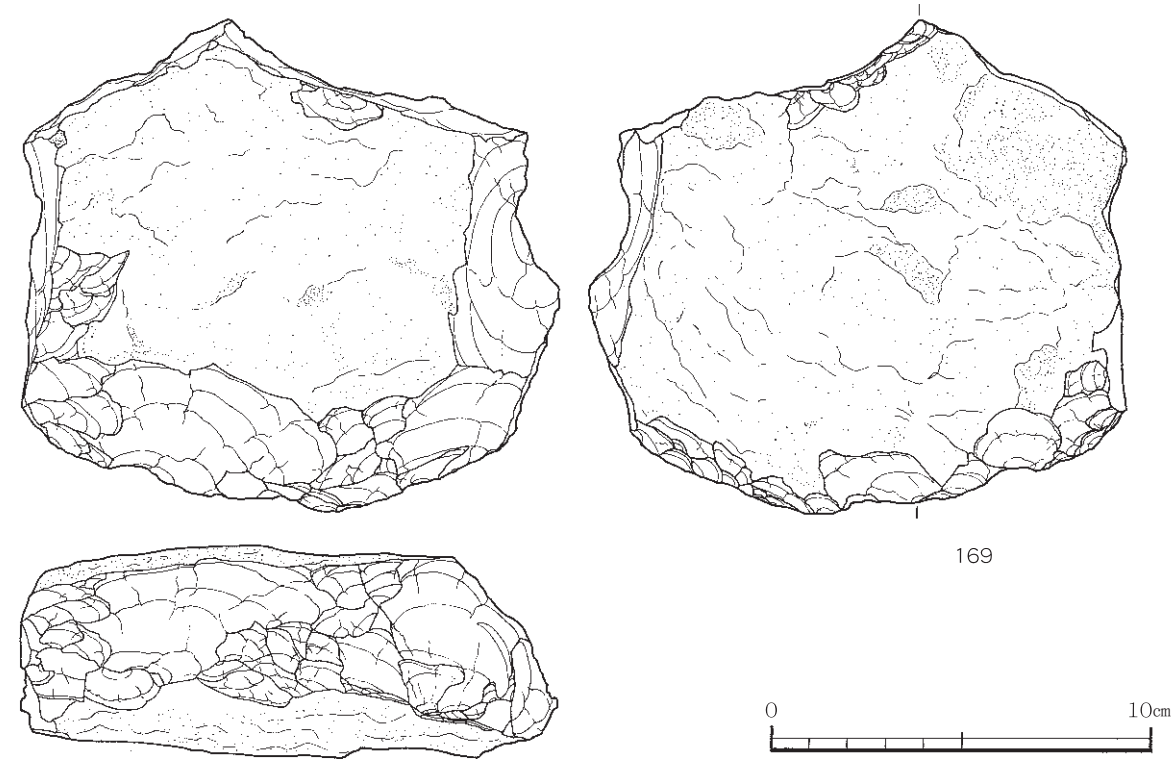


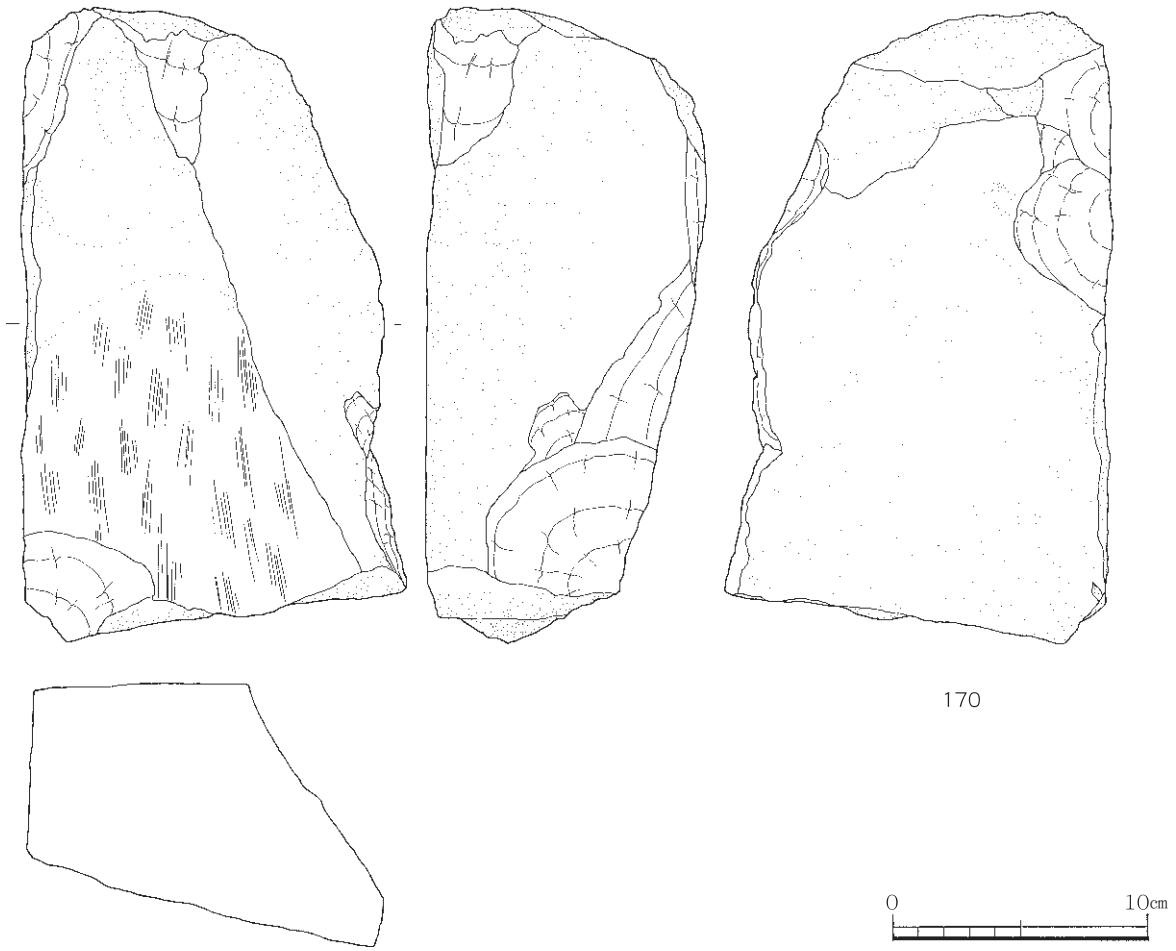
第132図　14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（１）



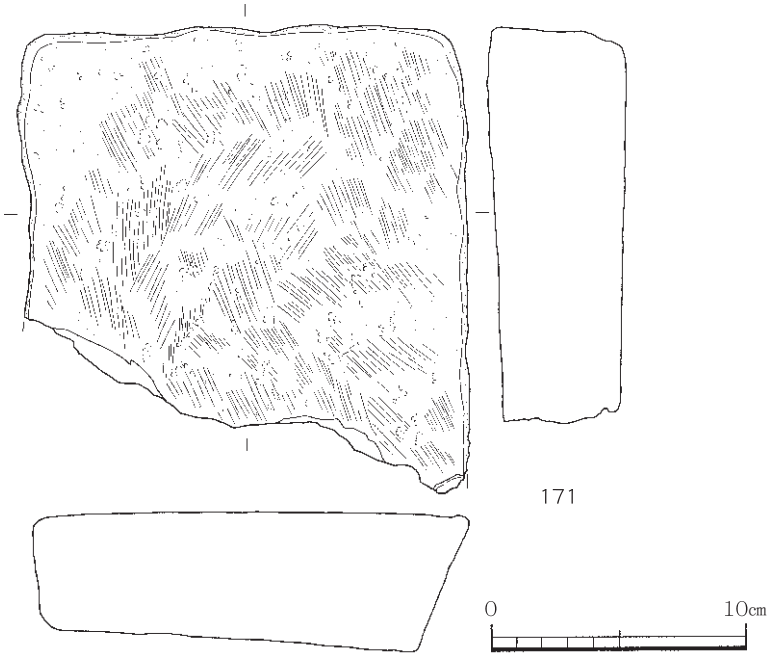
第133図　縄文時代石材利用状況図

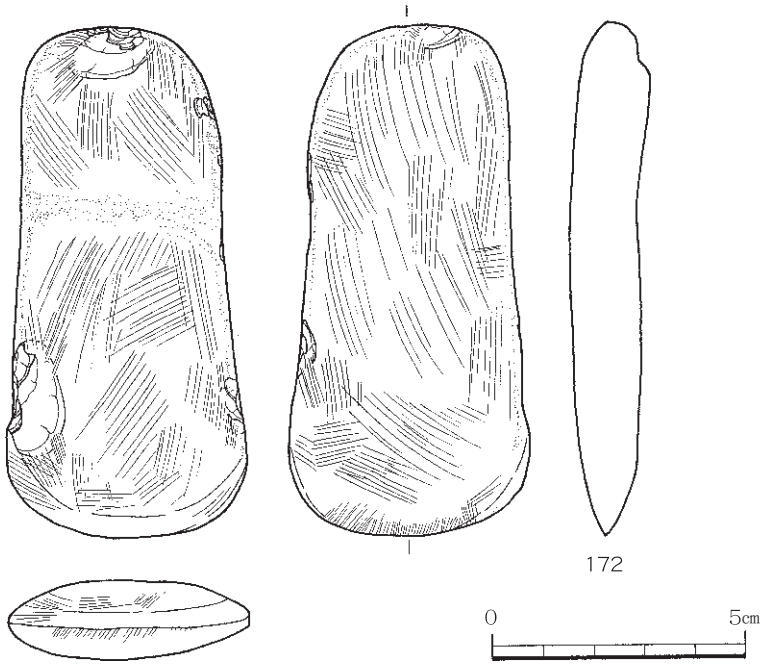
第134図　14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（２）





第135図　14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（３）





第136図　14年度調査区Ⅳ・Ⅲ層出土石器（4）

3　石材

縄文時代の石器に利用されている石材は，OB-Cが75点と最も多い。石核，楔形石器，スクレイパー，石鏃などに利用されており，特に石鏃への利用が目立つ。OB-Cは良質の黒曜石を一括して扱ったものでバラエティーに富み，特に県外産の黒曜石が多いようである。次に多いのが在地産のOB-Aで，石核，スクレイパー，石鏃に利用されている。石核の量がOB-Cに比して多いのは，産地が近くにあるためであろう。次に多いのが安山岩である。安山岩は玻璃質安山岩，無斑晶質安山岩，黒色安山岩等があり，安山岩系をまとめると106点で，当遺跡で縄文時代の石器に利用されている石材としては最も多いこととなる。安山岩は磨・叩・凹石，石皿等の礫石器に多く利用され，玻璃質・無斑晶質安山岩はスクレイパー，石鏃，石槍等の剥片石器に多く利用されている。

次に多いのがOB-Bで17点である。石鏃，スクレイパー等の剥片石器に利用されている。次に多いのはタンパク石で，16点である。いずれも剥片・砕片類であるため目的の石器については述べることができない。次に多いのはOB-Dで12点である。OB-Dは12点中10点が石鏃であり，残りの2点は剥片である。これは，OB-Dの石鏃利用が多い一方で，遺跡内での製作については希薄であるということを示しており，いずれの石鏃も搬入品であることがわかる。この特徴はチャートにも当てはまるものである。次に多いのは砂岩で，8点である。砂岩は叩石，石皿などの礫石器に利用されているが，安山岩ほど利用石材としては多くない。次に多いのは頁岩で，4点である。頁岩はスクレイパー，石斧，石鏃に利用されており，いずれも搬入品である。その他，ホルンフェルス，瑪瑙，黒色安山岩，玉髄等が客体的に利用されており，石斧，礫器などの搬入品である。

縄文時代の石材利用については，石鏃などの剥片石器に遠隔地の石材を利用する傾向が強い点，安山岩系の石器の利用頻度が高い点などが挙げられる。

表46　縄文時代実測石器観察表

図番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	石材	層	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
113	20654	石鏃	73.478	171.625	187.964	OB-C	3	1.7	1.8	0.3	0.76
114	20005	石鏃	66.615	38.989	188.302	無斑晶質安山岩	3	2	1.9	0.4	1.01
115	20805	石鏃	57.553	159.223	187.348	OB-D	3	2	1.9	0.5	1.2
116	20873	石鏃	71.763	180.607	187.713	OB-A	3	1.1	1.2	0.3	0.25
117	20498	石鏃	64.764	177.711	187.702	チャート	3	1.6	1.2	0.3	0.41
118	20202	石鏃	68.94	40.387	187.934	OB-D	3	1.8	1.9	0.2	0.41
119	20366	石鏃	41.625	139.602	186.71	OB-D	4	2	1.85	0.25	0.83
120	20853	石鏃	62.69	170.172	188.05	OB-C	3	3.2	2.6	0.35	1.71
121	一括	石鏃	-	-	-	OB-F		1.95	1.2	0.4	0.51
122	20176	石鏃	62.748	58.31	188.15	チャート	3	2.3	1.4	0.2	0.53
123	20198	石鏃	59.881	87.319	188.21	チャート	3	2.5	1.6	0.5	1.12
124	20208	石鏃	70.441	56.417	187.936	OB-C	5	1.9	1.8	0.4	0.47
125	20518	石鏃	68.785	175.495	187.518	OB-A	3	2.8	1.85	1	2.54
126	20665	石鏃	84.625	177.786	187.98	OB-C	4	2.8	1.7	0.3	1.29
127	20069	スクレイパー	70.02	49.655	188.417	無斑晶質安山岩	4	6.9	3.9	1.5	27.59
128	20496	スクレイパー	64.979	175.999	187.558	安山岩	3	4.4	4.3	1.1	17.94
129	20663	スクレイパー	81.789	177.514	188.025	OB-C	3	3.15	1.35	0.52	2.15
130	20766	スクレイパー	59.793	165.241	187.646	無斑晶質安山岩	3	3	2	1.3	6.7
131	20286	スクレイパー	22.718	168.245	188.464	OB-A	3	5.2	3.2	1.1	14.84
132	20883	スクレイパー	74.136	184.445	187.823	OB-A	3	2.4	1.9	0.6	2.39
133	20838	スクレイパー	67.036	171.053	187.046	OB-B	4	3.35	3.3	0.9	7.95
134	20952	楔形石器	59.734	157.795	187.109	OB-C	3	2.4	1.5	0.9	2.28
135	一括	楔形石器	-	-	-	OB-A		1.65	2	1	2.44
136	20833	楔形石器	68.645	175.011	187.152	OB-C	3	2.1	2.2	0.8	2.69
137	一括	石斧	-	-	-	頁岩		11.55	3.3	1.125	49.82
138	20963	石槍	65.583	170.976	187.694	無斑晶質安山岩	4	9.6	2.7	1.6	28.77
139	20986	石核	69.46	166.882	187.265	OB-A	4	4.6	5.5	4.1	92.78
140	20999	石核	74.909	182.759	187.302	OB-A	3	3.9	4.5	1.7	25.78
141	20196	石核	62.529	50.968	188.035	OB-C	3	2.4	2.6	2.4	13.28
142	20923	石核	72.519	180.837	187.574	OB-A	3	3.5	3.2	1.2	14.38
143	30162	石鏃	89.919	90.436	191.022	安山岩	3	2	1.6	0.3	0.75
144	30134	石鏃	88.808	74.321	191.578	OB-D	3	1.8	1.6	0.3	0.52
145	30210	石鏃	89.534	73.736	191.26	OB-D	3	2	1.7	0.4	0.58
146	30235	石鏃	89.124	12.93	190.439	OB-C	3	1.7	1	0.3	0.31
147	30187	石鏃	89.746	76.763	191.316	頁岩	3	4.5	2.6	0.6	4.92
148	30159	石鏃	90.22	86.175	191.499	安山岩	3	1.8	1.3	0.4	0.58
149	30201	石鏃	89.933	80.672	191.244	OB-C	3	1.4	1.7	0.4	0.52
150	30088	石鏃	89.658	72.218	191.534	OB-D	3	1.2	1	0.2	0.27
151	20821	叩石	62.068	166.506	187.655	砂岩	3	3.5	3.6	2.4	131.96
152	40076	石鏃	51.78	44.208	189.42	OB-B	4	1.3	1.4	0.3	0.48
153	40191	石鏃	79.263	34.036	189.614	安山岩	4	1.9	1.8	0.5	1.23
154	40041	石鏃	19.155	42.069	189.14	OB-A	4	2.2	1.8	0.5	1.42
155	40210	石鏃	119.938	26.357	190.122	OB-C	4	0.8	1.7	0.3	0.43
156	40021	石鏃	28.649	48.857	189.225	OB-C	4	1.5	1.5	0.4	0.52
157	40083	石鏃	54.104	45.732	189.405	OB-C	4	1.2	1.1	0.1	0.15
158	40049	石鏃	61.194	47.202	189.658	OB-D	3	2	1.5	0.3	0.58
159	40026	石鏃	20.775	40.574	189.359	OB-D	4	2	1.3	0.2	0.38
160	40090	石鏃	59.754	48.866	189.446	OB-D	4	2.8	1.5	0.4	1.14
161	40199	石鏃	96.637	30.635	189.846	OB-C	4	2.3	1.3	0.5	1.04
162	40040	スクレイパー	22.505	45.95	189.181	頁岩	4	9.7	8	2	46.57
163	40143	磨・叩石	121.509	27.908	190.519	安山岩	4	11.4	10	3	540
164	40072	凹石	44.624	49.835	189.448	安山岩	4	9	4.3	5	415
165	40036	磨・凹石	25.706	38.299	189.128	安山岩	4	6.8	4.6	5	445
166	40170	磨・凹石	69.261	37.497	189.471	安山岩	5	9.5	6.1	4.1	279.77
167	40169	磨・凹石	68.064	39.27	189.436	安山岩	5	6.8	6.8	3.8	231.88
168	40128	磨・叩石	63.4	48.507	189.445	安山岩	5	3.6	3.8	3.4	62.37
169	40022	礫器	24.164	43.323	189.4	玉随	4	13	14.2	5.6	1350
170	40171	石皿	69.385	38.197	189.49	砂岩	5	25.5	15.45	11.25	4650
171	40099	石皿	63.58	44.821	189.518	安山岩	4	18.45	18	5.4	3100
172	40046	石斧	6.457	41.945	189.064	ホルンフェルス	4	10.15	4.9	1.4	115.03

１～７は，弥生時代・古墳時代の遺物である。

１・３・４・７は甕，２は小型の甕，５は蓋形土器，６は小型の壷である。

１は，口縁部から頸部にかけて「くの字」状に外反する。外面には縦方向の，内面には縦・横方向のハケ目がみられる。内面のおおむね口縁部から２～３㎝以下には，煮炊きによるとみられる黒色化が明瞭にみられる。これは，蓋の使用による色の変化であるとみられる。器形と器面の調整の特徴からみて,中津野式の甕であろう。

２～４・７は底部である。２～４は，上げ底の脚台を持つもので，７は平底で中実の脚台をもつものである。

５は，内外面ともにケズリの後にハケ目を施す。

６は，つくりが粗雑で，左右が非対称となっている。

以上の土器の中で，１と６は中津野式（弥生時代末～古墳時代初頭頃）の特徴を有する。他の土器も，同時期である可能性が高いが，７だけは，中実の底部脚台であることから，弥生時代中期～後期であると考えられる。

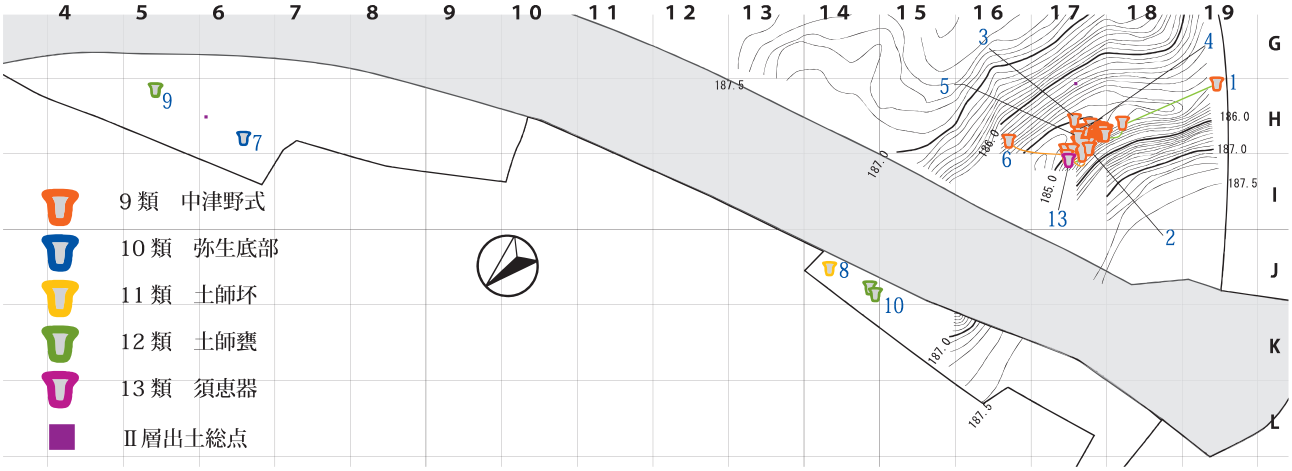
８～12は，古代（平安時代）～中世の遺物である。

８は，内外面朱塗りの土師器坏もしくは椀である。胴部のみ残存するが，丁寧なつくりである。９は，土師器の鉢で，バケツ状の器形を呈すると想定される。外面には斜め方向の，内面の胴部下半部には横方向のケズリが施される。外面の口唇部から約３㎝の幅にススが付着しているので，煮炊具として使用された可能性が高い。

10は，外面には器面調整の後に縦方向のナデが，内面にはハケ目状の工具痕がみられる。ただし，肩部がやや張ることと胎土からみた場合，縄文時代晩期（～弥生早期）の深鉢である可能性も含んでおきたい。胴部外面の上半部にはススが付着している。

11・12は，竜泉窯系の青磁である。12は，内面にわずかに文様が残る。外面には，焼成粘土塊が付着している。焼成時に，窯壁が付着したものとみられる。

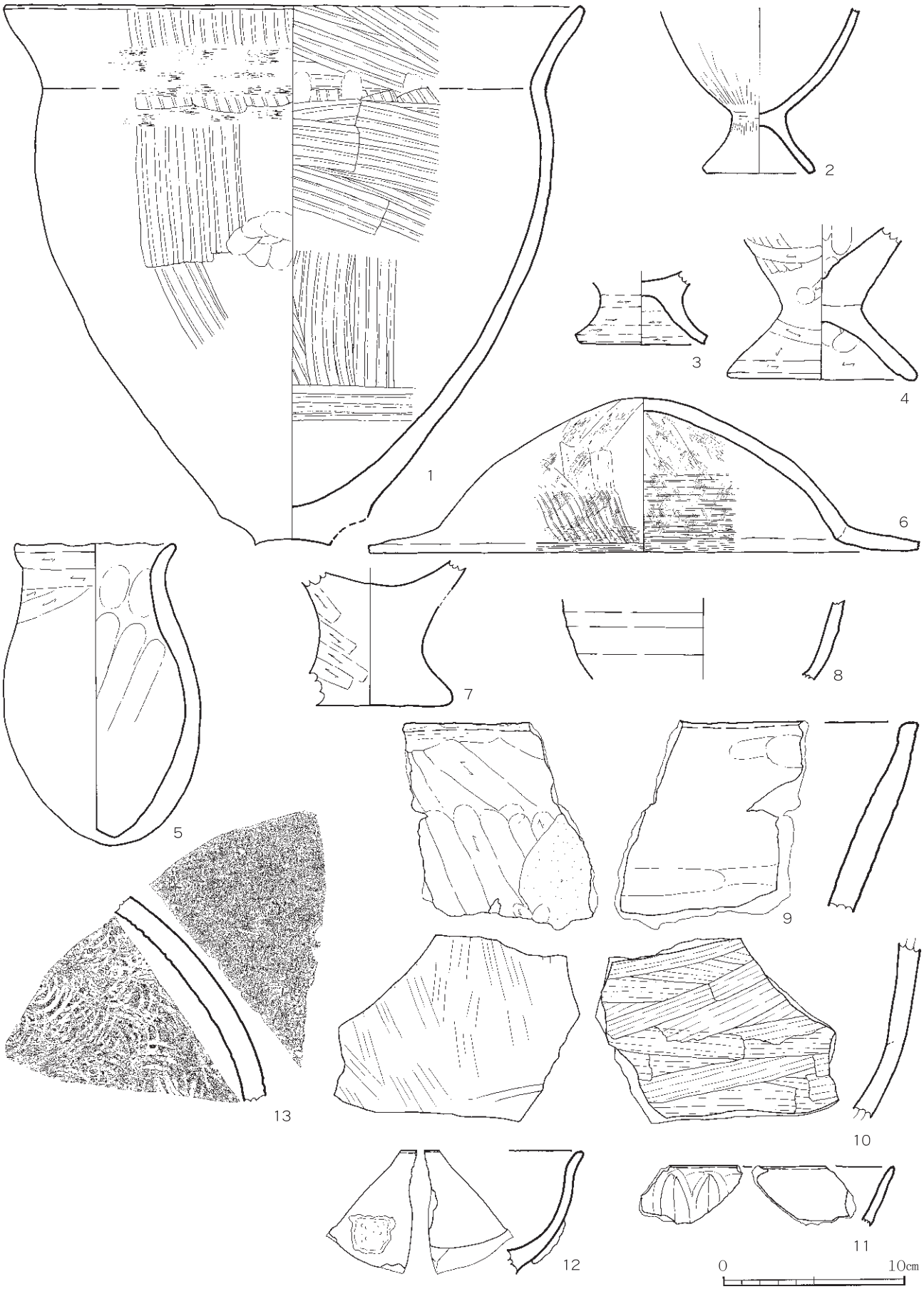
13は，須恵器の甕である。内面に同心円タタキ痕が明瞭に残るので，肩部であることが理解される。外面には格子目タタキがみられる。外面には円形の変色した部分がみられる。これは窯詰めの際の変色とみられる。



第137図　Ⅱ層土器出土状況図

表45　土器観察表（７）

挿図No.	報告No.	分類番号L1	分類番号L2	取上番号	出土区A	出土区1	層a	層b	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
										外面調整	内面調整	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
140	1	9	–	20400 20402 20403 20512 20519 20520 20521 20739 20741 –	H	17	3 1	–	口縁部	ナデ.ハケ目.指押さえ	ハケ目.指押さえ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	–	○	
	2	9	–	20564 – B	H	17	3	–	胴部	ナデ.工具痕	ナデ	明赤褐色	橙色	○	○	–	○	注記不明
	3	9	–	20537	H	17	3	–	底部	ナデ	ミガキ	橙色	橙色	○	○	–	○	
	4	9	–	20390 20540 20801	H	17	3	–	底部	ナデ	ナデ.指押さえ	橙色	にぶい黄橙色	○	○	–	○	
	5	9	–	20800	H	17	3	–	完形	ナデ	ナデ.指押さえ. ケズリ	橙色	橙色	○	○	–	–	
	6	9	–	20395 20398 20407 20413 20417 20424 20046– 20547 20549 20558 20560 20561 20562 20565 20576 20580 20581 20584 20588 20623 20680 20681 20682 20687 20730 20736 20737 2076– 20790 20855 B –	H	17	3	–	完形	ナデ.ハケ目	ナデ.ハケ目	明赤褐色	橙色	○	○	–	–	集中箇所　７個
	7	10	–	20107 –	H	6	3 1	–	底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	○	○	–	○	
	8	11	–	20317	J	14	2	–	胴部	ミガキ	ミガキ	橙色	橙色	–	–	–	–	埋土
	9	12	–	20028 20029	H	5	3	–	口縁部	ナデ	ナデ	明黄褐色	にぶい黄橙色	–	–	–	–	
	10	12	–	20312 20342	J	14	3 –	a –	胴部	ナデ.タタキ	平行タタキ	浅黄色	明黄褐色	–	–	–	–	溝底
	11	14	–	–	–	–	–	–	口縁部	–	–			–	–	–	–	注記無し　青磁
	12	14	–	–	–	–	–	–						–	–	–	–	注記無し　青磁
	13	13	–	20420	I	17	3	–	胴部	格子目タタキ	同心円	にぶい赤褐色	灰黄褐色	–	–	–	–	



第138図　Ⅱ層出土遺物実測図

Ⅶ　仁田尾遺跡

第１章　調査の方法

仁田尾遺跡は，平成７年11月から平成15年７月までに７次にわたり調査が行われた。この範囲内では南九州西回り自動車道建設に伴う発掘調査（以下「国道仁田尾遺跡」）が平成５年から平成８年まで行われていた。仁田尾遺跡は，国道仁田尾遺跡を南北に挟む形で二つに分かれて存在する。

国道による南北分断，工事用道路・生活道路の設定により，調査範囲は細断された。また，県道工事自体も国道取付け部分の改良から，平成５年度の「８．６豪雨水害」を教訓とした鹿児島市の南北バイパス道へと変貌した。２車線から４車線，工事路線の延長といった設計変更に伴い調査範囲の拡張がなされた。これらの結果，９年間７次にわたる調査期間，14カ所に及ぶ調査地点のために，６種類の遺物取上げ番号と４種類の調査基準グリッド，２種類の調査基準ポイントが存在する事態となった。

本調査報告書では，これらの調査基準グリッド・ポイントを，II・III地区調査時に使用した国道仁田尾遺跡の基準グリッドに変換し，統一した基準グリッドで記載してある。また，遺物取上げ番号は，年度ごとに10万桁目に番号を付加し重複のないように変更してある。すなわち，平成７，８年度は「１」，平成９年度は「２」，平成10年度は「３」，平成11年度は「４」，平成14年度は「５」，平成15年度は「６」を付加し，平成７年度の「2006」は「102006」となる。観察表等の遺物番号は，10万桁目の数字を除いたものが，実際のものになる。以下に，調査の経過と年次毎の基準グリッドについて記す。

第１次調査は，平成７年11月から平成８年３月まで行われた。国道仁田尾遺跡に隣接するIII・VI地区から始まり，県道工事の進捗状況に伴いII・IX地区へと拡げられた。

II・III地区では国道仁田尾遺跡と同じ基準グリッドが使用された。すなわち，南九州西回り自動車道の新設工事図面のセンター杭No. 350とNo. 355を中心軸および基準点として10ｍの区割りを設定した。西側より１～12，北側よりＡ～Ｏと名称された。また，調査時点ではII地区を「南側調査区・現道部」，III地区を「南側調査区・拡張部」と呼称している。なお，II地区は旧県道下にあり，配管工事による南北に細長い掘削部がある。

VI・IX地区では，県道小山田谷山線の設計変更前の工事図面のセンター杭No. 18とNo. 19を中心軸および基準点として10ｍの区割りを設定した。東側よりＡ～Ｄ，南側より１～13と名称された。また，調査時点ではVI地区を「北側１区」，IX地区を「北側２区」と呼称している。なお，VI地区とIX地区の間には，調査時点で立ち退き未了部と駐車場があり，発掘調査されていない。

第２次調査は，平成８年４月から６月まで行われた。前年度のIX地区に隣接するＸ・XI地区の調査を行った。基準グリッドはVI・IX地区と同一である。また，調査時点ではＸ地区を「北側３区」，XI地区を「北側４区」と呼称している。なお，Ｘ地区とXI地区の間は町道部分であり，道路を付け替えて調査を行ったが，水道管が敷設されていた部分については発掘調査を行っていない。

第３次調査は，平成９年９月から10月まで行われた。調査地点は国道の北側に隣接するＶ地区である。この期間は，国道仁田尾遺跡の調査が終了して工事のために掘削され，旧県道との交差部分には高架橋がかけられていた。調査範囲は高架橋と県道迂回路，およびVI地区の間に設定された。工事に伴い環境が一変し，２次調査までの基準ポイントが失われたことと範囲が狭小であったことから，グリッドの設定は行われていない。調査基準ポイントは旧道側溝部と迂回路の結合部から設定された。また，調査時点ではＶ地区を「北側５区」と呼称している。なお，調査基準ポイントの割出しの際は，国道仁田尾遺跡の調査範囲を参考にした。

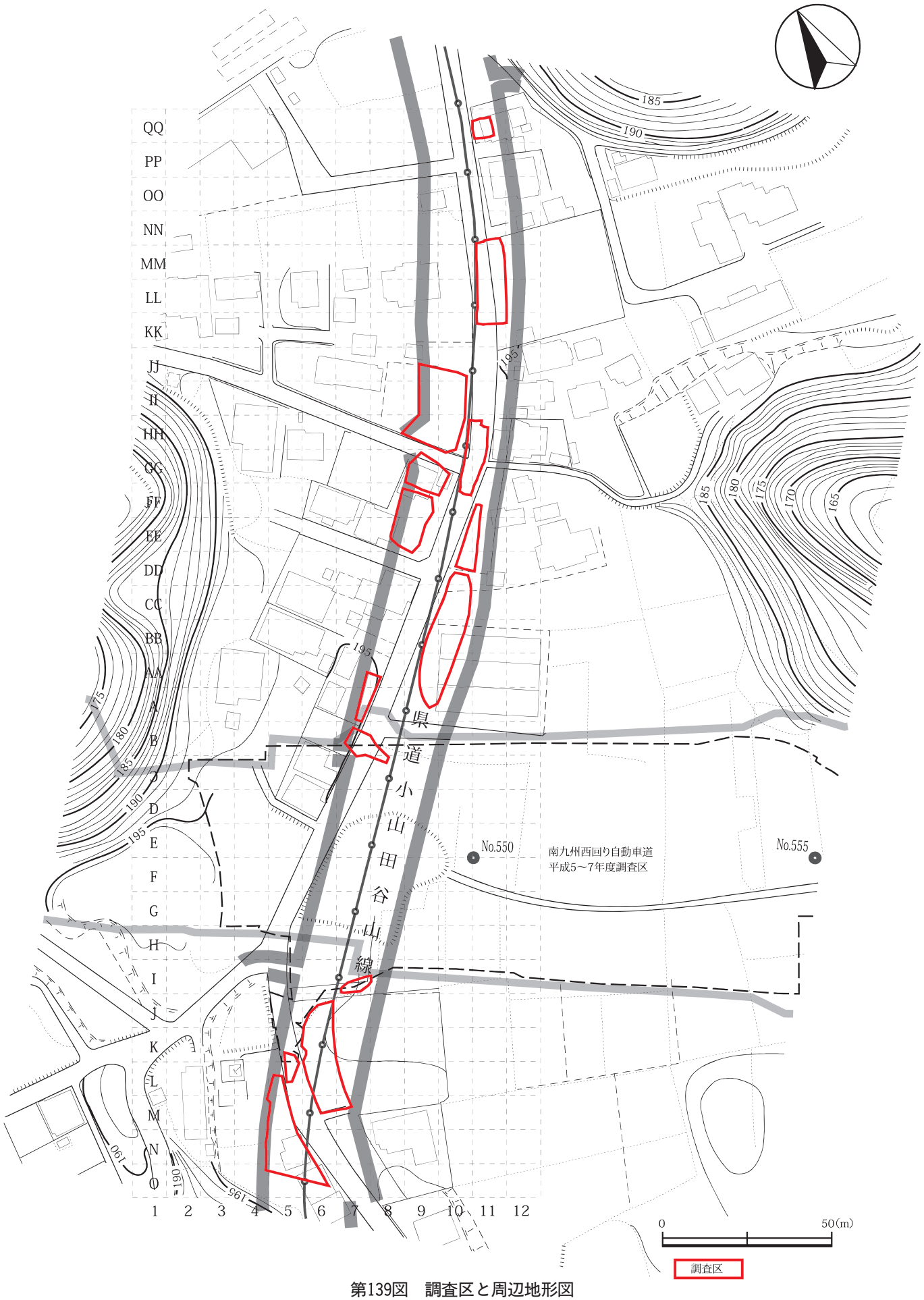
第４次調査は，平成11年１月から３月まで行われた。最南端部のＩ地区に位置する。Ｉ地区では県道小山田谷山線の設計変更後の工事図面のセンター杭No. 393とNo. 394を中心軸および基準点として10ｍの区割りを設定した。西側よりＡ～Ｄ，南側より１～４と名称された。なお，第４次以降が県道設計変更後の調査にあたる。

第５次調査は，平成12年２月に行われた。調査地点は国道の南側に隣接するIV地区である。調査範囲は高架橋と県道迂回路，およびIII地区の間に設定された。Ｖ地区と同じ理由から，グリッドの設定は行われていない。調査基準ポイントは，高架橋と側道の結合部から設定された。なお，調査基準ポイントの割出しもＶ地区と同様に行った。

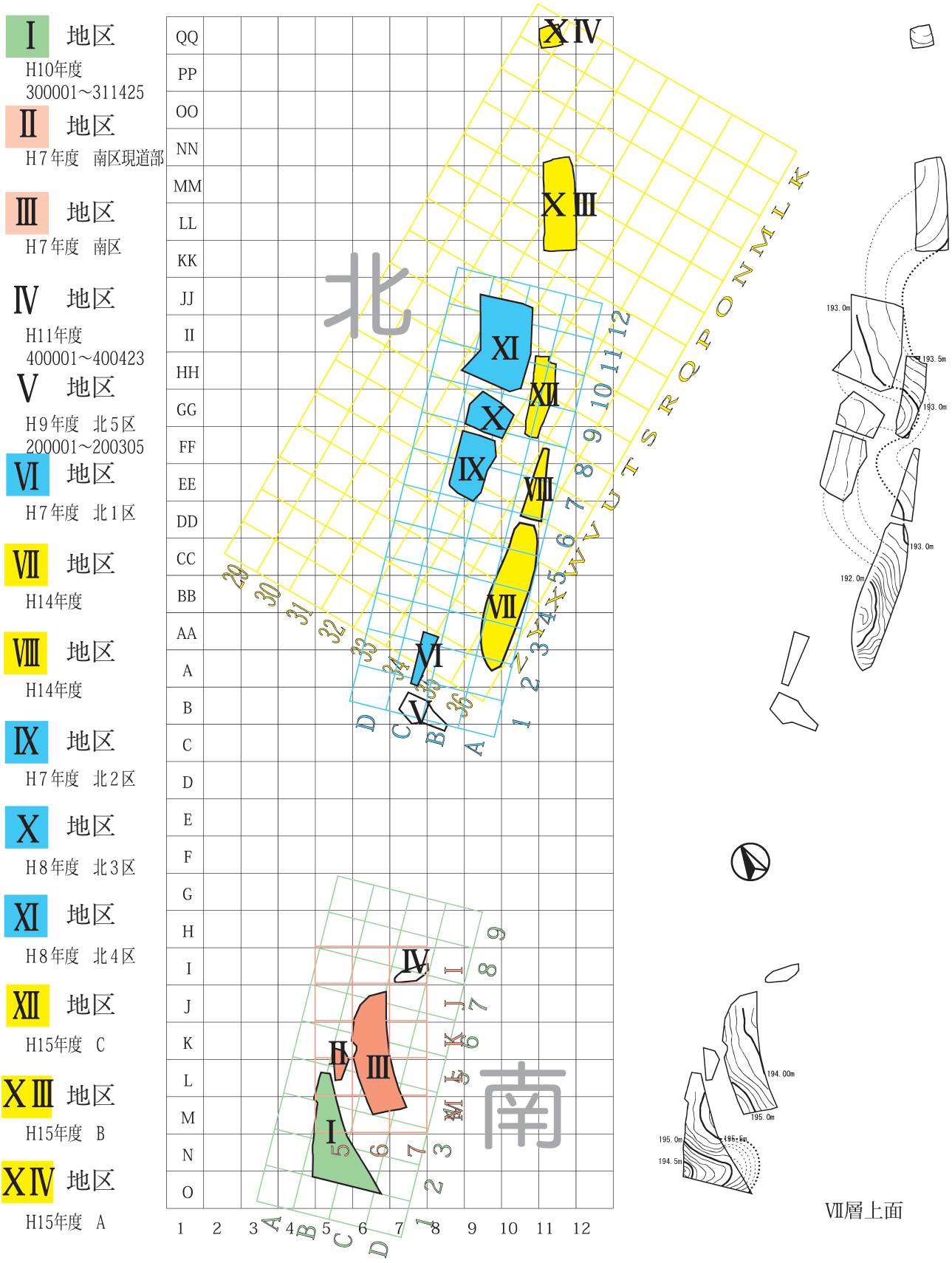
第６次調査は，平成15年１月から３月まで行われた。Ⅶ・Ⅷ地区では，県道小山田谷山線の設計変更後の工事図面のセンター杭No. 364とNo. 365を中心軸および基準点として10ｍの区割りを設定した。西側より１～36，北側よりＡ～Ｚと名称された。なお，No. 364とNo. 365は，同時期に調査された北側に隣接する柊堀遺跡内にある。

第７次調査は，平成15年５月から７月まで行われた。XI・XIII・XIV地区となり，遺跡の最北端にあたる。基準グリッドは第６次調査と同一である。また，調査時点ではＸII地区を「Ａ区」，ＸIII地区を「Ｂ区」，XIV地区を「Ｃ区」と呼称している。

なお，調査対象地は通学路で交通量が多く，かつ，掘



第139図　調査区と周辺地形図



平成7年度
100001～115896

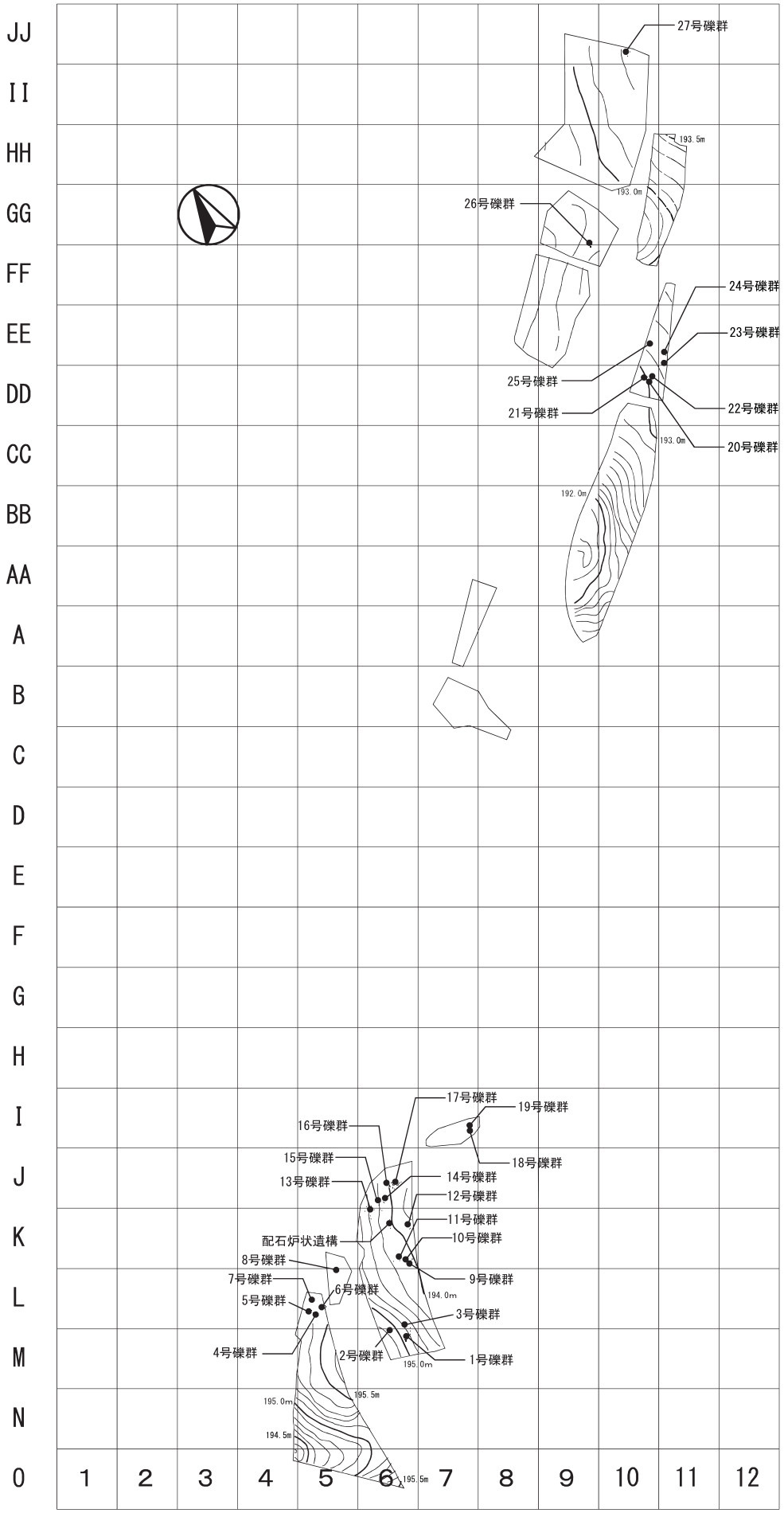
平成8年度
116001～117587

平成14年度
500001～501200

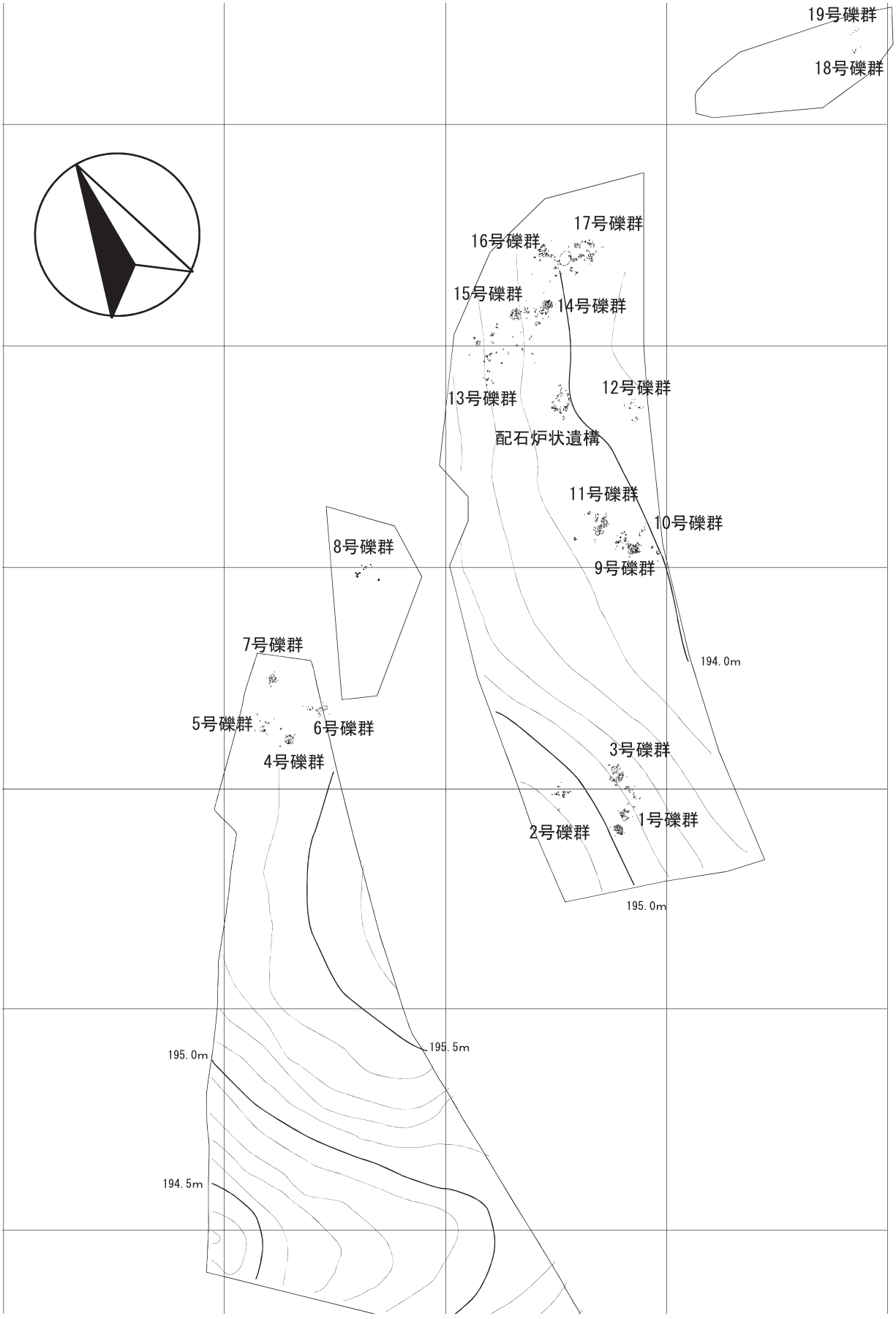
平成15年度
600001～600497

※遺物観察表の「出土区」とは、年度別調査グリッドに基づいたものである。

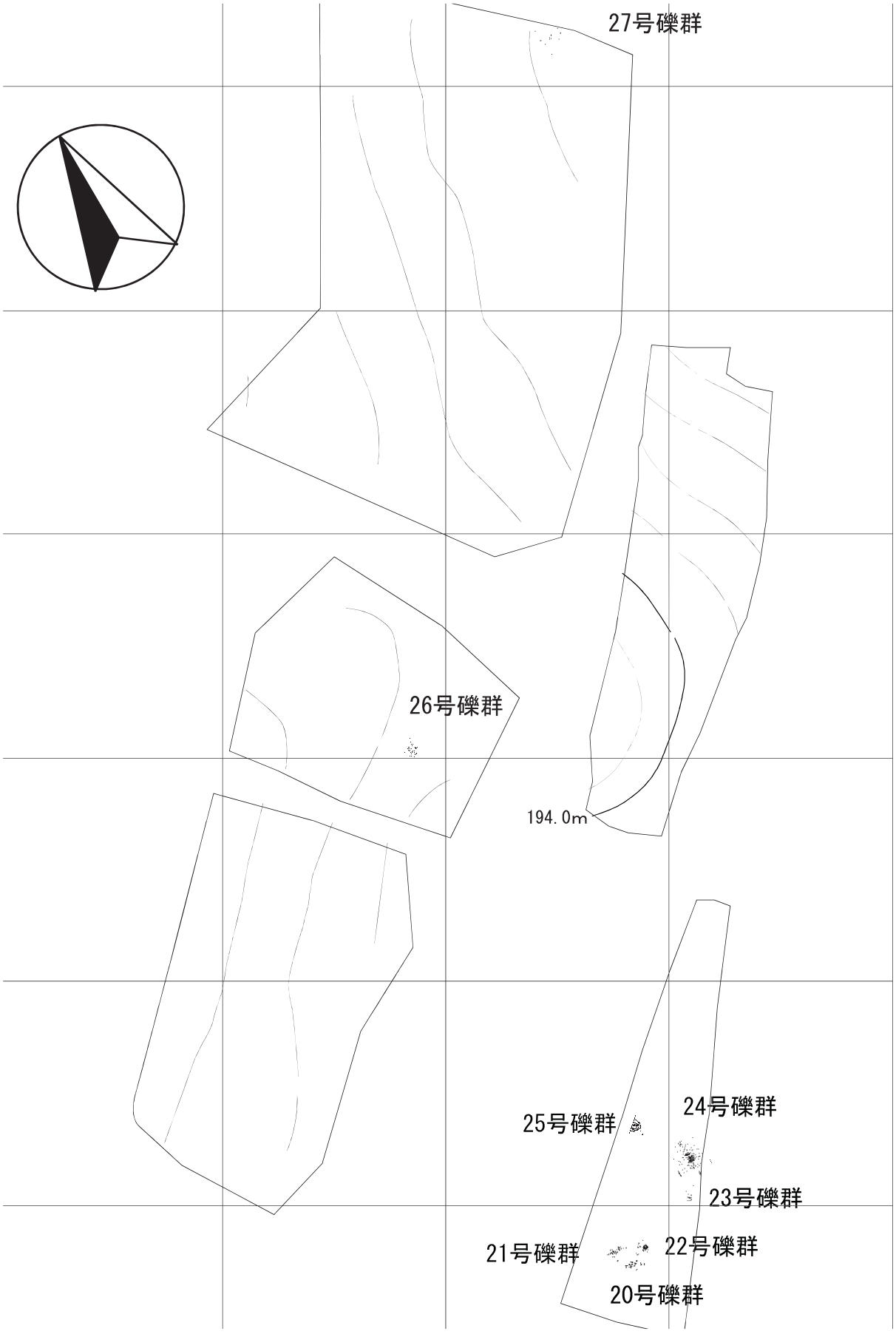
第140図　年度別調査グリッド



第141図　Ⅷ層遺構配置図（全体）



第142図　Ⅷ層遺構配置図（南区）



第143図　Ⅷ層遺構配置図（北区）

削深度が最大３ｍを超えることから，交通安全，及び発掘調査時の危険防止を目的として，県土木部が矢板及び夜間警告灯を設置し，調査を行った。

第２章　Ⅷ層の調査

第１節　概要

Ⅷ層を主体に，Ⅸ層上面で切出型ナイフ形石器を主体とするナイフ形石器文化期の遺物が出土している。また，石器群と共に27基の礫群と１基の配石炉状遺構を検出している。なお，Ⅸ層上面で遺構確認したものも見られるが，遺物分布や出土レベル等を検討した結果，Ⅷ層に帰属すると判断した。

27基の礫群の19基が南区に集中し，Ⅰ地区で４基，Ⅱ地区で１基，Ⅲ地区で12基，Ⅳ地区で２基を検出している。北区ではⅧ地区から６基，Ⅹ・Ⅺ地区から１基ずつ検出している。また，南区のＫ－６区で配石炉状遺構１基を検出している。

なお，これらの礫群遺構等の認定時期については，遺構検出面を基準に判断しているが，掘り込み位置の確認等確定的な認定作業で不鮮明な部分も残されているため，層位別の区分で取り扱っている。

第２節　遺構（南区）

１　礫群

本遺跡で検出した礫群の形態については，上位のⅦ層も含め固有の形態が見られない。そこで，礫数の多少に関わらず一定のエリアを確保すると認識できたものを１礫群として扱い，形態については類型化を行った。類型化については以下に掲載した通りである。

Ⅰ類礫群　人為的掘り込み遺構を伴う礫群で，礫の詰まり方でさらにＡ，Ｂ，Ｃに細分した。
　ⅠＡ類　掘り込み遺構を伴い，礫がしっかり詰まっている。
　ⅠＢ類　掘り込み遺構を伴い，礫が少ない。
　ⅠＣ類　掘り込み遺構を伴い，礫は０～数個。
Ⅱ類礫群　掘り込み遺構を検出できないが，礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。
Ⅲ類礫群　礫の集中もない礫群で，礫の密粗でさらにＡ，Ｂに細分した。
　ⅢＡ類　礫群の中心が想定できる。
　ⅢＢ類　散礫状態。

１号礫群

１号礫群はＭ－６区で検出した。199㎝×57㎝の範囲に45個の礫が確認された。構成礫の１点は鉄石英製の石核で，残りの構成礫は全て安山岩で，ほとんどの礫が被熱し赤化している。45㎝×37㎝，深さ約16㎝の掘り込み遺構に16個の礫を集積し，遺構外の北側約20㎝に18個の礫，さらに約60㎝北側に若干拡散した11個の礫がある。掘り込み遺構内には炭化物が多数残され，遺構外の礫の間にも炭化物が点在して認められる。なお，構成礫の石核は拳大で，底面の一部に礫皮面と先行した剥離面が見られ，打面と正面作業面が稜線に沿って交互に剥片剥離を行った可能性がある。（ⅠＡ類）

２号礫群

２号礫群はＭ－６区で検出した。117㎝×61㎝の範囲に10個の礫を確認し，全て10㎝前後の安山岩で構成し，ほとんどの礫が被熱している。なお，掘り込み遺構，炭化物は確認していない。（ⅢＡ類）

３号礫群

３号礫群はＭ・Ｌ－６区のⅦ層で検出した。89㎝×77㎝の範囲に24個の礫を確認し，赤化や加熱とみられる亀裂の入る礫が含まれる。なお，径３㎜～５㎜の肉眼で確認できる炭化物が点在するが，掘り込み遺構は確認していない。構成礫の形状からは，礫が集積していた可能性を示している。（ⅢＡ類）

４号礫群

４号礫群はＬ－５区で検出した。42㎝×36㎝，深さ約14㎝の掘り込み内に40㎝×34㎝の範囲で12個の礫を集積し，使用石材は全て安山岩で，被熱痕跡の認められる礫で構成する。（ⅠＡ類）

５号礫群

５号礫群はＬ－５区で検出した。56㎝×52㎝の範囲に12個の礫を確認した。全て安山岩であり，小礫が多い。掘り込み遺構や炭化物は確認していない。（Ⅱ類）

６号礫群

６号礫群はＬ－５区で検出し，93㎝×48㎝の範囲に10個の礫を確認した。全て安山岩を使用し，掘り込み遺構や炭化物は確認していない。なお，使用した礫は，５号礫群の構成礫より総じて大きめである。（Ⅱ類）

７号礫群

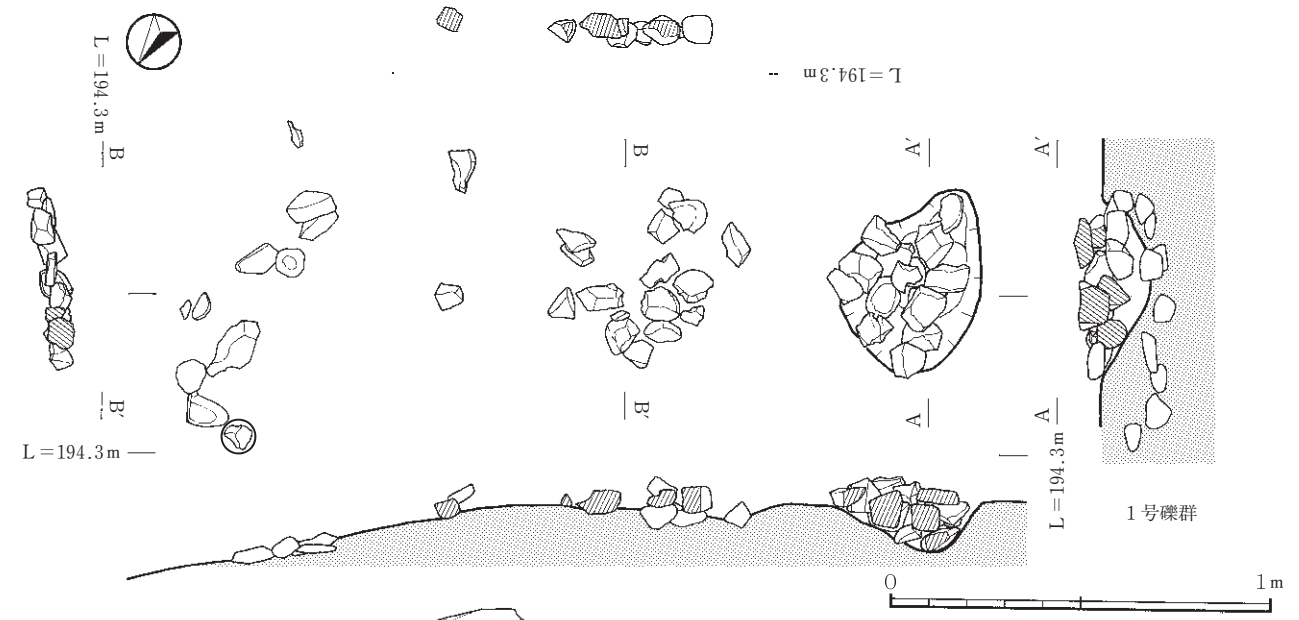
７号礫群はＬ－５区で検出し，49㎝×35㎝の範囲に16個の礫を確認した。掘り込み遺構は確認されず，最下面はⅨ層上面である。拳大から小児頭大の安山岩の角礫で構成し，残存状況は非常にもろい状態で検出している。使用による被熱に起因するか，その後の風化によるものかは判然としない。なお，集積状況から，掘り込み遺構を伴った可能性は高い。（Ⅱ類）

８号礫群

８号礫群はＬ－５区で検出し，100㎝×72㎝の範囲に８個の礫を確認した。10㎝大の礫が4個集中し，やや離れて北側に拡散した礫が４個を伴う。（ⅢＡ類）

９号礫群

９号礫群はＫ－６区で検出し，159㎝×132㎝の範囲に拡散した２点と29点の集積礫で構成する。使用石材は全て安山岩で，被熱の痕跡が明瞭である。なお，破砕礫の



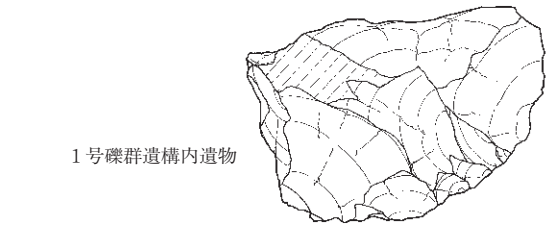


表48　Ⅷ層礫群観察表（1）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
1	144	ⅠA	45	199	57	21298	473.3	95.6	H7-2～4

表49　1号礫群　遺物観察表

報告書No.	挿図No.	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）
1	144	石核	鉄石英	53	74	54	220

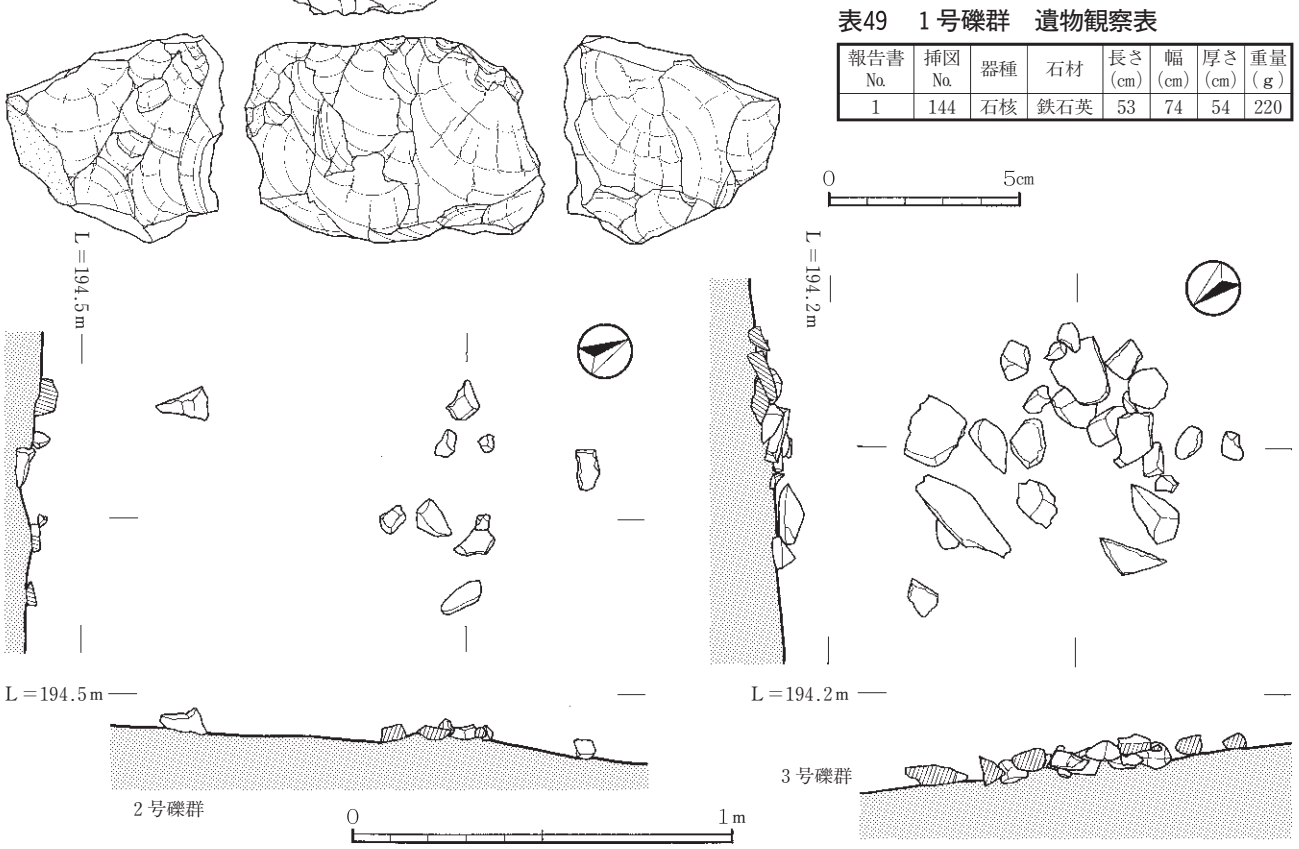


表50　Ⅷ層礫群観察表（2）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
2	144	ⅢA	10	117	61	2495	249.5	90	H7-1

表51　Ⅷ層礫群観察表（3）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
3	144	ⅢA	24	89	77	15735	655.62	100	H7-5

第144図　南区Ⅷ層遺構及び遺構内出土遺物実測図

礫接合の検証を行った結果，10号礫群中の礫と接合するもの１点，11号礫群中の礫と接合するもの３点を確認している。（ⅢＡ類）

10号礫群

10号礫群はＫ－６区で検出し，63㎝×40㎝の範囲に７点の礫を確認した。使用石材は全て安山岩で，構成礫のほとんどが被熱している。接合検証の結果，９号礫群中の礫と接合する１点を確認している。（ⅢＢ類）

11号礫群

11号礫群はＫ－６区で検出し，153㎝×118㎝の範囲に20点の礫を確認した。扁平な形状の石材は全て安山岩で，被熱痕を確認できる。９号礫群と接合する３点の存在を

第145図　南区Ⅷ層遺構実測図（１）

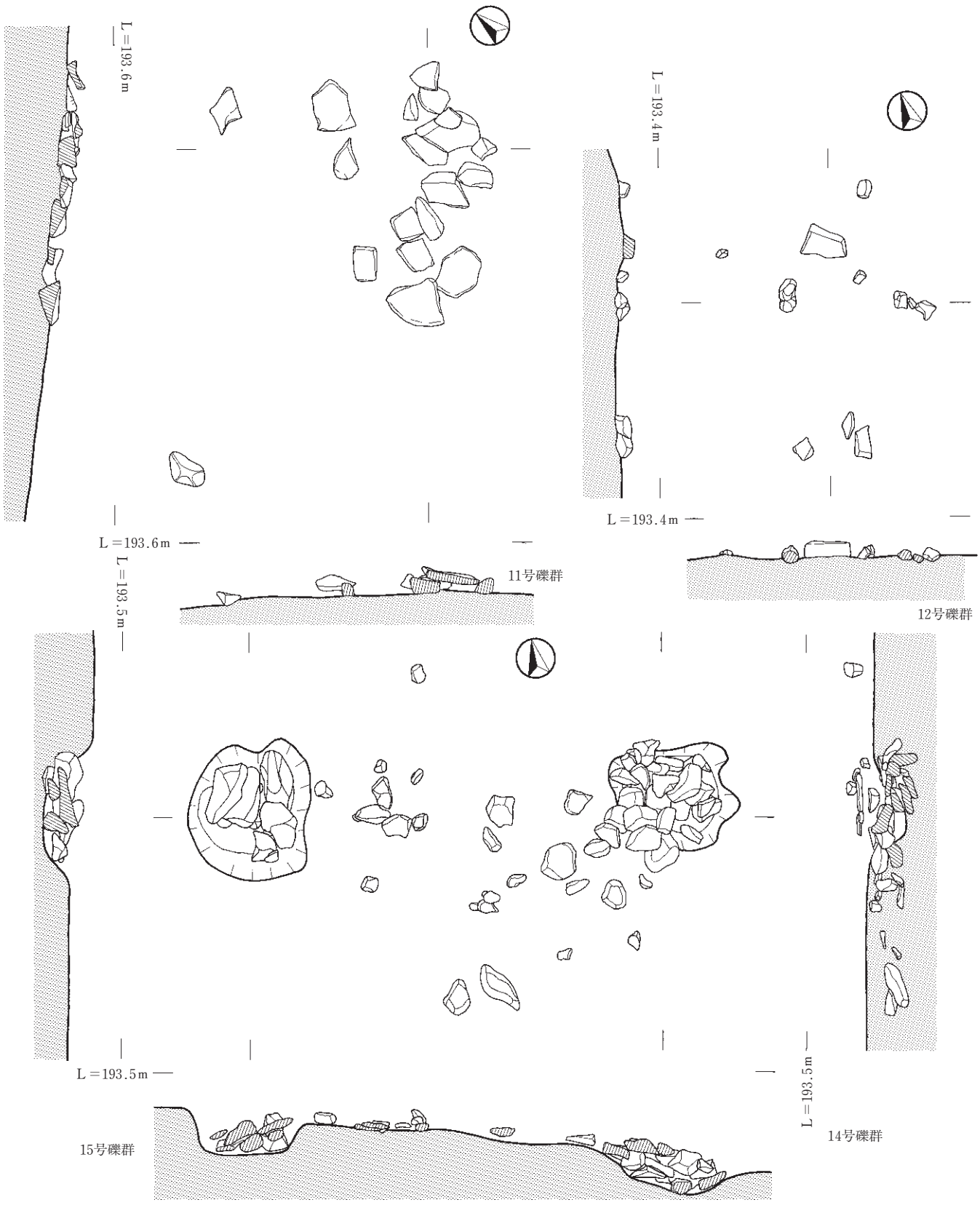


表52　Ⅷ層礫群観察表（４）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径(cm)	短径(cm)	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
4	145	ⅠA	12	40	34	－	－	－	H10-1
5	145	Ⅱ	12	56	52	－	－	－	H10-2
6	145	Ⅱ	10	93	48	－	－	－	H10-4
7	145	Ⅱ	15	49	35	－	－	－	H10-3

第146図　南区Ⅷ層遺構実測図（２）

確認している。（ⅢＡ類）

12号礫群

12号礫群はＫ－６区で検出した。100㎝×80㎝の範囲に11個の礫を確認した。使用石材は頁岩１点，他が安山岩で全てに被熱の痕跡が認められる。なお，国土交通省で調査した隣接する仁田尾遺跡（国交省仁田尾遺跡）Ⅰ－９区の礫群と接合を確認した１例がある。（ⅢＢ類）

13号礫群

13号礫群はＫ－６区で検出し，277㎝×270㎝の範囲に38点が拡散している。使用石材は安山岩で，被熱痕跡が見られる。16号礫群と接合する例が２点，また，国交省仁田尾遺跡Ⅰ－９区の礫群との接合例１点が確認される。（ⅢＢ類）

14号礫群

表53　Ⅷ層礫群観察表（５）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径(cm)	短径(cm)	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率(%)	
8	145	ⅢＡ	7	100	72	－	－	－	H7-15
9	145	ⅢＡ	31	159	132	8877	306.1	100	H7-6
10	145	ⅢＢ	7	63	40	3920	653.33	66.7	H7-8
11	146	ⅢＡ	20	153	118	14320	753.68	100	H7-7

表54　Ⅷ層礫群観察表（６）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径(cm)	短径(cm)	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率(%)	
12	146	ⅢＢ	11	100	80	3205	320.5	90	H7-9
13	147	ⅢＢ	38	277	270	11105	336.51	96.96	H7-10
14	146	ⅠＡ	44	110	99	20270	482.61	78.57	H7-12
15	146	ⅠＡ	19	80	40	5310	354	100	H7-11

第147図　南区Ⅷ層遺構実測図（３）

14号礫群はＪ－６区で検出し，110㎝×99㎝の範囲に掘り込み遺構を伴って検出される。掘り込み遺構は径46㎝×39㎝，深さ15㎝で，被熱痕跡のある27点の礫が集積される。遺構外に17点の礫が散在し，安山岩と凝灰岩で構成される。（ＩＡ類）

15号礫群

15号礫群はＪ－６区で検出し，80㎝×40㎝の範囲に掘り込み遺構を伴って検出される。掘り込み遺構は50㎝×44㎝，深さ16㎝で，９点の礫を含んでいる。14と同様遺構外に10点の礫を伴っている。構成礫は安山岩と凝灰岩で，全て被熱している。（ＩＡ類）

16号礫群

16号礫群はＪ－６区で検出し，掘り込み遺構を伴い，178㎝×154㎝の範囲で検出した。総数40点の礫で構成され，安山岩と凝灰岩・砂岩が使用される。掘り込み遺構は57㎝×50㎝，深さ13㎝が計測され，遺構内に13点の礫が残される。また，遺構の50㎝東側に67㎝×47㎝の楕円形状に炭化物が確認され，炭化物エリアの外に礫の拡散が見られる。なお，礫の接合検証から13号礫群と接合する１例を確認している。なお，礫は被熱の痕跡が著しい。（ＩＡ類）

17号礫群

17号礫群はＪ－６区で検出した。131㎝×107㎝の範囲に28点の礫を確認し，安山岩と砂岩・頁岩で構成される。礫群は環状に検出され，15㎝～20㎝大の礫と８㎝程度の２種類の礫で構成され，被熱痕が認められる。（Ⅱ類）

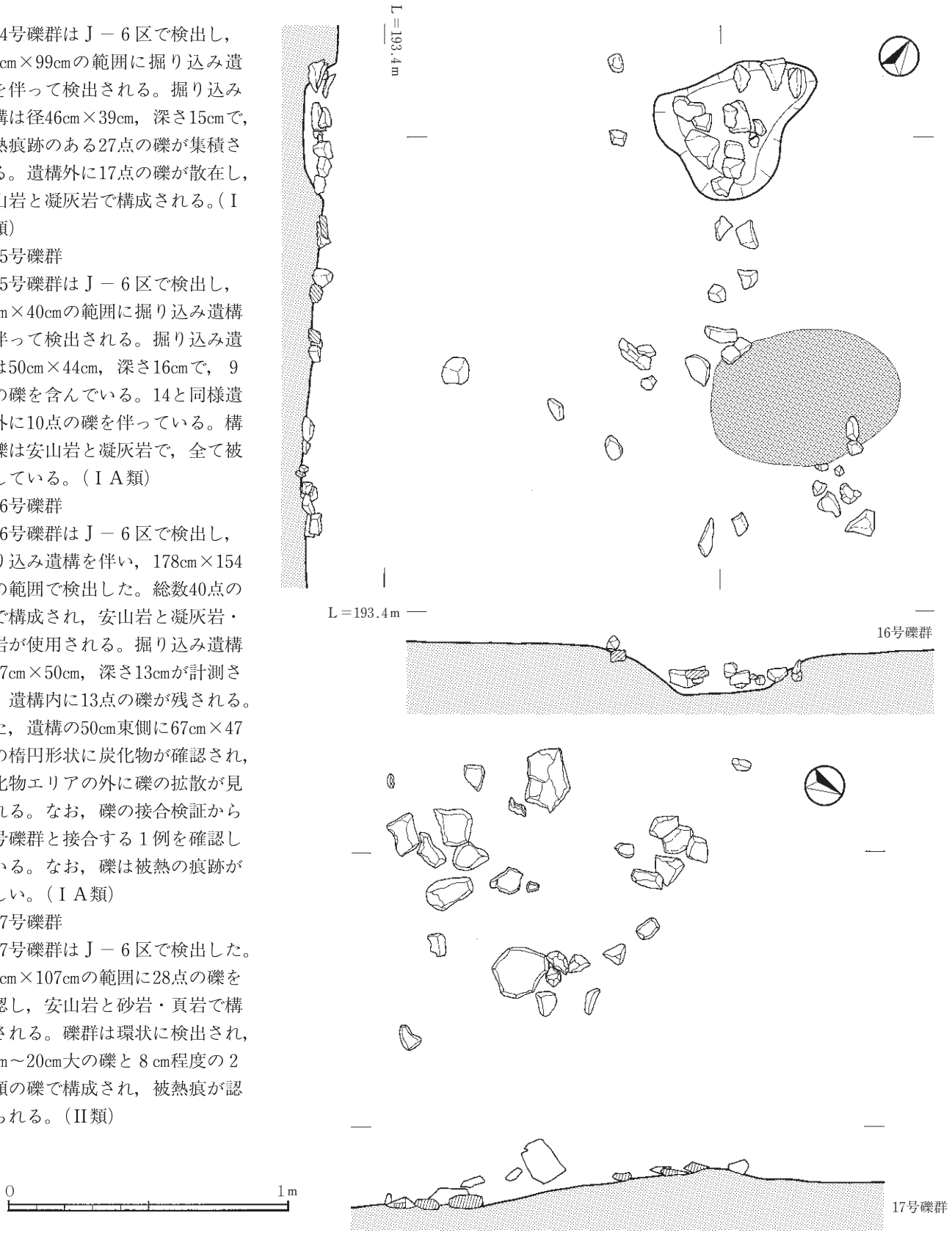


表55　Ⅷ層礫群観察表（７）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
16	148	ＩＡ	40	178	154	8945	229.35	97.43	H7-13

表56　Ⅷ層礫群観察表（８）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
17	148	Ⅱ	28	131	107	14075	521.29	96.42	H7-14

第148図　南区Ⅷ層遺構実測図（４）

18号礫群

18号礫群はⅠ－７区で検出し，86㎝×48㎝の範囲に11点の礫が散在する。（ⅢＢ類）

19号礫群

19号礫群はⅠ－７区で検出し，43㎝×16㎝の範囲に５点の礫を確認した。（ⅢＡ類）

２　配石炉状遺構

Ｋ－６区で検出した。148㎝×78㎝の範囲に44点の礫を確認し，１点の砂岩以外は安山岩が使用され，被熱による赤化が著しい。径10～15㎝程度の比較的扁平な礫を多く用い，楕円形に配している。礫の残りは西側が整然と残され，中央部に炭化物が多く認められることから配石炉状遺構と判断している。なお，掘り込み遺構等の構築は確認できていない。

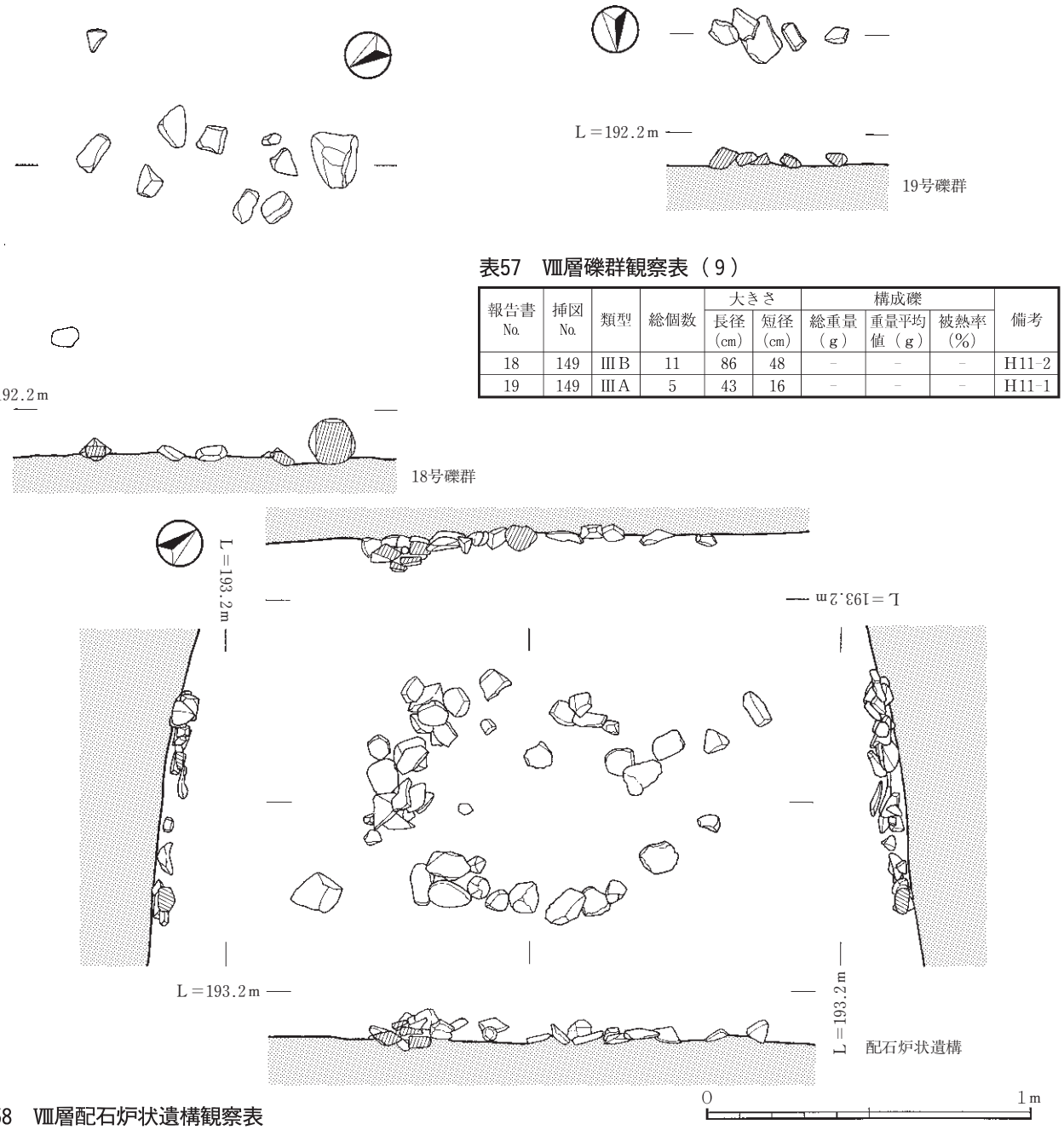


表57　Ⅷ層礫群観察表（９）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
18	149	ⅢＢ	11	86	48	－	－	－	H11-2
19	149	ⅢＡ	5	43	16	－	－	－	H11-1

表58　Ⅷ層配石炉状遺構観察表

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
配石炉状遺構	149	配石炉	44	148	78	13955	324.53	100	配石遺構

第149図　南区Ⅷ層遺構実測図（５）

第３節　遺構（北区）

20号礫群

20号礫群はDD－10区のIX層上面で検出し，75㎝×56㎝の範囲に散在した12点の礫で構成する。集積状況が拡散した可能性は想定できる。（ⅢＢ類）

21号礫群

21号礫群はDD－10区のIX層上面で検出し，68㎝×59㎝の範囲に18点の礫が集中し，拡散した状況が読みとれる。（Ⅱ類）

22号礫群

22号礫群はDD－10区のIX層上面で検出し，浅い掘り込み遺構（27㎝×24㎝，深さ５㎝）を中心に17点の礫が集積する。（ＩＣ類）

23号礫群

23号礫群はEE－11区のIX層上面で検出し，掘り込み遺構（40㎝×32㎝，深さ15㎝）を中心に，28点の礫が集積する。（ＩＡ類）

24号礫群

24号礫群はEE－11区のIX層上面で検出した，44㎝×26㎝の範囲に７点の礫を確認した。礫群を中心に138㎝×108㎝の範囲で，炭化物の分布が確認される。なお，礫群内の２点からは敲打痕が確認され，転用されたと判断できる。（ⅢＡ類）

25号礫群

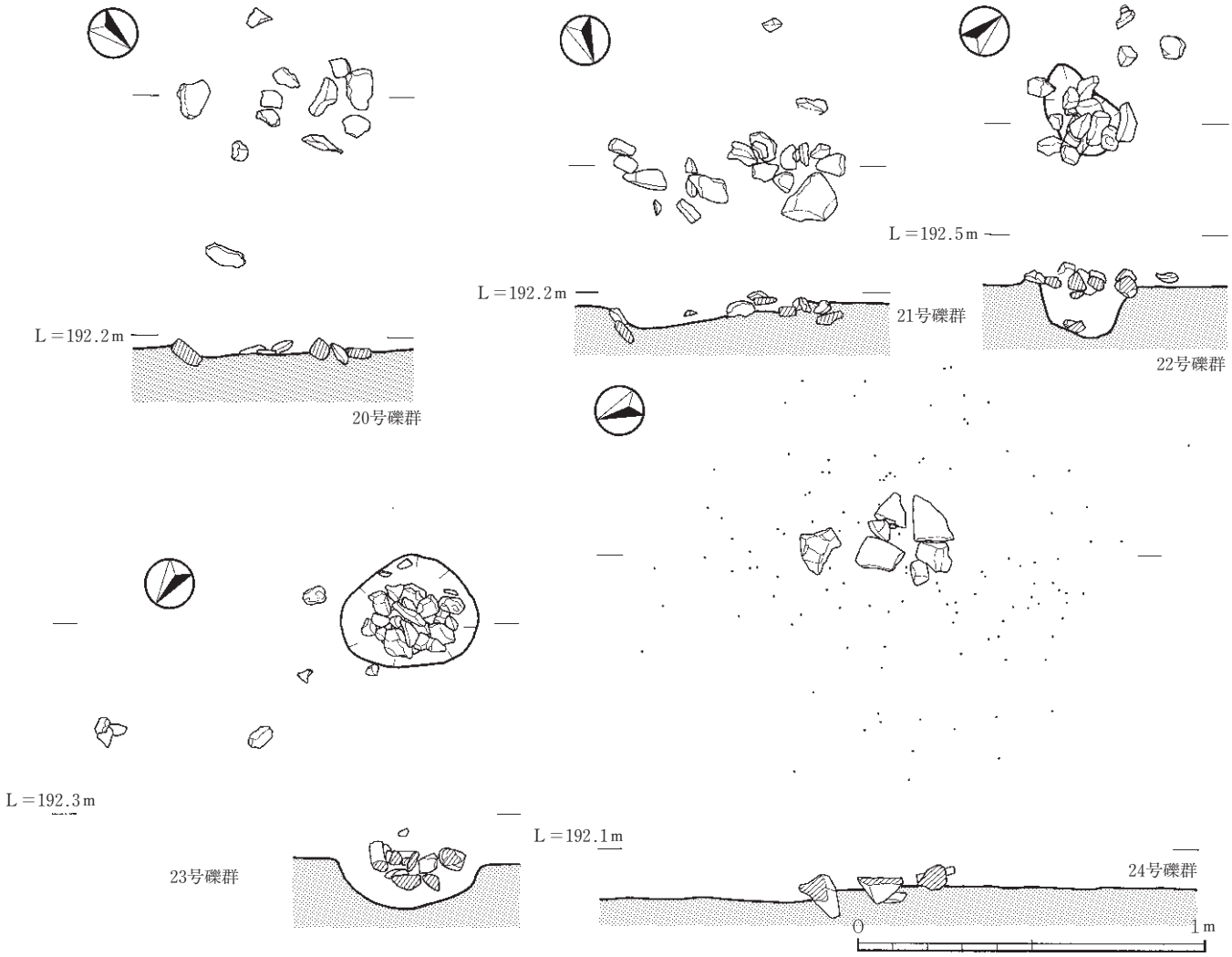
25号礫群はEE－10区のIX層上面で検出した。調査区境での検出のため全形は明らかではないが，径50㎝，深さ20㎝程の掘り込み遺構が認められ，礫は遺構中から検出している。（ＩＣ類）

26号礫群

26号礫群はFF・GG－９区で検出し，46㎝×43㎝の範囲に７個の礫が確認された。12～25㎝の比較的大型の礫で構成されているが，掘り込み遺構や炭化物は確認されていない。（ⅢＢ類）

27号礫群

27号礫群はJJ－10区で検出した。197㎝×122㎝の範囲に12個の礫が確認され，６～９㎝前後の礫を中心に散在した状態である。（ⅢＡ類）



第150図　北区Ⅷ層遺構実測図（１）

表59　Ⅷ層礫群観察表（10）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
20	150	ⅢB	12	75	56	1815	151.25	100	H14-5
21	150	Ⅱ	18	68	59	3285	182.5	100	H14-6
22	150	ⅠC	17	46	45	2760	162.35	88.23	H14-4
23	150	ⅠA	28	62	54	4310	153.92	100	H14-3

表60　Ⅷ層礫群観察表（11）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
24	150	ⅢA	7	44	26	3550	507.14	100	H14-1
25	151	ⅠC	3	30	29	1310	436.67	100	H14-2
26	151	ⅢB	7	46	43	10830	1547.14	100	H8-2
27	151	ⅢA	12	197	122	-	-	-	H8-1

第151図　北区Ⅷ層遺構実測図（2）

第４節　遺構間礫接合（南区）

１　礫接合状況

Ⅷ層で検出された礫群を構成する礫の接合作業を行った結果，遺構内接合が15点，遺構間接合が５点確認できた。このうち遺構間接合できた５点を資料とし，遺構の構成について検討した。なお，遺構間の接合状況は第152・153図に示した。

遺構別に見るとＫ－６区の９号～11号間の接合が４点，Ｋ・Ｊ－６区の13号・16号間の接合が１点である。

２　９号～11号礫群間接合（４点）

①　９号・11号礫群間接合（３点）

Ｋ－６区の９号礫群と11号礫群間で３点が接合した。遺構間は２ｍ，石材は３点とも安山岩で，被熱の痕跡が認められる。３点とも各礫群から１点ずつが接合しているが，11号の礫の方が大きい傾向である。

②　９号・10号礫群間接合（１点）

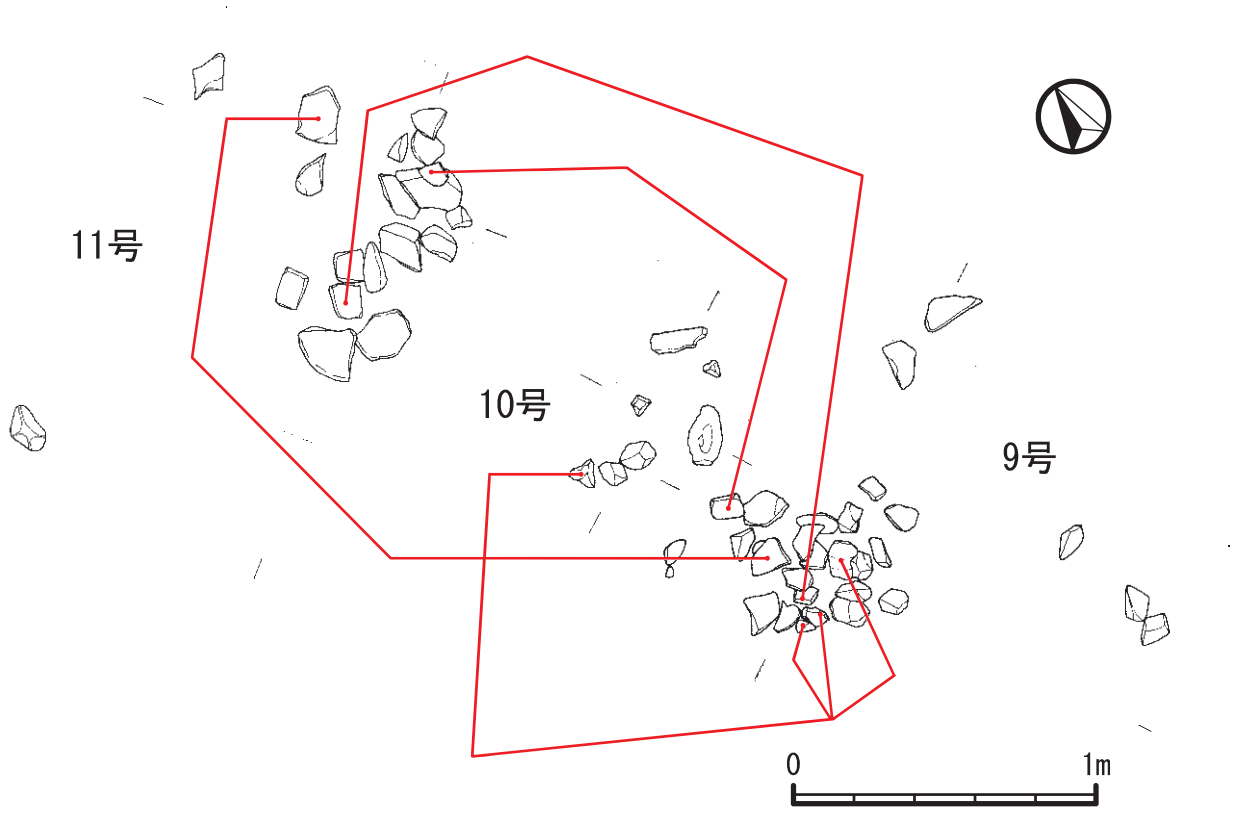
Ｋ－６区の９号礫群と10号礫群間で１点が接合し，遺構間は80㎝である。石材は安山岩で被熱している。礫は10号礫群からのものが１点，９号礫群からのものが３点で，破砕順序は10号礫群検出の礫と９号礫群の礫が破砕した後，９号礫群の３点が破砕したと思われる。９号礫群検出の礫が３点とも100～130ｇ前後であるのに対し，10号礫群検出の礫は490ｇと大きい。

これら４点の接合資料からは，10号もしくは11号から検出した礫が９号から検出した礫よりも大きい傾向であることが明らかとなった。しかし，いずれの礫群も掘り込みが確認されず，10号・11号に至っては礫群の中に礫の集中も見られない。遺構間が２ｍ以内であることも併せて考えると遺構の再構築であるのか，使用した礫の飛散状態であるのかはっきりしない。

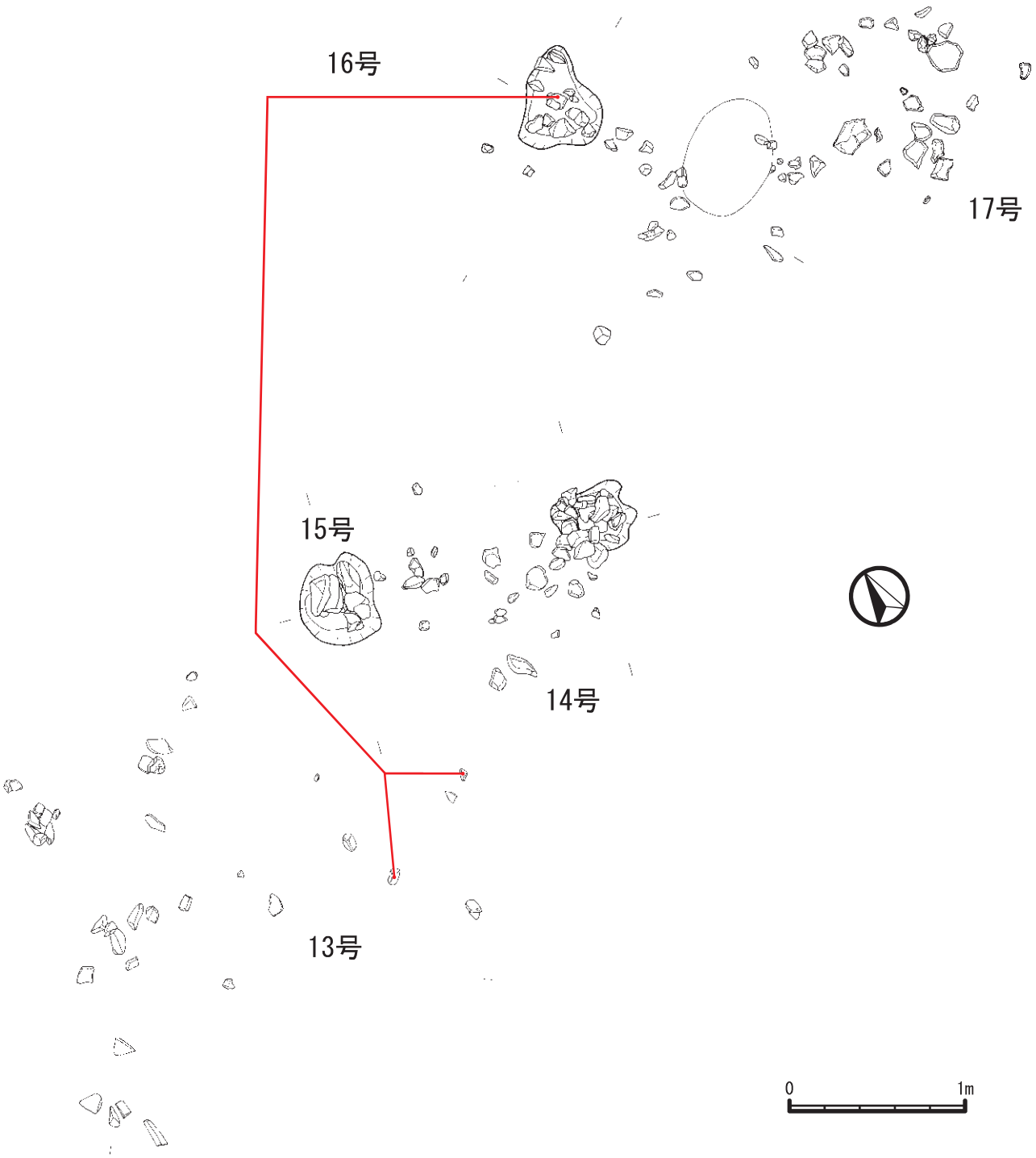
３　13号・16号礫群間接合（１点）

Ｋ・Ｊ－６区の13号礫群とＪ－６区の16号礫群間で１点が接合した。遺構間は４ｍである。石材は安山岩で非常にもろい。礫は13号礫群からのものが２点，16号礫群からのものが１点で，破砕順序は礫の風化が激しく不明である。13号礫群からの礫はいずれも礫群周辺部に飛散した状態で検出されているが，16号礫群からの礫は13号礫群からの礫と比べて大きく，掘り込みの中心下部から検出されている。

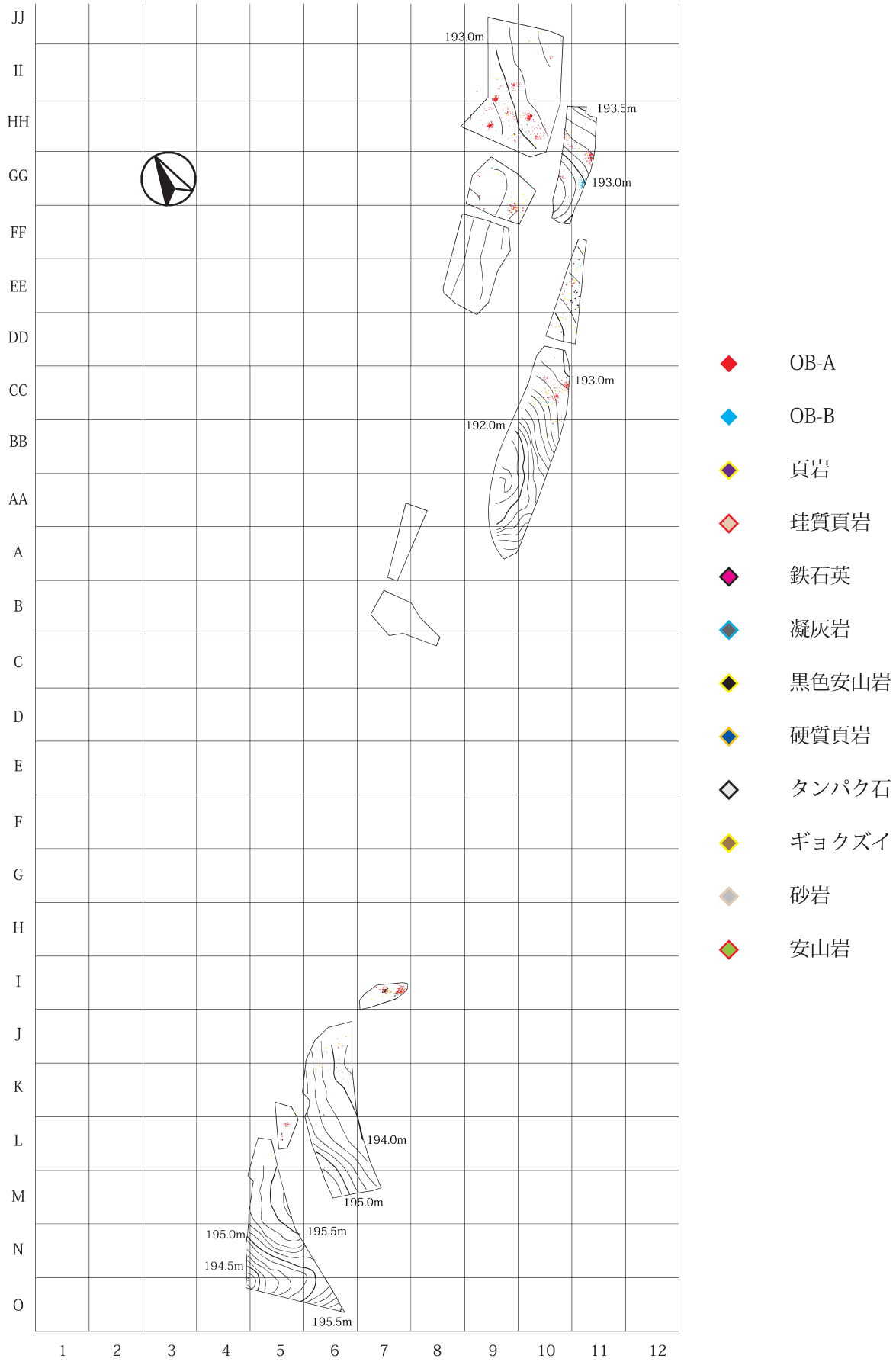
この接合資料からは，破砕した中で最も大きな礫が16号礫群の掘り込み遺構内の構成礫として検出されていることが明らかとなった。このことから周囲に散在する礫を利用して16号礫群が構築された可能性が伺える。しかし，礫群の再構築についてはあまりにも資料が少なすぎるので検討できなかった。なお，12号礫群と15号礫群から検出した礫が１点ずつ国の仁田尾遺跡から検出された礫群の礫と接合しているので，礫群の再構築についてはこれから明らかになる可能性が期待できる。



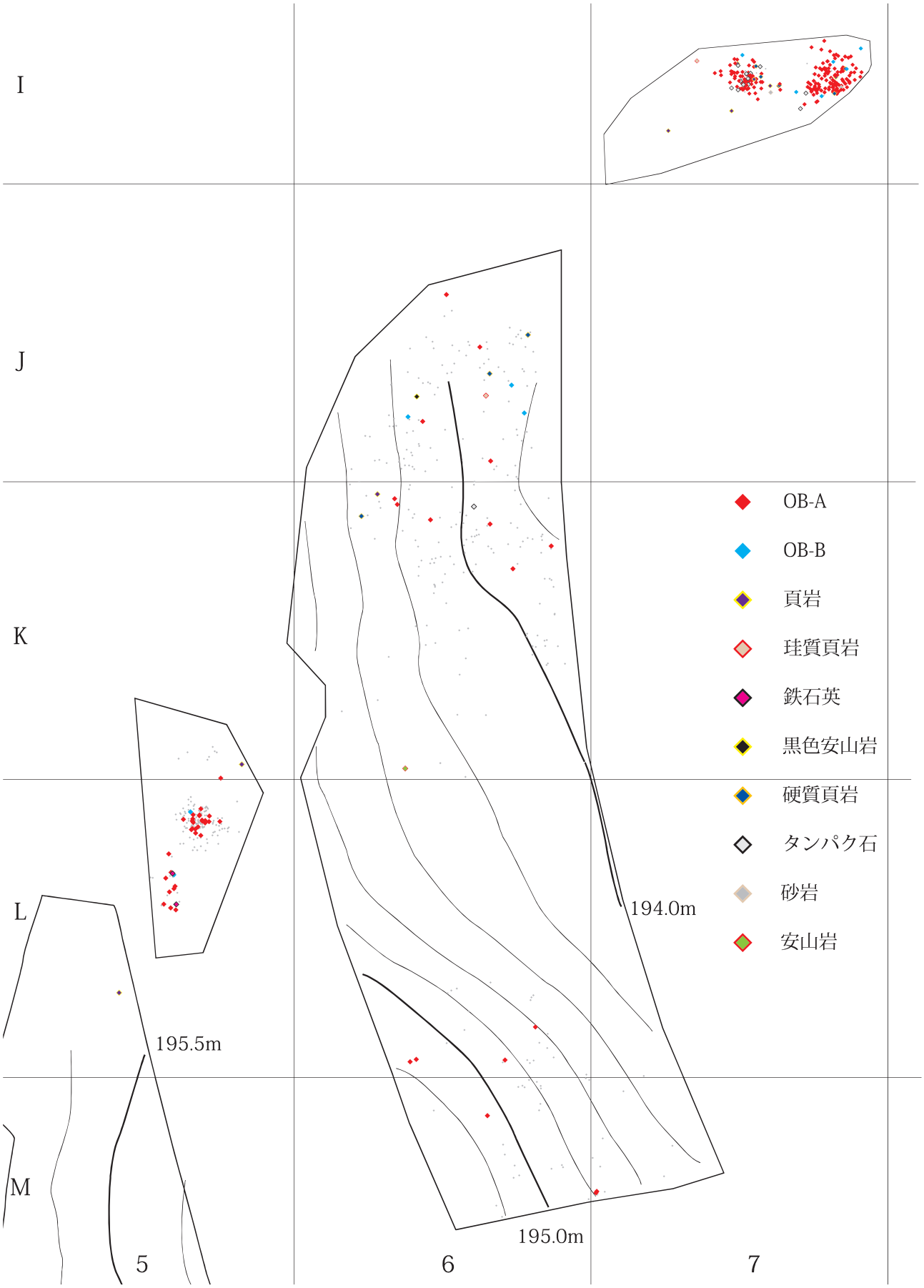
第152図　構成礫検出状況図（１）



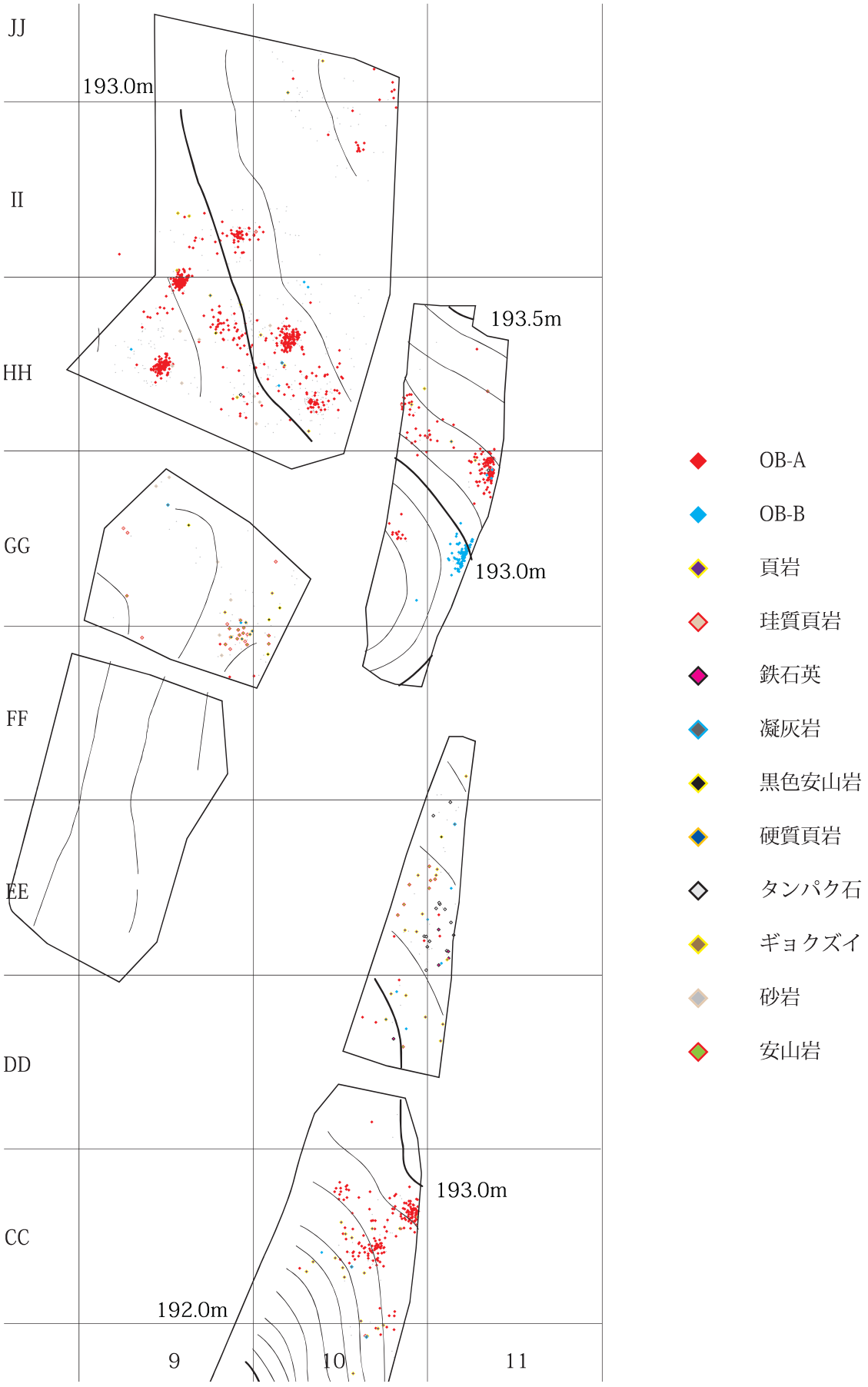
第153図　構成礫検出状況図（２）



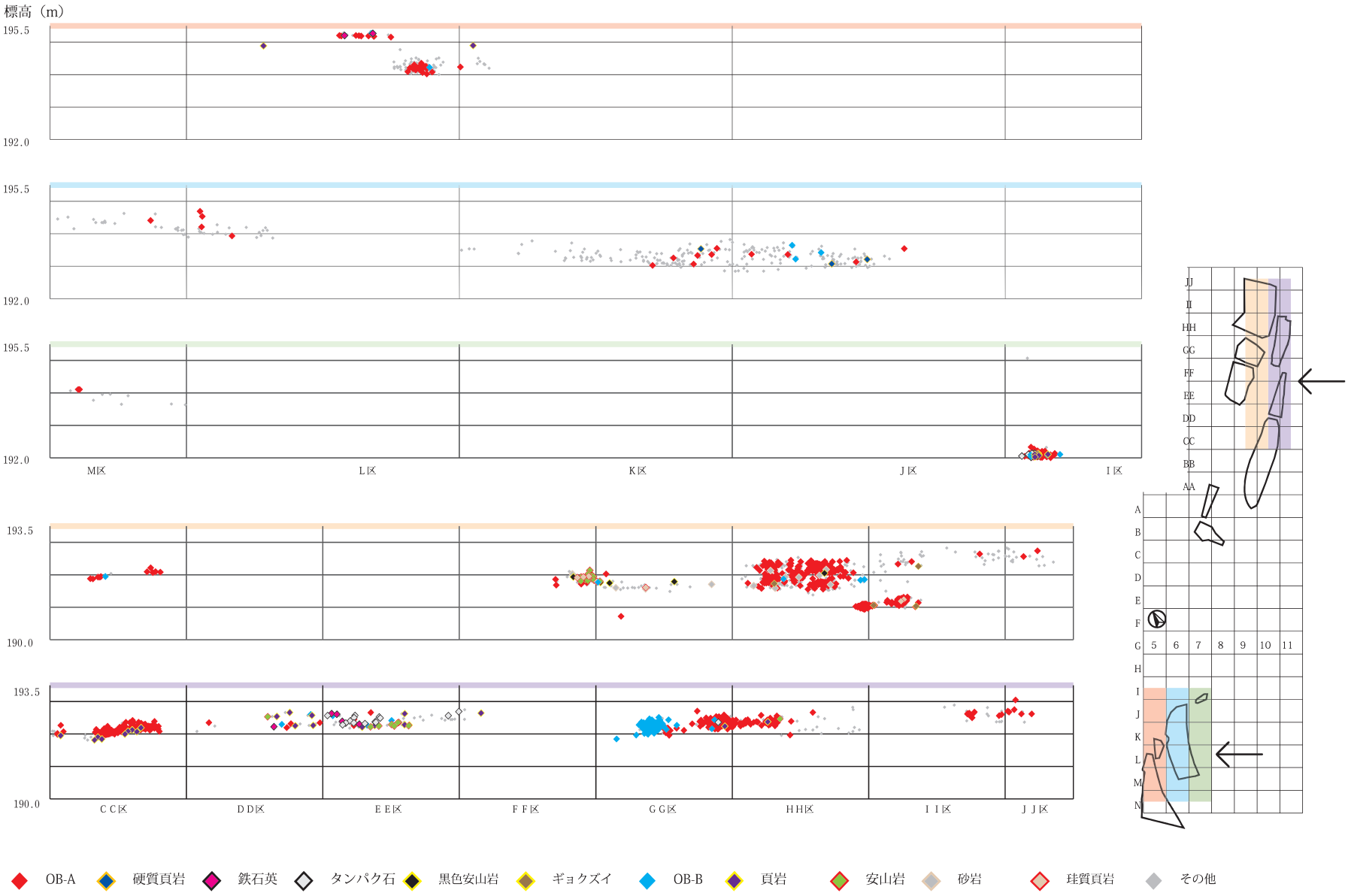
第154図　Ⅷ層石器出土状況図



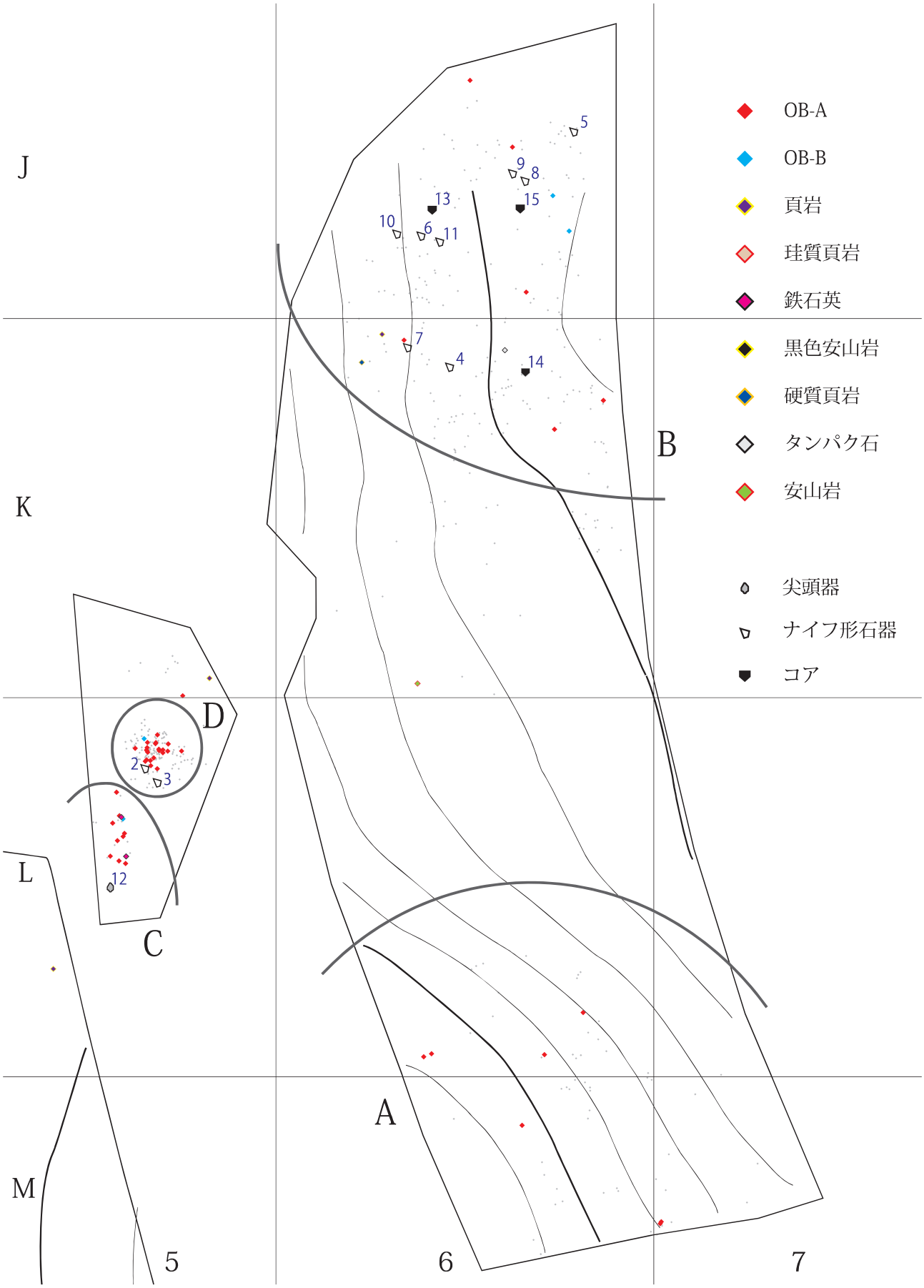
第155図　南区Ⅷ層石器出土状況図



第156図　北区Ⅷ層石器出土状況図



第157図　Ⅷ層石器出土状況図（垂直分布）



第158図　Ⅷ層石器出土状況図（A～D）

第５節　石器

１　概要

Ⅷ層はⅤ，Ⅵ，Ⅸ，ⅩⅢ，ⅩⅣ各地区を除いた地区で出土している。遺物量は1,539点とあまり多くないが，ナイフ形石器を中心とするまとまった石器群を検出した。

２　遺構

ブロックはＡ～Ｘまでの24基検出された。ブロックの認定にあたっては，視覚的なまとまりを基にした。各々の出土量は多くなく，中には定型石器を含まないブロックも多くみられる。以下に各ブロックの概要を述べたい。

なお，ＸＩ地区のＱ～Ｘブロックについては，いずれもOB-Aを中心とするブロックで時期的にまとめられる可能性が高いと判断し，１つのユニットとしてまとめて取り扱った。

Aブロック

遺物総数８点で構成されるブロックである。いずれもOB-Aで，定型石器を含まない。

Bブロック

遺物総数24点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが11点，OB-Bが３点，硬質頁岩が３点である。硬質頁岩，OB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックと位置づけられる。

Cブロック

遺物総数14点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが９点，鉄石英２点であり，シルト質頁岩の剥片尖頭器は搬入品である。

Dブロック

遺物総数31点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが24点であり，ナイフ形石器２点も含まれることから，OB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックと位置づけられる。

Eブロック

遺物総数52点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが38点，タンパク石５点，頁岩４点である。OB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックと位置づけられる。瑪瑙製のナイフ形石器は搬入品である。なお，粘板岩製の両面加工尖頭器については，調査区の際で出土しており，隣接する西回り自動車道路建設に伴い調査された仁田尾遺跡の調査区際で同石材のブロックが検出されていることを考えると，製作を伴うものであると考えられる。

Fブロック

遺物総数68点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが59点であり，石核，ナイフ形石器が出土していることからOB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックであると位置づけられる。硬質頁岩と瑪瑙製のナイフ形石器については搬入品である。

Gブロック

遺物総数15点で構成されるブロックである。主要な石材は，OB-Aが8点，頁岩が5点である。定型石器はみられない。

Hブロック

遺物総数83点で構成されるブロックである。主要な石材は，OB-Aが67点，頁岩が9点である。OB-Aのナイフ形石器，石核が出土していることから，同石材のナイフ形石器製作に関するブロックであると位置づけられる。

Iブロック

遺物総数90点で構成されるブロックである。主要な石材は，OB-Aが86点である。ナイフ形石器1点が出土しており，同石材のナイフ形石器製作に関するブロックであると位置づけられる。

Jブロック

遺物総数18点で構成されるブロックである。石材は全てOB-Aで，定型石器の出土はみられない。

Kブロック

遺物総数12点で構成されるブロックである。主要石材は頁岩5点である。定型石器の出土はみられない。

Lブロック

遺物総数43点で構成されるブロックである。主要な石材はタンパク石14点，安山岩7点，頁岩7点である。OB-Aの楔形石器1点のみで，ブロックの位置づけは明確にできない。

Mブロック

遺物総数36点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが5点，砂岩4点，安山岩11点，硬質頁岩5点等である。OB-Aの台形石器製作が行われている他，多様な石材が出土しているのが特徴である。

Nブロック

遺物総数124点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Bが90点である。OB-Bの定型石器がないため正確が把握できない。当遺跡においてはOB-Bを主体とするブロックは当ブロックのみである。

Oブロック

遺物総数165点で構成されるブロックである。主要な石材はOB-Aが119点である。定型石器の出土はみられない。

Pブロック

遺物総数48点で構成されるブロックである。主要石材はOB-Aが38点である。定型石器の出土はみられない。

Q～Xブロック

遺物総数669点で構成されるブロックである。主要石材はOB-Aが591点で，ほとんどを占める。同石材のナイフ形石器，石核が出土しており，OB-Aのナイフ形石器製作に関するブロックであると位置づけられる。

３　出土遺物

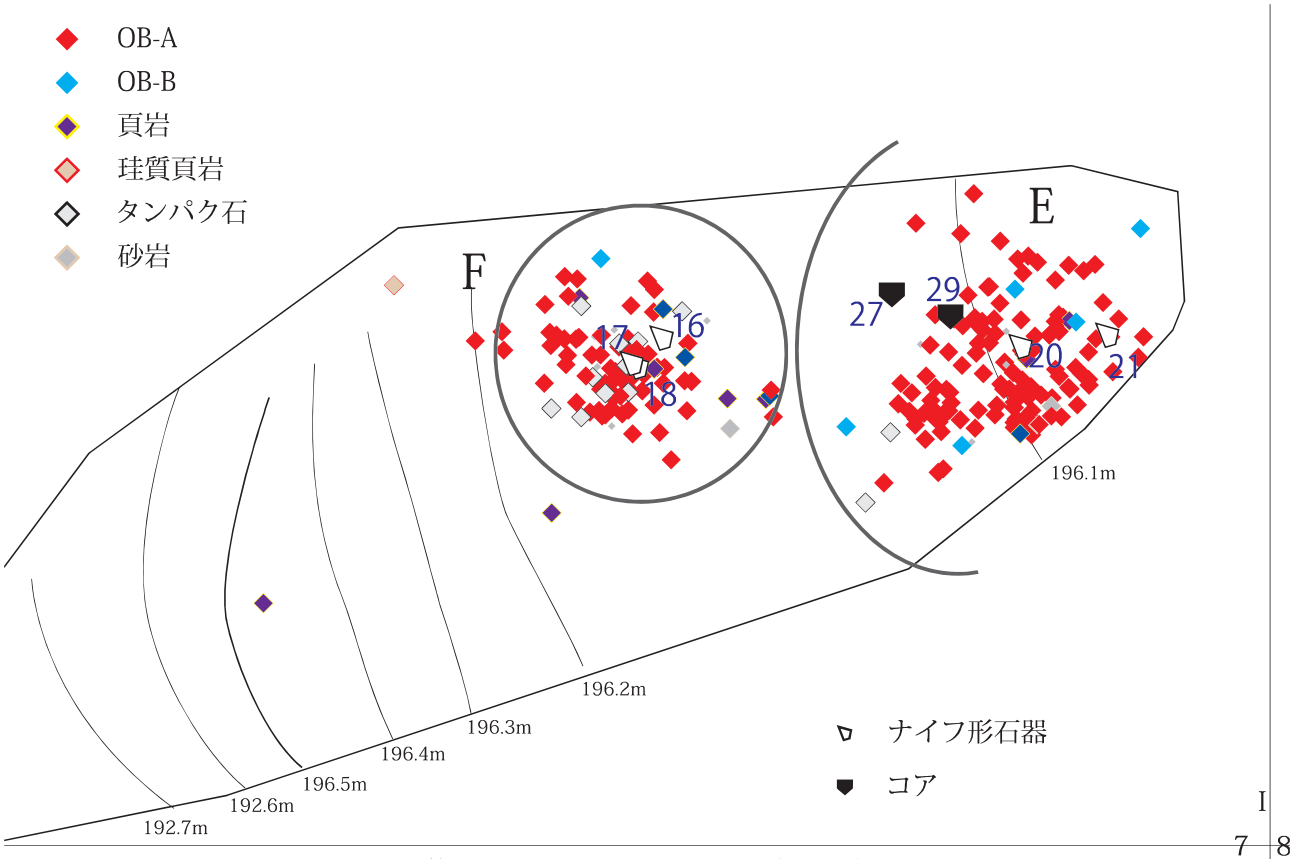
Ⅰ・Ⅱ地区（Ⅷ層）第162図

1はシルト質頁岩製の二側縁加工ナイフ形石器で，両側縁は成形加工の剥離後，この剥離面に重なる連続する小剥離が認められる。なお，腹面に残る左側縁の大剥離は，先行する成形及び整形加工を断ち切ることから，ダメージ痕の可能性が考えられる。また，正面基部側の稜線部の小剥離は，基部作出と見られる。2のナイフ形石器は赤色の鉄石英製で，厚手の縦長剥片素材の形状を活かし，底面には剥離の際の打面がそのまま残る。なお，右側縁基部側の2枚の剥離面は，素材剥片に伴う先行した剥離面の可能性が高い。左側縁に裏面方向からの連続した剥離が加えられ，先端部の使用目的を補強した感がある。3はOB-A製のナイフ形石器で，先端方向を欠損し，右側縁部の大剥離面のパティナが進行している。基部の特に左側の加工が入念に行われ，加撃による成形剥離に重なるように，連続した細かい剥離が観察される。この連続した小剥離は，ハンマーストーン等の工具の押し付けによる押圧状の剥離と推測される。欠損面は，稜線上からの圧力が加わって欠損したと観察される。入力が観察できる。

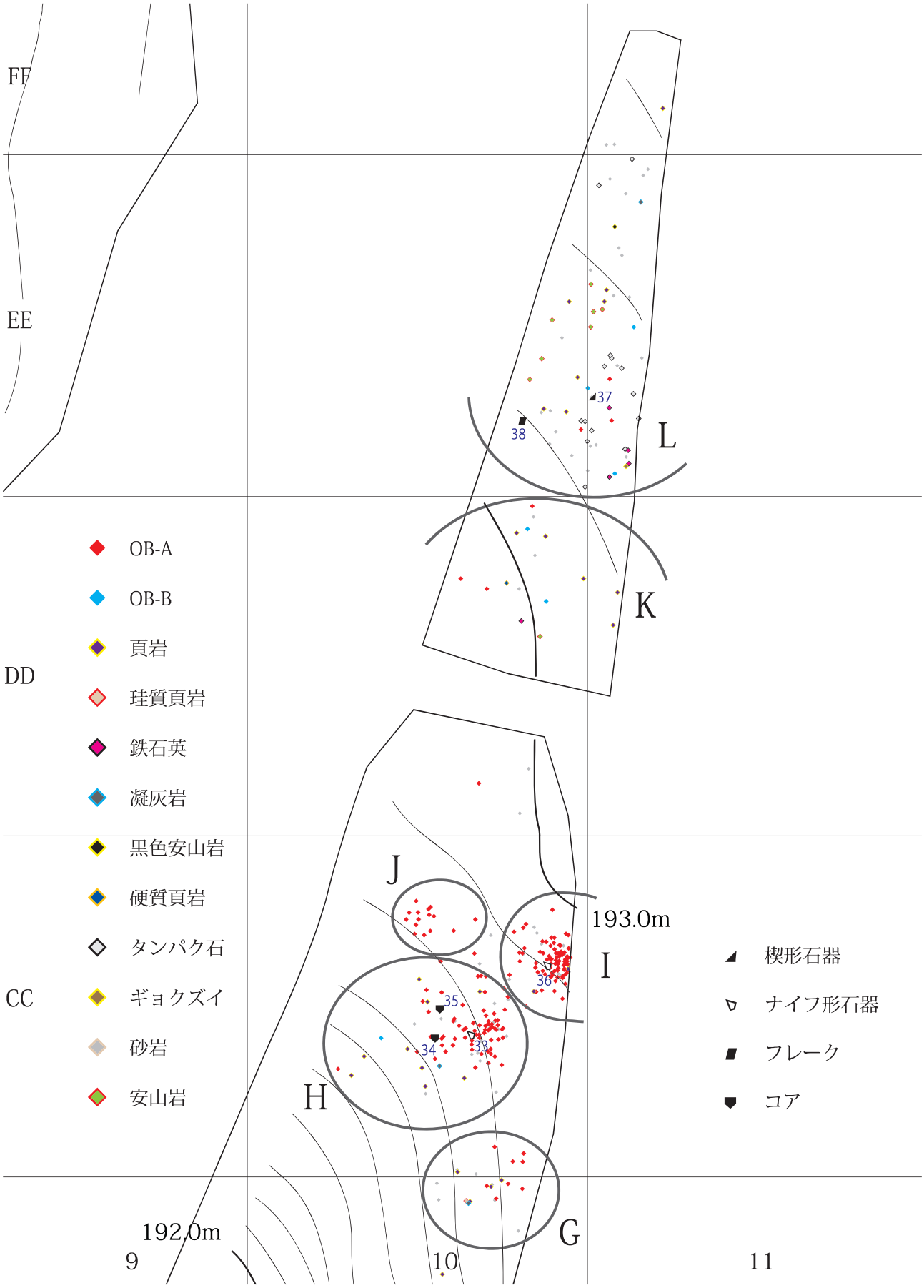
Ⅲ地区（Ⅷ層）第163・164図

4～7は広義の切出形ナイフ形石器である。なお，基部に繋がる短辺の抉入状整形はやや緩慢な感があるが，石器形状及び側縁部を急角度に整形加工していること，また，打面転移を頻繁に行う多面体石核から剥離された分厚い剥片を素材とすること等の規則性が抽出できることから，狸谷型ナイフ形石器の特徴を備えている。狸谷型ナイフ形石器の標識である狸谷遺跡の石器と相違する部分に関しては，本遺跡を拠点に石器製作を展開した彼らの独自の変容形態と捉えたい。

4はOB-Aを用い，素材剥片の剥離軸は刃部とほぼ並行と判断できる。左側縁は裏面方向からの加撃による成形剥離後，小剥離による整形剥離が加えられている。なお，左側縁の先端部剥離面と右側縁の基部の剥離面は，素材剥片剥離に先行している。刃部の正面右半分には，刃こぼれと見られる微細剥離痕が顕著に残されている。5は頁岩製で，先端部は正面側からの圧力で欠損している。素材剥片の剥離軸は刃部とほぼ並行で，左側縁は裏面方向の基部側からの加撃による並行成形剥離に，小剥離による整形剥離が認められる。この小剥離は，成形剥離面に工具を押し付けた押圧状剥離により整形加工と見られる。4の長辺に相当する左側縁はやや内湾気味に成形されるが，5ではやや外湾気味に丸み急角度に加工される。一方，基部形状は酷似した仕上がりとなる。6はOB-B製で，長辺が右側縁部，短辺が左側縁部となる。なお，素材剥片の剥離軸は刃部と対向する関係にあり，短辺に相当する素材剥片の打点部は大きく除去されている。右側縁の加工は，先行している大剥離で大きく打点を除去し，その後，加撃による急角度剥離，急角度剥離面に重ねた押圧状剥離で仕上げたと見られる。左側縁は直線状を成し，背面方向からの加撃による成形剥離後，押圧状剥離による小剥離が密に加えられている。刃部の先端部付近に，刃こぼれと見られる微細剥離痕が観察で



第159図　Ⅷ層石器出土状況図（E・F）



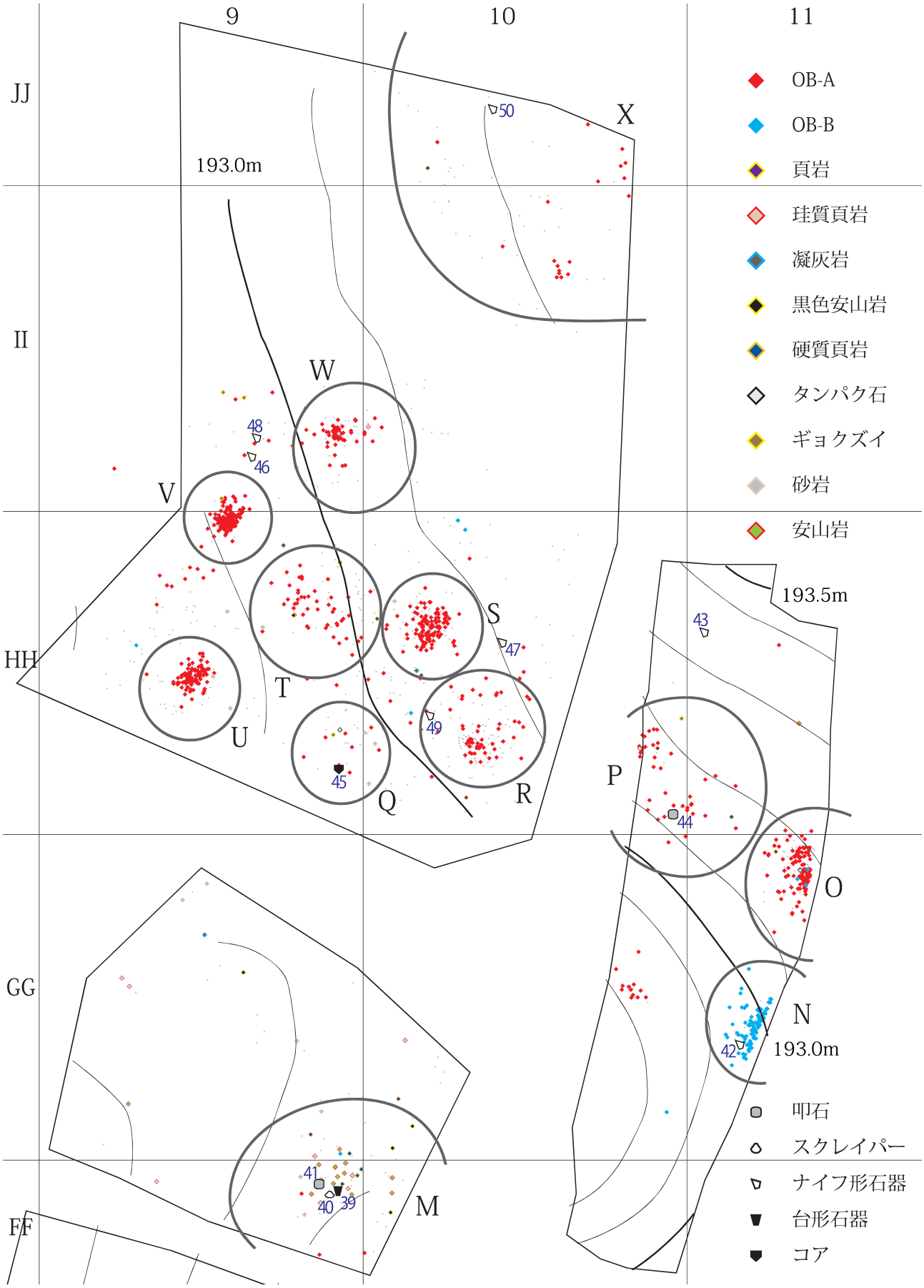
第160図　Ⅷ層石器出土状況図（G～X）

表61　Ⅷ層ブロック観察表

ブロック	石材	区	規模（m）	総数	剥片等	スクレイパー	削器	石核	土器	叩石	砥石	ナイフ形石器	剥片尖頭器	両面加工尖頭器	台形石器	楔形石器	備考
A	OB-A	Ⅲ	10×8	7	7												
	チップ			1	1												
B	OB-A	Ⅲ	10×8	11	6			1				4					
	OB-B			3	2							1					
	タンパク石			1	1												
	チップ			1	1												
	珪質頁岩			1				1									
	硬質頁岩			3	1							2					
	黒色安山岩			1				1									
	軟質シルト質頁岩			1								1					
	粘板岩			1	1												
	頁岩			1	1												
C	OB-A	Ⅱ	2×3	9	9												
	OB-B			1	1												
	チップ			1	1												
	軟質シルト質頁岩			1									1				
	鉄石英			2	2												
D	OB-A	Ⅱ	2×2	24	23							1					完全検出
	OB-B			1	1												
	チップ			4	4												
	鉄石英			1								1					
	頁岩			1	1												
E	OB-A	Ⅳ	1×1	38	35							3					完全検出
	OB-B			1	1												
	タンパク石			5	5												
	チップ			1	1												
	粘板岩			1										1			
	瑪瑙			1								1					
	砂岩			1	1												
	頁岩			4	2	1		1									
F	OB-A	Ⅳ	2×2	59	51	1		5				2					完全検出
	OB-B			3	3												
	硬質頁岩			1								1					
	タンパク石			2	2												
	瑪瑙			1								1					
	珪質頁岩			1	1												
	砂岩			1	1												
G	OB-A	Ⅶ	3×2	8	8												完全検出
	凝灰岩			1	1												
	珪質頁岩			1	1												
	頁岩			1	1												
H	OB-A	Ⅶ	5×4	67	64			2				1					完全検出
	OB-B			1	1												
	チップ			4	4												
	凝灰岩			1	1												
	硬砂岩			1	1												
	頁岩			9	9												
I	OB-A	Ⅶ	2×2	86	85							1					
	チップ			3	3												
	頁岩			1	1												
J	OB-A	Ⅶ	2×1	18	18												完全検出
K	OB-A	Ⅷ	4×3	1	1												
	OB-B			2	2												
	安山岩			1	1												
	硬質頁岩			1	1												
	鉄石英			1	1												
	頁岩			5	5												

表62　Ⅷ層ブロック観察表

ブロック	石材	区	規模（m）	総数	剥片等	スクレイパー	削器	石核	土器	叩石	砥石	ナイフ形石器	剥片尖頭器	両面加工尖頭器	台形石器	楔形石器	備考
L	OB-A	Ⅷ	10×4	4	3											1	
	OB-B			3	3												
	ギョクズイ			1	1												
	硬質頁岩			1	1												
	タンパク石			14	14												
	安山岩			7	7												
	凝灰岩			1	1												
	黒色安山岩			1	1												
	鉄石英			4	4												
	頁岩			7	7												
M	OB-A	X	3×3	5	4										1		
	OB-B			1	1												
	頁岩			2	1	1											
	砂岩			4	3					1							
	安山岩			11	11												
	珪質頁岩			4	4												
	硬質頁岩			5	5												
	黒色安山岩			3	3												
	炭			1	1												
N	OB-A	XII	2×2	1								1					
	OB-B			90	90												
	チップ			33	33												
O	OB-A	XII	3×2	119	119												
	OB-B			3	3												
	タンパク石			1	1												
	チップ			41	41												
	頁岩			1	1												
P	OB-A	XII	4×4	38	38												
	ギョクズイ			1	1												
	砂岩			1						1							
	チップ			5	5												
	珪質頁岩			1	1												
	硬質頁岩			1	1												
	頁岩			1	1												
Q～X	OB-A	XI	23×18	591	586			1				4					完全検出
	OB-B			4	4												
	ギョクズイ			4	4												
	タンパク石			1	1												
	チップ			49	49												
	凝灰岩			1	1												
	珪質頁岩			3	3												
	硬質頁岩			2	2												
	黒色安山岩			2	1							1					
	砂岩			8	8												
	頁岩			4	4												
外	OB-A	－		18	17							1					
	OB-B			1	1												
	タンパク石			1	1												
	チップ			3	3												
	安山岩			3	3												
	凝灰岩			2	2												
	珪質頁岩			4	4												
	黒色安山岩			1	1												
	砂岩			3	3												
	軟質シルト質頁岩			1	1												
	頁岩			2	1							1					



第161図　Ⅸ・Ⅹ・ⅩⅠ地区石器出土状況図

きる。7はOB-A製で，素材剥片の剥離方向は先行する刃部剥離方向とほぼ直行する関係にあり，稜の高い分厚い剥片を素材選択している。長辺を左側縁に短辺を右側縁とし，直線的な側縁に仕上げている。なお，整形加工により素材剥片の形状は，打点除去を含め大きく変えられている。両側縁の急角度の整形剥離はハードな加撃とソフトな加撃の二段階が認められ，最終的には押圧状剥離で仕上げている。特に，刃部の両先端部は鋭利に仕上げた意図が読みとれる。また，他の3点と比較して基部は鋭い。

8・9の2点は，石器の主軸に対し直行する刃部形成することから台形様石器に区分した。8の素材剥片が扁平であることを除くと，先の狸谷型ナイフ形石器の素材選択は共通する。なお，台形様石器でしばしば認められる平坦剥離手法による成形剥離は本例では認められない。

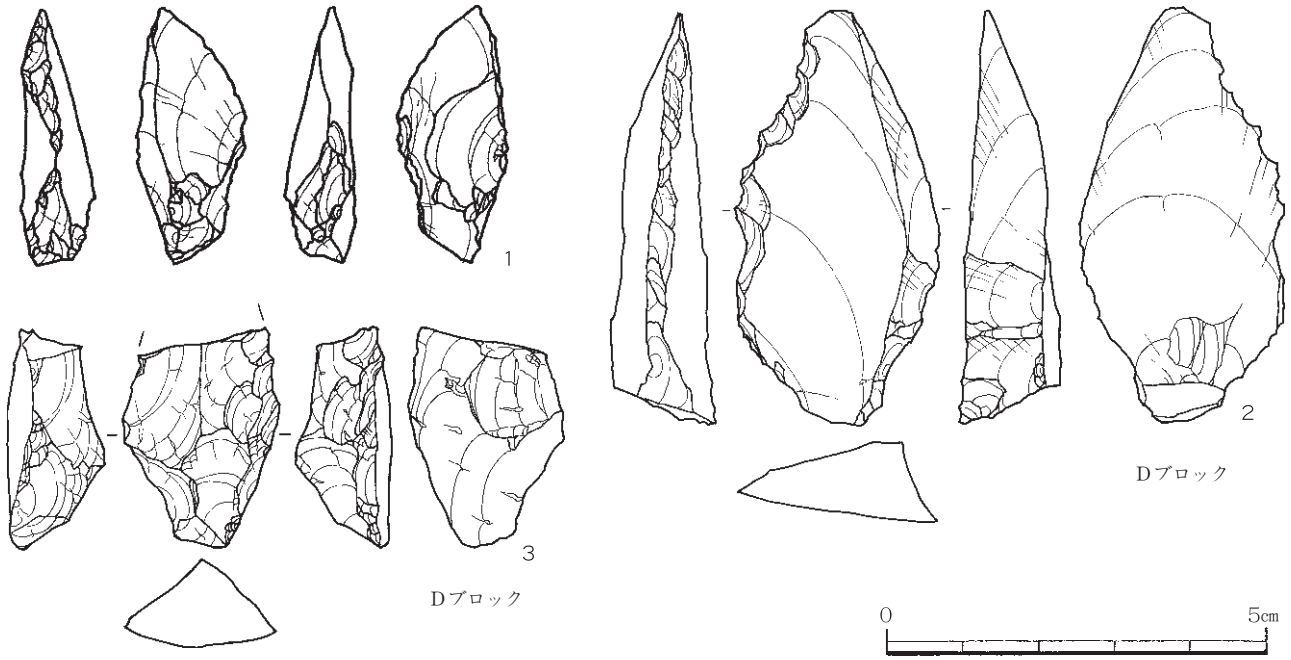
8は硬質頁岩類製で，素材剥片の剥離方向は裏面・正面・刃部共にほぼ同一と判断できる。なお，3面の剥離の先後関係は，正面→刃部→裏面の順である。扁平な剥片を用い，両側縁の加工は加撃による成形剥離に微細な整形加工が施される。成形及び整形剥離は全て裏面側から実施し，素材剥片の打点等は大きく除去され，基部は鋭利に仕上げている。9は軟質シルト質頁岩製で，左側縁は先行した平坦面が使用されている。このことは，正面中央部から基部にかけて成形剥離が左側縁の稜線を打点としていることから，側縁加工後に欠落した可能性が考えにくく，平坦な節理面をそのまま活かしたと考えられる。右側縁から基部にかけての加工は，全て裏面から急角度で実施している。

10はOB-Aを用いた一側縁加工ナイフ形石器で，下半部は欠損と判断している。側縁部の整形剥離は，ハンマー・ストーンによる加撃により先端部方向から基部方向に順次行い，その後，工具による押圧状剥離を重ねて仕上げている。刃部側の欠損使用に絡むダメージと見られるが，詳細は読みとれない。11はOB-A製のナイフ形石器で，主に右側縁部に腹面方向からの成形及び整形剥離が認められる。

12は軟質シルト質頁岩製の剥片尖頭器で，平坦な打面から剥離した先端部がやや内湾し先細りする縦長剥片を素材としている。打面はそのまま残し，製作に関わる二次加工は全て背面から行っている。基部の作出は，直接加撃により両側縁を深く大きく抉り出し，その後，成形剥離による加撃を複数回重ね，さらに微細な整形剥離が認められる。また，背面に打面から先端方向に向かう平坦状剥離が見られるが，これらは基部の挿入・装着を意図したものと解される。抉り部から先端部の両側縁にも二次加工が行われているが，左側縁が急角度に実施されている。また，腹面の一部に左側縁を断ち切る複数の平坦な剥離が認められるが，その目的は明らかにできない。

13～15は石核で，13は黒色安山岩，14はOB-A，15は珪質頁岩を用いている。

13は打面転移を繰り返す剥片剥離が見られ，正面左側の先行剥離面は，左側面及び打面に先行している。いずれの面からも不定形な剥片が剥ぎ取られている。14は左側面と背面には礫面が残り，小角礫素材を用いたことが理解できる。打面は先行した剥離面を利用し，右側面は背面の礫面が打面となる。残される剥離痕からは，不定形剥片を取り出したことが観察される。15の作業面と打面は鋭角を成し，最終作業は残される剥離痕から蝶番剥



第162図　Ⅰ・Ⅱ地区Ⅷ層出土遺物

離（ヒンジ・フラクチャー）を生じている。

Ⅳ地区（Ⅷ層）

16は玉髄製のナイフ形石器で，いわゆる切出型ナイフ形石器に該当する。なお，正面の平坦面はパティナが進行していることから，素材礫面の可能性が高い。断面三角形の分厚い横長剥片を素材とし，基部方向の下半部は大きく除去される。左側縁は裏面方向からの加撃による成形剥離を行い，さらに微細な小剥離が加えられ，先端部まで及んでいる。一方，右側縁部は正面方向から加撃による成形剥離が認められる。なお，正面右側縁側に残される狭い平坦面は，節理面の可能性が高い。17はOB-A製で，整形加工部を左側縁基部付近と判断したが，左側縁上位の平坦面が先行する剥離面の可能性もあることから，大いに疑問も残される。18はOB-A製の一側縁加工ナイフ形石器で，素材剥片の形状及び獲得方法は16と共通する。実測図は第165図に示したが，ポジティブ面の表示が逆（表裏）の可能性が高い。背面の成形剥離は表裏から加撃で行い，背面中央部の剥離が成形剥離の最終となり，特に先端部では，微細な剥離を加えて仕上げている。19は頁岩製で，縦長の不定形剥片を使用している。なお，打面も礫面の可能性を残している。正面から裏面方向への微細な剥離痕が側縁部に観察されことから，二次加工剥片と判断される。

21～24は切出型ナイフ形石器で，22・23は狸谷型ナイフ形石器に区分できる。

20と21は同一区内で接合したもので，その距離は4㎝である。OB-A製で，素材剥片の打点部は左側縁上位に位置している。素材剥離方向（腹面）と背面剥離方向は概ね一致するが，刃部は腹面により断ち切られたシャープなエッジを用いている。長辺及び短辺の両側縁は全て腹面からの加撃による成形剥離で行い，中央部から基部にかけてはさらに細かい整形剥離を重ねている。先端部は，背面方向からのダメージで欠損したと見られる。なお，素材剥片の選択やその形状から，狸谷型ナイフ形石器を意識していたと推定される。22はOB-A製で，いわゆる狸谷型ナイフ形石器である。断面三角形の厚手の剥片を素材とし，長辺が左側縁部，短辺が右側縁部となる。なお，素材剥片の剥離と刃部の剥離方向はほぼ同じであり，短辺に相当する素材剥片の打点部は除去されるがバルバスカーは残される。側縁部の成形・整形加工は背面から行い，①直接加撃による大剥離，②①の大剥離を断ち切る急角度の加撃による剥離，③②の急角度剥離面に重ねた押圧状剥離の順位が観察できる。なお，体部稜線の一部に背面からの整形剥離が認められ，左側縁は直線的に右側縁の刃部端を深く抉り出している。刃部の腹面に刃こぼれと見られる微細剥離痕が観察できる。23は硬質頁岩製で，狸谷型ナイフ形石器である。素材剥片の剥離軸は刃部とほぼ並行で，長辺の右側縁は腹面からの加撃による成形剥離に，小剥離による整形剥離と工具による押圧状剥離で仕上げている。背面の基部加工は，右側縁からの数回の平坦状剥離で鋭角にすることで挿入・装着を意識したものと解される。24はOB-Aを用いたもので，調整剥片あるいはブランティングチップと判断される。25は黒色粘板岩製で，両面加工尖頭器として取り扱った。扁平な素材剥片の周辺部に浅い角度の剥離を行い，槍状に仕上げたもので，小牧3A型尖頭器に区分できる。先頭部と基部を欠損し，裏面の大半が剥離面で構成することから，器種認定に希弱さも残されるが，県内の複数の同時期の遺跡で出土が認められることから尖頭器として取り上げた。26は玉髄製の一側縁加工ナイフ形石器で，先端部が欠損する。素材剥片は縦方向の不定形剥片で，打面はそのまま残され基部に活かされ，側縁加工は腹面から主に加撃で実施している。

27～32は石核で，いずれも不定形剥片を剥出している。

27は剥片を素材とした石核の最終段階と見られる。石材はOB-Aで，打面はパティナの進行度合いから礫面の可能性もある。剥片剥離の打面は同一で，やや縦長の不定形剥片が取り出されている。28はシルト質頁岩製で，最終作業面を正面に示したが，右側縁を除く各面が作業面の対象となり，いずれも小型の不定形剥片を取り出している。29はOB-Aを用い，正面を最終作業面と判断したが，背面の稜線からも交互に行った剥離作業が確認できる。なお，底面には礫面が残される。30は打面は礫面，丈の短い横長の剥片が取れ出される。石材は，OB-A。31の石材はOB-Aで，分割礫素材の石核で，分割面を打面に求心状に剥片剥離が進行し，背面には礫面が残る。32は背面に残る礫面の観察から剥片素材と見られ，ネガティブな剥離面を打面に剥片剥離が行われている。剥離作業は右方向から左へ進み，使用石材はOB-Aである。

Ⅶ地区（Ⅷ層）

33は直線的な刃部を持つ台形様石器，36は基部は欠損したナイフ形石器と判断した。

33は縦長剥片の分厚い端部を刃部方向とした台形様石器で，刃部は素材剥片と直行し先行した剥離面で構成される。腹面と背面剥離は対向する関係にあり，右側縁は加撃，左側縁は加撃成形に押圧状の整形剥離が認められる。なお，石材にはOB-Aを用いている。36はOB-A製で，整形剥離は裏面から実施している。

34・35はOB-Aの石核で，2点共分割面を打面としたと見られ，いずれも不定形剥片が生産されている。

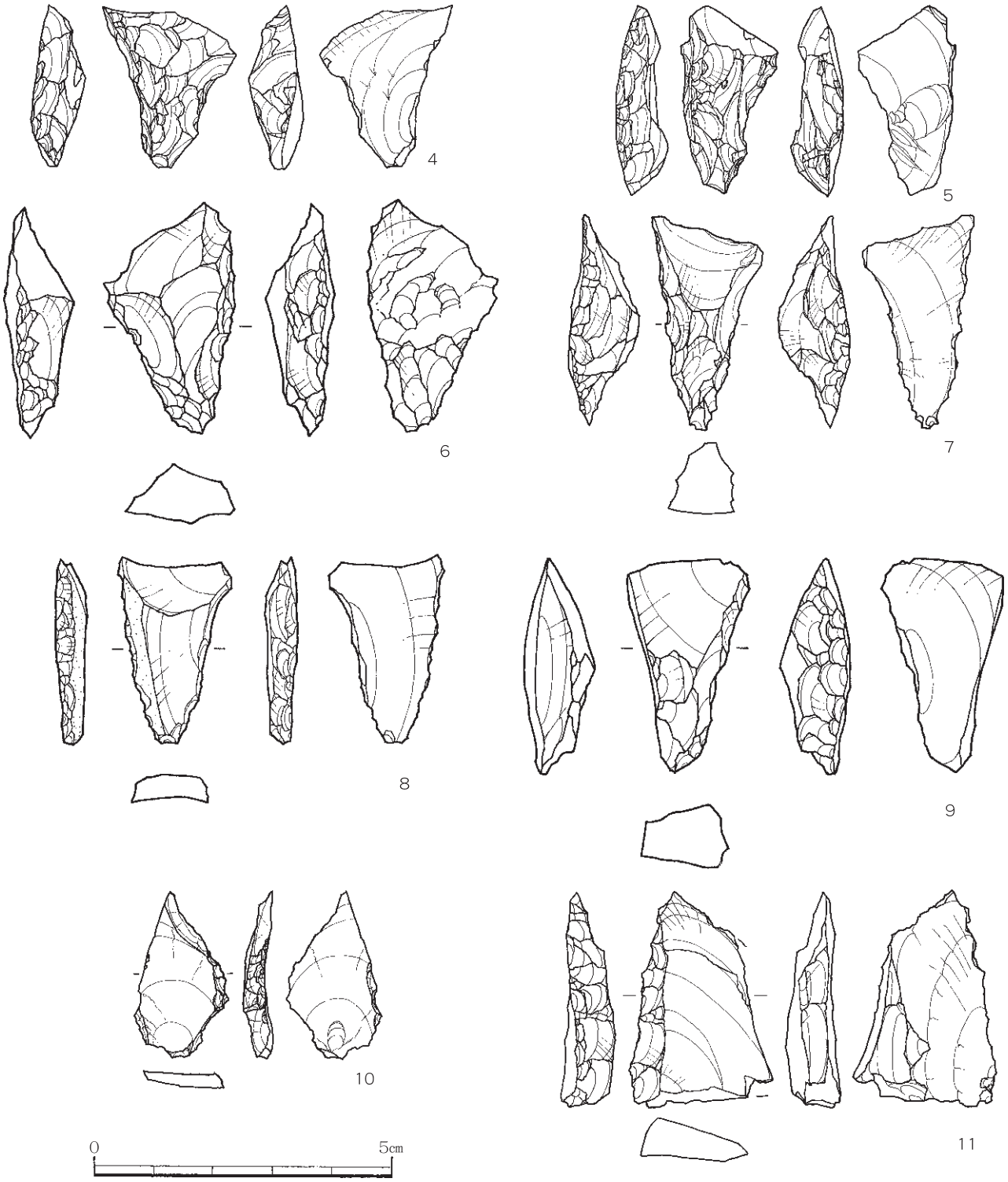
34は分割面を打面に横方向に打点移動を繰り返し，35では正面と右側縁の一部は分割面，背面は分割打面を切る剥離面を打面としている。

37は残核と見られるが定かではない。使用石材はOB-A。38は硬質頁岩製の剥片で，背面には礫面を多く残す。

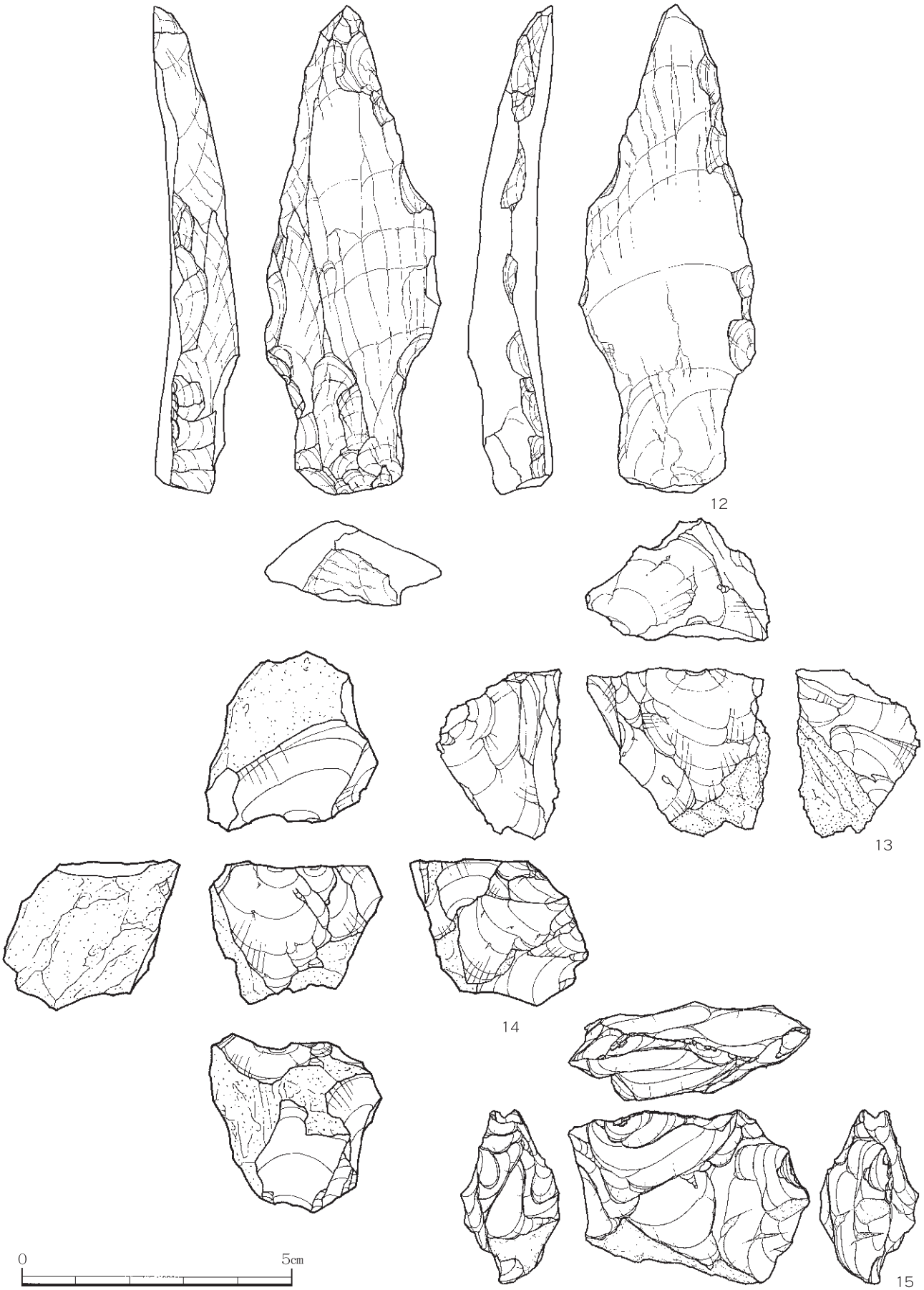
X・XII地区（Ⅷ層）

39は素材剥片が厚手の不定形剥片であること，側縁部の加工に平坦状剥離が用られることから，台形様石器と判断した。底面は腹面を縦方向に断ち切る剥離面で形成し，右側面の整形剥離は体部中央付近まで達している。なお，右側縁の上位には，打面の一部がそのまま残される。40は変成を受けた凝灰岩製で，末端部と右側縁に腹面方向からの二次加工が認められ削器として使用されたと見られる。打点が残らないことから，上面の剥離で切られたものと思われる。

41・44はハンマーストーンで，２点共砂岩製である。41の上面・下面に敲打による剥離痕が残される。44は使用時に節理面で分割した一辺を利用したもので，裏面は平坦面を成す。



第163図　Ⅲ地区Ⅷ層出土遺物（１）（Ｂブロック）



第164図　Ⅲ地区Ⅷ層出土遺物（２）（Ｂブロック）

42・43は広義の切出型ナイフ形石器である。なお，基部に繋がる短辺の内弯状整形や形状及び背部の急角度整形加工，素材剥片が多面体石核からなることから，狸谷型ナイフ形石器の変容形態と捉えている。

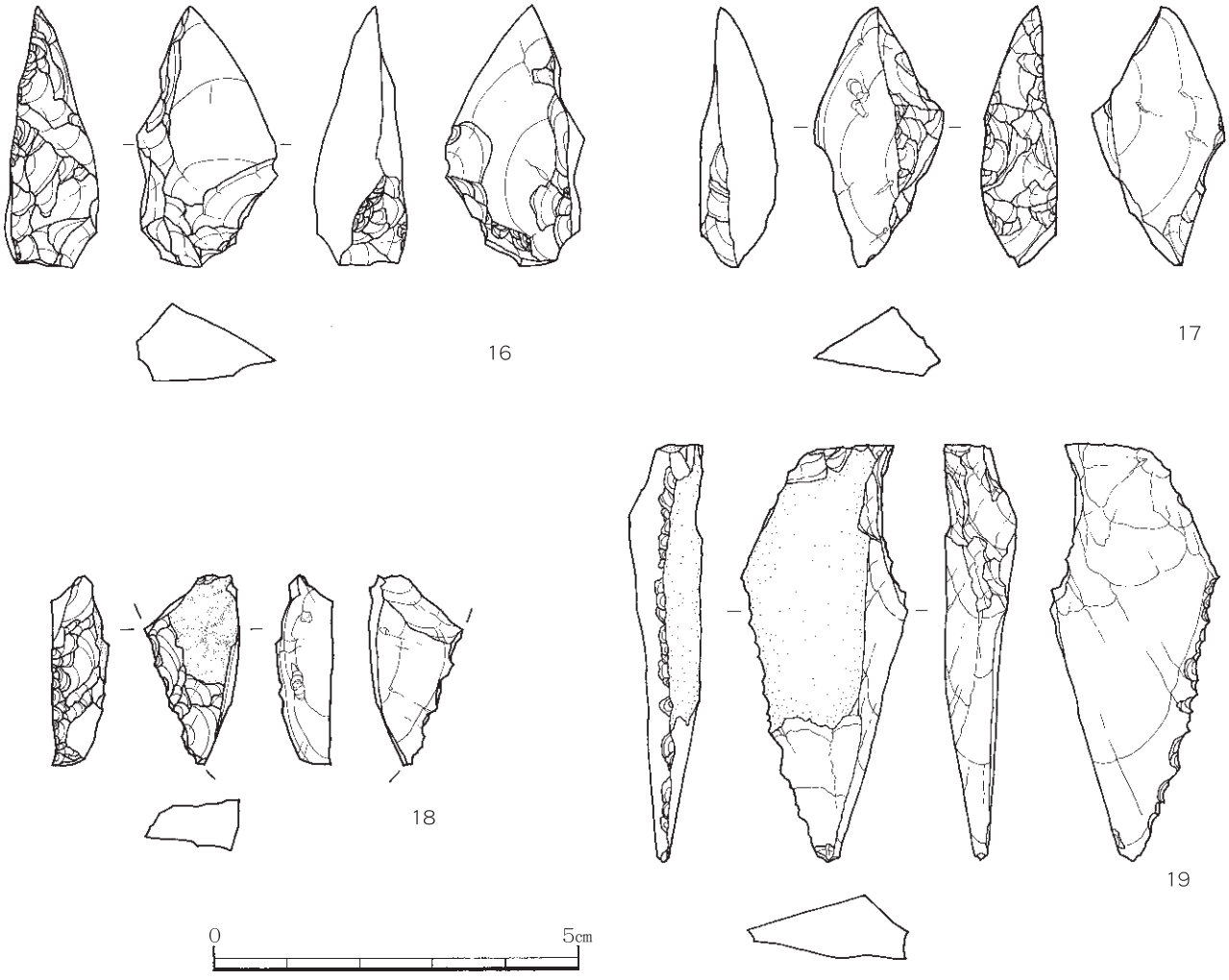
2点共OB-A製で，42の短辺の右側縁は抉入状に仕上げる。43の刃部は先行する剥離面で，腹面とはほぼ直行する関係にある。側縁の整形加工は全て腹面から行い，長辺の左側縁は急角度に実施している。

ＸⅠ地区（Ⅷ層）

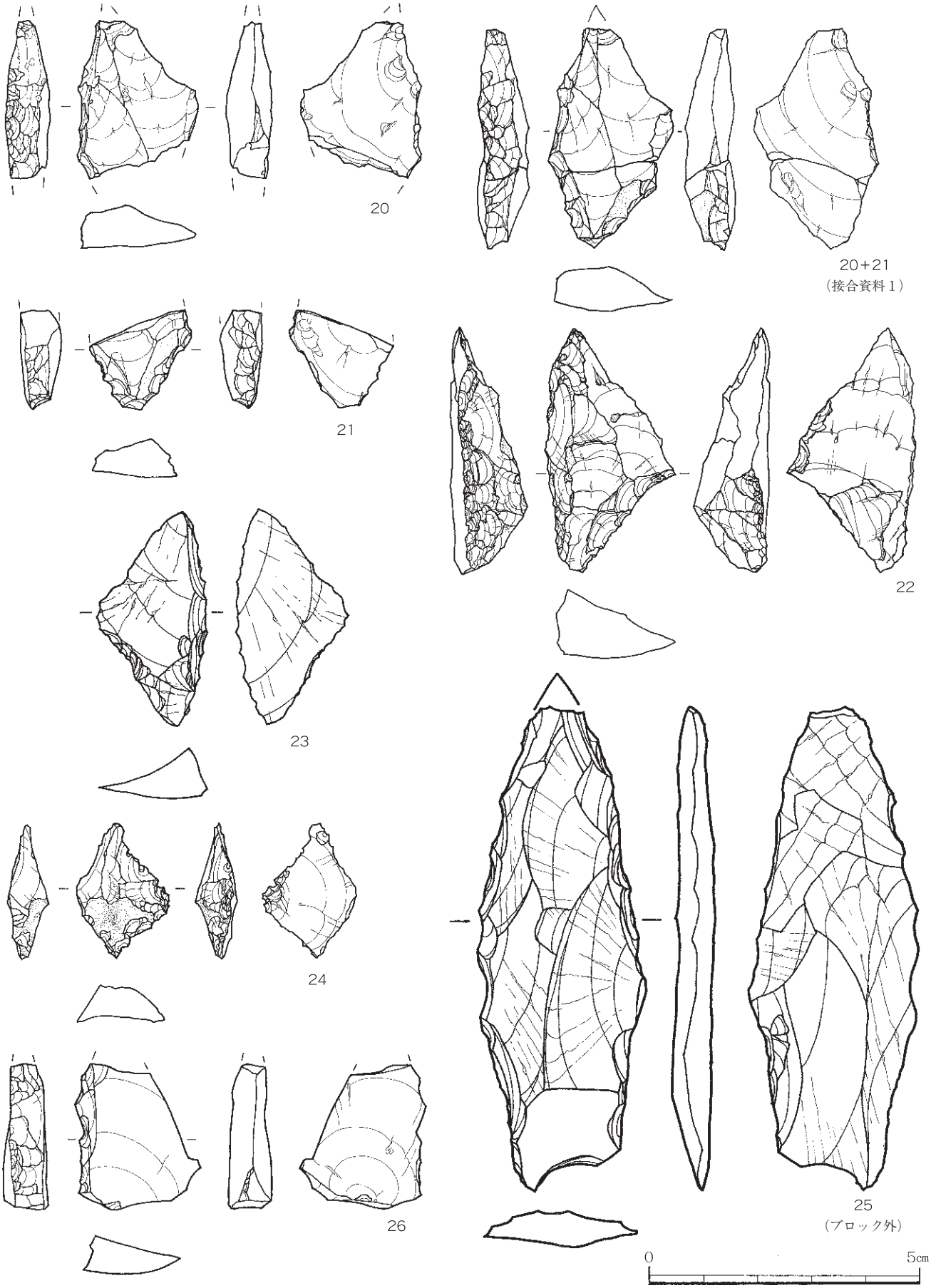
45はOB-Aの石核で，背面に残る礫面から分割礫素材と見られる。背面以外の各面が作業面の対象であり，打面転移を繰り返した多角形石核と言える。

46～50は所謂切出型ナイフ形石器で，石器の主軸に対し刃部が斜めのもの（46・47・48・50），刃部が直行する(49)が認められ，狸谷型ナイフ形石器の範疇で捉えられる。なお，47は黒色安山岩で他はOB-Aを使用している。

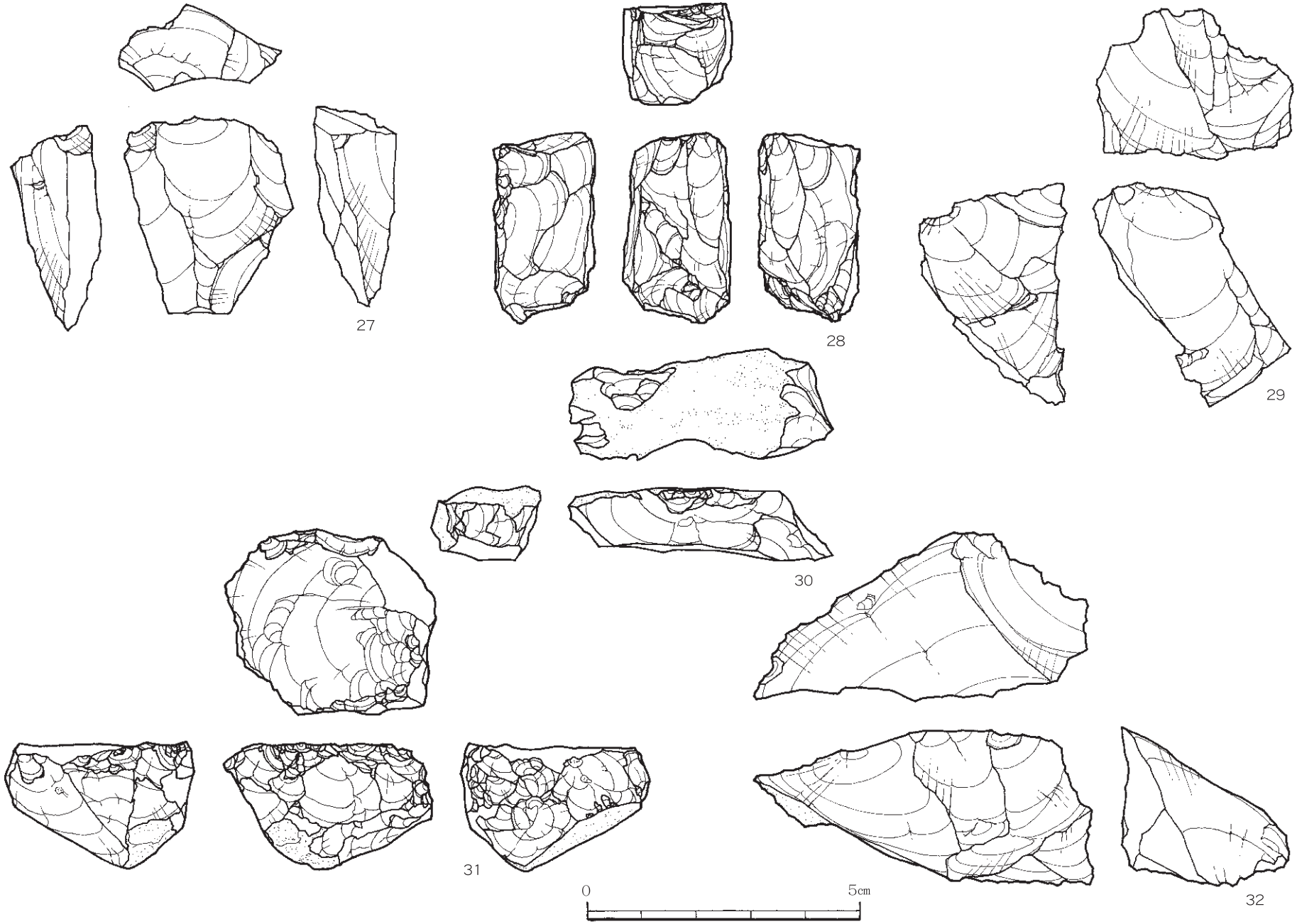
46は厚手の剥片を素材に長辺を左側縁部，短辺を右側縁部とし，素材剥片の剥離と刃部の剥離方向は概ね一致する。なお，先端部は調査時点のダメージで欠落している。47の先端部は，背面方向からの圧力で欠損している。46よりやや扁平な素材剥片の選択で，短辺側の 抉入状加工は印象的と言える。両側縁の整形加工は腹面から行われているが，先端部付近では背面側からの微調整剥離が観察される。48の長辺側背面にはポジティブ・バルブが僅かに残される。両側縁加工は腹面から行われ，基部端部は鋭く仕上げられる。なお，背面の肥厚部から基部にかけては稜線部に添って数回の成形剥離が行われ，挿入を意識したものと解される。また，側縁部の先端部付近に整形剥離が集中し，工具を用いた押圧状剥離が観察される。先端部の背面側に，ダメージ痕と見られる小剥離が1枚残される。49は石器の主軸線と刃部が直行するが，素材剥片及び側縁部の急角度成形剥離，短辺側の 抉入状加工等は他の4点と共通する。50の特徴は，腹面加工が行われることである。腹面加工は，短辺の背面加工後に背面方向から行い，抉入状の形状に仕上げている。



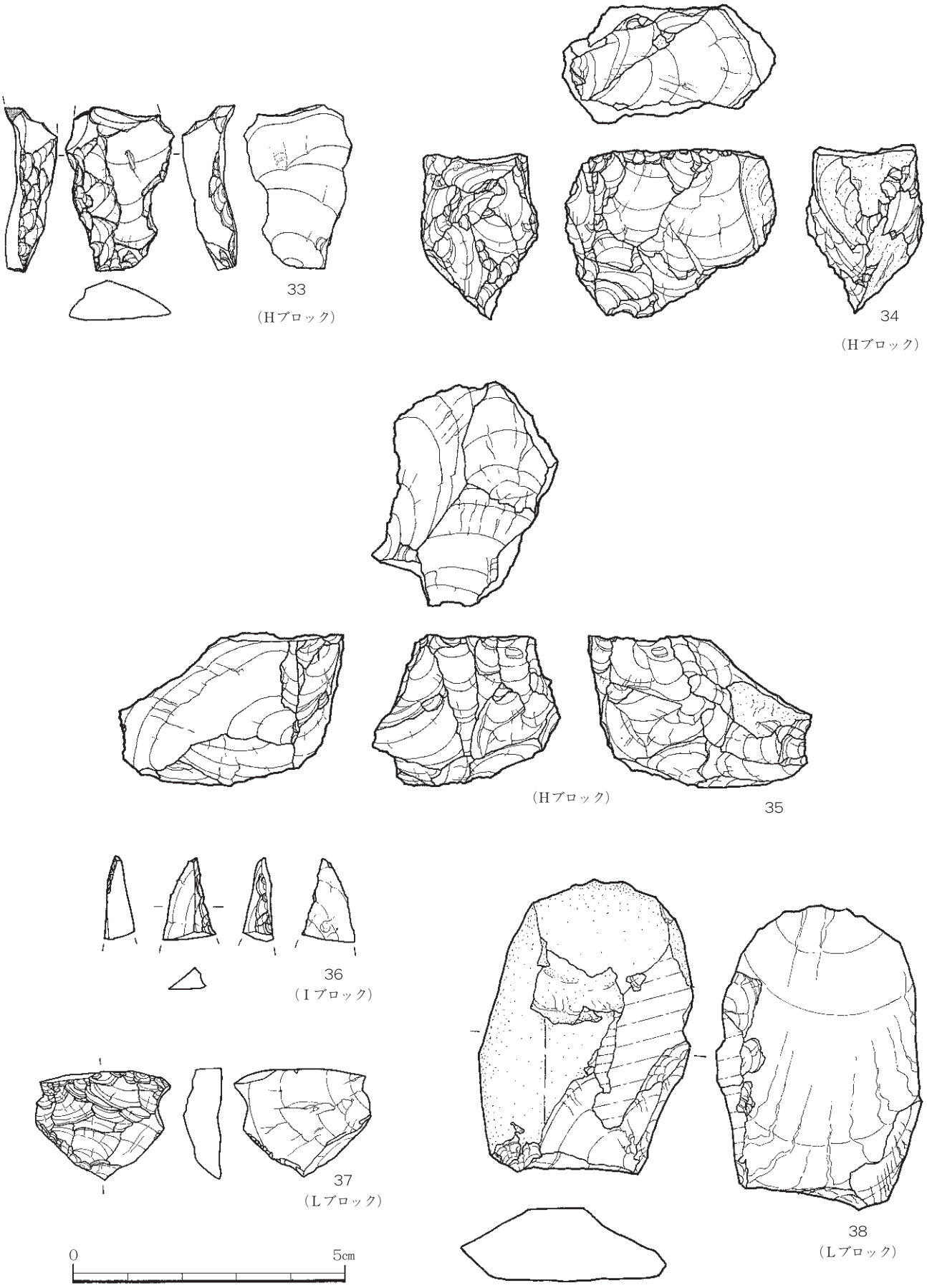
第165図　Ⅳ地区Ⅷ層出土遺物（1）（Eブロック）



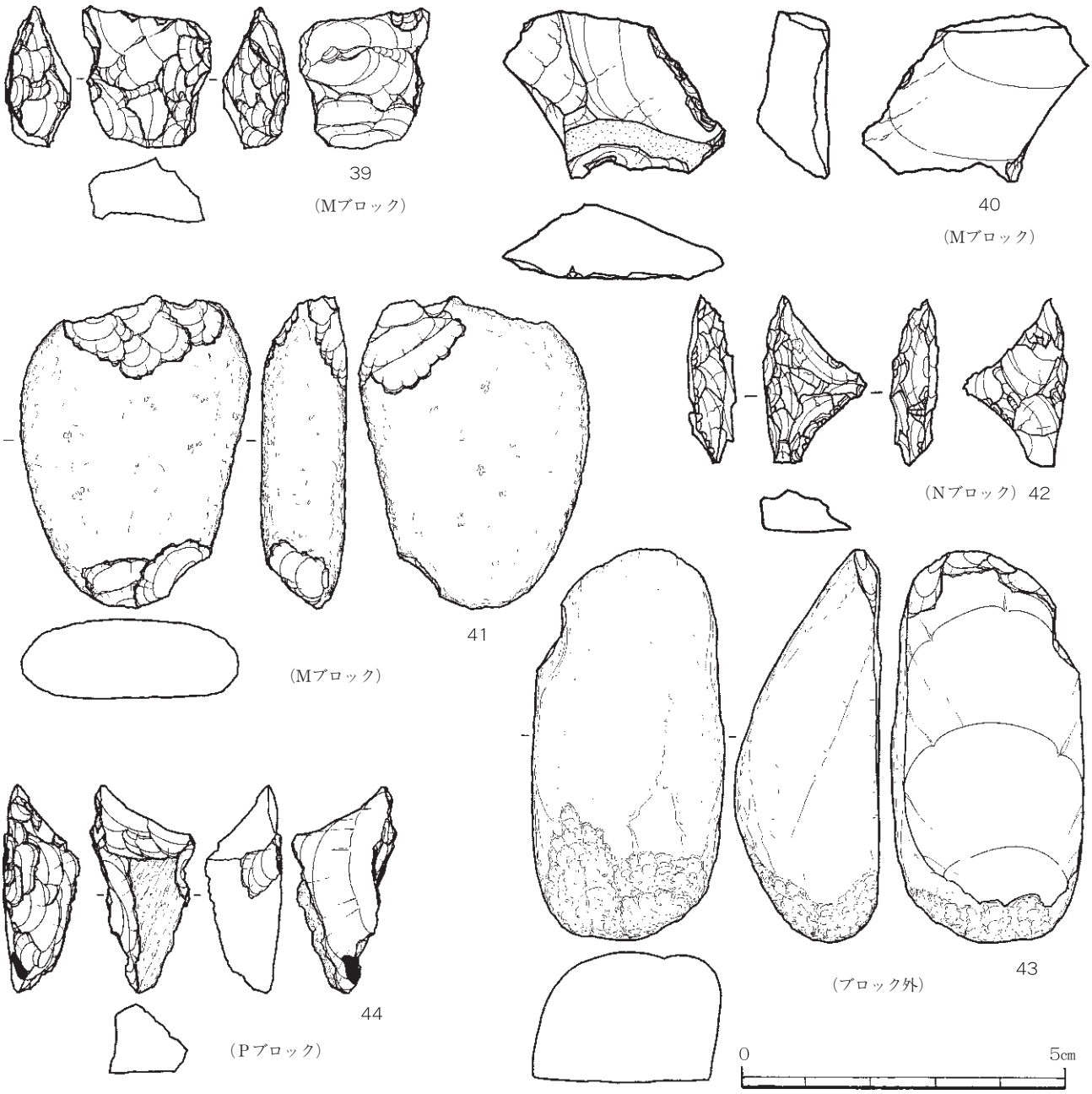
第166図　Ⅳ地区Ⅷ層出土遺物（２）（Ｆブロック）



第167図　Ⅳ地区Ⅷ層出土遺物（３）（Ｆブロック）



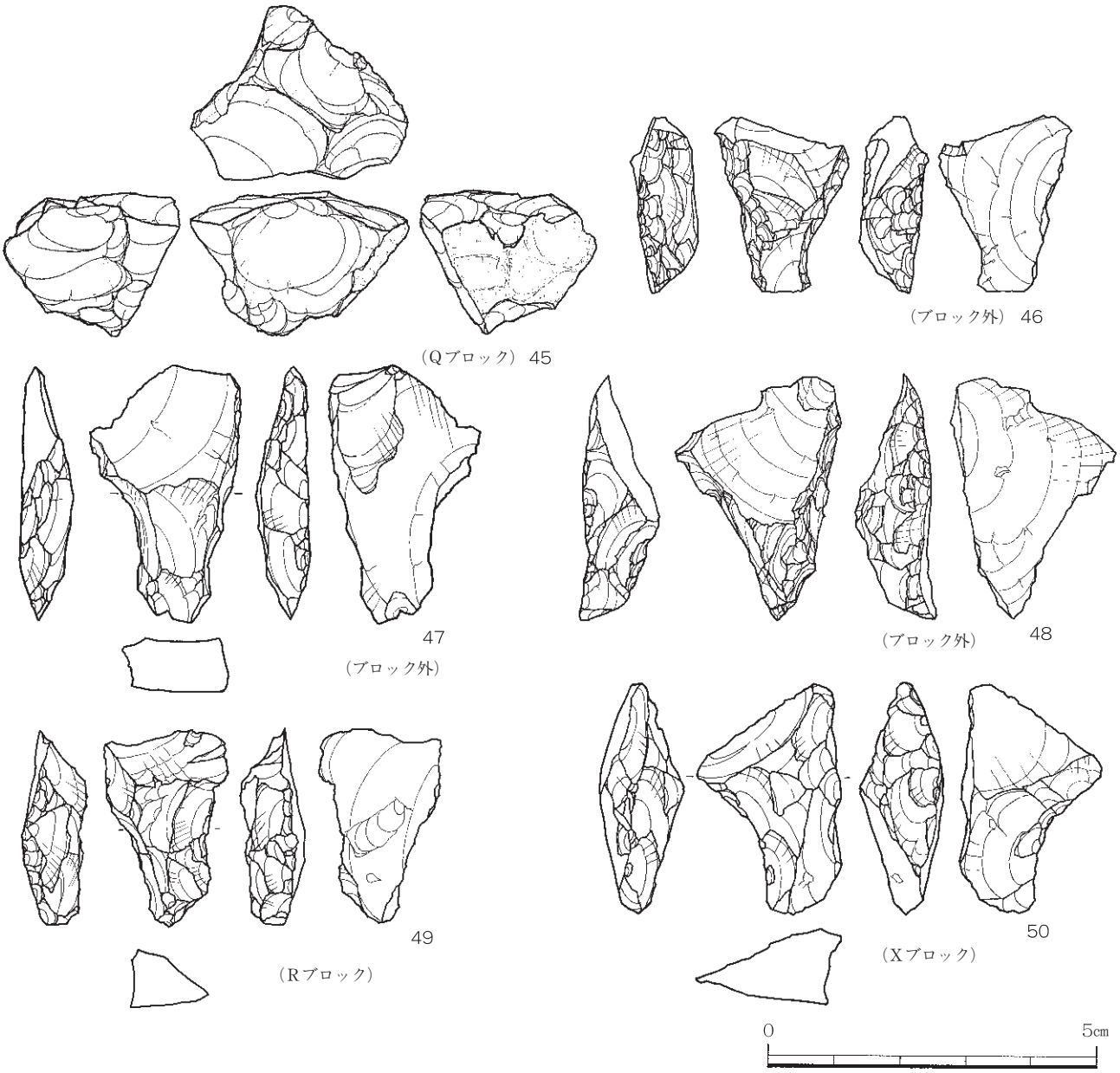
第168図　Ⅶ・Ⅷ地区Ⅷ層出土遺物



第169図　X・XII地区Ⅷ層出土遺物

表63　実測遺物観察表（旧石器）1

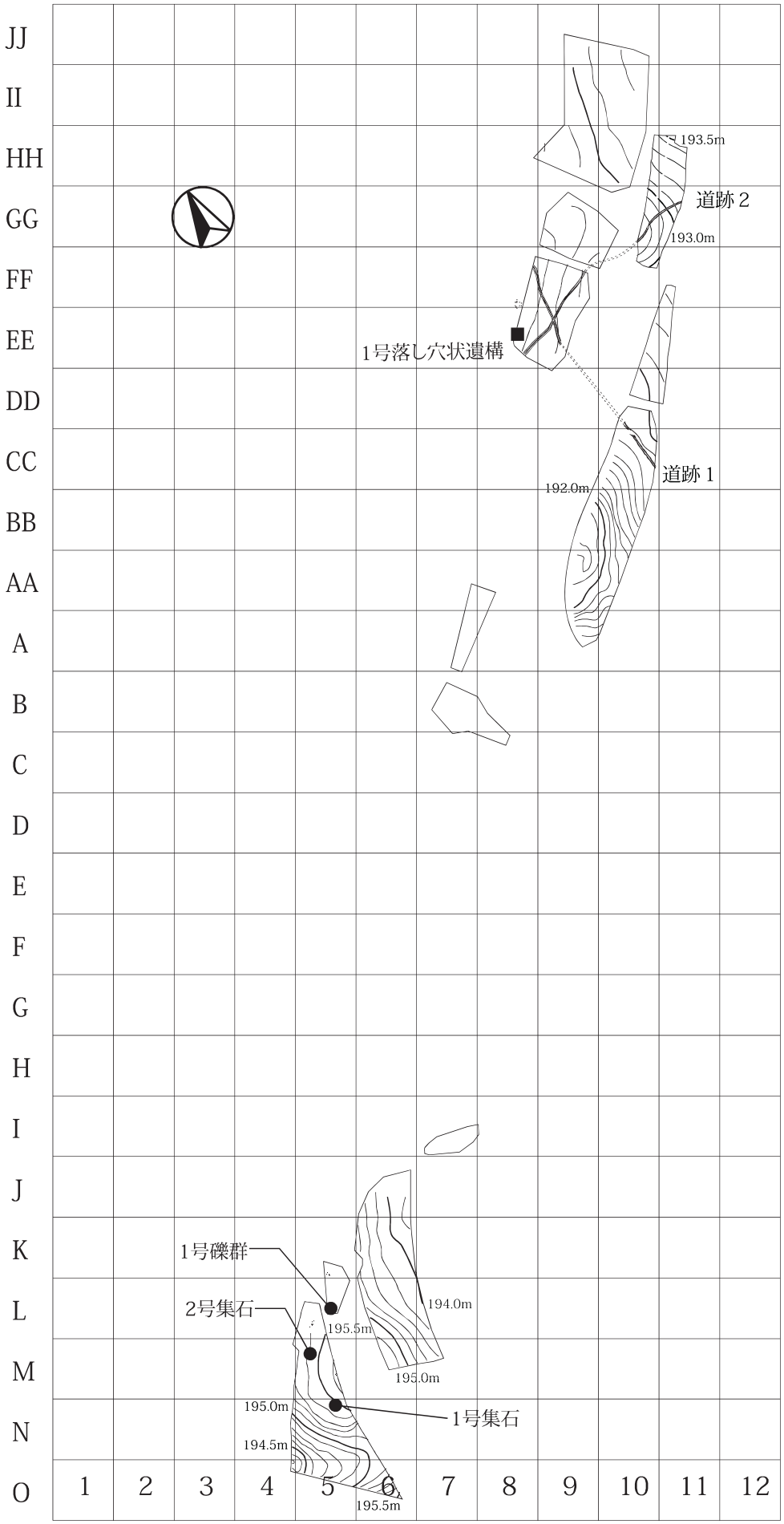
報告No.	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	ブロック	接合	石材	x	y	z	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重さ(g)	備考
1	ナイフ形石器	309840	I	B-3	Ⅷ			頁岩	42.143	36.153	194.885	3.40	1.45	0.95	3.41	
2	ナイフ形石器	113102	II	L-5	Ⅷ			鉄石英	46.547	38.119	195.095	3.60	1.85	1.20	4.89	
3	ナイフ形石器	115647	II	L-5	Ⅷ			OB-A	46.876	37.749	194.209	2.90	2.10	1.30	5.43	
4	ナイフ形石器	112262	III	K-6	Ⅷ			OB-A	54.602	48.731	193.330	2.70	2.25	0.90	3.29	
5	ナイフ形石器	112323	III	J-6	Ⅷ			硬質頁岩	57.883	54.950	193.210	3.15	1.65	0.90	3.58	
6	ナイフ形石器	112293	III	J-6	Ⅷ			OB-B	53.846	52.196	193.645	3.90	2.20	1.10	6.17	
7	ナイフ形石器	112354	III	K-6	Ⅷ			OB-A	53.488	49.247	193.359	5.40	2.70	1.30	17.88	
8	ナイフ形石器	112377	III	J-6	Ⅷ			硬質頁岩	56.594	53.646	193.073	3.10	1.95	0.55	3.14	
9	ナイフ形石器	112378	III	J-6	Ⅷ			軟質シルト質頁岩	56.265	53.844	193.137	3.60	2.10	1.20	6.56	
10	ナイフ形石器	112291	III	J-6	Ⅷ			OB-A	53.206	52.248	193.610	2.85	1.65	0.30		
11	ナイフ形石器	112290	III	J-6	Ⅷ			OB-A	54.339	52.039	193.360	3.60	2.40	0.80	6.69	
12	剝片尖頭器	112284	II	L-5	Ⅷ			軟質シルト質頁岩	45.640	34.974	195.378	9.10	3.30	1.60		
13	コア	112295	III	J-6	Ⅷ			黒色安山岩	54.142	52.876	193.380	3.10	3.40	2.30	16.33	
14	コア	112372	III	K-6	Ⅷ			OB-A	56.608	48.587	193.066	2.70	3.20	3.20	25.39	
15	コア	112414	III	J-6	Ⅷ			珪質頁岩	56.469	52.907	193.006	3.25	4.40	1.85	19.65	
16	ナイフ形石器	400353	IV	-	Ⅷ			瑪瑙	65.891	61.344	192.125	3.65	1.95	1.10	7.70	
17	ナイフ形石器	400414	IV	-	Ⅷ			OB-A	65.772	61.201	192.080	3.60	1.80	0.95	4.30	
18	ナイフ形石器	400392	IV	-	Ⅷ			OB-A	65.800	61.193	192.160	2.65	1.35	0.70	2.22	
19	スクレイパー	400273	IV	-	Ⅷ			頁岩	65.725	60.868	192.385	5.80	2.30	0.90	9.27	
20	ナイフ形石器	400325	IV	-	Ⅷ		SG1	OB-A	67.533	61.516	192.235	3.00	2.20	0.90		
21	ナイフ形石器	400310	IV	-	Ⅷ				67.914	61.619	192.380	1.90	1.85	0.80		
22	ナイフ形石器	400264	IV	-	Ⅷ			OB-A	65.793	61.430	192.210	4.55	2.40	1.42	9.18	
23	ナイフ形石器	400208	IV	-	Ⅷ			硬質頁岩	66.592	62.168	192.310	4.00	1.90	0.90	5.25	
24	スクレイパー	400181	IV	-	Ⅷ			OB-A	67.700	62.171	192.220	2.55	1.70	0.80	1.62	



第170図　XI 地区Ⅷ層出土遺物

表64　実測遺物観察表（旧石器） 2

報告No.	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	ブロック	接合	石材	x	y	z	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重さ(g)	備考
25	両面加工尖頭器	400307	Ⅳ	-	Ⅷ			粘板岩	65.135	59.597	192.715	9.20	3.00	0.70	2.13	
26	ナイフ形石器	400198	Ⅳ	-	Ⅷ			瑪瑙	67.654	61.947	192.130	2.80	2.30	0.80	4.34	
27	コア	400408	Ⅳ	-	Ⅷ			OB-A	66.909	61.677	192.165	3.70	3.10	1.60	13.94	
28	コア	400304	Ⅳ	-	Ⅷ			頁岩	64.484	60.203	192.830	3.60	2.10	2.00	18.67	
29	コア	400334	Ⅳ	-	Ⅷ			OB-A	67.196	61.608	192.090	4.15	3.70	2.80	26.18	
30	コア	400239	Ⅳ	-	Ⅷ			OB-A	67.305	61.322	192.165	1.35	5.00	2.10	13.25	
31	コア	400206	Ⅳ	-	Ⅷ			OB-A	67.350	62.065	192.445	2.40	3.90	3.45	31.84	
32	コア	400182	Ⅳ	-	Ⅷ			OB-A	67.853	61.952	192.130	3.10	6.20	3.10	39.31	
33	ナイフ形石器	501090	Ⅶ	X-36	Ⅷ			OB-A	96.564	174.146	191.996	3.00	2.00	0.80	3.81	
34	コア	501100	Ⅶ	X-36	Ⅷ			OB-A	95.514	174.048	191.940	3.10	3.90	2.10	24.96	
35	コア	501138	Ⅶ	X-35	Ⅷ			OB-A	95.656	174.905	192.002	2.82	3.50	4.10	31.60	
36	ナイフ形石器	501027	Ⅶ	W-36	Ⅷ			OB-A	98.807	176.179	192.314	1.50	1.00	0.55	0.38	
37	楔形石器	500807	Ⅷ	V-35	Ⅷ			OB-A	100.112	192.880	192.262	2.00	2.50	0.70	3.30	
38	フレーク	500798	Ⅷ	V-35	Ⅷ			硬質頁岩	98.082	192.182	192.273	5.60	3.90	1.50	29.20	
39	台形石器	117483	X	C-9	Ⅷ			OB-A	89.227	209.014	191.823	2.20	2.00	1.00	4.12	
40	スクレイパー	117484	X	C-9	Ⅷ			頁岩	88.975	208.910	191.914	2.60	3.50	1.15	6.91	
41	叩石	117491	X	C-9	Ⅷ			砂岩	88.642	209.230	191.771	4.95	3.60	1.30		
42	ナイフ形石器	600273	XII	T-34	Ⅷ			OB-A	101.607	213.524	192.043	2.70	1.65	0.75		
43	ナイフ形石器	600135	XII	S-33	Ⅷ			OB-A	100.509	226.239	192.552	3.25	1.60	1.25	4.10	
44	叩石	600160	XII	S-34	Ⅷ			砂岩	99.560	220.634	192.331	6.20	3.00	2.30	56.29	
45	コア	116875	XI	C-10	Ⅷ			OB-A	89.252	222.013	192.135	2.30	3.40	2.70		
46	ナイフ形石器	117087	XI	C-11	Ⅷ			OB-A	86.554	231.653	191.113	3.00	1.90	0.90	4.35	
47	ナイフ形石器	117102	XI	B-10	Ⅷ			黒色安山岩	94.282	225.919	191.380	3.90	2.30	0.80	6.11	
48	ナイフ形石器	117172	XI	C-11	Ⅷ			OB-A	86.707	232.235	191.049	3.70	2.55	1.25	6.41	
49	ナイフ形石器	116872	XI	C-10	Ⅷ			OB-A	92.045	223.673	192.041	2.70	2.50	1.50	4.38	
50	ナイフ形石器	117571	XI	C-12	Ⅷ			頁岩	93.990	242.372	192.737	3.50	2.20	1.30	5.89	



第171図　Ⅶ層遺構配置図

第３章　Ⅶ層の調査

第１節　概要

Ⅶ層からはナイフ形石器文化，細石刃文化期の遺構・遺物が出土し，また，層上部では，石鏃や土器片等縄文時代草創期の存在も知られている。

遺構は南区で，礫群１基，集石遺構２基が検出され，北区では溝状遺構２条と落し穴状遺構１基を検出している。

遺構の時期認定については，溝状遺構と落し穴状遺構は埋土状況を検討し，礫群遺構に関しては検出面を判断基準としている。しかし，層上位検出の集石遺構については詳細な時期認定はできなかった。

第２節　遺構（南区）

１　礫群

礫群はⅦｃ層検出で細石刃文化期該当，２基の集石遺構はⅦａ層での検出で縄文時代草創期該当と判断している。なお，遺構の分類についてはⅧ層と同じ分類方法で行った。

１号礫群

１号礫群はＬ－５区で検出した。

140㎝×70㎝程の範囲に15点の礫が散在し，全ての礫が赤化していることから被熱痕跡と判断している。細石刃ブロックの下位で検出し，そのブロックとの間にはかなり先行する時期が見込まれる。炭化物等は確認されていない。（ⅢＡ類）

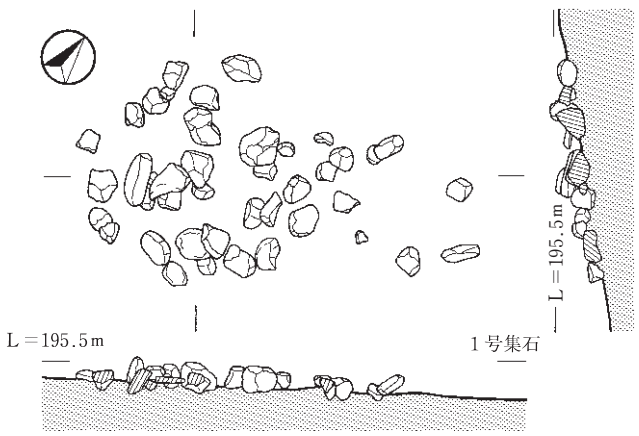
１号集石

１号集石はＮ－５区で検出した。

100㎝×60㎝程の範囲に43点の礫が集積した状況で確認し，総じて赤化し被熱を受けたと見られる。使用石材は安山岩で，拳大の礫を選択した傾向が認められる。なお，掘り込み遺構，炭化物は確認できていないが，集積

表65　Ⅶ層礫群観察表

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
1	172	ⅢＡ	15	140	70	－	－	－	H7-16



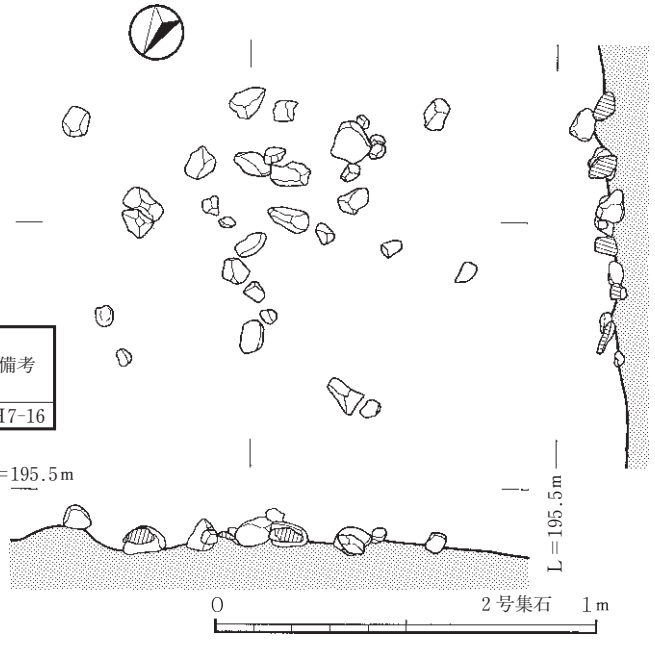


表66　Ⅶ層集石観察表

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
1	172	ⅢＡ	43	100	60	－	－	－	H10-1
2	172	ⅢＡ	31	110	90	－	－	－	H10-2

第172図　南区Ⅶ層遺構実測図

状況はその可能性もある。（ⅢＡ類）

２号集石

２号集石はＭ－５区で検出した。110㎝×90㎝程の範囲に31点の礫を確認した。５㎝程の小礫から拳大の安山岩が使用され，被熱し，赤化している。掘り込み遺構，炭化物は確認できなかった。（ⅢＡ類）

第３節　遺構（北区）

１　道跡

道跡１

ＥＥ・ＦＦ－８・９区のⅦ層上面でほぼ南北方向に走る道跡１を検出した。この道跡の続きが平成14年度調査区のＣＣ－10区でも検出されている。幅は30～60㎝，深さ約３㎝程度であり，Ⅵ層の薩摩火山灰層を埋土とする。

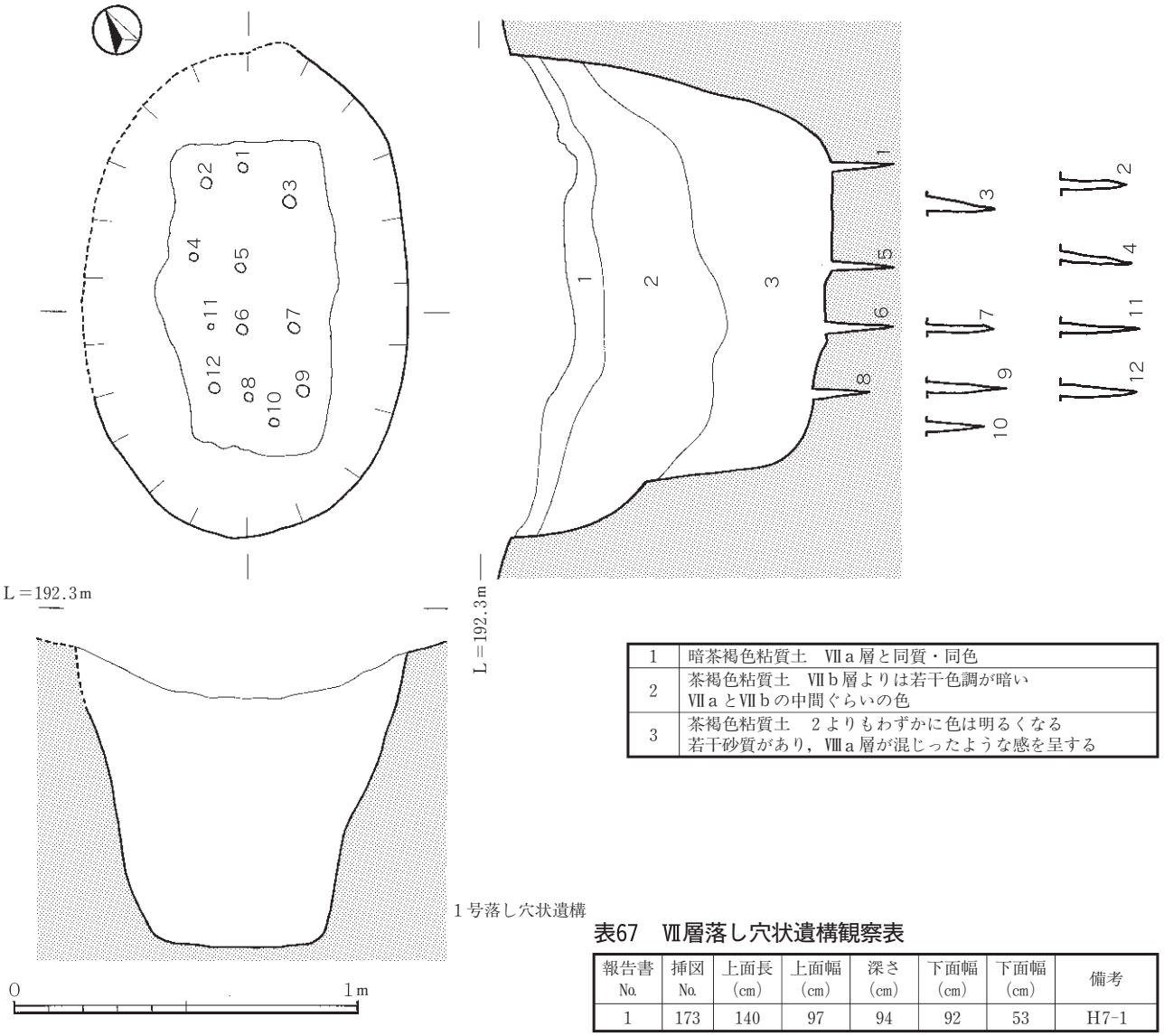
道跡２

ＥＥ・ＦＦ－８・９区のⅦ層上面で北東・南西方向に走る道跡２を検出した。この道跡の続きが平成14年度調査区のＧＧ－10・11区でも検出されている。幅は30～60㎝，深さ約３㎝程度であり，Ⅵ層の薩摩火山灰層を埋土とする。道跡１と道跡２は，ＥＥ－９区で交差する。

２　落し穴状遺構

１号落し穴状遺構

１号落し穴状遺構はＥＥ－８区のⅦａ層上面で検出した。平面プランは，長軸140㎝，短軸97㎝の楕円形で，検出面からの深さ94㎝である。最終埋土はⅦａ層と同色・同質の暗茶褐色土である。底面に逆茂木痕らしき小ピットを12基検出した。小ピットは径３～４㎝，深さ15～23㎝である。



1	暗茶褐色粘質土　Ⅶａ層と同質・同色
2	茶褐色粘質土　Ⅶｂ層よりは若干色調が暗い Ⅶａ とⅦｂの中間ぐらいの色
3	茶褐色粘質土　２よりもわずかに色は明るくなる 若干砂質があり，Ⅷａ層が混じったような感を呈する

表67　Ⅶ層落し穴状遺構観察表

報告書No.	挿図No.	上面長（cm）	上面幅（cm）	深さ（cm）	下面幅（cm）	下面幅（cm）	備考
1	173	140	97	94	92	53	H7-1

第173図　北区Ⅶ層遺構実測図

第４節　石器

１　概要

調査区はⅠ地区～ⅩⅢ地区に分けられる。

２　遺構

ブロックはＡ～Ｓの19基検出された。ブロック認定にあたっては，視覚的に遺物の集中域がみられるところを設定した。ただし，調査地区が狭く，ブロックの全容が明らかでない場合は，一つの調査区を一つのブロックとして認定している。各ブロックの概要は以下の通りである。

Ａブロック

遺物総数470点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが76点，OB-Bが182点，OB-Cが12点，硬質頁岩が75点，黒色安山岩が55点である。石材別の主な利用石器として，OB-A，OB-Bが細石刃製作，硬質頁岩が細石刃，石鏃に利用されている。

Ｂブロック

遺物総数443点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが144点，OB-Bが139点，硬質頁岩54点，黒色安山岩25点，頁岩10点である。石材別の主な利用石器として，OB-Aが細石刃製作に，黒色安山岩が石鏃製作に利用されている。硬質頁岩は剥片のみで明確でないが，隣接ブロックの状況からおそらく石鏃製作によるものであると考えられる。

Ｃブロック

遺物総数は1,343点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが247点，OB-Bが387点，OB-Cが20点，OB-Dが11点，珪質頁岩10点，硬質頁岩が237点，黒色安山岩が181点，頁岩が18点である。石材別の主な利用石器として，OB-A，OB-B，OB-Cは細石器に，頁岩系は石鏃製作に利用されている。当ブロックには，土器が２点組成されている。

Ｄブロック

遺物総数591点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが93点，OB-Bは129点，硬質頁岩が154点，黒色安山岩が94点，頁岩が11点である。石材別の主な利用石器として，OB-A，OB-Bは細石器に，黒色安山岩は石鏃製作に利用されている。

Ｅブロック

遺物総数1,221点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが132点，OB-Bが149点，硬質頁岩が125点，黒色安山岩が62点である。石材別の主な利用石器として，OB-A，OB-Bは細石器に，硬質頁岩は石鏃，スクレイパーに，黒色安山岩はスクレイパーに利用されている。当ブロックには土器が1点組成される。

Ｆブロック

遺物総数839点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが230点，OB-Bが149点，硬質頁岩が172点，黒色安山岩が51点，頁岩が14点である。石材別の主な利用石器として，OB-A，OB-Bが細石器，黒色安山岩が細石器，石鏃，スクレイパー，硬質頁岩が石鏃製作に利用されている。

Ｇブロック

遺物総数2,207点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが1,067点，OB-Bが195点，OB-Dが13点，OB-Eが35点，玉髄が66点，凝灰岩質頁岩が11点，珪質頁岩が77点，硬質頁岩が258点，黒色安山岩が30点，鉄石英が147点，頁岩が65点である。石材別の主な利用石器として，OB-A，鉄石英，凝灰岩質頁岩，頁岩が細石器に，硬質頁岩が細石器，石鏃に利用されている。

Ｈブロック

遺物総数134点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，チャート41点，頁岩10点，硬質頁岩７点である。当ブロックはチャートの石鏃製作址と位置づけられる。

Ｉブロック

遺物総数27点で構成されるブロックである。OB-A12点を中心とする細石器製作に関する小規模なブロックである。

Ｊブロック

遺物総数147点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが55点，OB-Bが23点，OB-Eが23点，頁岩10点である。OB-Aを中心とする細石器製作に関するブロックである。

Ｋブロック

遺物総数148点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが50点，OB-Bが11点，硬質頁岩11点，黒色安山岩6点，頁岩９点である。石材別の主な利用石器としてOB-Aが細石刃核に，黒色安山岩が石鏃製作に利用されている。

Ｌブロック

遺物総数119点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比は，OB-Aが11点，OB-Bが65点，鉄石英16点，頁岩12点である。石材別の主な利用石器として，OB-Bが細石刃核に，頁岩系が石鏃製作に利用されている。

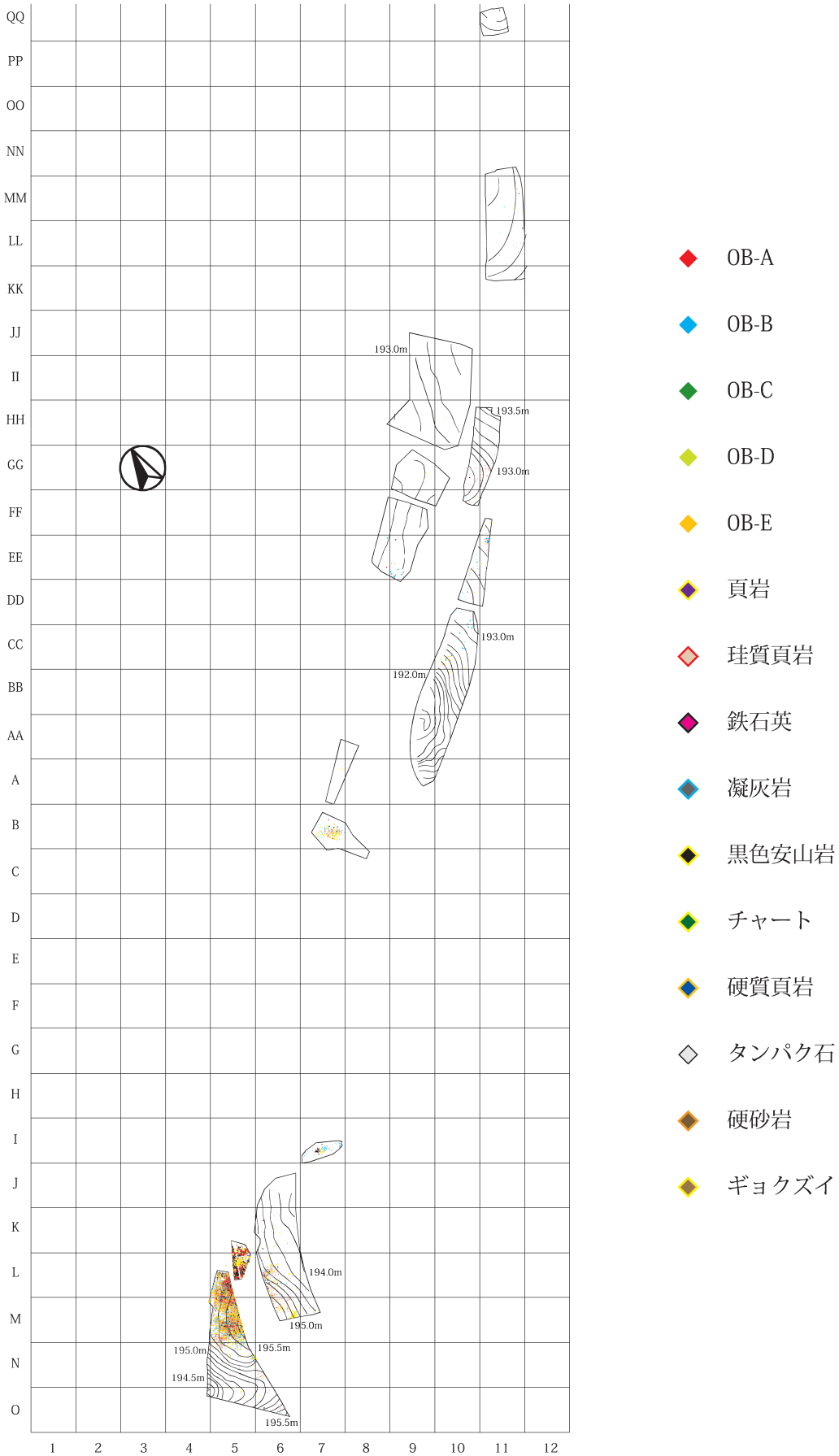
Ｍブロック

遺物総数36点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比はOB-Bが36点，頁岩１点である。製品の出土はみられない。

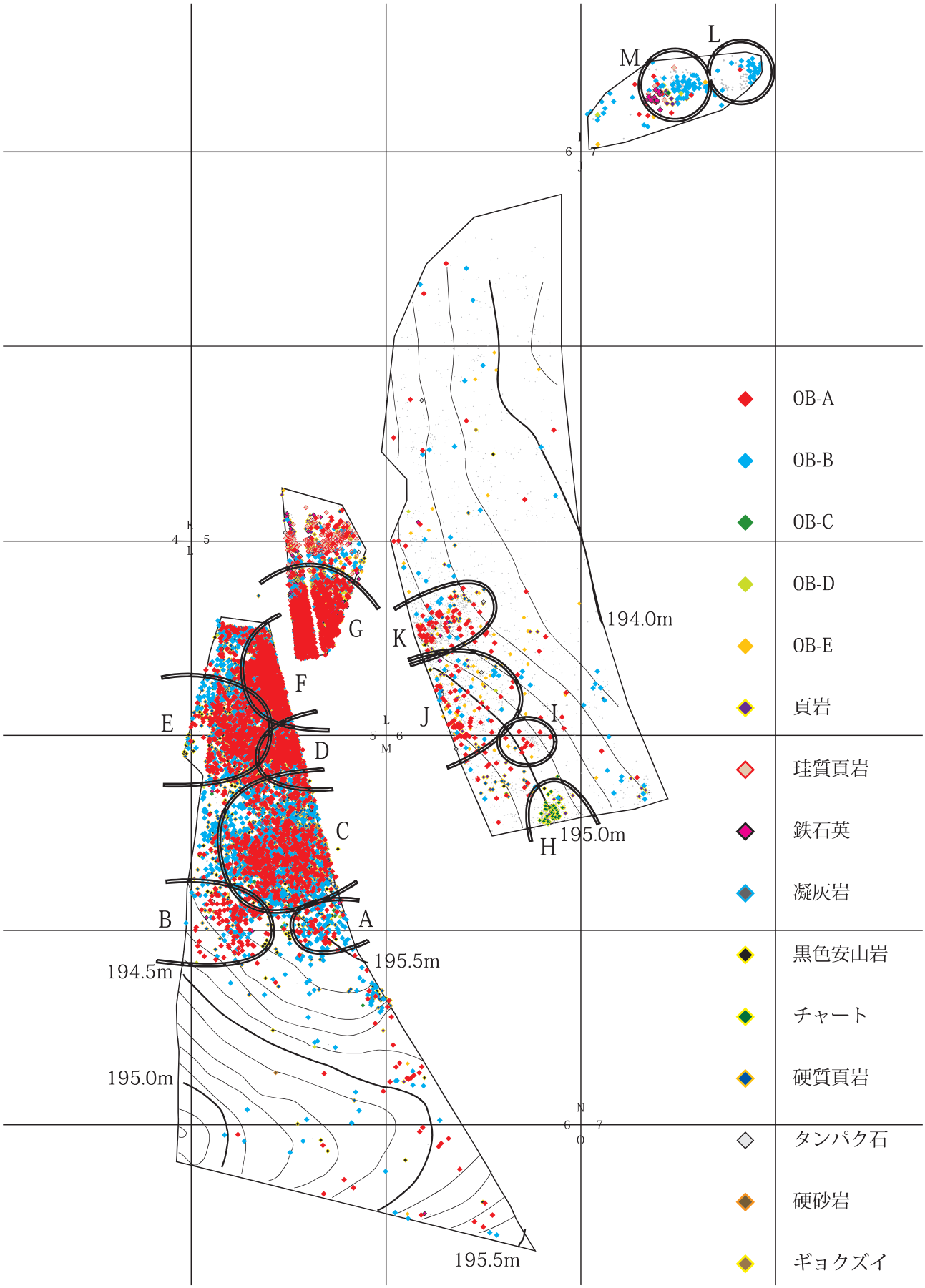
Ｎブロック（Ⅴ地区）

遺物総数257点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比はOB-Aが66点，OB-Bが72点，凝灰岩質頁岩30点，硬質頁岩10点，頁岩55点である。凝灰岩質頁岩の細石刃製作に関するブロックである。

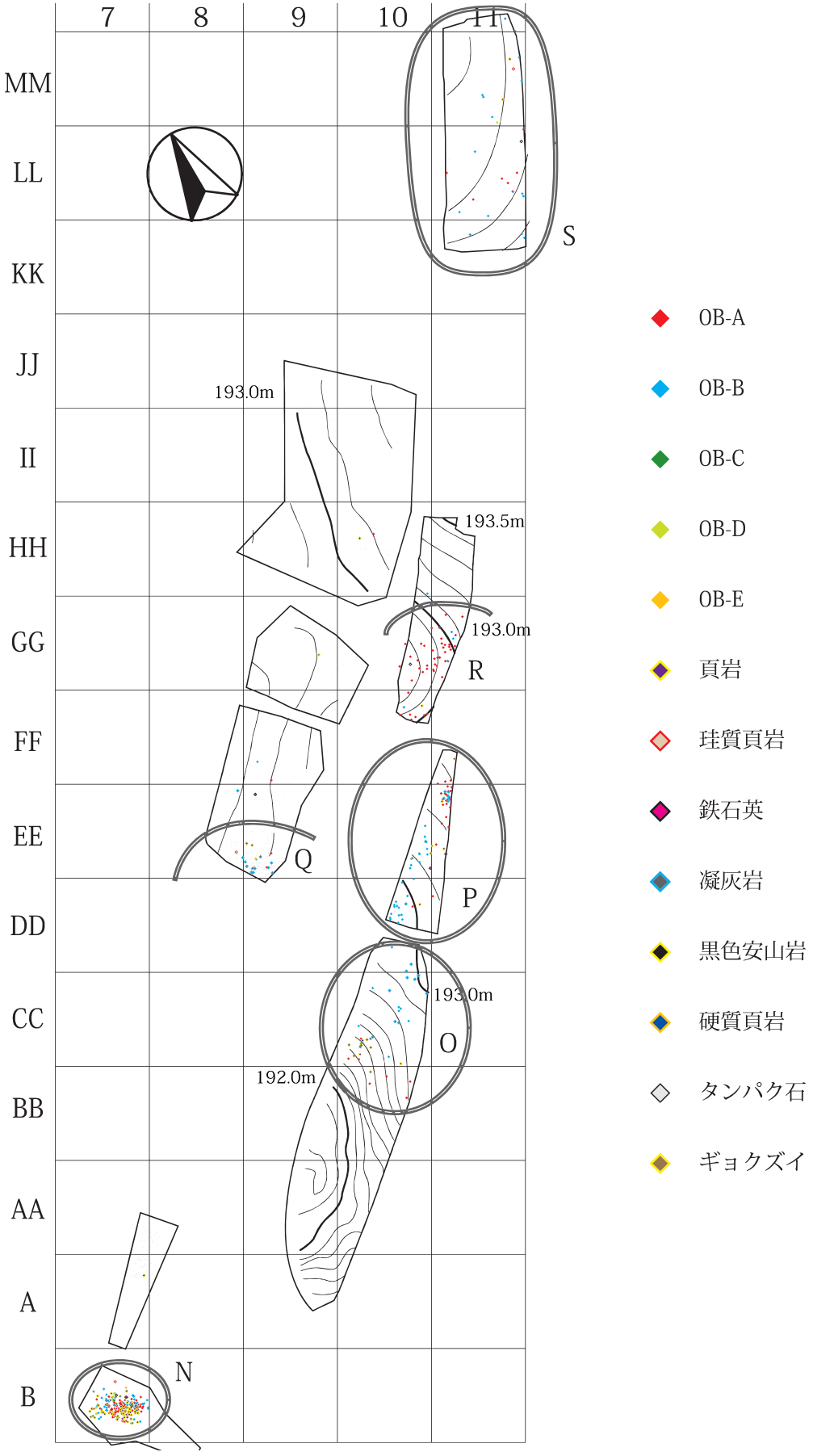
Ｏブロック（Ⅶ地区）



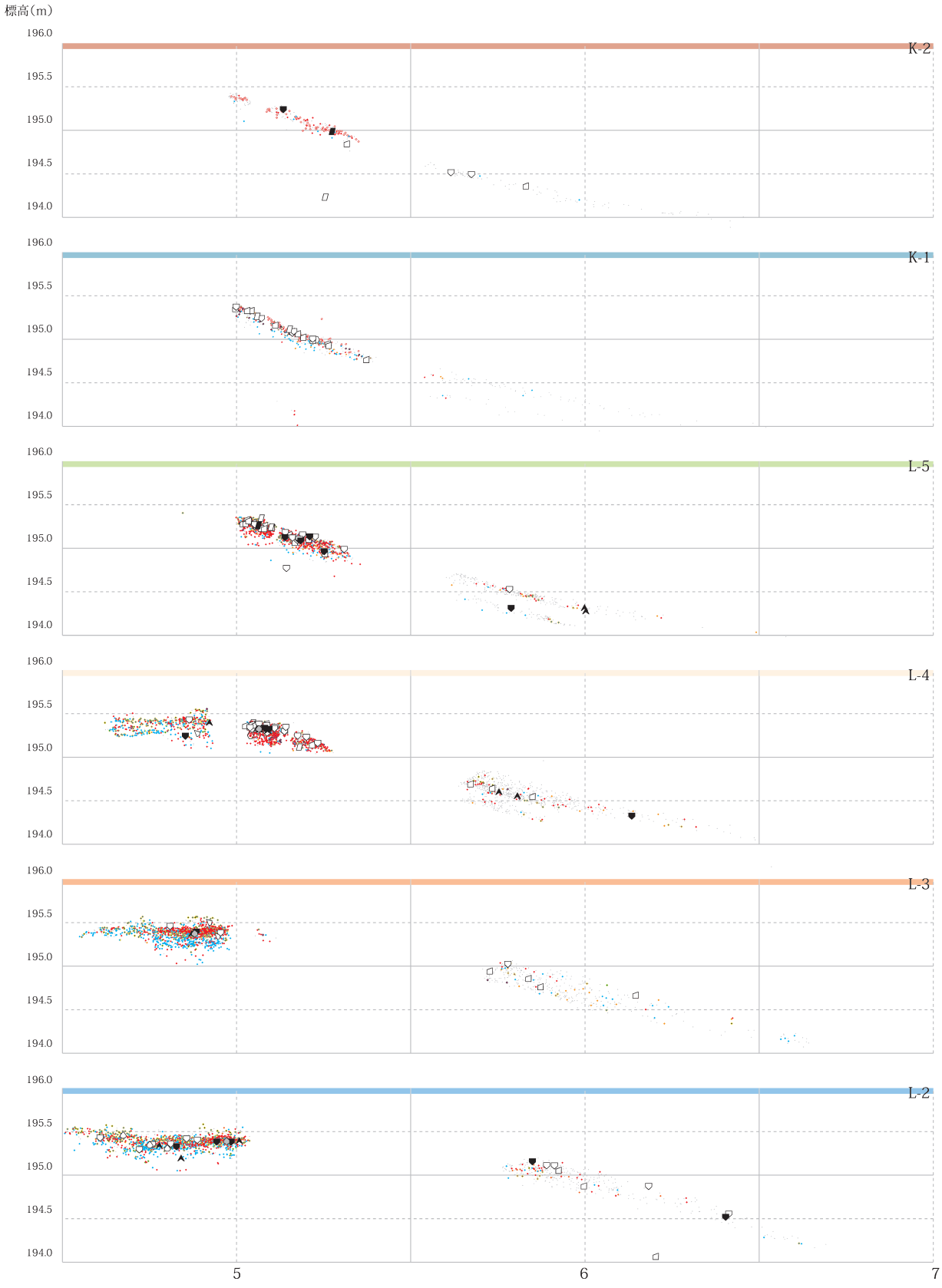
第174図　Ⅶ層石材別出土状況図



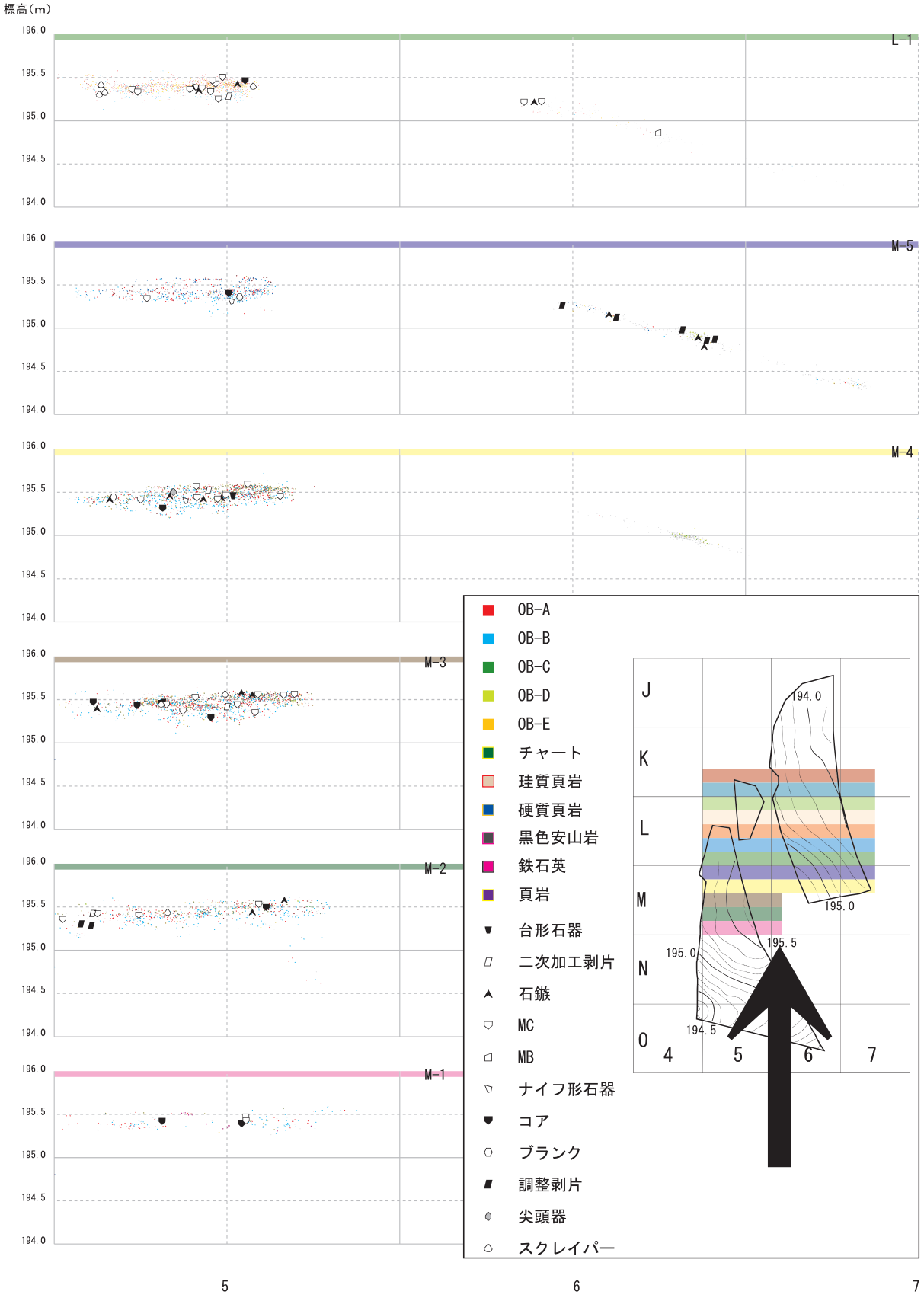
第175図　南区Ⅶ層石材別出土状況図



第176図　北区Ⅶ層石材別出土状況図



第177図　Ⅰ～Ⅲ地区Ⅶ層石器出土状況図（垂直分布）1



第178図　Ⅰ～Ⅲ地区Ⅶ層石器出土状況図（垂直分布）2

表68　Ⅶ層ブロック観察表（1）

ブロック	区	規模（m）	石材	総数	剥片等	細石刃(MB)	細石刃核(MC)	ブランク	スクレイパー	打再	作再	二次加工剥片	石鏃	石核	叩石	ナイフ形石器	三稜尖頭器	尖頭器	細石刃核調整剥片	微細剥離痕のある剥片	石族未成品	台形石器	礫	備考
A	I	3×3	OB-A	76	72		2							2										
			OB-B	182	180		1									1								
			OB-C	12	12																			
			OB-D	4	4																			
			OB-E																					
			ギョクズイ	2	2																			
			タンパク石	1	1																			
			チップ	49	49																			
			凝灰岩	1	1																			
			珪質頁岩	2	2																			
			硬砂岩	1	1																			
			硬質頁岩	75	73		1						1											
			黒色安山岩	55	55																			
			鉄石英	2	2																			
			頁岩	8	8																			
			計	470	462	0	4	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
B	I	3×3	OB-A	144	142		2																	
			OB-B	139	137			1						1										
			OB-C	3	3																			
			OB-D	3	3																			
			OB-E	1	1																			
			ギョクズイ	1	1																			
			タンパク石	1	1																			
			チップ	59	59																			
			安山岩	1	1																			
			硬砂岩	1	1																			
			硬質頁岩	54	54																			
			黒色安山岩	25	23							1	1											
			砂岩	1	1																			
			頁岩	10	10																			
			計	443	437	0	2	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C	I	6×6	OB-A	247	239		7							1										
			OB-B	387	378		4					1		3		1								
			OB-C	20	18		1			1														
			OB-D-1	11	11																			
			OB-E	1	1																			
			ギョクズイ	2	2																			
			タンパク石	5	5																			
			チップ	211	211																			
			凝灰岩	3	3																			
			凝灰岩質頁岩	1			1																	
			珪質頁岩	10	9								1											
			硬砂岩	1	1																			
			硬質頁岩	237	229		1		2			1		1				1			1	1		
			黒色安山岩	181	180		1																	
			鉄石英	8	8																			
			頁岩	18	15								3											
			計	1343	1310	0	15	0	2	1	0	2	4	5	0	1	0	1	0	0	1	1	0	
D	I	2×2	OB-A	93	88		5																	
			OB-B	129	122		2		1			1		1		2								
			OB-C	2	2																			
			OB-D	1	1																			
			OB-D-1	8	8																			
			OB-D-2	1	1																			
			タンパク石	1	1																			
			チップ	88	88																			
			チャート	1									1											
			凝灰岩	1	1																			
			珪質頁岩	1	1																			
			硬砂岩	1	1																			
			硬質頁岩	154	154																			
			黒色安山岩	94	92								1								1			
			砂岩	1	1																			
			鉄石英	4	4																			
			頁岩	11	10			1																
			計	591	575	0	7	1	1	0	0	1	2	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	

表69　Ⅶ層ブロック観察表（２）

ブロック	区	規模（m）	石材	総数	剥片等	細石刃(MB)	細石刃核(MC)	ブランク	スクレイパー	打再	作再	二次加工剥片	石鏃	石核	叩石	ナイフ形石器	三稜尖頭器	尖頭器	細石刃核調整剥片	微細剥離痕のある剥片	石族未成品	台形石器	礫	備考
E	I	4×4	OB-A	132	127		4		1															
			OB-B	149	147		2																	
			OB-C	2	2																			
			OB-D	1	1																			
			OB-D-1	5	5																			
			OB-D-E	3	2		1																	
			ギョクズイ	1	1																			
			タンパク石	2	2																			
			チップ	127	127																			
			凝灰岩	5	5																			
			珪質頁岩	2	2																			
			硬砂岩	4	4																			
			硬質頁岩	125	121				3				1											
			黒色安山岩	62	61				1															
			鉄石英	3	3																			
			頁岩	7	7																			
			計	1221	1192	0	14	1	6	0	0	1	3	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	
F	I	4×3	OB-A	230	225		1							1		2			1					
			OB-B	149	145		2							2										
			OB-C	1	1																			
			OB-D	1	1																			
			OB-D-1	11	11																			
			OB-D-E	4	4																			
			OB-E-1	1	1																			
			ギョクズイ	1	1																			
			タンパク石	3	3																			
			チップ	186	186																			
			チャート	1	1																			
			凝灰岩	4	4																			
			珪質頁岩	1	1																			
			硬砂岩	5	5																			
			硬質頁岩	172	165								3	1		1		1			1			
			黒色安山岩	51	47		1		1				1					1						
			鉄石英	3	3																			
			頁岩	14	14																			
			瑪瑙	1										1										
			計	839	818	0	4	0	1	0	0	0	4	5	0	3	0	2	1	0	1	0	0	
G	II	5×3	OB	4		4																		
			OB-A	1067	1045	6	13	1						1						1				
			OB-B	195	195																			
			OB-D-1	13	13																			
			OB-E	21	21																			
			OB-E-1	14	14																			
			ギョクズイ	66	66																			
			シルト質頁岩	1		1																		
			タンパク石	7	6							1												
			チップ	211	211																			
			チャート	2	2																			
			安山岩	1	1																			
			凝灰岩	2	1	1																		
			凝灰岩質頁岩	11	1		7			1	1	1												
			珪質頁岩	77	77																			
			硬砂岩	1	1																			
			硬質頁岩	258	248	4	1					1		2				1				1		
			黒色安山岩	30	29							1												
			黒曜石	1			1																	
			砂岩	3	2	1																		
			鉄石英	147	141	5								1										
			頁岩	65	63	2																		
			無斑晶質安山岩	1	1																			
			瑪瑙	2		1								1										
			－	7		4							2	1										
			計	2207	2138	29	22	1	0	1	1	4	2	6	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0
H	Ⅲ	2×2	OB-A	5	4									1										
			OB-B	2	2																			
			OB-E	1	1																			
			OB-E-1	2	2																			
			チップ	63	63																			
			チャート	41	40								1											
			硬質頁岩	7	6								1											
			黒色安山岩	2	1								1											
			鉄石英	1	1																			
			頁岩	10	10																			
			計	134	130	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表70　Ⅶ層ブロック観察表（３）

ブロック	区	規模（m）	石材	総数	剥片等	細石刃(MB)	細石刃核(MC)	ブランク	スクレイパー	打再	作再	二次加工剥片	石鏃	石核	叩石	ナイフ形石器	三稜尖頭器	尖頭器	細石刃核調整剥片	微細剥離痕のある剥片	石族未成品	台形石器	礫	備考
I	Ⅲ	1×1	OB	1		1																		
			OB-A	12	9		1							1					1					
			OB-E	2	1	1																		
			チップ	11	11																			
			硬質頁岩	1	1																			
			計	27	22	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
J	Ⅲ	4×4	OB	1									1											
			OB-A	55	48	2	3							1						1				
			OB-B	23	23																			
			OB-D	1		1																		
			OB-D-1	1	1																			
			OB-E	21	20	1																		
			OB-E-1	2	2																			
			タンパク石	3	3																			
			チップ	22	22																			
			凝灰岩質頁岩	2	1		1																	
			硬質頁岩	3	3																			
			黒色安山岩	2	1	1																		
			頁岩	10	10																			
			－	1		1																		
			計	147	134	6	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
K	Ⅲ	4×3	OB-A	50	47	1	1						1											
			OB-B	11	11																			
			OB-E	4	4																			
			OB-E-1	2	2																			
			ギョクズイ	2	2																			
			チップ	47	47																			
			珪質頁岩	1	1																			
			硬質頁岩	11	10									1										
			黒色安山岩	6	5																	1		
			砂岩	1	1																			
			鉄石英	3	3																			
			頁岩	9	8	1																		
			－	1		1																		
			計	148	141	3	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
LM	Ⅳ	4	OB-A	11	11																			
			OB-B	100	98		2																	
			OB-D-1	1	1																			
			OB-E	2	2																			
			シルト質頁岩	1	1																			
			タンパク石	5	5																			
			チップ	6	6																			
			チャート	2	2																			
			安山岩	1	1																			
			凝灰岩質頁岩	1																		1		
			珪質頁岩	7	7																			
			硬質頁岩	1																			1	
			砂岩	2	1										1									
			鉄石英	16	16																			
			頁岩	7	7																			
			計	155	150	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
N	V		OB-A	66	66																			
			OB-B	72	71		1																	
			OB-C	1	1																			
			OB-D-1	5	5																			
			OB-E	1	1																			
			OB-E-1	1	1																			
			タンパク石	2	2																			
			チップ	2	2																			
			安山岩	5	5																			
			凝灰岩	2	2																			
			凝灰岩質頁岩	30	11		14				5													
			珪質頁岩	4	4																			
			硬質頁岩	10	10																			
			鉄石英	1	1																			
			頁岩	55	55																			
			計	257	237	0	15	0	0	0	5													

遺物総数43点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比はOB-Aが7点，OB-Bが10点，凝灰岩が12点，硬質頁岩7点である。

Pブロック（Ⅷ地区）

遺物総数79点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成比はOB-Aが29点，OB-Bが27点，凝灰岩が9点である。

Qブロック（Ⅸ地区）

遺物総数38点で構成されるブロックである。石材別の構成はOB-Aが5点，OB-Bが3点，凝灰岩が11点，硬質頁岩3点である。

Rブロック（XII地区）

遺物総数57点で構成されるブロックである。石材別の構成は，OB-Aが44点，OB-Bが5点である。定型石器はなく，二次加工剥片1点のみの出土である。

Sブロック（XIII地区）

遺物総数49点で構成されるブロックである。主要な石材別の構成は，OB-Aが8点，OB-Bの17点である。

表71　Ⅶ層ブロック観察表（4）

ブロック	区	規模（m）	石材	総数	剥片等	細石刃(MB)	細石刃核(MC)	ブランク	スクレイパー	打再	作再	二次加工剥片	石鏃	石核	叩石	ナイフ形石器	三稜尖頭器	尖頭器	細石刃核調整剥片	微細剥離痕のある剥片	石族未成品	台形石器	礫	備考
OP	Ⅶ Ⅷ		OB	1		1																		
			OB-A	36	35		1																	
			OB-B	37	35			2																
			SH	1		1																		
			ギョクズイ	1	1																			
			タンパク石	1	1																			
			チップ	5	5																			
			凝灰岩	21	21																			
			硬質頁岩	8	8																			
			黒色安山岩	1	1																			
			鉄石英	2	2																			
			頁岩	8	7	1																		
			計	122	116	3	1	2	0	0	0													
Q	Ⅸ		OB-A	5	5																			
			OB-B	3	3																			
			OB-E-1	1	1																			
			チップ	13	13																			
			凝灰岩	11	10		1																	
			珪質頁岩	1		1																		
			硬質頁岩	3	2	1																		
			鉄石英	1		1																		
			計	38	34	3	1	0	0	0	0													
RS	XII		OB	1													1							
			OB-A	52	52																			
			OB-B	22	21							1												
			OB-D-1	2	2																			
			タンパク石	1	1																			
			チップ	21	21																			
			珪質頁岩	1							1													
			硬質頁岩	1	1																			
			水晶	2	2																			
			鉄石英	1	1																			
			頁岩	2	2																			
			-		1																			
			計	106	104	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
			総計	7448	7214	46	87	5	10	2	7	9	20	22	1	8	1	4	2	2	4	4	1	

3　出土遺物

⑴　Ⅰ地区の出土遺物

Aブロック

51は鉄石英製の細石刃核の作業面再生剥片である。細石刃核を大きく斜めに切る形で再生がなされている。再生後も，主剥離面から側面にかけて細かい調整が施されている。52はOB-A製の細石刃核である。角礫から素材剥片を獲得し，主剥離面を側面に利用し，打面形成後，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。左側面と背面に自然面を残す。53はOB-A製の石核である。円礫を分割後，分割面を打面として剥片剥離が行われている。一部打面転移が観察される。54はOB-A製の石核である。円礫を分割後，分割面を打面として剥片剥離が行われている。打面の再生が観察される。55は細石刃核と考えられる。樋状剥離は1条のみで，器種認定は流動的である。56は硬質頁岩製の石鏃あるいは尖頭器の未製品である。剥片の両面に平坦剥離を施しているが，押圧剥離を施すに至っていない。

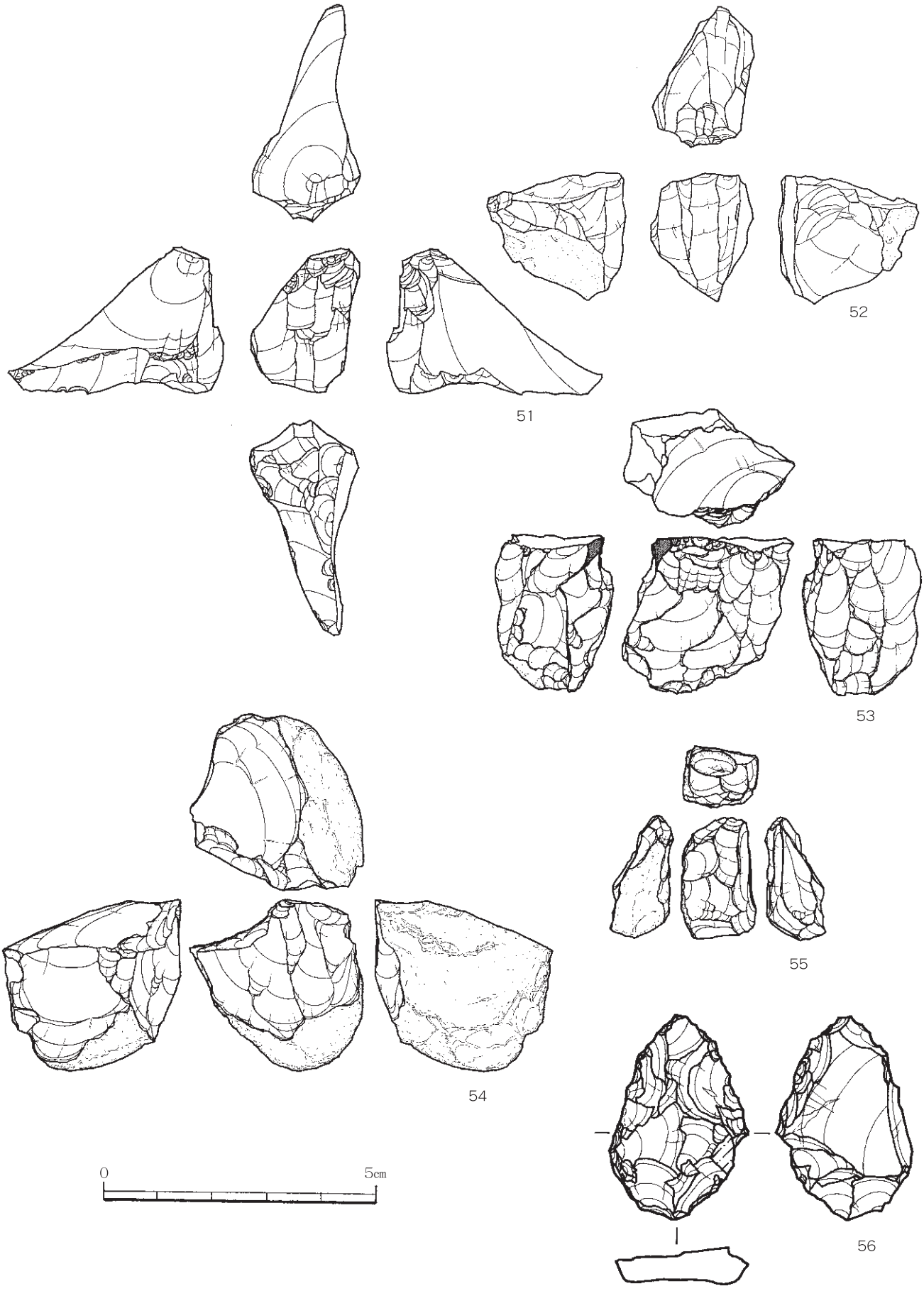
Bブロック

57はOB-B製の石器である。細石刃核のブランクと思われるが，認定は流動的である。58はOB-A製の細石刃核である。円礫から素材剥片を獲得し，左側面に主剥離面を，右側面は下縁及び打面側からの調整により構成される。下縁から尾縁にかけて，スクレイパーエッジ状の微細剥離が確認される。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。59はOB-B製の石器である。厚手の剥片の主剥離面を打面として剥離が行われているため，石核として分類したが，端部に微細剥離が確認されることから，厚手の掻器として認定できる可能性もある。60はOB-A製の細石刃核である。円礫から厚手の剥片を獲得し，石核整形をあまり施さずに打面調整を施しながら細石刃を剥出している。61は黒色安山岩製の二次加工剥片である。剥片の下端に二次加工が確認される。62は硬質頁岩製のスクレイパーである。薄手の剥片の縁辺から背腹両面に押圧剥離により刃部を形成している。石鏃などの未製品の可能性もある。63は硬質頁岩製の剥片である。剥離時に打面から2つに割れている。64はOB-A製の剥片である。打面側が欠損している。65は黒色安山岩製の石鏃である。平基の三角形鏃で，先端部は欠損している。

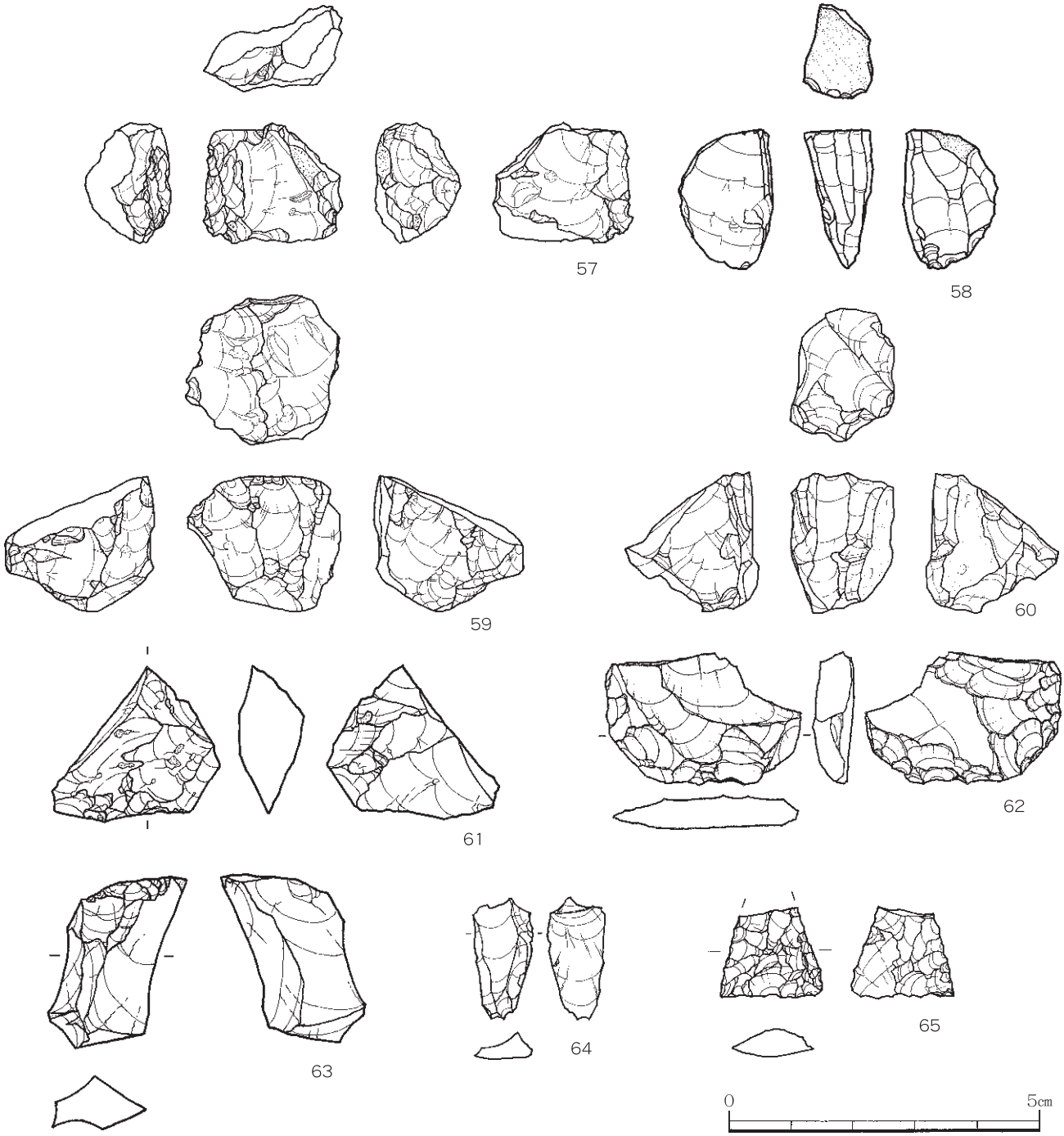
Cブロック

69は凝灰岩質頁岩製の細石刃核である。薄手の剥片の下端に狭長な作業面を設定し，細石刃を剥出している。打面は側方からの連続する剥離により形成している。70はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を横位に利用し，石核整形をあまり施さずに打面調整を施しながら細石刃を剥出している。打面に，打面調整に切られる形で側方からの連続する剥離痕が観察される。71はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の縁辺に狭長な作業面を設定し，石核整形を施さずに打面調整を施しながら細石刃を剥出している。72はOB-B製の細石刃核である。円礫から礫皮面を取り込む形で素材剥片を獲得し，下端に作業面を設定している。打面は側方からの大きな剥離により形成され，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。73はOB-A製の細石刃核である。円礫を取り込む形で素材剥片を剥出し，打面から片側側面に石核整形を施した後，小口部から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。下縁からの調整がみられる。74はOB-B製の二次加工剥片である。剥片の主剥離面を打面として，バルブを除去する形で二次加工が施されている。75はOB-B製の石器である。小型の石核あるいは厚手の掻器に分類できる可能性がある。76はOB-A製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。77はOB-C製の細石刃核である。小型角礫を分割し，分割面を打面として打面調整を施しながら細石刃を剥出している。石核整形は右側面に打面側からの整形剥離が若干観察される。78はOB-A製の細石刃核である。作業面は相対する2面に設定されており，樋状剥離の下端が錯交する形となっている。79はOB-A製の細石刃核である。樋状剥離がはっきりせず，認定は流動的である。80は黒色安山岩製の細石刃核である。樋状剥離がはっきりせず，認定は流動的である。81はOB-B製の細石刃核である。樋状剥離がはっきりせず，認定は流動的である。82はOB-C製の打面再生剥片である。背面からの再生作業である。83はOB-B製の細石刃核である。礫皮面を取り込んだ剥片を素材とし，主剥離面を側面に利用して石核整形を施さずに細石刃を剥出している。打面には両側方からの剥離が確認され，固定具によるものと考えられる。84は珪質頁岩製，85は頁岩製の石鏃である。いずれも平基の二等辺三角形鏃である。85は素材剥片の主剥離面を残している。86は頁岩製の石鏃あるいは尖頭器の未製品である。大半は欠損しているため全体は明らかでないが，素材が厚いため，スクレイパー等の他の器種に分類される可能性もある。87は頁岩製の石鏃である，礫皮面を残す剥片を素材とし，調整は縁辺のみに施されているため中央部に礫皮面及び主剥離面を大きく残している。先端部は欠損している。88は硬質頁岩製の石鏃未製品である。平基の二等辺三角形鏃を製作しようとする意図がみられるが，打瘤を除去できずに未製品となっている。89は頁岩製の平基の二等辺三角形鏃である。先端部が欠損している。90は硬質頁岩製の尖頭器あるいは石鏃未製品である。両面への平坦剥離により全体を整形した段階であり，押圧剥離に至っていない。

91は土器片である。厚手で，外面に2条の隆帯文が横位に貼り付けられている。隆帯はつまみによると思われる窪みがある。内面は横方向のナデである。92は土器片である。厚手であり，表面に沈線状の条痕が横方向にい



第179図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（１）（Ａブロック）

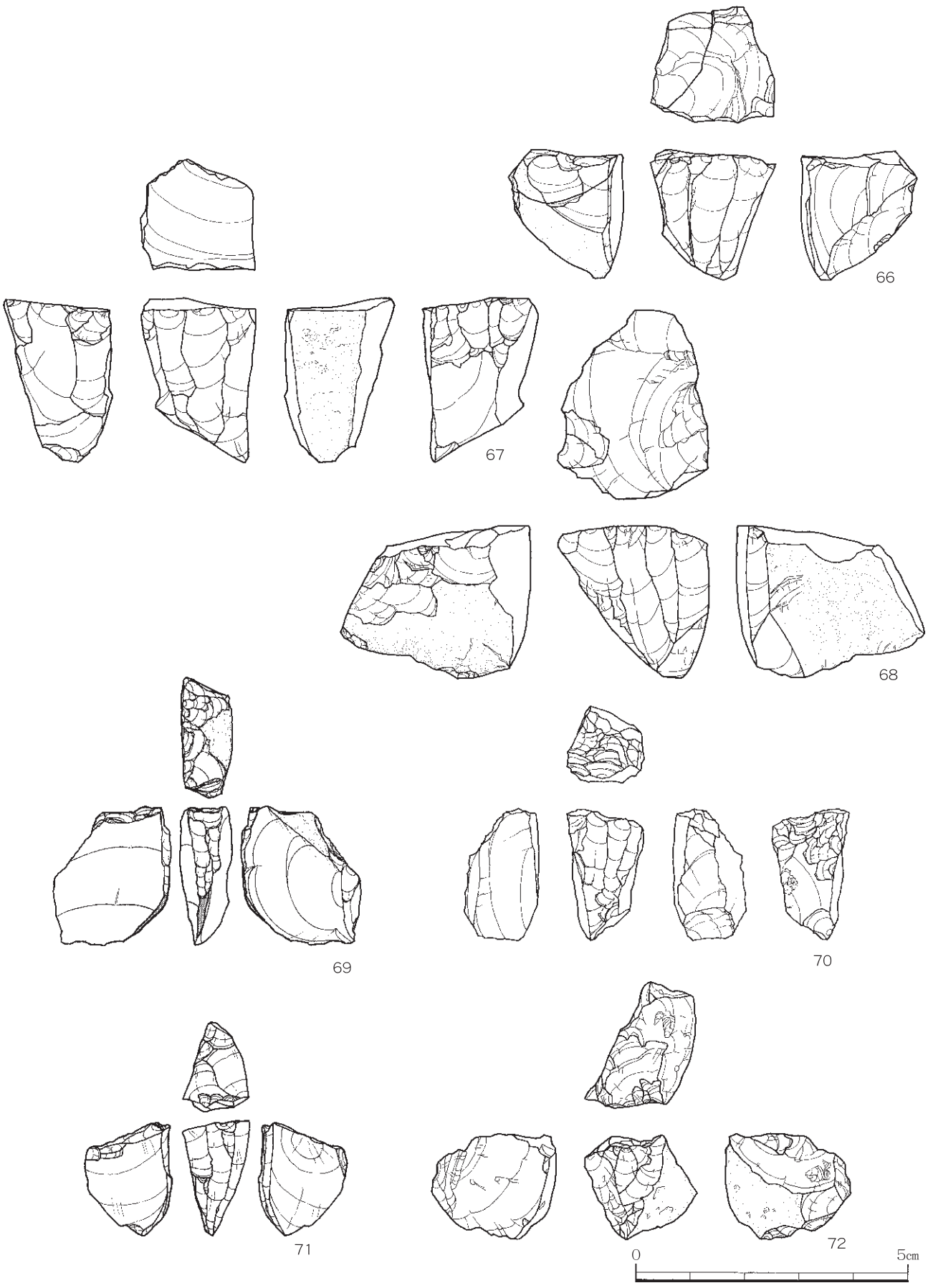


第180図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（２）（Ｂブロック）

くつか確認される。内面は横方向のナデが確認される。93はOB-B製の石核である。厚手の剥片の主剥離面を打面として剥片を剥離している。94は硬質頁岩製の石器である。スクレイパー，ブランク，石核などの可能性が考えられる。95はOB-B製の石核である。打面に自然面を残す。96は硬質頁岩製の石核である。両面に求心状の剥離痕が観察され，結果残核形態が扁平となっている。97は硬質頁岩製のスクレイパーである。薄手の剥片の一端に片側のみに二次加工を施し刃部を形成している。98は硬質頁岩製の二次加工剥片である。薄手の剥片の両面に二次加工が施されている。

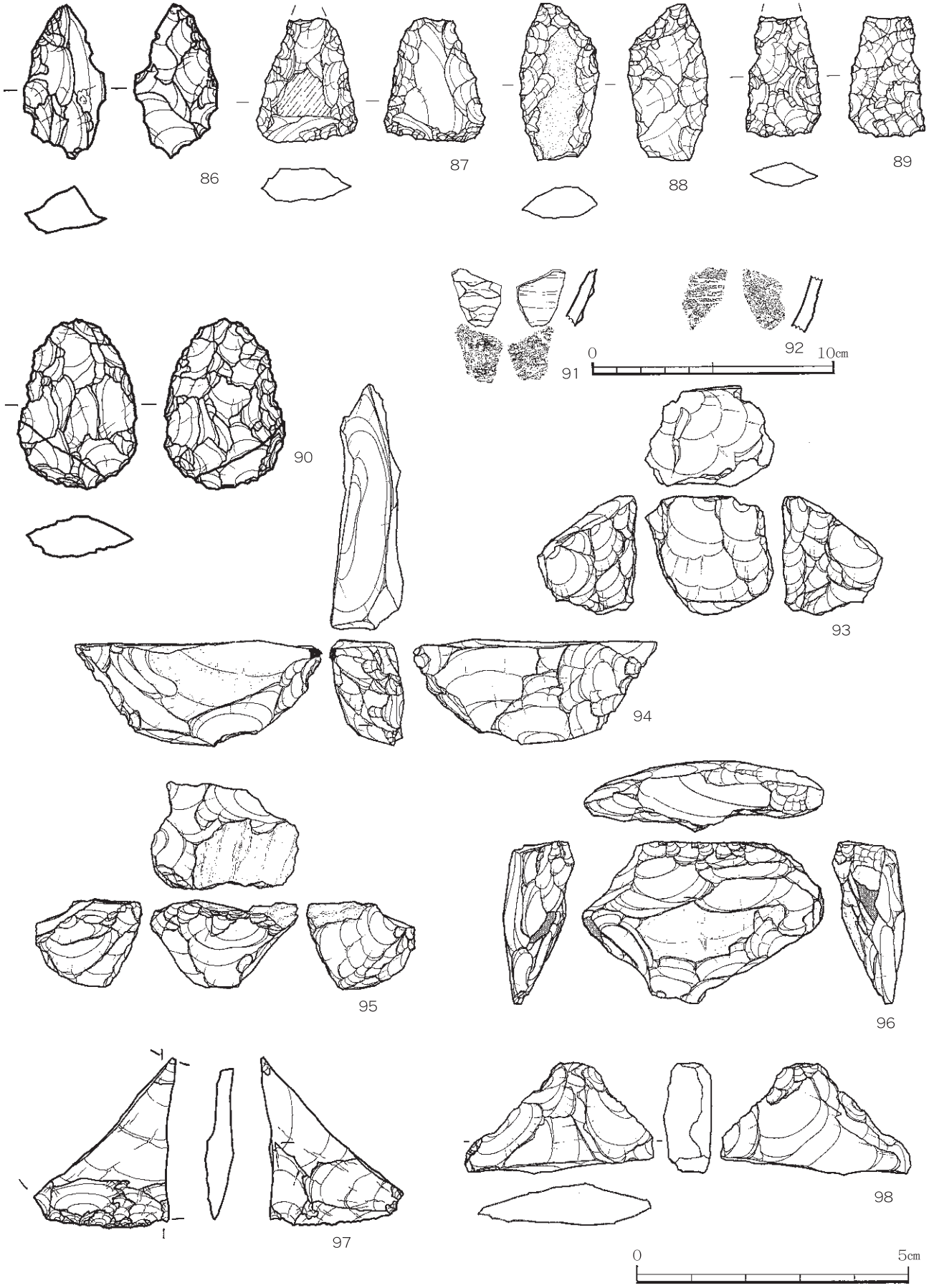
Dブロック

99はOB-A製の細石刃核である。礫皮面を残す剥片を素材とし，主剥離面を側面に利用し，側方からの連続する剥離により打面を形成し，小口部から細石刃を剥出している。100はOB-A製の細石刃核である。礫皮面を左側面に残し，右側面は打面からと下縁からの石核整形が施されている。狭長な作業面を有する。101はOB-B製のス

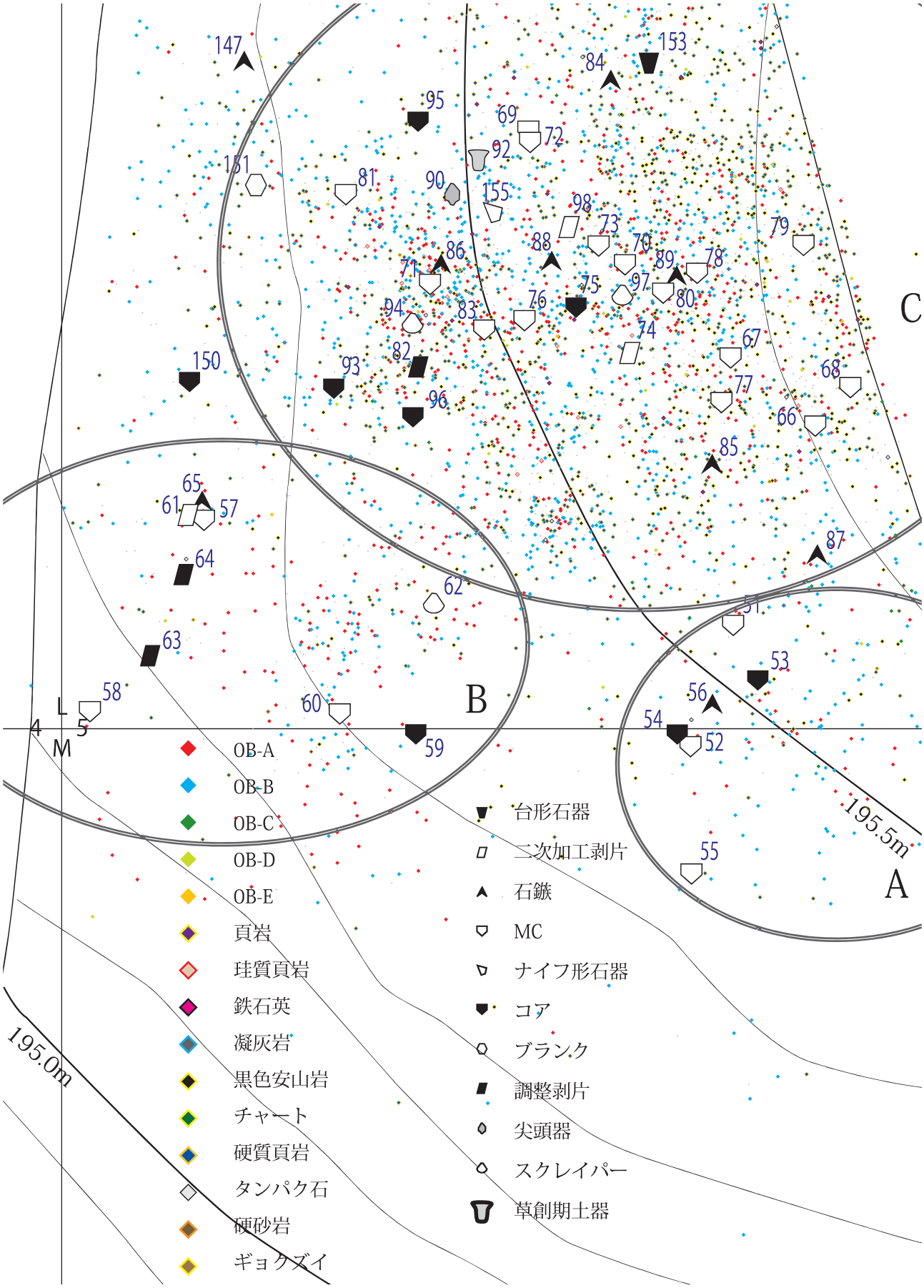


第181図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（３）（Ｃブロック）

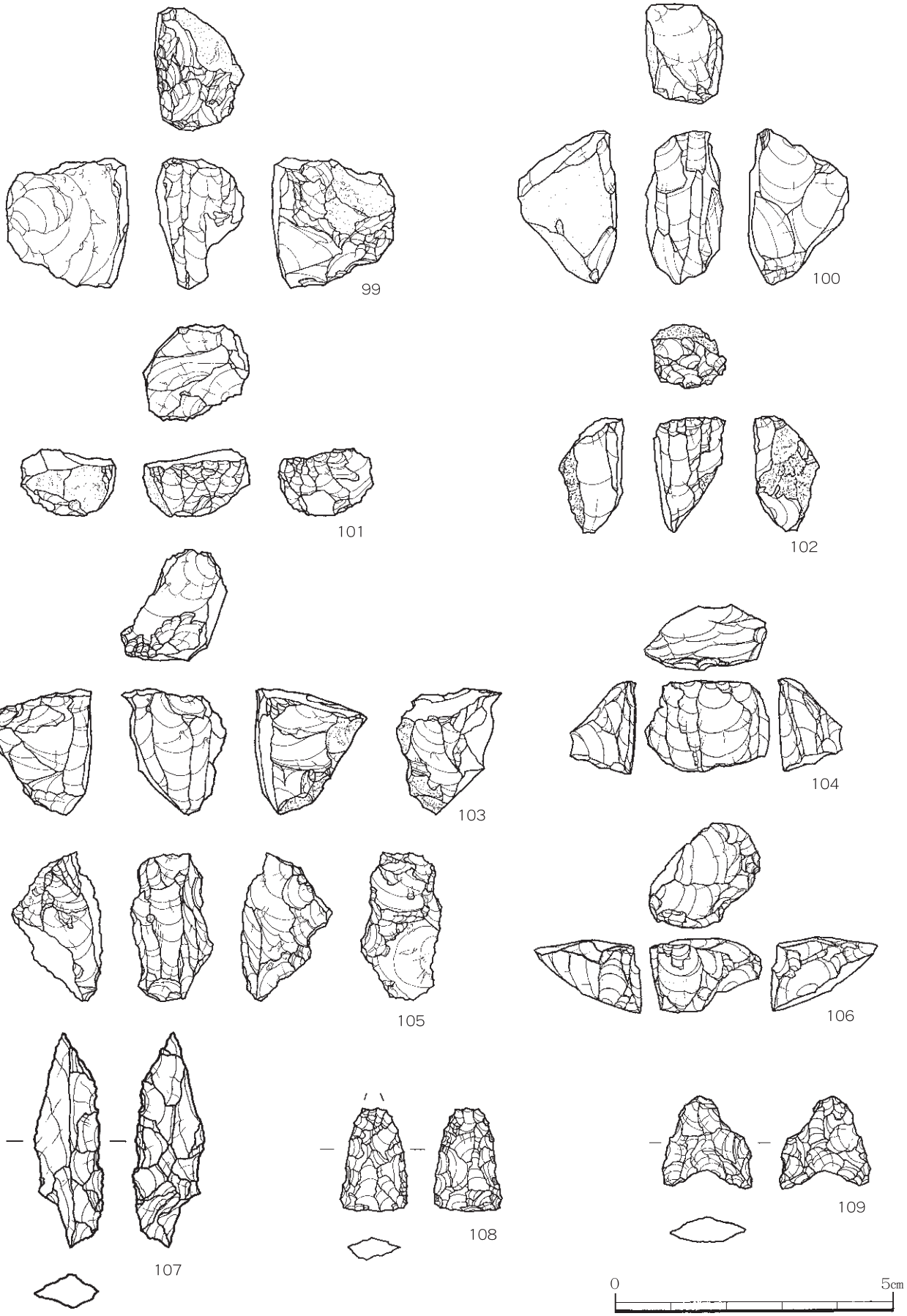
第182図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（４）（Ｃブロック）



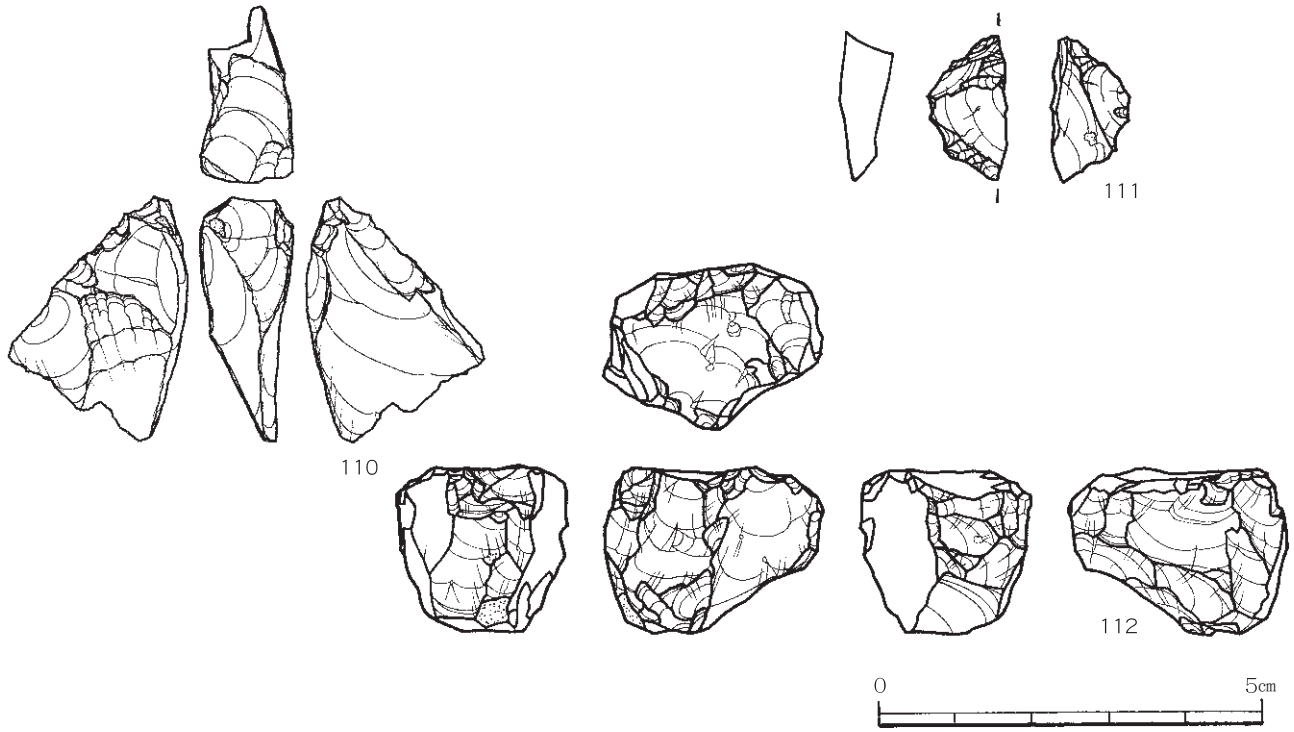
第183図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（５）（Ｃブロック）



第184図　Ⅰ地区南Ⅶ層石器出土状況図



第185図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（６）（Ｄブロック）



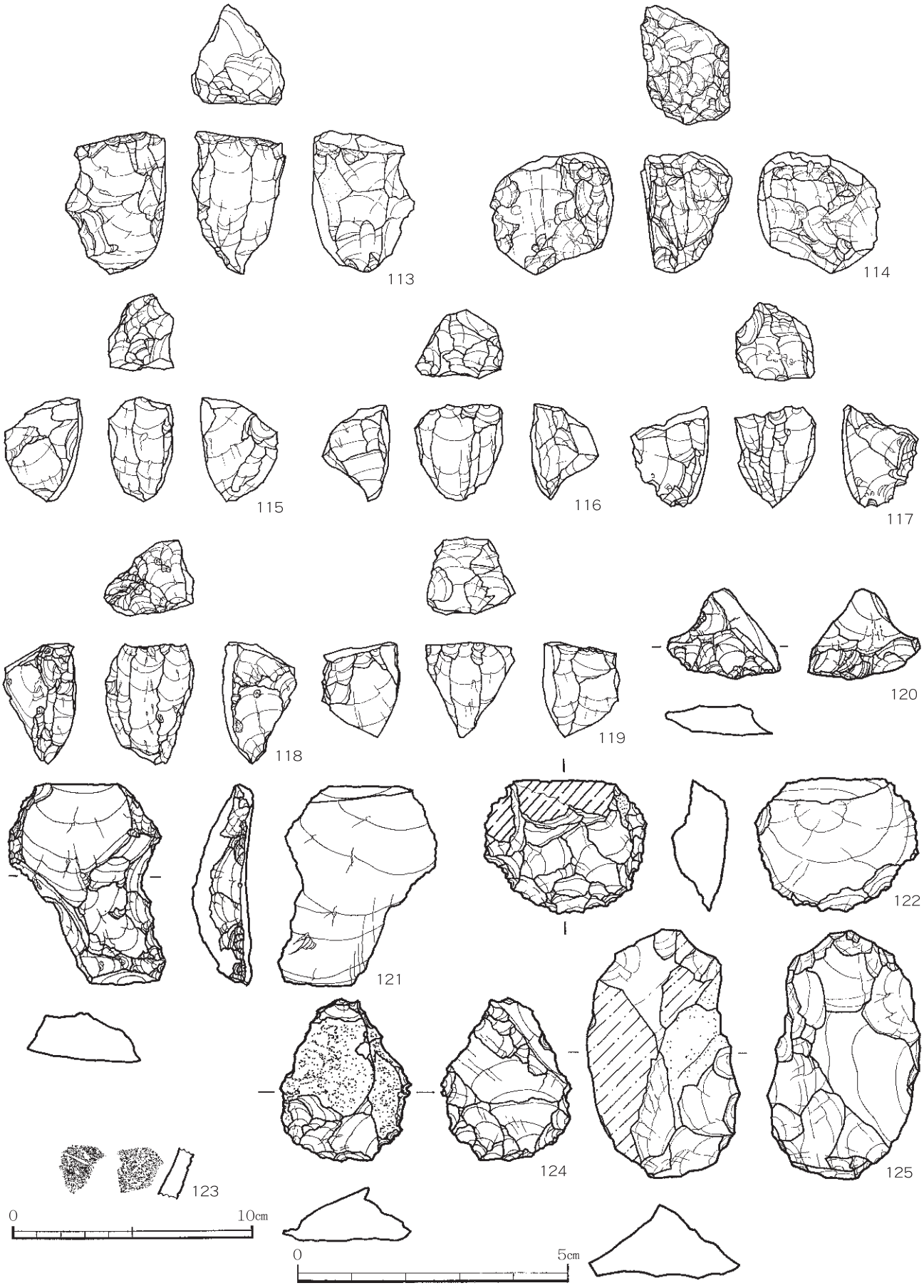
第186図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（7）（Dブロック）

クレイパーである。厚手の剥片の一端に急角度の二次加工により刃部を形成している。刃部には使用による微細剥離が観察される。102はOB-A製の細石刃核である。小型の角礫から素材剥片を獲得し，主剥離面を側面に利用し，打面形成後，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。103はOB-A製の細石刃核である。小型の円礫から素材剥片を獲得し，主剥離面を打面に設定し，打面から石核整形を施し，小口部から細石刃を剥出している。作業面は相対する2面に設定される。104はOB-A製の細石刃核である。素材の長軸側に作業面を設定し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。105はOB-B製の細石刃核である。狭長な作業面を設定し，細石刃を剥出している。106はOB-B製の細石刃核である。平坦な素材の一端に打面を180°転移しながら短い細石刃を剥出している。107は黒色安山岩の石鏃未製品である。両面に平坦剥離が施されている。欠損品であることを考慮しても大型であるため，スクレイパー等他の器種に分類される可能性もある。108は黒色安山岩製の石鏃である。小型の平基二等辺三角形鏃である。109はチャート製の石鏃である。凹基無茎鏃で，先端部が欠損している。110は頁岩製の石器である。剥片に二次加工を施してあり，ここではブランクと分類したが，他の器種に分類される可能性もある。111はOB-B製の二次加工剥片である。112はOB-B製の石核である。細石刃核のブランクの可能性もある。

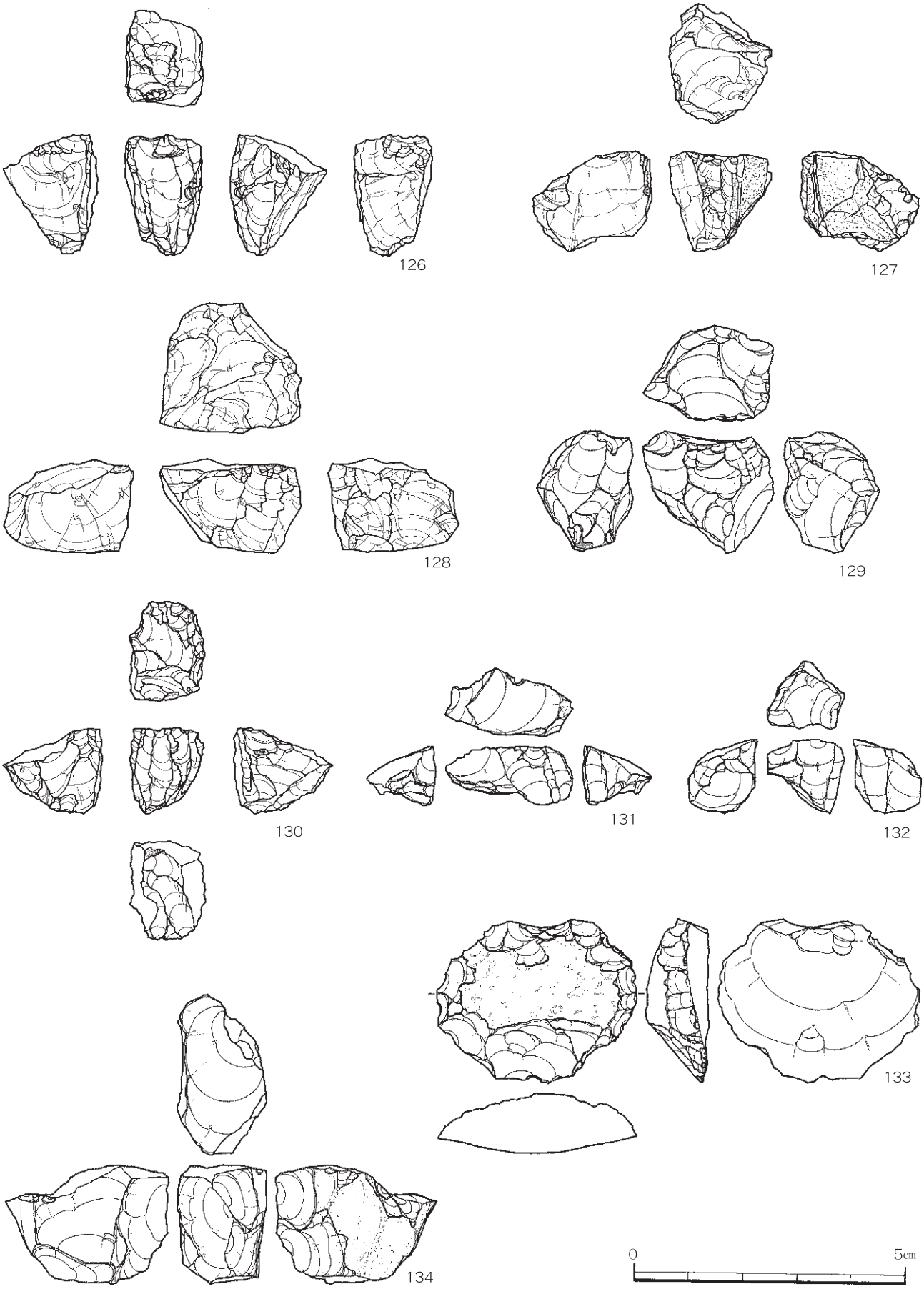
Eブロック

113はOB-A製の細石刃核である。尾縁に細かい調整がみられる。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。114はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面は側方からの連続する剥離により形成される。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。115はOB-E製の細石刃核である。116はOB-A製の細石刃核である。小型の角礫を素材とし，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。117はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。尾縁に調整がみられる。118はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。119はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。120は硬質頁岩製のスクレイパーである。剥片の両面に二次加工を施し，刃部を形成している。石鏃未製品の可能性もある。121はOB-A製のスクレイパーである。剥片の両側縁にノッチ状の二次加工により刃部を形成している。122は硬質頁岩製のスクレイパーである。剥片の端部に腹面からのやや角度のある二次加工により刃部を形成している。一部腹面側にも二次加工が観察される。

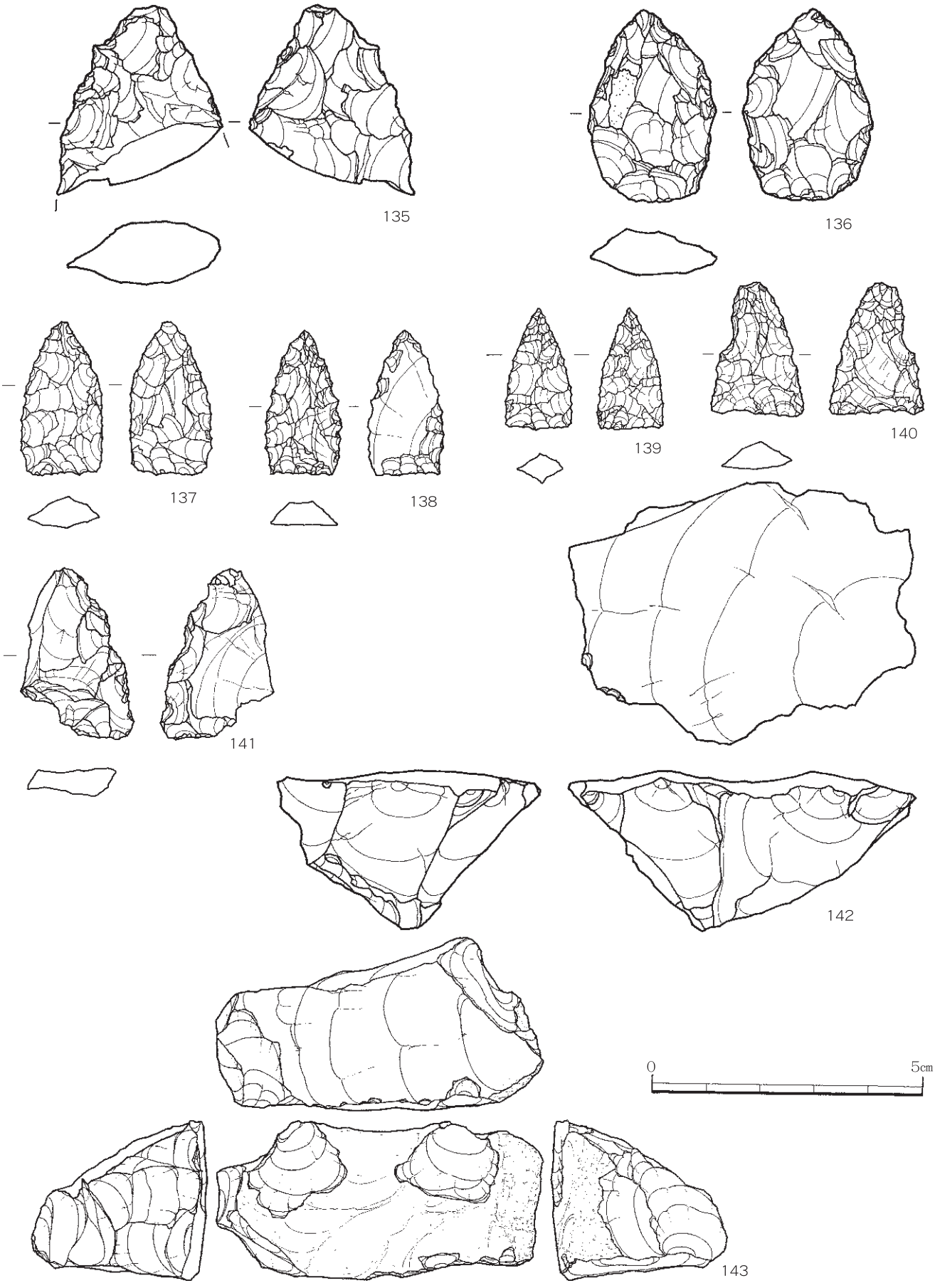
123は厚手の土器片である。外面に沈線が1条わずかに確認される。内面の調整については明確でない。下部に厚みが大きくなり，底部に近い可能性がある。124は黒色安山岩製のスクレイパーあるいは石鏃未製品である。125



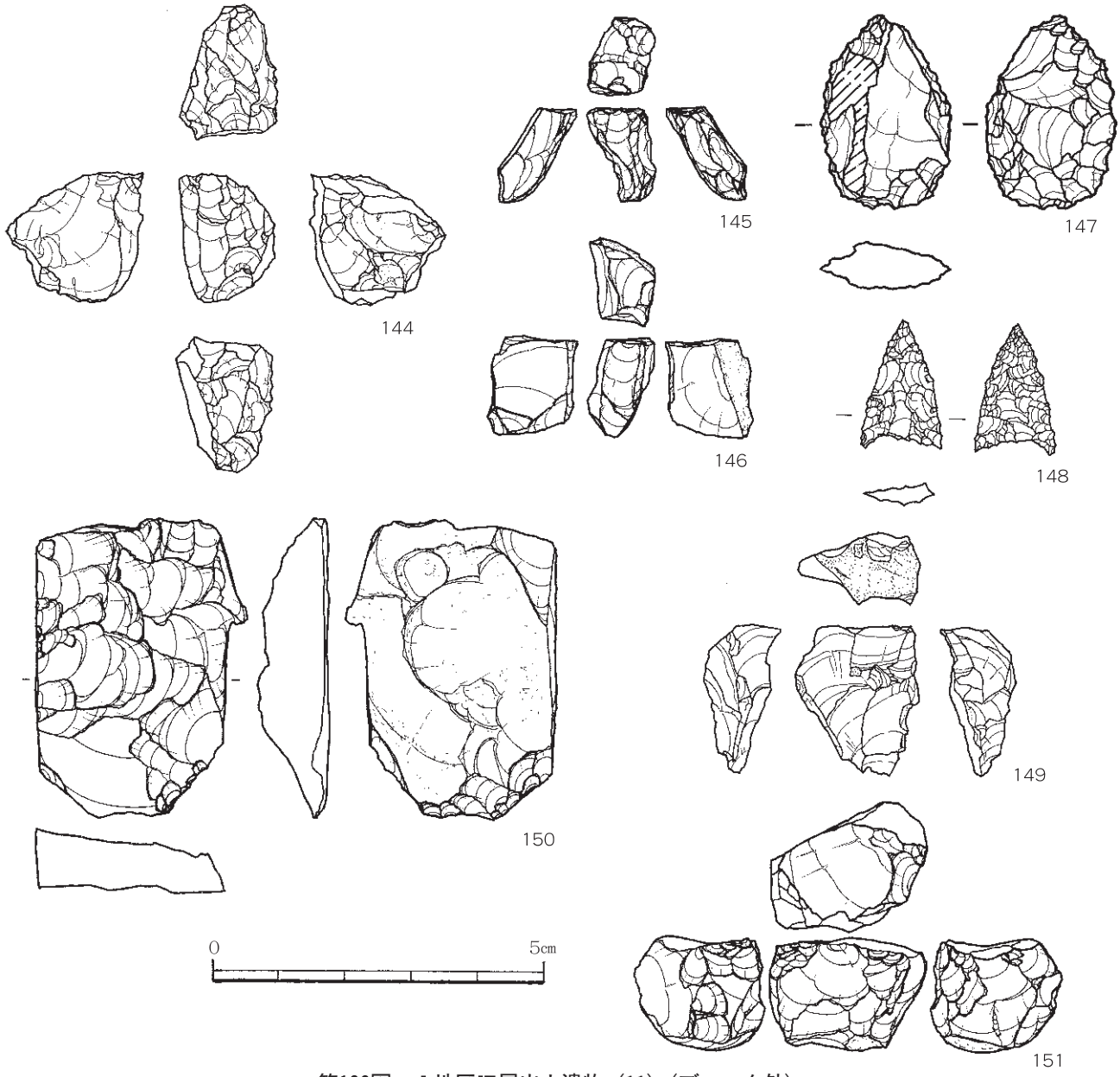
第187図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（８）（Ｅブロック）



第188図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（９）（Ｆブロック）



第189図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（10）（Ｆブロック）

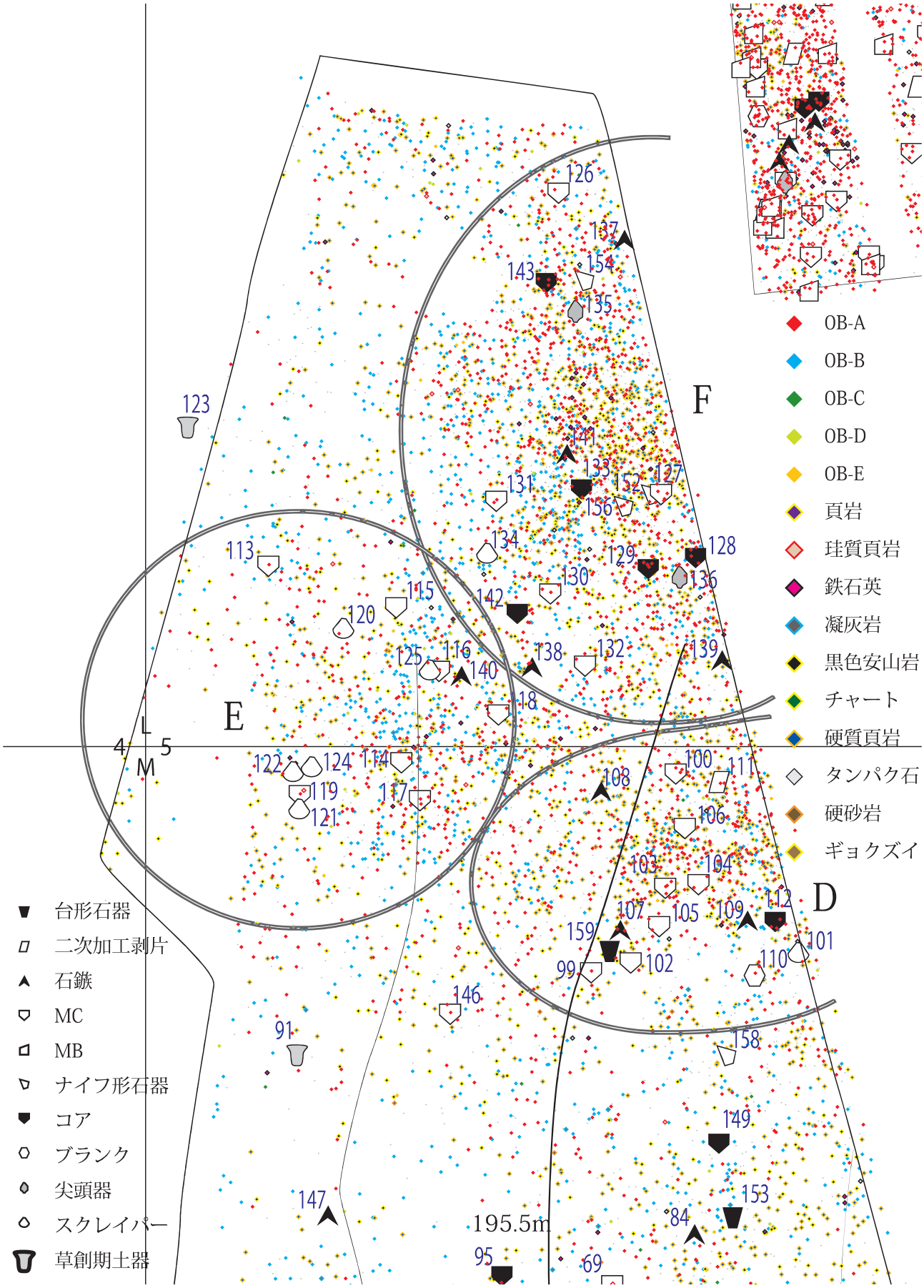


第190図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（11）（ブロック外）

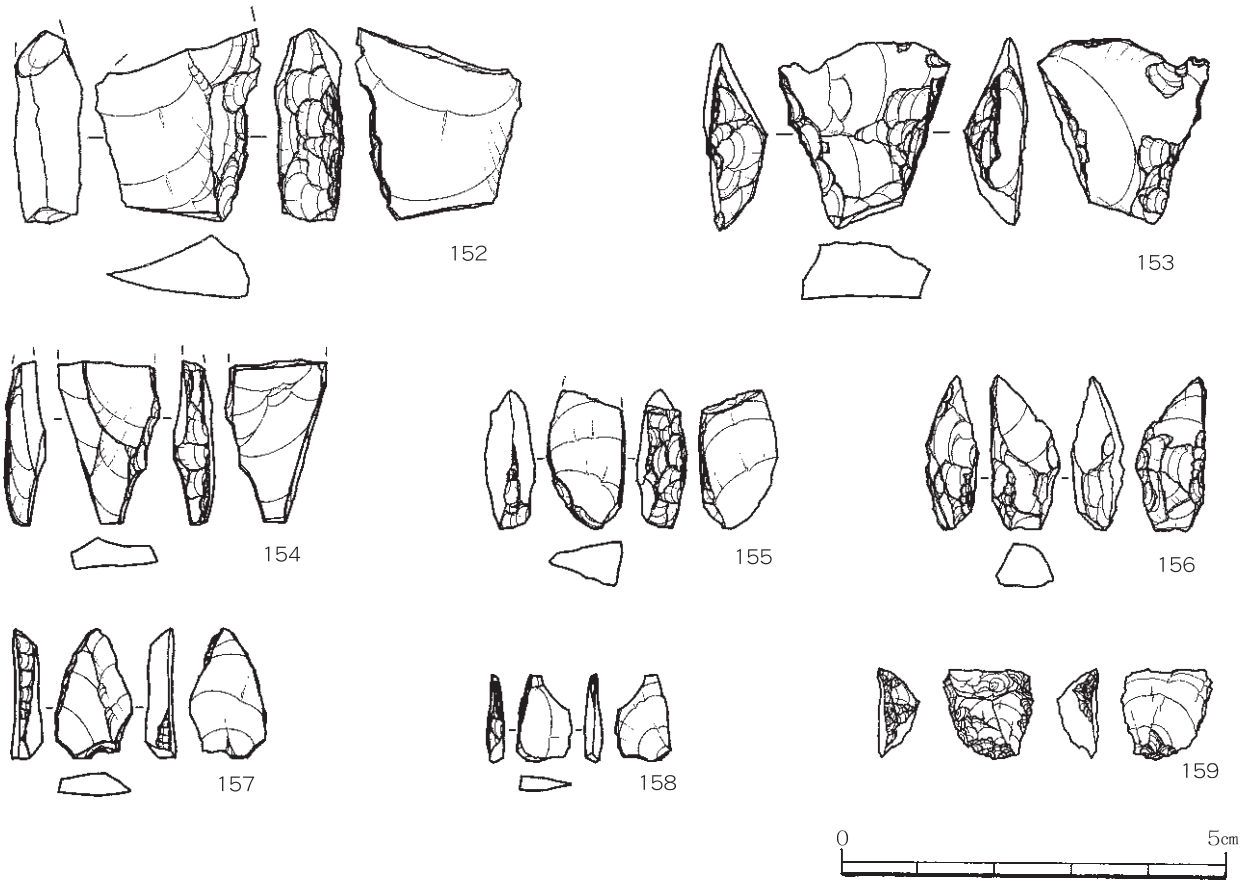
は硬質頁岩製のスクレイパーである。厚手の素材の両面への二次加工により刃部を形成している。

Fブロック

126はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。127はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。左側面に磨滅が，打面には両側面からの細かい剥離が観察され，いずれも固定具によるものと考えられる。128はOB-B製の石核あるいは細石刃核のブランクである。129はOB-A製の石核あるいは細石刃核のブランクである。130はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。作業面は相対する2面に設定され，打面には両側面からの細かい剥離が観察される。131はOB-A製の細石刃核調整剥片である。132は黒色安山岩製の細石刃核である。樋状剥離があまりはっきりせず，器種認定については流動的である。133はOB-B製の石核あるいは細石刃核のブランクである。134は黒色安山岩製のスクレイパーである。剥片の周縁にやや角度のある二次加工を施し，刃部を形成している。135は黒色安山岩製の尖頭器である。両面への調整は粗く，大型であることから未製品の可能性もある。欠損品である。136は硬質頁岩製の尖頭器である。Cブロック90の石器と石材，規格，製作技術が酷似している。137は硬質頁岩製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃で，一部素材の主剥離面を



第191図　Ⅰ地区北Ⅶ層石器出土状況図



第192図　Ⅰ地区Ⅶ層出土遺物（12）（ナイフ形石器・台形石器）

残す。138は硬質頁岩製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃で，剥離は背面に集中する。腹面への加工は一部分のみに限られ，いずれも縁辺のみの加工であるため，素材の主剥離面を大きく残す。139は黒色安山岩製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃である。140は硬質頁岩製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃である。素材の打瘤部を先端部に設定しており，その打瘤が除去できずに，未製品で破棄されている。141は硬質頁岩製の石鏃未製品である。142は硬質頁岩製の石核である。厚手の剥片を素材とし，主剥離面を打面として設定している。打面から周縁に作業面を設定し，打面調整を施さずに剥片を剥離している。石材，剥離された剥片の規格等から，石鏃の素材剥片を剥出したものと考えられる。143は瑪瑙製の石核である。

礫の分割面を打面に設定し，剥片を剥離している。

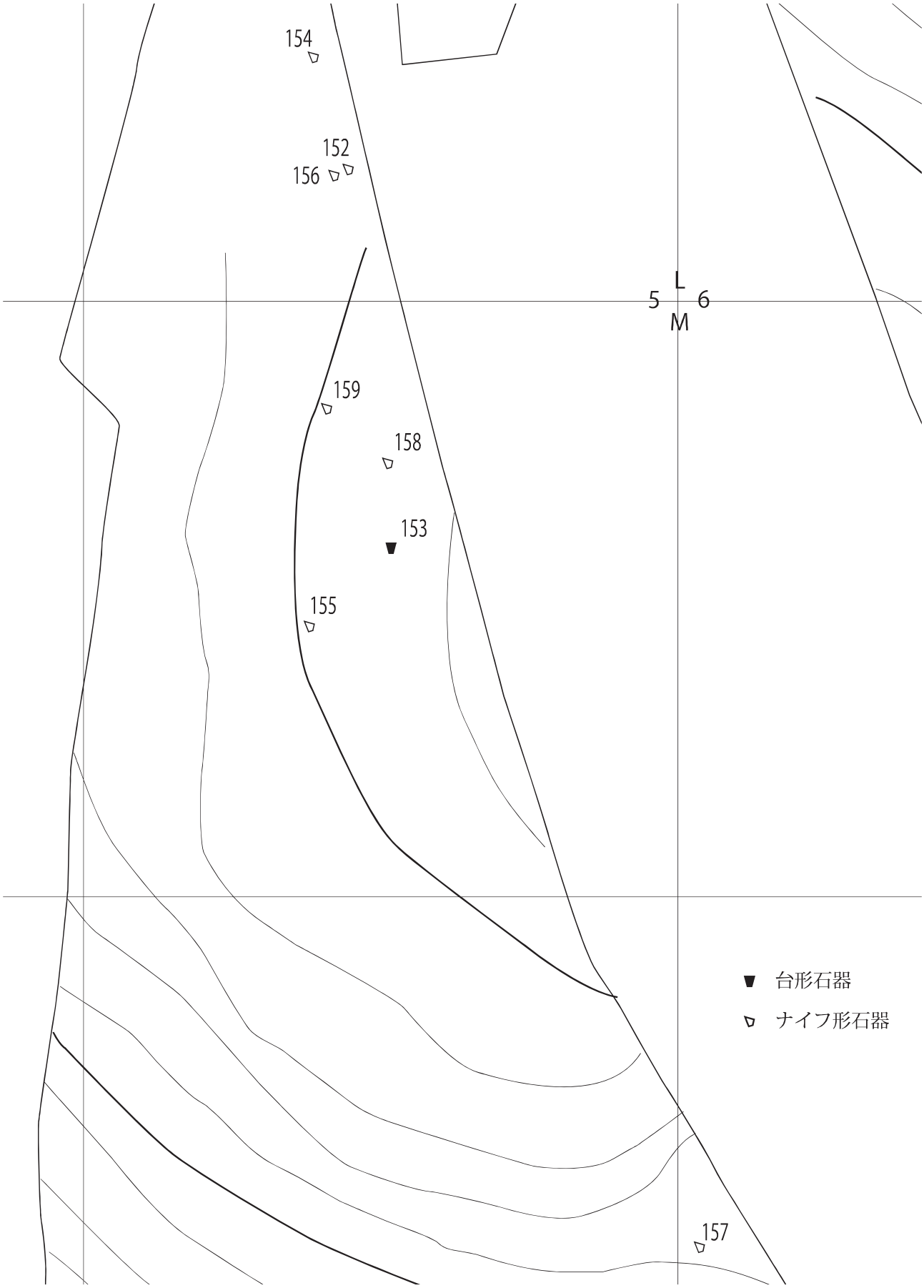
⑵　Ⅰ地区　ブロック外の出土遺物

144はOB-A製の細石刃核である。礫皮面を残す素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。145はOB-C製の細石刃核である。桑ノ木津留産と推定される。樋状に小型で，残核形態は角柱状を呈し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。146はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面を側面からの剥離により形成し，小口部から細石刃を剥出している。147は硬質頁岩製の石鏃の未製品である。形態的には90，136の石器と類似するが，押圧剥離が確認されるため，尖頭器ではなく石鏃未製品と判断した。148はOB-C製の石鏃である。小型の凹基無茎鏃で，縁辺は細かい鋸歯状の調整で仕上げられている。頁岩系の石材で，平基二等辺三角形鏃の多い当遺跡の出土石鏃の中では異質である。149はOB-A製の小型の石核である。150は硬質頁岩製の石核である。96の石核と類似する。下縁に細かい剥離が観察され，あるいはスクレイパー等の他の石器に分類される可能性もある。151はOB-B製のブランクである。

⑶　Ⅰ地区出土のナイフ形石器，台形石器

Ⅰ地区のⅦ層で出土した小型のナイフ形石器，台形石器である。出土位置はそれぞれブロック内であるものの，時期的な共伴性については疑問であるため，別にまとめた。

152はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を縦位に利用している。欠損しており，当初は大きめのナイフ形石器であったものと思われる。153は硬質頁岩製の台形石器である。剥片を横位に利用し，右側縁は切断面からの平坦剥離，左側縁は腹面からのブランティングが施され



第193図　Ⅰ地区Ⅶ層ナイフ形石器・台形石器出土状況図

ている。刃部は使用によるものと考えられる微細剥離が観察される。154は硬質頁岩製のナイフ形石器である。片側側縁に腹面及び背面からのブランティングが施されている。一部欠損している。155はOB-B製のナイフ形石器である。小型の縦長剥片の右側縁に背腹両面からのブランティングを，左側縁基部に腹面からのブランティングを施している。先端部が欠損している。156はOB-A製のナイフ形石器である。小型剥片を横位に利用し，左側縁の背面からブランティングを施している。157はOB-A製のナイフ形石器である。小型剥片を縦位に利用し，左側縁全体及び右側縁基部に腹面からのブランティングを施している。158はOB-B製のナイフ形石器である。小型剥片の一側縁に背面からのブランティングを施している。159はOB-B製のナイフ形石器である。剥片を縦位に利用し，一側縁に腹面からのブランティングを施している。先端部が欠損している。

⑷　Ⅱ地区の出土遺物

Gブロック

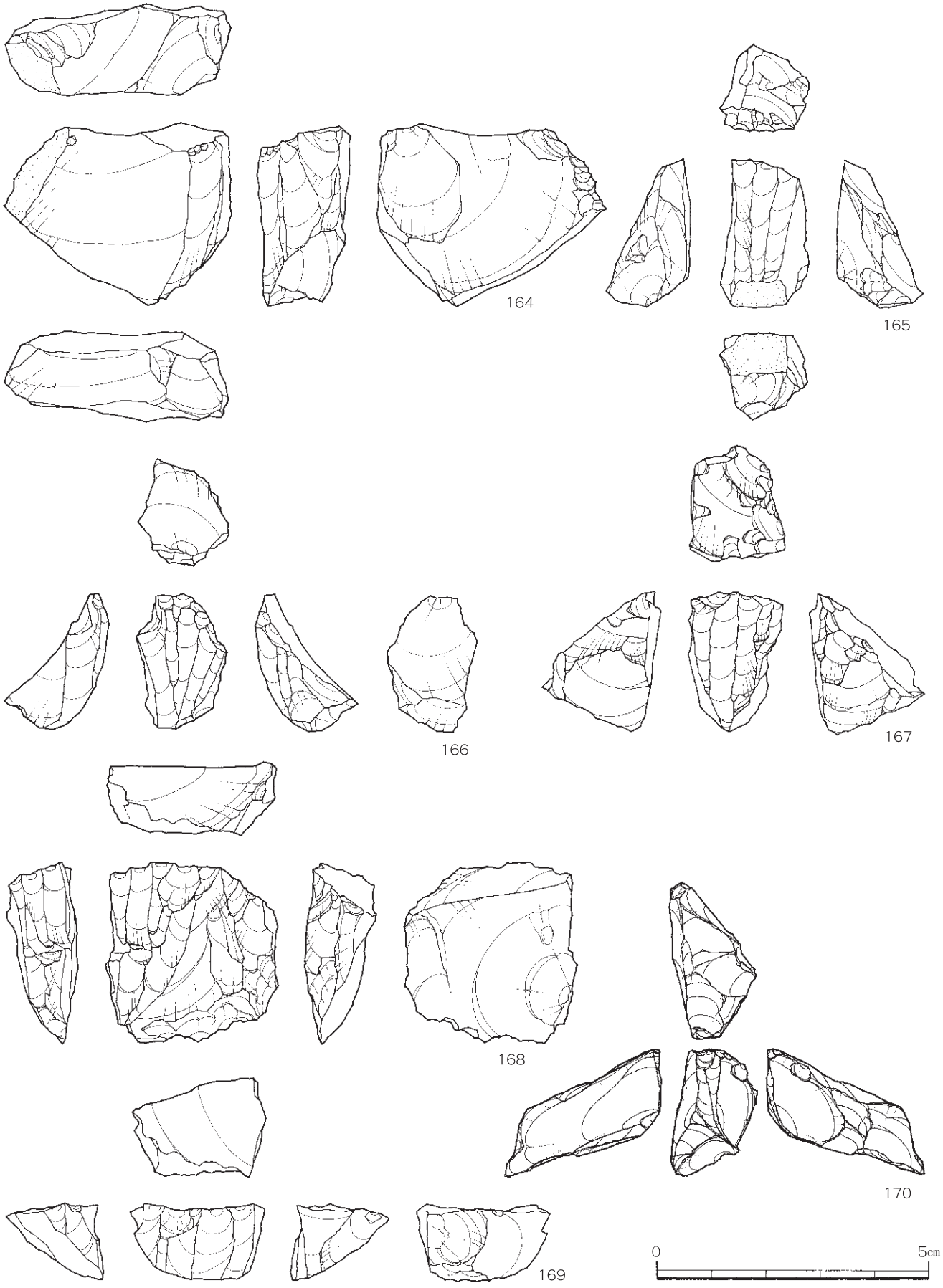
160は船野型細石刃核である。作業面を両小口部にもち，打面調整を施さずに細石刃を剥出している。161は扁平な素材を利用した細石刃核である。162は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の細石刃核である。円礫の分割により得られた素材の小口部から細石刃剥出を行っている。正面下部に認められる両側面への調整は，作業面再生に先立って行われる調整を示すものと思われる。163は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の細石刃核である。分割により得られた素材の小口部から細石刃を剥出している。２枚の接合資料である。164は扁平な素材を利用した細石刃核である。165はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら小口部から細石刃を剥出している。下端に自然面を残す。166は凝灰岩質頁岩製の細石刃核の作業面再生剥片である。打面側からの再生作業である。167はOB-A製の細石刃核である。円礫から礫皮面を残す素材剥片を獲得し，主剥離面を側面に設定し，打面を形成後，片側側面に簡易な石核整形を施し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。168は凝灰岩質頁岩製の細石刃核の作業面再生剥片である。採石作業は作業面の下半部を打面として行われている。169は凝灰岩質頁岩製の打面再生剥片である。作業面の側方から再生作業が行われている。170は硬質頁岩製の細石刃核である。樋状剥離がはっきりしない分類については流動的である。171はOB-A製の細石刃核である。小型角礫から得られた素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面形成後打面調整を施しながら細石刃を剥出している。尾縁に調整がみられる。172はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。173，174，175はOB-A製の細石刃核である。いずれも小型円礫から得られた礫皮面を残す素材剥片の主剥離面を側面に利用し，反対側面に簡易な石核整形を施し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。176，177はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，側方からの連続する剥離により打面を形成後，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。177については下縁調整が認められる。178は礫皮面を残す剥片素材の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施さずに細石刃を剥出している。179は大剥離面を側面に利用し，打面を側方からの連続する剥離により形成している。下縁調整も顕著である。180，181はOB-A製の小型の細石刃核である。181は顕著な打面調整が認められる。182はOB-A製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面形成後，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。尾縁調整が認められる。183はOB-A製の細石刃核である。簡易な石核整形後，小口部から細石刃を剥出している。下縁調整が認められる。184はOB-A製のブランクである。185は硬質頁岩製の尖頭器あるいは石鏃の未製品である。両面への成形剥離が観察され，押圧剥離は施されていない。186・187は石鏃で，接合して１つの石鏃となる。平基で両側縁が若干外弯するため，製作途中での破損と考えられる。188は硬質頁岩製の石鏃未製品である。器身中央部に剥離が抜けなくて瘤状に残った部分があり，そのため製作途中で破棄されたものと思われる。189はOB-A製の石核である。円礫を素材とし，打面を固定して剥片を剥離している。190は硬質頁岩製の石核である。破棄前に細かい剥離が加えられており，作業面がはっきりしないが，石材と規格から石鏃の素材を目的とした石核であると推定される。191は瑪瑙製の石核である。打面調整を施しながら剥片を剥出している。192はOB-A製の細石刃核のブランクである。当ブロックで多く出土している素材剥片を側面に利用するタイプのブランクであると考えられる。193は鉄石英製の石核である。194は硬質頁岩製の石核である。石材から，石鏃の素材剥片を目的とした石核であると考えられる。195は凝灰岩質頁岩製の二次加工剥片である。196は黒色安山岩製の二次加工剥片である。197は硬質頁岩製の二次加工剥片である。198はタンパク石製の二次加工剥片である。199は頁岩製の剥片である。200は細石刃核の作業面再生剥片である。作業面を打面として再生を行っている。

201～231は細石刃である。詳細については観察表を参照して頂きたい。

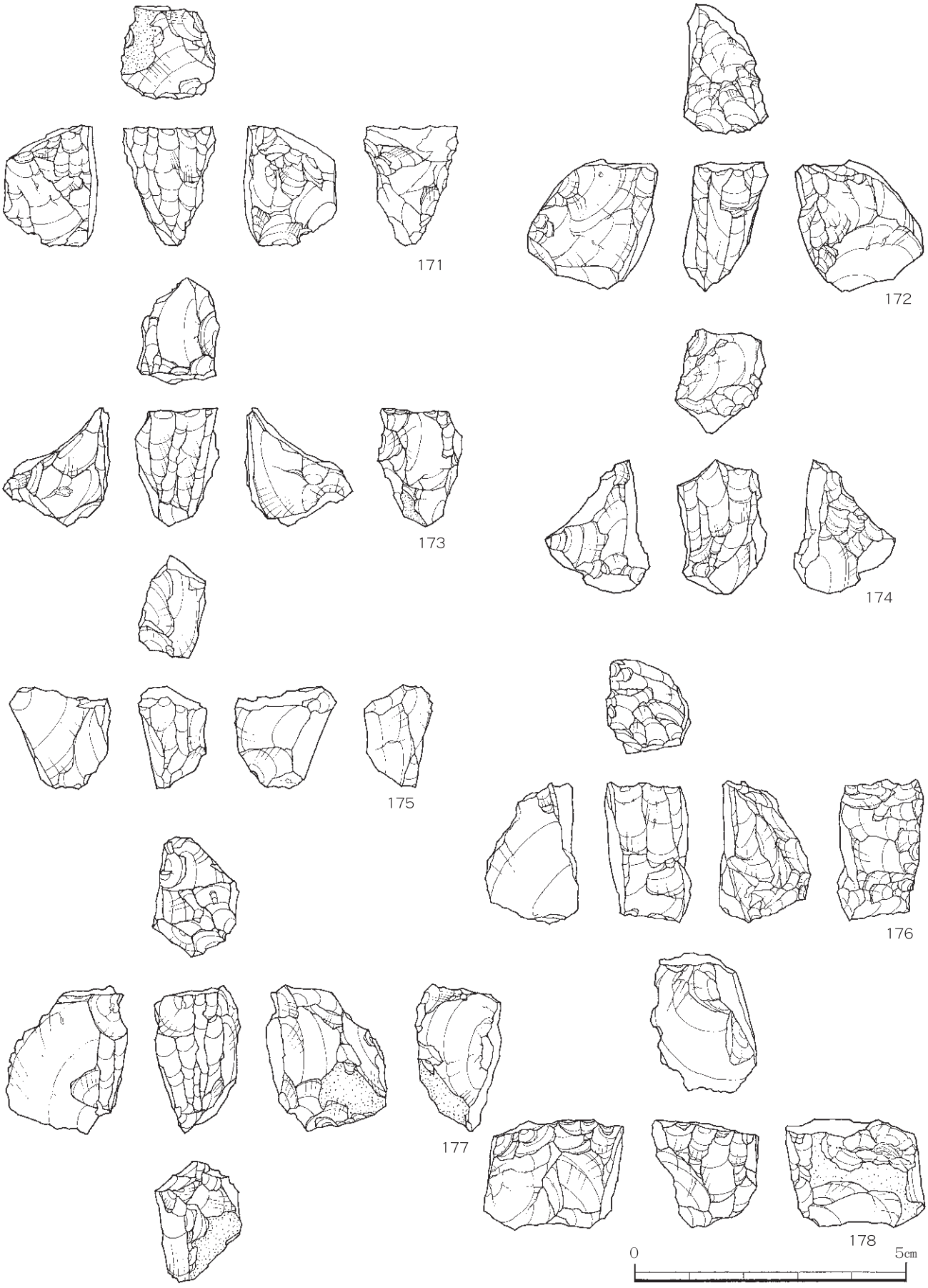
⑸　Ⅱ地区ブロック外の出土遺物

232はOB-A製の細石刃核である。分割面のネガ面を側面に利用し，打面は側方からの連続する剥離により形成される。打面調整を施しながら小口部から細石刃を剥出している。233はOB-A製の二次加工剥片である。ナイフ形石器のブランティングのような急角度の加工が一側

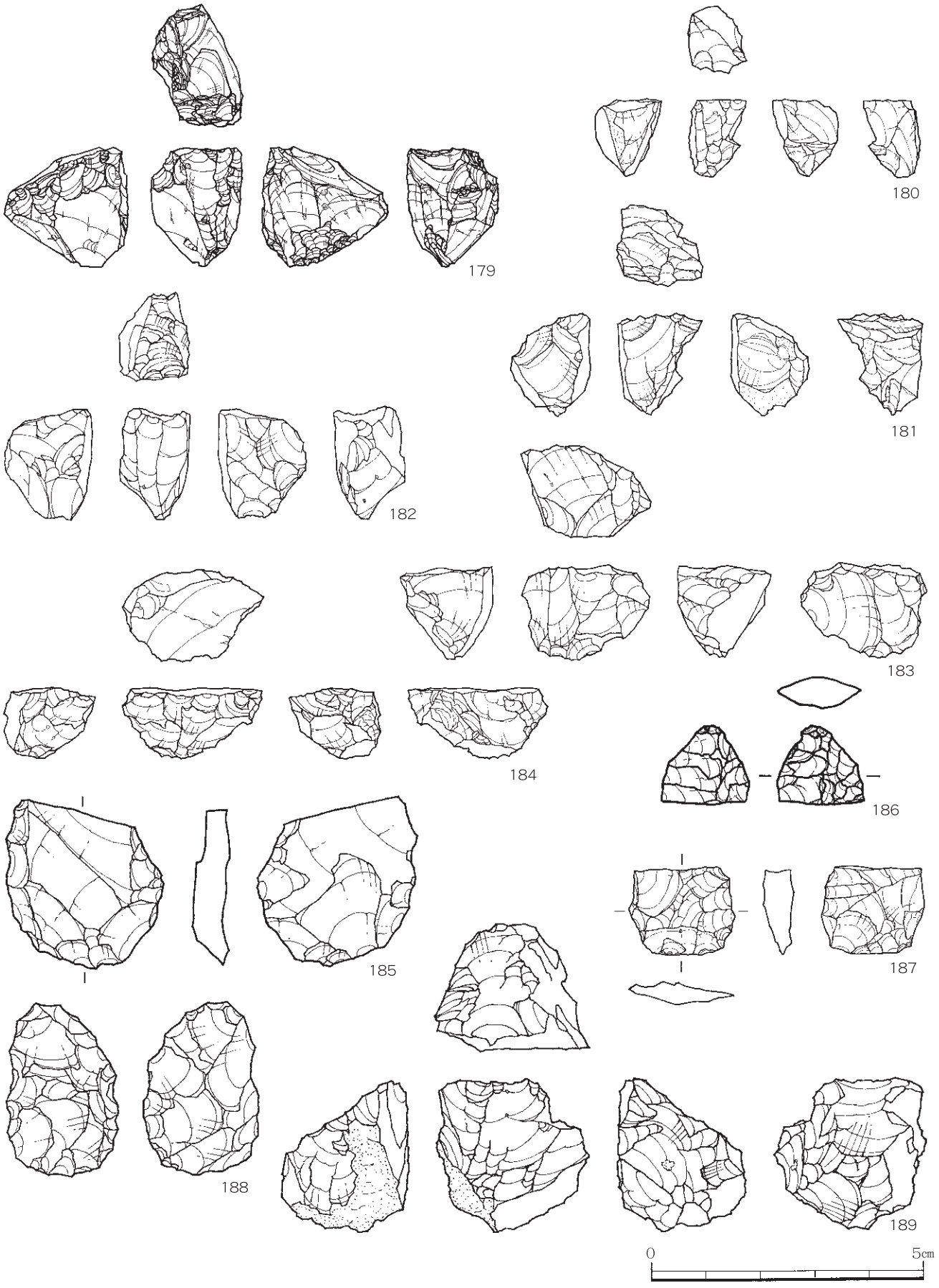
第194図　Ⅱ地区Ⅶ層出土遺物（１）（Gブロック）



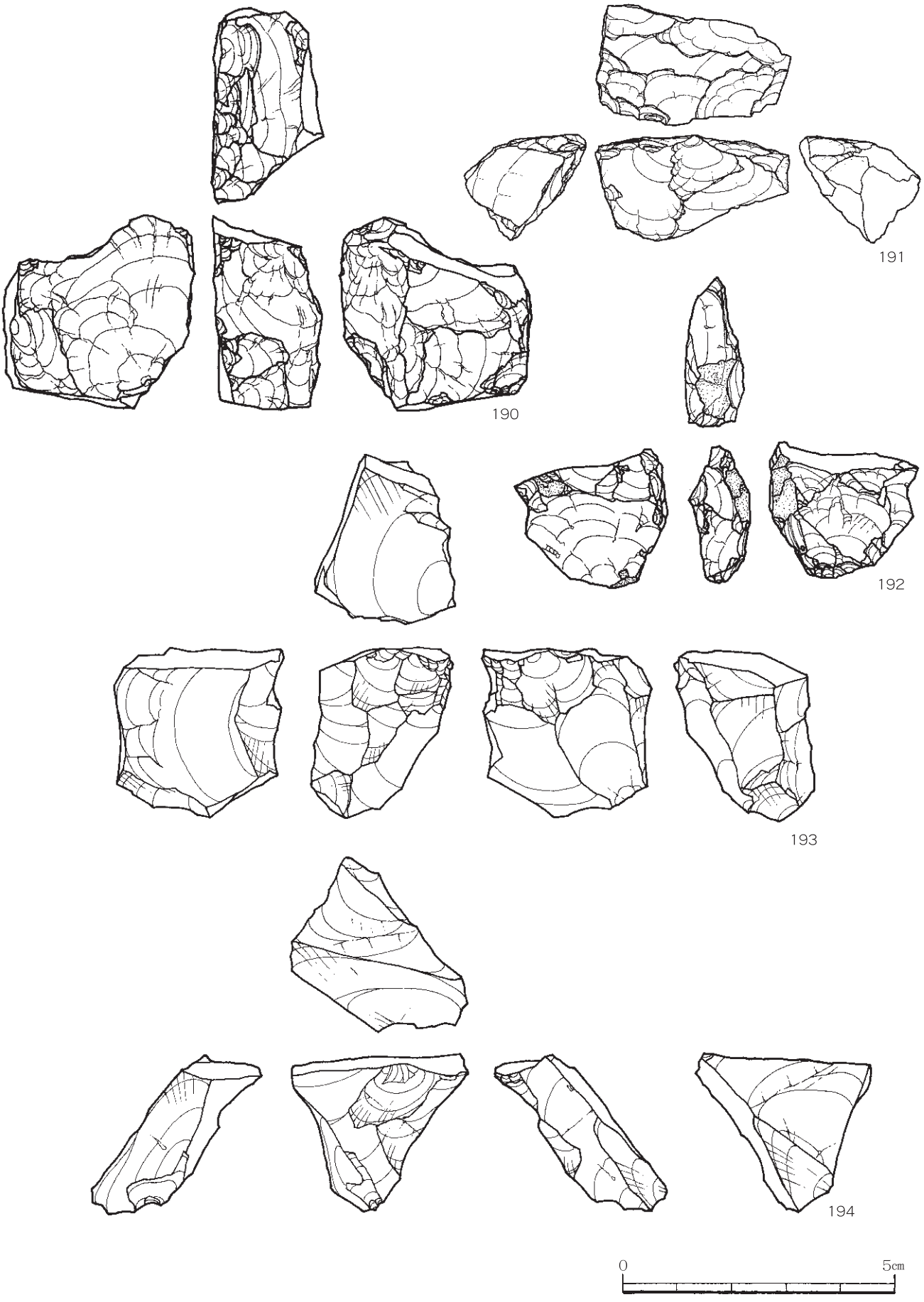
第195図　Ⅱ地区Ⅶ層出土遺物（２）（Ｇブロック）



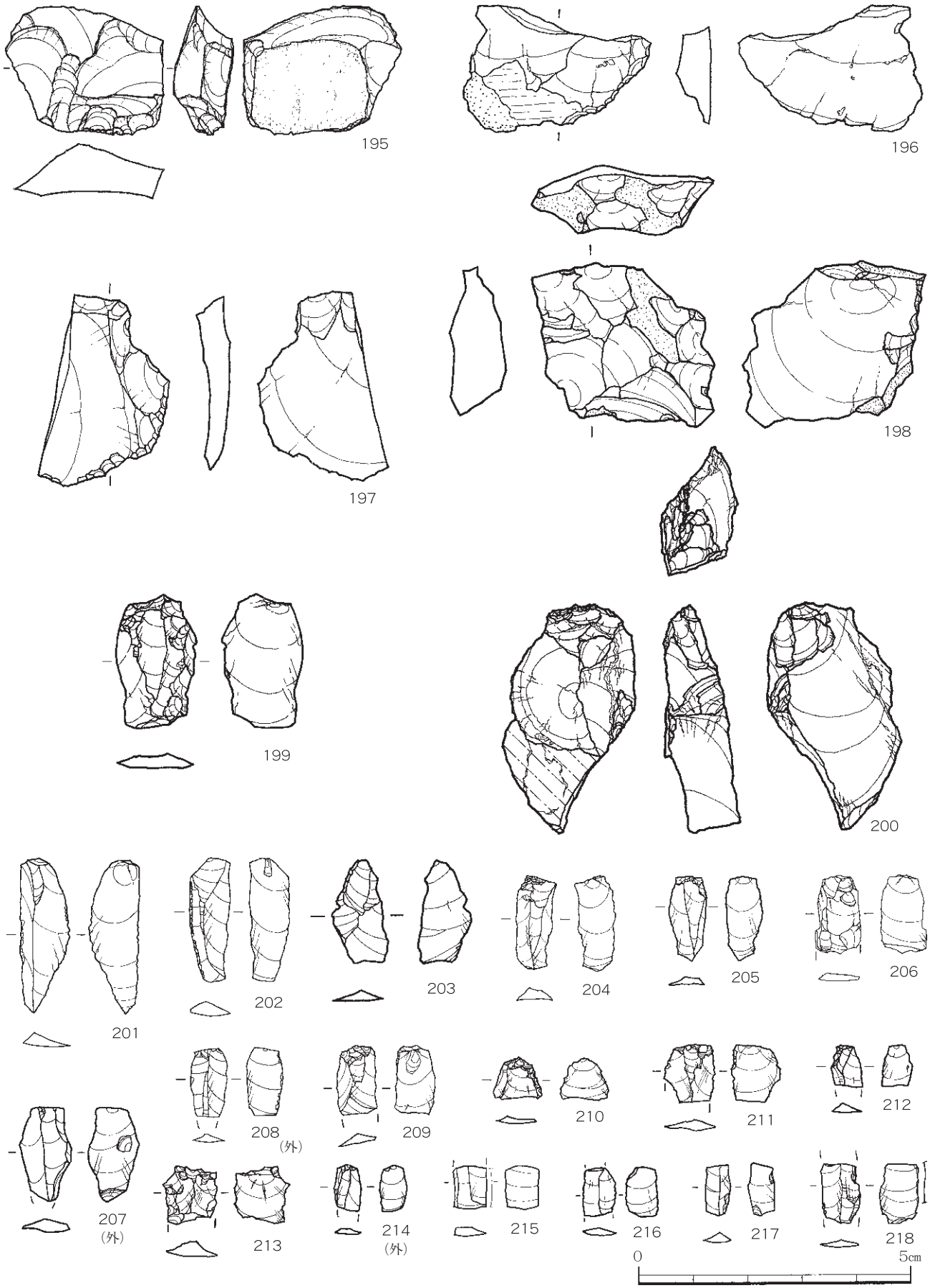
第196図　Ⅱ地区Ⅶ層出土遺物（３）（Ｇブロック）



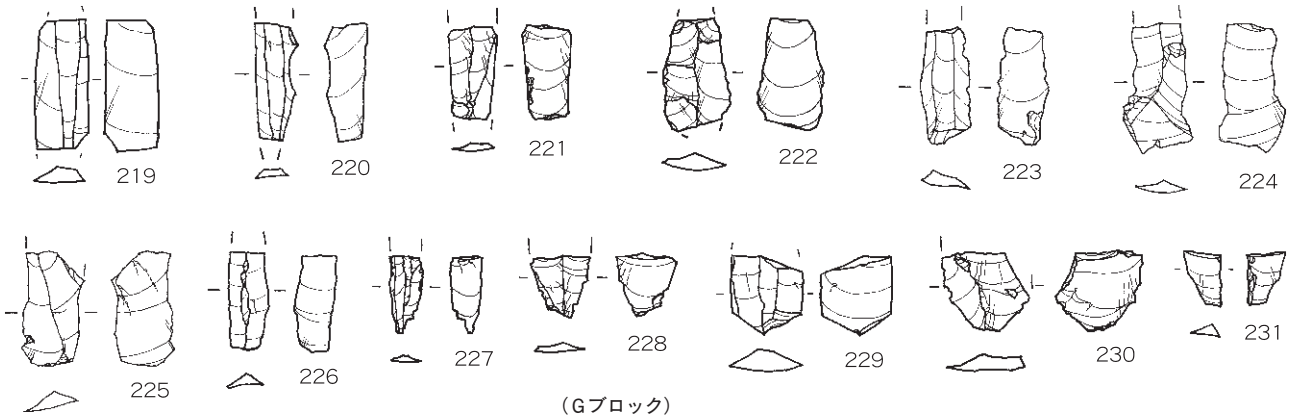
第197図　Ⅱ地区Ⅶ層出土遺物（４）（Ｇブロック）

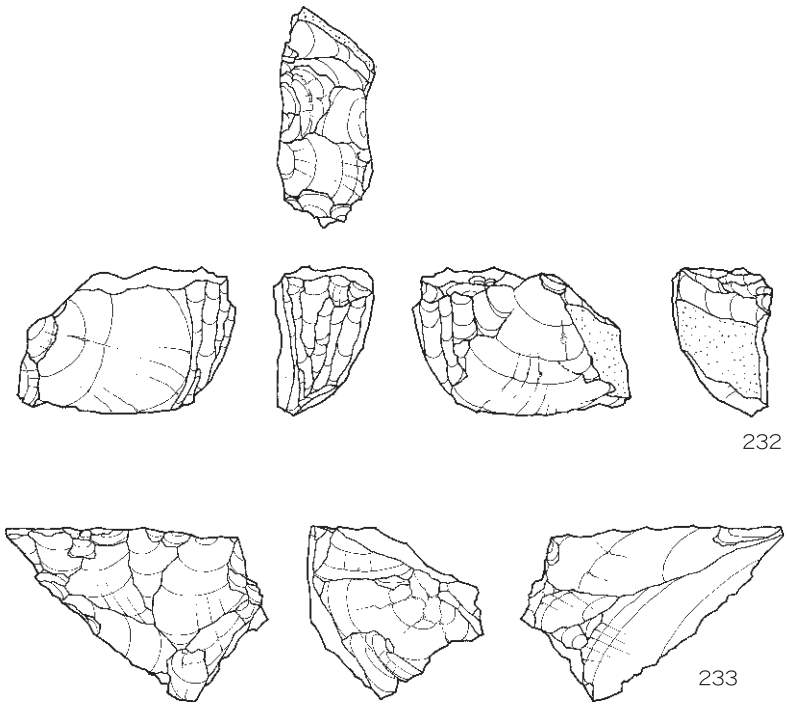


第198図　Ⅱ地区Ⅶ層出土遺物（５）（Ｇブロック）

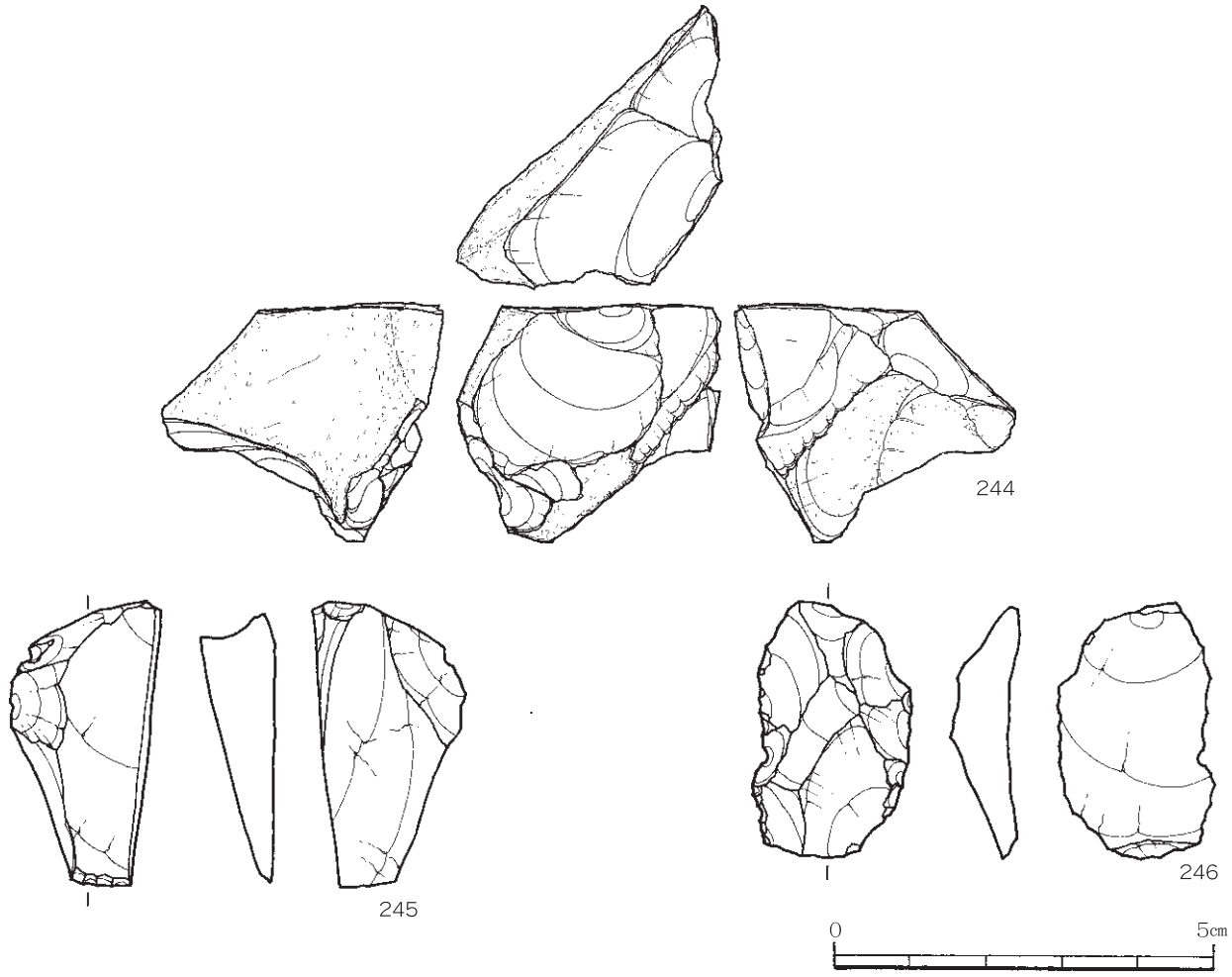


第199図　Ⅱ地区Ⅶ層出土遺物（６）（Ｇブロック）





第200図　Ⅱ地区Ⅶ層出土遺物（７）（Gブロック・ブロック外）



第201図　Ⅱ地区Ⅶ層出土遺物（８）（ブロック外）

縁に観察される。234はOB-A製のブランクである。235はOB-A製の剥片である。236～243は細石刃である。詳細は観察表を参照して頂きたい。244は熱変成を受けた硬質頁岩の石核である。あるいは細石刃核のブランクに分類される可能性もある。245は硬質頁岩製の二次加工剥片である。246は鉄石英製の二次加工剥片である。

⑹　Ⅲ地区の出土遺物

Ｈブロック

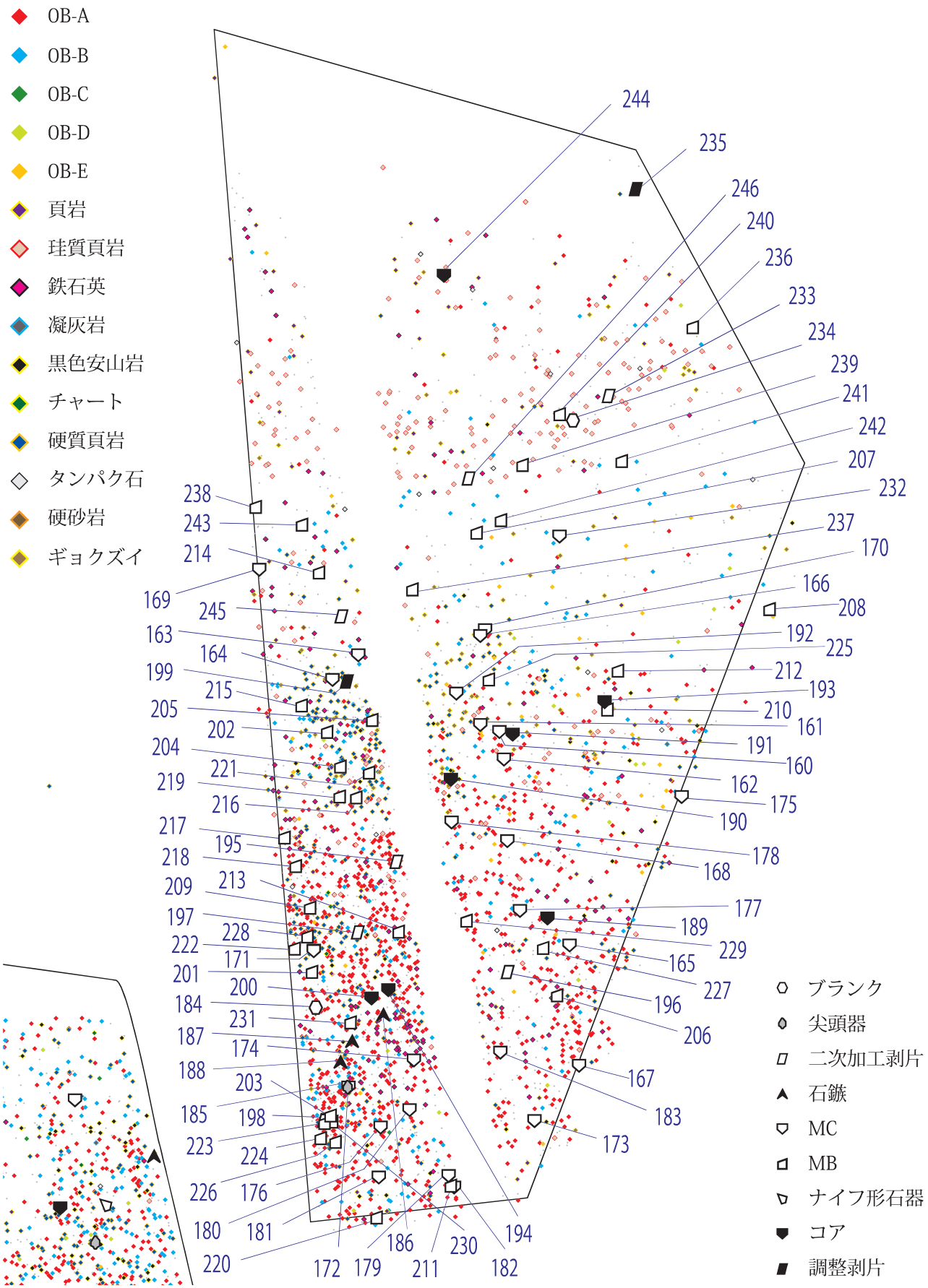
247はOB-A製の石核である。求心状の剥離からなる打面から周縁に剥離を廻らせている。248～251は押圧剥離により剥離された剥片である。252は黒色安山岩製の石鏃である。凹基無茎の三角形鏃である。253は硬質頁岩製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃と推定され，先端が欠損している。254はチャート製の石鏃である。平基の二等辺三角形鏃と推定される。先端部が欠損している。

Ｉブロック

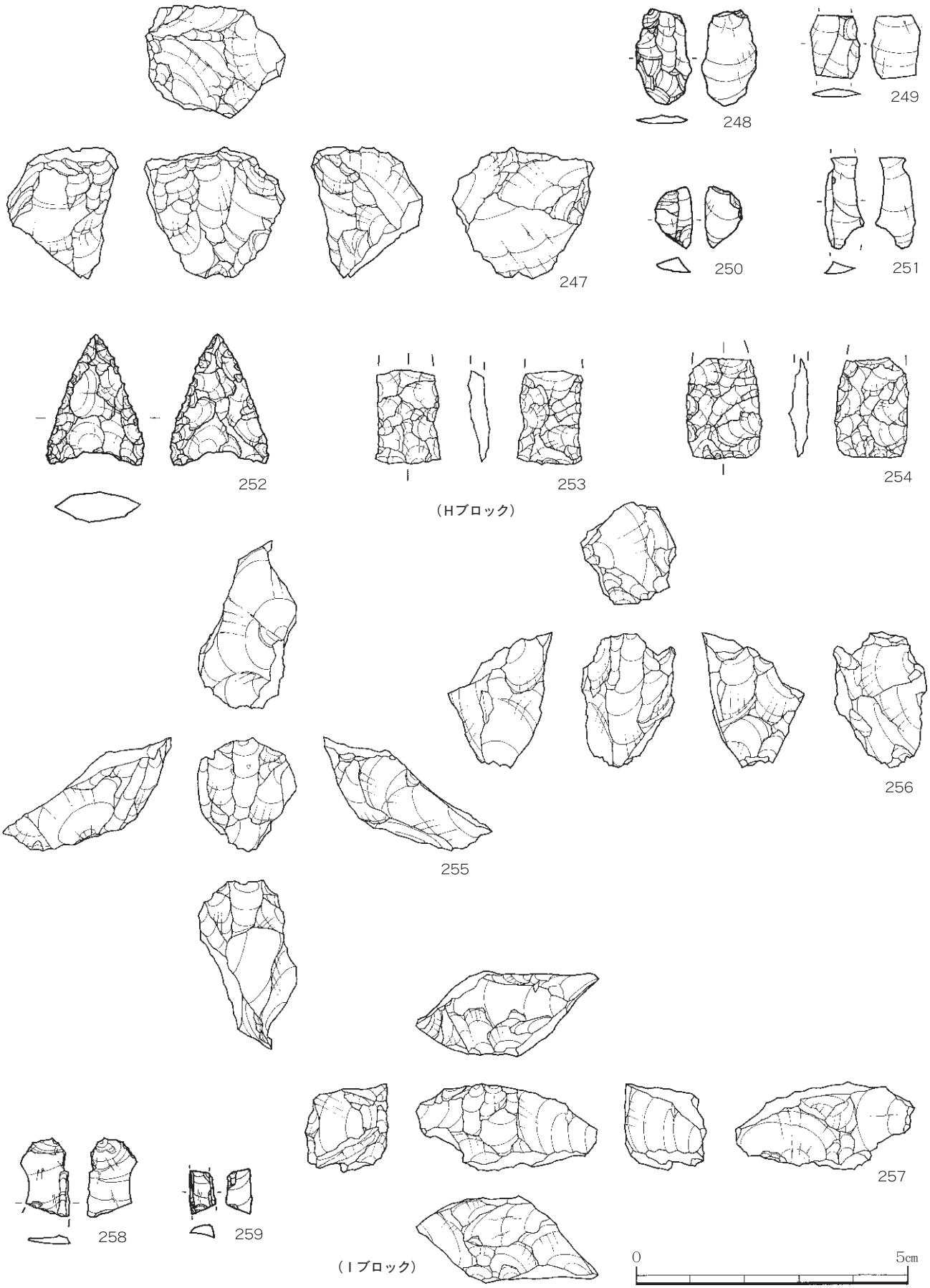
255はOB-A製の細石刃核調整剥片である。細石刃核の再成形を行うために，打面側から側面調整を行う際に，剥離が深く入りすぎて細石刃核本体の大半を剥離してしまったものと思われる。前段階の剥離で失敗した際のコーンがもう一つ残されている。256はOB-A製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。257はOB-A製の石核あるいは細石刃核のブランクである。258，259は細石刃である。

Ｊブロック

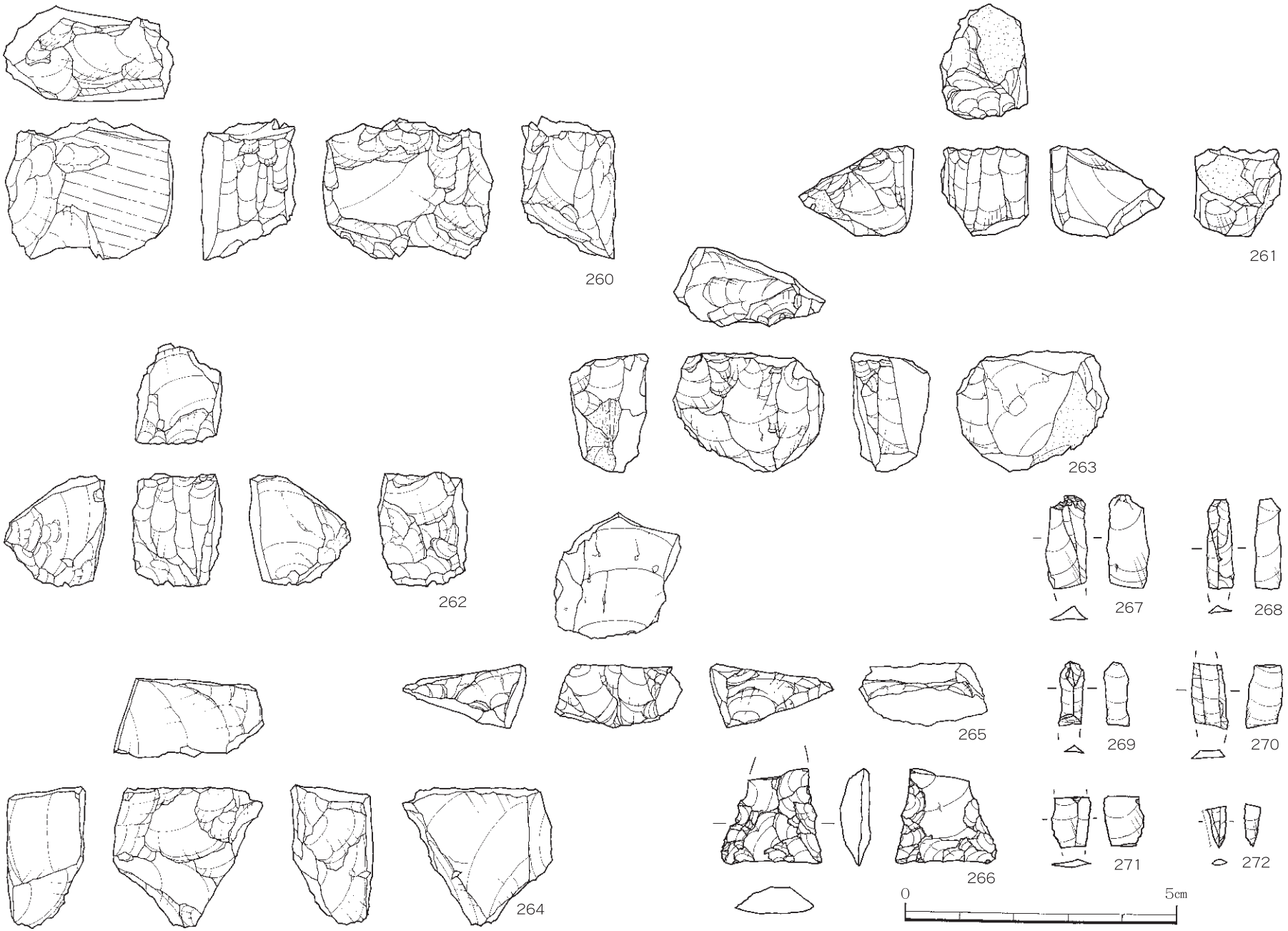
260は凝灰岩質頁岩製の細石刃核である。扁平礫の側方から連続する剥離により打面を形成し，小口部から細石刃を剥出している。261，262はOB-A製の細石刃核である。いずれも扁平な板状の素材を獲得し，小口部から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。263はOB-A製の細石刃核である。角礫から礫皮面を残す素材剥片を獲得し，主剥離面を側面に利用して，左側面は自然面，右側面は打面側からの石核整形を施した後，小口部から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。264はOB-A製の細石刃核のブランクである。261，262のような扁平な板状素材の細石刃核のブランクと思われる。265はOB-A製の石器である。石核あるいは細石刃核のブランクであると考えられる。



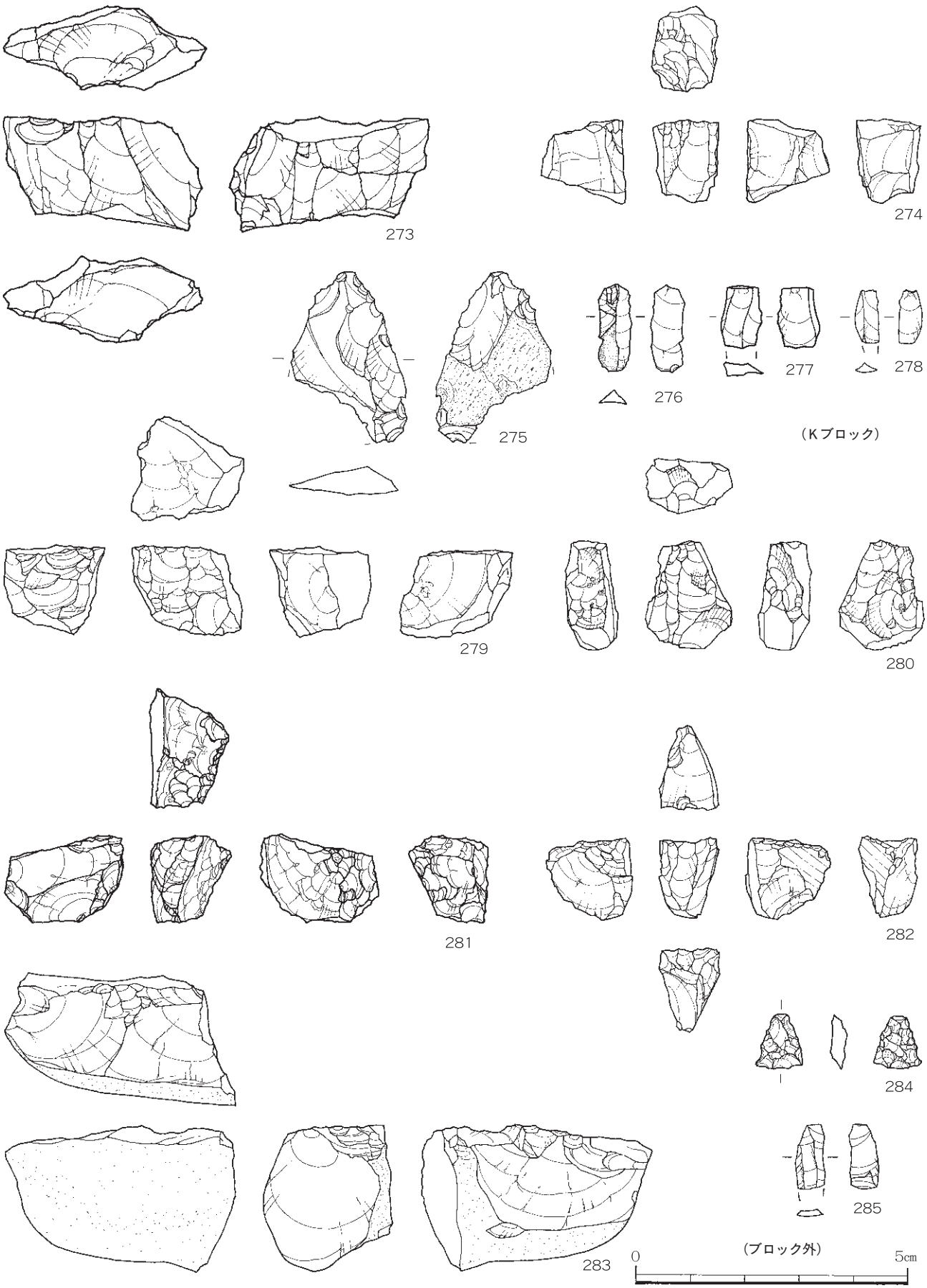
第202図　Ⅱ地区Ⅶ層石器出土状況図



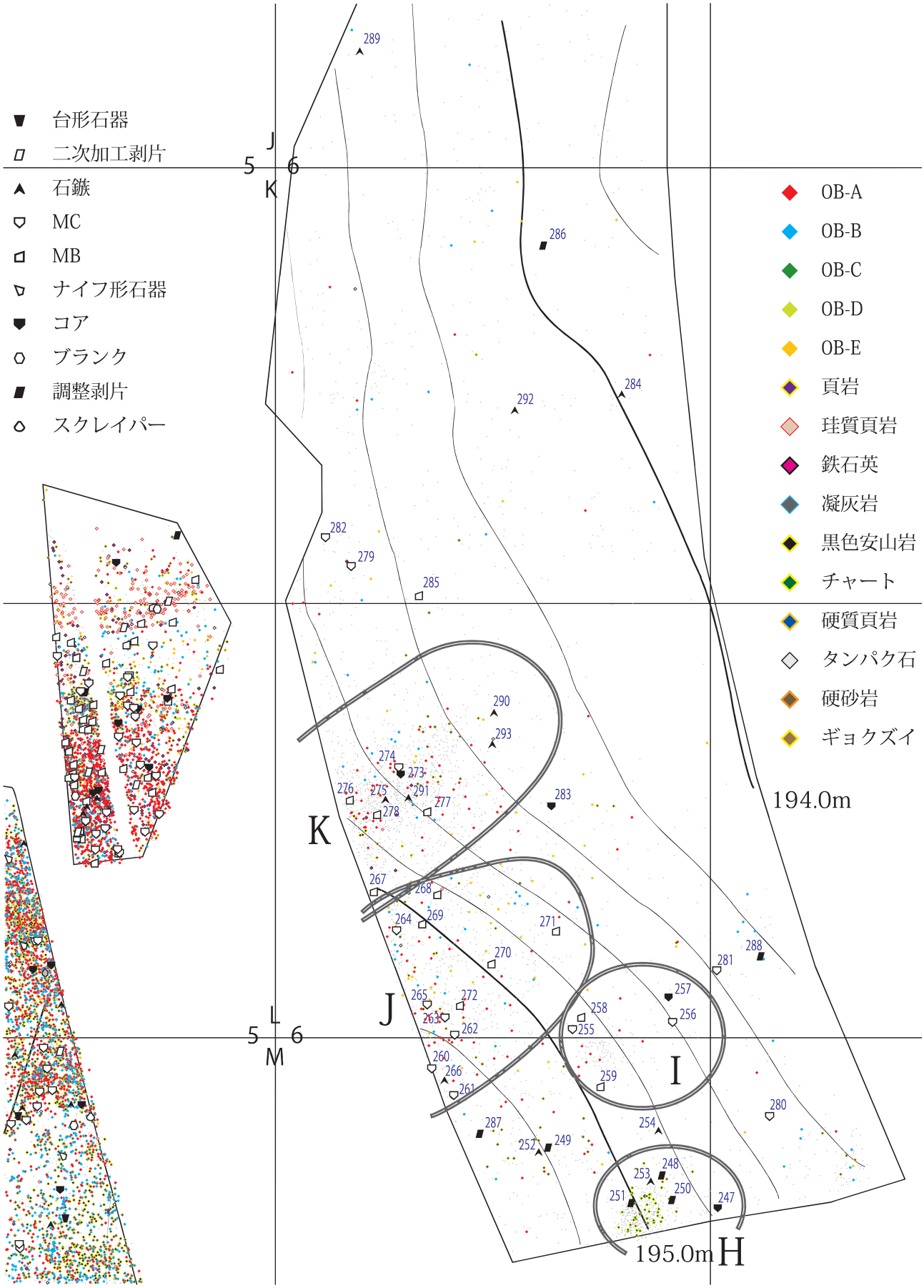
第203図　Ⅲ地区Ⅶ層出土遺物（１）（Ｈ・Ⅰブロック）



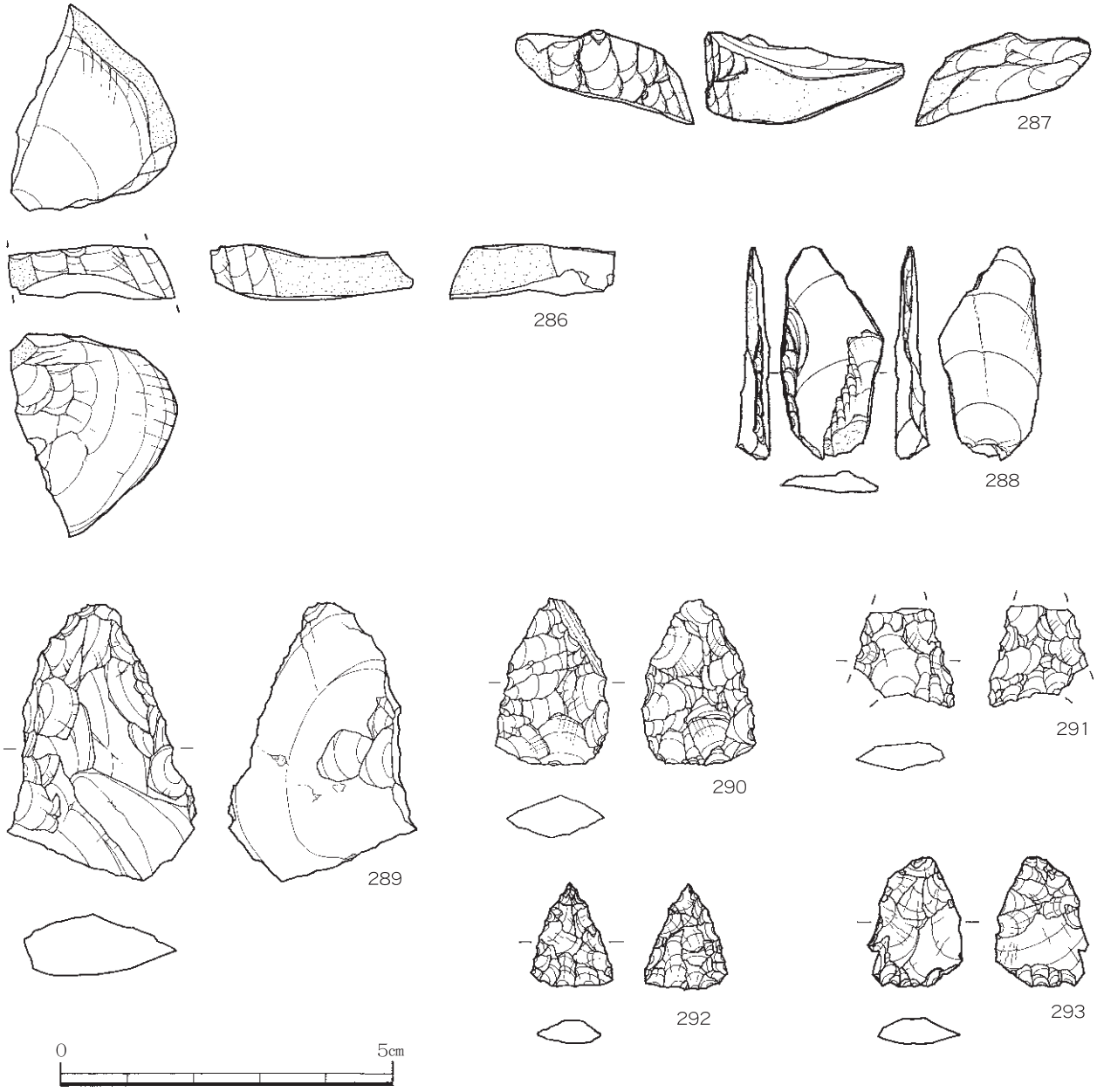
第204図　Ⅲ地区Ⅶ層出土遺物（２）（Ｊブロック）



第205図　Ⅲ地区Ⅶ層出土遺物（３）（Kブロック・ブロック外）



第206図　Ⅲ地区Ⅶ層石器出土状況図



第207図　Ⅲ地区Ⅶ層出土遺物（４）（ブロック外）

267～272は細石刃である。詳細については観察表を参照して頂きたい。

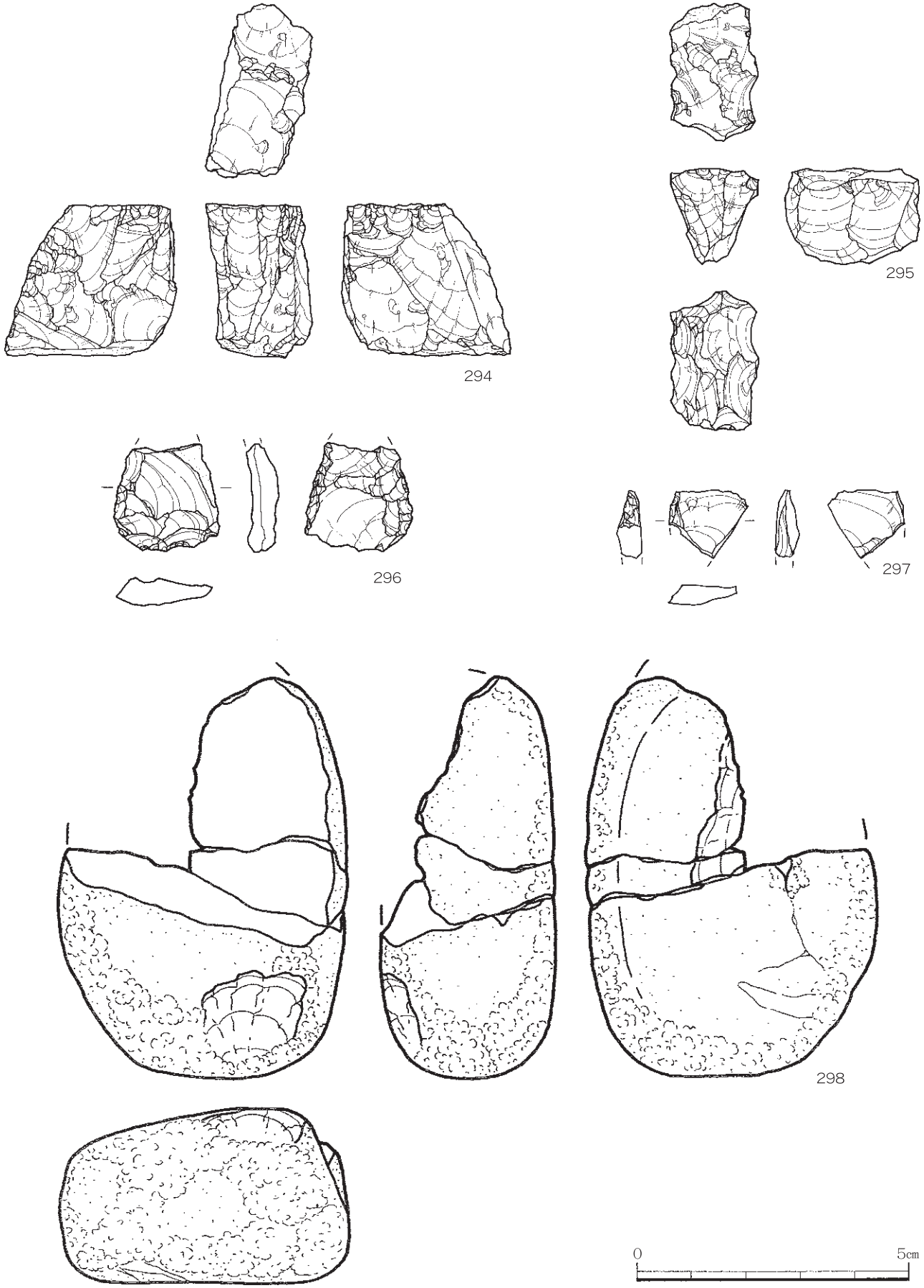
Kブロック

273は硬質頁岩製の石核である。石材から判断すると，石鏃の素材剥片を目的としたものと考えられるが，ネガ面がはっきりせず，判断できない。274はOB-A製の細石刃核である。小型の円礫から得られた礫皮面を残す剥片の主剥離面を側面に利用し，石核整形を施さず，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。275は黒色安山岩製の石鏃未製品である。276～278は細石刃である。

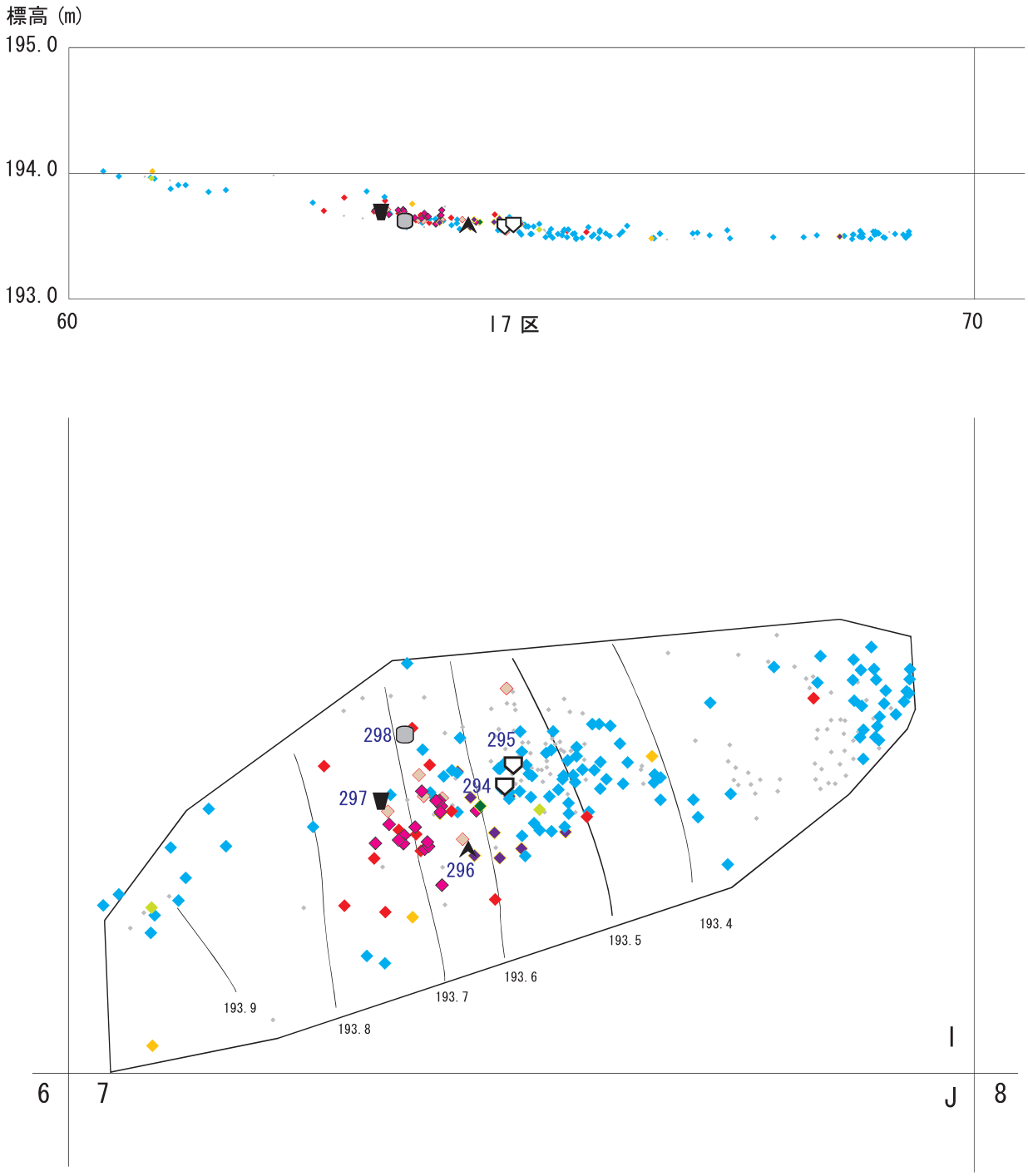
⑺　Ⅲ地区ブロック外の出土遺物

279はOB-A製の細石刃核である。打面，右側面，背面が大剥離面から構成され，左側面は打面側からの石核整形が施されている。打面調整を施さずに細石刃を剥出している。280はOB-B製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。281はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，側方から連続する剥離により打面を形成している。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。282はOB-C製の細石刃核である。左側面は打面側からの石核整形を施し，右側面は打面から細かい調整を，下縁から調整をそれぞれ施し，小口部から細石刃を剥出している。

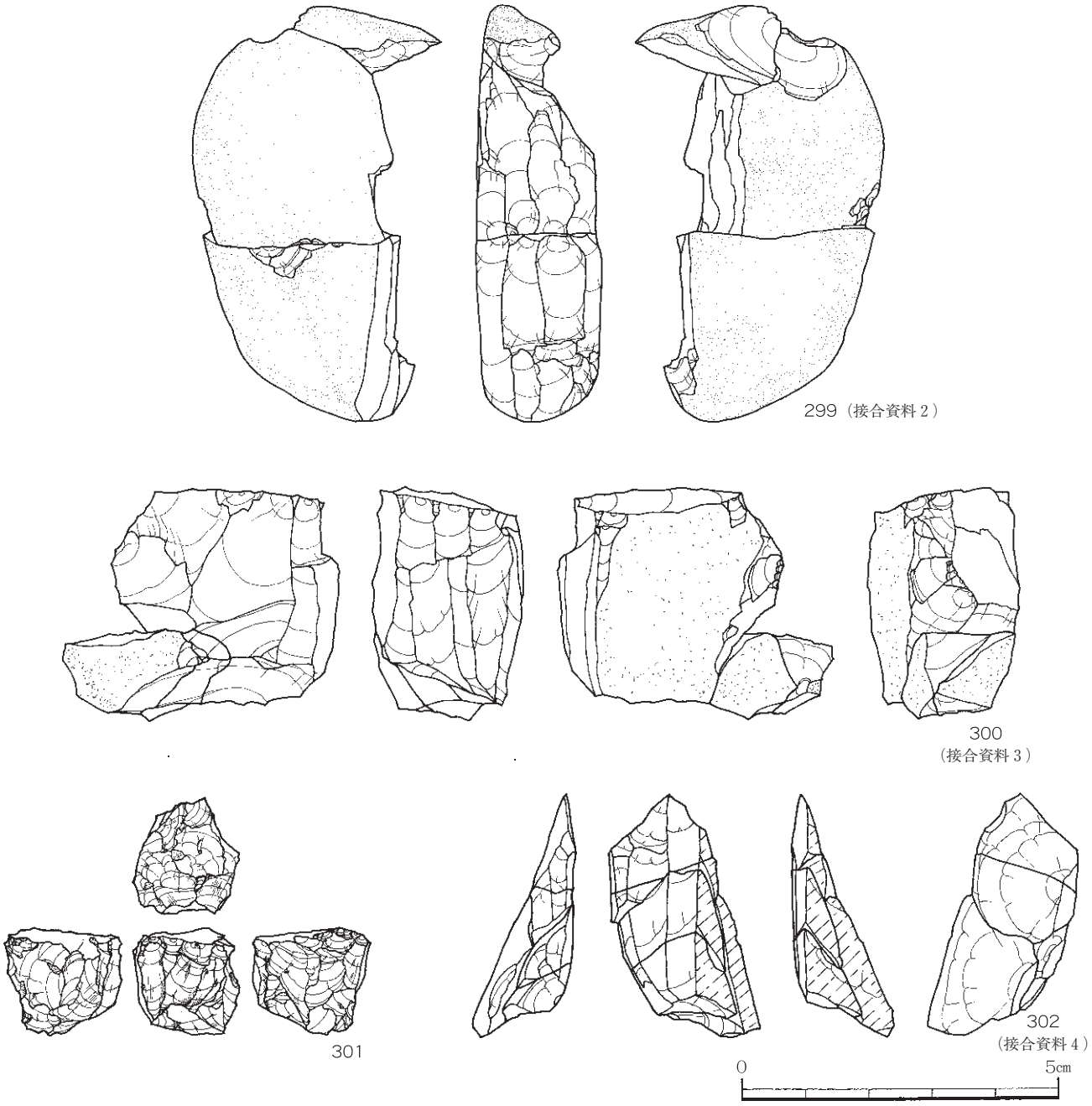
283は作業面を再生された後の細石刃核である。片側側



第208図　Ⅳ地区Ⅶ層出土遺物（Ｌブロック）



第209図　Ⅳ地区Ⅶ層石器出土状況図



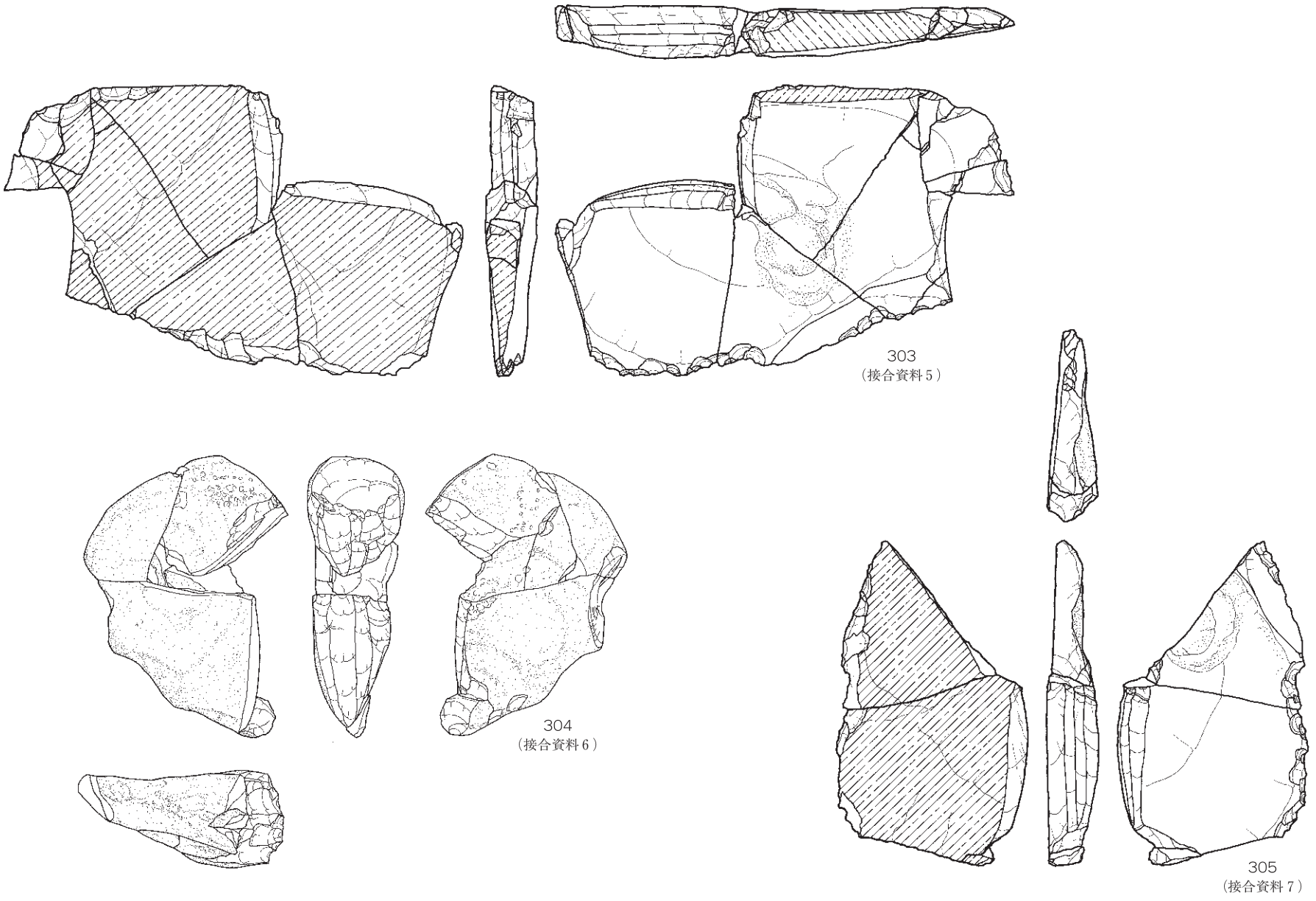
第210図　Ⅴ地区Ⅶ層出土遺物（１）（Ｎブロック）

面は自然面，反対は礫皮面を残している。284はOB-B製の小型の石鏃である。285はOB-C製の細石刃である。尾部は折断されている。286，287は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の打面再生剥片である。287→286の順に側方からの打面再生を行ったもので，両者が接合する。288は硬質頁岩製の微細剥離痕のある剥片である。石鏃の素材剥片獲得の一連の作業で生じた剥片と考えられる。289はOB-A製の二次加工剥片である。左側縁は剥片剥離前の頭部調整を示す剥離で，右側縁が腹面からの二次加工である。290は硬質頁岩製の石鏃未製品である。291はOB-A製の石鏃である。凹基の三角形鏃で，先端部及び一方の脚部が欠損している。292は黒色安山岩製の平基三角形鏃である。293は頁岩製の石鏃未製品である。主剥離面を大きく残している。

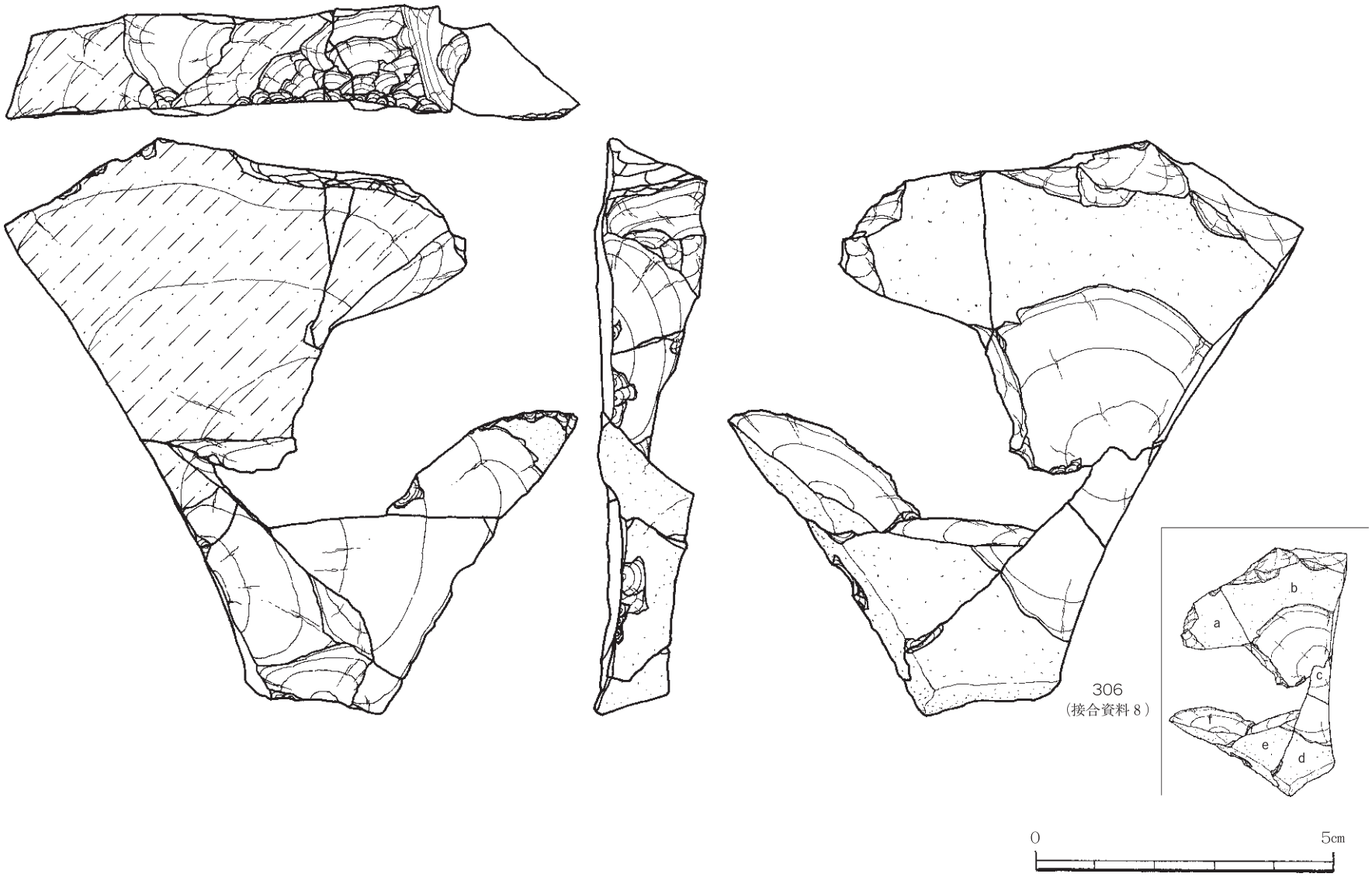
⑻　Ⅳ地区の出土遺物

Ｌブロック

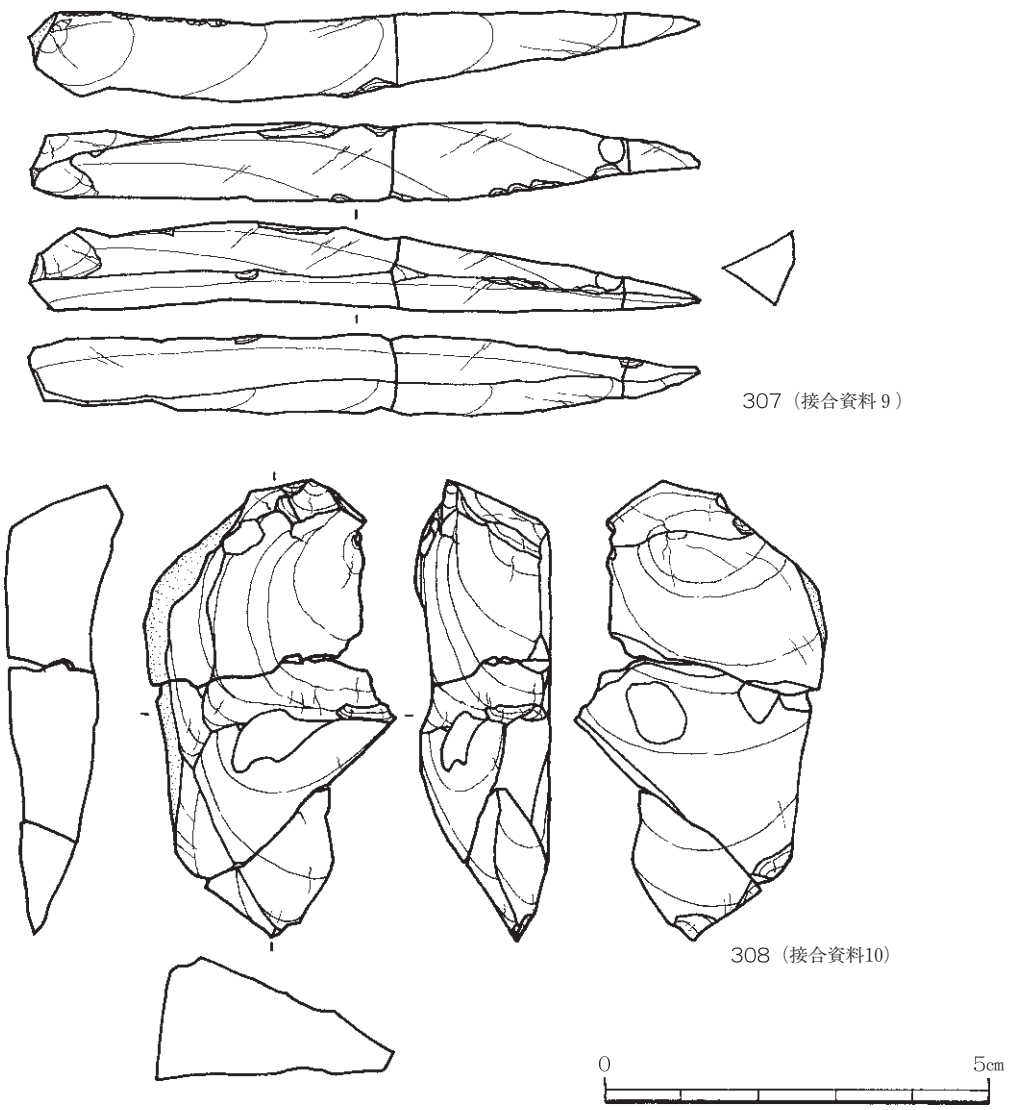
294はOB-B製の細石刃核である。打面側から入念に石核整形を施し，扁平な板状を呈している。小口部に狭長な作業面を設け，細石刃を剥出している。打面と背面で形成される稜に微細剥離が観察される。295はOB-B製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を打面に設定し，打面から両側面に石核整形を施している。打面に両



第211図　Ⅴ地区Ⅶ層出土遺物（２）（Ｎブロック）



第212図　Ⅴ地区Ⅶ層出土遺物（３）（Ｎブロック）



第213図　Ⅴ地区Ⅶ層出土遺物（４）（Ｎブロック）

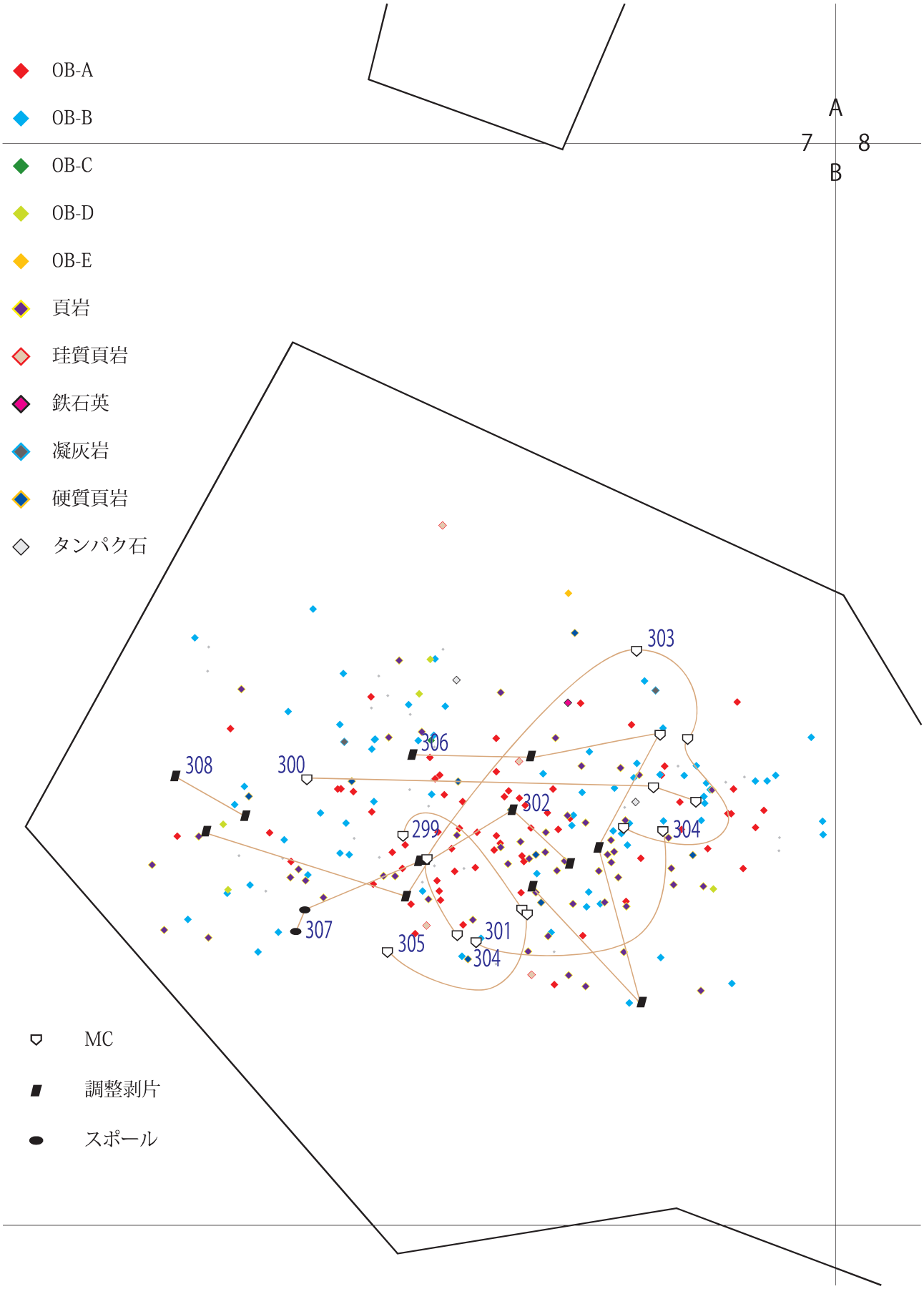
側方からの細かい剥離痕が観察され，固定具によるものと考えられる。296は凝灰岩質頁岩製の石鏃未製品である。先端部が欠損している。297は硬質頁岩製の台形石器あるいはナイフ形石器である。刃部を中心に残っており，全体形状は明らかではないが，一部に腹面からのブランティングが確認される。298は砂岩製の叩石である。下端に叩きによって生じた複数の平坦面が観察される。

⑼　Ⅴ地区の出土遺物

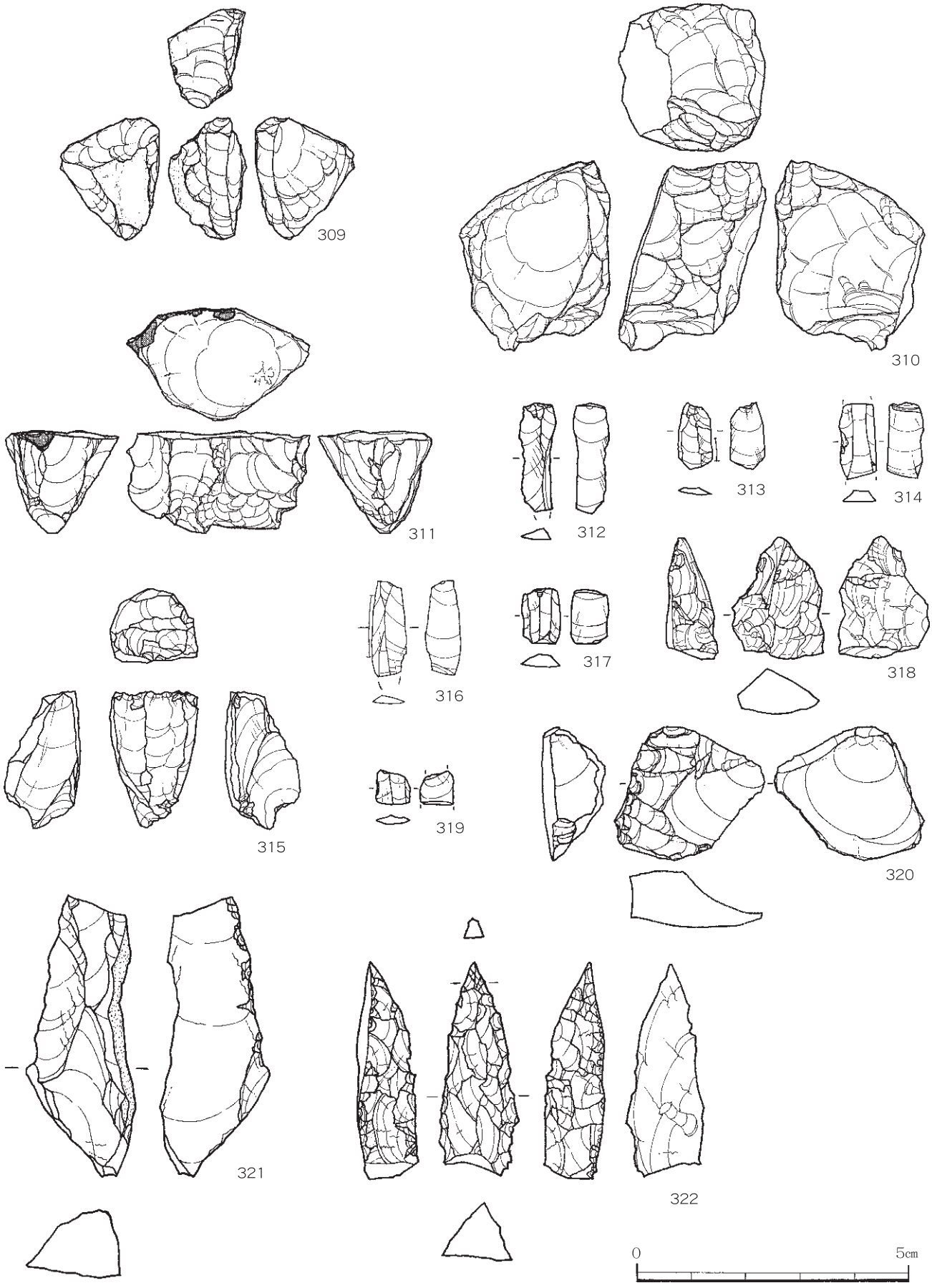
Ｎブロック

299は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の細石刃核２つ及び下縁調整剥片１枚の接合資料である。扁平な円礫を２つに分割し，石核整形を施さずに分割面を打面として小口部から細石刃を剥出している。一方は下縁調整を施さずに，もう一方は下縁調整を施している。300は凝灰岩質頁岩製の細石刃核と下縁調整剥片の接合資料である。扁平礫を分割し，片側側面のみ打面及び下縁からの石核整形を施し，両小口部から細石刃を剥出している。

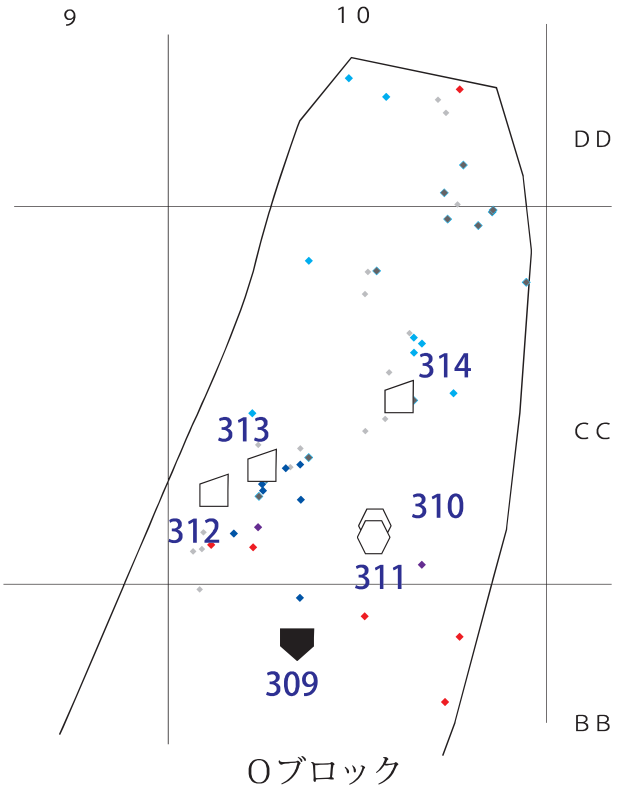
301はOB-B製の細石刃核である。打面からの石核整形の後，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。302は凝灰岩質頁岩の細石刃核の作業面再生剥片である。加栗山遺跡，帖地遺跡でみられるような，作業面の側方から連続して剥片を剥離し，作業面を再生する特徴的な技術である。303は凝灰岩質頁岩製の細石刃核の接合資料である。扁平な礫を分割し，それぞれの分割礫を細石刃核の素材として利用する，加治屋園型細石刃核の典型的な技術を示すものである。加治屋園型細石刃核の尾縁調整が礫の分割前に行われていることを示す資料である。304は熱変成を受けた凝灰岩質頁岩製の細石刃核２点及び下縁調整剥片２枚の接合資料である。299同様同じ分割礫から製作される細石刃核でも下縁調整を施すものと，施さないものとが混在することを示している。305は凝灰岩質頁岩製の細石刃核の接合資料である。303同様尾縁調



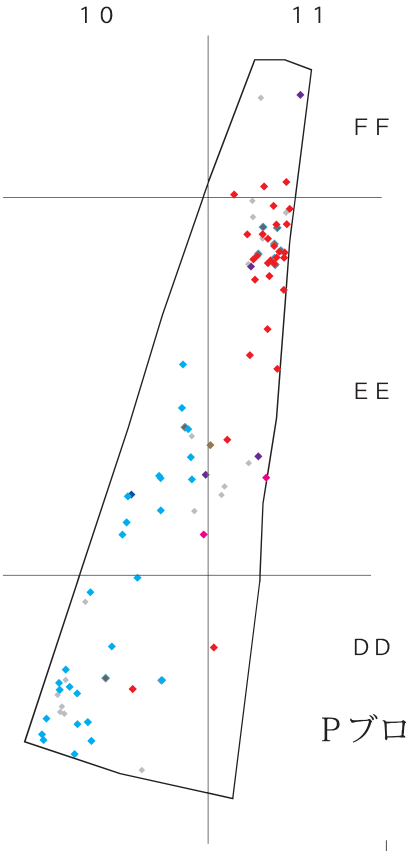
第214図　Ⅴ地区Ⅶ層石器出土状況図



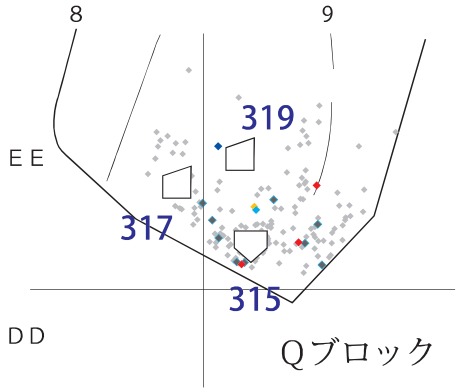
第215図　Ⅶ・Ⅸ・ⅩⅡ・ⅩⅢ地区Ⅶ層出土遺物（O・Q・R・Sブロック）



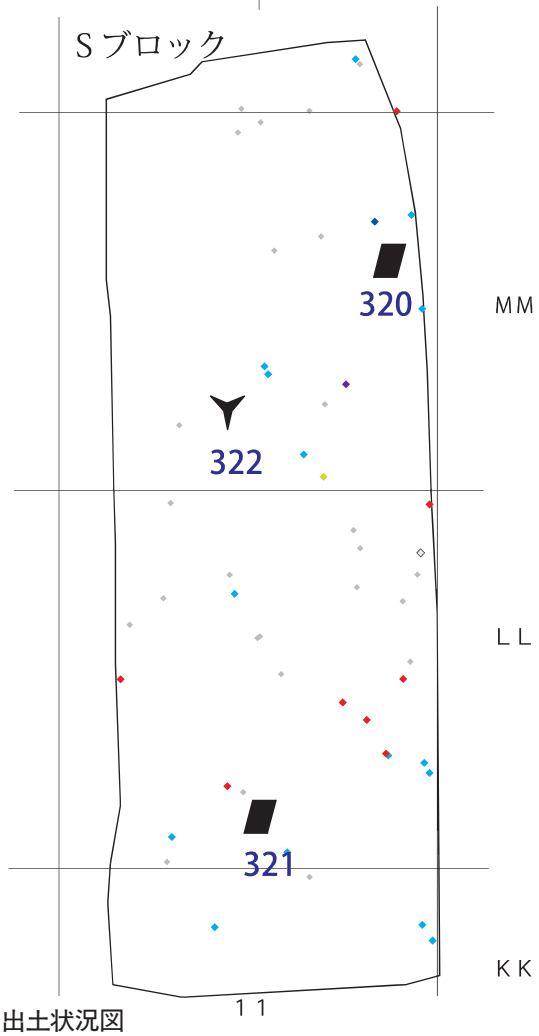
Oブロック



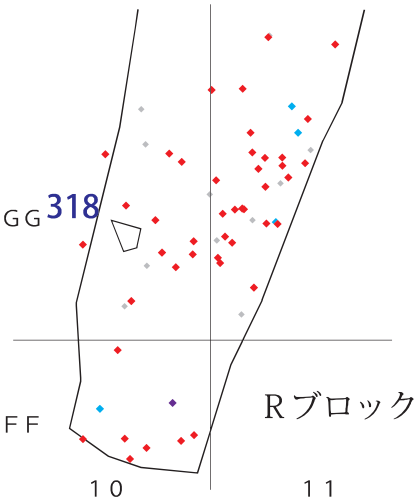
Pブロック



Qブロック

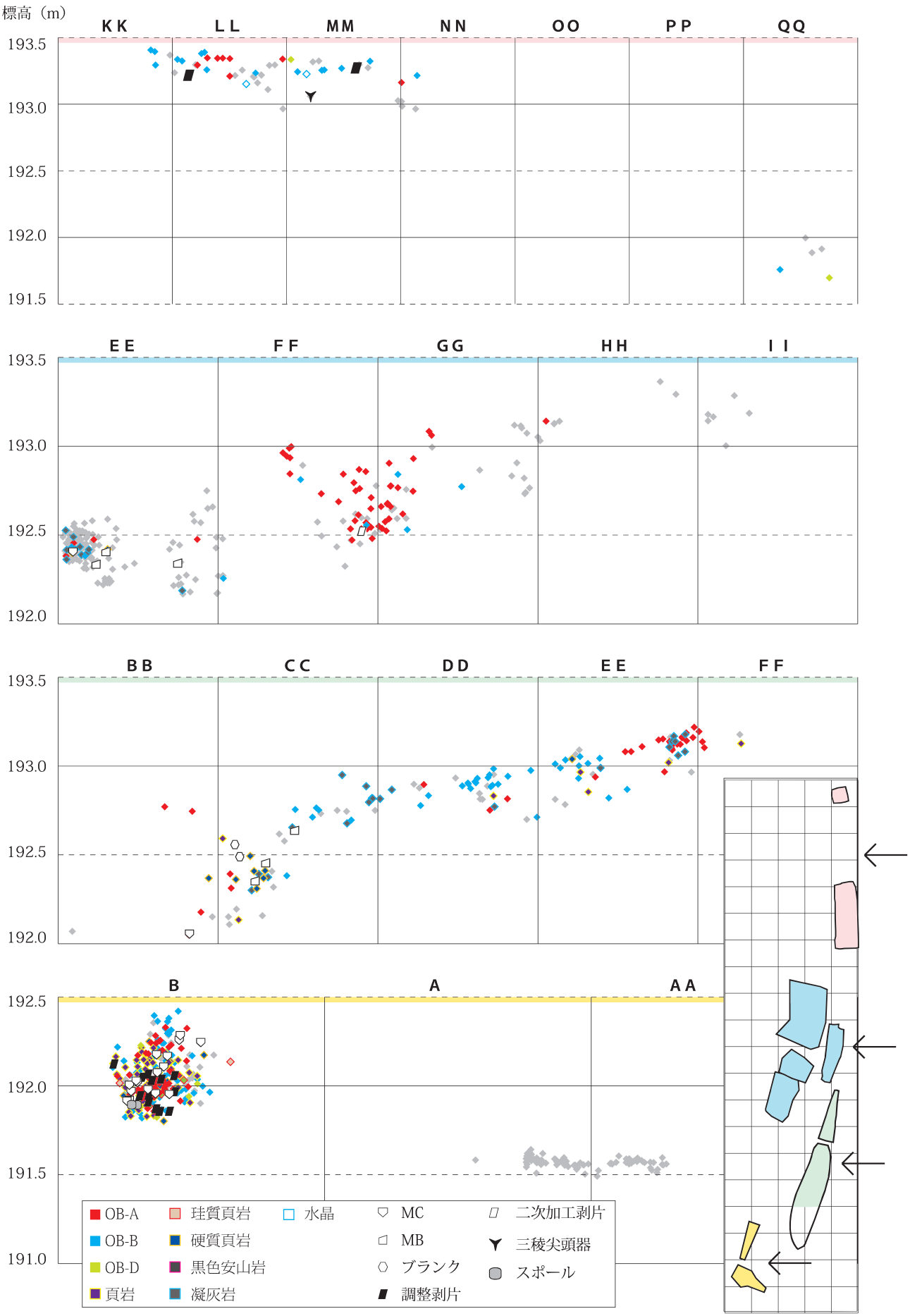


Sブロック



Rブロック

第216図　Ⅶ層O～Sブロック出土状況図



第217図　Ⅴ～Ⅻ地区石器出土状況図（垂直分布）

整が礫の分割前に行われていることを示す資料である。306は凝灰岩質頁岩の細石刃核など6点の接合資料である。aは細石刃核で，小口部に3条の樋状剥離面が観察される。打面を側方からの連続する剥離により形成した後，小口部から縦にスポール状の剥片を剥出し，細石刃を剥離している。縦からのスポール状の剥離は，打点が遠く，打面の再生作業に伴うものではなく，当初に形成されたものである可能性が高い。打面の形成状況からa＋bで細石刃核をなしていたことがわかる。c，d，eは分割時の剥片で，fはa＋bの細石刃核の下縁からの整形剥片である。加治屋園型細石刃核の典型的な技術を示すものである。307は珪質頁岩製の3つに折れた縦長剥片の接合である。断面三角形の形状から，大型の細石刃核のスポールである可能性もある。背面の稜上には，微細剥離痕が観察される。308は珪質頁岩製の厚手の剥片の分割を示す接合資料である。同ブロック内に同一石材の細石刃核が見られないため性格は明らかにできないが，船野型細石刃核のブランク製作に関わる接合資料の可能性もある。石器自体が被熱しており，所々にはじけた痕跡が確認される。

⑽　Ⅶ・Ⅸ・ⅩⅡ・ⅩⅢ地区の出土遺物

O・Q・R・Sブロック

309はOB-A製の細石刃核である。礫皮面を残す素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。310はOB-B製のブランクである。板状の素材を使用している。311はOB-B製のブランクである。312～314は細石刃である。315は凝灰岩製の細石刃核である。素材剥片の主剥離面を側面に利用し，打面を側方からの連続する剥離により形成し，下縁調整を施した後，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。316～317は細石刃である。318はOB-B製の二次加工剥片である。319は硬質頁岩製の細石刃である。320は珪質頁岩製の作業面再生剥片である。作業面と相対する面からの再生である。

表72　実測遺物観察表（旧石器）3

レイアウト番号	取上番号	ページ番号	ブロック	接合	器種	層位	石材	x	y	z	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重さ（g）	備考
51	300318	10	A		MC	7	鉄石英	45.916	20.900	195.530	2.70	2.00	4.00	1.63	
52	301047	10	A		MC	7	OB-A	45.540	19.831	195.470	2.40	1.90	2.60	9.60	
53	301129	10	A		コア	7	OB-A	46.133	20.416	195.495	3.00	3.20	2.20	19.62	
54	301044	10	A		コア	7	OB-A	45.425	19.944	195.390	3.20	3.20	3.35	28.82	
55	301069	10	A		MC	7		45.550	18.715	195.425	2.30	1.40	1.10	3.66	
56	303045	10	A		石鏃	7	硬質頁岩	45.732	20.220	195.445	3.90	2.60	0.70	6.75	尖頭器
57	308622	11	B		MC ブランク	7	OB-B	41.252	21.826	195.420	2.00	2.30	1.40	5.16	
58	301187	11	B		MC	7	OB-A	40.247	20.140	195.355	2.25	1.50	1.50	3.85	
59	301842	11	B		コア	7	OB-B	43.121	19.945	195.420	2.20	2.50	2.42	9.78	掻器
60	301316	11	B		MC	7	OB-A	42.449	20.120	195.405	2.40	1.65	2.12	8.35	
61	309483	11	B		二次加工剥片	7	黒色安山岩	41.115	21.878	195.425	2.56	2.78	1.00	4.37	
62	303026	11	B		スクレイパー	7	硬質頁岩	43.282	21.093	195.440	2.10	3.15	0.70	4.90	
63	301189	11	B		剥片	7	硬質頁岩	40.777	20.632	195.305	2.70	2.30	0.85	3.87	
64	301217	11	B		剥片	7	OB-A	41.073	21.347	195.285	1.92	0.91	0.40	0.52	
65	309492	11	B		石鏃	7	黒色安山岩	41.235	22.009	195.400	1.45	1.65	0.45	0.89	
66	300116	12			MC	7	硬質頁岩	46.639	22.656	195.550	2.40	2.30	2.15		
67	300165	12			MC	7	OB-B	45.893	23.256	195.555	3.50	2.10	2.10		
68	300120	12			MC	7	OB-A	46.949	22.995	195.560	2.80	2.75	3.50		
69	302728	12	C		MC	7	凝灰岩質頁岩	44.111	25.254	195.565	2.60	1.00	2.20	3.43	
70	302494	12	C		MC	7	OB-A	44.962	24.077	195.465	2.40	1.40	1.40	4.33	
71	308764	12	C		MC	7	OB-A	43.244	23.904	195.440	2.10	1.25	1.65	2.67	
72	308717	12	C		MC	7	OB-B	44.126	25.155	195.435	2.00	2.10	2.30	5.41	
73	309515	13	C		MC	7	OB-A	44.730	24.242	195.420	2.10	1.50	2.20	6.34	
74	304263	13	C		二次加工剥片	7	OB-B	45.007	23.305	195.420	1.80	2.50	2.70	6.10	
75	308803	13	C		コア	7	OB-B	44.533	23.705	195.290	1.25	1.90	2.00	3.84	掻器
76	302867	13	C		MC	7	OB-A	44.077	23.585	195.525	1.70	1.60	1.90	3.71	
77	306114	13	C		MC	7	OB-C	45.813	22.863	195.350	1.80	1.30	2.20	4.31	
78	300151	13	C		MC	7	OB-A	45.598	24.002	195.590	1.55	1.90	1.80	5.46	
79	307235	13	C		MC	7	OB-A	46.536	24.247	195.450	1.70	1.40	1.55	2.73	
80	302504	13	C		MC	7	黒色安山岩	45.299	23.827	195.440	1.20	1.10	0.90	0.84	
81	307395	13	C		MC	7	OB-B	42.502	24.695	195.410	1.20	1.15	1.20	1.16	
82	302953	13	C		打面再生剥片	7	OB-C	43.143	23.183	195.470	1.40	1.20	1.40	1.25	
83	304058	13	C		MC	7	OB-B	43.722	23.502	195.365	1.60	1.70	1.45	4.80	
84	308703	13	C		石鏃	7	珪質頁岩	44.836	25.713	195.440	1.85	1.30	0.40	0.68	
85	300178	13	C		石鏃	7	頁岩	45.729	22.333	195.560	2.30	1.40	0.40	0.98	
86	300657	14	C		石鏃	7	頁岩	43.340	24.096	195.460	2.80	1.50	0.90	2.74	尖頭器未製品スクレイパー
87	300093	14	C		石鏃	7	頁岩	46.656	21.537	195.585	2.35	1.90	0.70	2.77	
88	309568	14	C		石鏃未製品	7	硬質頁岩	44.315	24.123	195.425	3.00	1.50	0.60	2.48	
89	300953	14	C		石鏃	7	頁岩	45.416	23.993	195.585	2.30	1.40	0.45	1.46	
90	300585	14	C		尖頭器	7	硬質頁岩	43.446	24.698	195.505	3.10	2.30	0.75	5.29	石鏃未製品
91	304069		C		土器	7	土器	27.290	41.336	195.310					微隆起線文あり
92	300763		C		土器	7	土器	25.003	43.674	195.395					
93	300712	14	C		コア	7	OB-B	42.396	22.986	195.430	2.20	2.30	1.80	7.53	
94	302905	14	C		スクレイパー	7	硬質頁岩	43.097	23.567	195.450	2.00	1.30	4.55	11.10	ブランク　コア
95	305932	14	C		コア	7	OB-B	43.139	25.338	195.315	1.60	2.70	2.00	7.64	
96	302995	14	C		コア	7	硬質頁岩	43.094	22.734	195.455	3.10	4.45	1.30	13.89	
97	300965	14	C		スクレイパー	7	硬質頁岩	44.946	23.815	195.565	3.20	2.70	0.55	3.93	
98	300601	14	C		二次加工剥片	7	硬質頁岩	44.470	24.409	195.525	2.50	3.55	0.90	5.60	
99	301591	15	D		MC	7	OB-A	43.924	28.012	195.360	2.40	1.60	2.30	8.60	
100	301784	15	D		MC	7	OB-A	44.670	29.763	195.425	2.80	1.40	1.80	6.98	
101	306905	15	D		スクレイパー	7	OB-B	45.758	28.195	195.400	1.25	1.90	1.70	3.72	
102	301622	15	D		MC	7	OB-A	44.273	28.098	195.375	2.10	1.30	1.20	3.18	
103	301708	15	D		MC	7	OB-A	44.578	28.756	195.460	2.30	1.90	2.00	6.98	
104	301689	15	D		MC	7	OB-A	44.871	28.788	195.500	1.70	2.30	1.20	3.75	
105	301614	15	D		MC	7	OB-B	44.525	28.418	195.335	2.70	1.50	1.70	4.80	
106	310588	15	D		MC	7	OB-B	44.751	29.283	195.250	1.40	2.00	1.90	4.30	

表73　実測遺物観察表（旧石器）4

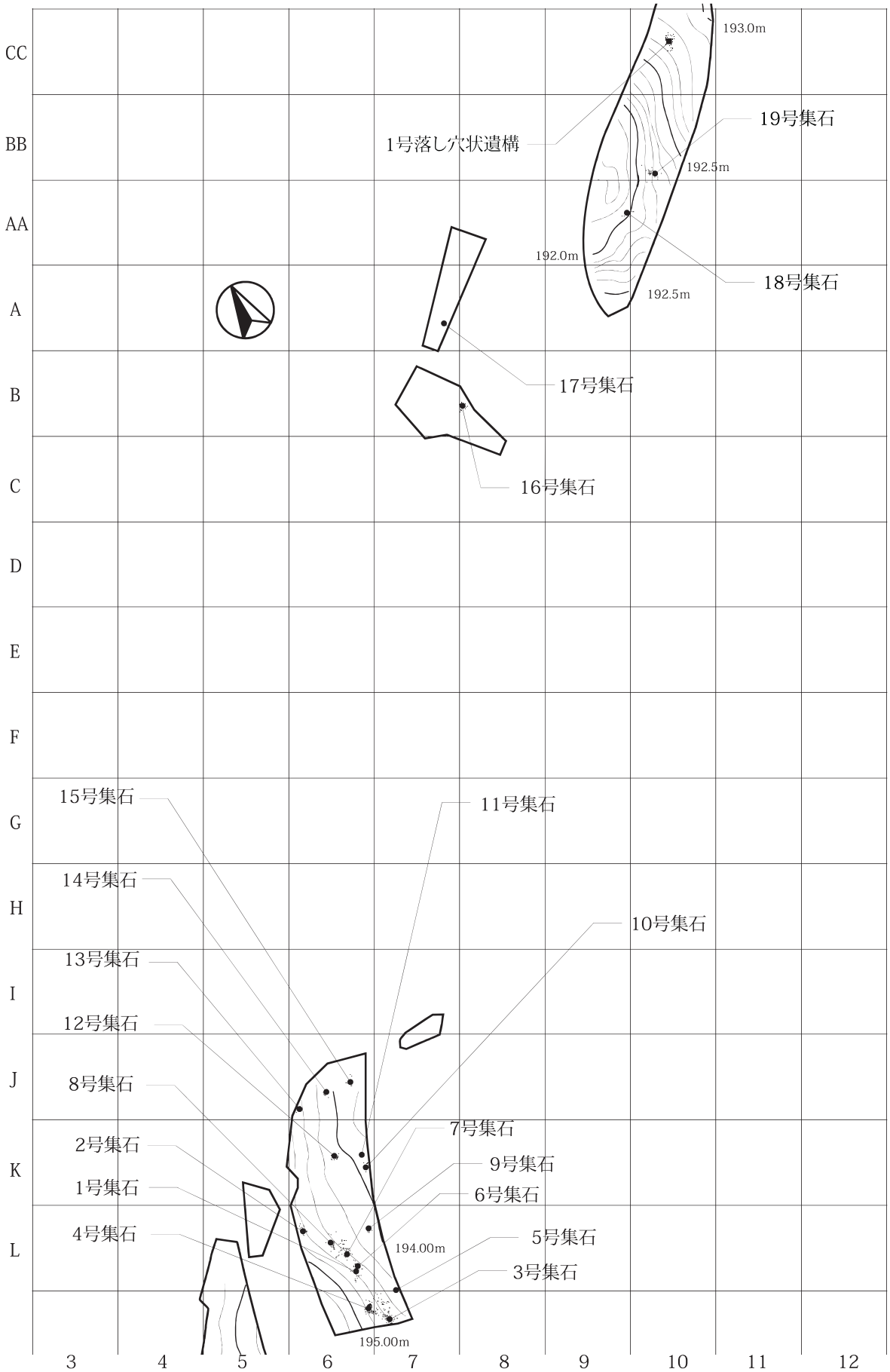
ﾚｲｱｳﾄ番号	取上番号	ページ番号	ブロック	接合	器種	層位	石材	x	y	z	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重さ（g）	備考
107	301606	15	D		石鏃未製品	7	黒色安山岩	44.182	28.398	195.355	3.90	1.30	0.60	2.32	スクレイパー
108	306765	15	D		石鏃	7	黒色安山岩	44.013	29.620	195.390	1.90	1.20	0.40	0.83	
109	303708	15	D		石鏃	7	チャート	45.302	28.481	195.430	1.70	1.60	0.45	0.85	
110	301635	16	D		ブランク	7	頁岩	45.368	27.993	195.360	3.30	1.30	2.40	5.46	
111	309214	16	D		二次加工剥片	7	OB-B	45.054	29.697	195.285	1.95	1.10	0.70	1.11	
112	301642	16	D		コア	7	OB-B	45.547	28.460	195.425	2.30	2.95	2.30	13.38	MC ブランク
113	303291	17	E		MC	7	OB-A	41.081	31.593	195.425	2.70	1.75	1.95	7.25	
114	301460	17	E		MC	7	OB-B	42.252	29.862	195.360	2.30	1.72	2.25	8.41	
115	306576	17	E		MC	7	OB-E	42.207	31.227	195.290	1.95	1.22	1.45	2.92	
116	303351	17	E		MC	7	OB-A	42.584	30.667	195.350	1.80	1.66	1.30	3.48	
117	306432	17	E		MC	7	OB-A	42.416	29.528	195.330	1.99	1.50	1.45	3.42	
118	303392	17	E		MC	7	OB-B	43.108	30.283	195.355	2.30	1.65	1.40	4.29	
119	301389	17	E		MC	7	OB-A	41.357	29.572	195.350	1.80	1.70	1.45	4.10	
120	303272	17	E		スクレイパー	7	硬質頁岩	41.746	31.043	195.460	1.70	2.12	0.60	1.22	石鏃未製品
121	303242	17	E		スクレイパー	7	OB-A	41.357	29.452	195.420	3.80	2.45	1.12	9.20	
122	301395	17	E		スクレイパー	7	硬質頁岩	41.302	29.781	195.305	2.55	3.50	1.50	6.71	
123	303922		E		土器	7	土器	32.820	40.373	195.360					
124	301396	17	E		スクレイパー	7	黒色安山岩	41.469	29.831	195.330	3.10	2.45	1.00	5.52	石鏃未製品
125	303352	17	E		スクレイパー	7	硬質頁岩	42.510	30.684	195.350	4.70	2.90	1.40	17.12	
126	308602	18	F		MC	7	OB-B	43.638	34.880	195.425	1.85	1.40	1.75	5.44	
127	303155	18	F		MC	7	OB-B	44.541	32.225	195.380	1.18	1.88	2.20	6.17	
128	303171	18	F		コア	7	OB-B	44.847	31.671	195.380	1.75	2.60	2.40	1.67	MC ブランク
129	303151	18	F		コア	7	OB-A	44.430	31.572	195.380	2.20	2.40	1.80	8.15	MC ブランク
130	306541	18	F		MC	7	OB-A	43.565	31.349	195.415	1.60	1.40	1.85	3.94	
131	303097	18	F		MC 調整剥片	7	OB-A	43.089	32.165	195.455	1.10	2.30	1.25	2.19	
132	306532	18	F		MC	7	黒色安山岩	43.871	30.713	195.400	1.35	1.40	1.25	1.82	
133	311063	18	F		コア	7	OB-B	43.842	32.275	195.390	2.20	1.65	3.00	1.33	MC ブランク
134	306606	18	F		スクレイパー	7	黒色安山岩	43.013	31.705	195.310	3.00	3.70	1.18	12.35	
135	308541	19	F		尖頭器	7	黒色安山岩	43.793	33.836	195.375	3.60	3.15	1.18	8.72	
136	303166	19	F		尖頭器	7	硬質頁岩	44.711	31.494	195.390	3.60	2.40	0.90	7.33	
137	308566	19	F		石鏃	7	硬質頁岩	44.218	34.478	195.405	2.90	1.55	0.60	2.45	
138	310466	19	F		石鏃	7	硬質頁岩	43.404	30.714	195.200	2.70	1.40	0.43	1.66	
139	303501	19	F		石鏃	7	黒色安山岩	45.078	30.774	195.400	2.28	1.25	0.60	0.97	
140	303374	19	F		石鏃	7	硬質頁岩	42.782	30.637	195.345	2.55	1.73	0.50	1.97	
141	309282	19	F		石鏃未製品	7	硬質頁岩	43.712	32.591	195.380	3.23	2.10	0.53	3.60	
142	307940	19	F		コア	7	硬質頁岩	43.274	31.174	195.325	3.00	6.60	4.95	64.77	
143	309757	19	F		コア	7	瑪瑙	43.530	34.089	195.240	3.00	6.50	3.30	61.49	
144	300008	20	外		MC	7	OB-A	49.442	15.201	195.240	2.00	1.50	2.10	5.20	
145	300049	20	外		MC	7	OB-C	51.103	5.411	195.095	1.45	1.10	0.70	0.94	
146	306416	20	外		MC	7	OB-A	42.682	27.646	195.340	1.55	1.00	1.40	1.92	
147	300450	20	外		石鏃未製品	7	硬質頁岩	41.606	25.879	195.420	3.00	2.00	0.75	4.14	
148	300025	20	外		石鏃	7	OB-C	55.330	4.453	195.350	2.00	1.25	0.30	0.41	
149	308690	20	外		コア	7	OB-A	45.053	26.513	195.400	2.30	1.90	1.10	3.33	
150	304176	20	外		コア	7	硬質頁岩	41.127	23.052	195.470	4.60	3.30	1.50	16.39	スクレイパー
151	300413	20	外		ブランク	7	OB-B	41.713	24.785	195.445	1.80	2.40	2.00	8.16	
152	303148	21			ナイフ形石器	7	OB-A	44.450	32.220	195.345	2.59	2.20	0.90	3.92	
153	306198	21			台形石器	7	硬質頁岩	45.173	25.853	195.460	2.42	2.30	0.85	3.51	
154	310847	21			ナイフ形石器	7	硬質頁岩	43.864	34.106	195.275	2.20	1.40	0.55	1.49	
155	304076	21			ナイフ形石器	7	OB-B	43.797	24.533	195.405	1.85	1.50	0.70	1.90	
156	309138	21			ナイフ形石器	7	OB-A	44.210	32.117	195.505	2.30	0.90	0.72	0.88	
157	300010	21			ナイフ形石器	7	OB-A	50.361	14.092	195.105	1.70	1.00	0.50	0.55	
158	308071	21			ナイフ形石器	7	OB-B	45.116	27.277	195.315	1.20	0.78	0.25	0.17	
159	301597	21			ナイフ形石器	7	OB-B	44.088	28.199	195.395	1.15	1.25	0.55	0.58	
160	113061	22			MC	7	凝灰岩質頁岩	46.745	37.577	195.087	2.25	2.00	2.95		
161	112622	22	G		MC	7	凝灰岩質頁岩	46.605	37.628	195.116	2.95	1.85	2.10	8.48	
162	113057	22	G		MC	7	凝灰岩質頁岩	46.778	37.376	195.098	4.15	4.65	1.95	41.79	
163	112891	22	G		MC	7	凝灰岩質頁岩	45.712	38.139	195.236	3.50	3.20	1.30	11.31	
164	114605	23			MC	7	凝灰岩質頁岩	45.523	37.958	195.267	3.30	1.70	4.20		
165	113001	23	G		MC	7	OB-A	47.258	36.014	195.125	2.75	1.60	1.60	5.85	
166	113384	23	G		MC	7	凝灰岩質頁岩	46.605	38.280	195.067	2.50	1.70	1.50	3.95	
167	114856	23	G		MC	7	OB-A	47.328	35.133	195.157	2.60	1.80	2.20	7.48	
168	113619	23	G		MC 作業面再生剥片	7	凝灰岩質頁岩	46.803	36.778	195.100	3.30	3.15	1.30	12.92	
169	112918	23	G		MC 打面再生剥片	7	凝灰岩質頁岩	44.987	38.765	195.367	1.40	2.50	1.80	5.21	
170	112651	23	G		MC	7	硬質頁岩	46.640	38.323	195.086	2.35	1.60	2.93	6.30	
171	113903	24	G		MC	7	OB-A	45.387	35.976	195.336	2.20	1.70	1.70	7.34	
172	112484	24	G		MC	7	OB-A	45.640	34.974	195.378	2.40	1.55	2.30	7.17	
173	113320	24	G		MC	7	OB-A	47.002	34.728	195.227	2.20	1.50	2.00	4.65	
174	112487	24	G		MC	7	OB-A	46.119	35.172	195.342	2.45	1.70	1.80	5.56	
175	114074	24	G		MC	7	OB-A	48.086	37.093	194.984	1.90	1.30	2.40	4.32	
176	115058	24	G		MC	7	OB-A	45.875	34.681	195.277	2.60	1.60	1.70	7.10	
177	112578	24	G		MC	7	OB-A	46.895	36.267	195.151	2.70	1.60	2.10	9.37	
178	113615	24			MC	7	凝灰岩質頁岩	46.395	36.915	195.177	2.00	2.00	2.60		
179	114738	25			MC	7	OB-A	46.373	34.326	195.292	2.20	2.40	1.70		
180	112479	25	G		MC	7	OB-A	46.087	34.808	195.327	1.40	1.10	1.20	1.58	
181	113186	25	G		MC	7	OB-A	45.862	34.315	195.360	1.90	1.50	1.50	3.79	
182	112450	25	G		MC	7	OB-A	46.413	34.242	195.340	2.00	1.30	1.60	4.82	
183	112564	25	G		MC	7	黒曜石	46.753	35.233	195.241	1.75	2.40	1.75	6.29	
184	115303	25	G		ブランク	7	OB-A	45.403	35.563	195.251	1.30	2.60	1.70	4.91	
185	114196	25	G		尖頭器	7	硬質頁岩	45.640	34.918	195.326	3.10	2.90	0.70	6.95	石鏃未製品

表74　実測遺物観察表（旧石器） 5

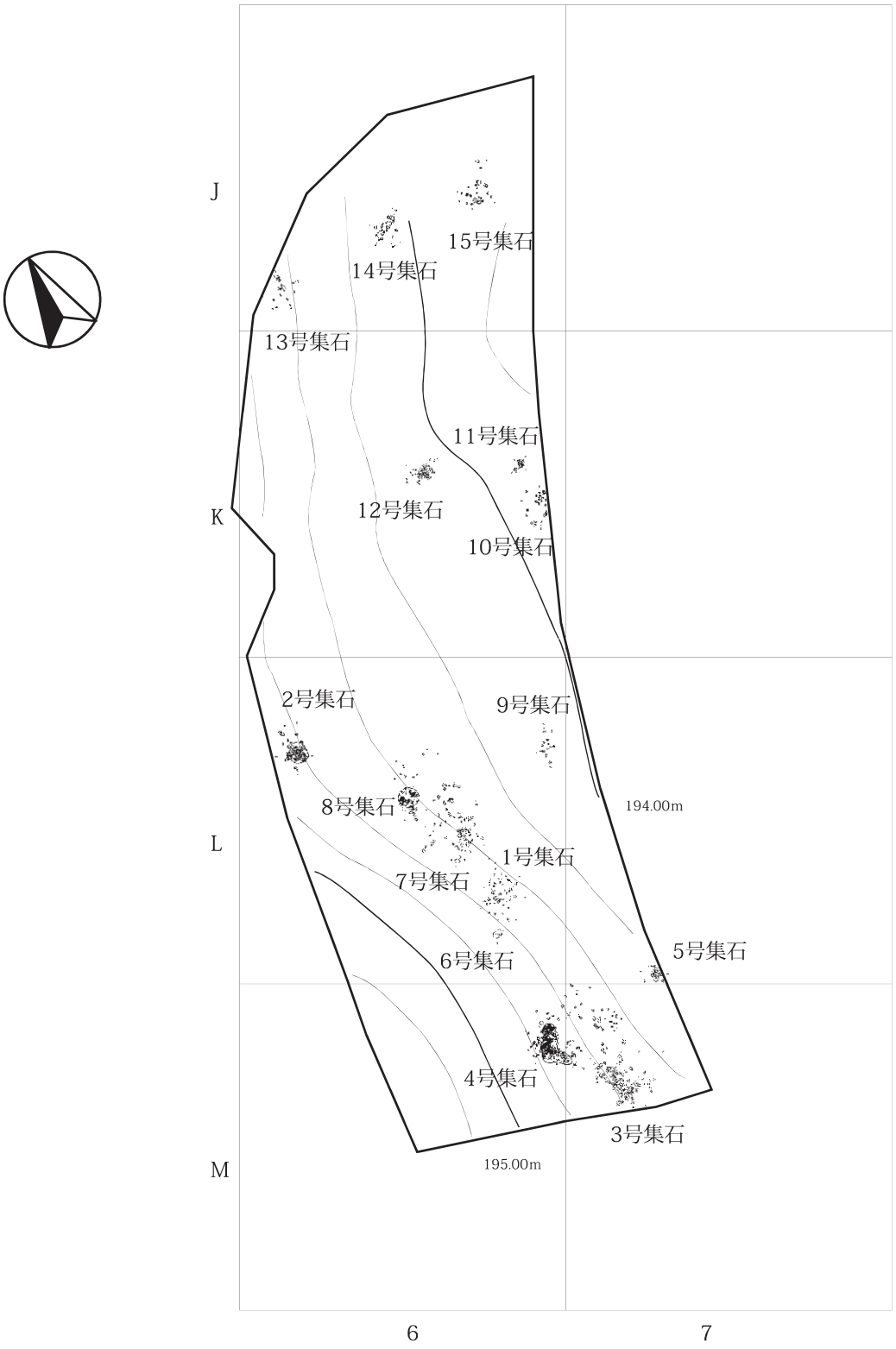
ﾚｲｱｳﾄ番号	取上番号	ページ番号	ブロック	接合	器種	層位	石材	x	y	z	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重さ（g）	備考
209	113469	27	G		MB	7	硬質頁岩	45.361	36.294	195.314	1.30	0.75	0.20	0.20	
210	114460	27	G		MB	7	鉄石英	47.537	37.745	194.939	0.80	0.90	0.12	0.90	
211	114510	27	G		MB	7	OB-A	46.391	34.259	195.315	1.10	0.95	0.20	0.17	
212	113713	27	G		MB	7	OB	47.614	38.030	194.951	0.79	0.55	0.18	0.70	
186	112839	25	G		石鏃	7		45.896	35.515	195.313	1.50	1.65	0.60		
187	113447	25	G		石鏃	7		45.668	35.320	195.323	1.60	1.90	0.60	2.31	
188	113864	25	G		石鏃未製品	7	硬質頁岩	45.583	35.168	195.337	3.15	2.50	0.90	5.31	
189	112577	25	G		コア	7	OB-A	47.098	36.216	195.129	1.70	1.20	0.90	1.55	
190	113654	26	G		コア	7	硬質頁岩	46.390	37.228	195.121	3.70	2.50	3.65	31.92	
191	113062	26	G		コア	7	瑪瑙	46.842	37.558	195.083	2.00	3.60	2.00	13.16	
192	115535	26	G		MC ブランク	7	OB-A	46.431	37.862	194.766	2.50	0.60	2.80	6.89	
193	114086	26	G		コア	7	鉄石英	47.515	37.796	194.958	3.15	2.65	3.20	26.94	
194	112512	26	G		コア	7	硬質頁岩	45.932	35.687	195.316	2.95	3.30	3.20	12.56	
195	114308	27	G		二次加工剥片	7	凝灰岩質頁岩	45.993	36.630	195.242	2.35	2.90	1.10	5.75	
196	114875	27	G		二次加工剥片	7	黒色安山岩	46.807	35.823	195.117	2.35	3.25	0.75	3.73	
197	112527	27	G		二次加工剥片	7	硬質頁岩	45.710	36.113	195.346	3.50	2.50	0.60	4.25	
198	112815	27	G		二次加工剥片	7	タンパク石	45.462	34.734	195.394	3.00	3.32	1.30	11.80	
199	114337	27	G		剥片	7	頁岩	45.628	37.945	195.263	2.50	1.50	0.30	0.98	
200	112511	27			コア	7		45.809	35.626	195.330	4.30	1.40	2.55		
201	112514	27	G		MB	7	硬質頁岩	45.375	35.825	195.352	2.85	0.93	0.23	0.59	
202	113513	27	G		MB	7	砂岩	45.486	37.582	195.297	2.30	0.80	0.25	0.46	
203	113856	27	G		MB	7	OB-A	45.511	34.773	195.351	1.95	1.50	0.20	0.25	
204	113922	27	G		MB	7	鉄石英	45.583	37.328	195.274	1.75	0.70	0.23	0.29	
205	112556	27	G		MB	7		45.816	37.669	195.265	1.60	0.70	0.15	0.18	
206	114035	27	G		MB	7	硬質頁岩	47.169	35.653	195.147	1.45	0.85	0.15	0.24	
207	112664	27	G		MB	7	頁岩	46.580	39.040	195.094	1.75	0.95	0.25	0.32	
208	114944	27	G		MB	7	砂岩	48.724	38.481	194.770	1.30	0.68	1.50	0.14	
213	114976	27	G		MB	7	OB	46.009	36.119	195.241	1.20	1.00	0.30	0.33	
214	112923	27	G		MB	7	鉄石英	45.426	38.749	195.333	0.90	0.50	0.10	0.60	
215	112877	27	G		MB	7	メノウ	45.299	37.775	195.331	0.80	0.65	0.18	0.12	
216	114803	27	G		MB	7	頁岩	45.699	37.102	195.233	0.90	0.65	0.13	0.60	
217	114795	27	G		MB	7	凝灰岩	45.174	36.808	195.286	0.95	0.48	0.20	0.90	
218	114226	27	G		MB	7	鉄石英	45.256	36.599	195.288	1.10	0.75	0.13	0.14	
219	114581	28	G		MB	7	OB	45.578	37.109	195.259	1.70	0.70	0.20	0.34	
220	112781	28	G		MB	7	OB-A	45.848	34.026	195.388	1.58	0.52	0.10	0.12	
221	114808	28	G		MB	7	シルト質頁岩	45.793	37.284	195.229	1.22	0.65	0.11	0.15	
222	112520	28	G		MB	7		45.248	35.995	195.364	1.50	0.90	0.21	0.22	
223	114956	28	G		MB	7	鉄石英	45.467	34.718	195.329	1.55	0.68	0.20	0.26	
224	113834	28	G		MB	7	OB-A	45.439	34.607	195.381	1.72	0.95	0.15	0.22	
225	113378	28	G		MB	7	硬質頁岩	46.669	37.966	195.074	1.50	0.81	0.20	0.25	
226	112813	28	G		MB	7	OB-A	45.547	34.580	195.374	1.30	0.55	0.15	0.11	
227	114410	28	G		MB	7		47.067	36.000	195.106	1.10	0.43	0.10	0.50	
228	114300	28	G		MB	7		45.342	36.084	195.318	0.81	0.80	0.10	0.70	
229	114050	28	G		MB	7	OB-A	46.506	36.200	195.159	1.80	0.98	0.30	0.31	
230	114414	28	G		MB	7	頁岩	45.523	34.728	195.372	1.80	1.18	0.20	0.22	
231	113227	28	G		MB	7	OB	45.657	35.455	195.328	0.75	0.55	0.20	0.50	
232	112669	28	外		MC	7	OB-A	47.185	39.008	194.999	2.95	1.35	2.70	7.46	
233	115554	28	外		二次加工剥片	7	OB-A	47.546	40.041	194.233	2.30	3.50	2.35	1.27	
234	112702	28	外		ブランク	7	OB-A	47.285	39.862	194.995	2.10	1.60	1.30	4.40	
235	113796	28	外		剥片	7	OB-A	47.745	41.556	194.987	1.85	1.20	0.35	2.41	
236	114948	28	外		MB	7	OB-D	48.162	40.545	194.849	1.80	0.60	0.35	0.23	
237	112656	28	外		MB	7	頁岩	46.110	38.625	195.166	1.50	0.95	0.20	0.16	
238	112934	28	外		MB	7	頁岩	44.963	39.229	195.355	1.15	0.80	0.15	0.16	
239	112681	28	外		MB	7	硬質頁岩	46.916	39.536	195.028	1.13	0.78	0.20	0.16	
240	114159	28	外		MB	7	鉄石英	47.188	39.908	194.989	0.85	0.70	0.20	0.80	
241	113751	28	外		MB	7	珪質頁岩	47.642	39.565	194.933	1.40	0.70	0.20	0.15	
242	112666	28	外		MB	7	OB-A	46.758	39.132	195.067	1.95	0.60	0.20	0.18	
243	112930	28	外		MB	7	鉄石英	45.302	39.099	195.333	0.78	0.35	0.18	0.10	
244	113168	29	外		コア	7	硬質頁岩	46.339	40.918	195.235	3.20	3.53	3.80	25.20	MC ブランク
245	113289	29	外		二次加工剥片	7	硬質頁岩	45.590	38.427	195.263	3.80	1.90	1.25	8.37	
246	112677	29	外		二次加工剥片	7	鉄石英	46.521	39.437	195.116	3.40	2.00	1.00	6.90	
247	112171	30	H		コア	7	OB-A	60.170	26.091	194.186	2.40	2.60	1.90	11.45	
248	109407	30	H		剥片	7	チャート	58.883	26.846	194.855	1.80	1.00	2.00	0.32	
249	109327	30	H		剥片	7	硬質頁岩	56.269	27.485	195.125	2.20	0.95	0.20	0.27	
250	109399	30	H		剥片	7	頁岩	59.117	26.280	194.872	1.15	0.70	0.30	0.11	
251	109864	30	H		剥片	7	チャート	58.179	26.210	194.980	1.70	7.30	0.25	0.20	
252	110900	30	H		石鏃	7	黒色安山岩	56.053	27.387	195.165	2.43	1.80	0.55	1.62	
253	109380	30	H		石鏃	7	硬質頁岩	58.629	26.713	194.894	2.75	1.20	0.40	0.98	
254	109898	30	H		石鏃	7	チャート	58.806	27.880	194.790	1.85	1.35	0.35	1.50	
255	108755	30	I		MC 調整剥片	7	OB-A	56.829	30.190	194.869	2.10	3.10	2.10	5.89	
256	109227	30	I		MC	7	OB-A	59.131	30.357	194.550	2.50	1.80	1.70	6.50	
257	109764	30	I		コア	7	OB-A	59.039	30.935	194.515	1.60	3.45	1.60	9.55	MC ブランク
258	112191	30	I		MB	7	OB	57.033	30.482	194.069	1.45	0.90	0.15	0.20	
259	109808	30	I		MB	7	OB-E	57.476	28.890	194.865	0.75	0.50	25.00	0.90	
260	109162	31	J		MC	7	凝灰岩質頁岩	53.594	29.290	195.213	2.60	1.75	3.20	18.15	
261	109157	31	J		MC	7	OB-A	54.101	28.676	195.218	1.60	1.60	2.10	6.12	
262	111217	31	J		MC	7	OB-A	54.123	30.063	195.105	2.10	1.65	1.80	7.16	
263	111212	31	J		MC	7	OB-A	53.900	30.463	195.107	2.20	2.80	1.40	9.23	
264	108735	31	J		MC ブランク	7	OB-A	52.787	32.463	195.019	2.60	2.80	1.60	12.41	

表75　実測遺物観察表（旧石器） 6

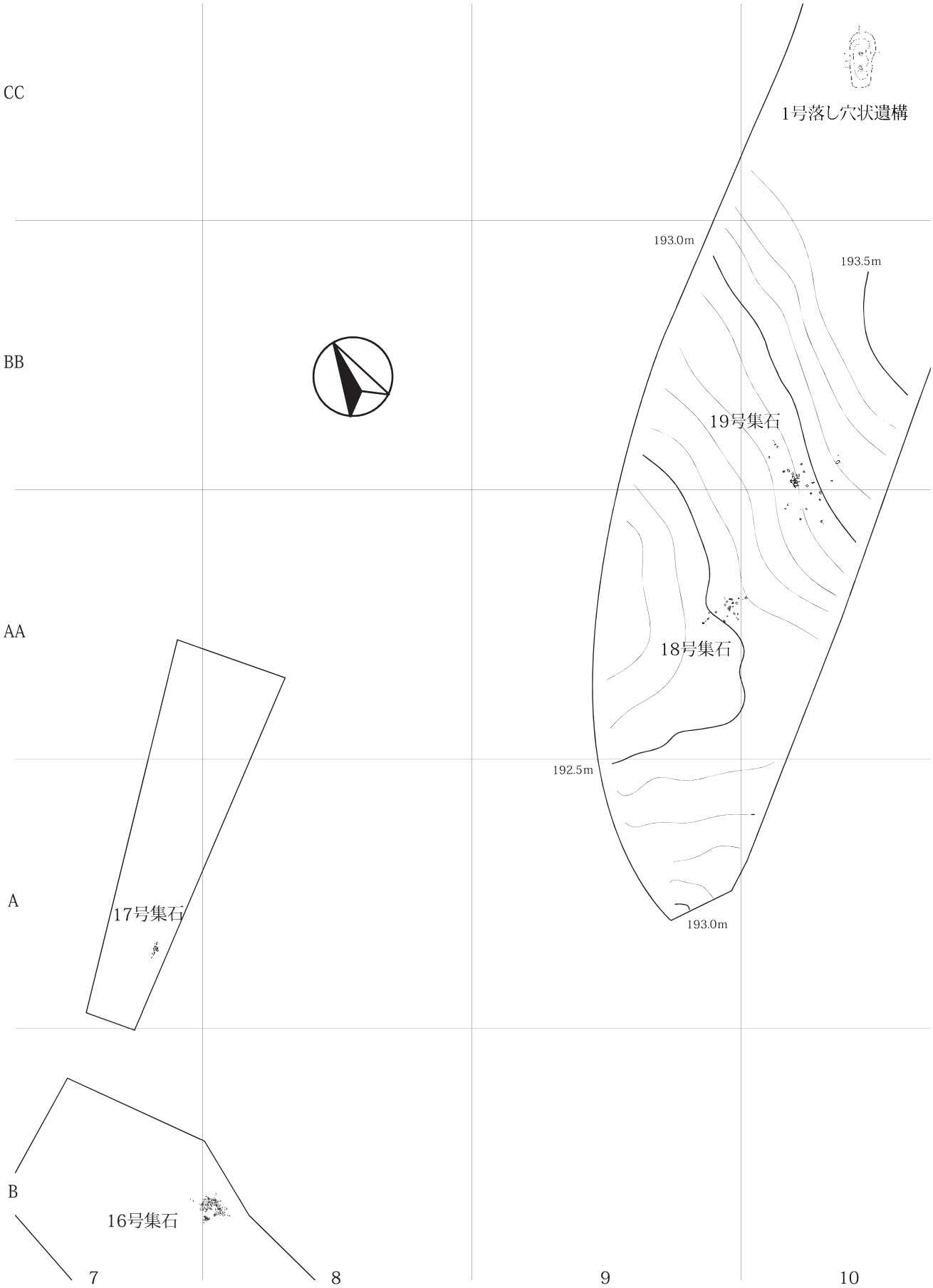
ﾚｲｱｳﾄ番号	取上番号	ページ番号	ブロック	接合	器種	層位	石材	x	y	z	長さ（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重さ（g）	備考
265	108823	31	J		コア	7	OB-A	53.492	30.762	195.152	1.15	2.35	2.30	5.74	MC ブランク
266	109160	31			石鏃	7	OB	53.887	29.040	195.222	1.80	1.85	0.55		
267	110385	31	J		MB	7	黒色安山岩	52.265	33.367	194.948	1.70	0.85	0.25	0.35	
268	110363	31	J		MB	7	OB-A	53.725	33.301	194.767	1.65	0.50	0.13	0.13	
269	111167	31	J		MB	7	OB-E	53.378	32.627	194.863	1.25	0.55	0.17	0.70	
270	110437	31	J		MB	7	OB-D	54.969	31.709	194.878	1.23	0.70	0.18	0.13	
271	108802	31	J		MB	7	OB-A	56.453	32.463	194.671	0.95	0.73	0.15	0.90	
272	108806	31	J		MB	7		54.243	30.754	195.057	0.78	0.38	0.10	0.10	
273	110928	32	K		コア	7	硬質頁岩	52.881	36.053	194.307	2.10	3.70	1.50	11.10	
274	109064	32	K		MC	7	OB-A	52.836	36.211	194.524	1.50	1.20	1.50	3.97	
275	108944	32	K		石鏃未製品	7	黒色安山岩	52.531	35.488	194.609	3.10	2.15	0.55	2.70	
276	111393	32	K		MB	7	OB-A	51.712	35.474	194.695	1.60	0.65	0.25	0.19	
277	108924	32	K		MB	7		53.494	35.206	194.552	1.15	0.75	0.25	0.23	
278	111765	32	K		MB	7	頁岩	52.339	35.141	194.647	1.00	0.45	0.20	0.40	
279	109473	32	外		MC	7	OB-A	51.741	40.835	194.490	1.60	2.50	1.90	6.53	
280	109294	32	外		MC	7	OB-B	61.362	28.194	194.475	2.00	1.60	0.95	3.40	
281	110821	32	外		MC	7	OB-B	60.148	31.545	194.279	1.60	1.50	2.20	4.85	
282	109479	32	外		MC	7	OB-C	51.152	41.497	194.511	1.45	1.10	1.60	2.40	
283	108854	32			コア	7	凝灰岩質頁岩	56.345	35.323	194.321	2.70	2.40	4.30		
284	110542	32	外		石鏃	7	OB-B	57.960	44.804	193.974	1.00	0.90	0.30	0.21	
285	111363	32	外		MB	7	OB-C	53.302	40.172	194.364	1.20	0.55	0.10	0.90	
286	112371	33	外	SG2	打面再生剝片	7	凝灰岩質頁岩	56.156	48.210	193.063	0.80	2.60	3.00		
287	109304	33	外	SG2	打面再生剝片	7	凝灰岩質頁岩	54.698	27.798	195.261	1.40	2.70	3.00	5.10	
288	109240	33	外		微細剝離痕のある剝片	7	硬質頁岩	61.155	31.880	194.210	3.23	1.60	0.51	1.97	
289	109666	33	外		二次加工剝片	7	OB-A	51.939	52.687	194.297	4.20	2.85	0.90	8.20	
290	110008	33	外		石鏃未製品	7	硬質頁岩	55.026	37.485	194.285	2.45	1.70	0.65	2.32	
291	110201	33	外		石鏃	7	OB-A	53.059	35.528	194.563	1.50	1.50	0.40	0.87	
292	110509	33	外		石鏃	7	黒色安山岩	55.503	44.436	194.023	1.60	1.28	0.33	0.54	
293	109002	33	外		石鏃未製品	7	頁岩	54.986	36.758	194.323	2.00	1.40	0.40	0.92	
294	400053	34	L		MC	7	OB-B	65.503	60.925	191.372	2.80	1.98	3.20	17.11	
295	400049	34	L		MC	7	OB-B	65.549	61.072	191.387	1.80	1.68	2.60	7.65	
296	400088	34	L		石鏃未製品	7	凝灰岩質頁岩	65.314	60.465	191.422	2.00	1.95	0.65	1.89	
297	400105	34	L		台形石器	7	硬質頁岩	64.680	60.717	191.492	1.25	1.50	0.45	0.60	ナイフ形石器
298	400071	34	L		叩石	7	砂岩	64.785	61.191	191.422	6.65	4.75	2.85	75.39	
299	200102	35	N	SG3	MC	7	凝灰岩質頁岩	67.096	132.914	192.022	6.60	2.00	3.90		
299	200162	35	N	SG3	MC	7	凝灰岩質頁岩	65.997	133.596	191.958	6.60	2.00	3.90		
300	200173	35	N	SG4	MC	7	凝灰岩質頁岩	65.108	134.119	191.954	3.70	2.40	4.40		
300	200199	35	N	SG4	MC	7	凝灰岩質頁岩	68.313	134.045	192.171	3.70	2.40	4.40		
300	200305	35	N	SG4	MC	7	凝灰岩質頁岩	68.705	133.911	192.111	3.70	2.40	4.40		
301	200226	35	N		MC	7	OB-B	66.673	132.613	191.921	1.70	1.68	1.83	5.33	
302	200088	35	N	SG5	作業面再生剝片	7	凝灰岩質頁岩	67.541	133.345	192.069	3.82	2.40	1.65	5.89	
302	200093	35	N	SG5	作業面再生剝片	7	凝灰岩質頁岩	67.011	133.841	192.040					
302	200155	35	N	SG5	作業面再生剝片	7	凝灰岩質頁岩	66.025	133.042	191.946					
302	200234	35	N	SG5	作業面再生剝片	7	凝灰岩質頁岩	66.219	133.381	191.949					
302	200275	35	N	SG5	作業面再生剝片	7	凝灰岩質頁岩	64.177	133.643	191.872					
303	200048	36	N	SG6	MC	7	凝灰岩質頁岩	68.629	134.491	192.263	7.80	1.40	12.70		
303	200051	36	N	SG6	MC	7	凝灰岩質頁岩	68.157	135.306	192.251					
303	200108	36	N	SG6	MC	7	凝灰岩質頁岩	66.499	132.678	191.971					
303	200144	36	N	SG6	MC	7	凝灰岩質頁岩	66.290	133.317	191.981					
303	200194	36	N	SG6	MC	7	凝灰岩質頁岩	68.037	133.669	192.078					
304	200112	36	N	SG7	MC	7	凝灰岩質頁岩	66.673	132.614	192.007	7.50	2.63	5.40		
304	200286	36	N	SG7	MC	7	凝灰岩質頁岩	68.400	133.640	192.180					
305	200103	36	N	SG8	MC	7	凝灰岩質頁岩	67.146	132.870	192.030	8.80	1.42	5.15		
305	200153	36	N	SG8	MC	7	凝灰岩質頁岩	65.853	132.522	191.916					
306	200049		N	SG9	MC	7	凝灰岩質頁岩	68.374	134.532	192.290	9.85	1.75	9.90	85.00	
306	200099		N	SG9	剝片	7	凝灰岩質頁岩	67.194	133.134	192.051					
306	200208		N	SG9	剝片	7	凝灰岩質頁岩	67.180	134.338	192.060					
306	200292		N	SG9	剝片	7	凝灰岩質頁岩	67.805	133.493	192.033					
306	200137		N	SG9	剝片	7	凝灰岩質頁岩	66.084	134.351	191.969					
306	200030		N	SG9	剝片	7	凝灰岩質頁岩	68.204	132.063	192.126					
307	200252		N	SG10	スポール	7	珪質頁岩	65.089	132.916	191.895	9.00	1.10	1.05	3.20	
307	200249		N	SG10	スポール	7	珪質頁岩	65.005	132.716	191.896					
307	200233		N	SG10	剝片	7	珪質頁岩	66.146	133.369	191.911					
308	200262		N	SG11	剝片	7	珪質頁岩	64.539	133.786	191.857	6.10	3.35	1.80	22.50	
308	200273		N	SG11	剝片	7	珪質頁岩	63.892	134.153	191.858					
309	500891	37	OQRS		MC	7	OB-A	93.453	168.173	192.049	2.25	1.45	1.80	4.12	
310	500883	37	OQRS		ブランク	7	OB-B	95.511	171.325	192.488	3.50	2.70	2.80	23.72	
311	500884	37	OQRS		ブランク	7	OB-B	95.479	171.019	192.557	1.90	2.85	2.10	1.17	
312	500874	37	OQRS		MB	7	頁岩	91.251	172.289	192.352	2.00	0.64	0.26	0.31	
313	500869	37	OQRS		MB	7	SH	92.526	172.949	192.454	1.20	0.62	0.12	0.90	
314	500953	37	OQRS		MB	7	OB	96.150	174.766	192.638	1.40	0.65	0.20	0.12	
315	110609	37	OQRS		MC	7	凝灰岩	81.221	191.044	192.402	2.55	1.60	1.35	2.82	
316	110703	37	OQRS		MB	7	鉄石英	81.273	198.921	192.340	1.30	0.68	0.18	0.17	
317	110574	37	OQRS		MB	7	珪質頁岩	79.265	192.783	192.334	1.00	0.70	0.25	0.10	
318	600081	37	OQRS		二次加工剝片	7	OB-B	97.768	212.768	192.520	2.25	1.70	0.95	2.38	
319	110591	37	OQRS		MB	7	硬質頁岩	80.938	193.524	192.405	0.60	0.60	0.17	0.70	
320	600006	37	OQRS		作業面再生剝片	7	珪質頁岩	108.748	276.079	193.278	2.50	2.75	1.65	5.67	
321	600057	37			フレーク	7		105.323	261.374	193.222	5.25	1.95	1.22		
322	600061	37			三稜尖頭器	7	OB	104.459	272.076	193.060	4.20	1.50	1.10		



第218図　Ⅴ・Ⅳ層遺構配置図



第219図　Ⅲ地区Ⅴ・Ⅳ層遺構配置図



第220図　北区Ⅴ・Ⅳ層遺構配置図

第４章　Ⅴ・Ⅳ・Ⅲ層の調査

第１節　概要

縄文時代早期に該当する層は薩摩火山灰直上の黒褐色土であるⅤ層及びアカホヤ火山灰直下のⅣ層であり，前期以降に該当する層はⅢ層に集約されている。

遺構は，各層で検出されている。

Ⅴ層では集石遺構が南区から２基検出されている。また，Ⅴ層埋土の落し穴状遺構が北区から１基確認されている。Ⅳ層では集石遺構が南区から13基，北区から４基の計17基検出されている。また，Ⅳ層埋土の土坑が北区から1基検出されている。Ⅲ層では北区から集石遺構が1基とⅢ層埋土の落し穴状遺構が1基検出されている。

遺構の認定時期については，土坑と落し穴状遺構は埋土状況を検討した。集石遺構に関しては，検出面を判断基準としている。しかし，前期以降の詳細な時期については判断ができなった。なお，縄文時代の集石遺構の分類も，Ⅷ層と同じ分類方法で行った。

第２節　縄文時代早期遺構

１　南区

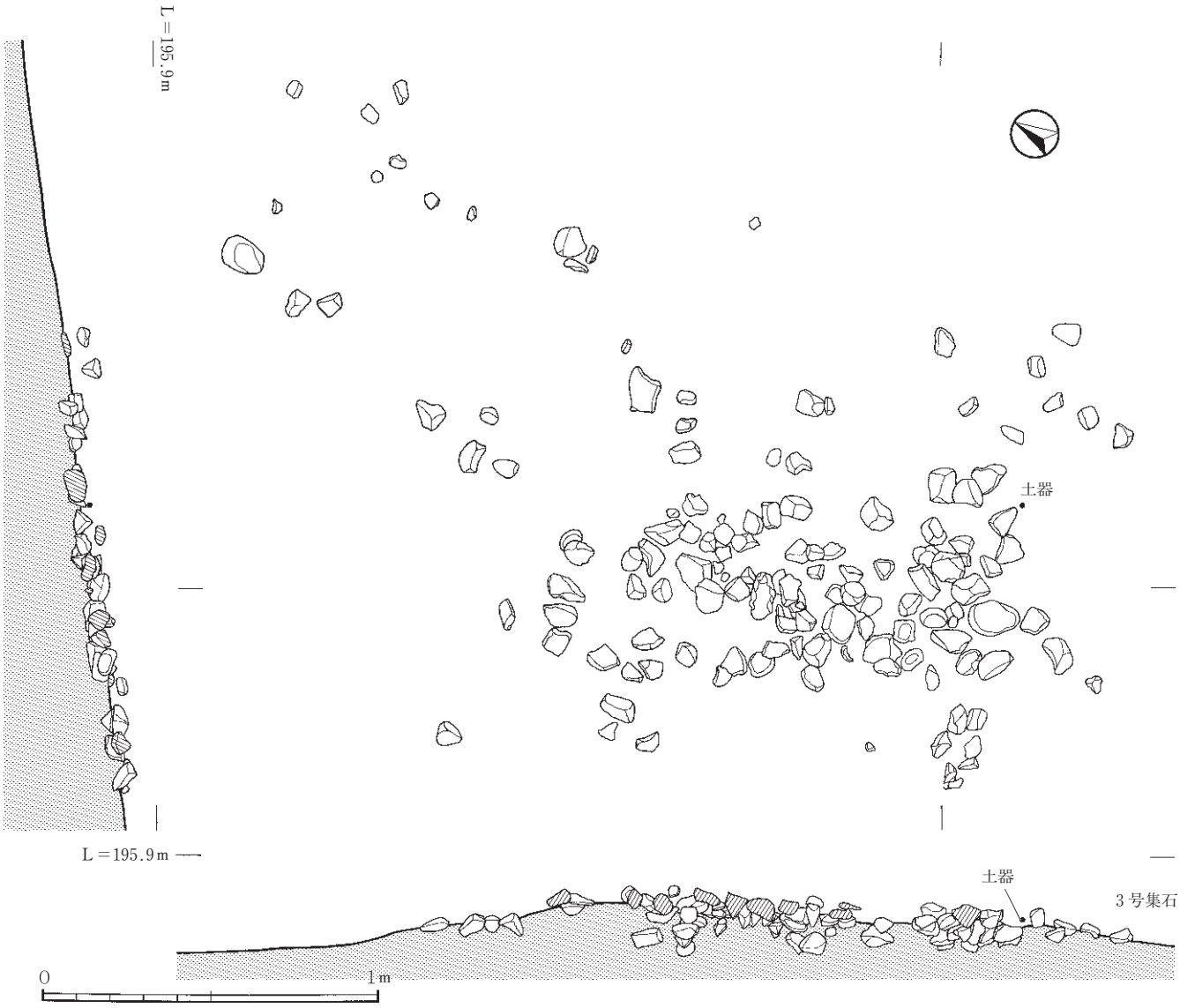
集石遺構

１号集石

１号集石はＬ－６区のⅤ層から検出された。30㎝程の範囲に集積する８点の礫を中心に，その周囲110㎝×90㎝の範囲に15個の礫が散在して確認された。赤化の状況から，全ての礫が被熱していると判断している。（ⅢＡ類）

２号集石

２号集石はＬ－６区のⅤ層で検出した。60㎝の円形で深さ約８㎝程の皿状の掘り込み遺構内に37点の礫を集積し，遺構の下面は硬くしまっている。なお，遺構内部か



第221図　南区Ⅴ層遺構実測図

らは，前平式土器片１点と黒曜石２点が検出されている。遺構全容は，150㎝×90㎝程の範囲に散在する14点を含む51点の礫で構成する。礫は被熱を受けたと判断している。（ＩＡ類）

３号集石

３号集石はＭ－７区のⅣ層から検出し，270㎝×210㎝の範囲に119個の礫が確認された。大部分の礫に赤化が認められ，炭化物も多数認められているが，掘り込み遺構は確認していない。（ⅢＡ類）

第222図　南区Ⅴ・Ⅳ層遺構実測図

4号集石

4号集石はM－6・7区のIV層から検出された。273㎝×235㎝の範囲に119個の礫を確認し，被熱の痕跡が明かで，炭化物も顕著である。深さ約8㎝程の不正形な掘り込みを検出している。（ＩＡ類）

5号集石

5号集石はＬ－7区のIV層で検出し，60㎝×50㎝の範囲に25個の礫が密に集中していた。明確な堀り込み遺構は確認できなかったが，礫の集中状況からは堀り込み遺構が想定される。（II類）

6号集石

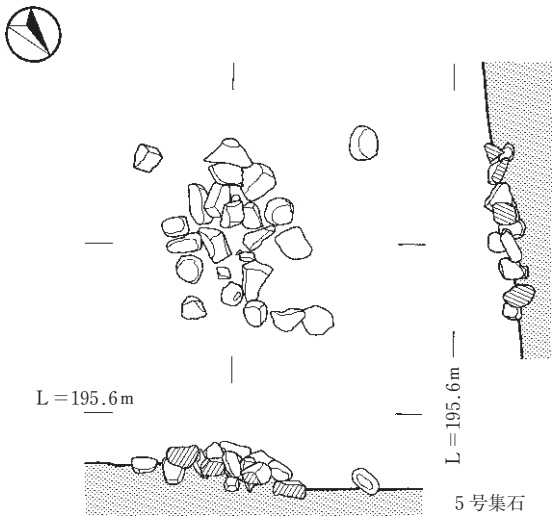
Ｌ－6区のIV層で検出し，230㎝×120㎝の範囲に46点の礫の散在が確認されている。大部分の礫が被熱している。（III Ｂ類）

7号集石

7号集石はＬ－6区のIV層で検出し，190㎝×170㎝の範囲に54点の礫を確認している。礫間に炭化物が混在し，礫の赤化も認められる。（IIIＡ類）

8号集石

Ｌ－6区のIV層から検出し，63㎝×60㎝の円形で深さ10㎝の掘り込み遺構を中心に，遺構内と遺構外に拡散した礫で構成する。総数72点の礫を確認し，全ての礫が被熱している。（ＩＡ類）



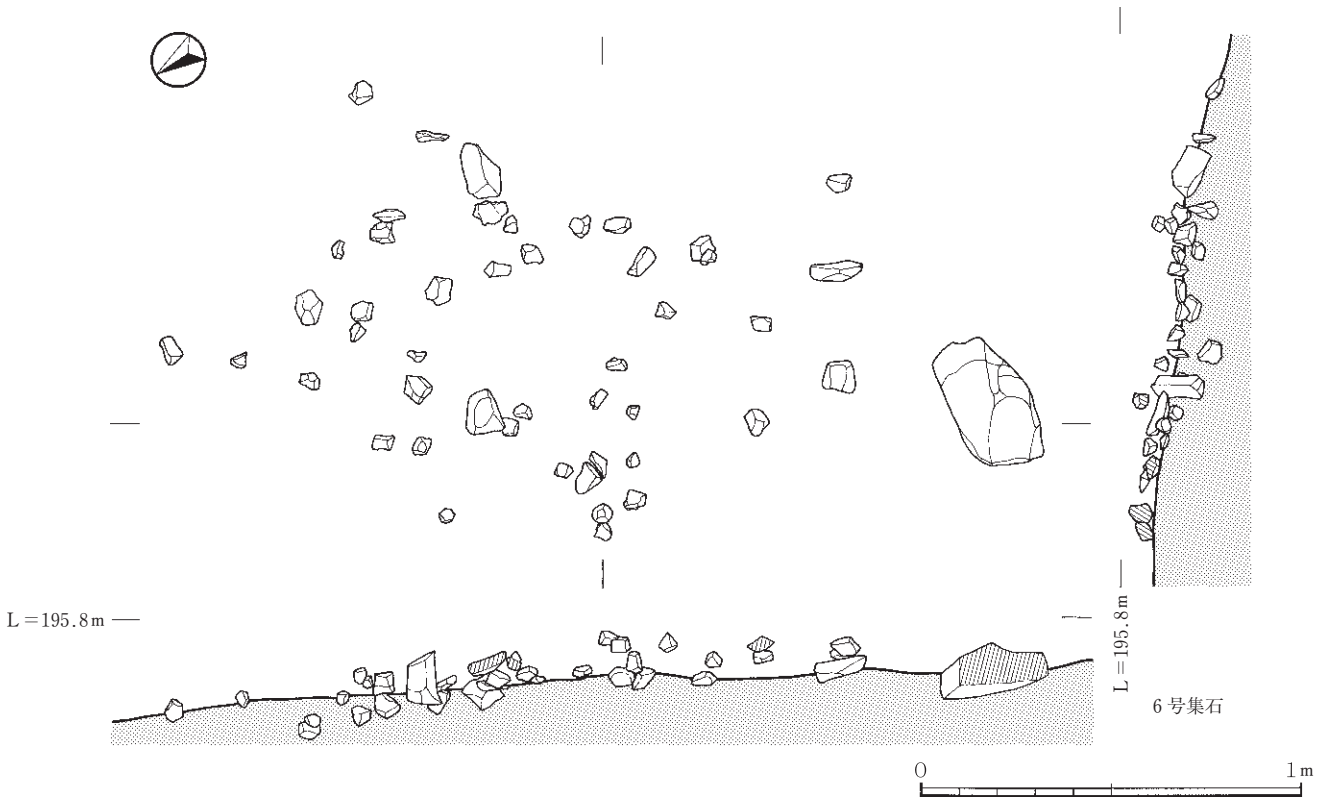


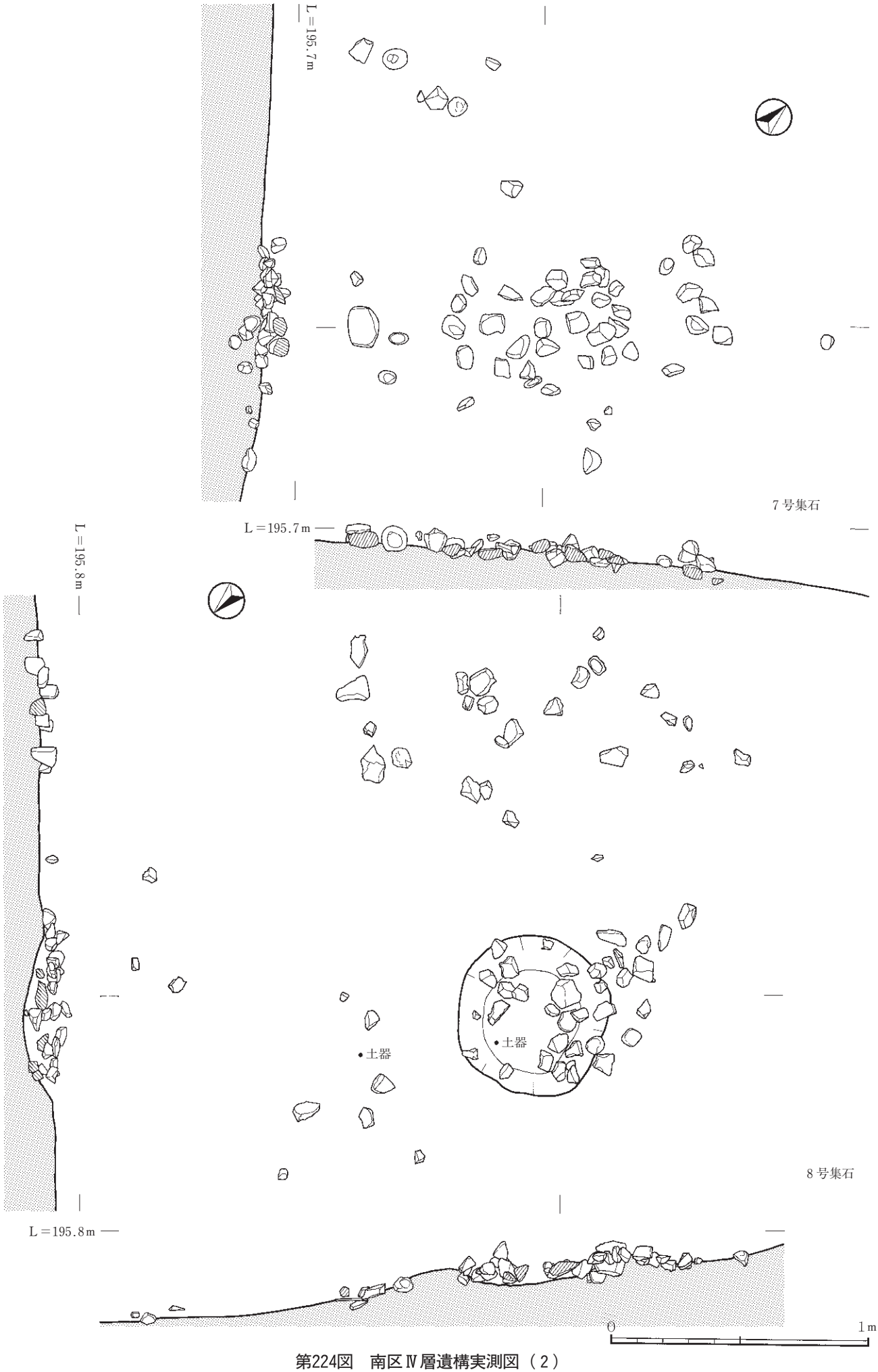
表76　Ⅴ層集石観察表

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
1	222	IIIＡ	15	110	90	3070	204.66	100	H7-14
2	222	ＩＡ	51	150	90	19820	421.7	100	H7-15

表77　Ⅳ層集石観察表（1）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
3	221	IIIＡ	119	270	210	24570	305.55	100	H7-1
4	222	ＩＡ	119	273	235	36340	305.37	100	H7-2

第223図　南区Ⅳ層遺構実測図（1）



第224図　南区Ⅳ層遺構実測図（2）

9号集石

Ｌ－６区のⅣ層で検出し，100㎝×50㎝の範囲に14点の礫で構成する。全ての礫が被熱している。（ⅢＡ類）

10号集石

Ｋ－６区のⅣ層で検出し，110㎝×70㎝の範囲に23点の礫で構成する。全ての礫が被熱している。（ⅢＡ類）

11号集石

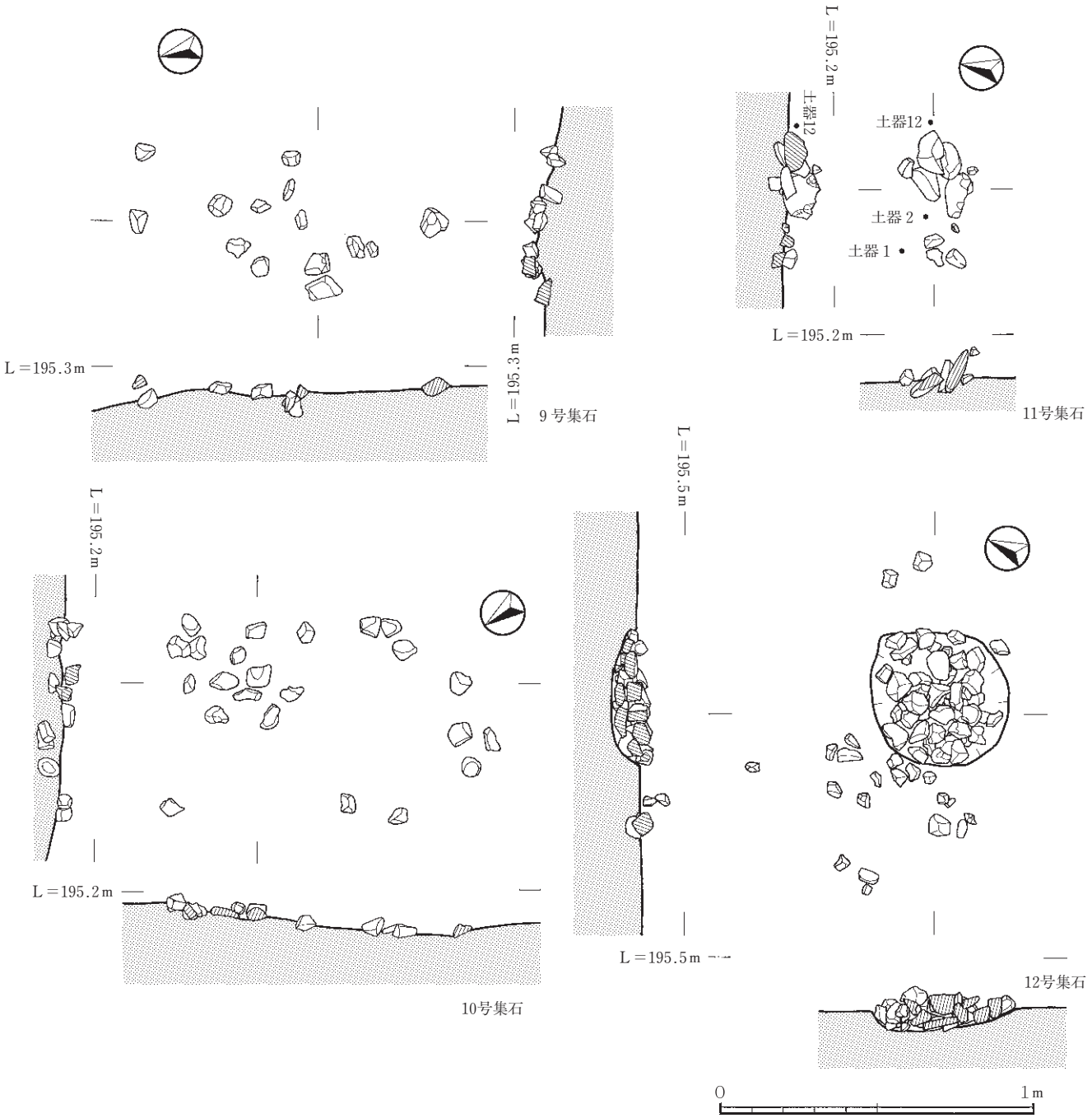
Ｋ－６区のⅣ層で，12点の礫が集積して検出されている。全ての礫で被熱の痕跡が著しく，３点の土器片，礫器１点が同時に確認されている。（ⅢＡ類）

12号集石

12号集石はＫ－６区のⅣ層で検出した。密に礫を集積する掘り込み遺構（45㎝×43㎝，深さ８㎝）を中心に，遺構外に一部拡散する礫で構成する。総数66点の礫は，被熱が著しい。（ＩＡ類）

13号集石

Ｊ・Ｋ－６区のⅣ層で検出し，散在する18点の礫で構成する。（ⅢＡ類）



第225図　南区Ⅳ層遺構実測図（３）

14号集石

Ｊ－６区のIV層で検出し，84㎝×82㎝に21点の礫が確認された。全ての礫が被熱し，堀り込み遺構は確認できていない。（ⅢＡ類）

15号集石

15号集石はＪ－６区のIV層で検出し，20点の礫で構成し，使用する礫は８㎝前後と15㎝前後の礫に二分される。（ⅢＡ類）

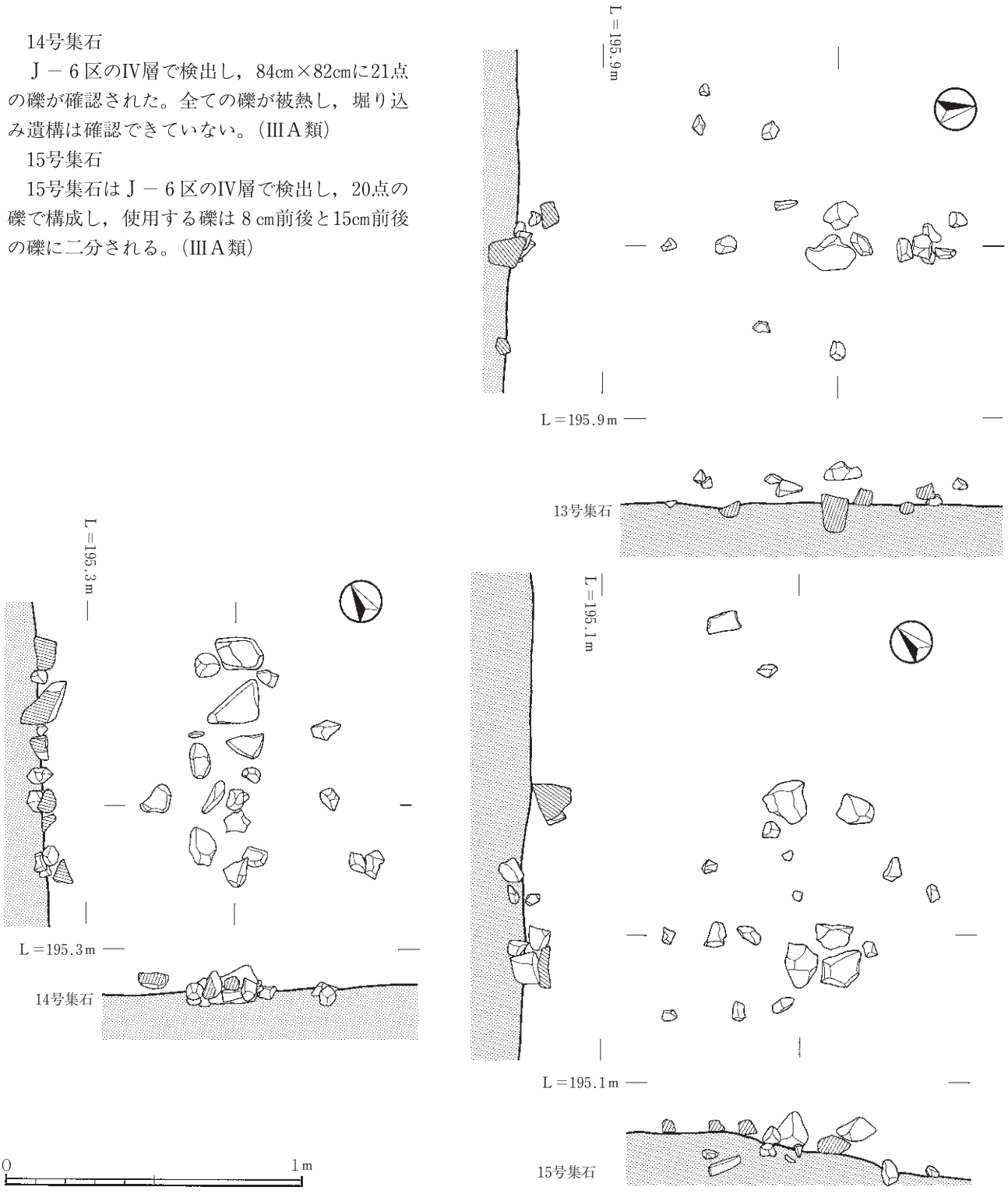


表78　Ⅳ層集石観察表（２）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
5	223	II	25	60	50	－	－	－	H7-3
6	223	ⅢＢ	46	230	120	24645	535.76	97.82	H7-4
7	224	ⅢＡ	54	190	170	13980	310.66	100	H7-5
8	224	ＩＡ	72	208	183	7405	246.83	100	H7-6
9	225	ⅢＡ	14	100	50	3535	271.92	100	H7-7

表79　Ⅳ層集石観察表（３）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
10	225	ⅢＡ	23	110	70	1450	145	100	H7-9
11	225	ⅢＡ	12	44	25	3065	340.55	100	H7-12
12	225	ＩＡ	66	110	84	11365	222.84	100	H7-8
13	226	ⅢＡ	18	103	93	3245	190.88	100	H7-10
14	226	ⅢＡ	21	84	82	9120	480	100	H7-11
15	226	ⅢＡ	20	139	93	12320	616	100	H7-13

第226図　南区Ⅳ層遺構実測図（４）

2　北区

(1)　落し穴状遺構

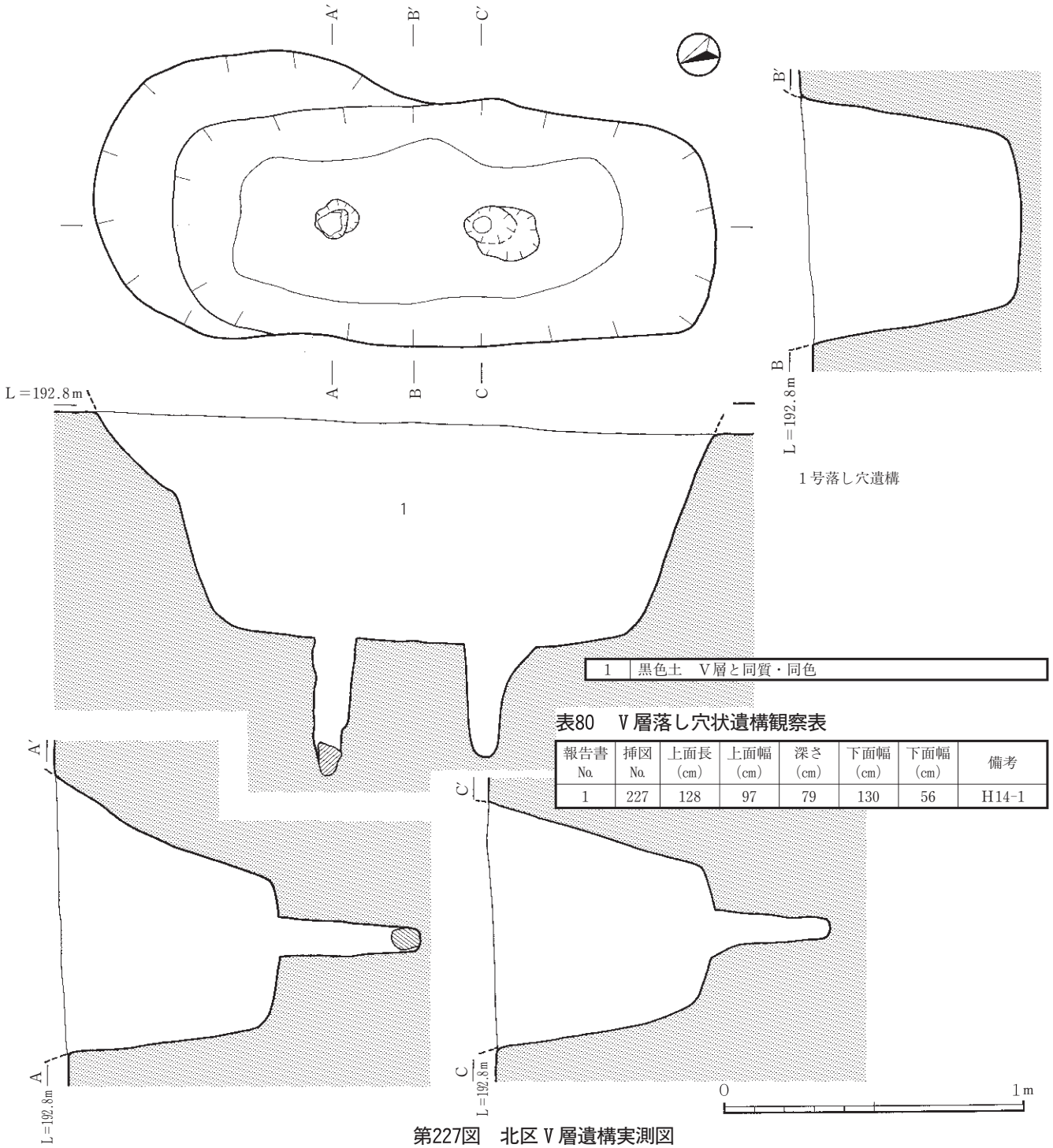
1号落し穴状遺構

ＣＣ－10区のⅦａ層上面で検出した。平面プランは，長軸128㎝，短軸97㎝の隅丸長方形で，検出面から底面までの深さは79㎝である。確認できた埋土は，基本土層Ⅴ層と同一の黒褐色土と判断するが，底面から３～５㎝の埋土部分は他と比較してやや粘質を帯びている。底面の長軸ライン中央部に小ピット（径14～24㎝，深さ38㎝～46㎝）を検出し，その形状等から逆茂木痕と見られる。小ピット内の埋土は，非粘質で軟質の黒褐色土で，北側の小ピットの底面では10㎝程の角礫が確認されている。

土坑（早期？）位置不明

ＢＢ－９区周辺のⅦａ層上面で検出したが，掘り込みの開始位置は不明である。

平面プランは，長軸104㎝，短軸53㎝の楕円形で，検出面からの深さは25～35㎝である。隅に径約10㎝の小ピットがある。埋土は，Ⅳ層相当の黄褐色軽石を含む黒色土である。



1	黒色土　Ⅴ層と同質・同色

表80　Ⅴ層落し穴状遺構観察表

報告書No.	挿図No.	上面長(cm)	上面幅(cm)	深さ(cm)	下面幅(cm)	下面幅(cm)	備考
1	227	128	97	79	130	56	H14-1

第227図　北区Ⅴ層遺構実測図

(2)　集石遺構

16号集石

16号集石はＢ－７・８区のⅣ層で検出し，おおよそ130㎝×90㎝の範囲で50点の礫を確認している。礫は集積した状況で検出しているが，中央部で排除された状況が読みとれる。掘り込み遺構は確認していないが，礫の残存等から存在を想定できる。

17号集石

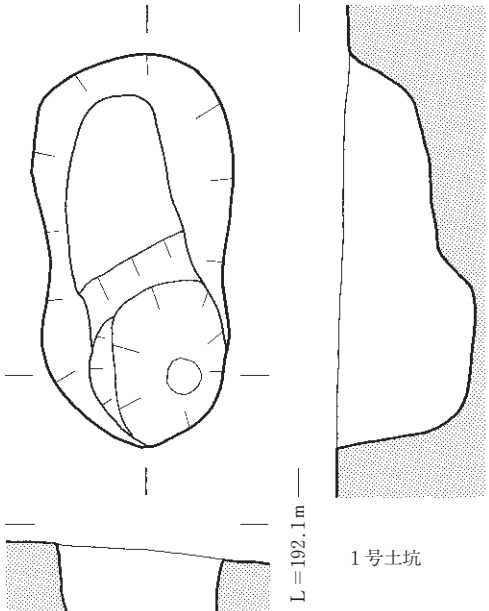
Ａ－７区のⅣ層で検出し，30㎝×20㎝に６点の礫が集積する。全ての礫が被熱している。（Ⅲａ類）

18号集石

ＡＡ－９･10区のⅣ層下部で検出した。140㎝×70㎝の範囲に20点の礫が散在し，全ての礫に赤化が認められる。（Ⅲｂ類）

19号集石

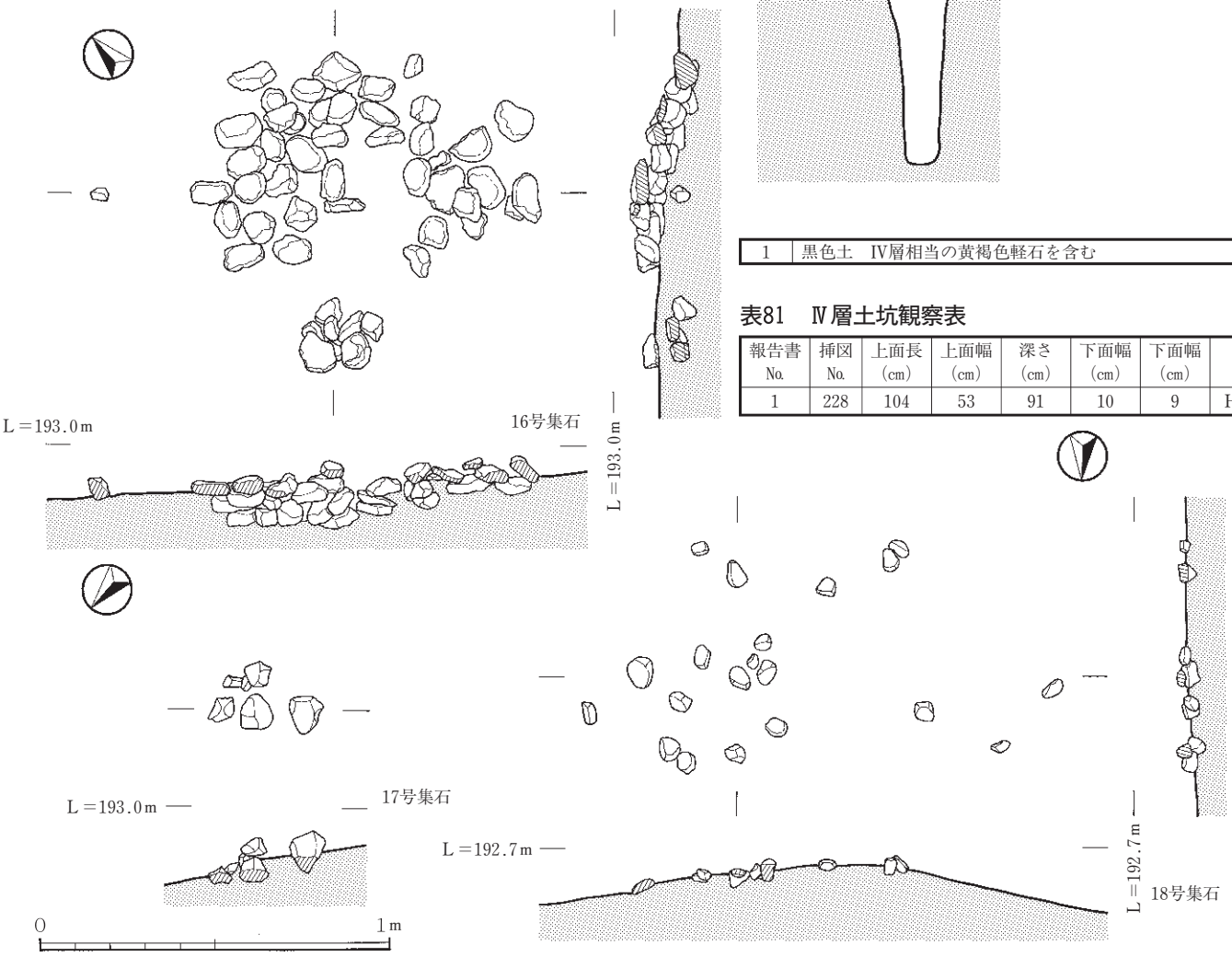
19号集石はＡＡ・ＢＢ－10区のⅣ層下部から検出された。下層の礫はⅤ層に入る。300㎝×290㎝の広範囲で礫が検出され，中央部に礫が集積する。掘り込み遺構は確認していないが，集積部の状況から掘り込み遺構が想定できる。（Ⅱ類）



1	黒色土　Ⅳ層相当の黄褐色軽石を含む

表81　Ⅳ層土坑観察表

報告書No.	挿図No.	上面長（cm）	上面幅（cm）	深さ（cm）	下面幅（cm）	下面幅（cm）	備考
1	228	104	53	91	10	9	H14-土坑



第228図　北区Ⅳ層遺構実測図（１）

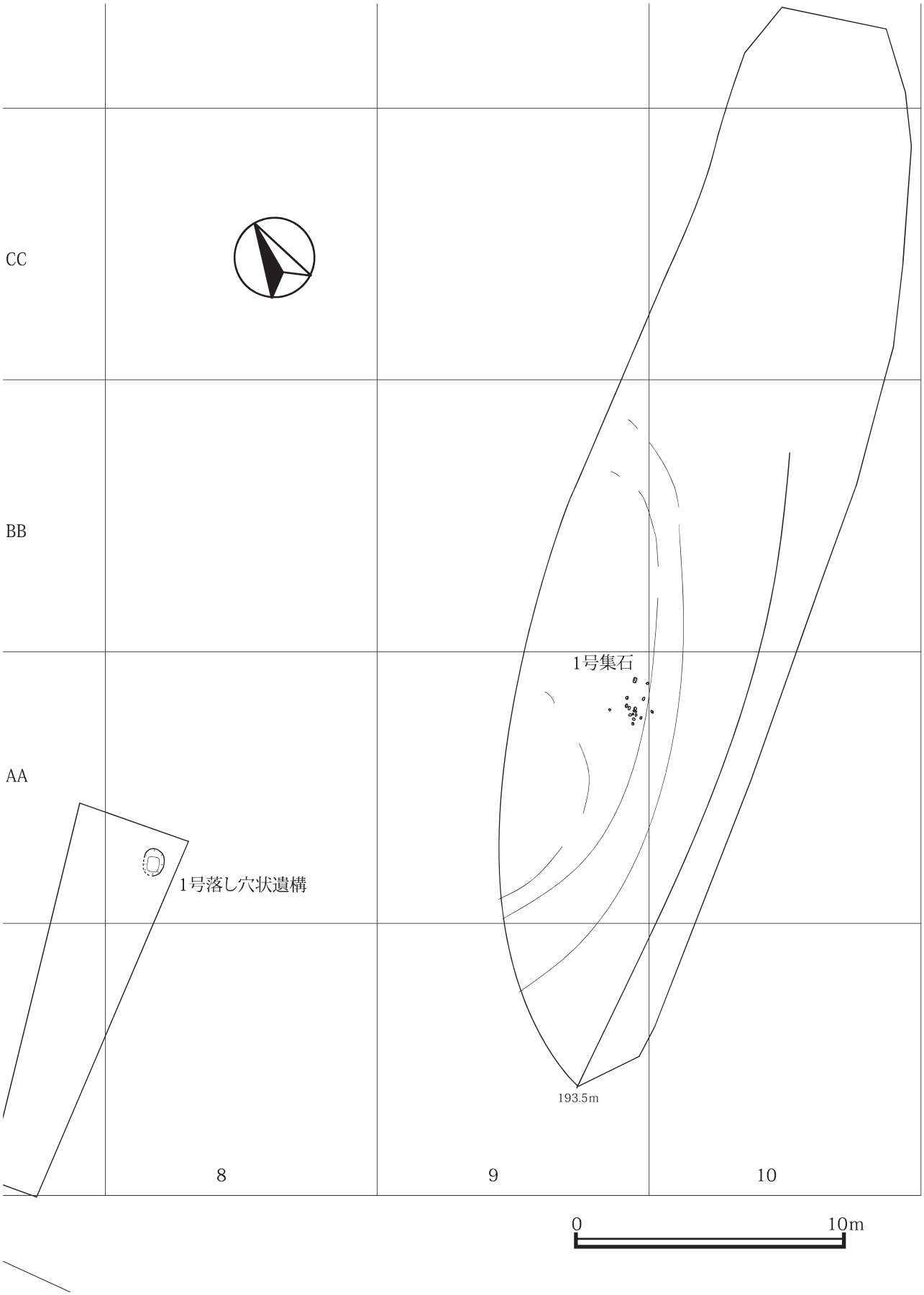
表82　Ⅳ層集石観察表（4）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径(cm)	短径(cm)	総重量(g)	重量平均値(g)	被熱率(%)	
16	228	II	50	130	91	22265	452.5	100	H9-S1
17	228	IIIA	6	30	20	2435	405.83	100	H7-S16

表83　Ⅳ層集石観察表（5）

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径(cm)	短径(cm)	総重量(g)	重量平均値(g)	被熱率(%)	
18	228	IIIB	20	140	70	—	—	—	H14-3
19	229	II	34	300	290	—	—	—	H14-2

第229図　北区Ⅳ層遺構実測図（2）



第230図　北区Ⅲ層遺構配置図

第３節　縄文時代前期以降遺構

１　落とし穴状遺構

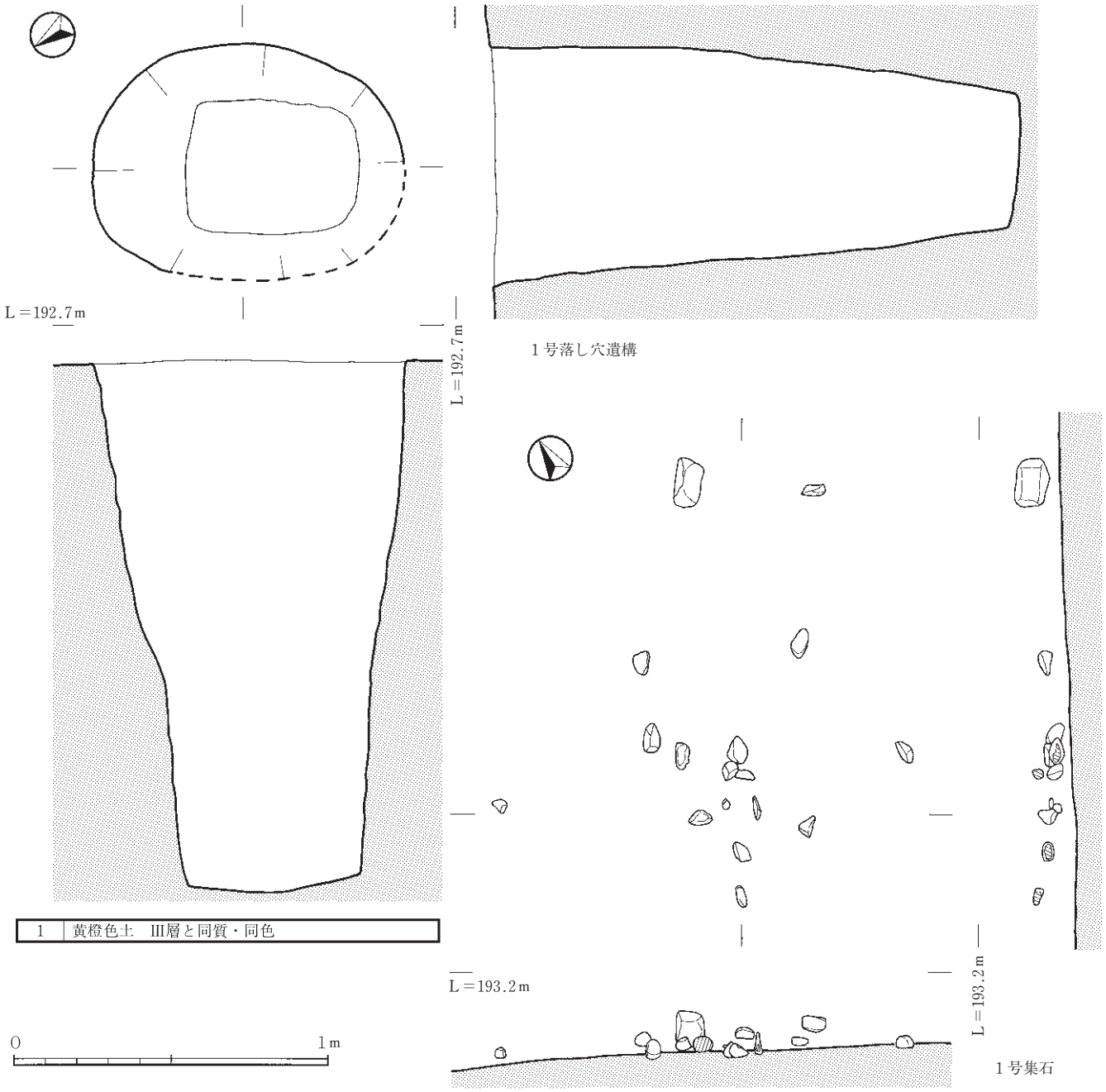
１号落とし穴状遺構

ＡＡ－８区のⅣ層上面で検出した。平面プランは，長軸109㎝，短軸100㎝の楕円形で，検出面からの底面までの深さ169㎝である。観察できた埋土は，Ⅲ層と同一の黄橙色土である。

２　集石遺構

１号集石

１号集石はＡＡ－９･10区のⅢ層で検出した。142㎝×133㎝の範囲に17個の礫を確認し，並行して２㎝大の炭化物２点を検出している。掘り込み遺構は確認できていない。（ⅢＢ類）



第231図　北区Ⅲ層遺構実測図

表84　Ⅲ層落し穴状遺構観察表

報告書No.	挿図No.	上面長（cm）	上面幅（cm）	深さ（cm）	下面幅（cm）	下面幅（cm）	備考
1	231	109	100	169	55	42	H7-落

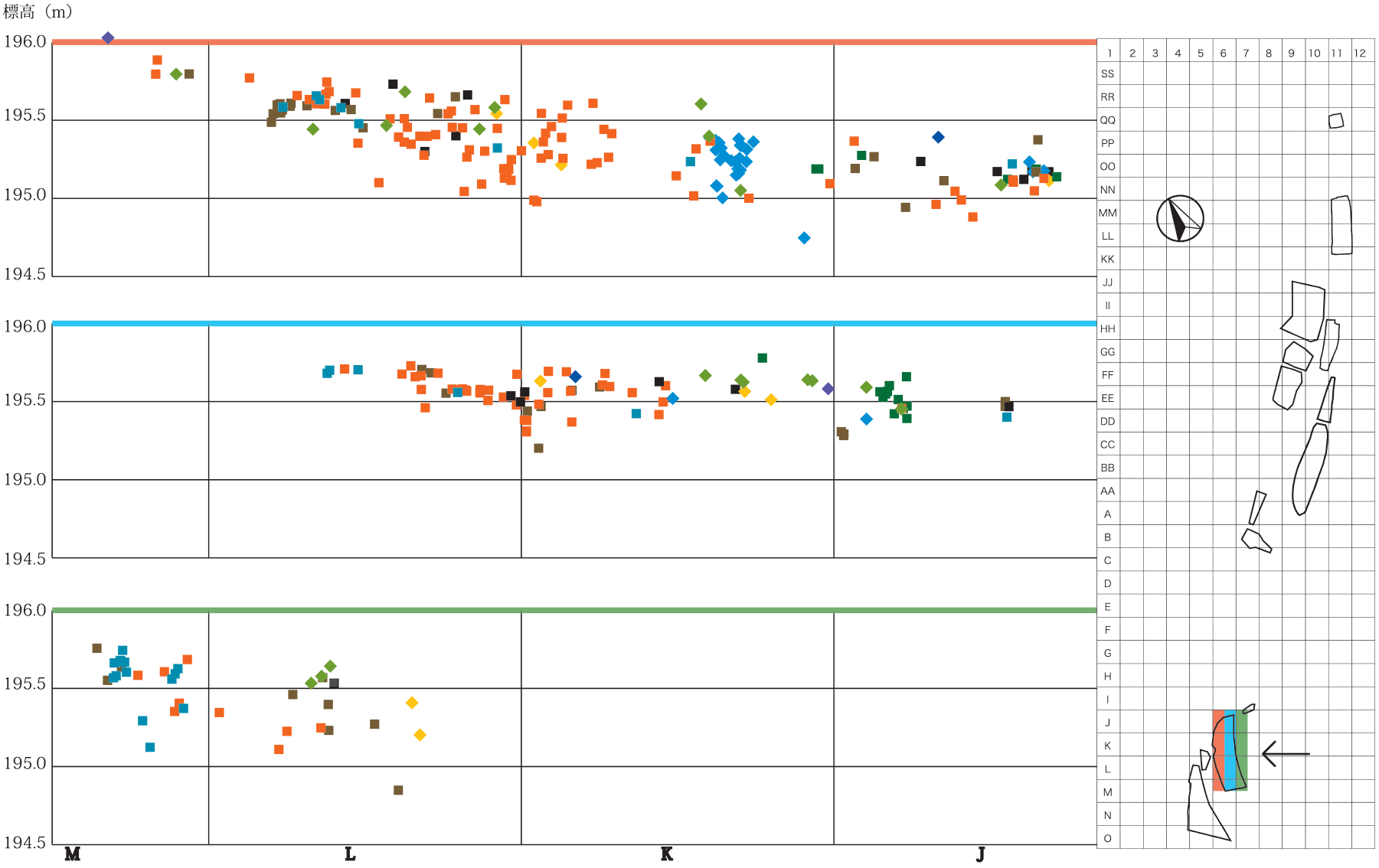
表85　Ⅲ層集石観察表

報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
1	231	ⅢB	17	142	133	－	－	－	H14-1

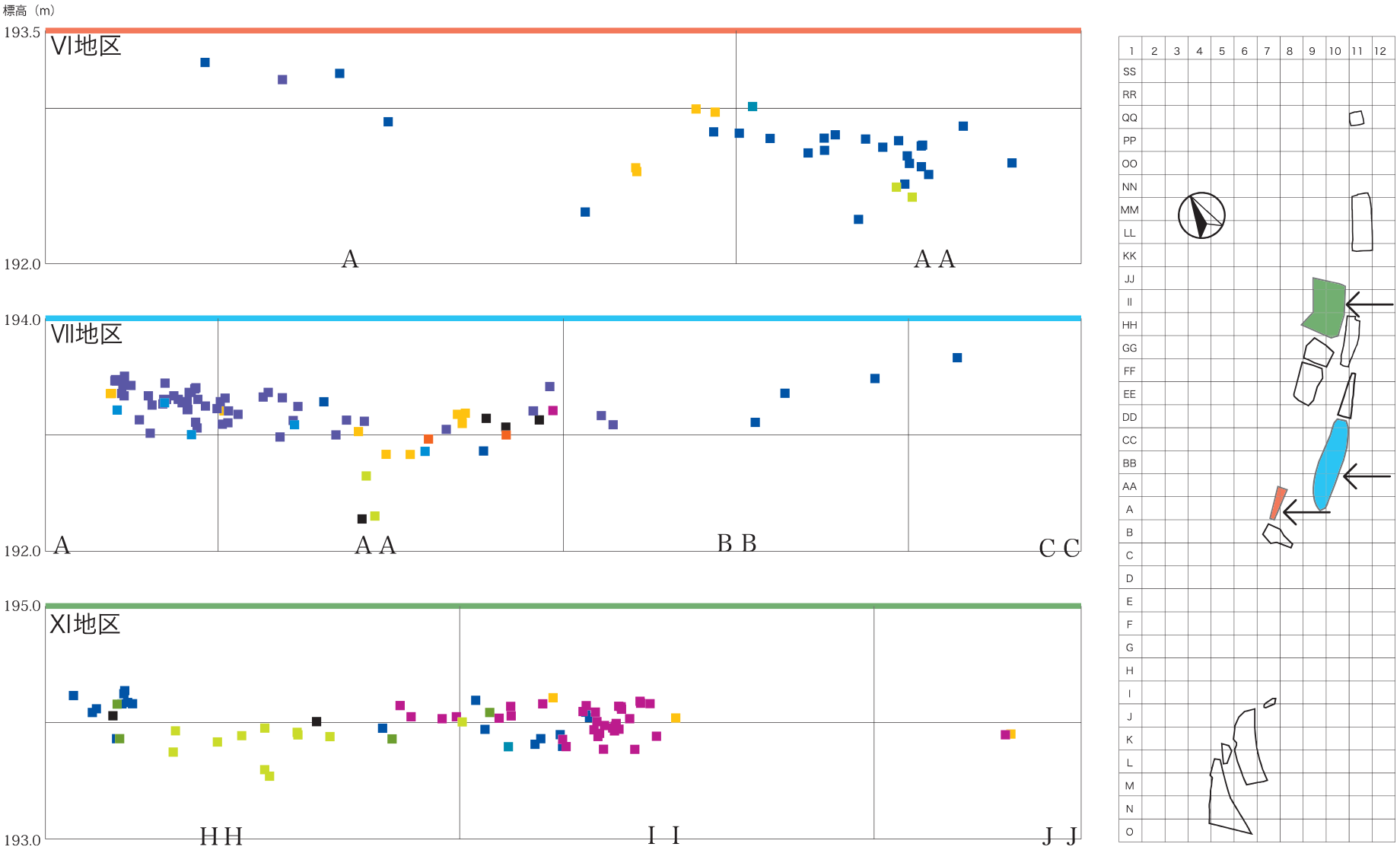
早期土器　　前・中期土器　　後・晩期土器と土器底部

II類土器　貝殻文
III類土器　押型文（手向山）
IV類土器　平栫
V類土器　塞ノ神
VI類土器　苦浜
VII類土器　右京西，早期条痕文
VIII類土器　轟
IX類土器　曽畑
X類土器　深浦
XI類土器　中期条痕文
XII類土器　その他の縄文土器
XIII類土器　土器底部

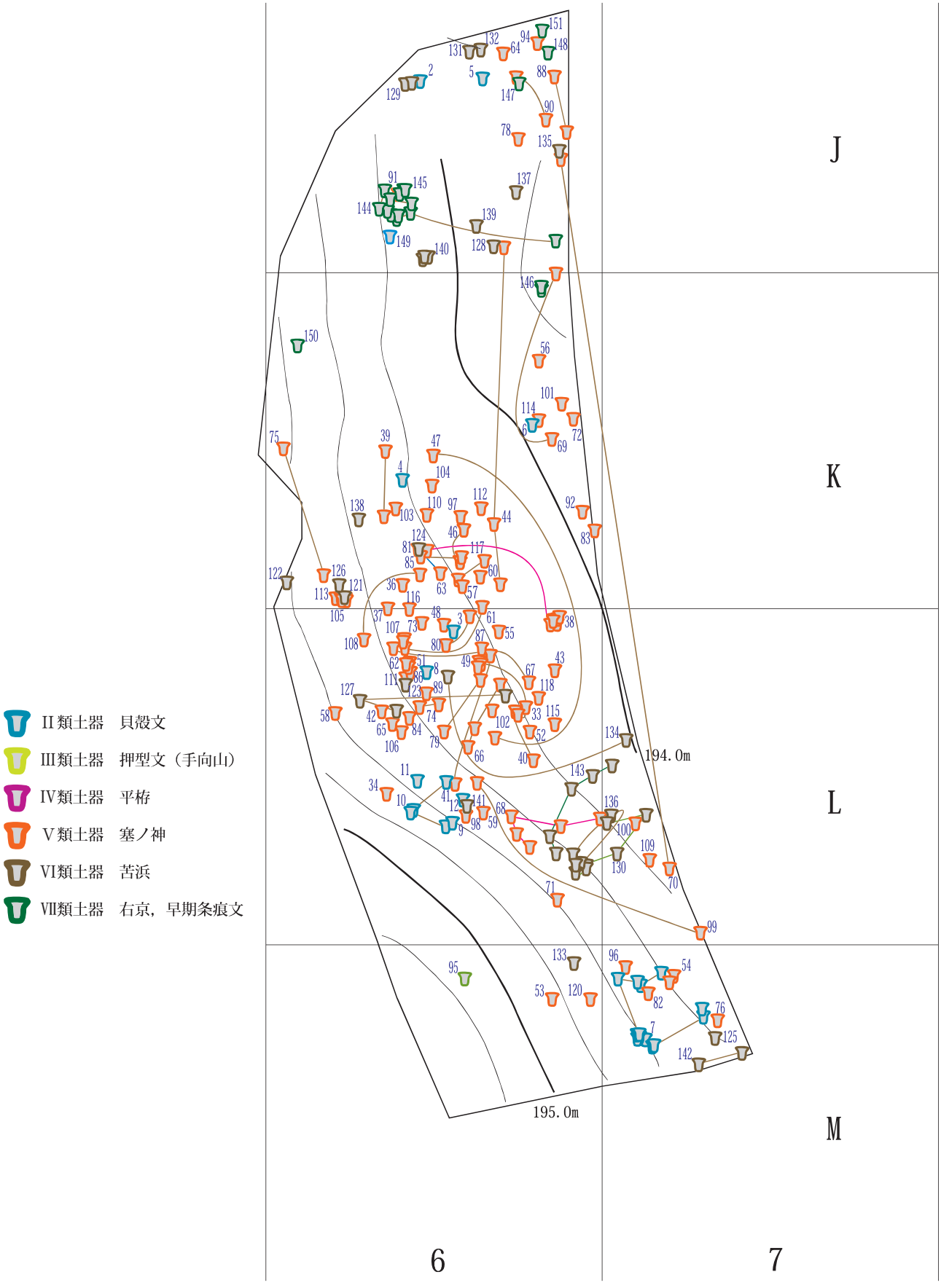
第232図　縄文土器類別出土状況図



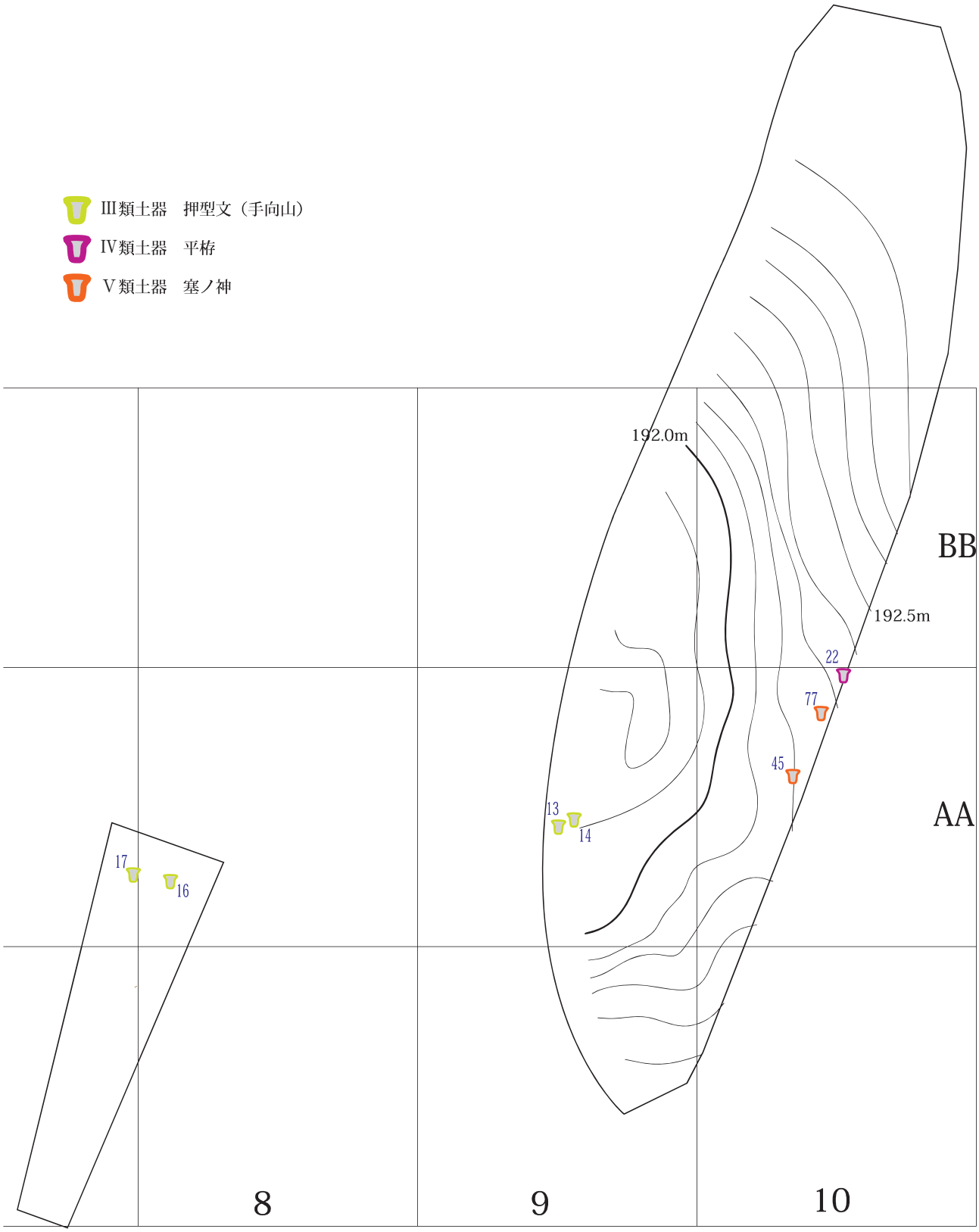
第233図　Ⅲ地区縄文土器出土状況図（垂直分布）



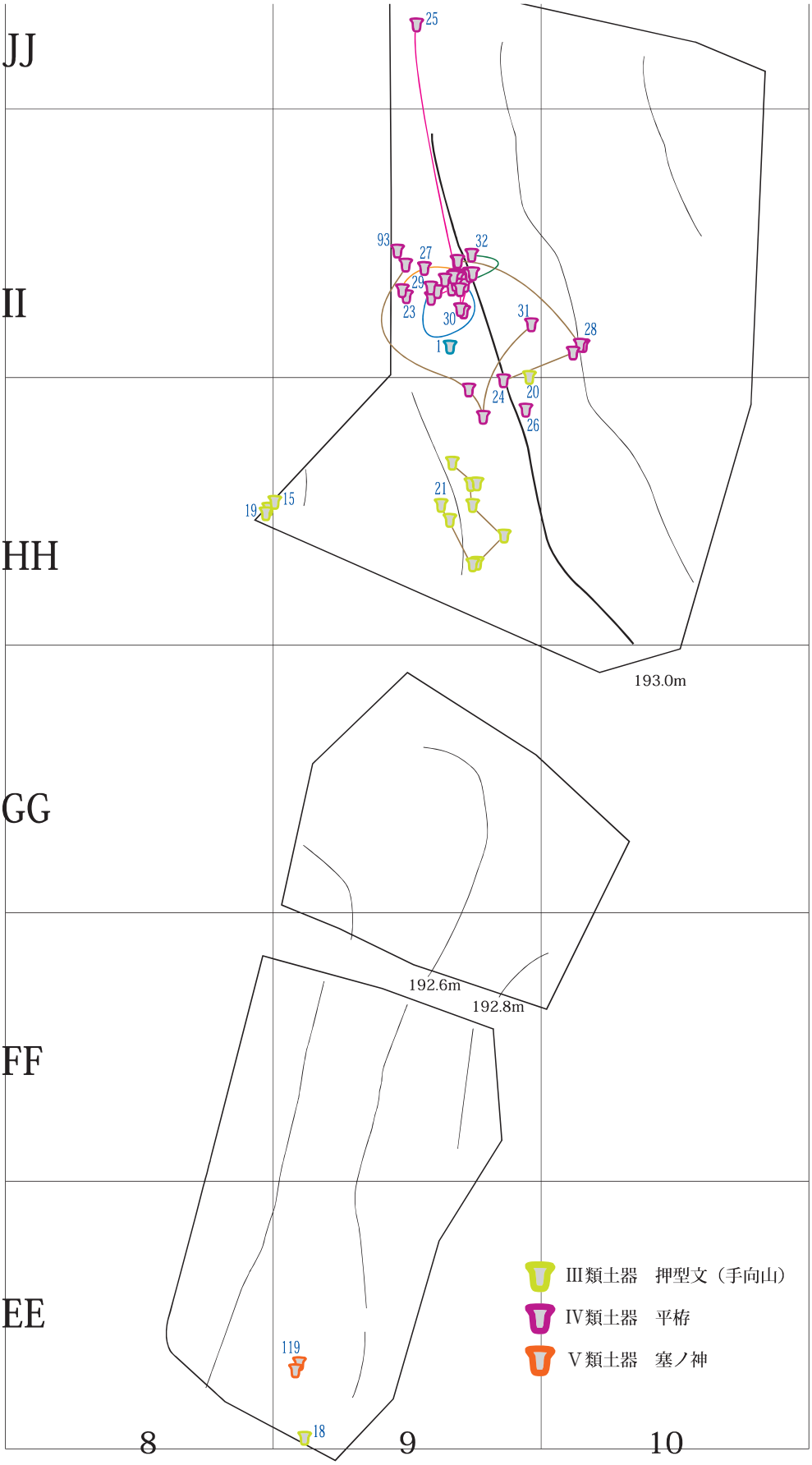
第234図　Ⅵ・Ⅶ・Ⅺ地区縄文土器出土状況図（垂直分布）



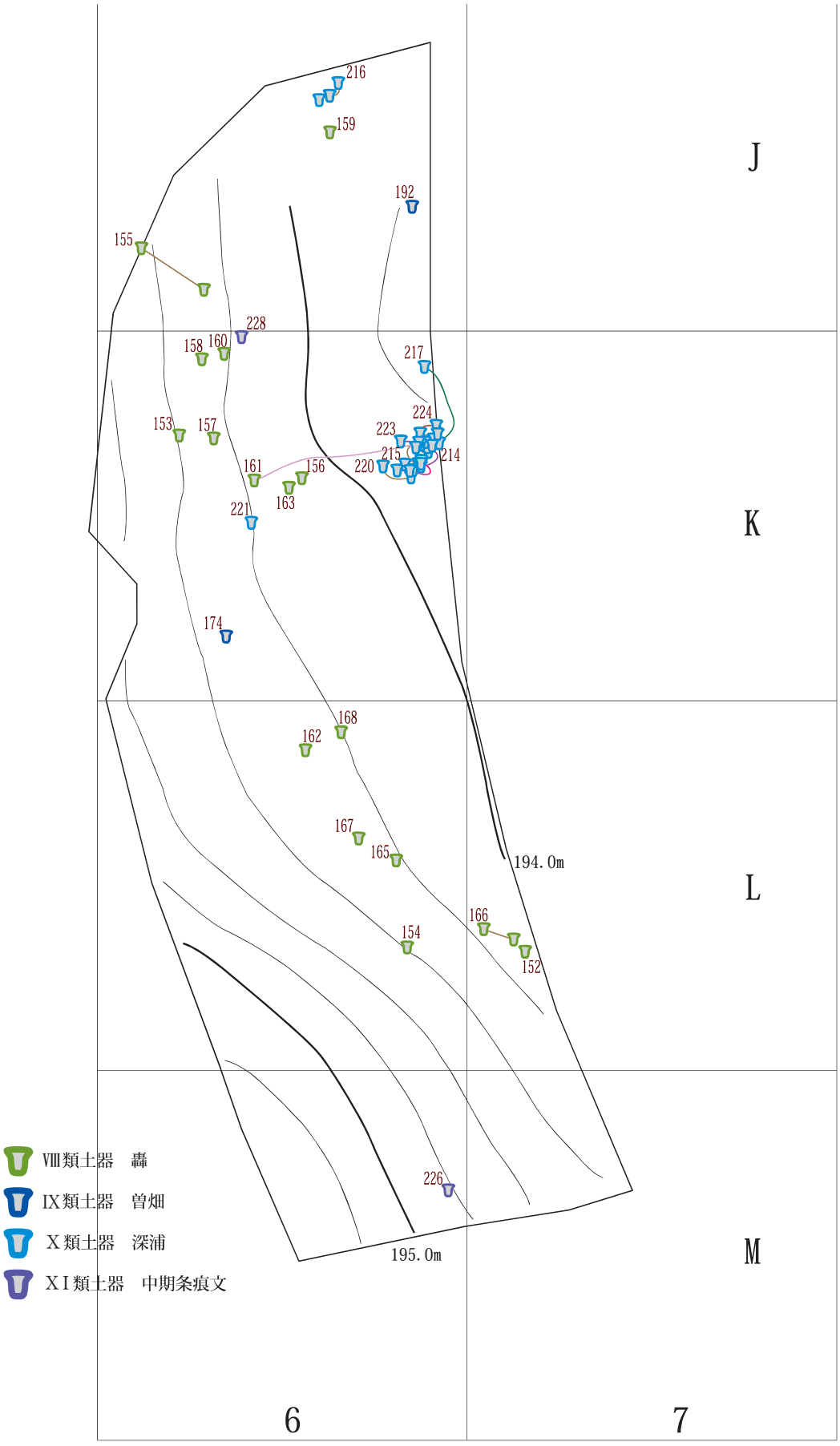
第235図　Ⅲ地区縄文時代早期土器出土状況図



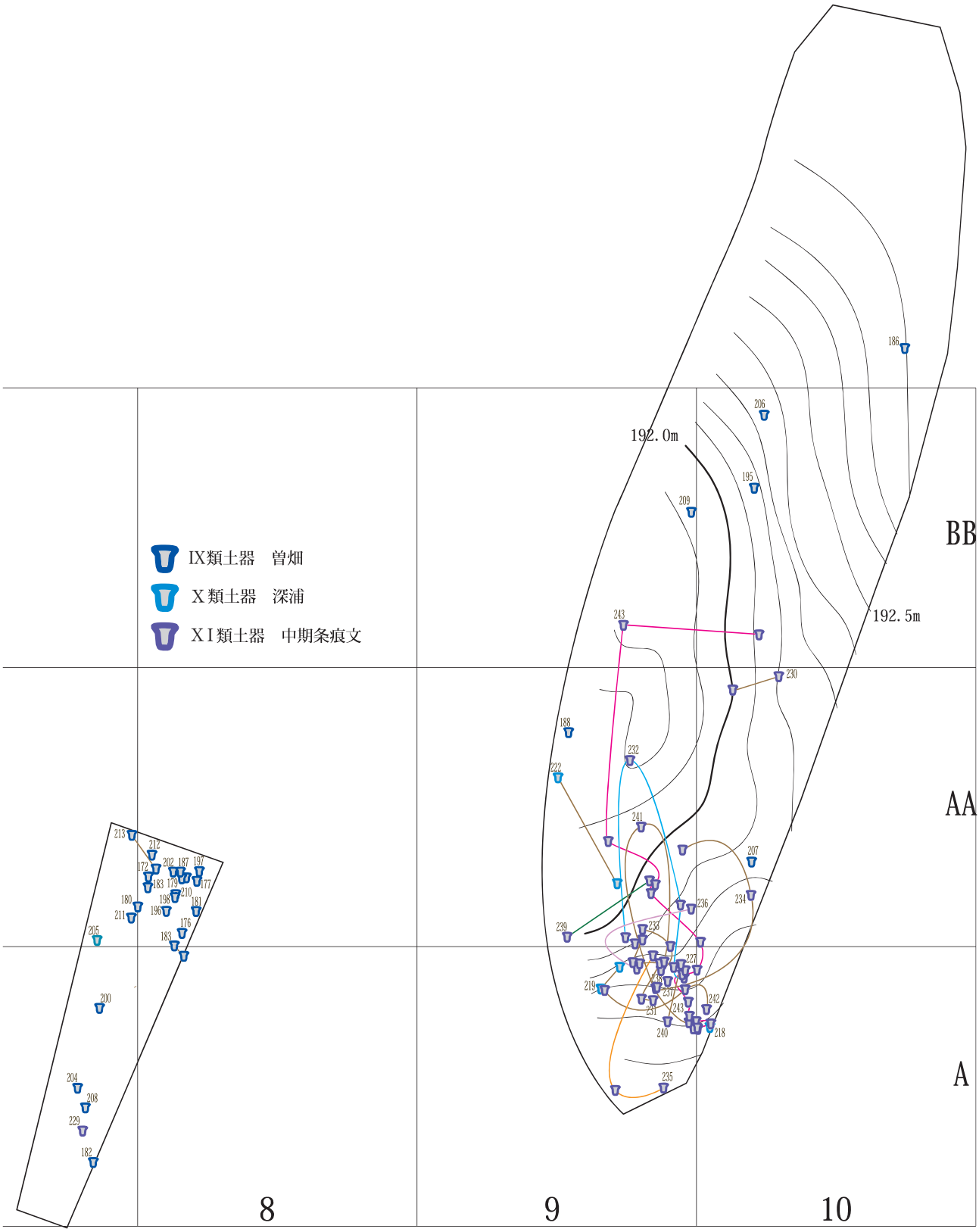
第236図　Ⅵ・Ⅶ地区縄文時代早期土器出土状況図



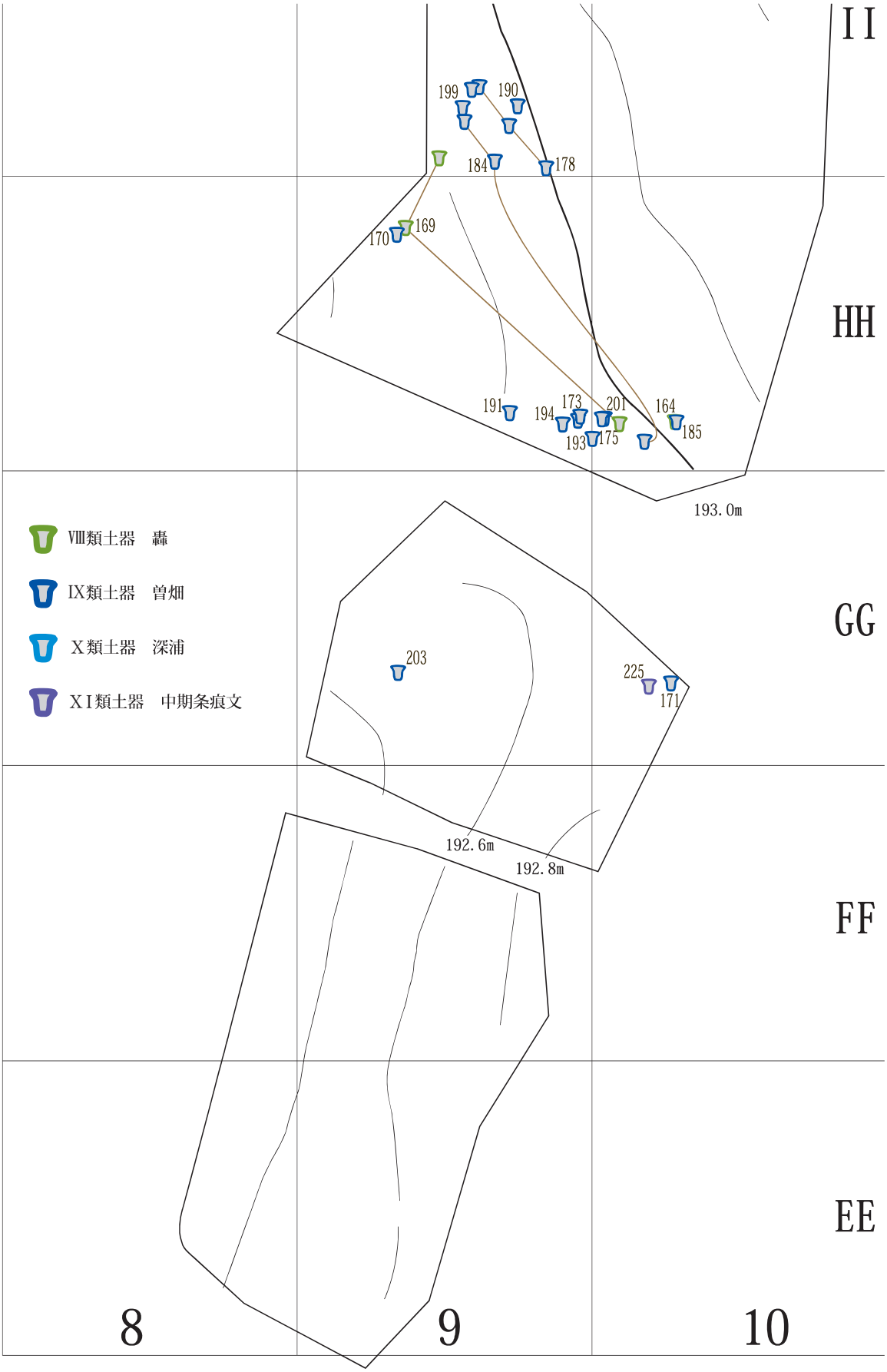
第237図　Ⅸ・Ⅹ・ⅩⅠ地区縄文時代早期土器出土状況図



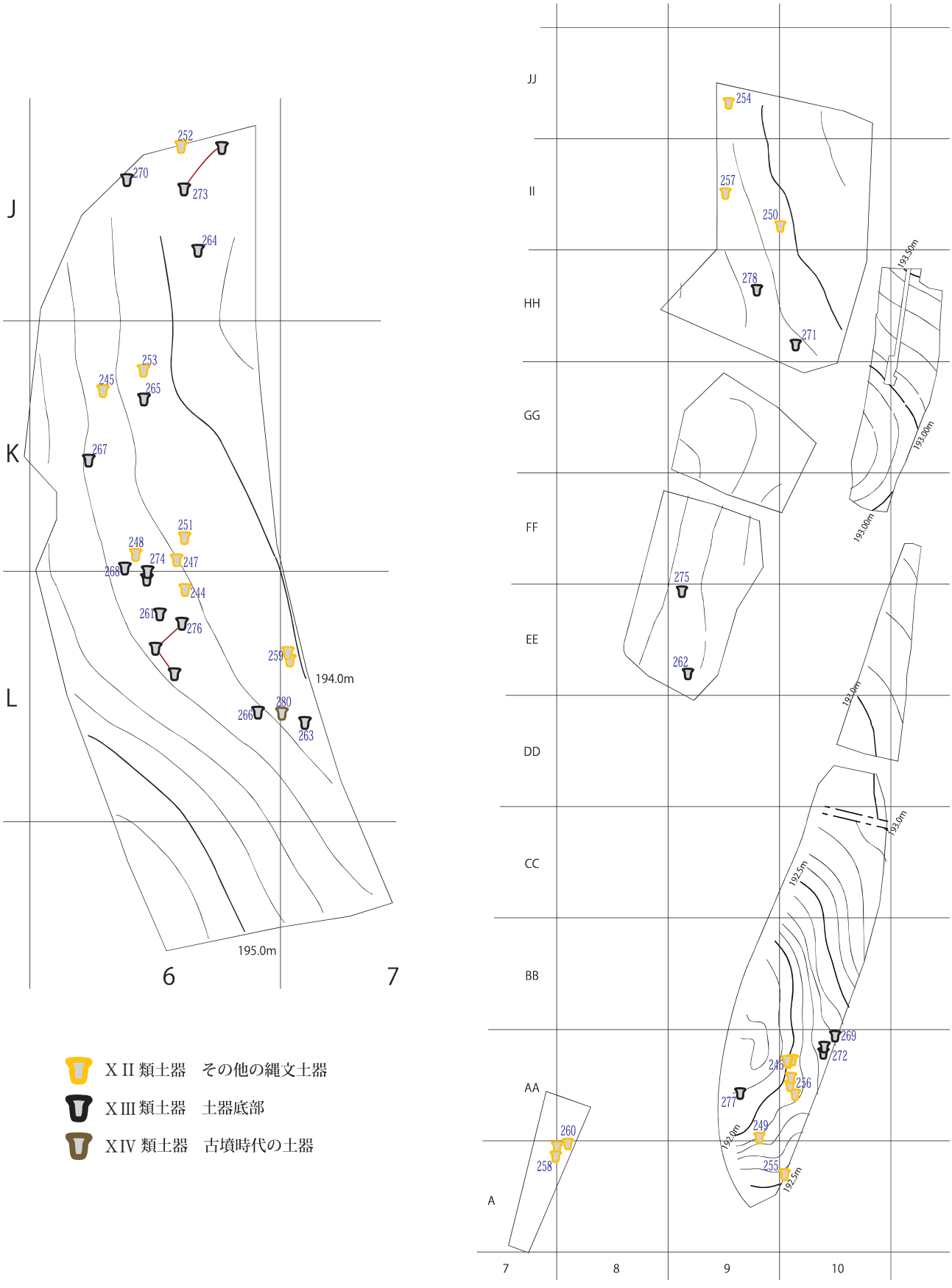
第238図　Ⅲ地区縄文時代前・中期土器出土状況図



第239図　Ⅵ・Ⅶ地区縄文時代前・中期土器出土状況図



第240図　Ⅸ・Ⅹ・ⅩⅠ地区縄文時代前・中期土器出土状況図



第241図　縄文時代後・晩期土器，土器底部，古墳時代の土器出土状況図

第４節　土器

土器は，Ⅲ層下部のアカホヤの一次層を挟んで，出土する。アカホヤの二次堆積層である暗黄褐色土層のⅢａ層からは前期から後期にかけてのⅧ類土器からＸⅡ類土器までが出土し，アカホヤ一次層の下位のⅣ層及びＶ層からはⅡ類からⅦ類土器が出土している。Ⅰ類土器は薩摩火山灰層の下のⅦ層から出土している。Ｖ層でとらえられて取り上げられた遺物は少なく，殆どがⅣ層出土となっている。

出土状況を見ると（第232図～第241図），Ⅲ地点のⅣ層ではＶ類土器がＫ・Ｌ－６区の発掘区の中心付近（谷に落ちる傾斜の端部の平坦部）に出土し，Ⅱ類土器は調査区全体でまんべんなくパラパラ出土し，Ⅲ類土器は散見される程度である。Ⅵ類土器はＬ－６区を中心に出土し，Ⅶ類土器がＪ－６区に集中する。Ⅲ層からⅧ類土器とＸ類土器を中心に出土し，特にＸ類土器はＫ－６区に集中している。Ⅰ類土器は，旧石器時代のところで各ブロックとの関係でとらえられている。

Ⅵ地点ではⅢ層からⅨ類土器が出土している。Ⅶ地点のⅢ層では，Ａ・ＡＡ－９区にＸⅠ類土器が集中して出土している。Ⅷ類土器，Ｘ類土器も散見される。Ⅳ層では，Ｖ類土器がわずかに出土している。

11地点ではⅣ層でⅢ類土器がＨＨ－９区に，Ⅳ類土器がⅠⅠ－９区に出土し，Ⅲ層でⅨ類土器が調査区の南側のＨＨ・ＧＧ区境に出土する。

このように分類された各土器型式が，それぞれ分布域を異なって出土しており，時代差の妥当性を証左している。

１　縄文時代

Ⅶ層出土土器（第183図・第187図）

Ⅰ類は草創期の土器である。Ｃブロックに２点，Ｅブロックに１点出土した。細石器文化期の包含層から出土している。91は隆帯文土器である。２条に刻目が入る。92・123は無文土器で，92は条痕，123はナデ調整される。

Ⅳ・Ⅴ層出土土器（第242図～第250図）

Ⅱ類～Ⅶ類土器が出土し，早期の時期である。

Ⅱ類土器は貝殻円筒土器の一群である（第242図～第243図）。

Ⅱａ類土器　口縁部に粘土紐をはりつけ波状の刻目を施す。口縁外側に貝殻の腹縁で横方向に押し引き文を施す。胴部は貝殻条痕で丁寧に調整され，内面は工具による縦方向のナデ調整で，口縁部付近はナデにより調整される。1がこれにあたる。

Ⅱｂ類土器　口縁端部に刻目を入れ，口縁下に貝殻腹縁を横方向に刺突し，以下を貝殻条痕を地文として，縦方向に貝殻腹縁を押圧した線や押し引き線を施す。内面は工具により丁寧にナデ調整される。円筒土器と角筒土器があり，直線的な器形で平底に至る。角筒土器の角には貝殻を刺突する。４・５・７が角筒土器である。７は，上面形が長方形の角筒方で，長辺側と短辺側は，縦方向の沈線数が異なる。

Ⅱｃ類土器　口縁部がやや外反し，ラッパ状に開き，わずかに胴部がふくらみ平底の底部にいたる器形をなし，貝殻条痕で綾杉状の文様をなす一群である。口縁端部には刻目を施し，口縁部外面には貝殻腹縁による刺突を施す。内面は工具でナデ調整されている。８～12がこれにあたり，８・９は口縁部，10・11は胴部，12は底部である。

Ⅲ類土器

施文具を回転させて文様を施す押型文土器の一群である。施文具によりａ類～ｄ類に分類したが，量的には多くない。器形は胴部上半が大きく外反し，屈曲して丸平底の底部に至るものと，屈曲せずやや胴部がふくらみながら丸平底の底部にいたるものがある。

Ⅲａ類土器は楕円押型文土器で，14は楕円が大きく粗い。内面はナデ調整される。

Ⅲｂ類土器　山形押型文土器である。一部に対向させて，見かけ上菱形文となすものがある。

Ⅲｃ類土器　押型文の文様と，沈線による同心円状の文様を組み合わせて，口縁部や胴部下半には押型文を，屈曲して立ち上がる胴部上半には沈線を施すものがあり，17はその胴部上半の破片と考えられる。

Ⅲｄ類土器　撚糸文土器　細かい撚糸文を施すもので，20と21は同一個体と考えられる。

Ⅳ類土器

短沈線と円形刺突文で頸部から上を施文し，胴部に縄文を施すもので，壺形の土器が主体である。口縁端部は棒状工具の側面を押しつて刻目をいれ，内面は工具で横方向に丁寧にナデられる。縄文は結節縄文を転がしている。22～26が口縁部で，27～31が胴部，32が底部である。

Ⅴ類土器

口縁がラッパ状に大きく開き，円筒状の胴部を持ち，平底の底部にいたるものと，口縁部が直口するものがある。口縁部の外側は貝殻連続刺突，沈線を施し，胴部には貝殻条線文や沈線を施す。

Ⅴａ類土器33～57で大きく開く口縁部には，貝殻による連続刺突を施し，胴部には貝殻腹縁を引いて条線状文様とする。

Ⅴｂ類土器58は口縁部が外反せず，直口するもので，口縁部文様の貝殻腹縁による刺突文が失われる。

Ⅴｃ類土器103～119は口縁部が外反するが，文様が沈線により施される一群である。口縁部や胴部は斜格子状に沈線を施している。

59～102はⅤａ類の胴部の可能性もあるものである。

Ⅵ類土器

口縁部から直線的に底部にいたるコップ状の器形と，頸部がしまりやや胴部がふくらんで底部にいたる器形のものがある。ここでは前者の器形が多い。口縁端部に刻目を施し，胴部外面は条痕を条線状で残し地文として，微隆の突帯に刻目を施す。突帯は横方向が多いが，縦方向もある。内面は工具状のものでナデられるか，貝殻条痕で調整されている。128・131・132・136は口縁部で，121～127・129・130・133～135・137～143は胴部である。Ⅲ地点で出土した。

Ⅶ類土器

砲弾形の器形をなし，条痕を地文とする。条痕が文様化したものである。口縁端部に刻目を施すものが多い。内面は横方向に工具によりナデ調整される。144～151はいずれも口縁部であるが，144は口縁部に刻目がなく，特に胴部上半で条痕を文様化していることがよくわかる。Ⅲ地点で出土した。

Ⅷ類土器

大きく外反する口縁部をもち，胴部で屈曲して球胴状となり，内外面に貝殻条痕で調整し，口縁部や胴部屈曲部の下に，縦方向や横方向あるいは同心円状に微隆突帯を施す。微隆突帯には刻目を施す。その間に刺突文を施すことも多い。152～164は口縁部で，165～169は胴部である。Ⅲ地点を中心に出土した。

Ⅸ類土器

口縁部がわずかに外反する砲弾状の器形で，丸平底となるものが多い。内外面とも丁寧にナデられ，外器面全面に幾何学文状に短沈線で施文する。口縁部内面上部に施文することもある。口縁部外面から刺突文→短沈線文による区画文様をほどこし，文様帯を形成する傾向が強い。こうした文様帯が崩れていくことを，型式変化の目安としている。滑石はほとんど含まず，文様帯からも，曽畑Ⅱ式以降のものである。170～175は口縁部で，170は古い様相を残す。176～211は胴部，212・213は底部である。底部は蜘蛛の巣状の文様になるが，一部幾何学文様をなすものがあり，こちらが古い様相である。

Ｘ類土器

口縁部が外反し，胴部がややふくらみ，尖底状の底部に至る器形である。刻目突帯，沈線，連続刺突文で文様を組み合わせる。内面には連続刺突文が施されることがある。214・215は同一個体と考えられる。

216は連続刺突のみで文様を構成している一群である。221は貝殻の腹縁を押圧したのち，一端を支点として動かして押圧し，次はその支点を動かしてもう一方の端部をそのまま支点として押圧し，それを交互に繰り返す相交弧文を施す。

ＸⅠ類土器

弱いキャリパー状の器形をなし，尖底の底部を持つ。口縁端部に刻目を施し，口縁下に突帯をめぐらすことが多い。縦方向の条痕を地文とする。内面は横方向の条痕で調整される。従来轟式の範疇で考えられることも多かったが，突帯の形状や縦方向の条痕のあり方が異なり，近年分別されるようになった。225～229は口縁部で，230～243は胴部である。Ⅶ地点の南側に集中して出土した。

これについては，まとめで触れるが，中期の可能性がある。

その他の縄文土器

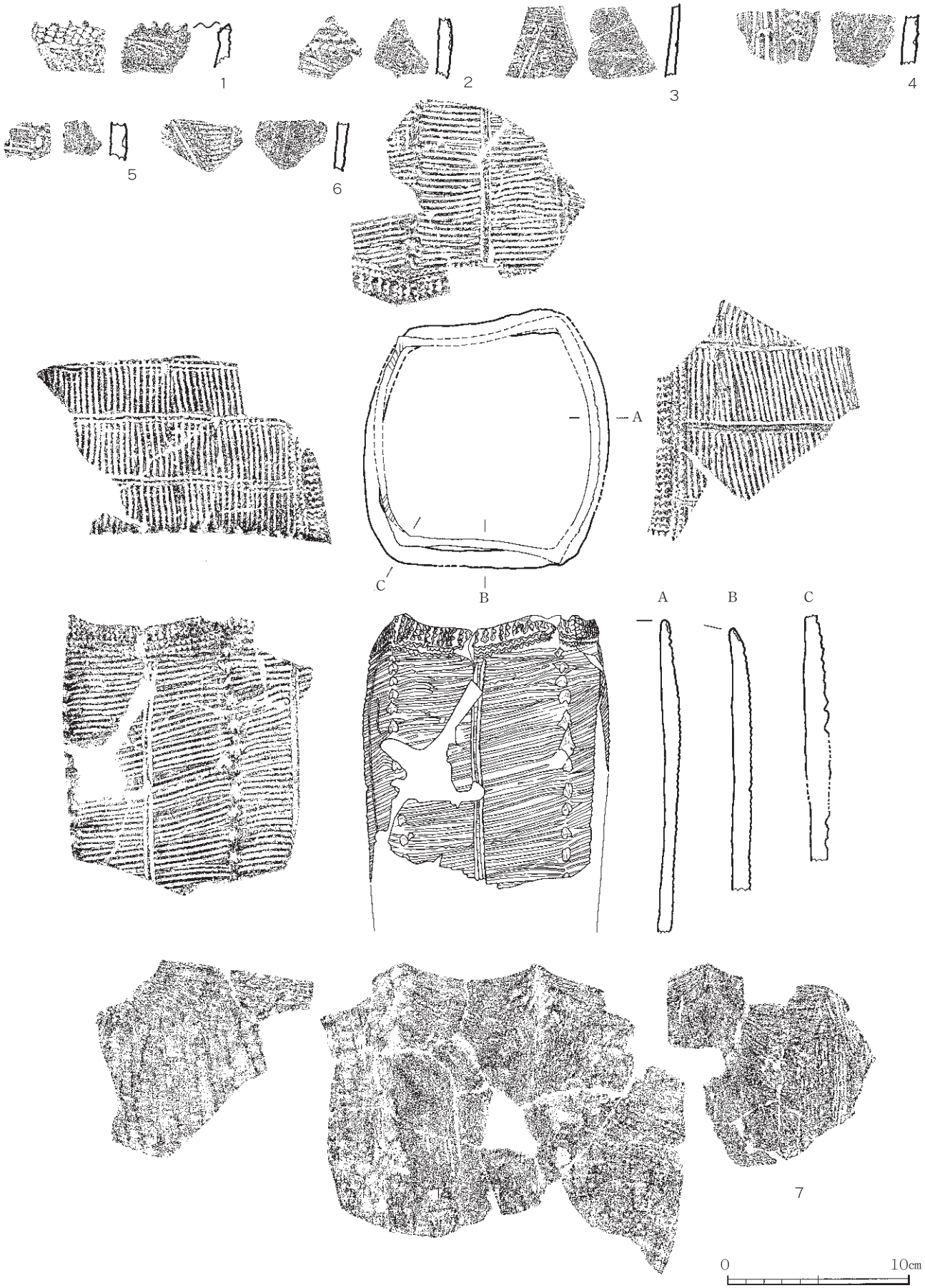
244～260は後期以降の土器を中心として，分類出来なかった土器群をまとめたものである。261～278は底部を一括したものである。

246・255はやや背の低い深鉢形土器で，平行する２本の沈線で文様を施す指宿式土器である。254は，口縁部に刻目を施し，縦方向の条痕に沈線がはいる。轟Ｃ・Ｄ式の可能性がある。250・252・256・258は無文の土器である。晩期の土器と考えられる。248・249は外反する口縁部に刻目を施すもので，248は中期に，247は前期の可能性がある。253・257・259・266は条痕が施される土器である。時期については不明である。

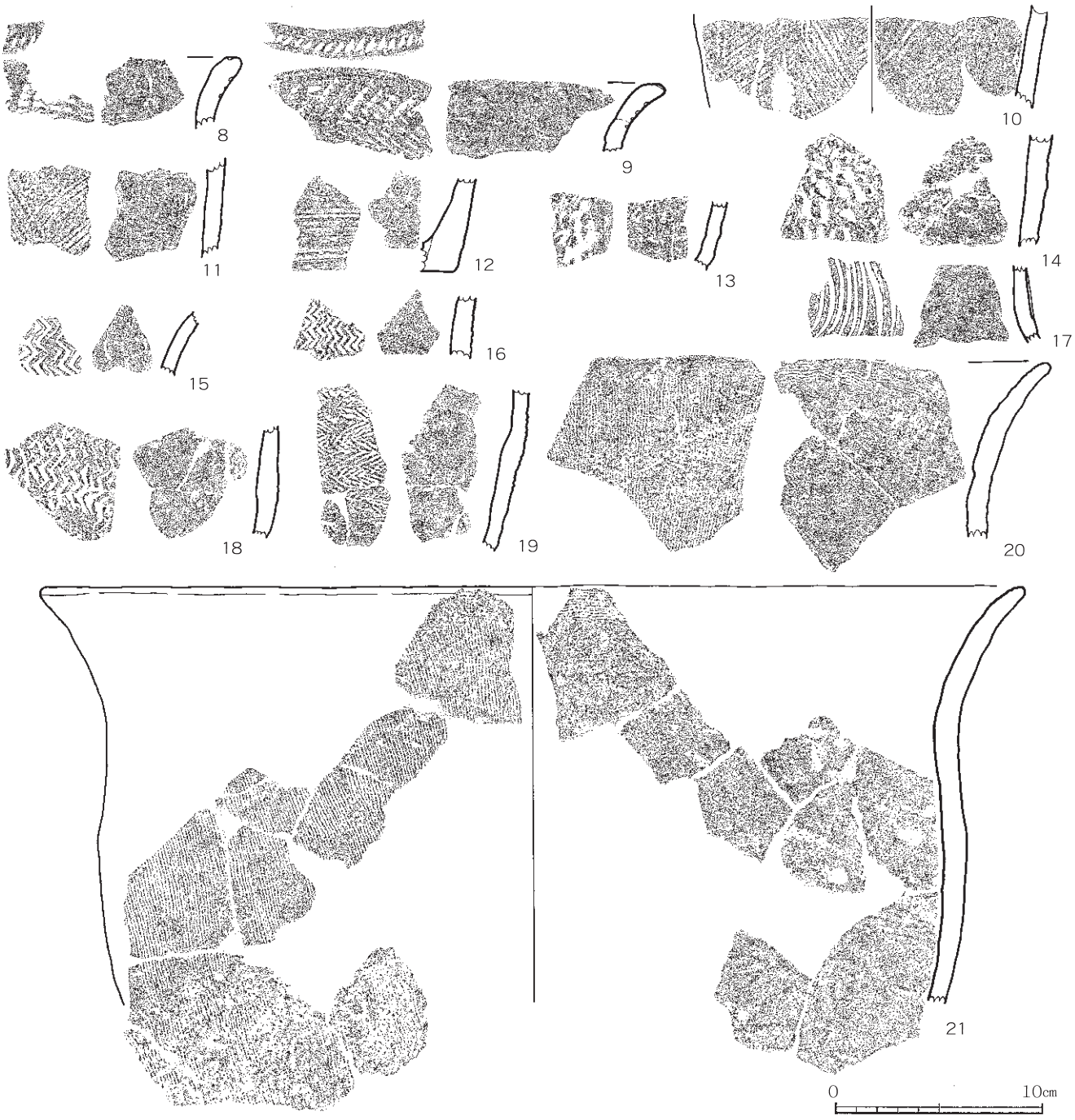
底部は，261・262・264・266～270・272～274・276～278が早期の可能性があるもので，それ以外については中期～後期の可能性が強いものである。

２　古墳時代以降の土器（第258図）

279は甕形土器の胴部で，内外面がハケ目調整される。土師器であり，古代の土器である。280は壺形土器の胴部で，古墳時代の土器と判断される。



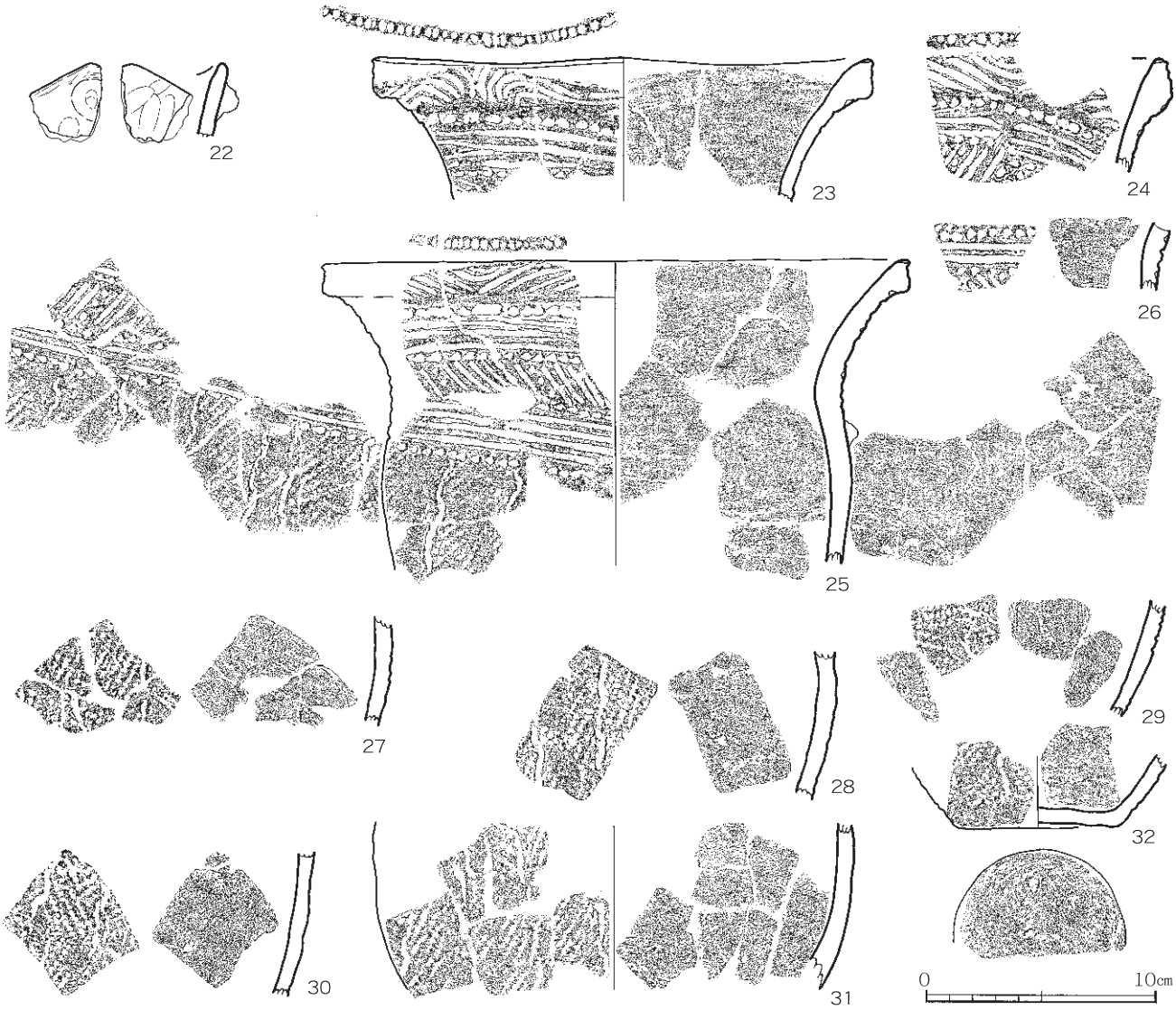
第242図　Ⅱａ，Ⅱｂ類土器実測図



第243図　Ⅱｃ，Ⅲａ～Ⅲｄ類土器実測図

表86　土器観察表（1）

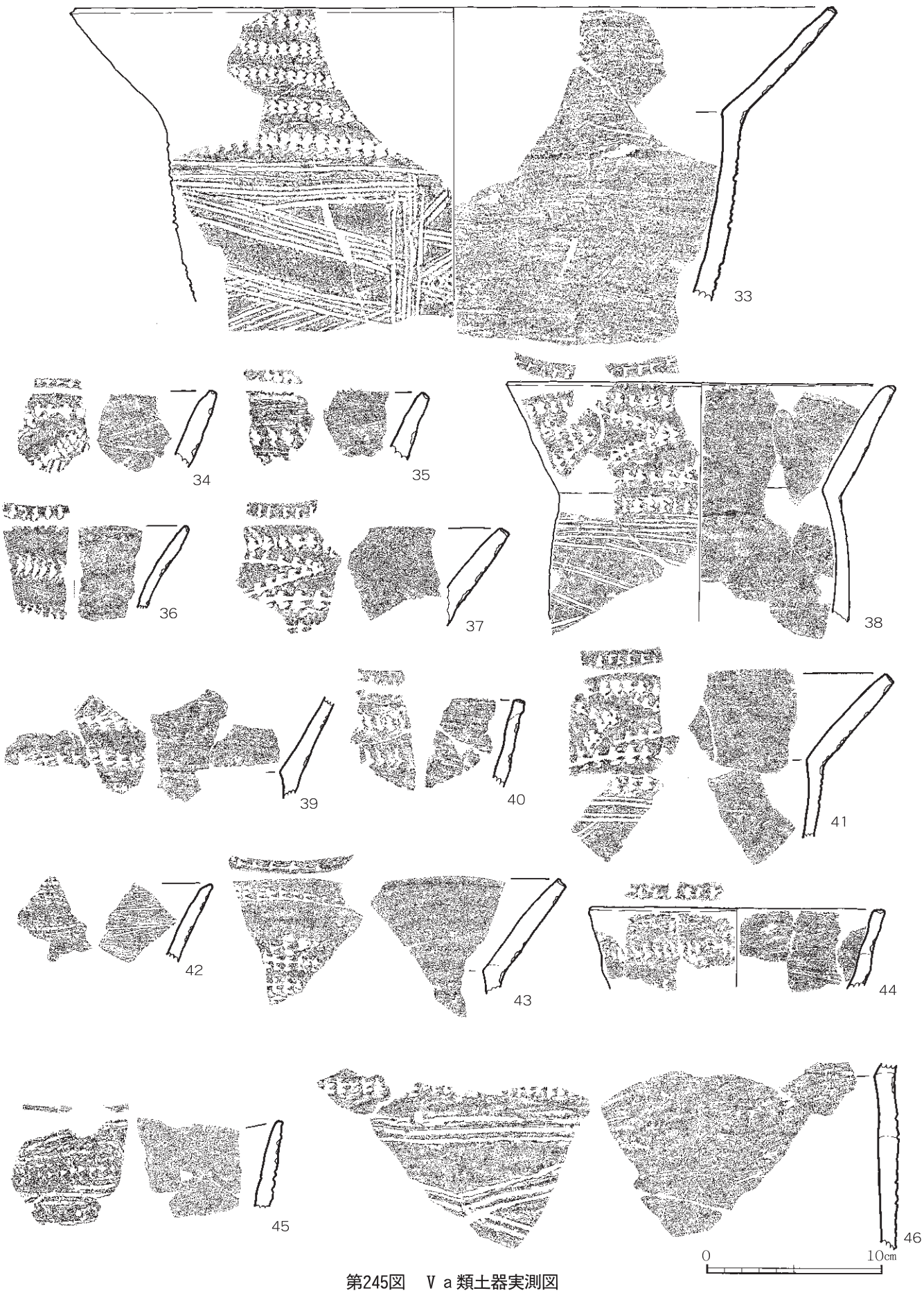
挿図No.	報告No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
						外面	内面	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
242	1	116272	C-11	5	口縁部	刻目・斜方向貝殻刺突	工具ナデ	淡褐色	淡灰褐色	○	○	－	○	角閃石
	2	105252	J-6	4	胴部	貝殻刺突・条痕	工具ナデ	茶褐色	黒褐色	○	○	△	○	
	3	106225	L-6	4横	胴部	貝殻条痕・刺突	工具ナデ	暗茶褐色	暗褐色	○	○	○	○	
	4	103879	K-6	4	胴部	貝殻条痕・刺突	工具ナデ	淡赤褐色	灰褐色	○	○	○	○	角筒
	5	101338	J-6	5	胴部	貝殻条痕・貝殻腹縁刺突	工具ナデ	黄褐色	黒褐色	○	○	○	○	角筒
	6	101161	K-6	5	胴部	貝殻条痕・貝殻腹縁刺突	工具ナデ	淡褐色	灰褐色	○	○	○	○	
	7	107089	M-7	5	口縁部～胴部	貝殻条痕・貝殻腹縁刺突	工具ナデ	赤褐色	暗灰褐色	○	○	○	○	角筒
243	8	104385	L-6	4	口縁部	貝殻刺突・ナデ	ナデ	赤褐色	淡灰褐色	○	◎	－	○	
	9	106650	L-6	4	口縁部	貝殻刺突・貝殻条痕・ナデ・刻目	ナデ	暗褐色	暗褐色	○	○	－	○	
	10	105437	L-6	4	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	赤褐色	暗褐色	○	○	－	○	
	11	102200	L-6	5	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	褐色	褐色	○	○	○	○	
	12	107500	L-6	4	底部	貝殻条痕	工具ナデ	黄褐色	暗褐色	○	○	△	○	火山ガラス
	13	500549	Z-36	4	胴部	楕円押型文・ナデ	ナデ	黄褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	○	
	14	500724	Z-35	4	胴部	楕円押型文・ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	○	
	15	116300	D-10	4	胴部	山形押型文・ナデ	ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	○	角閃石



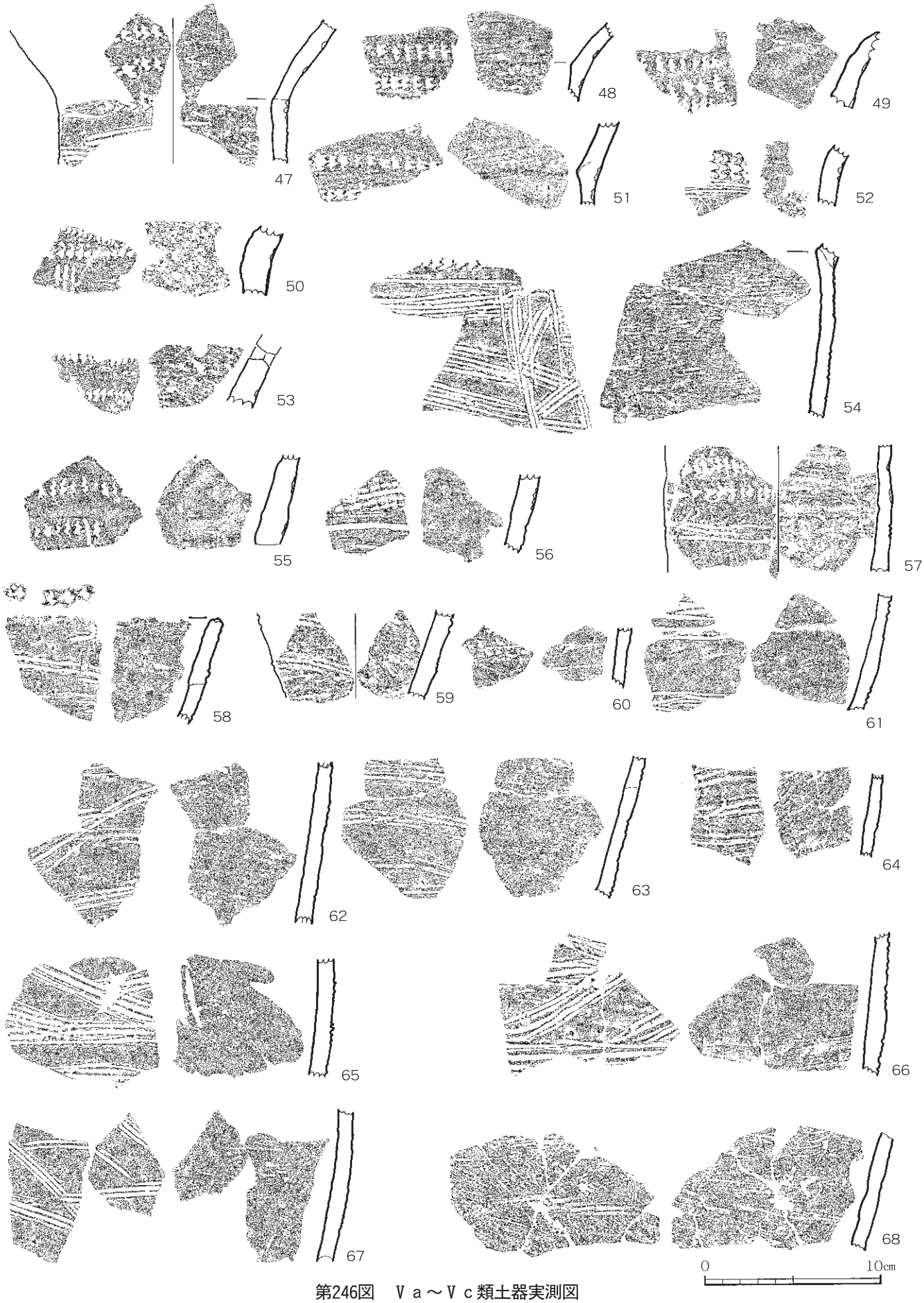
第244図　Ⅳａ，Ⅳｂ類土器実測図

表87　土器観察表（２）

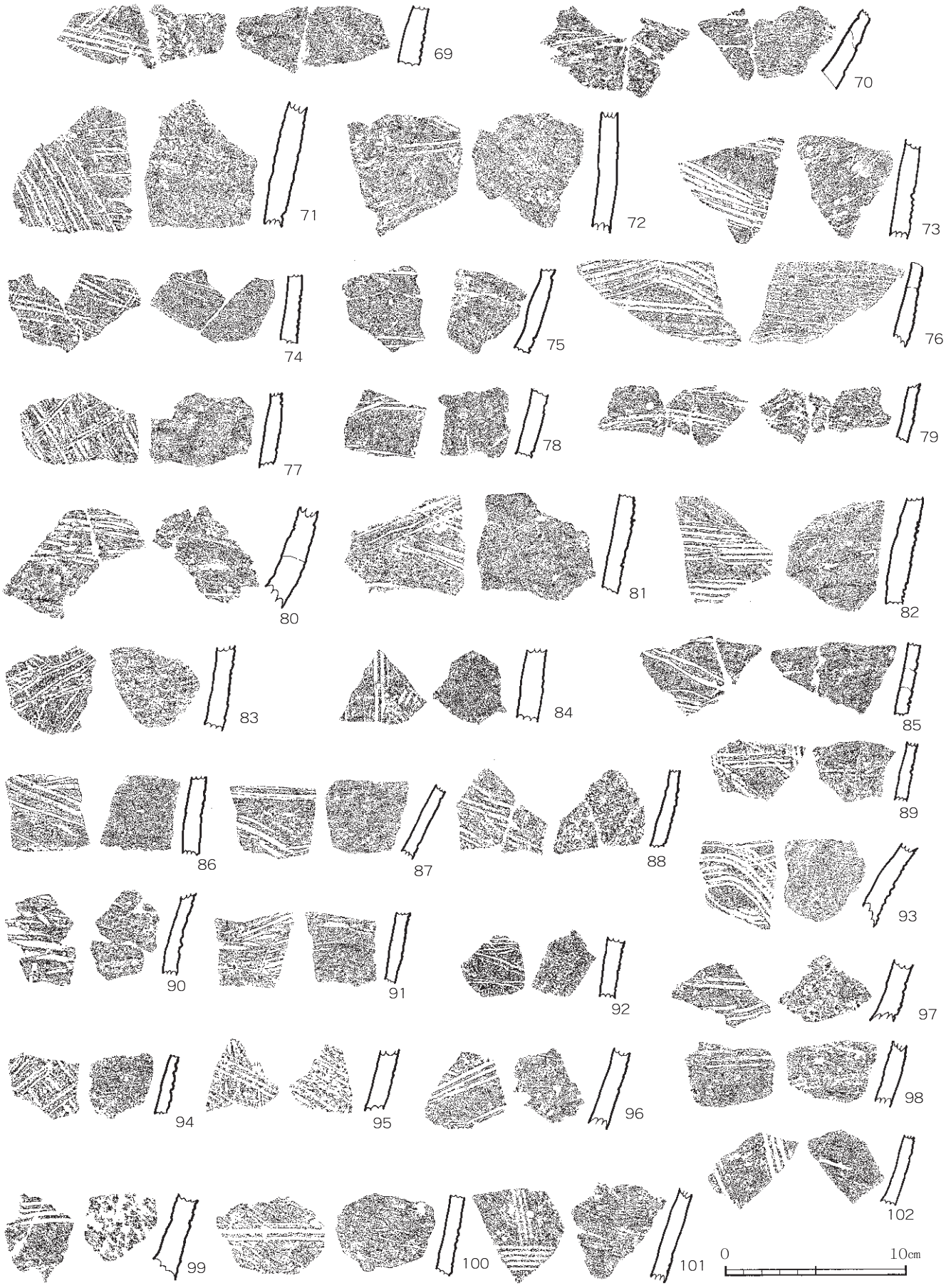
挿図No.	報告No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
						外面	内面	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
243	16	108509	C-3	4	胴部	山形押型文・ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	○	◎	－	○	
	17	108501	C-3	4	頚部	沈線・ナデ	ナデ	黄白色	黄白色	◎	◎	△	○	
	18	105072	C-7	4	胴部	山形押型文・ナデ	ナデ	黄白色	暗灰色	○	○	○	○	
	19	116285	D-10	4	胴部	山形押型文・ナデ	ナデ	赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	
	20	116278	C-11	4	口縁部	撚糸・ナデ	撚糸・ナデ	黒褐色	黄白色	◎	◎	－	○	火山ガラス
	21	116228	C-10	4	口縁部～胴部	撚糸・ナデ	撚糸・ナデ	褐色	黄白色	◎	◎	－	○	火山ガラス
244	22	500664	Y-36	4	口縁部	円形貼り付け・ナデ	ナデ	褐色	褐色	○	○	○	○	
	23	116043	C-11	4	口縁部	刻目・短沈線・円形刺突・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	○	
	24	116188	C-11	4	口縁部	刻目・短沈線・円形刺突・ナデ	工具ナデ	淡黄褐色	赤褐色	◎	◎	－	○	角閃石△
	25	116038	C-11	4	口縁部～胴部	刻目・短沈線・円形刺突・縄文・円形貼り付け・ナデ	工具ナデ	淡黄褐色	赤褐色	◎	◎	－	○	壺形土器
	26	116189	C-11	4	頚部	短沈線・円形刺突・ナデ	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	◎	◎	－	○	角閃石△
	27	116063	C-11	4	胴部	縄文・ナデ	工具ナデ	暗褐色	淡赤褐色	◎	◎	－	○	
	28	116190	C-11	4	胴部	縄文・ナデ	ナデ	暗褐色	黄褐色	○	◎	－	○	
	29	116041	C-11	4	胴部	縄文・ナデ	工具ナデ	暗褐色	淡赤褐色	◎	◎	－	○	
	30	116267	C-11	4	胴部	縄文・ナデ	工具ナデ	黄白色	赤褐色	○	◎	－	○	
	31	116010	－	4	胴部	縄文・ナデ	工具ナデ	暗褐色	淡赤褐色	◎	◎	－	○	
	32	116051	C-11	4	底部	縄文・ナデ	工具ナデ	黄白色	赤褐色	◎	◎	－	○	
245	33	103673	L-6	4	口縁部～胴部	刻目・貝殻連続刺突・条線・ナデ	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	34	105442	L-6	4	口縁部	刻目・貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色	◎	◎	－	◎	
	35	－	－	－	口縁部	刻目・貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	暗灰褐色	黄褐色	○	○	△	○	
	36	105623	K-6	4	口縁部	刻目・貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	黄灰色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	37	107353	L-6	4	口縁部	刻目・貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	赤褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	38	102929	K-6	4	口縁部～胴部	刻目・貝殻連続刺突・貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗灰褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	39	103838	K-6	4	頚部	貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	40	104326	L-6	4	口縁部	刻目・貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	灰褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	41	101398	L-6	4	口縁部～頚部	刻目・貝殻連続刺突・貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黄灰色	灰褐色	◎	◎	－	◎	



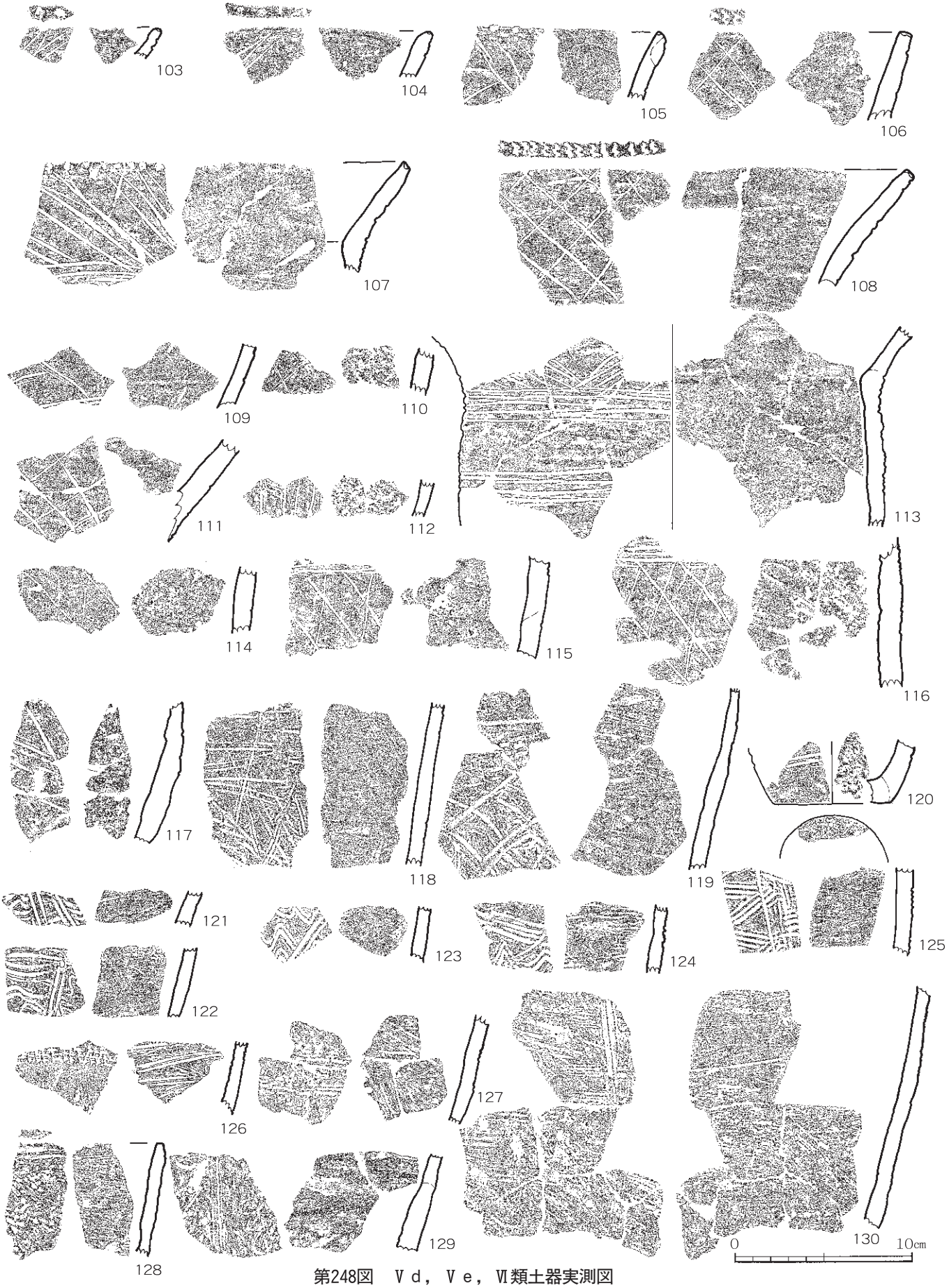
第245図　Ⅴａ類土器実測図



第246図　Ⅴａ～Ⅴｃ類土器実測図



第247図　Ⅴc類土器実測図

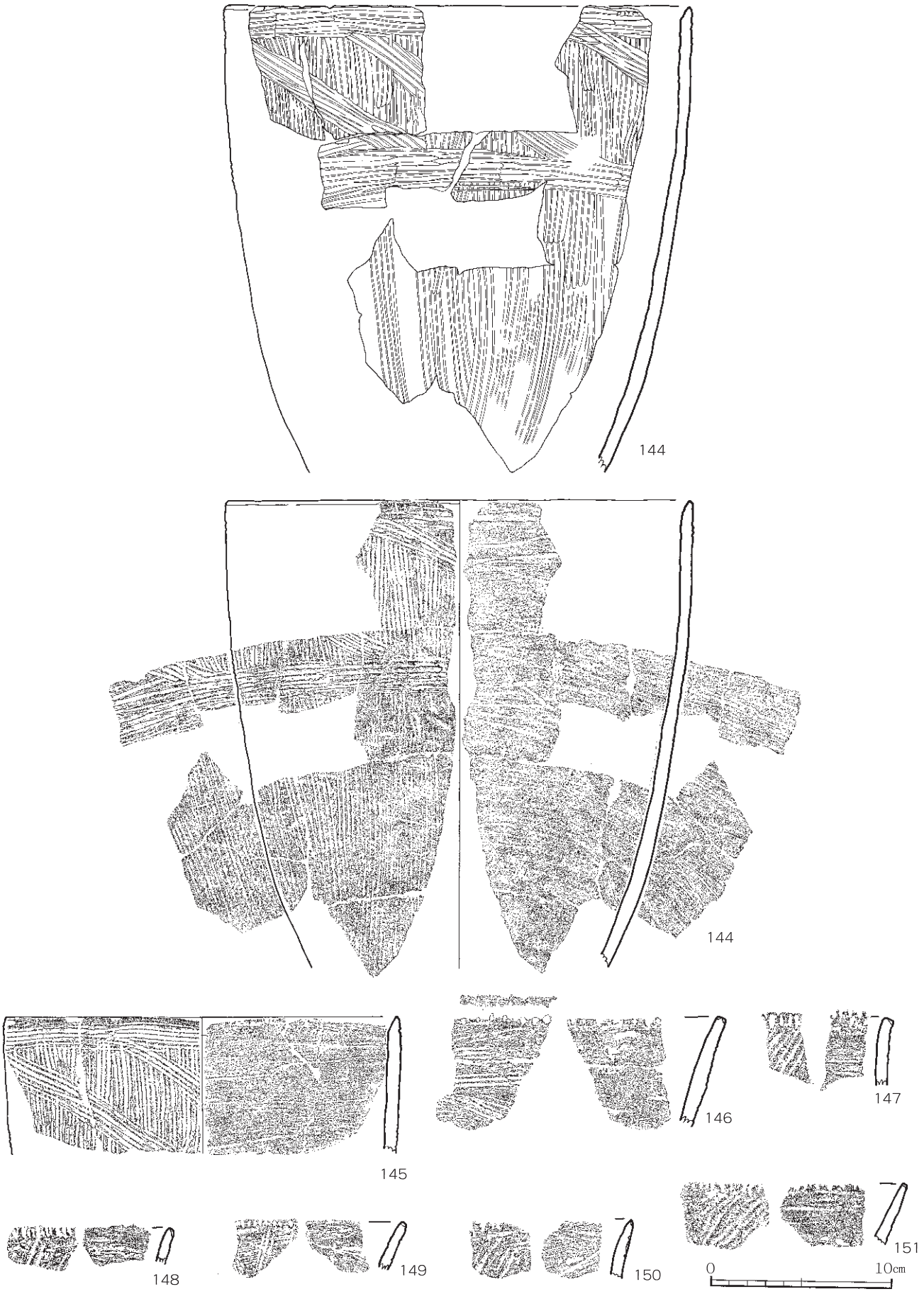


第248図　Ⅴd，Ⅴe，Ⅵ類土器実測図

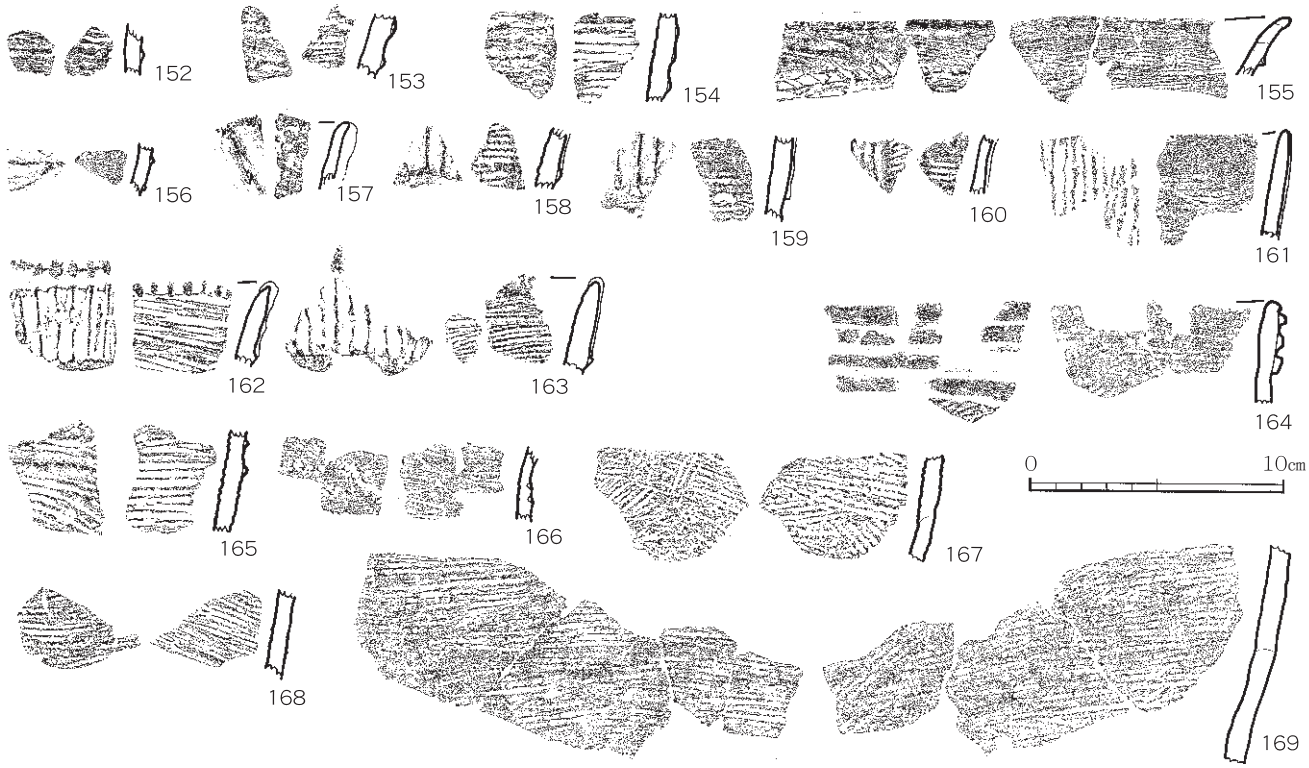
第249図　Ⅵ類土器実測図

表88　土器観察表（３）

挿図No.	報告No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
						外面	内面	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
245	42	105983	L-6	4	口縁部	刻目・貝殻連続刺突・ナデ	条痕	暗灰褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	43	100885	L-6	3	口縁部～頚部	刻目・貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	黄褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	44	100666	J-6	4	口縁部	刻目・貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	45	500723	Y-36	4	口縁部	貝殻連続刺突・貝殻条線・ナデ	ナデ	茶褐色	暗赤褐色	◎	◎	○	◎	
	46	100325	K-6	4	頚部～胴部	貝殻連続刺突・貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
246	47	102961	K-6	4	頚部	貝殻連続刺突・貝殻条線・ナデ	工具ナデ	褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	48	102163	L-6	3	頚部	貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	49	105776	L-6	4	頚部	刻目・貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	暗褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
	50	－	－	－	頚部	貝殻連続刺突・貝殻条線・ナデ	不明	褐色	褐色	◎	◎	○	◎	
	51	104880	L-6	4	頚部	貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	暗褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	52	104370	L-6	4	頚部	貝殻連続刺突・貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	53	100089	M-6	4	頚部	貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	暗褐色	赤褐色	◎	◎	○	◎	円孔
	54	106293	M-7	4	頚部～胴部	貝殻連続刺突・貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黒褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	55	102736	L-6	4	頚部	貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	黄褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	56	105883	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	57	104914	K-6	4	胴部	貝殻連続刺突・貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黄褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	58	100222	L-6	4	口縁部	貝殻刺突刻目・貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	59	104900	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	60	103952	K-6	4	胴部	貝殻連続刺突・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	○	
	61	105491	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	62	104879	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	63	103943	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	64	105960	J-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	65	102148	L-6	5	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黒褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	66	102744	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	67	100260	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	○	○	－	○	
	68	100475	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黄灰色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
247	69	101820	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	70	105945	J-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	褐色	◎	◎	－	◎	
	71	100120	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	72	101156	K-6	3	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	73	105497	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	74	103626	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黄灰色	黄灰色	○	○	－	○	
	75	105205	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	76	102860	M-7	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	77	500720	Y-36	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	78	108237	J-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	79	104444	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	80	106229	L-6	4横	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	81	100768	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	82	107094	M-7	5	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	83	101780	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黄褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	84	104418	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色	◎	◎	－	◎	
	85	100940	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	86	104427	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	



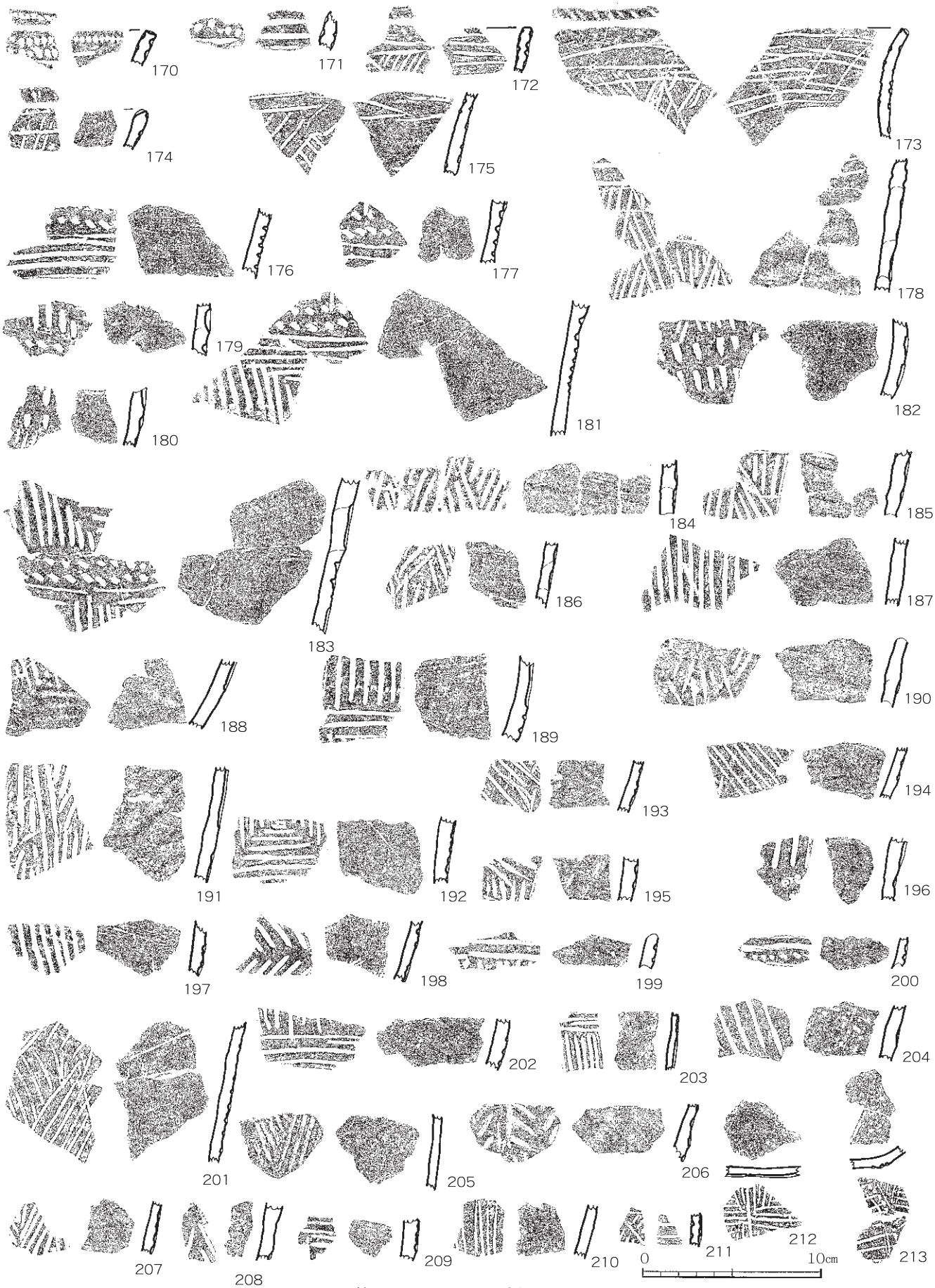
第250図　Ⅶ類土器実測図



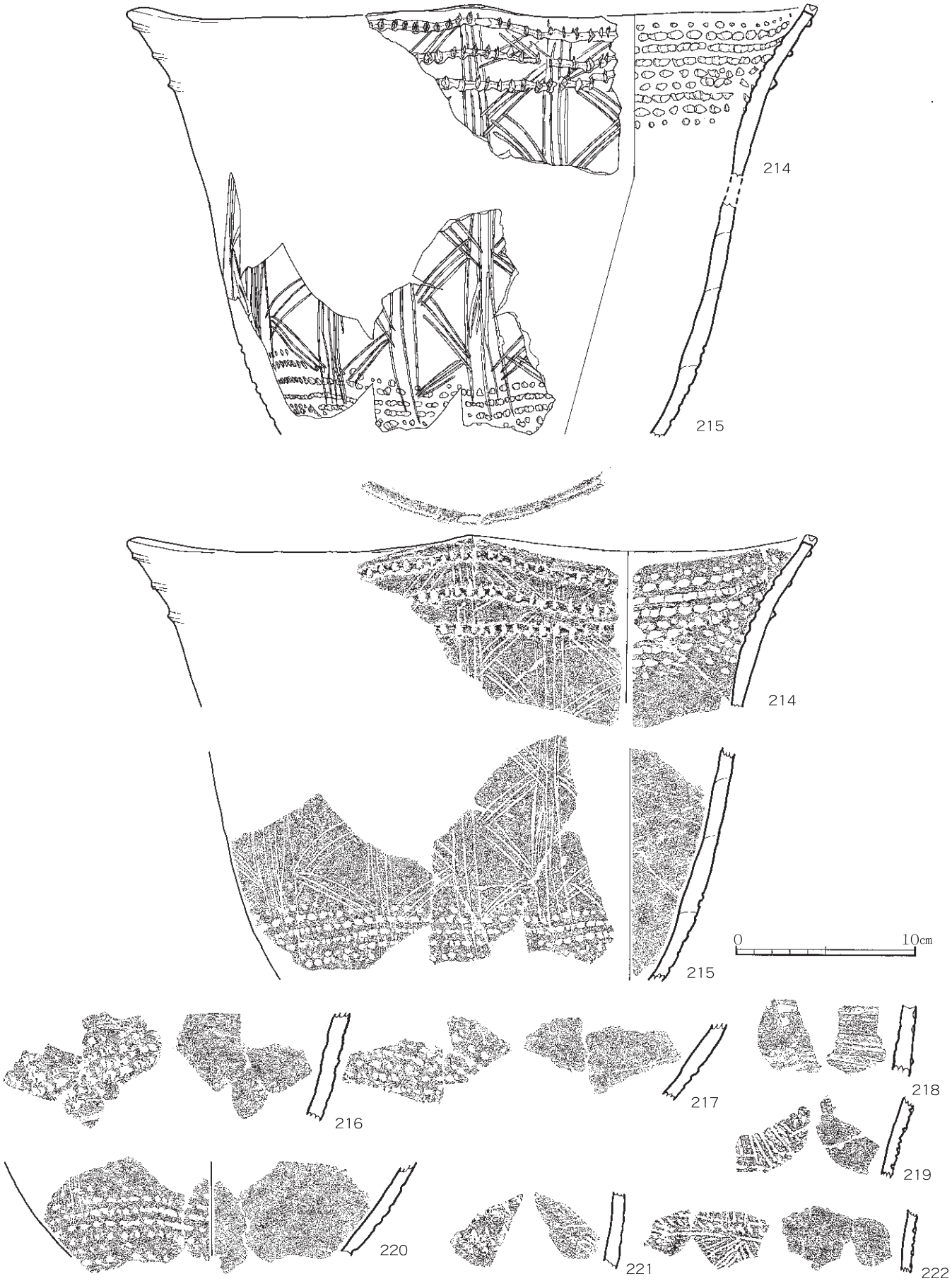
第251図　Ⅷ類土器実測図

表89　土器観察表

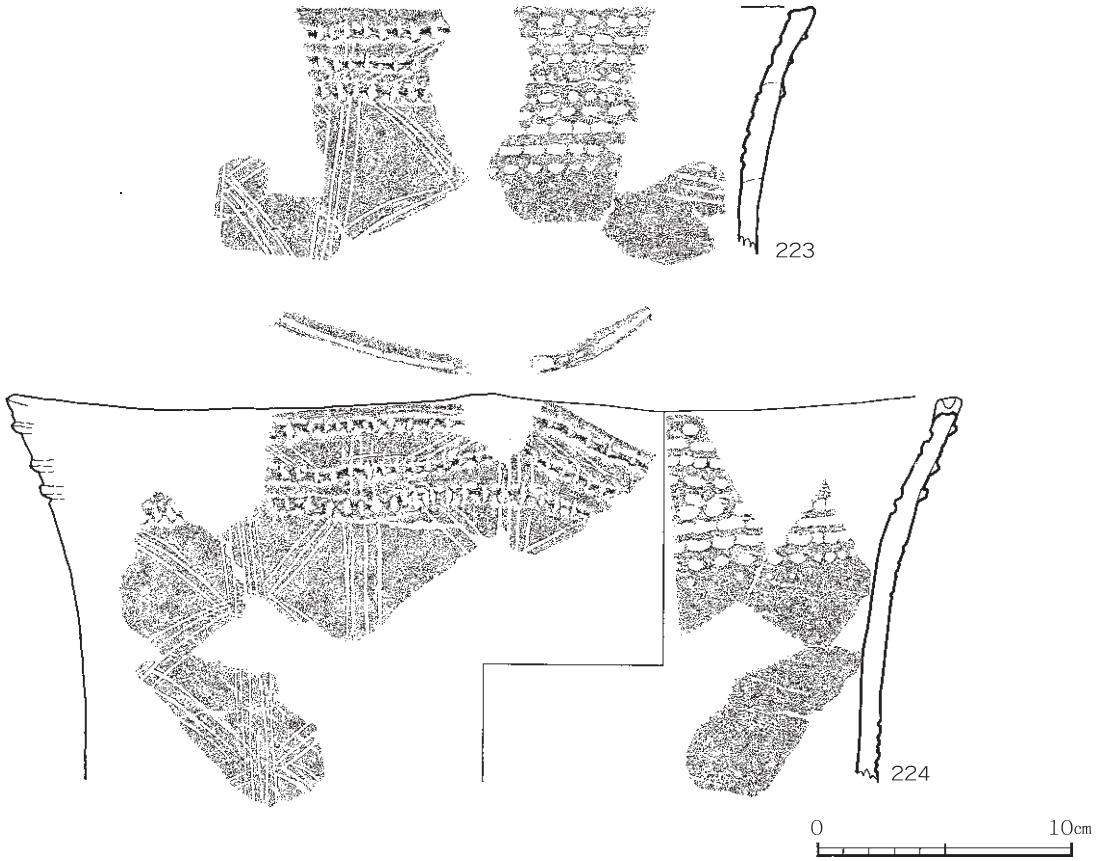
挿図No.	報告No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
						外面	内面	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
247	87	107321	L-6	4横	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	88	101881	J-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黄灰色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	89	102768	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	淡赤褐色	淡赤褐色	◎	◎	－	◎	
	90	102468	J-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色	◎	◎	－	◎	
	91	105250	J-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黒褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	92	101786	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	93	116209	D-11	3a	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	94	102472	J-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	黄灰色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	95	106823	M-6	5	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	暗赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	96	102888	M-7	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	△	◎	
	97	103896	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	98	107190	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	99	107706	L-6	5	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	100	105529	L-7	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色	◎	◎	－	◎	
	101	100639	K-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	102	106773	L-6	4	胴部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	○	◎	
248	103	101473	K-6	4	口縁部	刻目・沈線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	104	100977	K-6	3	口縁部	刻目・沈線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	105	106005	K-6	4横	口縁部	刻目・沈線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	106	104411	L-6	4	口縁部	貝刺突刻目・沈線・ナデ	工具ナデ	黄褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	107	105492	L-6	4	口縁部～頚部	刻目・沈線・ナデ	工具ナデ	褐色	褐色	◎	◎	－	◎	
	108	101404	K-6	4	口縁部	貝刺突刻目・沈線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	109	106112	L-7	4横	頚部	沈線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	110	100413	K-6	4	頚部	沈線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	111	104426	L-6	4	頚部	沈線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	112	104965	K-6	4	頚部	沈線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	113	106500	K-6	4	頚部～胴部	沈線・ナデ	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	114	105870	K-6	4	胴部	沈線・ナデ	工具ナデ	黄灰色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	115	102683	L-6	4	胴部	沈線・ナデ	工具ナデ	褐色	褐色	◎	◎	－	◎	
	116	107415	L-6	4	胴部	沈線・ナデ	工具ナデ	褐色	褐色	◎	◎	－	◎	
	117	103192	K-6	4	胴部	沈線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	118	104287	L-6	4	胴部	沈線・ナデ	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
	119	105027	C-7	4	胴部	沈線・ナデ	工具ナデ	黄褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	120	104779	M-6	4	底部	貝殻条線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	121	106004	K-6	4横	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	暗灰褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	122	106016	K-6	5	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	暗灰褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	123	105483	L-6	4	胴部	貝殻条痕・ナデ	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	124	102931	K-6	4	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	灰褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	125	102072	M-7	4	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
	126	107540	K-6	5	胴部	貝殻押し引き	条痕	暗灰褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	127	102032	L-6	4	胴部	貝殻押し引き	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	128	101236	J-6	4	口縁部	貝殻条痕	工具ナデ	黄褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	129	101135	J-6	3	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	赤褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	130	100494	L-7	4	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	黄灰色	黄灰色	◎	◎	－	◎	



第252図　Ⅸ類土器実測図



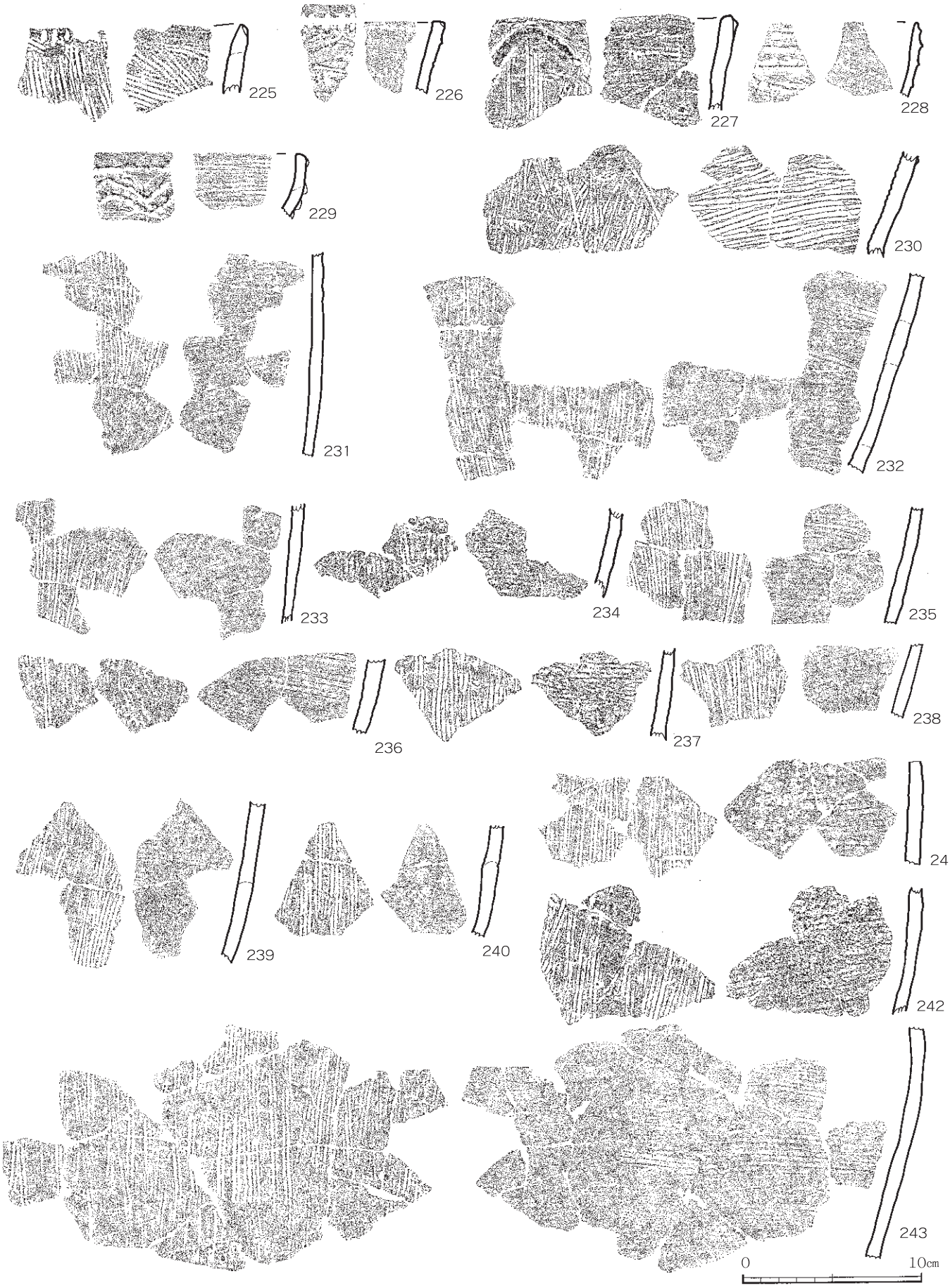
第253図　X類土器実測図（1）



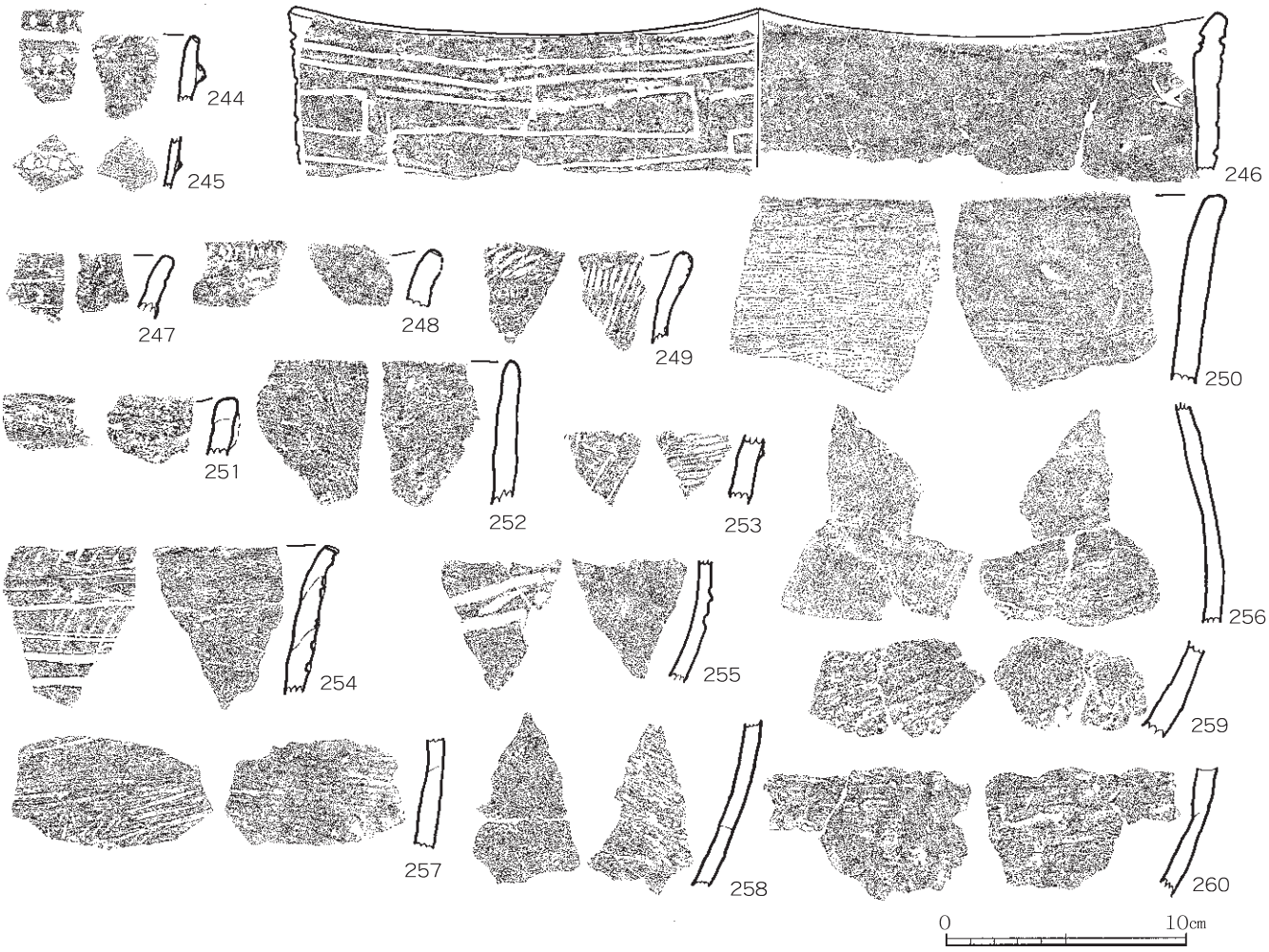
第254図　X類土器実測図（2）

表90　土器観察表（5）

挿図No.	報告No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
						外面	内面	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
249	131	108130	J-6	4	口縁部	刻目・貝殻条痕	工具ナデ	暗褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	132	105186	J-6	4	口縁部	刻目・貝殻条痕・微隆突帯	工具ナデ	黄褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	133	104804	M-6	4	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	134	102160	L-6	4	胴部	貝殻条痕・微隆突帯	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	135	101863	J-6	4	胴部	貝殻条痕・貝殻押し引き	工具ナデ	赤褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	136	101369	L-7	4	口縁部～胴部	刻目・貝殻条痕・刻目微隆突帯	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	137	105943	J-6	4	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	淡赤褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	138	101489	K-6	4	胴部	貝殻条痕・刻目微隆突帯	工具ナデ	黄灰色	黄灰色	◎	◎	△	◎	
	139	100668	J-6	4	胴部	貝殻条痕	条痕	黄灰色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	140	104453	J-6	4	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	黄灰色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	141	107711	L-6	5	胴部	貝殻条痕・貝殻押し引き	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
	142	102849	M-7	4	胴部	貝殻条痕・微隆突帯	工具ナデ	黒褐色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	143	101939	L-7	4	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
250	144	100830	J-6	3	口縁部～胴部	条痕(文様化)	工具ナデ	黄灰色	黄灰色	○	○	－	○	黒火山ガラス
	145	101710	J-6	4	口縁部	条痕(文様化)	工具ナデ	黄灰色	黄灰色	○	○	－	○	黒火山ガラス
	146	101220	K-6	4	口縁部	刻目・条痕(文様化)	工具ナデ	暗褐色	暗褐色	○	◎	－	○	黒火山ガラス
	147	104652	J-6	4	口縁部	刻目・条痕(文様化)	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	○	◎	－	○	
	148	101341	J-6	3	口縁部	刻目・条痕(文様化)	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	○	◎	－	○	
	149	103142	J-6	3	口縁部	刻目・条痕(文様化)・刺突	貝殻条痕	黄褐色	黒褐色	○	◎	－	◎	
	150	105312	K-6	4	口縁部	刻目・条痕(文様化)	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	○	◎	－	○	黒火山ガラス
	151	102475	J-6	4	口縁部	刻目・条痕(文様化)	工具ナデ	黄灰色	黄灰色	○	◎	－	○	黒火山ガラス
251	152	100128	L-7	3a	口縁部	微隆突帯・ナデ	貝殻条痕	黒褐色	黒褐色	○	○	－	○	
	153	100377	K-6	3a	口縁部	微隆突帯・ナデ	貝殻条痕	暗褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	154	107177	L-6	3	口縁部	微隆突帯・貝殻条痕	貝殻条痕	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	155	101697	J-6	4	口縁部	微隆突帯・貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	黄褐色	◎	◎	－	○	
	156	102281	K-6	3	口縁部	微隆突帯・ナデ	貝殻条痕	黒褐色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	157	101002	K-6	3	口縁部	微隆突帯・ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	158	100805	K-6	3	口縁部	微隆突帯・ナデ	貝殻条痕	黄灰色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	159	105958	J-6	3	口縁部	微隆突帯・ナデ	貝殻条痕	黒褐色	暗赤褐色	◎	◎	－	◎	
	160	101061	K-6	3	口縁部	微隆突帯・ナデ	貝殻条痕	黄灰色	黄灰色	○	○	－	○	
	161	100421	K-6	3a	口縁部	微隆突帯・ナデ	貝殻条痕	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	162	105566	L-6	3横	口縁部	微隆突帯(タテ)・貝殻条痕	貝殻条痕	暗灰褐色	暗灰褐色	◎	◎	－	◎	
	163	100418	K-6	3a	口縁部	微隆突帯・ナデ	貝殻条痕	暗赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	164	116327	B-10	3a	口縁部	突帯・ナデ	貝殻条痕	黒褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	165	102679	L-6	3横	胴部	微隆突帯・貝殻条痕	貝殻条痕	赤褐色	灰褐色	◎	◎	△	◎	
	166	100131	L-7	3a	頸部	刻目微隆突帯・ナデ	貝殻条痕	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	167	100200	L-6	3a	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	黄灰色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	168	100755	L-6	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	169	116006	－	3a	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	



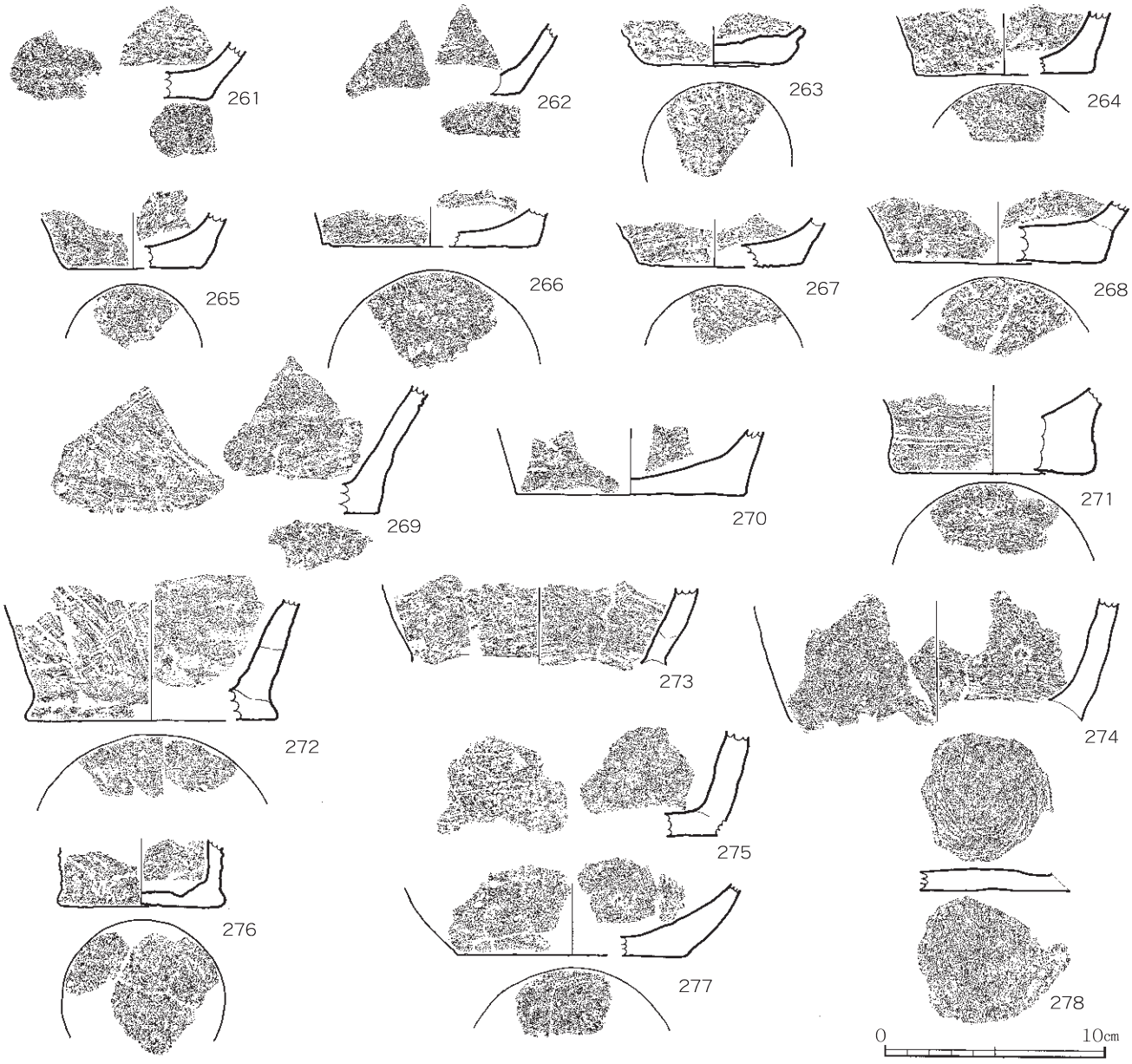
第255図　Ⅺ類土器実測図



第256図　ⅩⅡａ～ⅩⅡｃ類土器実測図

表91　土器観察表（６）

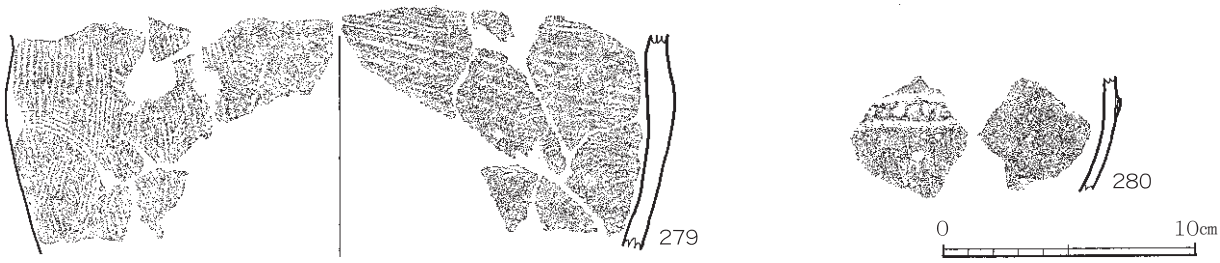
挿図No.	報告No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
						外面	内面	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
	170	116133	D-10	3a	口縁部	刺突・ナデ	ナデ	褐色	褐色	◎	◎	－	◎	
	171	117393	B-9	3a	口縁部	円形刺突・短沈線・ナデ	短沈線・ナデ	黄褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
	172	108447	C-3	3	口縁部	刻目・短沈線・ナデ	短沈線・ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	173	116167	C-10	3a	口縁部	刻目・短沈線・ナデ	短沈線・ナデ	暗褐色	褐色	◎	◎	○	◎	
	174	105371	K-6	4	口縁部	短沈線・ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	175	116158	C-10	3a	口縁部	短沈線・ナデ	短沈線・ナデ	暗褐色	褐色	◎	◎	○	◎	
	176	108405	C-2	3	胴部	刺突・短沈線・ナデ	ナデ	暗赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	177	108434	C-3	3	胴部	刺突・短沈線・ナデ	ナデ	黒褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	178	116012	－	3a	胴部	短沈線・ナデ	短沈線・ナデ	黄灰色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	179	108435	C-3	3	胴部	刺突・短沈線・ナデ	ナデ	黒褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	180	108418	C-3	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	赤褐色	灰色	◎	◎	－	◎	
	181	108410	C-3	3	胴部	短沈線・刺突・ナデ	ナデ	暗赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	182	108369	C-2	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	赤褐色	灰褐色	○	○	－	○	
	183	108394	C-2	3	胴部	刺突・短沈線・ナデ	ナデ	暗赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	184	116185	C-11	3	胴部	短沈線・ナデ	工具ナデ	黄褐色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	185	116327	B-10	3a	胴部	短沈線・ナデ	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	186	500718	X-36	3	胴部	短沈線・ナデ	工具ナデ	淡黄褐色	淡黄褐色	◎	◎	－	◎	
	187	108514	C-3	3	胴部	短沈線・ナデ	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
252	188	500053	Z-35	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	褐色	褐色	○	○	－	○	滑石△
	189	－	－	－	胴部	短沈線・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	190	116268	C-11	3a	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	黄灰色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	191	116174	C-10	3a	胴部	短沈線・ナデ	工具ナデ	暗灰褐色	暗灰褐色	○	○	△	○	
	192	100683	J-6	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	黒褐色	黄白色	○	○	－	○	
	193	116165	C-10	3a	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	黒褐色	茶褐色	○	◎	－	○	
	194	116304	C-10	3a	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	褐色	褐色	○	◎	－	○	
	195	500202	Y-36	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	暗褐色	褐色	○	◎	－	○	
	196	108416	C-3	3	胴部	刺突・短沈線・ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	197	108433	C-3	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	淡赤褐色	淡赤褐色	◎	◎	－	◎	
	198	108542	C-3	4	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	199	108533	C-2	4横	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	淡褐色	淡褐色	◎	◎	－	◎	
	200	116249	C-10	3a	胴部	刺突・短沈線・ナデ	ナデ	黒褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	201	108460	C-3	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	暗褐色	褐色	◎	◎	－	◎	
	202	108394	C-2	3	胴部	刺突・短沈線・ナデ	工具ナデ	暗赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	203	117370	C-9	4	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	暗褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
	204	108366	C-2	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	赤褐色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	205	108399	C-2	3	胴部	貝殻条痕	工具ナデ	赤褐色	暗褐色	◎	○	－	○	
	206	500560	X-35	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	



第257図　Ⅹ Ⅲ類土器実測図

表92　土器観察表（7）

挿図No.	報告No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
						外面	内面	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
252	207	500259	Z-36	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	滑石△
	208	108365	C-2	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	209	500561	Y-35	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色	◎	◎	－	◎	
	210	108428	C-3	3	胴部	短沈線・ナデ	ナデ	暗赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	211	108402	C-2	3	胴部	短沈線・ナデ	短沈線・ナデ	黒褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	212	108445	C-3	3	底部	短沈線・ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	213	108506	C-3	3	底部	短沈線・刺突・ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	
253	214	100911	K-6	3	口縁部	刻目突帯・沈線・刺突・ナデ	連続刺突・貝殻条痕・ナデ消し	暗褐色	黄褐色	○	◎	－	◎	同一個体
	215	100403	K-6	3a	胴部	刻目突帯・沈線・刺突・ナデ	貝殻条痕・ナデ消し	暗褐色	黄褐色	○	◎	－	◎	同一個体
	216	102483	J-6	3	胴部	連続刺突・ナデ	条痕	暗褐色	暗褐色	○	◎	－	○	
	217	100910	K-6	3	胴部	連続刺突・ナデ	ナデ	暗褐色	黄褐色	○	◎	－	◎	217と同一
	218	500347	Z-36	3	胴部	連続刺突・刻目突帯・ナデ	条痕	褐色	褐色	○	○	○	○	
	219	500101	Z-36	3	胴部	沈線・刺突・ナデ	条痕	褐色	淡褐色	○	◎	－	◎	
	220	100405	K-6	3a	胴部	連続刺突・ナデ	ナデ	暗褐色	黄褐色	○	◎	－	◎	217と同一
	221	102267	K-6	3	胴部	相交孤文・ナデ	条痕	黄褐色	黄褐色	○	◎	○	◎	
	222	500245	Z-35	3	胴部	沈線・刺突・ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
254	223	100904	K-6	3	口縁部	刻目突帯・沈線・刺突・ナデ	連続刺突・貝殻条痕・ナデ消し	暗褐色	黄褐色	○	◎	－	◎	
	224	100915	K-6	3	口縁部～胴部	刻目突帯・沈線・刺突・ナデ	連続刺突・貝殻条痕・ナデ消し	暗褐色	黄褐色	○	◎	－	◎	同一個体
255	225	117390	B-9	3	口縁部	刻目・条痕	貝殻条痕	黒褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	226	100034	M-6	3a	口縁部	刻目・ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	227	500126	Z-36	3	口縁部	微隆突帯・条痕	貝殻条痕	黒褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	228	101075	K-6	3	口縁部	微隆突帯・ナデ	ナデ	黒褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	229	108472	C-2	3	口縁部	突帯・貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	暗赤褐色	○	○	－	○	



第258図　Ⅹ Ⅳ類土器実測図

表93　土器観察表（８）

挿図No.	報告No.	取上番号	出土区	層位	部位	文様・調整		色調		胎土				備考
						外面	内面	外面	内面	石英	長石	雲母	砂礫	
255	230	500211	Y-36	3	頚部	突帯・貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	231	500096	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	232	500059	Y-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	暗赤褐色	◎	◎	－	◎	
	233	500135	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	赤褐色	暗赤褐色	◎	◎	－	◎	
	234	500109	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	黄褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	235	500078	A'-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	236	500106	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	茶褐色	茶褐色	◎	◎	－	◎	
	237	500132	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	暗灰褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
	238	500288	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	茶褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	239	500277	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	茶褐色	◎	◎	－	◎	
	240	500094	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	241	500092	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	茶褐色	茶褐色	◎	◎	－	◎	
	242	500100	Z-36	3	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	243	500016	Y-35	埋土内	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
256	244	102172	L-6	4横	口縁部	ナデ・刻目・突帯・円形刺突	ナデ	淡褐色	淡褐色	◎	◎	－	○	
	245	102297	K-6	4	胴部	ナデ・刻目突帯	ナデ	淡褐色	淡褐色	◎	◎	－	○	
	246	500238	Y-36	3	口縁部	沈線・ナデ	ナデ	黒褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	247	104912	K-6	4	口縁部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	248	105397	K-6	4	口縁部	刻目・ナデ	ナデ	茶褐色	灰褐色	○	○	－	○	
	249	500141	Z-36	3	口縁部	刻目・刺突・ナデ	条痕	黄灰色	黄白色	○	○	－	○	
	250	116030	C-11	3a	口縁部	条痕	貝殻条痕	暗灰褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
	251	105986	K-6	4	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	○	○	－	○	
	252	108208	J-6	4	口縁部	ナデ	ナデ	暗褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	253	101020	K-6	3	胴部	突帯・条痕・沈線	貝殻条痕	暗赤褐色	赤褐色	○	○	－	○	
	254	116093	D-12	3a	口縁部	刻目・沈線・ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	255	500085	Z-36	3	胴部	沈線・ナデ	工具ナデ	赤褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	256	500364	Z-36	3	胴部	ナデ	工具ナデ	褐色	褐色	◎	◎	○	◎	
	257	116064	D-11	3a	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐色	黒褐色	○	◎	－	○	
	258	108490	C-2	4	胴部	ナデ	工具ナデ	赤褐色	灰褐色	◎	◎	◎	◎	
	259	100563	L-7	3a	胴部	条痕	ナデ	黄褐色	黄褐色	◎	◎	－	◎	
	260	108389	C-2	3	胴部	条痕・ナデ	工具ナデ	淡褐色	淡褐色	○	○	－	○	
257	261	102811	L-6	4	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	○	
	262	105032	C-7	4	底部	ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	◎	◎	－	◎	
	263	101368	L-7	3	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	264	102443	J-6	4	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	265	100782	K-6	3	底部	工具ナデ	ナデ	暗褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	266	102637	L-6	4	底部	ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	267	103219	K-6	4	底部	条痕	ナデ	茶褐色	暗褐色	◎	◎	－	◎	
	268	107390	K-6	4	底部	工具ナデ	工具ナデ	灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	269	500721	Y-36	4	胴部～底部	条痕	工具ナデ	赤褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	270	101740	J-6	4	底部	ナデ	ナデ	淡褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	271	116311	C-10	3a	底部	条痕	ナデ	赤褐色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	272	500530	Y-36	3	胴部～底部	条痕	工具ナデ	赤褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	273	101343	J-6	3	底部	ナデ	工具ナデ	赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	
	274	105495	L-6	4	底部	ナデ	工具ナデ	赤褐色	暗赤褐色	◎	◎	－	◎	
	275	105065	C-7	3	底部	ナデ	ナデ	黄灰色	黒褐色	◎	◎	－	◎	
	276	100206	L-6	3a	底部	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	◎	◎	－	◎	
	277	500727	Z-36	4	底部	ナデ	ナデ	暗灰褐色	灰褐色	◎	◎	－	◎	
	278	116235	C-10	4	底部	ナデ	条痕	暗赤褐色	暗赤褐色	○	◎	－	○	
258	279	－	－	－	胴部	ハケ目	ハケ目	黄褐色	淡褐色	○	○	－	○	
	280	104828	L-7	4	胴部	刻目突帯・ハケ目	工具ナデ	黄褐色	黄褐色	○	○	－	○	

第５節　石器

Ⅲ地区を中心として，出土している。

１　Ⅴ層出土の石器

Ⅲ地区の中央部のＬ－６区付近にOB-A，OB-Bのブロックが，南端部のM－７区付近にOB-B，OB-Cのブロックがあることがわかる。これらのブロックと同石材の石器は抽出できなかったが，チップ類は多量であり，石器製作跡と考えられる。

281～287は石鏃で，288は削器，289は石錐の基部で，先端部を欠失している。石鏃は小型で，282は礫面と主要剥離面を残し，抉りをもたない。290は縦長剥片である。291～292は石核である。打面を転移して，不整形な剥片を剥出している。293は細石刃核である。

他の地区では，石器は出土していない。

２　Ⅳ層出土の石器

Ⅲ地区では，Ｊ－６区とＫ－６区の境目付近の，調査区の東側に無斑晶安山岩のブロックが，Ｌ－５区の南側から６区にかけてOB-Bのブロックが，Ｌ－６・７区にOB-Cのブロックが，Ｌ－６区にこれらと比べるとやや小さな無斑晶安山岩のブロックがある。無斑晶安山岩の北東のブロック付近には，同じ石材の石鏃が出土していることから，生産したことが考えられる。同じように，OB-Bのブロックには，剥片や石器が伴っている。中央部のＬ－６区には３種の石材が重複する。

ＸⅠ地区では，南側のＥＥ－８・９区にOB-Cのブロックがある。

294～330は石鏃である。294～303は小型の抉りのない一群である。主要剥離面を残し，周縁調整している。304～323は抉りを持つ小型鏃で，同様に主要剥離面が残っている。324～330はやや大型となるが，やはり主要剥離面を残すものが多い。325は抉りの深い，尖ったやや身の厚い石鏃である。330は大型の抉りのない石鏃である。331～333はこれで完形品と考えられる。333は上野原遺跡でも出土しており，特殊石器としておく。343は楔形石器である。335～341は使用痕剥片，342は掻器，344～348は石核である。比較的大きな扇形の剥片を剥出している。石鏃の剥片形状と同じと考えられ，素材を剥出した可能性が高い。大きな縦長の使用痕剥片を剥出した石核は見られず，こうした素材は別の場所で剥出された可能性がある。

Ⅶ・Ⅸ地区では，石鏃・スクレーパー，調整剥片が出土した。剥片・チップの出土量は少なく，全体に散らばる。Ⅸ地区のＯＢ－Ｃのブロックには石器は出土しなかった。349～351は石鏃，352，353は掻器，354は調整剥片である。石鏃はそれぞれ形状が異なる。

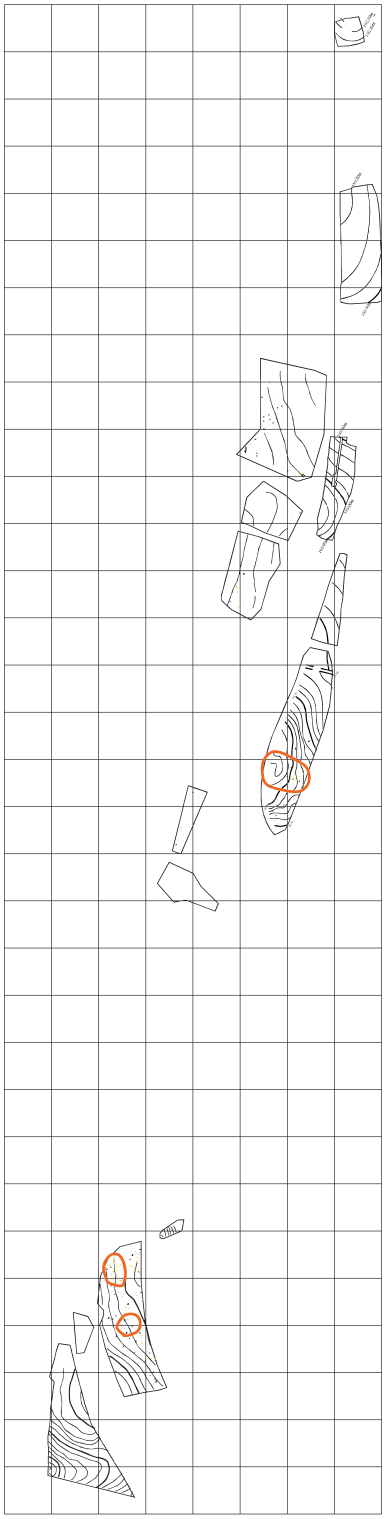
３　Ⅲ層出土の石器

Ⅲ地区の中央部Ｋ－６区とＬ－６区の境目付近にOB-Bのブロックがあり，北側のＪ－６区に無斑晶安山岩のブロックがある。またⅦ地区のＡＡ区にOB-Cのブロックが存在する。いずれも剥片と石器を伴っており，石器製作跡と考えられる。

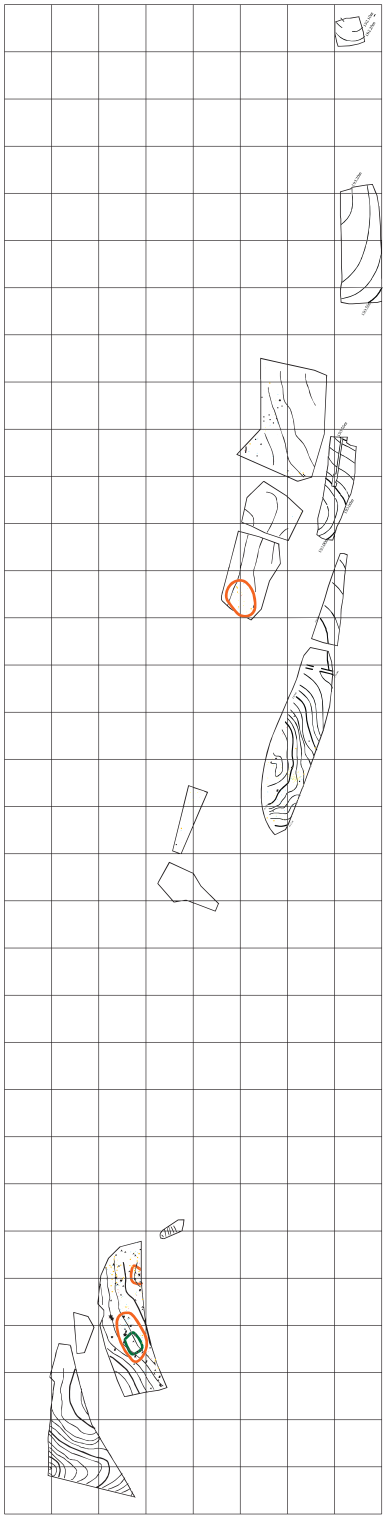
355～376は石鏃である。355～370は小型鏃で，355～358は抉りのない一群である。372～374は鋸歯刃が深く刻まれる。371は五角形鏃で縄文晩期のものである可能性が強い。377は石錐，378はスクレーパー，379は削器，380は石匙，381～384は使用痕剥片，385は石核である。石核は礫面を残して，一側面より剥出している。

Ⅵ・Ⅶ地点からは石鏃を中心に出土している。386～392は石鏃，393・394は石匙である。387～389は主要剥離面が残る。ＯＢ－Ｃのブロックには石器が含まれる。

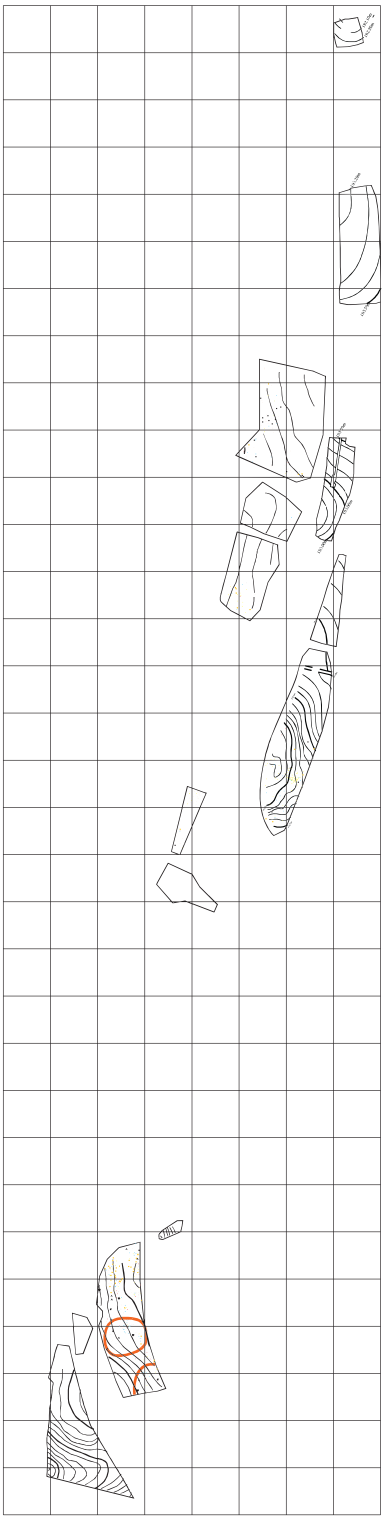
Ｘ・ＸⅠ地区は，石鏃，石錐，縦型の石匙が出土した。395～400は石鏃である。401は石錐である。402は石匙で縦長の剥片を使用して，上部２カ所に抉りが入る。この地点は，曽畑式土器と中期条痕文土器が出土しており，401は曽畑式土器，402は中期の条痕文土器と出土場所が一致する。



Ⅲ層

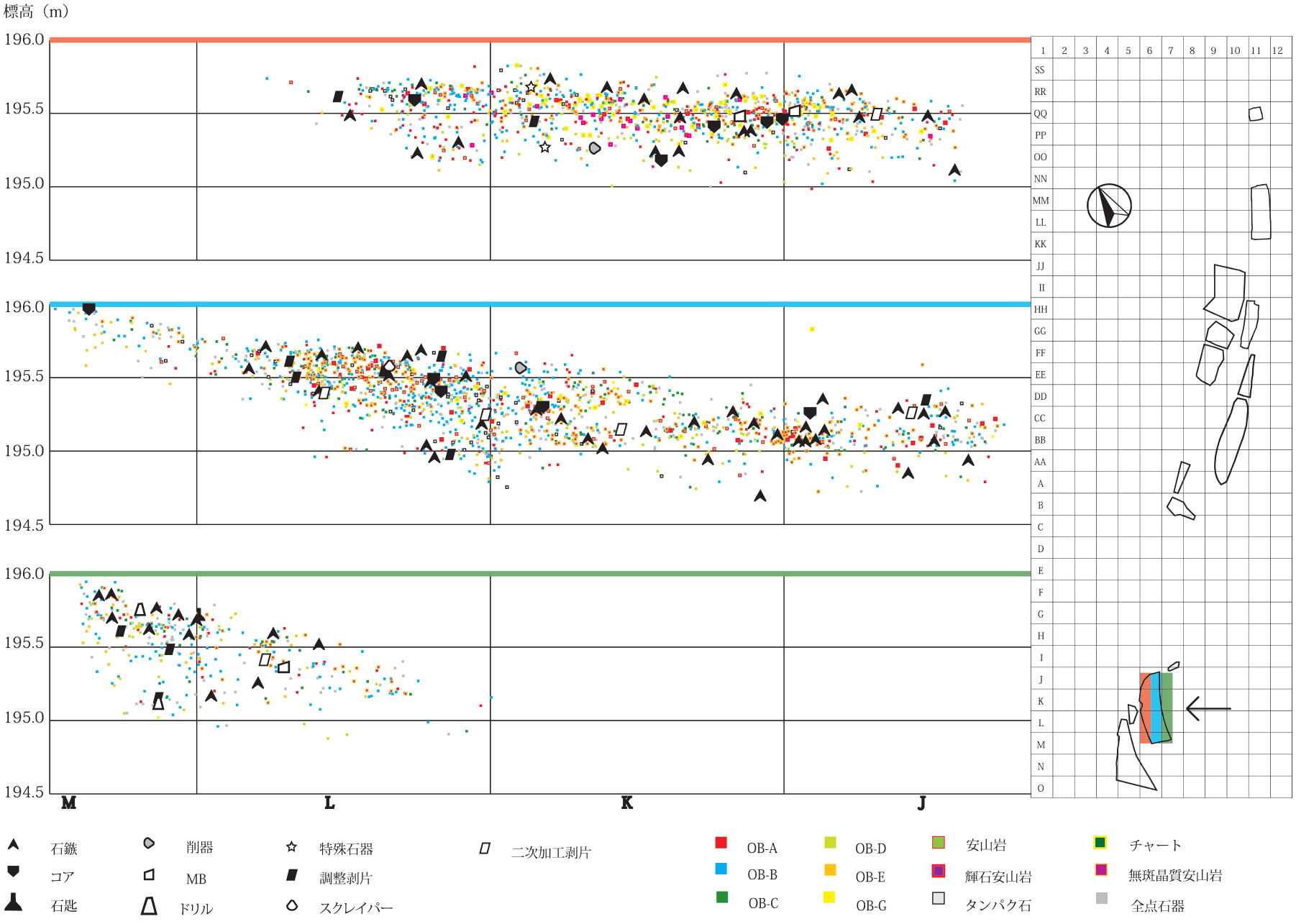


Ⅳ層

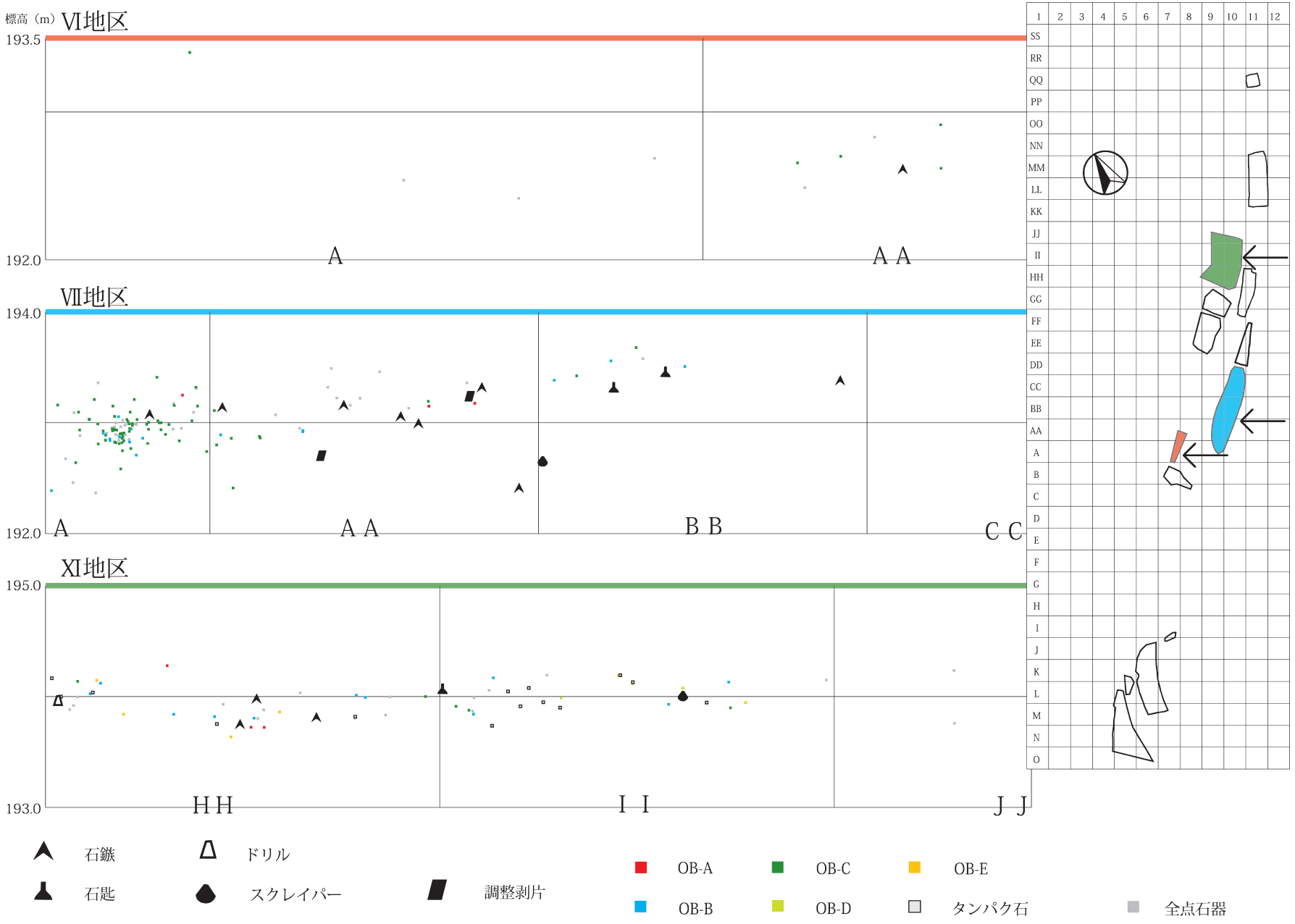


Ⅴ層

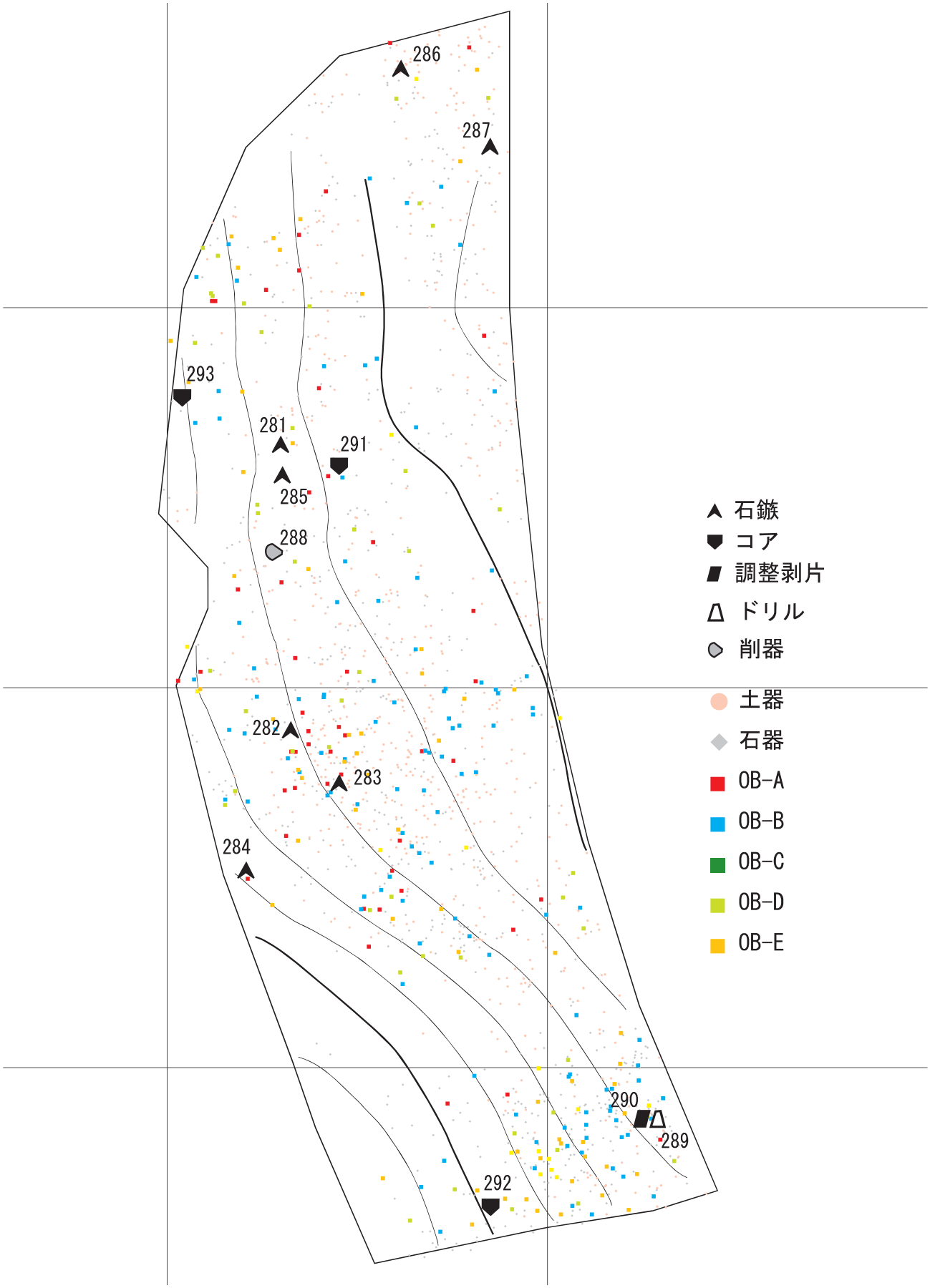
第259図　縄文石器層別ブロック分布図



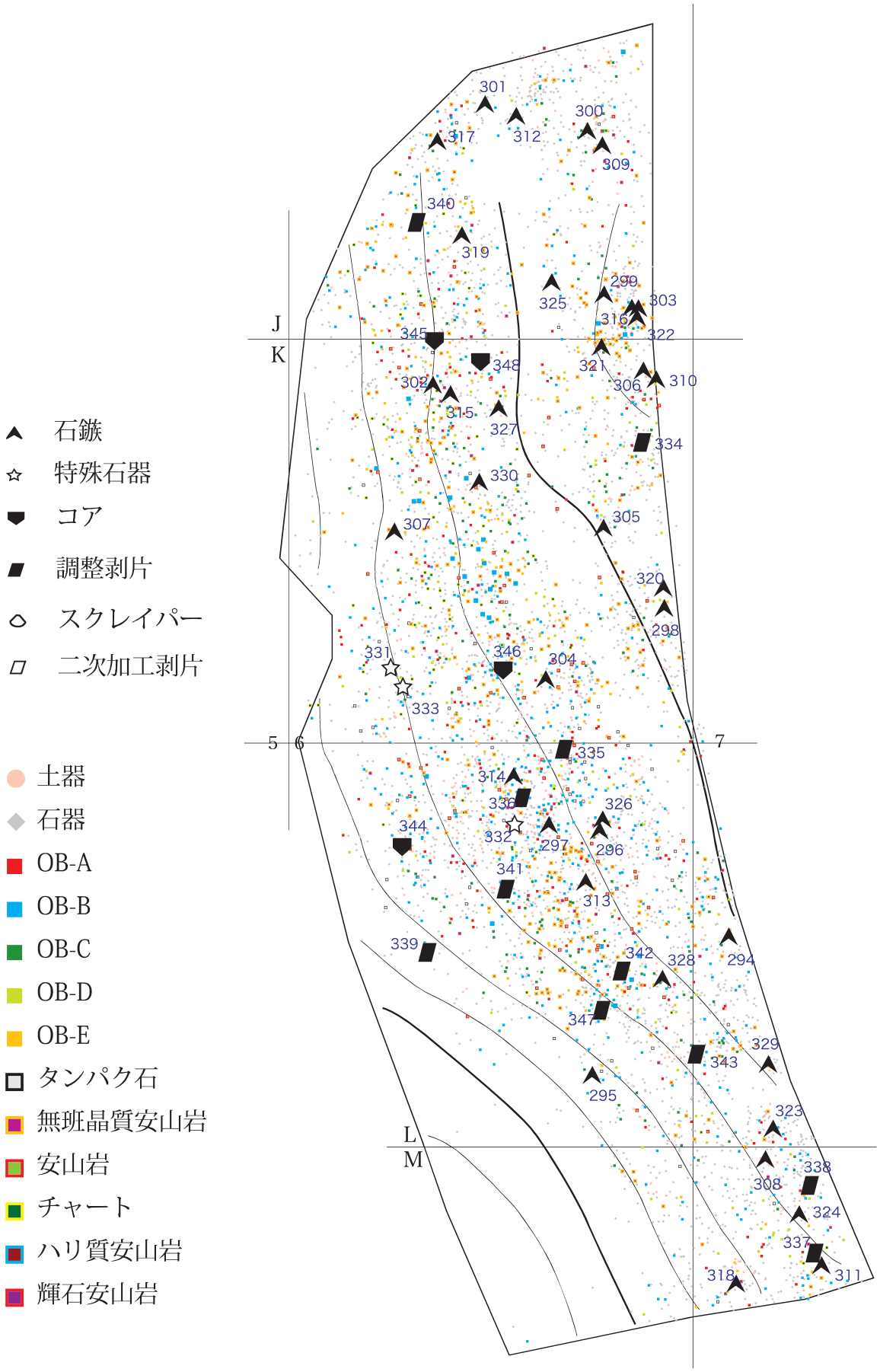
第260図　Ⅲ地区縄文石器垂直分布



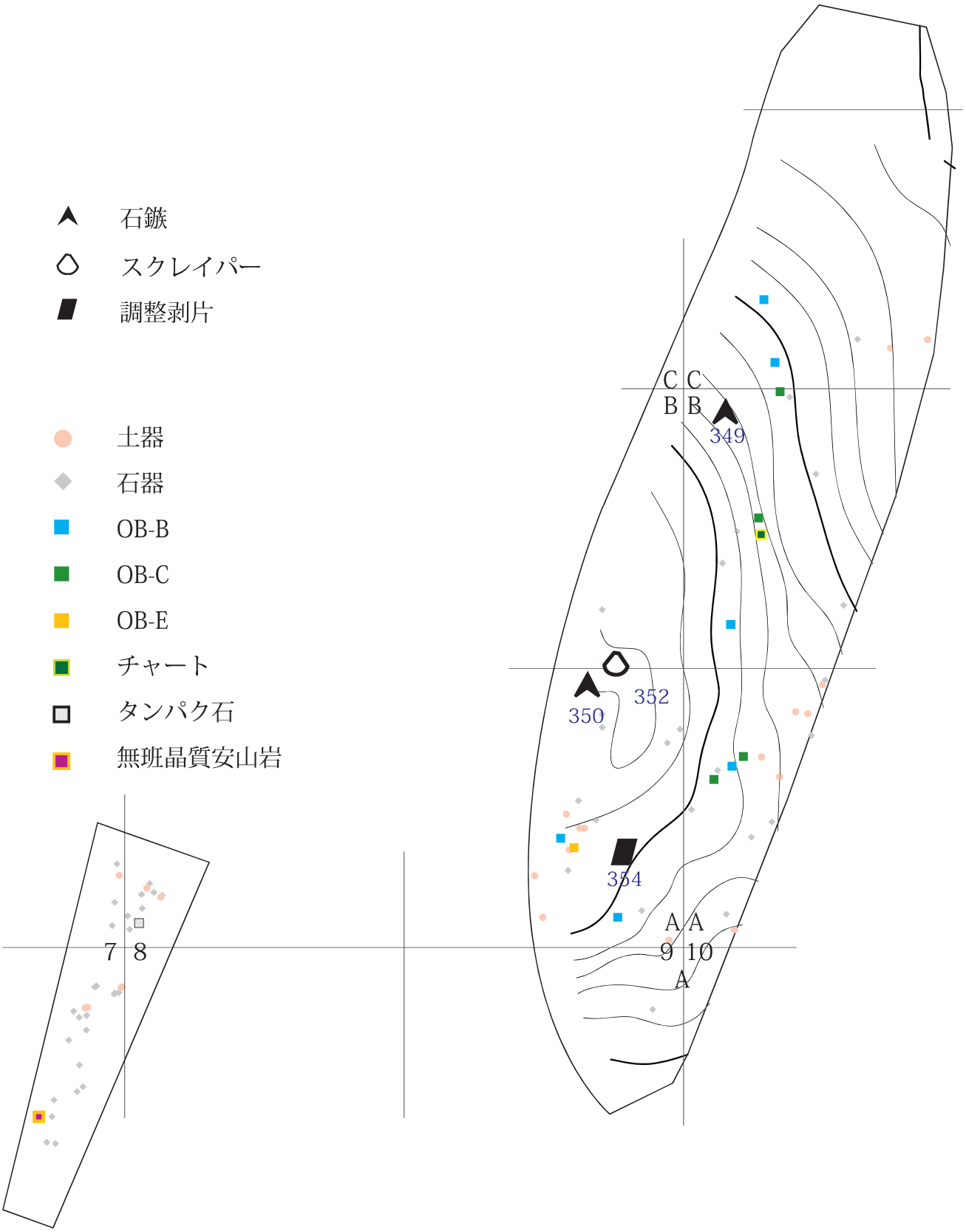
第261図　Ⅳ・Ⅶ・Ⅺ地区縄文石器垂直分布



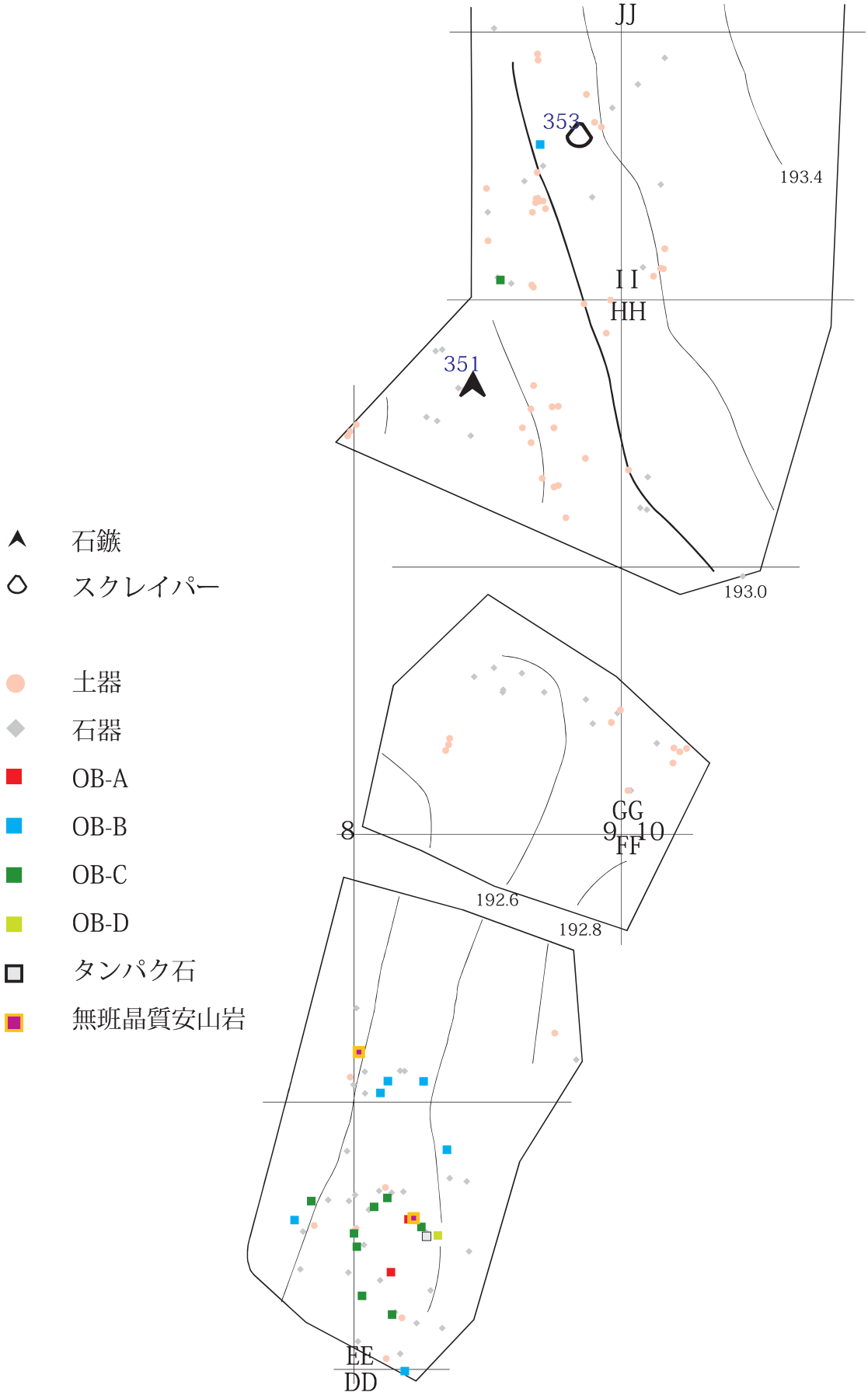
第262図　Ⅲ地区Ⅴ層石器出土状況図



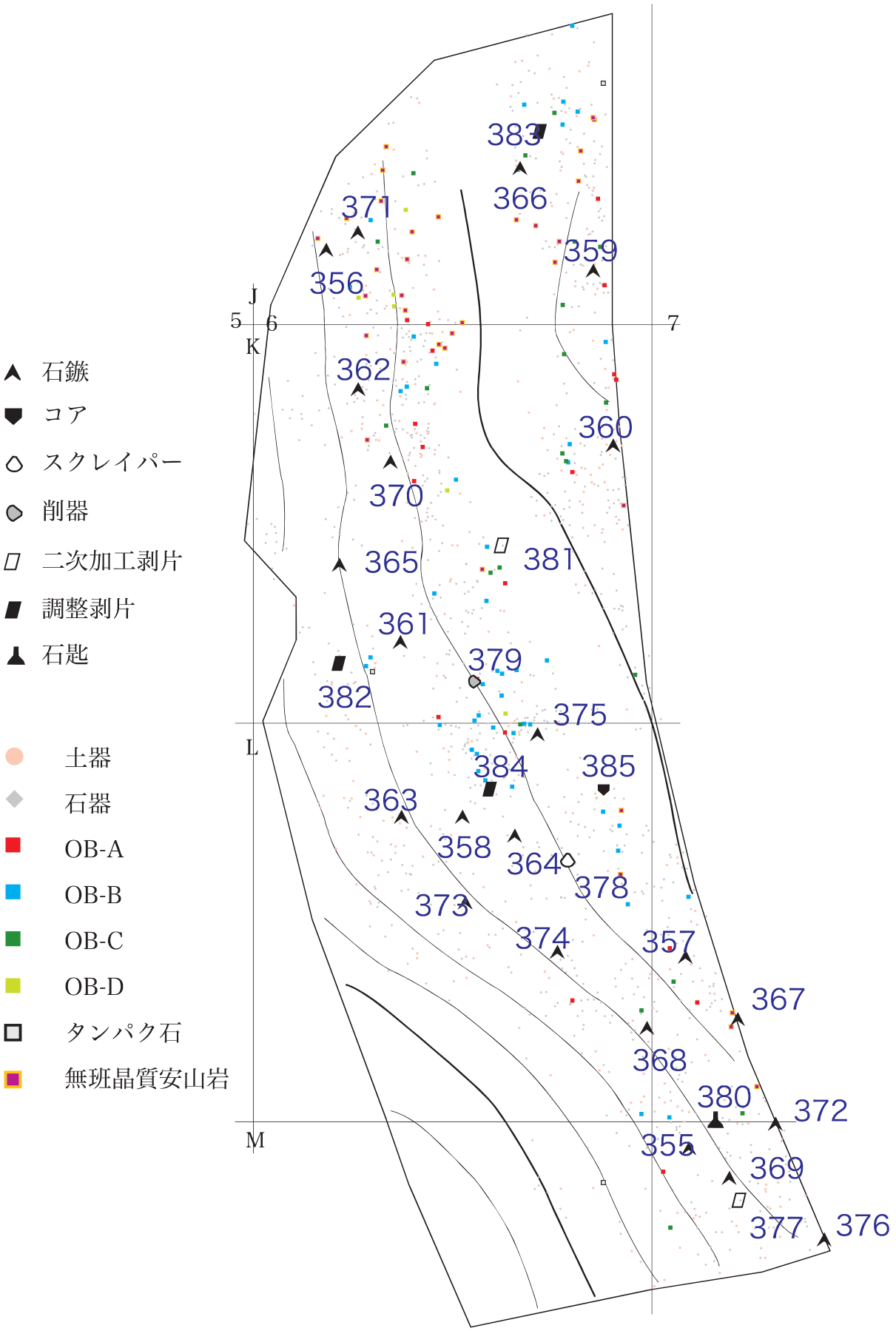
第263図　Ⅲ地区Ⅳ層実測石器出土状況図



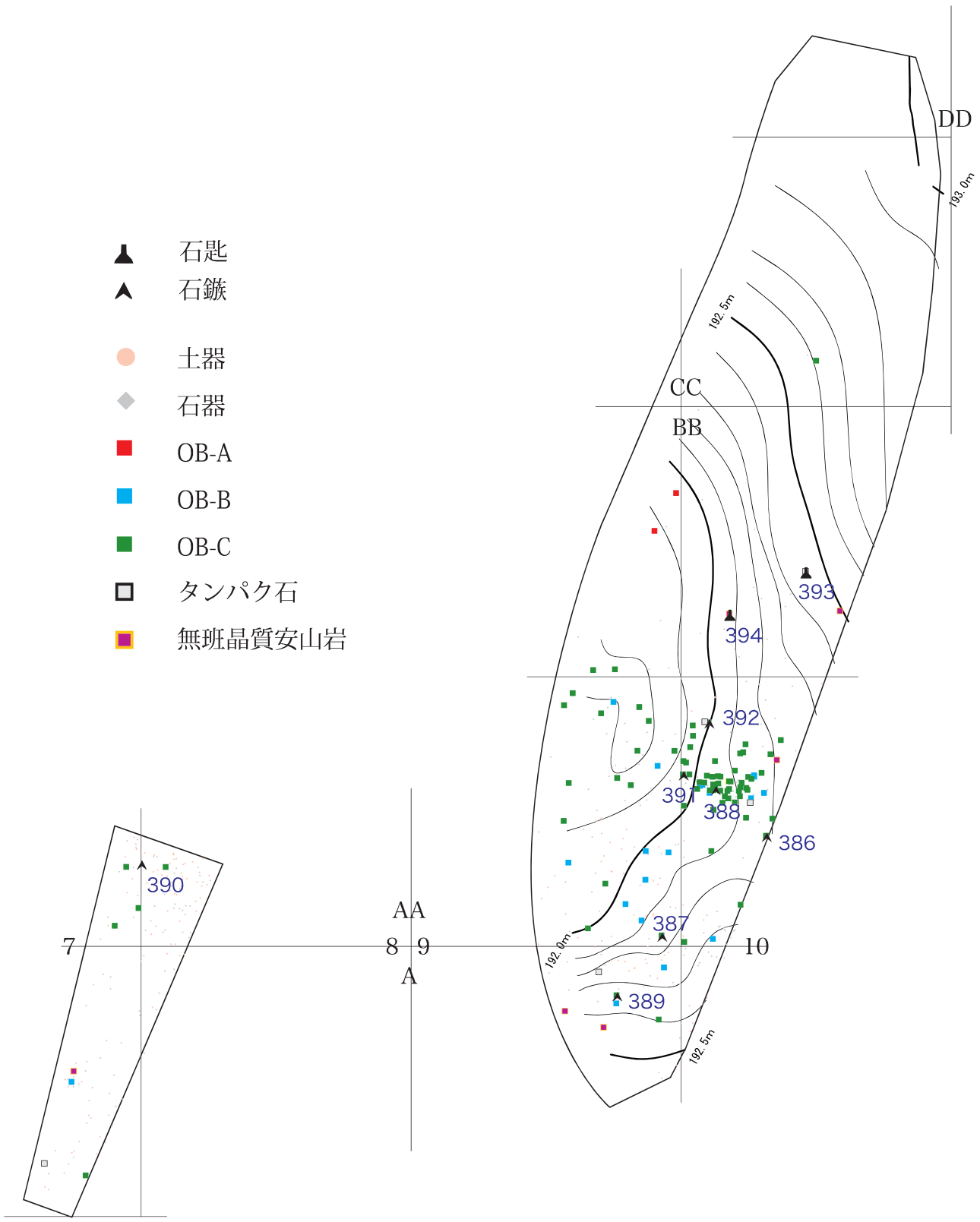
第264図　Ⅵ・Ⅶ地区Ⅳ層実測石器出土状況図



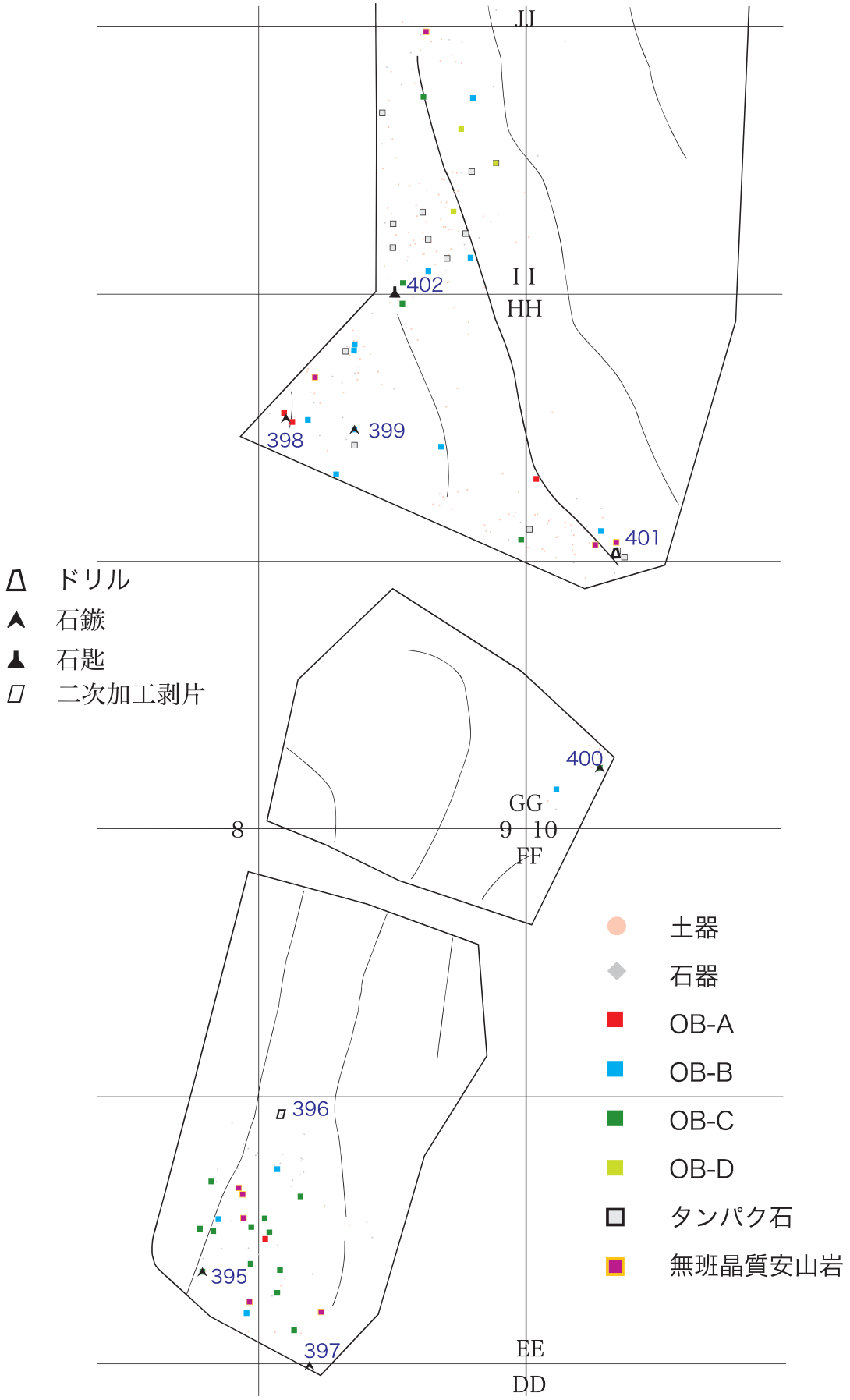
第265図　Ⅸ～XI 地区Ⅳ層実測石器出土状況図



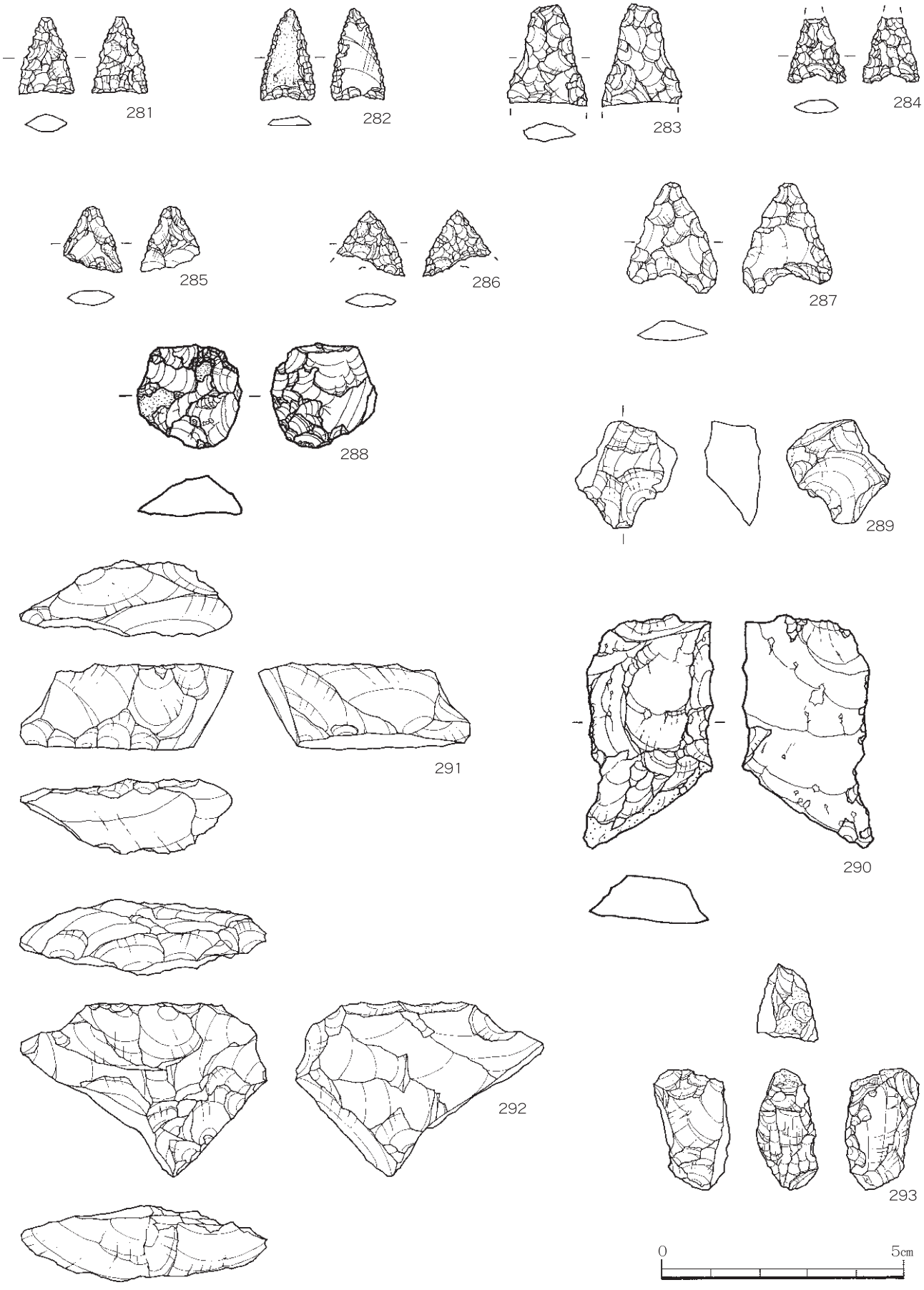
第266図　Ⅲ地区Ⅲ層石器出土状況図



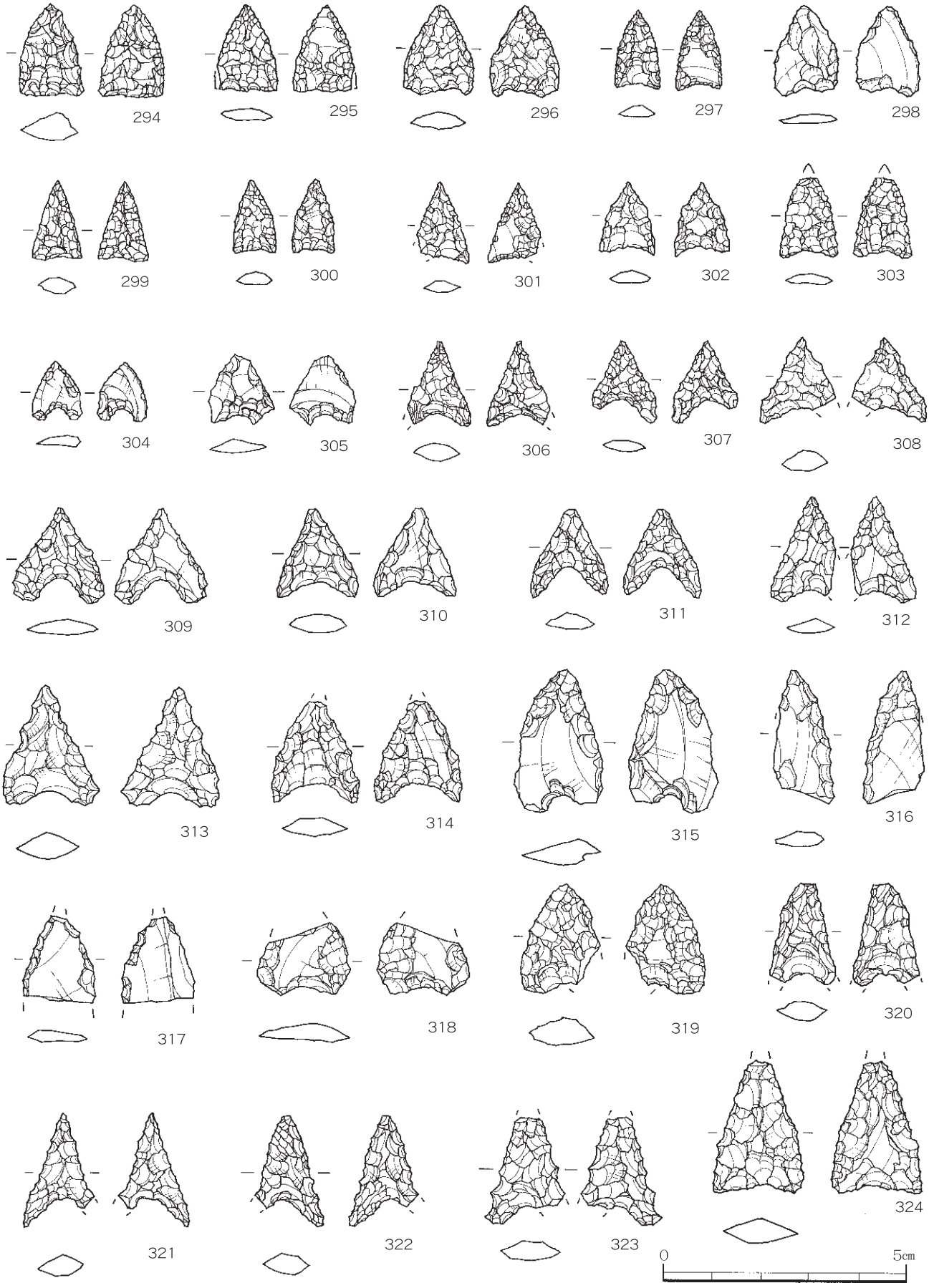
第267図　Ⅵ・Ⅶ地区Ⅲ層石器出土状況図



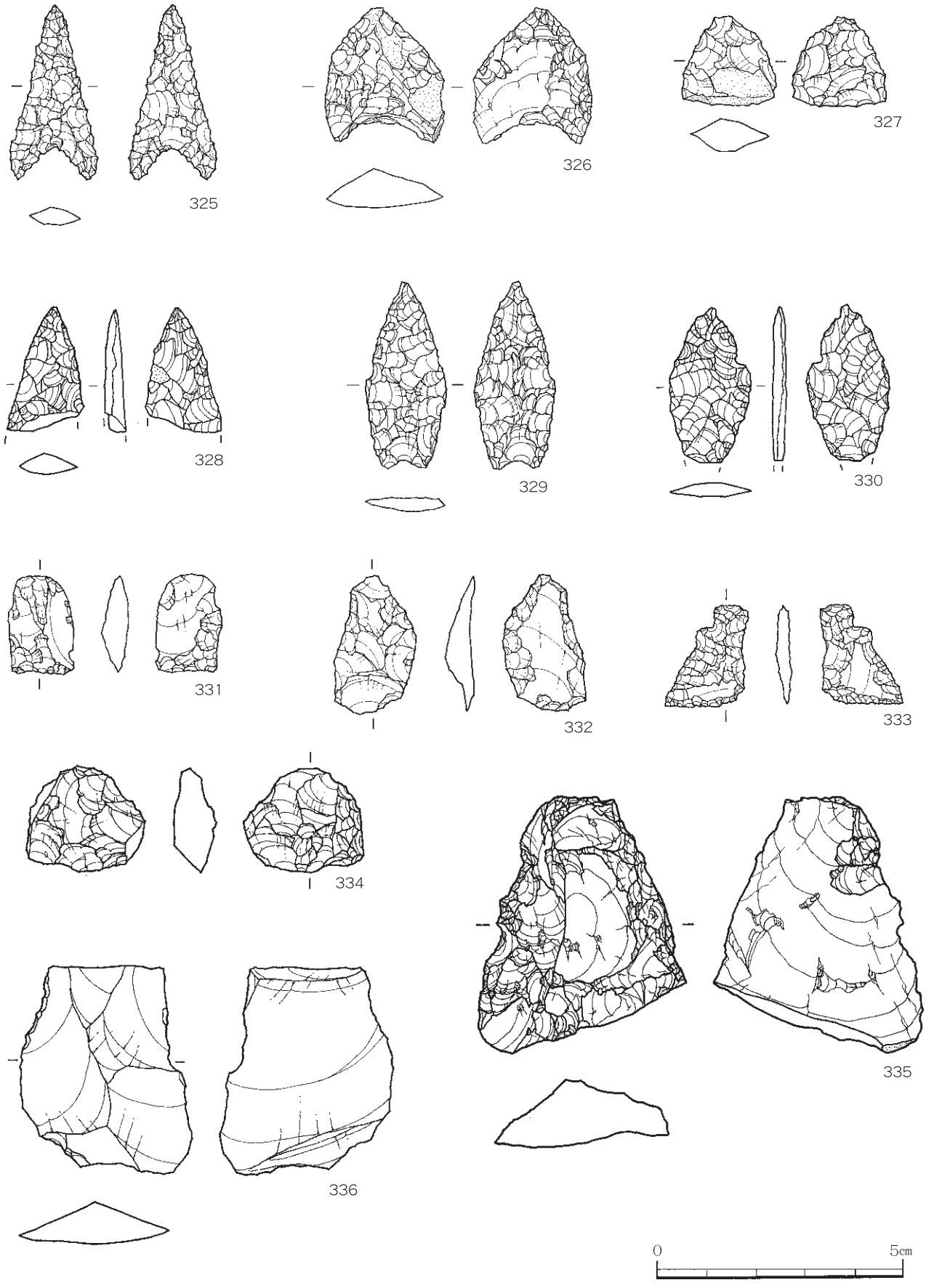
第268図　Ⅸ～XI 地区Ⅲ層石器出土状況図



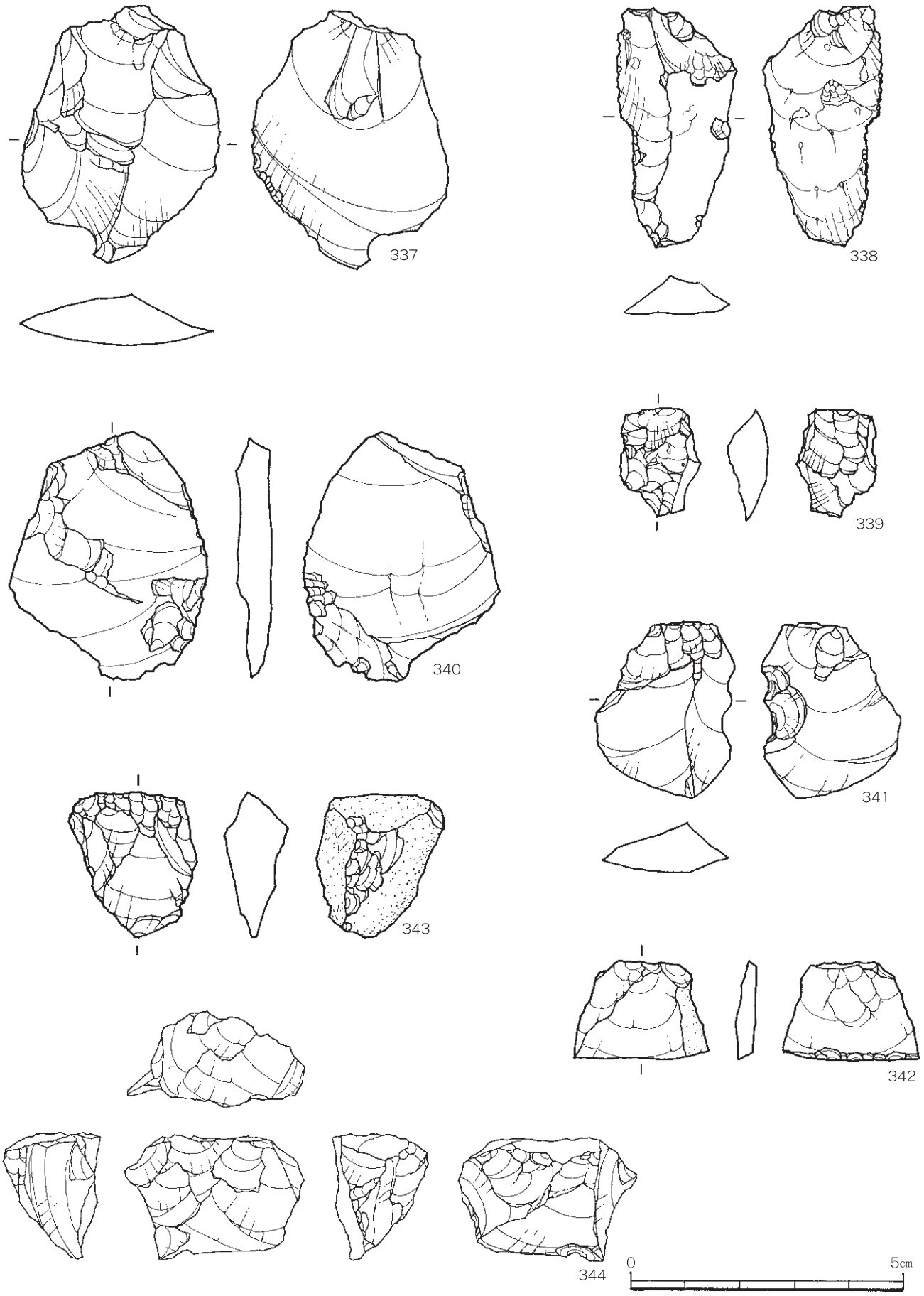
第269図　Ⅲ地区Ⅴ層出土石器



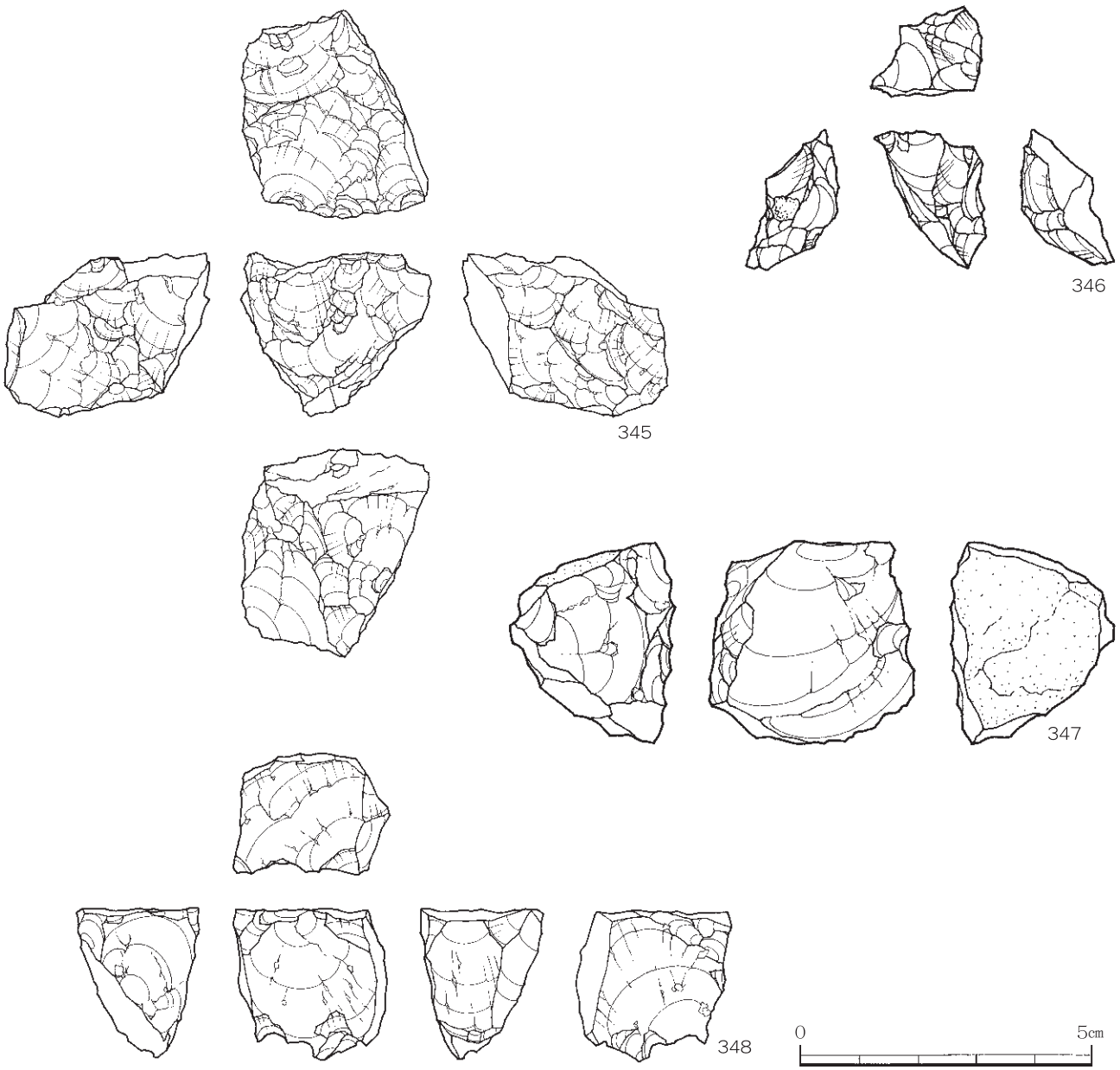
第270図　Ⅲ地区Ⅳ層出土石器（1）



第271図　Ⅲ地区Ⅳ層出土石器（２）



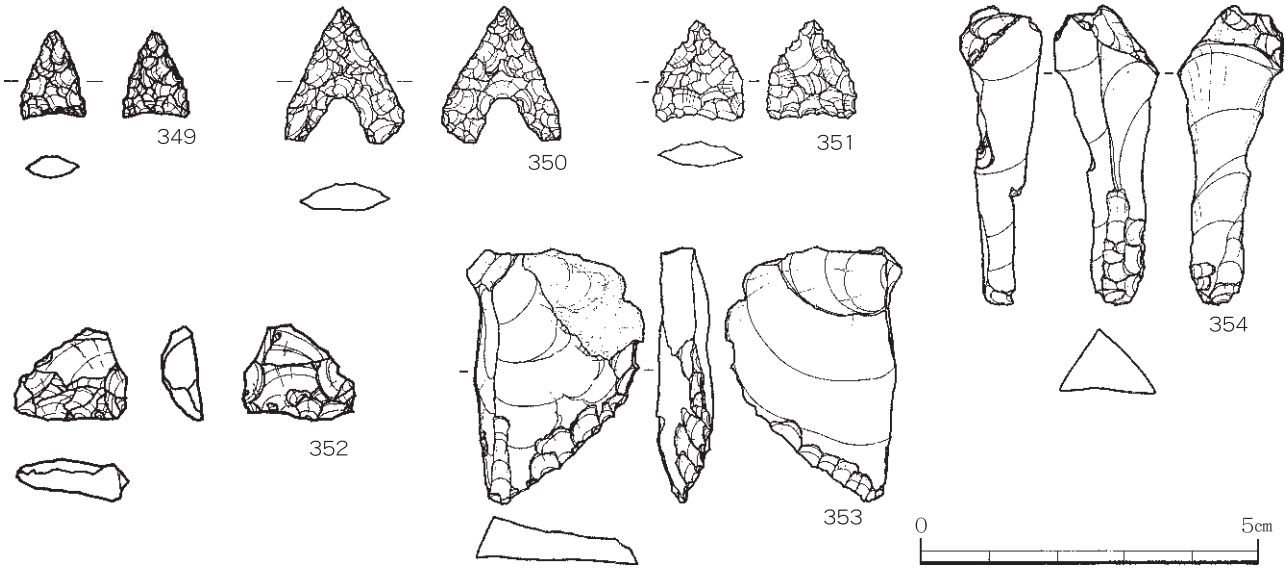
第272図　Ⅲ地区Ⅳ層出土石器（３）



第273図　Ⅲ地区Ⅳ層出土石器（４）

表94　実測石器観察表（１）

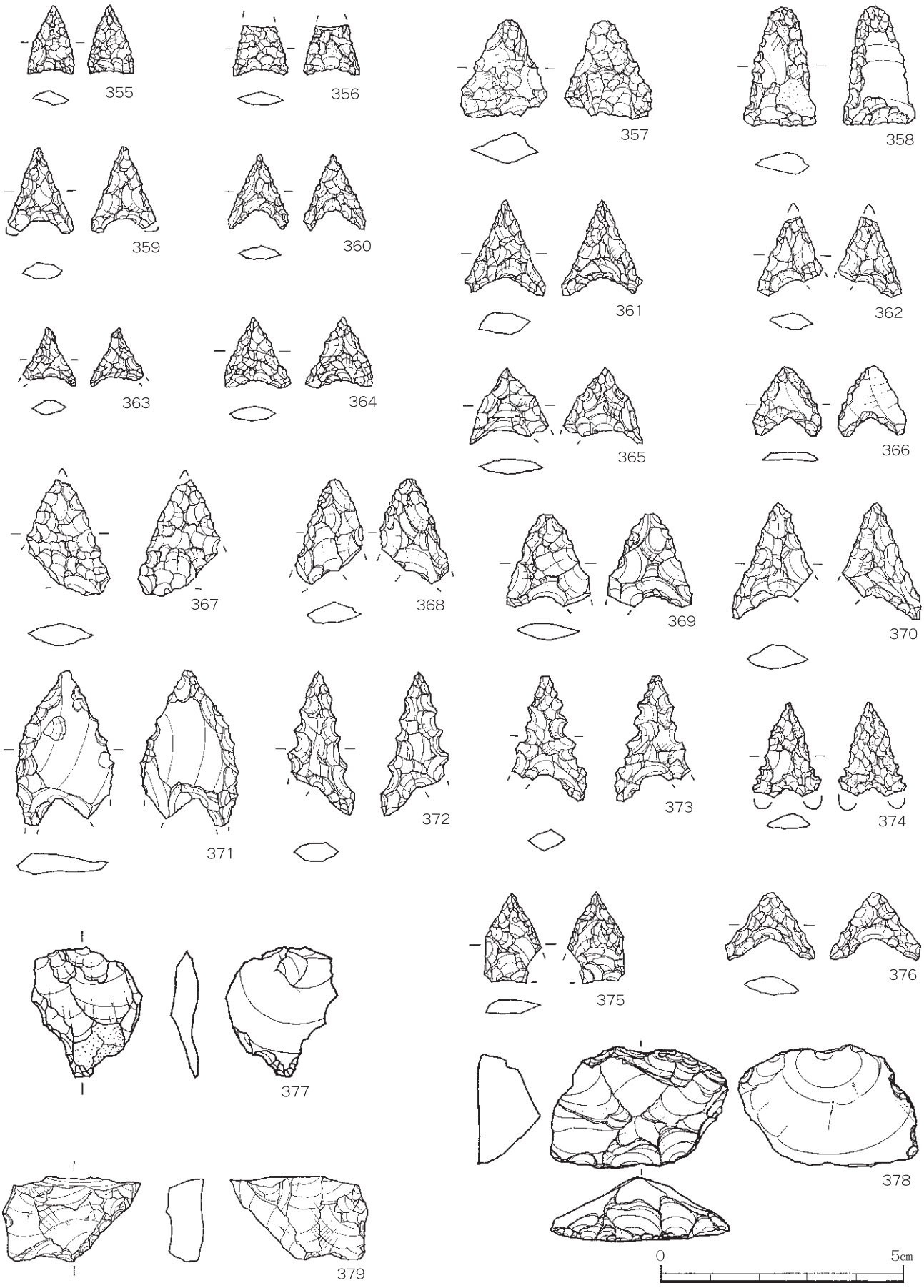
報告No.	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	備考
281	石鏃	106061	Ⅲ区	K-6	V	OB-D	46.424	52.979	195.244	1.40	1.10	0.2	0.32	
282	石鏃	106973	Ⅲ区	L-6	V	OB-D	38.911	53.242	195.304	1.70	1.00	0.2	0.22	
283	石鏃	107290	Ⅲ区	L-6	V	珪質頁岩	37.514	54.516	195.23	1.90	1.45	0.3	0.83	
284	石鏃	108253	Ⅲ区	L-6	V	OB-B	35.22	52.069	195.488	1.20	1.05	0.25	0.28	
285	石鏃	106461	Ⅲ区	K-6	V		45.622	53.024	195.241	1.25	1.10	0.3	0.29	
286	石鏃	108333	Ⅲ区	J-6	V	OB-D	56.32	56.141	194.935	1.10	1.30	0.25	0.21	
287	石鏃	106394	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	頁岩	54.269	58.489	194.845	2.05	1.65	0.35	0.90	
288	削器	106484	Ⅲ区	K-6	V		43.568	52.792	195.262	1.90	1.90	0.7	2.54	
289	石錐	108159	Ⅲ区	M-7	V	凝灰岩	28.655	62.771	195.116	1.95	1.90	1.1	2.71	
290	縦長剥片	108032	Ⅲ区	M-7	V	OB-B	28.654	62.729	195.154	4.30	2.40	0.9	9.26	微細剥離痕剥片
291	石核	106052	Ⅲ区	K-6	V	鉄石英	45.827	54.521	195.177	3.10	3.20	2.5	8.64	
292	石核	102136	Ⅲ区	M-6	V	タンパク石	26.328	58.505	195.975	3.20	4.60	1.3	14.88	
293	細石刃核	107867	Ⅲ区	K-6	V	OB-A	47.629	50.396	195.409	2.20	1.15	1.3	3.65	



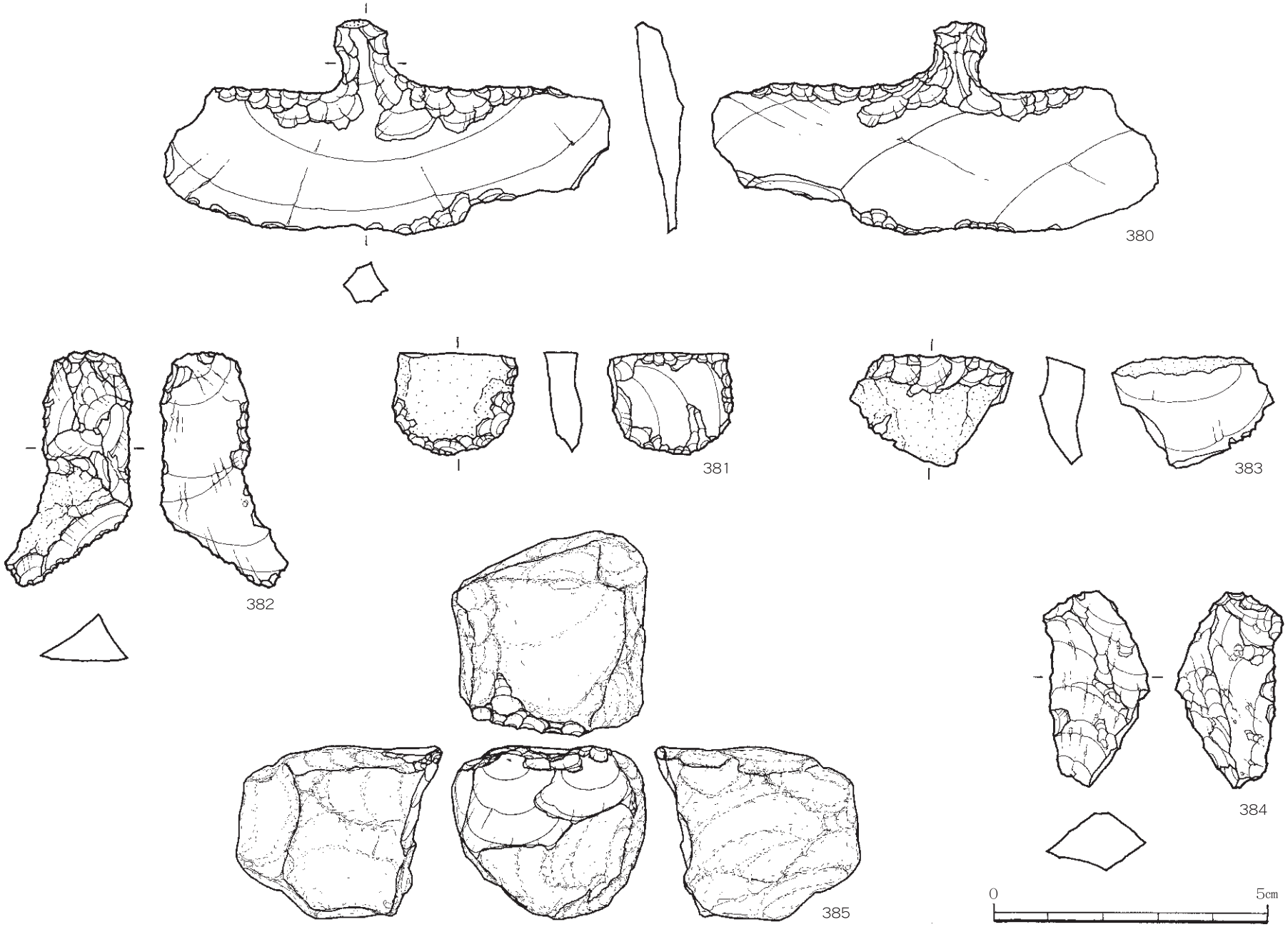
第274図　Ⅶ・XI 地区Ⅳ層出土石器

表95　実測石器観察表（２）

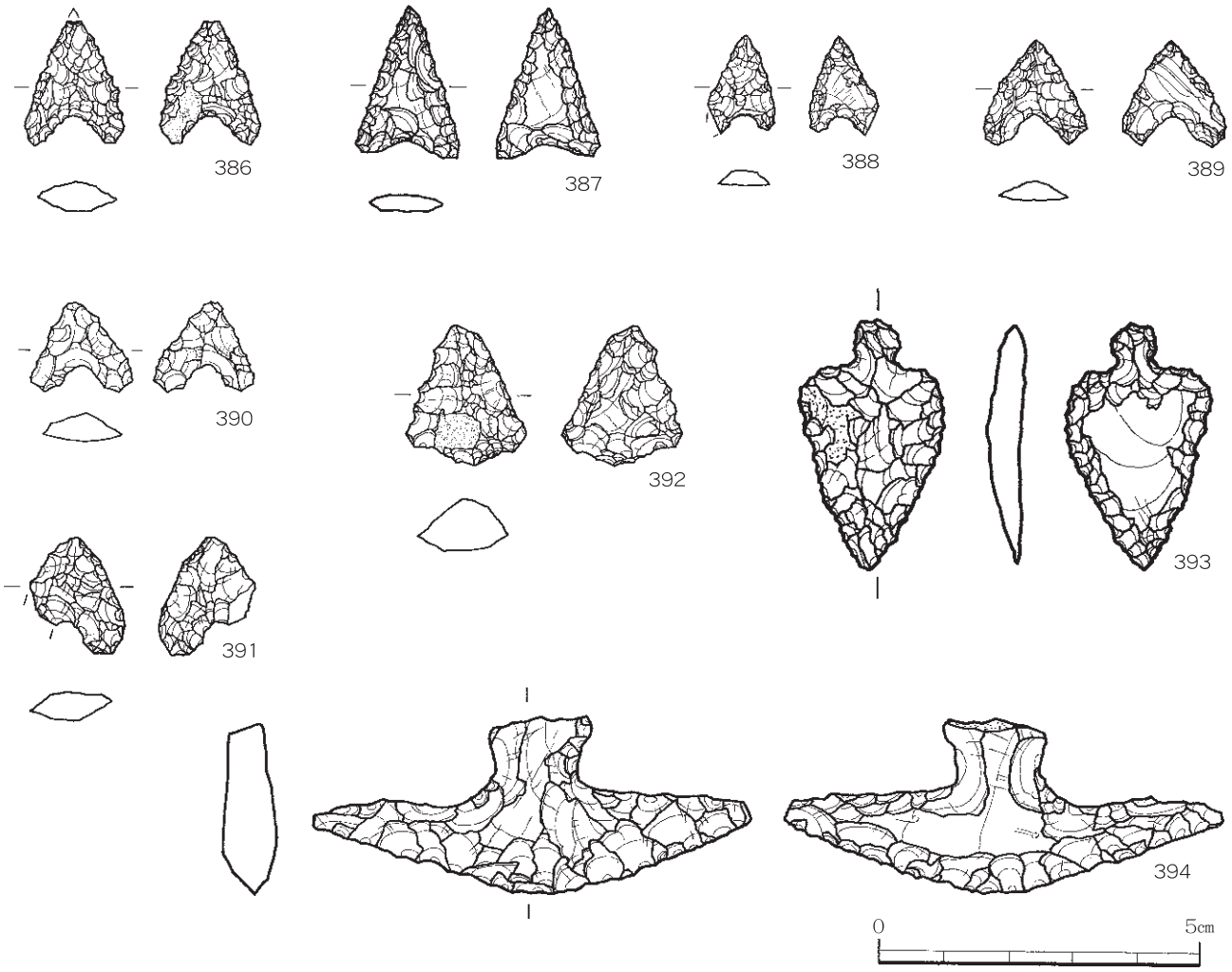
報告No.	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	備考
294	石鏃	101925	Ⅲ区	L-7	Ⅳ		35.217	60.884	195.335	1.7	1.2	0.5	0.72	
295	石鏃	106968	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	OB-D	31.785	57.504	195.572	1.6	1.2	0.2	0.4	
296	石鏃	106988	Ⅲ区	L-6	Ⅳ横転	OB-B	37.835	57.685	195.038	1.65	1.3	0.4	0.58	
297	石鏃	103668	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	OB-B	37.975	56.43	195.48	1.45	0.85	0.2	0.21	
298	石鏃	102372	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	43.345	59.286	195.085	1.65	1.2	0.2	0.43	
299	石鏃	104605	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-B	51.109	57.796	195.079	1.45	0.9	0.3	0.27	
300	石鏃	104653	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-B	55.155	57.383	195.068	1.35	0.8	0.2	0.23	
301	石鏃	105755	Ⅲ区	J-6	Ⅳ		55.821	54.85	195.115	1.5	1	0.2	0.26	
302	石鏃	103773	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-B	48.87	53.559	195.383	1.3	1.05	0.2	0.23	
303	石鏃	102513	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-B	50.767	58.644	195.064	1.45	1.05	0.2	0.32	
304	石鏃	105634	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-C	41.586	56.351	195.285	1.05	0.9	0.2	0.12	
305	石鏃	104050	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-C	45.332	57.782	195.135	1.25	1.2	0.25	0.28	
306	石鏃	107931	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-A	49.225	58.769	194.687	1.55	1.15	0.3	0.37	
307	石鏃	101614	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-E	45.238	52.606	195.599	1.5	1.2	0.2	0.22	
308	石鏃	102120	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	OB-A	29.702	61.792	195.59	1.55	1.4	0.4	0.56	
309	石鏃	101868	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	54.801	57.751	195.258	1.7	1.7	0.3	0.52	
310	石鏃	101845	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	安山岩	49.006	59.087	195.191	1.6	1.5	0.3	0.6	
311	石鏃	102073	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	無斑晶質安山岩	27.073	63.182	195.704	1.6	1.4	0.3	0.39	
312	石鏃	101747	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	55.529	55.62	195.273	1.9	1.2	0.3	0.52	
313	石鏃	102012	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	36.567	57.341	195.524	2.2	1.8	0.45	1.22	
314	石鏃	102785	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	39.184	55.557	195.52	1.8	1.6	0.35	0.74	
315	石鏃	103051	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	48.64	53.991	195.378	2.6	1.65	0.5	1.58	
316	石鏃	101850	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	50.778	58.483	195.166	2.45	1.1	0.3	0.73	
317	石鏃	101727	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	54.904	53.666	195.485	1.6	1.35	0.2	0.61	
318	石鏃	102058	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	OB-C	26.622	61.065	195.858	1.35	1.7	0.3	0.75	
319	石鏃	105265	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-B	52.573	54.275	195.476	2	1.45	0.5	1.21	
320	石鏃	105869	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	43.845	59.267	195.016	1.85	1.25	0.35	0.75	
321	石鏃	102493	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	49.81	57.732	195.114	2.1	1.3	0.35	0.47	
322	石鏃	102512	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	50.535	58.611	195.069	2.05	1.25	0.4	0.63	
323	石鏃	108050	Ⅲ区	L-7	Ⅳ	ハリ質安山岩	30.46	61.98	195.168	1.95	1.5	0.35	0.81	
324	石鏃	102875	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	無斑晶質安山岩	28.34	62.627	195.626	2.4	1.7	0.45	1.44	
325	石鏃	105136	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-C	51.411	56.499	195.144	3.2	1.6	0.3	1.19	
326	石鏃	107331	Ⅲ区	L-6	Ⅳ横転	OB-B	38.112	57.761	194.955	2.4	2.2	0.7	2.99	
327	石鏃	102314	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	ハリ質安山岩	48.288	55.188	195.272	1.6	1.7	0.55	1.65	
328	石鏃	104217	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	タンパク石	34.17	59.241	195.417	2.24	1.38	0.4	1	
329	石鏃	106113	Ⅲ区	L-7	Ⅳ横転	チャート	32.056	61.864	195.257	3.35	1.5	0.3	1.43	
330	石鏃	105324	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	チャート	46.466	54.704	195.472	2.82	1.46	0.27	1.4	



第275図　Ⅲ地区Ⅲ層出土石器（1）



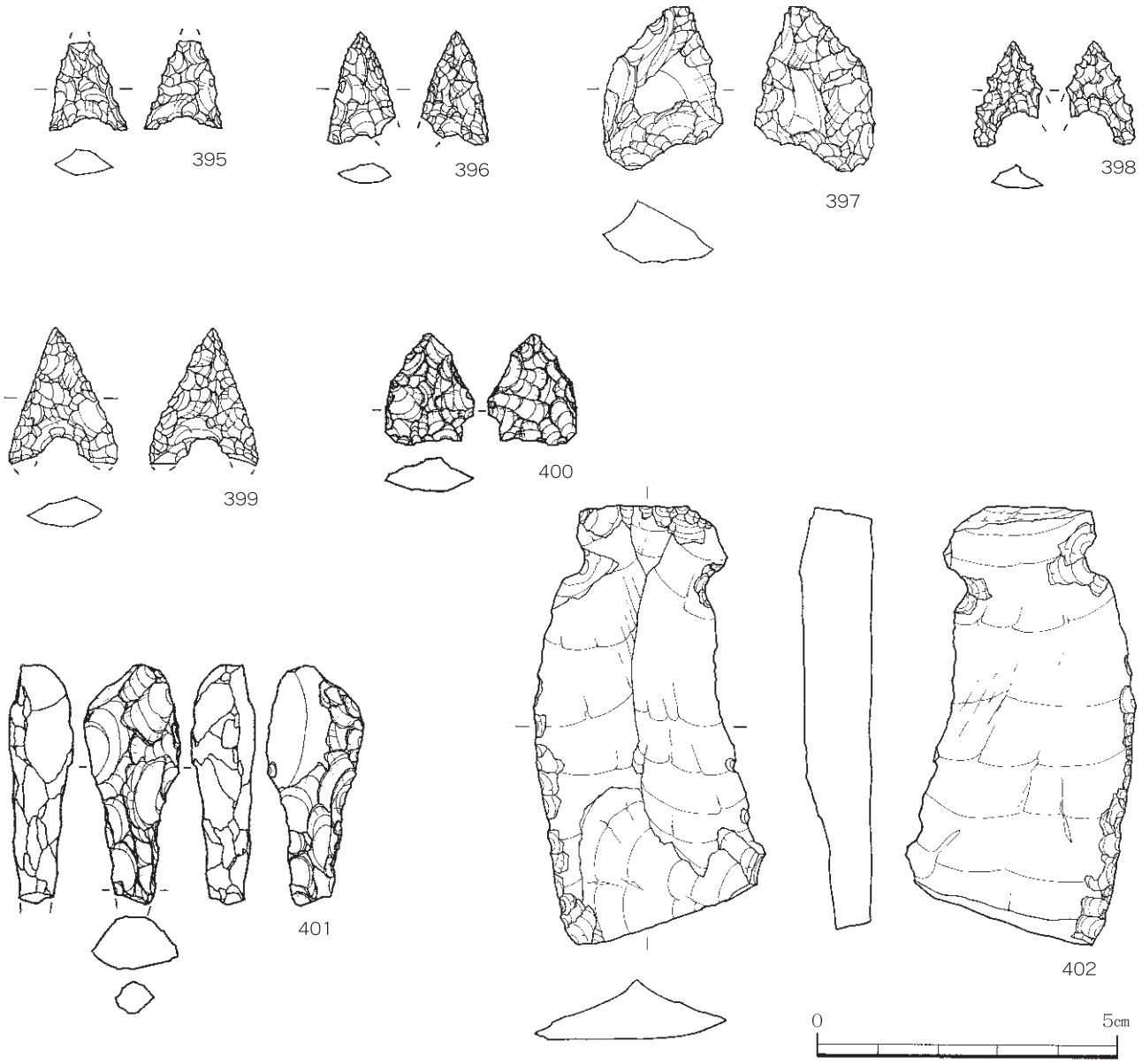
第276図　Ⅲ地区Ⅲ層出土石器（2）



第277図　Ⅵ・Ⅶ地区Ⅲ層出土石器

表96　縄文石器観察表（3）

報告No.	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
331	特殊石器	107809	Ⅲ区	K-6	Ⅳ横転	OB-B	41.864	52.521	195.273	1.8	1.15	0.5	0.96	
332	特殊石器	105778	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	無斑晶質安山岩	37.987	55.586	195.303	2.5	1.3	0.5	1.71	
333	特殊石器	105359	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-B	41.393	52.821	195.684	1.85	1.5	0.3	0.58	
334	二次加工剥片	106352	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-B	47.441	58.744	194.94	1.9	2.15	0.8	3.45	石鏃未成品
335	使用痕剥片	107399	Ⅲ区	L-6	Ⅳ		39.847	56.809	195.248	4.65	4.08	1.51	20.25	二次加工剥片
336	使用痕剥片	107753	Ⅲ区	L-6	Ⅳ横転	硬砂岩	38.644	55.774	194.973	3.75	3.15	0.8	8.99	
337	使用痕剥片	102863	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	硬質頁岩	27.373	63.013	195.613	4.8	3.7	0.9	15.61	微細剥離痕剥片
338	使用痕剥片	104764	Ⅲ区	M-7	Ⅳ	OB-B	29.048	62.896	195.487	4.4	2.2	0.8	6.24	微細剥離痕剥片
339	使用痕剥片	106659	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	OB-B	34.818	53.429	195.616	2	1.5	0.75	2.31	
340	使用痕剥片	103161	Ⅲ区	J-6	Ⅳ	OB-A	52.888	53.164	195.495	4.65	3.65	0.7	11.81	二次加工剥片
341	使用痕剥片	107524	Ⅲ区	L-6	Ⅳ		36.63	54.394	195.549	3.25	2.6	0.9	6.82	
342	掻器	106136	Ⅲ区	L-7	Ⅳ		39.198	60.324	195.398	1.8	2.5	0.4	2.31	二次加工剥片
343	楔形石器	105513	Ⅲ区	L-7	Ⅳ	OB-B	32.298	60.09	195.416	2.7	2.3	1.2	5.46	二次加工剥片
344	石核	105830	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	タンパク石	37.425	52.802	195.59	2.3	3.3	1.8	11.75	
345	石核	102328	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-B	49.949	53.604	195.459	2.1	1.7	1.4	11.75	
346	石核	105642	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-B	41.798	55.304	195.3	2.5	2.9	3.15	18.98	
347	石核	106961	Ⅲ区	L-6	Ⅳ	OB-B	33.384	57.737	195.507	3.1	3.2	2.5	27.15	剥片
348	石核	101656	Ⅲ区	K-6	Ⅳ	OB-B	49.429	54.743	195.438	2.3	2.4	1.9	10.73	
349	石鏃	500702	Ⅶ区	X-35	Ⅳ	OB-B	169.182	91.523	193.383	1.15	0.9	0.3	0.21	
350	石鏃	500731	Ⅶ区	Z-35	Ⅳ	OB-A	159.409	86.582	192.411	1.8	1.55	0.4	0.57	
351	石鏃	116227	?区	C-10	Ⅳ	タンパク石	226.868	84.432	193.813	1.3	1.2	0.3	0.38	
352	掻器	500707	Ⅶ区	Y-36	Ⅳ		160.131	87.621	192.651	1.2	1.5	0.6	0.79	スクレイパー
353	掻器	116072	?区	C-11	Ⅳ		236.166	88.433	194.004	3.4	2.35	0.75	5.44	スクレイパー
354	調整剥片	500711	Ⅶ区	Z-36	Ⅳ		153.393	87.907	192.702	3.95	1.4	1.1	2.81	



第278図　X・XI 地区Ⅲ層出土石器

表97　実測石器観察表（4）

報告No.	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	備考
355	石鏃	100529	Ⅲ区	M-7	Ⅲa	OB-B	29.338	60.931	195.725	1.25	0.85	0.2	0.2	
356	石鏃	100826	Ⅲ区	J-6	Ⅲ	OB-B	51.876	51.823	195.637	0.9	1	0.25	0.21	
357	石鏃	100167	Ⅲ区	L-7	Ⅲa	OB-B	34.139	60.843	195.522	1.8	1.6	0.55	1.29	
358	石鏃	100276	Ⅲ区	L-6	Ⅲa	OB-E	37.654	55.244	195.702	2.2	1.3	0.4	0.81	
359	石鏃	100663	Ⅲ区	J-6	Ⅲ	無斑晶質安山岩	51.355	58.527	195.361	1.6	1.2	0.3	0.35	
360	石鏃	101186	Ⅲ区	K-6	Ⅲ	OB-C	46.969	59.027	195.2	1.4	1.1	0.25	0.22	
361	石鏃	100328	Ⅲ区	K-6	Ⅲa	OB-A	42.04	53.684	195.738	1.8	1.5	0.35	0.65	
362	石鏃	101032	Ⅲ区	K-6	Ⅲ	無斑晶質安山岩	48.382	52.625	195.637	1.45	1.2	0.3	0.33	
363	石鏃	100247	Ⅲ区	L-6	Ⅲa	チャート	37.651	53.713	195.703	1.1	0.95	0.2	0.14	
364	石鏃	100442	Ⅲ区	L-6	Ⅲa	OB-E	37.182	56.557	195.661	1.3	1.2	0.2	0.34	
365	石鏃	100353	Ⅲ区	K-6	Ⅲa	チャート	43.975	52.155	195.68	1.4	1.5	0.25	0.34	
366	石鏃	101302	Ⅲ区	J-6	Ⅲ	無斑晶質安山岩	53.929	56.689	195.297	1.3	1.3	0.2	0.25	
367	石鏃	100125	Ⅲ区	L-7	Ⅲa	OB-A	32.578	62.155	195.597	2.15	1.5	0.4	0.97	
368	石鏃	100143	Ⅲ区	L-6	Ⅲa	無斑晶質安山岩	32.356	59.876	195.727	1.95	1.25	0.4	0.75	
369	石鏃	100044	Ⅲ区	M-7	Ⅲa	OB-C	28.593	61.943	195.772	1.7	1.6	0.3	0.64	

表98　実測石器観察表（５）

報告No.	器種	取上番号	調査区	出土区	出土層	石材	y	x	z	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	備考
370	石鏃	100428	Ⅲ区	K-6	Ⅲa	ハリ質安山岩	46.561	53.438	195.674	2.15	1.5	0.4	0.82	
371	石鏃	100833	Ⅲ区	J-6	Ⅲ	無斑晶質安山岩	52.314	52.618	195.661	2.85	1.8	0.4	1.79	
372	石鏃	100052	Ⅲ区	M-7	Ⅲa	安山岩	29.951	63.103	195.687	2.6	1.3	0.35	0.57	
373	石鏃	100207	Ⅲ区	L-6	Ⅲa	OB-C	35.503	55.316	195.717	2.3	1.4	0.3	0.74	
374	石鏃	100473	Ⅲ区	L-6	Ⅲa	OB-C	34.265	57.626	195.668	1.75	1.3	0.3	0.41	
375	石鏃	106585	Ⅲ区	L-6	Ⅳ横転	OB-A	39.723	57.128	195.187	1.65	1.05	0.25	0.43	
376	石鏃	100001	Ⅲ区	M-7	Ⅲa	無斑晶質安山岩	27.047	64.327	195.867	1.25	1.7	0.35	0.39	
377	石錐	100043	Ⅲ区	M-7	Ⅲa	OB-A	28.031	62.22	195.762	2.4	2.05	0.5	2.06	二次加工剝片
378	スクレイパー	100436	Ⅲ区	L-6	Ⅲa		36.566	57.893	195.589	2.3	3.3	1.25	6.95	
379	削器	100721	Ⅲ区	K-6	Ⅲ	OB-B	41.042	55.553	195.572	1.55	2.35	0.8	2.54	二次加工剝片
380	石匙	100110	Ⅲ区	L-7	Ⅲa	無斑晶質安山岩	30.052	61.61	195.727	4	8.25	0.9	16.18	
381	使用痕剝片	100408	Ⅲ区	K-6	Ⅲa	OB-A	44.46	56.257	195.146	1.9	2.3	0.7	3.22	二次加工剝片
382	使用痕剝片	105617	Ⅲ区	K-6	Ⅲ横転	OB-A	41.499	52.141	195.446	4.4	2.4	0.85	5.88	微細剝離痕剝片
383	使用痕剝片	101318	Ⅲ区	J-6	Ⅲ	頁岩	54.847	57.185	195.35	2.1	3	0.85	4.12	
384	使用痕剝片	100267	Ⅲ区	L-6	Ⅲa	OB-B	38.344	55.93	195.652	3.6	1.95	1.1	5.37	
385	石核	100884	Ⅲ区	L-6	Ⅲ	OB-C	38.325	58.792	195.406	3.2	3.6	3.8	50.81	
386	石鏃	500062	Ⅶ区	Z-36	Ⅲ	OB-C	154.073	93.174	193.16	1.7	1.35	0.4	0.58	
387	石鏃	500070	Ⅶ区	Z-36	Ⅲ	OB-A	150.377	89.305	193.14	2.1	1.4	0.25	0.42	
388	石鏃	500513	Ⅶ区	Y-36	Ⅲ	頁岩	155.805	91.286	193.057	1.35	0.95	0.2	0.17	
389	石鏃	500419	Ⅶ区	Z-36	Ⅲ	硬質頁岩	148.165	87.641	193.076	1.45	1.45	0.25	0.32	
390	石鏃	108505	Ⅵ区	C-3	Ⅲ	鉄石英	153.043	70.028	192.614	1.2	1.45	0.3	0.38	
391	石鏃	500516	Ⅶ区	Y-36	Ⅲ	OB-A	156.347	90.1	192.994	1.6	1.35	0.4	0.57	
392	石鏃	500042	Ⅶ区	Y-36	Ⅲ	頁岩	158.275	91.05	193.32	1.95	1.65	0.7	1.59	
393	石匙	500034	Ⅶ区	Y-36	Ⅲ	頁岩	163.867	94.639	193.46	3.45	2.05	0.6	3.06	
394	石匙	500037	Ⅶ区	Y-36	Ⅲ	頁岩	162.294	91.817	193.32	2.45	6.05	0.75	5.7	
395	石鏃	105068	Ⅸ区	C-7	Ⅲ	OB-C	193.442	77.893	193.546	1.3	1.15	0.35	0.42	
396	石鏃	105064	Ⅸ区	C-7	Ⅲ		199.334	80.836	193.531	2.4	1.8	0.9	2.88	二次加工剝片
397	石鏃	105069	Ⅸ区	C-7	Ⅳ		189.934	81.899	193.638	1.6	1	0.35	0.39	
398	石鏃	116121	?区	D-10	Ⅲa	OB-E	225.35	81.017	193.98	1.5	1.05	0.35	0.25	
399	石鏃	116283	?区	C-10	Ⅲa	OB-B	224.931	83.58	193.751	2	1.7	0.4	0.84	
400	石鏃	117397	X区	B-9	Ⅲa	OB-C	212.278	92.757	193.691	1.7	1.3	0.5	0.86	
401	石錐	116323	?区	B-10	Ⅲa		220.318	93.353	193.965	3.6	1.45	0.95	3.99	二次加工剝片
402	石匙	116004	?区	－	Ⅲa	ハリ質安山岩	230.07	85.102	194.07	6.55	3.5	1.1	20.46	

第５章　Ⅱ層の調査

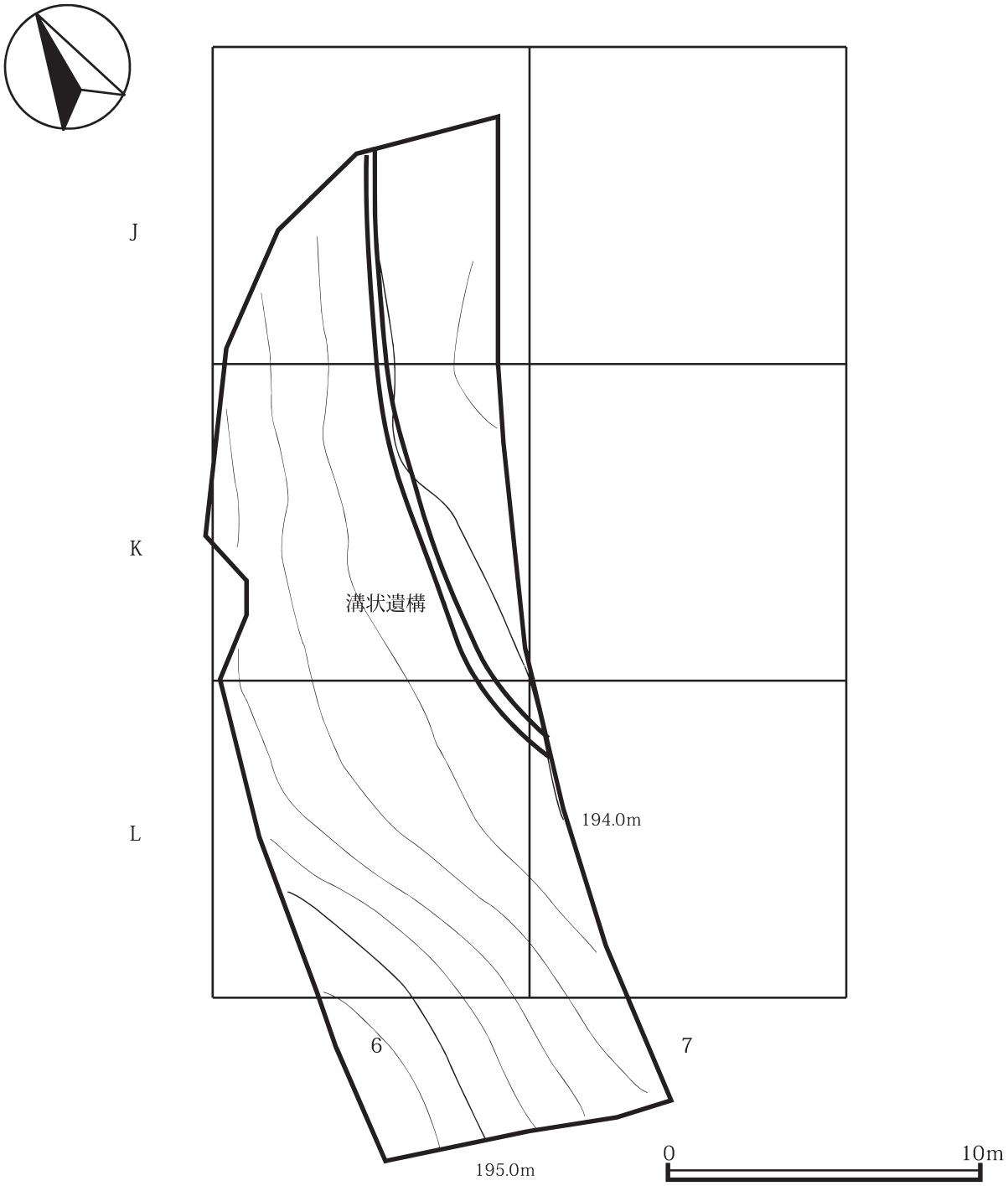
第１節　概要

南側は，II層より上はほとんど削平を受けている。III層面でII層を埋土とする溝状遺構を１条検出した。

第２節　遺構（南側）

１号溝状遺構

１号溝状遺構は，Ｊ～Ｌ－６・７区のIII層で検出された。幅は40～50㎝で，埋土は，II層の黒色土である。ほぼ南北に走り，両端は調査区外へ伸びている。



第279図　Ⅱ層溝状遺構

Ⅷ　御仮屋跡遺跡の調査

第１章　概要

御仮屋跡遺跡は近世の御仮屋が所在した場所で，その最頂部に山神の祠があり，その周辺は雑木林となっていた。祠周辺を中心に遺跡北側800㎡と南側1,000㎡の合計約1,800㎡を対象として全面調査を実施した。重機で表土を除去し，それ以下の各文化層の確認を実施したが撹乱箇所が著しく，Ⅵ層薩摩火山灰までを重機により除去することとし，Ⅶ層以下の旧石器時代の調査に当たることとした。

Ⅶ層では細石刃文化期の遺物が出土し，北区Ⅷ層からはナイフ形石器文化期の石器群，南区Ⅷ層からは５基の礫群とナイフ形石器文化期の石器群が出土した。また，南側の調査区の北東から南西にかけて，Ⅷ層下に土石流の痕跡が認められ，その下層に大隅降下軽石層が良好に残存していた。これらを重機で除去した後，人力で掘り下げたところＡＴ火山灰下位からナイフ形石器を含む石器群が出土している。

第２章　遺構（礫群）

第１節　概要

南区のⅧ層から５基の礫群を検出した。判定については掘り込み遺構の有無に関わらず，礫の集合が認識できたものを１礫群と認定した。なお，礫群の形態については仁田尾遺跡の類型化にならっている。類型化については以下の通りである。

Ⅰ類礫群　人為的掘り込み遺構を伴う礫群で，礫の詰まり方でさらにＡ，Ｂ，Ｃに細分した。
ⅠＡ類　掘り込み遺構を伴い，礫がしっかり詰まっている。
ⅠＢ類　掘り込み遺構を伴い，礫が少ない。
ⅠＣ類　掘り込み遺構を伴い，礫は０～数個。
Ⅱ類礫群　掘り込み遺構を検出できないが，礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。
Ⅲ類礫群　礫の集中もない礫群で，礫の密粗でさらにＡ，Ｂに細分した。
ⅢＡ類　礫の中心が想定できる。
ⅢＢ類　散礫状態。

第２節　礫群

１号礫群（第281図）

Ｕ－59区で検出した礫群で掘り込み遺構はなし。134㎝×106㎝の範囲に89個の礫を確認した。被熱している礫は全体の45パーセント前後である。礫群を取り巻くように炭化物の広がりが見られ，礫の集中が見られる２ヶ所は特に炭化物の汚染が強い。（Ⅱ類）

２号礫群（第281図）

Ｕ－59区で検出した礫群で掘り込み遺構はなし。173㎝×66㎝の範囲に37個の礫を確認した。被熱している礫は全体の86パーセント前後でやや高い。礫群を取り巻くように炭化物の広がりが見られる。（ⅢＡ類）

３号礫群（第282図）

Ｕ－59区の２号礫群に隣接してで検出した礫群で掘り込み遺構はなし。61㎝×56㎝の範囲に17個の礫を確認した。被熱している礫は全体の88パーセントとかなり高い。礫の集中部と大礫の周囲２ヶ所に炭化物の広がりが見られる。礫の重なりよりもしみ込みが広く観察され，炭化物も多いことから２号礫群の本体の可能性も考えられる。（ＩＢ類）

４号礫群（第282図）

Ｕ－59区で検出した礫群で１号礫群と２号・３号礫群のほぼ中間に位置する。掘り込み遺構はなし。58㎝×34㎝の範囲に６個の礫を確認した。被熱している礫は２個でいずれも凝灰岩である。礫群の規模から見ると炭化物の範囲が広く感じる。（ⅢＡ類）

５号礫群（第282図）

Ｕ－59区で検出した礫群で２号礫群に隣接する。掘り込み遺構はなし。34㎝×28㎝の範囲に６個の礫を確認した。礫はすべて被熱している。東西方向に炭化物の範囲が広がる。（ⅢＡ類）

第３章　遺物

第１節　北区の調査

１　石器群の概要

北区は南側に向かって傾斜がきつく，層堆積状況が悪いため，Ⅶ層，Ⅷ層に細石器やナイフ形石器文化期の遺物が混在している状況である。そのため，各層への石器の帰属の認定が困難であり，Ⅶ層，Ⅷ層一緒に取り扱い，遺物の分類を通して時期設定を行うという作業となる。

２　Ⅷ層～Ⅶ層の遺物

ナイフ形石器文化期の遺物

１はOB-A製の三稜尖頭器である。横剥ぎの剥片を素材とし，周縁に粗めの二次加工を施している。軽い稜上調整がみられる。３はOB-A製の切り出し状のナイフ形石器である。先端部と基部が欠損している。４は瑪瑙製のナイフ形石器である。横長剥片を素材とし，刃部は礫皮面を取り込む形で設定されており，先端部は欠損している。５はOB-E製のナイフ形石器である。厚手

第280図　調査区と周辺地形図

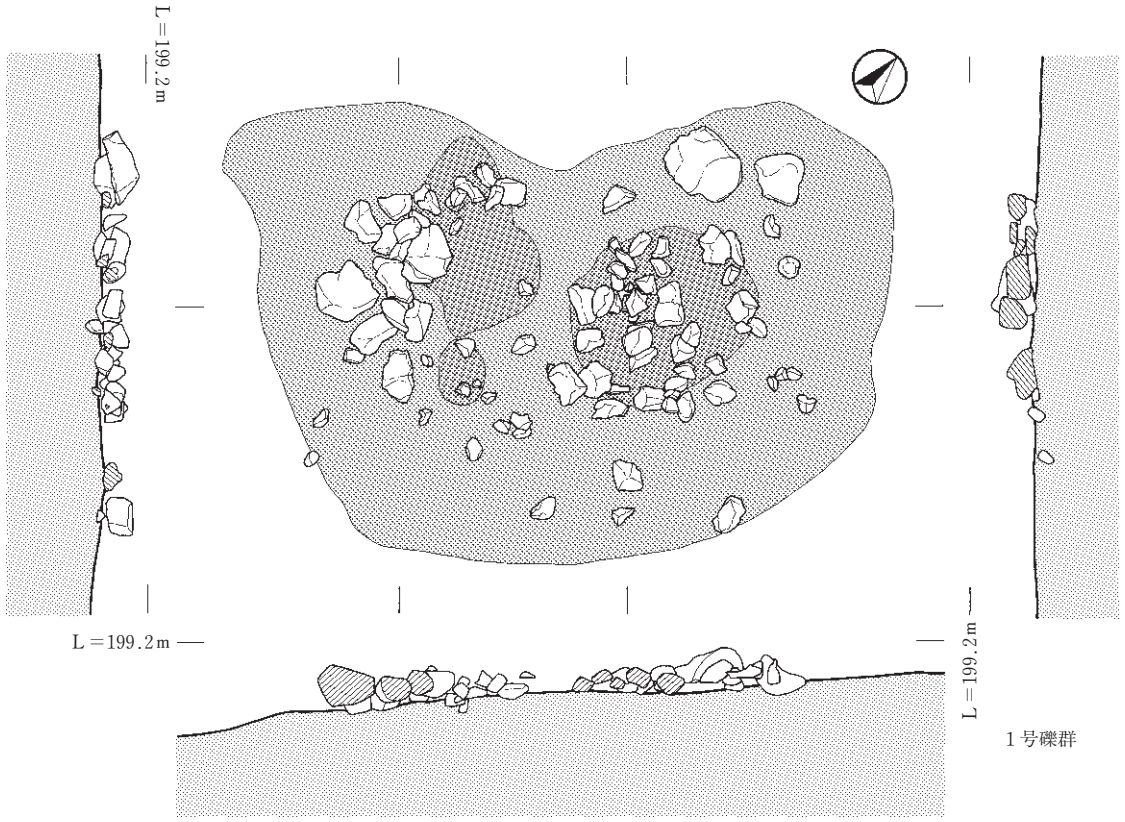
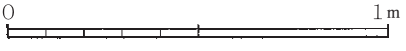
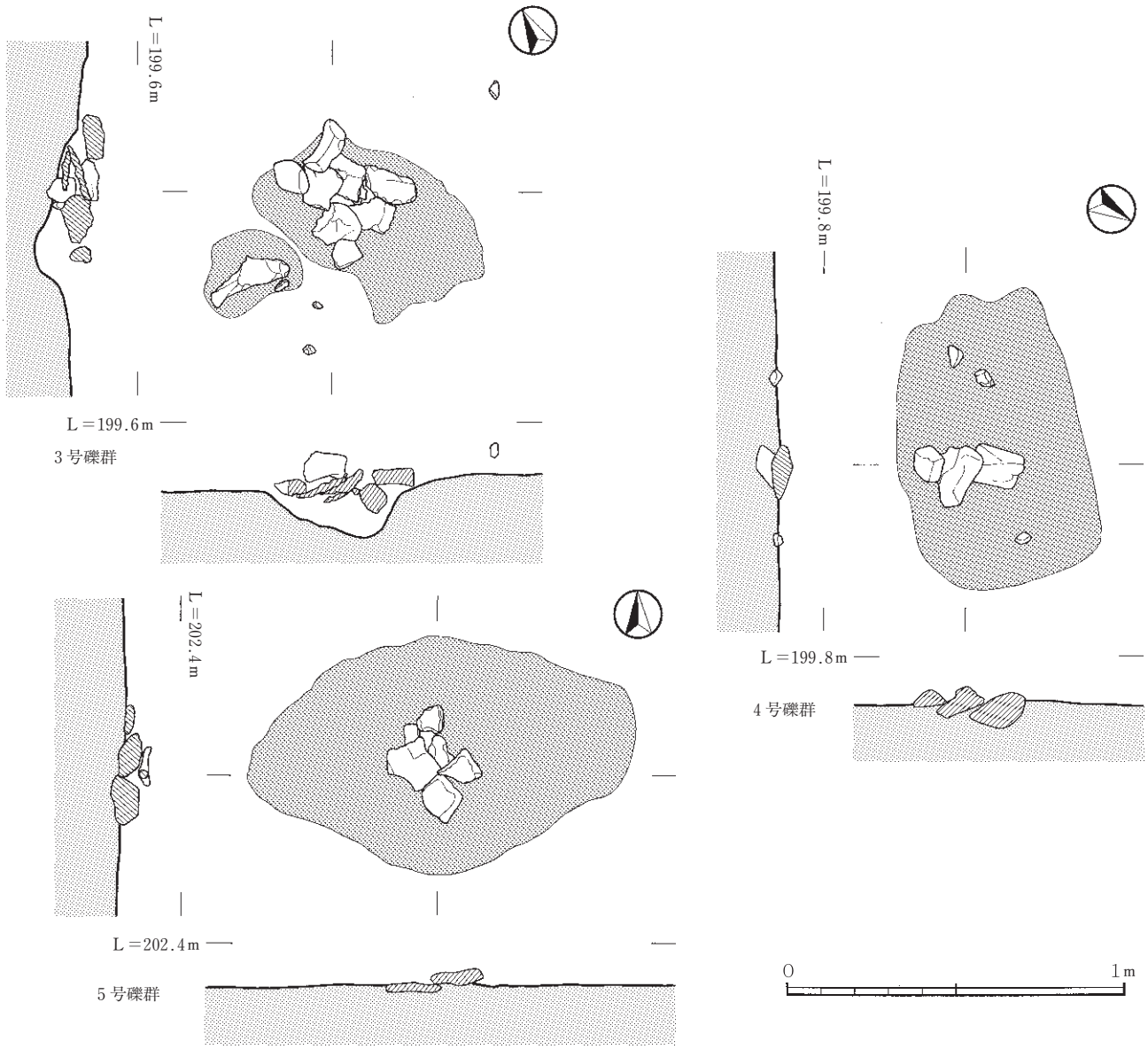


表99　Ⅷ層礫群観察表

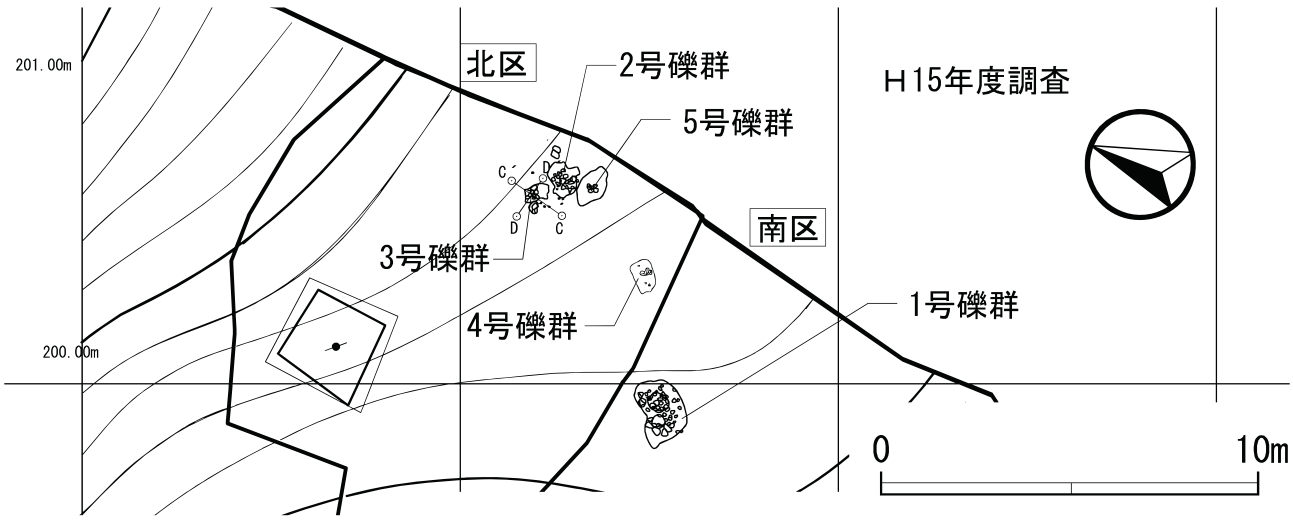
報告書No.	挿図No.	類型	総個数	大きさ		構成礫			備考
				長径（cm）	短径（cm）	総重量（g）	重量平均値（g）	被熱率（%）	
1	281	II	89	134	106	23170	260.33	44.94	H15-1
2	281	IIIA	37	173	66	15706	424.48	86.48	H15-2
3	282	IB	17	61	56	12239	719.94	88.23	H15-3
4	282	IIIA	6	58	34	3870	645	33.33	H15-4
5	282	IIIA	6	34	28	3030	505	100	H15-5



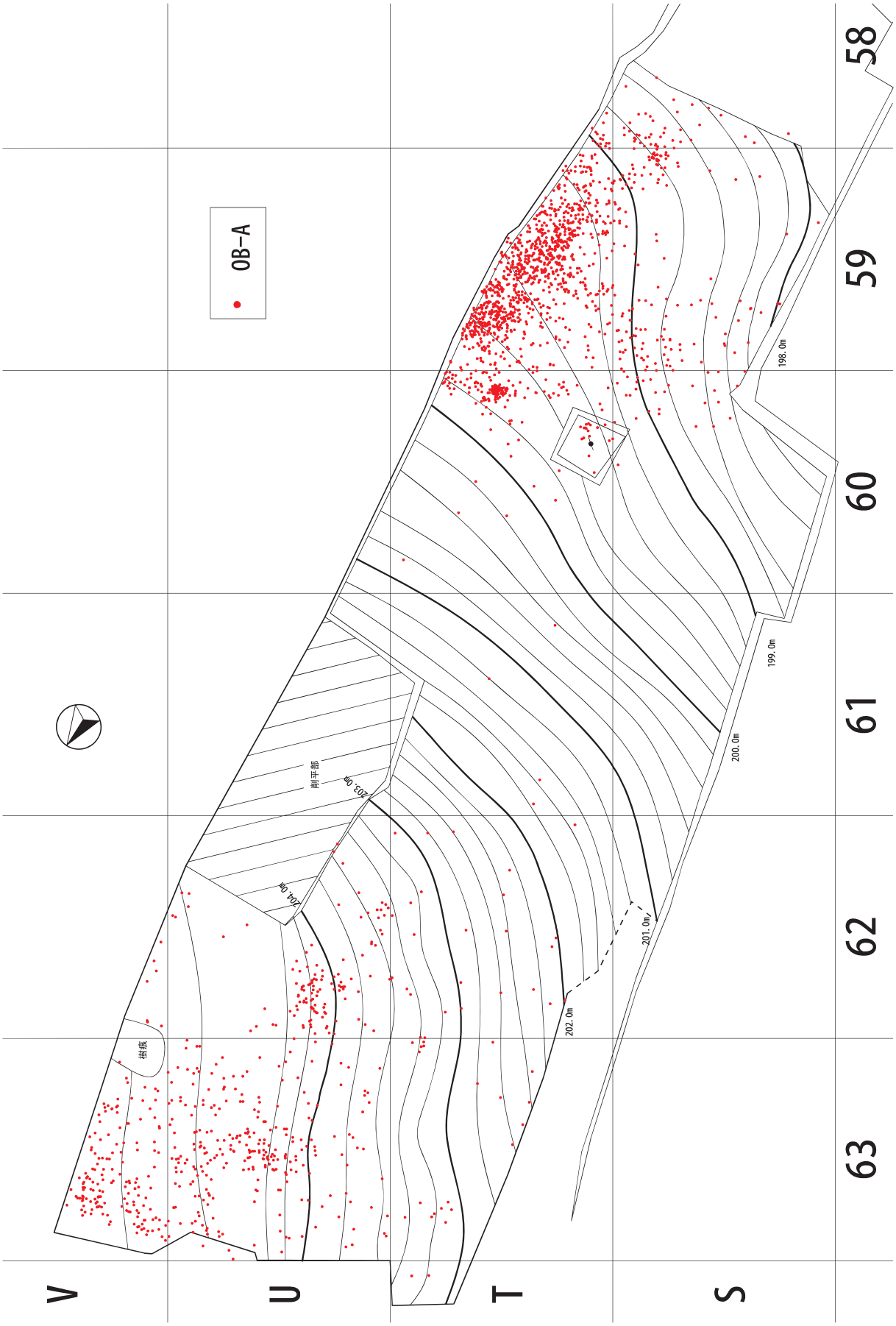
第281図　南区Ⅷ層遺構実測図（1）



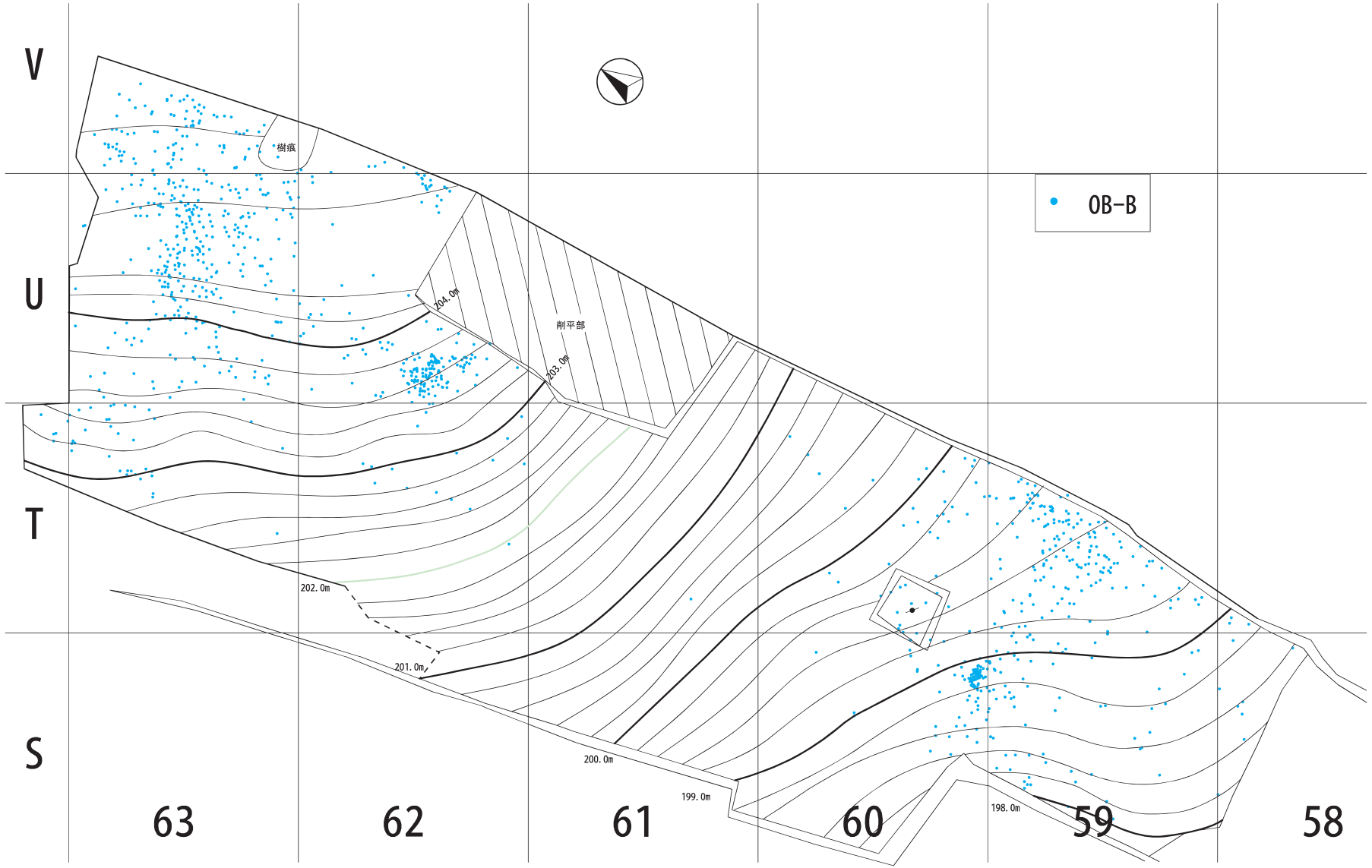
第282図　南区Ⅷ層遺構実測図（２）



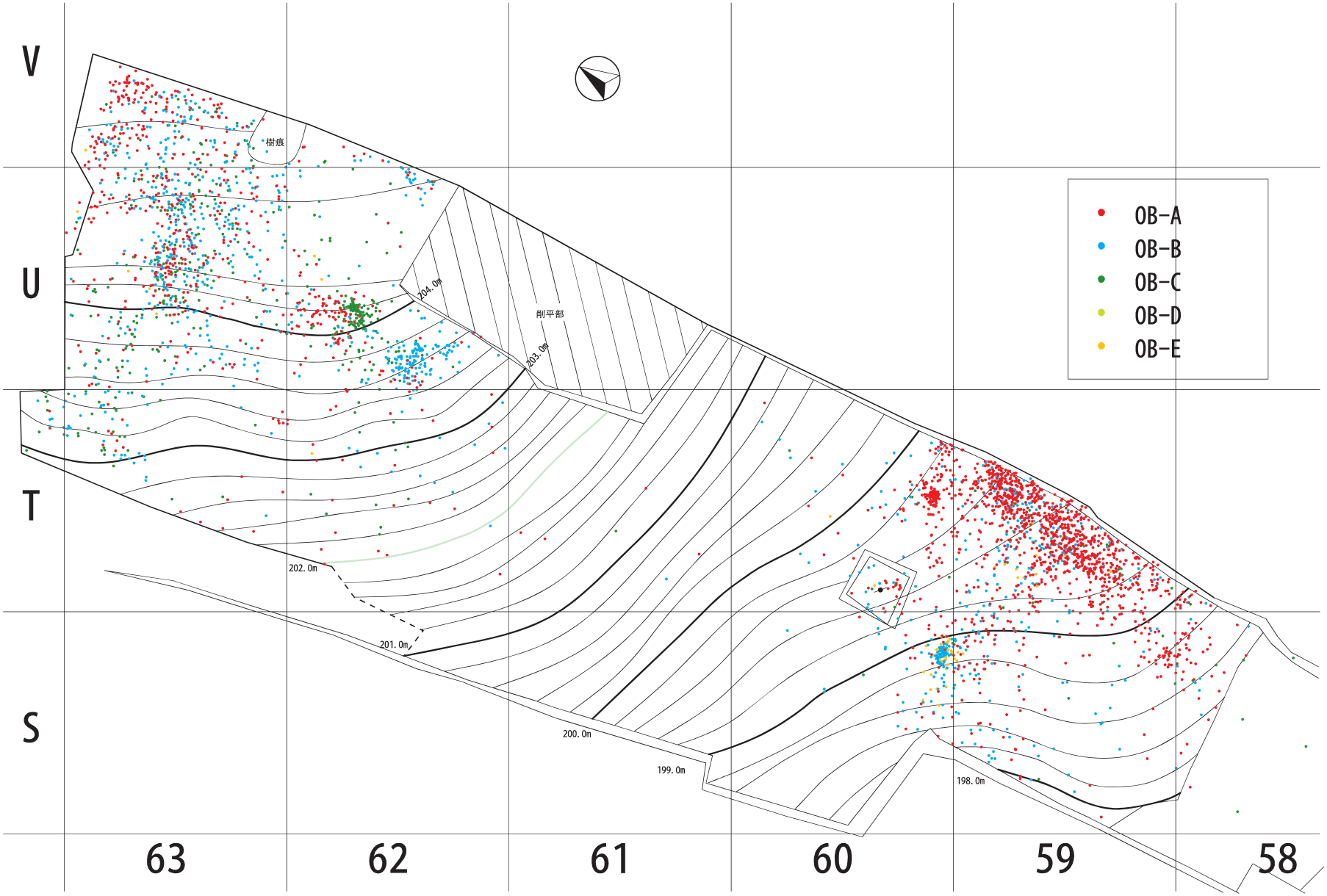
第283図　南区Ⅷ層遺構配置図



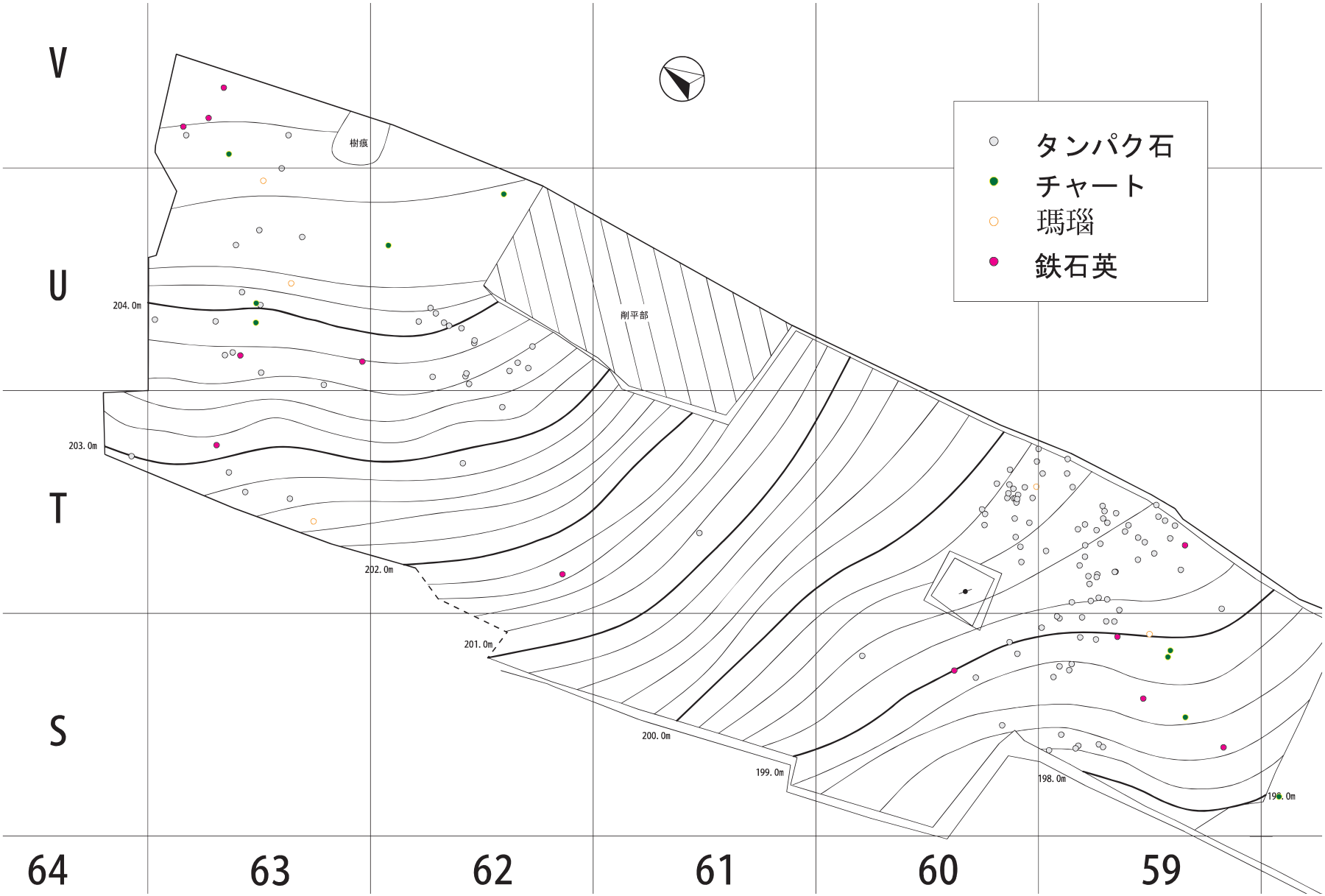
第284図　北区Ⅷ・Ⅶ層ＯＢ－Ａ分布図



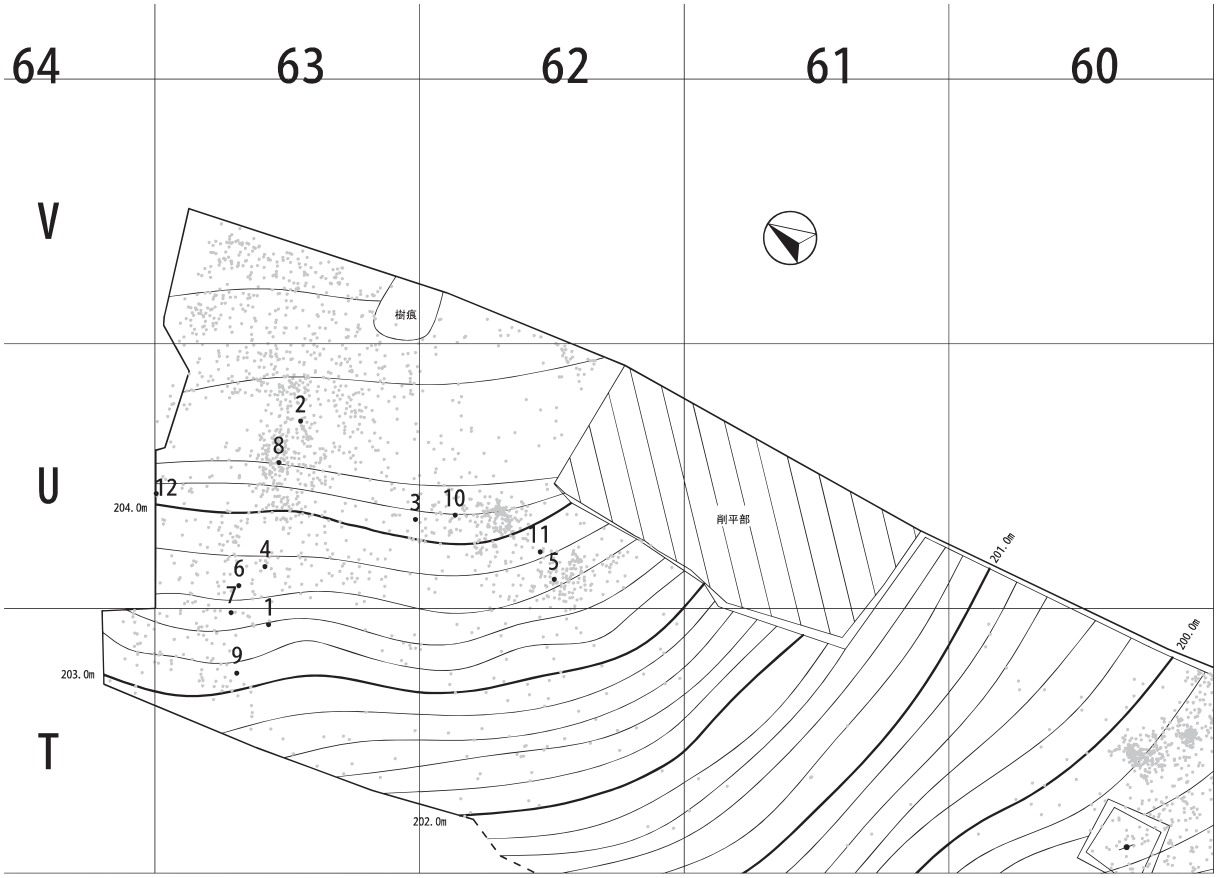
第285図　北区Ⅷ・Ⅶ層ＯＢ－Ｂ分布図



第286図　北区Ⅷ・Ⅶ層石材別分布図（1）



第287図　北区Ⅷ・Ⅶ層石材別分布図（２）

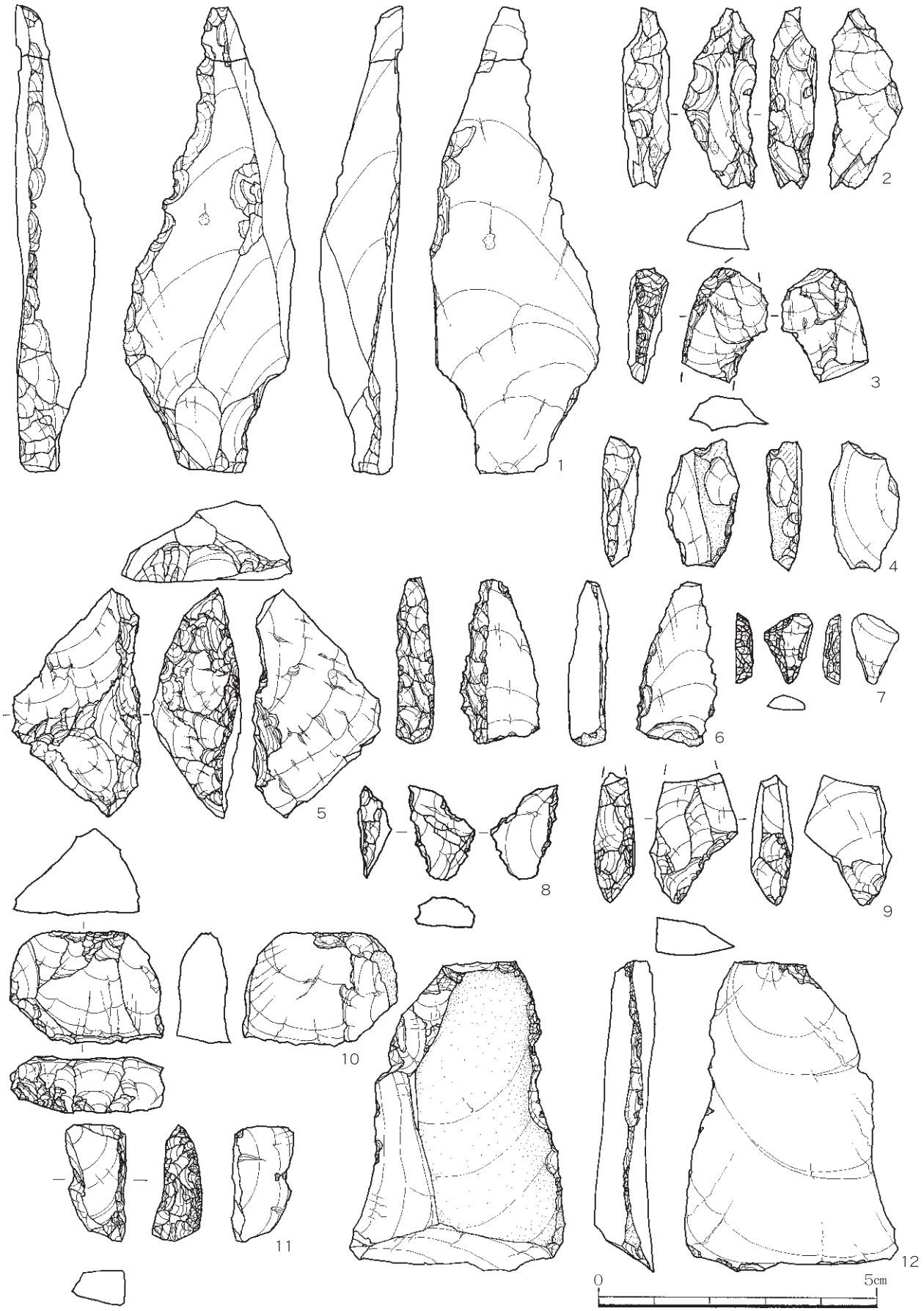


第288図　北区Ⅷ・Ⅶ層実測遺物出土状況図（１）

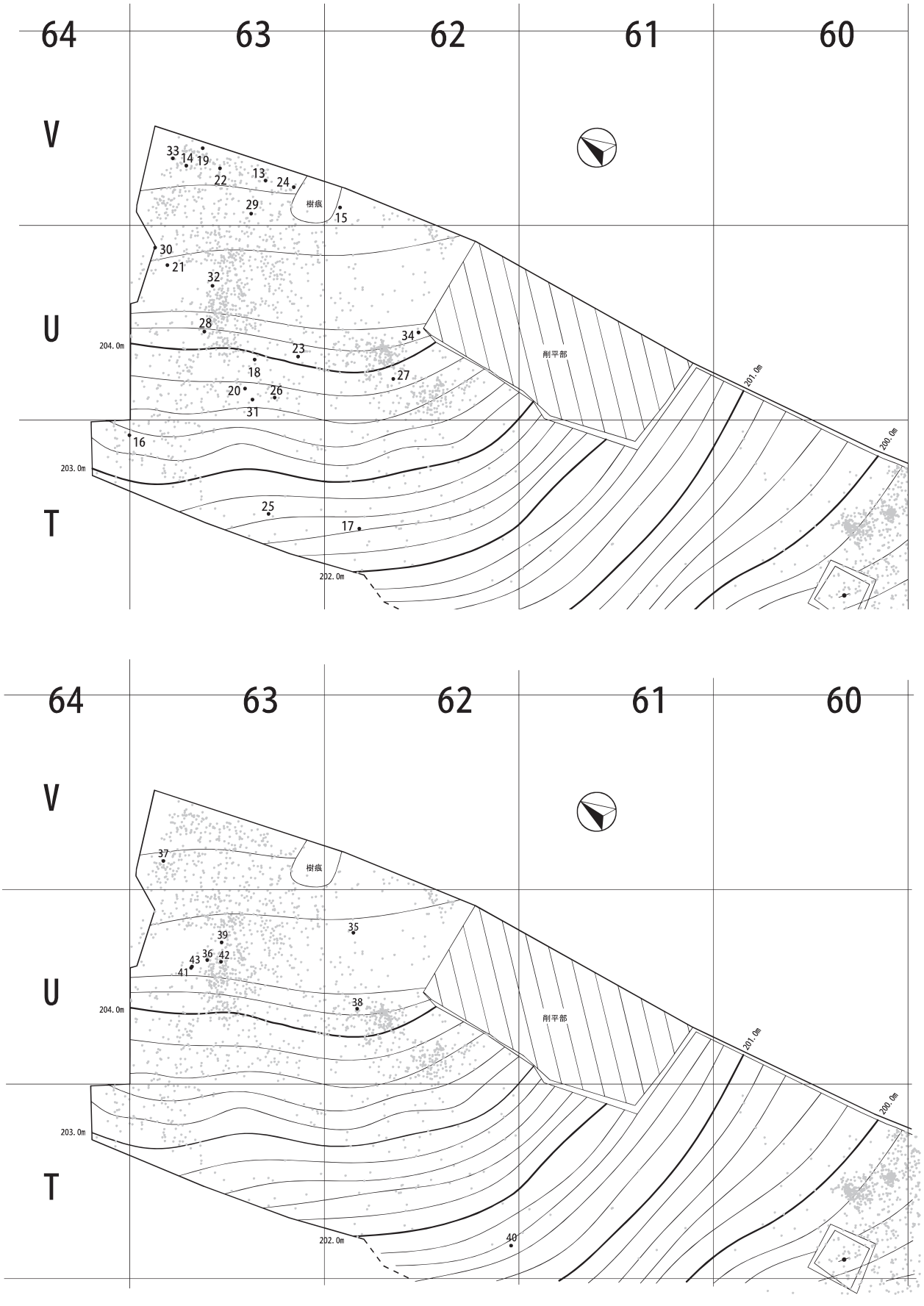
の素材の一側縁に急角度のブランティングを施している。６は珪質頁岩製のナイフ形石器である。縦長の素材の一側縁に表・背面両側からのブランティングを施している。７は小型ナイフ形石器と判断したもので，細かい整形剥離が観察される。８はOB-A製のナイフ形石器である。小型の素材の二側縁に二次加工を施し，切り出し状に整形している。９は瑪瑙製のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に利用し,左側縁に腹･背両面からのブランティングを，右側縁に腹面からの抉り状のブランティングを施し，切り出し状に整形している。先端部は欠損している。10はOB-A製の掻器である。寸詰まり剥片の端部に急角度の二次加工により刃部を形成している。打面側にも細かい二次加工がみられる。刃部には微細剥離が観察される。11はOB-C製のナイフ形石器である。不定形剥片の一側縁に腹・背両面からのブランティングを施している。12は凝灰岩質頁岩製の二次加工剥片である。

細石器文化期の遺物

13はOB-C製である。石核調整のほとんど施されない小型の残核で，打面調整がみられる。14はOB-A製である。小型の角礫を素材とし，ほとんど石核調整を施すことなく打面調整後，細石刃を剥出している。15はOB-A製である。小型の礫を素材とし，石核調整をほとんど施さず，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。16はOB-B製である。尾縁に調整がみられる。17はOB-C製である。背面は自然面で簡易な調整がみられ，背面から左側縁にも調整がみられる。18はOB-B製である。背面から側縁への調整により下端が尖るように整形されている。打面調整がみられる。19はOB-A製である。打面は傾斜し，作業面と平行に近く，扁平である。打面調整がみられる。20はOB-B製である。主剥離面を打面とし，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。作業面が一部欠損している。21はOB-A製である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。背面は横方向への

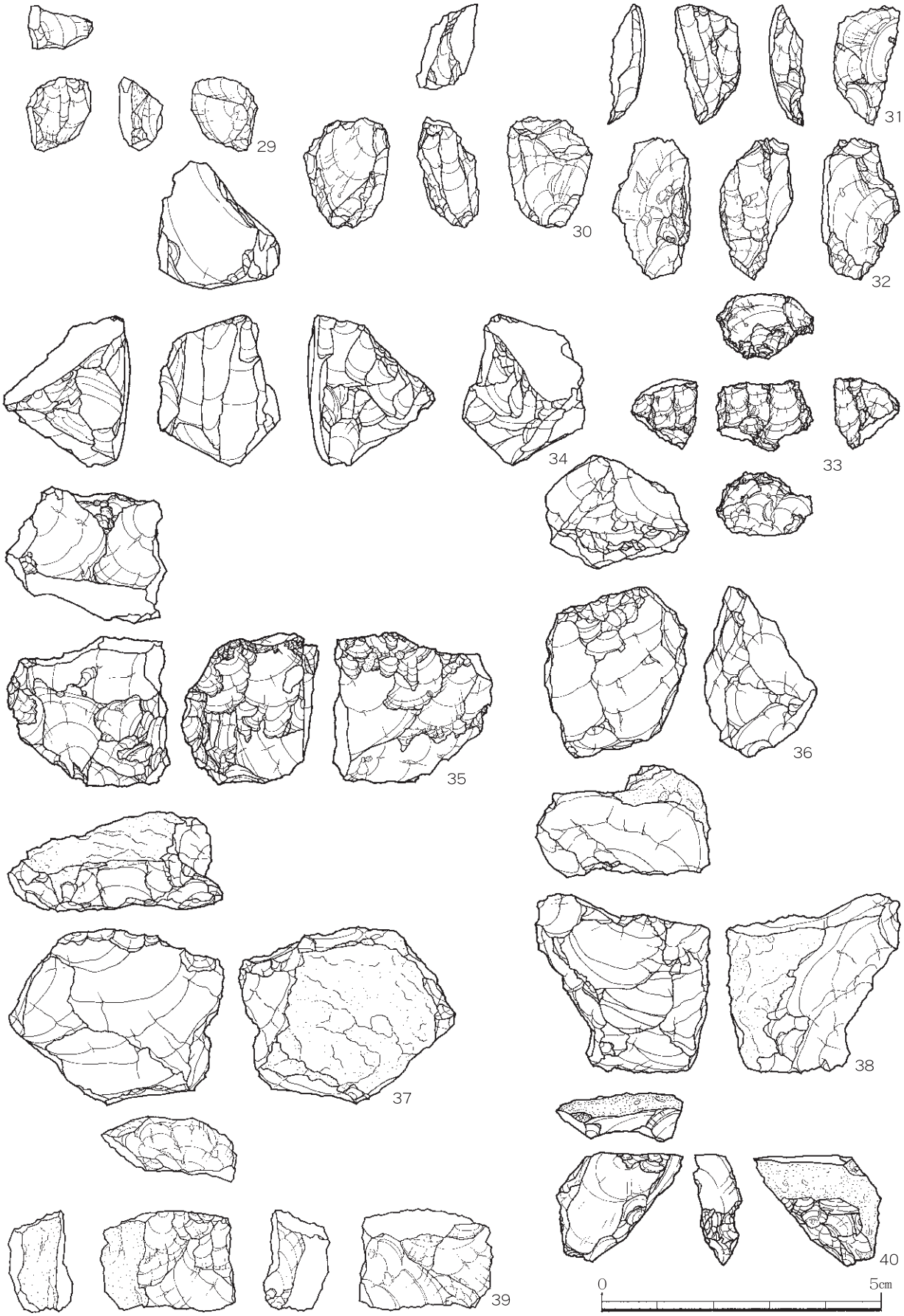


第289図　北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（1）

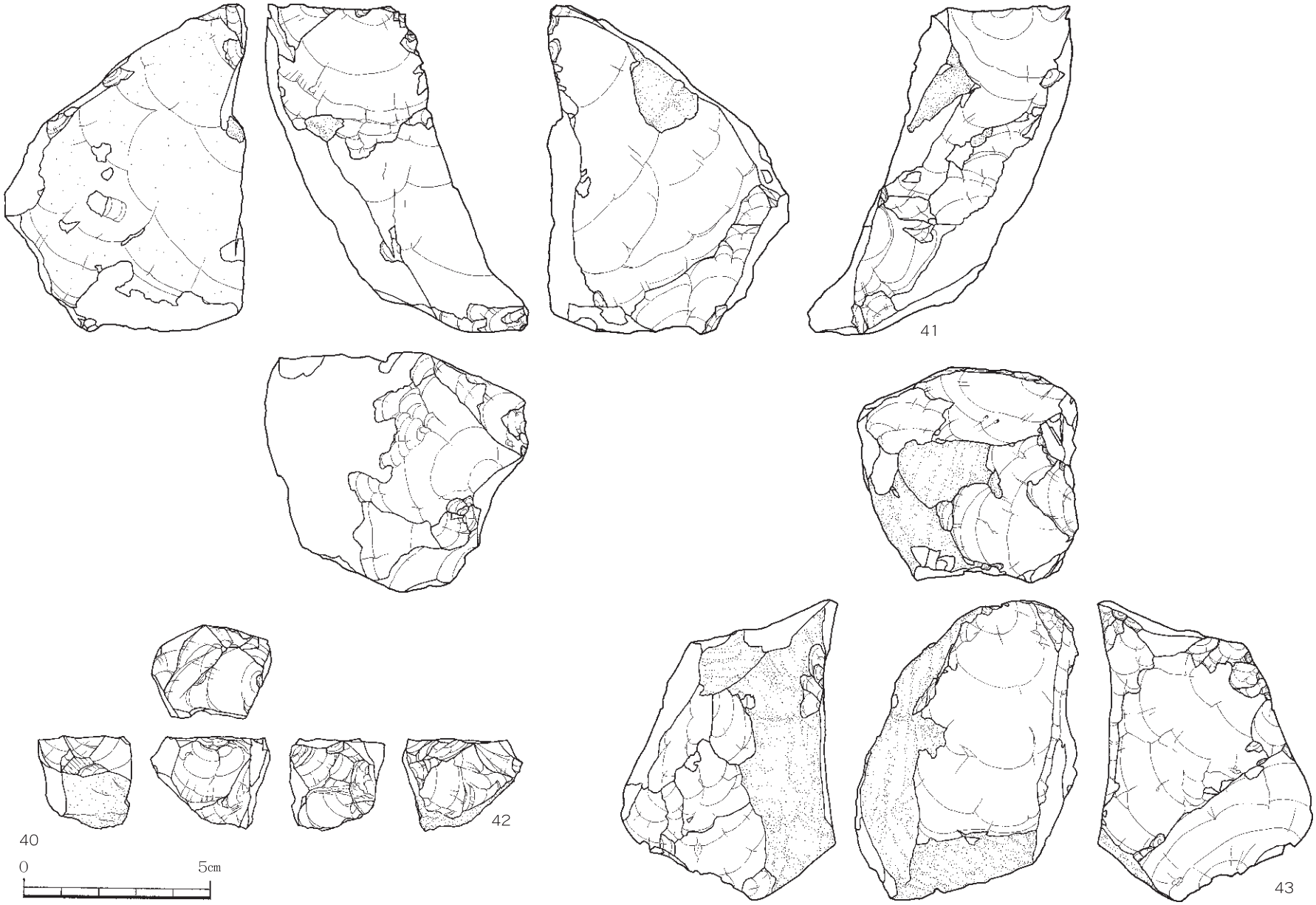


第290図　北区Ⅷ・Ⅶ層実測遺物出土状況図（２）

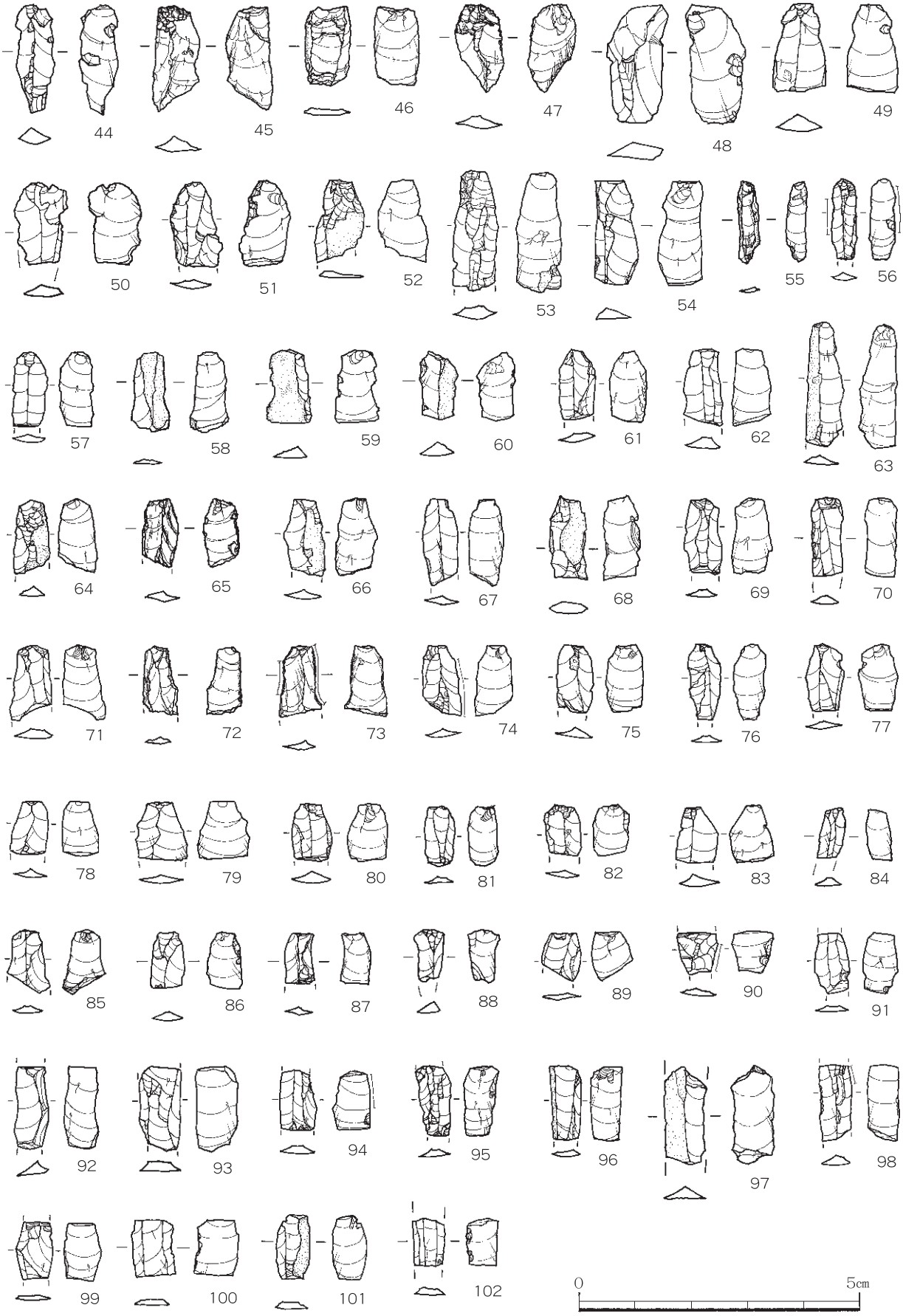
第291図　北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（２）



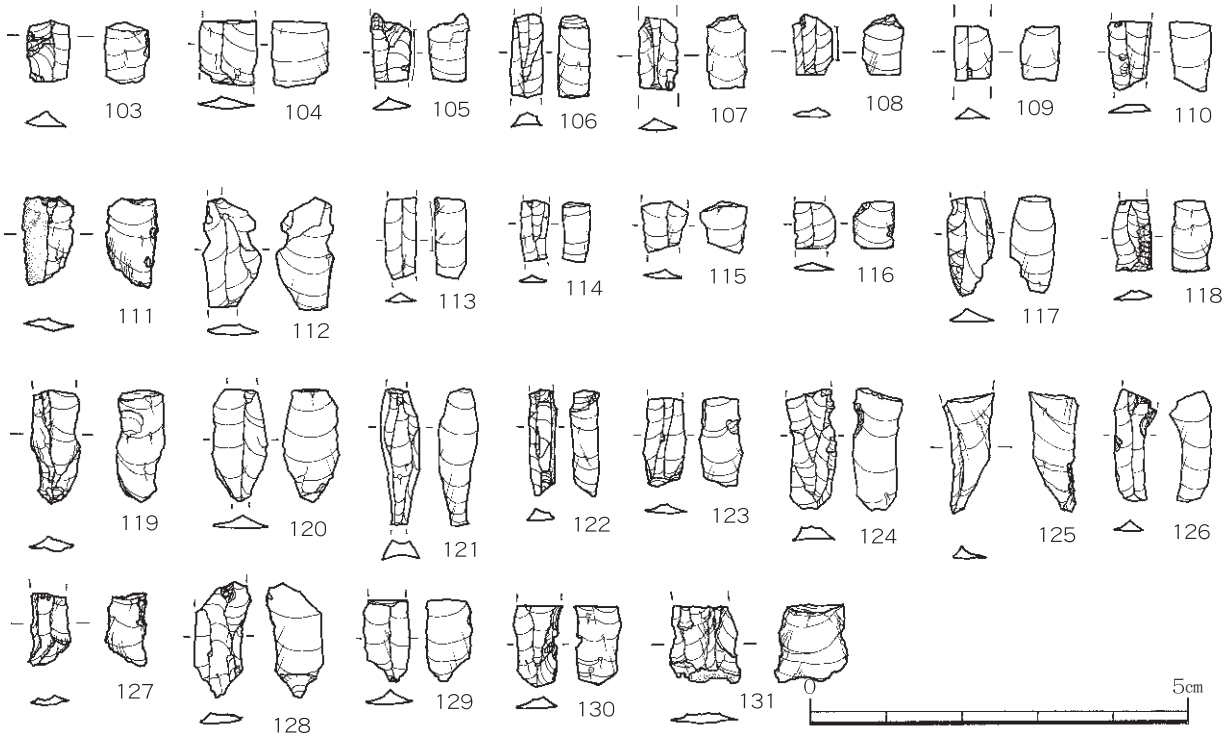
第292図　北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（3）



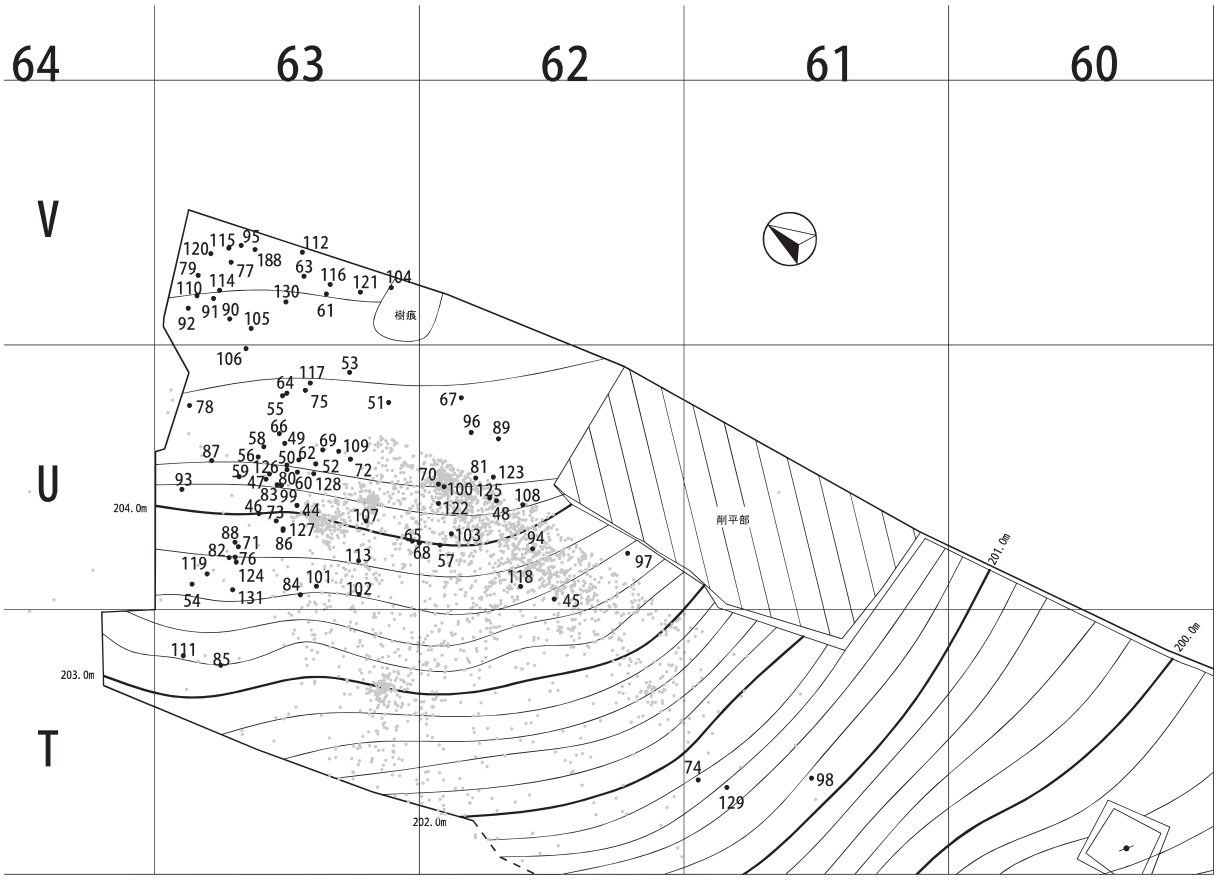
第293図　北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（４）



第294図　北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（5）



第295図　北区Ⅷ・Ⅶ層出土石器（6）



第296図　北区Ⅷ・Ⅶ層実測石器出土状況図（3）

剥離により平坦に調整されている。22はOB-A製である。角柱状の礫の長軸を作業面に設定し，石核整形をほとんど施さずに打面調整を施しながら細石刃を剥出している。23はOB-C製である。両側面の稜に固定具によるものと思われる擦痕がみられる。24はOB-C製である。石核整形のみられない扁平素材の小口から打面調整を施しながら細石刃を剥出している。25はOB-C製の細石刃核の下半部である。26はOB-A製である。石核整形のみられない扁平素材の小口から打面調整を施さずに細石刃を剥出している。27はOB-A製のブランクである。円礫を複数回分割して得られたものである。28はOB-C製である。二次的な自然面を打面として周縁に石核整形剥離を施し，細石刃を剥出している。29はOB-C製である。非常に小型で，入念な頭部調整痕が観察される。30はOB-A製である。素材剥片の主剥離面を側面に利用している。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。31はOB-C製の細石刃核の作業面再生剥片である。作業面の横方向からの再生後，主剥離面に二次加工を施している。32はOB-B製の細石刃核の作業面再生剥片である。作業面の横方向から再生した剥片である。33はOB-B製の打面再生剥片である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。再生は作業面と対する背面から行われている。34は硬質頁岩製である。分割面を打面に設定し，打面側からの石核整形を行い，打面調整を施さずに細石刃を剥出している。

石核

35はOB-B製である。打面転移を繰り返し，頭部調整を施しながら目的剥片を剥出している。36はOB-B製である。35同様，打面転移と入念な頭部調整が観察される。37はタンパク石製である。小型の円礫を素材とし，打面調整を施しながら目的剥片を剥出している。38はOB-A製である。円礫を分割し，分割面を打面として打面を固定し，目的剥片を剥出している。39はOB-B製である。剥片素材で，小型の剥片を剥出している。40はOB-A製である。円礫の分割を繰り返し，小型の剥片を剥出している。

細石刃（44～131）

細石刃は175点中88点実測した。詳細は一覧表の通りである。

3　石材

北区についてはⅦ～Ⅷ層それぞれへの遺物の帰属が困難であるため，石材についての分析は無効であり，特に分析は行わない。

表100　北区　実測石器観察表（1）

図番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	石材	部位	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
1	11159	剥片尖頭器	-355.7047999	209.3819229	203.401	Ⅶ	-	T-63	安山岩	-	-	8.5	3.2	1.5	26.22
2	10165	三稜尖頭器	-354.4876228	217.073144	204.375	Ⅶ	-	U-63	OB-A	-	-	3.2	1.3	0.9	3.21
3	11453	ナイフ形石器	-350.1552193	213.3597893	204.068	Ⅷ	a	U-63	OB-A	-	-	2	1.55	0.7	1.74
4	10728	ナイフ形石器	-355.8370536	211.5737619	203.731	Ⅷ	b	U-63	鉄石英	-	-	2.3	1.3	0.65	1.81
5	11700	ナイフ形石器	-344.9037286	211.0977506	203.428	Ⅷ	b	U-62	OB-E	-	-	4.1	2.25	1.6	10.53
6	10744	ナイフ形石器	-356.8278436	210.8530265	203.677	Ⅶ	-	U-63	硬質頁岩	-	-	3	2.45	1.25	2.45
7	11169	ナイフ形石器	-357.1137979	209.8348537	203.6	Ⅶ	-	T-63	OB-B	-	-	1.25	0.9	0.3	0.24
8	13905	ナイフ形石器	-355.313	215.505	204.178	Ⅷ	b	U-63	OB-A	-	-	1.7	1.2	0.6	0.83
9	54	ナイフ形石器	-356.9059889	207.5482038		Ⅶ	a	3T	鉄石英	-	-	2.3	2.1	0.7	2.35
10	11492	スクレイパー	-348.6544598	213.5241932	204.092	Ⅷ	a	U-62	OB-A	-	-	2.05	2.78	1	6.56
11	11643	ナイフ形石器	-345.4377305	212.1297584	203.693	Ⅷ	a	U-62	OB-C	-	-	2.1	1.1	0.9	1.64
12	10819	二次加工剥片	-359.9436025	214.3361776	204.059	Ⅷ	b	U-63	頁岩	-	-	5.52	3.82	1.1	16.58
13	12576	細石刃核	-353.0235968	222.3060898	205.032	Ⅷ	b	V-63	OB-C	-	-	1.5	1.1	0.78	1.23
14	12470	細石刃核	-357.0967341	223.0687273	205.053	Ⅷ	b	V-63	OB-A	-	-	1.5	1.65	1	2.3
15	12257	細石刃核	-349.2004649	220.920513	205.001	Ⅷ	a	V-62	OB-A	-	-	1.75	1.5	0.85	1.94
16	11275	細石刃核	-360.0249928	209.2087084	203.382	Ⅷ	-	T-64	OB-B	-	-	1.7	1	0.85	1.26
17	11101	細石刃核	-348.2027329	204.4045575	202.583	Ⅶ	-	T-62	OB-C	-	-	1.75	1.2	1.3	2.23
18	11963	細石刃核	-353.583243	213.0978995	203.897	Ⅷ	b	U-63	OB-B	-	-	2.3	1.33	1.3	3.38
19	13502	細石刃核	-356.2520963	223.9704005	205.11	Ⅷ	b	V-63	OB-A	-	-	1.9	1.7	0.9	3
20	10688	細石刃核	-354.0839759	211.6137031	203.869	Ⅶ	-	U-63	OB-B	-	-	1.4	1.9	2.15	3.34
21	10023	細石刃核	-358.0718811	217.9532565	204.626	Ⅶ	-	U-63	OB-A	-	-	1.75	1.85	1.1	3.41
22	12225	細石刃核	-355.3719932	222.9324262	205.078	Ⅷ	b	V-63	OB-A	-	-	2.95	1.8	1.65	7.7
23	10886	細石刃核	-351.3502169	213.2548225	204.137	Ⅶ	-	U-63	OB-C	-	-	1.8	1.03	1.1	1.42
24	12607	細石刃核	-351.5765088	221.9663396	204.975	Ⅷ	b	V-63	OB-C	-	-	1.13	0.7	1.25	0.78
25	11155	細石刃核	-352.8725206	205.1682814	202.779	Ⅶ	-	T-63	OB-C	-	-	1.1	0.7	1.3	0.76

表101　北区　実測石器観察表（２）

図番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	石材	部位	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
26	10913	細石刃核	-352.5581679	211.1461729	203.767	Ⅶ	-	U-63	OB-A	-	-	1.15	0.75	1.25	2.04
27	10989	ブランク	-346.4572682	212.1079364	204.009	Ⅶ	-	U-62	OB-A	-	-	2.7	1.6	1.55	5.39
28	13456	細石刃核	-356.1719012	214.5386681	204.105	Ⅷ	b	U-63	OB-D	-	-	1.3	1.28	2.15	3.37
29	12590	細石刃核	-353.7634384	220.6017618	204.774	Ⅷ	b	V-63	OB-C	-	-	1.3	0.8	0.18	0.94
30	10017	細石刃核	-358.6986522	218.8565227	204.699	Ⅶ	-	U-63	OB-A	-	-	2	1.1	1.65	2.57
31	10702	細石刃核	-353.6989383	211.040618	203.787	Ⅶ	-	U-63	OB-C	-	-	2.18	1.2	0.65	1.16
32	10366	作業面再生剝片	-355.7547076	216.8947727	204.382	Ⅶ	-	U-63	OB-B	-	-	2.55	1.35	1.4	2.49
33	12453	打面再生剝片	-357.7922159	223.4481975	205.001	Ⅷ	b	V-63	OB-B	-	-	1.28	1.75	1.27	2.39
34	10411	細石刃核	-345.1672891	214.4992565	204.266	Ⅶ	-	U-62	硬質頁岩	-	接合資料８	2.75	2.2	2.4	0
35	12274	石核	-348.5088296	217.7804798	204.667	Ⅶ	-	U-62	OB-B	-	-	2.7	2.45	2.9	18.95
36	13594	石核	-356.0190692	216.3695764	204.143	Ⅷ	b	U-63	OB-B	-	-	3.3	2.58	2.05	13.16
37	13548	石核	-358.2679299	221.4704637	204.866	Ⅷ	b	V-63	タンパク石	-	-	3.18	3.85	1.78	20.62
38	10488	石核	-348.3097066	213.8751211	204.312	Ⅶ	-	U-62	OB-A	-	-	3.23	3.1	2	16.67
39	13584	石核	-355.2781194	217.2834385	204.331	Ⅷ	b	U-63	OB-B	-	-	1.83	2.43	1.2	3.93
40	12316	石核	-340.3951578	201.6888938	201.688	Ⅶ	b	T-62	OB-A	-	-	1.88	2.17	0.9	2.46
41	11366	石核	-356.8436759	215.9648246	204.188	Ⅷ	a	U-63	OB-A	-	-	8.88	7.16	6.57	273.9
42	13930	石核	-355.3049365	216.2849526	204.09	Ⅷ	b	U-63	頁岩	-	-	3.73	4.85	3.95	20.57
43	11365	石核	-356.8037634	216.0368999	204.18	Ⅷ	a	U-63	OB-A	-	-	8.13	5.97	5.97	269.58
44	11344	細石刃	-354.6211347	213.9273998	204.055	Ⅷ	b	U-63	OB-C	-	-	2.15	0.7	0.3	0.34
45	11720	細石刃	-344.9010054	210.3915774	203.31	Ⅷ	b	U-62	OB-C	-	-	1.39	0.83	0.31	0.37
46	10571	細石刃	-356.0609394	213.6243812	203.966	Ⅷ	b	U-63	OB-A	-	-	1.51	1.83	0.17	0.25
47	10510	細石刃	-355.787769	214.9226754	204.137	Ⅶ	-	U-63	OB-C	完形品	-	1.6	0.7	0.25	0.29
48	11540	細石刃	-347.0811528	214.1104859	204.054	Ⅷ	b	U-62	OB-C	-	-	2.3	1.1	0.32	0.67
49	10335	細石刃	-355.0829183	216.2792992	204.326	Ⅶ	-	U-63	OB-A	頭中部	-	1.5	0.8	0.2	0.35
50	10541	細石刃	-355.0022152	215.4587417	204.219	Ⅶ	-	U-63	黒色安山岩	頭中部	-	1.4	0.8	0.2	0.24
51	12425	細石刃	-351.1526655	217.8198861	204.579	Ⅷ	b	U-63	OB-A	頭中部	-	1.45	0.7	0.15	0.23
52	10286	細石刃	-353.9124933	215.4992205	204.275	Ⅶ	-	U-63	OB-C	中尾部	-	1.45	0.7	0.1	0.14
53	12181	細石刃	-352.6361596	218.9566626	204.685	Ⅷ	b	U-63	OB-C	頭中部	-	2.2	0.75	0.25	0.4
54	10845	細石刃	-358.5841973	210.961604	203.645	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭中部	-	1.8	0.6	0.2	0.38
55	11314	細石刃	-355.1618425	218.0732214	204.398	Ⅷ	b	U-63	OB-C	-	-	1.48	0.43	0.1	0.08
56	13891	細石刃	-356.0819024	215.7636931	204.104	Ⅷ	b	U-63	OB-C	頭中部	-	1.4	0.45	0.1	0.07
57	10950	細石刃	-349.2148502	212.4308457	204.079	Ⅶ	-	U-62	OB-A	頭中部	-	1.3	0.5	0.15	0.12
58	10360	細石刃	-355.8706976	216.148451	204.24	Ⅶ	-	U-63	OB-A	中間部	-	1.4	0.5	0.15	0.18
59	10390	細石刃	-356.8053088	215.018759	204.208	Ⅶ	-	U-63	OB-A	頭中部	-	1.3	0.6	0.2	0.24
60	11343	細石刃	-354.6037591	215.1860366	204.119	Ⅷ	b	U-63	OB-C	-	-	1.2	0.7	0.25	0.15
61	12239	細石刃	-353.5144714	221.924697	205.03	Ⅷ	b	V-63	黒色安山岩	頭中部	-	1.2	0.55	0.1	0.13
62	10546	細石刃	-354.5510184	215.6502769	204.206	Ⅶ	-	U-63	OB-A	頭中部	-	1.35	0.65	0.2	0.2
63	12233	細石刃	-354.3546824	222.5890942	205.058	Ⅷ	a	V-63	OB-C	頭中部	-	2.2	0.6	0.15	0.26
64	10096	細石刃	-355.0061479	218.173638	204.446	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭中部	-	1.25	0.6	0.2	0.27
65	10894	細石刃	-350.2606756	212.5849366	204.076	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭中部	-	1.2	0.65	0.15	0.18
66	10329	細石刃	-355.281972	216.6476688	204.353	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭中部	-	1.25	0.6	0.15	0.15
67	12271	細石刃	-348.4141716	217.9966644	204.742	Ⅶ	-	U-62	硬質頁岩	頭中部	-	1.45	0.6	0.15	0.15
68	11375	細石刃	-349.9967566	212.5099348	204.022	Ⅷ	a	U-62	OB-C	-	-	1.4	0.6	0.28	0.21
69	10276	細石刃	-353.6488988	216.0301969	204.329	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭中部	-	1.3	0.6	0.1	0.13
70	10466	細石刃	-349.2711821	214.7401943	204.309	Ⅶ	-	U-62	硬質頁岩	頭中部	-	1.3	0.45	0.15	0.13
71	10776	細石刃	-356.8311959	212.3734303	203.822	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭中部	-	1.15	0.6	0.15	0.13
72	10261	細石刃	-352.599194	215.6761132	204.319	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭中部	-	1.2	0.55	0.15	0.12
73	10610	細石刃	-355.4038252	213.3475983	203.969	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭部	-	1.2	0.6	0.2	0.19
74	12320	細石刃	-339.4624895	203.5592898	201.828	Ⅶ	b	T-61	OB-A	頭中部	-	1.1	0.6	0.15	0.13
75	10126	細石刃	-354.3014283	218.2837747	204.458	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭中部	-	1.2	0.6	0.15	0.11
76	10764	細石刃	-356.950917	211.9784968	203.806	Ⅷ	b	U-63	OB-A	頭中部	-	1.3	0.45	0.1	0.09
77	13518	細石刃	-357.1074598	223.116955	205.035	Ⅷ	b	V-63	OB-A	頭中部	-	1.15	0.65	0.15	0.1
78	10029	細石刃	-358.6725547	217.710916	204.533	Ⅶ	-	U-63	OB-A	頭中部	-	0.9	0.6	0.1	0.1
79	13539	細石刃	-358.3537337	222.6266575	204.957	Ⅷ	b	V-63	OB-A	頭部	-	0.9	0.75	0.1	0.11

表102　北区　実測石器観察表（３）

図番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	石材	部位	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
80	10542	細石刃	-354.9914054	215.2873487	204.16	Ⅶ	-	U-63	OB-C	頭部	-	0.95	0.7	0.1	0.13
81	10426	細石刃	-347.8649892	214.9705898	204.348	Ⅶ	-	U-62	硬質頁岩	完形品	-	0.95	0.45	0.1	0.08
82	10766	細石刃	-357.1820709	211.9630427	203.817	Ⅷ	b	U-63	OB-C	頭部	-	0.85	0.6	0.15	0.09
83	10583	細石刃	-355.3680832	214.711608	204.126	Ⅶ	-	U-63	OB-A	頭部	-	0.9	0.7	0.15	0.13
84	10706	細石刃	-354.492588	210.5538204	203.632	Ⅶ	-	U-63	硬質頁岩	頭中部	-	0.9	0.4	0.1	0.05
85	11232	細石刃	-357.5006176	207.8938298	203.334	Ⅶ	-	T-63	OB-C	頭中部	-	0.95	0.55	0.15	0.1
86	11362	細石刃	-355.1464216	212.9932008	203.992	Ⅷ	b	U-63	OB-C	-	-	1	0.61	0.14	0.08
87	10381	細石刃	-357.8396495	215.6298848	204.258	Ⅶ	-	U-63	黒色安山岩	頭部	-	0.93	0.55	0.18	0.08
88	10774	細石刃	-356.9608563	212.5396028	203.937	Ⅶ	-	U-63	硬質頁岩	頭部	-	0.85	0.4	0.2	0.09
89	12281	細石刃	-347.0093479	216.4515455	204.622	Ⅶ	-	U-62	硬質頁岩	頭部	-	0.65	0.65	0.1	0.07
90	13535	細石刃	-357.1564759	220.9796007	204.852	Ⅷ	b	V-63	OB-A	中間部	-	0.7	0.6	0.1	0.08
91	12444	細石刃	-357.7688765	221.7524286	204.889	Ⅷ	b	V-63	OB-A	中間部	-	1.1	0.55	0.1	0.09
92	13864	細石刃	-358.7291409	221.3791509	204.827	Ⅷ	b	V-63	OB-A	中尾部	-	1.5	0.55	0.2	0.22
93	10809	細石刃	-358.9696519	214.5346381	204.126	Ⅷ	b	U-63	OB-A	中間部	-	1.4	0.65	0.15	0.24
94	10999	細石刃	-345.7145948	212.2931754	203.963	Ⅶ	-	U-62	OB-C	中間部	-	1	0.6	0.15	0.11
95	12218	細石刃	-356.7238658	223.7539908	205.131	Ⅷ	b	V-63	OB-C	中間部	-	1.3	0.5	0.1	0.11
96	12280	細石刃	-348.0371627	216.6850119	204.584	Ⅶ	-	U-62	OB-C	頭中部	-	1.3	0.45	0.15	0.12
97	10456	細石刃	-342.1288409	212.1239481	203.722	Ⅶ	-	U-62	OB-A	中間部	-	1.6	0.75	0.25	0.33
98	13056	細石刃	-335.177853	203.6302129	201.413	Ⅶ	a	T-61	OB-C	中間部	-	1.3	0.5	0.15	0.15
99	10586	細石刃	-355.2027028	214.6934207	204.12	Ⅶ	-	U-63	OB-A	中間部	-	1	0.6	0.1	0.09
100	10468	細石刃	-349.0612983	214.646084	204.275	Ⅶ	-	U-62	OB-C	中間部	-	1	0.7	0.1	0.1
101	10703	細石刃	-353.8818894	210.8822617	203.731	Ⅶ	-	U-63	OB-C	中間部	-	1.2	0.6	0.15	0.13
102	10921	細石刃	-352.2767224	210.5754284	203.783	Ⅶ	-	U-63	硬質頁岩	中間部	-	0.8	0.5	0.1	0.09
103	10953	細石刃	-348.7876136	212.8615749	204.206	Ⅶ	-	U-62	OB-C	中間部	-	0.8	0.5	0.15	0.08
104	12609	細石刃	-351.0524292	222.1601086	204.939	Ⅷ	b	V-63	OB-A	中間部	-	0.85	0.8	0.1	0.1
105	12511	細石刃	-356.3491841	220.6192946	204.806	Ⅷ	b	V-63	チャート	中間部	-	0.75	0.45	0.1	0.06
106	12329	細石刃	-356.5469186	219.852782	204.724	Ⅷ	b	U-63	OB-C	中間部	-	1.05	0.4	0.15	0.06
107	10645	細石刃	-352.0121772	213.3517335	204.058	Ⅶ	-	U-63	硬質頁岩	頭部	-	0.9	0.5	0.15	0.08
108	10430	細石刃	-346.0848428	213.9527645	204.161	Ⅶ	-	U-62	OB-C	中間部	-	0.7	0.4	0.1	0.05
109	10265	細石刃	-353.0389202	215.9743082	204.305	Ⅶ	-	U-63	硬質頁岩	中間部	-	0.7	0.4	0.15	0.05
110	13540	細石刃	-358.3952378	221.8535453	204.855	Ⅷ	b	V-63	鉄石英	中間部	-	0.8	0.5	0.1	0.05
111	11220	細石刃	-358.9129698	208.2534141	203.209	Ⅷ	b	T-63	OB-C	-	-	1.19	0.71	0.18	0.12
112	12551	細石刃	-354.4168272	223.495328	205.119	Ⅷ	b	V-63	OB-A	中間部	-	1.4	0.7	0.1	0.18
113	10904	細石刃	-352.2941241	211.8393107	203.854	Ⅶ	-	U-63	硬質頁岩	中間部	-	1.05	0.4	0.1	0.05
114	13542	細石刃	-357.5421926	222.0596606	204.877	Ⅷ	b	V-63	OB-A	中間部	-	0.8	0.3	0.1	0.03
115	13507	細石刃	-357.1898433	223.6516654	205.023	Ⅷ	b	V-63	OB-A	中間部	-	0.6	0.45	0.1	0.04
116	12578	細石刃	-353.3658623	222.2831553	204.994	Ⅷ	b	V-63	OB-C	中間部	-	0.6	0.5	0.1	0.04
117	10132	細石刃	-354.1138766	218.553462	204.524	Ⅶ	-	U-63	OB-A	中尾部	-	1.25	0.6	0.2	0.13
118	11015	細石刃	-346.1679501	210.8756442	203.794	Ⅶ	-	U-62	OB-C	中尾部	-	0.9	0.45	0.1	0.06
119	10756	細石刃	-358.0132215	211.3442856	203.715	Ⅶ	-	U-63	OB-C	中間部	-	1.5	0.6	0.2	0.19
120	13512	細石刃	-357.8775769	223.4448267	205.009	Ⅷ	b	V-63	OB-A	頭中部	-	1.4	0.65	0.15	0.18
121	12601	細石刃	-352.2263869	221.9904639	204.99	Ⅷ	b	V-63	OB-C	頭中部	-	1.75	0.45	0.15	0.21
122	11975	細石刃	-349.2734032	214.0100097	204.083	Ⅶ	b	U-62	OB-C	中尾部	-	1.3	0.3	0.15	0.07
123	10416	細石刃	-347.1971823	215.0029942	204.383	Ⅶ	-	U-62	OB-C	中尾部	-	1.15	0.5	0.15	0.09
124	10763	細石刃	-356.9087815	211.7913662	203.785	Ⅶ	-	U-63	OB-C	中尾部	-	1.5	0.5	0.15	0.18
125	12134	細石刃	-347.3369499	214.2168407	203.997	Ⅷ	b	U-62	OB-C	-	-	1.12	1.68	0.2	0.12
126	10513	細石刃	-355.656279	215.1207391	204.182	Ⅶ	-	U-63	OB-C	中尾部	-	1.4	0.3	0.15	0.1
127	10666	細石刃	-355.1393822	213.0522633	204.04	Ⅷ	b	U-63	チャート	-	-	0.97	0.61	1.02	0.06
128	10284	細石刃	-353.9890685	215.1259292	204.219	Ⅶ	-	U-63	OB-A	中尾部	-	1.5	0.6	0.1	0.14
129	12321	細石刃	-338.3799672	203.2759938	201.749	Ⅶ	b	T-61	OB-A	中尾部	-	1.05	0.6	0.2	0.11
130	12522	細石刃	-355.0374044	221.6184308	204.903	Ⅷ	b	V-63	OB-B	中尾部	-	1.05	0.5	0.1	0.09
131	10743	細石刃	-357.0448878	210.7442946	203.687	Ⅶ	-	U-63	OB-C	-	-	1.05	0.96	0.56	0.18

第２節　南区の調査

１　石器群の概要

南区は傾斜が緩やかで，北区と比較して土層の堆積状況が良好なため，層位的な分層が可能であるため，各層ごとに遺物を取り扱うこととする。

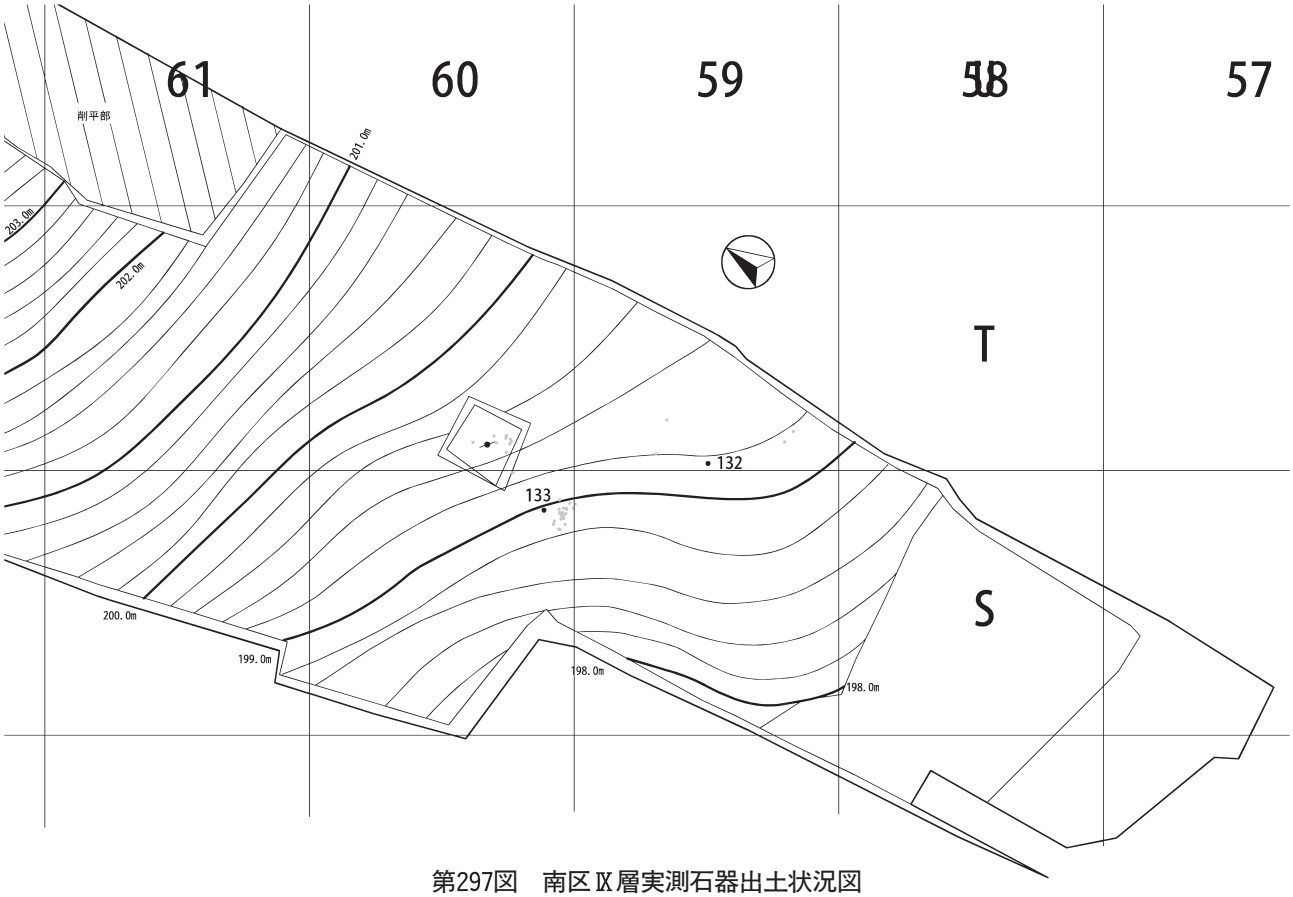
２　Ⅸ層の遺物

132はOB-A製のナイフ形石器である。寸詰まり剥片を素材とし，鋭い縁辺を斜位に取り込んだ形で二側縁及び基部を入念にブランティングしている。133はOB-B製のナイフ形石器である。剥片を縦位に利用し，左側縁に急角度のブランティングを施している。基部が欠損しており，全体形状は明らかでない。

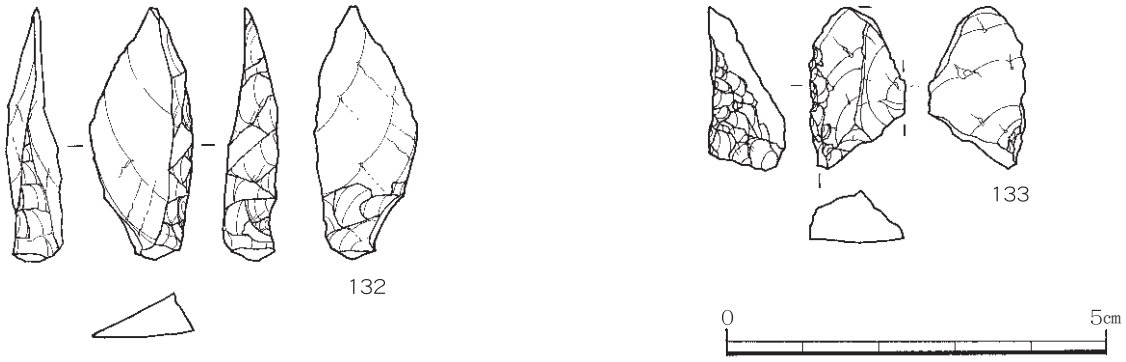
３　Ⅷ層～Ⅶｂ層の遺物

(1)　石器

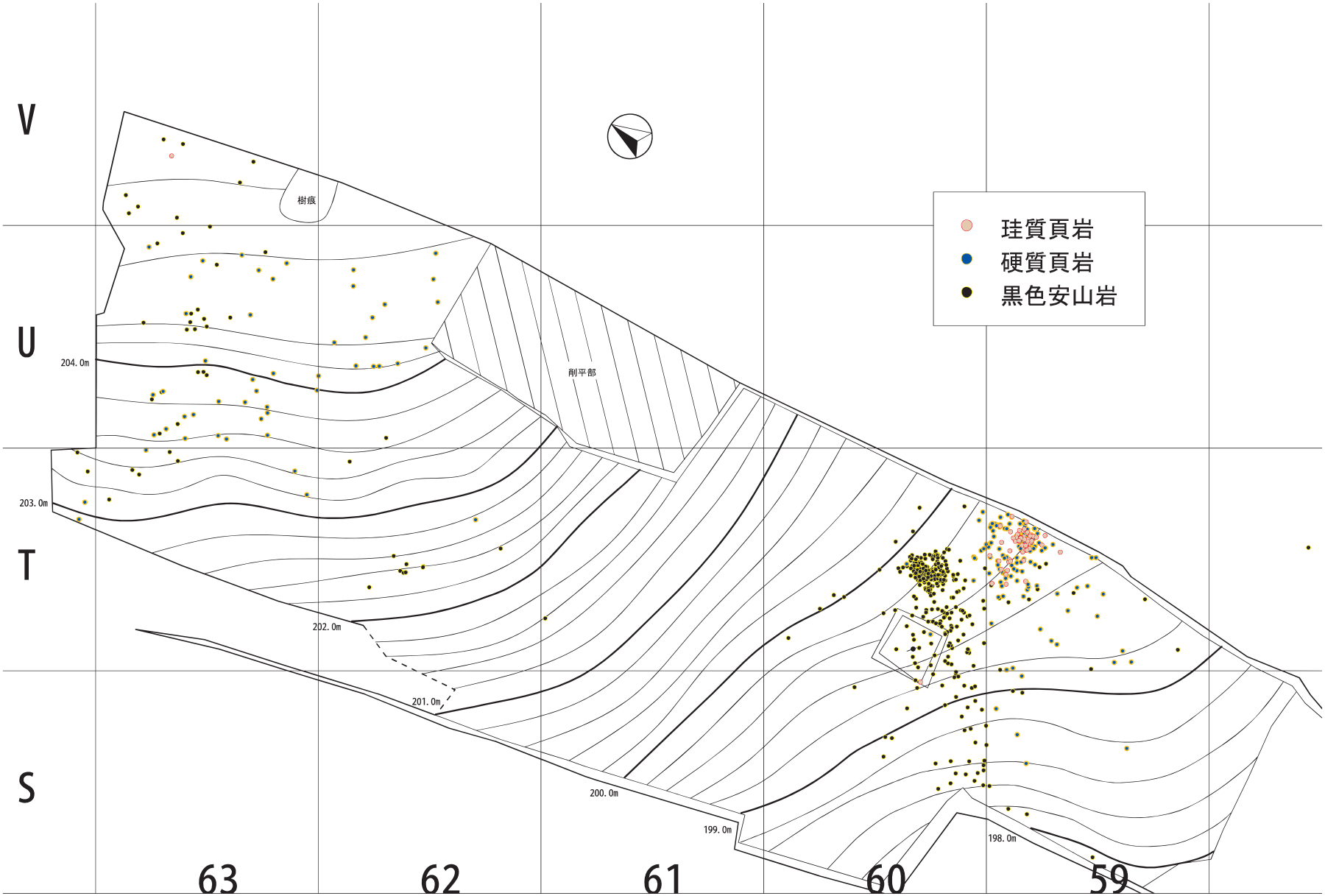
134は硬質頁岩製のナイフ形石器である。厚手の剥片を横位に利用し，両側縁にほぼ平行に急角度のブランティングを施している。135はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を斜めに断ち切るような形で両側縁にブランティングを施している。長側縁に打面が設定されているため，石器の最大厚は上半にある。刃部の腹面側に使用によるものと思われる欠損が認められる。136はOB-A製のナイフ形石器である。求心状に剥離された剥片の打面側にブランティングを施した一側縁加工である。137は硬質頁岩製の台形石器である。縦長剥片を横位に利用し，



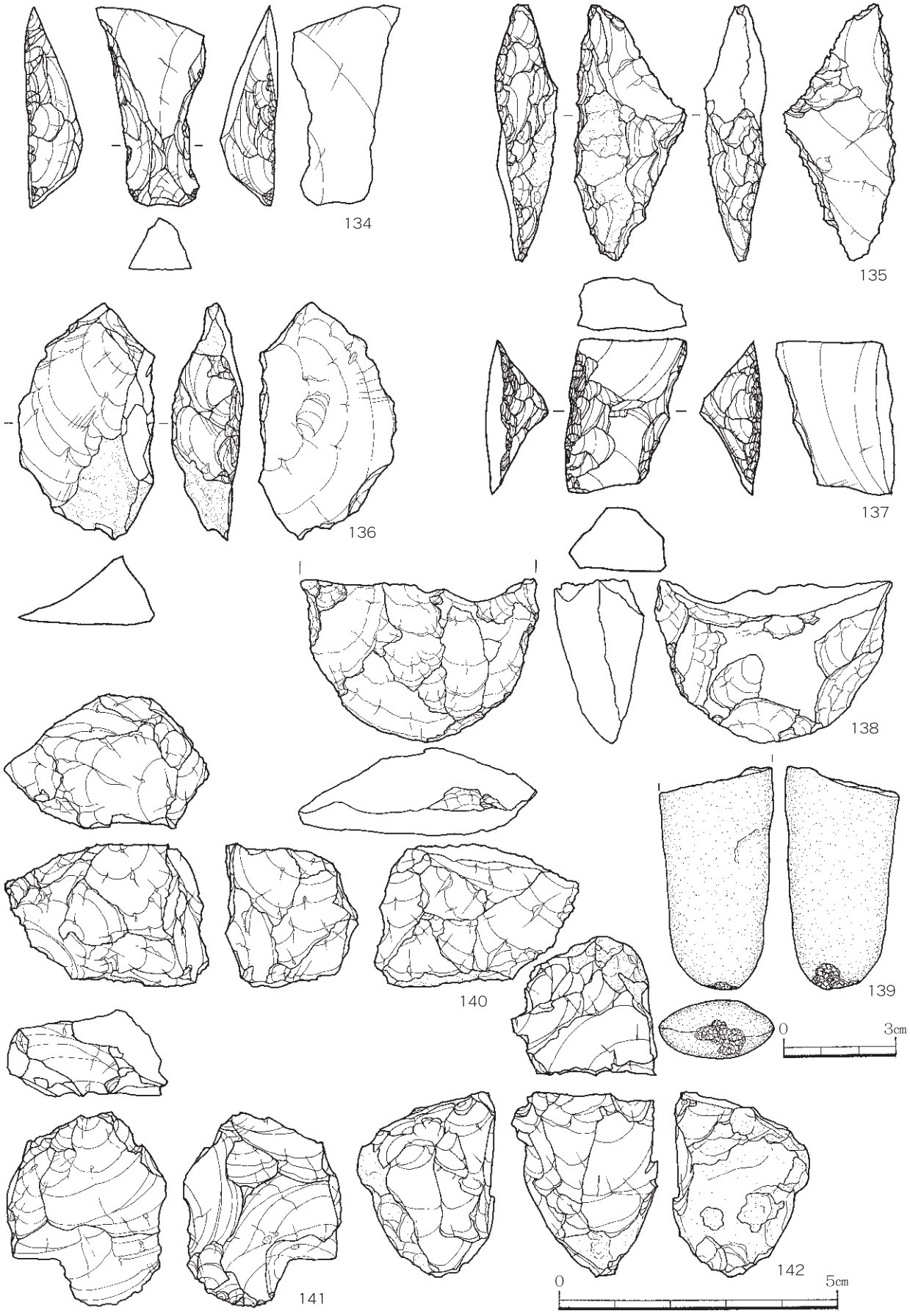
第297図　南区Ⅸ層実測石器出土状況図



第298図　南区Ⅸ層出土石器

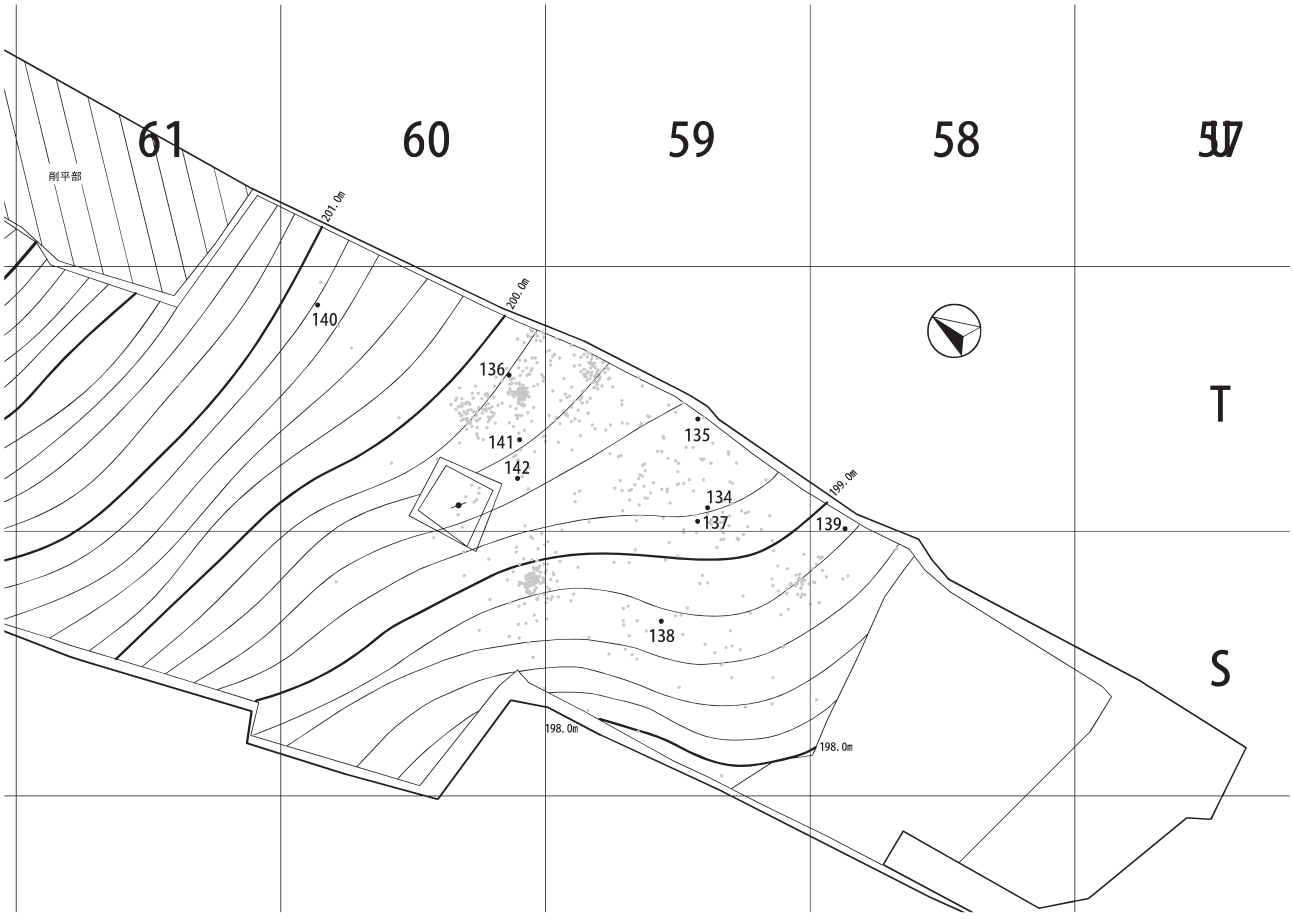


第299図　南区Ⅷ層石材別分布図

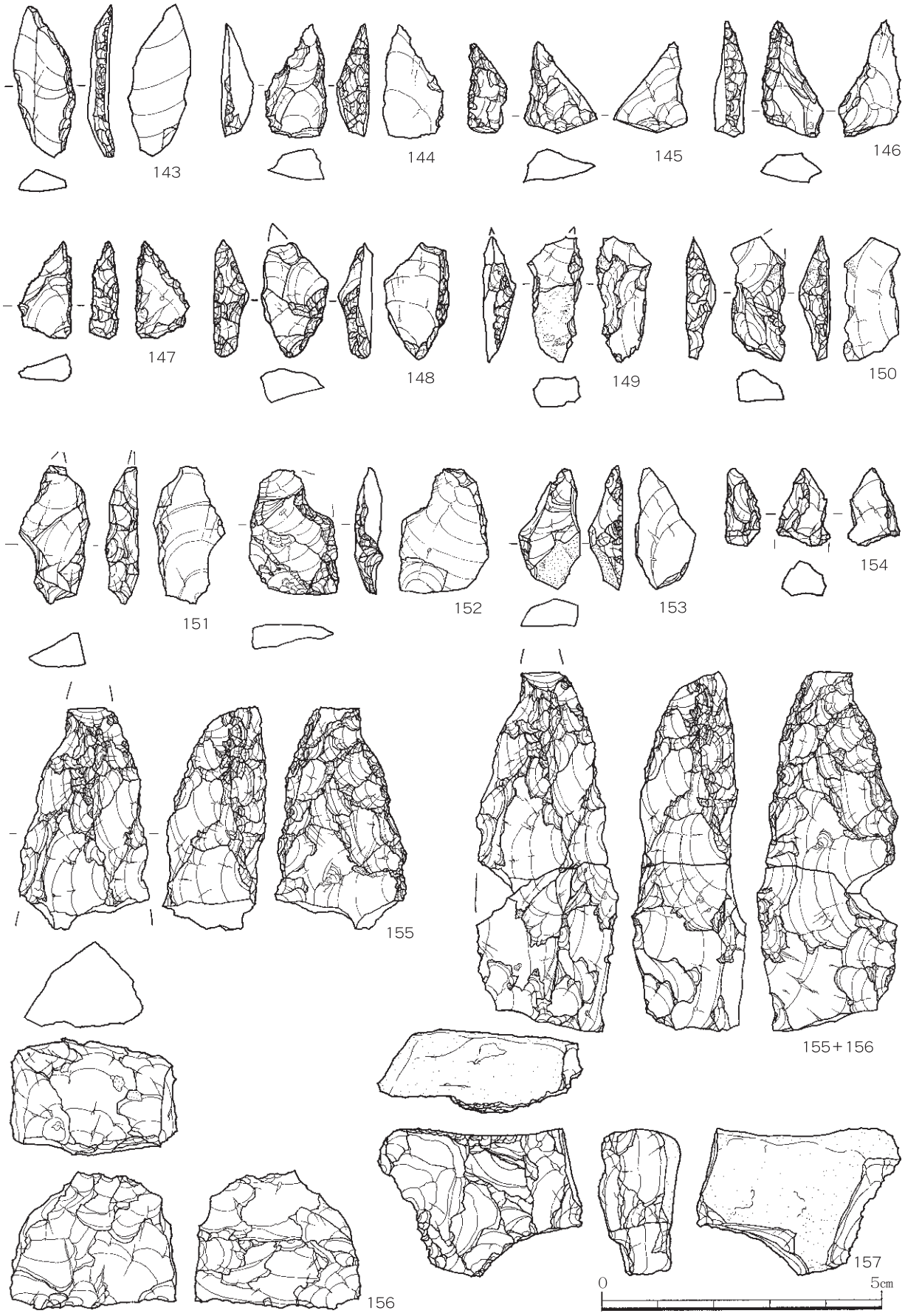


第300図　南区Ⅷ層出土石器

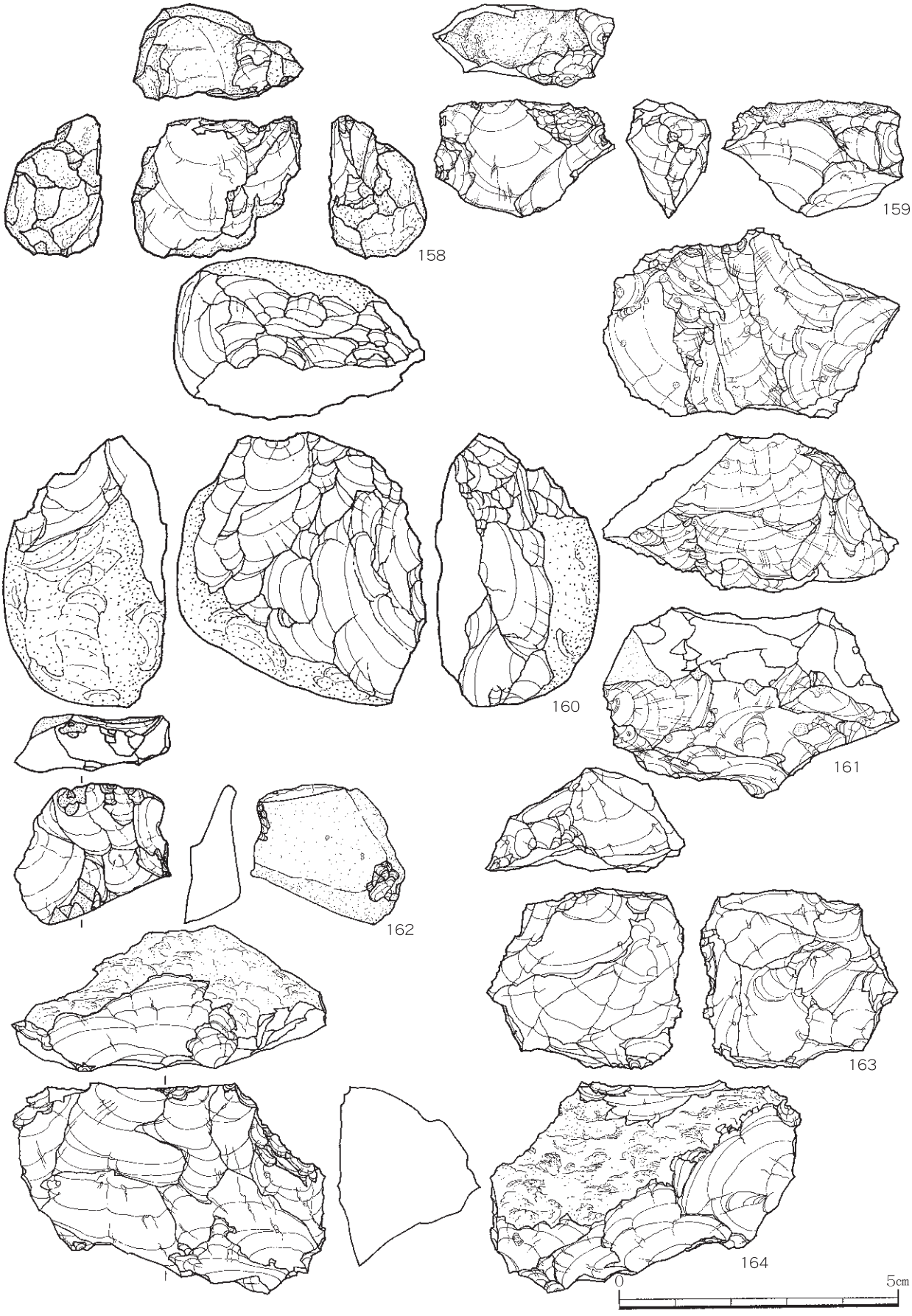
左側縁は折断の後，切断面を打面として表面側に平坦剥離を，右側縁は腹面側からのブランティングを施している。後節に掲載しているが，折断とブランティングを示す接合資料となっている。138は頁岩製の斧状石器である。刃部付近の磨滅を切る形で両面への調整で刃部が再形成されている。ほとんどの部分が欠損している。139は砂岩製の叩石である。棒状の素材の頂部付近に縦方向の使用による叩き痕が観察される。140はOB-B製の石核である。頻繁な打面転移が観察される。141はOB-A製の石核である。厚手の剥片の主剥離面を作業面に設定している。背面にも求心状の剥離痕が観察される。142はOB-A製の石核である。小型の円礫を分割し，分割面を打面に設定し，単設打面から剥片を剥離している。右側面から背面にかけて自然面を残している。143は硬質頁岩製のナイフ形石器である。小型縦長剥片の右側縁全体及び左側縁の基部に腹面側からのブランティングを施している。腹面側の刃部に直交する線状痕が確認される。144はOB-A製のナイフ形石器である。小型の剥片の鋭い縁辺を刃部として斜位に利用し，右側縁は背腹両面からブランティングを施し，右側縁は基部付近に腹面から簡易なブランティングを施している。刃部に微細剥離痕が認められる。145はOB-B製のナイフ形石器である。小型剥片の打面側を折断し，刃部を斜位に設定して左側縁に腹背両面からのブランティングを施している。基部の折断面から背面に平坦剥離が施されている。146は黒色安山岩製のナイフ形石器である。横長の剥片の一側縁に腹面からの丁寧なブランティングを施している。147はOB-B製のナイフ形石器である。左側縁には腹背両面から，右側縁は腹面からの先端を尖らせるような二次加工がみられ，尖頭器として分類することも可能である。148はOB-A製のナイフ形石器である。小型剥片の左側縁には腹背両面から，右側縁基部には腹面からのブランティングを施している。先端部は欠損している。149はOB-A製のナイフ形石器である。礫皮面を残した剥片を横位に利用し，両側縁に背面からのブランティングを施している。150はタンパク石製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し，右側縁は腹面から，左側縁は背腹両面からブランティングを施している。先端部は欠損している。151はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を縦位に利用し，右側縁に背腹両面からブランティングを施している。先端部は欠損している。152はOB-A製のナイフ形石器である。剥片を横位に利用し，両側縁に腹面からのブランティングを施している。刃部が欠損しており，斜刃か直刃かの判断ができず，台形石器に分類される可能性もある。腹面に下方からの剥離が観察される。153はOB-A製のナイフ形石器である。礫皮面の残された剥片を利用し，右側



第301図　南区Ⅷ層実測石器出土状況図



第302図　南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（１）

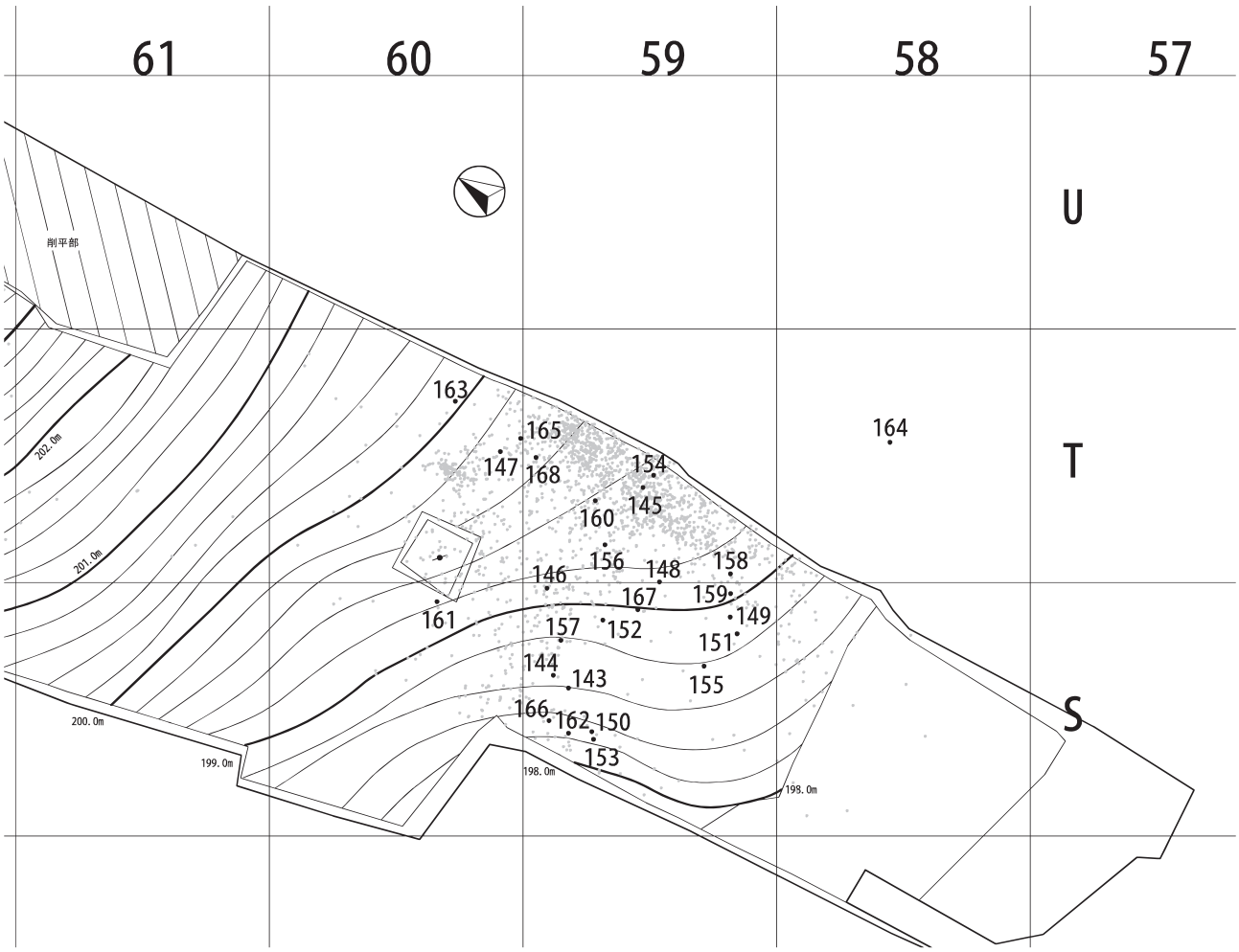


第303図　南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（２）

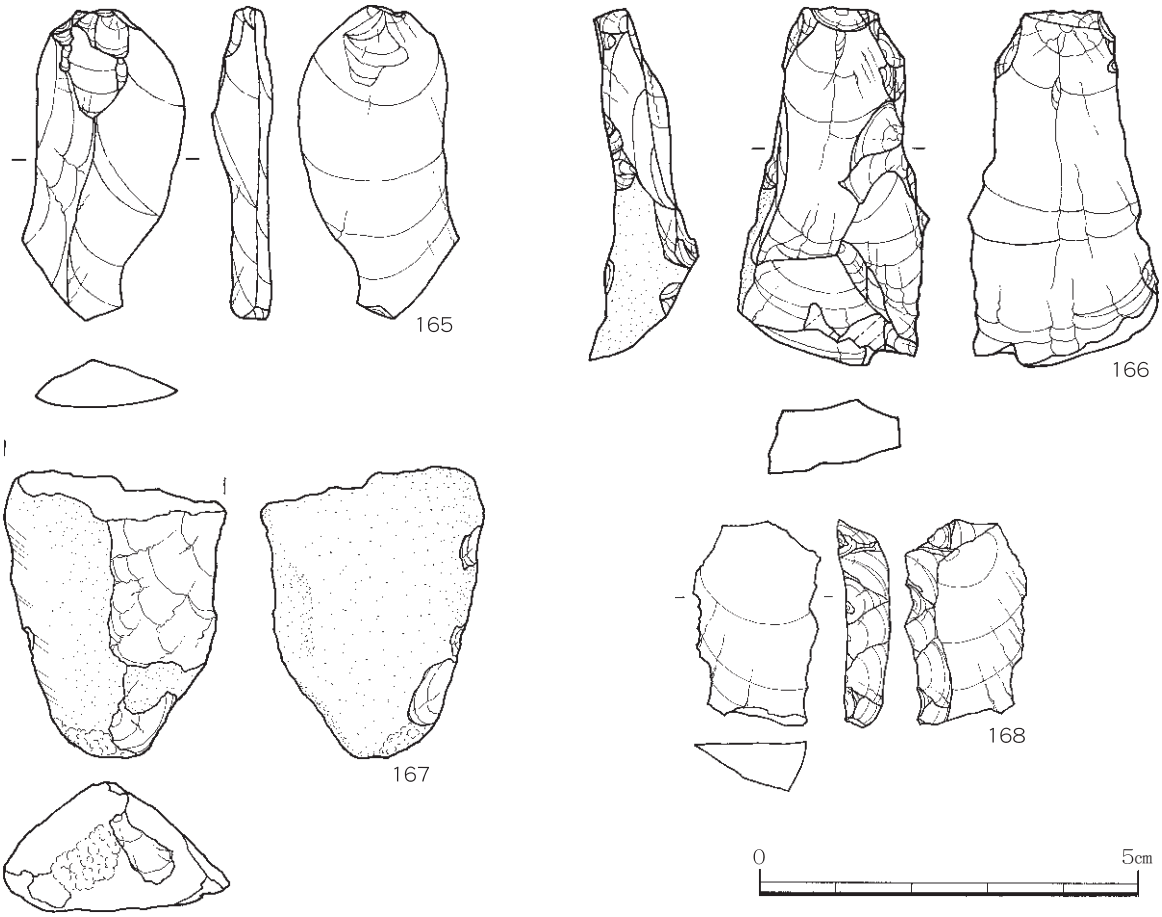
縁全体と左側縁の基部に腹面からのブランティングを施している。154はOB-A製のナイフ形石器の先端部である。左側縁に腹背両面からのブランティングを施している。155・156はOB-B製の三稜尖頭器である。稜上調整及び腹面への両側からの入念な平坦剥離の観察される三面加工の大型製品である。製品としてかなり大型である点から，小型のナイフ形石器との時期的共伴については可能性は低いと考えられ，より古い時期に帰属する可能性が高い。157・162はタンパク石製の石核である。いずれも小型の角礫から打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行った残核の形状を示している。162は分割面を，157は自然面を打面としている。150のようなナイフ形石器に対応する石核であると考えられる。158はOB-A製の石核である。小型の円礫の自然面に打面を固定して剥片を剥離している。159はOB-A製の石核である。厚手の剥片を素材とし，両面にそれぞれ求心状の剥離痕を残し，結果残核形態が円盤状を呈している。最終作業面の一部に素材剥片の主剥離面を残している。小型ナイフ形石器に対応する石核であると考えられる。160はOB-A製の石核である。円礫から錯交剥離により剥片を剥出している。161はOB-B製の石核である。159同様厚手の剥片を素材とし，両面にそれぞれ求心状の剥離痕を残し，結果残核形態が円盤状を呈している。163はOB-B製の石核である。最終作業面を打面とした周辺への剥離痕が観察される。164は黒色安山岩製の石核である。拳大の円礫を素材とし，両面に球心状の剥離により剥片を剥離しており，結果残核形態は円盤状を呈する。165は瑪瑙製の微細剥離痕のある剥片である。右側縁の縁辺に細かい剥離痕が観察される。166はタンパク石製の剥片である。167は頁岩製の叩石である。下端に垂直方向への使用と考えられる痕跡が確認される。上半は欠損している。168は硬質頁岩製の打面再生剥片である。細石刃核の打面を横方向から再生している。後掲の接合資料がある。

(2)　石材

ここではⅧ層の石材利用状況についてみていきたい。対象となる資料は739点である。Ⅷ層で最も利用されている石材は，OB-Aで366点，次にOB-Bが119点，以下黒色安山岩79点，硬質頁岩49点，OB-E41点，珪質頁岩20点，タンパク石20点と続く。その他には少量ながら頁岩，瑪瑙，チャート等が利用されている。



第304図　南区Ⅶｂ～Ⅶａ層実測石器出土状況図



第305図　南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（３）

表103　南区　実測石器観察表（１）

図番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	石材	部位	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
132	21789	ナイフ形石器	-314.9416121	200.2631414	198.171	Ⅸ	a	T-59	OB-A	-	-	3.3	1.35	0.7	2.35
133	14410	ナイフ形石器	-321.1362429	198.5007472	198.719	Ⅸ	a	S-60	OB-B	-	-	2.25	1.2	0.9	1.75
134	21440	ナイフ形石器	-313.8771023	200.8898603	199.139	Ⅷ	-	T-59	硬質頁岩	-	-	3.6	1.9	1.5	4.95
135	15017	ナイフ形石器	-314.2372273	204.2394522	199.396	Ⅷ	-	T-59	OB-A	-	-	4.63	2.03	1.1	7.38
136	15080	ナイフ形石器	-321.3751155	205.8992497	199.327	Ⅷ	-	T-60	OB-A	-	-	4.02	2.43	1.3	10.87
137	20081	台形石器	-314.2469874	200.3776473	199.607	Ⅶ	a	T-59	硬質頁岩	-	接合資料1	2.8	2.15	1.1	-
138	21261	斧状石器	-315.6248122	196.5925663	198.904	Ⅷ	-	S-59	頁岩	-	-	2.9	4.3	1.65	17.24
139	21734	叩石	-308.6797113	200.0939151	198.646	Ⅷ	-	T-58	砂岩	-	-	5.95	3.05	1.55	35.59
140	13824	石核	-328.6083382	208.5472035	200.483	Ⅶ	b	T-60	OB-B	-	-	2.58	3.7	2.38	21.95
141	14357	石核	-320.9766664	203.4614405	199.132	Ⅷ	a	T-60	OB-A	-	-	3.5	2.9	1.58	12.52
142	14285	石核	-321.0508684	201.9909481	199.004	Ⅷ	a	T-60	OB-A	-	-	3.3	2.62	2.45	20.38
143	20831	ナイフ形石器	-318.2080801	195.835385	198.843	Ⅶ	b	S-59	硬質頁岩	-	-	2.7	1.1	0.45	1.07
144	20470	ナイフ形石器	-318.8042454	196.3385837	199.025	Ⅶ	a	S-59	OB-A	-	-	2.03	1.08	0.57	0.97
145	13191	ナイフ形石器	-315.2632912	203.7519113	199.842	Ⅶ	a	T-59	OB-B	-	-	1.6	1.5	0.7	0.86
146	13301	ナイフ形石器	-319.0466853	199.7712648	199.51	Ⅶ	a	S-59	タンパク石	-	-	2.18	1.1	0.55	0.9
147	12791	ナイフ形石器	-320.8873326	205.160745	199.938	Ⅶ	b	T-60	OB-B	-	-	1.7	0.95	0.53	0.62
148	20164	ナイフ形石器	-314.6110672	200.0198294	199.542	Ⅶ	b	T-59	OB-A	-	-	2	1.2	0.6	1.12
149	20279	ナイフ形石器	-311.8311558	198.6357565	199.323	Ⅶ	b	S-59	OB-A	-	-	2.2	0.99	0.6	1.04
150	20853	ナイフ形石器	-317.2835462	194.1145918	198.741	Ⅶ	b	S-59	タンパク石	-	-	2.2	1	0.65	1.09
151	20350	ナイフ形石器	-311.5519963	197.9766512	199.351	Ⅶ	a	S-59	OB-A			2.5	1.3	0.6	1.68
152	20320	ナイフ形石器	-316.8470855	198.5141422	199.369	Ⅶ	a	S-59	OB-A	-	-	2.25	1.6	0.5	1.48
153	21011	ナイフ形石器	-317.2194933	193.8144596	198.708	Ⅶ	a	S-59	OB-A	-	-	2.2	1.1	0.6	1.02
154	14905	ナイフ形石器	-314.8417946	204.2297999	199.698	Ⅶ	b	T-59	OB-A	-	-	1.4	0.95	0.65	0.71
155	20414	三稜尖頭器	-312.8571695	196.6957088	199.087	Ⅶ	b	S-59	OB-B	-	接合	2.98	2.35	1.85	13.85
156	13944	三稜尖頭器	-316.7652778	201.4850407	199.499	Ⅶ	b	T-59	OB-B	-		2.48	3	2.1	14.26
157	13356	石核	-318.5012301	197.7209382	199.232	Ⅶ	a	S-59	タンパク石	-	-	2.6	3.65	1.45	14.27
158	20150	石核	-311.8145542	200.3382103	199.541	Ⅶ	a	T-59	OB-A	-	-	1.7	2.05	1.2	11.8
159	20625	石核	-311.8101178	199.5604691	199.379	Ⅶ	b	S-59	OB-A	-	-	2.1	3.23	1.5	9.14
160	13740	石核	-317.1456218	203.2220051	199.771	Ⅶ	b	T-59	OB-A	-	-	4.9	4.5	2.95	-
161	13408	石核	-323.3911302	199.2424293	199.39	Ⅶ	a	S-60	OB-B	-	-	2.85	5.3	3.45	41.21
162	21075	石核	-318.2067234	194.0510633	198.528	Ⅶ	b	S-59	タンパク石	-	-	2.5	2.8	1	6.62
163	12691	石核	-322.6621797	207.1449632	200.219	Ⅶ	b	T-60	OB-B	-	-	3.23	3.5	1.9	19.31
164	36	石核	-305.5254393	205.531291		Ⅶ	b	2T	黒色安山岩	-	-	3.77	5.59	2.6	44.03
165	14772	微細剥離痕のある剥片	-320.0909167	205.6866619	199.797	Ⅶ	b	T-60	メノウ	-	-	4.1	2.1	0.8	4.47
166	21031	剥片・砕片	-318.9732133	194.548438	198.804	Ⅶ	a	S-59	タンパク石	-	-	4.65	2.5	1.45	13.1
167	20606	叩石	-315.4638793	198.9255596	199.417	Ⅶ	b	S-59	頁岩	-	-	3.83	2.94	1.7	17.18

4　Ⅶａ層の遺物

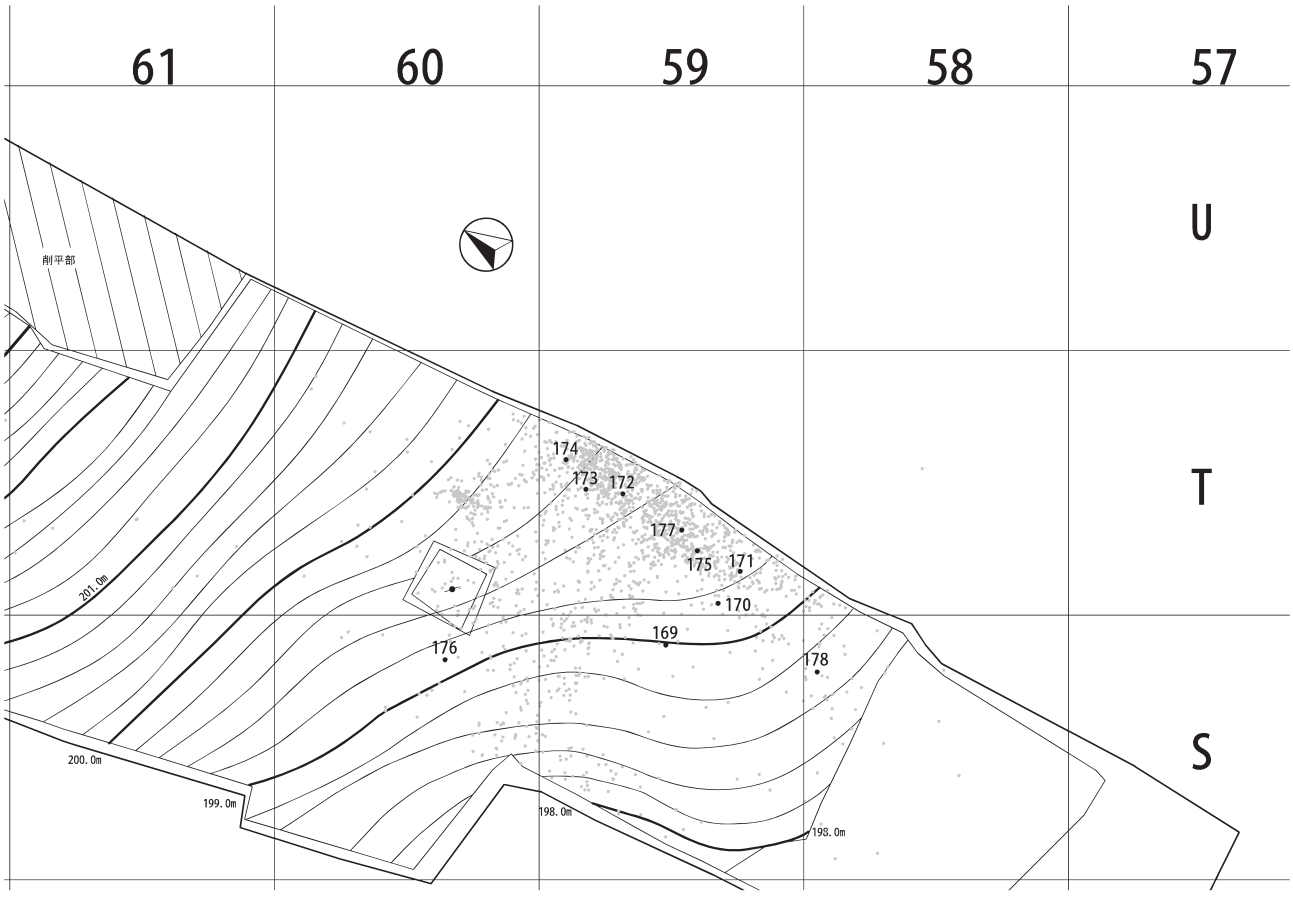
⑴　石器

169はOB-C製の細石刃核である。打面は剥落している。小礫から短くて幅広の細石刃を剥出している。170はOB-C製の細石刃核である。小型の円礫を4分割したものを素材とし，小型の細石刃を剥出している。右側面に細かい傷や磨滅が，また，打面の側方に微細剥離が観察され，いずれも固定具によるものと思われる。171はOB-C製の細石刃核である。色調はややグレーがかっている。小型の角礫を素材とし，石核整形をあまり施さずに細石刃を剥出している。打面に両側面からの剥離が観察される。172はOB-A製の細石刃核である。打面転移が複数回確認される。作業面に設定されたと思われる面が，正面，上面，右側面，背面の4面みられる。下部は欠損している。173はOB-A製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出し，残核形態は扁平となっている。174はOB-A製の細石刃核である。素材分割時のポジ面を打面に設定し，打面調整を施しながら細石刃を剥出している。作業面は背面を除く3面に設定されており，背面は平坦になるよう周辺からの調整が施されている。175はOB-A製の細石刃核である。打面調整を施しながら細石刃を剥出している。剥離が進行しているため，残核形態は扁平である。背面は2枚の大きな剥離面により，中央縦に稜を形成している。形成された稜には微細剥離痕が観察される。176は黒色安山岩製のブランクである。剥離痕はいずれも浅く，石核であるのか，ブランクであるのか，あるいは他の石器であるのか，分類が困難である。177はOB-A製の細石刃核である。作業面は相対する2面に設定されており，打面はそれぞれ上下異なる。それぞれ打面調整を施しながら細石刃を剥出している。178はOB-A製の作業面再生剥片である。179～257は細石刃である。詳細は観察表を参照頂きたい。

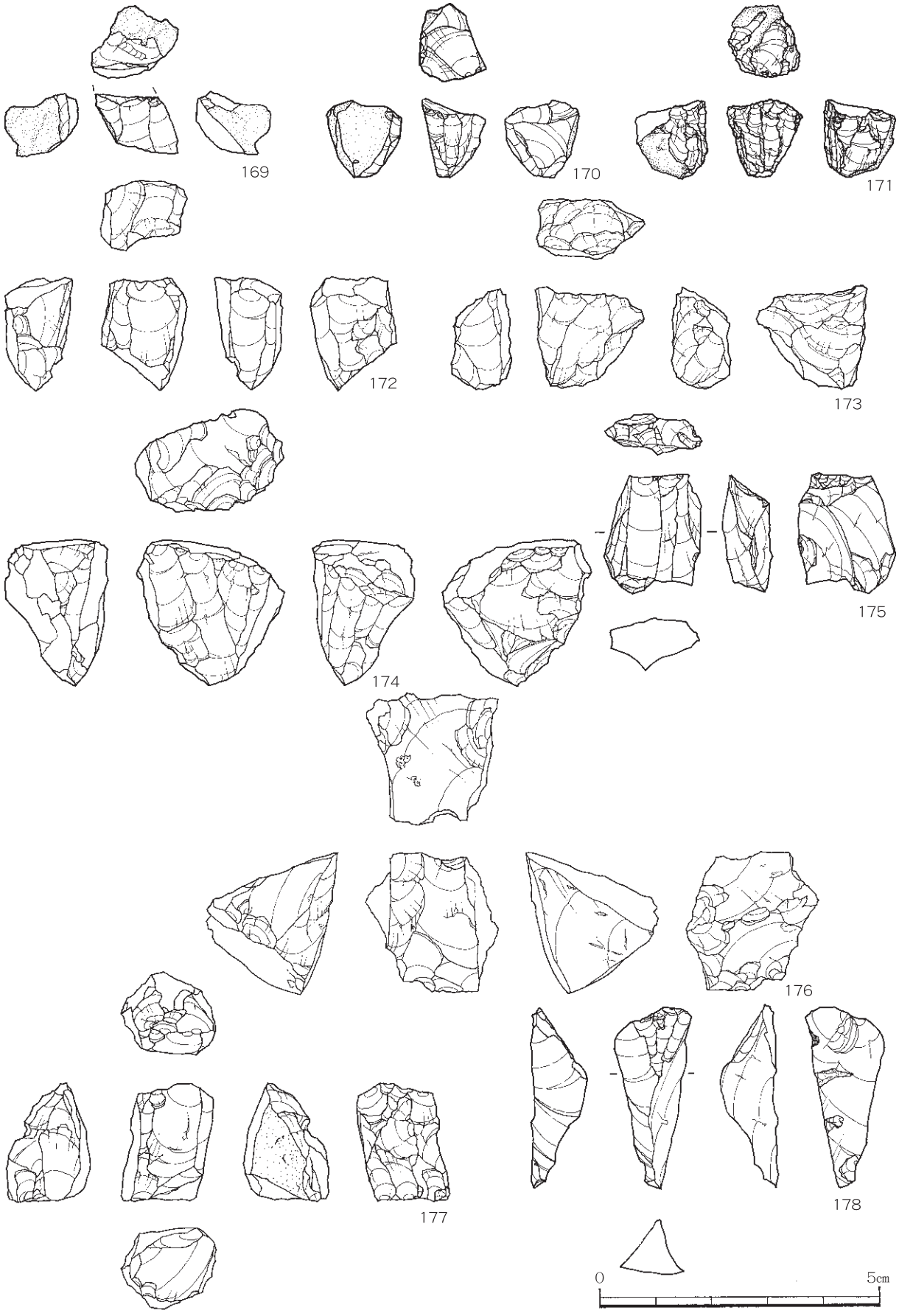
⑵　石材

Ⅶ層は細石器文化期とナイフ形石器文化終末期の遺物が出土しているが，定型石器以外の剥片類について，各時期への帰属を明らかにすることは不可能であるため，ここではⅦ層全体の石材利用状況についてみていきたい。

Ⅶ層の対象資料は1853点である。最も利用されている石材はOB-Aで，1050点，次に黒色安山岩264点，以下OB-B258点，硬質頁岩82点，タンパク石64点，OB-C35点，珪質頁岩35点，頁岩18点と続く。OB-Aはナイフ形石器から細石器まで幅広く利用されている。黒色安山岩は石鏃製作関連製品が中心となる。OB-Bは出土量の割に製品が少なく，利用主体は不明である。タンパク石はナイフ形石器，台形石器への利用が顕著である。硬質頁岩はナイフ形石器へも細石器へも利用されている。

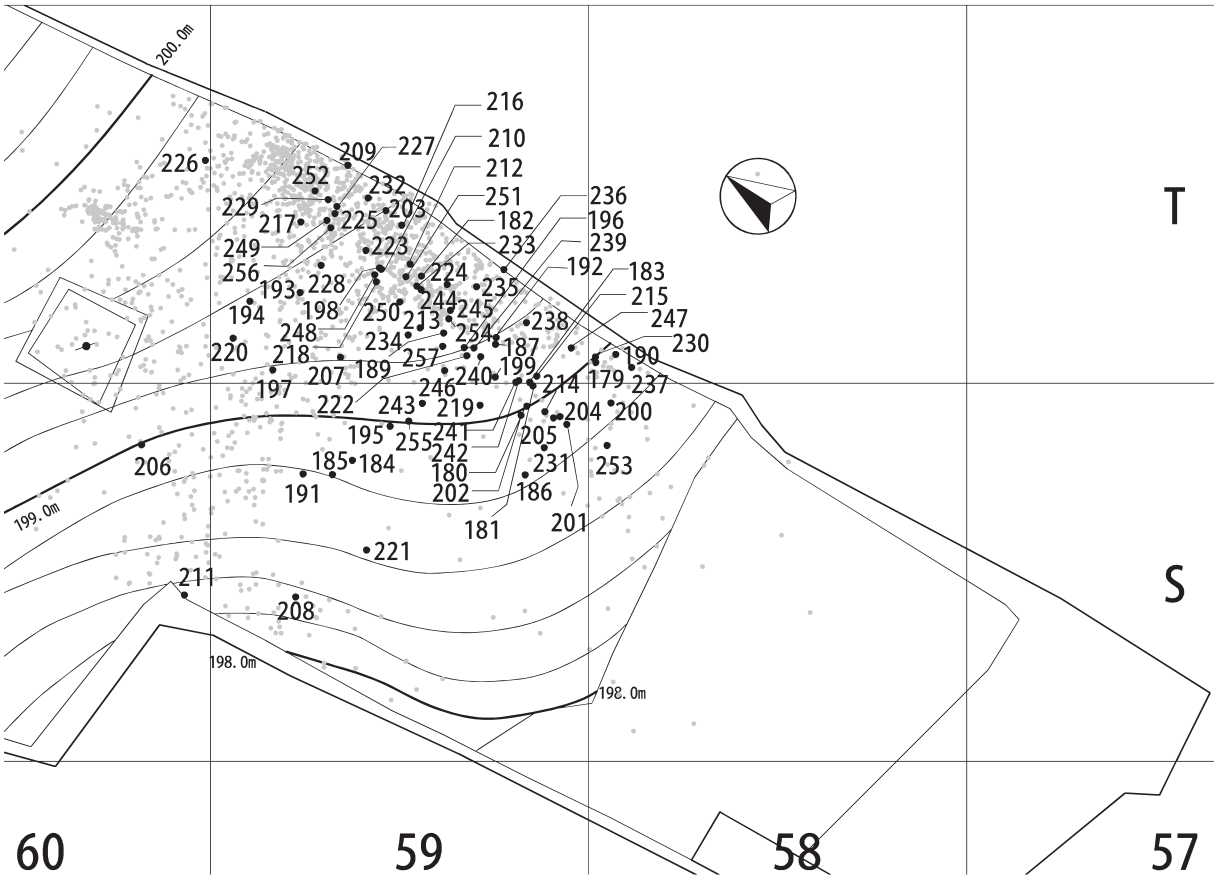


第306図　南区Ⅶａ層実測石器出土状況図（1）

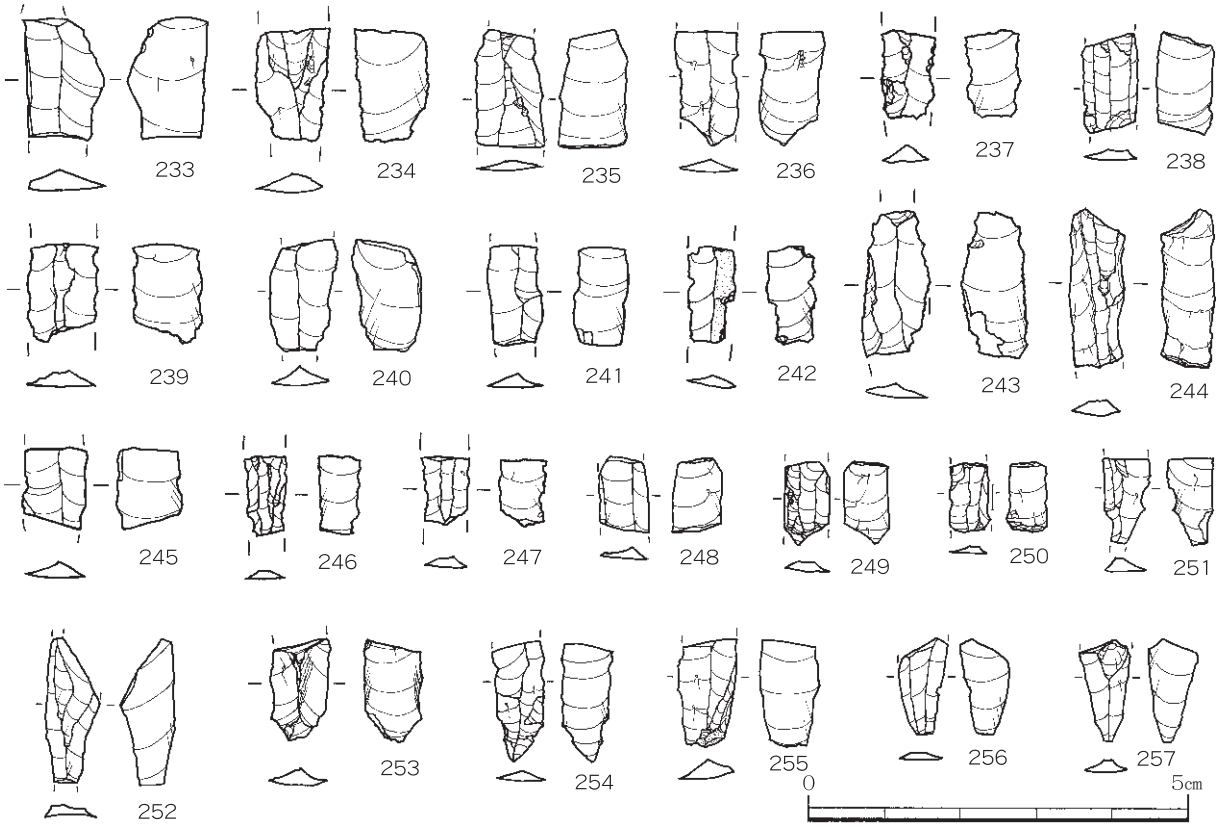


第307図　南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（４）

第308図　南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（５）



第309図　南区Ⅶａ層実測石器出土状況図（２）



第310図　南区Ⅶｂ～Ⅶａ層出土石器（６）

(3)　接合資料

接合資料 1

258は硬質頁岩の接合資料である。接合数は 5 枚と少ないものの，遺跡内における台形石器の製作工程を示す貴重な資料である。①は一連の素材剥片獲得の剥離作業を示すものである。①から②の剥離に至るまでに打面の再生あるいは打面転移が行われており，打面の高さが大きく減じられている。②から③に至るまでに再度打面再生あるいは打面転移が行われており，再び打面の高さが大きく減じられている。③の剥離で縦長素材を獲得後，④の剥離により縦長剥片の分割が行われている。分割後，分割面を打面とした平坦剥離及び⑤のように分割面と相対する側面に，腹面からのブランティングが施され，台形石器が製作されている。このように，当遺跡内においては，少なくとも素材剥片獲得の一連の作業，素材剥片の分割及びブランティングによる台形石器製作までの一通りの作業が行われていることが確認された。

接合資料 2

259は硬質頁岩 3 枚の剥片の接合資料である。ナイフ形石器あるいは台形石器の素材獲得に関する作業を示している。①の剥離の後，剥片はないものの②の打面転移が行われ，その後③，④の剥離で再び打面転移が行われている。

接合資料 3

260は打面再生剥片 2 枚の接合である。作業面に対して横方向からの再生作業が 2 度行われている。

接合資料 4

261はタンパク石の剥片 3 枚の接合である。縦長剥片の打面の対面に背面からの二次的な剥離が施されている。二次加工は不規則で，不純物が絡んでいるため，台形石器に仕上げるための二次加工かどうかは判断できない。右側縁に微細な剥離が観察される。

接合資料 5

262はタンパク石の横長剥片 7 枚の接合である。打面調整は確認されない。底面は自然面である。

接合資料 6

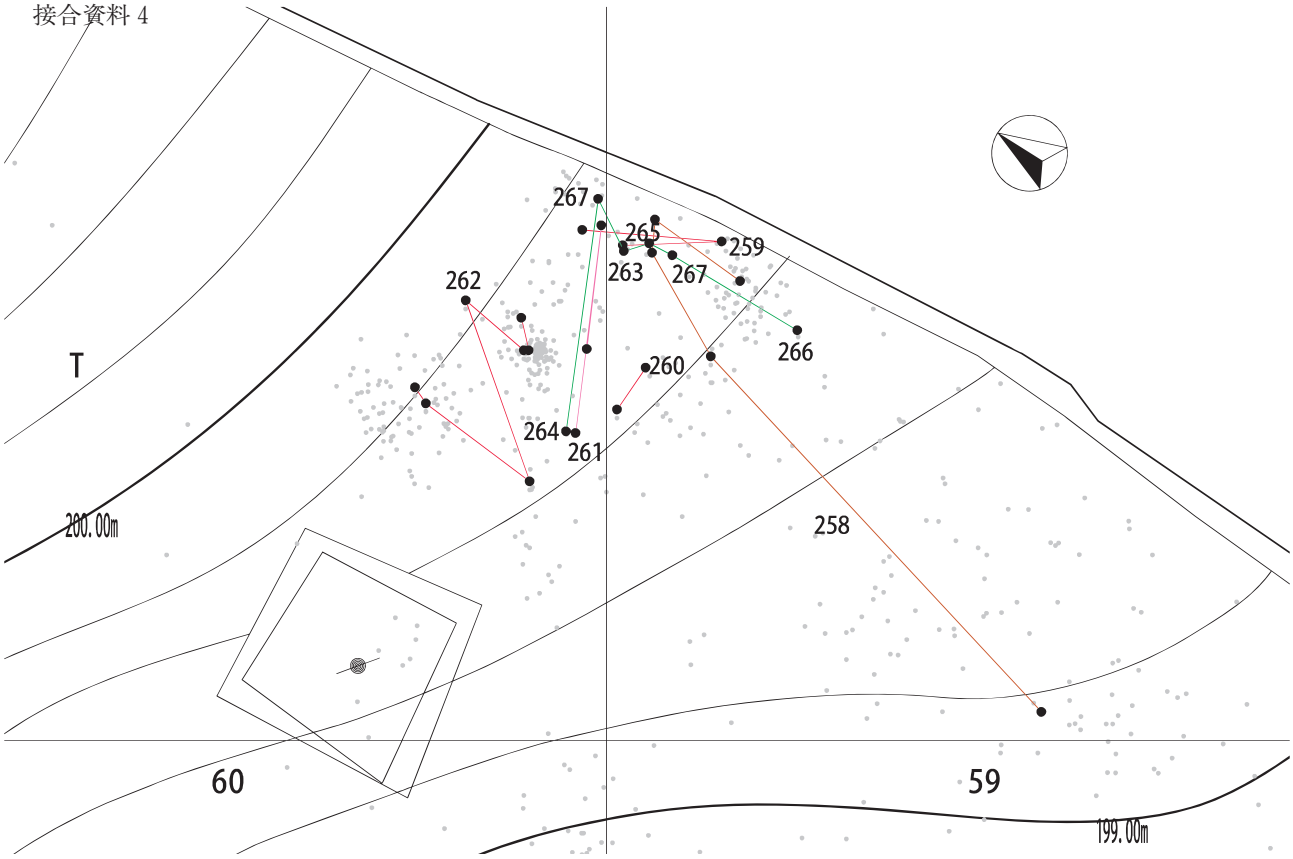
硬質頁岩の石核と剥片 3 枚の接合である。①，②で打面を形成し，③の剥離で素材剥片を剥出している。その後，同一打面から複数の剥片を剥出した後，180°打面を転移し，④，⑤の剥片を剥出している。

接合資料 7

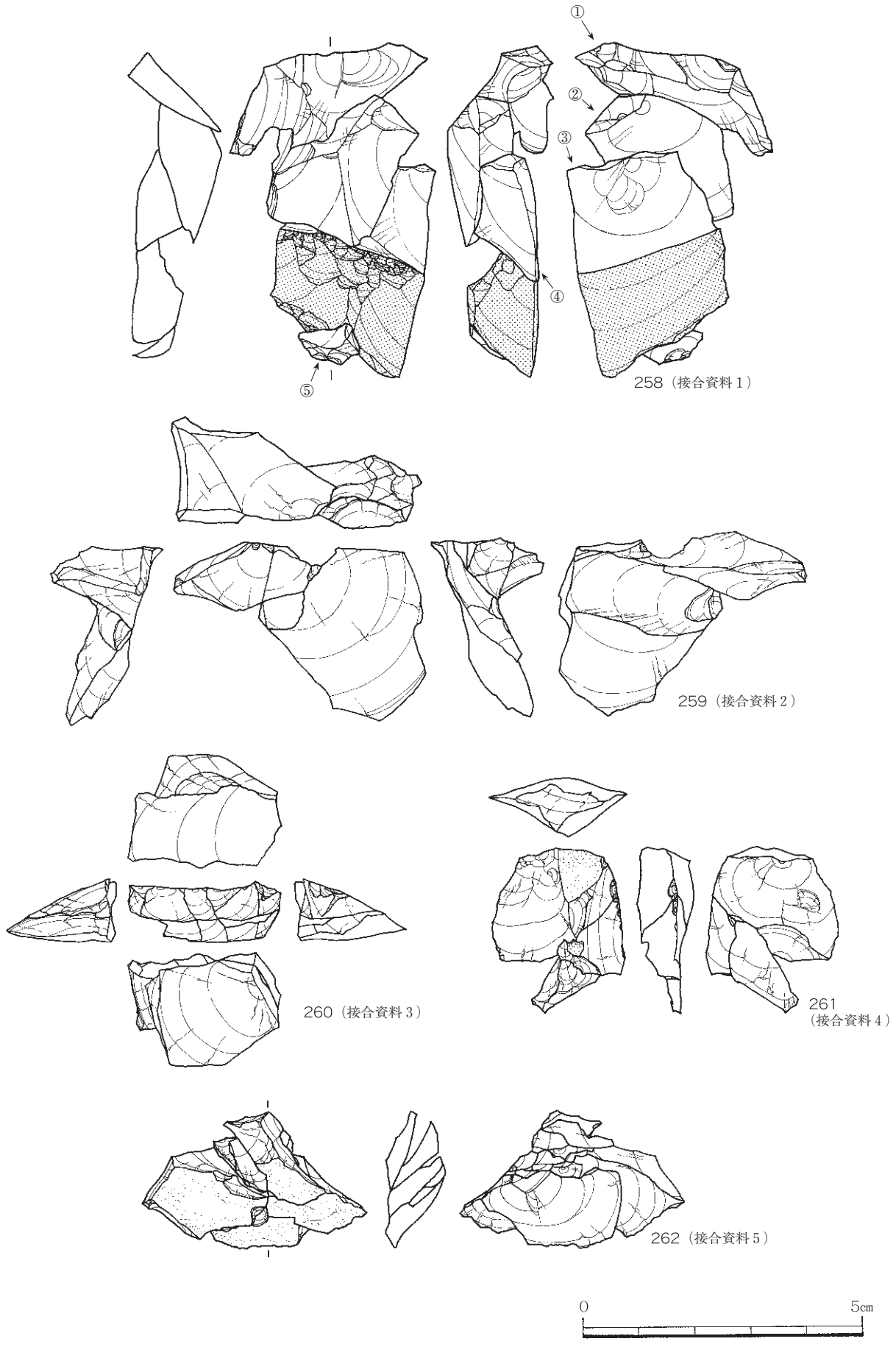
黒色安山岩の剥片 5 枚の接合である。①，②の剥片を剥出後，180° 打面を転移し，③の剥片を剥離し，その後再び180° 打面を転移し，④～⑤の剥片を剥離している。いずれも薄手の剥片を平坦に剥離している。剥片自体が目的剥片であるのか，あるいは何らかの石器製作のための調整剥片であるのか明らかにできない。

接合資料 8

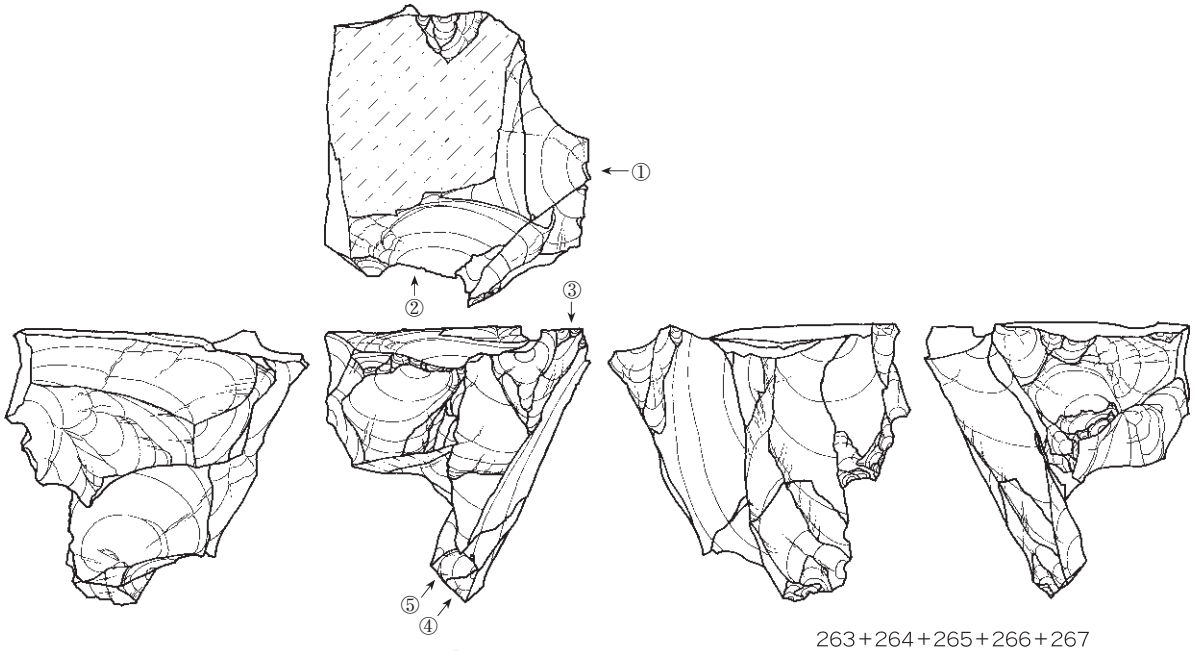
硬質頁岩製の細石刃核と石核整形剥片の接合である。作業面との切り合いから整形剥片剥離後に細石刃剥出が行われていることが確認される。



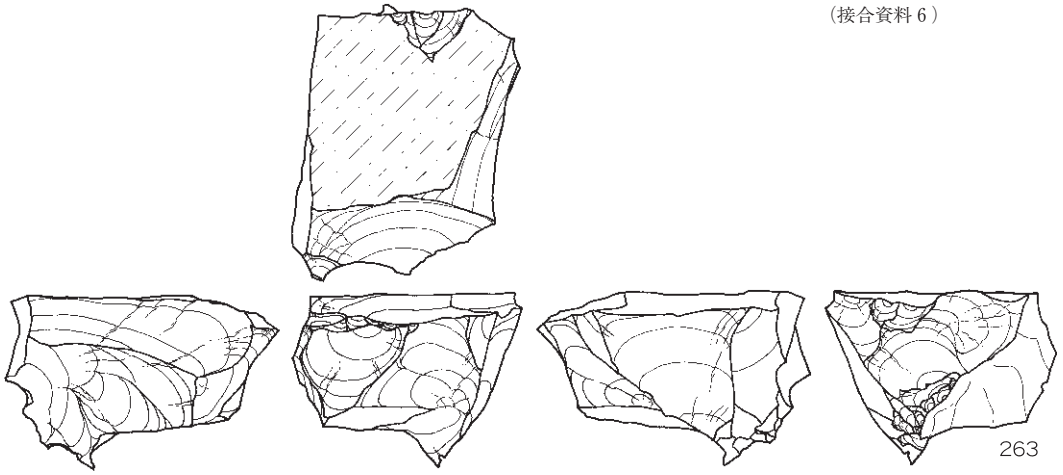
第311図　南区接合資料出土状況図（1）

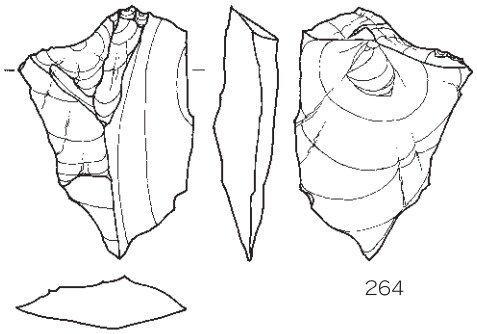


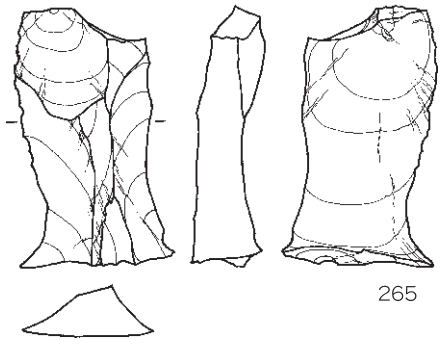
第312図　南区Ⅷ層接合資料（１）

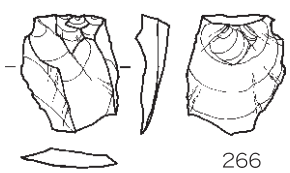


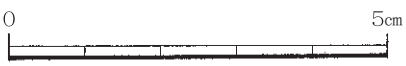
263＋264＋265＋266＋267
（接合資料６）



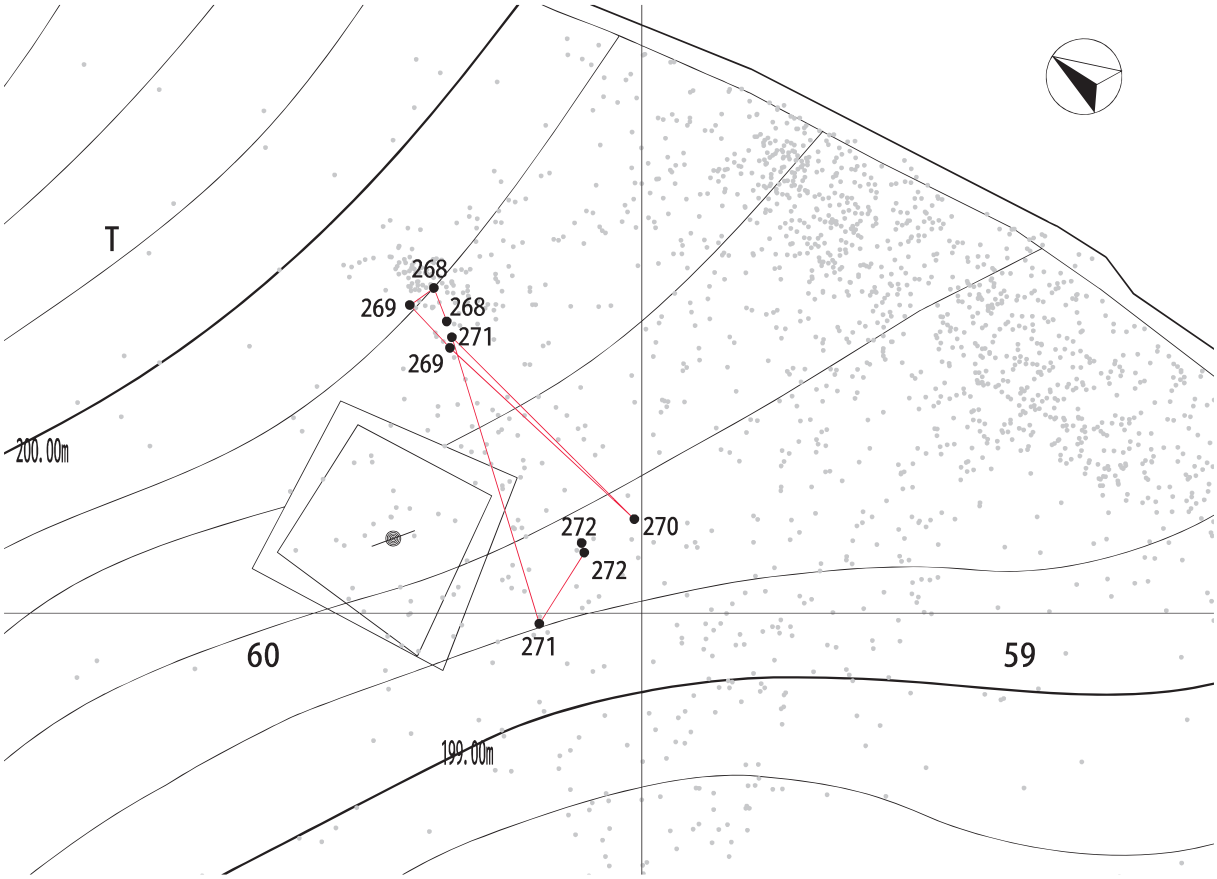




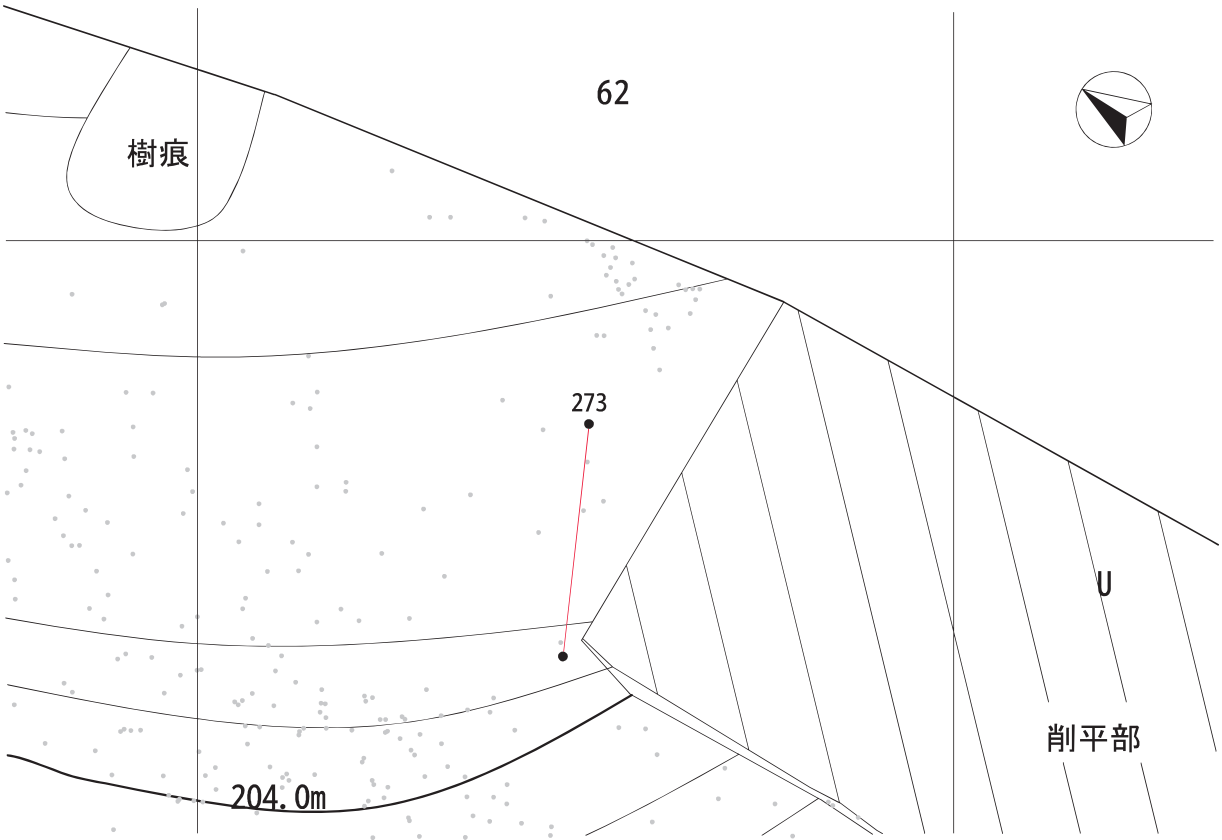




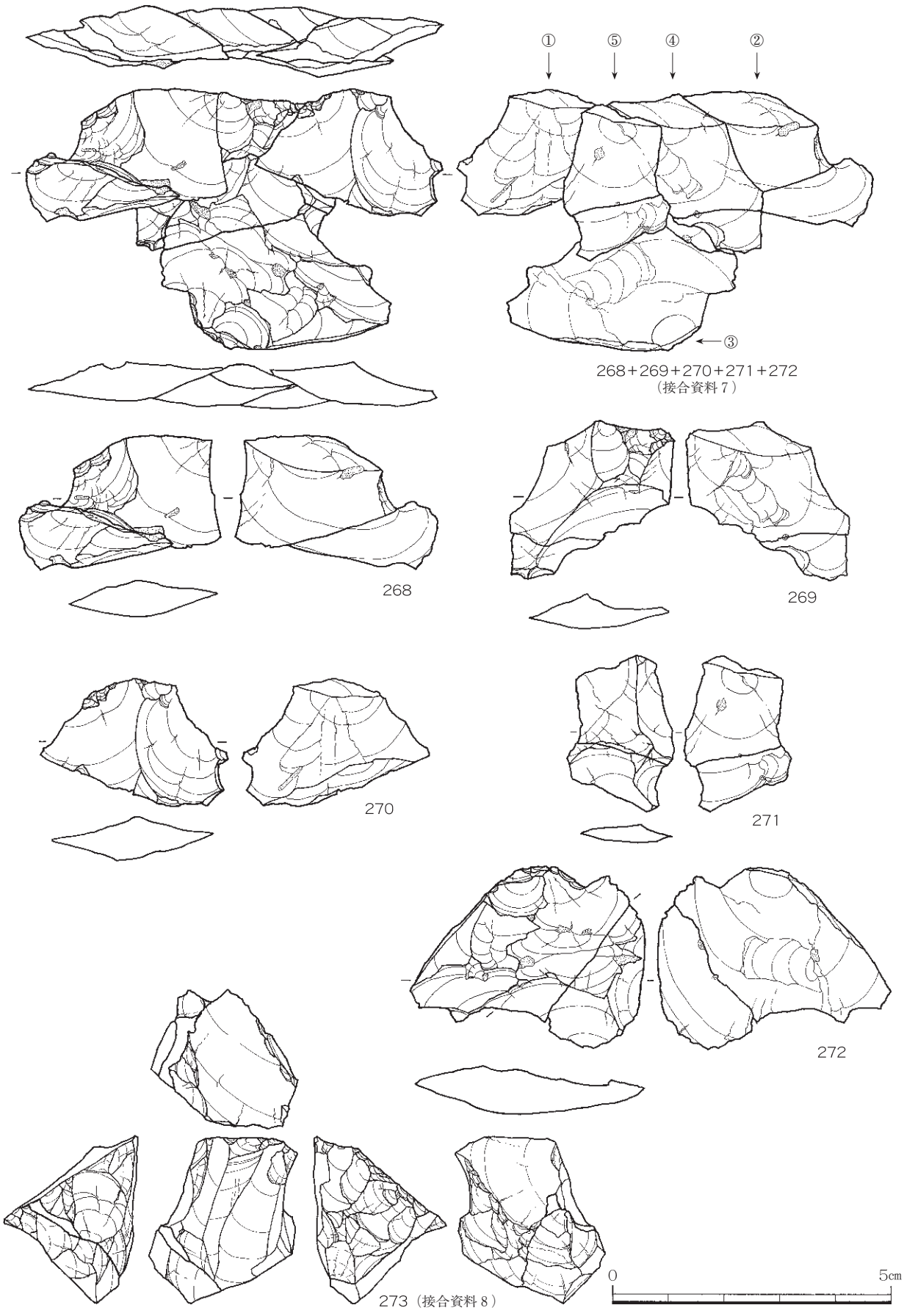
第313図　南区Ⅷ層接合資料（２）



第314図　南区接合資料出土状況図（２）



第315図　南区接合資料出土状況図（３）



第316図　南区・北区Ⅶ層接合資料

表104　南区　実測石器観察表（２）

図番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	石材	部位	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
168	14454	打面再生剝片	-319.4797764	204.9285447	199.761	Ⅶ	b	T-59	硬質頁岩	-	接合資料３	2.7	1.6	0.65	-
169	20612	細石刃核	-315.2113156	198.8696379	199.355	Ⅶ	b	S-59	OB-C	-	-	1.05	1.45	1.3	1.27
170	21160	細石刃核	-313.2325457	200.4430812	199.306	Ⅷ	-	T-59	OB-C	-	-	1.4	1.15	1.3	1.69
171	21421	細石刃核	-312.3978568	201.6465311	199.619	Ⅶ	a	T-59	OB-C	-	-	1.4	1.34	1.28	2.27
172	13106	細石刃核	-316.8294431	204.5768695	199.966	Ⅶ	a	T-59	OB-A	-	-	2.05	1.5	1.25	3.82
173	12931	細石刃核	-318.2290814	204.7468024	199.94	Ⅶ	b	T-59	OB-A	-	-	1.92	1.95	1.12	3.6
174	12880	細石刃核	-318.9767886	205.8691263	200.022	Ⅶ	b	T-59	OB-A	-	-	2.65	2.72	1.8	10.79
175	21532	細石刃核	-314.0191667	202.4321637	199.636	Ⅶ	b	T-59	OB-A	-	-	2.15	1.73	0.92	2.69
176	13406	ブランク	-323.5490033	198.3137423	199.411	Ⅶ	a	S-60	黒色安山岩	-	-	2.52	2.45	2.4	10.16
177	13738	細石刃核	-314.6084465	203.2080603	199.788	Ⅶ	b	T-59	OB-A	-	-	2.15	1.65	1.5	5.25
178	20741	作業面再生剝片	-309.4880714	197.8460946	199.215	Ⅶ	a	S-58	OB-A	-	-	3.25	1.4	1.05	2.21
179	21175	細石刃	-309.8039031	200.5477955	199.365	Ⅶ	a	T-58	OB-A	完形品	-	1.1	0.8	0.3	0.7
180	20632	細石刃	-311.6306954	199.3934619	199.318	Ⅶ	b	S-59	OB-A	完形品	-	1.8	0.7	0.15	0.26
181	20233	細石刃	-311.4655566	199.9310936	199.482	Ⅶ	a	S-59	OB-A	頭中部	-	1.9	0.6	0.3	0.39
182	14752	細石刃	-314.4195423	202.8288286	199.699	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭中部	-	2.15	0.7	0.2	0.35
183	20155	細石刃	-311.552549	200.0221376	199.48	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	2.4	0.75	0.2	0.59
184	20445	細石刃	-316.2407423	197.9564151	199.317	Ⅶ	a	S-59	OB-A	頭中部	-	2.35	0.85	0.25	0.55
185	20821	細石刃	-316.7707362	197.5777885	199.086	Ⅶ	b	S-59	OB-A	頭中部	-	1.8	0.75	0.2	0.26
186	20347	細石刃	-311.677251	197.5764853	199.149	Ⅶ	b	S-59	OB-A	頭中部	-	1.65	0.65	0.25	0.32
187	20114	細石刃	-312.4547177	201.0217183	199.587	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	1.6	0.65	0.2	0.18
188	12220	細石刃	-356.2027258	223.6036174	205.134	Ⅷ	b	V-63	OB-A	頭中部	-	2.05	0.7	0.2	0.28
189	20803	細石刃	-313.8278678	201.3283772	199.467	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭中部	-	1.9	0.8	0.25	0.46
190	21180	細石刃	-309.2755504	200.7615077	199.312	Ⅶ	a	T-58	OB-A	頭中部	-	1.9	0.7	0.25	0.36
191	20459	細石刃	-317.5483955	197.596199	199.176	Ⅶ	a	S-59	OB-A	頭部	-	1.5	0.9	0.1	0.33
192	21641	細石刃	-312.4403934	201.2083841	199.53	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭中部	-	1.4	0.75	0.15	0.21
193	13252	細石刃	-317.6212855	202.3949054	199.815	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭中部	-	1	0.65	0.25	0.23
194	13018	細石刃	-318.9506781	202.1606896	199.754	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭中部	-	1.35	0.7	0.15	0.21
195	20330	細石刃	-315.2494484	198.854543	199.467	Ⅶ	a	S-59	OB-A	頭部	-	1.3	0.7	0.2	0.25
196	20096	細石刃	-313.2824936	200.9419601	199.612	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭中部	-	1.4	0.8	0.15	0.12
197	13753	細石刃	-318.3466026	200.3465038	199.378	Ⅷ	-	T-59	OB-A	頭中部	-	1.3	0.65	0.15	0.17
198	13779	細石刃	-315.5300195	203.0425013	199.768	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭中部	-	1.3	0.65	0.2	0.22
199	20131	細石刃	-312.4629361	200.1568353	199.576	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	1.45	0.65	0.15	0.17
200	20721	細石刃	-309.4060782	199.4755706	199.328	Ⅶ	a	S-58	OB-A	中間部	-	1.3	0.65	0.2	0.2
201	20653	細石刃	-310.5754274	198.906214	199.215	Ⅶ	b	S-59	OB-C	頭中部	-	1.05	0.45	0.15	0.09
202	20222	細石刃	-311.7825662	199.1508271	199.458	Ⅶ	a	S-59	OB-A	頭中部	-	1.1	0.8	0.15	0.15
203	13729	細石刃	-315.360198	204.5576892	199.858	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭中部	-	1.25	0.75	0.1	0.18
204	20256	細石刃	-310.7540423	199.1153676	199.412	Ⅶ	a	S-59	OB-A	頭部	-	1.15	0.8	0.2	0.25
205	20257	細石刃	-310.9201341	199.0815602	199.4	Ⅶ	a	S-59	OB-A	頭中部	-	1.1	0.4	0.15	0.1
206	13395	細石刃	-321.8206767	198.3720238	199.324	Ⅶ	a	S-60	OB-A	頭部	-	1.05	0.6	0.1	0.11
207	13284	細石刃	-316.5621219	200.6855789	199.669	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭中部	-	1.1	0.75	0.15	0.12
208	21018	細石刃	-317.743735	194.3453689	198.682	Ⅶ	b	S-59	OB-A	頭中部	-	1.15	0.45	0.1	0.1
209	13834	細石刃	-316.3664139	205.7624798	199.938	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭部	-	0.95	0.7	0.15	0.16
210	13778	細石刃	-315.4786545	203.0126422	199.766	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭部	-	1.25	0.7	0.15	0.24
211	21055	細石刃	-320.6866359	194.3987142	198.799	Ⅶ	a	S-60	OB-A	頭部	-	0.9	0.7	0.15	0.09
212	14891	細石刃	-314.7142155	203.1525027	199.675	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭中部	-	0.95	0.55	0.1	0.09
213	20016	細石刃	-314.4509696	201.4596825	199.62	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭部	-	0.9	0.7	0.15	0.12
214	20642	細石刃	-311.1561669	199.2436493	199.319	Ⅶ	b	S-59	OB-A	頭部	-	0.9	0.7	0.1	0.11
215	20157	細石刃	-311.3660231	200.1887534	199.416	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中間部	-	1.1	0.55	0.1	0.09
216	14572	細石刃	-314.9345649	204.1740645	199.774	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭部	-	1	0.65	0.15	0.14
217	13643	細石刃	-317.6059465	204.2580822	199.934	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭部	-	1	0.6	0.2	0.19
218	14732	細石刃	-315.6110327	202.6765791	199.664	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭中部	-	1.15	0.7	0.2	0.18
219	20205	細石刃	-312.8648964	199.4144266	199.574	Ⅶ	a	S-59	OB-A	頭中部	-	1	0.45	0.1	0.05
220	13033	細石刃	-319.3978356	201.1904955	199.712	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭中部	-	1.25	0.45	0.1	0.13
221	20702	細石刃	-315.8715926	195.5868586	198.919	Ⅶ	b	S-59	OB-A	頭中部	-	1.2	0.6	0.15	0.11
222	20576	細石刃	-313.2174969	200.7220525	199.528	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭部	-	0.75	0.6	0.1	0.09
223	13167	細石刃	-315.8886472	203.5104471	199.913	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭部	-	0.75	0.65	0.15	0.1
224	21092	細石刃	-313.737007	202.6107798	199.711	Ⅶ	a	T-59	OB-A	頭部	-	0.8	0.8	0.15	0.11
225	13645	細石刃	-316.7010988	204.4831826	199.881	Ⅶ	b	T-59	OB-A	完形	-	1.65	0.45	0.1	0.14
226	12798	細石刃	-320.1328744	205.8867912	200.066	Ⅶ	a	T-60	頁岩	頭中部	-	1.4	0.4	0.15	0.16
227	13819	細石刃	-316.6514493	204.6709037	199.883	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭中部	-	1.45	0.45	0.1	0.14
228	13146	細石刃	-317.06945	203.116031	199.879	Ⅶ	a	T-59	OB-A	完形	-	1.5	0.5	0.2	0.15
229	13831	細石刃	-316.8866332	204.8500595	199.873	Ⅶ	b	T-59	OB-B	頭中部	-	1.3	0.5	0.2	0.11
230	21663	細石刃	-309.8163836	200.6926707	199.3	Ⅶ	a	T-58	OB-A	頭部	-	0.75	0.7	0.15	0.1
231	20354	細石刃	-311.1691506	198.2947476	199.238	Ⅶ	b	S-59	OB-A	頭中部	-	0.9	0.4	0.1	0.04
232	13820	細石刃	-315.8234019	204.8998245	199.861	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭部	-	0.75	0.6	0.1	0.07
233	21541	細石刃	-314.5419501	202.563635	199.625	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中間部	-	1.5	1	0.25	0.47
234	20006	細石刃	-314.7701937	201.2709573	199.638	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	1.35	0.8	0.25	0.35

表105　南区　実測石器観察表（３）

図番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	石材	部位	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
235	21574	細石刃	-312.9640999	202.5486614	199.68	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中間部	-	1.5	0.85	0.1	0.21
236	21716	細石刃	-312.2380591	203.0026121	199.666	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	1.5	0.7	0.15	0.19
237	21182	細石刃	-308.859232	200.4167829	199.342	Ⅶ	a	T-58	OB-A	中間部	-	1.1	0.6	0.2	0.16
238	21427	細石刃	-311.6357845	201.6021778	199.532	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	1.2	0.7	0.2	0.22
239	20107	細石刃	-313.0309579	200.9289791	199.521	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	1.1	0.8	0.2	0.27
240	20118	細石刃	-312.8490005	200.6998551	199.595	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	1.4	0.8	0.2	0.31
241	20590	細石刃	-311.9186207	200.0247617	199.397	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中間部	-	1.3	0.65	0.15	0.18
242	21172	細石刃	-311.8421772	200.0679502	199.306	Ⅷ	-	T-59	OB-A	中間部	-	1.15	0.65	0.1	0.11
243	20187	細石刃	-314.3906157	199.466767	199.547	Ⅶ	a	S-59	OB-A	中間部	-	1.8	0.8	0.15	0.31
244	21539	細石刃	-314.4285632	202.473153	199.624	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中間部	-	2	0.7	0.3	0.51
245	21589	細石刃	-313.6546485	201.9224416	199.669	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中間部	-	0.9	0.7	0.2	0.22
246	21156	細石刃	-313.8011014	200.3328508	199.147	Ⅷ	-	T-59	OB-A	中間部	-	0.95	0.55	0.1	0.09
247	21144	細石刃	-310.4572113	200.9340739	199.427	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	0.8	0.5	0.15	0.09
248	13219	細石刃	-315.6563187	202.8639836	199.772	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	0.9	0.6	0.1	0.08
249	13725	細石刃	-316.9193062	204.3063071	199.904	Ⅶ	b	T-59	OB-A	頭中部	-	0.9	0.55	0.1	0.1
250	14759	細石刃	-314.9867194	202.150301	199.667	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中間部	-	0.85	0.45	0.1	0.05
251	13208	細石刃	-314.8283354	202.8183438	199.82	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中間部	-	1.1	0.45	0.15	0.1
252	12977	細石刃	-317.2295602	205.0823861	199.963	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中間部	-	1.9	0.7	0.15	0.21
253	20732	細石刃	-309.5068856	198.3489325	199.238	Ⅶ	b	S-58	OB-A	尾部	-	1.2	0.8	0.2	0.22
254	21595	細石刃	-313.6971886	201.7033129	199.694	Ⅶ	a	T-59	OB-A	中尾部	-	1.5	0.55	0.1	0.07
255	20615	細石刃	-314.7529953	198.9970703	199.501	Ⅶ	a	S-59	OB-A	尾部	-	1.4	0.7	0.2	0.22
256	13794	細石刃	-316.817341	204.1063569	199.833	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中尾部	-	1.1	0.5	0.1	0.07
257	20558	細石刃	-313.8523665	200.9772215	199.465	Ⅶ	b	T-59	OB-A	中尾部	-	1.35	0.5	0.2	0.1

表106　接合資料観察表

図番号	遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	区	石材	部位	接合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
258	14471	剥片・砕片	-318.23391	206.0749796	199.866	Ⅶ	b	T-59	硬質頁岩	-	接合資料１	6	3.7	1.85	20.13
	14643	剥片・砕片	-319.3577377	206.8871927	199.879	Ⅶ	b	T-59	硬質頁岩	-					
	14778	剥片・砕片	-319.3963295	206.4506073	199.787	Ⅶ	b	T-59	硬質頁岩	-					
	20081	台形石器	-314.2469874	200.3776473	199.607	Ⅶ	a	T-59	硬質頁岩	-					
	14801	剥片・砕片	-318.6214157	205.0789673	199.641	Ⅷ	-	T-59	硬質頁岩	-					
259	14639	剥片・砕片	-319.7832087	206.5461392	199.86	Ⅶ	b	T-59	硬質頁岩	-	接合資料2	3.2	4.5	2.05	11.34
	14645	剥片・砕片	-318.4763999	206.5972641	199.937	Ⅶ	b	T-59	硬質頁岩	-					
	14773	剥片・砕片	-320.3203069	206.7502739	199.816	Ⅶ	b	T-60	硬質頁岩	-					
260	13962	剥片・砕片	-319.858605	204.3755276	199.575	Ⅷ	a	T-59	硬質頁岩	-	接合資料3	1.12	2.38	2	4.37
	14454	剥片・砕片	-319.4797764	204.9285447	199.761	Ⅶ	b	T-59	硬質頁岩	-					
261	12796	剥片・砕片	-320.2575352	205.1758219	200.084	Ⅶ	a	T-60	タンパク石	-	接合資料4	2.95	2.4	1.05	4.72
	12801	剥片・砕片	-320.0670602	206.8117373	200.152	Ⅶ	a	T-60	タンパク石	-					
	12804	剥片・砕片	-320.4076528	204.0661675	199.849	Ⅶ	b	T-60	タンパク石	-					
262	14184	剥片・砕片	-322.531209	204.6681949	199.696	Ⅷ	a	T-60	タンパク石	-	接合資料5	2.47	4.05	1.05	6.57
	14191	剥片・砕片	-322.3868782	204.4553562	199.739	Ⅷ	a	T-60	タンパク石	-					
	14271	剥片・砕片	-321.0144838	203.4244163	199.157	Ⅷ	a	T-60	タンパク石	-					
	15081	剥片・砕片	-321.8615021	205.8177437	199.396	Ⅷ	-	T-60	タンパク石	-					
	15130	剥片・砕片	-321.0919141	205.1588516	199.329	Ⅷ	-	T-60	タンパク石	-					
	15151	剥片・砕片	-321.0270441	205.1601949	199.3	Ⅷ	-	T-60	タンパク石	-					
	15198	剥片・砕片	-321.124123	205.5879435	199.248	Ⅷ	-	T-60	タンパク石	-					
263	14780	剥片・砕片	-319.803561	206.4361777	199.731	Ⅷ	-	T-59	硬質頁岩	-	接合資料6	3.65	3.5	4	34.78
264	12805	剥片・砕片	-320.5694714	204.0523034	199.916	Ⅶ	b	T-60	硬質頁岩	-					
265	14924	剥片・砕片	-319.4669263	206.5367342	199.759	Ⅷ	-	T-59	硬質頁岩	-					
266	14851	剥片・砕片	-317.5085361	205.3894594	199.671	Ⅶ	b	T-59	硬質頁岩	-					
267	14443	剥片・砕片	-319.1641608	206.3828097	199.882	Ⅶ	b	T-59	硬質頁岩	-					
268	12754	剥片・砕片	-322.578753	203.8584699	199.959	Ⅶ	b	T-60	黒色安山岩	-	接合資料7	4.5	7.5	0.7	23.43
	13683	剥片・砕片	-322.7486601	204.299216	199.803	Ⅷ	-	T-60	黒色安山岩	-					
269	13601	剥片・砕片	-323.0659113	204.0747686	199.875	Ⅶ	a	T-60	黒色安山岩	-					
	13696	剥片・砕片	-322.5345876	203.5048361	199.723	Ⅷ	-	T-60	黒色安山岩	-					
270	12843	剥片・砕片	-320.0984349	201.2409313	199.651	Ⅶ	a	T-60	黒色安山岩	-					
271	12760	剥片・砕片	-322.509387	203.6486572	199.735	Ⅶ	b	T-60	黒色安山岩	-					
	13414	剥片・砕片	-321.3545978	199.859233	199.473	Ⅶ	a	S-60	黒色安山岩	-					
272	12839	剥片・砕片	-320.7615372	200.7989667	199.573	Ⅶ	a	T-60	黒色安山岩	-					
	12840	剥片・砕片	-320.7932483	200.9271036	199.595	Ⅶ	a	T-60	黒色安山岩	-					
273	10411	細石刃核	-345.1672891	214.4992565	204.266	Ⅶ	-	U-62	硬質頁岩	-	接合資料8	3	2.6	2.4	13.03
	12291	剥片・砕片	-344.8220994	217.5751757	204.767	Ⅶ	-	U-62	硬質頁岩	-					

表107　Ⅷ・Ⅶ層　剥片石器利用石材別重量表（単位：ｇ）

石材	ＯＢ－Ａ	ＯＢ－Ｂ	ＯＢ－Ｃ	ＯＢ－Ｅ	瑪瑙	鉄石英	石英	タンパク石	合計
重量	2164.59	1102.57	159.4	172.15	3.22	5.12	72.49	77.68	
石材	チャート	黒色安山岩	安山岩	頁岩	珪質頁岩	硬質頁岩	軟質シルト質頁岩	硬砂岩	4784.1
重量	18.71	334.65	23.76	228.61	12.05	311.84	23.18	74.04	

表108　掲載以外の細石刃一覧表（１）

遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	石材	部位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
10010	細石刃	-357.6	219.5	204.8	7	-	OB-C	中間部	1.3	0.3	0.1	0.07
10019	細石刃	-358.4	218.4	204.7	7	-	OB-A	中間部	1.1	0.4	0.15	0.12
10025	細石刃	-358.6	218.3	204.6	7	-	OB-A	中間部	1.2	0.65	0.2	0.23
10078	細石刃	-355.0	218.8	204.5	7	-	OB-A	中間部	0.75	0.6	0.1	0.1
10091	細石刃	-355.3	218.1	204.5	7	-	OB-C	中間部	0.7	0.5	0.1	0.05
10103	細石刃	-354.7	218.4	204.5	7	-	OB-C	完形	1.2	0.5	0.1	0.11
10112	細石刃	-354.7	218.8	204.6	7	-	OB-A	頭部	0.9	0.7	0.15	0.13
10119	細石刃	-354.7	218.5	204.5	7	-	OB-A	中間部	0.95	0.5	0.1	0.09
10121	細石刃	-354.3	218.7	204.5	7	-	OB-C	頭部	0.9	0.6	0.15	0.13
10122	細石刃	-354.3	218.7	204.5	7	-	OB-C	完形	1.4	0.4	0.15	0.14
10136	細石刃	-354.3	218.3	204.5	7	-	OB-C	尾部	0.8	0.4	0.1	0.04
10141	細石刃	-354.6	217.7	204.4	7	-	OB-A	中間部	1.1	0.6	0.15	0.13
10152	細石刃	-353.8	218.4	204.5	7	-	OB-C	中間部	0.9	0.5	0.2	0.11
10175	細石刃	-353.2	217.8	204.5	7	-	OB-C	頭中部	1.2	0.5	0.2	0.16
10205	細石刃	-352.4	217.5	204.5	7	-	OB-C	頭部	1.15	0.7	0.15	0.17
10208	細石刃	-352.3	217.5	204.5	7	-	OB-A	尾部	1.4	0.8	0.3	0.42
10211	細石刃	-352.4	217.2	204.5	7	-	OB-C	完形	1.75	0.7	1.5	0.25
10228	細石刃	-352.9	217.0	204.5	7	-	OB-C	中間部	1.2	0.4	0.1	0.12
10240	細石刃	-351.5	216.4	204.4	7	-	OB-A	中間部	1.15	0.7	0.15	0.15
10258	細石刃	-352.4	215.3	204.3	7	-	OB-C	中間部	1.1	0.4	0.15	0.11
10273	細石刃	-353.6	215.8	204.3	7	-	OB-C	完形	1.75	0.4	0.2	0.21
10279	細石刃	-353.7	215.7	204.3	7	-	OB-A	中間部	0.9	0.65	0.2	0.21
10283	細石刃	-353.7	215.2	204.3	7	-	OB-C	頭部	0.95	0.65	0.1	0.12
10333	細石刃	-355.0	216.3	204.3	7	-	OB-A	頭部	0.9	0.6	0.1	0.1
10356	細石刃	-355.8	215.9	204.3	7	-	OB-C	中間部	0.7	0.5	0.1	0.04
10398	細石刃	-355.5	215.7	204.2	7	-	OB-C	頭部	1.1	0.6	0.1	0.09
10436	細石刃	-344.1	213.5	204.0	7	-	OB-C	中間部	1.6	0.75	0.25	0.33
10499	細石刃	-347.5	213.5	204.2	7	-	OB-C	中間部	1	0.8	0.2	0.25
10518	細石刃	-355.6	215.4	204.2	7	-	OB-A	頭部	0.85	0.6	0.2	0.12
10538	細石刃	-355.0	215.7	204.2	7	-	OB-A	頭部	0.8	0.6	0.15	0.09
10544	細石刃	-355.0	215.1	204.1	7	-	OB-C	中間部	0.8	0.5	0.1	0.09
10567	細石刃	-356.0	214.2	204.1	7	-	OB-A	頭部	1.15	0.75	0.25	0.25
10621	細石刃	-354.5	214.7	204.1	7	-	OB-C	完形	1.6	0.55	0.3	0.24
10636	細石刃	-353.6	214.7	204.1	7	-	OB-C	完形	1.6	0.65	0.3	0.4
10638	細石刃	-353.3	214.9	204.2	7	-	OB-C	中間部	0.7	0.7	0.1	0.09
10723	細石刃	-355.8	211.7	203.9	7	-	OB-C	完形	2.15	0.4	0.15	0.24
10782	細石刃	-357.6	213.0	203.9	7	-	OB-C	中間部	1.1	0.6	0.15	0.13
10802	細石刃	-357.2	214.0	204.1	8	b	OB-A	中間部	0.7	0.4	0.15	0.06
10856	細石刃	-358.8	210.3	203.6	8	b	OB-A	中間部	0.6	0.5	0.1	0.05
10877	細石刃	-350.4	214.0	204.2	7	-	OB-C	頭中部	1.05	0.35	0.1	0.03
10952	細石刃	-348.9	212.8	204.1	7	-	OB-C	頭中部	1	0.4	0.1	0.04
11007	細石刃	-347.1	211.3	203.8	7	-	OB-C	頭中部	1	0.4	0.1	0.03
11066	細石刃	-340.7	207.2	202.6	7	-	OB-A	中間部	0.9	0.6	0.2	0.12
11200	細石刃	-359.8	209.8	203.5	7	-	OB-C	頭中部	1.2	0.4	0.1	0.08
11215	細石刃	-359.4	207.9	203.2	7	-	OB-C	完形	1.15	0.4	0.1	0.08
11231	細石刃	-357.3	207.9	203.3	7	-	OB-C	頭中部	1.2	0.5	0.15	0.13
11254	細石刃	-357.1	207.3	203.2	7	-	OB-C	頭中部	1	0.4	0.05	0.04
11281	細石刃	-360.8	209.9	203.4	7	-	OB-C	頭部	0.55	0.45	0.15	0.04
11283	細石刃	-360.8	209.7	203.3	8	b	OB-C	中間部	0.8	0.3	0.15	0.04
11284	細石刃	-360.8	209.5	203.3	7	-	OB-C	頭部	0.75	0.55	0.1	0.05
11300	細石刃	-360.0	208.3	203.2	8	b	OB-C	頭部	1.2	0.9	0.2	0.21
11312	細石刃	-355.4	217.9	204.4	8	b	OB-A	頭中部	1.7	0.7	0.15	0.3
11339	細石刃	-355.9	215.3	204.2	8	b	OB-A	中間部	1	0.45	0.15	0.11
11411	細石刃	-347.8	212.1	203.9	8	a	OB-A	中間部	1.4	0.4	0.25	0.19
11422	細石刃	-346.0	213.5	204.1	8	a	OB-C	中間部	0.6	0.35	0.1	0.03
12105	細石刃	-347.1	213.8	204.0	8	b	OB-C	完形	1.75	0.7	0.2	0.16
12160	細石刃	-357.1	220.4	204.9	8	a	OB-B	頭部	1	0.7	0.2	0.14
12197	細石刃	-357.3	223.8	205.0	8	b	OB-A	頭中部	1.1	0.6	0.2	0.14
12204	細石刃	-357.4	221.8	205.0	8	b	OB-A	尾部	1.5	0.7	0.2	0.35
12209	細石刃	-357.3	221.5	204.9	8	b	OB-A	尾部	0.9	0.5	0.1	0.08
12243	細石刃	-354.6	220.6	204.8	8	b	OB-A	尾部	1.2	0.45	0.15	0.11
12249	細石刃	-353.9	220.2	204.8	8	b	OB-C	頭部	0.7	0.5	0.15	0.07
12253	細石刃	-352.7	220.5	204.8	8	b	OB-C	頭部	0.7	0.6	0.15	0.05
12270	細石刃	-348.7	217.9	204.7	7	-	OB-C	尾部	0.9	0.6	0.2	0.1
12276	細石刃	-348.4	217.3	204.7	7	-	硬質頁岩	中間部	1	0.45	0.1	0.08
12279	細石刃	-348.0	216.8	204.6	7	-	OB-C	中間部	0.7	0.65	0.1	0.07
12287	細石刃	-345.4	217.5	204.7	7	-	OB-A	頭中部	1.05	0.5	0.15	0.11
12295	細石刃	-343.4	219.4	204.7	7	-	OB-C	頭部	1.25	0.85	0.15	0.36
12299	細石刃	-344.6	218.7	204.8	7	-	OB-B	頭中部	1.4	0.7	0.25	0.37
12300	細石刃	-344.7	218.7	204.8	7	-	硬質頁岩	頭中部	0.8	0.3	0.1	0.04
12302	細石刃	-345.3	219.3	204.8	7	-	OB-C	中間部	0.95	0.45	0.1	0.07
12455	細石刃	-357.2	223.9	205.1	8	b	OB-A	尾部	1	0.8	0.15	0.13
12620	細石刃	-352.4	220.3	204.8	8	b	OB-C	中間部	1	0.5	0.1	0.06
12633	細石刃	-347.0	219.9	204.8	8	b	OB-C	完形	1.5	0.7	0.1	0.12
12665	細石刃	-344.8	217.1	204.6	7	a	OB-C	中間部	0.7	0.4	0.1	0.04
12668	細石刃	-345.5	216.1	204.5	7	a	OB-C	尾部	0.7	0.5	0.15	0.04
12669	細石刃	-346.4	216.6	204.5	7	b	OB-C	中間部	0.7	0.5	0.1	0.07
12849	細石刃	-319.7	202.7	199.8	7	b	OB-A	中間部	1.3	0.7	0.15	0.18
12883	細石刃	-319.0	205.7	200.0	7	b	OB-A	中間部	0.8	0.7	0.15	0.11
12900	細石刃	-318.4	206.2	200.1	7	b	OB-A	中間部	0.8	0.7	0.15	0.13
12906	細石刃	-317.9	206.5	200.1	7	a	OB-A	尾部	1.15	0.7	0.2	0.18
12908	細石刃	-318.0	206.1	200.1	7	b	OB-A	尾部	0.8	0.4	0.15	0.06
12919	細石刃	-318.1	205.5	200.0	7	b	OB-A	中間部	1.2	0.8	0.2	0.21
12951	細石刃	-317.9	205.2	200.0	7	b	OB-A	尾部	0.8	0.6	0.1	0.05
12958	細石刃	-317.5	205.4	200.1	8	a	OB-A	頭中部	1	0.4	0.1	0.08
12976	細石刃	-317.3	205.0	200.0	7	b	OB-A	中間部	0.75	0.5	0.05	0.04
13047	細石刃	-318.2	200.6	199.5	7	b	OB-A	中間部	0.8	0.6	0.2	0.11

表109　掲載以外の細石刃一覧表（２）

遺物番号	器種	X座標(m)	Y座標(m)	標高(m)	層1	層2	石材	部位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
13070	細石刃	-316.9	205.6	200.0	7	a	OB-A	頭中部	1	0.45	0.15	0.09
13071	細石刃	-316.9	205.5	200.0	7	a	OB-A	中間部	0.85	0.6	0.15	0.12
13103	細石刃	-316.9	204.2	200.0	7	a	OB-A	中間部	1.15	0.5	0.1	0.15
13104	細石刃	-316.9	204.3	200.0	7	a	OB-A	中間部	0.6	0.55	0.15	0.07
13134	細石刃	-316.8	203.9	200.0	7	a	OB-A	中間部	0.8	0.4	0.1	0.04
13163	細石刃	-316.0	203.3	199.9	7	a	OB-A	尾部	0.8	0.6	0.2	0.12
13205	細石刃	-315.2	202.9	199.8	7	a	OB-A	尾部	0.7	0.4	0.1	0.04
13237	細石刃	-315.6	201.9	199.8	7	a	OB-A	中間部	1.05	0.7	0.2	0.21
13245	細石刃	-316.4	202.0	199.8	7	a	OB-A	中間部	1.05	0.55	0.15	0.1
13255	細石刃	-317.7	202.2	199.7	7	a	OB-A	頭中部	1.4	0.6	0.15	0.21
13268	細石刃	-317.2	200.6	199.6	7	a	OB-A	中間部	1.1	0.4	0.1	0.07
13271	細石刃	-316.6	201.1	199.7	7	a	OB-A	尾部	0.8	0.4	0.05	0.03
13281	細石刃	-316.3	200.2	199.6	7	a	OB-A	頭中部	1	0.4	0.15	0.1
13288	細石刃	-317.9	200.1	199.6	7	a	OB-A	中間部	0.95	0.5	0.15	0.08
13298	細石刃	-318.6	199.6	199.5	7	a	OB-A	頭中部	1	0.5	0.15	0.1
13305	細石刃	-319.1	199.4	199.4	7	a	OB-A	中間部	1.1	0.7	0.1	0.13
13319	細石刃	-318.5	199.2	199.5	7	a	OB-A	中間部	1.2	0.8	0.2	0.26
13353	細石刃	-318.6	198.0	199.3	7	a	OB-A	中間部	1.9	0.6	0.3	0.44
13357	細石刃	-318.6	197.7	199.2	7	b	OB-A	中間部	1	0.5	0.1	0.08
13433	細石刃	-318.6	204.8	199.9	8	-	OB-A	完形	1.5	0.5	0.1	0.12
13451	細石刃	-355.0	214.0	204.1	8	b	OB-A	中間部	1.05	0.5	0.15	0.14
13458	細石刃	-354.0	214.5	204.0	8	b	OB-C	頭部	0.8	0.6	0.15	0.09
13469	細石刃	-354.8	215.7	204.1	8	b	OB-C	中間部	1.3	0.6	0.2	0.2
13474	細石刃	-353.2	216.2	204.3	8	b	OB-C	頭中部	1.15	0.65	0.15	0.12
13485	細石刃	-351.7	221.0	204.9	8	b	OB-C	頭中部	1.25	1.05	0.2	0.05
13492	細石刃	-353.1	222.3	205.0	8	b	OB-A	頭部	0.9	0.7	0.15	0.17
13545	細石刃	-357.5	221.5	204.9	8	b	OB-A	頭中部	1	0.6	0.1	0.11
13593	細石刃	-355.3	218.4	204.5	8	b	OB-C	頭中部	0.9	0.4	0.1	0.06
13628	細石刃	-318.2	205.6	200.0	7	a	OB-A	頭中部	1.2	0.8	0.2	0.3
13647	細石刃	-316.6	204.2	199.9	7	a	OB-A	尾部	0.8	0.6	0.15	0.09
13653	細石刃	-315.2	202.4	199.8	7	a	OB-A	尾部	1.3	0.7	0.2	0.28
13715	細石刃	-316.9	205.7	200.0	7	b	OB-A	完形	1.4	0.7	0.1	0.12
13718	細石刃	-316.3	205.6	200.0	7	b	OB-A	頭部	0.9	0.5	0.1	0.07
13735	細石刃	-315.1	203.9	199.8	7	b	OB-A	頭部	0.6	0.55	0.15	0.07
13751	細石刃	-318.9	201.1	199.4	8	-	OB-A	中間部	1.8	0.9	0.25	0.52
13793	細石刃	-316.7	204.4	199.9	7	b	OB-A	尾部	1.1	0.7	0.15	0.16
13796	細石刃	-317.5	204.6	199.8	7	b	OB-A	中間部	1.3	0.5	0.2	0.14
13799	細石刃	-317.5	204.7	199.9	7	b	OB-A	中間部	0.9	0.6	0.15	0.07
13814	細石刃	-316.6	205.1	199.9	7	b	OB-A	中間部	1.05	0.4	0.15	0.08
13816	細石刃	-316.3	205.1	199.9	7	b	OB-A	中間部	0.8	0.65	0.1	0.1
13866	細石刃	-358.6	220.4	204.8	8	b	OB-A	中尾部	1.2	0.3	0.2	0.12
14151	細石刃	-323.7	201.0	199.7	7	a	OB-C	中間部	0.65	0.4	0.1	0.04
14633	細石刃	-314.9	204.7	199.8	7	a	OB-A	中間部	0.9	0.5	0.1	0.06
14731	細石刃	-315.5	203.1	199.7	7	b	OB-A	中間部	0.65	0.6	0.1	0.09
14761	細石刃	-315.8	204.1	199.7	7	b	OB-A	中間部	0.8	0.4	0.1	0.03
14762	細石刃	-314.8	203.9	199.7	7	b	OB-A	中間部	0.85	0.4	0.1	0.06
20066	細石刃	-313.9	201.6	199.7	7	a	OB-A	中間部	1.45	0.5	0.15	0.12
20074	細石刃	-314.0	200.9	199.6	7	a	OB-A	尾部	0.9	0.4	0.1	0.05
20078	細石刃	-313.8	200.4	199.5	7	a	OB-A	中間部	1.2	0.55	0.1	0.11
20085	細石刃	-313.8	200.2	199.6	7	a	OB-A	中間部	1.05	0.45	0.1	0.06
20091	細石刃	-313.3	200.4	199.5	7	b	OB-A	中間部	1.4	0.6	0.1	0.15
20094	細石刃	-313.3	200.7	199.5	7	b	OB-A	尾部	1.1	0.7	0.1	0.11
20104	細石刃	-313.1	201.1	199.5	7	a	OB-A	中間部	0.75	0.6	0.1	0.07
20129	細石刃	-312.5	200.3	199.6	7	a	OB-A	中間部	1.1	0.6	0.1	0.12
20209	細石刃	-312.4	199.9	199.6	7	a	OB-A	頭中部	0.9	0.5	0.1	0.05
20235	細石刃	-311.4	199.7	199.5	7	a	OB-A	中間部	0.7	0.6	0.2	0.11
20275	細石刃	-311.5	199.0	199.4	7	a	OB-A	中間部	1.05	0.5	0.15	0.11
20371	細石刃	-310.0	196.8	199.1	7	a	OB-C	頭中部	1.2	0.45	0.1	0.06
20437	細石刃	-314.9	197.7	199.4	7	a	OB-A	中間部	1.4	0.6	0.2	0.19
20449	細石刃	-317.0	198.2	199.3	7	a	OB-A	中間部	0.7	0.55	0.1	0.05
20539	細石刃	-314.7	200.8	199.5	7	b	OB-A	中間部	0.7	0.9	0.1	0.1
20540	細石刃	-315.2	200.9	199.6	7	a	OB-A	中間部	0.7	0.55	0.15	0.06
20573	細石刃	-313.2	201.3	199.4	7	b	OB-A	頭部	0.5	0.4	0.05	0.02
20580	細石刃	-312.5	201.1	199.5	7	b	OB-A	中間部	1	0.6	0.1	0.06
20650	細石刃	-310.8	199.2	199.3	7	b	OB-B	完形	1.25	0.45	0.1	0.06
20709	細石刃	-316.9	194.3	198.8	7	b	OB-A	頭中部	1.2	0.6	0.1	0.11
20728	細石刃	-309.4	198.8	199.2	7	b	OB-A	中間部	1.1	0.7	0.15	0.14
20745	細石刃	-308.2	197.6	199.0	7	a	OB-C	中間部	0.7	0.3	0.05	0.02
20748	細石刃	-309.2	196.9	199.0	7	a	OB-A	中間部	0.7	0.65	0.1	0.09
20754	細石刃	-308.4	197.1	198.9	7	a	OB-A	中間部	0.7	0.6	0.1	0.07
20771	細石刃	-308.5	195.1	198.6	7	b	OB-A	頭部	0.9	0.65	0.2	0.13
20789	細石刃	-306.9	197.8	198.8	7	b	OB-C	中間部	0.9	0.3	0.15	0.02
20867	細石刃	-307.2	191.0	197.7	7	b	OB-C	頭部	0.8	0.4	0.1	0.04
20960	細石刃	-304.7	197.9	198.4	7	a	OB-C	頭中部	0.8	0.4	0.15	0.06
21078	細石刃	-316.2	192.5	198.4	7	b	OB-C	中間部	0.9	0.4	0.1	0.05
21091	細石刃	-313.6	202.6	199.7	7	a	OB-A	中間部	0.7	0.65	0.15	0.08
21098	細石刃	-314.0	203.0	199.8	7	a	OB-A	中間部	1	0.6	0.1	0.12
21100	細石刃	-313.8	203.2	199.8	7	a	OB-A	中間部	0.8	0.5	0.15	0.07
21111	細石刃	-313.2	203.5	199.8	7	a	OB-A	中間部	0.8	0.6	0.1	0.07
21438	細石刃	-310.2	201.1	199.4	7	a	OB-C	中間部	1.1	0.45	0.1	0.08
21530	細石刃	-314.1	202.3	199.6	7	b	OB-A	中間部	0.7	0.65	0.1	0.09
21561	細石刃	-312.9	203.0	199.7	7	a	OB-A	中間部	0.7	0.7	0.1	0.11
21588	細石刃	-313.6	202.0	199.6	7	b	OB-A	中間部	1.1	0.5	0.15	0.1
21612	細石刃	-312.5	201.7	199.5	7	b	OB-A	完形	1.9	0.5	0.2	0.15
21681	細石刃	-314.1	202.0	199.6	7	b	OB-A	中間部	0.7	0.6	0.15	0.1
21682	細石刃	-313.9	201.7	199.6	7	b	OB-A	中間部	1.05	0.7	0.15	0.12

Ⅸ　考　　察

1　各遺跡で検出した旧石器時代石器群の変遷

今回報告した５つの遺跡について，それぞれ特徴的な石器群が出土している。ここでは，各石器群について，出土層位を基に石器群間の検証を行い，薩摩半島脊梁をなす台地上における石器群の変遷について考察を行う。

まず，当台地における旧石器時代の基本層序を簡単にまとめると，Ⅵ層が薩摩火山灰層に該当し，その下位の粘質土がⅦ層となる。Ⅶ層は色調により上位が黒色の強いⅦａ層，下位が茶褐色のⅦｂ層となる。その下位はＡＴ火山灰の風性再堆積層でⅧ層となり，場所によっては色調により２～３枚に分層される。その下位は大隅降下軽石を含む地層で，以下入戸火砕流となる。場所によってはⅧ層の下位に礫混じりの地層があったり，あるいは薄い大隅降下軽石単純層の下に礫混じりの地層を持つところもある。

今回報告した遺跡の中で，最も古い文化層は，大隅降下軽石層の下位から２点のナイフ形石器を出土した御仮屋跡遺跡Ⅸ～Ⅺ層文化層である。１点は欠損品であるが，もう１点は切出形のナイフ形石器で，南九州でＡＴ直下から検出されるナイフ形石器と同じ形態のものである。

ＡＴ上位のⅧ層からは，仁田尾遺跡，御仮屋跡遺跡，柊堀遺跡，隠迫遺跡で石器群が検出されている。このうち柊堀遺跡と隠迫遺跡の石器群は量的に少なく，まとまりとして捉えにくいため，仁田尾遺跡と御仮屋跡遺跡についてまとめたい。仁田尾遺跡Ⅷ層石器群は，ＡＴ層の直上で石器群を検出しており，礫群は大隅降下軽石が露出する面で検出されている。また，ナイフ形石器が形態的に，南九州でＡＴ直上に位置づけられる狸谷型ナイフ形石器の範疇で捉えられるものであり，次の段階に位置づけられる。Ⅷ層の出土石器群は複数の地区に分かれているものの，石器群の様相は同じであるため，同時期として捉えて大過ないと考える。同層から出土している剥片尖頭器，小牧３Ａ型尖頭器については単体の出土であり，ナイフ形石器との共伴について議論の余地があると思われる。

御仮屋跡遺跡のⅧ層については北区において，細石器文化期の遺物も混在しており，純層としては成立し得ないが，南区では純層として捉えることができるため，南区Ⅷ層の遺物に剥片尖頭器，三稜尖頭器を加える形で掲載した。ナイフ形石器の形態から仁田尾Ⅷ層よりは後出のものであると考えられる。

次に位置づけられるのが伏野遺跡Ⅶｂ層の石器群である。当石器群は資料は少ないものの，ナイフ形石器，三稜尖頭器の石材，形態にまとまりがみられ，良好なセット関係を示しているものと考えられる。ナイフ形石器は剥片を横位～斜位に利用し，基部付近に簡易なブランティングを施すものである。技術的に今峠型ナイフ形石器に類似する資料である。三稜尖頭器は４～５㎝の中型のもので，部分三面加工である。

次に位置づけられるのが御仮屋跡遺跡南区のⅦｂ～Ⅶａ層で出土しているナイフ形石器の一群である。北区のⅦ層で出土している三稜尖頭器もこの時期に帰属するものと考えられる。ナイフ形石器はいずれも３㎝未満の小型のもので，小型剥片の一部にブランティングを施すものである。三稜尖頭器は3.5㎝で，部分三面加工である。

次に位置づけられるのはⅦａ層から出土する細石刃石器群で，御仮屋跡遺跡Ⅶａ層，柊堀遺跡Ⅶａ層のＡ～Ｆブロック及び仁田尾遺跡Ｆ，Ｇブロックの細石刃石器群である。御仮屋跡遺跡の石器群は石核整形後打面調整を施しながら細石刃を剥出するという野岳・休場型細石刃核に類似するもので，細石刃文化期の中では比較的古相に位置づけられるものであり，３遺跡の中では古く位置づけられるものである。

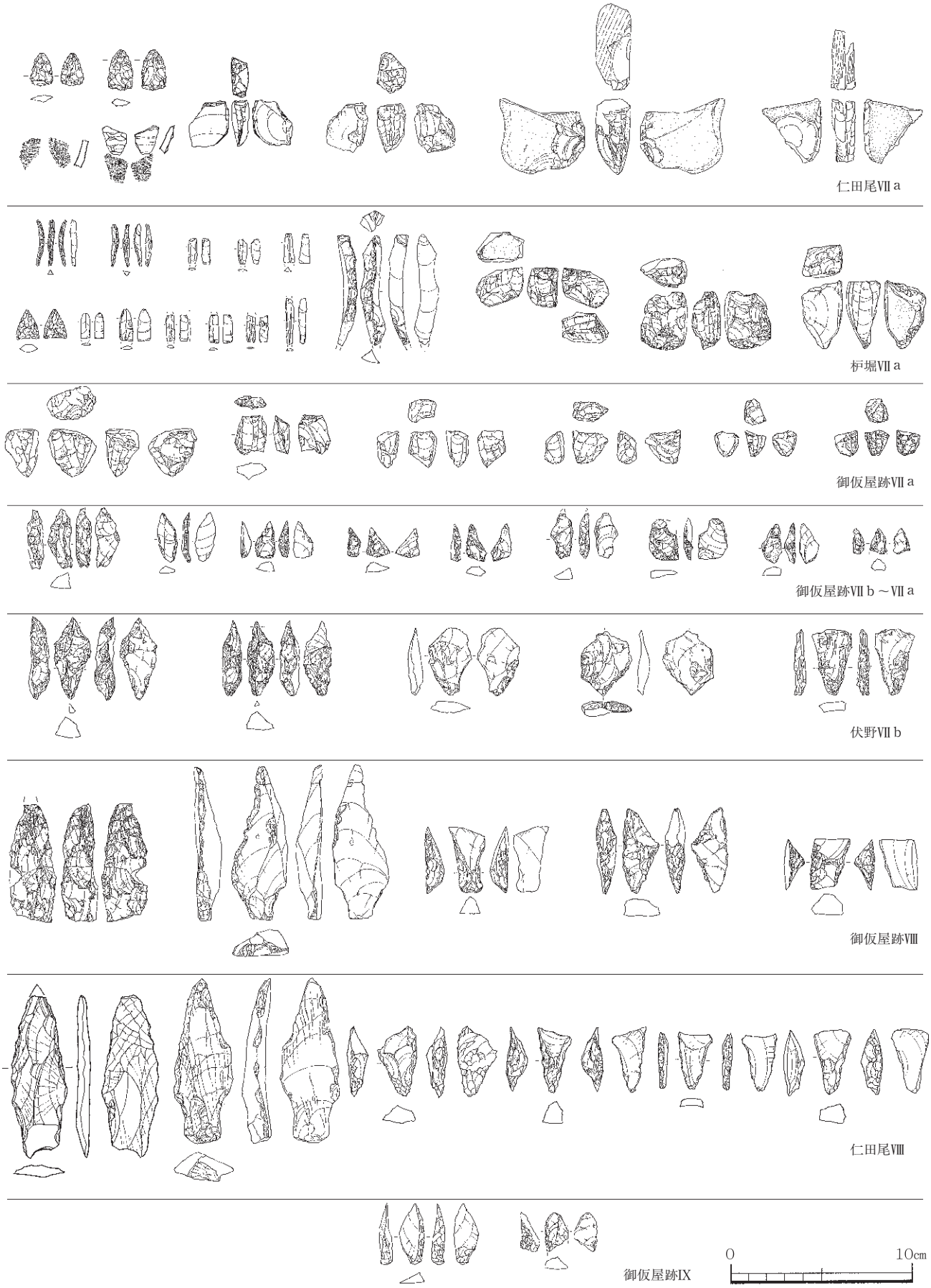
次に，柊堀遺跡の石器群は西北九州産の黒曜石を使用し，純粋な福井型細石刃核を伴う一群である。黒曜石の小型三角形鏃１点が出土しているが，単体出土であり，共伴関係については検討を要する。仁田尾遺跡出土の石器群は，在地の上牛鼻産黒曜石を利用した福井型細石刃核と，加治屋園型細石刃核，加栗山型細石刃核を伴い，また，明確な製作を伴う頁岩系の石鏃も伴う。石鏃はいずれも平基の二等辺三角形鏃である。柊堀遺跡，仁田尾遺跡の石器群間の時間的位置づけについては，純粋な形で南九州に福井型細石刃核が入ってくる段階，次に在地の黒曜石等を利用し，次第に在地化する段階，という流れを想定し，柊堀Ⅶａ層石器群→仁田尾Ⅶａ層石器群という流れを想定しておきたい。

以上，当台地出土の石器群を観察してきたが，層位的にⅨ，Ⅷ，Ⅶｂ，Ⅶｂ～Ⅶａ，Ⅶａ層の５つに文化層が確認でき，さらに同層位中における石器群の比較から８つの段階に変遷を追うことができた。今後の当台地状の調査を行う上で，基準となる資料群であり，今回一連の遺跡で報告された石器群は貴重なものである。

2　石材について

ここでは，今回報告した遺跡における石材の利用状況をまとめる。各遺跡の石材利用状況については第318図，表109のとおりである。

今回報告の各遺跡，文化層に共通するのはOB-A（薩摩川内市樋脇町上牛鼻産黒曜石）が主体的に利用されているということである。次に利用されているのが鹿児島市竜ヶ水の三船産黒曜石である。この２つの近隣黒曜石産地の主体利用はこれまでに報告した瀬戸頭遺跡，横井



第317図　今回報告遺跡の旧石器石器群変遷図

竹ノ山遺跡でも同様であり，当台地の旧石器時代の共通の特徴であるといえる。

そのような状況の中で特徴的な石材利用状況をいくつか挙げると，伏野遺跡Ⅶ層の腰岳産黒曜石，針尾系黒曜石の利用，杤堀遺跡の針尾系黒曜石など，西北九州産黒曜石の利用が挙げられる。これらは，細石器文化期でも比較的新相の段階の石器群であり，当台地における１つの傾向といえる。

次に，黒色安山岩，硬質頁岩の利用である。Ⅶ層にみられるこれらの石材は，細石刃核に少量，石鏃製作に大部分が利用されており，これも新相段階の特徴としてあげられる。なお，硬質頁岩はナイフ形石器文化期のナイフ形石器や台形石器製作にも主体的に利用される石材である。

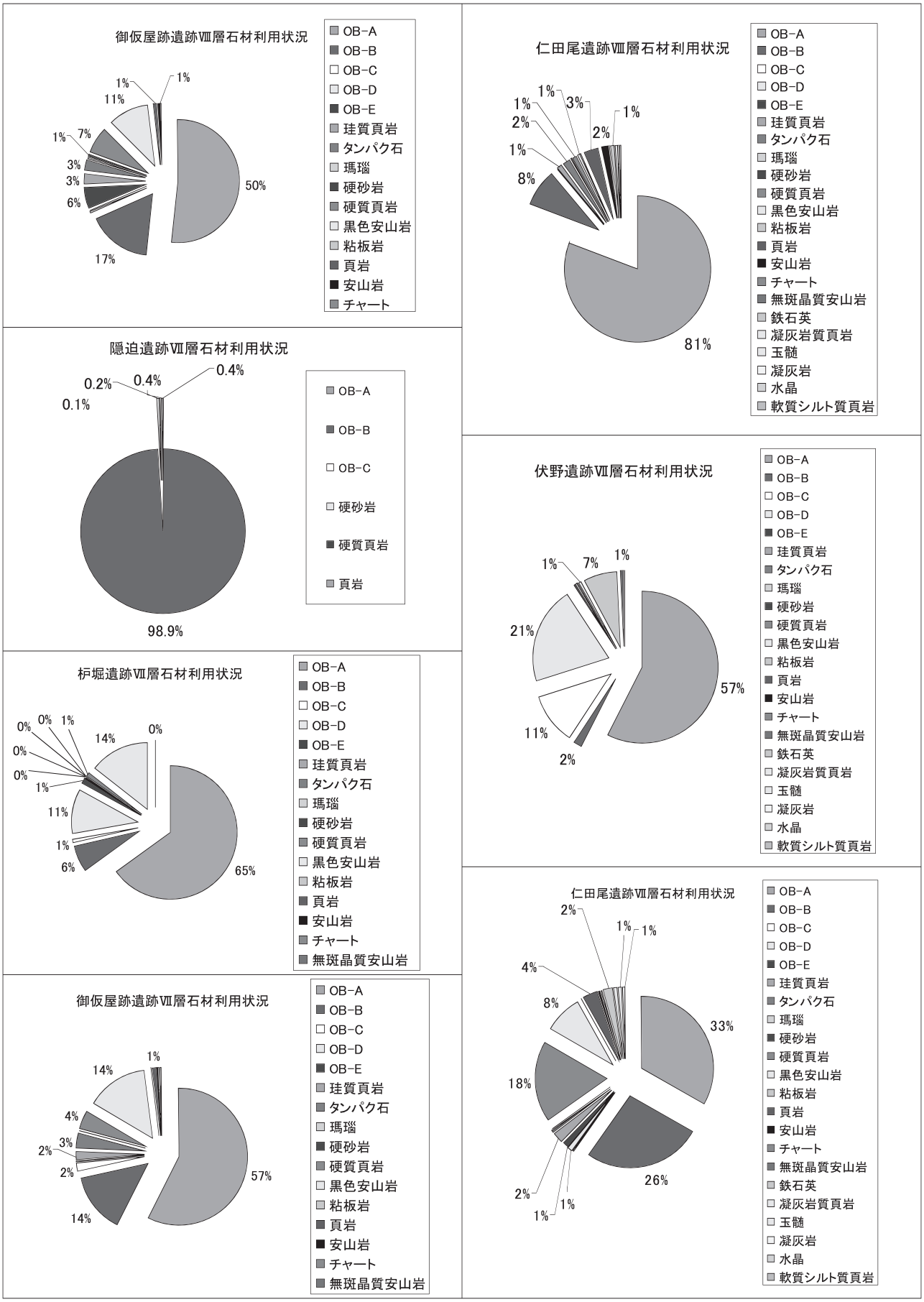
また，仁田尾遺跡Ⅶ層にみられる凝灰岩質頁岩製の細石刃核も特徴的である。鹿児島市の北部に位置する加栗山遺跡，加治屋園遺跡で大量に出土している資料であり，その西側への広がりを考える上で興味深いものである。珪質頁岩もおおくみられる石材であるが，細石器を中心に利用されている。

その他，瑪瑙，鉄石英，タンパク石等の石材も客体的に利用されており，付近との交流を示すものであろう。

ナイフ形石器文化期については仁田尾遺跡の極端な上牛鼻産黒曜石への依存が特徴的である。ナイフ形石器，台形石器については，客体的に瑪瑙，硬質頁岩，黒色安山岩での製作が認められる。

表110　各遺跡の石材利用状況

石　材	伏野Ⅶ層	隠迫Ⅶ層	杤堀Ⅶ層	御仮屋跡南区Ⅶ層	仁田尾Ⅶ層	仁田尾Ⅷ層	御仮屋跡南区Ⅷ層
OB-A	843	8	4751	1051	4126	1104	367
OB-B	26	2198	465	259	3236	114	119
OB-C	160	1	49	35	46		3
OB-D	306		803		140		
OB-E	2		81	6	144		41
珪質頁岩	1			35	280	15	20
タンパク石	1		15	64	59	25	20
瑪瑙	3		23	1	3	1	1
硬砂岩		5		2	27		4
硬質頁岩	4	3	47	82	2275	14	49
黒色安山岩	10		1053	264	1038	8	79
粘板岩	102					2	
頁岩	11	8	2	19	441	43	5
安山岩			1	8	8	22	5
チャート			1	3	51		1
無斑晶質安山岩			3		2		
鉄石英				5	280	8	
凝灰岩質頁岩					48		
玉髄			1		110	6	
凝灰岩					67	6	
水晶					3		
軟質シルト質頁岩					2	3	1



第318図　各遺跡の石材利用状況

3　狸谷型ナイフ形石器

⑴　はじめに

仁田尾遺跡周辺ではⅥ層に薩摩火山灰，Ⅸ層以下に入戸火砕流堆積物が堆積し，入戸火砕流の二次及び風性堆積層とされるⅧ層から薩摩火山灰直下のⅦ層にかけて，ナイフ形石器文化や細石刃文化，縄文時代草創期の遺物群が濃密に展開する。同時にⅦ～Ⅷ層は良好な発達状況が見られ，Ⅶ層はａ・ｂ・ｃの３層に細分でき，ａ層に縄文時代草創期，ｂ層以下に細石刃文化と台形石器や小型の二側縁加工ナイフ形石器を主体とするナイフ形石器文化期の遺物を包含する。Ⅷ層では切出形ナイフ形石器を主体とするナイフ形石器が知られ，これらの成果を，層位毎及び遺跡間の系譜について桑波田が変遷図で示した。考察（Ｐ353～354）

ここではⅧ層の石器群に注目し，周辺及び周知の遺跡との対比を行うことで位置づけてみたい。

本遺跡のⅧ層の石器群が，24ブロック14分布域（ユニット）を構成することは本文で明らかにした。次に，ブロック毎の器種構成検討（表61・62Ⅷ層ブロック観察表）からは，ナイフ形石器が突出していることも明らかにされ，また，個別ブロック内の遺物観察でもナイフ形石器製作を行っていた観察結果が得られている。なお，Ⅷ層のユニット毎の代表的構成器種を示すため，第319図を作成した。

上記したナイフ形石器は，いわゆる切出形石器で，さらに本文中で記したように「基部に繋がる短辺の内弯状整形はやや緩やかであるが，形状及び背部の急角度整形剥離や打面転移を頻繁に行った多面体石核から剥離された素材剥片を用いる規則性が抽出できる」ことから，“狸谷型ナイフ形石器”（松藤1992）及びその変容形態と捉えられる。

この狸谷型ナイフ形石器（狸谷Ⅱ石器文化）に関しては，発見当初からＡＴ降灰直後の代表的石器モデルとしての評価及びその個性的形態等から注目され，本県及び南九州の石器文化の動向とも関連づけて論じられ，近年具体的報告が成されるようになった。

⑵　分布

平成５年（1993）の仁田尾遺跡（国土交通省）でその存在が明かとなり，その後，市来町今里遺跡，本遺跡Ⅷ層，御仮屋跡遺跡Ⅷ層，川内市前畑遺跡，金峰町箕作遺跡と時間経過と共に増加してきている。今里遺跡と前畑遺跡では既に報告が成され，2004年に報告された箕作遺跡はその充実した内容が公表されている。

①今里遺跡Ⅶ層

東シナ海に迫り出す丘陵の内陸側の裾野に立地し，その標高は84ｍ程である。狸谷型ナイフ形石器が，三稜尖頭器や剥片尖頭器等と出土し，それらの同時性を強く示唆しているが，出土位置等の把握が不鮮明で資料価値を減じている。

②前畑遺跡

高城川の支流，中間川と小幡川の開析で取り残されたシラス台地にあり，標高は72ｍである。狸谷型ナイフ形石器３点，二側縁加工ナイフ形石器１点，台形石器２点，三稜尖頭器１点が報告される。層堆積には恵まれていないが，これらの中で狸谷型ナイフ形石器３点（１～３）と台形様石器１点（４）は出土位置も接近し同時性が高いと判断する。周知の狸谷型ナイフ形石器と比べ１～３のナイフ形石器の短辺の仕上げは直線的であるが，長辺部の急角度整形及び素材剥片の剥離技術等は共通する。また，上牛鼻産の黒曜石（OB-A）を使用し，総じて大振りな仕上がりを成す。４は台形石器と報告されているが，剥片を素材としたもので製作上での連続性は見出せ無いことから台形様石器と認定したい。

③箕作遺跡

金峰町大坂，金峰山東南部に広がる標高210ｍの丘陵端部に位置する。Ⅶ層が薩摩火山灰，Ⅸ層が入戸火砕流二次堆積層で，その間のⅧ層が上下に細分され下位のｂ層が包含層となる。礫群12基，遺物総数597点は２ユニット・６ブロックを構成し，２ユニットは東西に区分され，東ユニットを狸谷型ナイフ形石器群，西ユニットを両面加工尖頭器石器群で構成するとされる。報告では，西ユニットを九州切出形系ナイフ形石器文化成立直前段階，東ユニットを九州切出形系ナイフ形石器文化最古段階との編年観を呈示し，西ユニットが東ユニットに先行するとの見解を示しているが，西ユニットの器種認定に課題を残す。即ち，東西の２ユニットに時間差を置く必要性は無く，器種構成からは同時性が伺え狸谷Ⅱ石器文化との近似性を強く示唆している。

頁岩を主体としたナイフ形石器群は総じて大振りな形状で，1463・1743等の短辺が直線的に仕上げられる等若干の変異は存在するが，背部の急角度整形剥離や基本形状の狸谷型ナイフ形石器の特徴は堅持されている。また，素材剥片が多面体石核から取り出されること，さらに1743の部分加工ナイフ形石器や704や865の掻器の存在も近似性を強調するもので，狸谷Ⅱ石器文化との時間的並行関係色濃く示している。

④国土交通省仁田尾遺跡

Ⅷｂ層に40か所のブロックを確認し，１万点を越す遺物が出土しているとされる。石器組成は，狸谷型ナイフ形石器と台形石器を主体に，少数の三稜尖頭器と剥片尖頭器及び掻器，削器等で構成するとされる。とりわけ狸谷型ナイフ形石器及び台形石器と三稜尖頭器，剥片尖頭器の共伴が強調されている。

⑤本遺跡（仁田尾遺跡）

Ｂブロックを主体とするⅢ地区からは，６点の狸谷型ナイフ形石器と２点の部分加工ナイフ形石器及び剥片尖

頭器１点が出土している。狸谷型ナイフ形石器の２点（８・９）については，刃部が直刃を呈すことから台形様石器と呼び分けている。なお，11の部分加工ナイフ形石器や剥片尖頭器との組み合わせは，狸谷Ⅱ石器文化と通じる。なお，４点の狸谷型ナイフ形石器はOB-Aが使用される。

Q～Xブロックで構成するXI地点からは，“刃縁と器身の長軸の交わり”が鈍くなっているが，５点の狸谷型ナイフ形石器が出土している。なお，４点はOB-A類を使用する。

M～Pブロックで構成するX・XII地点では，２点の狸谷型ナイフ形石器，台形様石器１点と２点のハンマーストーンが出土し，ナイフ形石器にはOB-Aを使用する。

E・Fブロックで構成するIV地点からは，４点の切出形と２点の部分加工のナイフ形石器（17・26）が出土し，切出形ナイフ形石器の２点（22・23）は狸谷型ナイフ形石器と見られる。なお，25の小牧３A型尖頭器に関しては，出土状況は同時性を強く印象づけている。また，OB-Aを多用する。

C・Dブロックで構成するII地区では，切出形１点と部分加工のナイフ形石器２点の確認で，いわゆる狸谷型ナイフ形石器は見られないが部分加工ナイフ形石器や剥片剥離や石器組成は，狸谷型ナイフ形石器を保有するIV地区と共通する。

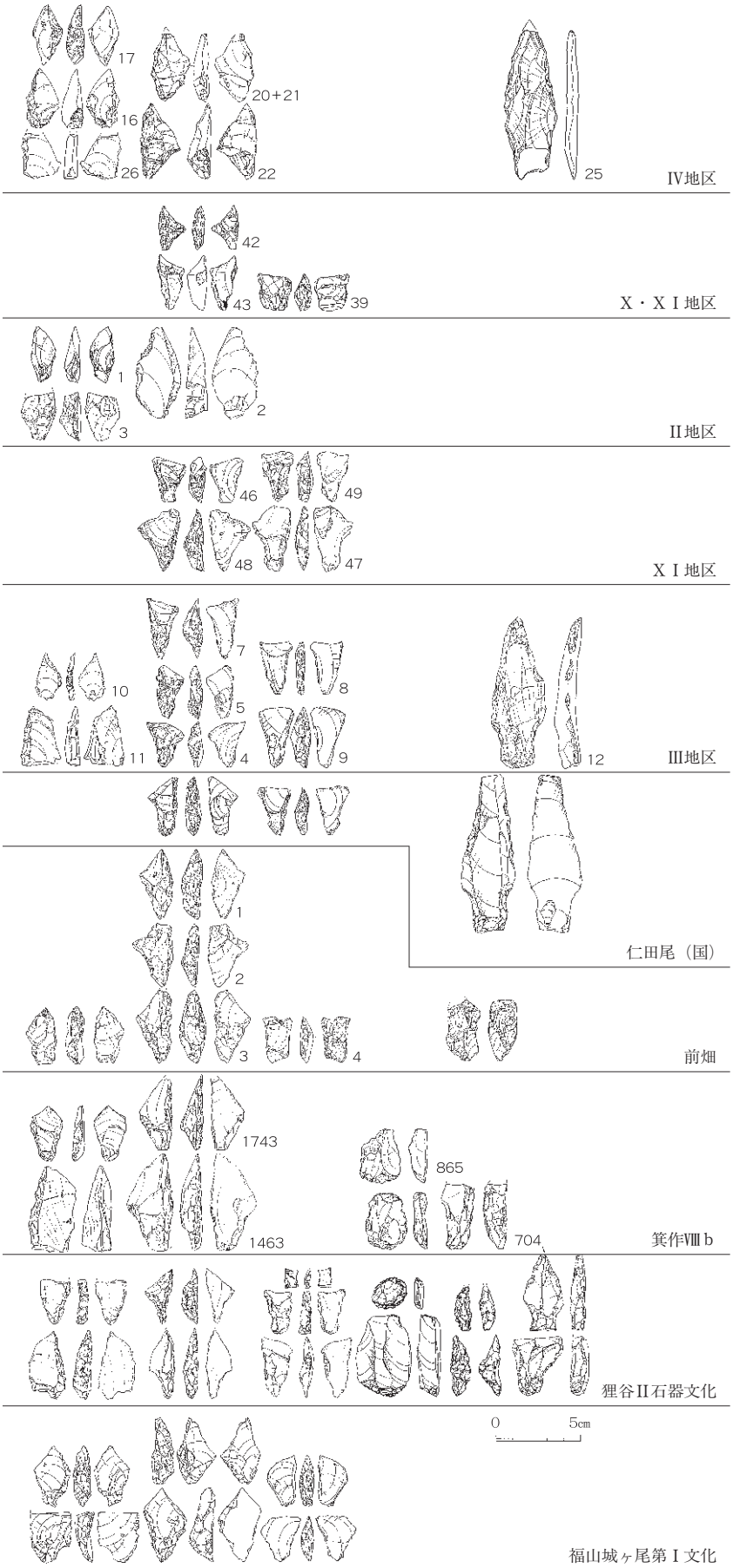
⑶　まとめ

以上，本遺跡では狸谷型ナイフ形石器を中心に，所謂切出形ナイフ形石器に大きく依存した石器組成が看取できる。また，剥片尖頭器及び11・17・26等の部分加工ナイフ形石器等は狸谷Ⅱ石器文化との類似性・近似性を示すが，他方，三稜尖頭器や掻器及び台形石器・台形様石器の欠落・欠乏に関しては，本遺跡に帰結するか否か検討すべき課題である。さらに，本遺跡で新に提起された小牧３A型尖頭器との共伴性も継続すべき課題となる。なお，国土交通省仁田尾遺跡とは隣接することもあり，剥片尖頭器との共伴は補強されるが，三稜尖頭器との共伴は本遺跡に無い事例で，お互いの正式報告を基に改めた検証が求められる。本遺跡を含め，上記の遺跡は全て薩摩半島に分布していることとなる。

一方，大隅半島に関しては近年の大規模調査により，切出形ナイフ形石器等の新たな石器群の存在が明らかにされてきている。福山城ヶ尾遺跡第Ⅰ文化層，前原和田遺跡XVI層では，共に在地系の硅質頁岩製の切出形ナイフ形石器と台形石器（台形様石器）の石器組成が知られるが，狸谷型ナイフ形石器との関係は極めて曖昧で，むしろ，台形様石器群の動向に注目せざるを得ない。九養岡遺跡や桐木耳取遺跡の報告も加わり，桜島起源のP-17を介した石器群の動向が鮮明となりつつあり，また，宮崎県内の牧内第１遺跡や長薗原遺跡等複数の遺跡で狸谷型ナイフ形石器が明らかになってきていることから，大隅地域も巻き込まれることとなる。

狸谷型ナイフ形石器はその発見以来，常にAT降灰後の社会復元やその出自等が注目されてきているが，本遺跡周辺（国土交通省仁田尾遺跡を含む）及び箕作遺跡等の近年の調査実績からは，これらの地域が一大拠点である可能性も展望できる状況に達している。あわせて，狸谷型ナイフ形石器を含む切出形石器群が，これらの地域でいち早く展開した可能性も見えてくる。

①松藤和人「南九州における姶良Tn火山灰降下直後の石器群の評価を巡って」『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ1992
②狸谷遺跡「熊本県文化財調査報告第90号」1987
③「第II章駒方津室迫遺跡の調査」『大野地区遺跡群発掘調査報告書』大野町教育委員会1992
④人吉市狸谷遺跡や大野町駒方津室迫遺跡での発見以後，この狸谷型ナイフ形石器は注目を集めることとなり，AT降灰直後の石器群の検討を活発に促し，木崎氏の九州石槍文化論や萩原氏の南九州技術革新論，安斎氏の２項性に基づく剥片モードの切出形石器類の展開による台形様石器群の新たな展開予測等を提唱推進してきている。本県の石器群も上記の論功に巻き込まれながら進められてきたが，石器群として具体的にその存在が明らかにされたのはこの仁田尾遺跡を中心とした周辺遺跡の調査からである。
⑤木崎康弘「九州石槍文化の展開と細石器文化の出現」『九州旧石器』第３号1997
⑥萩原博文「ナイフ形石器石器文化後半期の集団領域」『考古学研究』第51巻第２号2004
⑦今里遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書56」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』
⑧前畑遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書56」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』2003・3
⑨箕作遺跡「金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書18」『金峰町教育委員会』2004・3
⑩西ユニット石器群が東ユニット石器群に先行するとの判断根拠に，両面加工尖頭器や三稜尖頭器等の尖頭器製作技術基盤があるとし，数点が尖頭器の未製品として抽出されているがその認定に課題を残す。
⑪宮田栄二「鹿児島県日置郡松元町仁田尾遺跡」『日本考古学協会』No47・1994
⑫福山城ヶ尾遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書60」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』2003・3
⑬前原和田遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書56」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』2002・3
⑭福山城ヶ尾第Ⅰ文化層は第XV層に包含され，P-17の



第319図　狸谷型ナイフ形石器相関図

上位にあたる。前原和田遺跡XVI層中にP-17が確認される。切出形ナイフ形石器の他，桐木遺跡第３・８遺物集中部及び桐木耳取遺跡第10・11・16エリアでは台形様石器が単独に出土する傾向が見られ，その位置づけも検討する必要がある。

⑮桐木遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書75」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』2004・3
⑯桐木耳取遺跡「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書91」『鹿児島県立埋蔵文化財センター』2005・3
⑰安斎正人「台形様石器と台形石器―台形様・ナイフ形石器石器群(3)―」『九州旧石器第４号』2000

加速器分析研究所

年代測定結果報告書

1）年代値の算出には，Libby の半減期5568年を使用しています。
2）BP 年代値は，1950年からさかのぼること何年前かを表しています。
3）付記した誤差は，次のように算出しています。
　複数回（通常は 4 回）の測定値について χ^2 検定を行い，通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い，測定値が 1 つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
4）$\delta^{13}C$ の値は，通常は質量分析計を用いて測定しますが，AMS 測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}C$ の値を用いることもあります。
　$\delta^{13}C$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は，いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{14}C = [(^{14}A_S - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}C = [(^{13}A_S - {}^{13}A_{PDB}) / {}^{13}A_{PDB}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで，$^{14}A_S$：試料炭素の ^{14}C 濃度：$(^{14}C/^{12}C)_S$ または $(^{14}C/^{13}C)_S$
　　$^{14}A_R$：標準現代炭素の ^{14}C 濃度：$(^{14}C/^{12}C)_R$ または $(^{14}C/^{13}C)_R$

$\delta^{13}C$ は，質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}A_S = {}^{13}C/{}^{12}C$）を測定し，PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として，それからのずれを計算します。

但し，IAA では加速器により測定中に同時に $^{13}C/^{12}C$ も測定していますので，標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}C$ を用いることもあります。この場合には表中に〔加速器〕と注記します。

また，$\Delta^{14}C$ は，試料炭素が $\delta^{13}C = -25.0$（‰）であるとしたときの ^{14}C 濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値です。（1）式の ^{14}C 濃度を，$\delta^{13}C$ の測定値をもとに次式のように換算します。

$$^{14}A_N = {}^{14}A_S \times (0.975/(1 + \delta^{13}C/1000))^2$$（$^{14}A_S$ として $^{14}C/^{12}C$ を使用するとき）

または

$$= {}^{14}A_S \times (0.975/(1 + \delta^{13}C/1000))$$（$^{14}A_S$ として $^{14}C/^{13}C$ を使用するとき）

$$\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - {}^{14}A_R)/{}^{14}A_R] \times 1000 \text{（‰）}$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については，海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため，同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合，同位体補正をしない $\delta^{14}C$ に相当する BP 年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として，pMC（percent Modern Carbon）がよく使われており，$\Delta^{14}C$ との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}C = (pMC/100 - 1) \times 1000 \text{（‰）}$$

$$pMC = \Delta^{14}C/10 + 100 \text{（%）}$$

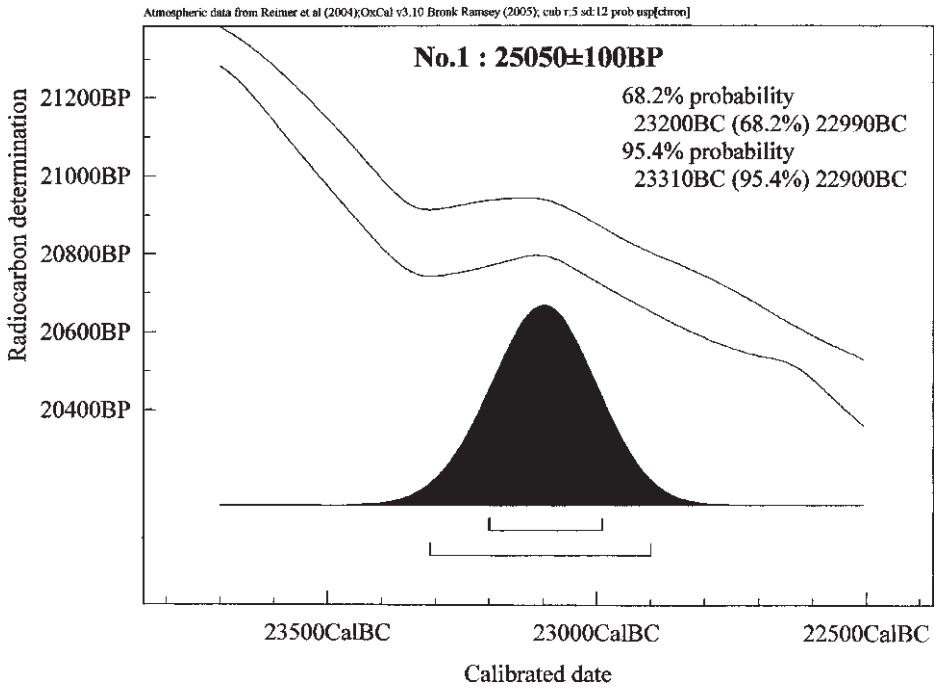
国際的な取り決めにより，この $\Delta^{14}C$ あるいは pMC により，放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age；yrBP）が次のように計算されます。

$$T = -8033 \times \ln[(\Delta^{14}C/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln(pMC/100)$$

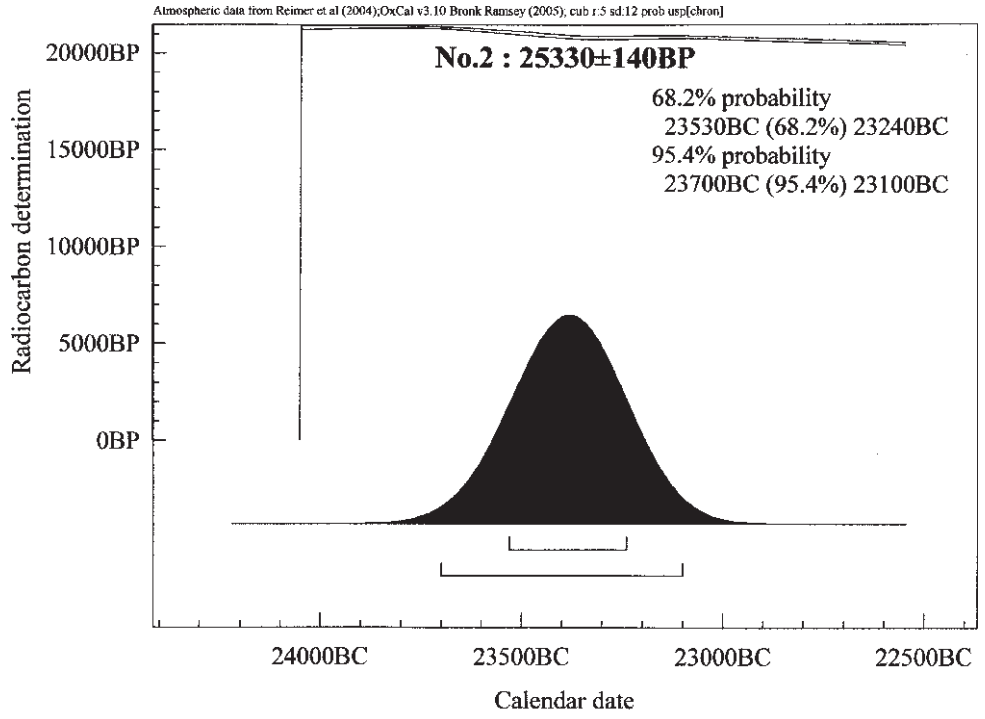
IAA Code No.	試　　料	BP 年代および炭素の同位体比
IAAA-50772	試料採取場所：御仮屋跡遺跡	Libby Age（yrBP）：　25,050 ± 100
		$\delta^{13}C$（‰），（加速器）＝　-28.93 ± 0.89
	試料形態：炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）＝　-955.8 ± 0.6
	試料名（番号）：No. 1	pMC（%）＝　4.42 ± 0.06
	（参考）$\delta^{13}C$ の補正無し	$\delta^{14}C$（‰）＝　-956.1 ± 0.5
		pMC（%）＝　4.39 ± 0.05
#972-1		Age（yrBP）：　25,110 ± 100
IAAA-50773	試料採取場所：御仮屋跡遺跡	Libby Age（yrBP）：　25,330 ± 140
		$\delta^{13}C$（‰），（加速器）＝　-31.12 ± 0.93
	試料形態：炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）＝　-957.3 ± 0.7
	試料名（番号）：No. 2	pMC（%）＝　4.27 ± 0.07
	（参考）$\delta^{13}C$ の補正無し	$\delta^{14}C$（‰）＝　-957.8 ± 0.7
		pMC（%）＝　4.22 ± 0.07
#972-2		Age（yrBP）：　25,430 ± 140
IAAA-50774	試料採取場所：御仮屋跡遺跡	Libby Age（yrBP）：　25,120 ± 120
		$\delta^{13}C$（‰），（加速器）＝　-22.67 ± 0.97
	試料形態：炭化物	$\Delta^{14}C$（‰）＝　-956.2 ± 0.6
	試料名（番号）：No. 3	pMC（%）＝　4.38 ± 0.06
	（参考）$\delta^{13}C$ の補正無し	$\delta^{14}C$（‰）＝　-956.0 ± 0.6
		pMC（%）＝　4.40 ± 0.06
#972-3		Age（yrBP）：　25,090 ± 120

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



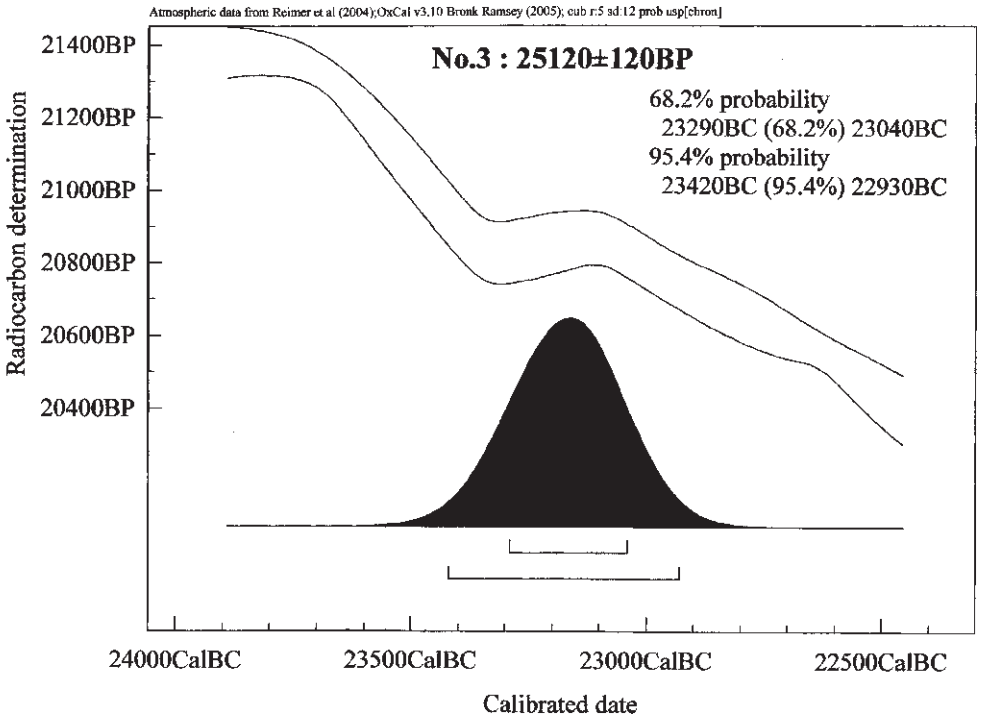
使用プログラム：ＯｘＣａｌ　ｖ3.10

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム：ＯｘＣａｌ　v3.10

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム：ＯｘＣａｌ　v3.10

御仮屋跡遺跡試料に伴う分析工程

【処理法】

1．メス，ピンセットを用いて適量を採取した。この際，付着していた土をできるだけ除去した。試料の内部より採取した。

2．１Ｎの塩酸を用いて，80℃で数時間処理した後，超純水で中性になるまで希釈した。

3．0.001～１Ｎの水酸化ナトリウム水溶液を用いて数時間処理した。その後，超純水で中性になるまで希釈した。

4．１Ｎの塩酸を用いて，80℃で数時間処理した後，超純水で中性になるまで希釈した。なお，酸・アルカリ処理後の希釈の際には遠心分離法を用いた。

5．試料を80℃で乾燥させた。

6．試料を１ｇの酸化銅と共に，外径９㎜，長さ30㎝の石英管に入れ，真空下で封じ切った。

7．６を500℃30分，850℃2時間で加熱し，試料中の炭素を二酸化炭素にした。

8．真空ライン中で冷媒を用いて，二酸化炭素を精製した。

9．精製した二酸化炭素を，鉄を触媒として水素で還元し，グラファイトにした。

10．得られたグラファイトを，内径１㎜のアルミニウム製の容器にハンドプレス機で詰め，ターゲットとした。

【測定】

測定機器は，134試料装塡可能なイオン源が設置された，3MV 小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS 専用装置（NECPelletron9SDH-2）を使用する。

AMS 測定時には，標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また，測定では加速器により測定中同時に13C/12Cの測定も行うため，この値を用いて δ13C を算出する。

【放射性炭素年代算出法】

1．加速器を用いて微量炭素の同位体比分析を行う。

2．定量は14C 測定の標準試料である米国国立標準国（NIST）から提供されるシュウ酸（HOxII）を用いている。

3．放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期5,568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり，誤差は，複数回の測定値について X^2 検定を行い，測定値のばらつきが小さい場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い，ばらつきが大きい場合には統計誤差を用いています。

4．暦年較正は OxCalVer3.10を用いています。

X　ま　と　め

仁田尾遺跡

旧石器時代

礫群は，Ⅷ層で27基，Ⅶ層で１基を検出している。

礫群は，炭化物の分布を伴うものはほとんど確認できず，その用途については明確ではない。礫群の具体的構造は，椀形の掘り込み遺構が構築され遺構内に礫が詰め込まれるもので，その周辺にも礫が残され礫が一定の群をなすものと散在するものとがある。また，掘り込み遺構の位置は礫群の端部に見られるものが多い。ここでは礫群の３つの分類を提示したが，Ⅰ類礫群が上記の具体的構造に当てはまる。Ⅲ類礫群も一定の範囲を確保していることから，礫群として認定が可能であるが，Ⅱ類礫群の崩壊がさらに進行したもの，あるいは礫群の残骸と思われる。Ⅷ層の礫群の配置については，第142～第144図に示した。27基のうち19基が南区に集中し，同レベルで検出した礫群が北もしくは北東方向に並ぶことが観察できる。また，Ⅲ地区では９・10・11・14・16号礫群とほぼ同じレベルで中央部に配石炉状遺構を検出している。この配石炉状遺構の南部に位置する９～11号礫群及び北部に位置する13・16号礫群ではそれぞれの遺構間で礫が接合している。16号礫群を除き他はほぼ全て安山岩で構成されていることから，何らかの関係が伺えるが，残念ながらこの配石炉状遺構と周辺の礫群を構成する礫との遺構間接合は確認できず，結論を導き出せなかった。北区ではⅧ区で10ｍ四方内に６基の礫群が集中して検出されていることが注目されるが，ここでも，遺構間での礫の接合は確認できなかった。Ⅶ層では，礫群の他に1基ではあるがⅨ地区から落し穴状遺構が検出されている。長軸に対しほぼ並行に３列，計12という多くの逆茂木痕が見られることが特徴といえる。逆茂木痕の深さは15～23㎝，平均は19㎝である。

石器については，Ⅷ層では，24基のブロックが確認された。ブロック数の割に，定型石器はさほど多くないが，切出形ナイフ形石器を中心とした石器群がまとまりよく検出されている。切出形ナイフ形石器はいずれも「狸谷型ナイフ形石器」（松藤1992）の範疇に含まれるもので，松藤の定義に照らし合わせてみると，いずれも短辺の内弯状の成形が弱い点に特徴がある。組成としては，台形石器，剥片尖頭器，小牧３Ａ型尖頭器が出土しており，台形石器を除いては，いずれも当調査区内においては単体の出土である。ただし，小牧３Ａ型尖頭器については，隣接する西回り自動車道建設に伴って調査された仁田尾遺跡で同層より粘板岩製品を出土しており，出土地点も近接しているため，接合こそしなかったものの，関連するものと判断してよい。以上の石器組成は，これまで小牧３Ａ型尖頭器の出現は剥片尖頭器盛行期に位置づけられていたが，狸谷型ナイフ形石器の段階まで一つ遡る可能性を示すものである。

Ⅶ層では，19基のブロックが確認された。複数の地区をまたがって出土している細石刃核の形態は多様であるが，抽出できる特徴としては，新相のものが多く含まれるということである。具体的には福井型細石刃核，加治屋園型細石刃核，船野型細石刃核，加栗山型細石刃核などであり，石鏃も多く出土している。福井型細石刃核はいずれも在地産の黒曜石を利用して製作されており，西北九州からの石材，技術的な影響を受け，その後在地の石材で適応していることを示すものである。石鏃は硬質頁岩製のものが圧倒的に多く，形態は，ほぼ平基の二等辺三角形鏃である。また，微隆起線文土器，土器の無文部も出土している。これらの共伴関係については今後もいくつかの分析を経る必要があるが，Ｃ，Ｅブロックの共伴事例から，在地の石材で製作した福井型細石刃核に，石鏃，土器が伴っている状況として捉えておきたい。また，この福井型細石刃核に伴って，船野型細石刃核，加治屋園型細石刃核，加栗山型細石刃核も共伴する可能性が高いことも言える。なお，福井型細石刃核については横井竹ノ山遺跡で，船野型細石刃核については帖地遺跡で，加治屋園型細石刃核や加栗山型細石刃核については加栗山遺跡でそれぞれ石鏃との共伴があり，いずれも新相の細石刃核に属することは見解の一致をみている。今後はまとまった平基二等辺三角形鏃との関係について更に分析を進めていく必要がある。また，加治屋園型細石刃核については，打面の形成技術について，福井型細石刃核の影響を考えられる。

縄文時代

Ⅰ類土器は草創期の隆帯文土器の一群であり，鹿児島市の掃除山遺跡や種子島の奥ノ仁田遺跡や三角山遺跡で周知されたものである。層位からも細石器文化に近い時期のものであることは確実である。関東地方などで出土する隆帯文土器とは系譜が異なる考え方もあるが，その古さにもいまだに疑問を持つ研究者がいる。南九州でこれだけ多量に，また薩摩火山灰下から出土することで，自らの科学的姿勢を問い直してもらいたいと考える。

Ⅱ類土器からⅦ類土器は，アカホヤ火山灰層の下位で，薩摩火山灰層の上位から出土した早期の土器群である。Ⅱ類土器は貝殻円筒土器の一群で，Ⅱａ類が岩本式土器，Ⅱｂ類が前平式土器に，Ⅱｃ類が石坂式土器に比定される。Ⅲ地区のⅤ層を中心に出土している。Ⅲ類土器は押型文土器の地域変容型式である手向山式土器の一群であると考えられる。量的には少なく，遺跡の全体から少しずつ出土する。Ⅳ類土器は平栫式土器である。ＸⅠ地区に出土している。Ⅴ類土器は塞ノ神式土器の中の貝殻文

系の一群である。編年的な位置づけは議論のあるところである。III地区を中心に出土している。この遺跡では編目撚糸文の塞ノ神式土器は出土していない。VI類土器は苦浜式土器で，VII類土器は早期の条痕文系の土器で，右京西式土器と関連が考えられる。Ⅴ類土器とVI類土器とVII類土器は型式論的には連続性が指摘される土器群である。III地区で微妙に位置が異なって出土している。

VIII類土器からⅩII類土器は，アカホヤ火山灰層の上位から出土する土器群である。VIII類土器は轟式土器の範疇に入る。轟Ｂ式土器といわれる一群である。IX類土器は曽畑式土器である。曽畑式土器では新しい型式の土器群と考えられる。VI地区やⅩⅠ地区など遺跡の北側で出土している。Ⅹ類土器は深浦式土器で，III地区で出土したほぼ１個体と数片が出土した。ⅩⅠ類土器は条痕文土器の一群である。VII地区で出土している。この土器は轟式土器として扱われ前期とされてきたが，一湊松山遺跡で曽畑式土器の上層から出土し，桐木耳取遺跡では船元系土器との並行関係が提示されており，中期前半に位置づけられる可能性が高い。ⅩⅠ～ⅩII類土器は中期･後期･晩期などの土器である。

石器については，それぞれの層で石材によりブロックがあり，各層のブロックが土器の集中箇所と一致するものがある。必ずしも散布箇所の一致が同時代性を表すものではないが，土器の使用場所と石器製作場所が異なるならそれはそれで，石材分布のブロックは有用な情報である。III地区のIV層出土の無班晶質安山岩の分布位置が２つに分かれるが，Ⅴ類土器とVI類土器がおなじく２つに分かれることは暗示的である。それぞれが，塞ノ神式土器や苦浜式土器との関係が伺われる。また，VII地区のOB-Cのブロックは，ⅩⅠ類土器しか近接しない。ここら辺の判断は慎重を期すが今後の資料の増加を待ちたい。

柊堀遺跡

VIII層は，遺物量が少なく，台形石器，ナイフ形石器，三稜尖頭器，叩石が散出したのみであった。

VII層からは，20基のブロックが確認され，異なる３つの様相が提示された。１つめは，Ａ～Ｇブロックにおける福井型細石刃核を中心とする様相である。これらのブロックからは，西北九州産の黒曜石を使用し，明確なスポールを伴う福井型細石刃核による細石刃の製作が明らかとなった。県内において，純粋な福井型細石刃核の製作跡が確認されたのは初めてであり，細石器文化終末期の西北九州との交流を考える上で貴重な資料となった。出土資料の特徴として，打面作出のためのスポールが大型であるのに対し，細石刃核は小型であることがあげられる。この事象を理解するのに，2つの仮説がたてられる。１つの仮説は，出土した小型の細石刃核と，大型のスポールは異なる個体の産物であるという理解である。もう１つの仮説は，両者は同一母岩の産物として一連の工程で生じたものであるが，ブロックが一部削平されているため，接合が不可能であったという理解である。２つめは，Ｈ～Ｌブロックにおける在地の黒曜石を利用した野岳・休場型細石刃核と福井型細石刃核の石器群である。両者の関連については今後の検討が必要であるが，福井型細石刃核の技術が在地の石材で適用されている点は注目される。３つめは，Ｍ～Ｔブロックにおける在地産の石材を使用した石核群である。これらの石核群は，小型の剥片を目的としているものであるが，目的剥片をもとにした製品の出土がまったくみられないため，位置づけが困難な石器群である。Ａ～Ｇブロックの福井型細石刃核に伴う他器種の素材を目的とした石核であるか，時期の異なる石核であるかについては不明である。現時点では，石材が異なるものの，頁岩製のナイフ形石器が１点みられること，終末期のナイフ形石器製作に伴う石核に類似する資料が含まれる点などから，ナイフ形石器文化終末期の石核と位置づけて，Ａ～Ｌブロックの細石刃石器群とは分離しておきたい。本文中でも述べたが，これら３つの石器群が異なる分布域を示す点は興味深いものである。

縄文時代

Ⅰ類土器からIII類土器は，IV・Ⅴ層から出土した早期の土器であるが絶対量は少ない。Ⅰ類土器は，貝殻文系円筒土器の一群で，Ⅰａ類が岩本式土器に，Ⅰｂ類が前平式土器の永野～志風頭タイプに，Ⅰｃ類が加栗山式土器と小牧３Ａタイプに，Ⅰｄ類が石坂式土器に比定され，Ｆ－18・19区～Ｈ－16～19区のIV層から大部分が出土している。II類土器は，早期後葉の一群でそれぞれ数点が出土した。IIａ類は，押型文土器の手向山式土器に分類され，IIｂ類は，早期後葉の土器でIIａ類に属さないものを扱った。33は，平成13年度に報告された№343の土器と接合したことからいわゆる妙見式土器に比定される。№343は，口唇部に羽状のキザミを巡らし，口縁部は大きく外反し，胴部にわずかな脹らみをもちながら底部に移行する器形である。施文的特徴は，頚部の文様帯をはさんで頚部から胴部にかけて棒状工具による短沈線を斜めに並列させて羽状とした文様を施文する。頚部と胴部に横の沈線が３条巡り，これが口縁部と胴部及び胴部の上半部と下半部の区画施文となっている。また，胴部の下半部には，キザミの施された突帯が縦につく。内面調整は，横方向にナデており，胎土中に雲母を多く含む。III類土器は，塞ノ神式土器で円筒部に撚糸文を持つ土器と貝殻施文の土器が出土している。

IV類土器～VI類土器は，アカホヤ火山灰層の二次堆積層から出土した前期の土器で，IV類は，轟式土器と目され，68は，Ｈ－５区とＨ－17区間で接合した。Ⅴ類土器は，曽畑式土器で短沈線の施文が明瞭に伺い知れる。VI

類土器は，深浦式土器の範疇に属すものと考えられる。Ⅶ類土器は，晩期の深鉢形と浅鉢形の土器で，黒川式土器に分類され11地点に出土している。

弥生・古墳時代

弥生時代終末期の中津野式土器がH－17区を中心に出土している。１の外面の煤の付着位置を見ると，口縁部のみで胴部には見られない，また６は，煤が口縁部のみに付着していることから，使用方法，または機能的な要因によるものと考えられる。

御仮屋跡遺跡

調査区は北区と南区とに分かれる。遺構は礫群が南区から5基検出されており，いずれも炭化物の範囲が認められる。特に２・３・５号礫群はほぼ同じレベルで隣接しているため，礫群を再構築した可能性も考えられるが，いずれかの礫群の残骸，あるいは崩壊の進んだものである可能性もある。

遺物については，北区は斜面にあり層堆積が薄いため，様々な時期の遺物が混在しており，一括資料としての認定は困難である。剥片尖頭器の時期から，終末期の小型ナイフ，細石器までの遺物が出土している。南区では層堆積がしっかりしており，層ごとの文化層としての把握が可能である。

AT 下位からは切出形ナイフ形石器が出土し，当資料は喜入町帖地遺跡に類似資料があり，時期的に近接していることを伺わせ，薩摩半島中央部の当台地で確実にAT 下位の段階で生活していた人々がいたことを示す貴重な資料である。AT 直上からは台形石器，切出形ナイフ形石器が出土しており，台形石器の製作過程のわかる接合資料は特筆される。ナイフ形石器文化終末期のナイフ形石器は様々な形態の資料が確認された。細石器文化期の遺物は少量であるが，石核整形の省略された細石刃核が確認された。様々な形態が出土しているが，中心となるのは野岳・休場型細石刃核である。当遺跡の特徴としては細石刃が県内の既出の資料に比べて相対的に大型であることである。

隠迫遺跡

旧石器時代の資料は少なく，ナイフ形石器文化期から細石器文化期の遺物が確認された。

縄文時代

Ⅰ類，Ⅱ類の土器は，早期後葉に位置付けられる。Ⅰ類は押型文土器の手向山式土器の一群で，それぞれ個体別の出土であり，文様構成により７つに細分類した。なかでもⅠａ類は，山形の押型文を持つもので，６は，押型文の施文後にナデられ，その後口唇部と屈曲部の突帯が貼り付けられている。Ⅰｂ類は，山形押型文施文後に沈線が施される。Ⅰｃ類は，微隆帯が施され，Ⅰｄ類は沈線文のみの施文，Ⅰｅ類は，キザミの原体使用，Ⅰｆ類は，ヘラ状工具による沈線文様の施文を施した後，器面全体をナデ消し，その後尖った工具で線刻状の文様を施している。Ⅱ類土器は，平栫式土器に分類される。

Ⅲ類～Ⅳ類土器は，前期に該当し，Ⅴ類は後期，Ⅵ類は晩期に該当する。Ⅲ類は，轟式土器と目される，Ⅳ類は，曽畑式土器に比定され底部を除きほぼ完形で，胴部の文様構成には文様帯による違いが少ない。Ⅴ類土器は，後期の指宿式土器に分類される。Ⅵ類は晩期の深鉢である。

古墳時代以降

古墳時代の遺物は，包含層残存範囲の中では北側部分から出土し，古墳時代後半の特徴を有している。古代も同様に土師器の甕，坏，椀及び須恵器の甕，壷等が出土しているが絶対量が少ない。

伏野遺跡

ナイフ形石器文化期については今峠型ナイフ形石器に類似する資料，台形石器，三稜尖頭器が出土している。ナイフ形石器文化期の遺物であるが，層位的には今回報告した他の遺跡のナイフ形石器文化期の遺物（Ⅷ層）よりも上位の層（Ⅶｂ層）で出土しており，ナイフ形石器文化期の石器群の変遷を考える上で貴重な資料である。

細石器文化期については，３か所のブロックが確認され，在地の黒曜石によるもの，佐賀県腰岳産黒曜石によるもの，長崎県針尾産黒曜石に類似するものである。細石刃核こそ検出されていないものの，柊堀遺跡でまとまって確認された針尾産類似黒曜石による細石刃製作の痕跡が確認された。接合資料では細石刃核整形剥片と思われる接合が確認され，当遺跡においても針生産黒曜石を使用した細石刃の生産活動が行われていることが判明した。

松藤和人1992「南九州における姶良 Tn 火山灰直後の石器群の評価をめぐって」『考古学と生活文化』

伏 野 遺 跡 図 版

調査風景
調査風景

図版２

土坑完掘状況
完掘状況

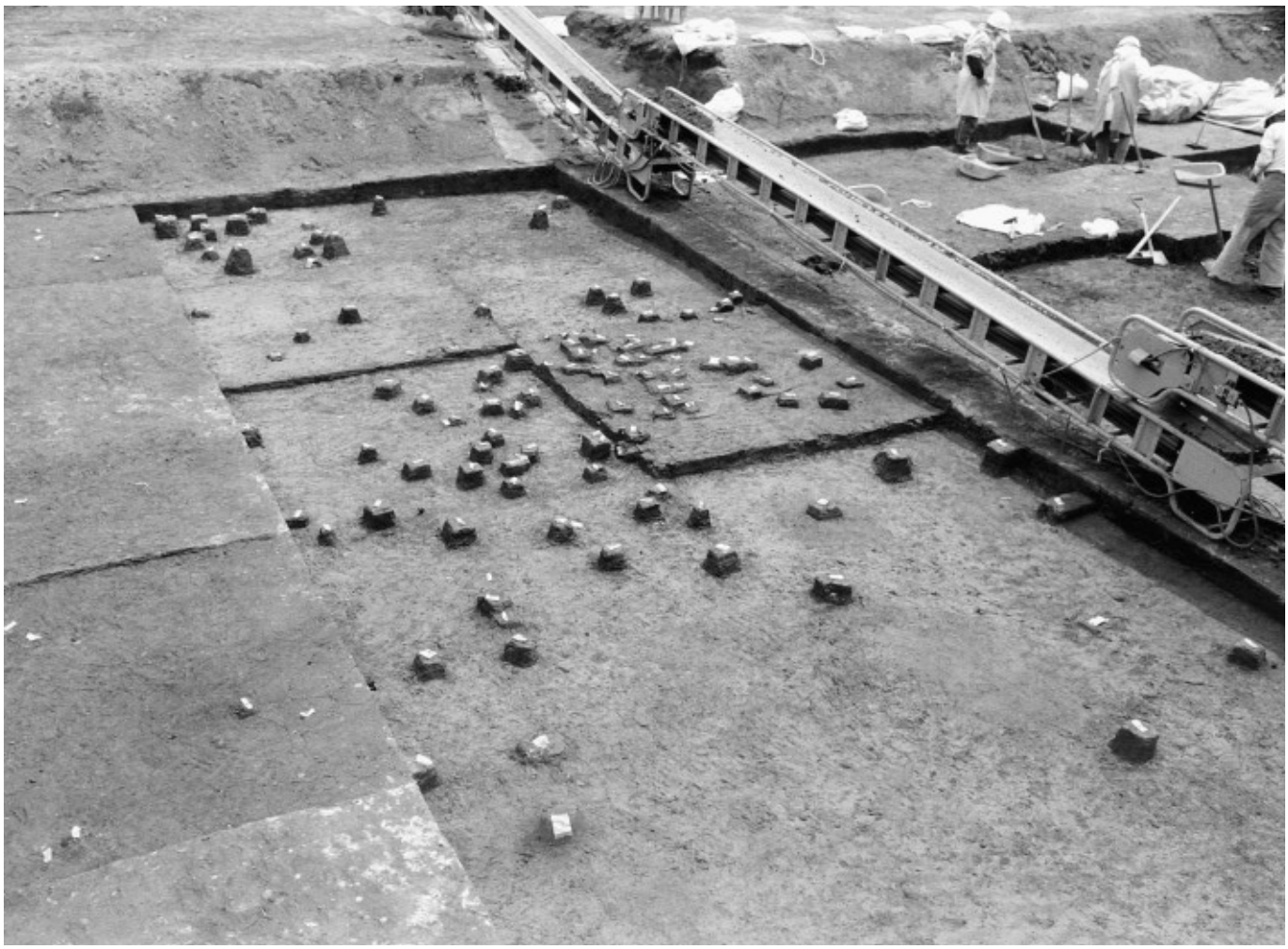
①Ⅶａ層遺物出土状況　②遺物出土状況　④遺物出土状況
③遺物出土状況

図版４

1
2
3
4
30
17
20
18
29
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
19
21
22
23
24
25
26
27
28
31
32
33
34
35
36
37

旧石器時代石器

隠 迫 遺 跡 図 版



隠迫遺跡近景
ブロック検出状況

図版２

遺物出土状況
Ｂ－３区西壁土層断面

遺物出土状況

8 トレンチ遺物出土状況

8 トレンチ遺物出土状況

図版４

遺物出土状況

遺物出土状況

調査風景

旧石器時代石器

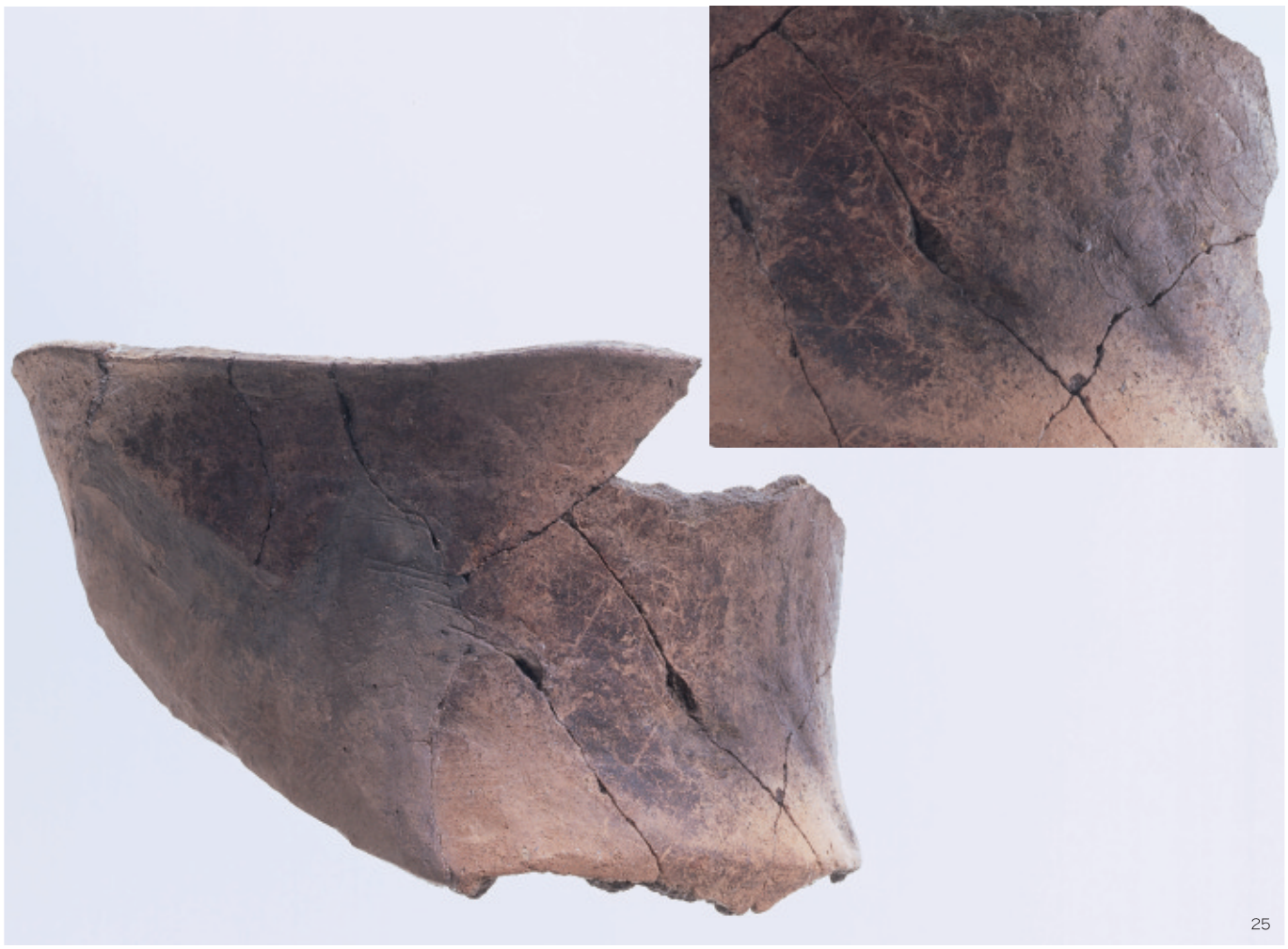
図版６

6

10

縄文時代土器（１）

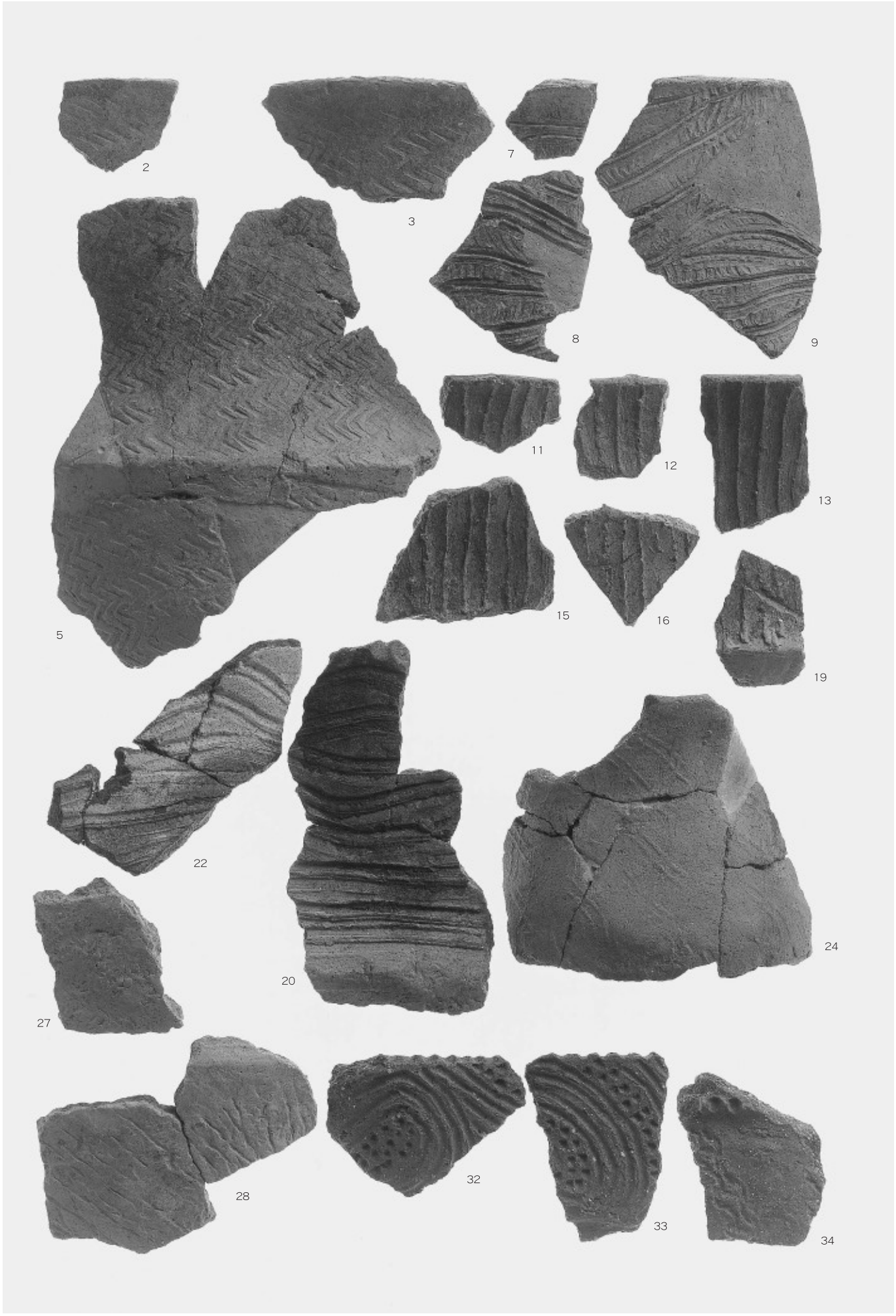
23



25

縄文時代土器（２）

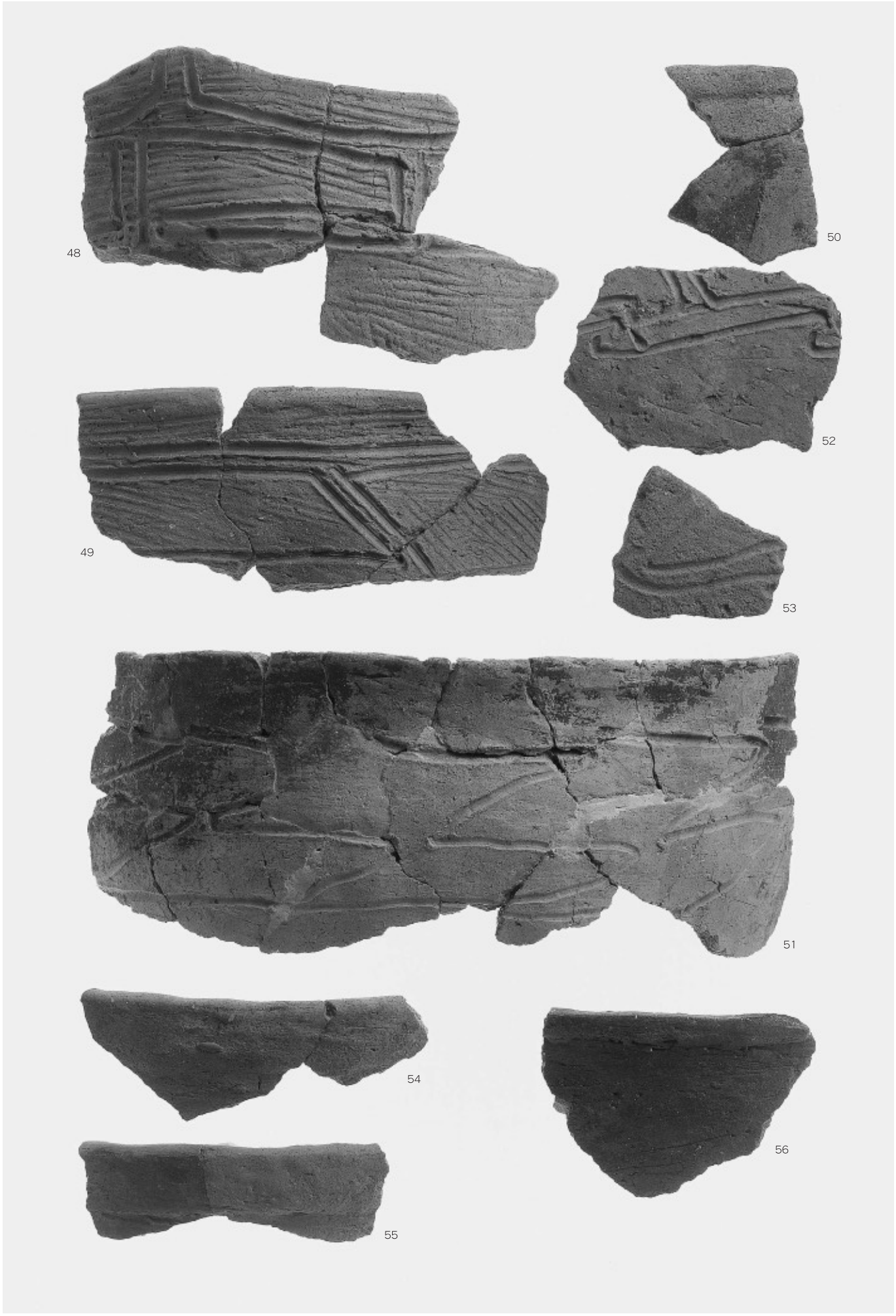
図版８



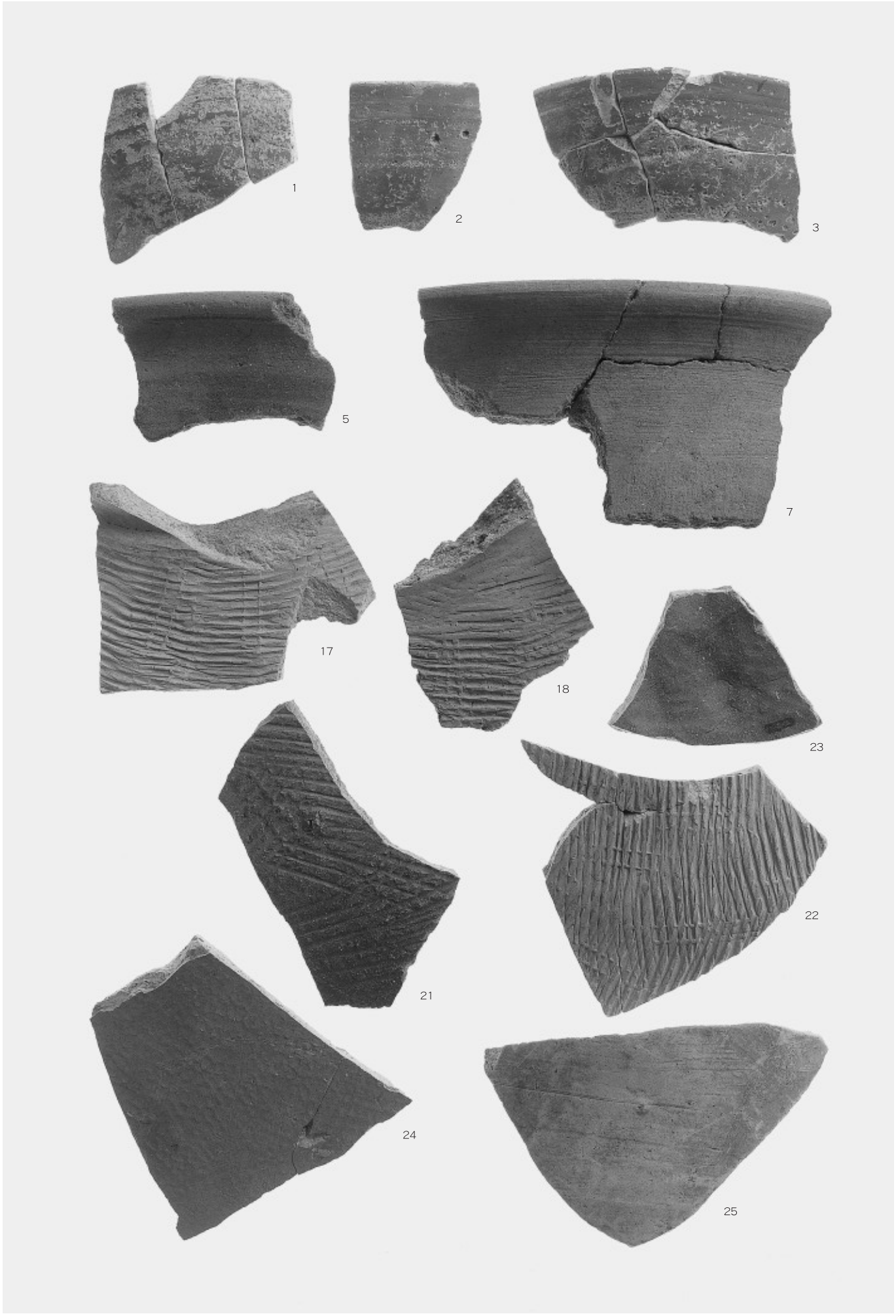
縄文時代土器（３）

縄文時代土器（４）

図版10



縄文時代土器（5）



古代土器

図版12

縄文時代石器（1）

縄文時代石器（２）

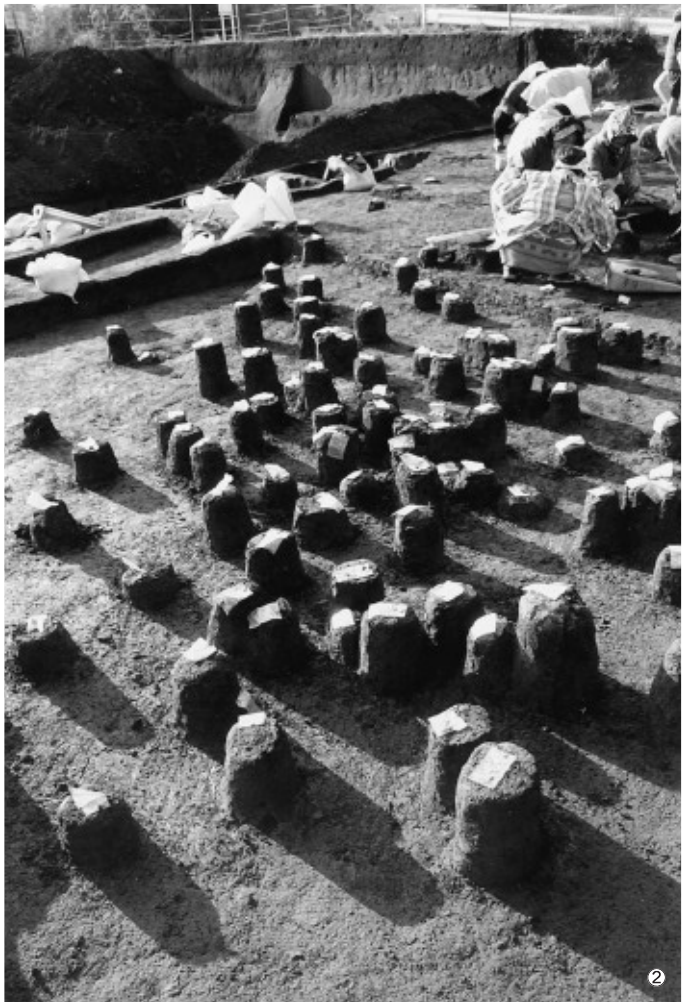
図版14

縄文時代石器（3）

柵 堀 遺 跡 図 版

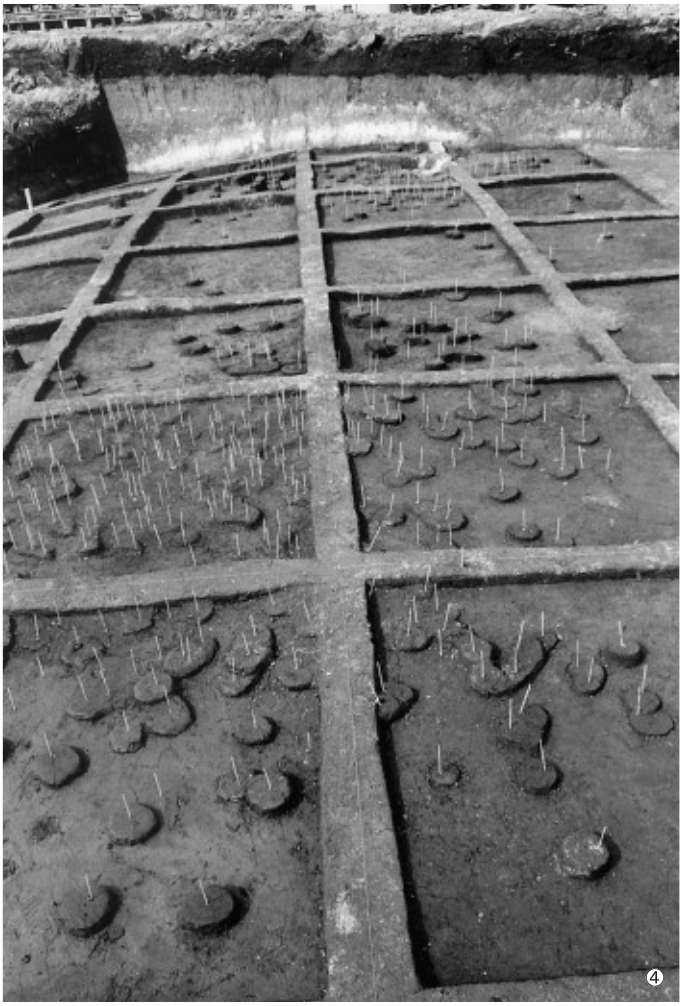
調査風景
杼堀遺跡近景

図版２



①・②遺物出土状況

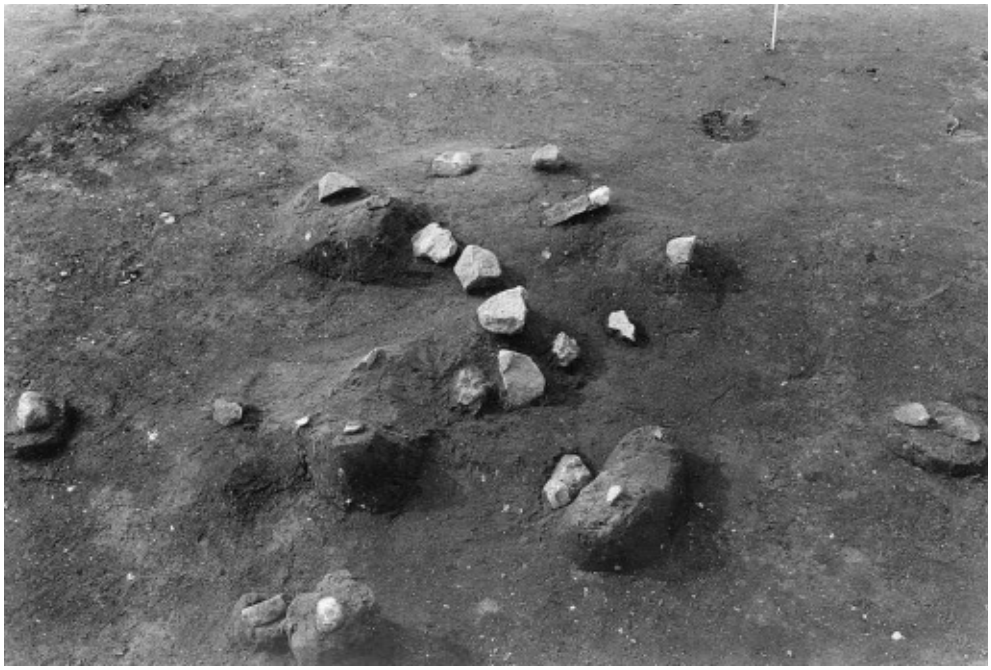
③土層断面



①１号礫群　　②～④遺物出土状況

図版４

1 号集石



2 号集石

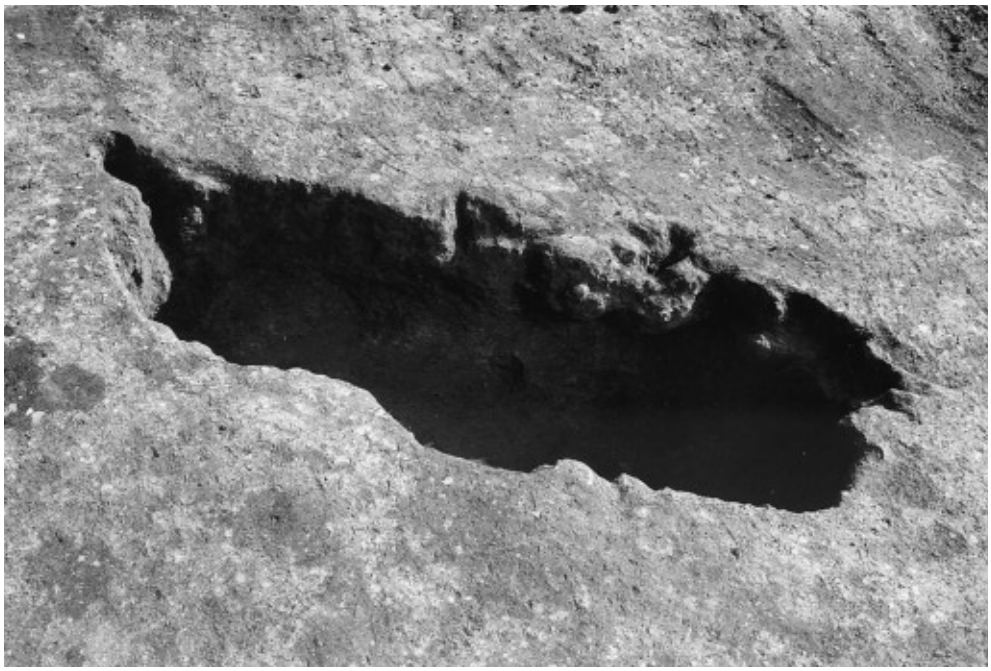
4 号集石

5 号集石

6 号集石

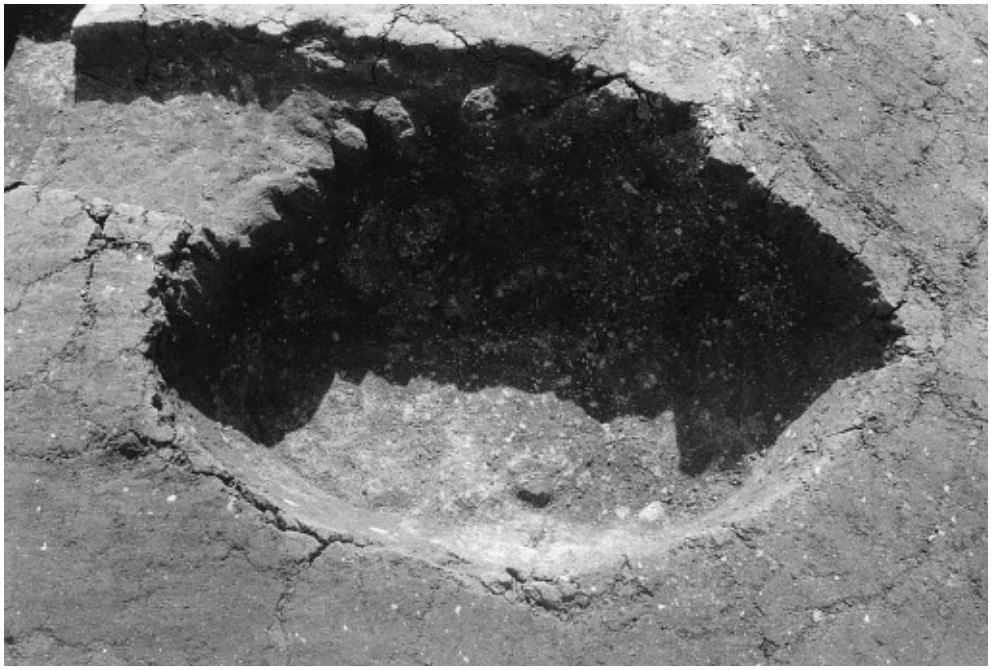
7 号集石

図版６



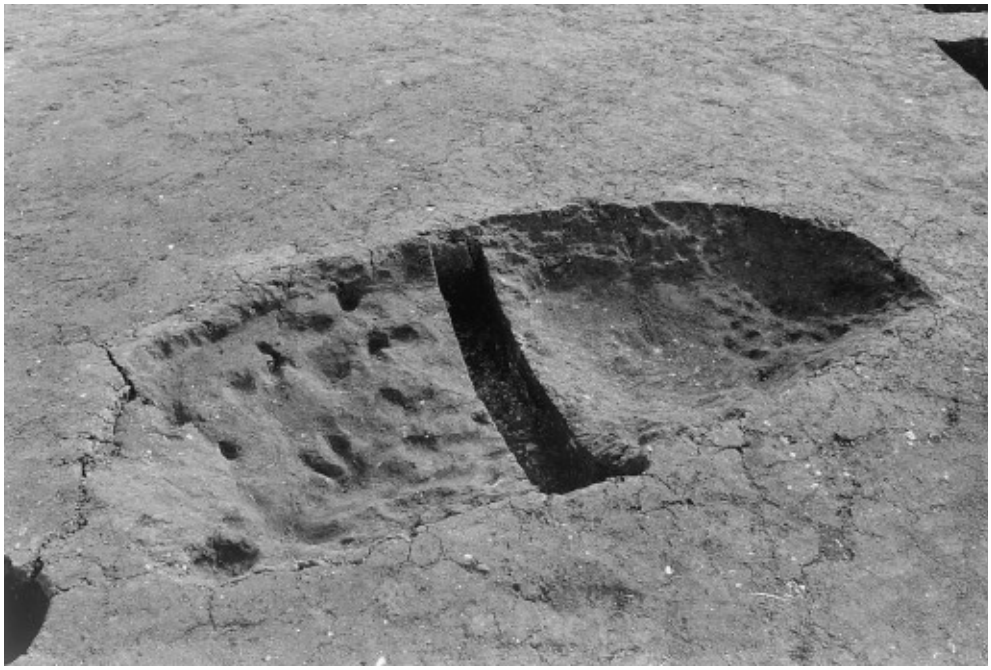
Ⅴ層１号土坑

Ⅲ層１号土坑

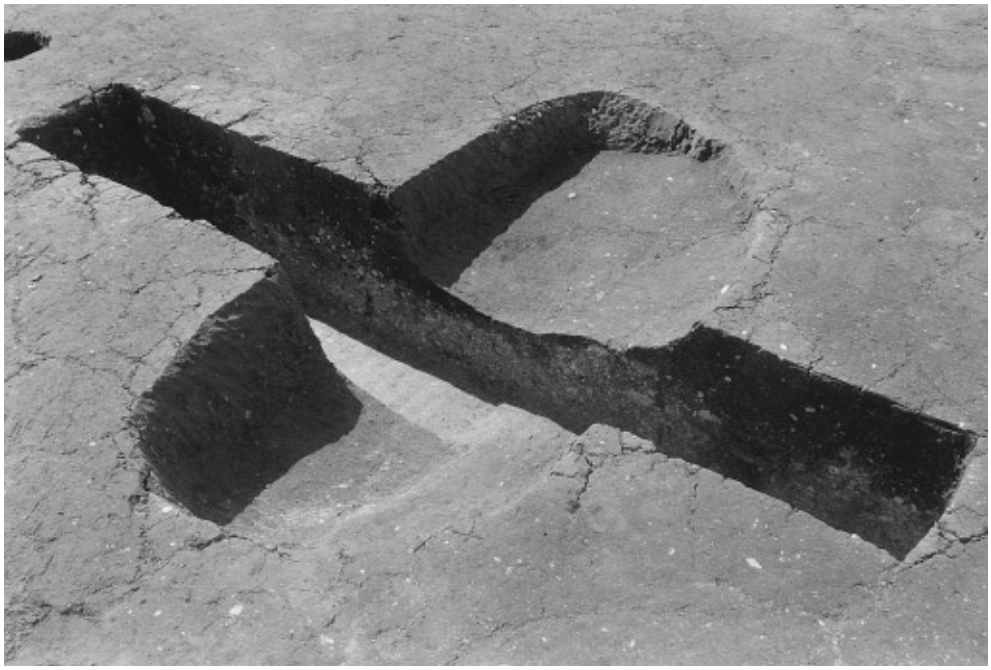


２号土坑

5 号土坑

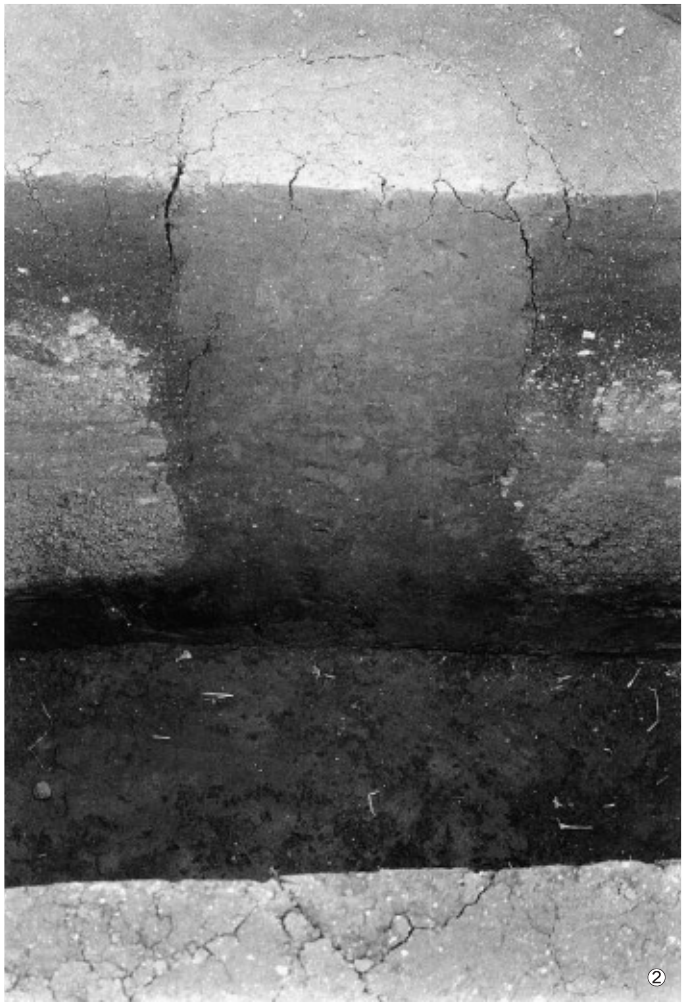


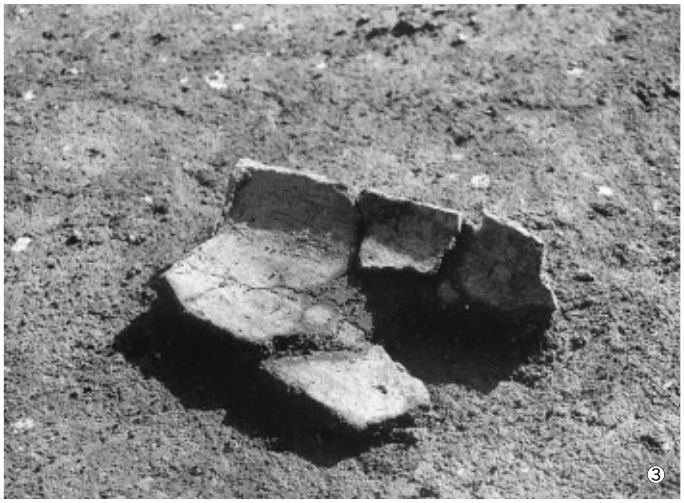
6 号土坑



7 号土坑

図版８





①溝状遺構
②７号土坑

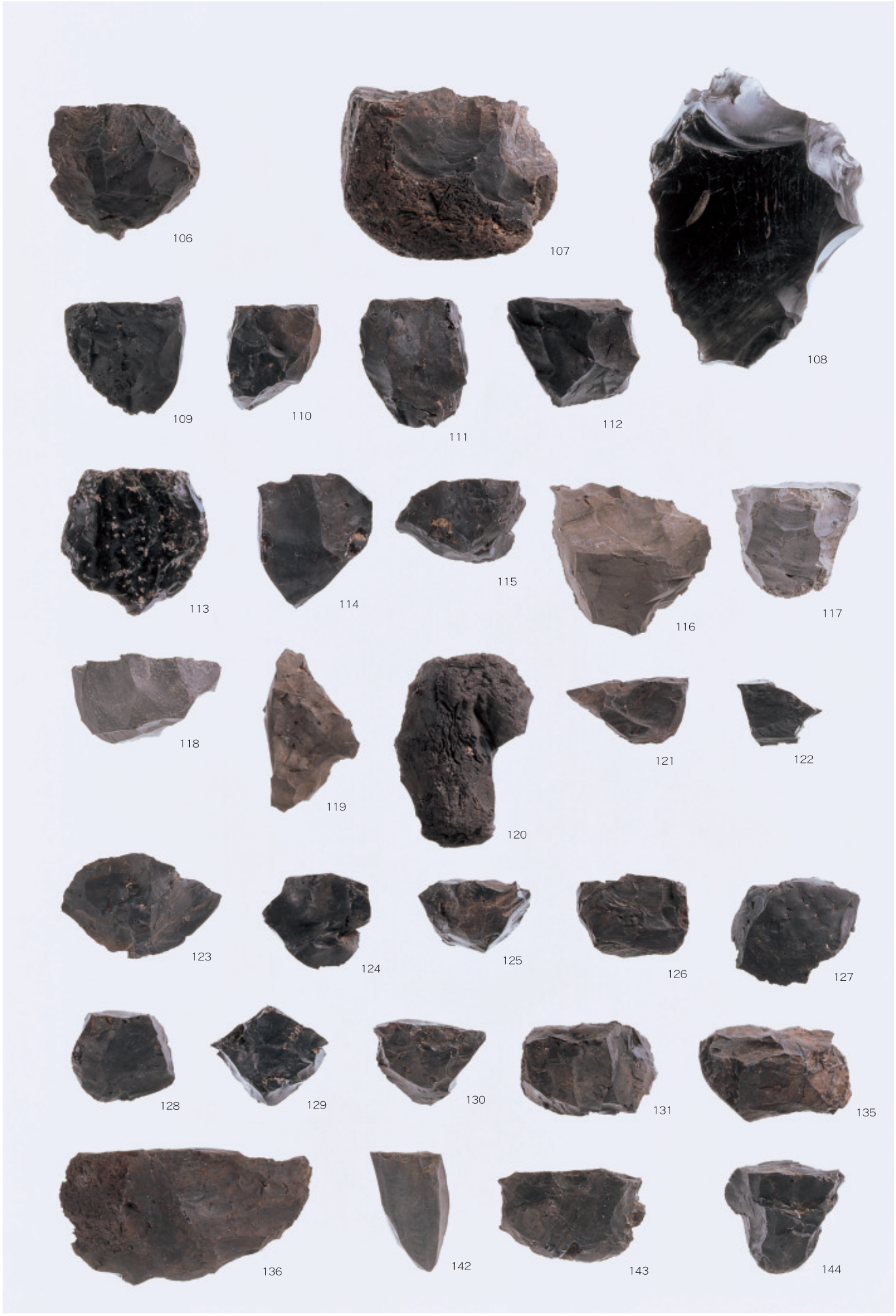
③・④土器出土状況

1
2
3
4
5
6
7
8
9
47
19
21
22
48
53
54
61
71
65
66
67
68
69
70
97
98
99
100
101
102
103
104
105
96

旧石器時代石器（１）

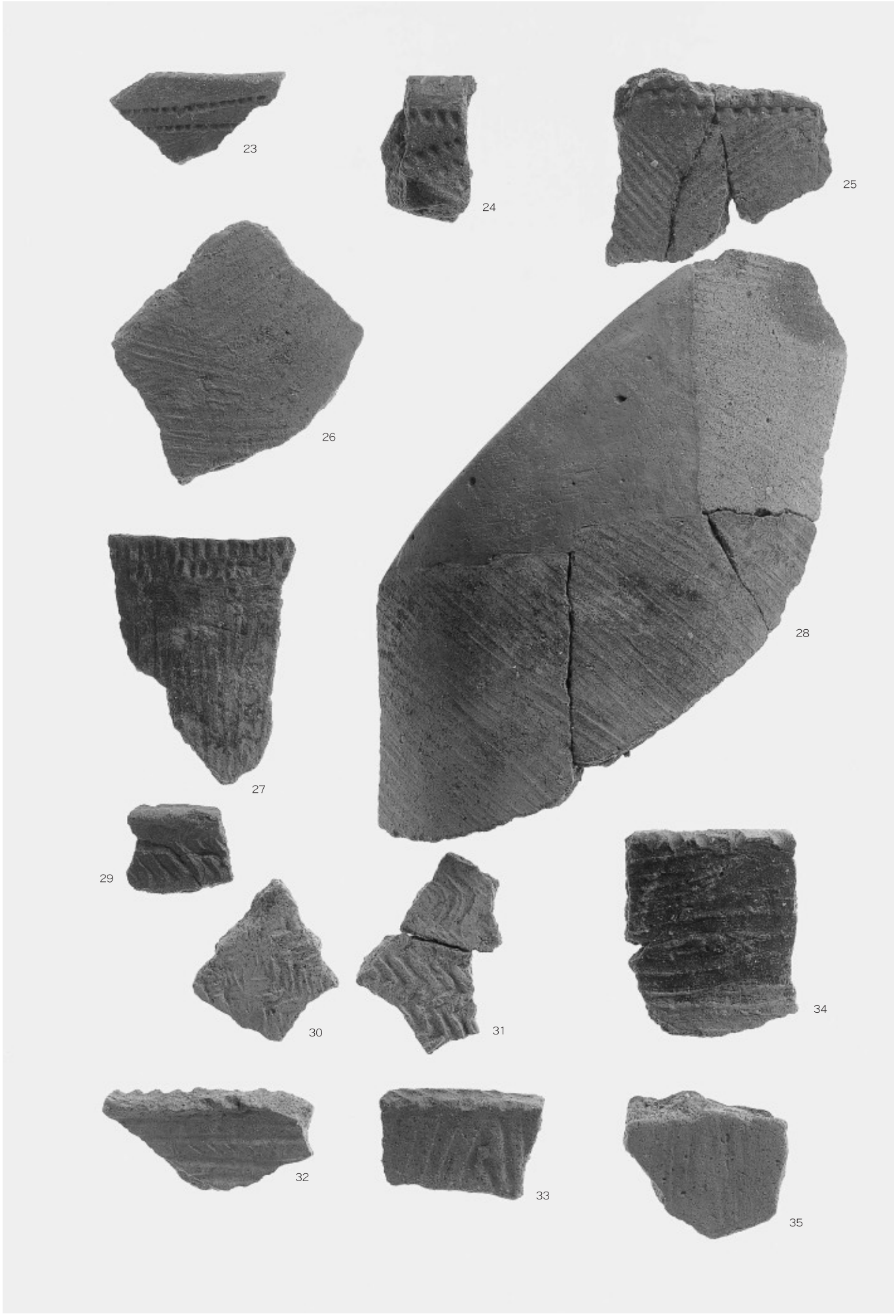
図版10

旧石器時代石器（２）


106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
135
136
142
143
144

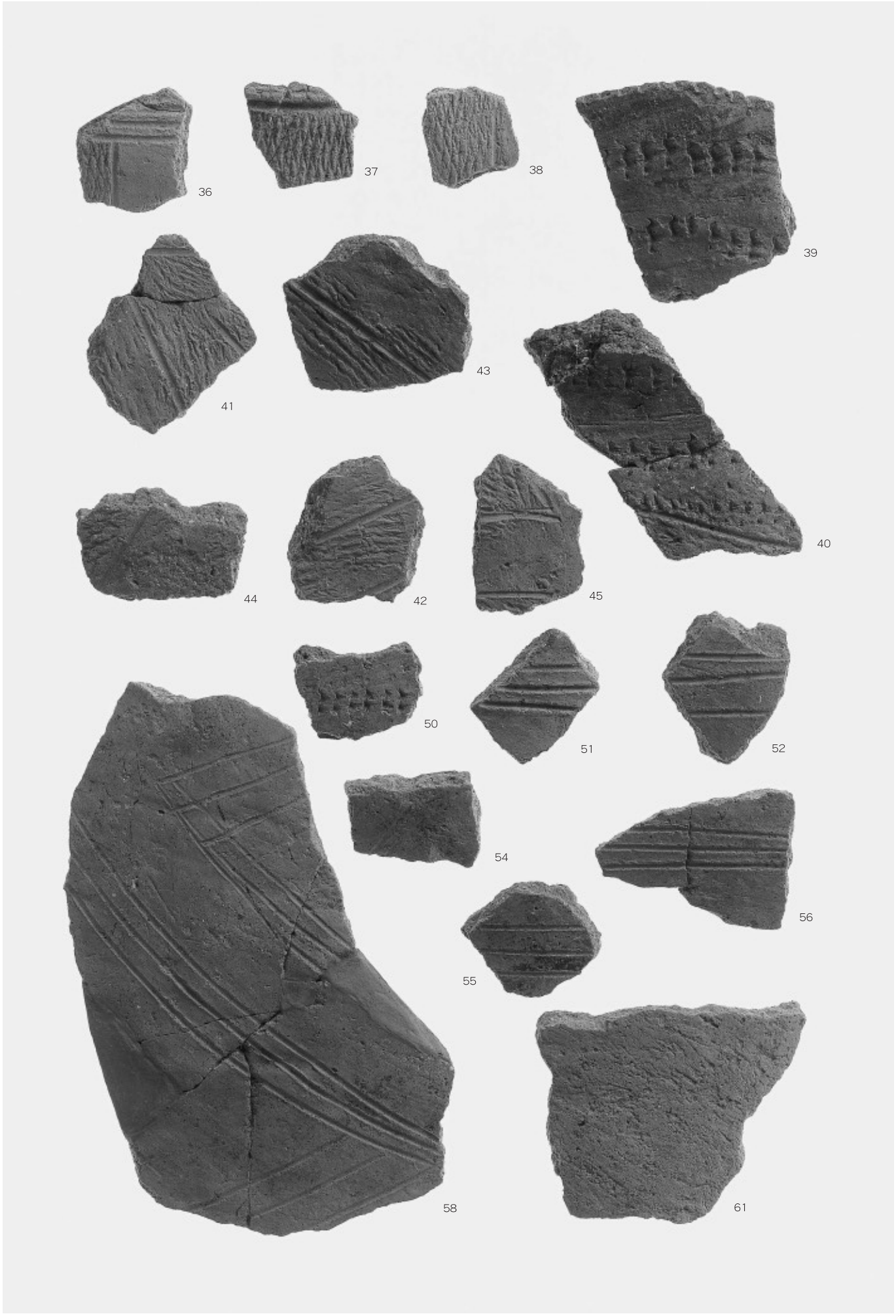
旧石器時代石器（３）

縄文時代土器（1）



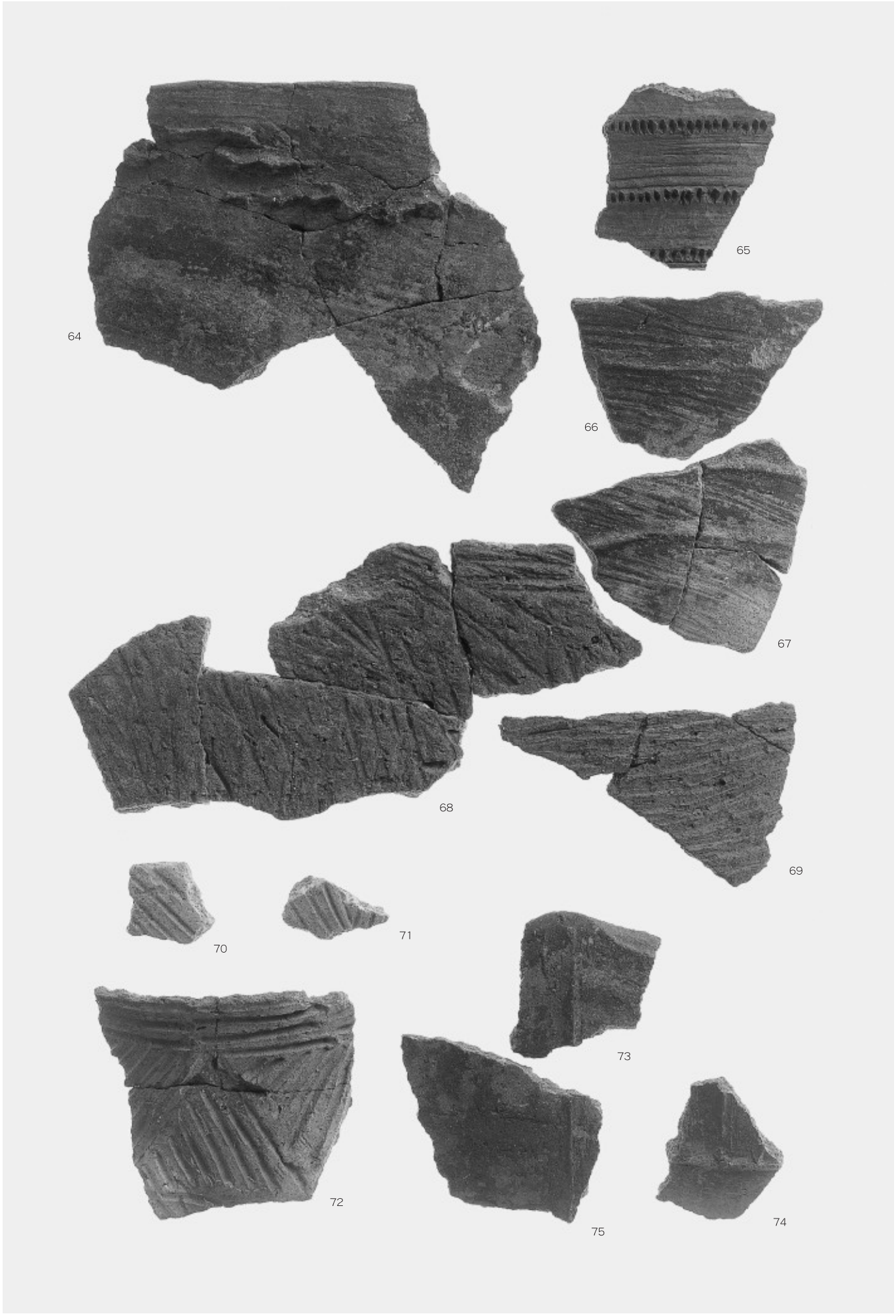
縄文時代土器（２）

図版14

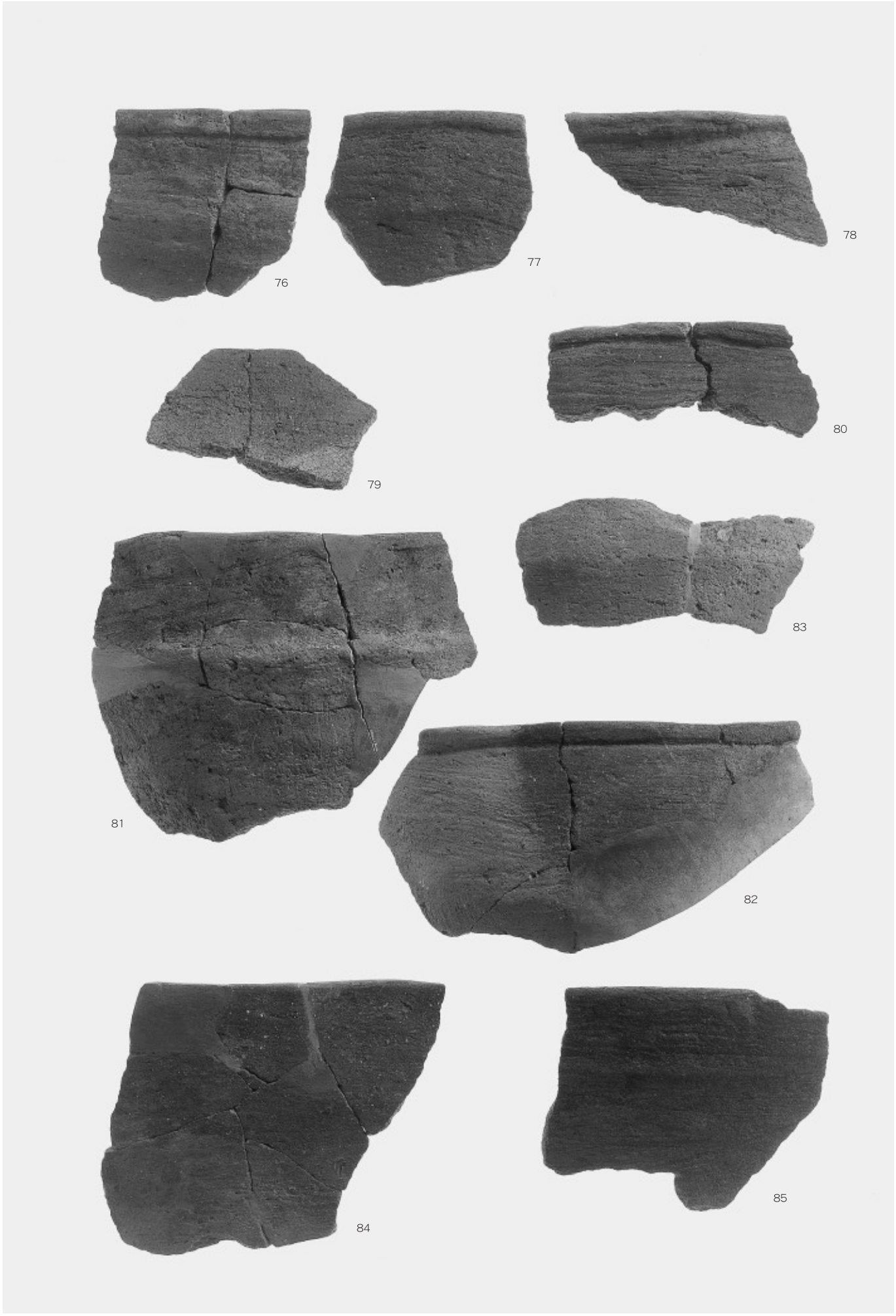


縄文時代土器（３）

縄文時代土器（４）

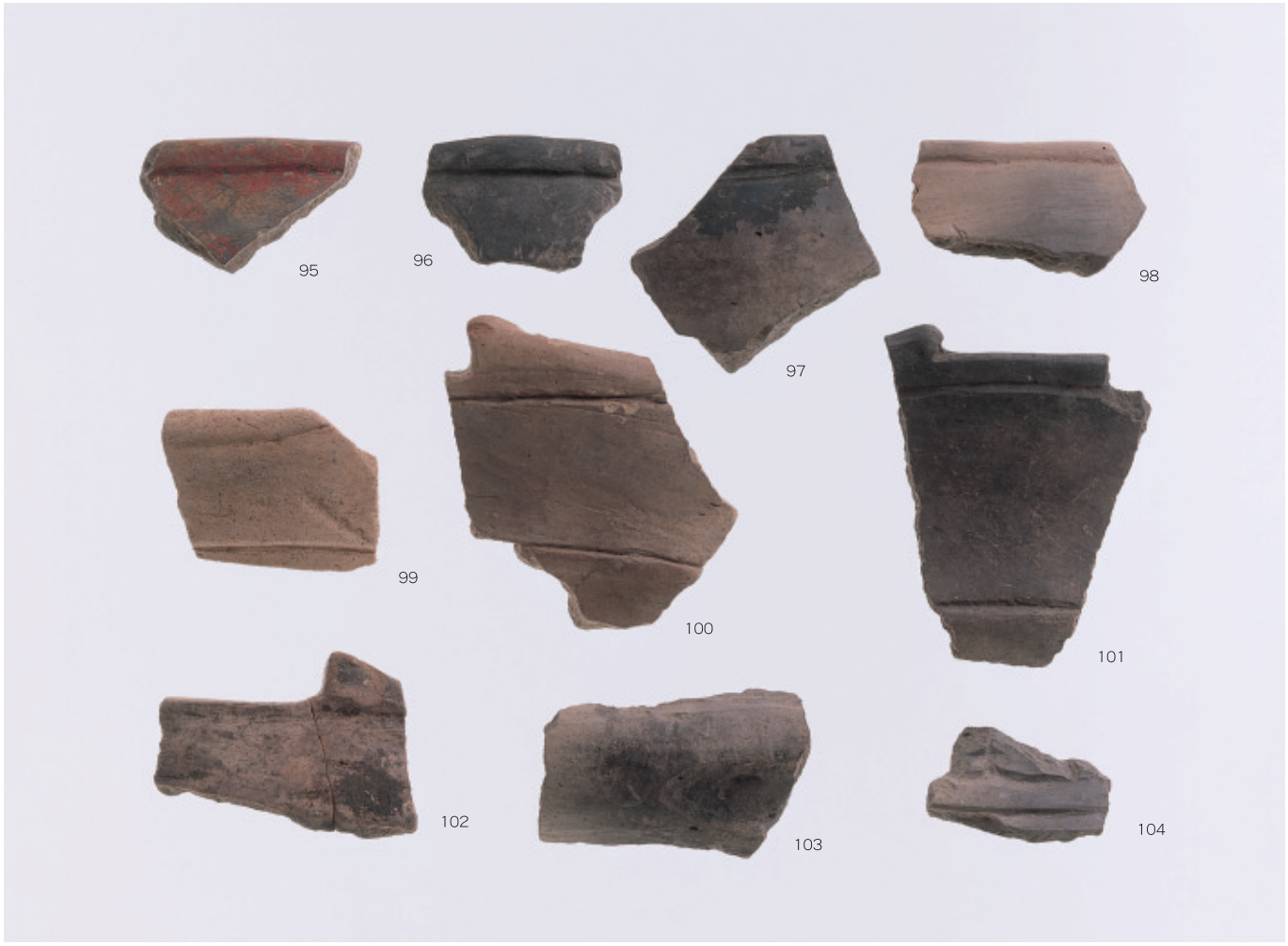


縄文時代土器（5）



縄文時代土器（6）

図版18



縄文時代土器（7）

113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
143
144
145
146
147
148
149
150
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
140
141
142
139

縄文時代石器（1）

137
172
162
138

縄文時代石器（２）

縄文時代石器（3）

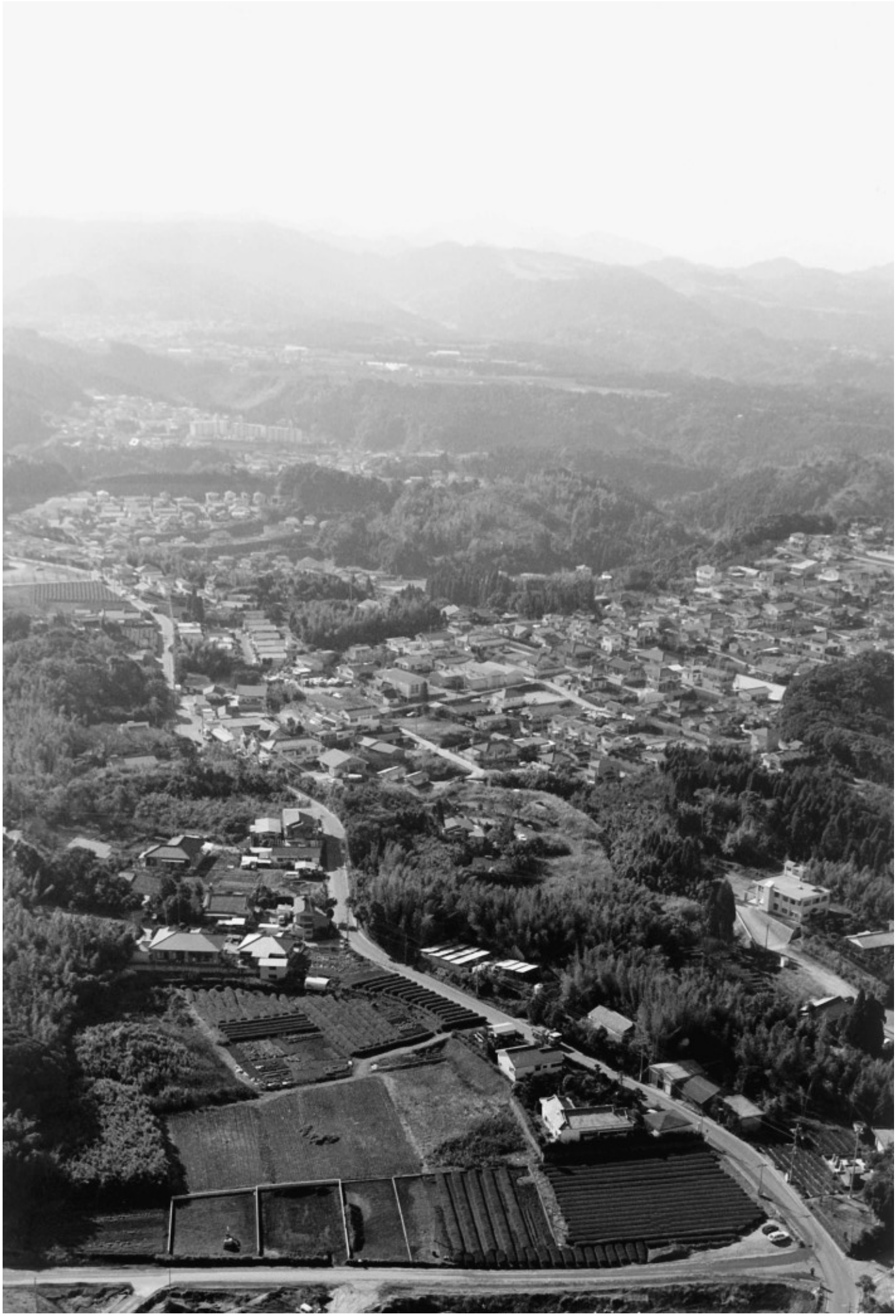
図版22

弥生時代土器

仁田尾遺跡図版

仁田尾遺跡遠景（1）

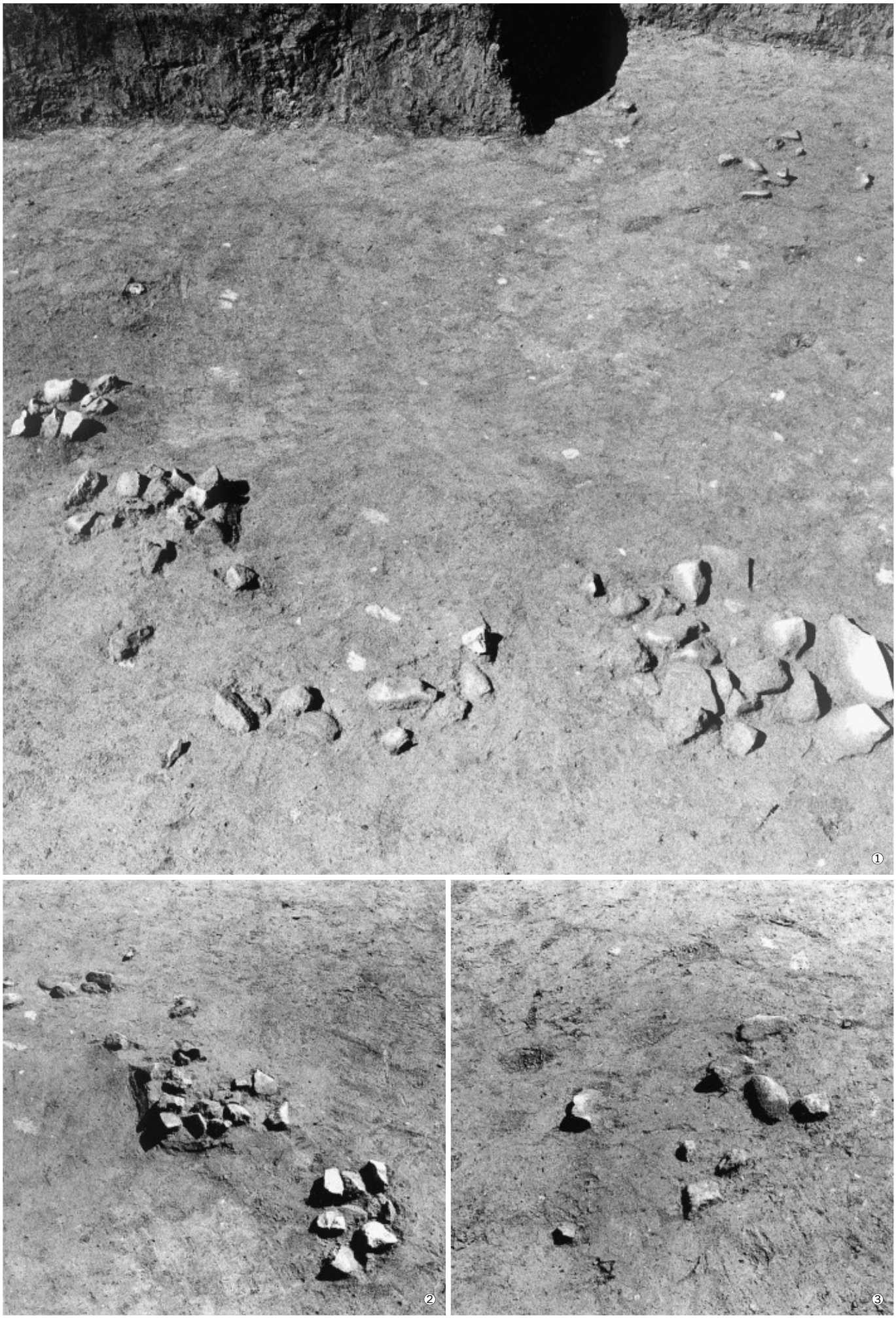
図版２



仁田尾遺跡遠景（２）

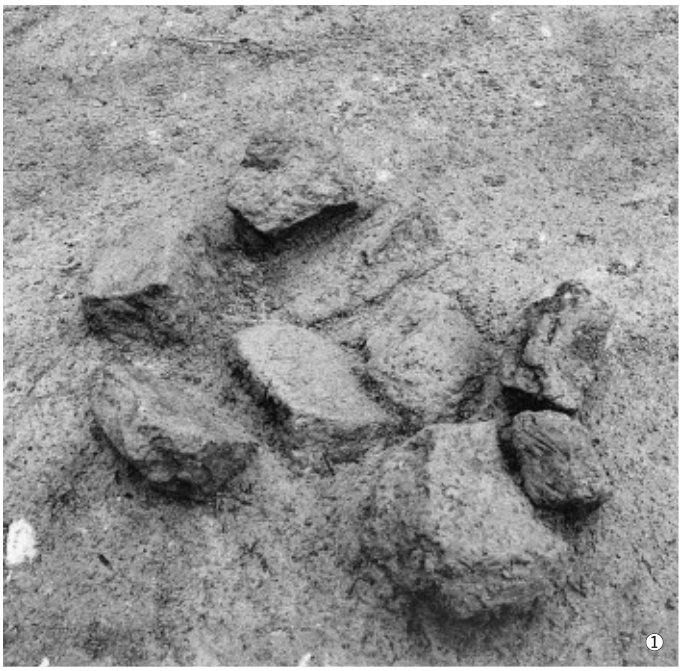
土層断面
調査風景

図版４



①・② 1 号礫群及び 3 号礫群検出状況

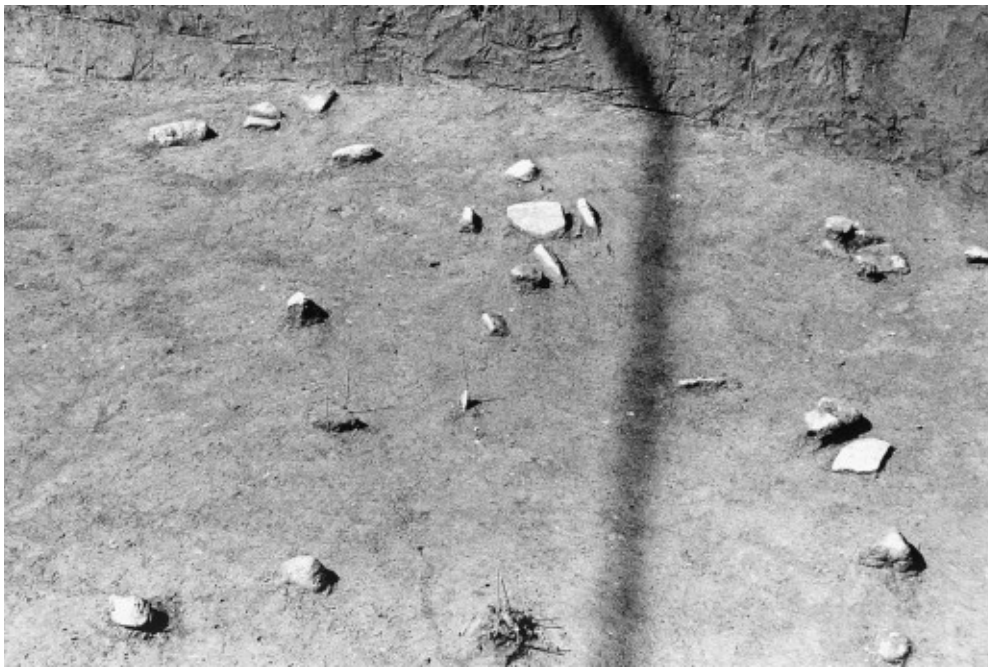
③ 2 号礫群



① 4 号礫群　② 5 号礫群　④ 8 号礫群　⑤14号礫群
③ 7 号礫群　⑥16号礫群

図版６

①９号～11号礫群　②９号礫群　④10号礫群　⑤12号礫群
③11号礫群



13号礫群

17号礫群

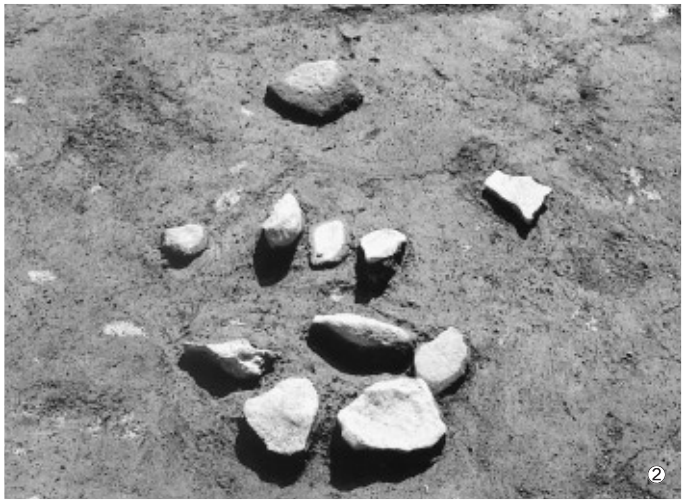
26号礫群

図版８

18号礫群

19号礫群

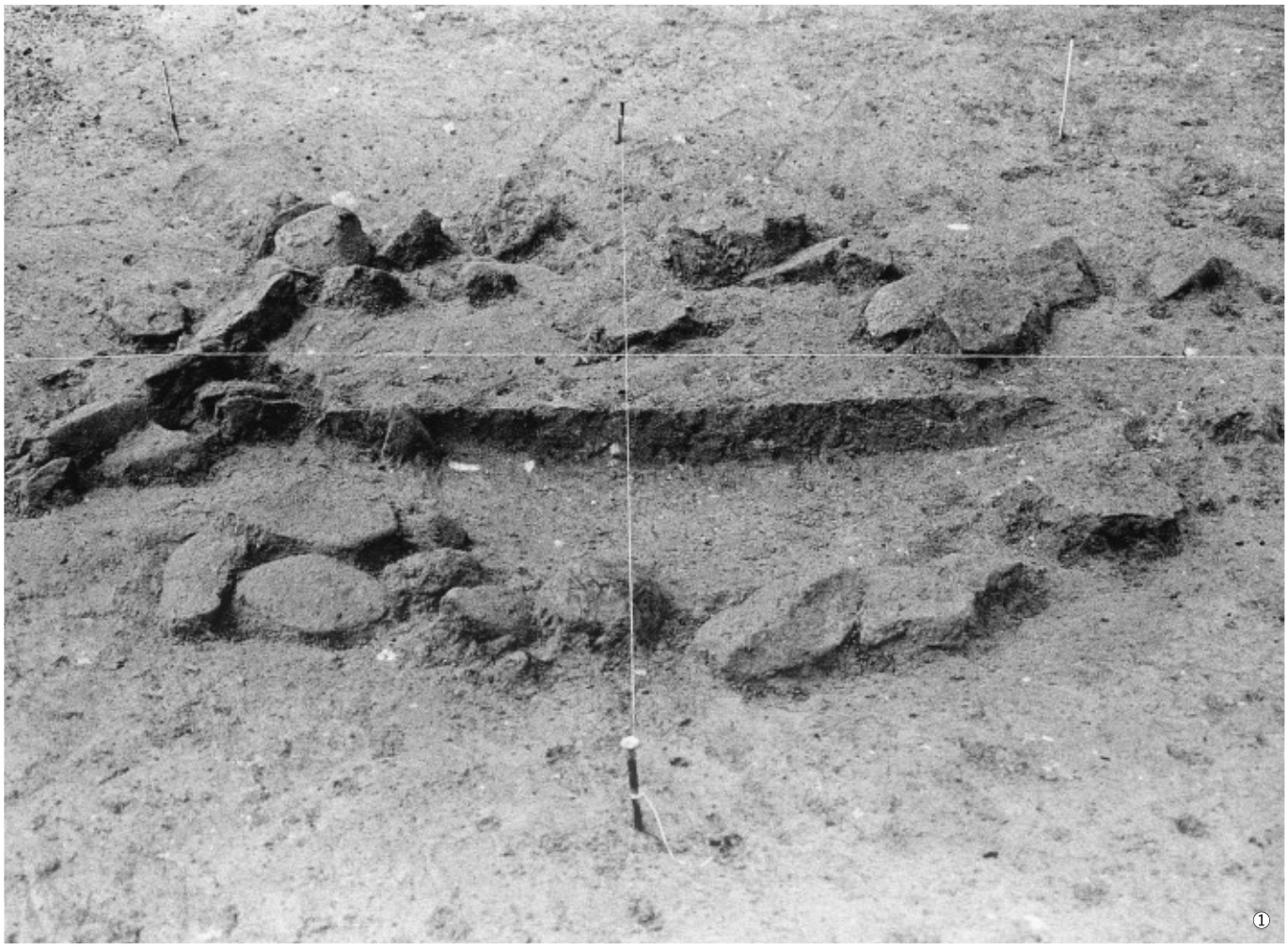
27号礫群



①Ⅴ－35区礫群出土状況　②20号礫群　④21号礫群
③22号礫群

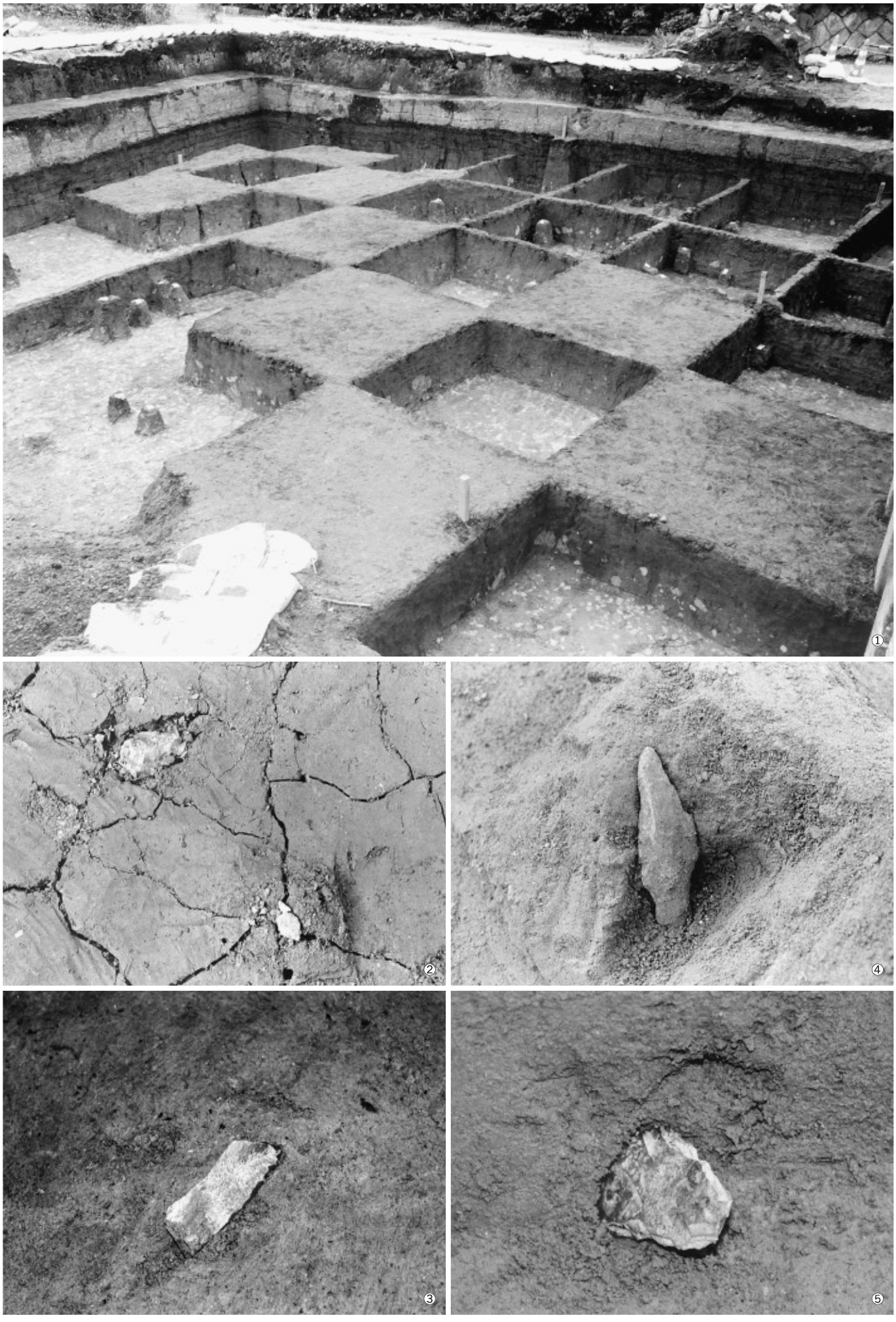
図版10

①礫群出土状況　②23号礫群　④・⑤24号礫群
③25号礫群

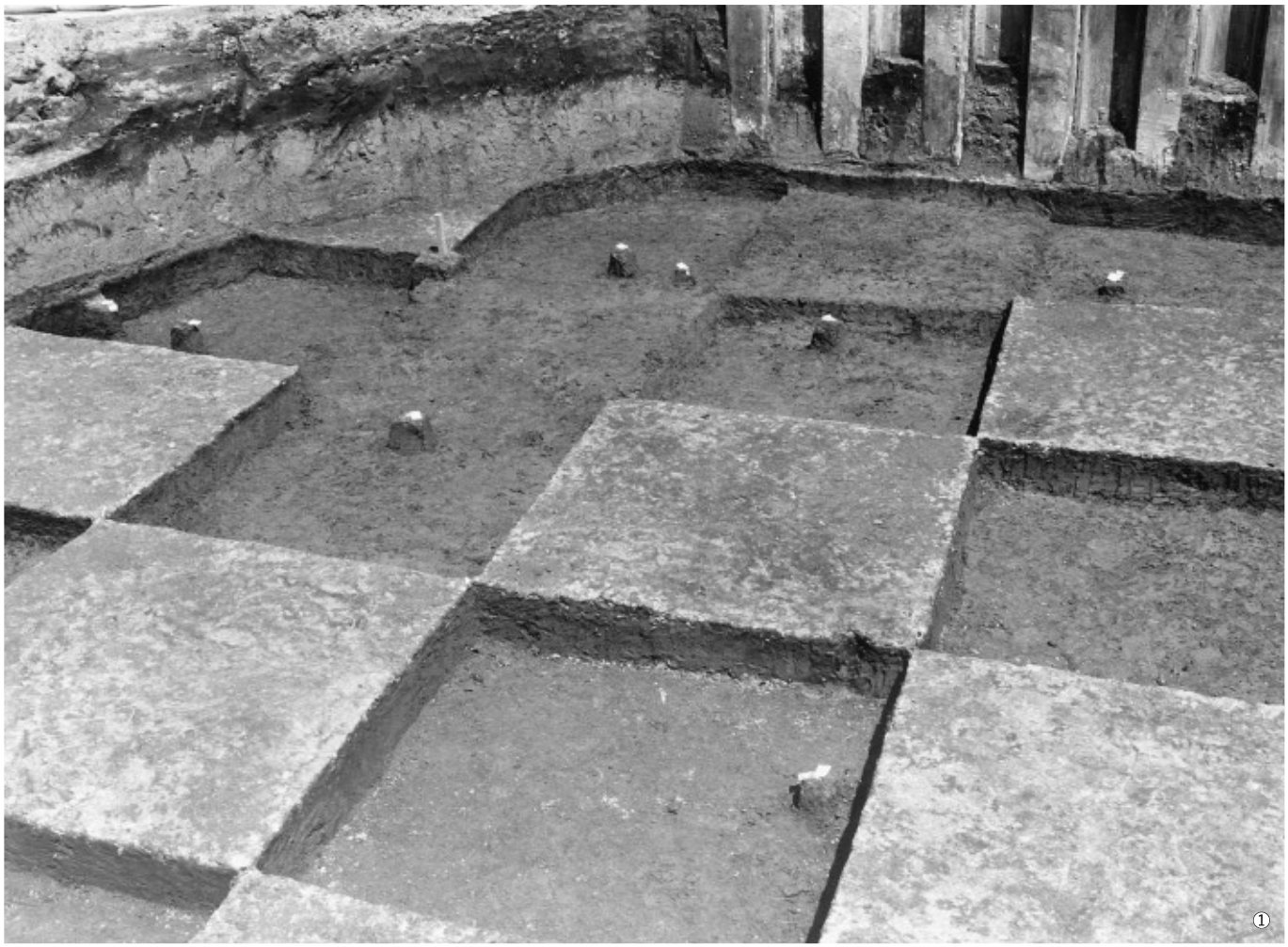


①～④配石炉状遺構

図版12

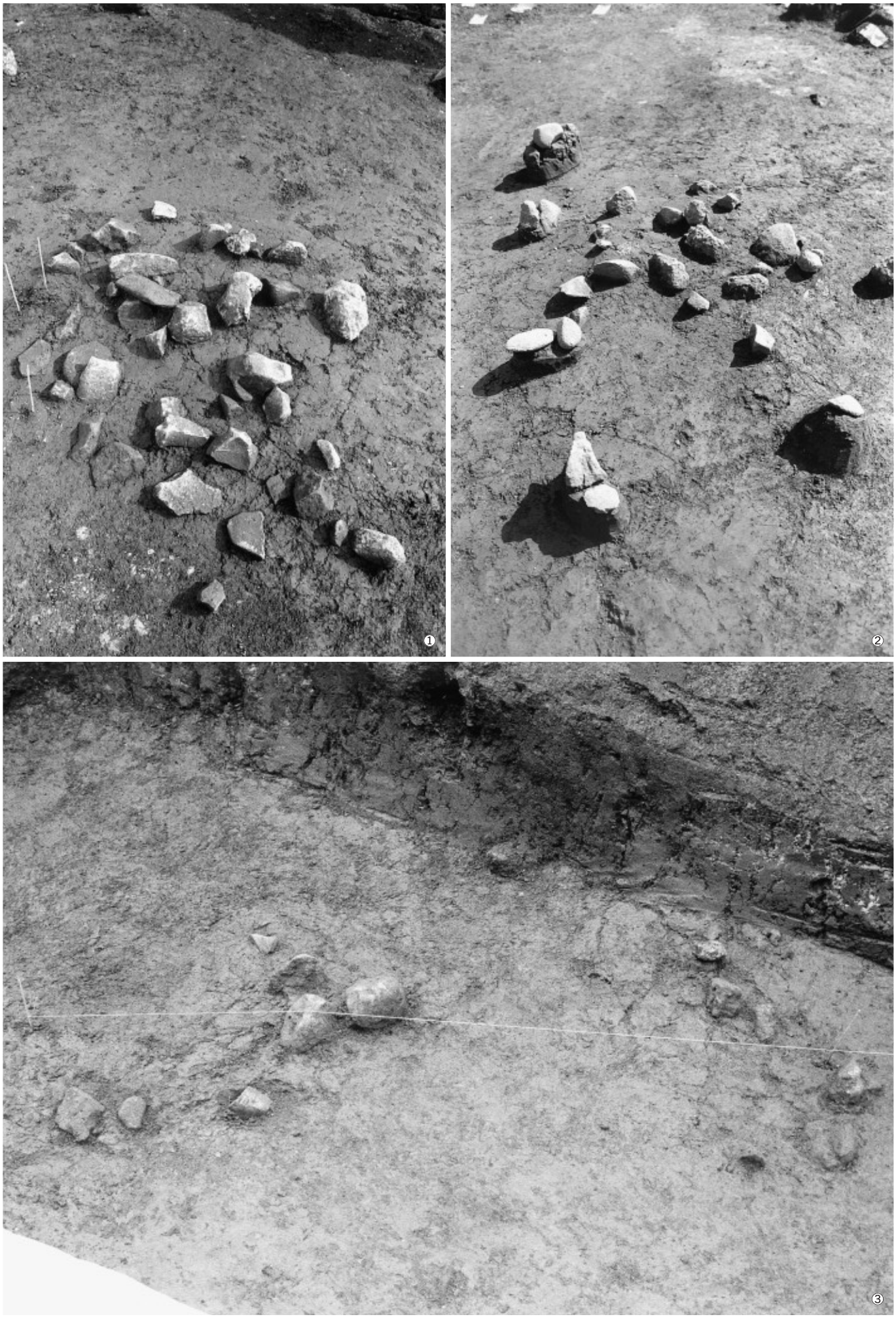


①～⑤Ⅷ層遺物出土状況



①～③遺物出土状況

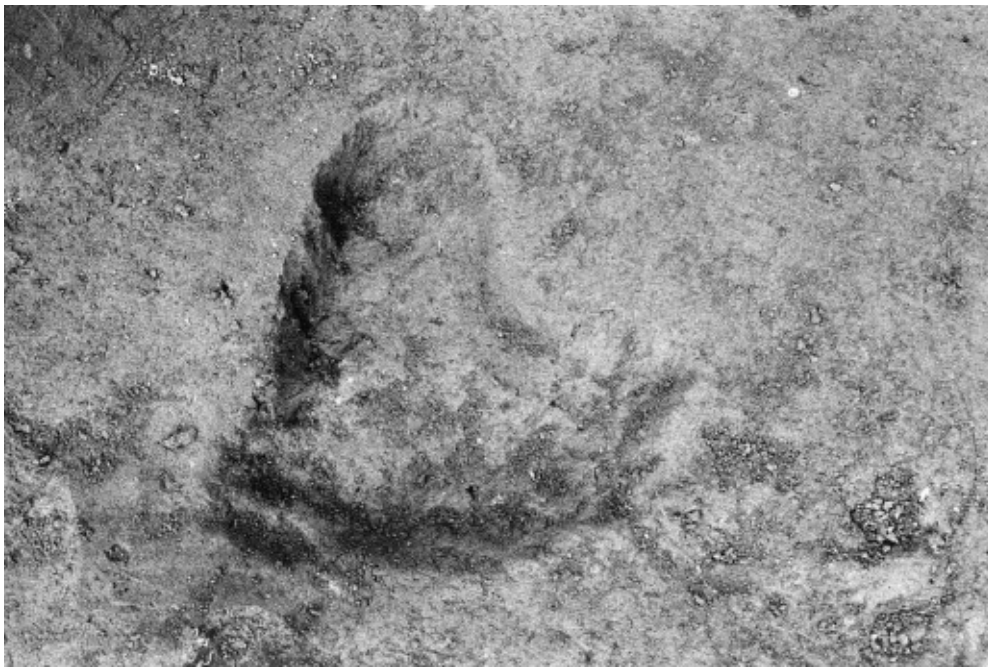
図版14



①1号集石　②2号集石
③1号礫群

①～⑤落し穴調査状況

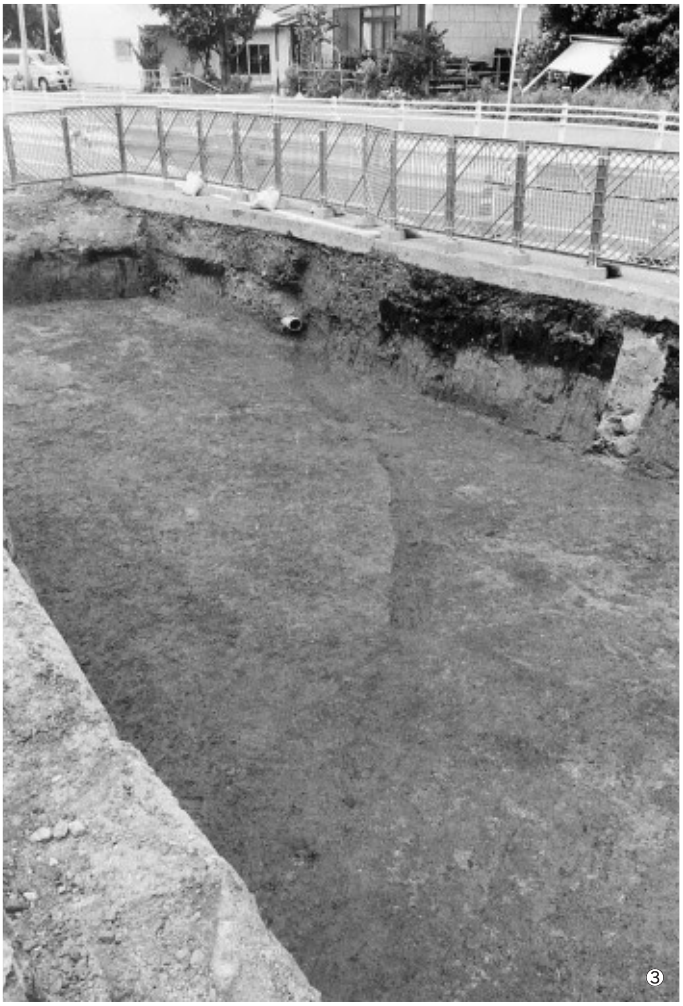
図版16



落ち込み完堀状況

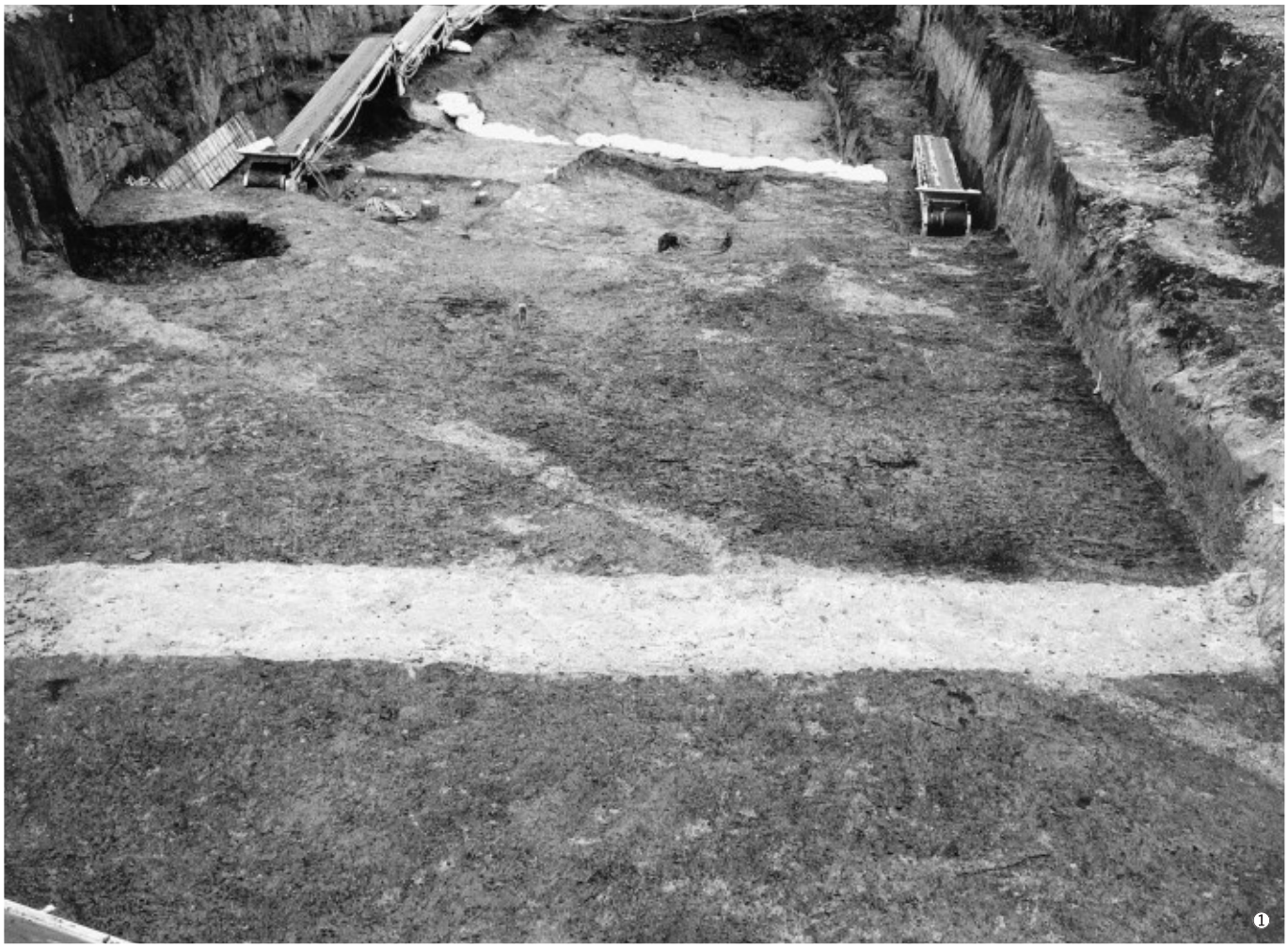
落し穴完堀状況

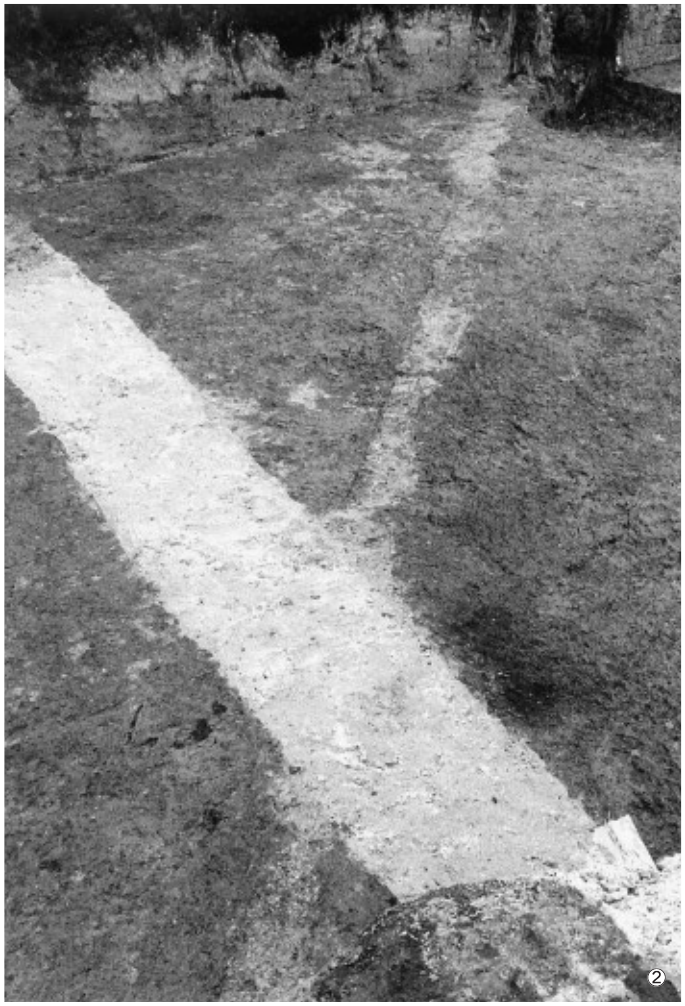
土坑完堀状況

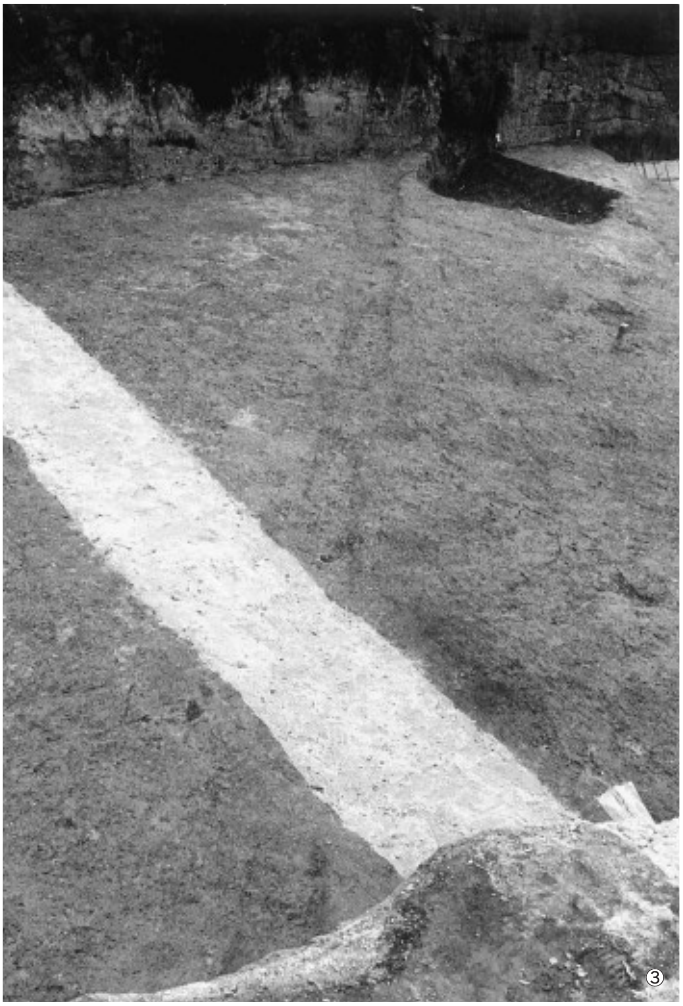


①・②ＧＧ－10・11区道跡検出状況

③ＧＧ－10・11区道跡完堀状況





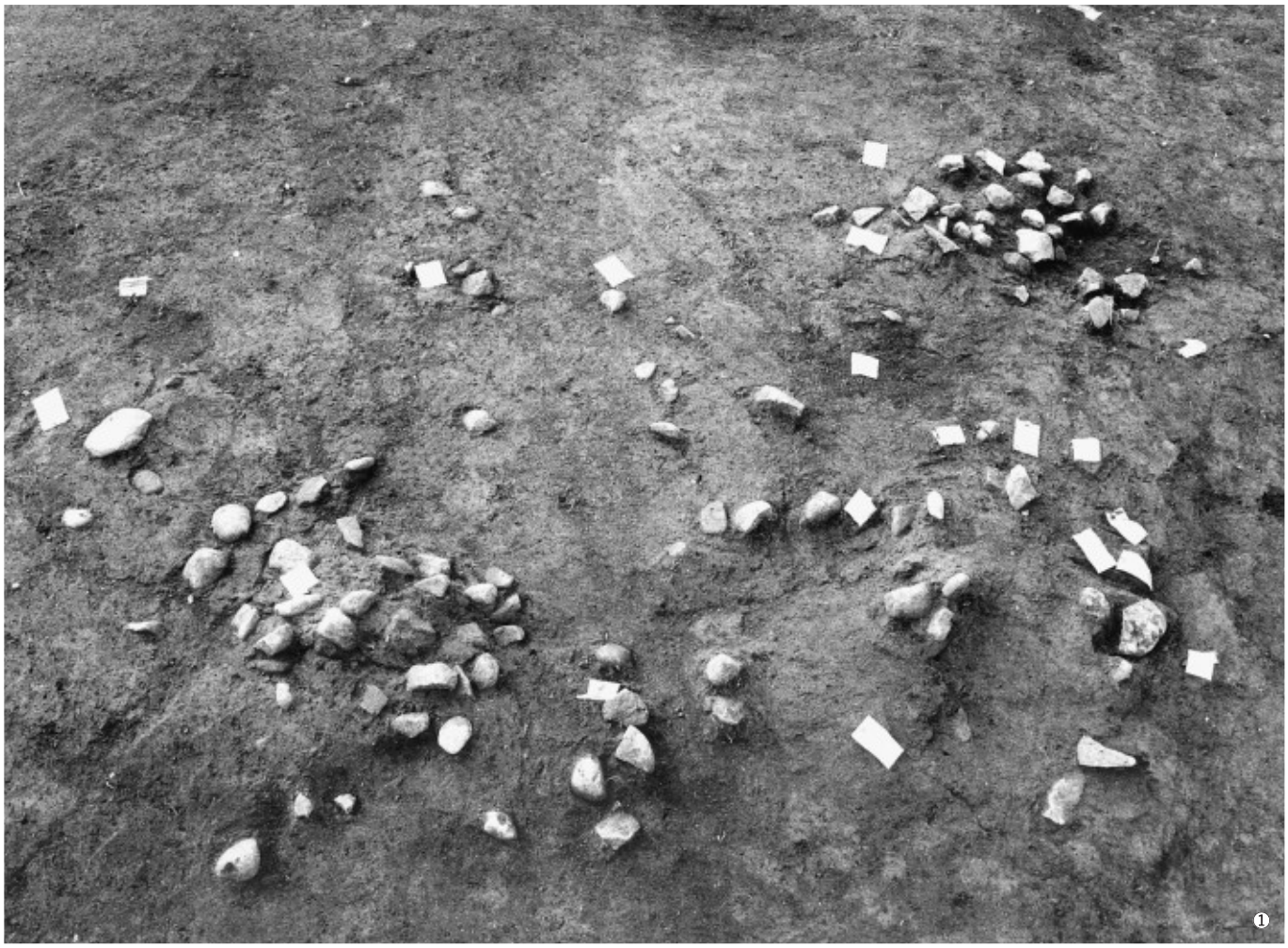


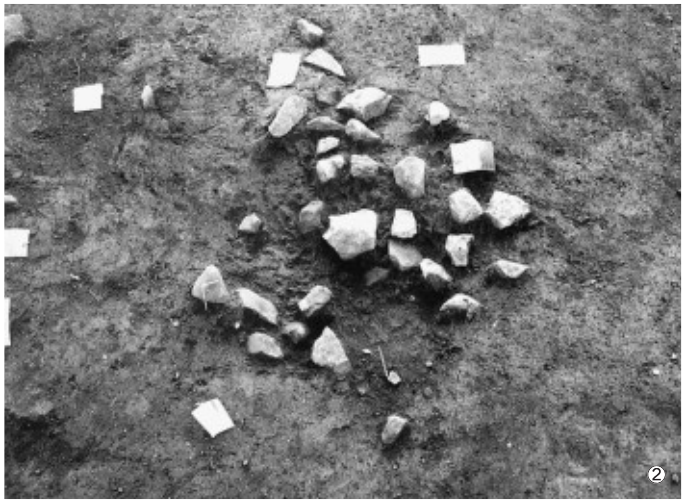
①・②ＣＣ－10区道跡検出状況

③ＣＣ－10区道跡完堀状況

① 2 号集石　② 1 号集石
③16号集石
④18号集石
⑤19号集石

①・② 3 号・ 4 号集石
③ 4 号集石
④ 3 号集石
⑤ 6 号集石





①7号・8号集石　②8号集石
③7号集石
④8号集石掘り込み跡
⑤5号集石

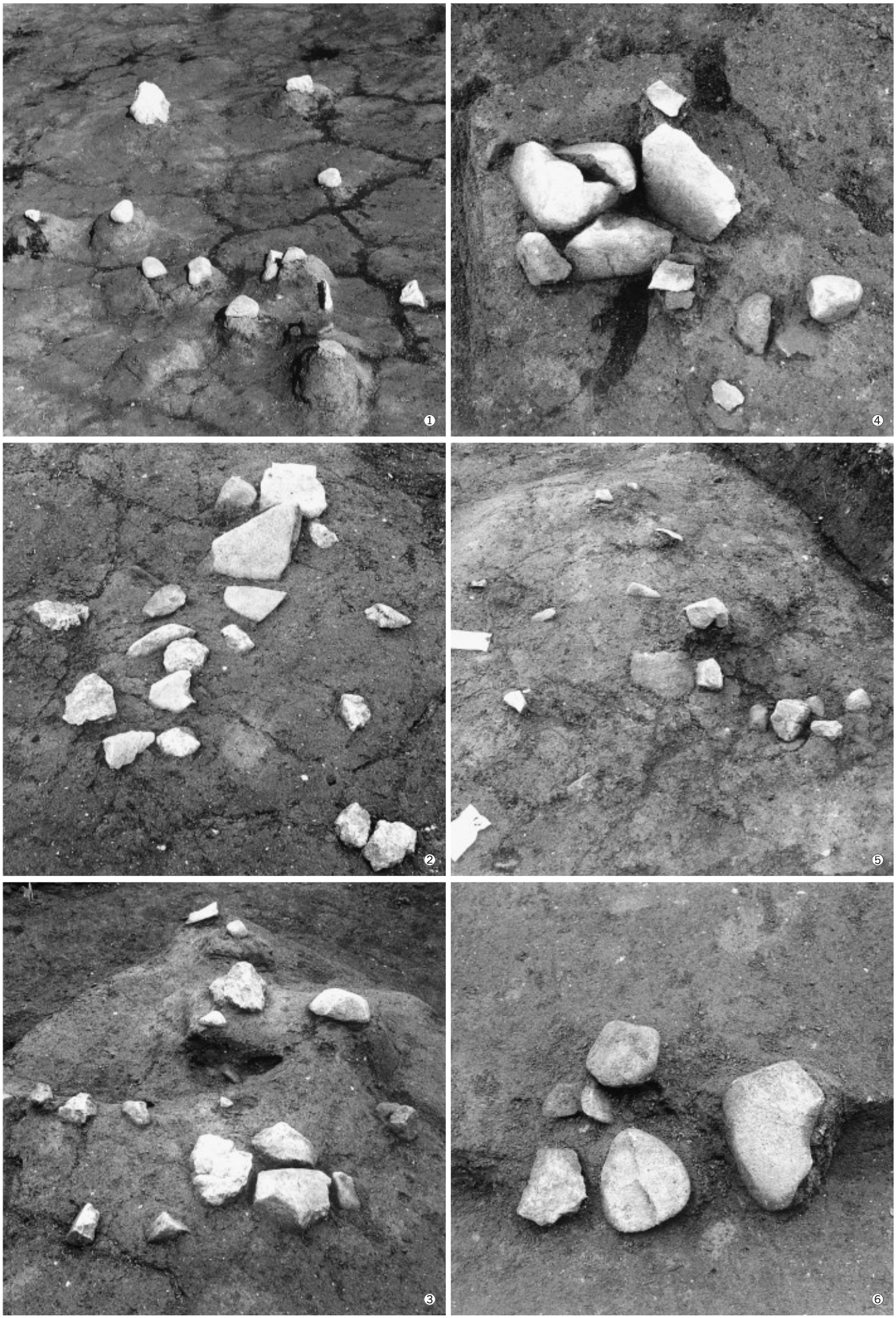
図版22

9 号集石

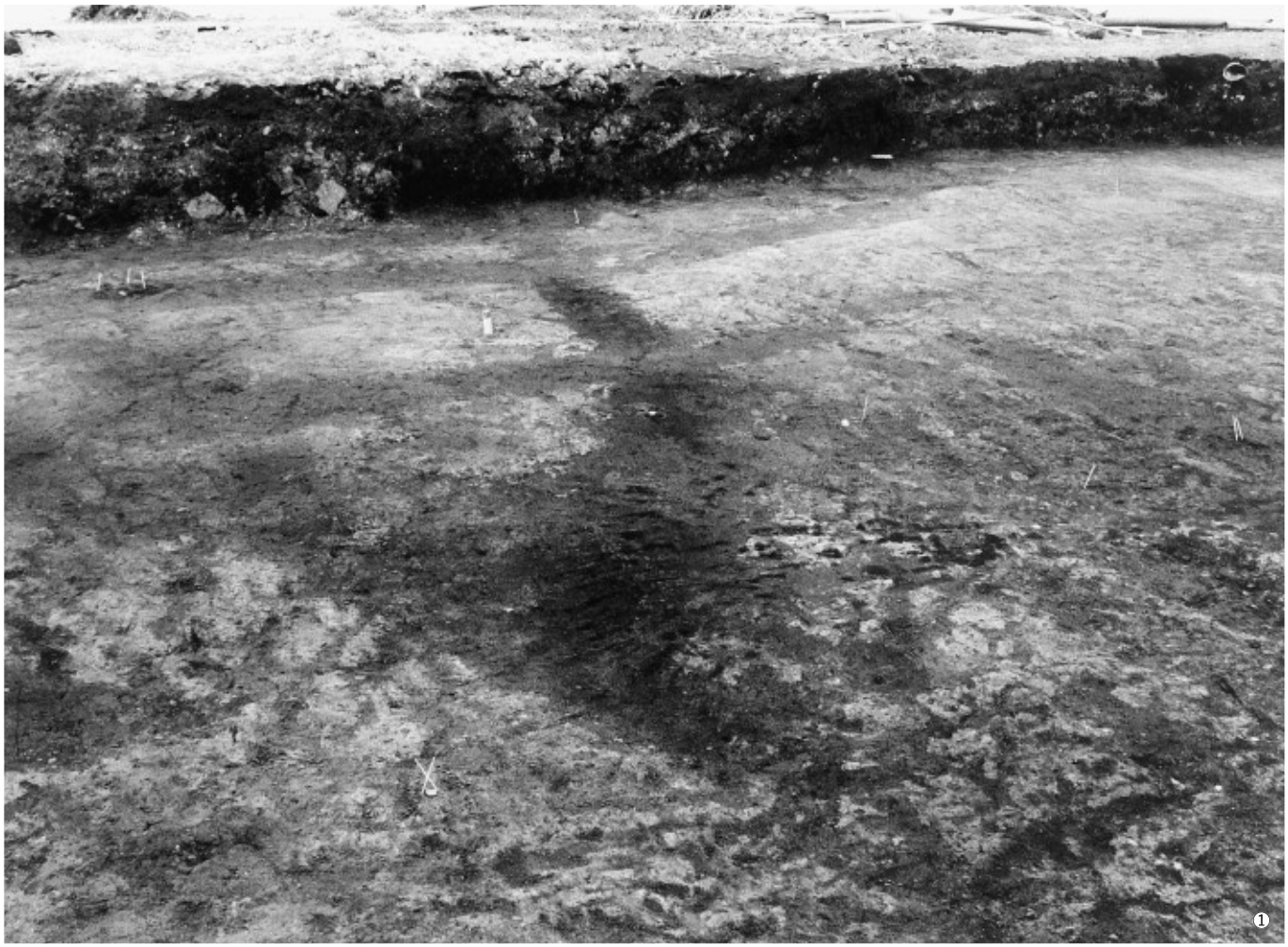
10号集石

12号集石

12号集石掘り込み跡

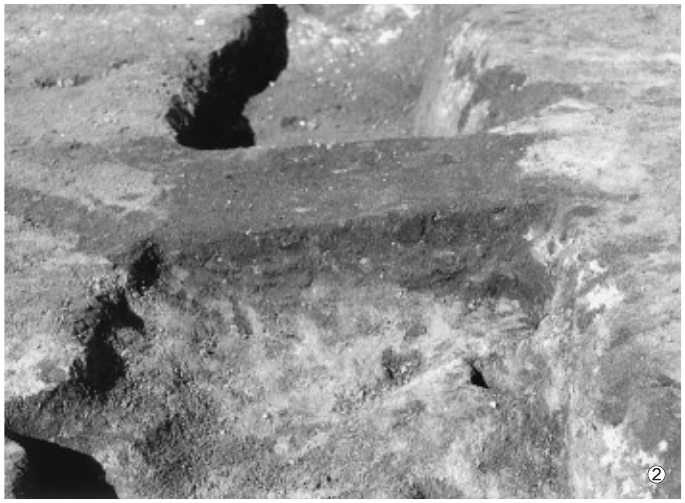


① 1 号集石　②14号集石　③15号集石
④11号集石　⑤13号集石　⑥17号集石

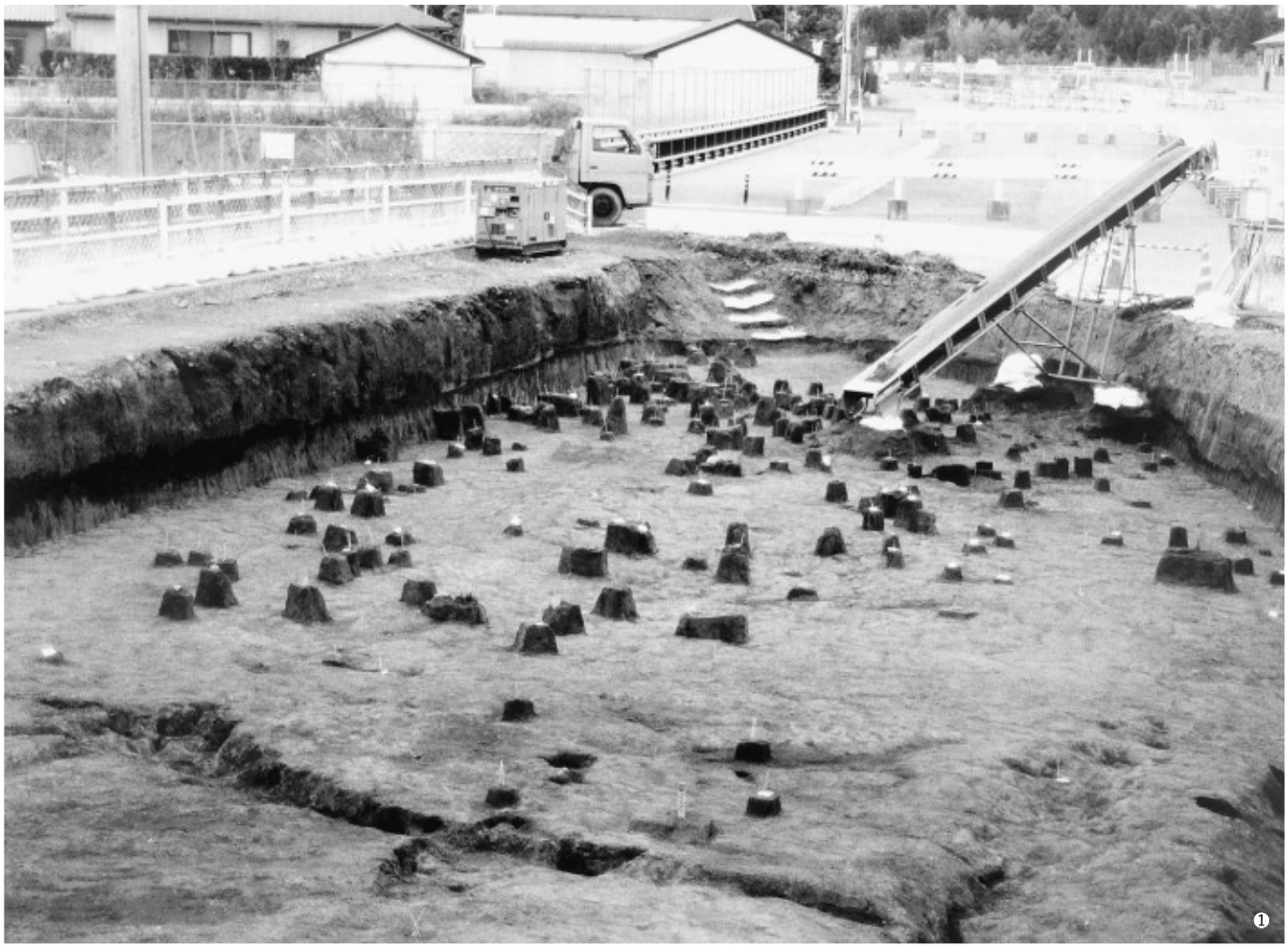


①・②溝状遺構検出状況

③溝状遺構完堀状況



①溝状遺構完堀状況
②～④溝状遺構断面

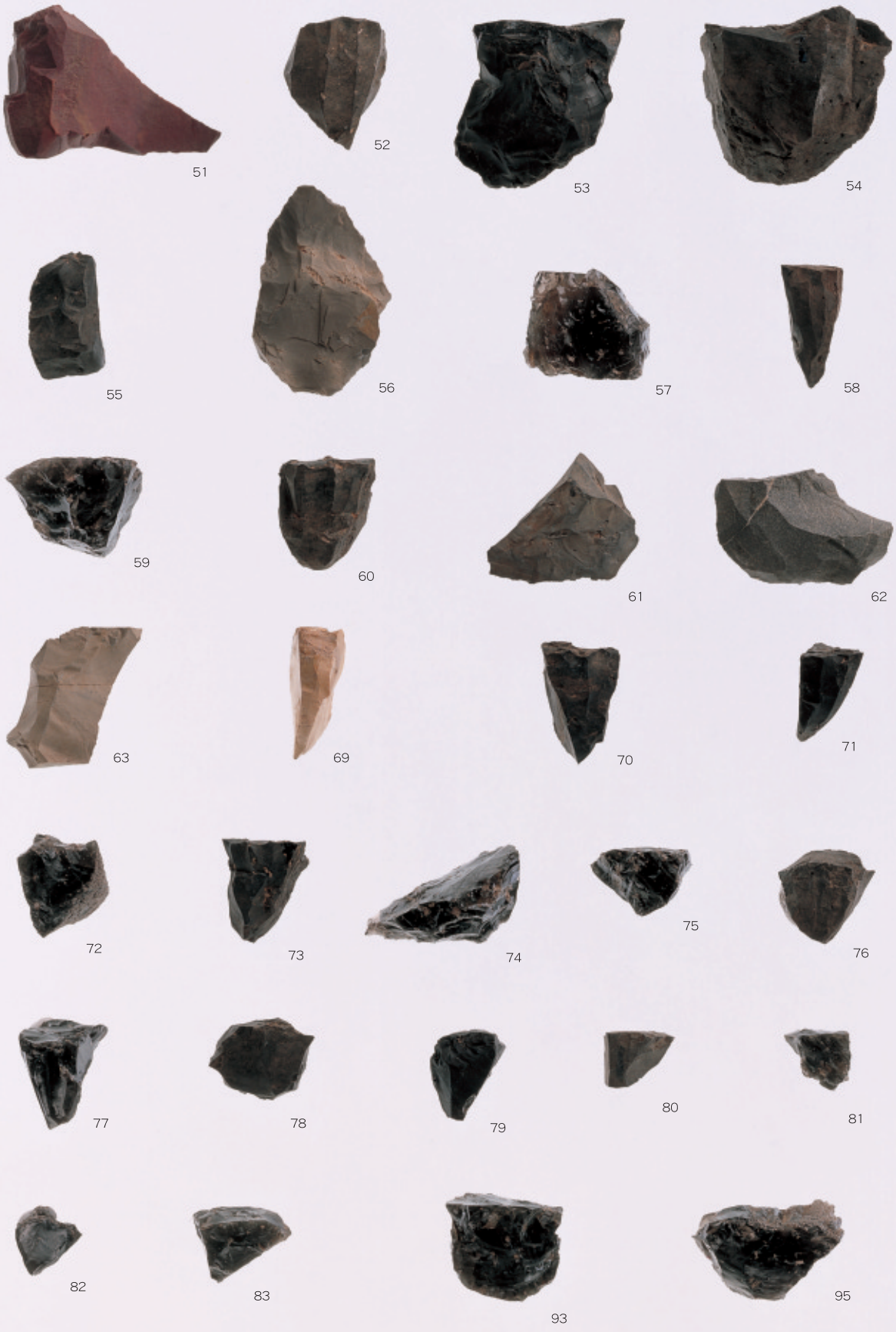


①～⑤遺物出土状況

旧石器時代石器（1）

図版28

旧石器時代石器（２）


51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
93
95

旧石器時代石器（３）

図版30

旧石器時代石器（４）

142
143
244

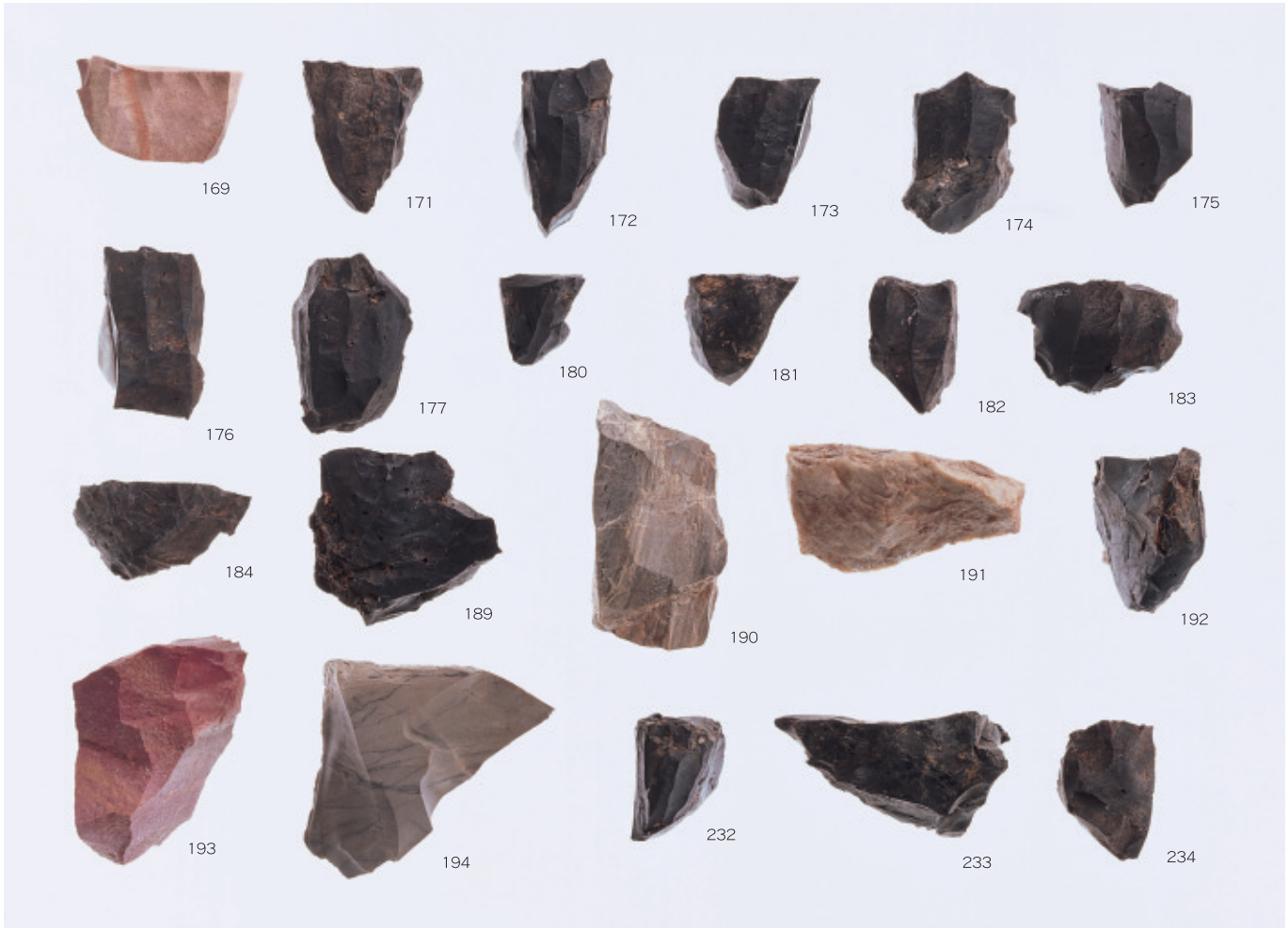
144
145
146
149
151
247
255
256
257
260
261
262
263
264
265
273
274
279
280
281
282

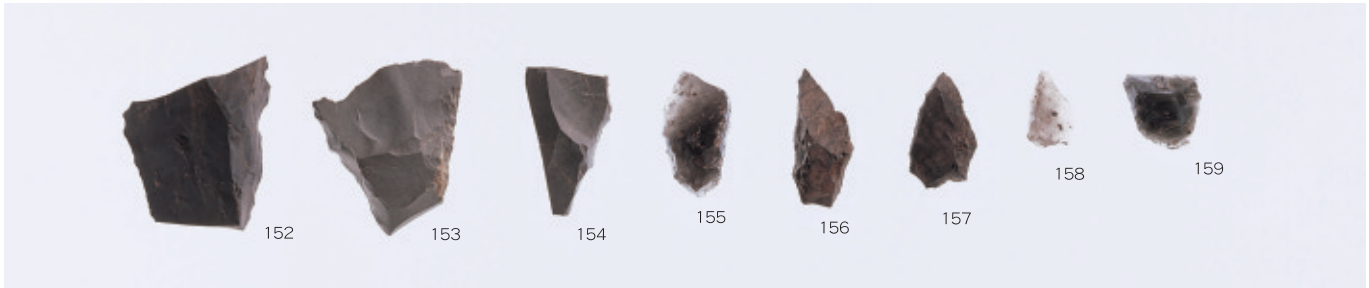
旧石器時代石器（５）

図版32

旧石器時代石器（6）

237
238
239
240
241
242
243
248
249
250
251
258
259
267
268
269
270
271
272
276
277
278
285
312
313
314
316
317
319
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
236


169
171
172
173
174
175
176
177
180
181
182
183
184
189
190
191
192
193
194
232
233
234

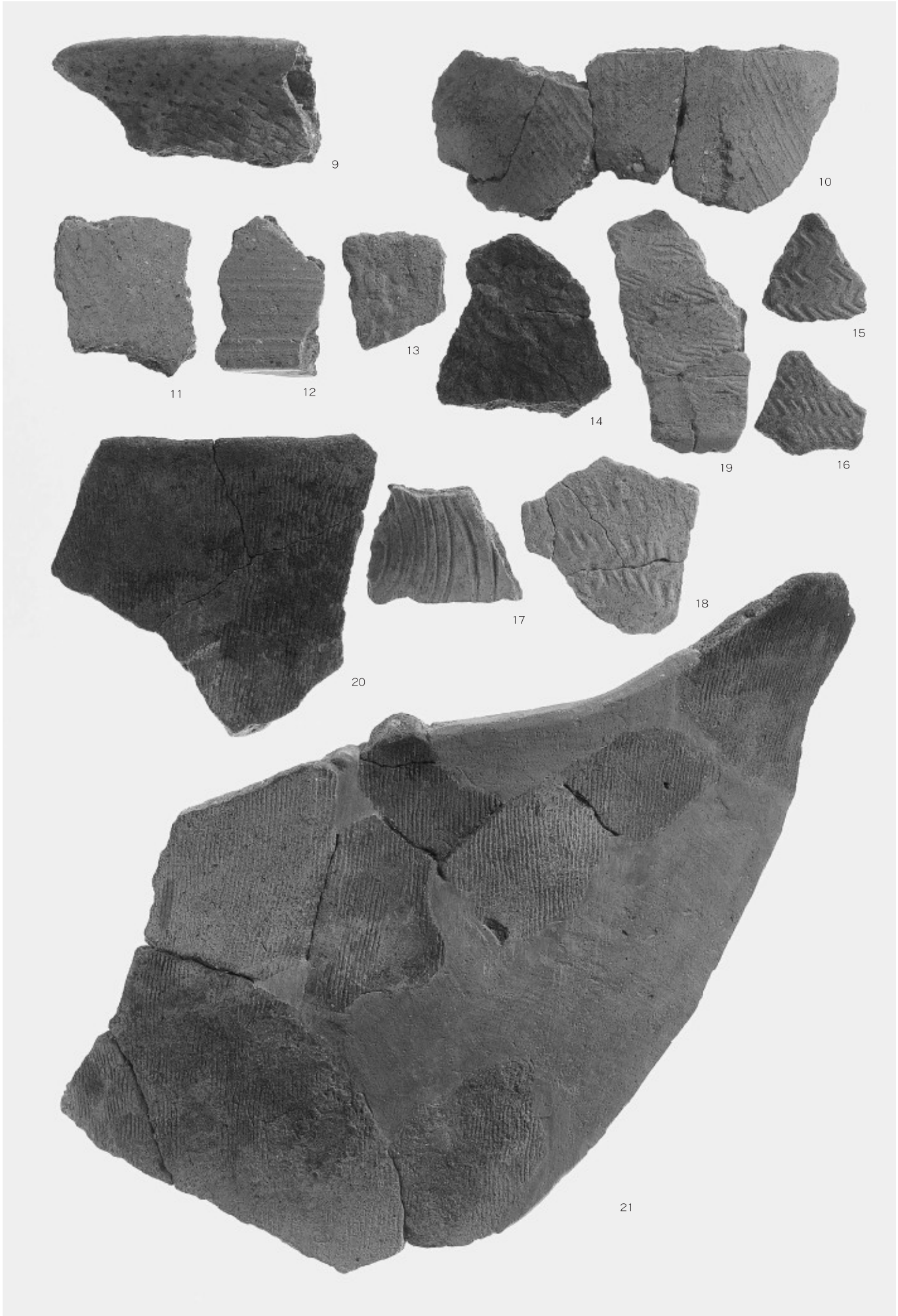

152
153
154
155
156
157
158
159

旧石器時代石器（7）

図版34

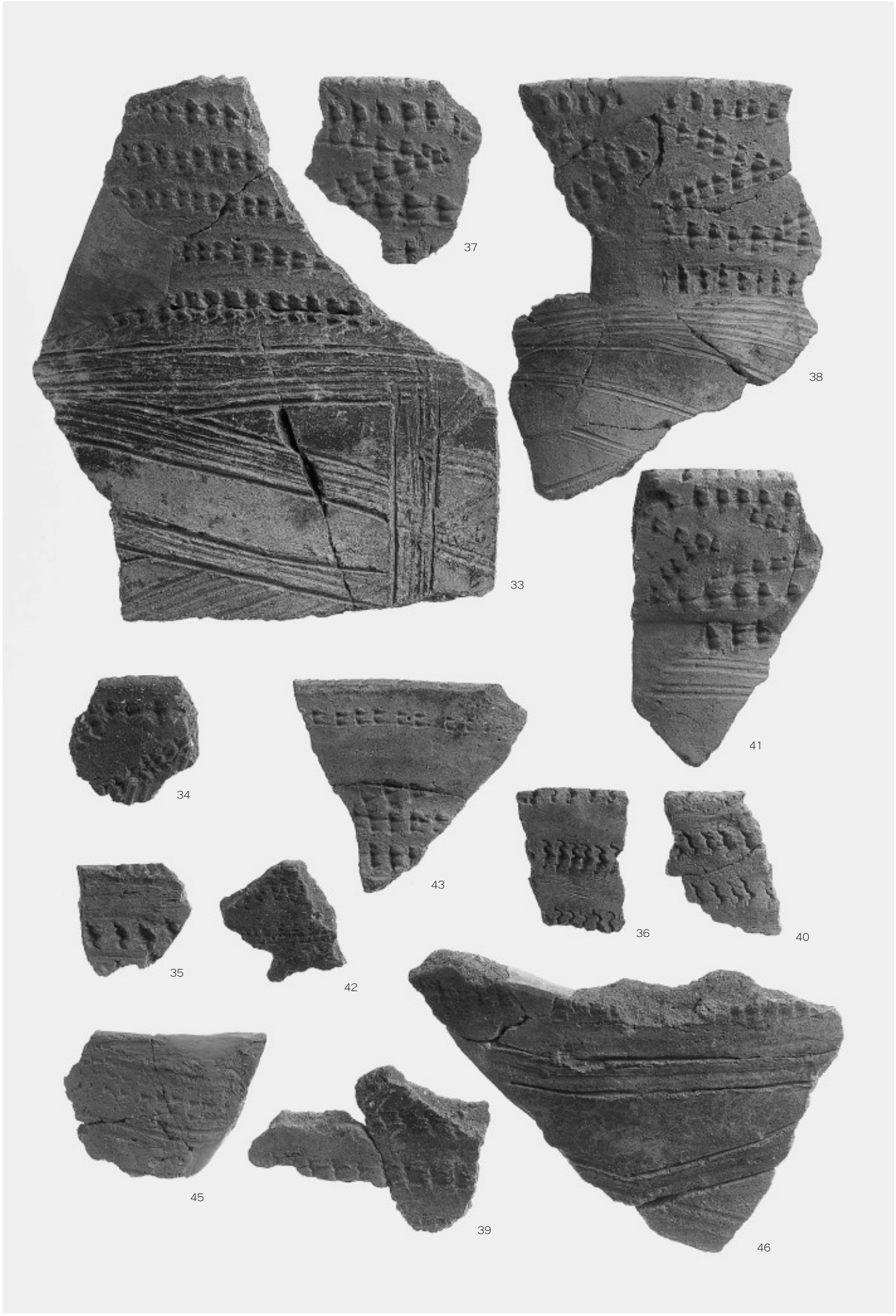
旧石器時代石器（8）

縄文時代土器（1）

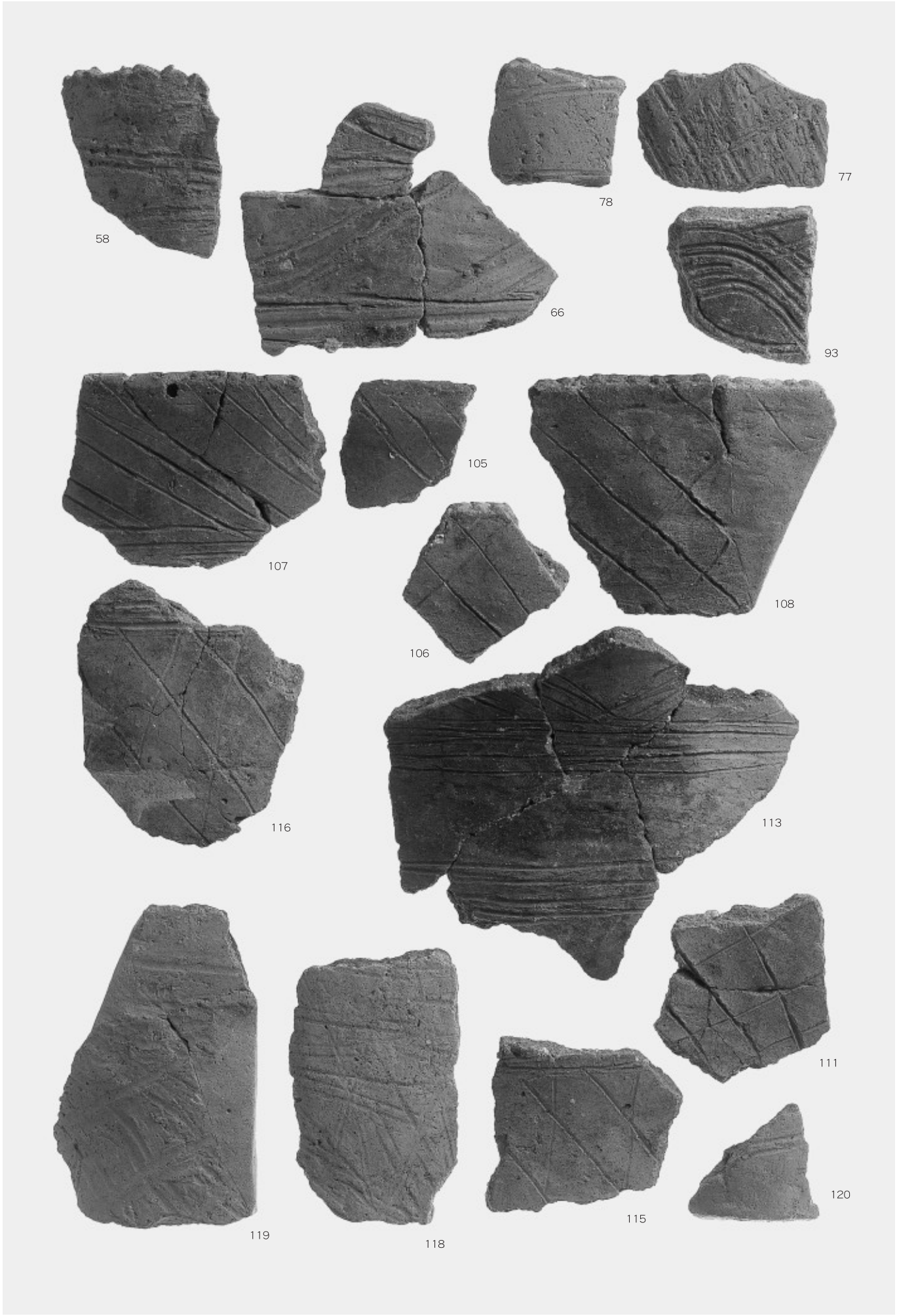


縄文時代土器（２）

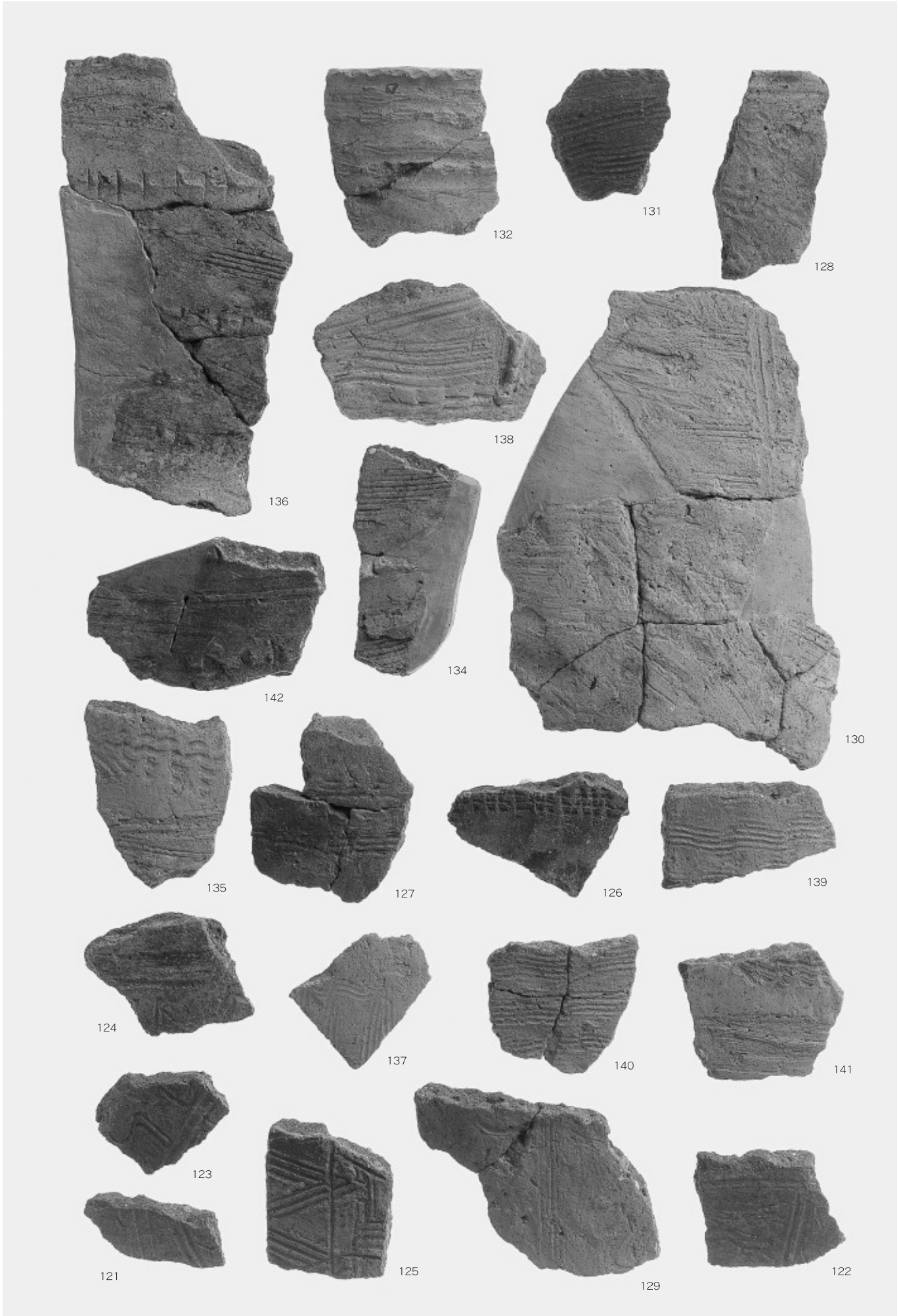
縄文時代土器（3）



縄文時代土器（４）

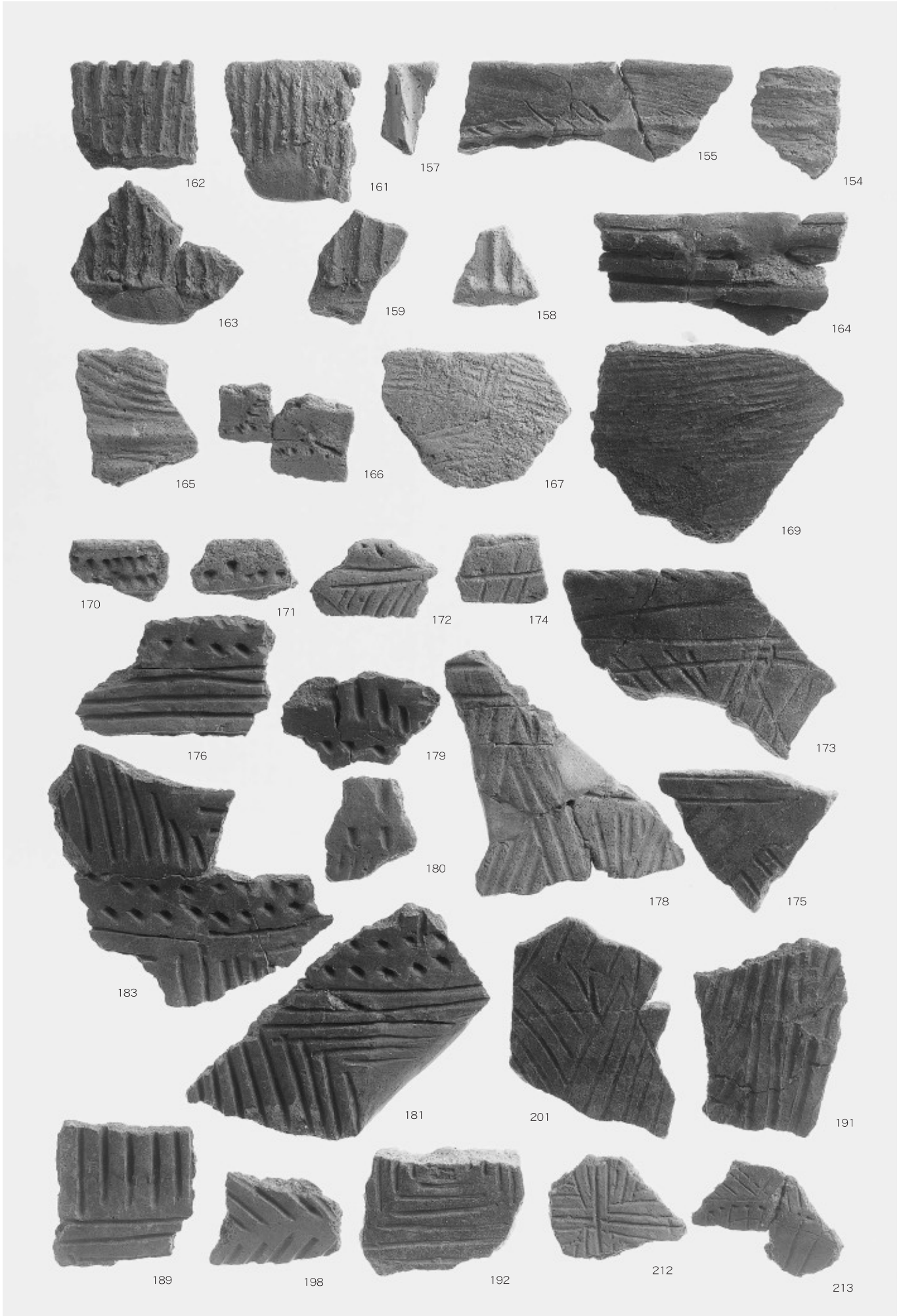


縄文時代土器（5）

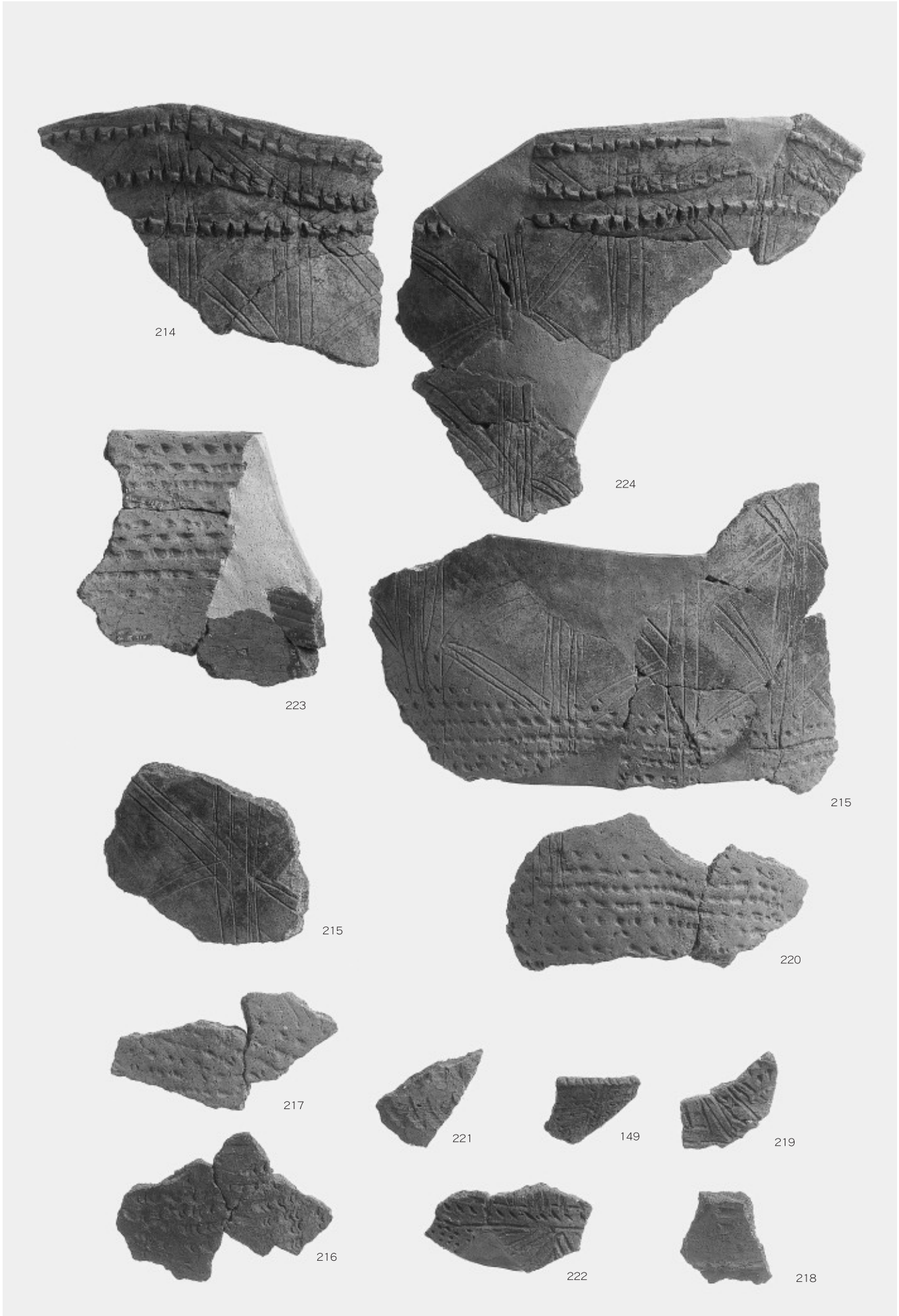

132
131
128
138
136
134
142
130
135
127
126
139
124
137
140
141
123
121
125
129
122

縄文時代土器（6）

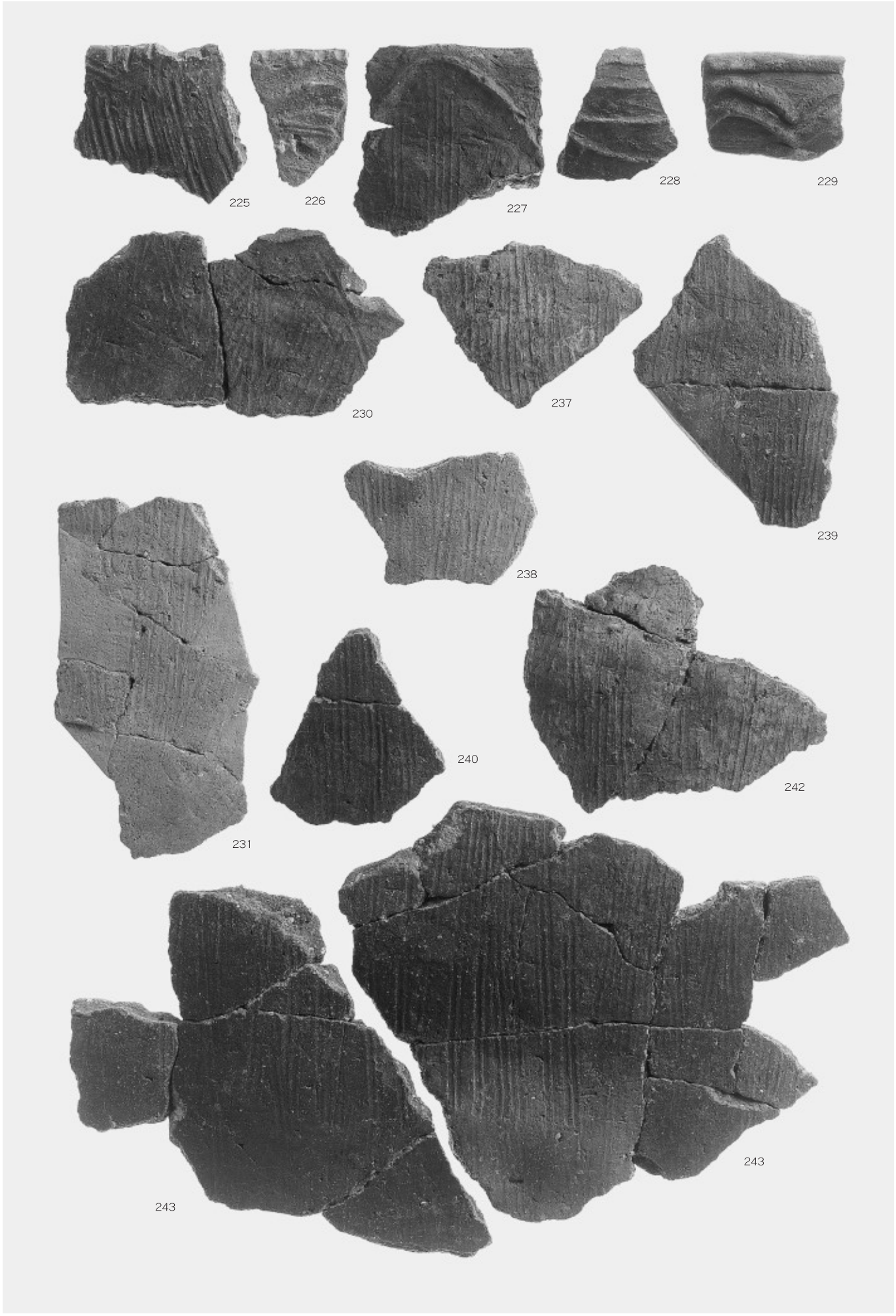
縄文時代土器（７）


162
161
157
155
154
163
159
158
164
165
166
167
169
170
171
172
174
176
179
173
180
178
175
183
181
201
191
189
198
192
212
213

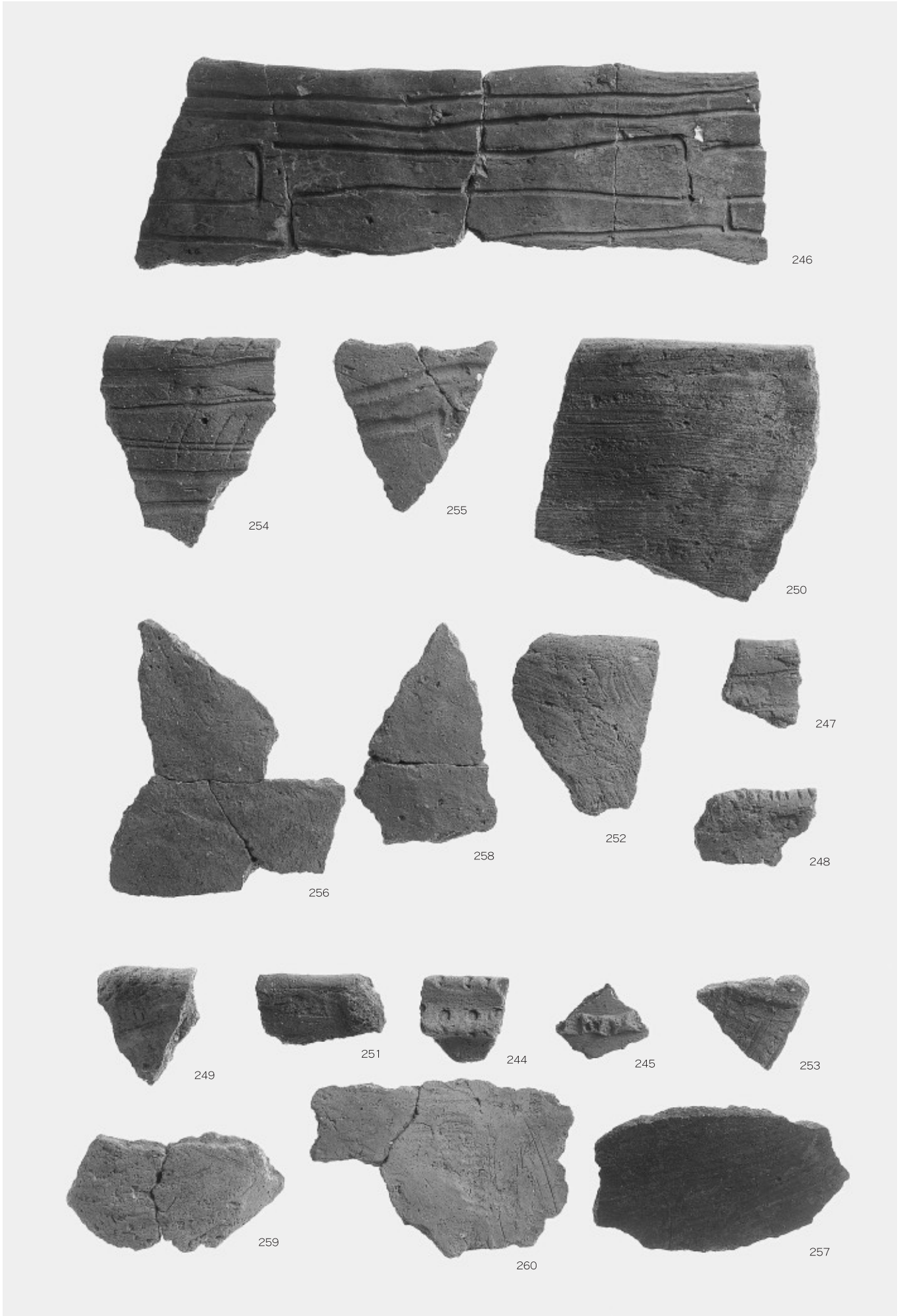
縄文時代土器（８）



縄文時代土器（9）



縄文時代土器（10）


246
254
255
250
247
252
258
248
256
249
251
244
245
253
259
260
257

縄文時代土器（11）

図版46

縄文時代石器（1）

355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
386
387
388
389
390
391
392
395
396
397
398
399
400
377
378
379
380
381
382
383
394
384
401
393
402
385

縄文時代石器（２）

331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
346
345
347
348
352
353
354

縄文時代石器（３）

御仮屋跡遺跡図版

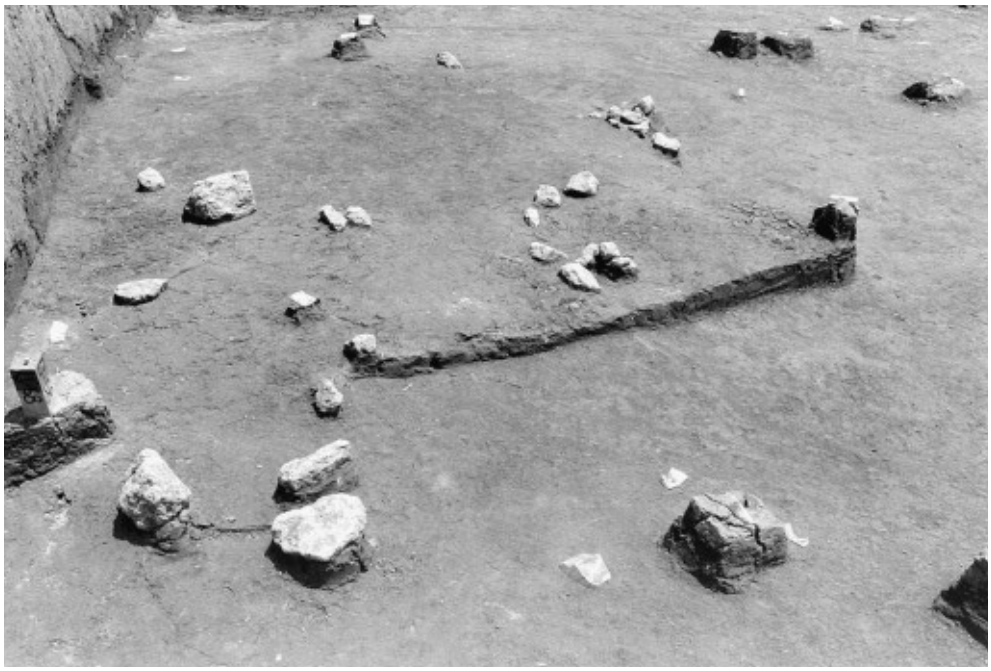
調査風景
調査風景

図版２

1 号礫群

1 号礫群

2 号礫群



Ⅶｂ層上面検出礫群

Ⅶｂ層上面検出礫群

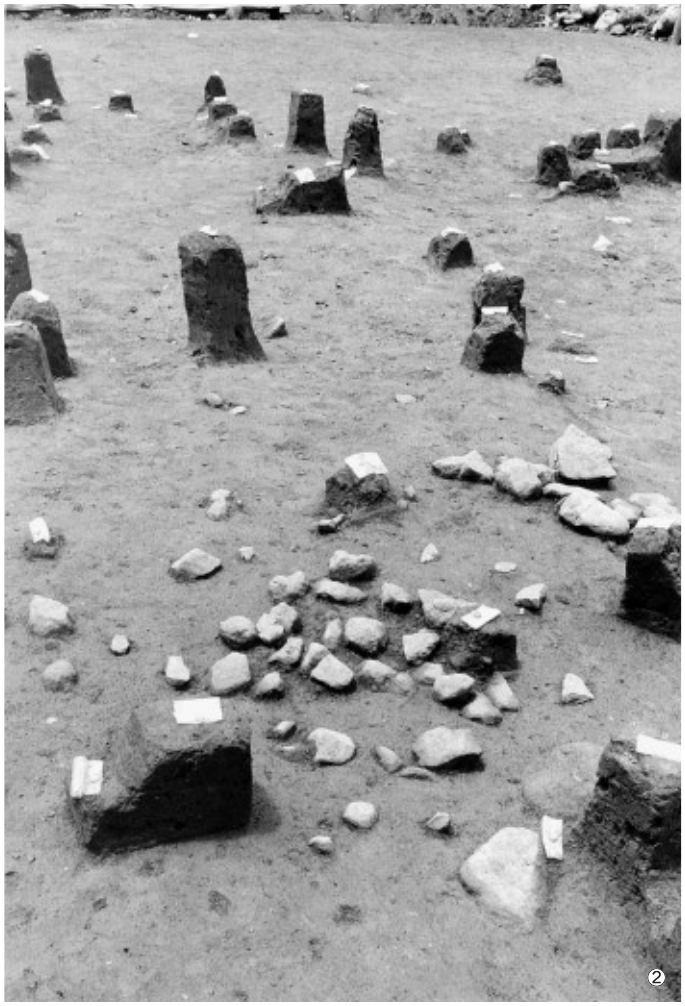
Ⅶｂ層上面検出礫群

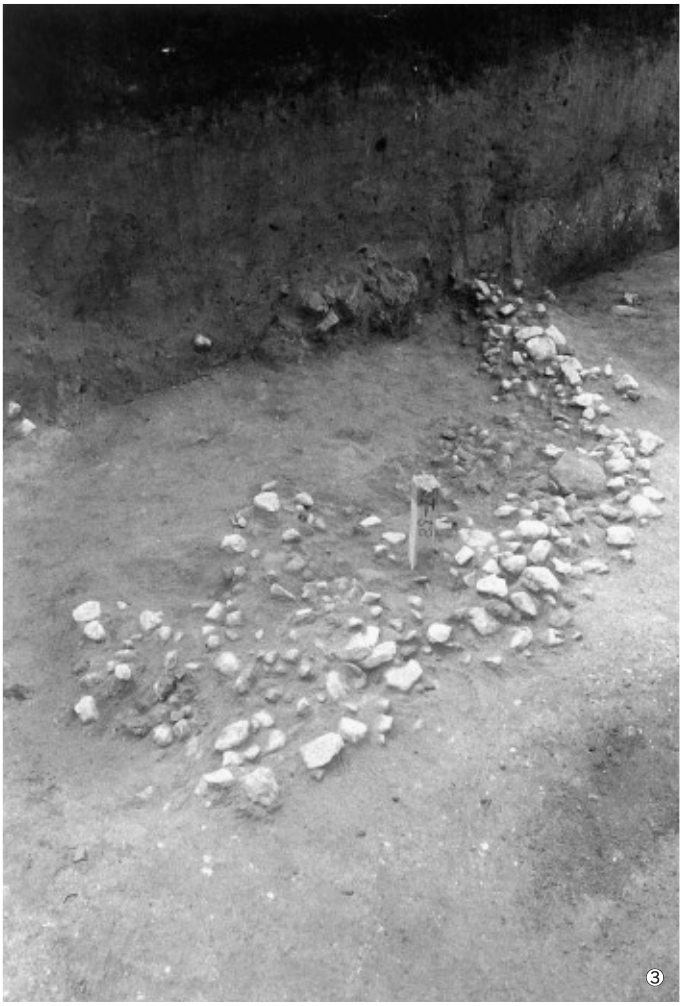
図版４

3 号礫群

4 号礫群

遺物出土状況

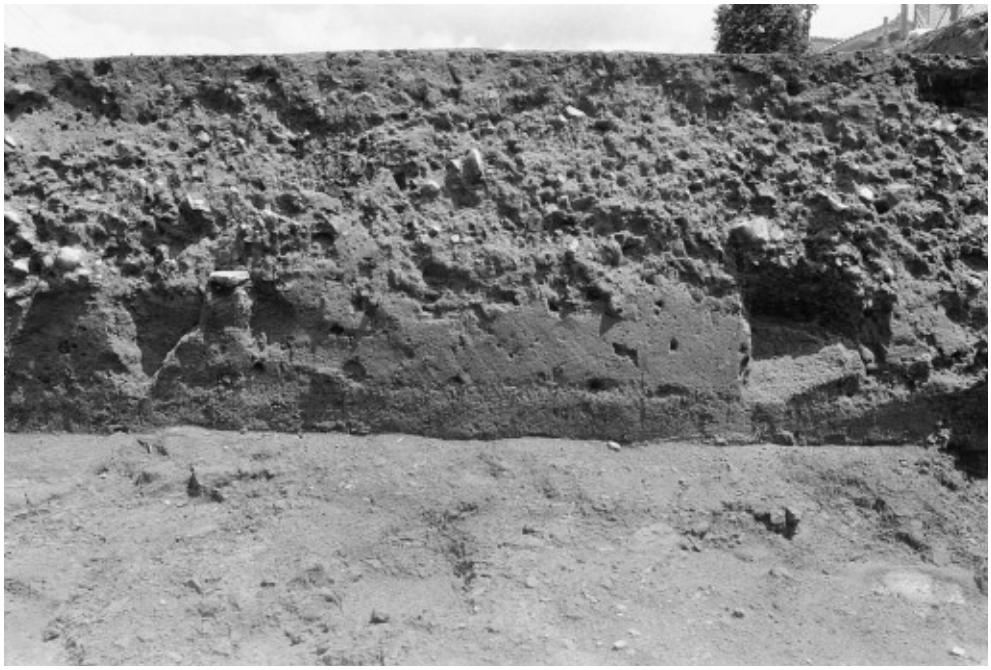




①遺物出土状況
②１号礫群及び遺物出土状況
③礫だまり

図版６

土層断面 1



土層断面 2

完掘状況

遺物出土状況
遺物出土状況

図版８

縄文時代遺物出土状況

2 トレンチ遺物出土状況

1 トレンチ弥生時代遺物出土状況

1
2
3
4
5
6
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
35
36
37
38
39
40
42

旧石器時代石器（１）

図版10

41

43

44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57
58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71
72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85
86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99
100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115
116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 127 128 129 130 131

旧石器時代石器（２）

132
133
134
135
136
138
140
141
142
139
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155+156
157
158
159
162
161
163
164
165
166
167

旧石器時代石器（３）

169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263+264+265+266+267
268+269+270+271+272
273

旧石器時代石器（4）

あとがき

石器のフレイクやチップなどの遺物が出土すると，遺物を見失わないように透明袋に入れ，それを出土場所に竹串で固定します。遺物が集中して出土するとその場所だけ透明袋も集中します。その様子を作業員さん達が「花が咲いた。」と言っていたことを思い出します。「こっちにも花が咲いたぞ。」別なブロックが検出されるとまた別な花が咲きます。発掘調査では遺跡に数々の花が咲きました。

整理・報告書作成作業では，その花に色がつきました。石材ごとに，あるいは石材の原産地ごとにドットの色を変えたためです。赤・青・緑・黄等様々な色の，そして様々の大きさの花（ブロック）が出土状況図にあらわれました。その様子は太古の人々が私たちに残したメッセージととれなくもありません。この報告書が，残されたメッセージを読み解く一助となれば幸いです。

発掘調査および整理・報告書作成作業ともに「花を咲かせる」ために多くの時間と労力が必要とされました。今回この発掘調査報告書を発刊するにあたり，発掘調査から報告書刊行まで関わったすべての方々に厚くお礼を申し上げます。

整理・報告書作成従事者（平成17年度）

市薗厚子・岡部安代・音堅晴美・乙藤直美・仮屋涼子・川畑裕美子
河原橋藤子・木村仁美・小村幸子・坂元昭子・坂元真由美・猿川美和子
新中泰代・新富弥生・髙岡眞由美・田代祐子・垂門加代・永井絹子
永野愛子・那須マリ子・濵畑かつえ・原田純代・福永義一・松下奈津美
湯之上さゆり・横山妙子

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（101）

伏野遺跡　隠迫遺跡　枦堀遺跡
仁田尾遺跡　御仮屋跡遺跡

発　行　２００６年３月
鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
印　刷　凸版印刷株式会社